

基本計画書

(用紙 日本工業規格A4縦型)

基本計画書								
事項	記入欄							備考
計画の区分	専門職大学の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニホンキョウイクザイダン 学校法人 日本教育財団							
フリガナ大学の名称	コクサイファッションセンモンシヨクダイガク 国際ファッション専門職大学 (Professional Institute of International Fashion)							
大学本部の位置	東京都新宿区西新宿一丁目7番3号							
大学の目的	<p>国際ファッション専門職大学は、学校教育法の一部改正する法律（平成29年法律第41号）及びその他法令規定に則り、国際的に通用する教養を備えた人材を育てるのに相応しい教育研究水準を担保するとともに、産業界等と緊密に連携した実践的な職業教育に重点を置く機関として設立する。本学は、時代が求める教養を兼ね備え、日本社会及びファッション産業界が抱える課題を発見し、課題解決に向けて積極的に取り組み、地域企業・地方産地の低迷打破に貢献できる人材、そしてデザインなどのクリエイションあるいはビジネスの領域で国際的に活躍できる人材を育成し、社会に送り出すことを目的とする。かかる目的は、教養基礎科目と職業専門科目のバランスの取れた配分によって基礎を固め、地域企業・地方産地、海外実習先と緊密した連携をもとに実践的な臨地実習科目を配分することにより、高度かつ実践的な職業教育として達成される。</p>							
新設学部等の目的	<p>本学は、ファッション産業界において、国際的に活躍できるクリエイション（創作）能力のある人材育成と、グローバル市場を開拓できるビジネス能力のある人材育成が急務であると考え、国際ファッション学部を設置する。 国際ファッション学部では、グローバルに通用する市民的教養を基礎として、クリエイションとビジネスの諸知識と技法を活用し、繊維、テキスタイル、アパレルから住空間に至るまで領域を拡大しつつある今日のファッション産業界が抱える複雑かつ多様な諸課題を発見し、これを理解・解決する能力を有する人材を育成する。このため、現代ファッションの理解と国際ビジネスの世界で活動するのに必要な科目を準備し、国際的に通用するビジネスモデルを提供する。加えて本学は、実践的な科目の提供にとどまらず、ファッションを根本的に考える上で無視できない身体性、自然環境、伝統ならびに地域性、美的価値、都市的環境、そしてサブカルチャーの再評価を積極的に行い、ファッションに関わる教養を育み、創造性を生む環境を提供する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	国際ファッション学部 (Faculty of International Fashion) ファッションクリエイション学科 (Department of Fashion Creation)	年	人	年次人	人	ファッションクリエイション学士（専門職）	平成31年4月 第1年次	東京都新宿区西新宿一丁目7番3号
	ファッションビジネス学科 (Department of Fashion Business)	4	80	-	320	-	-	同上
	大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 (Department of Fashion Creation and Business, Osaka)	4	38	2年次 2	158	ファッションビジネス学士（専門職）	平成31年4月 第1年次 平成32年4月 第2年次	大阪市北区梅田三丁目3番2号
	名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 (Department of Fashion Creation and Business, Nagoya)	4	38	2年次 2	158	ファッションクリエイション・ビジネス学士（専門職）	平成31年4月 第1年次 平成32年4月 第2年次	名古屋市中村区名駅四丁目27番1号
	計		194	6	794			

同一設置者内における変更状況
(定員の移行, 名称の変更等)

東京モード学園

昼間部

ファッションデザイン学科	(廃止)	(△70)	
モード基礎学科 (専門課程)	(定員減)	(△125)	
モード基礎学科 (一般課程)	(廃止)	(△35)	

HAL東京

昼間部

ゲーム企画学科	(廃止)	(△160)	
ゲーム制作学科	(定員減)	(△160)	
	(名称変更)		ゲーム4年制学科へ変更
ゲームデザイン学科	(廃止)	(△160)	
高度情報処理学科	(名称変更)		高度情報学科へ変更
WEB開発学科	(廃止)	(△160)	
電子制御学科	(廃止)	(△80)	
パリ校留學学科	(廃止)	(△20)	

大阪モード学園

昼間部

ファッションデザイン学科 (4年制)	(定員減)	(△20)	
ファッションデザイン学科 (2年制)	(廃止)	(△70)	
ファッションビジネス学科	(廃止)	(△105)	
モード基礎学科 (専門課程)	(定員減)	(△70)	
ヘア・メイクアーティスト学科	(定員減)	(△120)	
美容学科	(定員減)	(△80)	
モード基礎学科 (一般課程)	(廃止)	(△35)	

HAL大阪

昼間部

ゲーム企画学科	(廃止)	(△140)	
ゲーム制作学科	(名称変更)		ゲーム4年制学科へ変更
ゲームデザイン学科	(廃止)	(△140)	
高度情報処理学科	(名称変更)		高度情報学科へ変更
WEB開発学科	(廃止)	(△140)	
ゲーム学科	(定員減)	(△30)	
CG学科	(定員減)	(△30)	
WEB学科	(定員減)	(△30)	
情報処理学科	(定員減)	(△30)	
電子制御学科	(廃止)	(△70)	
ミュージック学科	(定員減)	(△30)	
パリ校留學学科	(廃止)	(△20)	

名古屋モード学園

昼間部

ファッションデザイン学科 (4年制)	(定員減)	(△60)	
ファッションデザイン学科 (2年制)	(廃止)	(△70)	
ファッション技術学科	(定員減)	(△45)	
ファッションビジネス学科	(定員減)	(△10)	
スタイリスト学科	(定員減)	(△10)	
インテリア学科	(定員減)	(△10)	
グラフィック学科	(定員減)	(△10)	
メイク・ネイル学科	(定員減)	(△10)	
モード基礎学科 (専門課程)	(定員減)	(△25)	
モード基礎学科 (一般課程)	(廃止)	(△35)	

同一設置者内における変更状況
(定員の移行, 名称の変更等)

HAL名古屋

昼間部

ゲーム企画学科	<u>(廃止)</u>	<u>(△140)</u>	
ゲーム制作学科	<u>(名称変更)</u>		ゲーム4年制学科へ変更
ゲームデザイン学科	<u>(廃止)</u>	<u>(△140)</u>	
アニメ・イラスト学科	<u>(定員増)</u>	<u>(60)</u>	
高度情報処理学科	<u>(名称変更)</u>		高度情報学科へ変更
WEB開発学科	<u>(廃止)</u>	<u>(△140)</u>	
ゲーム学科	<u>(定員減)</u>	<u>(△30)</u>	
CG学科	<u>(定員減)</u>	<u>(△30)</u>	
WEB学科	<u>(定員減)</u>	<u>(△30)</u>	
情報処理学科	<u>(定員減)</u>	<u>(△30)</u>	
電子制御学科	<u>(廃止)</u>	<u>(△70)</u>	
パリ校留学学科	<u>(廃止)</u>	<u>(△20)</u>	

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
教育課程	国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科	41科目	13科目	13科目	67科目	126単位			
	国際ファッション学部 ファッションビジネス学科	43科目	15科目	11科目	69科目	126単位			
	国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	43科目	15科目	11科目	69科目	126単位			
	国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	42科目	17科目	12科目	71科目	126単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科	9人 (9)	1人 (1)	3人 (3)	0人 (0)	13人 (13)	2人 (2)	14人 (9)
		国際ファッション学部 ファッションビジネス学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	17 (12)
		国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	4 (4)	6 (6)	4 (4)	1 (1)	15 (15)	2 (2)	16 (12)
		国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	5 (3)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	15 (13)	1 (1)	12 (6)
		計	23 (21)	15 (15)	13 (13)	1 (1)	52 (50)	5 (5)	- (-)
	既設	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
		計	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	合計		23 (21)	15 (15)	13 (13)	1 (1)	52 (50)	5 (5)	- (-)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		26 (18)	人	11 (15)	人	37 (33)		
	技術職員		0 (0)		7 (5)		7 (5)		
	図書館専門職員		3 (3)		4 (4)		7 (7)		
	その他の職員		0 (0)		29 (29)		29 (29)		
計		29 (21)		51 (53)		80 (74)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	東京 5,172㎡ 大阪 3,300㎡ 名古屋 3,539㎡ (うち借用面積 1,391㎡、期間18 年)を以下の大学、 専修学校と共用。
	校 舎 敷 地	0 ㎡	12,011 ㎡	0 ㎡	12,011 ㎡	東京通信大学 (収容定員:4,000 人) (基準: -㎡)
	運 動 場 用 地	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	東京モード学園 (収容定員:1,625 人) (基準: -㎡) HAL東京 (収容定員:2,060 人) (基準: -㎡) 首都医校 (昼間部収容定員: 3,305人) (基準: -㎡)
	小 計	0 ㎡	12,011 ㎡	0 ㎡	12,011 ㎡	大阪モード学園 (収容定員:1,285 人) (基準: -㎡) HAL大阪 (収容定員:1,840 人) (基準: -㎡)
	そ の 他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	
						名古屋モード学園 (収容定員:1,125 人) (基準: -㎡) HAL名古屋 (収容定員:1,520 人) (基準: -㎡) 名古屋医専 (収容定員:2,614 名) (基準: -㎡)
	合 計	0 ㎡	12,011 ㎡	0 ㎡	12,011 ㎡	

校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	東京 61,641㎡ 大阪 25,294㎡ 名古屋 42,260㎡ を以下の大学、専修 学校と共用。 国際ファッション専 門職大学 (専用：6,675㎡) (基準：5,875㎡) 東京通信大学 (専用：5,289㎡) (基準：12,440㎡) 東京モード学園 (専用：6,378㎡) (基準：3,673㎡) H A L 東京 (専用：14,185㎡) (基準：6,020㎡) 首都医校 (専用：18,660㎡) (基準：7,595㎡)
	6,675 ㎡	27,595 ㎡	94,925 ㎡	129,195 ㎡	
校 舎	(6,675 ㎡)	(27,595 ㎡)	(94,925 ㎡)	(129,195 ㎡)	大阪モード学園 (専用：4,970㎡) (基準：2,723㎡) H A L 大阪 (専用：13,831㎡) (基準：4,580㎡) 名古屋モード学園 (専用：4,626㎡) (基準：2,323㎡) H A L 名古屋 (専用：11,487㎡) (基準：3,620㎡) 名古屋医専 (専用：15,497㎡) (基準：6,617㎡) 基準合計：52,286㎡
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設
	11室	52室	5室	0室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)
専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数		東京に22室、大阪に 15室、名古屋に15 室。
	国際ファッション学部		52 室		

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書は各校舎とも同居する学校と共有する。新規追加は電子書籍を主体とする。学生はポータルサイト経由で時間の制約なく個人のパソコン、スマートフォン等で電子書籍をダウンロードし、閲覧が可能。	
	国際ファッション学部	84,442 [7,324] (80,122 [7,189])	30,385 [2,362] (25,435 [1,777])	11 [9] (11 [9])	1,195 (1,072)	7,244 (7,244)	0 (0)		
	計	84,442 [7,324] (80,122 [7,189])	30,385 [2,362] (25,435 [1,777])	11 [9] (11 [9])	1,195 (1,072)	7,244 (7,244)	0 (0)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数			東京、大阪、名古屋、他の大学・専門学校と共有。また、東京校舎の図書室は学生自習室を兼ね、名古屋校舎の図書室は学生自習室と学生控室を兼ねる。		
	3,733 m ²	707		98,000					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	0 m ²	トレーニングルーム 320 m ²							
経費の見積り及び維持の方法	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	-	-	
	共同研究費等		2,450千円	2,450千円	2,450千円	2,450千円	-	-	
	図書購入費	10,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	-	-	
	設備購入費	67,739千円	35,323千円	5,238千円	0千円	0千円	-	-	
	学生1人当り納付金	学部	学科	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次		
	国際ファッション学部	ファッションクリエイション学科	1,550千円	1,280千円	1,310千円	1,340千円			
	国際ファッション学部	ファッションビジネス学科	1,550千円	1,280千円	1,310千円	1,340千円			
	国際ファッション学部	大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	1,510千円	1,260千円	1,290千円	1,320千円			
	国際ファッション学部	名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	1,450千円	1,230千円	1,260千円	1,290千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		収益事業・手数料収入・雑収入等						
既設大学等の状況	大学の名称	東京通信大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	通信教育課程 情報マネジメント学部 情報マネジメント学科	4年	400人	3年次 200人	2,000人	学士 (情報マネジメント)	—	平成30年度	東京都新宿区西新宿一丁目7番3号
人間福祉学部 人間学科福祉学科	4年	400人	3年次 200人	2,000人	学士 (人間福祉)	—	平成30年度	同上	

既設大学等の状況	学 校 の 名 称	東京モード学園							開 設 年 度	所 在 地
	学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率			
		年	人	年次人	人		倍	昭和54年 11月		
	【昼間部】									
	ファッション専門課程									
	ファッションデザイン学科	4	35	—	140	高度専門士 (服飾・家政分野)	0.91		東京都新宿区西新宿7番3号	
	ファッションデザイン学科	3	35	—	105	専門士 (服飾・家政分野)	1.58		同上	
	ファッションデザイン学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.04		同上	
	ファッション技術学科	3	35	—	105	専門士 (服飾・家政分野)	0.44		同上	
	ファッションビジネス学科	3	35	—	105	専門士 (服飾・家政分野)	0.36		同上	
	ファッションビジネス学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	1.34		同上	
	スタイリスト学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	1.31		同上	
	インテリア学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.64		同上	
	グラフィック学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.86		同上	
	メイク・ネイル学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	2.19		同上	
	モード基礎学科 専門	1	245	—	245	—	1.34		同上	
	ファッション一般課程									
	モード基礎学科 一般	1	35	—	35	—	0.06		同上	
	美容専門課程									
	ヘア・メイクアーティスト学科	3	80	—	240	専門士 (衛生分野)	0.67		同上	
	美容学科	2	80	—	160	専門士 (衛生分野)	0.63		同上	
	【夜間部】									
	ファッション専門課程									
	ファッションデザイン学科	3	30	—	90	—	0.83		同上	
	ファッション技術学科	3	30	—	90	—	0.48		同上	
	ファッションビジネス学科	2	30	—	60	—	0.45		同上	
	ファッション学科	2	30	—	60	—	1.82		同上	

既設大学等の状況	学校名称	大阪モード学園							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍	昭和46年 4月	
	【昼間部】								
	ファッション専門課程								
	ファッションデザイン学科	4	35	—	140	高度専門士 (服飾・家政分野)	0.62		大阪府大阪市北区梅田 三丁目3番2号
	ファッションデザイン学科	3	35	—	105	専門士 (服飾・家政分野)	0.73		同上
	ファッションデザイン学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.13		同上
	ファッション技術学科	3	35	—	105	専門士 (服飾・家政分野)	0.31		同上
	ファッションビジネス学科	3	35	—	105	専門士 (服飾・家政分野)	0.26		同上
	ファッションビジネス学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.33		同上
	スタイリスト学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.40		同上
	インテリア学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.37		同上
	グラフィック学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.39		同上
	メイク・ネイル学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.76		同上
	モード基礎学科 専門	1	175	—	175	—	0.75		同上
	ファッション一般課程								
	モード基礎学科 一般	1	35	—	35	—	0.03		同上
	美容専門課程								
	ヘア・メイクアーティスト学科	3	80	—	240	専門士 (衛生分野)	0.44		同上
	美容学科	2	80	—	160	専門士 (衛生分野)	0.26		同上
	【夜間部】								
	ファッション専門課程								
	ファッションデザイン学科	3	30	—	90	—	0.44		同上
	ファッション技術学科	3	30	—	90	—	0.29		同上
	ファッションビジネス学科	2	30	—	60	—	0.30		同上
	ファッション学科	2	30	—	60	—	0.68		同上

既設大学等の状況	学 校 の 名 称	名古屋モード学園							開 設 年 度	所 在 地
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率			
		年	人	年次人	人		倍			
	【昼間部】							昭和41年 4月		
	ファッション専門課程									
	ファッションデザイン学科	4	35	—	140	高度専門士 (服飾・家政分野)	0.42		愛知県名古屋市中村区 名駅四丁目27番1号	
	ファッションデザイン学科	3	35	—	105	専門士 (服飾・家政分野)	0.62		同上	
	ファッションデザイン学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.00		同上	
	ファッション技術学科	3	35	—	105	専門士 (服飾・家政分野)	0.28		同上	
	ファッションビジネス学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.63		同上	
	スタイリスト学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	1.04		同上	
	インテリア学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.37		同上	
	グラフィック学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.50		同上	
	メイク・ネイル学科	2	35	—	70	専門士 (服飾・家政分野)	0.50		同上	
	モード基礎学科 専門	1	105	—	105	—	1.13		同上	
	ファッション一般課程									
	モード基礎学科 一般	1	35	—	35	—	0.00		同上	
	美容専門課程									
	ヘア・メイクアーティスト学科	3	40	—	160	専門士 (衛生分野)	0.63		同上	
	美容学科	2	40	—	80	専門士 (衛生分野)	0.40		同上	
	【夜間部】									
	ファッション専門課程									
	ファッションデザイン学科	3	30	—	90	—	0.27		同上	
	ファッション技術学科	3	30	—	90	—	0.66		同上	
	ファッションビジネス学科	2	30	—	60	—	0.18		同上	
	ファッション学科	2	30	—	60	—	0.78		同上	

既設大学等の状況	学 校 の 名 称	H A L 東 京							開 設 年 度	所 在 地
	学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率			
		年	人	年 次 人	人		倍			
	【昼間部】 デジタル専門課程 ゲーム企画学科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	1.91	平成21年 4月	東京都新宿区西新宿一丁目7番3号	
	ゲーム制作学科	4	80	—	320	高度専門士 (工業分野)	1.75		同上	
	ゲームデザイン学科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	1.43		同上	
	C G映像学科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	1.59		同上	
	アニメ・イラスト学科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	1.65		同上	
	グラフィックデザイン学科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	0.26		同上	
	カーデザイン学科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	0.18		同上	
	先端ロボット開発学科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	0.41		同上	
	高度情報処理科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	0.96		同上	
	WEB開発学科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	0.33		同上	
	ミュージック学科	4	40	—	160	高度専門士 (工業分野)	0.86		同上	
	ゲーム学科	2	40	—	80	専門士 (工業分野)	1.56		同上	
	C G学科	2	40	—	80	専門士 (工業分野)	1.85		同上	
	WEB学科	2	40	—	80	専門士 (工業分野)	0.46		同上	
	情報処理科	2	40	—	80	専門士 (工業分野)	0.78		同上	
	電子制御学科	2	40	—	80	専門士 (工業分野)	0.06		同上	
	ミュージック学科	2	40	—	80	専門士 (工業分野)	0.39		同上	
	国家資格学科	1	20	—	20	—	0.00		同上	
	パリ校留学科	1	20	—	20	—	0.00		同上	
	【夜間部】 デジタル専門課程 ゲーム学科	2	30	—	60	—	0.35		同上	
	C G映像学科	2	30	—	60	—	0.60		同上	

既設大学等の状況	グラフィックデザイン学科	2	30	—	60	—	0.47		同上	
	WEBデザイン学科	2	30	—	60	—	0.22		同上	
	ネットワーク学科	2	30	—	60	—	0.07		同上	
	情報処理科	2	30	—	60	—	0.48		同上	
	学 校 の 名 称	HAL大阪								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	【昼間部】	年	人	年次 人	人		倍	昭和59年 4月		
	デジタル専門課程									
	ゲーム企画学科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	1.07		大阪府大阪市北区梅田 三丁目3番1号	
	ゲーム制作学科	4	70	—	280	高度専門士 (工業分野)	1.48		同上	
	ゲームデザイン学科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	0.89		同上	
	CG映像学科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	1.09		同上	
	アニメ・イラスト学科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	0.52		同上	
	グラフィックデザイン学科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	0.26		同上	
	カーデザイン学科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	0.13		同上	
	先端ロボット開発学科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	0.28		同上	
	高度情報処理科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	0.70		同上	
	WEB開発学科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	0.26		同上	
	ミュージック学科	4	35	—	140	高度専門士 (工業分野)	0.64		同上	
	ゲーム学科	2	35	—	70	専門士 (工業分野)	0.47		同上	
CG学科	2	35	—	70	専門士 (工業分野)	0.63		同上		
WEB学科	2	35	—	70	専門士 (工業分野)	0.27		同上		
情報処理科	2	35	—	70	専門士 (工業分野)	0.40		同上		
電子制御学科	2	35	—	70	専門士 (工業分野)	0.06		同上		
ミュージック学科	2	35	—	70	専門士 (工業分野)	0.19		同上		
国家資格学科	1	20	—	20	—	0.00		同上		
パリ校留学学科	1	20	—	20	—	0.00		同上		

既設大学等の状況	【夜間部】										
	デジタル専門課程										
	ゲーム学科	2	30	—	60	—	0.22			同上	
	CG映像学科	2	30	—	60	—	0.40			同上	
	グラフィックデザイン学科	2	30	—	60	—	0.20			同上	
	WEBデザイン学科	2	30	—	60	—	0.22			同上	
	ネットワーク学科	2	30	—	60	—	0.13			同上	
	情報処理学科	2	30	—	60	—	0.17			同上	
	学 校 の 名 称	HAL名古屋									
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
		年	人	年次人	人		倍	昭和61年4月			
	【昼間部】										
	デジタル専門課程										
	ゲーム企画学科	4	35	—	140	高度専門士(工業分野)	0.84		愛知県名古屋市中村区名駅四丁目27番1号		
	ゲーム制作学科	4	35	—	140	高度専門士(工業分野)	3.02		同上		
	ゲームデザイン学科	4	35	—	140	高度専門士(工業分野)	0.75		同上		
	CG映像学科	4	35	—	140	高度専門士(工業分野)	0.93		同上		
	アニメ・イラスト学科	4	20	—	80	高度専門士(工業分野)	0.90		同上		
	グラフィックデザイン学科	4	35	—	140	高度専門士(工業分野)	0.29		同上		
	カーデザイン学科	4	20	—	80	高度専門士(工業分野)	0.30		同上		
先端ロボット開発学科	4	20	—	80	高度専門士(工業分野)	0.43		同上			
高度情報処理学科	4	35	—	140	高度専門士(工業分野)	0.98		同上			
WEB開発学科	4	35	—	140	高度専門士(工業分野)	0.40		同上			
ミュージック学科	4	20	—	80	高度専門士(工業分野)	1.28		同上			
ゲーム学科	2	35	—	70	専門士(工業分野)	0.54		同上			
CG学科	2	35	—	70	専門士(工業分野)	0.70		同上			
WEB学科	2	35	—	70	専門士(工業分野)	0.24		同上			
情報処理学科	2	35	—	70	専門士(工業分野)	0.53		同上			
電子制御学科	2	35	—	70	専門士(工業分野)	0.00		同上			
ミュージック学科	2	20	—	40	専門士(工業分野)	0.23		同上			

既設大学等の状況	国家資格学科	1	20	—	20	—	0.00		同上	
	パリ校留学学科	1	20	—	20	—	0.00		同上	
	【夜間部】									
	デジタル専門課程									
	ゲーム学科	2	30	—	60	—	0.12		同上	
	C G映像学科	2	30	—	60	—	0.33		同上	
	グラフィックデザイン学科	2	30	—	60	—	0.17		同上	
	WEBデザイン学科	2	30	—	60	—	0.10		同上	
	ネットワーク学科	2	30	—	60	—	0.00		同上	
	情報処理科	2	30	—	60	—	0.12		同上	
	学 校 の 名 称	首都医校								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
		年	人	年次人	人		倍	平成21年 4月		
	【昼間部】									
	医療専門課程									
	救急救命学科	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.48		東京都新宿区西新宿一丁目7番3号	
	臨床工学学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.33		同上	
	臨床工学技士特科	1	40	—	40	—	0.40		同上	
	高度専門士看護学科	4	80	—	320	高度専門士 (医療専門課程)	0.94		同上	
	実践看護学科Ⅰ	3	80	—	240	専門士 (医療専門課程)	0.86		同上	
実践看護学科Ⅱ	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.60		同上		
高度看護保健学科	4	20	—	80	高度専門士 (医療専門課程)	0.93		同上		
歯科衛生学科	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.34		同上		
理学療法学科	4	80	—	320	高度専門士 (医療専門課程)	0.44		同上		
作業療法学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.25		同上		
言語聴覚学科	2	40	—	80	専門士 (医療専門課程)	0.25		同上		
鍼灸学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.16		同上		
柔道整復学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.20		同上		
福祉専門課程										
介護福祉学科	2	40	—	80	専門士 (福祉専門課程)	0.34		同上		

既設大学等の状況	精神保健福祉学科	1	40	—	40	—	0.28		同上	
	社会福祉学科	1	40	—	40	—	0.33		同上	
	医療情報専門課程 診療情報管理学科	3	30	—	90	専門士 (医療情報専門課程)	0.11		同上	
	医療秘書学科	2	30	—	60	専門士 (医療情報専門課程)	0.07		同上	
	歯科秘書学科	2	30	—	60	—	0.00		同上	
	健康・スポーツ専門課程 アスレティックトレーナー学科	3	30	—	90	専門士 (健康・スポーツ専門課程)	0.21		同上	
	スポーツトレーナー学科	2	30	—	90	—	0.00		同上	
	【夜間部】									
	医療専門課程 救急救命学科	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.08		同上	
	臨床工学学科	4	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.07		同上	
	歯科衛生学科	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.33		同上	
	理学療法学科	4	80	—	320	専門士 (医療専門課程)	0.24		同上	
	作業療法学科	4	40	—	160	専門士 (医療専門課程)	0.25		同上	
	言語聴覚学科	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.05		同上	
	視能訓練士特科	2	40	—	80	—	0.15		同上	
	鍼灸学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.21		同上	
	柔道整復学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.19		同上	
	学 校 の 名 称	大阪医専								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	【昼間部】	年	人	年次 人	人		倍	平成12年 4月	大阪府大阪市北区 大淀中一丁目10番3 号	
医療専門課程 臨床工学学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.59		同上		
臨床工学技士特科	1	40	—	40	—	0.18		同上		
救急救命学科	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.53		同上		
理学療法学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.98		同上		
作業療法学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.41		同上		
言語聴覚学科	2	40	—	80	専門士 (医療専門課程)	0.59		同上		

既設 大学等 の 状 況	高度専門士看護学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.96		同上	
	実践看護学科	3	80	—	160	専門士 (医療専門課程)	1.00		同上	
	高度看護保健学科	4	80	—	320	高度専門士 (医療専門課程)	0.99		同上	
	鍼灸学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.18		同上	
	柔道整復学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.2		同上	
	福祉専門課程									
	介護福祉学科	2	40	—	80	専門士 (福祉専門課程)	0.08		同上	
	精神保健福祉学科	1	40	—	40	—	0.55		同上	
	医療情報専門課程									
	診療情報管理学科	3	20	—	60	専門士 (医療情報専門課程)	0.10		同上	
	医療秘書学科	2	20	—	40	専門士 (医療情報専門課程)	0.00		同上	
	健康・スポーツ専門課程									
	アスレティックトレーナー学科	3	20	—	60	専門士 (健康・スポーツ専門課程)	0.37		同上	
	スポーツトレーナー学科	2	20	—	60	—	0.00		同上	
	【夜間部】									
	医療専門課程									
	臨床工学学科	4	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.11		同上	
	救急救命学科	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.06		同上	
	理学療法学科	4	40	—	280	専門士 (医療専門課程)	0.32		同上	
	作業療法学科	4	40	—	160	専門士 (医療専門課程)	0.37		同上	
	言語聴覚学科	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.25		同上	
	視能療法学科	4	40	—	160	専門士 (医療専門課程)	0.29		同上	
	鍼灸学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.32		同上	
	柔道整復学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.22		同上	
	福祉専門課程									
	精神保健福祉学科	2	40	—	80	—	0.18		同上	
医療情報専門課程										
診療情報管理学科	3	20	—	40	専門士 (医療情報専門課程)	0.13		同上		
医療秘書学科	2	20	—	20	—	0.03		同上		

既設大学等の状況	学校の名称	名古屋医専							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍	平成20年 4月	
	【昼間部】 医療専門課程 救急救命学科	3	28	—	84	専門士 (医療専門課程)	0.82		愛知県名古屋市中村区 名駅四丁目27番1号
	臨床工学学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.51		同上
	高度看護保健学科	4	80	—	320	高度専門士 (医療専門課程)	0.83		同上
	高度専門士看護学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.88		同上
	実践看護学科	3	40	—	120	専門士 (医療専門課程)	0.97		同上
	保健学科	1	40	—	40	—	1.00		同上
	助産学科	1	80	—	80	—	0.63		同上
	理学療法学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.63		同上
	作業療法学科	4	40	—	160	高度専門士 (医療専門課程)	0.31		同上
	言語聴覚学科	2	40	—	80	専門士 (医療専門課程)	0.26		同上
	視能療法学科	4	20	—	80	高度専門士 (医療専門課程)	0.55		同上
	鍼灸学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.50		同上
	柔道整復学科	3	30	—	90	専門士 (医療専門課程)	0.57		同上
	臨床工学技士特科	1	40	—	40	—	0.30		同上
	福祉専門課程 介護福祉学科	2	40	—	80	専門士 (福祉専門課程)	0.34		同上
	精神保健福祉学科	2	40	—	40	—	0.40		同上
	医療情報専門課程 診療情報管理学科	3	20	—	60	専門士 (医療情報専門課程)	0.42		同上
	医療秘書学科	2	20	—	40	専門士 (医療情報専門課程)	0.08		同上
	健康・スポーツ専門課程 スポーツトレーナー学科	2	20	—	60	専門士 (健康・スポーツ専門課程)	0.18		同上
	【夜間部】 医療専門課程 理学療法学科	4	40	—	160	専門士 (医療専門課程)	0.23		同上
	鍼灸学科	3	30	—	144	専門士 (医療専門課程)	0.27		同上

既設大学等の状況	柔道整復学科	3	30	—	150	専門士 (医療専門課程)	0.24		同上	
	視能訓練士特科	2	40	—	80	—	0.06		同上	
	福祉専門課程 社会福祉学科	1	40	—	40	—	0.30		同上	
附属施設の概要		該当なし								

専門職大学設置後の東京校舎の収容定員

現状の収容定員

①+②+③+④

12,360

※ 校舎全体。東京通信大学含む

専門職大学設置後の収容定員

⑤+⑥+⑦+⑧+⑨

11,468

※ 校舎全体。東京通信大学含む

国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部

学 科 名	専門職大学完成年度（2022年度）		
	修業年限	入学定員	収容定員
ファッションクリエイション学科	4年	80	320
ファッションビジネス学科 ※	4年	38	158
		※ 2年次編入2名	478 ⑤

東京通信大学

学部名	申請時（平成29年度）			専門職大学完成年度（平成34年度）		
	修業年限	入学定員	総定員	修業年限	入学定員	収容定員
情報マネジメント学部 ※	4年	400	2,000	4年	400	2,000
人間福祉学部 ※	4年	400	2,000	4年	400	2,000
		※ 3年次編入 200名	4,000		※ 3年次編入 200名	4,000 ⑥

①

東京モード学園

		申請時（平成29年度）			専門職大学完成年度（平成34年度）			
		修業年限	入学定員	収容定員	修業年限	入学定員	収容定員	
昼間部	ファッションデザイン学科	4年	35	140	4年	35	140	
	ファッションデザイン学科	3年	35	105	3年	35	105	
	ファッションデザイン学科	2年	35	70	募集停止	—	—	
	ファッション技術学科	3年	35	105	3年	35	105	
	ファッションビジネス学科	3年	35	105	3年	35	105	
	ファッションビジネス学科	2年	35	70	2年	35	70	
	スタイリスト学科	2年	35	70	2年	35	70	
	インテリア学科	2年	35	70	2年	35	70	
	グラフィック学科	2年	35	70	2年	35	70	
	メイク・ネイル学科	2年	35	70	2年	35	70	
	モード基礎学科	1年	245	245	1年	120	120	
	ヘア・メイクアーティスト学科	3年	80	240	3年	80	240	
	美容学科	2年	80	160	2年	80	160	
夜間部	モード基礎学科（一般）	1年	35	35	募集停止	—	—	
	ファッションデザイン学科	3年	30	90	3年	30	90	
	ファッション技術学科	3年	30	90	3年	30	90	
	ファッションビジネス学科	2年	30	60	2年	30	60	
							60	
			②	1,855			⑦	1,625

HAL東京

		申請時（平成29年度）			専門職大学完成年度（平成34年度）			
		修業年限	入学定員	収容定員	修業年限	入学定員	収容定員	
昼間部	ゲーム企画学科	4年	40	160	募集停止	—	—	
	ゲーム制作学科	4年	80	320	定員減 名称変更	40	160	
	ゲームデザイン学科	4年	40	160	募集停止	—	—	
	CG映像学科	4年	40	160	4年	40	160	
	アニメ・イラスト学科	4年	40	160	4年	40	160	
	グラフィックデザイン学科	4年	40	160	4年	40	160	
	カーデザイン学科	4年	40	160	4年	40	160	
	先端ロボット開発学科	4年	40	160	4年	40	160	
	高度情報処理科	4年	40	160	高度情報学科	40	160	
	WEB開発学科	4年	40	160	募集停止	—	—	
	ミュージック学科	4年	40	160	4年	40	160	
	ゲーム学科	2年	40	80	2年	40	80	
	CG学科	2年	40	80	2年	40	80	
	WEB学科	2年	40	80	2年	40	80	
	情報処理科	2年	40	80	2年	40	80	
	電子制御学科	2年	40	80	募集停止	—	—	
	ミュージック学科	2年	40	80	2年	40	80	
	国家資格学科	1年	20	20	1年	20	20	
夜間部	パリ校留学科	1年	20	20	募集停止	—	—	
	ゲーム学科	2年	30	60	2年	30	60	
	CG映像学科	2年	30	60	2年	30	60	
	グラフィックデザイン学科	2年	30	60	2年	30	60	
	WEBデザイン学科	2年	30	60	2年	30	60	
	ネットワーク学科	2年	30	60	2年	30	60	
							60	
			③	2,800			⑧	2,060

首都医校

		申請時（平成29年度）			専門職大学完成年度（平成34年度）		
		修業 年限	入学 定員	収容定員	修業年限	入学定員	収容定員
昼間部	救急救命学科	3年	40	120	3年	40	120
	臨床工学学科	4年	40	160	4年	40	160
	臨床工学技士特科	1年	40	40	1年	40	40
	歯科衛生学科	3年	40	120	3年	40	120
	高度専門士看護学科	4年	80	320	4年	80	320
	高度看護保健学科	4年	20	80	4年	20	80
	実践看護学科Ⅰ	3年	80	240	3年	80	240
	実践看護学科Ⅱ	3年	40	120	3年	40	120
	理学療法学科	4年	80	320	4年	80	320
	作業療法学科	4年	40	160	4年	40	160
	言語聴覚学科	2年	40	80	2年	40	80
	鍼灸学科	3年	30	90	3年	30	90
	柔道整復学科	3年	30	90	3年	30	90
	介護福祉学科	2年	40	80	2年	40	80
	精神保健福祉学科	1年	40	40	1年	40	40
	社会福祉学科	1年	40	40	1年	40	40
	助産学科	1年	25	25	1年	25	25
	診療情報管理学科	3年	30	90	3年	30	90
	医療秘書学科	2年	30	60	2年	30	60
	歯科秘書学科	2年	30	60	2年	30	60
アスレティックトレーナー学科	3年	30	90	3年	30	90	
スポーツトレーナー学科	2年	30	60	2年	30	60	
夜間部	救急救命学科	3年	40	120	3年	40	120
	臨床工学学科	4年	40	120	募集停止	—	—
	歯科衛生学科	3年	40	120	3年	40	120
	理学療法学科	4年	80	320	4年	40	160
	作業療法学科	4年	40	160	4年	40	160
	視能訓練特科	2年	40	80	2年	40	80
	言語聴覚学科	3年	40	120	募集停止	—	—
	鍼灸学科	3年	30	90	3年	30	90
柔道整復学科	3年	30	90	3年	30	90	
		④	3,705			⑤	3,305

学校法人日本教育財団 設置認可に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由			
<p>東京通信大学</p> <p>情報マネジメント学部 情報マネジメント学科</p> <p style="text-align: right;">3年次</p> <p style="text-align: right;">400 200 2,000</p> <p>人間福祉学部 人間福祉学科</p> <p style="text-align: right;">3年次</p> <p style="text-align: right;">400 200 2,000</p> <hr/> <p style="text-align: right;">3年次</p> <p style="text-align: right;">計 800 400 4,000</p>				<p>国際ファッション専門職大学 大学新設</p> <p>国際ファッション学部</p> <p>ファッションクリエイション学科 <u>80</u> <u>320</u></p> <p style="text-align: right;">2年次</p> <p>ファッションビジネス学科 <u>38</u> <u>158</u></p> <p style="text-align: right;">2年次</p> <p>大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 <u>38</u> <u>158</u></p> <p style="text-align: right;">2年次</p> <p>名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 <u>38</u> <u>158</u></p> <hr/> <p style="text-align: right;">2年次</p> <p style="text-align: right;">計 <u>194</u> <u>6</u> <u>794</u></p>							
				<p>東京通信大学</p> <p>情報マネジメント学部 情報マネジメント学科</p> <p style="text-align: right;">3年次</p> <p style="text-align: right;">400 200 2,000</p> <p>人間福祉学部 人間福祉学科</p> <p style="text-align: right;">3年次</p> <p style="text-align: right;">400 200 2,000</p> <hr/> <p style="text-align: right;">3年次</p> <p style="text-align: right;">計 800 400 4,000</p>				<p>東京通信大学</p> <p>情報マネジメント学部 情報マネジメント学科</p> <p style="text-align: right;">3年次</p> <p style="text-align: right;">400 200 2,000</p> <p>人間福祉学部 人間福祉学科</p> <p style="text-align: right;">3年次</p> <p style="text-align: right;">400 200 2,000</p> <hr/> <p style="text-align: right;">3年次</p> <p style="text-align: right;">計 800 400 4,000</p>			

学校法人日本教育財団 設置認可に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東京モード学園				東京モード学園				
【昼間部】				【昼間部】				
ファッションデザイン学科 4年制	35	-	140	ファッションデザイン学科 4年制	35	-	140	
ファッションデザイン学科 3年制	35	-	105	ファッションデザイン学科 3年制	35	-	105	
ファッションデザイン学科 2年制	35	-	70	ファッションデザイン学科 2年制	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ファッション技術学科	35	-	105	ファッション技術学科	35	-	105	
ファッションビジネス学科 3年制	35	-	105	ファッションビジネス学科 3年制	35	-	105	
ファッションビジネス学科 2年制	35	-	70	ファッションビジネス学科 2年制	35	-	70	
スタイリスト学科	35	-	70	スタイリスト学科	35	-	70	
インテリア学科	35	-	70	インテリア学科	35	-	70	
グラフィック学科	35	-	70	グラフィック学科	35	-	70	
メイク・ネイル学科	35	-	70	メイク・ネイル学科	35	-	70	
モード基礎学科 専門	245	-	245	モード基礎学科 専門	120	-	120	定員変更(△125)
モード基礎学科 一般	35	-	35	モード基礎学科 一般	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ヘア・メイクアーティスト学科	80	-	240	ヘア・メイクアーティスト学科	80	-	240	
美容学科	80	-	160	美容学科	80	-	160	
【夜間部】				【夜間部】				
ファッションデザイン学科	30	-	90	ファッションデザイン学科	30	-	90	
ファッション技術学科	30	-	90	ファッション技術学科	30	-	90	
ファッションビジネス学科	30	-	60	ファッションビジネス学科	30	-	60	
ファッション学科	30	-	60	ファッション学科	30	-	60	
計	910	-	1855	計	715	-	1625	
大阪モード学園				大阪モード学園				
【昼間部】				【昼間部】				
ファッションデザイン学科 4年制	35	-	140	ファッションデザイン学科 4年制	30	-	120	定員変更(△5)
ファッションデザイン学科 3年制	35	-	105	ファッションデザイン学科 3年制	35	-	105	
ファッションデザイン学科 2年制	35	-	70	ファッションデザイン学科 2年制	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ファッション技術学科	35	-	105	ファッション技術学科	35	-	105	
ファッションビジネス学科 3年制	35	-	105	ファッションビジネス学科 3年制	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ファッションビジネス学科 2年制	35	-	70	ファッションビジネス学科 2年制	35	-	70	
スタイリスト学科	35	-	70	スタイリスト学科	35	-	70	
インテリア学科	35	-	70	インテリア学科	35	-	70	
グラフィック学科	35	-	70	グラフィック学科	35	-	70	
メイク・ネイル学科	35	-	70	メイク・ネイル学科	35	-	70	
モード基礎学科 専門	175	-	175	モード基礎学科 専門	105	-	105	定員変更(△70)
モード基礎学科 一般	35	-	35	モード基礎学科 一般	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ヘア・メイクアーティスト学科	80	-	240	ヘア・メイクアーティスト学科	40	-	120	定員変更(△40)
美容学科	80	-	160	美容学科	40	-	80	定員変更(△40)
【夜間部】				【夜間部】				
ファッションデザイン学科	30	-	90	ファッションデザイン学科	30	-	90	
ファッション技術学科	30	-	90	ファッション技術学科	30	-	90	
ファッションビジネス学科	30	-	60	ファッションビジネス学科	30	-	60	
ファッション学科	30	-	60	ファッション学科	30	-	60	
計	840	-	1785	計	580	-	1285	

学校法人日本教育財団 設置認可に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名古屋モード学園				名古屋モード学園				
【昼間部】				【昼間部】				
ファッションデザイン学科 4年制	35	-	140	ファッションデザイン学科 4年制	<u>20</u>	-	<u>80</u>	定員変更(△15)
ファッションデザイン学科 3年制	35	-	105	ファッションデザイン学科 3年制	35	-	105	
ファッションデザイン学科 2年制	35	-	70		0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ファッション技術学科	35	-	105	ファッション技術学科	<u>20</u>	-	<u>60</u>	定員変更(△15)
ファッションビジネス学科 2年制	35	-	70	ファッションビジネス学科 2年制	<u>30</u>	-	<u>60</u>	定員変更(△5)
スタイリスト学科	35	-	70	スタイリスト学科	<u>30</u>	-	<u>60</u>	定員変更(△5)
インテリア学科	35	-	70	インテリア学科	<u>30</u>	-	<u>60</u>	定員変更(△5)
グラフィック学科	35	-	70	グラフィック学科	<u>30</u>	-	<u>60</u>	定員変更(△5)
メイク・ネイル学科	35	-	70	メイク・ネイル学科	<u>30</u>	-	<u>60</u>	定員変更(△5)
モード基礎学科 専門	105	-	105	モード基礎学科 専門	<u>80</u>	-	<u>80</u>	定員変更(△25)
モード基礎学科 一般	35	-	35		0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ヘア・メイクアーティスト学科	40	-	120	ヘア・メイクアーティスト学科	40	-	120	
美容学科	40	-	80	美容学科	40	-	80	
【夜間部】				【夜間部】				
ファッションデザイン学科	30	-	90	ファッションデザイン学科	30	-	90	
ファッション技術学科	30	-	90	ファッション技術学科	30	-	90	
ファッションビジネス学科	30	-	60	ファッションビジネス学科	30	-	60	
ファッション学科	30	-	60	ファッション学科	30	-	60	
計	655	-	1410	計	<u>505</u>	-	<u>1125</u>	
HAL東京				HAL東京				
【昼間部】				【昼間部】				
ゲーム企画学科	40	-	160		0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ゲーム制作学科	80	-	320	<u>ゲーム4年制学科</u>	<u>40</u>	-	<u>160</u>	名称変更、 定員変更(△40)
ゲームデザイン学科	40	-	160		0	-	0	平成31年4月学生募集停止
CG映像学科	40	-	160	CG映像学科	40	-	160	
アニメ・イラスト学科	40	-	160	アニメ・イラスト学科	40	-	160	
グラフィックデザイン学科	40	-	160	グラフィックデザイン学科	40	-	160	
カーデザイン学科	40	-	160	カーデザイン学科	40	-	160	
先端ロボット開発学科	40	-	160	先端ロボット開発学科	40	-	160	
高度情報処理学科	40	-	160	高度情報処理学科	40	-	160	名称変更
WEB開発学科	40	-	160		0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ミュージック学科	40	-	160	ミュージック学科	40	-	160	
ゲーム学科	40	-	80	ゲーム学科	40	-	80	
CG学科	40	-	80	CG学科	40	-	80	
WEB学科	40	-	80	WEB学科	40	-	80	
情報処理学科	40	-	80	情報処理学科	40	-	80	
電子制御学科	40	-	80		0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ミュージック学科	40	-	80	ミュージック学科	40	-	80	
国家資格学科	20	-	20	国家資格学科	20	-	20	
パリ校留学科	20	-	20		0	-	0	平成31年4月学生募集停止
【夜間部】				【夜間部】				
ゲーム学科	30	-	60	ゲーム学科	30	-	60	
CG映像学科	30	-	60	CG映像学科	30	-	60	
グラフィックデザイン学科	30	-	60	グラフィックデザイン学科	30	-	60	
WEBデザイン学科	30	-	60	WEBデザイン学科	30	-	60	
ネットワーク学科	30	-	60	ネットワーク学科	30	-	60	
情報処理学科	30	-	60	情報処理学科	30	-	60	
計	940	-	2800	計	<u>720</u>	-	<u>2060</u>	

学校法人日本教育財団 設置認可に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
HAL大阪				HAL大阪				
【昼間部】				【昼間部】				
ゲーム企画学科	35	-	140	ゲーム4年制学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ゲーム制作学科	70	-	280	ゲーム4年制学科	70	-	280	名称変更
ゲームデザイン学科	35	-	140	ゲーム4年制学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
CG映像学科	35	-	140	CG映像学科	35	-	140	
アニメ・イラスト学科	35	-	140	アニメ・イラスト学科	35	-	140	
グラフィックデザイン学科	35	-	140	グラフィックデザイン学科	35	-	140	
カーデザイン学科	35	-	140	カーデザイン学科	35	-	140	
先端ロボット開発学科	35	-	140	先端ロボット開発学科	35	-	140	
高度情報処理学科	35	-	140	高度情報処理学科	35	-	140	名称変更
WEB開発学科	35	-	140	WEB開発学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ミュージック学科	35	-	140	ミュージック学科	35	-	140	
ゲーム学科	35	-	70	ゲーム学科	20	-	40	定員変更(Δ15)
CG学科	35	-	70	CG学科	20	-	40	定員変更(Δ15)
WEB学科	35	-	70	WEB学科	20	-	40	定員変更(Δ15)
情報処理学科	35	-	70	情報処理学科	20	-	40	定員変更(Δ15)
電子制御学科	35	-	70	電子制御学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ミュージック学科	35	-	70	ミュージック学科	20	-	40	定員変更(Δ15)
国家資格学科	20	-	20	国家資格学科	20	-	20	
パリ校留学学科	20	-	20	パリ校留学学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
【夜間部】				【夜間部】				
ゲーム学科	30	-	60	ゲーム学科	30	-	60	
CG映像学科	30	-	60	CG映像学科	30	-	60	
グラフィックデザイン学科	30	-	60	グラフィックデザイン学科	30	-	60	
WEBデザイン学科	30	-	60	WEBデザイン学科	30	-	60	
ネットワーク学科	30	-	60	ネットワーク学科	30	-	60	
情報処理学科	30	-	60	情報処理学科	30	-	60	
計	850	-	2500	計	615	-	1840	
HAL名古屋				HAL名古屋				
【昼間部】				【昼間部】				
ゲーム企画学科	35	-	140	ゲーム4年制学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ゲーム制作学科	35	-	140	ゲーム4年制学科	35	-	140	名称変更
ゲームデザイン学科	35	-	140	ゲーム4年制学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
CG映像学科	35	-	140	CG映像学科	35	-	140	
アニメ・イラスト学科	20	-	80	アニメ・イラスト学科	35	-	140	(定員変更15)
グラフィックデザイン学科	35	-	140	グラフィックデザイン学科	35	-	140	
カーデザイン学科	20	-	80	カーデザイン学科	20	-	80	
先端ロボット開発学科	20	-	80	先端ロボット開発学科	20	-	80	
高度情報処理学科	35	-	140	高度情報処理学科	35	-	140	名称変更
WEB開発学科	35	-	140	WEB開発学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ミュージック学科	20	-	80	ミュージック学科	20	-	80	
ゲーム学科	35	-	70	ゲーム学科	20	-	40	定員変更(Δ15)
CG学科	35	-	70	CG学科	20	-	40	定員変更(Δ15)
WEB学科	35	-	70	WEB学科	20	-	40	定員変更(Δ15)
情報処理学科	35	-	70	情報処理学科	20	-	40	定員変更(Δ15)
電子制御学科	35	-	70	電子制御学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
ミュージック学科	20	-	40	ミュージック学科	20	-	40	
国家資格学科	20	-	20	国家資格学科	20	-	20	
パリ校留学学科	20	-	20	パリ校留学学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止
【夜間部】				【夜間部】				
ゲーム学科	30	-	60	ゲーム学科	30	-	60	
CG映像学科	30	-	60	CG映像学科	30	-	60	
グラフィックデザイン学科	30	-	60	グラフィックデザイン学科	30	-	60	
WEBデザイン学科	30	-	60	WEBデザイン学科	30	-	60	
ネットワーク学科	30	-	60	ネットワーク学科	30	-	60	
情報処理学科	30	-	60	情報処理学科	30	-	60	
計	740	-	2090	計	535	-	1520	

学校法人日本教育財団 設置認可に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
首都医校				首都医校				
【昼間部】				【昼間部】				
救急救命学科	40	-	120	救急救命学科	40	-	120	
臨床工学学科	40	-	160	臨床工学学科	40	-	160	
臨床工学技士特科	40	-	40	臨床工学技士特科	40	-	40	
高度専門士看護学科	80	-	320	高度専門士看護学科	80	-	320	
高度看護保健学科	20	-	80	高度看護保健学科	20	-	80	
実践看護学科Ⅰ	80	-	240	実践看護学科Ⅰ	80	-	240	
実践看護学科Ⅱ	40	-	120	実践看護学科Ⅱ	40	-	120	
助産学科	25	-	25	助産学科	25	-	25	
歯科衛生学科	40	-	120	歯科衛生学科	40	-	120	
理学療法学科	80	-	320	理学療法学科	80	-	320	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
言語聴覚学科	40	-	80	言語聴覚学科	40	-	80	
鍼灸学科	30	-	90	鍼灸学科	30	-	90	
柔道整復学科	30	-	90	柔道整復学科	30	-	90	
介護福祉学科	40	-	80	介護福祉学科	40	-	80	
精神保健福祉学科	40	-	40	精神保健福祉学科	40	-	40	
社会福祉学科	40	-	40	社会福祉学科	40	-	40	
診療情報管理学科	30	-	90	診療情報管理学科	30	-	90	
医療秘書学科	30	-	60	医療秘書学科	30	-	60	
歯科秘書学科	30	-	60	歯科秘書学科	30	-	60	
アスレティックトレーナー学科	30	-	90	アスレティックトレーナー学科	30	-	90	
スポーツトレーナー学科	30	-	60	スポーツトレーナー学科	30	-	60	
【夜間部】				【夜間部】				
救急救命学科	40	-	120	救急救命学科	40	-	120	
歯科衛生学科	40	-	120	歯科衛生学科	40	-	120	
理学療法学科	40	-	160	理学療法学科	40	-	160	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
視能訓練士特科	40	-	80	視能訓練士特科	40	-	80	
鍼灸学科	30	-	90	鍼灸学科	30	-	90	
柔道整復学科	30	-	90	柔道整復学科	30	-	90	
計	1155	-	3305	計	1155	-	3305	
大阪医専				大阪医専				
【昼間部】				【昼間部】				
臨床工学学科	40	-	160	臨床工学学科	40	-	160	
臨床工学技士特科	40	-	40	臨床工学技士特科	40	-	40	
救急救命学科	40	-	120	救急救命学科	40	-	120	
理学療法学科	40	-	160	理学療法学科	40	-	160	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
言語聴覚学科	40	-	80	言語聴覚学科	40	-	80	
高度専門士看護学科	40	-	160	高度専門士看護学科	40	-	160	
高度看護保健学科	80	-	320	高度看護保健学科	80	-	320	
実践看護学科	80	-	240	実践看護学科	80	-	240	
鍼灸学科	30	-	90	鍼灸学科	30	-	90	
柔道整復学科	30	-	90	柔道整復学科	30	-	90	
介護福祉学科	40	-	80	介護福祉学科	40	-	80	
精神保健福祉学科	40	-	40	精神保健福祉学科	40	-	40	
診療情報管理学科	20	-	60	診療情報管理学科	20	-	60	
医療秘書学科	20	-	40	医療秘書学科	20	-	40	
アスレティックトレーナー学科	20	-	60	アスレティックトレーナー学科	20	-	60	
スポーツトレーナー学科	20	-	40	スポーツトレーナー学科	20	-	40	
【夜間部】				【夜間部】				
理学療法学科	40	-	160	理学療法学科	40	-	160	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
言語聴覚学科	40	-	120	言語聴覚学科	40	-	120	
視能療法学科	40	-	160	視能療法学科	40	-	160	
鍼灸学科	30	-	90	鍼灸学科	30	-	90	
柔道整復学科	30	-	90	柔道整復学科	30	-	90	
精神保健福祉学科	40	-	80	精神保健福祉学科	40	-	80	
計	920	-	2800	計	920	-	2800	

学校法人日本教育財団 設置認可に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名古屋医専				名古屋医専				
【昼間部】				【昼間部】				
救急救命学科	28	-	84	救急救命学科	28	-	84	
臨床工学学科	40	-	160	臨床工学学科	40	-	160	
高度専門士看護学科	40	-	160	高度専門士看護学科	40	-	160	
高度看護保健学科	80	-	320	高度看護保健学科	80	-	320	
実践看護学科	80	-	240	実践看護学科	80	-	240	
保健学科	40	-	40	保健学科	40	-	40	
助産学科	80	-	80	助産学科	80	-	80	
歯科衛生学科	25	-	75	歯科衛生学科	25	-	75	
理学療法学科	40	-	160	理学療法学科	40	-	160	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
言語聴覚学科	40	-	80	言語聴覚学科	40	-	80	
視能療法学科	20	-	80	視能療法学科	20	-	80	
鍼灸学科	30	-	90	鍼灸学科	30	-	90	
柔道整復学科	30	-	90	柔道整復学科	30	-	90	
臨床工学技士特科	40	-	40	臨床工学技士特科	40	-	40	
介護福祉学科	40	-	80	介護福祉学科	40	-	80	
精神保健福祉学科	40	-	40	精神保健福祉学科	40	-	40	
診療情報管理学科	20	-	60	診療情報管理学科	20	-	60	
医療秘書学科	20	-	40	医療秘書学科	20	-	40	
歯科秘書学科	20	-	40	歯科秘書学科	20	-	40	
スポーツトレーナー学科	20	-	40	スポーツトレーナー学科	20	-	40	
【夜間部】				【夜間部】				
理学療法学科	40	-	160	理学療法学科	40	-	160	
歯科衛生学科	25	-	75	歯科衛生学科	25	-	75	
鍼灸学科	30	-	90	鍼灸学科	30	-	90	
柔道整復学科	30	-	90	柔道整復学科	30	-	90	
社会福祉学科	40	-	40	社会福祉学科	40	-	40	
計	978	-	2614	計	978	-	2614	

教育課程等の概要															
(国際ファッション学部ファッションクリエイション学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手	
①基礎科目	比較文化論	1前	2			○			1					兼1	共同
	現代文化論	1後	2			○			1					兼1	
	ヨーロッパの社会と文化	2後	2			○			1					兼1	
	文化論基礎ゼミ	1前	2				○		1	2				兼2	
	会計入門	1前	2			○								兼1	
	産業論入門	1後	2			○								兼1	
	法学入門	1後	2			○			1					兼1	
	地域論入門	2後	2			○				1					
	フィールドワーク入門	1後	2			○				1					
	社会科学基礎ゼミ	2後	2				○		3					兼2	
	メディア概論	1前	2			○			1					兼1	
	情報リテラシー	1前	2			○			1						
	環境と社会	2前	2			○								兼1	
	英語 I	1通	4				○				1			兼1	
	英語 II	2通	4				○				1			兼1	
	フランス語	2後	2				○			1					
	中国語	2後	2				○			1				兼1	
	日本語文章表現	1後	2				○			1					
	キャリアデザイン論	1後	2				○			1					
小計 (19科目)	—	—	18	24	0	13	6	0	8	2	2	0	0	兼10	—
②職業専門科目	身体とパフォーマンス	1前	2			○				1					共同
	造形論入門	1前	2			○					1				
	自然資源と服装文化	1後	2			○					1			兼1	
	職人の世界	1前	2			○					1			兼1	
	装いと社会性・ジェンダー	1前	2			○					1				
	美とファッションの歴史	2前	2			○			1						
	ブランドの歴史と文化	2後	2			○			1					兼1	
	美容とファッション	2後	2			○								兼1	
	色彩論入門	1前	2			○								兼1	
	ファッション論基礎ゼミ	1前	2				○		2		1				
	日本の衣生活・服装史入門	2前	2			○			1					兼1	
	生活科学入門	1前	2			○			1					兼1	
	ファッションデザイン論	1前	2			○			1					兼1	
	ファッションデザイン実習Ⅰ※	1通	4					○	1		1			オムニバス・共同(一部)	
ファッションデザイン実習Ⅱ※	2通	4					○	1		1			オムニバス・共同(一部)		
ファッションデザインプランニング実習Ⅰ※	1通	4					○	3					オムニバス・共同(一部)		
ファッションデザインプランニング実習Ⅱ※	2通	4					○	3					オムニバス・共同(一部)		
国際展示会演習	4前	2				○		1							
パターンメイキング	2後	2			○					1					
テキスタイル基礎	1後	2			○			1							
バッグデザイン	3後	2					○	1							
シューズデザイン	2後	2					○	1							
デザイン感性工学	2前	2			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	1前		2		○			1						兼1	
	国際ファッション市場論	1後		2		○				1					兼1	
	マーケティング論	3前		2		○			1						兼1	
	消費者行動論	3前		2		○			1						兼1	
	知財論	2後		2		○			1						兼1	
	国際ファッション業界英語	2通		4			○								兼1	
メディア科目群	写真概論	1前		2		○			1							
	映像概論	1後		2		○			1							
	写真実習	2前		2				○	1							
	映像実習	2後		2				○	1							
地域科目・地域	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10				連		2							共同
	臨地実習Ⅰ（企業）	3通	10					臨	3		1				兼2	集中共同
	臨地実習Ⅱ（地方産地）	3通	10					臨	2		1				兼1	集中共同
小計（36科目）		—	72	34	0	22	3	10	11	2	4	0	0	兼9	—	
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	3後	2			○								兼1	
		地域産業論	2後	2			○		1							
		産業とメディアデザイン	2前	2			○		1						兼1	
		デジタルアーカイブ論	2前	2				○	1						兼1	
		サブカルチャー・スタイル	2後	2			○								兼1	
	広告・PR論	3後	2			○			1						兼1	
	国際科目群	国際知財論	3前		2		○			1						兼1
国際連携ゼミ		3通	4				連		6	2	2			兼2	共同	
海外実習Ⅰ		3通	2					○	5	1	2			兼1	集中共同	
海外実習Ⅱ		3通	4					○	4	2	2			兼1	集中共同	
小計（10科目）		—	10	14	0	6	2	2	10	2	3	0	0	兼7	—	
④ 総合科目	統合指導ゼミⅠ	4前	4				○		5					兼2	共同	
	統合指導ゼミⅡ	4後	4				○		5					兼2	共同	
	卒業制作・計画	4通	4					○	4						共同	
	小計（3科目）		—	12	0	0	0	2	1	9	0	2	0	0	0	—
合計（68科目）			—	112	72	0	41	13	13	14	2	4	0	0	兼15	—
学位又は称号	ファッションクリエイション学士（専門職）		学位又は学科の分野				家政									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
【卒業要件】 次により、必修科目112単位、選択科目14単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目72単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目10単位、展開科目の選択科目10単位以上 総合科目12単位							1 学年の学期区分		2 学期							
							1 学期の授業期間		15週							
							1 時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要															
(国際ファッション学部ファッションビジネス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
①基礎科目	比較文化論	1前	2			○			1						
	現代文化論	1後		2		○			1						
	ヨーロッパの社会と文化	2後		2		○			1						
	文化論基礎ゼミ	1前		2			○		1	1	2			兼1 兼2	共同
	会計入門	1前		2		○								兼1	
	産業論入門	1後		2		○								兼1	
	法学入門	1後		2		○			1						
	地域論入門	2後		2		○				1	1			兼1	共同
	フィールドワーク入門	1後		2		○				1				兼1	
	社会科学基礎ゼミ	2後		2			○		3					兼1	共同
	メディア概論	1前		2		○			1						
	情報リテラシー	1前		2		○			1					兼1	
	環境と社会	2前		2		○								兼1	
	英語 I	1通		4			○		1					兼1	
	英語 II	2通		4			○		1					兼1	
	フランス語	2後		2			○			1				兼1	
	中国語	2後		2			○			1					
日本語文章表現	1後		2			○		1							
キャリアデザイン論	1後		2			○		1					兼1		
	小計（19科目）	—	18	24	0	13	6	0	8	2	2	0	0	兼7	—
ファッション論科目群	身体とパフォーマンス	1前		2		○				1				兼1	
	造形論入門	1前		2		○					1			兼1	
	自然資源と服装文化	1後		2		○					1				
	職人の世界	1前		2		○					1				
	装いと社会性・ジェンダー	1前		2		○					1			兼1	
	美とファッションの歴史	2前		2		○			1					兼1	
	ブランドの歴史と文化	2後		2		○			1						
	美容とファッション	2後		2		○								兼1	
	色彩論入門	1前		2		○								兼1	
ファッション論基礎ゼミ	1前		2			○		1		1			兼2	共同	
デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前		2		○			1						
	生活科学入門	1前		2		○			1						
	ファッションデザイン論	1前		2		○			1						
	デザイン概論	1前		2		○								兼1	
	パターンメイキング	2後		2		○					1			兼1	
	テキスタイル基礎	1後		2		○			1					兼1	
デザイン感性工学	2前		2		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
② 職業専門科目	ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	1前	2			○			1								
		ファッションビジネス実習Ⅰ	1通	4					○		1							
		ファッションビジネス実習Ⅱ	2通	4					○		1							
		国際ファッション市場論	1後		2			○				1						
		国際ビジネスモデル特講Ⅰ	2前		2				○			1						
		国際ビジネスモデル特講Ⅱ	2後		2				○			1						
		リテール企画実習Ⅰ	1通	4						○			1					
		リテール企画実習Ⅱ	2通	4								1						
		創造産業論	3前		2				○			1						兼1
		マーケティング論	3前		2					○		1						
		消費者行動論	3前		2					○		1						
		知財論	2後		2					○		1						
		国際ファッション業界英語	2通		4													兼1
メディア科目群		写真概論	1前	2				○			1						兼1	
		映像概論	1後	2					○		1						兼1	
		写実実習	2前		2						1						兼1	
		映像実習	2後		2						1						兼1	
地域・地方科目群		地域企業・地方連携ゼミ	3通	10				連		2	1	1					共同	
		臨地実習Ⅰ（企業）	3通	10					臨		3		2				兼2 集中共同	
		臨地実習Ⅱ（地方産地）	3通	10					臨		2		2				兼1 集中共同	
小計（37科目）		—	72	36	0	24	5	8	8	3	5	0	0	兼12	—			
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	3後	2				○									兼1	
		地域産業論	2後	2					○		1						兼1	
		産業とメディアデザイン	2前		2				○		1							
		デジタルアーカイブ論	2前		2				○		1							
		サブカルチャー・スタイル	2後		2				○								兼1	
	広告・PR論	3後		2				○		1								
	国際科目群		国際知財論	3前		2			○		1							
			国際連携ゼミ	3通	4					連	1	2	1					兼3 共同
海外実習Ⅰ			3通	2						1	2	3					兼4 集中共同	
海外実習Ⅱ	3通		4					1	2	2						兼4 集中共同		
小計（10科目）		—	10	14	0	6	2	2	6	2	3	0	0	兼6	—			
④ 総合科目		統合指導ゼミⅠ	4前	4				○		5							兼3 共同	
		統合指導ゼミⅡ	4後	4					○	5							兼3 共同	
		卒業制作・計画	4通	4						1	1						兼1 共同	
		小計（3科目）	—	12	0	0	0	2	1	9	1	0	0	0	兼4	—		
合計（69科目）		—	112	74	0	43	15	11	11	3	5	0	0	兼17	—			
学位又は称号	ファッションビジネス学士（専門職）	学位又は学科の分野		家政														
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
【卒業要件】 次により、必修科目112単位、選択科目14単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目72単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目10単位、展開科目の選択科目10単位以上 総合科目12単位								1学年の学期区分				2学期						
								1学期の授業期間				15週						
								1時限の授業時間				90分						

教育課程等の概要															
(国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
① 基礎科目	比較文化論	1前	2			○			1						
	現代文化論	1後	2			○					1	1			共同
	ヨーロッパの社会と文化	2後	2			○					1	1			共同
	文化論基礎ゼミ	1前	2				○		1	1	2	1			共同
	会計入門	1前	2			○			1						共同
	産業論入門	1後	2			○			1	1					共同
	法学入門	1後	2			○								兼1	
	地域論入門	2後	2			○				1					
	フィールドワーク入門	1後	2			○					1				
	社会科学基礎ゼミ	2後	2				○		2	1					共同
	メディア概論	1前	2			○								兼1	
	情報リテラシー	1前	2			○			1						
	環境と社会	2前	2			○					1				
	英語 I	1通	4				○								兼1
	英語 II	2通	4				○								兼1
	フランス語	2後	2				○								兼1
	中国語	2後	2				○								兼1
	日本語文章表現	1後	2				○								兼1
	キャリアデザイン論	1後	2			○				1					
小計（19科目）		—	18	24	0	13	6	0	4	2	2	1	0	兼7	—
② 職業専門科目	ファッション論科目群	身体とパフォーマンス	1前	2			○						1		
		造形論入門	1前	2			○			1					
		自然資源と服装文化	1後	2			○				1				
		職人の世界	1前	2			○				1				
		装いと社会性・ジェンダー	1前	2			○					1			
		美とファッションの歴史	2前	2			○				1				
		ブランドの歴史と文化	2後	2			○				1				
		美容とファッション	2後	2			○								兼1
		色彩論入門	1前	2			○								兼1
	ファッション論基礎ゼミ	1前	2				○		1	2				兼1	共同
	デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前	2			○								兼1
		生活科学入門	1前	2			○								兼1
		ファッションデザイン論	1前	2			○				1				
		ファッションデザイン実習 I	1通	4					○		2				共同
		ファッションデザイン実習 II	2通	4					○		2				共同
デザイン概論		1前	2			○							1		兼1
パターンメイキング	2後	2			○						1				
テキスタイル基礎	1後	2			○				1						
感性工学	2後	2			○			1							
ファッションビジネス	ファッションビジネス概論	1前	2			○			1						
	国際ファッション市場論	1後	2			○			1		1				共同
	ファッションビジネス実習 I	1通	4					○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ビジネス科目群	ファッションビジネス実習Ⅱ	2通	4					○		1					共同 共同
	国際ビジネスモデル特講Ⅰ	2前	2				○		1	1					
	国際ビジネスモデル特講Ⅱ	2後	2				○		1	1					
	創造産業論	3前	2			○			1						
	マーケティング論	3前	2			○				1					
	消費者行動論	3前	2			○				1					
	知財論	2後	2			○								兼1	
	国際ファッション業界英語	2通	4				○							兼1	
メディア科目群	写真概論	1前	2			○								兼1	
	映像概論	1後	2			○								兼1	
	写真実習	2前	2					○						兼1	
	映像実習	2後	2					○						兼1	
地域・地方科目群	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10				連			2	2			共同	
	臨地実習Ⅰ（企業）	3通	10					臨		2	2			集中共同	
	臨地実習Ⅱ（地方産地）	3通	10					臨		2	2			集中共同	
小計（37科目）		—	72	36	0	24	5	8	3	6	3	1	0	兼8	—
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	3後	2			○			1					兼1 兼1 兼1
		地域産業・大阪論	2後	2			○			1					
		産業とメディアデザイン	2前	2			○			1					
		デジタルテクノロジー演習	2前	2				○		1					
		サブカルチャー・スタイル	2後	2			○								
		広告・PR論	3後	2			○			1					
	国際科目群	国際知財論	3前	2			○								兼1
		国際連携ゼミ	3通	4				連			3	1	1		共同
海外実習Ⅰ		3通	2					○		4	1	1		集中共同	
海外実習Ⅱ	3通	4					○		4	1	1		集中共同		
小計（10科目）		—	10	14	0	6	2	2	3	4	1	1	0	兼3	—
④ 総合科目	統合指導ゼミⅠ	4前	4				○		2	1				共同	
	統合指導ゼミⅡ	4後	4				○		2	1				共同	
	卒業制作・計画	4通	4					○	2	3				共同	
	小計（3科目）	—	12	0	0	0	2	1	4	4	0	0	0	0	—
合計（69科目）		—	112	74	0	43	15	11	5	7	4	1	0	兼16	—
学位又は称号	ファッションクリエイション・ビジネス学士（専門職）	学位又は学科の分野			家政										
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【卒業要件】 次により、必修科目112単位、選択科目14単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目72単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目10単位、展開科目の選択科目10単位以上 総合科目12単位							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要																
(国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
① 基礎科目	比較文化論	1前	2			○										
	現代文化論	1後	2			○				1						
	ヨーロッパの社会と文化	2後	2			○								兼1	共同	
	文化論基礎ゼミ	1前	2				○			2	1					
	会計入門	1前	2			○				1						
	産業論入門	1後	2			○			1							
	法学入門	1後	2			○								兼1		
	地域論入門	2後	2			○					1					
	フィールドワーク入門	1後	2			○					1					
	社会科学基礎ゼミ	2後	2				○			1						
	メディア概論	1前	2			○				1						
	情報リテラシー	1前	2			○					1					
	環境と社会	2前	2			○								兼1		
	英語 I	1通	4				○			1				兼1	共同	
	英語 II	2通	4				○							兼1		
	フランス語	2後	2				○			1	1			兼1	共同	
	イタリア語	2後	2				○							兼1		
中国語	2後	2				○				1						
日本語文章表現	1後	2				○					1					
キャリアデザイン論	1後	2				○					1					
小計 (20科目)		—	18	26	0	13	7	0	4	4	4	0	0	兼5	—	
② 職業専門科目	ファッション科目群	身体とパフォーマンス	1前	2			○				1					
		造形論入門	1前	2			○					1				
		自然資源と服装文化	1後	2			○				1					
		職人の世界	1前	2			○				1					
		装いと社会性・ジェンダー	1前	2			○				1					
		美とファッションの歴史	2前	2			○					1				
		ブランドの歴史と文化	2後	2			○					1				
		美容とファッション	2後	2			○				1					
		色彩論入門	1前	2			○								兼1	
	ファッション論基礎ゼミ	1前	2				○			1	1			兼1	共同	
	デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前	2			○								兼1	
		生活科学入門	1前	2			○			1						
		ファッションデザイン論	1前	2			○			1						
		ファッションデザイン実習 I	1通	4				○			1					
		ファッションデザイン実習 II	2通	4				○			1					
		デザイン概論	1前	2			○			1						
		パターンメイキング	2後	2			○					1				
テキスタイル基礎		1後	2			○								兼1		
テキスタイル中級	2前	2				○							兼1			
ファッションビジネス科目	感性工学	2後	2			○			1							
	ファッションビジネス概論	1前	2			○				1						
	国際ファッション市場論	1後	2			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
ビジネス科目群	ファッションビジネス実習Ⅰ	1通	4					○		1								
	ファッションビジネス実習Ⅱ	2通	4					○		1								
	国際ビジネスモデル特講Ⅰ	2前		2				○		1					兼1			
	国際ビジネスモデル特講Ⅱ	2後		2				○							兼1			
	創造産業論	3前		2			○			1					兼1			
	マーケティング論	3前		2			○			1					兼1			
	消費者行動論	3前		2			○			1					兼1			
	知財論	2後		2			○								兼1			
国際ファッション業界英語	2通		4				○							兼1				
メディア科目群	写真概論	1前	2				○								兼1			
	映像概論	1後	2				○								兼1			
	写真実習	2前		2				○							兼1			
	映像実習	2後		2				○							兼1			
地域科目・地方	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10					連			2	1				共同		
	臨地実習Ⅰ（企業）	3通	10					臨		1	2	1				集中共同		
	臨地実習Ⅱ（地方産地）	3通	10					臨		1	2	1				集中共同		
小計（38科目）		—	72	38	0	23	6	9	4	5	3	0	0	兼9	—			
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	3後	2				○								兼1		
		地域産業・名古屋論	2後	2				○								兼1		
		産業とメディアデザイン	2前		2				○		1							
		デジタルテクノロジー演習	2前		2				○		1							
		サブカルチャー・スタイル	2後		2				○							兼1		
	広告・PR論	3後		2				○		1								
	国際科目群	国際知財論	3前		2				○								兼1	
		国際連携ゼミ	3通	4					連			2	2				共同	
海外実習Ⅰ		3通	2					○		1	2	1				集中共同		
海外実習Ⅱ	3通	4					○		1	2	1				集中共同			
小計（10科目）		—	10	14	0	6	2	2	3	2	2	0	0	兼4	—			
④ 総合科目	統合指導ゼミⅠ	4前	4					○		1	3					共同		
	統合指導ゼミⅡ	4後	4					○			3					共同		
	卒業制作・計画	4通	4					○			3					共同		
	小計（3科目）	—	12	0	0	0	2	1	0	4	0	0	0	0	—			
合計（71科目）		—	112	78	0	42	17	12	5	7	4	0	0	兼13	—			
学位又は称号	ファッションクリエイション・ビジネス学士（専門職）		学位又は学科の分野				家政											
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
【卒業要件】 次により、必修科目112単位、選択科目14単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目72単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目10単位、展開科目の選択科目10単位以上 総合科目12単位							1学年の学期区分			2学期								
							1学期の授業期間			15週								
							1時限の授業時間			90分								

授 業 科 目 の 概 要			
(国際ファッション学部ファッションクリエイション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
① 基礎 科目	比較文化論	<p>文化とは何か。本科目では、私たちの生活全般に影響を与えている文化について具体的な事例をあげて考え、学ぶことを目的とする。</p> <p>文化は一般に、生活様式あるいはライフスタイルと定義されている。地域や国によってライフスタイルは大きく異なる。文化の重要な要素の一つは、衣・食・住といった物質文化である。加えて、芸能・芸術や宗教、価値観や考え方を含む総体が文化となる。装いや装飾品、化粧などを理解するにあたっては、文化の一部としてこれらを考えることが重要になる。こうした視点を学ぶ科目として、比較文化論を位置付ける。</p> <p>まず、文化とは人々の生活に大きな影響を与えるが、それは絶対的なものではなく、地域が異なれば変化する、相対的なものである。ある社会で積極的に求められているものが、別の社会では無視されたり否定的な要素として禁止されていたりする。具体的にはアジアやアフリカの文化を取り上げて、その多様性を学ぶ。これによって、文化相対主義という考え方を学ぶ。これは、日本文化ほど繊細なものはない、アフリカは野蛮だ、といった自分の文化を中心に異文化を蔑む視点が、時に深刻な人種差別や偏見に通じるという観点から提案された考え方である。比較文化ではまた、民衆に密着した生活様式に注目する。歌舞伎や能、その他の美術品などの国宝を、世界に誇れる日本文化の典型として慣れ親しんできたかもしれない。しかし、日本各地に継承されてきた工芸や和菓子など、名もない職人が生み出す作品については十分な理解がなされてきたとは言いがたい。比較という視点から、文化相対主義の考え方を学び、伝統文化に触れて文化の理解を深めることを達成目標とする。</p>	
	現代文化論	<p>比較文化論で考察の対象としていた文化が、どちらかといえば伝統的な社会文化であるとするならば、本科目では、現代文化論として、産業革命以降の人類の営みについて考察をしたい。工場で大量に生産される商品、その流通システム、消費活動、都市社会、高度な交通手段の発達、技術革新など現代につながる社会変化（近代化、市場経済の浸透、世俗化、都市化、消費社会の出現、インターネットの普及など）とそれに付随する文化の変化や拡大について考える。グローバル化が進む現代、大量の情報、人、物が移動している。インドのサリーのような民族衣装を日本で居ながらにして購入することができる一方、購入品の中にはメイド・イン・ジャパンのサリーが混じっていることもある。フランスや日本のブランド商品でも生産されるのは外国であることも多い。衣服はもともと文化圏を越境する傾向があったが、近年そのような傾向がますます強まっている。フランスでは、ムスリムの女性がヴェールを着用することについて社会問題となっている。他文化との接触、さらには多文化状況の出現がどのような変化をもたらしているのか。どのような可能性や葛藤、混乱が生じているのか。具体的には、現代の日本（東アジア）、インド（南アジア）、欧米諸地域などの事例を通じて、激動する現代社会を理解することを達成目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヨーロッパの社会と文化	<p>ヨーロッパとは一般に、ユーラシア大陸西端にある地域名として理解されているが、ヨーロッパ社会の内情は多様である。本科目の目的は、現代のファッションを学ぶにあたって、その背景となるヨーロッパの社会と文化を学ぶことである。その成立の歴史をたどると、ヨーロッパは、社会的にも非常に多様で、また統合と分裂を繰り返してきた。現代のヨーロッパには、多くの民族とそれに基づく国民国家、さらにはヨーロッパ外部からの移民や難民からなるディアスポラ社会が国境を越境する形で生まれている。しかし一方で、ヨーロッパは地域としての統一的なまとまりが認められることも否定できない。フランス革命・市民革命、王権の廃止、産業革命、植民地支配、第一次世界大戦と第二次世界大戦によるヨーロッパの焦土化、戦後の冷戦体制と1989年から始まる社会主義体制の崩壊、EUの実現と拡大。こうした歴史は、現代ヨーロッパの社会や文化を形作ってきただけではない、世界にも大きな影響を与えてきた。その中でも特に重要なのがキリスト教である。キリスト教の歴史や、思想、哲学、美術、民衆生活などへの影響に着目することを通じてヨーロッパ社会と文化を理解する。本科目を通じて、美術やファッションの世界における創造性の背景となるヨーロッパの多様性と統一性を理解することを達成目標とする。</p>	
	文化論基礎ゼミ	<p>「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」などの文化論系の科目を履修したあと、本科目では、学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。</p>	共同
	会計入門	<p>本科目では、国内外の決算書（主に損益計算書と貸借対照表）を読み解き、分析するための知識の習得を目指す。今後の専門的な仕事をするうえで、企業の決算書を読み解くための基礎知識は有用なスキルとなる。損益計算書を読み解く力を身につけることで、企業レベルだけではなく、ブランドごとの原価、販売管理費、経常利益率を理解することができる。また貸借対照表を読み解く力を身につけることで、決算書における「投資収益率：ROI」（ブランドに投資した資金を回収するのにかかる期間を示す指標）に着目した在庫とキャッシュフローを理解することができる。ファッション・ビジネスの事例を用いるなど、実践的な会計の基礎知識を習得する。</p>	
	産業論入門	<p>本科目では、産業の構造や動態を分析する方法や視点を学習する。産業の動向は根本的に企業行動が規定しており、企業間関係を通じた各産業の分析が欠かせない。例えば、現代のファッション産業の構造は、互いの分野が密接に関連してサプライチェーンを形成しており、服づくりとしての垂直的統合関係とともに、洋服、洋品アクセサリ、ジュエリー、時計等という商品群の水平的取り揃えが産業の重要な構造となっている。さまざまな産業の事例を取り上げながら産業構造を理解し分析する力を身につける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	法学入門	本科目では、今後の専門的な仕事をするうえで、遭遇し得る法律問題に適切に対処するための基礎知識を習得する。講義では、知的財産法以外の法律を事例を挙げつつ概観し、言論の自由を規定する憲法、権利濫用・不法行為等について規定する民法、権利保護のための差止め請求・損害賠償請求の手続きを規定する民事訴訟法、知的財産法違反の罰則に関する規定、独占権たる知的財産権とは表裏をなす独占禁止法、例えばファッション製品に関する消費者法などを取り扱う。	
	地域論入門	本科目では、人間にとって地域とは何かという問いを念頭に、具体的な事例をいくつか取り上げる。現代日本に認められる多様な地域性をもとに日本の知財の活用を提案するための基盤となる知識を学ぶ。特に、世界及び日本の社会や文化の多様性と深く結びついている地理、環境、歴史、政治的など多様な観点から、地域の特徴の捉え方を学ぶ。	
	フィールドワーク入門	大学での学びのスタイルは、全部で4つある。1つ目に、デスクワークとして書籍や資料を読むこと。2つ目に、実験として、実験室で計量したり観察したりすること。3つ目に、フィールドワークとして、野外で自然や地形、動物を観察すること。4つ目に、本科目で定義するフィールドワークとして、大学の外に出て、具体的な人々の生活に触れ、その生活について学ぶことである。本科目ではその方法論を実践的に学ぶ。具体的には、外に出て職人の世界、企業、店舗を訪ね、話を聞く。これによって、生活と生業の実態を学ぶと同時に、現場で生じている問題を理解し、その解決法をさぐる態度を身につける。さらに、現場からどのような問いを立てればいいのか、という問いを自発的に設定することの重要性や理解を深める。この科目は、職業選択科目において3、4年生の臨地実習1、2の基礎や準備となる科目と位置付ける。	
	社会科学基礎ゼミ	本科目では、「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」などの、社会科学系科目で学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
	メディア概論	本科目では、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について理解できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイスやデジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。特にファッション産業に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生は、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報リテラシー	本科目では、情報環境の正しい知識と基礎的な利用方法を修得する。情報化社会におけるコンピュータやインターネット、情報の役割と意義についての問題意識を養うとともに、情報機器などの基本的な操作方法を習得し、その特徴を理解する。情報技術（ICT）の発達及び、インターネットやスマートデバイス等がより身近になる現代において、受講生が今後の専門学習で必要となる基本的な情報リテラシー、情報に関するモラルやマナー等について理解する。	
	環境と社会	本科目では、サステナビリティをキーワードに環境と社会の関係を学ぶ。サステナビリティ及び社会貢献を強く意識したクリエイションやビジネスの考えを、関連する人文科学や社会科学の理論と知見を参照しながら学修する。具体的には、現在人類が直面している、地球温暖化や人口増加、都市環境の悪化などについての知識を獲得し、環境問題に取り組む社会の取り組み等について理解を深める。また複数の企業を取り上げ、サステナビリティの実践について学修する。	
	英語 I	本科目では、英語によるコミュニケーション能力の育成を行う。eラーニングで基本的な運用能力を学びつつ、定期的な個別面接指導で実践的に能力を上げる。目標は、日常生活や具体的なビジネスの場面において、臆することなくコミュニケーションをとる、積極的な姿勢を身につけることである。英語の運用能力は、語彙の豊富化と構文発想の柔軟な多様化にあるため、地道な段階を踏んだ学習が必要であるが、それとともに、積極的な表現実践力の強化を授業に組み込み、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	英語 II	本科目では、「英語 I」を履修した受講生に対し、英語運用能力の上達を図る授業を行う。目標は、CEFR等英語諸検定の高得点獲得（CEFR Cランク程度）であり、自由かつ柔軟、即時対応の表現能力開発に重点を置く。個別面接指導をより頻繁に重ね、履修者の学習状況、進捗状態、問題点の所在等を綿密に把握し、改善の方途を指導する。定期的に英語によるプレゼンテーションの課題を実施し、他者に伝えることを重視した総合的な英語運用能力開発を目指す。	
	フランス語	本科目では、初めてフランス語を学ぶ学生を対象に、初歩的なフランス語でコミュニケーションをとる知識を学ぶ。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。文法の土台も固めながら、フランス語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの基本スキルを総合的に伸ばすことを目標とする。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、フランス語やフランス文化に関する理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中国語	本科目では、初めて中国語を学習する学生を対象に、初歩的な中国語でコミュニケーションをとる知識を学ぶ。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。文法の土台も固めながら、中国語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの基本スキルを総合的に伸ばすことを目標とする。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国語や中国文化に関する理解を深める。	
	日本語文章表現	本科目では、簡潔で、論理的な日本語の文章を書く能力を養う。受講生は、ファッション産業でも頻繁に使用される企画書や報告書の作成などを想定して、基礎的なテキストを使用しながら、内容を端的にまとめ、説得的に示す修練を行う。同時に、口頭発表の訓練を行い、短時間で的確に意見を述べる修練を行う。講義では、日本語表現の基礎知識について作成されたテキストを使用しつつ、具体的な新聞や業界紙の事例を使用して、企画書やレポートの作成を課して定着を図る。課題は授業内で発表をさせ、受講生が互いに添削を行うという、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。	
	キャリアデザイン論	本科目では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはいかなることかという問いを念頭に、職業や専門的な仕事、社会について深く考察することから、いかに働き、生きるかという、学生が近い将来、社会人として社会で活躍するためのプランと社会に貢献し果たすべき役割について考える。21世紀は国際化、情報化の社会であり、一人ひとりの生き方が改めて問われている。社会人として公共的な考えをもち、職業人としての倫理観を身につけ、自分を知り、自他を認め合うための課題を考え、行動する姿勢を身につける基礎を作る。	
② 職業専門科目	ファッション論科目群	身体とパフォーマンス 身体は、衣服・衣装の原点である。人はこれまで、身体を守り着飾るために衣服を作り出してきた。その意味で、衣服は身体に密接に結びついたものといえよう。本科目では、衣服について考える前に、わたしたちにとって身体とは何か、社会においてわたしたちは身体をどうとらえているか、について学ぶ。 身体について考えるとは、具体的には、身体に関する動作や表現、身振り（身体技法）を考えることをさす。例えば、座り方があげられよう。畳に座る、椅子に座るという動作は、実は生得的なものではない。日本でいえば、椅子に座ることを多くの人が明治以降に学習した。慣れ親しんだ身体のあり方から、新たな身体技法を学ぶなかで、人は文化によって異なる身体技法が存在することを学んだ。身体技法の歴史、文化的な違いが衣服のあり方とも密接に結びつく。この科目では、身体に注目しつつ、衣服と身体との関係をとらえることを目標にする。 日常の身体技法がケ（俗、労働）の世界に属するのに対し、芸能、踊り、演劇など文化的なパフォーマンスに見られる洗練された身のこなしはハレ（聖なる世界、非日常）に属する。そこでは、衣服だけでなく被り物や仮面、アクセサリ、化粧などが全体としてハレの世界を演出する。具体的には、歌舞伎や能楽等の日本の古典芸能を取り上げる。かかる芸能のなかで身体と衣装の関係を考察し、衣服や装飾品、さらに化粧などと身体の関係を理解することを目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	造形論入門	<p>表現の領域において最も必要なことは何か。デザイナーであれ、クリエイターであれ、共通に必要なとされるのは、まず手や身体 の訓練である。そして、視覚や聴覚や触覚など、五感の感覚を研ぎ 澄ますことである。それらを鍛えるためには、なにが必要か。 本科目では、専門的な実技訓練の前に、見えるとはどのようなこ とか、見て描くとはどのようなことかについて学ぶ。点、線、 面、そして立体から空間へとつながる造形の文化を基礎科目とし て学ぶ。また当然のことながら造形は、現実空間から仮想空間へ と常に行き来し動くものである。したがって、あらゆる領域に通 じる造形の文化の基礎、その発想の根源を、講義とドローイング などの身体動作を通じて学ぶ。</p>	
	自然資源と服装文化	<p>衣服の材質には古来より、綿や毛皮などの植物性、動物性の自然 繊維を利用してきた。染色には様々な植物の素材が欠かせない。 その意味で衣服は自然環境と密接に結びついてきた。本科目で は、自然環境と衣服との関係を学ぶことで、各地域の生態環境と 装いの文化との密接な結びつきを理解することを目的とする。北 極から熱帯まで、人間を取り巻く環境は多様であり、自然資源に 依拠する衣服もまた多様である。具体的には、日本、中国などの 東アジア、インドなどの南アジア、ケニアなどのアフリカ地域の 自然資源や環境をとりあげ、自然環境と装いの文化との関係を学 ぶ。</p> <p>衣服を構成する繊維として、近年では自然繊維とともに、化繊な どの人造繊維もよく使用される。化繊の使用が自然資源を使用し てきた衣服にどのような影響を与えて来たのか、という問題意識 から、装いの文化の変化についても理解を深める。さらに、鉱石 や金属、毛皮など、装飾品に使用されてきた資源が、繊維資源と ともに人間の服装文化にはたしてきた役割も含め、広く自然資源 と服装文化の関係をとらえる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	職人の世界	<p>衣服は単純な作業によって作られうるものから、複雑な工程を経て生産されるものまでさまざまである。自然資源からつくられた単純な衣服が、だんだんと複雑な仕組みや機能をもつ衣服へと変化する過程で、専門化した職人が重要な役割を果たしてきた。多くの伝統社会において、職人が衣服生産に携わっている。</p> <p>本科目では、衣装の生産に携わる世界各地の職人たちについて、学ぶことで装いの文化の多様性を理解する。</p> <p>注目すべきは、職人がいかに自然素材を装飾品に変えていくのか、という点である。彼らの自然観、そして自然に対する知識や身体に対する知識がいかなるものであるかを学ぶ。これは、専門科目における地方・産地実習において、実技学習の基礎となる科目として位置付けることができる。</p> <p>職人の世界は何も衣服生産だけにとどまるものではない。各種工芸、金属加工など、多様な職人の世界と協力関係を考察の対象にする。</p> <p>現代は、例外はあるにしても衣服が工場で大量に生産される。こうした機械化は職人たちにどのような影響を与えているのだろうか。大量の衣服がグローバルに流通するという現代社会において、地域に特有の装いの文化はどのように変化したのか。さらに伝統的な織りや染めの技術は、いかに保存しかつ継承できるのか。こうした問題意識を念頭に職人の世界の理解を達成する。</p>	
	装いと社会性・ジェンダー	<p>衣服は単に着飾ったり保温守ったりするだけではなく、それを身につけている人の社会的地位を表す記号でもある。本科目では、衣服の社会的な記号としての性格を学ぶ。</p> <p>ここで対象とするのは、衣服だけでなく刺青、ヘアスタイルや装飾品、バッグやメガネ、時計などの持ち物も含まれる。多くの社会では、装いは、社会的な地位や役割を明確に示す。例えば、ペルーの民族衣装は、隣接するコミュニティ（民族）との相違を明らかにすることに役立っている。階層や役割を端的に表す場合もある。また年齢にふさわしい服装というものもある。女性の場合、初潮前と初潮の後、あるいは未婚と既婚、寡婦などの地位の変化によって身につける衣服が異なることもある。</p> <p>衣服は、社会的な地位を示すだけでなく、男女の違い（ジェンダー）を際立たせる記号としても重要な役割を果たす。差異化の方法は、社会や文化、時代によって異なる。例えば、イスラームのベールのように、女性の体をすべて覆ってしまう場合もあれば、男女によって衣服の選択に制限がなくユニセックスな衣装が普及している社会もある。衣服はまた男性らしさや女性らしさを表わす。本科目は、記号としての衣装の社会性を理解することを達成目標とする。</p>	
	美とファッションの歴史	<p>衣服一般には、保温など様々な機能が認められるが、ファッションは美と切り離すことはできない。多少不便で身体を酷使することがあっても、美（や格好良さ、個性などを含む）の追求という目的が何よりも優先されるのがファッションである。では、ファッションの世界で美しいとはどういうことなのか。ファッションで追求される美はどのようなものなのか。それは美一般とは異なるのだろうか。本科目の目的は、ヨーロッパにおける美とファッションとの関係を取り上げ、その特徴を理解することである。ファッションが追求する美の特殊性を理解することで、毎年めまぐるしく変わるかに見えるファッションの背後にある価値観を理解する。具体的には、西洋の各時代や様式から代表的な作品を取り上げ理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ブランドの歴史と文化	現在我々が一般的になじんでいるヨーロッパのファッションの発展は、デザイナーを中心とするハウスあるいはメゾン抜きにして考えることはできない。美とファッションの思想的な、言い換えればソフトな側面を「美とファッションの歴史」科目に譲るとすれば、本科目の目的は、ヨーロッパのファッションを取り巻くハードな世界、すなわち政策や経営など制度を学ぶことである。具体的には、著名なブランドとしてシャネルやエルメス、グッチなどを取り上げ、かかるブランドが、卓越したデザイナーの出現からブランドとして成立するまでの歴史（社史）ならびにブランドの仕組みや実態について学ぶ。	
	美容とファッション	美容とは、顔や体つき、肌などの身体を美しく整える技法である。衣服・衣装を中心とするファッションにおいて無視できないものは、顔であり、身体である。それは髪型とともに、イヤリングやネックレスなどの顔の周辺を飾る装飾品全てを含む整えである。さらに、身体の理想的なイメージの歴史や、それを実現するための、痩身などの技法、美容整形などについても取り上げる。本科目の目的は、ファッションとの関係で重視される顔や身体の歴史や技術などについて学ぶことである。	
	色彩論入門	この科目では、色彩に関わる全ての人が深く色について知る事を目的とする。色彩体系が総合的に理解できるように、配色の基礎から配色調和構成法、色の総合的効果、色の性質とはたらき、色の力を実際のビジュアルの事例を読み解きながら学ぶ。ファッションの事例としては、パリ、ロンドン、ニューヨーク、東京で毎年発表されるコレクションの代表的なデザイナーの色と配色を写真をもとに分析する。また、日本の色と形についても同様に分析し、イメージを色と配色で表現するための理論を学ぶ。	
	ファッション論基礎ゼミ	「身体とパフォーマンス」「装いと社会性・ジェンダー」「自然資源と服装文化」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッション」「色彩論入門」「サブカルチャー・スタイル」などの、装いやファッション、美やファッション系科目を履修したあと、本科目では、学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	<p>本科目では、衣服は多様な地域の風土や文化を表す媒体であり、またその産物であることを学ぶ。日本の衣生活特に和服も時代と共に変化を見せている。いかなる自然、社会、文化的な背景から地域に特徴的な服装が醸成されてきたのか。また時代における流行など、人々の感情を左右させる変化をもたらしてきた時代背景とともに、服装史の変遷を歴史的に振り返りながら、服装における美意識や価値、機能、技術など学修する。</p> <p>衣生活・服装史を理解することによって、伝統的な美意識や機能が現在の衣生活に与えている影響を考察するとともに、今後の服装の変遷に関わる洞察力を養う。</p>	
	生活科学入門	<p>本科目では、被服学の基礎となる生活科学（家政学）の全体像に関連させながら、被服の基礎的な知識を学修する。具体的には、被服生理学にあたる被服の機能、被服材料学にあたる被服素材、被服環境学にあたる、人と衣服との関わり、被服の選択と管理、持続可能な衣食住を中心とする生活環境や社会環境などについて理解を深める。従って生活科学の包括性や拡大を考慮しながら、隣接領域および関連領域についても学修する。</p>	
	ファッションデザイン論	<p>本科目では、ファッションにおけるデザインの重要性を学ぶ。具体的には、ファッションブランド構築のあり方を、歴史的、社会的、文化的に理解し、そこにおけるデザインの重要性と可能性を探る。受講生は今後、自らのファッションブランドを持つと仮定して、デザイン・メソッドとされる4つの基本的な方法論（ファッションディレクション、ファブリック選定、商品モデリング、コレクションマーケティング）を学ぶ。そして、今日のグローバル市場で成長を遂げる「ラグジュアリーブランド」「デザイナーズブランド」「ファスト・ファッション・ブランド」のデザイン・メソッドを理解する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ファッションデザイン実習Ⅰ	<p>衣服とそれに関わる種々のファクターの関係を明らかにしながら、コスチュームデザインの基礎技術を系統的に学び、実践、制作する。特に人体と衣服、衣服と素材、衣服と造形の関係を考察し、衣服をデザインする行為の持つ意味を各人に主体的に捉えさせ、考え方を構築させる。本実習では、芸術作品やデザイン、西洋美術史、ファッション史に現れるファッションなどへのビジュアルリサーチを行い、アイデアを抽出し、イメージをデザイン展開する手法をマスターする。制作においては、3Dソフトで立体から平面を模索したうえで、平面製図技法トワールメイキングにより、デザインイメージを衣服として再構築し、身体上で造形的模索を行う能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (④.永澤陽一-1~7/7回) 1:オリエンテーション、リサーチ 2~3:リサーチ 4:中間発表 5~6:デザイン展開 7:中間発表 (③.村上勝-8~29/22回) 8~9:3Dソフトでのパターン検討 10:中間発表 11~12:パターンメイキング(身頃) 13~14:パターンメイキング(衿、袖) 15~16:トワールメイキング(シルエット) 17~18:トワールメイキング(完成) 19~20:工業パターン 21:中間発表 22~23:裁断、縫製 24~25:縫製(身頃) 26~27:縫製(ディテール) 28~29:縫製(全体調整・まとめ) (④.永澤陽一 ③.村上勝-30/1回)(共同) 30:講評会</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)
	ファッションデザイン実習Ⅱ	<p>ファッションの理論および制作についてより専門的、実践的な実習を行う。テーマは「日本史服」。クラスをグループ化し各グループコンセプトに従いブランドを構築し実物作品を、制作する。その課程で実践に即したデザイン指導を行う。ブランディングに必要な講義と共に、ブランド戦略に必用なロゴ、レタリング、DM等に関しても指導し制作を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (④.永澤陽一-1~11/11回) 1:ブランド戦略 2:ロゴ、レタリング 3:DM等 5~6:ブランドコンセプト設定 7:コンセプト発表 8~10:企画書作成 11:中間発表① (③.村上勝-12~29/18回) 12~20:実習 21:中間発表② 22~25:実習 26:中間発表③ 27~29:実習 (④.永澤陽一 ③.村上勝-30/1回)(共同) 30:講評会</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ファッションデザインプランニング実習Ⅰ	<p>服とビジネスの関係を学びながら、一着の服から展開し、コンセプトを基にブランド構築を実践していく。今回のテーマは「新しいシャツ」。シャツというアイテムに注目し、そこから発想し、いかに新しいブランドにまでプランニングできるかを考える。また、ブランド運営として重要な「靴」「バック」などのアクセサリについての講義も織り交ぜ、衣服だけではない市場性を踏まえたブランド全体の構築を目指す。</p> <p>[オムニバス方式/全30回] (②. 後藤圭介-1~9/9回) 1:オリエンテーション 2~3:デザインとビジネス 4~5:コンセプトメイク&リサーチ 6~8:コンセプトマップ作成 9:プレゼンテーション (⑥. 榑恭子-10~15/6回) 10~12:靴講義 13~14靴リサーチ&プランニング 15:靴プランプレゼンテーション (⑦. 松村光-16~21/6回) 16~18:バック講義 19~20:バックリサーチ&プランニング 21:バックプランプレゼンテーション (②. 後藤圭介-22~29/8回) 22~23:統合コンセプトプラン作成 24:総合ブランドプランニング 25~26:デザインワーク 27~29:サンプル制作 (②. 後藤圭介 ⑥. 榑恭子 ⑦. 松村光-30/1回)(共同) 30:プレゼンテーション&検討会</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	<p>アパレルブランドの企画チームとして4人~5人のグループに分けたグループ活動を行う。実習Ⅰでのプロダクトアウトから導き出された新コンセプトを基に実習Ⅱではより市場性を持たせたブランドプランを企画。ビジネス展開を踏まえたブランドのスケール設定、月別売り上げ分析からの素材展開、カラー展開などのマーチャндаイジングの組み立てを実践する。さらに生地代、縫製工賃、加工賃など、生産背景を理解させ、仕様書作成をすることによってコスト感覚を養う。この実習Ⅱではプロダクトアウトされたものをいかにマーケットインに近づけていくかをテーマにしていく。</p> <p>[オムニバス方式/全30回] (②. 後藤圭介-1~29/29回) 1:実習Ⅰからのリサーチプレゼンテーション 2~4:オリジナルブランドコンセプトボード作成 5~6:素材及び加工リサーチ 7~9:素材、カラーMDボード作成 10:MDプレゼンテーション及び検証 11~13:デザイン出し 14~18:コスト検証&仕様書作成 19~29:サンプル作成 (②. 後藤圭介 ⑥. 榑恭子 ⑦. 松村光-30/1回)(共同) 30:最終プレゼンテーション</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際展示会演習	<p>本科目では、国際的な展示会における基本的な企画や運営のあり方を理解する。国際市場にむけてブランドを展開し、事業を運営するうえで、展示会は重要な商談の場となる。ファッション産業及び関係する産業界における各地域の展示会の事例をもとに、展示会の役割や変遷を学び、企画や運営の具体的な仕組みを理解する。</p>	
	パターンメイキング	<p>本科目では、パターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。</p> <p>本科目を通じて、紙に描かれた平面の製図という概念のみではない、パターンメイキングの本質を理解しつつ、生産の原価計算などにも役立つパターンメイキングの知識を身につける。</p>	
	テキスタイル基礎	<p>本科目では、テキスタイル（生地）の基礎知識を学習する。天然素材、化学・合繊素材、皮革といった異なる素材の織や編みの組織に関する知識を学ぶ。同時に、外観や肌触りといった生地のテクスチャー（風合い）に関する分類能力を身につける。生地の基礎知識や生地質感の分類能力は、ファッション商品における生地コストを意識した製品づくりに不可欠であり、またデザインや商品制作の段階において創造性を担保する重要な要素でもある。実際の現場では、テキスタイルの供給は、国内産地とともに海外産地からなされている。テキスタイルに関する世界共通の名称や質感の把握についても併せて理解する。</p>	
	バッグデザイン	<p>本科目では、バッグの機能と構造を理解し、素材と製作テクニックを駆使して、時代を先取りするバッグを生み出すための基礎知識と技術、皮革および皮革以外の素材の特性、ビジネス活動の基本であるマーケティングを学ぶ。各自の個性豊かな表現や得意分野の開発をしながら、クリエイティブな能力を高める。一方、企業の実務に即した企画演習をとおしてビジネスとしての製作の意味合いへの理解を深める。</p>	
	シューズデザイン	<p>本科目では、シューズデザイナーに求められるさまざまな基礎力を養う。シューズデザインの基礎知識や技術、デッサンやデザイン画の技法など、本格的にメンズ、レディースの各種タイプのデザイン・製作を演習する。加えてビジネスの基本であるマーケティング手法を教授することにより、靴業界に実際に通用する商品企画ができるオリジナリティとクリエイティブな能力も養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	デザイン感性工学	<p>本科目では、消費者の好みや感性に応じたファッション商品の分析と分類を行う。講義では、異なった感性をもつ購買層を見分け、分類し、それにそった商品イメージを提示する能力を身につける。具体的には、消費者を想定した写真や動画などの視覚的情報を、感性要素を分析定量化するソフトウェアを用いて分析し、感性要素の定量評価技術を学ぶ。画像解析を中心とした習熟を行うため実習時間を組み込む。</p>	
ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	<p>本科目では、ファッションビジネスとは何か。現在までのその発達と変移を知り、その多様性と魅力を知る。ファッションビジネスを構成する各産業の構造とその業務、職種、流通の仕組みを理解する。経済学・経営学の基礎知識をふまえ、ファッションマーケティングおよびファッションマーチャンダイジングの概念を理解する。ファッション情報の種類とその収集・分析方法を知る。総合的にファッションビジネスをとらえ、事例研究を通じ、問題発見力を向上させることを目的とする。</p>	
	国際ファッション市場論	<p>本科目では、世界のファッション市場について学ぶ。具体的には、まず、日本のアパレル市場の推移と現状、そして今後の趨勢を把握する。そして日本と比較する形で、欧米やアジアなどのアパレル市場の特徴を、消費者の多様化する嗜好を的確に捉えた企業の成功例から読み解く。国際的なアパレル市場全体を俯瞰しつつ、各地域の市場の特徴とメインプレイヤー、彼らの戦略などに関して検討する。</p>	
	マーケティング論	<p>本科目では、マーケティング論の全体像を理解し、基礎的な用語や考え方を習得する。マーケティングとは、企業が存続、成長するために必要な売上や利益を、製品やサービスの提供を通じて実現する活動である。市場の成熟化、ニーズの多様化、技術の成熟化、競争の国際化が進むなかで企業経営におけるマーケティングは重要である。本科目では、企業のマーケティングの全体像について、具体的な事例を交えながら講義を行う。</p>	
	消費者行動論	<p>本科目では、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習する。消費者行動とは、消費者がいかにか商品を選ぶのかについて考えることである。消費者の行動は微妙なものに左右されることが多い。これまでよく売れていたブランドが突然売れなくなったとき、消費者の行動を規定したものは一体何か、これを考えることが必要となる。消費者認知・消費者態度・消費者行動の3つの視点をカギに、消費者の行動を規定する心理プロセス、消費者行動を規定する様々な要因、ブランドと消費者のコミュニケーションのあり方など、具体的事例を交え、さまざまな角度から理解する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	知財論	ファッションに関する知的財産—商標、意匠（デザイン）、不正競争、著作権等—の法制度について概観し、ファッションビジネスに携わる者が必要とする知識を習得することを目的とする。ファッション関係の実際の事例により、一方では、知的財産権による自己の創作の保護及び権利主張、他方では、他人の権利を侵害しない予防策、という両面について検討する。創作について十分な保護を得るためには、複数の知財（商標と意匠、など）による検討が必要であるので、知財の多面的活用を学ぶ。	
	国際ファッション業界英語	本科目では、ファッション産業業界に特化した英語運用能力を学習する。目標は、履修者が自ら英語で企画書を作成し、それをわかりやすく英語でプレゼンテーションできるようになることである。そのために、毎回の授業では数名に課題を発表させ、クラス全員が同じく英語で質疑応答を行う時間を設ける。企画が正確に伝わっているかどうかを確認すると同時に、より適切な表現はないかを指導する。こうした指導を繰り返し行うことで、実践的にファッション産業業界で使用される英語を身につける。	
メディア 科目群	写真概論	本科目では、静止画（写真）の役割とプロフェッショナルな静止画撮影技術の基礎を学ぶ。写真は19世紀半ばより現在まで、ファッション産業において商品の伝達手段として大きな役割を担ってきた。写真技術とともに機材の工学的発達に合わせて表現方法も多様化し、写真は商品の製作者と消費者の双方にとってますます欠かせない媒体となっている。講義を通じて、特にファッション産業における写真技術、写真の果たす役割を歴史的に理解する。同時に、実践的にプロフェッショナルな静止画撮影・画像製作の基礎技術を学ぶ。	
	映像概論	本科目では、動画の役割とプロフェッショナルな動画撮影技術の基礎を学ぶ。動画は、テレビ、コマーシャルなどのマスコミュニケーションの普及、デジタル処理技術の進歩やインターネットの拡大により、情報伝達手段としての役割を急速に拡大している。個人が容易に動画を発信することが可能になっている現在、プロフェッショナルなコンテンツの制作がますます重要視されている。講義を通じて、特にファッション産業における動画技術、動画の果たす役割を歴史的に理解する。同時に、実践的にプロフェッショナルな動画撮影、コンテンツ制作の基礎技術を学ぶ。	
	写真実習	本科目では、「写真概論」を履修した受講生が、実践的でプロフェッショナルな静止画を撮影できるようになることを目指す。本科目では、まずVOGUEやBAZZARなどの国際的な高級ファッション雑誌の写真を研究し、制作者側のコンセプトや、ファッションデザインと表現方法の関連性を考察する。また、こうした研究や考察の結果を再現する学習経験を行う。そのうえで、各受講生は自ら思い描く静止画のコンセプト作りを行う。静止画のイメージを具現化するために必要な物を集め、実際の現場で使用される機材を用い、発信手段を考慮したプロフェッショナルな撮影・レタッチなどの製作技術を習得する。「写真概論」の継続・応用科目である。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	映像実習	<p>本科目では、「映像概論」を履修した受講生が、実践的でプロフェッショナルな動画を撮影できるようになることを目指す。本科目では、世界的に著名なファッションブランドが示すコレクションのイメージ動画を研究する。受講生は、動画において表現されているコンセプトは何か、動画を通じて理念や感覚といった直接目には見えないものが視聴者にいかに伝わり、理解や共感を生んでいるかを分析し、発表する。同時に、各受講生は自ら思い描く短い動画のコンセプト作りを行う。イメージを具現化するために必要な物を集め、実際の現場現場で使用される機材を用い、発信手段を考慮したプロフェッショナルな撮影・レタッチなどの制作技術を習得する。「映像概論」の継続・応用科目である。</p>	
地域・ 地方 連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	<p>本科目は、これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に地域企業や地方産地で実践的に学ぶなかで、必要となる問題設定と成果発表を行う場である。受講生は自ら問題意識を明確化し、各人が課題を選択し、実習の計画をたてる。そのための発表を行うとともに、実習で得られた成果をもとにさらなる課題を発掘し、卒業制作へ向けた準備をする場と位置付ける。受講生は、「臨地実習Ⅰ（企業）」、「臨地実習Ⅱ（地方産地）」で学ぶ内容を計画し、また実習後に学んだ内容を発表する。企業や産地がいかなる歴史的、地理的、文化的背景や価値をもつのか、そこで得られる伝統的技術や現代的な仕事のありようとは何かについて、これまでの基礎科目と職業専門科目で学んだ内容をもとにリサーチし理解を深めていく。臨地実習での成果を有効に引き出すための準備とフィードバックを行うことを目的とする。</p>	共同
	臨地実習Ⅰ（企業）	<p>これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に企業や組織のなかで学ぶ科目である。本科目では、日本国内、特に東京や大阪、名古屋など都市部に位置するアパレル、テキスタイルメーカー等に、各受講生が訪問する。そこで、デザイン、パターン、マーチャンダイジングなどの仕事について基本的な仕事の流れや役割を学ぶ。</p> <p>目標は、ファッションに関する仕事への理解を深めることとともに、専門職としての自覚を促すことである。各自のキャリアプランを固めていき、統合ゼミ等での発表を行う際に必要な知識を得る機会となる。ことを達成目標とし実習する。</p> <p>なお、本実習と地方・地域企業連携ゼミは有機的に結びついており、受講生は実習前にゼミで実習の計画を発表する機会をもつ。また実習後にゼミでその成果を発表する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	臨地実習Ⅱ（地方産地）	これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に地方産地のなかで学ぶ科目である。本科目では、日本国内、特に素材産地である、絹織物の桐生、江戸小紋のある新宿区、ニット素材をつくる墨田区の素材、意匠、事業所やメーカー等に、各受講生が訪問する。受講生と教員、産地の実習先の方々と相互に交流を深め学ぶ場を設け、そこで教員は各受講生の進捗を確認する。フィールドワーク入門や職人の世界等の基礎科目で学んだ知識を活かし、また職業専門科目で学んだ技術を活かし、素材産地の歴史的、地理的、文化的背景への知識を深め、伝統的技術を学ぶ。受講生は、産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見いだすことを達成目標とする。 なお、本実習と地方・地域企業連携ゼミは有機的に結びついており、受講生は実習前にゼミで実習の計画を発表する機会をもつ。また実習後にゼミでその成果を発表する。	共同	
③ 展開 科目	発信力科目群	環境とビジネス	本科目では、持続可能な社会経済産業のあり方を考える。近年、サステナブルな地域の創生や開発、すなわち地球環境を考慮した取り組みが、学界及び実業界で推進されている。こうした取り組みには特定分野の枠を超えた柔軟な発想が欠かせない。学問の領域では、人文社会系及び自然科学系の横断的な発想を基に多角的なアプローチがなされている。本科目では、歴史、社会、文化、経済、自然など多様な領域についての知見を学び、人間社会と地球環境の調和をめざして取り組まれている、さまざまなビジネスの実践的内容について理解を深めることで、より実践的な知識を身につける。	
		地域産業論	経済社会産業上の要請として、グローバル化とインバウンド現象との関係でイノベーションや創発を基軸に据えて発想することが求められている。本科目では、このような要請に応えるために、地方の経済的困窮や地域創生の取り組みについての理解を深める。具体的には、大きく理論編と事例編から構成される。理論編では、産業分類の中の地域産業や産業集積論を理解し、事例編では、イタリアなど世界各地の事例を取り上げ、国際的な視野に立って、産業再生や地方創生に関して課題発見につながる分析視角を身につける。	
		産業とメディアデザイン	本科目では、メディアに関する基礎科目を履修した受講生に対し、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について討議できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイス、デジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。さまざまな産業に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生には、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を考える課題を課す。	
		デジタルアーカイブ論	本科目では、デジタルアーカイブの視点から、デジタルアーカイブ関連分野の具体的実践を例に取り上げ、「メディア」「コンテンツ」双方のデジタル化によるデジタルアーカイブの状況と動向を理解する。今後のファッションビジネスにとって、デジタルアーカイブの利活用により、いかなる課題や利点があるか、「情報技術」「サービスモデル」「社会的課題」の視点から捉える。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	サブカルチャー・スタイル	<p>本科目では、主流から外れるような文化実践の生成、そのあり方、またそこから主流に影響を与えたり、取り込まれていくプロセスについて、その背景と共に学ぶことを目的とする。こうした主流の周縁で生じる文化実践をここではサブカルチャーと位置付ける。典型的なものとして、自分たちの考え方やライフスタイルを表現するような若者のストリートファッションやパンク、現代アートなど、また、演劇・音楽・マンガ・アニメなどの「クールジャパン」という名称で親しまれているような、さまざまな関連する分野の事例をあげ、理解をすすめる。サブカルチャーやアートを、消費される対象としてのみとらえることなく、同時代的に作られるものとして生成する過程を理解し、その現代的かつ文化的社会的な意義を学ぶ。各受講生がめざす職業分野において、国内外で新たな価値を創造し、展開をしていくために必要な視点や知識を学ぶ。</p>	
	広告・PR論	<p>本科目では、広告・PRの基礎的な知識や考え方を学ぶ。広告・PRはメディアを通じて提供されるコンテンツである。そのコンテンツが消費文化においてはたす機能と役割を学び、広告・PR産業についての理解を深める。そして広告・PRの具体的な事例を通じて、実践的な広告・PRの企画を学ぶ。</p>	
国際 科目 群	国際知財論	<p>本科目では、国際的な知財戦略を立てるのに必要な基礎知識の習得を目指す。特にファッションブランドの保護という観点から、国際的な知的財産関係の国際条約を概観し、各国で保護を得るための国際出願（商標、意匠、特許）、優先権主張の手続き等について解説する。また欧州、アジア各国、米国等の主要国をとりあげ、ファッション知財保護の実態や国ごとの相違点を理解する。具体的には、ブランド品等の真正商品の並行輸入、権利の国際消尽、国境をまたぐインターネット上の取引等の実務上の問題を中心に扱う。</p>	
	国際連携ゼミ	<p>本科目は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識・技術をもとに、欧州、米国、アジア諸地域から招聘した客員教授を交えた演習を実施する。各受講生は、自ら選定したテーマについてこれまでの地方・地域企業連携ゼミ等で作成したコンセプトを発表する。各受講生は、基本的に英語を用いて発表を行う。これまで培ってきた語学・コミュニケーション能力を再確認するとともに、卒業後、国際的にファッション市場において自立するための、海外へむけた発信を行う準備と学習の場と位置づける。</p> <p>なお、本ゼミと海外実習の科目は有機的に結びついており、受講生は海外実習前に、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表する機会をもつ。また海外実習後に、本国際連携ゼミでその成果を発表する。受講生にとって、有効なサポートとフィードバックを提供する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外実習Ⅰ	<p>本科目は、学生を海外に派遣して実践的に将来の仕事を学ぶ機会をもつ、インターンシップの場と位置付ける。各受講生は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識技術を活かして、欧州、米国、アジア諸地域の企業や組織に赴き、インターンとして従事する。そこで、自らの語学・コミュニケーション能力を含む、職業的専門知識や技術、総合的な基礎力を確認するとともに、現場でしか経験できない実践的な学習を行う。</p> <p>なお、本実習科目と国際連携ゼミの科目は有機的に結びついており、海外実習から帰国した学生は、国際連携ゼミでその成果を発表する機会を持つ。また、海外実習前には、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表し、受講生にとって有効なサポートとフィードバックを提供する。</p>	共同
	海外実習Ⅱ	<p>本科目は、海外実習Ⅰを履修し、さらに海外に関する知見を深めたい学生が参加する。海外実習Ⅰ同様、学生を海外に派遣して実践的に将来の仕事を学ぶ機会をもつ、インターンシップの場と位置付ける。各受講生は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識技術を活かして、欧州、米国、アジア諸地域の企業や組織にインターンとして従事する。そこで、自らの語学・コミュニケーション能力を含む、職業的専門知識や技術、総合的な基礎力を確認するとともに、現場でしか経験できない実践的な学習を行う。</p> <p>なお、本実習科目と国際連携ゼミの科目は有機的に結びついており、海外実習から帰国した学生は、国際連携ゼミでその成果を発表する機会を持つ。また、海外実習前には、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表し、受講生にとって有効なサポートとフィードバックを提供する。</p>	共同
④ 総合科目	統合指導ゼミⅠ	<p>自ら興味を持つ、多様な社会、文化、自然、ファッション、ビジネスなどに関する基本文献を読み、発表を行うことを中心に授業を進める。その中で自分の探究すべき分野、テーマをさらに具体的にとらえなおし、どのような問いを立てればよいのか、発見するよう指導する。アクティブ・ラーニングの手法を大幅に取り入れ、自発的、積極的に学習に取り組む。問題意識をもって卒業制作に結びつけるようにする。</p>	共同
	統合指導ゼミⅡ	<p>各自が設定する卒業制作に向けたコンセプトの発表とそれについてのディスカッション、担当者による総合的な講評を中心に進める。適宜、映像や美術館、博物館などの専門家を招聘する、もしくは、フィールド・ワークなども行う。アクティブ・ラーニングの視点から、主体的に授業に関わるよう導く。少人数クラス編成で、個別指導を主体とする。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	卒業制作・計画	<p>本科目では、4年間の学習の集大成として卒業制作を位置づけ、受講生にその制作と発表を課す。受講生は自らテーマを決定し、指導を受けたい教員のゼミに所属し制作を行う。指導教員は、これまでのゼミ指導教員である必要はない。また副指導教員としてテーマに相応しい教員をつけ、適宜指導を受けることができる。本学の卒業制作には、その本編と作品に加え、取り組み資料等を集約した文書一式が含まれる。その評価は、カリキュラムポリシーにおける総合的なデザイン力、プレゼンテーション力の習得と強化の目的を謳うように、発表を含む総合的な評価となる。</p> <p>制作の計画および条件等の詳細は別途指示されるが、受講生は前期初旬に卒業制作のテーマを決定し、趣旨書と展示計画書等を作成する。これらの企画案は前期中に公表し、教員による審査と指導を受ける。後期初旬の中間発表会では、取り組みの経過をその成果とともに公表し、審査と指導を受ける。後期下旬には完成した制作の成果を提出するとともに、指定された日に卒業制作展および公聴会を行い、審査を受ける。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(国際ファッション学部ファッションビジネス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
① 基礎 科目	比較文化論	<p>文化とは何か。本科目では、私たちの生活全般に影響を与えている文化について具体的な事例をあげて考え、学ぶことを目的とする。</p> <p>文化は一般に、生活様式あるいはライフスタイルと定義されている。地域や国によってライフスタイルは大きく異なる。文化の重要な要素の一つは、衣・食・住といった物質文化である。加えて、芸能・芸術や宗教、価値観や考え方を含む総体が文化となる。装いや装飾品、化粧などを理解するにあたっては、文化の一部としてこれらを考えることが重要になる。こうした視点を学ぶ科目として、比較文化論を位置付ける。</p> <p>まず、文化とは人々の生活に大きな影響を与えるが、それは絶対的なものではなく、地域が異なれば変化する、相対的なものである。ある社会で積極的に求められているものが、別の社会では無視されたり否定的な要素として禁止されていたりする。具体的にはアジアやアフリカの文化を取り上げて、その多様性を学ぶ。これによって、文化相対主義という考え方を学ぶ。これは、日本文化ほど繊細なものはない、アフリカは野蛮だ、といった自分の文化を中心に異文化を蔑む視点が、時に深刻な人種差別や偏見に通じるという観点から提案された考え方である。比較文化ではまた、民衆に密着した生活様式に注目する。歌舞伎や能、その他の美術品などの国宝を、世界に誇れる日本文化の典型として慣れ親しんできたかもしれない。しかし、日本各地に継承されてきた工芸や和菓子など、名もない職人が生み出す作品については十分な理解がなされてきたとは言いがたい。比較という視点から、文化相対主義の考え方を学び、伝統文化に触れて文化の理解を深めることを達成目標とする。</p>	
	現代文化論	<p>比較文化論で考察の対象としていた文化が、どちらかといえば伝統的な社会文化であるとするならば、本科目では、現代文化論として、産業革命以降の人類の営みについて考察をしたい。工場で大量に生産される商品、その流通システム、消費活動、都市社会、高度な交通手段の発達、技術革新など現代につながる社会変化（近代化、市場経済の浸透、世俗化、都市化、消費社会の出現、インターネットの普及など）とそれに付随する文化の変化や拡大について考える。グローバル化が進む現代、大量の情報、人、物が移動している。インドのサリーのような民族衣装を日本で居ながらにして購入することができる一方、購入品の中にはメイド・イン・ジャパンのサリーが混じっていることもある。フランスや日本のブランド商品でも生産されるのは外国であることも多い。衣服はもともと文化圏を越境する傾向があったが、近年そのような傾向がますます強まっている。フランスでは、ムスリムの女性がヴェールを着用することについて社会問題となっている。他文化との接触、さらには多文化状況の出現がどのような変化をもたらしているのか。どのような可能性や葛藤、混乱が生じているのか。具体的には、現代の日本（東アジア）、インド（南アジア）、欧米諸地域などの事例を通じて、激動する現代社会を理解することを達成目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヨーロッパの社会と文化	ヨーロッパとは一般に、ユーラシア大陸西端にある地域名として理解されているが、ヨーロッパ社会の内情は多様である。本科目の目的は、現代のファッションを学ぶにあたって、その背景となるヨーロッパの社会と文化を学ぶことである。その成立の歴史をたどると、ヨーロッパは、社会的にも非常に多様で、また統合と分裂を繰り返してきた。現代のヨーロッパには、多くの民族とそれに基づく国民国家、さらにはヨーロッパ外部からの移民や難民からなるディアスポラ社会が国境を越境する形で生まれている。しかし一方で、ヨーロッパは地域としての統一的なまとまりが認められることも否定できない。フランス革命・市民革命、王権の廃止、産業革命、植民地支配、第一次世界大戦と第二次世界大戦によるヨーロッパの焦土化、戦後の冷戦体制と1989年から始まる社会主義体制の崩壊、EUの実現と拡大。こうした歴史は、現代ヨーロッパの社会や文化を形作ってきただけではない、世界にも大きな影響を与えてきた。その中でも特に重要なのがキリスト教である。キリスト教の歴史や、思想、哲学、美術、民衆生活などへの影響に着目することを通じてヨーロッパ社会と文化を理解する。本科目を通じて、美術やファッションの世界における創造性の背景となるヨーロッパの多様性と統一性を理解することを達成目標とする。	
	文化論基礎ゼミ	「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」などの文化論系の科目を履修したあと、本科目では、学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
	会計入門	本科目では、国内外の決算書（主に損益計算書と貸借対照表）を読み解き、分析するための知識の習得を目指す。今後の専門的な仕事をするうえで、企業の決算書を読解するための基礎知識は有用なスキルとなる。損益計算書を読み解く力を身につけることで、企業レベルだけではなく、ブランドごとの原価、販売管理費、経常利益率を理解することができる。また貸借対照表を読み解く力を身につけることで、決算書における「投資収益率：ROI」（ブランドに投資した資金を回収するのにかかる期間を示す指標）に着目した在庫とキャッシュフローを理解することができる。ファッション・ビジネスの事例を用いるなど、実践的な会計の基礎知識を習得する。	
	産業論入門	本科目では、産業の構造や動態を分析する方法や視点を学習する。産業の動向は根本的に企業行動が規定しており、企業間関係を通じた各産業の分析が欠かせない。例えば、現代のファッション産業の構造は、互いの分野が密接に関連してサプライチェーンを形成しており、服づくりとしての垂直的統合関係とともに、洋服、洋品アクセサリ、ジュエリー、時計等という商品群の水平的取り揃えが産業の重要な構造となっている。さまざまな産業の事例を取り上げながら産業構造を理解し分析する力を身につける。	
	法学入門	本科目では、今後の専門的な仕事をするうえで、遭遇し得る法律問題に適切に対処するための基礎知識を習得する。講義では、知的財産法以外の法律を事例を挙げつつ概観し、言論の自由を規定する憲法、権利濫用・不法行為等について規定する民法、権利保護のための差止め請求・損害賠償請求の手続きを規定する民事訴訟法、知的財産法違反の罰則に関する規定、独占権たる知的財産権とは表裏をなす独占禁止法、例えばファッション製品に関係する消費者法などを取り扱う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域論入門	本科目では、人間にとって地域とは何かという問いを念頭に、具体的な事例をいくつか取り上げる。現代日本に認められる多様な地域性をもとに日本の知財の活用を提案するための基盤となる知識を学ぶ。特に、世界及び日本の社会や文化の多様性と深く結びついている地理、環境、歴史、政治的など多様な観点から、地域の特徴の捉え方を学ぶ。	共同
	フィールドワーク入門	大学での学びのスタイルは、全部で4つある。1つ目に、デスクワークとして書籍や資料を読むこと。2つ目に、実験として、実験室で計量したり観察したりすること。3つ目に、フィールドワークとして、野外で自然や地形、動物を観察すること。4つ目に、本科目で定義するフィールドワークとして、大学の外に出て、具体的な人々の生活に触れ、その生活について学ぶことである。本科目ではその方法論を実践的に学ぶ。具体的には、外に出て職人の世界、企業、店舗を訪ね、話を聞く。これによって、生活と生業の実態を学ぶと同時に、現場で生じている問題を理解し、その解決法をさぐる態度を身につける。さらに、現場からどのような問いを立てればいいのか、という問いを自発的に設定することの重要性や理解を深める。この科目は、職業選択科目において3、4年生の臨地実習1、2の基礎や準備となる科目と位置付ける。	
	社会科学基礎ゼミ	本科目では、「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」などの、社会科学系科目で学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
	メディア概論	本科目では、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について理解できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイスやデジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。特にファッション産業に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生は、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を学ぶ。	
	情報リテラシー	本科目では、情報環境の正しい知識と基礎的な利用方法を修得する。情報化社会におけるコンピュータやインターネット、情報の役割と意義についての問題意識を養うとともに、情報機器などの基本的な操作方法を習得し、その特徴を理解する。情報技術（ICT）の発達及び、インターネットやスマートデバイス等がより身近になる現代において、受講生が今後の専門学習で必要となる基本的な情報リテラシー、情報に関するモラルやマナー等について理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	環境と社会	本科目では、サステナビリティをキーワードに環境と社会の関係を学ぶ。サステナビリティ及び社会貢献を強く意識したクリエイションやビジネスの考えを、関連する人文科学や社会科学の理論と知見を参照しながら学修する。具体的には、現在人類が直面している、地球温暖化や人口増加、都市環境の悪化などについての知識を獲得し、環境問題に取り組む社会の取り組み等について理解を深める。また複数の企業を取り上げ、サステナビリティの実践について学修する。	
	英語 I	本科目では、英語によるコミュニケーション能力の育成を行う。eラーニングで基本的な運用能力を学びつつ、定期的な個別面接指導で実践的に能力を上げる。目標は、日常生活や具体的なビジネスの場面において、臆することなくコミュニケーションをとる、積極的な姿勢を身につけることである。英語の運用能力は、語彙の豊富化と構文発想の柔軟な多様化にあるため、地道な段階を踏んだ学習が必要であるが、それとともに、積極的な表現実践力の強化を授業に組み込み、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	英語 II	本科目では、「英語 I」を履修した受講生に対し、英語運用能力の上達を図る授業を行う。目標は、CEFR等英語諸検定の高得点獲得(CEFR Cランク程度)であり、自由かつ柔軟、即時対応の表現能力開発に重点を置く。個別面接指導をより頻繁に重ね、履修者の学習状況、進捗状態、問題点の所在等を綿密に把握し、改善の方途を指導する。定期的に英語によるプレゼンテーションの課題を実施し、他者に伝えることを重視した総合的な英語運用能力開発を目指す。	
	フランス語	本科目では、初めてフランス語を学ぶ学生を対象に、初歩的なフランス語でコミュニケーションをとる知識を学ぶ。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。文法の土台も固めながら、フランス語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの基本スキルを総合的に伸ばすことを目標とする。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、フランス語やフランス文化に関する理解を深める。	
	中国語	本科目では、初めて中国語を学習する学生を対象に、初歩的な中国語でコミュニケーションをとる知識を学ぶ。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。文法の土台も固めながら、中国語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの基本スキルを総合的に伸ばすことを目標とする。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国語や中国文化に関する理解を深める。	
	日本語文章表現	本科目では、簡潔で、論理的な日本語の文章を書く能力を養う。受講生は、ファッション産業でも頻繁に使用される企画書や報告書の作成などを想定して、基礎的なテキストを使用しながら、内容を端的にまとめ、説得的に示す修練を行う。同時に、口頭発表の訓練を行い、短時間で的確に意見を述べる修練を行う。講義では、日本語表現の基礎知識について作成されたテキストを使用しつつ、具体的な新聞や業界紙の事例を使用して、企画書やレポートの作成を課して定着を図る。課題は授業内で発表をさせ、受講生が互いに添削を行うという、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	キャリアデザイン論	本科目では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはいかなることかという問いを念頭に、職業や専門的な仕事、社会について深く考察することから、いかに働き、生きるかという、学生が近い将来、社会人として社会で活躍するためのプランと社会に貢献し果たすべき役割について考える。21世紀は国際化、情報化の社会であり、一人ひとりの生き方が改めて問われている。社会人として公共的な考えをもち、職業人としての倫理観を身につけ、自分を知り、自他を認め合うための課題を考え、行動する姿勢を身につける基礎を作る。	
② 職業専門科目	ファッション論科目群		
	身体とパフォーマンス	身体は、衣服・衣装の原点である。人はこれまで、身体を守り着飾るために衣服を作り出してきた。その意味で、衣服は身体に密接に結びついたものといえよう。本科目では、衣服について考える前に、わたしたちにとって身体とは何か、社会においてわたしたちは身体をどうとらえているか、について学ぶ。 身体について考えるとは、具体的には、身体に関する動作や表現、身振り（身体技法）を考えることをさす。例えば、座り方があげられよう。畳に座る、椅子に座るという動作は、実は生得的なものではない。日本でいえば、椅子に座ることを多くの人が明治以降に学習した。慣れ親しんだ身体のあり方から、新たな身体技法を学ぶなかで、人は文化によって異なる身体技法が存在することを学んだ。身体技法の歴史、文化的な違いが衣服のあり方とも密接に結びつく。この科目では、身体に注目しつつ、衣服と身体との関係をとらえることを目標にする。 日常の身体技法がケ（俗、労働）の世界に属するのに対し、芸能、踊り、演劇など文化的なパフォーマンスに見られる洗練された身のこなしはハレ（聖なる世界、非日常）に属する。ここでは、衣服だけでなく被り物や仮面、アクセサリ、化粧品などが全体としてハレの世界を演出する。具体的には、歌舞伎や能楽等の日本の古典芸能を取り上げる。かかる芸能のなかで身体と衣装の関係を考察し、衣服や装飾品、さらに化粧品などと身体との関係を理解することを目的とする。	
	造形論入門	表現の領域において最も必要なことは何か。デザイナーであれ、クリエイターであれ、共通に必要とされるのは、まず手や身体への訓練である。そして、視覚や聴覚や触覚など、五感の感覚を研ぎ澄ますことである。それらを鍛えるためには、なにが必要か。本科目では、専門的な実技訓練の前に、見るとはどのようなことか、見て描くとはどのようなことかについて学ぶ。点、線、面、そして立体から空間へとつながる造形の文化を基礎科目として学ぶ。また当然のことながら造形は、現実空間から仮想空間へと常に行き来し動くものである。したがって、あらゆる領域に通じる造形の文化の基礎、その発想の根源を、講義とドローイングなどの身体動作を通じて学ぶ。	
自然資源と服装文化	衣服の材質には古来より、綿や毛皮などの植物性、動物性の自然繊維を利用してきた。染色には様々な植物の素材が欠かせない。その意味で衣服は自然環境と密接に結びついていた。本科目では、自然環境と衣服との関係を学ぶことで、各地域の生態環境と装いの文化との密接な結びつきを理解することを目的とする。北極から熱帯まで、人間を取り巻く環境は多様であり、自然資源に依拠する衣服もまた多様である。具体的には、日本、中国などの東アジア、インドなどの南アジア、ケニアなどのアフリカ地域の自然資源や環境をとりあげ、自然環境と装いの文化との関係を学ぶ。 衣服を構成する繊維として、近年では自然繊維とともに、化繊などの人工繊維もよく使用される。化繊の使用が自然資源を使用してきた衣服にどのような影響を与えて来たのか、という問題意識から、装いの文化の変化についても理解を深める。さらに、鉱石や金属、毛皮など、装飾品に使用されてきた資源が、繊維資源とともに人間の服装文化にはたしてきた役割も含め、広く自然資源と服装文化の関係をとらえる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	職人の世界	<p>衣服は単純な作業によって作られうるものから、複雑な工程を経て生産されるものまでさまざまである。自然資源からつくられた単純な衣服が、だんだんと複雑な仕組みや機能をもつ衣服へと変化する過程で、専門化した職人が重要な役割を果たしてきた。多くの伝統社会において、職人が衣服生産に携わっている。本科目では、衣装の生産に携わる世界各地の職人たちについて、学ぶことで装いの文化の多様性を理解する。</p> <p>注目すべきは、職人がいかに自然素材を装飾品に変えていくのか、という点である。彼らの自然観、そして自然に対する知識や身体に対する知識がいかなるものであるかを学ぶ。これは、専門科目における地方・産地実習において、実技学習の基礎となる科目として位置付けることができる。</p> <p>職人の世界は何も衣服生産だけにとどまるものではない。各種工芸、金属加工など、多様な職人の世界と協力関係を考察の対象にする。</p> <p>現代は、例外はあるにしても衣服が工場で大量に生産される。こうした機械化は職人たちにどのような影響を与えているのだろうか。大量の衣服がグローバルに流通するという現代社会において、地域に特有の装いの文化はどのように変化したのか。さらに伝統的な織りや染めの技術は、いかに保存しかつ継承できるのか。こうした問題意識を念頭に職人の世界の理解を達成する。</p>	
	装いと社会性・ジェンダー	<p>衣服は単に着飾ったり保温守ったりするだけではなく、それを身につけている人の社会的地位を表す記号でもある。本科目では、衣服の社会的な記号としての性格を学ぶ。</p> <p>ここで対象とするのは、衣服だけでなく刺青、ヘアスタイルや装飾品、バッグやメガネ、時計などの持ち物も含まれる。多くの社会では、装いは、社会的な地位や役割を明確に示す。例えば、ペルーの民族衣装は、隣接するコミュニティ（民族）との相違を明らかにすることに役立っている。階層や役割を端的に表す場合もある。また年齢にふさわしい服装というものもある。女性の場合、初潮前と初潮の後、あるいは未婚と既婚、寡婦などの地位の変化によって身につける衣服が異なることもある。</p> <p>衣服は、社会的な地位を示すだけでなく、男女の違い（ジェンダー）を際立たせる記号としても重要な役割を果たす。差異化の方法は、社会や文化、時代によって異なる。例えば、イスラームのペールのように、女性の体をすべて覆ってしまう場合もあれば、男女によって衣服の選択に制限がなくユニセクスの服装が普及している社会もある。衣服はまた男性らしさや女性らしさを表わす。本科目は、記号としての衣装の社会性を理解することを達成目標とする。</p>	
	美とファッションの歴史	<p>衣服一般には、保温など様々な機能が認められるが、ファッションは美と切り離すことはできない。多少不便で身体を酷使することがあっても、美（や格好良さ、個性などを含む）の追求という目的が何よりも優先されるのがファッションである。では、ファッションの世界で美しいとはどういうことなのか。ファッションで追求される美はどのようなものなのか。それは美一般とは異なるのだろうか。本科目の目的は、ヨーロッパにおける美とファッションとの関係を取り上げ、その特徴を理解することである。ファッションが追求する美の特殊性を理解することで、毎年めまぐるしく変わるかに見えるファッションの背後にある価値観を理解する。具体的には、西洋の各時代や様式から代表的な作品を取り上げ理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ブランドの歴史と文化	現在我々が一般的になじんでいるヨーロッパのファッションの発展は、デザイナーを中心とするハウスあるいはメゾン抜きにして考えることはできない。美とファッションの思想的な、言い換えればソフトな側面を「美とファッションの歴史」科目に譲るとすれば、本科目の目的は、ヨーロッパのファッションを取り巻くハードな世界、すなわち政策や経営など制度を学ぶことである。具体的には、著名なブランドとしてシャネルやエルメス、グッチなどを取り上げ、かかるブランドが、卓越したデザイナーの出現からブランドとして成立するまでの歴史（社史）ならびにブランドの仕組みや実態について学ぶ。	
	美容とファッション	美容とは、顔や体つき、肌などの身体を美しく整える技法である。衣服・衣装を中心とするファッションにおいて無視できないものは、顔であり、身体である。それは髪型とともに、イヤリングやネックレスなどの顔の周辺を飾る装飾品全てを含む整えである。さらに、身体の理想的なイメージの歴史や、それを実現するための、痩身などの技法、美容整形などについても取り上げる。本科目の目的は、ファッションとの関係で重視される顔や身体の歴史や技術などについて学ぶことである。	
	色彩論入門	この科目では、色彩に関わる全ての人が深く色について知る事を目的とする。色彩体系が総合的に理解できるように、配色の基礎から配色調和構成法、色の総合的効果、色の性質とはたらき、色の力を実際のビジュアルの事例を読み解きながら学ぶ。ファッションの事例としては、パリ、ロンドン、ニューヨーク、東京で毎年発表されるコレクションの代表的なデザイナーの色と配色を写真をもとに分析する。また、日本の色と形についても同様に分析し、イメージを色と配色で表現するための理論を学ぶ。	
	ファッション論基礎ゼミ	「身体とパフォーマンス」「装いと社会性・ジェンダー」「自然資源と服装文化」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッション」「色彩論入門」「サブカルチャー・スタイル」などの、装いやファッション、美やファッション系科目を履修したあと、本科目では、学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	本科目では、衣服は多様な地域の風土や文化を表す媒体であり、またその産物であることを学ぶ。日本の衣生活特に和服も時代と共に変化を見ている。いかなる自然、社会、文化的な背景から地域に特徴的な服装が醸成されてきたのか。また時代における流行など、人々の感情を左右させる変化をもたらしてきた時代背景とともに、服装史の変遷を歴史的に振り返りながら、服装における美意識や価値、機能、技術など学修する。衣生活・服装史を理解することによって、伝統的な美意識や機能が現在の衣生活に与えている影響を考察するとともに、今後の服装の変遷に関わる洞察力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生活科学入門	本科目では、被服学の基礎となる生活科学（家政学）の全体像に関連させながら、被服の基礎的な知識を学修する。具体的には、被服生理学にあたる被服の機能、被服材料学にあたる被服素材、被服環境学にあたる、人と衣服との関わり、被服の選択と管理、持続可能な衣食住を中心とする生活環境や社会環境などについて理解を深める。従って生活科学の包括性や拡大を考慮しながら、隣接領域および関連領域についても学修する。	
	ファッションデザイン論	本科目では、ファッションにおけるデザインの重要性を学ぶ。具体的には、ファッションブランド構築のあり方を、歴史的、社会的、文化的に理解し、そこにおけるデザインの重要性と可能性を探る。受講生は今後、自らのファッションブランドを持つと仮定して、デザイン・メソッドとされる4つの基本的な方法論（ファッションディレクション、ファブリック選定、商品モデリング、コレクションマーケティング）を学ぶ。そして、今日のグローバル市場で成長を遂げる「ラグジュアリーブランド」「デザイナーズブランド」「ファスト・ファッション・ブランド」のデザイン・メソッドを理解する。	
	デザイン概論	本科目では、現代社会におけるデザインの意味と必要性を学ぶ。デザインとは何か、その定義を理解したうえで、デザインという概念が誕生した歴史的背景を学ぶ。そしてデザインの目的、役割、その背景にある思想を実践的な事例を通じて考察する。デザインには、人の行動を促すという心理的なアプローチを含めた広義の考え方があがるが、こうしたデザインに関する概念や発想を体系的に学ぶとともに、これを身近な製品に汎用させながら、ファッション・デザインの意味と必要性を考察する。	
	パターンメイキング	本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要なパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。 本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算などにも役立つパターンメイキングの知識を身につける。	
	テキスタイル基礎	本科目では、テキスタイル（生地）の基礎知識を学習する。天然素材、化学・合繊素材、皮革といった異なる素材の織や編みの組織に関する知識を学ぶ。同時に、外観や肌触りといった生地のテクスチャー（風合い）に関する分類能力を身につける。生地の基礎知識や生地質感の分類能力は、ファッション商品における生地コストを意識した製品づくりに不可欠であり、またデザインや商品制作の段階において創造性を担保する重要な要素でもある。実際の現場では、テキスタイルの供給は、国内産地とともに海外産地からなされている。テキスタイルに関する世界共通の名称や質感の把握についても併せて理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	デザイン感性工学	本科目では、基礎科目で学んだ色彩、美学、デザインをベースに、何をどのように取り込めば消費者の好みや感性に応じたファッション商品となるのか、その分析と分類を行う。講義では、異なった感性をもつ購買層を見分け、分類し、それにそった商品イメージを提示する能力を身につける。具体的には、消費者を想定した写真や動画などの視覚的情報を、感性要素を分析定量化するソフトウェアを用いて分析し、感性要素の定量評価技術を学ぶ。画像解析を中心とした習熟を行うため実習時間を組み込む。	
ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	本科目では、ファッションビジネスとは何か。現在までのその発達と変移を知り、その多様性と魅力を知る。ファッションビジネスを構成する各産業の構造とその業務、職種、流通の仕組みを理解する。経済学・経営学の基礎知識をふまえ、ファッションマーケティングおよびファッションマーチャンダイジングの概念を理解する。ファッション情報の種類とその収集・分析方法を知る。総合的にファッションビジネスをとらえ、事例研究を通じ、問題発見力を向上させることを目的とする。	
	ファッションビジネス実習Ⅰ	本科目では、市場や消費者のニーズに応えるための実践的な企画、プロデュースの方法を学ぶ。ファッション業界の変遷をふまえて、市場動向を予測する能力や的確な商品価値を生み出すような判断能力を鍛える。基本的な商品企画と販売戦略に関する技術や知識を実践的に高める。	
	ファッションビジネス実習Ⅱ	本科目では、市場や消費者のニーズに応えるための実践的な企画、プロデュースの方法を応用して、ビジネスモデルの構想や作成を行う。具体的なビジネスモデルの分析や構想などを通じて、ファッション市場や消費者の動向を予測する能力や的確な商品価値を生み出すような判断能力を鍛える。商品企画と販売戦略に関する技術や知識を実践的に高める。	
	国際ファッション市場論	本科目では、世界のファッション市場について学ぶ。具体的には、まず、日本のアパレル市場の推移と現状、そして今後の趨勢を把握する。そして日本と比較する形で、欧米やアジアなどのアパレル市場の特徴を、消費者の多様化する嗜好を的確に捉えた企業の成功例から読み解く。国際的なアパレル市場全体を俯瞰しつつ、各地域の市場の特徴とメインプレイヤー、彼らの戦略などに関して検討する。	
	国際ビジネスモデル特講Ⅰ	本科目では、グローバルに展開されるビジネスの歴史と仕組みについて学習する。特に、産業革命以降、世界のビジネスにおいて大きな比重を占め、また衰退も経験してきたヨーロッパ地域におけるビジネスの歴史と仕組みを学ぶ。授業を通じて、今日のヨーロッパ各国で成功しているファッションブランドのビジネスモデルを、他の業種も含めたビジネスモデルの系統と分類に位置づけ理解する。講義ではイギリス、イタリア、ドイツ、フランス、北欧諸国を取り上げる。各地域の歴史的、政治的、経済的、社会的、文化的背景を鑑みつつ、ヨーロッパ地域でみられるビジネスモデルのあり方を学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際ビジネスモデル特講Ⅱ	本科目では、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ」を履修した受講生が、アメリカ合衆国で展開されるビジネスモデルの特徴を理解することを目指す。今日の世界経済で大きな比重を持つ合衆国において展開されたビジネスの歴史と仕組みを学ぶ。マスマーケティングに代表される大量生産、大量流通、大量広告といった大企業中心のビジネスモデルを取り上げるとともに、シリコンバレーなどで成功を収めた新興企業のモデルについて概観する。授業を通じて、今日の合衆国で成功しているファッションブランドのビジネスモデルを、他の業種も含めたビジネスモデルの系統と分類に位置づけ理解する。	
	リテール企画実習Ⅰ	本科目では、消費者のニーズに応えるための実践的な販売の方法を学ぶ。ファッション・アパレル産業界では、従来より実店舗における対面型の販売方法が大きな役割を果たしてきた。リテールの企画能力を高めるうえでも、まず基礎的な販売の方法や役割を理解することは必要である。本科目では、受講生が互いに販売と顧客の役割を想定してリテール企画の基本を実践的に学ぶ。	
	リテール企画実習Ⅱ	本科目では、消費者のニーズに応えるための販売の企画を考える。ファッション・アパレル産業界において、従来型の実店舗での対面型の販売方法とともに、現代ではインターネットを介したリテール、販売の役割が拡大している。本科目では、リテールや販売の現代的な変遷をたどりつつ、具体的な事例から企画分析能力を高める。	
	創造産業論	本科目では、創造産業（クリエイティブ・インダストリー）について学ぶ。現在、デザインなどのクリエイションは、イノベーションと関わるデザイン思考への注目とともに、創造産業として注目されている。本科目では、多様な分野、例えば、情報やコンテンツ、医療などのさまざまな産業分野の事例と比較しつつ、ファッション業界における模倣から創造への転換を学ぶ。経済・経営学上の歴史と理論の両方からファッションの創造産業としての役割と性質について理解する。	
	マーケティング論	本科目では、マーケティング論の全体像を理解し、基礎的な用語や考え方を習得する。マーケティングとは、企業が存続、成長するために必要な売上や利益を、製品やサービスの提供を通じて実現する活動である。市場の成熟化、ニーズの多様化、技術の成熟化、競争の国際化が進むなかで企業経営におけるマーケティングは重要である。本科目では、企業のマーケティングの全体像について、具体的な事例を交えながら講義を行う。	
	消費者行動論	本科目では、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習する。消費者行動とは、消費者がいかに商品を選ぶのかについて考えることである。消費者の行動は微妙なものに左右されることが多い。これまでよく売れていたブランドが突然売れなくなったとき、消費者の行動を規定したものは一体何か、これを考えることが必要となる。消費者認知・消費者態度・消費者行動の3つの視点をカギに、消費者の行動を規定する心理プロセス、消費者行動を規定する様々な要因、ブランドと消費者のコミュニケーションのあり方など、具体的事例を交え、さまざまな角度から理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	知財論	ファッションに関する知的財産—商標、意匠（デザイン）、不正競争、著作権等—の法制度について概観し、ファッションビジネスに携わる者が必要とする知識を習得することを目的とする。ファッション関係の実際の事例により、一方では、知的財産権による自己の創作の保護及び権利主張、他方では、他人の権利を侵害しない予防策、という両面について検討する。創作について十分な保護を得るためには、複数の知財（商標と意匠、など）による検討が必要であるので、知財の多面的活用を学ぶ。	
	国際ファッション業界英語	本科目では、ファッション産業業界に特化した英語運用能力を学習する。目標は、履修者が自ら英語で企画書を作成し、それをわかりやすく英語でプレゼンテーションできるようになることである。そのために、毎回の授業では数名に課題を発表させ、クラス全員が同じく英語で質疑応答を行う時間を設ける。企画が正確に伝わっているかどうかを確認すると同時に、より適切な表現はないかを指導する。こうした指導を繰り返し行うことで、実践的にファッション産業業界で使用される英語を身につける。	
メディア ア 科 目 群	写真概論	本科目では、静止画（写真）の役割とプロフェッショナルな静止画撮影技術の基礎を学ぶ。写真は19世紀半ばより現在まで、ファッション産業において商品の伝達手段として大きな役割を担ってきた。写真技術とともに機材の工学的発達に合わせて表現方法も多様化し、写真は商品の製作者と消費者の双方にとってますます欠かせない媒体となっている。講義を通じて、特にファッション産業界における写真技術、写真の果たす役割を歴史的に理解する。同時に、実践的にプロフェッショナルな静止画撮影・画像製作の基礎技術を学ぶ。	
	映像概論	本科目では、動画の役割とプロフェッショナルな動画撮影技術の基礎を学ぶ。動画は、テレビ、コマーシャルなどのマスコミュニケーションの普及、デジタル処理技術の進歩やインターネットの拡大により、情報伝達手段としての役割を急速に拡大している。個人が容易に動画を発信することが可能になっている現在、プロフェッショナルなコンテンツの制作がますます重要視されている。講義を通じて、特にファッション産業界における動画技術、動画の果たす役割を歴史的に理解する。同時に、実践的にプロフェッショナルな動画撮影、コンテンツ制作の基礎技術を学ぶ。	
	写真実習	本科目では、「写真概論」を履修した受講生が、実践的でプロフェッショナルな静止画を撮影できるようになることを目指す。本科目では、まずVOGUEやBAZZARなどの国際的な高級ファッション雑誌の写真を研究し、制作者側のコンセプトや、ファッションデザインと表現方法の関連性を考察する。また、こうした研究や考察の結果を再現する学習経験を行う。そのうえで、各受講生は自ら思い描く静止画のコンセプト作りを行う。静止画のイメージを具現化するために必要な物を集め、実際の現場で使用される機材を用い、発信手段を考慮したプロフェッショナルな撮影・レタッチなどの製作技術を習得する。「写真概論」の継続・応用科目である。	
	映像実習	本科目では、「映像概論」を履修した受講生が、実践的でプロフェッショナルな動画を撮影できるようになることを目指す。本科目では、世界的に著名なファッションブランドが示すコレクションのイメージ動画を研究する。受講生は、動画において表現されているコンセプトは何か、動画を通じて理念や感覚といった直接目には見えないものが視聴者にいかに伝わり、理解や共感を生んでいるかを分析し、発表する。同時に、各受講生は自ら思い描く短い動画のコンセプト作りを行う。イメージを具現化するために必要な物を集め、実際の現場現場で使用される機材を用い、発信手段を考慮したプロフェッショナルな撮影・レタッチなどの制作技術を習得する。「映像概論」の継続・応用科目である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	<p>本科目は、これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に地域企業や地方産地で実践的に学ぶなかで、必要となる問題設定と成果発表を行う場である。受講生は自ら問題意識を明確化し、各人が課題を選択し、実習の計画をたてる。そのための発表を行うとともに、実習で得られた成果をもとにさらなる課題を発掘し、卒業制作へ向けた準備をする場と位置付ける。受講生は、「臨地実習Ⅰ（企業）」、「臨地実習Ⅱ（地方産地）」で学ぶ内容を計画し、また実習後に学んだ内容を発表する。企業や産地がいかなる歴史的、地理的、文化的背景や価値をもつのか、そこで得られる伝統的技術や現代的な仕事のありようとは何かについて、これまでの基礎科目と職業専門科目で学んだ内容をもとにリサーチし理解を深めていく。臨地実習での成果を有効に引き出すための準備とフィードバックを行うことを目的とする。</p>	共同
	臨地実習Ⅰ（企業）	<p>これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に企業や組織のなかで学ぶ科目である。本科目では、日本国内、特に東京や大阪、名古屋など都市部に位置するアパレル、テキスタイルメーカー等に、各受講生が訪問する。そこで、デザイン、パターン、マーチャンダイジングなどの仕事について基本的な仕事の流れや役割を学ぶ。</p> <p>目標は、ファッションに関する仕事への理解を深めることとともに、専門職としての自覚を促すことである。各自のキャリアプランを固めていき、統合ゼミ等での発表を行う際に必要な知識を得る機会となる。ことを達成目標とし実習する。</p> <p>なお、本実習と地方・地域企業連携ゼミは有機的に結びついており、受講生は実習前にゼミで実習の計画を発表する機会をもつ。また実習後にゼミでその成果を発表する。</p>	共同
	臨地実習Ⅱ（地方産地）	<p>これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に地方産地のなかで学ぶ科目である。本科目では、日本国内、特に素材産地である、絹織物の桐生、江戸小紋のある新宿区、ニット素材をつくる墨田区の素材、意匠、事業所やメーカー等に、各受講生が訪問する。受講生と教員、産地の実習先の方々と相互に交流を深め学ぶ場を設け、そこで教員は各受講生の進捗を確認する。フィールドワーク入門や職人の世界等の基礎科目で学んだ知識を活かし、また職業専門科目で学んだ技術を活かし、素材産地の歴史的、地理的、文化的背景への知識を深め、伝統的技術を学ぶ。受講生は、産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見いだすことを達成目標とする。</p> <p>なお、本実習と地方・地域企業連携ゼミは有機的に結びついており、受講生は実習前にゼミで実習の計画を発表する機会をもつ。また実習後にゼミでその成果を発表する。</p>	共同
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	<p>本科目では、持続可能な社会経済産業のあり方を考える。近年、サステイナブルな地域、地球環境を考慮した取り組みが、学界及び実業界で推進されている。こうした取り組みには特定分野の枠を超えた柔軟な発想が欠かせない。学問の領域では、人文社会系及び自然科学系の横断的な発想を基に多角的なアプローチがなされている。本科目では、人間社会と地球環境の調和をめざして取り組まれている、さまざまなビジネスの実践的内容と歴史、社会、文化、経済、自然など多様な分野の知見を教員の各専門分野から問題提起し、各学生は今後の課題発見につながる分析視角を身につける。</p>

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域産業論	経済社会産業上の要請として、グローバル化とインバウンド現象との関係でイノベーションや創発を基軸に据えて発想することが求められている。本科目では、このような要請に応えるために、地方の経済的困窮や地域創生の取り組みについての理解を深める。具体的には、大きく理論編と事例編から構成される。理論編では、産業分類の中の地域産業や産業集積論を理解し、事例編では、イタリアなど世界各地の事例を取り上げ、国際的な視野に立って、産業再生や地方創生に関して課題発見につながる分析視角を身につける。	
	産業と メディアデザイン	本科目では、メディアに関する基礎科目を履修した受講生に対し、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について討議できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイス、デジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。さまざまな産業に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生には、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を考える課題を課す。	
	デジタルアーカイブ論	本科目では、デジタルアーカイブの視点から、デジタルアーカイブ関連分野の具体的実践を例に取り上げ、「メディア」「コンテンツ」双方のデジタル化によるデジタルアーカイブの状況と動向を理解する。今後のファッションビジネスにとって、デジタルアーカイブの利活用に、いかなる課題や利点があるか、「情報技術」「サービスモデル」「社会的課題」の視点から捉える。	
	サブカルチャー・スタイル	本科目では、主流から外れるような文化実践の生成、そのあり方、またそこから主流に影響を与えたり、取り込まれていくプロセスについて、その背景と共に学ぶことを目的とする。こうした主流の周縁で生じる文化実践をここではサブカルチャーと位置付ける。典型的なものとして、自分たちの考え方やライフスタイルを表現するような若者のストリートファッションやパンク、現代アートなど、また、演劇・音楽・マンガ・アニメなどの「クールジャパン」という名称で親しまれているような、さまざまな関連する分野の事例をあげ、理解をすすめる。サブカルチャーやアートを、消費される対象としてのみとらえることなく、同時代的に作られるものとして生成する過程を理解し、その現代的かつ文化的社会的な意義を学ぶ。各受講生がめざす職業分野において、国内外で新たな価値を創造し、展開をしていくために必要な視点や知識を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	広告・PR論	本科目では、広告・PRの基礎的な知識や考え方を学ぶ。広告・PRはメディアを通じて提供されるコンテンツである。そのコンテンツが消費文化においてはたす機能と役割を学び、広告・PR産業についての理解を深める。そして広告・PRの具体的な事例を通じて、実践的な広告・PRの企画を学ぶ。	
国際科目群	国際知財論	本科目では、国際的な知財戦略を立てるのに必要な基礎知識の習得を目指す。特にファッションブランドの保護という観点から、国際的な知的財産関係の国際条約を概観し、各国で保護を得るための国際出願（商標、意匠、特許）、優先権主張の手続き等について解説する。また欧州、アジア各国、米国等の主要国をとりあげ、ファッション知財保護の実態や国ごとの相違点を理解する。具体的には、ブランド品等の真正商品の並行輸入、権利の国際消尽、国境をまたぐインターネット上の取引等の実務上の問題を中心に扱う。	
	国際連携ゼミ	本科目は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識・技術をもとに、欧州、米国、アジア諸地域から招聘した客員教授を交えた演習を実施する。各受講生は、自ら選定したテーマについてこれまでの地方・地域企業連携ゼミ等で作成したコンセプトを発表する。各受講生は、基本的に英語を用いて発表を行う。これまで培ってきた語学・コミュニケーション能力を再確認するとともに、卒業後、国際的にファッション市場において自立するための、海外へむけた発信を行う準備と学習の場と位置づける。 なお、本ゼミと海外実習の科目は有機的に結びついており、受講生は海外実習前に、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表する機会をもつ。また海外実習後に、本国際連携ゼミでその成果を発表する。受講生にとって、有効なサポートとフィードバックを提供する。	共同
	海外実習 I	本科目は、学生を海外に派遣して実践的に将来の仕事を学ぶ機会をもつ、インターンシップの場と位置付ける。各受講生は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識技術を活かして、欧州、米国、アジア諸地域の企業や組織に赴き、インターンとして従事する。そこで、自らの語学・コミュニケーション能力を含む、職業的専門知識や技術、総合的な基礎力を確認するとともに、現場でしか経験できない実践的な学習を行う。 なお、本実習科目と国際連携ゼミの科目は有機的に結びついており、海外実習から帰国した学生は、国際連携ゼミでその成果を発表する機会を持つ。また、海外実習前には、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表し、受講生にとって有効なサポートとフィードバックを提供する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外実習Ⅱ	<p>本科目は、海外実習Ⅰを履修し、さらに海外に関する知見を深めたい学生が参加する。海外実習Ⅰ同様、学生を海外に派遣して実践的に将来の仕事を学ぶ機会をもつ、インターンシップの場と位置付ける。各受講生は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識技術を活かして、欧州、米国、アジア諸地域の企業や組織にインターンとして従事する。そこで、自らの語学・コミュニケーション能力を含む、職業的専門知識や技術、総合的な基礎力を確認するとともに、現場でしか経験できない実践的な学習を行う。</p> <p>なお、本実習科目と国際連携ゼミの科目は有機的に結びついており、海外実習から帰国した学生は、国際連携ゼミでその成果を発表する機会を持つ。また、海外実習前には、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表し、受講生にとって有効なサポートとフィードバックを提供する。</p>	共同
④ 総合科目	統合指導ゼミⅠ	<p>自ら興味を持つ、多様な社会、文化、自然、ファッション、ビジネスなどに関する基本文献を読み、発表を行うことを中心に授業を進める。その中で自分の探究すべき分野、テーマをさらに具体的にとらえなおし、どのような問いを立てればよいのか、発見するよう指導する。アクティブ・ラーニングの手法を大幅に取り入れ、自発的、積極的に学習に取り組む。問題意識をもって卒業制作に結びつけるようにする。</p>	共同
	統合指導ゼミⅡ	<p>各自が設定する卒業制作に向けたコンセプトの発表とそれについてのディスカッション、担当者による総合的な講評を中心に進める。適宜、映像や美術館、博物館などの専門家を招聘する、もしくは、フィールド・ワークなども行う。アクティブ・ラーニングの視点から、主体的に授業に関わるよう導く。少人数クラス編成で、個別指導を主体とする。</p>	共同
	卒業制作・計画	<p>本科目では、4年間の学習の集大成として卒業制作を位置づけ、受講生にその制作と発表を課す。受講生は自らテーマを決定し、指導を受けたい教員のゼミに所属し制作を行う。指導教員は、これまでのゼミ指導教員である必要はない。また副指導教員としてテーマに相応しい教員をつけ、適宜指導を受けることができる。本学の卒業制作には、その本編と作品に加え、取り組み資料等を集約した文書一式が含まれる。その評価は、カリキュラムポリシーにおける総合的なデザイン力、プレゼンテーション力の習得と強化の目的を謳うように、発表を含む総合的な評価となる。</p> <p>制作の計画および条件等の詳細は別途指示されるが、受講生は前期初旬に卒業制作のテーマを決定し、趣旨書と展示計画書等を作成する。これらの企画案は前期中に公表し、教員による審査と指導を受ける。後期初旬の中間発表会では、取り組みの経過をその成果とともに公表し、審査と指導を受ける。後期下旬には完成した制作の成果を提出するとともに、指定された日に卒業制作展および公聴会を行い、審査を受ける。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
① 基礎科目	比較文化論	文化とは何か。本科目では、私たちの生活全般に影響を与えている文化について具体的な事例をあげて考え、学ぶことを目的とする。 文化は一般に、生活様式あるいはライフスタイルと定義されている。地域や国によってライフスタイルは大きく異なる。文化の重要な要素の一つは、衣・食・住といった物質文化である。加えて、芸能・芸術や宗教、価値観や考え方を含む総体が文化となる。装いや装飾品、化粧などを理解するにあたっては、文化の一部としてこれらを考えることが重要になる。こうした視点を学ぶ科目として、比較文化論を位置付ける。 まず、文化とは人々の生活に大きな影響を与えるが、それは絶対的なものではなく、地域が異なれば変化する、相対的なものである。ある社会で積極的に求められているものが、別の社会では無視されたり否定的な要素として禁止されていたりする。具体的にはアジアやアフリカの文化を取り上げて、その多様性を学ぶ。これによって、文化相対主義という考え方を学ぶ。これは、日本文化ほど繊細なものはない、アフリカは野蛮だ、といった自分の文化を中心に異文化を蔑む視点が、時に深刻な人種差別や偏見に通じるという観点から提案された考え方である。比較文化ではまた、民衆に密着した生活様式に注目する。歌舞伎や能、その他の美術品などの国宝を、世界に誇れる日本文化の典型として慣れ親しんできたかもしれない。しかし、日本各地に継承されてきた工芸や和菓子など、名もない職人が生み出す作品については十分な理解がなされてきたとは言いがたい。比較という視点から、文化相対主義の考え方を学び、伝統文化に触れて文化の理解を深めることを達成目標とする。	
	現代文化論	比較文化論で考察の対象としていた文化が、どちらかといえば伝統的な社会文化であるとするならば、本科目では、現代文化論として、産業革命以降の人類の営みについて考察をしたい。工場で大量に生産される商品、その流通システム、消費活動、都市社会、高度な交通手段の発達、技術革新など現代につながる社会変化（近代化、市場経済の浸透、世俗化、都市化、消費社会の出現、インターネットの普及など）とそれに付随する文化の変化や拡大について考える。グローバル化が進む現代、大量の情報、人、物が移動している。インドのサリーのような民族衣装を日本で居ながらにして購入することができる一方、購入品の中にはメイド・イン・ジャパンのサリーが混じっていることもある。フランスや日本のブランド商品でも生産されるのは外国であることも多い。衣服はもともと文化圏を越境する傾向があったが、近年そのような傾向がますます強まっている。フランスでは、ムスリムの女性がヴェールを着用することについて社会問題となっている。他文化との接触、さらには多文化状況の出現がどのような変化をもたらしているのか。どのような可能性や葛藤、混乱が生じているのか。具体的には、現代の日本（東アジア）、インド（南アジア）、欧米諸地域などの事例を通じて、激動する現代社会を理解することを達成目標とする。	
	ヨーロッパの社会と文化	ヨーロッパとは一般に、ユーラシア大陸西端にある地域名として理解されているが、ヨーロッパ社会の内情は多様である。本科目の目的は、現代のファッションを学ぶにあたって、その背景となるヨーロッパの社会と文化を学ぶことである。その成立の歴史をたどると、ヨーロッパは、社会的にも非常に多様で、また統合と分裂を繰り返してきた。現代のヨーロッパには、多くの民族とそれに基づく国民国家、さらにはヨーロッパ外部からの移民や難民からなるディアスポラ社会が国境を越境する形で生まれている。しかし一方で、ヨーロッパは地域としての統一的なまとまりが認められることも否定できない。フランス革命・市民革命、王権の廃止、産業革命、植民地支配、第一次世界大戦と第二次世界大戦によるヨーロッパの焦土化、戦後の冷戦体制と1989年から始まる社会主義体制の崩壊、EUの実現と拡大。こうした歴史は、現代ヨーロッパの社会や文化を形作ってきただけではない、世界にも大きな影響を与えてきた。その中でも特に重要なのがキリスト教である。キリスト教の歴史や、思想、哲学、美術、民衆生活などへの影響に着目することを通じてヨーロッパ社会と文化を理解する。本科目を通じて、美術やファッションの世界における創造性の背景となるヨーロッパの多様性と統一性を理解することを達成目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文化論基礎ゼミ	「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」などの文化論系の科目を履修したあと、本科目では、学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
	会計入門	本科目では、国内外の決算書（主に損益計算書と貸借対照表）を読み解き、分析するための知識の習得を目指す。今後の専門的な仕事をするうえで、企業の決算書を読解するための基礎知識は有用なスキルとなる。損益計算書を読み解く力を身につけることで、企業レベルだけではなく、ブランドごとの原価、販売管理費、経常利益率を理解することができる。また貸借対照表を読み解く力を身につけることで、決算書における「投資収益率：ROI」（ブランドに投資した資金を回収するのにかかる期間を示す指標）に着目した在庫とキャッシュフローを理解することができる。ファッション・ビジネスの事例を用いるなど、実践的な会計の基礎知識を習得する。	
	産業論入門	本科目では、産業の構造や動態を分析する方法や視点を学習する。産業の動向は根本的に企業行動が規定しており、企業間関係を通じた各産業の分析が欠かせない。例えば、現代のファッション産業の構造は、互いの分野が密接に関連してサプライチェーンを形成しており、服づくりとしての垂直的統合関係とともに、洋服、洋品アクセサリ、ジュエリー、時計等という商品群の水平的取り揃えが産業の重要な構造となっている。さまざまな産業の事例を取り上げながら産業構造を理解し分析する力を身につける。	
	法学入門	本科目では、今後の専門的な仕事をするうえで、遭遇し得る法律問題に適切に対処するための基礎知識を習得する。講義では、知的財産法以外の法律を事例を挙げつつ概観し、言論の自由を規定する憲法、権利濫用・不法行為等について規定する民法、権利保護のための差止め請求・損害賠償請求の手続きを規定する民事訴訟法、知的財産法違反の罰則に関する規定、独占権たる知的財産権とは表裏をなす独占禁止法、例えばファッション製品に係る消費者法などを取り扱う。	
	地域論入門	本科目では、人間にとって地域とは何かという問いを念頭に、具体的な事例をいくつか取り上げる。現代日本に認められる多様な地域性をもとに日本の知財の活用を提案するための基盤となる知識を学ぶ。特に、世界及び日本の社会や文化の多様性と深く結びついている地理、環境、歴史、政治的など多様な観点から、地域の特徴の捉え方を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フィールドワーク入門	大学での学びのスタイルは、全部で4つある。1つ目に、デスクワークとして書籍や資料を読むこと。2つ目に、実験として、実験室で計量したり観察したりすること。3つ目に、フィールドワークとして、野外で自然や地形、動物を観察すること。4つ目に、本科目で定義するフィールドワークとして、大学の外に出て、具体的な人々の生活に触れ、その生活について学ぶことである。本科目ではその方法論を実践的に学ぶ。具体的には、外に出て職人の世界、企業、店舗を訪ね、話を聞く。これによって、生活と生業の実態を学ぶと同時に、現場で生じている問題を理解し、その解決法をさぐる態度を身につける。さらに、現場からどのような問いを立てればいいのか、という問いを自発的に設定することの重要性や理解を深める。この科目は、職業選択科目において3、4年生の臨地実習1、2の基礎や準備となる科目と位置付ける。	
	社会科学基礎ゼミ	本科目では、「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」などの、社会科学系科目で学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
	メディア概論	本科目では、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について理解できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイスやデジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。特にファッション産業に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生は、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を学ぶ。	
	情報リテラシー	本科目では、情報環境の正しい知識と基礎的な利用方法を修得する。情報化社会におけるコンピュータやインターネット、情報の役割と意義についての問題意識を養うとともに、情報機器などの基本的な操作方法を習得し、その特徴を理解する。情報技術（ICT）の発達及び、インターネットやスマートデバイス等がより身近になる現代において、受講生が今後の専門学習で必要となる基本的な情報リテラシー、情報に関するモラルやマナー等について理解する。	
	環境と社会	本科目では、サステナビリティをキーワードに環境と社会の関係を学ぶ。サステナビリティ及び社会貢献を強く意識したクリエイションやビジネスの考えを、関連する人文科学や社会科学の理論と知見を参照しながら学修する。具体的には、現在人類が直面している、地球温暖化や人口増加、都市環境の悪化などについての知識を獲得し、環境問題に取り組む社会の取り組み等について理解を深める。また複数の企業を取り上げ、サステナビリティの実践について学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語 I	本科目では、英語によるコミュニケーション能力の育成を行う。eラーニングで基本的な運用能力を学びつつ、定期的な個別面接指導で実践的に能力を上げる。目標は、日常生活や具体的なビジネスの場面において、臆することなくコミュニケーションをとる、積極的な姿勢を身につけることである。英語の運用能力は、語彙の豊富化と構文発想の柔軟な多様化にあるため、地道な段階を踏んだ学習が必要であるが、それとともに、積極的な表現実践力の強化を授業に組み込み、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	英語 II	本科目では、「英語 I」を履修した受講生に対し、英語運用能力の上達を図る授業を行う。目標は、CEFR等英語諸検定の高得点獲得(CEFR Cランク程度)であり、自由かつ柔軟、即時対応の表現能力開発に重点を置く。個別面接指導をより頻繁に重ね、履修者の学習状況、進捗状態、問題点の所在等を綿密に把握し、改善の方途を指導する。定期的に英語によるプレゼンテーションの課題を実施し、他者に伝えることを重視した総合的な英語運用能力開発を目指す。	
	フランス語	本科目では、初めてフランス語を学ぶ学生を対象に、初歩的なフランス語でコミュニケーションをとる知識を学ぶ。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。文法の土台も固めながら、フランス語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの基本スキルを総合的に伸ばすことを目標とする。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、フランス語やフランス文化に関する理解を深める。	
	中国語	本科目では、初めて中国語を学習する学生を対象に、初歩的な中国語でコミュニケーションをとる知識を学ぶ。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。文法の土台も固めながら、中国語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの基本スキルを総合的に伸ばすことを目標とする。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国語や中国文化に関する理解を深める。	
	日本語文章表現	本科目では、簡潔で、論理的な日本語の文章を書く能力を養う。受講生は、ファッション産業でも頻繁に使用される企画書や報告書の作成などを想定して、基礎的なテキストを使用しながら、内容を端的にまとめ、説得的に示す修練を行う。同時に、口頭発表の訓練を行い、短時間で的確に意見を述べる修練を行う。講義では、日本語表現の基礎知識について作成されたテキストを使用しつつ、具体的な新聞や業界紙の事例を使用して、企画書やレポートの作成を課して定着を図る。課題は授業内で発表をさせ、受講生が互いに添削を行うという、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。	
	キャリアデザイン論	本科目では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはいかなることかという問いを念頭に、職業や専門的な仕事、社会について深く考察することから、いかに働き、生きるかという、学生が近い将来、社会人として社会で活躍するためのプランと社会に貢献し果たすべき役割について考える。21世紀は国際化、情報化の社会であり、一人ひとりの生き方が改めて問われている。社会人として公共的な考えをもち、職業人としての倫理観を身につけ、自分を知り、自他を認め合うための課題を考え、行動する姿勢を身につける基礎を作る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目	身体とパフォーマンス	<p>身体は、衣服・衣装の原点である。人はこれまで、身体を守り着飾るために衣服を作り出してきた。その意味で、衣服は身体に密接に結びついたものといえよう。本科目では、衣服について考える前に、わたしたちにとって身体とは何か、社会においてわたしたちは身体をどうとらえているか、について学ぶ。</p> <p>身体について考えるとは、具体的には、身体に関する動作や表現、身振り（身体技法）を考えることをさす。例えば、座り方があげられよう。畳に座る、椅子に座るという動作は、実は生得的なものではない。日本でいえば、椅子に座ることを多くの人が明治以降に学習した。慣れ親しんだ身体のあり方から、新たな身体技法を学ぶなかで、人は文化によって異なる身体技法が存在することを学んだ。身体技法の歴史、文化的な違いが衣服のあり方も密接に結びつく。この科目では、身体に注目しつつ、衣服と身体との関係をとらえることを目標にする。</p> <p>日常の身体技法がケ（俗、労働）の世界に属するのに対し、芸能、踊り、演劇など文化的なパフォーマンスに見られる洗練された身のこなしはハレ（聖なる世界、非日常）に属する。そこでは、衣服だけでなく被り物や仮面、アクセサリ、化粧などが全体としてハレの世界を演出する。具体的には、歌舞伎や能楽等の日本の古典芸能を取り上げる。かかる芸能のなかで身体と衣装の関係を考察し、衣服や装飾品、さらに化粧などと身体の関係を理解することを目的とする。</p>	
	造形論入門	<p>表現の領域において最も必要なことは何か。デザイナーであれ、クリエイターであれ、共通に必要とされるのは、まず手や身体への訓練である。そして、視覚や聴覚や触覚など、五感の感覚を研ぎ澄ますことである。それらを鍛えるためには、なにが必要か。本科目では、専門的な実技訓練の前に、見るとはどのようなことか、見て描くとはどのようなことかについて学ぶ。点、線、面、そして立体から空間へとつながる造形の文化を基礎科目として学ぶ。また当然のことながら造形は、現実空間から仮想空間へと常に行き来し動くものである。したがって、あらゆる領域に通じる造形の文化の基礎、その発想の根源を、講義とドローイングなどの身体動作を通じて学ぶ。</p>	
	自然資源と服装文化	<p>衣服の材質には古来より、綿や毛皮などの植物性、動物性の自然繊維を利用してきた。染色には様々な植物の素材が欠かせない。その意味で衣服は自然環境と密接に結びついていた。本科目では、自然環境と衣服との関係を学ぶことで、各地域の生態環境と装いの文化との密接な結びつきを理解することを目的とする。北極から熱帯まで、人間を取り巻く環境は多様であり、自然資源に依拠する衣服もまた多様である。具体的には、日本、中国などの東アジア、インドなどの南アジア、ケニアなどのアフリカ地域の自然資源や環境をとりあげ、自然環境と装いの文化との関係を学ぶ。</p> <p>衣服を構成する繊維として、近年では自然繊維とともに、化繊などの人工繊維もよく使用される。化繊の使用が自然資源を使用した衣服にどのような影響を与えて来たのか、という問題意識から、装いの文化の変化についても理解を深める。さらに、鉱石や金属、毛皮など、装飾品に使用されてきた資源が、繊維資源とともに人間の服装文化にはたしてきた役割も含め、広く自然資源と服装文化の関係をとらえる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	職人の世界	<p>衣服は単純な作業によって作られるものから、複雑な工程を経て生産されるものまでさまざまである。自然資源からつくられた単純な衣服が、だんだんと複雑な仕組みや機能をもつ衣服へと変化する過程で、専門化した職人が重要な役割を果たしてきた。多くの伝統社会において、職人が衣服生産に携わっている。本科目では、衣装の生産に携わる世界各地の職人たちについて、学ぶことで装いの文化の多様性を理解する。</p> <p>注目すべきは、職人がいかに自然素材を装飾品に変えていくのか、という点である。彼らの自然観、そして自然に対する知識や身体に対する知識がいかなるものであるかを学ぶ。これは、専門科目における地方・産地実習において、実技学習の基礎となる科目として位置付けることができる。</p> <p>職人の世界は何も衣服生産だけにとどまるものではない。各種工芸、金属加工など、多様な職人の世界と協力関係を考察の対象にする。</p> <p>現代は、例外はあるにしても衣服が工場で大量に生産される。こうした機械化は職人たちにどのような影響を与えているのだろうか。大量の衣服がグローバルに流通するという現代社会において、地域に特有の装いの文化はどのように変化したのか。さらに伝統的な織りや染めの技術は、いかに保存しかつ継承できるのか。こうした問題意識を念頭に職人の世界の理解を達成する。</p>	
	装いと社会性・ジェンダー	<p>衣服は単に着飾ったり保温守ったりするだけではなく、それを身につけている人の社会的地位を表す記号でもある。本科目では、衣服の社会的な記号としての性格を学ぶ。</p> <p>ここで対象とするのは、衣服だけでなく刺青、ヘアスタイルや装飾品、バッグやメガネ、時計などの持ち物も含まれる。多くの社会では、装いは、社会的な地位や役割を明確に示す。例えば、ベールの民族衣装は、隣接するコミュニティ（民族）との相違を明らかにすることに役立っている。階層や役割を端的に表す場合もある。また年齢にふさわしい服装というものもある。女性の場合、初潮前と初潮の後、あるいは未婚と既婚、寡婦などの地位の変化によって身につける衣服が異なることもある。</p> <p>衣服は、社会的な地位を示すだけでなく、男女の違い（ジェンダー）を際立たせる記号としても重要な役割を果たす。差異化の方法は、社会や文化、時代によって異なる。例えば、イスラームのベールのように、女性の体をすべて覆ってしまう場合もあれば、男女によって衣服の選択に制限がなくユニセックスな衣装が普及している社会もある。衣服はまた男性らしさや女性らしさを表わす。本科目は、記号としての衣装の社会性を理解することを達成目標とする。</p>	
	美とファッションの歴史	<p>衣服一般には、保温など様々な機能が認められるが、ファッションは美と切り離すことはできない。多少不便で身体を酷使することがあっても、美（や格好良さ、個性などを含む）の追求という目的が何よりも優先されるのがファッションである。では、ファッションの世界で美しいとはどういうことなのか。ファッションで追求される美はどのようなものなのか。それは美一般とは異なるのだろうか。本科目の目的は、ヨーロッパにおける美とファッションとの関係を取り上げ、その特徴を理解することである。ファッションが追求する美の特殊性を理解することで、毎年めまぐるしく変わるかに見えるファッションの背後にある価値観を理解する。具体的には、西洋の各時代や様式から代表的な作品を取り上げ理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ブランドの歴史と文化	現在我々が一般的になじんでいるヨーロッパのファッションの発展は、デザイナーを中心とするハウスあるいはメゾン抜きにして考えることはできない。美とファッションの思想的な、言い換えればソフトな側面を「美とファッションの歴史」科目に譲るとすれば、本科目の目的は、ヨーロッパのファッションを取り巻くハードな世界、すなわち政策や経営など制度を学ぶことである。具体的には、著名なブランドとしてシャネルやエルメス、グッチなどを取り上げ、かかるブランドが、卓越したデザイナーの出現からブランドとして成立するまでの歴史（社史）ならびにブランドの仕組みや実態について学ぶ。	
	美容とファッション	美容とは、顔や体つき、肌などの身体を美しく整える技法である。衣服・衣装を中心とするファッションにおいて無視できないものは、顔であり、身体である。それは髪型とともに、イヤリングやネックレスなどの顔の周辺を飾る装飾品全てを含む整えである。さらに、身体の理想的なイメージの歴史や、それを実現するための、痩身などの技法、美容整形などについても取り上げる。本科目の目的は、ファッションとの関係で重視される顔や身体の歴史や技術などについて学ぶことである。	
	色彩論入門	この科目では、色彩に関わる全ての人が深く色について知る事を目的とする。色彩体系が総合的に理解できるように、配色の基礎から配色調和構成法、色の総合的効果、色の性質とはたらき、色の力を実際のビジュアルの事例を読み解きながら学ぶ。ファッションの事例としては、パリ、ロンドン、ニューヨーク、東京で毎年発表されるコレクションの代表的なデザイナーの色と配色を写真をもとに分析する。また、日本の色と形についても同様に分析し、イメージを色と配色で表現するための理論を学ぶ。	
	ファッション論基礎ゼミ	「身体とパフォーマンス」「装いと社会性・ジェンダー」「自然資源と服装文化」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッション」「色彩論入門」「サブカルチャー・スタイル」などの、装いやファッション、美やファッション系科目を履修したあと、本科目では、学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	本科目では、衣服は多様な地域の風土や文化を表す媒体であり、またその産物であることを学ぶ。日本の衣生活特に和服も時代と共に変化を見せている。いかなる自然、社会、文化的な背景から地域に特徴的な服装が醸成されてきたのか。また時代における流行など、人々の感情を左右させる変化をもたらしてきた時代背景とともに、服装史の変遷を歴史的に振り返りながら、服装における美意識や価値、機能、技術など学修する。衣生活・服装史を理解することによって、伝統的な美意識や機能が現在の衣生活に与えている影響を考察するとともに、今後の服装の変遷に関わる洞察力を養う。	
	生活科学入門	本科目では、被服学の基礎となる生活科学（家政学）の全体像に関連させながら、被服の基礎的な知識を学修する。具体的には、被服生理学にあたる被服の機能、被服材料学にあたる被服素材、被服環境学にあたる、人と衣服との関わり、被服の選択と管理、持続可能な衣食住を中心とする生活環境や社会環境などについて理解を深める。従って生活科学の包括性や拡大を考慮しながら、隣接領域および関連領域についても学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ファッションデザイン論	本科目では、ファッションにおけるデザインの重要性を学ぶ。具体的には、ファッションブランド構築のあり方を、歴史的、社会的、文化的に理解し、そこにおけるデザインの重要性と可能性を探る。受講生は今後、自らのファッションブランドを持つと仮定して、デザイン・メソッドとされる4つの基本的な方法論（ファッションディレクション、ファブリック選定、商品モデリング、コレクションマーケティング）を学ぶ。そして、今日のグローバル市場で成長を遂げる「ラグジュアリーブランド」「デザイナーズブランド」「ファスト・ファッション・ブランド」のデザイン・メソッドを理解する。	
	ファッションデザイン実習Ⅰ	衣服とそれに関わる種々のファクターの関係を明らかにしながら、コスチュームデザインの基礎技術を系統的に学び、実践、制作する。特に人体と衣服、衣服と素材、衣服と造形の関係を考察し、衣服をデザインする行為の持つ意味を各人に主体的に捉えさせ、考え方を構築させる。本演習では、芸術作品やデザイン、西洋美術史、ファッション史に現れるファッションなどへのビジュアルリサーチを行い、アイデアを抽出し、イメージをデザイン展開する手法をマスターする。制作においては、3Dソフトで立体から平面を模索したうえで、平面製図技法トワールメイキングにより、デザインイメージを衣服として再構築し、身体上で造形的模索を行う能力を身につける。	
	ファッションデザイン実習Ⅱ	ファッションの理論および制作についてより専門的、実践的な演習を行う。テーマは「日本史服」。クラスをグループ化し各グループコンセプトに従いブランドを構築し実物作品を、制作する。その課程で実践に即したデザイン指導を行う。ブランディングに必要な講義と共に、ブランド戦略に必用なロゴ、レタリング、DM等についても指導し制作を行う。	
	デザイン概論	本科目では、現代社会におけるデザインの意味と必要性を学ぶ。デザインとは何か、その定義を理解したうえで、デザインという概念が誕生した歴史的背景を学ぶ。そしてデザインの目的、役割、その背景にある思想を実践的な事例を通じて考察する。デザインには、人の行動を促すという心理的なアプローチを含めた広義の考え方があるが、こうしたデザインに関する概念や発想を体系的に学ぶとともに、これを身近な製品に汎用させながら、ファッション・デザインの意味と必要性を考察する。	
	パターンメイキング	本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要なパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。 本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける	
	テキスタイル基礎	本科目では、テキスタイル（生地）の基礎知識を学習する。天然素材、化学・合繊素材、皮革といった異なる素材の織や編みの組織に関する知識を学ぶ。同時に、外観や肌触りといった生地のテクスチャー（風合い）に関する分類能力を身につける。生地の基礎知識や生地質感の分類能力は、ファッション商品における生地コストを意識した製品づくりに不可欠であり、またデザインや商品制作の段階において創造性を担保する重要な要素でもある。実際の現場では、テキスタイルの供給は、国内産地とともに海外産地からなされている。テキスタイルに関する世界共通の名称や質感の把握についても併せて理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	感性工学	この科目では、ファッション商品の購買客である「消費者」の持つ「好み」や「感性」をイメージ的に分析し、各消費者の異なった「スタイリング・イメージ」を直感的に見分け分類できる能力を身に付けていただく。ただ、「目利き」としての「感性分類」仕分け能力だけではなく、ファッション消費者の「写真」や「動画」を感性軸を活用して科学的に分析して、定量化する「データ・サイエンティスト」としての解析能力を身に付けていただく必要がある。したがって、この科目では画像解析を中心とした「人口知能」AIの実習時間を組み込みたいと思っています。	
ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	本科目では、ファッションビジネスとは何か。現在までのその発達と変移を知り、その多様性と魅力を知る。ファッションビジネスを構成する各産業の構造とその業務、職種、流通の仕組みを理解する。経済学・経営学の基礎知識をふまえ、ファッションマーケティングおよびファッションマーチャダイジングの概念を理解する。ファッション情報の種類とその収集・分析方法を知る。総合的にファッションビジネスをとらえ、事例研究を通じ、問題発見力を向上させることを目的とする。	
	国際ファッション市場論	本科目では、世界のファッション市場について学ぶ。具体的には、まず、日本のアパレル市場の推移と現状、そして今後の趨勢を把握する。そして日本と比較する形で、欧米やアジアなどのアパレル市場の特徴を、消費者の多様化する嗜好を的確に捉えた企業の成功例から読み解く。国際的なアパレル市場全体を俯瞰しつつ、各地域の市場の特徴とメインプレイヤー、彼らの戦略などに関して検討する。	
	ファッションビジネス実習Ⅰ	本科目では、市場や消費者のニーズに応えるための実践的な企画、プロデュースの方法を学ぶ。ファッション業界の変遷をふまえて、市場動向を予測する能力や的確な商品価値を生み出すような判断能力を鍛える。基本的な商品企画と販売戦略に関する技術や知識を実践的に高める。	
	ファッションビジネス実習Ⅱ	本科目では、市場や消費者のニーズに応えるための実践的な企画、プロデュースの方法を応用して、ビジネスモデルの構想や作成を行う。具体的なビジネスモデルの分析や構想などを通じて、ファッション市場や消費者の動向を予測する能力や的確な商品価値を生み出すような判断能力を鍛える。商品企画と販売戦略に関する技術や知識を実践的に高める。	
	国際ビジネスモデル特講Ⅰ	本科目では、グローバルに展開されるビジネスの歴史と仕組みについて学習する。特に、産業革命以降、世界のビジネスにおいて大きな比重を占め、また衰退も経験してきたヨーロッパ地域におけるビジネスの歴史と仕組みを学ぶ。授業を通じて、今日のヨーロッパ各国で成功しているファッションブランドのビジネスモデルを、他の業種も含めたビジネスモデルの系統と分類に位置づけ理解する。講義ではイギリス、イタリア、ドイツ、フランス、北欧諸国を取り上げる。各地域の歴史的、政治的、経済的、社会的、文化的背景を鑑みつつ、ヨーロッパ地域でみられるビジネスモデルのあり方を学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際ビジネスモデル特講Ⅱ	本科目では、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ」を履修した受講生が、アメリカ合衆国で展開されるビジネスモデルの特徴を理解することを目指す。今日の世界経済で大きな比重を持つ合衆国において展開されたビジネスの歴史と仕組みを学ぶ。マスマーケティングに代表される大量生産、大量流通、大量広告といった大企業中心のビジネスモデルを取り上げるとともに、シリコンバレーなどで成功を収めた新興企業のモデルについて概観する。授業を通じて、今日の合衆国で成功しているファッションブランドのビジネスモデルを、他の業種も含めたビジネスモデルの系統と分類に位置づけ理解する。	
	創造産業論	本科目では、創造産業（クリエイティブ・インダストリー）について学ぶ。現在、デザインなどのクリエイションは、イノベーションと関わるデザイン思考への注目とともに、創造産業として注目されている。本科目では、多様な分野、例えば、情報やコンテンツ、医療などのさまざまな産業分野の事例と比較しつつ、ファッション業界における模倣から創造への転換を学ぶ。経済・経営学上の歴史と理論の両方からファッションの創造産業としての役割と性質について理解する。	
	マーケティング論	本科目では、マーケティング論の全体像を理解し、基礎的な用語や考え方を習得する。マーケティングとは、企業が存続、成長するために必要な売上や利益を、製品やサービスの提供を通じて実現する活動である。市場の成熟化、ニーズの多様化、技術の成熟化、競争の国際化が進むなかで企業経営におけるマーケティングは重要である。本科目では、企業のマーケティングの全体像について、具体的な事例を交えながら講義を行う。	
	消費者行動論	本科目では、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習する。消費者行動とは、消費者がいかにか商品を選ぶのかについて考えることである。消費者の行動は微妙なものに左右されることが多い。これまでよく売れていたブランドが突然売れなくなったとき、消費者の行動を規定したものは一体何か、これを考えることが必要となる。消費者認知・消費者態度・消費者行動の3つの視点をカギに、消費者の行動を規定する心理プロセス、消費者行動を規定する様々な要因、ブランドと消費者のコミュニケーションのあり方など、具体的事例を交え、さまざまな角度から理解する。	
	知財論	ファッションに関係する知的財産—商標、意匠（デザイン）、不正競争、著作権等—の法制度について概観し、ファッションビジネスに携わる者が必要とする知識を習得することを目的とする。ファッション関係の実際の事例により、一方では、知的財産権による自己の創作の保護及び権利主張、他方では、他人の権利を侵害しない予防策、という両面について検討する。創作について十分な保護を得るためには、複数の知財（商標と意匠、など）による検討が必要であるので、知財の多面的活用を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際ファッション業界英語	本科目では、ファッション産業業界に特化した英語運用能力を学習する。目標は、履修者が自ら英語で企画書を作成し、それをわかりやすく英語でプレゼンテーションできるようになることである。そのために、毎回の授業では数名に課題を発表させ、クラス全員が同じく英語で質疑応答を行う時間を設ける。企画が正確に伝わっているかどうかを確認すると同時に、より適切な表現はないかを指導する。こうした指導を繰り返し行うことで、実践的にファッション産業業界で使用される英語を身につける。	
メディア科目群	写真概論	本科目では、静止画（写真）の役割とプロフェッショナルな静止画撮影技術の基礎を学ぶ。写真は19世紀半ばより現在まで、ファッション産業において商品の伝達手段として大きな役割を担ってきた。写真技術とともに機材の工学的発達に合わせて表現方法も多様化し、写真は商品の製作者と消費者の双方にとってますます欠かせない媒体となっている。講義を通じて、特にファッション産業界における写真技術、写真の果たす役割を歴史的に理解する。同時に、実践的にプロフェッショナルな静止画撮影・画像製作の基礎技術を学ぶ。	
	映像概論	本科目では、動画の役割とプロフェッショナルな動画撮影技術の基礎を学ぶ。動画は、テレビ、コマーシャルなどのマスメッセージの普及、デジタル処理技術の進歩やインターネットの拡大により、情報伝達手段としての役割を急速に拡大している。個人が容易に動画を発信することが可能になっている現在、プロフェッショナルなコンテンツの制作がますます重要視されている。講義を通じて、特にファッション産業界における動画技術、動画の果たす役割を歴史的に理解する。同時に、実践的にプロフェッショナルな動画撮影、コンテンツ制作の基礎技術を学ぶ。	
	写真実習	本科目では、「写真概論」を履修した受講生が、実践的でプロフェッショナルな静止画を撮影できるようになることを目指す。本科目では、まずVOGUEやBAZZARなどの国際的な高級ファッション雑誌の写真を研究し、制作者側のコンセプトや、ファッションデザインと表現方法の関連性を考察する。また、こうした研究や考察の結果を再現する学習経験を行う。そのうえで、各受講生は自ら思い描く静止画のコンセプト作りを行う。静止画のイメージを具現化するために必要な物を集め、実際の現場で使用される機材を用い、発信手段を考慮したプロフェッショナルな撮影・レタッチなどの製作技術を習得する。「写真概論」の継続・応用科目である。	
	映像実習	本科目では、「映像概論」を履修した受講生が、実践的でプロフェッショナルな動画を撮影できるようになることを目指す。本科目では、世界的に著名なファッションブランドが示すコレクションのイメージ動画を研究する。受講生は、動画において表現されているコンセプトは何か、動画を通じて理念や感覚といった直接目には見えないものが視聴者にいかに伝わり、理解や共感を生んでいるかを分析し、発表する。同時に、各受講生は自ら思い描く短い動画のコンセプト作りを行う。イメージを具現化するために必要な物を集め、実際の現場で使用される機材を用い、発信手段を考慮したプロフェッショナルな撮影・レタッチなどの制作技術を習得する。「映像概論」の継続・応用科目である。	
地域・地方科目群	地域企業・地方連携ゼミ	本科目は、これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に地域企業や地方産地で実践的に学ぶなかで、必要となる問題設定と成果発表を行う場である。受講生は自ら問題意識を明確化し、各人が課題を選択し、実習の計画をたてる。そのための発表を行うとともに、実習で得られた成果をもとにさらなる課題を発掘し、卒業制作へ向けた準備をする場と位置付ける。受講生は、「臨地実習Ⅰ（企業）」、「臨地実習Ⅱ（地方産地）」で学ぶ内容を計画し、また実習後に学んだ内容を発表する。企業や産地がいかなる歴史的、地理的、文化的背景や価値をもつのか、そこで得られる伝統的技術や現代的な仕事のありようとは何かについて、これまでの基礎科目と職業専門科目で学んだ内容をもとにリサーチし理解を深めていく。臨地実習での成果を有効に引き出すための準備とフィードバックを行うことを目的とする。 □	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	臨地実習Ⅰ(企業)	<p>これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に企業や組織のなかで学ぶ科目である。本科目では、日本国内、特に東京や大阪、名古屋など都市部に位置するアパレル、テキスタイルメーカー等に、各受講生が訪問する。そこで、デザイン、パターン、マーチャンダイジングなどの仕事について基本的な仕事の流れや役割を学ぶ。</p> <p>目標は、ファッションに関する仕事への理解を深めることとともに、専門職としての自覚を促すことである。各自のキャリアプランを固めていき、統合ゼミ等での発表を行う際に必要な知識を得る機会となる。ことを達成目標とし実習する。</p> <p>なお、本実習と地方・地域企業連携ゼミは有機的に結びついており、受講生は実習前にゼミで実習の計画を発表する機会をもつ。また実習後にゼミでその成果を発表する。</p>	共同	
	臨地実習Ⅱ(地方産地)	<p>これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に地方産地のなかで学ぶ科目である。本科目では、日本国内、特に素材産地である、京都の黄櫨染、大阪のリバーレース、和歌山の横編みの素材、意匠、事業所やメーカー等に、各受講生が訪問する。受講生と教員、産地の実習先の方々と相互に交流を深め学ぶ場を各地に設け、教員は各受講生の進捗を確認する。フィールドワーク入門や職人の世界等の基礎科目で学んだ知識を活かし、また職業専門科目で学んだ技術を活かし、素材産地の歴史的、地理的、文化的背景への知識を深め、伝統的技術を学ぶ。受講生は、産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見いだすことを達成目標とする。</p> <p>なお、本実習と地方・地域企業連携ゼミは有機的に結びついており、受講生は実習前にゼミで実習の計画を発表する機会をもつ。また実習後にゼミでその成果を発表する。</p>	共同	
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	<p>本科目では、持続可能な社会経済産業のあり方を考える。近年、サステナブルな地域、地球環境を考慮した取り組みが、学界及び実業界で推進されている。こうした取り組みには特定分野の枠を超えた柔軟な発想が欠かせない。学問の領域では、人文社会系及び自然科学系の横断的な発想を基に多角的なアプローチがなされている。本科目では、人間社会と地球環境の調和をめざして取り組まれている、さまざまなビジネスの実践的内容と歴史、社会、文化、経済、自然など多様な分野の知見を教員の各専門分野から問題提起し、各学生は今後の課題発見につながる分析視角を身につける。</p>	
		地域産業・大阪論	<p>経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象との関係でイノベーションや創発を基軸に据えて発想することが求められている。本科目では、このような要請に応えるために、地方の経済的困窮や地域創生の取り組みについての理解を深める。具体的には、大きく理論編と事例編から構成される。理論編では、産業分類の中の地域産業や産業集積論を理解し、事例編では、関西地域の地域産業、産業集積及び立地の背景にある大阪、京都、神戸の織物産地の産業再生や地方創生に関して課題発見につながる分析視角を身につける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	産業とメディアデザイン	本科目では、メディアに関する基礎科目を履修した受講生に対し、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について討議できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイス、デジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。さまざまな産業に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生には、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を考える課題を課す。	
	デジタルテクノロジー演習	本科目では、デジタルテクノロジーの視点から、さまざまな産業におけるクリエイション、およびビジネスに関連するデジタル環境の現状や問題点についての知見を深める。近年、すべての「事象」が大きなスピードをもって「デジタル化」されようとしている。作品制作それ自体において3Dプリンタなどが利用されており、ホームページ上では個々の顧客の特性を踏まえたレコメンデーション機能の充実なども求められている。現代のファッションクリエイション、ならびにファッションビジネスにおいて、創造的な役割を果たすために必要なデジタルテクノロジー環境に対する知識と技能を学ぶ。	
	サブカルチャー・スタイル	本科目では、主流から外れるような文化実践の生成、そのあり方、またそこから主流に影響を与えたり、取り込まれていくプロセスについて、その背景と共に学ぶことを目的とする。こうした主流の周縁で生じる文化実践をここではサブカルチャーと位置付ける。典型的なものとして、自分たちの考え方やライフスタイルを表現するような若者のストリートファッションやパンク、現代アートなど、また、演劇・音楽・マンガ・アニメなどの「クールジャパン」という名称で親しまれているような、さまざまな関連する分野の事例をあげ、理解をすすめる。サブカルチャーやアートを、消費される対象としてのみとらえることなく、同時代的に作られるものとして生成する過程を理解し、その現代的かつ文化的社会的な意義を学ぶ。各受講生がめざす職業分野において、国内外で新たな価値を創造し、展開をしていくために必要な視点や知識を学ぶ。	
	広告・PR論	本科目では、広告・PRの基礎的な知識や考え方を学ぶ。広告・PRはメディアを通じて提供されるコンテンツである。そのコンテンツが消費文化においてはたす機能と役割を学び、広告・PR産業についての理解を深める。そして広告・PRの具体的な事例を通じて、実践的な広告・PRの企画を学ぶ。	
国際科目群	国際知財論	本科目では、国際的な知財戦略を立てるのに必要な基礎知識の習得を目指す。特にファッションブランドの保護という観点から、国際的な知的財産関係の国際条約を概観し、各国で保護を得るための国際出願（商標、意匠、特許）、優先権主張の手続き等について解説する。また欧州、アジア各国、米国等の主要国をとりあげ、ファッション知財保護の実態や国ごとの相違点を理解する。具体的には、ブランド品等の真正商品の並行輸入、権利の国際消尽、国境をまたぐインターネット上の取引等の実務上の問題を中心に扱う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際連携ゼミ	<p>本科目は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識・技術をもとに、欧州、米国、アジア諸地域から招聘した客員教授を交えた演習を実施する。各受講生は、自ら選定したテーマについてこれまでの地方・地域企業連携ゼミ等で作成したコンセプトを発表する。各受講生は、基本的に英語を用いて発表を行う。これまで培ってきた語学・コミュニケーション能力を再確認するとともに、卒業後、国際的にファッション市場において自立するための、海外へむけた発信を行う準備と学習の場と位置づける。</p> <p>なお、本ゼミと海外実習の科目は有機的に結びついており、受講生は海外実習前に、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表する機会をもつ。また海外実習後に、本国際連携ゼミでその成果を発表する。受講生にとって、有効なサポートとフィードバックを提供する。</p>	共同
	海外実習Ⅰ	<p>本科目は、学生を海外に派遣して実践的に将来の仕事学ぶ機会をもつ、インターンシップの場と位置付ける。各受講生は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識技術を活かして、欧州、米国、アジア諸地域の企業や組織に赴き、インターンとして従事する。そこで、自らの語学・コミュニケーション能力を含む、職業的専門知識や技術、総合的な基礎力を確認するとともに、現場でしか経験できない実践的な学習を行う。</p> <p>なお、本実習科目と国際連携ゼミの科目は有機的に結びついており、海外実習から帰国した学生は、国際連携ゼミでその成果を発表する機会を持つ。また、海外実習前には、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表し、受講生にとって有効なサポートとフィードバックを提供する。</p>	共同
	海外実習Ⅱ	<p>本科目は、海外実習Ⅰを履修し、さらに海外に関しての知見を深めたい学生が参加する。海外実習Ⅰ同様、学生を海外に派遣して実践的に将来の仕事学ぶ機会をもつ、インターンシップの場と位置付ける。各受講生は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識技術を活かして、欧州、米国、アジア諸地域の企業や組織にインターンとして従事する。そこで、自らの語学・コミュニケーション能力を含む、職業的専門知識や技術、総合的な基礎力を確認するとともに、現場でしか経験できない実践的な学習を行う。</p> <p>なお、本実習科目と国際連携ゼミの科目は有機的に結びついており、海外実習から帰国した学生は、国際連携ゼミでその成果を発表する機会を持つ。また、海外実習前には、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表し、受講生にとって有効なサポートとフィードバックを提供する。</p>	共同
④ 総合科目	統合指導ゼミⅠ	<p>自ら興味を持つ、多様な社会、文化、自然、ファッション、ビジネスなどに関する基本文献を読み、発表を行うことを中心に授業を進める。その中で自分の探究すべき分野、テーマをさらに具体的にとらえなおし、どのような問いを立てればよいのか、発見するよう指導する。アクティブ・ラーニングの手法を大幅に取り入れ、自発的、積極的に学習に取り組む。問題意識をもって卒業制作に結びつけるようにする。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	統合指導ゼミⅡ	各自が設定する卒業制作に向けたコンセプトの発表とそれについてのディスカッション、担当者による総合的な講評を中心に進める。適宜、映像や美術館、博物館などの専門家を招聘する、もしくは、フィールド・ワークなども行う。アクティブ・ラーニングの視点から、主体的に授業に関わるよう導く。少人数クラス編成で、個別指導を主体とする。	共同
	卒業制作・計画	本科目では、4年間の学習の集大成として卒業制作を位置づけ、受講生にその制作と発表を課す。受講生は自らテーマを決定し、指導を受けたい教員のゼミに所属し制作を行う。指導教員は、これまでのゼミ指導教員である必要はない。また副指導教員としてテーマに相応しい教員を見つけ、適宜指導を受けることができる。本学の卒業制作には、その本編と作品に加え、取り組み資料等を集約した文書一式が含まれる。その評価は、カリキュラムポリシーにおける総合的なデザイン力、プレゼンテーション力の習得と強化の目的を謳うように、発表を含む総合的な評価となる。制作の計画および条件等の詳細は別途指示されるが、受講生は前期初旬に卒業制作のテーマを決定し、趣旨書と展示計画書等を作成する。これらの企画案は前期中に公表し、教員による審査と指導を受ける。後期初旬の中間発表会では、取り組みの経過をその成果とともに公表し、審査と指導を受ける。後期下旬には完成した制作の成果を提出するとともに、指定された日に卒業制作展および公聴会を行い、審査を受ける。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
① 基礎 科目	比較文化論	文化とは何か。本科目では、私たちの生活全般に影響を与えている文化について具体的な事例をあげて考え、学ぶことを目的とする。 文化は一般に、生活様式あるいはライフスタイルと定義されている。地域や国によってライフスタイルは大きく異なる。文化の重要な要素の一つは、衣・食・住といった物質文化である。加えて、芸能・芸術や宗教、価値観や考え方を含む総体が文化となる。装いや装飾品、化粧品などを理解するにあたっては、文化の一部としてこれらを考えることが重要になる。こうした視点を学ぶ科目として、比較文化論を位置付ける。 まず、文化とは人々の生活に大きな影響を与えるが、それは絶対的なものではなく、地域が異なれば変化する、相対的なものである。ある社会で積極的に求められているものが、別の社会では無視されたり否定的な要素として禁止されていたりする。具体的にはアジアやアフリカの文化を取り上げて、その多様性を学ぶ。これによって、文化相対主義という考え方を学ぶ。これは、日本文化ほど繊細なものはない、アフリカは野蛮だ、といった自分の文化を中心に異文化を蔑む視点が、時に深刻な人種差別や偏見に通じるという観点から提案された考え方である。比較文化ではまた、民衆に密着した生活様式に注目する。歌舞伎や能、その他の美術品などの国宝を、世界に誇れる日本文化の典型として慣れ親しんできたかもしれない。しかし、日本各地に継承されてきた工芸や和菓子など、名もない職人が生み出す作品については十分な理解がなされてきたとは言いがたい。比較という視点から、文化相対主義の考え方を学び、伝統文化に触れて文化の理解を深めることを達成目標とする。	
	現代文化論	比較文化論で考察の対象としていた文化が、どちらかといえば伝統的な社会文化であるとするならば、本科目では、現代文化論として、産業革命以降の人類の営みについて考察をしたい。工場で大量に生産される商品、その流通システム、消費活動、都市社会、高度な交通手段の発達、技術革新など現代につながる社会変化（近代化、市場経済の浸透、世俗化、都市化、消費社会の出現、インターネットの普及など）とそれに付随する文化の変化や拡大について考える。グローバル化が進む現代、大量の情報、人、物が移動している。インドのサリーのような民族衣装を日本で居ながらにして購入することができる一方、購入品の中にはメイド・イン・ジャパンのサリーが混じっていることもある。フランスや日本のブランド商品でも生産されるのは外国であることも多い。衣服はもともと文化圏を越境する傾向があったが、近年そのような傾向がますます強まっている。フランスでは、ムスリムの女性がヴェールを着用することについて社会問題となっている。他文化との接触、さらには多文化状況の出現がどのような変化をもたらしているのか。どのような可能性や葛藤、混乱が生じているのか。具体的には、現代の日本（東アジア）、インド（南アジア）、欧米諸地域などの事例を通じて、激動する現代社会を理解することを達成目標とする。	
	ヨーロッパの社会と文化	ヨーロッパとは一般に、ユーラシア大陸西端にある地域名として理解されているが、ヨーロッパ社会の内情は多様である。本科目の目的は、現代のファッションを学ぶにあたって、その背景となるヨーロッパの社会と文化を学ぶことである。その成立の歴史をたどると、ヨーロッパは、社会的にも非常に多様で、また統合と分裂を繰り返してきた。現代のヨーロッパには、多くの民族とそれに基づく国民国家、さらにはヨーロッパ外部からの移民や難民からなるディアスポラ社会が国境を越境する形で生まれている。しかし一方で、ヨーロッパは地域としての統一的なまとまりが認められることも否定できない。フランス革命・市民革命、王権の廃止、産業革命、植民地支配、第一次世界大戦と第二次世界大戦によるヨーロッパの焦土化、戦後の冷戦体制と1989年から始まる社会主義体制の崩壊、EUの実現と拡大。こうした歴史は、現代ヨーロッパの社会や文化を形作ってきただけではない、世界にも大きな影響を与えてきた。その中でも特に重要なのがキリスト教である。キリスト教の歴史や、思想、哲学、美術、民衆生活などへの影響に着目することを通じてヨーロッパ社会と文化を理解する。本科目を通じて、美術やファッションの世界における創造性の背景となるヨーロッパの多様性と統一性を理解することを達成目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文化論基礎ゼミ	「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」などの文化論系の科目を履修したあと、本科目では、学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
	会計入門	本科目では、国内外の決算書（主に損益計算書と貸借対照表）を読み解き、分析するための知識の習得を目指す。今後の専門的な仕事をするうえで、企業の決算書を読解するための基礎知識は有用なスキルとなる。損益計算書を読み解く力を身につけることで、企業レベルだけではなく、ブランドごとの原価、販売管理費、経常利益率を理解することができる。また貸借対照表を読み解く力を身につけることで、決算書における「投資収益率：ROI」（ブランドに投資した資金を回収するのにかかる期間を示す指標）に着目した在庫とキャッシュフローを理解することができる。ファッション・ビジネスの事例を用いるなど、実践的な会計の基礎知識を習得する。	
	産業論入門	本科目では、産業の構造や動態を分析する方法や視点を学習する。産業の動向は根本的に企業行動が規定しており、企業間関係を通じた各産業の分析が欠かせない。例えば、現代のファッション産業の構造は、互いの分野が密接に関連してサプライチェーンを形成しており、服づくりとしての垂直的統合関係とともに、洋服、洋品アクセサリ、ジュエリー、時計等という商品群の水平的取り揃えが産業の重要な構造となっている。さまざまな産業の事例を取り上げながら産業構造を理解し分析する力を身につける。	
	法学入門	本科目では、今後の専門的な仕事をするうえで、遭遇し得る法律問題に適切に対処するための基礎知識を習得する。講義では、知的財産法以外の法律を事例を挙げつつ概観し、言論の自由を規定する憲法、権利濫用・不法行為等について規定する民法、権利保護のための差止め請求・損害賠償請求の手続きを規定する民事訴訟法、知的財産法違反の罰則に関する規定、独占権たる知的財産権とは表裏をなす独占禁止法、例えばファッション製品に関係する消費者法などを取り扱う。	
	地域論入門	本科目では、人間にとって地域とは何かという問いを念頭に、具体的な事例をいくつか取り上げる。現代日本に認められる多様な地域性をもとに日本の知財の活用を提案するための基盤となる知識を学ぶ。特に、世界及び日本の社会や文化の多様性と深く結びついている地理、環境、歴史、政治的など多様な観点から、地域の特徴の捉え方を学ぶ。	
	フィールドワーク入門	大学での学びのスタイルは、全部で4つある。1つ目に、デスクワークとして書籍や資料を読むこと。2つ目に、実験として、実験室で計量したり観察したりすること。3つ目に、フィールドワークとして、野外で自然や地形、動物を観察すること。4つ目に、本科目で定義するフィールドワークとして、大学の外に出て、具体的な人々の生活に触れ、その生活について学ぶことである。本科目ではその方法論を実践的に学ぶ。具体的には、外に出て職人の世界、企業、店舗を訪ね、話を聞く。これによって、生活と生業の実態を学ぶと同時に、現場で生じている問題を理解し、その解決法をさぐる態度を身につける。さらに、現場からどのような問いを立てればいいのか、という問いを自発的に設定することの重要性や理解を深める。この科目は、職業選択科目において3、4年生の臨地実習1、2の基礎や準備となる科目と位置付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会科学基礎ゼミ	本科目では、「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」などの、社会科学系科目で学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
	メディア概論	本科目では、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について理解できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイスやデジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。特にファッション産業に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生は、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を学ぶ。	
	情報リテラシー	本科目では、情報環境の正しい知識と基礎的な利用方法を修得する。情報化社会におけるコンピュータやインターネット、情報の役割と意義についての問題意識を養うとともに、情報機器などの基本的な操作方法を習得し、その特徴を理解する。情報技術（ICT）の発達及び、インターネットやスマートデバイス等がより身近になる現代において、受講生が今後の専門学習で必要となる基本的な情報リテラシー、情報に関するモラルやマナー等について理解する。	
	環境と社会	本科目では、サステナビリティをキーワードに環境と社会の関係を学ぶ。サステナビリティ及び社会貢献を強く意識したクリエイションやビジネスの考えを、関連する人文科学や社会科学の理論と知見を参照しながら学修する。具体的には、現在人類が直面している、地球温暖化や人口増加、都市環境の悪化などについての知識を獲得し、環境問題に取り組む社会の取り組み等について理解を深める。また複数の企業を取り上げ、サステナビリティの実践について学修する。	
	英語 I	本科目では、英語によるコミュニケーション能力の育成を行う。eラーニングで基本的な運用能力を学びつつ、定期的な個別面接指導で実践的に能力を上げる。目標は、日常生活や具体的なビジネスの場面において、臆することなくコミュニケーションをとる、積極的な姿勢を身につけることである。英語の運用能力は、語彙の豊富化と構文発想の柔軟な多様化にあるため、地道な段階を踏んだ学習が必要であるが、それとともに、積極的な表現実践力の強化を授業に組み込み、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	英語 II	本科目では、「英語 I」を履修した受講生に対し、英語運用能力の上達を図る授業を行う。目標は、CEFR等英語諸検定の高得点獲得（CEFR Cランク程度）であり、自由かつ柔軟、即時対応の表現能力開発に重点を置く。個別面接指導をより頻繁に重ね、履修者の学習状況、進捗状態、問題点の所在等を綿密に把握し、改善の方途を指導する。定期的に英語によるプレゼンテーションの課題を実施し、他者に伝えることを重視した総合的な英語運用能力開発を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フランス語	本科目では、初めてフランス語を学ぶ学生を対象に、初歩的なフランス語でコミュニケーションをとる知識を学ぶ。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。文法の土台も固めながら、フランス語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの基本スキルを総合的に伸ばすことを目標とする。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、フランス語やフランス文化に関する理解を深める。	
	イタリア語	本科目では、初めてイタリア語を学ぶ学生を対象に、初歩的なイタリア語でコミュニケーションをとる知識を学ぶ。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。文法の土台も固めながら、イタリア語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの基本スキルを総合的に伸ばすことを目標とする。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、イタリア語やイタリア文化に関する理解を深める。	
	中国語	本科目では、初めて中国語を学習する学生を対象に、初歩的な中国語でコミュニケーションをとる知識を学ぶ。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。文法の土台も固めながら、中国語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの基本スキルを総合的に伸ばすことを目標とする。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国語や中国文化に関する理解を深める。	
	日本語文章表現	本科目では、簡潔で、論理的な日本語の文章を書く能力を養う。受講生は、ファッション産業でも頻繁に使用される企画書や報告書の作成などを想定して、基礎的なテキストを使用しながら、内容を端的にまとめ、説得的に示す修練を行う。同時に、口頭発表の訓練を行い、短時間で的確に意見を述べる修練を行う。講義では、日本語表現の基礎知識について作成されたテキストを使用しつつ、具体的な新聞や業界紙の事例を使用して、企画書やレポートの作成を課して定着を図る。課題は授業内で発表をさせ、受講生が互いに添削を行うという、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。	
	キャリアデザイン論	本科目では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはいかなることかという問いを念頭に、職業や専門的な仕事、社会について深く考察することから、いかに働き、生きるかという、学生が近い将来、社会人として社会で活躍するためのプランと社会に貢献し果たすべき役割について考える。21世紀は国際化、情報化の社会であり、一人ひとりの生き方が改めて問われている。社会人として公共的な考えをもち、職業人としての倫理観を身につけ、自分を知り、自他を認め合うための課題を考え、行動する姿勢を身につける基礎を作る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目 ファッション科目群	身体とパフォーマンス	<p>身体は、衣服・衣装の原点である。人はこれまで、身体を守り着飾るために衣服を作り出してきた。その意味で、衣服は身体に密接に結びついたものといえよう。本科目では、衣服について考える前に、わたしたちにとって身体とは何か、社会においてわたしたちは身体をどうとらえているか、について学ぶ。</p> <p>身体について考えるとは、具体的には、身体に関する動作や表現、身振り（身体技法）を考えることをさす。例えば、座り方があげられよう。畳に座る、椅子に座るという動作は、実は生得的なものではない。日本でいえば、椅子に座ることを多くの人が明治以降に学習した。慣れ親しんだ身体のあり方から、新たな身体技法を学ぶなかで、人は文化によって異なる身体技法が存在することを学んだ。身体技法の歴史、文化的な違いが衣服のあり方も密接に結びつく。この科目では、身体に注目しつつ、衣服と身体との関係をとらえることを目標にする。</p> <p>日常の身体技法がケ（俗、労働）の世界に属するのに対し、芸能、踊り、演劇など文化的なパフォーマンスに見られる洗練された身のこなしはハレ（聖なる世界、非日常）に属する。そこでは、衣服だけでなく被り物や仮面、アクセサリ、化粧などが全体としてハレの世界を演出する。具体的には、歌舞伎や音楽等の日本の古典芸能を取り上げる。かかる芸能のなかで身体と衣装の関係を考察し、衣服や装飾品、さらに化粧などと身体の関係を理解することを目的とする。</p>	
	造形論入門	<p>表現の領域において最も必要なことは何か。デザイナーであれ、クリエイターであれ、共通に必要とされるのは、まず手や身体の訓練である。そして、視覚や聴覚や触覚など、五感の感覚を研ぎ澄ますことである。それらを鍛えるためには、なにが必要か。本科目では、専門的な実技訓練の前に、見えるとはどのようなことか、見て描くとはどのようなことかについて学ぶ。点、線、面、そして立体から空間へとつながる造形の文化を基礎科目として学ぶ。また当然のことながら造形は、現実空間から仮想空間へと常に行き来し動くものである。したがって、あらゆる領域に通じる造形の文化の基礎、その発想の根源を、講義とドローイングなどの身体動作を通じて学ぶ。</p>	
	自然資源と服装文化	<p>衣服の材質には古来より、綿や毛皮などの植物性、動物性の自然繊維を利用してきた。染色には様々な植物の素材が欠かせない。その意味で衣服は自然環境と密接に結びついていた。本科目では、自然環境と衣服との関係を学ぶことで、各地域の生態環境と装いの文化との密接な結びつきを理解することを目的とする。北極から熱帯まで、人間を取り巻く環境は多様であり、自然資源に依拠する衣服もまた多様である。具体的には、日本、中国などの東アジア、インドなどの南アジア、ケニアなどのアフリカ地域の自然資源や環境をとりあげ、自然環境と装いの文化との関係を学ぶ。</p> <p>衣服を構成する繊維として、近年では自然繊維とともに、化繊などの人造繊維もよく使用される。化繊の使用が自然資源を使用してきた衣服にどのような影響を与えて来たのか、という問題意識から、装いの文化の変化についても理解を深める。さらに、鉱石や金属、毛皮など、装飾品に使用されてきた資源が、繊維資源とともに人間の服装文化にはたしてきた役割も含め、広く自然資源と服装文化の関係をとらえる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	職人の世界	<p>衣服は単純な作業によって作られるものから、複雑な工程を経て生産されるものまでさまざまである。自然資源からつくられた単純な衣服が、だんだんと複雑な仕組みや機能をもつ衣服へと変化する過程で、専門化した職人が重要な役割を果たしてきた。多くの伝統社会において、職人が衣服生産に携わっている。</p> <p>本科目では、衣装の生産に携わる世界各地の職人たちについて、学ぶことで装いの文化の多様性を理解する。</p> <p>注目すべきは、職人がいかに自然素材を装飾品に変えていくのか、という点である。彼らの自然観、そして自然に対する知識や身体に対する知識がいかなるものであるかを学ぶ。これは、専門科目における地方・産地実習において、実技学習の基礎となる科目として位置付けることができる。</p> <p>職人の世界は何も衣服生産だけにとどまるものではない。各種工芸、金属加工など、多様な職人の世界と協力関係を考察の対象にする。</p> <p>現代は、例外はあるにしても衣服が工場で大量に生産される。こうした機械化は職人たちにどのような影響を与えているのだろうか。大量の衣服がグローバルに流通するという現代社会において、地域に特有の装いの文化はどのように変化したのか。さらに伝統的な織りや染めの技術は、いかに保存しかつ継承できるのか。こうした問題意識を念頭に職人の世界の理解を達成する。</p>	
	装いと社会性・ジェンダー	<p>衣服は単に着飾ったり保温守ったりするだけではなく、それを身につけている人の社会的地位を表す記号でもある。本科目では、衣服の社会的な記号としての性格を学ぶ。</p> <p>ここで対象とするのは、衣服だけでなく刺青、ヘアスタイルや装飾品、バッグやメガネ、時計などの持ち物も含まれる。多くの社会では、装いは、社会的な地位や役割を明確に示す。例えば、ペルーの民族衣装は、隣接するコミュニティ（民族）との相違を明らかにすることに役立っている。階層や役割を端的に表す場合もある。また年齢にふさわしい服装というものもある。女性の場合、初潮前と初潮の後、あるいは未婚と既婚、寡婦などの地位の変化によって身につける衣服が異なることもある。</p> <p>衣服は、社会的な地位を示すだけでなく、男女の違い（ジェンダー）を際立たせる記号としても重要な役割を果たす。差異化の方法は、社会や文化、時代によって異なる。例えば、イスラームのベールのように、女性の体をすべて覆ってしまう場合もあれば、男女によって衣服の選択に制限がなくユニセクスのような服装が普及している社会もある。衣服はまた男性らしさや女性らしさを表わす。本科目は、記号としての衣装の社会性を理解することを達成目標とする。</p>	
	美とファッションの歴史	<p>衣服一般には、保温など様々な機能が認められるが、ファッションは美と切り離すことはできない。多少不便で身体を酷使することがあっても、美（や格好良さ、個性などを含む）の追求という目的が何よりも優先されるのがファッションである。では、ファッションの世界で美しいとはどういうことなのか。ファッションで追求される美はどのようなものなのか。それは美一般とは異なるのだろうか。本科目の目的は、ヨーロッパにおける美とファッションとの関係を取り上げ、その特徴を理解することで、毎年めまぐるしく変わるかに見えるファッションの背後にある価値観を理解する。具体的には、西洋の各時代や様式から代表的な作品を取り上げ理解を深める。</p>	
	ブランドの歴史と文化	<p>現在我々が一般的になじんでいるヨーロッパのファッションの発展は、デザイナーを中心とするハウスあるいはメゾン抜きにして考えることはできない。美とファッションの思想的な、言い換えればソフトな側面を「美とファッションの歴史」科目に譲るとすれば、本科目の目的は、ヨーロッパのファッションを取り巻くハードな世界、すなわち政策や経営など制度を学ぶことである。</p> <p>具体的には、著名なブランドとしてシャネルやエルメス、グッチなどを取り上げ、かかるブランドが、卓越したデザイナーの出現からブランドとして成立するまでの歴史（社史）ならびにブランドの仕組みや実態について学ぶ。</p>	
	美容とファッション	<p>美容とは、顔や体つき、肌などの身体を美しく整える技法である。衣服・衣装を中心とするファッションにおいて無視できないものは、顔であり、身体である。それは髪型とともに、イヤリングやネックレスなどの顔の周辺を飾る装飾品全てを含む整えである。さらに、身体の理想的なイメージの歴史や、それを実現するための、痩身などの技法、美容整形などについても取り上げる。</p> <p>本科目の目的は、ファッションとの関係で重視される顔や身体の歴史や技術などについて学ぶことである。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	色彩論入門	この科目では、色彩に関わる全ての人が深く色について知る事を目的とする。色彩体系が総合的に理解できるように、配色の基礎から配色調和構成法、色の総合的効果、色の性質とはたらき、色の力を実際のビジュアルの事例を読み解きながら学ぶ。ファッションの事例としては、パリ、ロンドン、ニューヨーク、東京で毎年発表されるコレクションの代表的なデザイナーの色と配色を写真をもとに分析する。また、日本の色と形についても同様に分析し、イメージを色と配色で表現するための理論を学ぶ。	
	ファッション論基礎ゼミ	「身体とパフォーマンス」「装いと社会性・ジェンダー」「自然資源と服装文化」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッション」「色彩論入門」「サブカルチャー・スタイル」などの、装いやファッション、美やファッション系科目を履修したあと、本科目では、学んだことをより深く理解するためのゼミを行う。ゼミでは、各受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献を読解し、そうした検討を通じて発表を行う。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。	共同
デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	本科目では、衣服は多様な地域の風土や文化を表す媒体であり、またその産物であることを学ぶ。日本の衣生活特に和服も時代と共に変化を見せている。いかなる自然、社会、文化的な背景から地域に特徴的な服装が醸成されてきたのか。また時代における流行など、人々の感情を左右させる変化をもたらしてきた時代背景とともに、服装史の変遷を歴史的に振り返りながら、服装における美意識や価値、機能、技術など学修する。衣生活・服装史を理解することによって、伝統的な美意識や機能が現在の衣生活に与えている影響を考察するとともに、今後の服装の変遷に関わる洞察力を養う。	
	生活科学入門	本科目では、被服学の基礎となる生活科学（家政学）の全体像に関連させながら、被服の基礎的な知識を学修する。具体的には、被服生理学にあたる被服の機能、被服材料学にあたる被服素材、被服環境学にあたる、人と衣服との関わり、被服の選択と管理、持続可能な衣食住を中心とする生活環境や社会環境などについて理解を深める。従って生活科学の包括性や拡大を考慮しながら、隣接領域および関連領域についても学修する。	
	ファッションデザイン論	本科目では、ファッションにおけるデザインの重要性を学ぶ。具体的には、ファッションブランド構築のあり方を、歴史的、社会的、文化的に理解し、そこにおけるデザインの重要性と可能性を探る。受講生は今後、自らのファッションブランドを持つと仮定して、デザイン・メソッドとされる4つの基本的な方法論（ファッションディレクション、ファブリック選定、商品モデリング、コレクションマーケティング）を学ぶ。そして、今日のグローバル市場で成長を遂げる「ラグジュアリーブランド」「デザイナーズブランド」「ファスト・ファッション・ブランド」のデザイン・メソッドを理解する。	
	ファッションデザイン実習Ⅰ	衣服とそれに関わる種々のファクターの関係を明らかにしながら、コスチュームデザインの基礎技術を系統的に学び、実践、制作する。特に人体と衣服、衣服と素材、衣服と造形の関係を考察し、衣服をデザインする行為の持つ意味を各人に主体的に捉えさせ、考え方を構築させる。本演習では、芸術作品やデザイン、西洋美術史、ファッション史に現れるファッションなどへのビジュアルリサーチを行い、アイデアを抽出し、イメージをデザイン展開する手法をマスターする。制作においては、3Dソフトで立体から平面を模索したうえで、平面製図技法トワールメイキングにより、デザインイメージを衣服として再構築し、身体上で造形的模索を行う能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ファッションデザイン実習Ⅱ	ファッションの理論および制作についてより専門的、実践的な演習を行う。テーマは「日本史服」。クラスをグループ化し各グループコンセプトに従いブランドを構築し実物作品を、制作する。その課程で実践に即したデザイン指導を行う。ブランディングに必要な講義と共に、ブランド戦略に必用なロゴ、レタリング、DM等に関しても指導し制作を行う。	
	デザイン概論	本科目では、現代社会におけるデザインの意味と必要性を学ぶ。デザインとは何か、その定義を理解したうえで、デザインという概念が誕生した歴史的背景を学ぶ。そしてデザインの目的、役割、その背景にある思想を実践的な事例を通じて考察する。デザインには、人の行動を促すという心理的なアプローチを含めた広義の考え方があるが、こうしたデザインに関する概念や発想を体系的に学ぶとともに、これを身近な製品に汎用させながら、ファッション・デザインの意味と必要性を考察する。	
	パターンメイキング	本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要なパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。 本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。	
	テキスタイル基礎	本科目では、テキスタイル（生地）の基礎知識を学習する。天然素材、化学・合繊素材、皮革といった異なる素材の織や編みの組織に関する知識を学ぶ。同時に、外観や肌触りといった生地のテクスチャー（風合い）に関する分類能力を身につける。生地の基礎知識や生地質感の分類能力は、ファッション商品における生地コストを意識した製品づくりに不可欠であり、またデザインや商品制作の段階において創造性を担保する重要な要素でもある。実際の現場では、テキスタイルの供給は、国内産地とともに海外産地からなされている。テキスタイルに関する世界共通の名称や質感の把握についても併せて理解する。	
	テキスタイル中級	本科目では、テキスタイル（生地）の基礎知識をもとに、テキスタイルのデザインと企画を実践的に学ぶ。大学の外に出て、近隣にある事業所、店舗、産業センターなどを訪れ、話を聞く。具体的な施設や設備を使用したテキスタイル生産や企画について実践的に学ぶ	
	感性工学	この科目では、ファッション商品の購買客である「消費者」の持つ「好み」や「感性」をイメージ的に分析し、各消費者の異なった「スタイリング・イメージ」を直感的に見分け分類できる能力を身に付けていただく。ただ、「目利き」としての「感性分類」仕分け能力だけでなく、ファッション消費者の「写真」や「動画」を感性軸を活用して科学的に分析して、定量化する「データ・サイエンティスト」としての解析能力を身に付けていただく必要がある。したがって、この科目では画像解析を中心とした「人口知能」AIの実習時間を組み込みたいと思っています。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	本科目では、ファッションビジネスとは何か。現在までのその発達と変移を知り、その多様性と魅力を知る。ファッションビジネスを構成する各産業の構造とその業務、職種、流通の仕組みを理解する。経済学・経営学の基礎知識をふまえて、ファッションマーケティングおよびファッションマーチャンダイジングの概念を理解する。ファッション情報の種類とその収集・分析方法を知る。総合的にファッションビジネスをとらえ、事例研究を通じ、問題発見力を向上させることを目的とする。	
	国際ファッション市場論	本科目では、世界のファッション市場について学ぶ。具体的には、まず、日本のアパレル市場の推移と現状、そして今後の趨勢を把握する。そして日本と比較する形で、欧米やアジアなどのアパレル市場の特徴を、消費者の多様化する嗜好を的確に捉えた企業の成功例から読み解く。国際的なアパレル市場全体を俯瞰しつつ、各地域の市場の特徴とメインプレイヤー、彼らの戦略などに関して検討する。	
	ファッションビジネス実習 I	本科目では、市場や消費者のニーズに応えるための実践的な企画、プロデュースの方法を学ぶ。ファッション業界の変遷をふまえて、市場動向を予測する能力や的確な商品価値を生み出すような判断能力を鍛える。基本的な商品企画と販売戦略に関する技術や知識を実践的に高める。	
	ファッションビジネス実習 II	本科目では、市場や消費者のニーズに応えるための実践的な企画、プロデュースの方法を応用して、ビジネスモデルの構想や作成を行う。具体的なビジネスモデルの分析や構想などを通じて、ファッション市場や消費者の動向を予測する能力や的確な商品価値を生み出すような判断能力を鍛える。商品企画と販売戦略に関する技術や知識を実践的に高める。	
	国際ビジネスモデル特講 I	本科目では、グローバルに展開されるビジネスの歴史と仕組みについて学習する。特に、産業革命以降、世界のビジネスにおいて大きな比重を占め、また衰退も経験してきたヨーロッパ地域におけるビジネスの歴史と仕組みを学ぶ。授業を通じて、今日のヨーロッパ各国で成功しているファッションブランドのビジネスモデルを、他の業種も含めたビジネスモデルの系統と分類に位置づけ理解する。講義ではイギリス、イタリア、ドイツ、フランス、北欧諸国を取り上げる。各地域の歴史的、政治的、経済的、社会的、文化的背景を鑑みつつ、ヨーロッパ地域でみられるビジネスモデルのあり方を学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際ビジネスモデル特講Ⅱ	本科目では、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ」を履修した受講生が、アメリカ合衆国で展開されるビジネスモデルの特徴を理解することを目指す。今日の世界経済で大きな比重を持つ合衆国において展開されたビジネスの歴史と仕組みを学ぶ。マスマーケティングに代表される大量生産、大量流通、大量広告といった大企業中心のビジネスモデルを取り上げるとともに、シリコンバレーなどで成功を収めた新興企業のモデルについて概観する。授業を通じて、今日の合衆国で成功しているファッションブランドのビジネスモデルを、他の業種も含めたビジネスモデルの系統と分類に位置づけ理解する。	
	創造産業論	本科目では、創造産業（クリエイティブ・インダストリー）について学ぶ。現在、デザインなどのクリエイションは、イノベーションと関わるデザイン思考への注目とともに、創造産業として注目されている。本科目では、多様な分野、例えば、情報やコンテンツ、医療などのさまざまな産業分野の事例と比較しつつ、ファッション業界における模倣から創造への転換を学ぶ。経済・経営学上の歴史と理論の両方からファッションの創造産業としての役割と性質について理解する。	
	マーケティング論	本科目では、マーケティング論の全体像を理解し、基礎的な用語や考え方を習得する。マーケティングとは、企業が存続、成長するために必要な売上や利益を、製品やサービスの提供を通じて実現する活動である。市場の成熟化、ニーズの多様化、技術の成熟化、競争の国際化が進むなかで企業経営におけるマーケティングは重要である。本科目では、企業のマーケティングの全体像について、具体的な事例を交えながら講義を行う。	
	消費者行動論	本科目では、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習する。消費者行動とは、消費者がいかにか商品を選ぶのかについて考えることである。消費者の行動は微妙なものに左右されることが多い。これまでよく売れていたブランドが突然売れなくなったとき、消費者の行動を規定したものは一体何か、これを考えることが必要となる。消費者認知・消費者態度・消費者行動の3つの視点をカギに、消費者の行動を規定する心理プロセス、消費者行動を規定する様々な要因、ブランドと消費者のコミュニケーションのあり方など、具体的な事例を交え、さまざまな角度から理解する。	
	知財論	ファッションに関係する知的財産—商標、意匠（デザイン）、不正競争、著作権等—の法制度について概観し、ファッションビジネスに携わる者が必要とする知識を習得することを目的とする。ファッション関係の実際の事例により、一方では、知的財産権による自己の創作の保護及び権利主張、他方では、他人の権利を侵害しない予防策、という両面について検討する。創作について十分な保護を得るためには、複数の知財（商標と意匠、など）による検討が必要であるので、知財の多面的活用を学ぶ。	
	国際ファッション業界英語	本科目では、ファッション産業業界に特化した英語運用能力を学習する。目標は、履修者が自ら英語で企画書を作成し、それをわかりやすく英語でプレゼンテーションできるようにすることである。そのために、毎回の授業では数名に課題を発表させ、クラス全員が同じく英語で質疑応答を行う時間を設ける。企画が正確に伝わっているかどうかを確認すると同時に、より適切な表現はないかを指導する。こうした指導を繰り返し行うことで、実践的にファッション産業業界で使用される英語を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
メディア 科目群	写真概論	本科目では、静止画（写真）の役割とプロフェッショナルな静止画撮影技術の基礎を学ぶ。写真は19世紀半ばより現在まで、ファッション産業において商品の伝達手段として大きな役割を担ってきた。写真技術とともに機材の工学的発達に合わせて表現方法も多様化し、写真は商品の製作者と消費者の双方にとってますます欠かせない媒体となっている。講義を通じて、特にファッション産業界における写真技術、写真の果たす役割を歴史的に理解する。同時に、実践的にプロフェッショナルな静止画撮影・画像製作の基礎技術を学ぶ。	
	映像概論	本科目では、動画の役割とプロフェッショナルな動画撮影技術の基礎を学ぶ。動画は、テレビ、コマーシャルなどのマスコミュニケーションの普及、デジタル処理技術の進歩やインターネットの拡大により、情報伝達手段としての役割を急速に拡大している。個人が容易に動画を発信することが可能になっている現在、プロフェッショナルなコンテンツの制作がますます重要視されている。講義を通じて、特にファッション産業界における動画技術、動画の果たす役割を歴史的に理解する。同時に、実践的にプロフェッショナルな動画撮影、コンテンツ制作の基礎技術を学ぶ。	
	写真実習	本科目では、「写真概論」を履修した受講生が、実践的でプロフェッショナルな静止画を撮影できるようになることを目指す。本科目では、まずVOGUEやBAZZARなどの国際的な高級ファッション雑誌の写真を研究し、制作者側のコンセプトや、ファッションデザインと表現方法の関連性を考察する。また、こうした研究や考察の結果を再現する学習経験を行う。そのうえで、各受講生は自ら思い描く静止画のコンセプト作りを行う。静止画のイメージを具現化するために必要な物を集め、実際の現場で使用される機材を用い、発信手段を考慮したプロフェッショナルな撮影・レタッチなどの製作技術を習得する。「写真概論」の継続・応用科目である。	
	映像実習	本科目では、「映像概論」を履修した受講生が、実践的でプロフェッショナルな動画を撮影できるようになることを目指す。本科目では、世界的に著名なファッションブランドが示すコレクションのイメージ動画を研究する。受講生は、動画において表現されているコンセプトは何か、動画を通じて理念や感覚といった直接目には見えないものが視聴者いかに伝わり、理解や共感を生んでいるかを分析し、発表する。同時に、各受講生は自ら思い描く短い動画のコンセプト作りを行う。イメージを具現化するために必要な物を集め、実際の現場現場で使用される機材を用い、発信手段を考慮したプロフェッショナルな撮影・レタッチなどの制作技術を習得する。「映像概論」の継続・応用科目である。	
地域・ 地方 科目群	地域企業・地方連携ゼミ	本科目は、これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に地域企業や地方産地で実践的に学ぶなかで、必要となる問題設定と成果発表を行う場である。受講生は自ら問題意識を明確化し、各人が課題を選択し、実習の計画をたてる。そのための発表を行うとともに、実習で得られた成果をもとにさらなる課題を発掘し、卒業制作へ向けた準備をする場と位置付ける。受講生は、「臨地実習Ⅰ（企業）」、「臨地実習Ⅱ（地方産地）」で学ぶ内容を計画し、また実習後に学んだ内容を発表する。企業や産地がいかなる歴史的、地理的、文化的背景や価値をもつのか、そこで得られる伝統的技術や現代的な仕事のありようとは何かについて、これまでの基礎科目と職業専門科目で学んだ内容をもとにリサーチし理解を深めていく。臨地実習での成果を有効に引き出すための準備とフィードバックを行うことを目的とする。 □	共同

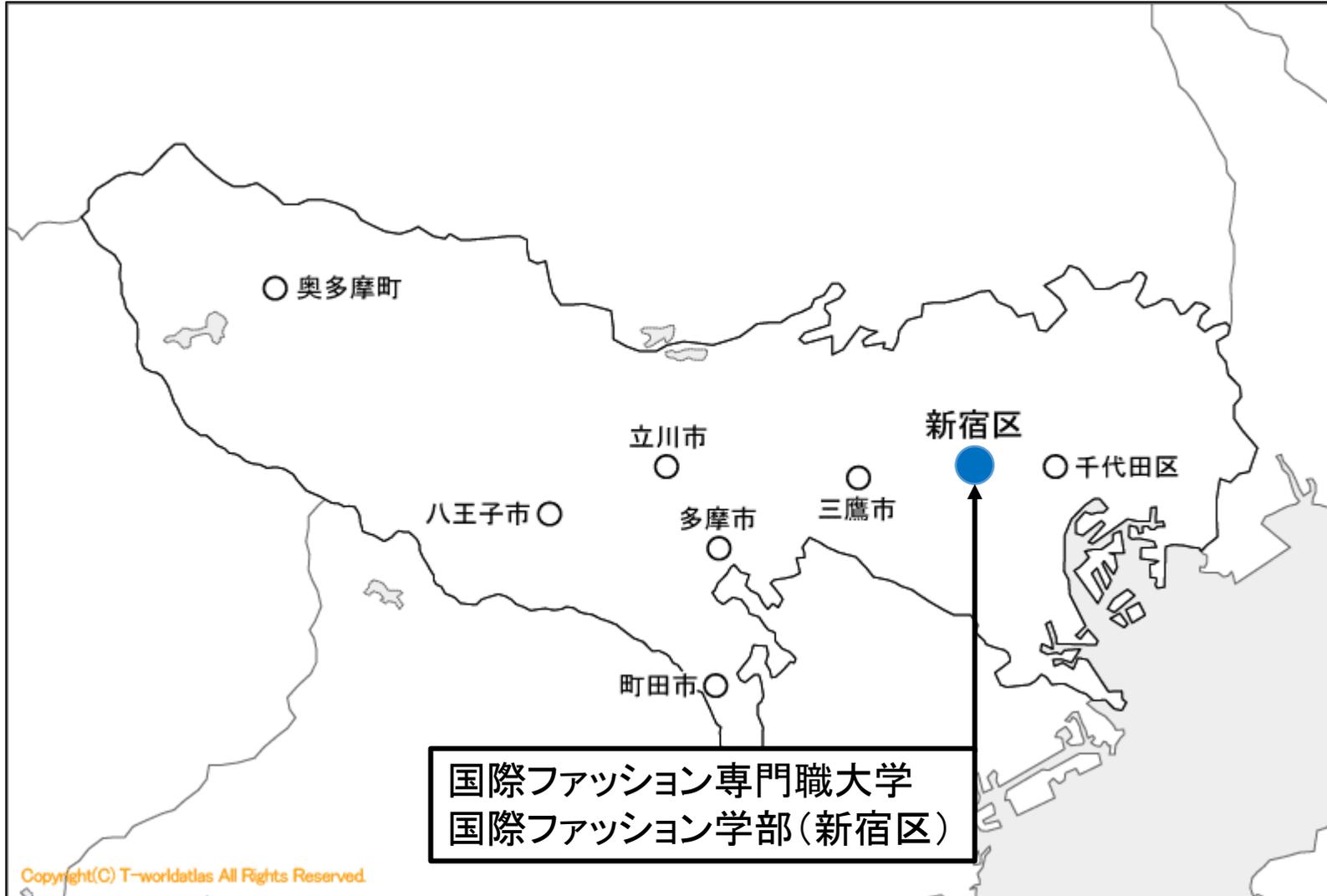
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨地実習Ⅰ(企業)	<p>これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に企業や組織のなかで学ぶ科目である。本科目では、日本国内、特に東京や大阪、名古屋など都市部に位置するアパレル、テキスタイルメーカー等に、各受講生が訪問する。そこで、デザイン、パターン、マーチャンダイジングなどの仕事について基本的な仕事の流れや役割を学ぶ。</p> <p>目標は、ファッションに関する仕事への理解を深めることとともに、専門職としての自覚を促すことである。各自のキャリアプランを固めていき、統合ゼミ等での発表を行う際に必要な知識を得る機会となる。ことを達成目標とし実習する。</p> <p>なお、本実習と地方・地域企業連携ゼミは有機的に結びついており、受講生は実習前にゼミで実習の計画を発表する機会をもつ。また実習後にゼミでその成果を発表する。</p>	共同
	臨地実習Ⅱ(地方産地)	<p>これまで基礎科目と職業専門科目において学んだ内容を、実際に地方産地のなかで学ぶ科目である。本科目では、日本国内、愛知県の有松絞り、岐阜県一宮の毛織物、三重県の松阪市の松阪木綿の素材、意匠、事業所やメーカー等に、各受講生が訪問する。受講生と教員、産地の実習先の方々と相互に交流を深め学ぶ場を各地に設け、教員は各受講生の進捗を確認する。フィールドワーク入門や職人の世界等の基礎科目で学んだ知識を活かし、また職業専門科目で学んだ技術を活かし、素材産地の歴史的、地理的、文化的背景への知識を深め、伝統的技術を学ぶ。受講生は、産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見いだすことを達成目標とする。</p> <p>なお、本実習と地方・地域企業連携ゼミは有機的に結びついており、受講生は実習前にゼミで実習の計画を発表する機会をもつ。また実習後にゼミでその成果を発表する。</p>	共同
③ 展開 科目	発信力科目群	<p>環境とビジネス</p> <p>本科目では、持続可能な社会経済産業のあり方を考える。近年、サステイナブルな地域、地球環境を考慮した取り組みが、学界及び実業界で推進されている。こうした取り組みには特定分野の枠を超えた柔軟な発想が欠かせない。学問の領域では、人文社会系及び自然科学系の横断的な発想を基に多角的なアプローチがなされている。本科目では、人間社会と地球環境の調和をめざして取り組まれている、さまざまなビジネスの実践的内容と歴史、社会、文化、経済、自然など多様な分野の知見を教員の各専門分野から問題提起し、各学生は今後の課題発見につながる分析視角を身につける。</p>	
	地域産業・名古屋論	<p>経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象との関係でイノベーションや創発を基軸に据えて発想することが求められている。本科目では、このような要請に応えるために、地方の経済的困窮や地域創生の取り組みについての理解を深める。具体的には、大きく理論編と事例編から構成される。理論編では、産業分類の中の地域産業や産業集積論を理解し、事例編では、愛知県の産業集積、特に豊田、一宮、尾州の事例を取り上げ、産業再生や地方創生に関して課題発見につながる分析視角を身につける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	産業とメディアデザイン	本科目では、メディアに関する基礎科目を履修した受講生に対し、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について討議できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイス、デジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。さまざまな産業に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生には、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を考える課題を課す。	
	デジタルテクノロジー演習	本科目では、デジタルテクノロジーの視点から、さまざまな産業におけるクリエイション、およびビジネスに関連するデジタル環境の現状や問題点についての知見を深める。近年、すべての「事象」が大きなスピードをもって「デジタル化」されようとしている。作品制作それ自体において3Dプリンタなどが利用されており、ホームページ上では個々の顧客の特性を踏まえたレコメンデーション機能の充実なども求められている。現代のファッションクリエイション、ならびにファッションビジネスにおいて、創造的な役割を果たすために必要なデジタルテクノロジー環境に対する知識と技能を学ぶ。	
	サブカルチャー・スタイル	本科目では、主流から外れるような文化実践の生成、そのあり方、またそこから主流に影響を与えたり、取り込まれていくプロセスについて、その背景と共に学ぶことを目的とする。こうした主流の周縁で生じる文化実践をここではサブカルチャーと位置付ける。典型的なものとして、自分たちの考え方やライフスタイルを表現するような若者のストリートファッションやパンク、現代アートなど、また、演劇・音楽・マンガ・アニメなどの「クールジャパン」という名称で親しまれているような、さまざまな関連する分野の事例をあげ、理解をすすめる。サブカルチャーやアートを、消費される対象としてのみとらえることなく、同時代的に作られるものとして生成する過程を理解し、その現代的かつ文化的社会的な意義を学ぶ。各受講生がめざす職業分野において、国内外で新たな価値を創造し、展開をしていくために必要な視点や知識を学ぶ。	
	広告・PR論	本科目では、広告・PRの基礎的な知識や考え方を学ぶ。広告・PRはメディアを通じて提供されるコンテンツである。そのコンテンツが消費文化においてはたす機能と役割を学び、広告・PR産業についての理解を深める。そして広告・PRの具体的な事例を通じて、実践的な広告・PRの企画を学ぶ。	
国際科目群	国際知財論	本科目では、国際的な知財戦略を立てるのに必要な基礎知識の習得を目指す。特にファッションブランドの保護という観点から、国際的な知的財産関係の国際条約を概観し、各国で保護を得るための国際出願（商標、意匠、特許）、優先権主張の手続き等について解説する。また欧州、アジア各国、米国等の主要国をとりあげ、ファッション知財保護の実態や国ごとの相違点を理解する。具体的には、ブランド品等の真正商品の並行輸入、権利の国際消尽、国境をまたぐインターネット上の取引等の実務上の問題を中心に扱う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際連携ゼミ	本科目は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識・技術をもとに、欧州、米国、アジア諸地域から招聘した客員教授を交えた演習を実施する。各受講生は、自ら選定したテーマについてこれまでの地方・地域企業連携ゼミ等で作成したコンセプトを発表する。各受講生は、基本的に英語を用いて発表を行う。これまで培ってきた語学・コミュニケーション能力を再確認するとともに、卒業後、国際的にファッション市場において自立するための、海外へむけた発信を行う準備と学習の場と位置づける。 なお、本ゼミと海外実習の科目は有機的に結びついており、受講生は海外実習前に、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表する機会をもつ。また海外実習後に、本国際連携ゼミでその成果を発表する。受講生にとって、有効なサポートとフィードバックを提供する。	共同
	海外実習Ⅰ	本科目は、学生を海外に派遣して実践的に将来の仕事を学ぶ機会をもつ、インターンシップの場と位置付ける。各受講生は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識技術を活かして、欧州、米国、アジア諸地域の企業や組織に赴き、インターンとして従事する。そこで、自らの語学・コミュニケーション能力を含む、職業的専門知識や技術、総合的な基礎力を確認するとともに、現場でしか経験できない実践的な学習を行う。 なお、本実習科目と国際連携ゼミの科目は有機的に結びついており、海外実習から帰国した学生は、国際連携ゼミでその成果を発表する機会を持つ。また、海外実習前には、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表し、受講生にとって有効なサポートとフィードバックを提供する。	共同
	海外実習Ⅱ	本科目は、海外実習Ⅰを履修し、さらに海外に関する知見を深めたい学生が参加する。海外実習Ⅰ同様、学生を海外に派遣して実践的に将来の仕事を学ぶ機会をもつ、インターンシップの場と位置付ける。各受講生は、1、2年で学んだ基礎科目、職業専門科目、展開科目の知識技術を活かして、欧州、米国、アジア諸地域の企業や組織にインターンとして従事する。そこで、自らの語学・コミュニケーション能力を含む、職業的専門知識や技術、総合的な基礎力を確認するとともに、現場でしか経験できない実践的な学習を行う。 なお、本実習科目と国際連携ゼミの科目は有機的に結びついており、海外実習から帰国した学生は、国際連携ゼミでその成果を発表する機会を持つ。また、海外実習前には、国際連携ゼミで渡航と実習の計画を発表し、受講生にとって有効なサポートとフィードバックを提供する。	共同
④ 総合科目	統合指導ゼミⅠ	自ら興味を持つ、多様な社会、文化、自然、ファッション、ビジネスなどに関する基本文献を読み、発表を行うことを中心に授業を進める。その中で自分の探究すべき分野、テーマをさらに具体的にとらえなおし、どのような問いを立てればよいのか、発見するよう指導する。アクティブ・ラーニングの手法を大幅に取り入れ、自発的、積極的に学習に取り組む。問題意識をもって卒業制作に結びつけるようにする。	共同
	統合指導ゼミⅡ	各自が設定する卒業制作に向けたコンセプトの発表とそれについてのディスカッション、担当者による総合的な講評を中心に進める。適宜、映像や美術館、博物館などの専門家を招聘する、もしくは、フィールド・ワークなども行う。アクティブ・ラーニングの視点から、主体的に授業に関わるよう導く。少人数クラス編成で、個別指導を主体とする。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	卒業制作・計画	<p>本科目では、4年間の学習の集大成として卒業制作を位置づけ、受講生にその制作と発表を課す。受講生は自らテーマを決定し、指導を受けたい教員のゼミに所属し制作を行う。指導教員は、これまでのゼミ指導教員である必要はない。また副指導教員としてテーマに相応しい教員をつけ、適宜指導を受けることができる。本学の卒業制作には、その本編と作品に加え、取り組み資料等を集約した文書一式が含まれる。その評価は、カリキュラムポリシーにおける総合的なデザイン力、プレゼンテーション力の習得と強化の目的を謳うように、発表を含む総合的な評価となる。</p> <p>制作の計画および条件等の詳細は別途指示されるが、受講生は前期初旬に卒業制作のテーマを決定し、趣旨書と展示計画書等を作成する。これらの企画案は前期中に公表し、教員による審査と指導を受ける。後期初旬の中間発表会では、取り組みの経過をその成果とともに公表し、審査と指導を受ける。後期下旬には完成した制作の成果を提出するとともに、指定された日に卒業制作展および公聴会を行い、審査を受ける。</p>	共同

■ 都道府県における位置関係の図（東京都新宿区）

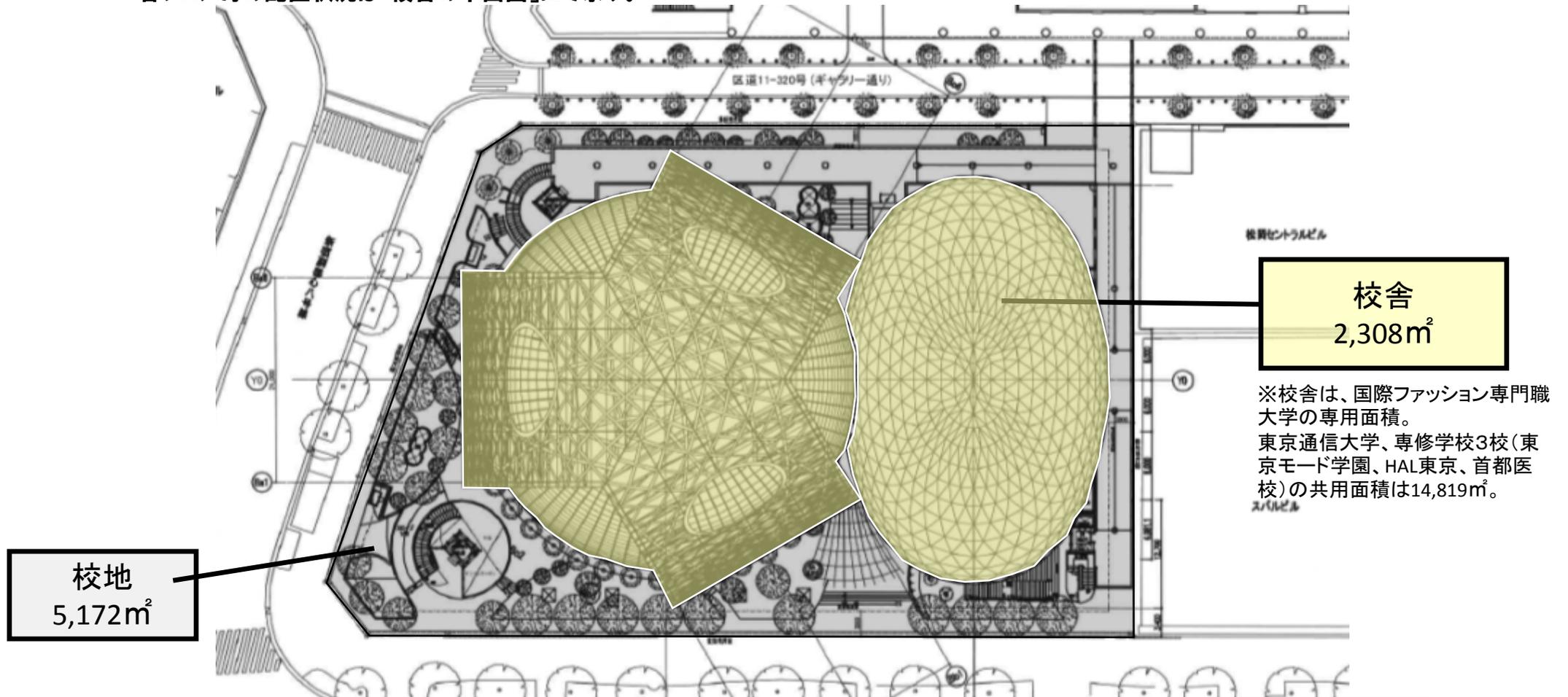


■最寄駅からの距離・交通機関



■校舎の配置図

校舎は東京通信大学と国際ファッション専門職大学、専修学校3校で共有する。
各フロア毎の配置状況は「校舎の平面図」にて示す。



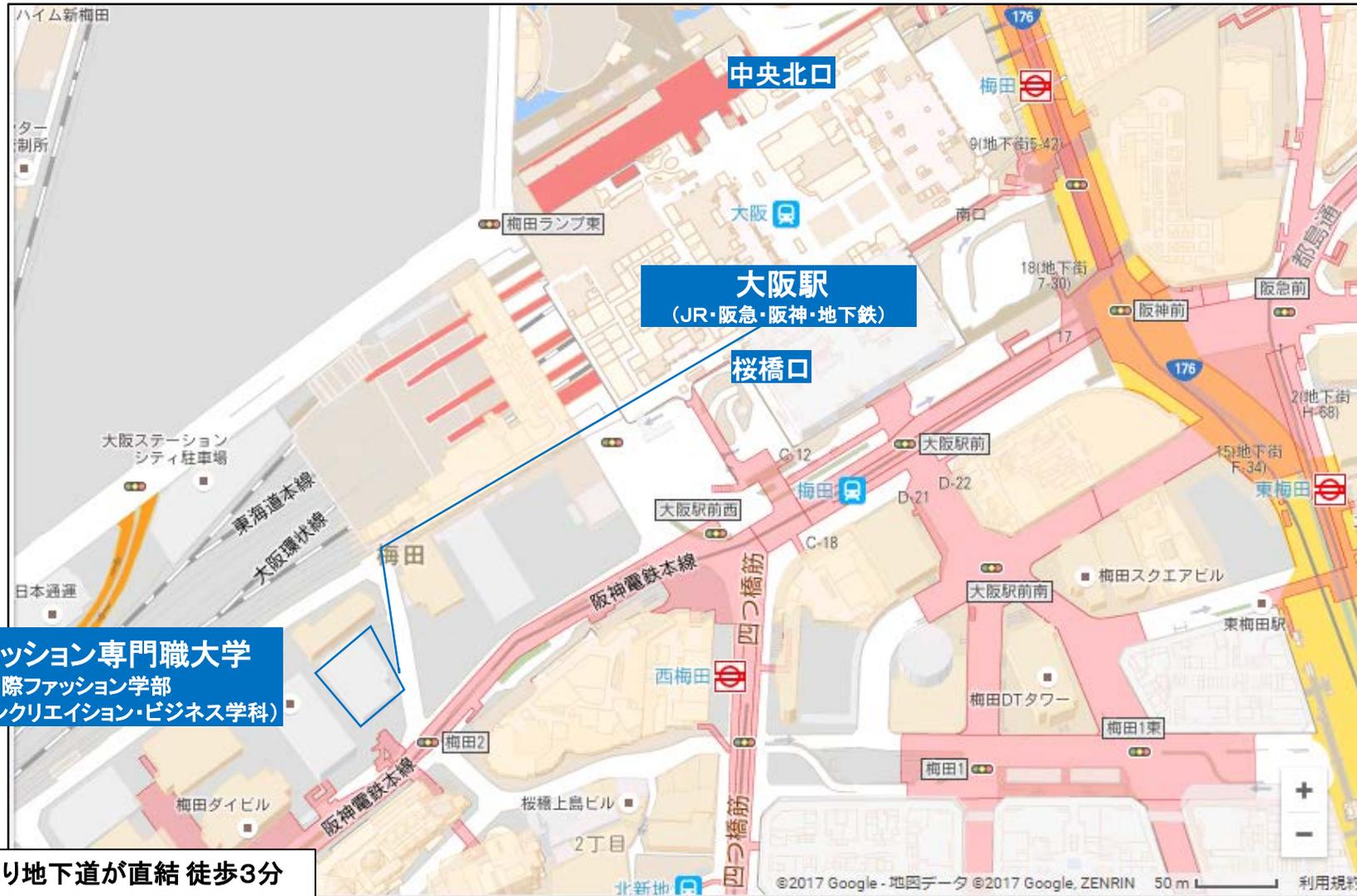
※校地は、東京通信大学、国際ファッション専門職大学、専修学校3校（東京モード学園、HAL東京、首都医校）の共用面積。

■ 都道府県における位置関係の図（大阪府大阪市）



国際ファッション専門職大学
国際ファッション学部(大阪市)

■最寄駅からの距離・交通機関



国際ファッション専門職大学
(国際ファッション学部
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)

各線大阪駅より地下道が直結 徒歩3分

■校舎の配置図

校舎は国際ファッション専門職大学、専修学校2校で共有する。
各フロア毎の配置状況は「校舎の平面図」にて示す。



※校地は、国際ファッション専門職大学、専修学校2校(大阪モード学園、HAL大阪)の共用面積。

■ 運動施設の場所がわかる図面



■都道府県における位置関係の図（愛知県名古屋市）



■最寄駅からの距離・交通機関



■校舎の配置図

校舎は国際ファッション専門職大学、専修学校3校で共有する。
各フロア毎の配置状況は「校舎の平面図」にて示す。



↑至名古屋駅

校舎
2,346㎡

※校舎は、国際ファッション専門職大学の専用面積。
専修学校3校(名古屋モード学園、HAL名古屋、名古屋医専)の共用面積は8,303㎡。

校地
3,539㎡

※校地は、国際ファッション専門職大学、専修学校3校(名古屋モード学園、HAL名古屋、名古屋医専)の共用面積。

国際ファッション専門職大学 学則（案）

第1章 総則

（目的）

第1条 国際ファッション専門職大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に則り、ファッション業界における地域社会や産業界との密接な連携による実践職業教育を通じて、時代に即した価値創造をもってグローバルに活躍できる専門性の高い人材を育成・輩出するとともに、地域の職業教育を先導する高等教育研究機関として、職業に関連する複合的新領域や実践職業教育の手法や効果に関する研究を行い、その成果を広く提供することにより社会発展に寄与することを目的とする。

（自己点検及び評価）

第2条 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的・使命を果たすため、教育研究活動等について自ら点検及び評価を行う。

2. 自己点検及び評価に関する事項については、別に定める。

（教育・研究の資質の維持と向上）

第3条 本学は、常に教育の内容及び質を維持し、さらに改善し、向上させるための組織的な研究を実施するものとする。

2. 教育と研究の資質を改善、向上させるための研修等の実施については、別に定める。

第2章 学部学科及び修業年限

（学部学科）

第4条 本学に次の学部学科を置く。

- （1） 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科
- （2） 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科
- （3） 国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
- （4） 国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

2. 学部学科の目的は、次に定めるものとする。

- （1） 国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は、多様な生活意識や美意識について、ファッションを通じて再現し、特に日本の伝統的技術や知識の継承からファッション知財の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。
- （2） 国際ファッション学部ファッションビジネス学科は、多様な生活意識や美意識に基づき、ものの美的な価値に理解を示しつつ、国際競争力のある新しいフ

ファッションブランドの創出や制作物の販売網の開拓を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。

- (3) 国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に関西を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。
- (4) 国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に中部、東海を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

(修業年限)

第5条 本学の修業年限は4年とする。また、在籍期間は8年を超えることはできない。

2. 職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨の申し出あったときは、その計画的な履修計画に関して学長が認定する。
3. 専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じて当該職業を担うための実践的な能力を修得した者が本学に入学する場合において、当該実践的な能力の修得を授業科目の履修とみなして単位を与えられた者に対し、与えられた当該単位数、その修得に要した期間その他本学が必要と認める事項を勘案し、1年を超えない範囲で本学が定める期間を修業年限に通算することができる。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年及び学期)

第6条 学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2. 学年を前期と後期の2期に分ける。

(始業及び終業)

第7条 本学の始業及び終業の時刻は次のとおりとする。

- (1) 午前8時30分から午後6時00分を基本とし学部ごとに定める。
- (2) 臨地実務実習における始業、終業時刻は別に定める。

2. 前項の実施に関して必要な事項は学長が決定するものとする。

(休業日)

第8条 休業日は毎年度に定めるものとする。

2. 学長が必要と認めるときは、休業日を臨時に変更し、または臨時に休業日とすることがある。

第4章 学生の定員及び入学等

(入学資格)

第9条 本学に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

(編入学)

第10条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願するものがあるときは、欠員のある場合において選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者(学校教育法第104条第4項に定める独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学位を授与された者を含む。)又は大学に1年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した

者

(5) 高等学校等の専攻科のうち、文部科学大臣が定める基準を満たすものを修了した者

(6) 専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じて当該職業を担うための実践的な能力を修得した者

2. 編入学後に在籍すべき期間は、卒業もしくは修了した前項各号に掲げる学校及び課程における修業年限に相当する年数又は在籍していた年数のうち3年以内の期間を控除した期間とする。

3. 編入学を許可された者（以下「編入生」という。）の在籍期間は、前項により控除された期間を合わせて8年を超えることができない。

(入学定員及び収容定員)

第11条 本学の定員を次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員 (2年次)	収容定員
国際ファッション 学部	ファッションクリエイション学科	80名	-	320名
	ファッションビジネス学科	38名	2名	158名
	大阪ファッションクリエイショ ン・ビジネス学科	38名	2名	158名
	名古屋ファッションクリエイショ ン・ビジネス学科	38名	2名	158名
		収容定員計		794名

2. 欠員のある場合には、2年次、3年次に編入学許可する場合がある。

(入学時期)

第12条 本学の入学及び編入学の時期は、原則毎年4月とする。ただし、特別な場合は、他の月での入学を認めることができる。

(志望者の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、本学が別に定める選考料を添えて所定の期日までに入学願書を提出しなければならない。

2. 選考料の納入等に関し、必要な事項は、別に定める。

(合格者の決定)

第14条 入学志願者に対して、本学は別に定める選考を行い、教授会の意見を聴いた上で、学長が合格者を決定する。

2. 入学志願者の選考方法については、別に定める。

(入学手続)

第15条 本学の入学手続は、次のとおりとする。

(1) 選考の結果、学長が入学を許可した者で、本学に入学しようとする者は、許可した日から指定日以内に、別表3に定める入学金を添えて必要な手続を行う。

(2) 納付された入学金は、返還しない。

(3) 授業料その他規定費用に関しては、入学金納付後、指定日以内に納付する。

(入学許可)

第16条 学長は、前条の規定により入学手続きを完了した者に対し、入学を許可する。

第5章 休学、復学、再入学、転入学、転学科、留学、退学及び除籍等

(休学)

第17条 学生が疫病その他やむを得ない事由によって3か月以上休学する場合は、休学願にその事由を記して提出しなければならない。学生が未成年者の場合は保証人による連署を要する。学長の許可により、当年度末まで休学することができる。

2. 休学期間は、連続2年までとし、通算して4年間を超えることができない。ただし、留学等の事情による計画的な休学を希望する場合、あらかじめ学長の許可を得ることにより本規定の期間を超えて休学を認める場合がある。

3. 休学期間中は、届出により、期首に限り復学することができる。

4. 休学期間は、第5条に規定する修業年限に算入しない。

(復学)

第18条 前条の者が復学しようとする場合は、届け出て学長の許可を受けなければならない。

2. 復学を許可された者は、休学期間に応じて復学する学科の学費を免除する。

(再入学)

第19条 退学者が再入学を願い出たときは、欠員のある場合に限り、学長がこれを許可することがある。

2. 第10条第2項及び第3項の規定は、再入学を許可された者に準用する。

(転入学)

第20条 他の大学に在籍している学生で、本学に転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、転入学を許可することができる。

2. 第10条第2項及び第3項の規定は、転入学を許可された者に準用する。

(転学科)

第21条 他の学科への転学科を志願する者は、定員に余裕のある場合に限り、選考の上これを許可することができる。

2. 転学科した者の在学期間には、元の学科の在学期間の全部または一部を算入することができる。

(留学)

第22条 外国の大学等に留学を志願する者は、あらかじめ学長の許可を受けるものとする。

2. 前項の許可を得て留学した期間は、在学期間に通算することができる。

(転学)

第23条 他の大学に転学しようとする者は、その事由を記し、学長の許可を受けなければならない。

(退学)

第24条 退学しようとする者は、その事由を記し、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第25条 学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、学長は除籍することができる。

- (1) 本学が定めた指定日まで授業料等の納付を怠り督促しても納付しない者
- (2) 第5条に定める在籍期間を超えた者
- (3) 第17条に定める休学期間を超えた者
- (4) 学生が死亡した場合

第6章 授業科目、履修方法、試験及び成績の評価

(授業科目)

第26条 授業科目は、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目とする。

2. 授業科目及び単位数は、別表1のとおりとする。
3. 授業科目の履修方法に関する事項は、別に定める。

(履修方法)

第27条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2. 前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で行うことができる。
3. 臨地実務実習については、校舎及び附属施設以外の本学が指定する場所で行うことができる。

(単位数の計算方法)

第28条 単位の計算方法は、次の各号のとおりとする。

- (1) 1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。
- (2) 講義および演習については15～30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技については、30～45時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法を併用して行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (5) 卒業研究等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

(単位認定方法)

第29条 授業科目修了の単位認定は、所定の授業回数数の8割以上の出席を前提とし、小テスト、筆記試験、レポート課題、研究課題、制作物、実習評価の中から科目毎に適切な方法を組み合わせることとする。

(成績の評価)

第30条 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可、及び不可とし、秀、優、良及び可を合格とする。

(他大学等の授業科目の履修)

第31条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において修得した授業科目の単位を、60単位を超えない範囲で本学において修得した単位と認めることができる。

2. 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学で修得した授業科目の単位認定に際しても準用する。
3. 本条の実施に関して必要な事項は別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第32条 本学が教育上有益と認めるときは、専門職大学設置基準第25条第1項に基づき文部科学大臣が定める大学以外の教育施設等において、学生が行う学修を、本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

2. 前項により与えることができる単位数は、前条により本学において履修したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
3. 本条の実施に関して必要な事項は別に定める。

(既修得単位の認定)

第33条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位及び前条第1項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

2. 学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力を修得している場合において、学長が教育上有益と認めるときは、当該実践的な能力の修得を本学における授業科目の履修とみなし、30単位を超えない範囲で本学の定めるところにより単位を与えることができる。
3. 前2項により認定できる単位数は、編入学、転入学の場合を除き、第31条及び第32条によりみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
4. 本条の実施に関して必要な事項は別に定める。

第7章 卒業及び学位授与

(卒業要件)

第34条 本学に4年以上在学し、別表2に定める卒業要件を満たした者には、教授会の意見を聴いた上で、学長が卒業を認定する。

(卒業時期)

第35条 卒業時期は、4年以内で別表2の卒業要件を満たした者は4年の最終学期の最終日を卒業日とし、そうでない者は卒業要件を満たした最終学期の最終日を卒業日とする。

(学位)

第36条 本学を卒業した者には、下記の学位を授与する。

- ・ファッションクリエイション学科 「ファッションクリエイション学士(専門職)」
- ・ファッションビジネス学科 「ファッションビジネス学士(専門職)」
- ・大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 「ファッションクリエイション・ビジネス学士(専門職)」
- ・名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 「ファッションクリエイション・

ビジネス学士（専門職）」

2. 学位及び学位の授与については、別に定める国際ファッション専門職大学学位規定による。

第8章 賞罰

（表彰）

第37条 学生として顕彰に値する行為があった者は、学長が教授会の意見を聴いた上で、表彰することができる。

（懲戒）

第38条 学長は、本学の学則もしくは規定等に反し、または学生の本分に反する行為があった者を懲戒に処することができる。

2. 前項の懲戒の種類は、戒告、停学及び退学とする。
3. 前項の退学は、次の各号の一に該当する場合に行うことがある。
 - (1) 公序良俗に反した者
 - (2) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (3) 成業の見込みがないと認められた者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

第9章 選考料、入学金及び授業料等

（授業料等）

第39条 選考料、入学金及び授業料等の金額は、別表3のとおりとする。

（授業料等の納付）

第40条 選考料、入学金及び授業料等は、別に定める期日までに納付しなければならない。

（納付した授業料等の取扱い）

第41条 納付した選考料、入学金及び授業料等は返還しない。

2. 選考料、入学金及び授業料等の取扱いに関する事項は、別に定める。

第10章 履修証明プログラム

（履修証明プログラム）

第42条 本学の教育研究上の資源を活かし、社会人等への学習機会を広く提供するため、学校教

育法第105条に規定する課程として履修証明プログラムを開設することができる。

第11章 公開講座等

(公開講座等)

第43条 本学は、広く地域・社会に対し学習の機会を提供するとともに、一般市民の教養を高め文化の向上に資するため、公開講座等を開設することができる。

第12章 教職員組織

(職員の種類)

第44条 学校教育法第92条の定めに従い、本学に、学長、教授、准教授、専任講師、助教、助手及び職員その他必要な教職員を置く。

2. 学長は、本学の校務をつかさどり、本学教職員を統督する。

(副学長)

第45条 本学に、副学長を置くことができる。

2. 副学長は、学長の職務を助ける。

(学部長)

第46条 学校教育法第92条の定めに従い、本学の各学部に、学部長を置くことができる。なお、学部を構成する学科に学科長を置くことができる。

2. 学部長は、学部に関する事項を、学科長は学科に関する事項を統括する。

(事務組織)

第47条 本学に事務組織として管理部を置く。

第13章 教授会等

(教授会)

第48条 本学に教授会を置く。

2. 教授会に関する事項については、別に定める。

(委員会)

第49条 本学に、大学運営に必要な専門委員会を置くことができる。

2. 委員会に関する事項については、別に定める。

(大学評議会)

第50条 本学に、教学にかかわる全学的に重要な事項を審議することを目的とする大学評議会を置く。

2. 大学評議会に関する事項については、別に定める。

(教育課程連携協議会)

第51条 本学に、産業界および地域社会との連携による教育課程の開設・編成・実施に関する基本的な事項やその実施状況の評価に関する事項を審議することを目的とする教育課程連携協議会を置く。

2. 教育課程連携協議会に関する事項については、別に定める。

第14章 附属施設及び附置組織

(図書室)

第52条 本学に、図書室を置き、図書室長を置くことができる。

2. 図書室長は、図書室に関する事項を主管する。図書室に関する事項については、別に定める。

(附置組織・機関)

第53条 本学に、以下の全学的な附置組織・機関を置く。

- (1) アドミッション・センター
- (2) キャリア・サポートセンター
- (3) 地域連携センター

2. 附置組織・機関に関する事項については、別に定める。

第15章 雑則

(施行の細目)

第54条 この学則に定めるものを除くほか、この学則の実施の手続きその他実施について必要な細目は学長が別に定める。

附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

別表 1 国際ファッション専門職大学授業科目

(1)国際ファッション学部ファッションクリエイション学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修・選択	授業形態	備考	
①基礎科目	比較文化論	1前	2	必修	講義		
	現代文化論	1後	2	選択	講義		
	ヨーロッパの社会と文化	2後	2	選択	講義		
	文化論基礎ゼミ	1前	2	選択	演習	共同	
	会計入門	1前	2	選択	講義		
	産業論入門	1後	2	選択	講義		
	法学入門	1後	2	選択	講義		
	地域論入門	2後	2	選択	講義		
	フィールドワーク入門	1後	2	必修	講義		
	社会科学基礎ゼミ	2後	2	選択	演習	共同	
	メディア概論	1前	2	必修	講義		
	情報リテラシー	1前	2	必修	講義		
	環境と社会	2前	2	選択	講義		
	英語 I	1通	4	必修	演習	共同	
	英語 II	2通	4	必修	演習	共同	
	フランス語	2後	2	選択	演習		
	中国語	2後	2	選択	演習		
日本語文章表現	1後	2	必修	講義			
キャリアデザイン論	1後	2	選択	講義			
②職業専門科目	ファッション論科目群	身体とパフォーマンス	1前	2	選択	講義	
		造形論入門	1前	2	必修	講義	
		自然資源と服装文化	1後	2	選択	講義	
		職人の世界	1前	2	選択	講義	
		装いと社会性・ジェンダー	1前	2	選択	講義	
		美とファッションの歴史	2前	2	必修	講義	
		ブランドの歴史と文化	2後	2	選択	講義	
		美容とファッション	2後	2	選択	講義	
		色彩論入門	1前	2	必修	講義	
		ファッション論基礎ゼミ	1前	2	選択	演習	共同
	デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前	2	必修	講義	
		生活科学入門	1前	2	必修	講義	
		ファッションデザイン論	1前	2	必修	講義	
		ファッションデザイン実習 I	1通	4	必修	実験・実習	オムニバス・共同(一部)
		ファッションデザイン実習 II	2通	4	必修	実験・実習	オムニバス・共同(一部)
		ファッションデザインプランニング実習 I	1通	4	必修	実験・実習	オムニバス・共同(一部)
		ファッションデザインプランニング実習 II	2通	4	必修	実験・実習	オムニバス・共同(一部)
		国際展示会演習	4前	2	選択	演習	
		パターンメイキング	2後	2	選択	講義	
		テキスタイル基礎	1後	2	必修	講義	
		バッグデザイン	3後	2	選択	実験・実習	
		シューズデザイン	2後	2	選択	実験・実習	
		デザイン感性工学	2前	2	選択	講義	
	ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	1前	2	選択	講義	
		国際ファッション市場論	1後	2	選択	講義	
		マーケティング論	3前	2	必修	講義	
		消費者行動論	3前	2	必修	講義	
		知財論	2後	2	選択	講義	
		国際ファッション業界英語	2通	4	必修	演習	
	メディア科目群	写真概論	1前	2	必修	講義	
		映像概論	1後	2	必修	講義	
		写実実習	2前	2	選択	実験・実習	
		映像実習	2後	2	選択	実験・実習	
科目方群	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10	必修	演習	共同	
	臨地実習 I (企業)	3通	10	必修	実験・実習	集中共同	
	臨地実習 II (地方産地)	3通	10	必修	実験・実習	集中共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修・選択	授業形態	備考	
③ 展開科目	発信力 科目群	環境とビジネス	3後	2	必修	講義	
		地域産業論	2後	2	必修	講義	
		産業とメディアデザイン	2前	2	選択	講義	
		デジタルアーカイブ論	2前	2	選択	演習	
		サブカルチャー・スタイル	2後	2	選択	講義	
		広告・PR論	3後	2	選択	講義	
	国際 科目群	国際知財論	3前	2	選択	講義	
		国際連携ゼミ	3通	4	必修	演習	共同
		海外実習 I	3通	2	必修	実験・実習	集中共同
		海外実習 II	3通	4	選択	実験・実習	集中共同
④ 総合 科目	統合指導ゼミ I	4前	4	必修	演習	共同	
	統合指導ゼミ II	4後	4	必修	演習	共同	
	卒業制作・計画	4通	4	必修	実験・実習	共同	

別表 1 国際ファッション専門職大学授業科目

(2)国際ファッション学部ファッションビジネス学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修・選択	授業形態	備考	
① 基礎科目	比較文化論	1前	2	必修	講義		
	現代文化論	1後	2	選択	講義		
	ヨーロッパの社会と文化	2後	2	選択	講義		
	文化論基礎ゼミ	1前	2	選択	演習	共同	
	会計入門	1前	2	選択	講義		
	産業論入門	1後	2	選択	講義		
	法学入門	1後	2	選択	講義		
	地域論入門	2後	2	選択	講義	共同	
	フィールドワーク入門	1後	2	必修	講義		
	社会科学基礎ゼミ	2後	2	選択	演習	共同	
	メディア概論	1前	2	必修	講義		
	情報リテラシー	1前	2	必修	講義		
	環境と社会	2前	2	選択	講義		
	英語 I	1通	4	必修	演習		
	英語 II	2通	4	必修	演習		
	フランス語	2後	2	選択	演習		
	中国語	2後	2	選択	演習		
日本語文章表現	1後	2	必修	講義			
キャリアデザイン論	1後	2	選択	講義			
② 職業専門科目	ファッション論科目群	身体とパフォーマンス	1前	2	選択	講義	
		造形論入門	1前	2	必修	講義	
		自然資源と服装文化	1後	2	選択	講義	
		職人の世界	1前	2	選択	講義	
		装いと社会性・ジェンダー	1前	2	選択	講義	
		美とファッションの歴史	2前	2	必修	講義	
		ブランドの歴史と文化	2後	2	選択	講義	
		美容とファッション	2後	2	選択	講義	
		色彩論入門	1前	2	必修	講義	
		ファッション論基礎ゼミ	1前	2	選択	演習	共同
	デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前	2	必修	講義	
		生活科学入門	1前	2	必修	講義	
		ファッションデザイン論	1前	2	選択	講義	
		デザイン概論	1前	2	選択	講義	
		パターンメイキング	2後	2	選択	講義	
		テキスタイル基礎	1後	2	必修	講義	
		デザイン感性工学	2前	2	選択	講義	
	ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	1前	2	必修	講義	
		ファッションビジネス実習 I	1通	4	必修	実験・実習	
		ファッションビジネス実習 II	2通	4	必修	実験・実習	
		国際ファッション市場論	1後	2	選択	講義	
		国際ビジネスモデル特講 I	2前	2	選択	演習	
		国際ビジネスモデル特講 II	2後	2	選択	演習	
		リテール企画実習 I	1通	4	必修	実験・実習	
		リテール企画実習 II	2通	4	必修	実験・実習	
		創造産業論	3前	2	選択	講義	
		マーケティング論	3前	2	必修	講義	
		消費者行動論	3前	2	必修	講義	
		知財論	2後	2	選択	講義	
	国際ファッション業界英語	2通	4	必修	演習		
	メディア科目群	写真概論	1前	2	必修	講義	
		映像概論	1後	2	必修	講義	
		写真実習	2前	2	選択	実験・実習	
映像実習		2後	2	選択	実験・実習		
科目方群	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10	必修	演習	共同	
	臨地実習 I (企業)	3通	10	必修	実験・実習	集中共同	
	臨地実習 II (地方産地)	3通	10	必修	実験・実習	集中共同	

別表 1 国際ファッション専門職大学授業科目

(2) 国際ファッション学部ファッションビジネス学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修・選択	授業形態	備考	
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	3後	2	必修	講義	
		地域産業論	2後	2	必修	講義	
		産業とメディアデザイン	2前	2	選択	講義	
		デジタルアーカイブ論	2前	2	選択	演習	
		サブカルチャー・スタイル	2後	2	選択	講義	
		広告・PR論	3後	2	選択	講義	
	国際科目群	国際知財論	3前	2	選択	講義	
		国際連携ゼミ	3通	4	必修	演習	共同
		海外実習 I	3通	2	必修	実験・実習	集中共同
		海外実習 II	3通	4	選択	実験・実習	集中共同
④ 総合科目	統合指導ゼミ I	4前	4	必修	演習	共同	
	統合指導ゼミ II	4後	4	必修	演習	共同	
	卒業制作・計画	4通	4	必修	実験・実習	共同	

別表 1 国際ファッション専門職大学授業科目

(3) 国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修・選択	授業形態	備考	
① 基礎科目	比較文化論	1前	2	必修	講義		
	現代文化論	1後	2	選択	講義	共同	
	ヨーロッパの社会と文化	2後	2	選択	講義		
	文化論基礎ゼミ	1前	2	選択	演習	共同	
	会計入門	1前	2	選択	講義		
	産業論入門	1後	2	選択	講義	共同	
	法学入門	1後	2	選択	講義		
	地域論入門	2後	2	選択	講義		
	フィールドワーク入門	1後	2	必修	講義		
	社会科学基礎ゼミ	2後	2	選択	演習	共同	
	メディア概論	1前	2	必修	講義		
	情報リテラシー	1前	2	必修	講義		
	環境と社会	2前	2	選択	講義		
	英語 I	1通	4	必修	演習		
	英語 II	2通	4	必修	演習		
	フランス語	2後	2	選択	演習		
	中国語	2後	2	選択	演習		
日本語文章表現	1後	2	必修	講義			
キャリアデザイン論	1後	2	選択	講義			
② 職業専門科目	ファッション論科目群	身体とパフォーマンス	1前	2	選択	講義	
		造形論入門	1前	2	必修	講義	
		自然資源と服装文化	1後	2	選択	講義	
		職人の世界	1前	2	選択	講義	
		装いと社会性・ジェンダー	1前	2	選択	講義	
		美とファッションの歴史	2前	2	必修	講義	
		ブランドの歴史と文化	2後	2	選択	講義	
		美容とファッション	2後	2	選択	講義	
		色彩論入門	1前	2	必修	講義	
		ファッション論基礎ゼミ	1前	2	選択	演習	共同
	デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前	2	必修	講義	
		生活科学入門	1前	2	必修	講義	
		ファッションデザイン論	1前	2	必修	講義	
		ファッションデザイン実習 I	1通	4	必修	実験・実習	共同
		ファッションデザイン実習 II	2通	4	必修	実験・実習	共同
		デザイン概論	1前	2	選択	講義	
		パターンメイキング	2後	2	選択	講義	
		テキスタイル基礎	1後	2	必修	講義	
	感性工学	2後	2	選択	講義		
	ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	1前	2	選択	講義	
		国際ファッション市場論	1後	2	選択	講義	共同
		ファッションビジネス実習 I	1通	4	必修	実験・実習	
		ファッションビジネス実習 II	2通	4	必修	実験・実習	
		国際ビジネスモデル特講 I	2前	2	選択	演習	共同
		国際ビジネスモデル特講 II	2後	2	選択	演習	共同
		創造産業論	3前	2	選択	講義	
		マーケティング論	3前	2	必修	講義	
		消費者行動論	3前	2	必修	講義	
		知財論	2後	2	選択	講義	
	国際ファッション業界英語	2通	4	必修	演習		
	メディア科目群	写真概論	1前	2	必修	講義	
映像概論		1後	2	必修	講義		
写真実習		2前	2	選択	実験・実習		
映像実習		2後	2	選択	実験・実習		
科目方群	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10	必修	演習	共同	
	臨地実習 I (企業)	3通	10	必修	実験・実習	集中共同	
	臨地実習 II (地方産地)	3通	10	必修	実験・実習	集中共同	

別表 1 国際ファッション専門職大学授業科目

(3) 国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修・選択	授業形態	備考	
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	3後	2	必修	講義	
		地域産業・大阪論	2後	2	必修	講義	
		産業とメディアデザイン	2前	2	選択	講義	
		デジタルテクノロジー演習	2前	2	選択	演習	
		サブカルチャー・スタイル	2後	2	選択	講義	
		広告・PR論	3後	2	選択	講義	
	国際科目群	国際知財論	3前	2	選択	講義	
		国際連携ゼミ	3通	4	必修	演習	共同
		海外実習 I	3通	2	必修	実験・実習	集中共同
		海外実習 II	3通	4	選択	実験・実習	集中共同
④ 総合科目	統合指導ゼミ I	4前	4	必修	演習	共同	
	統合指導ゼミ II	4後	4	必修	演習	共同	
	卒業制作・計画	4通	4	必修	実験・実習	共同	

別表1 国際ファッション専門職大学授業科目

(4) 国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修・選択	授業形態	備考		
① 基礎科目	比較文化論	1前	2	必修	講義			
	現代文化論	1後	2	選択	講義			
	ヨーロッパの社会と文化	2後	2	選択	講義			
	文化論基礎ゼミ	1前	2	選択	演習	共同		
	会計入門	1前	2	選択	講義			
	産業論入門	1後	2	選択	講義			
	法学入門	1後	2	選択	講義			
	地域論入門	2後	2	選択	講義			
	フィールドワーク入門	1後	2	必修	講義			
	社会科学基礎ゼミ	2後	2	選択	演習			
	メディア概論	1前	2	必修	講義			
	情報リテラシー	1前	2	必修	講義			
	環境と社会	2前	2	選択	講義			
	英語 I	1通	4	必修	演習	共同		
	英語 II	2通	4	必修	演習			
	フランス語	2後	2	選択	演習	共同		
	イタリア語	2後	2	選択	演習			
	中国語	2後	2	選択	演習			
	日本語文章表現	1後	2	必修	講義			
	キャリアデザイン論	1後	2	選択	講義			
② 職業専門科目	ファッション論科目群	身体とパフォーマンス	1前	2	選択	講義		
		造形論入門	1前	2	必修	講義		
		自然資源と服装文化	1後	2	選択	講義		
		職人の世界	1前	2	選択	講義		
		装いと社会性・ジェンダー	1前	2	選択	講義		
		美とファッションの歴史	2前	2	必修	講義		
		ブランドの歴史と文化	2後	2	選択	講義		
		美容とファッション	2後	2	選択	講義		
		色彩論入門	1前	2	必修	講義		
		ファッション論基礎ゼミ	1前	2	選択	演習	共同	
		デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前	2	必修	講義	
			生活科学入門	1前	2	必修	講義	
	ファッションデザイン論		1前	2	必修	講義		
	ファッションデザイン実習 I		1通	4	必修	実験・実習		
	ファッションデザイン実習 II		2通	4	必修	実験・実習		
	デザイン概論		1前	2	選択	講義		
	パターンメイキング		2後	2	選択	講義		
	テキスタイル基礎		1後	2	必修	講義		
	テキスタイル中級		2前	2	選択	演習		
	感性工学		2後	2	選択	講義		
	ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	1前	2	選択	講義		
		国際ファッション市場論	1後	2	選択	講義		
		ファッションビジネス実習 I	1通	4	必修	実験・実習		
		ファッションビジネス実習 II	2通	4	必修	実験・実習		
		国際ビジネスモデル特講 I	2前	2	選択	演習		
		国際ビジネスモデル特講 II	2後	2	選択	演習		
		創造産業論	3前	2	選択	講義		
		マーケティング論	3前	2	必修	講義		
		消費者行動論	3前	2	必修	講義		
		知財論	2後	2	選択	講義		
		国際ファッション業界英語	2通	4	必修	演習		
		メディア科目群	写真概論	1前	2	必修	講義	
映像概論	1後		2	必修	講義			
写真実習	2前		2	選択	実験・実習			
映像実習	2後		2	選択	実験・実習			
地域・地方科目群	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10	必修	演習	共同		
	臨地実習 I (企業)	3通	10	必修	実験・実習	集中共同		
	臨地実習 II (地方産地)	3通	10	必修	実験・実習	集中共同		

別表1 国際ファッション専門職大学授業科目

(4)国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修・選択	授業形態	備考	
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	3後	2	必修	講義	
		地域産業・名古屋論	2後	2	必修	講義	
		産業とメディアデザイン	2前	2	選択	講義	
		デジタルテクノロジー演習	2前	2	選択	演習	
		サブカルチャー・スタイル	2後	2	選択	講義	
	広告・PR論	3後	2	選択	講義		
	国際科目群	国際知財論	3前	2	選択	講義	
		国際連携ゼミ	3通	4	必修	演習	共同
		海外実習Ⅰ	3通	2	必修	実験・実習	集中共同
		海外実習Ⅱ	3通	4	選択	実験・実習	集中共同
④ 総合科目	統合指導ゼミⅠ	4前	4	必修	演習	共同	
	統合指導ゼミⅡ	4後	4	必修	演習	共同	
	卒業制作・計画	4通	4	必修	実験・実習	共同	

別表2 卒業要件

(1) 国際ファッション学部ファッションクリエイション学科

科目区分	必修・選択	履修科目
基礎科目	必修	18 単位
	選択	2 単位以上
職業専門科目	必修	72 単位
	選択	2 単位以上
展開科目	必修	10 単位
	選択	10 単位以上
総合科目	必修	12 単位

※本学は単位制を採用し、126 単位以上を修得することを卒業要件とする。

(2) 国際ファッション学部ファッションビジネス学科

科目区分	必修・選択	履修科目
基礎科目	必修	18 単位
	選択	2 単位以上
職業専門科目	必修	72 単位
	選択	2 単位以上
展開科目	必修	10 単位
	選択	10 単位以上
総合科目	必修	12 単位

※本学は単位制を採用し、126 単位以上を修得することを卒業要件とする。

(3) 国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

科目区分	必修・選択	履修科目
基礎科目	必修	18 単位
	選択	2 単位以上
職業専門科目	必修	72 単位
	選択	2 単位以上
展開科目	必修	10 単位
	選択	10 単位以上
総合科目	必修	12 単位

※本学は単位制を採用し、126 単位以上を修得することを卒業要件とする。

(4) 国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

科目区分	必修・選択	履修科目
基礎科目	必修	18 単位
	選択	2 単位以上
職業専門科目	必修	72 単位
	選択	2 単位以上
展開科目	必修	10 単位
	選択	10 単位以上
総合科目	必修	12 単位

※本学は単位制を採用し、126 単位以上を修得することを卒業要件とする。

別表3 授業料等

国際ファッション学部

(1) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科

選考料		30,000円
入学金		300,000円
授業料	1年目	1,250,000円
	2年目	1,280,000円
	3年目	1,310,000円
	4年目	1,340,000円

(2) 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科

選考料		30,000円
入学金		300,000円
授業料	1年目	1,250,000円
	2年目	1,280,000円
	3年目	1,310,000円
	4年目	1,340,000円
(2年次編入)	1年目	1,280,000円
	2年目	1,310,000円
	3年目	1,340,000円
(3年次編入)	1年目	1,310,000円
	2年目	1,340,000円

(3) 国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

選考料		30,000円
入学金		280,000円
授業料	1年目	1,230,000円
	2年目	1,260,000円
	3年目	1,290,000円
	4年目	1,320,000円
(2年次編入)	1年目	1,260,000円
	2年目	1,290,000円
	3年目	1,320,000円
(3年次編入)	1年目	1,290,000円
	2年目	1,320,000円

(4) 国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

選考料		30,000円
入学金		250,000円
授業料	1年目	1,200,000円
	2年目	1,230,000円
	3年目	1,260,000円
	4年目	1,290,000円
(2年次編入)	1年目	1,230,000円
	2年目	1,260,000円
	3年目	1,290,000円
(3年次編入)	1年目	1,260,000円
	2年目	1,290,000円

国際ファッション専門職大学 教授会規定（案）

（目的）

第 1 条 本規定は、学校教育法第 93 条、および国際ファッション専門職大学(以下「本学」) 学則第 13 章第 48 条に基づき、本学に設置する教授会の組織及び運営等について定め、本学における教育研究の内容を向上させることを目的とする。

（構成）

第 2 条 教授会は、次の各号に定める専任の教職員により構成される。

(1) 教授

(2) 学長に任命された教職員

2. 議長は、学長または学長が任命する教授が担当し、議長が教授会を招集する。議長が止むを得ない事情で教授会に出席できない場合には、学長の指名した者が議長の職務を代行する。

（開催）

第 3 条 教授会は、定例会議及び臨時会議とする。

2. 定例会議は、原則学期に 1 回開催する。
3. 臨時会議は、学長が必要と認めるとき、または、教授会員の 3 分の 1 以上の要求があったときに開催する。

（役割）

第 4 条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議のうえ意見を述べる。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 学生の表彰
 - (4) 前三号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
2. 前項各号のほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長の求めに応じ、意見を述べる。

(定足数及び議決数)

第 5 条 教授会の定足数は、構成員の過半数とし、議事は、議長を含む出席者の過半数でこれを決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

2. 前項の定足数からは、休職中の者、その他長期にわたり出席できないものを除く。
3. 前項の定足数には、委任状も含むものとする。
4. 議長は、教授会構成員に直接利害のある事項について審議するときは、当該構成員の退席を求めることができる。

(委員会)

第 6 条 教授会は、教授会に属する教職員のうち一部の者をもって構成される専門委員会を設ける。

2. 前項の委員会についての規則は別途定める。

(非構成員の出席)

第 7 条 議長は、必要があるときには、教職員を陪席させ、又は構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(守秘義務)

第 8 条 学生の個人情報に関する事項及び人事に関する事項の審議内容については、秘密を漏らしてはならない。

付 則

この規定は、平成 31 年 4 月 1 日より施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

国際ファッション専門職大学

目次

1. 設置の趣旨及び必要性.....	1
1.1 設置の理由と必要性.....	1
1.1.1 産業構造上の問題.....	1
1.1.2 文化産業としてのファッションの可能性.....	2
1.1.3 多様な地域性をもつ各校舎の背景と日本の知財の活用.....	3
1.1.4 発信・展開のためのメディア技術の活用.....	4
1.2 養成する人材像、教育上の目的と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）.....	5
1.2.1 装いの文化の多様性を学ぶ.....	5
1.2.2 ファッションとその歴史、産業構造を学ぶ.....	6
1.2.3 グローバル化時代における日本発のファッションの創出を実現する.....	6
1.3 対象とする中心的な学問分野.....	11
1.4 既設の専門学校との違いと位置づけ.....	11
1.5 法人の沿革と建学の理念.....	23
2. 学部・学科等の特色.....	24
2.1 大学及び学部学科の概要.....	24
2.2 3つの方針（ポリシー）.....	24
2.3 各学科が重点的に担う機能と特色.....	37
2.3.1 ファッションクリエイション学科の特色.....	37
2.3.2 ファッションビジネス学科の特色.....	38
2.3.3 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の特色.....	38
2.3.4 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の特色.....	39
3. 大学・学部・学科の名称及び学位の名称.....	41
3.1 大学の名称.....	41
3.2 学部・学科の名称.....	41
3.3 学位の名称.....	42
3.4 本学における国際性の考え方.....	43
3.4.1 本学における国際性の考え方と養成しようとする人材.....	43
3.4.2 養成する人材に必要な実践力.....	44
3.4.3 必要な実践力を身につけさせる科目.....	44
3.4.4 「海外実習Ⅰ」（必修）と、英語以外の語学科目の増加.....	45
3.4.5 臨地実務実習（必修）の実習先.....	45
4. 教育課程の編成の考え方及び特色.....	47
4.1 教育課程における編成の体系化（カリキュラム・ポリシー）.....	47

4.2	基礎科目の設定と理由	52
4.3	職業専門科目の設定と理由	54
4.3.1	「ファッション論科目群」	55
4.3.2	「デザイン科目群」	56
4.3.3	「ビジネス科目群」	57
4.3.4	「メディア科目群」	58
4.3.5	「地域・地方科目群」	59
4.4	展開科目の設定と理由	59
4.4.1	「発信力科目群」	60
4.4.2	「国際科目群」	61
4.5	総合科目の設定と理由	62
5.	教員組織編制の考え方及び特色	64
5.1	教員組織の編制	64
5.2	中核的な科目や必修の理論科目についての担当の原則	68
5.3	教員配置の研究分野と研究体制	68
6.	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	70
6.1	教育方針	70
6.2	授業方法に適した学生数の設定	70
6.3	卒業要件	71
6.4	履修モデル	71
6.5	履修科目の年間登録上限（CAP制）等	72
7.	教育課程連携協議会について	73
7.1	教育課程連携協議会の構成	73
7.2	教育課程連携協議会の内容	73
7.3	教育課程連携協議会の議論を受け止め、教育課程の改定につなげる方法	74
8.	施設、設備等の整備計画	75
8.1	校地	75
8.1.1	運動場	75
8.1.2	校舎以外での教育	75
8.2	校舎等施設の整備計画	75
8.2.1	教員の研究室、必要な教室の整備計画	76
8.2.2	実習等に関する設備や器具等の整備	76
8.2.3	教員の研究室	77
8.3	図書等の資料及び図書館の整備計画	78
8.3.1	図書館の整備	78

8.3.2	図書等の資料整備	78
8.4	広報事業 公開講座の開催と広報誌の発行	80
8.5	成果発表事業の整備	80
9.	入学者選抜の概要	81
9.1	入学者選抜の考え方	81
9.2	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）	81
9.3	入学者選抜方法	83
9.3.1	AO 入学試験	83
9.3.2	推薦入学試験	83
9.3.4	一般入学併願試験	84
9.3.5	留学生入学試験	84
9.3.6	欠員募集	84
9.4	選抜体制	84
9.5	編入学定員を設定する場合の計画	84
9.5.1	既修得単位の認定方法	85
9.5.2	履修指導方法	85
9.5.3	教育上の配慮等	85
10.	学外実習等を実施する場合の具体的計画	86
10.1	企業、地方産地における実習の概要と計画	86
10.1.1	実習の種類と目的	87
10.1.2	実習の対象年度と受講生について	89
10.1.3	実習実施地域	89
10.2	臨地実習による教育指導及び単位認定や成績評価の方法	89
10.3	臨地実習を可能にする制度的整備	90
10.4	海外実習の具体的な内容とインターンシップ先	91
11.	管理運営	95
11.1	教学面における管理運営体制	95
11.1.1	教授会の組織と役割	95
11.1.2	運営等	95
11.2	関連委員会の設置と役割	95
12.	自己点検・評価	96
13.	情報の公開	98
14.	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	99
15.	社会的、職業的自立に関する指導及び体制	100

15.1	教育課程内の取り組み	100
15.2	教育課程外の取り組み	100
15.3	適切な体制の整備について	100

1. 設置の趣旨及び必要性

1.1 設置の理由と必要性

学校法人日本教育財団（以下、本法人）は、学校教育法の一部改正（平成 29 年法律第 41 号）及びその他法令規定に則り、国際ファッション専門職大学（以下、本学）を設立する。本学は、デザインなどの創造活動（クリエイション）及びビジネスの領域で国際的に活躍できる人材を育成し、社会に送り出すことを目的とする。すなわち、ファッションやこれに関わる文化について国際的に通用する教養を備える人材、ならびに国際的な見地から主としてファッション産業界が抱える課題を発見し、課題解決に向けて積極的に取り組み、地域企業・地方産地の低迷打破に貢献できる人材の育成を目的とする。このため、具体的には基礎科目と職業専門科目のバランスの取れた配分によって、基礎となる学問的な知と技術的な知を学び、地域企業・地方産地、海外実習先と緊密した連携をもとに臨地実習科目を配分することにより、高度かつ実践的な知を学ぶことのできる職業教育高等機関を目指す。

本学を設置する理由は、端的に言えば、日本のファッション産業界が直面している諸問題を克服するために、これまでとは異なるクリエイションとビジネスを統合した人材教育の体制作りを必要とするという認識に至ったためである。それは同時に、当該産業そのものの捉え方を見直すことにもつながる。つまり、服飾にのみ特化した狭い意味での既存のファッション産業ではなく、自然資源、地域文化、最新のデザイン、先端テクノロジーがつながり、組み合わせる知財創造の場として、より広くファッションを捉える。そして、新たな産業領域として付加価値を創造し、それを商業的にも成り立たせ、総合的なファッション産業として国際市場に発信・展開する。新たなファッション産業領域の創出と拡大に寄与するための人材、すなわちこれまで大学と専門学校において別々に教えられてきた学問知と技術知を統合するだけでなく、主体的に判断し国際的に通用する実践知を備えた人物こそが現在求められており、また本学が育成しようとする人材である。

以下では、まず 1.1.1 で、国際化に遅れをとっている現状の問題点を明らかにし、本学を設置するための社会的な背景を述べる。次に 1.1.2 で、かかる国際化の問題解決に向けて文化産業としてのファッションの可能性を示し、本学を開設する必要性を述べる。そして 1.1.3 で、本学が取り組む具体的な事案として、各校舎の背景にある多様な地域性（文化的多様性）をもとにした日本の知財の活用を提案するとともに、1.1.4 で、国際的な発信・展開のための各種メディア技術を組み入れた、問題解決のための本学の指針を述べる。

1.1.1 産業構造上の問題

服を作る服飾・アパレル産業は、川上の糸生産から川下の服の販売まで多様な人材に関わる一大産業として長らく日本の経済社会を支えてきた。特に、付加価値を創出するデザイナーやブランドは重要な役割を果たし、これまでも才能あるデザイナーを日本国内から輩出してきた事実がある。ところが、日本国内のアパレル産業界の活性化に寄与してきた彼らも、世界的な基準に照らし合わせてみれば、国際的な知名度やシェアを十分に維持し続けてきたとは言い難い。そこにはデザインなどのクリエイション

上の問題とともに、ビジネスの展開上の問題が重なる。実際、日本の繊維・アパレル産業は著しい輸出入の傾向を抱えており、現在の輸出対輸入の割合は1:64で、顕著な輸入超過を示している（日本化学繊維工業（2015）『繊維ハンドブック』）。この比率は他の欧米諸地域に比べて大きく悪化の一途をたどる。この事実を鑑みる限り日本国内のアパレル産業界は輸出競争力が乏しいと言わざるを得ない。また日本国内の市場も人口減少による先細りが予測されており、国内市場を担保に展開してきたこれまでの日本のアパレル産業界の競争力について、楽観視ができない状況となっている。アパレル産業界の不振と競争力低下は川上の繊維産業界と連動し、その生産能力は減少するとともに、それらの生産を担う地方産地経済社会への打撃が顕在化している。

こうした市場上の特徴を持つ国内のアパレル産業は、産業構造上も変化の渦中にあり、またその変化に対応しきれていないという問題がある。日本のアパレル業界は、長らく商社と主力メーカーを中心とする業態を形成し産業界を牽引してきたが、大手アパレルメーカーとその中心的な販売網であった百貨店が軒並み苦戦し市場規模が縮小した。同時に、ファーストリテイリングや良品計画などの新たな業態をもつメーカー兼小売業者のブランドの参入が産業構造を大きく変えるとともに、現在では、アマゾンのような流通業者によるアパレル業界の参入、店舗を持たない業態の拡大、ITなどの異業種からの参入などにより産業構造はこれまでになく変化している。構造的変化に既存のメーカーが対応しきれていない、また既存のブランドが対応しきれていないことは、デザインなどの創作活動やクリエイションの上で傑出した人材や商品を輩出したとしても、ビジネスの上での問題を抱え、海外資本や大手新規資本にブランドごと買収されるという問題につながるのである。

1.1.2 文化産業としてのファッションの可能性

上記の問題に対する解決方法の一つが、成長機会のある海外市場への進出である。アパレル産業そのものは世界的に見ると成長産業であり、実質ベースで約3.6%の年成長率を実現する。地域として中東、アフリカ、東欧、続いてアジア市場の伸びが大きい。アジア新興国では富裕層の拡大により高級ブランド市場が成長し、日本市場はその一部に組み込まれる格好になっている（福田稔『アパレル産業の未来：国内アパレル企業の課題と進むべき道』（平成29年）

https://www.rolandberger.com/ja/Publications/pub_cgr2_tokyo.html）。先進国及びアジアの市場構造は、富裕層向けの高級ブランド市場と大衆向け市場に二極化しているともいえるが、このような市場構造の変化に国内のメーカーが積極的に対応することが、市場上の問題解決につながる。

では、どのようにして海外市場に機会を見つけていけばよいのだろうか。経済産業省（平成22年）「文化産業」立国に向けて：文化産業を21世紀のリーディング産業に」

（<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g100405a04j.pdf>）を参考にしてみたい。本報告書によると、「ファッションを含む文化産業は、日本経済を牽引し、日本のソフトパワーとして、日本産業全体の海外展開の大きな力となる」という。アパレル産業も文化産業として新たな付加価値を身につけ、価値観の再構築を行うことが期待される。中国や韓国などアジアの主要国は、すでに文化産業を外交の重要な柱とみなし、膨大な投資を開始している。

またアジア諸国に先立って文化産業を国家戦略の柱とし、世界のファッションをリードすることに成功したのはフランスである。フランスでは、文化産業やソフトコンテンツを重視した政策を展開した歴史は古く、すでに17世紀には中央政府がファッション産業を国の機関産業にとらえ、コルベール王立学校を中心に、建築、装飾、彫刻、タペストリーなどの職人を結集させた。フランスでは地域的な知財を活かし、そこに技術的な錬成を加えるとともに、ヨーロッパに長らくみられるサロン文化につながるビジネスモデルを融合させ、世界を文化的に席卷した。この伝統は、今日のコルベール委員会に引き継がれている（コルベール委員会ホームページ <http://www.comitecolbert.jp/>）。

現在の日本のアパレル産業界が文化産業として海外に展開し、新たな価値観の創出を目指す上で学ぶべき点は、地域に根付いた独自の知財を職人的技術とデザイン力に結び付けるというソフトコンテンツ上の工夫と、またそれをビジネスモデルに引き付けて融合させるというハードコンテンツ上の工夫を、総合的に結びつけるという点である。この仕組み作りとそれを担う人材育成が、現在の産業構造上の問題を解決する重要な方法となる。

1.1.3 多様な地域性をもつ各校舎の背景と日本の知財の活用

上記の仕組み作りと人材育成を行うため、まず、世界各地のさまざまな地域文化との比較を通じて、多様な地域性をもつ日本文化の独自性を再認識する。それは、これまで欧米やアジアで認知されてきた伝統的な日本文化を再認識するとともに、現代的な民衆の文化や若者の文化を含めた日本文化や日本におけるさまざまなライフスタイルを認識することにつながる。例えば、19世紀には、日本の浮世絵や工芸品などに蓄積された日本のデザインが「ジャポニズム」と称されて欧米諸国の芸術文化に大きな影響を与えた。近年では、マンガやアニメなどが「クールジャパン」の一例としてメディア芸術の分野で注目を浴びている。こうした日本の文化的創造性を積極的に再認識する（植田高盛「クールジャパン機構のご紹介」（平成28年）<http://www.tokugikon.jp/gikonshi/281/281tokusyu2.pdf>）。

そして、文化的創造性をファッション分野におけるテキスタイル等の素材開発や技術開発につなげるため、日本各地の繊維関連産業で受け継がれてきた伝統的技術や徒弟的に引き継がれてきた職人の知識を発見し積極的に学ぶ。今や和装の需要減少から継承問題が取り沙汰される伝統的な諸技術や知識を、本学は積極的に重視し、学外における臨地実習を通じて学習する機会を設ける。実習の前後には、学内において、実習前に基礎的な理論や技術を、そして実習後には実習で学んだ知識と技術を深く定着させる演習を行う。学内外の学びが有機的につながることで、現代的な製品に融合させた新たな知財やデザインの開発に取り組む機会を提供する。

このような学内外の学びが必要な理由は、特に、現在のファッション業界では、新たな価値の創出に先端技術の習得も欠かせないからである。例えば現在、世界のトップブランドの一つであるシャネルは、3Dプリンターで出力した素材で服を制作し、応用運動学に基づいた服作りを行う。こうしたブランドの動きからも考えられるように、近い未来には、3Dプリント技術の進歩と普及に合わせて「流行のデザインを、自宅で自分の体形に合った服としてダウンロードして印刷し作る」というクリエイションが予想されている。ファッションビジネスの分野では、先端技術のAI（人工知能）の活用が有望視されて

いる。AIを使用した嗜好の分類化が進み、標準化の難しい「好き嫌い、似合う、似合わない」という感覚や感性の領域を数値化した新しいファッションの流通ビジネスが出現すれば、既存のビジネスモデルの構造変化につながると予想されている。

1.1.4 発信・展開のためのメディア技術の活用

こうして新たに創造する価値及び仕事のあり方は、それを国内外の市場、経済社会に向けて積極的に発信し、その応答のなかで錬成され広く認められていくものである。それは、経済社会の情勢がめまぐるしく変化し、産業を取り巻く価値観や仕事の在り方の変革スピードが速い現代にあって、個々の職業人が常にその能力を周りとの関係性のなかで鍛え直すことを意味する。かかる変化に主体的に対応できる人材、自らと周りとの関わり合いや対話のなかで、新たな知識や技術を学び続ける職業人となるには、自ら発信できる技術とそれを生かす能力が欠かせない。

本学は、その具体的取組みとして、ファッションクリエイション分野とファッションビジネス分野で職業の専門性を身につけた後、写真や映像等の各種メディア技術を活用した展開学習を行い発信・展開の能力を鍛える。ファッション産業は、外見に関わる要素が強いため、広く社会に訴え、消費者に届ける際に制作物を可視化して発信する能力が欠かせない。特に、静止画や動画を介して視覚や聴覚に訴えかける発信技術は、現在急増している各種通信媒体を介した消費につながり、また国際的なクリエイションの展開やビジネスの展開に結び付く。このため、各種メディア技術は現代のファッション産業に携わる専門職人材には欠かせない知識や技術といえよう。ところが既存の家政学領域ではこうした展開科目を教授する教員配置を行うことは少ない。メディアの基礎知識と最新の各種技術等を体系的に提供し、それらを有効に利用したプレゼンテーションまでを含む、総合的な発信と応答のあり方を教えるのは、本学の教育科目の大きな特徴である。これによって、激化する世界的な競争環境のなかで、当該産業でより高い付加価値を生み出し、成長、発展、持続していく、創造性と実践力を兼ね備えた豊かな専門職人材を育成する。

以上 1.1 項をまとめると、経済社会的情勢が移り変わるなかで、現代のファッション産業には流動的な国内外の市場に関わるクリエイションの課題、そして産業構造に関わる商慣行や働き方といったビジネスの課題が認められる。かかる課題を換言すれば、現代的な変化に対し柔軟に対応することのできる人材の不足と言えよう。こうした課題を解決できる人材として、総合的な視野を持った高度な専門職の育成が、産業的にも広く社会的にも要請されている。

具体的な解決法として本学は、国内の地域産業や経済社会に根付いた、クリエイションというソフトコンテンツ上の工夫と、ビジネスというハードコンテンツ上の工夫を、先端的な技術と組み合わせつつ総合する。これにより、日本国内外の多様な文化を再評価しつつ、関連する伝統的知財と技術及び現代的な先端技術をファッション業界に適用し、新たな価値を開発する。それは、人材育成の観点から換言すれば、従来の職種に由来しながら新たに総合的な視点を持つ仕事のあり方を生み出すことにつながる。つまり、ファッションクリエイションの分野では、モノづくりや意匠を重点的に担ってきたデザイナー

の職種に由来しながら、ビジネスにも目配せをすることのできる新たなディレクターとなる人材の育成を目指す。他方、ファッションビジネスの分野では、販売や経営の管理を重点的に担ってきたマーチャンダイザーの職種に由来しながら、ものの美的な価値にも理解を示す新たなプロデューサーとなる人材の育成を目指す。さらに、クリエイションとビジネスをバランスよく学び、双方の職種に由来し、自ら創作と運営を行う総合的なクリエイターとなるような人材の育成を実現する。

かかる専門職を養成するため、本学は次節以降で詳述するような教育と研究に取り組む。その教育と研究の成果は、人材の輩出として現れるとともに、学生による卒業制作・計画といった制作物として発表される。同時に、本学の専任教員を中心とした研究教育活動の成果論文や制作物等として発表される。本学は、学内外をつなぐ各種成果発表の場や媒体を通じて、広く世にその教育研究成果を還元することを目指す。以上に関する設置の概要を、資料1に添付する。

1.2 養成する人材像、教育上の目的と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の教育目標は、ファッション産業の分野で優れた実践的貢献をなし、国内外のファッション産業界で活躍しうる専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた総合的な人材の育成である。

本学は、所定の期間在学し、本学の教育理念、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して基準となる単位数を修得し、卒業要件を満たす者に学位を授与する方針である。修得すべき授業科目には、講義のほかに実習や演習、臨地実習及び卒業制作等の科目が含まれる。主に全学科に共通する基礎科目を通じてなされた教養教育と、各学科の特性に応じて編成された職業専門教育、展開科目、総合科目とともに修得しているかどうか、学士を授与する基準や要件となる。6.3項目に詳細を記す。

本学において、どのような人材を養成し、どのような能力を修得させるのか。以下では、より具体的に、教育上の目的、学生が修得すべき能力を記す。最後にそれに対応した、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を記載する。このディプロマ・ポリシーは、4.1項目の教育課程の方針（カリキュラム・ポリシー）と一貫性・整合性のあるものとして策定し、かつ9.2項目の入学受入の方針（アドミッション・ポリシー）と関連して策定した。3つの方針の関係性は、2.2項目に詳述し、資料2を添付する。続いて、各学科の具体的な教育目標と人材像に応じた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を記す。

1.2.1 装いの文化の多様性を学ぶ

いつから人は衣服を見にまとうようになったのか。現代において、裸族と呼ばれるような人間はほぼなくなり、衣服は欠かせない存在となっている。衣服は、それがどのようなものであれ、身体をきびしい自然から守る役割を果たしてきた。体を温め、傷を防ぐことに役立ってきたのである。多くの衣服が植物繊維や毛皮など自然の素材から作られたことを考えると、衣服は人間にもっとも親しい自然と考えることができる。それは人間が作った人工物であると同時に、自然に近い存在なのである。つまり、衣服とは人間を取り巻く自然（それ自体、熱帯から乾燥地、あるいは極地まで多様である）と密接に関係すると同時に、文化的な産物でもある。このため、世界を見渡せばその土地特有の多様な衣服が認め

られる。衣服や装飾品の多様性（装いの文化、民族衣装の世界）は、何よりも人間が生きてきた自然環境と文化が生み出したものなのである。本学の基礎科目では、既存のファッション分野で学習する被服の技術や知識を学ぶ前提として、まず装いの文化、とくに日本文化を学び、後々までの豊かな発想やクリエイションのコンセプト作りのもとになる学びを提供する目的でいくつかの講義を設置している。

例えば、身体とパフォーマンスでは、衣服が身体を保護すると同時に、何かを表現する記号としても機能するという観点から身体と衣服との関係を学ぶ。自然と布では、素材とその背景に認められる人間の多様な営みについて、装いの文化では衣服の多様性、階層、男女、年齢、での相違などについて学ぶ。さらに衣服を生み出す職人たちの世界を学ぶことで、装いの文化の多様性を理解することになる。ここで理解される衣服とは、何よりも身体と自然、文化と自然を結びつけるインターフェースとしての衣服と理解することができる。

1.2.2 ファッションとその歴史、産業構造を学ぶ

しかし、上記で想定されている装いの文化はファッションと同じではない。時に民族衣装が注目されることはあっても、それ自体がファッションなのではない。地域ごとに何等かの流行り廃りがあるとしても、それは厳密な意味でファッションとは言い難い。ファッションあるいはモードとは、あくまでパリやミラノ、ニューヨークを拠点に生まれる衣服の創出、生産と消費の総体や、これらの活動から生まれる具体的な産物を中心的に指し示す。ファッションの起源は、最初のオートクチュール店がパリに生まれた 1858 年とされ、以来独自の歴史が作られてきた。衣服は、身体を保護したり飾ったり何かを伝えるだけでなく、商品として時に大量に流通する。本学では、ファッションとそれを支えるファッション産業を理解するにあたり、ファッション史、その背景にあるヨーロッパ社会と文化、さらにファッション産業の構造を学習することを必須と考える。これによって、ファッションの構造とその経済活動の理解を達成することが可能となる。

欧米の都市で毎年創出されるファッションは、商品となって中核都市（メトロポリス）から地方へ、上流階級から中間層へ、欧米から世界へと普及していく。ファッションは都市と地方、異なる二つの階級を時に分断し、時に結びつける商品といえよう。これもまたインターフェースとしての衣服の一面である。

1.2.3 グローバル化時代における日本発のファッションの創出を実現する

装いの文化の多様性を学び、ファッションの歴史と産業構造を学ぶ。これに加えて必要なのが、グローバル化のもとこれまでの欧米中心のファッション構造を相対化する積極的な日本からの発信である。その独自性を可能にするのが、豊かな日本の装いの文化と関連する職人の世界である。これを知財化し、日本を拠点とするファッションクリエイションとファッションビジネスの拠点を創出することが本学の目的となる。具体的には、3 年目以降における日本の職人の世界に接する臨地実習制度である。しかし、日本文化を商品化し、世界に向けて発信するためには、ファッションに必要な技術だけでなく、多

様な地域の商慣行や国際的なビジネスの仕組み、メディア技術を使用した発信の仕組みなど、ファッション産業のハードな側面についても十分な知識と活動経験を必要とする。このために必須とされるのが国内の企業におけるファッションビジネス世界での臨地実習制度である。学外における実習制度はさらに、一部海外における実習の選択も可能にしており、広く国際的に活動経験を積む機会を提供する。

以上、本学では、ファッション産業界における新たな人材の養成を目指して、クリエイションとビジネスの二つの領域で、装いの文化についての理解を深める学習環境を整える。そして、臨地実習やインターンを通じて、国内外へ発信できる実用的な知識や技術を修得させる学習環境を準備する。

これに対応して、本学は、(1) 国際社会で通用する教養、コミュニケーション能力を持つ人材、(2) ファッションの基本的知識と技術を学び、当該分野で自立できる能力がある人材、(3) ファッションに関わる知識や技術を深化させながら企画開発戦略などの構想力を持つ人材 (4) ファッションに関わる国際化、情報化などの変化に対応し、主体的に課題に取り組むことができる人材に対し、学位授与を行う方針（ディプロマ・ポリシー）である。上記の内容を達成するため、各学科ではより具体的な教育目標と人材像を設定する。

1.2.3.1 ファッションクリエイション学科

ファッションクリエイション学科では、学則第4条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

ファッションクリエイション分野において、産業内で広く一般に必要と認識されている基本的な被服学及びモノづくりへの理解を養うと同時に基本的な技能を修得させる。

3. 知識・理解

国際社会における日本及び多様な地域の社会、文化、芸術に関する理解力を持たせる。

情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

ファッションクリエイションの国際的動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー

被服学及びモノづくりの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションクリエイションにおいて必要とされる基本的な理解と技能を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなメディアテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションクリエイション分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

1.2.3.2. ファッションビジネス学科

ファッションビジネス学科では、学則第4条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

ファッションビジネス分野における、産業及び国や地域の経済社会的事象について、基本的な構造及び商慣行への理解を養うと同時にそれらを数量的に把握する基本的な技術を修得させる。

3. 知識・理解

国際社会における日本及び多様な地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。

情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

ファッションビジネスの国際的動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー

被服学の基礎及びファッションビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションの主にビジネスにおいて必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションビジネス分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

1.2.3.3 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科では、学則第4条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

関西地域の経済、社会、文化、環境への理解をもつと同時に、ファッション産業で必要とされるクリエイションとビジネス分野における基本的な被服学及びモノづくりへの理解と、経済社会的事象などへの理解をバランスよく学び、必要とされる基本的な技能を修得させる。

3. 知識・理解

多様な日本国内外の地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

関西地域及び国際的なファッション産業の動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー

関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、被服学の基礎及びファッションのビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、関西地域におけるファッション分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

1.2.3.4 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科では、学則第4条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

名古屋地域の経済、社会、文化、環境への理解をもつと同時に、ファッション産業で必要とされるクリエイションとビジネス分野における基本的な被服学及びモノづくりへの理解と、基本的な経済社会的現象などへの理解をバランスよく学び、必要とされる基本的な技能を修得させる。

3. 知識・理解

多様な日本国内外の地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。

情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

名古屋地域及び国際的なファッション産業の動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー

名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、被服学の基礎及びファッションのビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。

3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。

4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、名古屋地域におけるファッション分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

1.3 対象とする中心的な学問分野

本学が対象とする中心的な学問分野は、主に家政学に位置づく。ファッションはこれまで、家政学領域の特に被服学で中心的に取り扱われてきた。被服学とは、人間の衣服について総合的に研究する学問である。そこでは衣服の機能特性の分析や検証、衣服の造形・制作技術の開発と検討、ファッションや服飾の歴史の変遷や各地域の特性が分析されてきた。すなわち、具体的なモノづくりのための技術的貢献と、歴史文化的な学問的貢献がなされてきた。1.1 項目で述べたように、本学の設置目的である高度な専門的知識と技術を持った人材の育成という課題に応えるためには、上記の被服学の貢献を抜きにしては達成することができない。

そして、ファッションを扱う家政学の領域は、現在の多彩なファッション産業の在り方を反映してより広く隣接する学問領域の知見も必要とされている。ファッションを創造的に展開するために必要な、生活科学、デザイン学、美学、芸術学、メディア研究の知識や技術が必要となる。さらに、本学の目的であるファッション業界で国際的な人材を育てるという観点からは、経済学や経営学、特に国際的な展開を扱うことのできる地域研究の知識や実践的な運用についての理解が不可欠である。最後に、国際的に展開するファッションならびにビジネス分野での活動に欠かせないのが、文化や社会を広い観点から理解することを目指す文化人類学、社会学、歴史学、地域研究、ジェンダー研究などである。

このように、本学は、家政学領域の被服学を中心とする従来のファッションに関わる学問を広く捉えつつ、現代的で魅力ある新たなファッション研究を再構築することを目指すものである。この特色は、具体的な4項の教育課程の編成、8.5項の成果発信等で応えるものとする。

1.4 既設の専門学校との違いと位置づけ

現代の日本社会は多様な文化が会う多文化共生社会へ移行しつつある。そうした状況で社会的課題及び産業上の課題を発見するには、社会的文脈を理解するための知的基盤が何より重要である。それが「学問知」すなわち学術的な知見に相当する。また、社会的課題及び産業上の課題の解決のためには、創造するクリエイション能力やメディアの活用、情報の編集、言語的・非言語的表現能力といった「技術知」が必要になる。これら学問知及び技術知は、実践知と密接に関係する。社会的課題、産業上の課題の発見と解決のためには双方が有機的に結びついていることが必要である。すなわち実践を志す学習者のために学問知や技術知に裏打ちされた高度な学びの環境を提供する機会が必要である。

学校法人日本教育財団は、これまで既設専門学校モード学園において、日本国内のアパレル産業に関して即戦力となる技術的な中核人材の育成に重点をおき教育指導を行ってきた。その教育課程では、入学後すぐに被服の技術的基本を教育する。絵をかき、形を作り、布を裁ち、縫製するという基本動作を習熟するには繰り返しの鍛錬が必要である。専門学校では、教育課程の大半を、実習を伴う実践的な技術知の修得のための教育に特化し、引き続き、被服の専門家を育成する。ただしそこでは、被服作業に入る前に、なぜ人は服を着るのか、ファッションとは何か、被服とファッションの違いや現代の変容を、深く考察する機会は設けていない。また、現代のファッション産業が、産業を取り巻くグローバルな状況変化と地域のローカルな状況変化の相互作用と関連して変化していることを認識し、経済社会文化歴

史的な視野を持って産業上の課題を解決し、新たな職種の開発と戦略を目指す取組みにはなっていない。さらに、既設専門学校モード学園では、国際化に対応した教育課程にはなっていない。また本法人は、技術知に基づく実践知を重視した教育に長らく取り組んできたが、内外のファッション業界を取り巻く産業上の課題や状況を鑑みるに、これまでの教育のみからでは、こうした課題を打破できる国際的に活躍できる人材の育成には十分ではないという認識に至った。既設の専門学校の強みを引き続き活かしながら、これまで不足していた学問知を中心に技術知を総合的かつ体系的に学び、臨地での実習制度を積極的に取り入れることで新たな実践知を備えた人材を創出する。これが既設の専門学校とは異なる本学の位置付けである。

これにより、社会的、職業的活動における協働から自らのあり方を自省し調整する学問知を踏まえたうえで、技術知を習得し現実の社会的文脈に根差した実践知を生み出すための教育研究環境を整える。実践知に重点を当てた教育に長らく取り組んできた本法人が、学問知、技術知を学修者に伝える教育研究機関として本学を設立する意義と強みはこの点にある。

ここで、専門学校と専門職大学の人材像とカリキュラムの違いを示し、特徴をより明確にする。

今般、本学が専門職大学を設置する必要性は、現在の国内外のファッション産業における課題発見とその解決のために必要な人材の養成が、既設の専門学校で行ってきた教育課程では十分に対応することができないと判断したためである。現在、日本のファッション産業界で必要とされている人材は、総合的にプロデュースやディレクションを行える人材である。そして、ファッション業界の国際化、情報化に対応できる人材である。

ここで、既設の専門学校で行ってきた教育課程と、新設の専門職大学で行う教育課程を明示的に比較するために、わかりやすく対応する 2 学科を抽出して示しながら、専門職大学における人材の育成の違いと特徴について説明する。

(1) 専門学校：技術職・販売職人材の輩出と、技術力を身につける科目に特徴がある

1-1. 専門学校モード学園 ファッションクリエイション関係の例

・養成している人材：

日本国内のファッション産業の製造におけるデザイナー、パタンナー（技術職）

日本国内のファッション産業の小売における店舗販売員（販売職）

・教育課程の特徴：

服のデザインと生産方法に関する実践的知識や技術を養成する科目が大半を越す

・添付資料 13-表 1：ファッションクリエイションコース 4 年制（例）

既設専門学校モード学園には、服作りに関する 1 年制コース、2 年制コース、3 年制コース、4 年制コースがあり、それぞれに当分野の全学生の約 10%、約数%、約数%、約 90%が入学し卒業する。1 年制コースは、大学でいう初年次教育に当たる内容を中心に、高等学校から専門学校への円滑な移行を図り、専門学校での学びおよび社会でのキャリアを十全に支えるべく、人間関係の確立と維持、ファッション産業の基礎能力習得、ファッション産業におけるキャリアと人生設計を考え

始める基礎学習、社会人として必要な基礎学習を行う。2年制と3年制コースは、既にこうした基礎的な能力とファッションの知識をつけた学生が編入学する場合として位置づき、2年制もしくは3年制コースから入学して卒業する学生は、現在のところ希である。多くの学生は、4年制コースを履修し卒業する。4年制コースは、入学時より4年間一貫して学ぶコースと、先述のように1年制の初年次コースを履修した後さらに3年制コースの履修を希望する1年プラス3年で合計4年間の教育を受けるコースからなる。2017年度に卒業した4年制コースの学生のうち、一貫性コースの割合は約40%、1年プラス3年制コースの割合が約60%となっている。なかでも4年一貫性コースの教育課程は、高度専門士を養成するコースとして、既設専門学校で教育するうち服作りの最上の教育課程と位置付けている。

養成している人材の特徴

1年制コース、4年制コースを履修した多くの学生は、専門学校の教育課程を経て、日本国内のファッション産業界の製造・卸分野におけるデザイナー、パタンナーといった技術職に就く。又は、国内のファッション産業界の特に小売分野の店舗における販売員や営業職に就くことが多い（海外のファッション産業界の日本支社の小売分野の販売職、技術職なども含む）。特徴は、いずれも国内のファッション産業界の川下における中小企業が中心で、川上の繊維分野の大手企業などへの就職経路はほぼ見当たらないことである。加えてファッション産業界に隣接する他業種を含めても、中小、大手に関わらず、総合職、管理職へむけた人材輩出はほぼなされていない点である。

4年制コースを履修した学生の一部や、傑出した能力を持つ一部の卒業生は、海外のファッション業界の中心地であるパリやロンドンやニューヨーク等で広く認知されたブランドにおいて、デザイナーやパタンナーの職に就く、もしくは独立したブランドを構築する場合がある。ただし、多くが手の技術を買われての就業であり、付加価値が大きいクリエイション上のコンセプトメイキングの仕事を担えるような職、すなわちプロデュースやダイレクトを任される企画、戦略の職種、総合職や管理職には就業していない。

このように、専門学校で養成している人材は、多くが国内のファッション業界の製造・卸分野における技術職や小売分野の販売職であり、総合職、管理職への輩出は極めて希である。その多くが中小企業に属する。加えて、海外のファッション業界における技術職への人材輩出も極めて少なく、総合職への人材輩出はほぼ見当たらない。かかる人材を次の教育課程で養成する。

教育課程の特徴

添付資料13-表1は、既設の専門学校モード学園で行う教育課程のうち、ファッションクリエイションの分野における4年制の教育課程（高度専門士コース）を、便宜的に専門職大学の教育課程のフォーマットに置き換えたものである。表1によると、全55科目中、専門職大学の教育課程に読み替えた基礎科目にあたるものが8科目、職業専門科目にあたるものが43科目、展開科目にあたるものは無く、総合科目にあたるものが4科目であった。以上の科目は、講義系科目と、実習・演習系科目からなる。

基礎科目は、「PC 演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「自己開発Ⅰ、Ⅱ」「創造性開発Ⅰ、Ⅱ」「ビジネストレーニングⅠ」の約4種類の内容で、8科目からなる。グラフィック編集ソフトウェアを使用するための技術的教育と、キャリアプランニングのための精神的な訓育がなされている。

職業専門科目は、「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「クリエイション」「創作デザインⅡ、Ⅲ、Ⅳ」「デザイン画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「パターンメイキングⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「テクニカルデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「制作技法Ⅰ、Ⅱ」「カラーリング」「マテリアルⅠ、Ⅱ」「MEW (Mode Event Week) Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「フレックススタディⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「学外実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「インターンシップ」「ファッショントレンド分析Ⅰ、Ⅱ」「ファッションクリエイター論」「ファッションスキルアップ」「アパレルマーチャンダイジング」「アパレル生産技術Ⅰ」「ブランドプランニングⅠ、Ⅱ」の約20種類の内容で、43科目からなる。

講義科目の「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」などで、実務的な見解や知見に基づいた基礎的な産業の概略、服装の変遷などの内容を理解させる教育がみられる。なかでも特徴的な点は、実習・演習系科目を通じて服飾制作の上で必要となる専門的技術を、課題を課して繰り返し習熟させる教育である。デザインの技法、パターンの技法、色彩の技法、マテリアルの技法、トレンド分析の技法など多く課題を課し、それを消化していくなかで実践的な技術を身につけさせる。これらの科目が教育課程の大半を担う。

また、服作りの技術を身につける学科であるが、「アパレル生産技術Ⅰ」などの講義科目でアパレルの製造・卸における販売やビジネスの技術職につながるノウハウも教育する。

加えて、学外実習教育として、各種展示会へ出席しレポート作成を課す教育や、1か月間服飾関連企業でインターンシップをさせる教育、実際に衣服を制作して発表を行い外部の評価を得る機会をもつ教育を行っている。

総合科目は、「ケーススタディⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「卒業制作」の約2種類の内容で4科目からなる。ファッション業界から依頼を受けて企画を提出する機会を設ける教育、及び卒業制作において一人一体の服飾作品を制作する実践的な教育を行っている。

このように、専門学校における服作りの教育課程は、1年次から社会人として必要とされる基本的な生活態度や考え方を教え、学生のケアをしながら服作りの技術的な基礎を教育し、服作りに関する仕事の中でも、より具体的に各学生が興味を持つ分野に特化して、2年、3年次にかけて実践的に技術力を高める課程となっている。

一般の大学のように、受講する講義を学生自ら選ぶというカリキュラムではないが、必修科目として全て履修していくうちに、4年次に至るまでに、高度な応用技術を含めた服作りの各分野の技法・技術を身につけることができるような科目配置となっている。4年次には、技術力を示す集大成として卒業制作を課し、ファッションショーで発表させる。ファッションの商品開発・ブランド開発におけるコンセプトメイキングや国際化、情報化に対応する能力を育成する科目は少ないが、服作りに関して、日本国内企業で技術職、販売職として必要とされる力を十分に身にさせている。

1-2. 専門学校モード学園 ファッションビジネス関係

・養成している人材：

日本国内のファッション産業の製造・卸分野におけるマーチャンダイザー、コーディネーター（技術職）日本国内のファッション産業の小売分野における店舗のプランナー、販売員（販売職）

・教育課程の特徴：

服の生産管理と販売に関する実践的知識や技術を養成する科目が約 8 割を占める

・添付資料 13-表 2：ファッションビジネスコース 3 年制（例）

続いて、服の生産管理や販売等のファッションビジネス分野に関する人材育成と教育課程である。既設専門学校モード学園には、1 年制コース、2 年制コース、3 年制コースがあり、それぞれに学生が当分野全体の約数%、約数%、約 90%入学し、卒業する。1 年制コースは先述のように初年次教育にあたり、このコースのみで卒業する学生は少ない。また、2 年制コースは、ファッションビジネスの基礎知識等をもつ編入学者に向けて開かれており学生数は限られている。多くの学生は、3 年制コースを履修し卒業する。3 年制の教育課程は、服に関するビジネスの基本であり最上の教育課程と位置付けられる。

養成している人材の特徴

3 年制コースを履修した多くの学生は、日本国内のファッション産業界の製造・卸分野におけるマーチャンダイザーやコーディネーターという技術職に就く。又は、国内のファッション産業界の小売分野の販売職に就くことが多い（海外のファッション産業界の日本支社の小売分野の店舗のプランナー、販売員や営業職、技術職なども含む）。

特徴は、(1-1) 専門学校のファッションクリエイション関係で述べた内容と類似しており、就職先の企業の所在と規模、職種にある。すなわち、日本国内のファッション産業界の企業で、多くが中小の川下分野に位置し、販売職・技術職に限られる点である。

ファッションビジネスの分野は、ファッションクリエイションの分野と比べて、さらに海外進出が厳しい。数字や言葉を使用して仕事を行うビジネスの分野では、マーチャンダイザー、コーディネーターといった技術職であっても、論理的に物事を分析して把握し解決策を提案する能力、及び語学力が就業の必須の要件として求められるためである。

さらに、日本国内の企業でも、付加価値が大きい販売戦略などのビジネス上のコンセプトメイキングを担う職、すなわちプロデュースなどを任される総合職への進出はほぼみられない。この分野は、一般の大学卒業者と競合しやすく、主に人文科学系で一般的に培われる基本的な社会、経済、文化、歴史などの人文科学系の基本的な知識や、情報処理やデザインに関する自然科学系の基礎知識をもって、論理的に物事を分析して把握し、解決策を提案する能力が必要とされる。数字や言葉を使用して仕事を行うファッションビジネス分野で、総合職や管理職として進出する既設専門学校の人材は少ない。

このように、専門学校で養成している人材は、多くが国内のファッション業界の小売分野に向けた販売職、製造・卸分野の技術職であり、総合職や管理職への輩出は極めて希である。その多くが中小企業

に属する。加えて、海外のファッション業界における販売職、技術職への人材輩出も極めて少なく総合職への人材輩出はほぼ見当たらない。かかる人材を次の教育課程で養成する。

教育課程の特徴

添付資料 13-表 2 は、既設専門学校モード学園で行ってきた教育課程のうち、ファッションビジネスの分野における 3 年制の教育課程を、便宜的に専門職大学の教育課程のフォーマットに置き換えたものである。表 2 によると、全 50 科目中、基礎科目にあたるものが 7 科目、職業専門科目にあたるものが 40 科目、展開科目にあたるものは無く、総合科目にあたるものが 3 科目であった。以上の科目は、講義系科目と、実習・演習系科目からなる。

基礎科目は、「ビジネスコンピュータ I、II」「自己開発 I、II」「創造性開発 I、II」「ビジネストレーニング I」の約 4 種類の内容で 7 科目からなる。主に売上納品管理をメールやパソコンを使って円滑に行う方法を教える教育と、キャリアプランニングのための精神的な訓育がなされている。

職業専門科目は、「ファッション知識」「ファッション史 I」「リテールテクニク I、II」「接客販売技法 I、II」「クリエイション」「ファッションスタイル論」「ストアマーチャンドアイジング」「ビジュアルマーチャンドアイジング」「ショップ経営プランニング」「FB 知識」「デザイン画 I」「ビジュアル制作技法」「マーケット情報分析」「パターンメイキング I」「ファッションイラスト I、II」「プロモーション I、II」「ディスプレイ技法 I」「パース技法」「制作技法 I」「カラーリング I、II、III」「マテリアル I、II、III」「MEW (mode event week) I、II」「コンセプトメイキング」「フレックススタディ I、II」「学外実習 I、II、III」「インターンシップ」「ファッショントレンド分析 I、II」の、約 27 種類の内容で 40 科目からなる。

講義科目の「ファッション知識」「ファッション史 I」などでは、服作りに関する学科と同じく実務的な見解や知見に基づいた基礎的な産業の概略、服装の変遷などの内容を理解させる。また、服のビジネスに関する技術を身につける学科であるが、「パターンメイキング I」「クリエイション」「パース技法」「制作技法 I」「カラーリング I、II、III」「マテリアル I、II、III」「デザイン画 I」などの講義や演習科目でアパレルの製造・卸における服作りの技術やノウハウも教育する。

当教育課程で特徴的な科目は、「リテールテクニク I、II」「接客販売技法 I、II」「ストアマーチャンドアイジング」「ビジュアルマーチャンドアイジング」「ショップ経営プランニング」「FB 知識」「ビジュアル制作技法」「マーケット情報分析」などの、店舗販売に関係する専門的な技法、ブランドや生産現場におけるマーチャンドアイジングに関係する専門的な技法、プロモーションの技法の教育を 1 年目より行っている。多くの課題を課し、それを消化していくなかで実践的な技術を身につけさせる。これらの科目が教育課程の約 8 割を担う。

加えて、学外実習教育として、各種展示会へ出席しレポート作成を課す教育や、1 か月間服飾関連企業でインターンシップをさせる教育、実際に衣服を制作して発表を行い外部の評価を得る機会をもつ教育を行っている。

総合科目では、「ケーススタディ I、II」「卒業制作」の約 2 種類の内容で 4 科目からなる。業界から依頼を受けて企画を提出する機会を設ける教育、及び卒業制作として一人一体のディスプレイ

作品を制作する、もしくはイベントのためのノベルティ制作を行う実践的な教育を行っている。

このように、専門学校における服の生産管理や販売に関する教育課程は、1年次から社会人として必要とされる基本的な生活態度や考え方を教え、学生のケアをしながら服の生産管理と販売に関する技術的な基礎を教育し、こうしたビジネス分野の仕事の中でも、より具体的に各学生が興味を持つ分野に特化して、2年、3年次にかけて実践的に技術力を高める課程となっている。

一般の大学のように、受講する講義を学生自ら選ぶというカリキュラムではないが、必修科目として全て履修していくうちに、3年次に至るまでに、必要な管理に関する技術や販売のノウハウを含めたテクニックを身につけることができる科目配置となっている。3年次には、その技術力やノウハウを示す集大成として卒業制作を課し、ディスプレイ作品の制作発表やイベントのためのノベルティ制作発表をさせる。ファッションの販売戦略やブランド戦略におけるコンセプトメイキングや国際化、情報化に対応する能力育成の科目は少ないが、服の生産管理や販売に関して、日本国内企業で技術職、営業職として必要とされる力を十分身につけさせている。

以上、(1) 専門学校の人材養成と教育課程の特徴をまとめる。

既設専門学校で養成しているのは、日本国内のファッション産業における製造・卸分野のクリエイションとビジネスに関する中核的な技術職である。もしくは、小売分野の販売職、営業職である。多くが中小企業に属する。具体的な職名としては、デザイナー、パタンナー、マーチャンダイザー、店舗アドバイザー、プランナーである。教育課程は、技術的な中核人材を輩出するために、技術力を育成するための科目を中心とする。

(2) 専門職大学：総合職人材の輩出と、構想力、問題発見力、展開力を身につける科目に特徴がある

2-1. 国際ファッション専門職大学 ファッションクリエイション関係

・養成する人材：

国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）

国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

・教育課程の特徴：

ファッション産業における商品企画、ブランドコンセプトなどの構想力を養成する科目

当該及び他業種における臨地実習・海外実習で実践力と問題発見力を養成する科目

生産の国際化、情報化に対応する知識や展開力を養成する科目

・表3：ファッションクリエイション学科（例）

養成する人材の特徴

本法人が、今回専門職大学となって新たに実施する教育では、日本のファッション産業におけるクリエイションとビジネスの分野の総合職人材を養成する。主に、ファッションクリエイション学

科では、商品の企画、コンセプトの開発などの仕事を担うことを目指す。具体的な人材像（職種名）は、プロデューサーやディレクター、クリエイターと称される職種である。この職種に必要なとされる知識や能力は、汎用的なコミュニケーションと管理の能力、ファッション産業の基本的な知識と技術への理解、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力である。

かかる人材は、現在、ファッションの生産や流通に関わる実務経験者が担うことが多い。技術職由来の人材で、独立コンサルタント業として現場の知見をもとに企画構想を行うか、もしくは大卒で国内のファッション製造・卸分野もしくは小売企業に就業した総合職人材が管理職として担う場合が多い。いずれも長年にわたる実務経験や感覚をもとに担われており、新卒の人材が担うことはほぼ見られない。本学が養成しようとする人材が、こうした役割をいち早く担当するには、現在のところ国内外のファッション産業の製造・卸及び小売り分野の企業においてまず総合職として就業することが必要不可欠といえよう。

そのうえで、本学が養成する総合職人材は、これまでの業界で養成されてきた人材とは異なり、新卒ながらファッション産業という専門分野で総合的な視野を持ち、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性を専門的に持っている。そして、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力をもつ。これは、学術的な素養をもとに問題発見と解決の視角を鍛え、ファッションと現代の世界について深い興味と関心をもって、その根源から現代的な事象まで、ファッションの世界に関係する多様な学術的知見及び実務的知見を基に現状分析を行うような本学ならではの教育課程で鍛えられうるものである。そして、服飾にとどまらない生活空間全般へ視点を拡大したファッション産業、他業種と連携したクリエイションの創出や、ファッションの生産における国際化や情報化に対応して能動的な活動を行うことができる、新たな形の総合職人材である。

教育課程の特徴

添付資料 13-表 3 は、新設の専門職大学で行う教育課程のうち、ファッションクリエイション学科における教育課程（補正申請で是正した版）を示したものである。表 3 のように、全 68 科目のうち基礎科目として 19 科目、職業専門科目として 36 科目、展開科目として 10 科目、総合科目として 3 科目で構成している。

基礎科目は、「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」「文化論基礎ゼミ」「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」「フィールドワーク入門」「社会科学基礎ゼミ」「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「英語Ⅰ、Ⅱ」「フランス語」「中国語」「日本語文章表現」「キャリアデザイン論」の約 18 種類、19 科目から成る。以上の科目のうち、「情報リテラシー」と「キャリアデザイン論」については、既設専門学校と重なる部分がある。高等学校から大学への接続を円滑に行い、初年次教育にただし、他の 16 科目については、設置の趣意で掲げた必要性に応え得る、知識の基盤となるものであり、課題発見と解決の枠組みの視角を育成するための教育の基盤となる。

職業専門科目は、「ファッションデザイン論」「日本の衣生活・服装史入門」「生活科学入門」「フ

ファッションデザイン実習」「ファッションデザインプランニング実習」「テキスタイル基礎」「デザイン感性工学」「バッグデザイン」「シューズデザイン」「身体とパフォーマンス」「造形論入門」「自然資源と服装文化」「職人の世界」「装いと社会性・ジェンダー」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッション」「色彩論入門」「ファッション論基礎ゼミ」「国際ファッション市場論」「国際ファッション業界英語」「国際展示会演習」「フランス語」「中国語」「マーケティング論」「消費者行動論」「知財論」「写真概論」「映像概論」「写真实習」「映像実習」「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ（企業）」「臨地実習Ⅱ（産地）」の約 32 種類からなる。以上の科目のうち、ファッション産業の概論、服装史などの講義、ファッションデザインの基本的な知識と技能を鍛える科目、テキスタイルの基礎知識を教育する約 5 種類の科目については、一部専門学校の教育課程と重なる部分がある。

臨地実習については、専門学校と名称上重なるが、専門職大学の教育課程では、日本の知財や技術の再発見をめざし、産地及び企業で数か月の実習を課す。かかる目的を持った臨地実習を通じて、日本の産地及び企業におけるより具体的な課題発見と解決に至る実践的な教育機会を設けている。

他の約 25 種類の科目には、専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目が多く含まれている。それは、服の作り方及び衣服ビジネスの生産管理技術を学ぶ前に、ファッションとは何か、なぜひとは服を着るのか、というファッションを考えるうえで、根源的なコンセプトを創り出す教育を正面から取り上げたものである。文化人類学、社会学、ジェンダー論、美学、美術史、などの学問的分野で広く検討されてきた身体論及び多様な文化社会芸術環境論からファッションを捉え直し検討するための知識と分析視角を養う。また国際的な発信力の基礎となるメディアに関する使用技術を教えると同時に、成立から変遷までの知識を教える。講義や実習の前後には、科目に関連したゼミ科目を多数配置し、様々な経済文化社会的な事項において課題発見と解決の枠組みを思考する視角を学修する科目を設けている。

そして、展開科目は、「産業とメディアデザイン」「地域産業論」「デジタルテクノロジー演習」「デジタルアーカイブ論」「サブカルチャー・スタイル」「広告・PR 論」「国際連携ゼミ」「海外実習Ⅰ、Ⅱ」「国際知財論」の約 9 種類、10 科目からなる。かかる科目は概ね専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目である。先の職業専門科目において身体論からファッション産業を捉えなおす視角と知識を身につけ、新たなコンセプト作りをするための基本を教えたのちに、国際化と情報化の潜在的課題を把握しそれに応えるための教育を行う科目となっている。具体的には、コンセプトを新旧様々なメディアに乗せて発信する能力を鍛える科目、ファッション産業に関する知識や技術を地域の文脈に位置付けて考察する科目、海外実習、その前後に開催されるゼミ、語学科目である。

最後に、総合科目は、「統合指導ゼミⅠ、Ⅱ」「卒業制作・計画」の約 2 種類の内容からなる。卒業制作・計画は、既設専門学校の教育課程で行われている卒業制作と科目名の似たものであるが、その卒業制作をより広く捉えている。衣服及びノベルティの制作だけに限らず、ファッション産業を構成する広く新たなコンセプトとビジネスのモデル計画までを含めた総合的な制作を課す。そのため並行してゼミ教育を課す。様々な分野の教員で構成するゼミでは、学生個々に、主に、産地・企業・海外での実習、

これまでの教育課程で学修した知識や技能などを総合的に検討し、自らの課題を設定させる。そして、その解決策の提示に向けたコンセプトの発表を課す。学生及び教員は互いに応答を繰り返し、学生が主体的に問題発見と解決を目指す新しい職業を創出するための方法論を身につけさせる。

このように、専門職大学となって実施する教育課程では、ファッション産業における総合的な視角をもって、ファッションクリエイションの分野で課題発見と解決に至る仕事を担える新たな人材を育成する。

専門職大学では、かかる人材の育成に必要な多様な知識と能力、特に主体的に問題発見を行う能力とその解決策を考える展開力を育成する教育課程を設けた。そして、他業種を含めた長期の国内外の臨地実習で実践力と問題発見力を養成する教育課程と、ファッション分野における国際的な見地を醸成しうる、多文化理解、コミュニケーション能力の育成、情報化に対応して展開する科目を教育課程に組み込む。

2-2. 国際ファッション専門職大学 ファッションビジネス関係

・養成する人材：

国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野における、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）

国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

・教育課程の特徴：

ファッション産業の流通、販売に関する企画、コンセプトの構想力を養成する科目

ファッション産業の流通、製造に関する国際化、情報化に対応する知識を養成する科目

・添付資料 13-表 4：ファッションビジネス学科（例）

養成する人材の特徴

本法人が、今回専門職大学となって新たに実施する教育では、日本のファッション産業におけるクリエイションとビジネスの分野の総合職人材を養成する。主に、ファッションビジネス学科では、販売企画や戦略、ブランドコンセプトの開発や広告などの仕事を担うことを目指す。具体的な人材像（職種名）は、プロデューサーやディレクター、クリエイター、もしくは分析の仕事と称される職種である。この職種に必要とされる知識や能力は、汎用的なコミュニケーションと管理の能力、ファッション産業の基本的な知識とファッション産業の大きな構造（生産、流通、消費など）を把握し戦略を考えうる知識、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力である。

かかる人材は、現在、ファッションの生産や流通に関わる実務経験者が担うことが多い。技術職由来の人材で、独立コンサルタント業として現場の知見をもとに企画構想を行うか、もしくは大卒で国内のファッション製造・卸分野もしくは小売企業に就業した総合職人材が管理職として担う場合が多い。い

ずれも長年にわたる実務経験や感覚をもとに担われており、新卒の人材が担うことはほとんど見られない。本学が養成しようとする人材が、こうした役割をいち早く担当するには、現在のところ国内外のファッション産業の製造・卸及び小売り分野の企業においてまず総合職として就業することが必要不可欠といえよう。

そのうえで、本学が養成する総合職人材は、これまでの業界で養成されてきた人材とは異なり、新卒ながらファッション産業という専門分野で総合的な視野を持ち、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性を専門的に持っている。そして、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力をもつ。これは、学術的な素養をもとに問題発見と解決の視角を鍛え、ファッションと現代の世界について深い興味と関心をもって、その根源から現代的な事象まで、ファッションの世界に関係する多様な学術的知見及び実務的知見を基に現状分析を行うような本学ならではの教育課程で鍛えられうるものである。そして、服飾にとどまらない生活空間全般へ視点を拡大したファッション産業、他業種と連携したクリエイションの創出や、ファッションの生産における国際化や情報化に対応して能動的な活動を行うことができる、新たな形の総合職人材である。

教育課程の特徴

添付資料 13-表 4 は、新設の専門職大学で行う教育課程のうち、ファッションビジネス学科における教育課程（補正申請で是正した版）を示したものである。表 3 のように、全 69 科目のうち基礎科目として 19 科目、職業専門科目として 37 科目、展開科目として 10 科目、総合科目として 3 科目で構成している。

基礎科目では、「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」「文化論基礎ゼミ」「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」「日本国憲法」「フィールドワーク入門」「社会科学基礎ゼミ」「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「フランス語」「中国語」「日本語文章表現」「キャリアデザイン論」の約 18 種類、19 科目からなる。以上の科目のうち、情報リテラシーとキャリアデザイン論については、既設の専門学校と重なる部分がある。ただし、他の 17 科目については、設置の趣意で掲げた必要性に応え得る、知識の基盤となるものであり、課題発見と解決の枠組みの視角を育成するための教育の基盤となる。次に職業専門科目では、「身体とパフォーマンス」「造形論入門」「自然資源と服装文化」「職人の世界」「装いと社会性・ジェンダー」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッション」「色彩論入門」「ファッション論基礎ゼミ」「ファッションデザイン論」「日本の衣生活・服装史入門」「生活科学入門」「ファッションデザイン実習」「ファッションデザインプランニング実習」「テキスタイル基礎」「デザイン感性工学」「国際ファッション市場論」「国際ファッション業界英語」「国際ビジネスモデル特講Ⅰ」「国際ビジネスモデル特講Ⅱ」「マーケティング論」「消費者行動論」「知財論」「写真概論」「映像概論」「写実実習」「映像実習」「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ（企業）」「臨地実習Ⅱ（産地）」の約 27 種類からなる。以上の科目のうち、ファッション産業の概論、服装史などの講義、ファッションデザインの基本的な知識と技能を鍛える科目、テキスタイルの基礎知識を教育する約 5 種類の科目については、一部

専門学校との教育課程と重なる部分がある。また、臨地実習については、専門学校と名称上重なるが、専門職大学の教育課程では、日本の知財や技術の再発見をめざし、産地及び企業で数か月の実習を課す。かかる目的を持った臨地実習を通じて、日本の産地及び企業におけるより具体的な課題発見と解決に至る実践的な教育機会を設けている。

職業専門科目の大半を占める約 25 種類の科目には、専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目が多く含まれている。それは、服の作り方及び衣服ビジネスの生産管理技術を学ぶ前に、ファッションとは何か、なぜひとは服を着るのか、というファッションを考えるうえで、根源的なコンセプトを創り出す教育を正面から取り上げたものである。文化人類学、社会学、ジェンダー論、美学、美術史、などの学問的分野で広く検討されてきた身体論及び多様な文化社会芸術環境論からファッションを捉え直し検討するための知識と分析視角を養う。また国際的な発信力の基礎となるメディアに関する使用技術を教えると同時に、成立から変遷までの知識を教える。講義や実習の前後には、科目に関連したゼミ科目を多数配置し、様々な経済文化社会的な事項において課題発見と解決の枠組みを思考する視角を学修する科目を設けている。

そして、展開科目は、「産業とメディアデザイン」「地域産業論」「デジタルテクノロジー演習」「国際連携ゼミ」「海外実習Ⅰ」「海外実習Ⅱ」「国際知財論」9種類 10科目からなる。かかる科目は概ね専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目である。

先の職業専門科目において身体論からファッション産業を捉えなおす視角と知識を身につけ、新たなコンセプト作りをするための基本を教えたのちに、国際化と情報化に代表される現在の変化と潜在的課題を把握しそれに応えるための教育を行う科目を設定する。具体的には、コンセプトを新旧様々なメディアに乗せて発信する能力を鍛える科目、ファッション産業に関する知識や技術を地域の文脈に位置付けて考察する科目、海外実習、その前後に開催されるゼミ、語学科目である。

最後に、総合科目は、「統合指導ゼミⅠ」「統合指導ゼミⅡ」「卒業制作・計画」の約 2 種類 3 科目の内容からなる。卒業制作・計画は、既設専門学校の教育課程で行われている卒業制作と科目名の似たものであるが、その卒業制作をより広く捉えている。衣服及びノベルティの制作だけに限らず、ファッション産業を構成する広く新たなコンセプトとビジネスのモデル計画までを含めた総合的な制作を課す。そのため並行してゼミ教育を課す。様々な分野の教員で構成するゼミでは、学生個々に、主に、産地・企業・海外での実習、これまでの教育課程で学修した知識や技能などを総合的に検討し、自らの課題を設定させる。そして、その解決策の提示に向けたコンセプトの発表を課す。学生及び教員は互いに応答を繰り返し、学生が主体的に問題発見と解決を目指す新しい職業を創出するための方法論を身につけさせる。

このように、専門職大学となって実施する教育課程では、ファッション産業における総合的な視角をもって、ファッションビジネスの分野で課題発見と解決に至る仕事を担える新たな人材を育成する。

1.5 法人の沿革と建学の理念

本法人の前身は学校法人モード学園であり、平成 28 年学校法人日本教育財団として再編成された。モード学園は、昭和 41 年に名古屋で開校し、その後、大阪と東京で開校した。以来モード学園（東京校・大阪校・名古屋校）では、国内のファッション産業及びデザイン産業界の中核となる即戦力人材を 50 有余年にわたり輩出してきた。その特徴は、(1) ホームメイド及び注文服からアパレル産業へ変化する時代の先駆けとなる人材教育、(2) インターンシップによる実践教育、「職業実践専門課程」の設置、(3) ファッション以外の分野、グラフィック、インテリア、美容業界とも連携したデザイン全般のスペシャリストの育成にある。また、国際コンペティションの実施、パリに設置したクレアポール（パリ大学区庁認定高等教育機関、住所: 128, rue de Rivoli, 75001, Paris, France）とも連携事業を実施している。これらの努力により希望者就職率 100%を長年にわたり連続で実現してきた。

本学の建学の理念は、「創造力」と「豊かな人間性」を教育の根幹とした人間教育である。この理念のもと、本法人は自立した人格を育て、学ぶ意欲を持つ学生に応えるべく、学生を中退させない教育、最後まで学生の面倒を見る教育を実践してきた。そして、職業人としての遂行能力を獲得させる知識と技術教育を提供し、各業界で活躍できる人材の育成に努めてきた。本法人の歩みは技術教育もさることながら、日本学術会議による平成 22 年の提言「21 世紀の教養教育」にある「実践知」、つまり市民的・職業的活動に参加して自らのあり方を自制し調整できる知のあり方を重視した教育基盤を提供し続けてきたといえる。今般、これまでの法人の教育活動や社会活動で蓄積された経験を、新たな国際ファッション専門職大学に活かし、当該分野において中核的専門人材の養成に加えて、学術的な知見や見識を具備し高度な職業実践のための問題発見能力、解決能力を備えた人材育成の環境を、広く社会に開かれた形で提供することを企図している。今まで培った技術知に基盤を置く実践知に加えて、これからは学問知を基盤として、技術知を組み合わせた新たな実践知を創出する。

2. 学部・学科等の特色

2.1 大学及び学部学科の概要

本学は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」が提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、国際ファッション学部、ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の1学部4学科を設置する。1.3項で述べたように、本学の中心的な研究教育領域は、家政学分野に位置づき、以下の特色をもつ。

2.2 3つの方針（ポリシー）

本学は、次の3つの方針（ポリシー）を設定する。学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は1.2項に関連する詳細があり、教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）は4.1項に、入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）は9.2項に関連する詳細がある。ここでは、3つの方針を簡潔にまとめる。3つの方針のつながりをまとめた概念図を、カリキュラムマップとして添付する（資料2）。

本学の3ポリシー

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

1. 国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションの基本的知識と技術を学び、当該分野で自立できる能力がある。
3. ファッションに関わる知識や技術を深化させながら企画開発戦略などの構想力を持つ。
4. ファッションに関わる国際化、情報化などの変化に対応し、主体的に課題に取り組むことができる。

<教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）>

1. 国際社会で通用する教養（汎用的能力）を養う課程
 - ・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。
 - 「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。
 - ・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力（汎用的能力）を養う課程

- ・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業では、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。
- ・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、専門分野の内容を英語などで伝えることを求める科目を配置し、実用的なコミュニケーション能力を養成する。学外学修と関連して、専門分野を展開するための実践的なコミュニケーション能力を養成する。
- ・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 職業分野の基本的知識と技術（基本的技術）を養う課程

- ・ファッション産業の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。
- ・実践力の養成のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 専門知識・技術を深化させ、展開する力（知識・理解）を養う課程

- ・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 国際化・情報化等、変化への対応力（態度・志向性）を養う学外学修課程

- ・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。
- ・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。
- ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力（態度・志向性）を養う課程

- ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価の在り方

- ・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたが履修し、卒業要件の基準をみたく単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保し、あらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

<入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

続いて、各学科の特徴と育成する人材像に応じた3つの方針（ポリシー）を設定する。

2.2.1 ファッションクリエイション学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は、多様な生活意識や美意識について、ファッションを通じて再現し、特に日本の伝統的技術や知識の継承からファッション知財の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。

育成する人材像：

国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）
国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）
他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションクリエイションにおいて必要とされる基本的な理解と技術を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなメディアテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションクリエイション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

＜教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

1. 基礎力

- ・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。
「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。
- ・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力

- ・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。
- ・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、クリエイション分野のコンセプトなどの内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。
- ・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 専門性

- ・ファッションクリエイション分野の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。
- ・実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッシ

ョン産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 展開力

・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 学外学修

・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。

・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。

・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力

・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価

・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたがって履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

<入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。

2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

2.2.2 ファッションビジネス学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部ファッションビジネス学科は、多様な生活意識や美意識に基づき、ものの美的な価値に理解を示しつつ、国際競争力のある新しいファッションブランドの創出や制作物の販売網の開拓を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。

育成する人材像：

国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野における、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）

国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションビジネスにおいて必要とされる管理運営の理解と基本的技術を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションビジネス分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

<教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）>

1. 基礎力

・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。

「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。

・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力

国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。

- ・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、ビジネス分野の構想や商談内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。
- ・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 専門性

- ・ファッションビジネス分野の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。
- ・実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 展開力

- ・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 学外学修

- ・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。
- ・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。
- ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力

・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価

・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたが履修し、卒業要件の基準をみたく単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

＜入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）＞

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

2.2.3 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に関西を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

育成する人材像：

関西地域の特色や地域の知財を理解しつつ以下の仕事を行う人材

国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野において、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）

国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、関西地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

<教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）>

1. 基礎力

- ・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。
「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。
- ・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力

- ・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。
- ・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、クリエイション分野とビジネス分野を総合的に理解し、学科の位置する関西地域のファッション産業やコンセプトなどの内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。
- ・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 専門性

- ・ファッションのクリエイション及びビジネス分野、またそれらが位置する関西地域のファッション産業についての専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を

通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。

- ・実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 展開力

- ・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 学外学修

- ・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「関西地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。

- ・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。

- ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力

- ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価

- ・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたがって履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

＜入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）＞

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

2.2.4 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に中部、東海を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

育成する人材像：

名古屋地域の特色や地域の知財を理解しつつ以下の仕事を行う人材
国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）
国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）
他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、名古屋地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

＜教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

1. 基礎力
・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。

「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。

・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力

・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。

・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、クリエイション分野とビジネス分野を総合的に理解し、学科の位置する名古屋地域のファッション産業やコンセプトなどの内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。

・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 専門性

・ファッションのクリエイション及びビジネス分野、及びそれらが位置する名古屋地域のファッション産業についての専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。

・実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 展開力

・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 学外学修

- ・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「名古屋地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。
- ・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。
- ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力

- ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・研究」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・研究」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価

- ・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたがって履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

<入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

2.3 各学科が重点的に担う機能と特色

本学は、国際ファッション学部（1学部）、ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科（4学科）を設置し、それを東京校舎、大阪校舎、名古屋校舎（3校舎）で展開する。

東京校舎には、ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科の2学科を置く。大阪校舎、名古屋校舎には、クリエイションとビジネスをバランスよく学び、地域・地方産地の特性と緊密に連携する大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科をそれぞれ設置する。東京校舎にファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科（2学科）を設置するのは、日本のファッション産業における東京という都市の特異性による。

東京は、日本における国際的なファッション発信基地であり、東京校舎はその中心部に位置する。世界的な展開を行うファッションブランドは、パリ、ロンドン、ミラノ、ニューヨークに次いで東京でコレクションを発信する。世界において広く認知されたファッション都市東京は、高度なクリエイション発信力があり、巨大な消費市場を併設することから、ファッションビジネス都市としてすでに認知されている。こうした現状をもとに、本学は、ファッションクリエイションと、ファッションビジネスの二部門から構成する必要があるとの認識から、東京においてかかる2学科を設置する。両学科では、ファッション産業をデザインなどのクリエイションとビジネス両面から学ぶが、職業専門科目の選択やゼミ選択の方向性の違いによって、より専門性の高い人材育成の役割を担う。

一方、大阪校舎と名古屋校舎では、学生がファッションを総合的に学び、クリエイションとビジネスを含む幅広い知識と能力をもった人材を育成するという役割を果たす。それは、大阪校舎と名古屋校舎が、東京校舎に比べて地方産地を背景に控え、地方産地連携実習（「臨地実習Ⅱ」）をもとにした基盤知識を身につける人材の育成にふさわしいと考えるからである。この詳細については、次節と10項で説明する。

2.3.1 ファッションクリエイション学科の特色

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科の主たる教育研究対象は、家政学領域にある。被服学を中心として、服を作る基本的な知識と技能を習得できる科目を配置する。ただし、当該産業界が要望する今日の服作りとファッションは、個人の外出着や服装だけではなく、家の中の装いや暮らし方までを含むより広い対象となっている。本学は、こうした現代的な状況を踏まえ、前出の1.3項でも述べたように被服学教育をより広くとらえた知見からクリエイション教育を行う。

そして、主に実習や演習を担当する教員には、国際的なファッション市場で長年に渡り業界を牽引してきた実務家教員を配置し、学生が新たなファッションの知財価値を創出する機会を提供する。本学科がある東京は、パリ・コレクション、ロンドン・コレクション、ミラノ・コレクション、ニューヨーク・コレクションに次ぐ国際的なファッションの発信基地として、海外へ向けた発信力を持つ地盤が備わっている。ファッションクリエイション学科は、こうした国内外のファッション関連企業との連携のもとで創作活動を展開し研究する実践的な位置付けがある。

本学科では、日本独自のファッション感覚、日本の美意識を基礎としたデザイン力を養う。日本の美意識は、季節による生活の変化と南北に異なる地域の多様性が相まって、多様な衣食住のスタイルと衣服の意匠を生んできた。これらの生活意識や美意識を、ファッションを通じて形あるものとして再現し、日本の伝統技術の単なる継承からファッション知財を創出する。

これを通じて、ファッション産業において、クリエイションの分野で、従来よりモノづくりや意匠を重点的に担ってきたデザイナーの職種に由来しながら、ビジネスにも目配せをすることのできる新たなディレクターとなる人材の育成を目指す。

2.3.2 ファッションビジネス学科の特色

ファッションビジネス学科の主たる教育研究対象は、家政学領域にある。ファッションは先述したように、経済や経営学の実践的な知見をもとに産業として国際市場で活躍できる人材の養成が求められている。本学は産業界の現代的な要請を基底に、1項でも述べたように世界のファッション市場を形成することに成功したフランスのビジネスモデルに学び、日本の多様な知財の価値を再評価し創作された製品を、国内外で展開することのできるビジネスモデルの探求と教育を行う。全学科にも共通するのだが、フランスの高等教育機関やアメリカのファッションビジネススクール等でファッションビジネスを研究する客員教授を招聘し、欧米顧客の動向や国際市場で活躍するための知識や情報を学び、学生の実学的、実践的な能力を強化する計画である。

本学科は、クリエイション学科と同様、グローバル化を続ける国際ファッション産業の現状を理解すると同時に、国際市場で通用するファッションビジネスの基本やルールを学び、日本文化の基底となる美意識に基づいたファッション知財の創出を手掛ける。具体的には、プロジェクトのスタートアップ方法、経営学的手法、伝統技術の活用方法、工業化デザインへの転換、デザインから販売方法にいたるまでの一連のビジネス手法を学ぶ。同時に、国際市場で強いアイデンティティを持たせるためのメディアの活用や、デザインされた制作物の販売網の開拓、ブランドの構築方法を学ぶ。これを通じて、ビジネスの分野で、従来より販売や経営の管理を重点的に担ってきたマーチャンダイザーの職種に由来しながら、ものの美的な価値にも理解を示し、国際ビジネス市場でも展開できるような新たなプロデューサーとなる人材の育成を目指す。

2.3.3 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の特色

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の主たる教育研究対象は、家政学領域にある。当学科は、西日本最大の都市大阪に設置する。大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科では、先の2学科と同様、グローバル化を続ける国際ファッション産業の現状を理解すると同時に、国際市場で通用するファッションビジネスの基本やルールを学び、日本文化の基底となる美意識に基づいたファッション知財の創出を手掛ける。メディアの活用は、上記の学科と共通である。ただし、本学科では、ファッションクリエイションとファッションビジネスが地域企業、近隣の繊維産地と密接して発展してきた地域的背景がある。こうした大阪の地域性を活かし、地域と連携した形の学科として設置する。

立地の背後にある織物産地の産業再生、地方創生という視点では、特に、大阪は中核に据えられる。

古くからある大阪府・京都府・兵庫県・和歌山県等の織物や編物業者や職人の世界を、学生は基礎科目の段階からフィールドワークを通して訪れる。そして、3年次以降の臨地実習ではさらに実践的な学習を行う。

当学科では、異なる地域の多様性が相まって作られる職人の世界、そして企業やビジネスの世界において彼らと共に創造的な仕事をすることができる人材、特にクリエイションとビジネスをバランスよく学ぶことから、双方の職種に由来し、総合的なクリエイターとなるような人材の育成を目指す。

こうした立地の背景にある大阪、京都、神戸の織物産地の産業再生、地方創生とかかわりのある教育課程という特徴を持つ大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科では、主に基礎科目の「地域論入門」、展開科目の「地域産業論・大阪論」に特色が表れる。科目では、地方の経済的困難が進行するなかで地域創生が課題となっている現状を認識し、経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象の中でイノベーション、創発を基軸に据えて発想することが求められていることへの理解を深める。地域産業、産業集積論、クラスター論を学び、パリ（フランス）、コモ（イタリア）、東大門（韓国）などの産業集積の例を比較対象として取り上げた後、大阪及び関西の産業集積、特に泉州（大阪府）、倉敷市児島（岡山県）、播州（兵庫県）、福井県の事例を学ぶ。以上の講義を通じて、地域産業、産業集積に関して課題発見につながる分析視角を身につける。

そして、職業専門科目の「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」において、学生の実習課題と目的を明確にしたうえで臨地実習を行い、臨地実習では、大阪、京都、神戸の織物産地及び企業で実践的な知識、技術を身につけると同時に、地域の産地及び企業が抱える課題を、各自の問題式に位置付けて認識するよう教育する。実習後に行うゼミでは、学生と教員が互いにその成果と課題を認識し、地方創生に向けた教育研究を促進する。以上の科目は、東京のファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科において教育されている内容とは異なり、地域独自の経済社会産業的要請に基づいた、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の教育編制の特色である。

2.3.4 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の特色

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の主たる教育研究対象は、家政学領域にある。当学科は、中部地域の中心都市である名古屋に設置する。名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科では、先の2学科と同様、グローバル化を続ける国際ファッション産業の現状を理解すると同時に、国際市場で通用するファッションビジネスの基本やルールを学び、日本文化の基底となる美意識に基づいたファッション知財の創出を手掛ける。メディアの活用は、上記の学科と共通である。ただし、名古屋では、ファッションクリエイションとファッションビジネスが地域企業、近隣の繊維産地と密接して発展をしてきた地域的背景がある。こうした地域性を活かし、地域と連携した形の学科として設置する。

名古屋においては立地の背後にある愛知県・三重県・岐阜県等の織物や編物産地の産業再生、地方創生が重要である。織物や編物業者や職人の世界を、学生は基礎科目の段階からフィールドワークを通して訪れる。そして、3年次以降の臨地実習ではさらに実践的な学習を行う。

当学科では、異なる地域の多様性が相まって作られる職人の世界、そして企業やビジネスの世界において彼らと共に創造的な仕事をするができる人材、特にクリエイションとビジネスをバランスよく

学ぶことから、双方の職種に由来し、総合的なクリエイターとなるような人材の育成を目指す。

こうした立地の背景にある毛織物尾州産地の産業再生、地方創生とかかわりのある教育課程という特徴を持つ名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科では、主に基礎科目の「地域論入門」、展開科目の「地域産業論・名古屋論」に特色が表れる。科目では、地方の経済的困難が進行するなかで地域創生が課題となっている現状を認識し、経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象の中でイノベーション、創発を基軸に据えて発想することが求められていることへの理解を深める。地域産業、産業集積論、クラスター論を学び、パリ（フランス）、コモ（イタリア）、東大門（韓国）などの産業集積の例を比較対象として取り上げた後、名古屋の産業集積、特に豊田（愛知県）、一宮（愛知県）、尾州（愛知県）の事例を学ぶ。以上の講義を通じて、地域産業、産業集積に関して課題発見につながる分析視角を身につける。

そして、職業専門科目の「テキスタイル中級」「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」において、学生の実習課題と目的を明確にしたうえで臨地実習を行い、臨地実習では、特に尾州の織物産地を取り上げ、オーストラリアの羊毛の輸入から製糸、織布などの中間財の生産を学習し、ファッション産業における国際的な生産連携を学ぶ。そして企業で実践的な知識、技術を身につけると同時に、地域の産地及び企業が抱える課題を、各自の問題式に位置付けて認識するよう教育する。実習後に行うゼミでは、学生と教員が互いにその成果と課題を認識し、地方創生に向けた教育研究を促進する。以上の科目は、東京のファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科において教育されている内容とは異なり、地域独自の経済社会産業的要請に基づいた、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の教育編制の特色である。

3. 大学・学部・学科の名称及び学位の名称

3.1 大学の名称

新しい専門職大学は、以下の名称と定める。また、現在、人材育成が急務であることから、以下の年月日に、次の地理的位置に設置することとする。本学は、地域・地方産地連携を教育と研究の中核に据えて、東京都、大阪府、愛知県の各校舎に設置する。

大学名称：国際ファッション専門職大学

Professional Institute of International Fashion

理由：大学の名称は、本学の学問の中心領域である家政学においてファッションとビジネスと専門的に学ぶことを示すものとなっている。そして、国際ファッション市場で自立できる専門職業人材を育成することを明確にするため、国際ファッション専門職大学とした。英語名称は、国際的な通用性を有し、専門職大学であることをわかるように「Professional Institute of International Fashion」とした。

設立年月日：平成 31 年 4 月 1 日

校地校舎の位置：東京都、大阪府、愛知県

3.2 学部・学科の名称

本学は、以下の通り、1 学部と 4 学科を備える。

学部名称を、国際ファッション学部とする。国際的に通用する総合的なファッションを学ぶ学部である。

学科名称を、1 つ目に、ファッションクリエイション学科とする。ファッションを家政学の中の被服学、そして隣接する生活科学やデザイン学、美学などのクリエイション領域から学び、国際ファッション市場で自立できる専門職人材を育成する学科である。

2 つ目に、ファッションビジネス学科とする。主に家政学の領域に位置づくファッションを、経済や経営の側面の強いビジネス領域から学び、国際ファッション市場で自立できる専門職人材を育成する学科である。

3 つ目に、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科とする。ファッションにおけるクリエイションとビジネスの領域をバランスよく学び、特に大阪を中心とする地域企業・地方産地での実習演習を中核に据えた学びをする。関西地域、特に大阪の企業・関西近隣の産地と連携し、国内及び国際的なファッション市場で自立できる専門職業人材を育成する学科である。

4 つ目に、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科とする。ファッションにおけるクリエイションとビジネスの領域をバランスよく学び、特に名古屋を中心とする地域企業・地方産地での実習演習を中核に据えた学びをする。中部地域、特に名古屋の企業・東海近隣の産地と連携し、国内及び国

際的なファッション市場で自立できる専門職業人材を育成する学科である。

学部名称：国際ファッション学部

Faculty of International Fashion

学科名称：(1) ファッションクリエイション学科

Department of Fashion Creation

(2) ファッションビジネス学科

Department of Fashion Business

(3) 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

Department of Fashion Creation and Business, Osaka

(4) 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

Department of Fashion Creation and Business, Nagoya

3.3 学位の名称

本学は、国際ファッション学部の各学科で、4年制の全カリキュラムを修了し卒業認定をうけた者に、各学科で養成するファッション産業界の職業分野を適切に示す名称の学士（専門職）の学位を授与する。

学位名称：(1) ファッションクリエイション学科

ファッションクリエイション学士（専門職）

Bachelor of Fashion Creation

(2) ファッションビジネス学科

ファッションビジネス学士（専門職）

Bachelor of Fashion Business

(3) 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

ファッションクリエイション・ビジネス学士（専門職）

Bachelor of Fashion Creation and Business

(4) 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

ファッションクリエイション・ビジネス学士（専門職）

Bachelor of Fashion Creation and Business

理由：ファッション産業及び当該産業の職種に関わる学位名（専門職）とした。

各学科で養成する人材像と職種に合わせて、学位に付記する専攻分野の名称を、ファッションクリエイション分野、ファッションビジネス分野、ファッション産業のクリエイションとビジネスを地域性ととともに統合して学ぶファッションクリエイション・ビジネス分野という

3つに定めた。『専門職大学の設置の認可申請に係る提出書類の作成の手引（平成31年度開設用）』に従い、当該産業の職業分野を適切に表すファッションクリエイションやファッションビジネス等とし、マーチャンダイザーやパタンナー等過度に細分化した職種名称とならないよう留意した。英語名称は、国際通用性を持ち、専門職大学の学位名として適切となるよう、それぞれ Bachelor of Fashion Creation、Bachelor of Fashion Business、Bachelor of Fashion Creation and Business とした。

3.4 本学における国際性の考え方

3.4.1 本学における国際性の考え方と養成しようとする人材

本学が今般、「国際ファッション専門職大学」及び「国際ファッション学部」の名称で、教育を行おうとする趣旨は、「1.設置の趣旨及び必要性」で述べたように、「経済社会的情勢が移り変わるなかで、現代のファッション産業には流動的な国内外の市場に関わるクリエイションの課題、そして産業構造に関わる商慣行や働き方といったビジネスの課題が認められる」ためである。そして、「かかる課題を換言すれば、現代的な変化に対し柔軟に対応することのできる人材の不足と言えよう。こうした課題を解決できる人材として、総合的な視野を持った高度な専門職の育成が、産業的にも広く社会的にも要請されている」（p.4）と記したように、本法人が長年にわたり既設の専門学校で成してきた教育経験からも、かかる現代のファッション産業を取り巻く国際化や情報化等の変化に対応し、本格的に国際的な活躍を行える人材の輩出には至っていないという認識がある。したがって、本学は新たに「国際ファッション専門職大学」として、豊かな学問知と実践知を組み入れた教育課程を編成し、当該産業の国際化や情報化といった現代的な変化に対応し国際的に活躍できる人材の育成を目指す必要があると考えた。ここで、国際的な活躍をすることとは、本学では、具体的にいくつかの就業先において仕事をする事と想定している。

就業先として、まず、ファッション業界で日本国外に本社機能を置く企業や事業所を想定している。次に、ファッション業界において日本国内に本社機能を置く企業や事業所で、国内外の消費者や市場に向けて事業を行おうとする部署を想定している。そして、ファッション業界ではない他業種の企業や事業所で、ファッション分野に参入し、国内外の消費者や市場に向けて事業を行おうとする部署を想定している。加えて、国内外の消費者に向けてファッションに関する事業を起業し、自ら事業主となる就業先を想定している。これらの就業先で行う仕事は、ファッション分野でモノを作り、モノを売るという内容を、日本国内の消費者や市場向けにとどまらず、主に国内外の消費者や市場向けに広く行うことを想定している。

上記のように、本学が考える国際的な活躍をする人材の輩出とは、概ね3つに分けられる。すなわち、日本国外のファッション産業の構造及び就業構造の中で仕事をする人材の輩出（本学でいうアウトバウンド型）、日本国内のファッション産業の構造と就業構造の中であるが、国際化に対応した仕事をする人材の輩出（本学でいうインバウンド型）、ファッション産業の新たな就業構造を作り出して仕事をする人材の輩出（本学でいうイノベーション型）といえよう。

3.4.2 養成する人材に必要な実践力

こうしたファッション産業の分野で国際的な活躍をするためには、次の国際性に関わる力を身につける必要があると考える。一つ目に、一般的に国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力（汎用的能力）を持つこと。二つ目に、ファッション産業に関する仕事を扱うための、モノを作り、モノを売る、基本となる知識と技術をもつこと。三つ目に、豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力をもつこと。四つ目に、ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする態度・志向性をもつことである。

以上の実践力は、本学が掲げるディプロマ・ポリシーと重なり、その力を身につけさせるために掲げたカリキュラム・ポリシーと連動している。ポリシーに沿って設定した教育課程の授業科目を履修し、基準となる単位数を修得し、卒業要件を満たすことで必要な実践力を身につけさせる。例えば、一つ目の汎用的能力は、主に全学科に共通する基礎科目を通じて育成し、二つ目のファッション産業に関する基本的な知識と技術は、主に各学科の特性に応じて編成された職業専門科目で育成する。三つ目の現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力は、同じく職業専門科目とともに、展開科目で十分に育成し、四つ目の態度・志向性は、教育課程全般を通じて形成され、集大成として総合科目で結実する。講義、実習、演習等の授業形態の有機的なつながりによって、必要な実践力をバランスよく形成するものである。

3.4.3 必要な実践力を身につけさせる科目

以上のように、本学は教育課程全体で養成する人材に必要な実践力を育成させるのだが、ファッション産業で国際的に活躍できる人材育成への取り組みが教育課程において十分に反映されているか、より明確に示すために、上記の力のうち、一つ目の汎用的能力と、三つ目の対応力、四つ目の態度・志向性、という本学が専門職大学となって特徴を持ち、本学が考える国際性につながる力を育成する科目は「基礎科目で汎用的能力を、職業専門科目に対応力の基盤を、展開科目の国際科目群で対応力と態度・志向性を」というように、可能な限り配置をまとめ、必要な力を育成する科目区分が明確になるよう工夫している。

例えば、基礎科目における「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」「文化論基礎ゼミ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「フランス語」「中国語」「イタリア語」が、本学が考える国際性につながる汎用的能力に直接的に該当する部分である。そして、職業専門科目における「国際ファッション市場論」「国際ビジネスモデル特講Ⅰ」「国際ビジネスモデル特講Ⅱ」「国際展示会演習」「国際ファッション業界英語」が、本学が考える国際性につながる対応力の基盤として該当する部分である。また、展開科目における「国際科目群」の科目が、本学が考える国際性につながる対応力と態度・志向性に直接的に該当する部分である。科目の比重は、ファッションクリエイション学科において全 66 科目中 15 科目（約 23%）、ファッションビジネス学科において全 66 科目中 16 科目（約 24%）、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科において全 66 科目中 16 科目（約 24%）、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科において全 66 科目中 16 科目（約 24%）とな

っており、概ね各学科の4分の1の比重を占める。これは、本学が設定するディプロマ・ポリシー4項目分のうち1項目分の比重にあたり、十分な教育課程への反映をなしていると考えている。

3.4.4 「海外実習Ⅰ」(必修)と、英語以外の語学科目の増加

具体的な科目のうち、「臨地実務実習」(必修)の実習先の考え方と、「海外実習Ⅰ」(必修)及び「海外実習Ⅱ」の位置づけについて、本学の考える国際性との関係から概要を示す。本学では、「海外実習Ⅰ」(必修)と「海外実習Ⅱ」(選択)を設置し、必要な実践力を身につけさせる。特別な事情がない限り学生全員に海外実習を義務付ける。本学の教育課程においてファッション産業の分野で国際的に活躍するための実践力の育成の比重を増している。

海外での臨地実習を充実したものにするために、学内では国際に関する講義科目や、「国際連携ゼミ」などの演習科目を通じて、十分な問題意識の醸成と課題発見の力を育成する。また、「海外実習Ⅰ」(必修)を受け持つ教員を増加し、本学の豊かな海外経験を持つ教員が引率する。安全に配慮しつつ、個々の学生が学内で身につけたものの見方を、現地に赴くことで実践的にさらなる具体的な課題を発見し、解決に向けた能動的な活動を行おうとする態度と志向性を養う。こうした取り組みを経て、特に日本国外のファッション産業の構造及び就業構造の中で仕事をしようとする、本学でいうアウトバウンド型志向の学生は、「海外実習Ⅱ」(選択)を履修し、より学生の将来設計に応じた実践力を高める科目設定をしている。「海外実習Ⅱ」(選択)を受け持つ教員は、同じく豊かな海外経験を持つ教員が個々の学生のフォローを学内の担当センターと連携しつつ行う。

また、「海外実習Ⅰ」(必修)に関係する英語以外の言語科目として「フランス語」と「中国語」を全学科の基礎科目で開講し、加えて名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の基礎科目では「イタリア語」科目を開講する。本学として、ファッション産業で国際的に活躍できる人材育成にむけて、引き続き教育内容の充実に取り組む予定である。

3.4.5 臨地実務実習(必修)の実習先

本学は以上の海外実習とは別に、長期の臨地実務実習(必修)を用意する。その実習先は国内企業に限っている。その理由は、設置の趣旨で大きな軸として掲げる「欧米中心のファッション構造を相対化する積極的な日本からの発信」(「1.2.3 グローバル化時代における日本発のファッションの創出を実現する」)を行うためには、国内における長期の臨地実習が欠かせないと考えためである。特に日本の知財を基盤にした発信という独自性を可能にするためには、豊かな日本の装いの文化と関係する職人の世界を学び、知財化に結び付けていけるように取り組む必要がある。その活動を主に「臨地実習Ⅱ」で担う。そして、日本国内のファッション産業の構造と就業構造の中であるが、国際化に対応した仕事をする、本学でいうインバウンド型の人材の輩出や、ファッション産業の新たな就業構造を作り出して仕事をする、本学でいうイノベーション型の人材の輩出のためには、「臨地実習Ⅰ」における活動も欠かせないためである。地域・地方産地のファッション産業の課題発見と低迷打破につながる学修のためには、臨地実習の600時間の全てを国内の産地や企業で実習する実務経験がきわめて重要であると認識している。

こうした臨地実習を充実したものにするために、学内における講義科目、演習科目を通じて十分な問題意識の醸成と課題発見の力を育成する。個々の学生はそうしたものの見方を持ち、現地に赴くことでしかわかりえない実践力を身につけ、その実践のなかでさらなる具体的な課題を発見し、解決に向けた能動的な活動を行おうとする態度と志向性を養う。

以上の考えから、本学は「国際ファッション専門職大学」や「国際ファッション学部」と称して、教育課程全体において、ファッション産業で国際的に活躍できる人材育成に取り組む。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

1 項及び 2 項で記した趣旨を実現する観点から、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を明確にする。本学は、高等教育機関に位置づく専門職大学として、教養教育を重視する。主に「基礎科目」で深い教養及び総合的な判断力の基盤となる力を養い、豊かな人間性と職業倫理を涵養するための科目を置く。この国際的な市民社会の一員として涵養すべき教養とは、必ずしも教育課程における基礎科目だけでカバーされるものではなく、「職業専門科目」及びその発展的展開を行う「展開科目」や「総合科目」での学びの一部を通じて獲得されるものである。豊かな教養と職業人としての倫理を備えた人材育成につながるよう、各科目で体系的かつバランスの取れた教育課程を編成する。

1.2 項目の学位授与（ディプロマ・ポリシー）の方針で述べたように、豊かな教養と職業人としての倫理を備えた人材育成とともに、本学が目指すのは、ファッション産業界における先導的かつ国際的な視野を持った専門性の高い人材の輩出である。かかる人材は自ら課題を発見し、その解決のために論理的思考能力を持つ人材である。つまり、豊かな感性を備え、同時に、現実の社会や産業界において実践的な解決策を見出す人物である。こうした学問知、技術知、実践知に関する論理力と感性への理解という両軸が習得されるよう、以下では科目の設定とその理由を説明する。

＜国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 教育課程の概要＞					
学 科	1年	2年	3年		4年
	基礎科目	専門科目	臨地実習	展開科目	総合科目 卒業制作
ファッションクリエイション学科	を・養・学大の国際的基礎的な都市市民に必要となる基礎知識	専門的知識と技能を学ぶ ・専門的なクリエイションを中心に学ぶ		実践的な知識と技能を学ぶ 地域企業での臨地実習	卒業制作に向けた演習と指導
ファッションビジネス学科		・専門的なビジネスを中心に学ぶ			
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科		・専門的なビジネスを中心に学ぶ専門的なクリエイションとビジネスをバランスよく学ぶ			
名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科		・専門的なビジネスを中心に学ぶ専門的なクリエイションとビジネスをバランスよく学ぶ			
				・発信と展開のための授業や国際ゼミで発信を学ぶ	

4.1 教育課程における編成の体系化（カリキュラム・ポリシー）

本学は、『専門職大学の設置の認可申請に係る提出書類の作成の手引（平成 31 年度開設用）』及び中央教育審議会『「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受け入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン』（平成 28 年）に基づき、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示した能力をつけるため、以下の教育課程を編成し、実施する。学修方法・学修過程・学修成果の評価の在り方等を具体的に示し、専門性を必要とする職業を担うための実践的な能力及び当該職業の分野において

創造的な役割を担うための応用的な能力を育成、展開させるとともに、専門的な職業人にふさわしい責任感と倫理感をもって実践的に社会貢献できる人材を養成するための体系的なカリキュラムを整備する。

ディプロマ・ポリシーの方向性

国際ファッション学部は、建学の理念と設置の必要性にもとづき、変動する経済社会のなかで生じている国内外のファッション産業の課題に対応しようとする専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた総合的な人材を育成することを教育目標とする。ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の4学科から構成する。

4学科ともに、本学の卒業要件を満たし、(1) 国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を備え(汎用的能力)、(2) 国内外のファッション産業における基本的知識と技術を身につけて当該分野で自立できる力を持ち(基本的技術)、(3) そのファッションに関わる知識や技術を深化させながら企画開発戦略などの構想力を持って(知識・理解)、(4) 国際化や情報化などのファッション産業を取り巻く経済社会文化環境のさまざまな変化に迅速に対応し、産業の課題に主体的に取り組もうとする能力(態度・志向性)をもつ人に、学位を授与する方針である。

教育課程の編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

本学の教育課程は、「基礎科目」「職業専門科目」「展開科目」「総合科目」からなる。修得すべき授業科目には、講義の他に実習や演習、臨地実習及び卒業制作・計画等の科目がある。

1. 国際社会で通用する教養(汎用的能力)を養う

- ・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。
「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。
- ・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力(汎用的能力)を養う

- ・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業では、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。

- ・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、専門分野の内容を英語などで伝えることを求める科目を配置し、実用的なコミュニケーション能力を養成する。学外学修と関連して、専門分野を展開するための実践的なコミュニケーション能力を養成する。
 - ・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。
3. 職業分野の基本的知識と技術（基本的技術）を養う課程
- ・ファッション産業の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。
 - ・実践力の養成のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。
4. 専門知識・技術を深化させ、展開する力（知識・理解）を養う課程
- ・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。
5. 国際化・情報化等、変化への対応力（態度・志向性）を養う学外学修課程
- ・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。
 - ・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。
 - ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。
6. 総合力（態度・志向性）を養う課程
- ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自

主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価の在り方

- ・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。

基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたがい履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保し、あらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

教育課程における科目の編成については、「基礎科目」、「職業専門科目」、「展開科目」、「総合科目」の科目区分ごとに詳述する。これらの科目は、国際的な通用性を求められる高等教育機関大学の枠組みのなかに、本学の教育研究水準を位置づけるとともに、産業界及び地域社会と緊密に連携して実践的な職業教育を可能にする大きな要素である。

まず「基礎科目」では、学生が豊かな人間性と文化性を養い、国際的な市民社会の一員として多様な価値観を認め合い、活発に活動できるような職業倫理を涵養するための基礎となる講義を中心とした授業を展開する。次に「職業専門科目」では、学生が当該分野において専門的かつ実践的な能力を高めることのできる講義・実習・演習の授業を展開する。そして「展開科目」では、専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成することを目的としている展開科目の趣旨を踏まえて、専門分野を展開し価値創造力を高める講義・実習・演習の授業を展開する。最後に「総合科目」では、4年間の学びを集大成した卒業制作・研究を作るとともに、そのための創造的な役割を担うことができるようなゼミを展開する。

上記4つの大分類科目のなかで、「職業専門科目」と「展開科目」には共通する目的をもつ科目に中分類を設ける。「職業専門科目」には、「ファッション論科目群」、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」、「メディア科目群」、「地域・地方科目群」、「語学科目群」の中分類を設け、「展開科目」には「発信力科目群」、「国際科目群」の中分類を設ける。科目群の詳細は、続く4.2項以降で述べる。

科目名の命名規則は、内容の階層性あるいは順序性を重視し、履修順序を考慮すべき科目から順に科目を並べた。また末尾にⅠ、Ⅱといったローマ数字を付している科目は、ⅠからⅡへ数字の小さな科目から大きな科目へという順序で履修する法則性を設定する。

かかる本学の教育課程の編成の考え方とともに、本学が採用する教育課程として特徴的な点の一つは、地域企業・地方産地との緊密な連携プログラムのもとに展開される「臨地実習」である。臨地実習は、学内の講義・実習では理解することのできない、各企業や各産地に特徴的な素材や技術及び商業的慣習を実際に経験することを狙いとする。臨地実習は、さらに、実習の前後に学内での実習・演習と有機的

な体系を有し、通常の大学機関において個々の学生が行うインターンシップとは異なる。本学は、学生全員に「臨地実習Ⅰ、Ⅱ」を必修として履修させ、効果の高い実践力を組織的に育成する。かかる実習は、高度な専門的技術を提供する提携先と本学が組織的に緊密な連携をとることで可能になっており、教室では経験することが困難な技術、疑問や質問を現場で解決することで錬成される実践知を学修することにつながる。こうした高度かつ長期に渡る実習は全学生に経験させることは難しいものであった。

これに対し、本学は、東京・大阪・名古屋の各校舎に隣接する地域企業及び地方産地と密接に連携し、学生が当該地に赴き、自らの問題意識に応じて高度な専門的知識を実践的に学修するプログラムを提供する。また各校舎には実務家出身の教員が相当数おり、この教員が地理的距離の近い地域の企業及び産地に赴き、適宜学生の学修状況に応じた質疑応答などの指導を行うことで企業や産地任せにしない実習を可能にする。これによって、実践知の習熟において、学内の教室で一方向的な教授学習関係に偏りがちであった教育から、地域企業及び地方産地と連携するプログラムを利用した、双方向的な教育に転換する。個別の学生の具体的教育環境を確保すると同時に、学生が学修した結果は学内の演習や統合ゼミで共有することにより、学生同士及び学生と教員間のより深い理解を促し、学問知、技術知として蓄積されうる利点がある。本学はこのプログラムを大いに生かした職業専門教育活動を展開する。実習の具体的計画と詳細については、10項に述べる。

加えて本学は、学術的研究を基礎とした専門知識と、実践的な技術を基礎とする専門能力をもって、ファッション産業界及び関連する地域企業や社会の課題を多面的に認識し、その課題に対応するために必要な科目を自ら設定し開設している。特徴的なのは、基礎科目における多文化共生などの教養を身につける文化論科目、社会科学や自然科学の基礎教養を身につける科目、基礎ゼミなどの開設である。また、職業専門科目における「ファッション論科目群」、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」であり、全学生にファッション産業のモノを作り、モノを売る、両方の要素に関係する科目を、概ね必修で履修するよう開設し基本的な知識と技術を身につけさせる。さらに、展開科目における「発信力科目群」、「国際科目群」の開設である。デジタルテクノロジーなどの現代的な情報化とさまざまな産業の関係を考える応用的科目、ファッション産業に関する、モノを作り、モノを売る基本的知識と技術を国際的に展開する海外実習などの応用的科目などで構成し、これらの科目を通じて、本学が考える上記の展開力、より具体的には、「豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と、「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする対応力」を養成しようとする。

上記の科目は、その前後の科目とつながって体系的な専門知識や技術を学ぶことができるとともに、学内外の学習ともつながりを持つ設計にしている。例えば、基礎科目や一部職業専門科目で学ぶ基礎ゼミは、大学4年間を通じて問題発見と解決方法を探求するという自主学習や演習の練習となるように設計している。同時に、各基礎ゼミ科目は、基礎科目の文化論科目、職業専門科目の「ファッション論科目群」などと有機的につながりがあり、講義とゼミを往復して学生の習熟を促すことのできる場としても設計されている。このような演習の練習を早期に積むことで、臨地実習等の学外における学びをより主体的なものとし、かつ学びの結果をフィードバックすることを通じて、柔軟で実践的な力をつけるよ

うな科目としている。

また、この科目設定は、大学開設後も不断の見直しを行う。5.1 項目の教員組織等の編制の考え方及び7項目の教育課程連携協議会でも述べるように、関係する学外の諸機関や産業界との連携を図りつつ、互いに意見を交換し検討する。本学の教育課程は、理論と実務をつなぐようなものであり、かつ、ファッション産業界及び関連する地域企業や社会の課題を多面的に認識し、その課題に対応するものである。このため社会状況の変化に応じる形で組織的な取り組みを続けていく。組織にかかる連携関係の資料は7項目と連動して添付している。

こうした教育課程の編成の方針は、9.2 項目の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）とも重なる。本学は、実践力と創造性があり、総合的な視野を持った、新たなファッション専門職の人材を育てるという目標を掲げることから、従来の大学入学希望者に加え、専門高校からの進学や、実務経験や保有資格などをもつ社会人学生、他の高等教育機関からの編入学など、幅広い分野の学士課程の修了者、留学生など、多様な背景を持つ入学者を受け入れる予定である。こうした入学者の多様性、経済社会や産業界の状況変化に応じながら、教育課程の編成を見直し、検討していく。

本学において、どのような科目を設定し、どのような学習をさせるのか。以下では、より具体的に、各科目の設定と理由、学生が履修すべき内容を記す。最後にそれに対応した、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を記載する。このカリキュラム・ポリシーは、先述の通り1.2 項目の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と一貫性・整合性のあるものとして策定し、かつ9.2 項目の入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）と関連して策定した。3つの方針の関係は、前述の通り資料2である。

4.2 基礎科目の設定と理由

「基礎科目」は、専門職大学設置基準第13条に規定された科目区分の趣旨、特に「生涯にわたり自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する」ことを目的としている基礎科目の趣旨に沿って、「一般的に国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力（汎用的能力）」を養成する科目と位置付ける。高等教育機関の一部に位置づく本学において、教養教育としての深い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養する重要な科目と位置付けている。教養教育は、古代ギリシャ・ローマ時代に端を発する「自由な市民が自ら考え判断する能力を養い、豊かな人生を切り開く教育」に連なる。多様な文化が共生する社会へ移行しつつある現代日本社会では、国際的な市民社会を養う教育の重要性が増している。加えて、現代の国際社会で通用する教養とは社会的課題の発見と解決する力を発揮する能力を含む。平成14年の中央教育審議会答申『新しい時代における教養教育のあり方について』が提言するように、教養は個人の人格形成にとって重要な要素であり、社会における人々が互いを理解するための知的基盤でもある。本学も多様な文化を互いに認め合い、個々人が社会と関わりながら課題発見と解決能力を高め実践していく方針を示している。学内外の実習や演習を重視し、実践的な企画力や開発力、創造性を養う。

基礎科目は特に教養と基礎知識を担う科目として、人文学系科目と社会科学系科目、自然科学系科目を配置し、現代の経済社会の変動環境のなかでグローバル化と、日本社会の国際化に伴う問題点を意識

して、自国の文化を理解しつつ多文化、国際社会の多様性（ダイバーシティ）に対応できるよう、おもに社会学、経済学、文化人類学に関わる科目を配置している。その設計と科目配置は、国際的な市民社会の一員についての本学の考え方を反映している。

多文化共生や国際社会で通用する教養につらなる包括的な視点を学ぶ科目として「比較文化論」、「現代文化論」がある。「比較文化論」では、物質文化（衣食住）や宗教、アートに注目することで価値観の多様性を学び、「文化相対主義」という考え方を習得する。「現代文化論」では、産業革命以後の現代社会のあり方について学び、社会変化が伝統的な文化に与えた影響や新しい文化の創出について学ぶ。「ヨーロッパの社会と文化」では、ヨーロッパという地域の社会と文化について学ぶ。ヨーロッパ地域は、文化産業、政治、経済的に影響力を持つ地域であり続けている。ヨーロッパはまとまりがあると同時に多様な民族を抱える地域でもある。その複雑な歴史や文化の特徴を学ぶことで、ヨーロッパ中心に展開してきたファッション・ワールドの前提となるような基礎教養を身につける。

以上の科目を有機的に結びつけ、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として「文化論基礎ゼミ」を用意する。講義を主とする授業科目が、どちらかというとなんだか知識や方法を学ぶ場であるのに対し、演習を主とするゼミ科目では、習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。他のゼミにも当てはまることだが、基礎ゼミでは大学4年間で必要な学習態度、すなわち課題の発見、レポートの書き方、質疑の方法、文献の調べ方などについても学ぶことになる。

そして社会科学に関する基礎教養を学ぶ科目は、「会計入門」、「産業論入門」、「法学入門」、「地域論入門」、「フィールドワーク入門」の科目からなる。職業専門科目においてファッション分野にかかるクリエイションの他に、本格的なビジネスや知財論の知識を習得する前に、基礎となる商学・法学系科目、産業に関する歴史的展開について講義を中心とした授業で学ぶ。また職業専門科目、展開科目で行う臨地実習の前段階として、フィールドワーク入門の授業を位置付ける。クリエイションやビジネスの現実世界に触れる機会を最大限に活かすためにも、現場ではどのような問いを立て、どのような問いかけをしていくのか、各校舎に身近な場所での訓練を通じて学ぶ。以上の科目を有機的に結びつけ、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として「社会科学基礎ゼミ」を用意する。「社会科学基礎ゼミ」の科目の設定の意図と目的は、上記の「文化論基礎ゼミ」と同様に、基礎科目の定着を図り、深い理解につなげることである。関係する科目を履修する学生は基礎ゼミを履修することが望ましい。基礎ゼミでは、受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献等を検討した結果を発表する。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。基礎科目の講義と基礎ゼミは有機的に関係しており、受講生の学習を相互に補完する。また、続く職業専門科目におけるゼミ演習科目の基礎と位置付けている。

自然科学系科目は、「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」から成る。情報環境や環境問題、に関わる基礎知識を学び、汎用的能力として基本的な情報リテラシーを身につける。

語学科目は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「日本語文章表現」、「フランス語」、「中国語」、「イタリア語」から成る。グローバルに活躍するために欠かせない基礎言語として英語を重点的に配置した。1年次、2年次通期で基礎科目「英語Ⅰ、Ⅱ」の合計8単位を必修科目として履修した後、続く職業専門科目におい

て「国際ファッション業界英語」科目を4単位、必修として課す。これにより、ファッション産業に特化した応用的で実践的な英語のコミュニケーション能力を高める。ここでいう語学教育は、専門的な論文作成の能力や語法などの専門的な英語学の教育を主眼にしたものではなく、あくまで、日常生活や日常の仕事の中で、円滑なコミュニケーションを図ることのできる能力及び自己表現能力を高める教育を指す。これにより、ファッション分野において国際社会で活躍するために欠かせない英語やフランス語、イタリア語、中国語によるコミュニケーション能力をもち、より自立的、主体的に行動していく方法を身に着ける。

英語をはじめ、現地で通用する言語を使用したコミュニケーション能力は、国際的な仕事をするうえで欠かせない能力となっている。こうしたコミュニケーション能力をファッションの世界に関係する形で学ばせる。当該科目は「国際連携ゼミ」、「海外実習Ⅰ、Ⅱ」を選択履修する場合の基礎とも位置付けている。また、簡潔で、論理的な文章を書く能力を養うために「日本語文章表現」を配置した。受講生は、就職後頻繁に作成することとなる企画書や報告書の作成などを想定して、基礎的なテキスト等を使用しながら、内容を端的にまとめ、説得的に示す修練を行う。

加えて、「キャリアデザイン論」で職業人としての倫理と、自身の就業に関する計画をまとめる。基礎科目の履修後、職業専門科目、展開科目、総合科目全てに関わるプレゼンテーション能力の基礎訓練とする。

4.3 職業専門科目の設定と理由

「職業専門科目」は、国際ファッション専門職大学において、ファッション産業に関わる専門職人材の高い専門性及び実践力を養うための重要な基本的な知識と技術を身につける科目と位置付けている。特に、ファッションクリエイションとファッションビジネスの分野で必要とされてきたモノづくりのための専門的知識と技術、管理運営のための専門的知識と技術の習熟を図ると同時に、その双方の知識と技術の一部にあたる科目を全学生に履修させることで、専門学校で養ってきたファッションクリエイション分野とファッションビジネス分野の専門性に加えて、創造性やビジネスの感覚をもった総合的な判断力を養う。

この総合的な判断力の養成とは、平成28年の中央教育審議会答申『個人の力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について』が提言するように、激動する今日の経済社会と産業構造のなかで求められる、変化への対応力にあたる。今求められているのは、「自己の職業分野における高度な専門技能等を備えると同時に、変化への対応等に必要な基礎・教養や理論にも裏付けられた実践力などを兼ね備えた質の高い専門職業人であり、そのためには技能と学問の双方の教育を融合し、強化した仕組みが必要である」と述べられているように、本学は、クリエイションとビジネスの実践的な技術の教育に、先述の基礎科目における教養や理論を融合し、さらに職業専門科目では、クリエイションとビジネス双方の理論や演習の科目を一部履修させることで、こうした変化への対応力に繋がる総合的な判断力を育成する。特に、学内外の実習や演習を重視し、実践的な企画力や開発力、そして創造性を養う。

具体的には、「ファッション論科目群」、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」、「メディア科目群」、「地域・地方科目群」から成る。クリエイションとビジネスの思考を持った専門職人材の育成に向けて1、2年次には基礎技術と知識、応用的技術と知識の取得の強化と向上にフォーカスを当てる。同時に、本学ではアウトプットを意識し1年次から演習・実習科目を配置することで、座学と演習の反復による知識の定着・深化を図る。学生には早期より獲得すべき知識や技術領域を自覚させることで意欲の活性化を図りながら、同時に関連する知識や教養、論理的思考能力を形成する科目を一部必修として総合力を養う。実習や演習には実務家専任教員を相当数入れ込み、授業形態としては、講義を基にしながらも実習及び演習に力点をおいた展開を行う。講義と合わせた実習・演習の理解が学生の実践的で専門性の高い能力に役立つ教育を行う。

4.3.1 「ファッション論科目群」

「ファッション論科目群」では、本学の教育課程で重要視する、「ファッションとは何か」、「ひとが服を着ること、装うとはどういうことか」を考え、ファッションのコンセプトの基礎となる知識やモノの見方を醸成する。具体的には、世界各地の装い、服飾文化の多様性を学ぶとともに、こうした科目と関連して、ファッション・ワールドを多角的に学ぶ。この目的のために10の科目を設置している。1.2.1及び1.2.2項目で述べた内容と関連する。

衣服は、身体と自然（外界）とを分かちつと同時に結びつける人工物である。伝統的に衣服は自然素材からなっていることを考えると、衣服は身体に最も近い「自然」とも言える。他方、わたしたちにとって身体は第二の自然とも称されるように、心（精神）に対して最も近い自然とも言える。しかしながら、身体はわたしたちの心の状態に大きな影響を与えるし、また反対に心は身体にさまざまな変化をもたらす。そのような心身の相即的な関係と衣服とは密接に結びついている。基礎科目「身体とパフォーマンス」では、「身体とは何か?」、「身体と心の関係はどのようなものか?」という根源的な問いを念頭に、日常ならびに特別な機会における身体と衣服との関係を学ぶことを目的とする。そして「造形論入門」で身体の使い方を具体的なイメージとして学ぶ。「自然資源と服飾文化」では、衣服の素材である自然資源（動植物の自然繊維、毛皮など）に注目し、これがどのような形で服飾文化の多様性に大きな影響を与えているのか、また化繊の普及がそうした服飾文化をどのように変容させてきたのかを学ぶ。衣服は素材を含め誰でも作ることでできるものもあるが、多くは職人たちによって生産されてきた。「職人の世界」では、職人の社会や背景となる文化、彼らの考え方、具体的な技術の継承、使用する道具などについて学ぶ。「装いと社会性・ジェンダー」では、服飾が身体を保護するだけでなく、身にまとう人の社会的な属性を表す記号として機能する点について学ぶ。社会的属性とは、階層、年齢、ジェンダー（性差）である。素材を提供する自然環境に留まらず、社会的地位もまた衣服が多様化する要員として無視できないのである。これらの科目で理解される衣服とは、何よりも身体と自然、文化と自然を結びつけるインターフェースとしての衣服である。

そしてヨーロッパを中心に生まれたファッション・ワールドを理解するにあたって、「美とファッションの歴史」、「色彩論入門」さらにファッション産業の構造を学習する「ブランドの歴史と文化」、衣服以外の美容や痩身、美容整形を対象とする「美容とファッション」を提供する。

現代の欧米の都市で毎年創出されるファッションは、欧州内部でとどまることは少なく商品となって中核都市（メトロポリス）から地方へ、上流階級から中間層へ、欧米から世界へと滲出・普及していく。ファッションは都市と地方、異なる二つの階級を時に分断し、時に結びつける。これもまたインターフェースとしての衣服の一面である。

「美とファッションの歴史」では、ファッション・ワールドの歴史とその中核に位置する美の基準や価値観について理解を深める。ファッションがどのような美的価値に基づいて生まれ、またファッションの中核をなす衣服や装飾品、靴やバッグがどのような新たな美を生み出すのかという問題を学習する。「美とファッションの歴史」がファッション・ワールドのソフトな側面であるとするなら、「ブランドの歴史と文化」はファッション・ワールドのハードな側面を扱うと言える。著名なデザイナーを抱えるハウスやメゾンと呼ばれるブランドを中心にファッション・ワールドは構成されている。具体的には著名なブランドの歴史や活動を学習する。この科目は、ビジネス関連の科目とも密接に結びついている。「美容とファッション」では、ファッションに関係する、美容や痩身、美容整形を対象とする。衣服や装飾品を無視することはできないが、それ以外の要素、例えば化粧、さらに身体そのものの加工（痩身の技術やタトゥーなど）も無視できない。本科目では、身体に関わる美容を扱うことで、ファッション論科目群の「身体とパフォーマンス」と密接に関連する。

以上の科目を有機的に結びつけ、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として「ファッション論基礎ゼミ」を用意する。「ファッション論基礎ゼミ」の科目の設定の意図と目的は、上記の基礎ゼミと同様である。

4.3.2 「デザイン科目群」

本科目群は、ファッション産業におけるデザインやモノづくりを主に学ぶものである。この目的のために、16の科目を設置している。

具体的には、「日本の衣生活・服装史入門」、「生活科学入門」、「ファッションデザイン論」、「ファッションデザイン実習Ⅰ、Ⅱ」、「デザイン概論」、「パターンメイキング」、「ファッションデザインプランニング実習Ⅰ、Ⅱ」、「国際展示会演習」、「テキスタイル基礎」、「テキスタイル中級」、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目からなる。このなかで、日本の伝統的な文化を再認識し、デザイン力を磨くための基盤となる知識や技術を習得するための科目として「日本の衣生活・服装史入門」がある。そして、被服学の基礎となるような家政学の概説科目として「生活科学入門」がある。家政学のなかでも被服生理学、被服環境学、被服材料学などにファッション産業に関係する内容の全体像を学修できるような科目である。クリエイションの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションデザイン論」と「ファッションデザイン実習Ⅰ、Ⅱ」がある。「ファッションデザイン論」では基礎理論を学び、そして「ファッションデザイン実習Ⅰ、Ⅱ」では応用と実践を学ぶ。この科目は、デザイナーを育成するために必須の科目である。そして、どちらかといえばビジネスの専門性に近い、企画や管理運営の専門性を学ぶための主な科目として、「デザイン概論」と「ファッションデザインプランニング実習Ⅰ、Ⅱ」がある。「デザイン概論」で基礎理論を、そして「ファッションデザインプランニング実習Ⅰ、Ⅱ」でその応用と実践を学ぶ。これらの履修により、

デザインなどのクリエイションを中心とした履修を行う学生であっても、ビジネスの思考を学ぶ設計としている。また、「テキスタイル基礎」はその中間にあって、素材の知識をクリエイションの側面と管理運営の側面から学ぶものである。

そして、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」は、ファッション産業の新たな分野であり、実用に関わる学びになる。理由は、現在のファッション産業においてバッグやシューズが大きな割合を占めていて、この分野に関心を寄せる学生が少なからず存在するためである。また、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目は、嗜好を定量的な方法等を併用して把握することを学ぶ科目である。ファッション産業では「好き嫌い、似合う、似合わない」という感覚や感性の領域の嗜好性が重要であるが、それは個人の主観性の問題と見なされ、客観化あるいは一般化の試みは立ち遅れてきた。これらの科目では嗜好性を分類して把握することを学ぶ。今後、先端技術の AI（人工知能）の活用に関連した分類が進むと、ファッション産業の変化に対応する知識を習得する。

以上の科目から、必要な専門的かつ実践的な学習を行う。特に 3 年目から 4 年生において、学生は国内外の職人の世界に接する。その臨地実習に向けて学内で以上の科目を履修し準備を行う。全学科において「ファッションデザイン論」、「テキスタイル基礎」の科目を必修とし、ファッションビジネス学科や大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の学生でクリエイションを主な活動としない受講生も、講義を通じてクリエイションについての基礎的知識や技術を理解することにつながる。

各科目は、実務家出身の専任教員を相当数配置し、専門的かつ実践的な能力を付けることのできる科目編成とした。以上の科目のうち、講義による授業及び実習と、演習は有機的に結びついており、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として演習を用意する。講義や実習科目がどちらかという、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、ゼミでは習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。他のゼミにも当てはまることだが、基礎ゼミで学んだ講義と実習と演習のあり方を基礎に、各科目で課題の発見、レポートの書き方や実習の方法、質疑の方法、文献の調べ方などについても学ぶことになる。

4.3.3 「ビジネス科目群」

本科目群は、ファッション産業における生産と流通・販売などの管理運営方法や、市場や産業構造について主に学ぶものである。この目的のために、13 の科目を設置している。

具体的には、「ファッションビジネス概論」、「国際ファッション市場論」、「ファッションビジネス実習 I、II」、「リテール企画実習 I、II」、「国際ビジネスモデル特講 I、II」、「創造産業論」、「マーケティング論」、「消費者行動論」、「知財論」、「国際ファッション業界英語」から成る。このなかで、実践的な生産と流通・販売などの管理運営方法というビジネスの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションビジネス概論」と「ファッションビジネス実習 I、II」、「リテール企画実習 I、II」がある。「ファッションビジネス概論」では基礎理論を学び、そして「ファッションビジネス実習 I、II」では応用と実践を学ぶ。さらに、「リテール企画実習 I、II」では、より流通・販売にひきつけた応用と実践

を学ぶ。これらの科目は、マーチャンダイザーを育成するために必須の科目であり、どちらかといえばクリエイションの専門性の要素も入ったものとして設計している。これらの履修により、管理運営などのビジネスを中心とした履修を行う学生であっても、クリエイションの思考を学ぶ設計としている。

そして、ファッション産業における全体的な市場の在り方や産業構造に関わるビジネスの専門性を身につけるための主な科目として、「創造産業論」、「マーケティング論」、「消費者行動論」がある。これらの科目は、学問知にあたる基礎理論の理解が欠かせない。「創造産業論」の科目では、模倣から創造という産業史の流れを学ぶ。「マーケティング論」では、マーケティング論の全体像を理解し、企業の存続及び成長につながる製品やサービスの提供、売り上げや利益に関する基礎理論を学ぶ。「消費者行動論」では、マーケティング論の一環として消費者行動に関する基礎理論を学ぶ。「広告・PR論」では、メディアを通じて提供されるコンテンツが消費文化においてはたす機能と役割、広告・PR産業について基本的な理解を深める。また、「知財論」は、クリエイションとビジネスの両方の分野で共通して必要な法律の知識を学ぶよう設計している。

これらの科目の履修から、現代にいたる国際ファッション市場の動向、国内外のファッションビジネスモデルの特徴と今後のビジネスモデルの創出を視野に入れた学びを行う。実践的な知見とともに、経済学や経営学を基底とする学問知を融合させ、ファッションビジネスについて十分な知識を学び、演習を通して課題発見と論理的理解に繋げる。

全学科において、「ファッションビジネス概論」、「ファッションビジネス実習Ⅰ、Ⅱ」、「創造産業論」、「知財論」を選択科目や必修科目としている。各科目は、経済学や経営学を専門とする教員を中心的にしつつ、実際のビジネスの現場で実務経験をもつ専任教員を相当数配置し、専門的かつ実践的な能力を付けることのできる科目編成とした。以上の科目のうち、講義による授業及び実習と、演習は有機的に結びついており、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として演習を用意する。講義や実習科目がどちらかという、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、ゼミでは習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。他のゼミにも当てはまることだが、基礎ゼミで学んだ講義と実習と演習のあり方を基礎に、各科目で課題の発見、レポートの書き方や実習の方法、質疑の方法、文献の調べ方などについても学ぶことになる。

4.3.4 「メディア科目群」

本科目群は、「写真概論」、「映像概論」、「写真実習」、「映像実習」から成る。本科目群では、各種メディアの発達や役割について歴史的変遷をもとにした基礎知識の理解を深め、さらに機械技術の発展の変遷をもとにした基礎技術の理解を深める。そして、各種静止画や動画を撮る映像機器の種類や用途、デジタル加工などの編集技術の種類や技術といった実践的な知識や技術を講義、実習、演習を通して学ぶ。全学科の学生が概論を必修として履修し、実習を選択として履修する。

なお、メディア科目群は、展開科目に位置する「発信力科目群」とは異なり、ファッションクリエイションやファッションビジネスの専門知識との関連だけに焦点をあてて学ぶ内容ではなく、学問知、実践知において培われてきた映像世界に関する学習である。そのため、一部の科目は1年次から履修を開始し、2年次と履修していくよう設計している。

各科目は、メディアや美術・芸術学等を専門とする教員を基礎に、実際のビジネスの現場で実務経験をもつ専任教員を相当数配置し、専門的かつ実践的な能力を付けることのできる科目編成とした。以上の科目のうち、講義による授業及び実習と、演習は有機的に結びついており、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として演習を用意する。講義や実習科目は、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、演習では習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。現代社会のメディア環境やファッション産業をとりまくメディア環境について、自ら課題を発見し、調べ、討議することを通じて、質疑応答の方法、文献の調べ方など関連する学習の方法についても学ぶ。

4.3.5 「地域・地方科目群」

臨地実習科目群は、教室の外に出てファッションビジネスの現場から、ファッションクリエイションやファッションビジネスの実践的な知識を学ぶ。最新の情報の収集、商慣行及びビジネススキルの修得と向上、ネットワークの構築を目標とする。具体的には、「地域企業・地域連携ゼミ」、「臨地実習Ⅰ（企業）」、「臨地実習Ⅱ（地方産地）」から成る。これらは本学の教育プログラムの特徴として位置付けることができる。これらの科目で学んだ知識や技術、問題や解決方法などは、展開科目「海外実習Ⅰ、Ⅱ」でさらに活用することが期待されている。

「地域企業・地域連携ゼミ」では、専任教員の指導のもと、日本の地方・地場産地、地方・地場企業、と連携した実務学習を実施する。産地、企業の知財価値を理解し、その活用方法を考え、ブランド化する工程を研究する。「臨地実習Ⅰ（企業）」では、繊維企業、アパレルで実習をすることにより、実践的な能力及び当該職業に必要な能力を育成する。「臨地実習Ⅱ（地方産地）」においては、地方・地域の織物産地の特色と現状を学び、研究課題を発掘する。

各臨地実習科目は、多彩な分野を担当する教員と、実務経験をもつ専任教員によって編成される。各実習科目と各演習科目は有機的に結びついており、主体的に学習意欲を育てる場として演習を活用する。実習で新たな知識や方法を学ぶ前後において、ゼミでは実習の計画を発表し、また習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題を発表するなど、主体的に課題に取り組む場である。

4.4 展開科目の設定と理由

「展開科目」は、専門職大学設置基準第13条に規定された科目区分の趣旨、特に「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的としている展開科目の趣旨を踏まえて、「現代のファッション産業の国際化と情報化などの変化に対応する能力」を養成する。全学科に共通して、「発信力科目群」と「国際科目群」という科目名称の中分類を設け、新たなデジタルテクノロジーとファッション産業の関係を考える応用的科目、ファッション産業に関連する他分野の知見や、モノを作り、モノを売る基本的知識と技術を国際的に展開する海外実習などの応用的科目などで教育課程を構成し、これらの科目を通じて、本学が考える上記の展開力、より具体的には、「豊かな日本の装いの文化と知財を

学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と、「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする対応力」を養成しようとする。本学では、制作物を国内外に発信し、ビジネスを国際的に展開するための、関連する分野における応用的な能力を修得し、専攻分野における創造的な役割を担うための能力を展開させるための重要な科目と位置付けている。

ファッション産業における、クリエイションとビジネスの専門性をもつ人材は、実践的で専門的な創作と経営の知識や技術を持つ前提の上に、現代では、それを新たな情報技術、デジタルテクノロジーを使用して、必要な知識や技術を知財化し発信し、幅広い媒体に発信展開できる能力が要請されている。こうした科目の開発は、本学のもつ独自の取り組みともいえよう。こうした情報化に対応する科目に加えて、日本からの発信を支える地域論や地域産業に関わる科目を加えて、「発信力科目群」とする。

そして、現代のファッション産業において、クリエイションとビジネスの専門性をもつ人材がもつべき能力とは、国際的な発信と応答である。それを本学は国際科目群で提供する。主に1,2年次で学んだ基礎、専門科目の知識や技術、実践力をもとに、それを国際化の文脈の中で応用的に検討し、創造的な役割を果たすための力をつける科目、特に学生が海外での臨地実習に挑む科目とその実習に必要な英語以外の語学科目、また、海外から招聘した教員を交えたゼミで、課題や成果を発表するという演習科目から成る。問題発見能力、論理的思考能力の強化とともに、国際的なコミュニケーション能力を鍛え、伝えるという能力の向上を意識した科目群である。

この科目群の実習の設計は、基本的には3年次に通年で開講するようにしており、職業専門科目の必修科目である国内臨地実習を経た後、選択希望者は海外での実習に向かうことができるよう考えられている。そして、海外実習の前後には演習をとり、実習と演習の反復による知識や能力の定着・深化を図るよう設計している。これまでの基礎科目、職業専門科目を経て、獲得すべき知識・技術領域を自覚した学生が、より意欲の活性化を図りつつ、身に着けた知識や技術、論理的思考能力を発信展開する科目である。選択科目であるため、年次が上がった4年次にとることも可能であり、学生の履修を促す工夫をしている。

4.4.1 「発信力科目群」

本科目群は、豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力を養おうとする科目である。「環境とビジネス」「地域産業論」「地域産業・大阪論」「地域産業・名古屋論」「デジタルアーカイブ論」「産業とメディアデザイン」「デジタルテクノロジー演習」「サブカルチャー・スタイル」「広告・PR論」から成る。本科目群では、国際的なファッション産業でクリエイションやプロデュースの仕事などで活躍を目指す人材が、豊かな日本の装いの文化と知財を学び、また、主流といわれる実践から外れる文化実践の生成やその変遷を学び、現代的な新たな価値創造につなげる視点を学ぶ。サブカルチャーと呼ばれるようなマイナーなもしくは局地的な文化実践が主流化する際に関係する、広告・PR論とつなげて発信、展開のあり方を学ぶ。

また、新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力を身につけるために、さまざまな産業と各

種メディアの発達や役割や関係について歴史的な変遷をもとにした理解を深め、機械技術の発展の変遷をもとにした展開の可能性を考える科目を配置する。そして、現代の産業社会、経済社会において必須の課題となっている環境との関係を取り上げ、各校舎の立地する地域からの発信という点で地域の地場産業との関係を考える科目を配置している。

こうした科目は、基礎科目に配置した情報とメディア関係の「メディア概論」「情報リテラシー」科目、環境に関する「環境と社会」科目、地域に関する「地域論入門」科目とは異なる様相をもつ。基礎科目の「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「地域論入門」は、どちらかといえば一般的な教養としてのメディアや情報や環境や地域への理解を身につけさせ、コンピュータ機器の使い方などを学ぶ科目である。そして、職業専門科目における「写真概論」「写真实習」「映像概論」「映像実習」が、どちらかといえば一般的な静止画や動画を撮る機器の種類や用途、デジタル加工などの編集技術の種類や技術といった実践的な知識や技術を、実習を通して学ぶ科目である。

すなわち、基礎科目で扱う一般教養ではなく、専門職大学設置基準で定められた展開科目の趣旨である「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とする趣旨に沿って、本学が「現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力」を養成するために設定するものである。したがって、今後のファッション業界における国際化と情報化に対応して、日本の知財をもとに積極的な展開と発信を行うための実践的な力を身につける科目である。

以上の科目には、講義による授業と、実習と演習が含まれる。講義や実習科目は、どちらかといえば新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、演習では習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。現代社会のメディア環境やファッション産業をとりまくメディア環境について、自ら課題を発見し、調べ、討議することを通じて、質疑応答の方法、文献の調べ方など関連する学習の方法についても学ぶ。

4.4.2 「国際科目群」

本科目群は、ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする態度・志向性を養おうとする科目である。

「国際知財論」「国際連携ゼミ」「海外実習Ⅰ」「海外実習Ⅱ」から成る。本学の考える国際性は、3.4項目に記したように、「豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする態度・志向性」と「ファッション産業に関する基本的な知識や技術力」と「国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力」が有機的に結びつくことで達成されるものである。なかでも専門職大学設置基準で定められた展開科目の趣旨である「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とする趣旨に沿って、本学が「現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力」を養成するために設定する「国

際科目群」には、教室の外に出て海外のファッションビジネスの現場から、ファッションクリエイションやファッションビジネスの実践的な知識を学ぶ実習科目と講義科目、演習科目が結びついてこうした力を養成する主な原動力となりうる。

「海外実習Ⅰ、Ⅱ」では、欧米の地域やアジア地域等へのインターンシップを行う。全員が必修で履修する「海外実習Ⅰ」は、学生の希望や予算、目的に応じて欧米の地域やアジア地域等へ本学の専任教員が引率する。そのなかでも特に国外に本社機能を置く企業等で将来的に就業を希望する学生には、「海外実習Ⅱ」を選択的に履修可能としている。そこでは、欧米や中国でこれまでの専門学校モード学園が培ってきた欧州、特にフランスのファッション・アパレル産業との人材交流やネットワークをもとにしたインターンシップを可能にする。受け入れ先となる企業や団体に関する詳細については、10.4項目や添付した資料11に記載した。学生は、専任教員と綿密な相談を行い、その指導のもと、受け入れ先と連携した臨地実習を行う。海外の商慣行やクリエイションのあり方を実践的に学ぶと同時に、異なる地域のものの美的な価値の理解などを通じて、これまで学んだ知識や技術を国際的に発信・展開する方法を考え、卒業制作・計画に向けた研究課題を発掘する重要な機会と位置付けている。

そして、海外実習の前後には、多彩な分野を担当する教員と、実務経験をもつ専任教員によって編成された国際連携ゼミが用意されている。この実習科目と演習科目は有機的に結びついており、学生が、主体的に学習意欲を育てるよう工夫する。実習で得る、新たな知識や方法を深化・定着するよう、ゼミでは実習前に実習計画の発表を課し、実習後に実習を通じて発見した個別課題の発表を課す。そうすることで、実習を行った学生のみならず、ゼミを履修する多くの学生や教員にとっても、主体的に課題に取り組み、国際的に発信展開することを学ぶ動機付けとなり、また、最新の海外情報の収集やネットワークの構築に役立つフィードバックが得られるものと期待する。

4.5 総合科目の設定と理由

「総合科目」は、これまでの全ての教育課程の集大成として位置付けている。具体的には、「統合指導ゼミⅠ、Ⅱ」、「卒業制作・計画」から成る。

全学科の全学生は4年次に「卒業制作・計画」を履修する。学生には、基礎科目、職業専門科目、展開科目で学修した内容を活かし、科目において制作物、もしくは卒業研究、卒業論文などの形で自らの学修成果を発表することを課す。「卒業制作・計画」の科目が、どちらかといえば自ら設定した課題を、具体的な作品や論文等の形でアウトプットすることに取り組む場であるのに対し、同じく4年次に全学科の全学生が必修で履修する「統合指導ゼミⅠ、Ⅱ」は、その卒業制作・計画に向けて、これまで基礎科目、職業専門科目、展開科目で学修した知識をもとに自らの関心を持つ個別の課題発見と課題設定、そして制作物のコンセプト作りにつながる準備に取り組む場である。他のゼミにも当てはまることだが、統合指導ゼミでは、大学4年間で習熟した必要な学修態度、すなわち主体的かつ自主的に課題を発見し、コンセプトを作りあげ、その講評を、学生とともに多彩な教員が行う。本学が目指す、ファッション分野の新たな創作活動とビジネス展開の模索が行われる。

以上、教育課程の編成の考え方と科目内容の特色を記した。これに対応して、教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）をまとめると、本学は、(1) 国際的な市民社会の一員としての自覚、専門職としての職業倫理を涵養する。(2) ファッションのクリエイションにおいて、従来の専門的なモノづくりの技術に加え、文化についての基礎的理解を深めた教育をする。新しいファッションの価値を創造もしくは理解する。(3) ファッションのビジネスにおいて、総合的な判断に加え、実践的な企画力や開発力、創造性を養う。新しいビジネスの活動形態を理解する。(4) 国際社会で必要とされる発信と展開の技術と能力を育成するという方針である。

各学科は統一的なキャンパス・アイデンティティーのもとで教育課程が編成されており、3 地域の校舎での教育水準は地域によらず等しく教授することが可能である。科目を担当する教員の質や配置については、次項目以降で述べる。

5. 教員組織編制の考え方及び特色

5.1 教員組織の編制

本学の教員組織の編制は、主に1項目の設置の趣旨や特色、4項目の教育課程等を踏まえ、その目的を達成するための相応しい教員で組織されている。学生に対する教員の配置という面で述べると、国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は1年次入学定員80名、完成年度計320名に対して13名の専任教員、ファッションビジネス学科は1年次入学定員38名、2年次編入学定員2名、完成年度計160名に対して9名の専任教員、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は1年次入学定員38名、2年次編入学定員2名、完成年度計160名に対して15名の専任教員、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は1年次入学定員38名、2年次編入学定員2名、完成年度計160名に対して15名の専任教員、4学科で合計52名の専任教員を配置している。各教員がオフィスアワーを設けても十分な学生対応ができる配置となっている。

教育課程の特色という面で述べると、本学の学問領域は家政学を基底として、隣接する多彩な分野の知識と技術を教授し、また臨地教育も行う。これにふさわしい専任教員を各学科に配置した。教育上主要と認められる科目については、続く5.2項目でも述べるように専任の教授または准教授を配置する。兼任教員を配置していることの多いファッションクリエイション学科とファッションビジネス学科は、ともに同じ校舎内にあり、教育上支障になることはない。各専任教員は、保有する学位、教育研究実績、実務経験や内容等を検証し、担当する科目との適合性を考慮して配置した。

本学は、科目の特色として、従来の専門的なモノづくりの技術に、装いの文化等の理論面での基礎的理解を深めた科目の開発、地域・地方及び海外と連携した臨地実習などの学外学修、メディア技術を使用した発信・展開科目の開発等を行っている。こうした教育課程の編成や科目開発について、本学は不断の見直しを行うための適切な体制として、学内の教授会とその下部組織にあたる委員会、そして教育課程連携協議会を想定している。この担当組織の整備や教育内容や方法の開発等を行うため、経験と実績のある教員等を適切に配置している。この他に、特に演習、実習が中心となる科目等においては学生に対する教育サポートのために、適宜助手やティーチングアシスタントを配置している。かかる内容については、7項目の教育課程連携協議会や、12項目の管理運営体制、13項目の自己点検等に関連する。

また、本学はファッションを研究領域とする初の専門職大学のため、実務家出身の教員を多く配置し、その中でも研究の出来得る教員を一定数配置した。実務家の採用及び職位については学内で基準を設けた。特に実務家専任教授については、アカデミアの専任教授の教育研究実績と相応するよう、候補者の実務経験等の内容を詳細に検証し腐心した。実務家専任教授の職位を付与する者はほぼ、国内外の著名なブランドや企業等で約10数年以上の実務経験を有し、ディレクター以上の職位で、実社会に向け商品やプロジェクトを発信し、その卓越性が研究業績書に明確に記載できる者とした。加えて実務家専任教授のこれまでの業績は今後の本学の教育と研究に活かすものなので、産地と連携し、新しく開発したファッション知財を海外発信するための基盤となる確かな業績となりうるかを判断の基準とした。

教員組織は、初の専門職大学として、教育実績と共に研究実績をあげて順調なスタートをきるために、当該分野にふさわしい博士号等の学位や十分な研究業績を有する教員を中心に配置し、完成年次以降、

中堅から若手につなげることを意識した専任教員の配置にしている。本学開学時における専任教員の年齢構成は、30歳代8名、40歳代9名、50歳代17名、60歳代16名、70歳代1名、80歳代1名である。なお、専任教員の平均年齢は、約50歳代となっており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。なお本学の定年に関する学内規定では65歳の誕生日を迎えた年度をもって定年となるが、大学運営を円滑に行うために、開学時には定年を越える経験豊富な教員を配置し、完成年度までその役割を担う。また、大学の継続性、円滑な運営を担保するために定年を延長する教員については、別途まとめている。これらの教員の後任となる教員の補充計画については、教授会等での検討を含め、本人の意思や各種状況、健康への配慮等、総合的に鑑みて退職時期を相談し考慮したうえで、後任者を決定する。後任となる教員の補充は、「専門職大学設置基準、第37条から第42条」などの法令に準じて(1)科目に適した教員を採用する、(2)公募により広く適任者を求め公正な採用を行う、(3)学内教員の昇格によって補充する等の方針のもとで行い、教員組織の継続性に問題がなくバランスのとれた年齢構成となるように留意する。以上、教員組織の年齢構成と定年に関する学内規定は、資料3に添付する。加えて、本学では将来の教員組織設計、及び適正な教員の募集・任用・昇格に関する指針を整えるよう、完成年次に至るまで教授会、各種委員会、研究会等で検討を重ねていく。

専任教員（職位別）平均年齢

	専任教員	教授	准教授	講師	助教
ファッションクリエイション学科	55歳	61歳	●歳	48歳	
ファッションビジネス学科	54歳	54歳	48歳	48歳	
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	49歳	68歳	52歳	35歳	●歳
名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	55歳	65歳	55歳	45歳	

※当該個人に関する情報が特定されるため一部未記載

専任教員の中で学年進行中の他大学の学部等から採用する教員については、原則としてきちんと就任をしてもらえるよう個別に説明し、承諾書を得ている。ただし、教員を取り巻く経済社会情勢や、環境変化、自然災害の発生に関わる個人的な環境変化、家庭や健康といった個人的な各種事情は、得てして計り知れないものがある。止むを得ず就任を辞退する場合、また完成年度までの就任が困難な場合は、速やかに教員が申し出るとともに、本学は当該科目を持つにふさわしい当該分野における博士号等の学位や十分な研究業績を有する教員を補充し配置する。また、本学は専門職大学設置基準第36条第3項に規定される、みなし専任教員を含む。学部の運営についてみなし専任教員も責任を担うものである。

次に、学科別の教員組織編制の考え方と特色を記す。本学は、各学科で養成する人材像に照らして編成した教育課程を担当することのできる、豊かな学問知と実践知を持った教員を採用し、教員組織を編

成している。特に、各学科で採用した専任教員は国際的な教育研究実務等のバックグラウンドを有しており、ファッション産業で国際的な活躍をする人材を養成するために必要なカリキュラムを編成することが可能である。

本学は、18歳人口減少という将来の我が国の人口動態をふまえた大学の規模や地域配置を念頭に置いた学科の構成を心掛け、留学生の受け入れを積極的に推進すべく、各学科で積極的に多様な地域における国際的な活躍経歴のある教員組織編制をする考えである。また、リカレント教育の重要性を認識しており、日本のファッション産業界及びその他職業分野から社会人経験のある学生に広く門戸を開いているなど、国際的な交流と世代間の交流を生み、多様な文化や価値観が集まるキャンパスで新たな価値を生むことを目指している。

中長期的な視野を持って、各学科で実務家や若手、女性、外国籍の教員など、多様なバックグラウンドをもつ教員採用を心掛け、その質保証を含めて全学的に教育組織の充実に努める。日本の伝統技術や美的価値観など、日本の繊維産業界、ファッション産業界で長く培われた内容を国際的に発信し、そのために留学生や国際的な経歴を持つ教員を積極的に受け入れ、日本から世界のファッション業界に国際的に発信する拠点として、より充実を目指す。

1. ファッションクリエイション学科

ファッションクリエイション学科は、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けた商品企画や商品開発などのクリエイションに携わり、新たなモノづくりや価値を生み出せるディレクターなどの総合職となる人材を養成する学科である。13名の専任教員のうち、約半数の7名がアカデミア教員、約半数の6名を実務家教員であり、実務家教員の比重の高い学科となっている。

ファッションクリエイション学科の実務家教員は、服飾は勿論、バッグ、シューズなどの広くファッション分野が包括するクリエイションの分野において、国際的な実務経験をもつ教員である。またファッションクリエイション学科のアカデミア教員は、美学、歴史、メディア、文化人類学などの分野において、国際的な教育研究経験をもつ教員である。クリエイションの技術や実践知を教え、アカデミア教員を中心に、商品企画や開発の構想に必要な力を教えることのできる組織編制となっている。

2. ファッションビジネス学科

ファッションビジネス学科は、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けた販売企画や戦略、ブランドコンセプトの開発、生産管理の海外展開などといったビジネスに携わり、新たなモノの流れや価値を生み出せるプロデューサーなどの総合職となる人材を養成する学科である。9名の専任教員のうち、約半数の3名がアカデミア教員、約半数の6名を実務家教員であり、実務家教員の比重の高い学科となっている。

ファッションビジネス学科の実務家教員は、ファッション産業の製造・卸を扱う企業で、海外展開の役割を担ってきた経歴をもつ。また、プレスや広告に関する経歴を持つ教員がおり、海外展開に向けた分析や戦略の力を養成することができる。またファッションビジネス学科のアカデミア教員は、家政、経営、歴史、文化人類学などの分野において教育研究経験をもつ教員である。ビジネスの力を養成する

ことのできる教員が十分そろっている。国際的な経歴については、特に、ファッションビジネス学科には、ファッションクリエイション学科と兼担をしている教員も多く、商品企画や開発にかかる力を養成することのできる教員が、ビジネスの力を養成することのできる教員と合わせて人材育成にあたることのできる組織編制となっている。

3. 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、関西地域の特色や地域の知財を理解しつつ、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けて次の仕事を行う人材を育成する。国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野において、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）、国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）、他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）など新たなモノの流れや価値を生み出せるプロデューサーやクリエイターなどの総合職となる人材を養成する学科である。15名の専任教員のうち、大半の9名がアカデミア教員、6名を実務家教員であり、アカデミア教員の比重の高い学科となっている。

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科のアカデミア教員は、文化人類学、経済、経営、歴史、美学などの多様な学問分野において国際的な教育研究経験をもつ教員である。主にコンセプトを構想する力、そして、経済社会文化の深い知識を持って現代的かつ潜在的な変化を分析する力を育てることのできる教員編成としている。実務家教員は、大阪や関西地域に根付いたファッション産業、産地と密接な関係を持ち、地域創生にかかる課題を発見し、解決に至る臨地実習等を十分に担うことのできる教員がそろっている。

4. 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、名古屋地域の特色や地域の知財を理解しつつ、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けて次の仕事を行う人材を育成する。国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）、国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）、他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）など新たなモノ作りや価値を生み出せるディレクターやクリエイターなどの総合職となる人材を養成する学科である。15名の専任教員のうち、実務家教員とアカデミア教員の比重は概ね半々となっている。

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の実務家教員は、名古屋の地場産地、織物産地を背景にアウトバウンドの国際的な活動を行ってきた教員、及びイッセイミヤケで商品開発などをインバウンドの国際的な活動を行ってきた教員などがおり、当学科の目的として地域の毛織物素材を使って新たなもの作りや価値作りを行うにふさわしい教員で編成している。アカデミア教員は、文化人類学、経営、歴史などで国際的な教育研究経験をもつ教員がいる。コンセプトなどの構想につながる教育課程を十分に担当することができる教員編成となっている。具体的な教員の国際的な経歴は、各教員の調書に詳述されている。

5.2 中核的な科目や必修の理論科目についての担当の原則

本学の教育目標を達成するための重要科目は、原則として専任教授、専任准教授が担当する。中核的な科目や必修の理論科目等に関しては、科目を持つにふさわしい当該分野における博士号等の学位や十分な研究業績を有する教員を配置する。教員の担当科目数が多い場合、2校地を往復する場合は、教員の負担や学生への指導に不具合が生じないように、時間割等の配慮をする。教員組織全体を通じて、実務経験の豊富な教員の割合が高いが、一定の研究機能を果たすため、各学科で博士等の学位や研究業績を有する教員を最低限確保している。原則として各科目に関して基本となる理論的科目はアカデミアの専任教員が中心となり担当し学術的な基盤を作る。専門に関する実践的科目の実習、演習については実務家の教員も担当し実践知の形成に貢献する。基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目の共同演習、特に卒業制作・計画等は、博士等の学位や研究業績を有する専任の教員とともに豊富な実務経験を有する教員が担当し、指導と審査を行う。一部ゼミや科目によっては、専門的な実務事項について、当該分野で高い専門性を有する教員や実務家を複数名招聘配置し、審査の参考となる意見を述べる事が可能であり、一部審査委員として構成することも検討される体制を整える。また、非常勤講師についても、当該科目を持つにふさわしい分野における博士号等の学位や十分な研究業績を有するもの、または教育実績をもつものを教員として配置する。

5.3 教員配置の研究分野と研究体制

研究教育を遂行するにあたり、その質を保証する資質をもった教員を必要な人数をもって配置することが基本的な考え方である。本学の主とする研究領域は家政学領域に連なり、関連する学問領域として、被服学、経済学、経営学、芸術学、地域研究、文化人類学及びジェンダー研究やメディア研究等さまざまな専門分野がある。これらの専門研究分野を持つ教員を適宜必要な科目に配置する。各教員は、基本的に単独で講義を行い、ゼミや演習は共同で行う。ただし一部の演習科目、特に卒業制作・企画については、その性質上、個別学生の進捗や内容に合わせた指導が重要となるため、各指導教員は共同で講義とガイダンスや中間発表の機会を設けると共に、基本的には各教員は個別に研究室で授業を進めることができる。同時に、各教員は、授業についていけない学生へのフォローアップや学生の授業外学習を促進するため、オフィスアワーを設け、学生が研究室で個別に相談できる環境を整える。学生のプライバシーに配慮した学修を促すための工夫を行う。

かかる授業や教育体制を整えるとともに、教員の研究体制を整える。本学は、教員の研究活動を奨励し、研究成果の発表を積極的に推進する。そのための設備や環境等を整え、かつ個人研究費及び共同研究費を設ける。個人研究費については職位による区別は設けず、特に若手研究者の育成に注力し、完成年度に昇任させることを目指す。そのため、各教員が研究に専念できるよう研究室を整え、研究時間を確保する。同時に、本学は研究成果の発表の機会を積極的に設け、定期的な研究会の開催を企図し、教員の学位取得等も支援していく。また、教員は共同研究などの積極的な企画と実施を通じて連携をとる。科学研究費などの各種競争的資金の獲得についても積極的に奨励し、そのための共同研修会等を開催する。加えて、各種競争的資金の取り扱いについての倫理やルールを遵守し、公正かつ効率的な使用をもって、研究成果を公表していくための組織的な研修会を開催する。以上の方法で、本学は教育体制と研

究体制を整え、これについて検討と改善を行う委員会を教授会のもとに設ける等、ディプロマ・ポリシーの実現を、組織として担保するバランスのとれた教員配置と教育研究体制を整える。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

6.1 教育方針

4項に記したとおり、本学は「専門職大学設置基準」にもとづき、科目区分を「基礎科目」、「職業専門科目」、「展開科目」、「総合科目」とし、「基礎科目」は全学科に共通する教養力の涵養と、語学力強化のための授業、各学科の基礎科目に位置する講義を中心とした授業を展開する。「職業専門科目」は各学科における基礎科目に位置する講義・実習・演習の授業、「展開科目」は専門技能をより特化展開し、価値創造力を高める授業、「総合科目」は4年間の学びの中で集大成に位置する授業としている。

ファッションクリエイションとファッションビジネスの思考を持った専門職人材の育成に向けて1,2年次は問題発見能力、論理的思考能力など基礎に当たる能力の強化・向上にフォーカスを当てる。同時に、本学ではアウトプットを意識し1年次から演習・実習科目を配置することで、座学と演習の反復による知識の定着・深化を図る。さらに年次が上がるにつれて演習・実習科目を増やすことで、不足し、獲得すべき知識・技術領域を学生に自覚させることで意欲の活性化を図りながら、身に着けた知識や教養、論理的思考能力を形成していく。

本学は、留学生や社会人など多様な背景を持った学生を積極的に受け入れ、学生間で教育内容に不平等が生じないようにケアや配慮をするという考えに基づき、各科目の評価基準をシラバス等で明確に示すとともに、各科目で得られた評価点は、本学の成績評価基準に照らし合わせて区分し、学生の不利益にならないよう配慮する。具体的には、S(秀)：100-90点、A(優)：89-80点、B(良)：79-70点、C(可)：69-60点、D(不可)：59-0点、*(-)：未受験とし、C以上の成績を取得した学生に該当科目の単位認定をする。

また、本学の基本的な教育方針として、十分な授業日数の確保を重視しているため、授業期間とは別に試験期間の設定し（前期：7月下旬-8月上旬、後期：1月下旬-2月上旬の予定）、かつ授業振替日の設定について、できる限り平日の夕刻以降の時限にあたる時間に設定し、社会人学生等が履修しやすいよう、学生の学修を妨げないよう授業回数の確保に努める。

6.2 授業方法に適した学生数の設定

専門職大学設置基準第17条に則り、基本的に1つの授業に対し40人以下の編成としている。ただし、ファッションクリエイション学科においては、入学時に入学定員80名を超える。そのため、基礎科目の「英語Ⅰ、Ⅱ」については2クラスに分けることで、1クラスが40名以下となるように配慮している。また基礎科目の「比較文化論」、「フィールドワーク入門」、「メディア概論」、「情報リテラシー」、職業専門科目の「造形論入門」、「美とファッションの歴史」、「色彩論入門」、「日本の衣生活・服装史入門」、「生活科学入門」、「ファッションデザイン論」、「テキスタイル基礎」、「知財論」、展開科目の「環境とビジネス」、「地域産業論」は、同時に受講する学生数の想定が最大で80名となる可能性がある。したがって、「英語Ⅰ、Ⅱ」同様に2クラスに分けることで、全学科全科目で1クラスが40名以下となるよう編成をしている。

6.3 卒業要件

本学は単位制を採用する。学則規定に則り、本学に4年以上在籍し、所定の要件を満たして126単位以上を修得した者に対し学長が卒業を認定する。国際ファッション学部の各学科は、本学の教育理念、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して基準となる単位数を修得し、卒業要件を満たす者に学位を授与する。修得すべき授業科目には、講義のほかに実習や演習、臨地実習及び卒業制作等の科目が含まれる。主に全学科に共通する基礎科目を通じてなされた教養教育と、各学科の特性に応じて編成された職業専門教育、展開科目、総合科目をともに修得しているかどうか、学士を授与する基準や要件となる。

ファッションクリエイション学科

必修科目 112 単位、選択科目 14 単位、合計 126 単位以上を修得すること。基礎科目の必修科目 18 単位、基礎科目の選択科目 2 単位以上、職業専門科目の必修科目 72 単位、職業専門科目の選択科目 2 単位以上、展開科目の必修科目 10 単位、展開科目の選択科目 10 単位以上、総合科目 12 単位である。

ファッションビジネス学科

必修科目 112 単位、選択科目 14 単位、合計 126 単位以上を修得すること。基礎科目の必修科目 18 単位、基礎科目の選択科目 2 単位以上、職業専門科目の必修科目 72 単位、職業専門科目の選択科目 2 単位以上、展開科目の必修科目 10 単位、展開科目の選択科目 10 単位以上、総合科目 12 単位である。

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

必修科目 112 単位、選択科目 14 単位、合計 126 単位以上を修得すること。基礎科目の必修科目 18 単位、基礎科目の選択科目 2 単位以上、職業専門科目の必修科目 72 単位、職業専門科目の選択科目 2 単位以上、展開科目の必修科目 10 単位、展開科目の選択科目 10 単位以上、総合科目 12 単位である。

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

必修科目 112 単位、選択科目 14 単位、合計 126 単位以上を修得すること。基礎科目の必修科目 18 単位、基礎科目の選択科目 2 単位以上、職業専門科目の必修科目 72 単位、職業専門科目の選択科目 2 単位以上、展開科目の必修科目 10 単位、展開科目の選択科目 10 単位以上、総合科目 12 単位である。

ディプロマ・ポリシーにもとづき、各学習領域における基礎知識と基本的技術を有し、国際的な適応力を持った人材に育成するため、基礎科目と職業専門科目の語学科目の英語は全て必須としている。3年から4年で行う臨地実習や海外実習へむけた見込が具体化してくる時期に合わせて、フランス語や中国語やイタリア語の科目を選択で履修できるようにしている。加えて、所属学科に関連する専門知識・専門技能を学内外で実践的に身につけることができるよう、「地域企業・地方連携ゼミ」、「臨地実習Ⅰ」と「臨地実習Ⅱ」を必修にしている。

6.4 履修モデル

本学は、4学科に分かれている。学生が入学を検討している段階から、卒業までの道筋を想定、理解しやすいよう、本学ホームページ等で履修モデルを示し入学前指導として活用する。掲載を行うホームページのURLは、本学ホームページを開設した後に公表する。

学生の主な卒業後の進路としては、クリエイション及びビジネスの知識や技術を用いた、繊維・アパレル・ファッション産業関連の企業やそれらに関連した機関等が想定される。当該産業ではグローバルに展開する海外の企業も多いため、そうした企業の海外本社や日本支社への就職が基本的に想定される。各 4 学科は、地域企業・地方産地、また海外の実習先と密接に関連したカリキュラムを構成しており、こうした企業・産地等で働くことのできる人材を生み出すことをまず目指している。そして、現代的な展開として、繊維・アパレル・ファッション産業関連の企業に限定されない、広い分野の製造業なども含む各種一般企業への就職、デザインや意匠を創出するクリエイター、コンサルティング等を行う起業家等への道、各種関連機関や組織等への就職も卒業生の就職先になりうると想定される。それは、従来の職種に由来しながら新たに総合的な視点を持つ仕事のあり方やそうした仕事に従事する人材を生み出す本学の方針にもつながる。つまり、ファッションクリエイションの分野では、モノづくりや意匠を重点的に担ってきたデザイナーの職種に由来しながら、ビジネスにも目配せをすることのできる新たなディレクターとなる人材の育成と、他方、ファッションビジネスの分野では、販売や経営の管理を重点的に担ってきたマーチャンダイザーの職種に由来しながら、ものの美的な価値にも理解を示す新たなプロデューサーとなる人材の育成である。さらに、クリエイションとビジネスをバランスよく学び、双方の職種に由来し、自ら創作と運営を行う総合的なクリエイターとなる人材の育成である。こうした人材育成につながるカリキュラムを本学は構成している。上記の要請する具体的な人材像に対応したものと作成し、卒業要件単位数で作成した履修モデルを 4 つ、資料 4 に示している。その時間割は資料 5 に示している。

6.5 履修科目の年間登録上限（CAP 制）等

本学は、ファッション業界における地域社会や産業界との密接な連携による実践職業教育を通じて、時代に即した価値創造をもってグローバルに活躍できる専門性の高い人材の育成を目指している。既設の大学のように幅広く教養を身に着ける科目編成ではなく、学生の興味・関心が置かれる分野に特化し、その多くが必修科目で固められた編成となっている。また、履修科目の年間上限を設定するほどの選択科目も配置していない。履修科目の年間登録上限（CAP 制）等を設けなくても、学習時間を確保できる編成となっている。

7. 教育課程連携協議会について

7.1 教育課程連携協議会の構成

本学は、産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために、教育課程連携協議会を設ける。教育課程連携協議会は、次の者をもって構成するものとする。

1. 学長が指定する教員その他の職員として、副学長、ファッションクリエイション学科専任教員、ファッションビジネス学科専任教員、ファッションビジネス学科専任教員、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科専任教員、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科専任教員の6名を任命し、教育課程の編成、実施を円滑かつ効果的に行う。
2. 本学の課程にかかる職業についている者、または当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有する者として、一般社団法人日本ファッション産学協議会 J∞QUALITY商品認証事業・運営事務局の事務局長代理1名を任命する。
3. 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者として、東京都新宿区文化観光産業部産業振興課長、愛知県産業労働部労政局産業人材育成課課長、公益財団法人大阪市都市型産業振興センター理事の3名を任命する。
4. 臨地実習Ⅰ（企業）、臨地実習Ⅱ（地方産地）の協力企業全11社の代表者および担当責任者11名、海外実習等で学生を受け入れる関係者として、フランス・パリ在住のファッション業界で実務経験を約40年もちコンサルティングカンパニー・ディレクターを1名（欧州におけるインターンシップを手配）、国際的なネットワークをもとにファッション、ライフスタイルの「将来」を見据えるトレンドブックの出版およびコンサルティング会社（本社 フランス、パリ本社の代表取締役社長は婦人服プレタポルテ組合会長を兼務）のジャパン社代表取締役1名を協力者として任命する。
5. 本学の教員その他の職員以外のものであって学長が必要と認める者として、川上先端繊維企業の本学担当責任者1名を任命する。

本学の教育課程連携協議会は、上記の構成員をもって産業界等との連携という役割を果たす組織として十分に機能する。構成員の任期は申し出があった段階で交代する。構成員の更新や変更等の必要が生じたときは、速やかに適正な経験と実績のある教員や産業界の実務家等を、協議会の構成員や教授会が協議の上、配置する。

7.2 教育課程連携協議会の内容

教育課程連携協議会は、次の事項について審議し、学長に意見を述べるものとする。原則として、定例開催は年1回とする。但し、必要に応じて開催するものとする。

1. 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設、その他の教育課程の編成に関する基本的な事項を審議する。
2. 産業界及び地域社会との連携による授業の実施、その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項を審議する。

以上、教育課程連携協議会に関する学内規定は、資料 6 に添付する。

7.3 教育課程連携協議会の議論を受け止め、教育課程の改定につなげる方法

本学は、1 学部につき、1 つの教育課程連携協議会で構成される。教育課程連携協議会は、原則年 1 回以上開催し、本学の教育課程の実施状況を報告する。協議会でなされた教育課程の見直しに関する議論や事項は、各学科の教育課程連携協議会の構成員である教員（ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の各 1 名）が各学科に持ち帰り、加えて大学評議会に副学長が教育課程連携協議会での議論を持ち帰り、必要事項を検討する。

各学科で検討された内容は、法人本部が運営する教学に関する学務室がその内容を集約し、その結果を大学評議会に報告し検討を進める。教学に係る重要事項は大学評議会にて審議する。大学評議会は、学長、学部長、事務方の校舎統轄責任者、及び担当理事で構成される。大学評議会での審議結果は、担当理事が理事会に報告する。大学評議会の構成員は会議を設け、教育課程の見直しに関する意見交換を行い教育課程連携協議会での議論を受け止める。なお大学評議会の位置づけを明確にするため、学則に付記し、大学評議会の規定を定めた。

理事会で建議され見直しを行うべき内容は、議論を受け止めた方法の逆方向を辿って実際の教育課程の改訂につなげる。すなわち、担当理事が大学評議会に議論を持ち帰り、そこから実際の改訂内容の提案に向けた指示を学務室、各校舎の統轄責任者を通して学科に戻し実際の教育課程の改訂につなげる。

8. 施設、設備等の整備計画

8.1 校地

本学のファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科は、本法人が東京都新宿区に保有する総合校舎「モード学園コクーンタワー」の敷地を校地として使用する。当該校舎は、新宿（西口）駅前徒歩3分に位置する。新宿駅はJR等多くの路線が乗り入れるターミナル駅でもあり、通学する学生にとっても利便性が極めて高い場所である。

上記の2学科は当該ビルの38階、44階を専有し、1階から6階及び15階、26階、39階、40階、41階、42階、47階、50階を、本法人に所属する既存の学校と共有する。

本学の大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、本法人が大阪市北区に保有する総合校舎の敷地を校地として使用する。当該校舎は、大阪駅前徒歩3分に位置する。大阪駅はJR等多くの路線が乗り入れるターミナル駅でもあり、通学する学生にとっても利便性が極めて高い場所である。

当学科は、当該ビルの地下1階、1階、2階、3階、5階、6階、8階、10階、11階、17階を、本法人に所属する既存の学校と共有する。

本学の名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、本法人が名古屋市中村区に保有する「モード学園スパイラルタワーズ」の敷地を校地として使用する。当該校舎は、名古屋駅前徒歩3分に位置する。名古屋駅はJR等多くの路線が乗り入れるターミナル駅でもあり、通学する学生にとっても利便性が極めて高い場所である。

当学科は、当該ビルの32階、33階、35階を専有し、地下3階から地下1階、1階から4階、11階、23階、24階、26階、31階、34階を、本法人に所属する既存の学校と共有する。

8.1.1 運動場

本学は、運動場は所有していないが、モード学園コクーンタワー内、モード学園スパイラルタワーズ内、大阪校舎から徒歩15分の距離に立地する専門学校・大阪医専内にトレーニングルームを所有している。学生はこれらを使用することができる。

8.1.2 校舎以外での教育

モード学園コクーンタワーには、学長室1室、研究室22室、講師控室1室を専修学校と共有し、普通教室4室、演習室22室を研究室と共有する。大阪総合校舎には、副学長室兼研究室1室、研究室14室、講師控室1室を専修学校と共有し、普通教室5室、演習室5室を研究室と共有する。モード学園スパイラルタワーズには、研究室5室、講師控室1室を専修学校と共有し、普通教室4室、演習室15室を研究室と共有する。

8.2 校舎等施設の整備計画

本学は、教育課程が十分に遂行できる校舎等の整備を行い、学生が満足して修学できる体制を整えている。ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科の講義室は、モード学園コクーン

タワー44階に4室専有する。演習室は、38階に22室研究室と共有する。実習室は、40階に2室専有し、39階に1室、41階に1室、47階に1室を専修学校と共有する。教員の研究室は38階に22室整備をし（全て演習室と共有する）、38階に1室、42階に2室の共同研究室を整備する。学生控室は、50階に1室を共有する。学生自習室は、5階の図書室と共有する。管理室は、1階に専修学校3校と共有し、学生の教学等の支援を行う。また、42階に学長室を整備する。既設の専修学校及び通信大学とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を応対するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生、通信大学の学生が共有する。

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の講義室は、大阪総合校舎6階に2室、8階に2室、演習室は、5階に6室、10階に9室研究室と共有する。実習室は、3階に1室専有し、地下1階に2室（うち1室は専修学校と共有する）、5階に1室を専修学校と共有する。教員の研究室は、5階に6室、10階に9室整備をし（全て演習室と共有する）、10階に2室の共同研究室を整備する。学生控室は、8階に1室、学生自習室と共有する。管理室は1階に専修学校2校と共有し、学生の教学等の支援を行う。既設の専修学校とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を応対するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生が共有する。

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の講義室は、モード学園スパイラルタワーズ32階に1室、33階に1室、34階に1室、演習室は、31階に5室、33階に5室、35階に5室研究室と共有する。実習室は、24階に1室専有し、24階に1室、26階に1室、専修学校と共有する。教員の研究室は、31階に5室、33階に5室、35階に5室整備をし（全て演習室と共有する）、33階に2室の共同研究室を整備する。学生控室と、学生自習室は、3階に1室図書室と共有する。管理室は2階に専修学校3校と共有し、学生の教学等の支援を行う。既設の専修学校とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を応対するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生が共有する。

8.2.1 教員の研究室、必要な教室の整備計画

モード学園コクーンタワーには、学長室1室、研究室22室、普通教室4室、実習室5室（内3室は専修学校と共有する）、演習室22室（研究室と兼ねる）を整備する。大阪総合校舎には、副学長室兼研究室1室、研究室14室、普通教室4室、実習室4室（内2室は専修学校と共有する）、演習室15室（研究室と兼ねる）を整備する。モード学園スパイラルタワーズには、研究室15室、普通教室3室、実習室3室（内2室は専修学校と共有する）、演習室15室（研究室と兼ねる）を整備する。

8.2.2 実習等に関する設備や器具等の整備

ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の希望する学生には全員、ノートパソコン（教育課程に設定されている科目の学習に必用なソフトは全て搭載しているもの）を貸与する。

講義や演習、学内及び学外の実習に持参し必要に応じて使用することが可能である。

展開科目の写真概論、写真实習、映像概論、映像実習に必要な実習施設や器具等は、ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科においては、既存専門学校の撮影スタジオ（396 教室）を使用する。但し、既存専門学校において定期的にこの教室を使用するスタイリスト学科の使用と重複しない時間割を編成する（資料 5-2、5-3）。大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、専用の撮影スタジオ（B016 教室）の施設、配備されている機材を使用して実習を行う。名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、写真概要、写真实習を担当する講師の所有する写真スタジオ及びそこに配備されている機材を使用し、写真实習、映像概論、映像実習を行う（資料 5-4）。

ファッションクリエイション学科の職業専門科目に設定されているファッションデザイン実習Ⅰ、ファッションデザイン実習Ⅱ、ファッションデザインプランニング実習Ⅰ、ファッションデザインプランニング実習Ⅱは、専用のパターンメイキングルームに配備されているボディ、縫製機材などを使用し実習を行う。大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の職業専門科目に設定されているファッションデザイン実習Ⅰ、ファッションデザイン実習Ⅱは、既存専門学校のパターンメイキングルーム（053ABC 教室）を使用し実習する。但し、既存専門学校において定期的にこの教室を使用するファッションデザイン学科高度専門士コース、ファッションデザイン学科、ファッション技術学科の使用と重複しない時間割を編成する（資料 5-2、5-3）。パターンメイキングルームにおいて配備されているボディ、縫製機材などを使用し実習を行う。名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の職業専門科目に設定されているファッションデザイン実習Ⅰ、ファッションデザイン実習Ⅱは、既存専門学校のパターンメイキングルーム（261・262 教室）を使用し実習する。但し、既存専門学校において定期的にこの教室を使用するファッションデザイン学科高度専門士コース、ファッションデザイン学科、ファッション技術学科の使用と重複しない時間割を編成する（資料 5-2、5-3）。パターンメイキングルームにおいて配備されているボディ、縫製機材などを使用し実習を行う。

東京、大阪、名古屋の 3 キャンパスにおいて、本学の専有教室に加え、専門学校の専有となっている実習室を必要に応じて使用する。そのため、本学が必要とする実習室を有する専門学校のファッションデザイン学科、スタイリスト学科の 3 キャンパスの時間割を補正申請書類に添付する。加えて、学内に実習室が十分に確保できない場合は、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の撮影スタジオの例にあるように、至近距離にある非常勤講師が所有する施設と実習に使う機材を使用する契約を結び、契約書を添付する。各演習や実習に使用する機材や備品については、現在、専門学校の 3 キャンパスに保有している機材一覧を添付する。専門学校共有資料（資料 5-1）、専門学校時間割（資料 5-3）、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科における外部施設と機材の使用契約書（資料 5-4）、実験・実習又は実技による授業科目並びに使用教室・設備（資料 14）。

8.2.3 教員の研究室

教員の研究内容が外部に漏れないよう、教員の研究室は施錠のできる 15 m²以上の個室研究室を東京キャンパス、大阪キャンパス、名古屋キャンパス共に準備する。学生や教員のプライバシーにも配慮しつつ、学生や教員のニーズ、社会の流れに合わせて柔軟に対応できるよう、教育課程等と関連して不断

の見直しを行い、よりよい教育研究の環境を整備する。

研究スペースとして、東京キャンパスには 42F (159 m²) に共同研究室を 2 室、38F (536 m²) に 22 室の演習室兼個室研究室と 1 室の共同研究室を整備し、大阪キャンパスには 10F・(198 m²) に演習室兼個室研究室を 9 室、共同研究室を 2 室、5F (125 m²) に 6 つの演習室兼個室研究室を整備し、名古屋キャンパスには 35F・(122 m²) に 5 室の演習室兼個室研究室、33F (134 m²) に 5 室の演習室兼個室研究室と 2 室の共同研究室を整備し、31F (98 m²) に 5 室の演習室兼個室研究室を整備する。教員 1 人あたりの研究スペースは、東京キャンパス 31.6 m²、大阪キャンパス 21.5 m²、名古屋キャンパス 23.6 m²である。

研究室においては、教員に 1 人 1 台の書棚・1 人 3 台のキャビネット・業務用パソコン・電話を割り当てる。また、研究室のフロアに無線 LAN・複合機・シュレッダーが設置されている。研究活動の内容に制作が必要とされる教員の研究室、共同研究室にはボディ、ミシン、ロックミシン、アイロン等も設置する。個室及び研究室の位置する研究室フロア全体も施錠可能であるため、研究情報や学生の個人情報 は保全できる。ゼミや学生の個別指導は、原則教室で行い、適宜教員の演習室兼個室研究室も利用可能とする。教員同士の打ち合わせは会議室を活用する。なお来客対応は本学 1 階に応接用個室が設けられているため、そこを活用する。文献検索をはじめとする研究関連情報の収集には、WEB 検索や電子図書の活用の他、図書室の蔵書有無の確認も手元のパソコンで行えるようインターネット環境を整える。

8.3 図書等の資料及び図書館の整備計画

8.3.1 図書館の整備

本学は、基本計画書にある通り、図書等の資料をそろえ、図書館の整備を行う。本学では、既設専門学校など同居する学校と共有して、図書室及びインターネットラウンジ等の関連設備を大学図書館として共同利用する。図書室は、閲覧席、蔵書検索性 PC、DVD 等視聴席をモード学園コクーンタワーにて 217 席、大阪総合校舎にて 140 席、モード学園スパイラルタワーで 361 席備えている。無線 LAN が使える環境を整備し、学生は自習できる環境となっている。施設を共同利用するが、図書室は平日 9:00-21:00 まで利用できるため双方の修学に支障なく問題はない。

整備については学年進行に合わせて、電子図書を主に活用しながら、できるだけ最新の専門図書及び一般図書を整備する方針とする。カリキュラム等の内容に沿って、完成年次の平成 34 年度まで段階的に整備する。電子化された図書の追加は、ICT (情報通信技術) を用いた教育にもつながるメリットがある。本学の学生であれば 24 時間 365 日電子図書の閲覧が可能であるため、仕事をしながら学ぶ社会人への対応という点においても相応しい。学生の利便性を高める工夫を行っている。

8.3.2 図書等の資料整備

本学では、必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料の整備を進めている。図書は、既設専門学校モード学園など、各校舎ともに同居する学校と共有する。新規追加は電子書籍を主体とする。現在ある蔵書とと

もにカリキュラムに沿って収集、それぞれの分野を今後さらに充実させていく計画である（資料 12）。

1. 共用する図書等については、以下の通りである。

- ・蔵書数（うち外国書） 約 84,442（7,324）冊
- ・学術雑誌（うち外国書）約 30,385（2,362）種
そのうち電子ジャーナル（うち外国書） 約 11（9）種
- ・視聴覚資料 約 1,195 点

2. 平成 30 年度中に新規に整備する図書は、次の通りである。

- ・新規蔵書 約 1,000 冊
- ・内訳 一般図書 約 300 冊
専門図書 約 700 冊
(ファッション関係が 520 冊、日本文化関係約 160 冊、人文科学関係約 160 冊、
経済経営関係約 160 冊)

3. 平成 31 年度より新規に整備し、年次更新を行う資料は、次の通りである。

- ・学術雑誌 1 種類
- ・データベース 2 種類（国際・外国系ライブラリー）

4. 平成 31 年度より新規に整備をする視聴覚等の資料は、次のとおりである。

図書館には、ファッション学部の教育に必要なクリエイション、ビジネス関連の視聴覚資料約 10 点の DVD 等を整備する。

8.3.3 共用施設の使用計画

同一法人内の各学校が共用する施設については、各共用施設の使用方針及び計画を明らかにした上で、下記の通り明確な使用ルールを定め、学生が支障なく使用できるよう運用する。

【図書室】：図書室の閲覧席は東京キャンパス：206 席、大阪キャンパス：140 席、名古屋キャンパス：361 席である。追加購入の書籍は電子図書を中心にそろえ、自宅でも 24 時間 365 日閲覧可能とする。多くの学生や教員の教育研究が促進されるよう、不断の見直しを行う。

【自習室】：学生専用の自習室を各キャンパスに整備し、全学年の学生が制作などに使用できる十分なスペースを確保する。本学専用教室と専門学校と共有する教室が、東京キャンパスに 4 教室、473 教室（100.52 m²）、415 教室（76.51 m²）、401 教室（81.96 m²）、402 教室（80.79 m²）、大阪キャンパスに 2 教室、B015 教室（108.46 m²）、035 教室（66 m²）、名古屋キャンパスに 2 教室、241 教室（118 m²）242 教室（105 m²）用意する。制作などの実習用教室のほかに、講義室など授業時間外の教室利用に明確な

ルールを定め、全ての学年の学生が十分に自習できるよう運用する。

【運動施設】：

平日は、16：10～20：00の時間帯で、土曜日は10：00～18：00の時間帯で解放する。

8.4 広報事業 公開講座の開催と広報誌の発行

本学は、国内外での認知と一定の評価を得るため、積極的な広報事業を行う。広報事業は、地域の人と大学を結びつけ、臨地実習などの声を拾うために必要なものである。そのために、大学と社会、産業の現場をつなぐ広報事業の基盤整備を行う。本学は、これまでも専門学校モード学園として、メディアや人的つながりを通じた社会への広報活動を行ってきた。また、多くの卒業生を輩出する形で幅広い認知を得てきた。こうしたモード学園の認知や評価の次に求められる広報活動は、文部科学省の設置する新たな高等機関（専門職大学）に位置づく本学が、公的な高等教育機関として、その存在を研究、教育、社会上示していく広報活動である。

具体的には、公開講座の開催と広報誌の発行を目指す。本学に属する専任教員や学生は、その研究教育活動を公開講座もしくは広報誌を通して、大学と社会をつなぐ環境の構築を進める。

8.5 成果発表事業の整備

本学は、専門職大学としての組織上の評価を高めると同時に、良質な教育に還元されるべく、教員による国際的な成果発表を積極的に後押しする。文部科学省の指導のもと、大学の使命が自立できる学生の育成にあるとともに、世界をリードする研究機関として求められていることに連なる。本学では、こうした国際的な成果発表を行うための整備事業を行う。産学連携研究の推進など、自立した研究環境の構築を進める。

組織的な取り組みとして、完成年度までに研究教育成果の発表の場として学内で研究会を企画する。そして、専任教員を中心に各種専門分野に連なる学会等で発表や論文投稿を積極的に行えるよう、発表事業の基盤作りに注力する。同時に、研究成果を社会還元するための学内外とつながる研究会等の開催を企画する。

こうした研究教育活動、社会貢献活動などを通して、年度ごとに到達目標を確認し、専任教員を中心として個人業績や活動実績を記録する。そして目標達成の度合いを振り返りつつ、次年度の目標確認に生かすよう成果発表事業を整備していく。

これまで実務の分野で活躍し、本学においてはじめて大学教員として専任教員となった教員は、特に、研究者としての基本的な心構えを、これら成果発表事業の機会を通じて学んでいくとともに、各自の成果発表の場として積極的な発表を期待するものとする。

9. 入学者選抜の概要

9.1 入学者選抜の考え方

本学はファッションという専門性をたて糸に、国際的な教養をもった人間性をよこ糸にしたグローバル人材を育成し、国内の地域企業・地方産地及び国際社会において、ファッションの分野を通じて貢献することを目的としている。

入学者選抜においては、本学の教育理念に共感し国内外における社会貢献を目指す強い意志を持ち、多様な価値観や文化的背景をもった人々の中で活躍したいと考える人を積極的に受け入れる。大学入学資格をもつ留学生を広く受け入れる。ただし留学生には日本語能力をはかるために、留学生入試を行う。また帰国子女、社会人経験を有する18歳以上の人を社会人と定義し、それらの学生に広く門戸を開いている。そのため、本学は特別に帰国生入試や社会人入試といった選抜は設定しない。

具体的な入学にあたっては、ホームページや学校案内書で本学及び学部・学科の教育内容、履修方法等を示すとともに、アドミッションセンターで入学前の相談にも応じて、学修目的をもたせたいうえで、志望動機などを確認していく。入学者選抜は、志望動機の明確さ、入学を希望する学部・学科への理解度、将来目標といった観点より、総合的に判断していく。以上を踏まえて下記のアドミッション・ポリシーを定めている。

9.2 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

アドミッション・ポリシーの方向性

国際ファッション学部は、変動する経済社会のなかで生じている産業上の課題に対応できる人材を教育することを目標として、ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科から構成し、4学科とも、ファッション産業に興味を持ち、国際化、情報化などの当該産業を取り巻く経済社会文化環境のさまざまな変化に迅速に対応するとともに、ファッション産業のクリエイション分野、ビジネス分野、及びそれらが位置づく地域のファッション分野の課題を解決しようとする意欲をもった学生を募集する。

このため、国際ファッション学部では、各学科別に学生募集を行い、2年間で修得したファッション産業の基礎的知識と学生自身の興味関心に基づいて、各学科の教員と相談しつつ、各自が卒業後の就職先につながる実習先、特に産地や企業を選択決定できうる機会を与える。そこで、国際ファッション学部のファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて、下記のような資質を持つ人の入学を募る。

求める学生像

(1) 基礎学力について

1. 日本語の基本的な能力
2. 外国語の基本的な能力

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について

1. 人との基本的なコミュニケーションができる。
2. 日本語の基本的な論理的思考力
3. ファッション世界への興味と関心
4. 日本や世界の社会・文化・環境への関心

(3) 主体的に学習に取り組む態度について

1. 国内外のファッション産業界の動向や日本経済、ビジネスに関心を持ち、社会がいかなる方向に進むかを主体的に学び分析しようとする学生。
2. 将来の進路についてはっきりした意志を持ち、国際的な活躍を視野に入れた学生。
3. 主体的に物事に取り組み、自らの知識や経験を発展させる意欲がある学生。

上記のような資質と関心を持った学生を求めるために、本学では、AO入試、指定校推薦入試、一般入試などを設け、上記の資質と関心について学力だけに偏らない多面的な評価を行って学生を募集する。

本学の求める人材は、本学及び学部の理念に共感し、自分の経験やキャリアを活かし、自ら学び考えて取り組もうとする学習意欲の高い者である。つまり、(1) 国内外の多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に強い関心と意欲がある者に門戸を開放する。そして(2) ファッションの学習に対して強い知的好奇心を持ち、その学習と課題解決のために積極的に関わる意欲を持つ者、(3) 積極的に日本から発信する意欲のある者、(4) 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人など多様な背景や経験をもつ者、各国留学生を歓迎する。

本学の国際ファッション学部ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の定員は下記に示す通りであり、2年次編入と併せて完成年度の収容定員は794名とする。

＜国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 入学者定員＞				
学 部	学 科	入学定員	編入定員	収容定員
			2 年次	
国際ファッション学部	ファッションクリエイション学科	80 名	—	794 名
	ファッションビジネス学科	38 名	2 名	
	大阪ファッションクリエイション・ ビジネス学科	38 名	2 名	
	名古屋ファッションクリエイショ ン・ビジネス学科	38 名	2 名	

9.3 入学者選抜方法

上記のアドミッション・ポリシーに基づき、本学においては、これを実行するために多様な背景をもった受験生を広く受け入れる。それぞれの受験生の状況を鑑み、受験生自らの判断により真の能力、十分な力が発揮でき、それを評価できるよう複数の選抜方式として、一般入試、推薦入試、アドミッションオフィス入試（以下、AO 入試）を実施する。各入試の募集人員の割合は、一般入試 55%、推薦入試 5%、AO 入試 40%の割合のもとに計画する。また本学で予定している 2 年次編入学は、一般入試 50%、推薦入試 50%の割合のもとに計画する。

なお、本学における上記のアドミッション・ポリシーは、国際ファッション学部ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科で共通しているため、入試内容、選抜方法は以下の共通の方法を採用する。

高校時代において特筆すべき学習実績、課外活動（例えば、留学・海外経験等、取得資格・検定等、表彰・顕彰等、ボランティア・地域貢献的な活動等）を行った実績がある学生に対し、大学での学修に対する意欲・熱意等を問う志望理由書、書類審査、面接などから総合的に合否を判定する。

9.3.1 AO 入学試験

志望理由書に基づく面接 100 点と調査書 50 点の合計 150 点満点で評価する。本学の 3 つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

9.3.2 推薦入学試験

指定校推薦入試では、志望理由書に基づく面接 50 点、調査書 100 点の合計 150 点満点で評価する。高等学校段階での良好な学習状況、真摯な学習態度、意欲的な部活動、委員会活動、学校内外の行事への取り組み及び基礎的学力について、調査書を通じた選考比重を高くして確認する。本学の 3 つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。なお、推薦基準については高校の教育方針・進学実績・就職実績・

学外活動実績に加え、開学後においては本学への入学者の実績等に基づき、高校毎に別途定めた上で、高校に通知するものとする。

9.3.3 一般入学専願試験

一般入試には、専願と併願を設ける。適性診断Ⅰ（高校卒業程度の国語・英語の基礎学力に関する記述式試験）100点、適性診断Ⅱ（論理的な思考力、表現力をはかる記述式試験）100点、調査書50点の合計250点満点で評価する。上記の試験方法から基本的な学習態度の習得状況を見極め、本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

9.3.4 一般入学併願試験

適性診断Ⅰ（高校卒業程度の国語・英語の基礎学力に関する記述式試験）100点、適性診断Ⅱ（論理的な思考力、表現力をはかる記述式試験）100点、調査書50点の合計250点満点で評価する。上記の試験方法から基本的な学習態度の習得状況を見極め、本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

9.3.5 留学生入学試験

留学生入試では、書類審査（日本語能力試験N2以上であること）50点、志望動機を確認するプレゼンテーション100点の合計150点満点で評価する。上記の試験方法から基本的な学習態度及び日本語能力の習得状況を見極め、本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

9.3.6 欠員募集

書類審査、面接から総合的に可否を判定する。

9.4 選抜体制

入学選抜方法は、教員によって構成される入学選考委員会を中心に検討のうえ決定する。具体的な入学者選抜の実施は、教職員によって構成される選抜方法の改善や円滑な実施を目的とした「アドミッションセンター」を設置し、入学説明会や選抜方法の説明会などの様々な入学選抜関連の業務を実施していく。

9.5 編入学定員を設定する場合の計画

9.2節で明記した通り、国際ファッション学部においては、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科に、2名の2年次編入定員枠を設け、入学試験を課して編入学を許可している。加えて、欠員がある場合は定員充足まで編入学を認めている。

さらに、本法人は同校地内に東京モード学園、大阪モード学園、名古屋モード学園と平成 30 年 4 月開校の東京通信大学を有している。よって、2 年次編入にとどまらず、入学希望者のニーズによって様々な学びの体系を案内することも可能である。これは本法人ならではの優位点である。

9.5.1 既修得単位の認定方法

既修単位の認定について本学が教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修より修得したものとみなす。認定方法については主に「他大学・専門学校・短期大学での履修科目」、「編入試験」に分類される。詳細は下記に記す。

1. 「他大学・専門学校・短期大学での履修科目」

他大学の単位の認定は、原則取得した単位名ではなく授業の内容で判断する。

すなわち、科目名が異なっても、授業内容が一緒であれば認定する。

一方、科目名が一緒であっても授業内容が異なれば認定できない。

2. 「編入試験」

実務経験者の学び直しを考慮し、その実務経験によって単位を認める場合がある。基本的には編入試験の結果を持って単位認定とするが、社会人としての実務経験には必ず個性があることから、編入学試験時にヒアリングを行い、編入試験では測りきれない単位認定に値する可能性がある授業科目においては別途試験を設ける。

9.5.2 履修指導方法

編入学生については、1 年次から入学する学生よりもさらに多様な学生の入学が見込まれる。具体的には、入学時に認定され、卒業の要件となる単位の区分や数が定まらないため個別の学生に対して固定的な履修モデルを当てはめることは現時点では難しいが、大学・短期大学・専門学校などを卒業し、本学の学部の専門知識をある程度有している者や、TOEIC®、TOEFL®、CEFR で一定のスコアを保有している者、ファッション業界において専門的な業務を担っていた社会人の学び直しや新たな専門知識の習得したい者などを想定している。

9.5.3 教育上の配慮等

本学への編転入の定員数は 9.2 節で明記した人数および受け入れ定員数を超えない若干名とし、入学時期は基本的に 4 月のみとしている。よって、履修タイミングは既存学生と同タイミングになる。加えて、専門職大学設置基準に則り、入学時に認める単位数の上限を超えない範囲で認定し、社会人の学び直しといった面に対し、習得済み知識・教養・技術について単位与え学習期間を短縮することで配慮する。

10. 学外実習等を実施する場合の具体的計画

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、教育課程における職業専門科目の必修科目の「臨地実習Ⅰ（企業）」と「臨地実習Ⅱ（地方産地）」、展開科目の選択科目の「海外実習Ⅰ」「海外実習Ⅱ」で学外実習を行う。続く 10.1 項目から 10.4 項目に詳細があり、実習に関する詳細な資料は、添付の資料 7 から資料 11 にある。

10.1 企業、地方産地における実習の概要と計画

臨地実習は、大きく企業での実習と地方産地での実習に分類される。企業でのインターンは、主に「臨地実習Ⅰ（企業）」と「海外実習Ⅰ」「海外実習Ⅱ」でなされ、地方産地での実習は「臨地実習Ⅱ（地方産地）」で主になされることを計画している。臨地実習を学修する順序は、職業専門科目の必修科目である「臨地実習Ⅰ（企業）」をはじめに履修し、次に同職業専門科目の必修科目の「臨地実習Ⅱ（地方産地）」を履修する。また、全学生は展開科目の必修科目として「海外実習Ⅰ」を履修し、その後、希望する学生は、展開科目の選択科目として、「海外実習Ⅱ」を履修することができる。

まず、必修の「臨地実習Ⅰ、Ⅱ」を含む職業専門科目の地域・地方連携科目群においては、各学科の立地に即して連携体制を整える。ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科は、地場産業として江戸小紋を中心とする染物があり、その活性化のため、新宿区産業振興課を通じて富田染工芸と連携する。同じく墨田区の日本ニット工業組合連合会と連携し、ニットの活性化を図る。また栃木県足利にあるサムライファイバー、群馬県における絹織物の桐生産地にある土田産業と連携し、発展させることを主目的とする。

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、西日本最大の都市大阪に位置する。日本における知的財産を生む潜在ランキング都市、第 2 位の京都に近接している立地を活かし京都の黄櫨染（こうろぜん）の活用に取り組む。また現代の衣料の中心的素材であるニットの研究開発を和歌山県の島精機製作所と連携し発展させる。また、地場産業の活性化を図るために、兵庫県の播州織（ばんしゅうおり）の産地と連携し発展させる。同じく地場産業の活性化を図るために、レース編地（リバーレース）の研究開発を大阪府の栄レースと連携し発展させる。名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、名古屋を代表する染物である有松絞の研究開発を久野染工場と連携し実施する。また、日本橋三越の発祥の地であり江戸歌舞伎の松阪縞で知られる三重県松阪市にある御糸織物（みいとおりもの）、日本最大の毛織物産地の一つである一宮地場産業ファッションデザインセンターと連携し、それぞれの産地を発展させるための取組みを行う。

本学の展開科目「国際科目群」の必修科目「海外実習Ⅰ」、選択科目「海外実習Ⅱ」は、海外におけるファッション産業のクリエイションと商慣行を理解することを履修の主目的とする。教育課程連携協議会の委員の協力をもって、個別企業だけではなく、フランスの婦人服プレタポルテ組合、オートクチュール組合などの各種関連する商業組織との連携体制を整える。

10.1.1 実習の種類と目的

実習の種類と目的は、以下のとおりである。

実習の具体的な内容

・臨地実習Ⅰ（企業）

教育課程の職業専門科目、地域・地方連携科目群の必修科目として、全学生が3年次に履修する。実習先は卒業後の活躍の場となるファッションの製造業を中心に、テキスタイル製造業、ファッション小売業、サービス業の広告代理店・ITを使用したファッション関連のベンチャー企業・デザイン企業を選定した。既存の専門学校においてはファッションの製造業、ファッションの小売業のみであったため、本学の教育課程にあわせて、実習先を新たに設定すると同時に、専門学校と同じ実習先の場合は、主な実習の配属部署を商品開発室やデザイン室とした。学生は各自のキャリアプランに合わせ実習先を選択する。

実習の具体的な内容としては、製造業の場合は製造工程の全ての部署に短期間配属し、職種の役割、仕事の流れを理解する。その後、商品開発室やデザイン室において将来携わる仕事に関する商慣行の理解、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築を行う。また各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

ファッションの小売業の場合は主に、小売だけではなく自社のオリジナル商品を開発し、製造を外注している企業を選択しているため、店頭販売を含め全ての部署に短期間配属し、職種の役割、仕事の流れを理解する。その後、商品開発室やデザイン室において将来携わる仕事に関する商慣行の理解、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築を行う。また各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

サービス業の広告代理店・ITを使用したファッション関連のベンチャー企業・デザイン企業の場合は、各企業の実習担当者から職種の役割、仕事の流れの説明を受け理解する。その後、商品開発室やデザイン室において実務に携わることにより、将来携わる仕事に関する商慣行の理解、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築を行う。また各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

・臨地実習Ⅱ（地方産地）

教育課程の職業専門科目、地域・地方連携科目群の必修科目として、全学生が3年次に履修する。この科目は単なる産地体験ではなく、産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見いだすことを目標とする。上記の目標を達成するために学生たちが実習に参加する前に、地域企業・地方連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。

具体的な実習内容としては、製造工程の全ての部署に短期間配属し、仕事の流れを理解する。その後、各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

実習中には産地の人々との交流を図るため、学生のアイデアと地元テキスタイル産地の技術力を

結びつける演習を、実習先指導者を交えた産地の匠と共に行い、産地の活性化を図る。

・海外実習Ⅰ

教育課程の展開科目、国際科目群の必修科目として、全学生が3年次に履修する。この科目は単なる海外視察ではなく、学生の国際ファッション業界におけるキャリアプラン形成に役立てること、国際連携ゼミにおいて、設定したテーマのフィールドワークをすること、国際社会におけるコミュニケーション力、語学力の習熟度を確保することを目的とする。よって実習先としては、「海外実習受け入れ先一覧」(資料 11-1) の国際ファッション市場において製造業、卸売業、小売業、複合サービス業、サービス業に位置づけられ活動をしている企業や組合を選定した。目的を達成するために学生たちは実習に参加する前に、国際連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。具体的な実習内容については「海外実習Ⅰ 実習先別の指導体制」(資料 11-5) に一社ごとに記載した。

・海外実習Ⅱ

教育課程の展開科目、国際科目群の選択科目として、希望者が3年次に履修する。この科目は海外でのファッション業界への就職を目指す学生の就職活動に役立てること、国際社会におけるコミュニケーション力、語学力の習熟度を確保することを目的とする。よって実習先としては「海外実習受け入れ先一覧」(資料 11-1) 以外でも学生の希望する企業があれば、学生主導で実習に関する依頼を行い、本学のキャリアサポート・センターと国際地域別の担当教員がそのサポートを積極的に行う。臨地実習Ⅰ同様に実習に参加する前に、国際連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。具体的な実習内容については、職種の役割、仕事の流れを理解するための業務、将来携わる仕事に関する商慣行の理解、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築ができる業務とする。また各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

実習を通じて習得しようとする具体的な知識・技能

・臨地実習Ⅰ (企業)

将来携わる仕事に関する商慣行に関する知識、キャリアプランに役立つ知識。ネットワークの構築。ビジネススキル、プレゼンテーション力、コミュニケーション力の向上。
各自の実習テーマに対する情報。

・臨地実習Ⅱ (地方産地)

産地の人々とのネットワークの構築。海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力の発見。各自の実習テーマに対する情報。

・海外実習Ⅰ

国際ファッション業界におけるキャリアプラン形成に役立つ知識。各自の実習テーマに対する情報。英語を中心としたコミュニケーション力の向上。

・海外実習Ⅱ

国際ファッション業界における就職活動に役立つ知識、ネットワークの構築。国際社会においてのコミュニケーション力、プレゼンテーション力、ビジネススキルの向上。英語力向上。

10.1.2 実習の対象年度と受講生について

「臨地実習Ⅰ（企業）」、「臨地実習Ⅱ（地方産地）」（以下（実習））は、3年次通期で各10単位（各300時間）の履修とする。したがって、実習の開始年度は平成33年度となる。実習は、十全なケアを行いながら、入学した受講生の全員がこれを履修することと定める。

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は、初年度の入学定員が80名である。同学部ファッションビジネス学科の定員は38名、2年次の編入者を2名と定めている。したがって、実習を開始する平成33年には、3年次の学生全員にあたる120名が実習を履修する。同学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科では、初年度定員が38名、2年次編入者2名であることから、実習を開始する平成33年には、3年次の学生全員にあたる40名が実習を履修する。同学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科では、初年度定員が38名、2年次編入者2名であることから、実習を開始する平成33年には、3年次の学生全員にあたる40名が実習を履修する。

10.1.3 実習実施地域

実習を実施する地域は、関東地域（東京都、栃木県、群馬県）、東海地域（愛知県、三重県、岐阜県）、関西地域（大阪府、京都府、兵庫県、和歌山県）である。各地域において提携した実習先を原則とする。「臨地実習Ⅰ（企業）」と「臨地実習Ⅱ（地方産地）」の実習先は、3地域の企業と産地組織である。

10.2 臨地実習による教育指導及び単位認定や成績評価の方法

「臨地実習Ⅰ（企業）」、「臨地実習Ⅱ（地方産地）」の単位は、3、4年次に、臨地教育を受けた者を付与の対象とする。学生は、臨地実習を行う意思表示を表示するため、指導教員と十分な話し合いをした後、「臨地実習計画書」の提出を行う。そして臨地実習の後、単位申請の意思を表示するため「臨地実習報告書」の提出を行う。

単位の認定は、指導教員が臨地実習の実習指導者の記入した実習評価表と実習出席表をもとに行い、単位付与の可否を決める。

臨地実習では、合計40日（1日7.5時間換算）以上現地に滞在し研修を受ける。海外実習では、合計16日以上現地に滞在し研修を受けるものとする。「臨地実習計画書」、「臨地実習報告書」提出時にこれを確認する（資料7、8）。

成績評価体制及び単位認定方法

- ・ 臨地実習Ⅰ（企業）・臨地実習Ⅱ（地方産地）

実習を効果的に進めるために、学生には資料 10 の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（実務）評価表、実習（人物）評価表を含む）」を配布する。

実習前後には地域企業・地方連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。

担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

10.3 臨地実習を可能にする制度的整備

学生が安全にかつ円滑な実習を行うための制度整備として、学内に地域連携センター（仮称）を設ける。学生の渡航状況、臨地教育状況を一括して管理し、また海外での臨地実習を行う者について、別途組織するキャリア・サポートセンターと地域連携センターに集約して渡航中のフォロー等を行う。インターンシップにかかる保険等の組織的な整備も含め、センターは臨地実習を可能にするために大学内に設ける場である。「臨地実習Ⅰ（企業）」、「臨地実習Ⅱ（地方産地）」「海外実習Ⅰ」「海外実習Ⅱ」科目を担当する専任教員と共に、必要な助手やティーチングアシスタントがこの運営に携わる。「臨地実習Ⅰ（企業）」、「臨地実習Ⅱ（地方産地）」における具体的なインターンシップ先企業、産地組織の一覧は添付資料の通りである（資料 9）。

この制度的整備は、完成年度以降、徐々に教育研究のプログラムを充実させる予定である。特に国際機関や海外実習機関にインターンシップとして渡航する学生が増加する状況にあわせて、英語等の欧米諸語を用いて発信するトレーニングプランの提案、構築を目指している。また学科や学年の枠を超えて複数名の学生が一つのグループを組織し、海外提携先大学の研究者や、海外提携先の企業・各種機関における実務家と共同で国際的な研究教育を行うプログラムを整える。各グループからの発案により、分野、地域を横断する大きな研究教育テーマを設定し、そのもとに各自の研究課題を位置づけ、比較の視点を持ちながら研究を実施する。この共同研究教育に取り組む学生は、国内外でのワークショップの組織や実施の経験を通じて、高度なコミュニケーション能力を研鑽する。成果報告書の提出や成果発表まで、アドバイスをを行う教員と臨地教育支援センターが連携し、学生の主体性を重んじたサポートを行う。この取り組みも、前述の 7 項目教育課程連携協議会や 12 項目管理運営と関連して、不断の見直しと検討を重ねていく予定である。

実習先との連携状況

- ・ 臨地実習Ⅰ（企業）・臨地実習Ⅱ（地方産地）

キャリアサポート・センター、地域連携センターが担当の専任教員と連携し実習の目的に合った実習先を「臨地実習の実習先」（資料 9-1）のように提携した。

事前・事後の指導計画

- ・ 臨地実習Ⅰ（企業）・臨地実習Ⅱ（地方産地）

地域企業・地方連携ゼミにおいて実習前に実習に関する個別の研究課題を設定する。

また、実習計画・テーマの発表を行う。事後も、同様に実習成果の発表を行い、担当教員の評価を受ける。

実習施設における指導者の配置計画

- ・ 臨地実習Ⅰ（企業）・臨地実習Ⅱ（地方産地）
- ・ 指導体制

本科目では、国際ファッション学部を形成する4学科の専任教員の臨地実習Ⅰ「巡回計画表（資料9-5）」に従い、各社2回訪問する。1回目は学生の実習状況、実習環境の把握、各学生の実習中のテーマの伝達とそれに対する企業への協力の依頼、学生指導を目的とする。2回目は実習の進捗状況の確認、各学生の実習中のテーマ研究の進捗状況を確認しそれに対するアドバイスを行う。巡回教員は臨地実習担当教員別時間割表に従い学内の指導に支障なく、巡回ができるように配慮する。

- ・ 臨地実習Ⅰ（企業）（担当教員）
各学科の指導担当教員一覧は、
「臨地実習Ⅰ（企業）Ⅱ（地方産地）実施概要」（資料9-2）に記載している。
- ・ 臨地実習Ⅱ（地方産地）（担当教員）
各学科の指導担当教員一覧は、
「臨地実習Ⅰ（企業）Ⅱ（地方産地）実施概要」（資料9-2）に記載している。

10.4 海外実習の具体的な内容とインターンシップ先

本学は、展開科目として、学生に海外で実習を選択できる制度を設ける。欧米のファッション産業界における実習を中心的に想定している。その理由は、斬新でデザイン性の高いファッションに関心を持つ顧客に向けて新しい企画発信する人材層が厚く、クリエイションとビジネスの両面において実践的な環境が揃うためである。

例えば、デザイナー、プロデューサー、メディア関係者、マネージャーが、日頃から緊密に連携し、互いに切磋琢磨しつつ、厳しい競争に勝ち抜くためのノウハウを蓄積している。さらに、彼らは、世界の文化をクロスで理解し、新しい知識やテクノロジーを駆使して、最高の演出をするための訓練を日々積んでいる。その活動領域は、もはやファッション業界という壁を越えて、文学や政治、経済、アーティスト、グルメ研究者、音楽家などに広がり、幅広い教養を持つ指導層の人たちによる文化創出、支援サークルができあがっている。そういった理解者たちが、ファッション業界を支え、また購買層を拡大させている。華やかさと同時に、職人やアーティストの活動を支えるという社会的役割を、ビジネスのみならず、美術館や音楽活動などを通じてサポートする活動を行っていることも特徴の一つである。

こういった多文化の活動環境のなかで、日本発のリーダー人材が生き抜くためには、ファッションというツールだけではなく、教養教育についての深い理解やサロン文化の理解が必要である。特に、欧州の歴史の中で育まれてきたデザインの特徴を理解すると並行して、日本文化の中で育まれてきた布の文化や意匠の深い理解にもとづくクリエイション能力を発揮しなければならない。

以上をふまえ、本学では、ファッション分野の専門性だけではなく、国際ビジネスの企画力、世界の文化を理解するための教養、語学を含めたコミュニケーション能力の3つを向上させることを目標に掲げ、これらの能力を向上させる機会として、欧州を中心に海外実習の場を提供する。海外実習前後における学内の準備を記す。具体的な実習先企業と承諾書については、詳しい資料を添付している(資料 11)。

1. 専門の教員によるゼミ

国際ファッション市場は、経営、文化・アート、メディアなどたくさんの要素を合わせもった市場である。そういった市場を目指す人材の育成については特別の教育方針を必要とする。

欧州では、ファッション分野の人材育成については、高いレベルのノウハウを専門分野で訓練し、異なる高等教育機関で、人材を育成するシステムが備わっている。ファッション分野は、経営、経済、クリエイションなど、さまざまな専門分野の融合分野としてとらえられ、数十年前から、経営とファッションの融合のために新しい教育機関も創設されている。

本大学においては、そういった新しい取り組みを理解すると同時に、顧客層に向けてどういったアプローチをとった方がいいのか、ブランド力をどう強化するか、市場がどう変化しているのか、といったテーマについて、欧米トップレベルの教育リーダーと緊密な連携をとりながら教授体制を整える。これらのトップリーダーを一定数、短期の招聘教授として迎え、グローバルな市場を理解するための基礎を作るための機会を確保する。

事前・事後の指導計画

・海外実習Ⅰ・海外実習Ⅱ

国際連携ゼミにおいて実習前に実習に関する個別の研究課題を設定する。また、実習計画・テーマの発表を行う。事後も、同様に実習成果の発表を行い、担当教員の評価を受ける。

2. 英語教育

英語を使用したコミュニケーション能力は、現代において仕事をするうえで欠かせない能力となりつつある。国際的な人材の流動性が高まり、国内外のどの企業や組織で働くにせよ、こうしたコミュニケーション能力を上げることは、自立した職業人として必須の項目といえよう。本学は、各学科に専任教師を配し、1年次、2年次の通期で基礎科目「英語Ⅰ、Ⅱ」の合計8単位を必修科目として課す。さらに、2年次で職業専門科目「国際ファッション業界英語」4単位を必修として課し、ファッション産業に特化した実践的な英語コミュニケーション能力を高める学習をする。ここでいう英語教育は、専門的な論文作成の能力や語法などの専門的な英語学の教育を主眼にしたものではなく、あくまで、日常生活や日常の仕事の中で、円滑なコミュニケーションを図ることのできる能力及び自己表

現能力を高める教育を指す。これにより、国際社会でも自立的、主体的に行動していく方法を身につける。この学習は、展開科目「国際連携ゼミ」、「海外実習Ⅰ」の必修科目「海外実習Ⅱ」の選択科目を履修する際の基礎となる。「国際連携ゼミ」では、海外から招聘した教員の前で海外実習に臨む前に自らの計画を発表し応答する、また海外実習後にその成果と課題の報告を発表し応答するという応用的な訓練を行う。そして海外実習では、その実践的訓練を企業や関係する組織でのインターンという形で行う。「海外実習」の科目を履修希望する学生は、事前に教員と相談を重ね、各種語学試験の結果等を参考に総合的に判断し、履修の詳細を決定する。

3. 実習先企業

フランス国内の婦人服プレタポルテ組合等に所属している企業を中心に行う。また、実習先企業については、実習受け入れ先企業を取り巻く状況や環境、世界的なファッション産業全体を取り巻く社会経済的な情勢の変化、それに伴う学生の希望の変化などを総合的に鑑みて、関係者の中で協議しつつ、見直しと改善を進めていく。

実習施設における指導者の配置計画

・海外実習Ⅰ（担当教員）

各学科の指導担当教員一覧は、「海外実習ⅠⅡ実施概要」（資料 11-3）と、「海外実習Ⅰ 実習先別の指導体制」（資料 11-5）に記載している。「引率教師海外経験一覧（資料 11-6）」に担当する教員の国際的な経歴を記している。

・海外実習Ⅱ（担当教員）

各学科の指導担当教員一覧は、「海外実習ⅠⅡ実施概要」（資料 11-3）と、「海外実習Ⅱ 実習先別の指導体制」（資料 11-5）に記載している。「引率教師海外経験一覧（資料 11-6）」に担当する教員の国際的な経歴を記している。

実習先との連携状況

・海外実習Ⅰ

キャリアサポート・センター、地域連携センターが担当の専任教員と連携し実習の目的に合った実習先を「海外実習受け入れ先一覧」（資料 11-1）のように提携した。

・海外実習Ⅱ

キャリアサポート・センター、地域連携センターが担当の専任教員と連携し実習の目的に合った実習先「海外実習受け入れ先一覧」（資料 11-1）のように提携した。学生の希望により、上記資料以外の実習先を選択する場合は、キャリアサポート・センター、地域連携センターのスタッフが個別にスカイプを使用し連絡を取り連携関係を構築する。

4. 評価

先述の 10.2 項目に準じる。特に、現場における指導者及び本学関係者の緊密な連携により行う。

成績評価体制及び単位認定方法

・海外実習 I

実習を効果的に進めるために、学生には資料 11-11 の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（人物）評価表を含む）」を配布する。

実習前後には国際連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。

担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

・海外実習 II

実習を効果的に進めるために、学生には資料 11-11 の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（実務）評価表、実習（人物）評価表を含む）」を配布する。

実習前後には地域企業・地方連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。

担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

11. 管理運営

11.1 教学面における管理運営体制

本学は、学校教育法第 93 条に従い、教育研究等に関する重要事項を審議するための制度を、学長及び副学長、そして教授会の協力を得て、次の通り定める。

11.1.1 教授会の組織と役割

教育研究等に関する重要事項を審議するための教授会を学部を設置する。本学は、校舎が 3 地区にわたるため、教授会の運営はインターネットを使用した通信技術等を用いて行う。教授会は、専任の教授等で構成され組織される。次節で述べるように、教授会のなかに細分化した専門委員会を設置する。学長、副学長の任期は、新設であることから基本的に少なくとも完成年度までは引き続き、円滑な運営に向けた再任等の検討については教授会を通じて行う。

11.1.2 運営等

大学運営においては、学校教育法に規定する教授会が審議すべき重要な事項等については、教授会の審議を十分に考慮した上で、学長が最終決定を行う必要がある。また、教授会は、必要とされる定例会議、臨時会議を学長が必要と認めたときまたは教授会員の 3 分の 1 以上の要求があった場合に開催し、以下の事項を審議したうえで、学長に意見を述べる。具体的かつ重要な決定事項は、次の 3 項目である。

1. 学生の入学、卒業及び課程の修学生の入学、卒業及び課程の修了
2. 学位の授与
3. 前 2 項目に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。前項各号のほか、学長が司る教育研究に関する事項について審議し、学長の求めに応じ、意見を述べる。

11.2 関連委員会の設置と役割

教授会の下部組織として教学、倫理等を審議するための委員会を設置し、専門職大学運営の健全性を確保する。なお、必要に応じて特別委員会を設置し、専門職大学の管理運営を適切に行う。

12. 自己点検・評価

本学は、学則第1条において、「幅広い職業人養成教育、総合的教養教育、地域の生涯学習機会の拠点としての機能を果たすとともに、時代が求める教養を兼ね備え、社会的課題を発見し解決に向けて積極的に取り組み、地域に貢献できる人材を、社会に送り出すことを目的とする」としている。

また、同第2条において、「本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的・使命を果たすため、教育研究活動等について自ら点検及び評価を行う」と定めている。

このように学則に基づき、本学の目的に照らして適切な教育研究活動が行われているか、定期的に自己点検・評価を行う。

本学では、学長の下に置かれた自己点検・評価委員会で定期的、継続的に自己点検・評価を行う。またこの資料とするために、学生による授業アンケートを実施し、結果の検証等を行う。自己点検・評価の他に、学長から委嘱された外部評価委員によって第三者評価を適切に実施する。

自己点検・評価及び外部評価委員会による評価の結果は、自己点検・評価の目的に照らして、各種媒体等を通じた適切な方法で公表する。また、これらの評価を踏まえて中期的な教育研究の改善方針を策定し、PDCAサイクルを確立する。

本学では、FD（ファカルティ・デベロップメント）委員会を中心に、授業方法をはじめとした教育活動のさらなる改善を図る。主な活動は、教育研究を行う機関としての教員の倫理観の醸成、外部資金など資金の取り扱いに関する研修、教育の質の向上を図るためのアンケートの実施、教育研究の理念や目標を理解する研修、実習を含む授業内容や授業方法の改善するための組織的な研究や研修、多様な学生に対する理解と適切な対応を促す組織的な研修等の実施である。取り組みの結果は、委員会を通じて毎年報告書にまとめられる。

1. 授業改善アンケート

概ねすべての科目で、学期末（前期：7月下旬-8月上旬、後期：1月下旬-2月上旬の予定）に「授業改善アンケート」を実施し授業担当者にフィードバックする。授業に対する学生の理解度と率直な意見や要望を調査するアンケートが、教員が授業内容・方法を改善する上で有効になる。学生の意見を受けて、授業改善等が改善された例などを、他の教員の参考になるようまとめて報告し、教員間で共有する。

2. 研究、研修

教育改革における主要なテーマや授業方法についての研修を目的としたFD研究会や研修を開催する。特に、新任教員を対象とした研修（基本的には年度始めに1回開催することとするが、完成年度までは各教員の着任時期に合わせて、着任から約1か月以内に開催する予定とする）を行う。大学における研究教育、倫理観、学生への対応など必要事項を、教員が職員と共に考える研修等を、年1回（初年度は10月-11月の予定）実施する予定である。

3. 報告

委員会を通じて、授業改善アンケートの結果、その他のFD活動の様子などを年度末に報告する。

また本学では、大学運営および教育・学生支援活動において、事務職員に期待される役割は大きいと考えている。SD（スタッフ・ディベロップメント）委員会を中心に、研修を継続的に実施し、企画・運営能力及び資質の向上を図るため、以下の活動について全学的に取り組む。

主な活動は、教育理念・教育目標を深め、円滑な大学運営を行うために、各職員のスキルアップにつながる研修等を行うことである。具体的には、教育研究に携わる機関としての職員の倫理観を高める研修、外部資金など資金の取り扱いに関する研修、学生の実習活動を行うための組織間の連携のあり方を検討すること、学生の就職等を促進するための組織的な連携活動への理解や改善などを検討する研修の実施である。取り組みの結果は、委員会を通じて毎年報告書にまとめられる。

1. 研修

新任職員には、大学職員として基本的に必要とされる、パソコン研修、ビジネスマナー研修、コミュニケーション・倫理研修を行う。新任職員を対象とする研修は、各自の着任時期に応じて、概ね約1か月以内に前任者から個別に実施される。本学の職員は、学務、経理、総務、地域連携、学生就職、図書館運営など、各職の主要業務は異なれど大学における教育研究に関する事項、倫理観、学生への理解や対応などへの理解は共通して必要である。かかる事項については、報告書や研修への参加を通じて本学が位置するファッション産業界の概略についての基本的な情報や知識は必要である。こうした共通した内容及び大学における共通の教育研究に関する事項、倫理観、学生への理解や対応などの事項は、教員と職員が合同で研修等を年1回（初年度は10月-11月の予定）実施する予定である。

2. 報告

委員会を通じて、SD活動の様子などを年度末に報告し、互いに共有する。

13. 情報の公開

本学は、教育研究活動等の状況を、在学生や保護者、受験生の他、広く社会へ提供する。利便性や適時性の観点から、このような情報の公開を、専門職大学ホームページを中心とする媒体を通じて行うこととする。

具体的な項目は、次の通りである。掲載を行うホームページの URL は、本学ホームページを開設した後に公表する。

1. 専門職大学の教育研究上の目的に関すること
2. 本学の目的・理念
3. 教育研究上の基本組織に関すること
4. 学部・学科の名称
5. 教職員編成、教職員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
6. 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は課程を修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
7. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
8. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること
9. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
10. 授業料、入学料その他の専門職大学が徴収する費用に関すること
11. 専門職大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
12. 学則
13. その他

なお、次の事項についてもホームページ上で閲覧できるようにする。

1. 教育上の目的に応じた学生が習得すべき知識及び能力 に関する情報
2. 自己点検・評価報告書
3. 財務情報
4. 認証評価の結果

14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

主に4項等で既に言及したように、本学は3地区の校舎において同一の教育課程の考え方及び編成でなされている。よって、各地区の教員間連携により課題点を共有し、教育者や教育手法による教育効果の違いを分析し、各教員にフィードバックすることで教育内容の改善・向上を図れる組織体制になっている。加えて、各学科の教員は相互の研究における情報交換やネットワーク構築のため、各種研究会の開催で研鑽をつむことによって、教育内容の見直しのみならず、教員の入れ替え等への対応や、年代の異なる教員や新規教員の育成にも努める。

異なる地域に位置する4学科で同水準の教育効果を保つため、大学全体の体制として、テレビ会議の仕組みの整備、専任教員による巡回計画、教務業務マニュアルの作成と共有、共通課題の実施等の体制を整えている。

教育課程に関する会議は、テレビ会議の仕組みを通じて、4学科の担当の専任教員が検討する。また、少なくとも年1回、副学長2名が4学科3校舎の教員組織等の巡回を行う。教職員への聞き取り及び学生へのアンケート等を通じて、各学科の教員の授業及び教育効果を把握する。各校舎の専任教員にむけて、教務業務マニュアルを作成し、FD委員会などの活動を通じて共有する。

3校舎の異なる教員組織の違いによって特に教育効果の違いが表れやすい実習科目については、各校舎の専任教員が共通課題を提出し、教育効果の質の担保を行う。臨地実習科目については、各校舎の管理担当する実習先は異なるのだが、「臨地実習Ⅰ（企業）」については、学生が希望すれば3校舎の実習先を選択することを可能にしている。「臨地実習Ⅱ（地方産地）」については、各校舎の位置づく産地の知財と課題を学ぶ場として各学科の特色に連なる科目と考えているため、学生は各校舎の管理担当する実習先で学修することとする。以上の取り組みから、異なる地域に得られる4学科で同水準の教育効果が得られるようにする。

15. 社会的、職業的自立に関する指導及び体制

15.1 教育課程内の取り組み

本学では、学生の社会的、職業的自立につながるために、自己の職業分野における高度な専門技術を備えると同時に、変化への対応等に必要な基礎や教養をもつ職業人養成を目指して、バランスのとれた基礎科目と職業専門科目、展開科目、総合科目における指導を行う。

各学科では入学後の早い段階からの進路に関する意識付けを行い、必修の臨地実習等を通じて就業観などの形成を支援する。臨地実習は、主に10項で示したように、「専門職大学設置基準案」の内容にもとづき実施する。そこで、名刺交換や電話の受け答えなどの基礎なビジネスマナーを含むスキルから、社会人としての身だしなみについて等について指導する。学内の授業で身に着けた知識と技術を、学外において実践的に経験し、社会的職業的な自立に向けた研修機会を与える取組みを行っている。

15.2 教育課程外の取り組み

8.4、8.5項目で述べたように、本学では、学外と連携して行う研究会を開催するなどを企画しており、大学と社会をつなぐ広報事業を行う。このような機会を通じ、研究と産業の双方で求められる基本的なマナーなどを学び、学生の社会的かつ職業的自立につながる指導をする。

15.3 適切な体制の整備について

本法人が培ってきた専門学校での組織体制をもとに、全学学生支援組織である就職委員会が学生の就職支援を行う。就職委員会は、企業・団体の人材需要動向を常に調査・把握し、就職先の確保に努めるものとする。また、本学の教職員及び学生は、地域における社会的問題に積極的に関与し、社会貢献していく。学生は、臨地実務実習において地域で学ぶ機会が提供されるが、臨地実務実習委員会はさらに地域との連携を進めるため、地域と協同で公開講座を開講したり、各種研修会・講習会の企画・実施、学生ボランティアの調整・実施等を行う。

国際ファッション専門職大学 設置趣旨書添付資料目次

- 資料 1 設置の概要を記した全体図
- 資料 2 カリキュラムマップ
 - －1 ファッションクリエイション学科
 - －2 ファッションビジネス学科
 - －3 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
 - －4 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科
- 資料 3 定年に関する学内規定
- 資料 4 履修モデル
- 資料 5
 - －1 時間割
 - －2 専修学校共有資料
 - －3 専修学校（既存校）時間割
 - －4 外部教室使用覚書
- 資料 6 教育課程連携協議会規定
- 資料 7 臨地実習計画書
- 資料 8 臨地実習報告書
- 資料 9
 - －1 臨地実習施設一覧
 - －2 臨地実習Ⅰ（企業）Ⅱ（地方産地）実施概要
 - －3 臨地実習担当教員別時間割表
 - －4 履修スケジュール（臨地実習・海外実習用）
 - －5 臨地実習Ⅰ（企業）Ⅱ（地方産地）巡回計画表
- 資料 10 臨地実習 実習要項
 - 臨地実務実習Ⅰ（企業）
 - ①実習表紙
 - ②実習目次
 - ③実習種類の目的
 - ④実習先概要
 - ⑤実習日誌
 - ⑥その他記録用紙
 - ⑦自己評価
 - ⑧実習（実務）評価
 - ⑨実習（人物）評価
 - ⑩実習出席表
 - 臨地実務実習Ⅱ（地方産地）
 - ⑪実習表紙
 - ⑫実習目次
 - ⑬実習種類の目的
 - ⑭実習先概要
 - ⑮実習日誌

- ⑩その他記録用紙
 - ⑪自己評価
 - ⑫実習（実務）評価
 - ⑬実習（人物）評価
 - ⑭実習出席表
 - 臨地実習 実習計画（臨地実習Ⅰ）
 - 臨地実習 実習計画（臨地実習Ⅱ）
- 資料1 1
- －1 海外実習受入先一覧
 - －2 海外実習受入先覚書
 - －3 海外実習ⅠⅡ実施概要
 - －4 海外実習Ⅰ実施計画
 - －5 海外実習Ⅰ実習先別の指導体制
 - －6 引率教師海外経験一覧
 - －7 海外実習ⅠⅡ引率計画表
 - －8 履修スケジュール（臨地実習・海外実習用）
 - －9 海外実習計画書
 - －10 海外実習報告書
 - －11 実習要項（海外実習Ⅰ・Ⅱ）
- 資料1 2 図書一覧（案）
- 資料1 3
- （表1）既設専門学校のカリキュラム（モード学園ファッションデザイン学科の例）
 - （表2）既設専門学校のカリキュラム（モード学園ファッションビジネス学科の例）
 - （表3）専門職大学のカリキュラム（ファッションクリエイション学科の例）
 - （表4）専門職大学のカリキュラム（ファッションビジネス学科の例）
- 資料1 4 施設設備の整備状況
- －1 授業時間外の学生専用自習教室＜東京・大阪・名古屋キャンパス＞
 - －2 東京モード学園教室使用状況
 - －3 大阪モード学園教室使用状況
 - －4 学生自習時間割
- 資料1 5 就職採用に関するアンケート結果
- 資料1 6 校舎図面－1 （東京校）
- －2 （大阪校）
 - －3 （名古屋校）
- 資料1 7 研究領域と個室研究室の割当

創作(クリエイション)と経営(ビジネス)を総合し、 国際的に活躍する新たなファッション専門職人材を創出する「国際ファッション専門職大学」の設置

設置の概要

- ・ 学校法人内に「国際ファッション専門職大学」を設置（平成31年度）。「衣服を作り、売る」から「ファッションを創出し、展開する」へ。
- ・ 技術知に、学問知（装いの文化の多様性、基礎的教養や理論など）を融合させた、新たな創造的で、総合的な実践知とそれを担う専門職人材の創出を目指す。
- ・ 法人内の組織、及び国内外の地域社会、産業界が組織的に連携し、産業的・社会的要請に応じて、PDCAサイクルのもと、現代的な創作と経営などの諸課題の解決に資する「臨地実習教育」を推進。
- ・ 各校舎を拠点として、地域社会、産業界の文化的資源（伝統的な知や技）の再発見と保全、展開をめざす地域・地方連携に取り組む。さらに国内外を結び、広域ネットワーク形成へ向けた取り組みを行う。

教育課程の特徴

< 国際ファッション専門職大学 >

基礎科目（汎用的能力：教養・コミュニケーション能力）

- 一般教養とコミュニケーション能力 ● 倫理観をつける

職業専門科目（基本的技術と理解 / ファッションの構想力につながる知識と理解 / 臨地実習）

- ファッション産業の基本的技術と理解 ● 企画開発力（装いの文化の理解） ● 開発戦略力（経営の理解）

展開科目（国際化・情報化への対応力）

- ファッション産業に関係する他分野（情報・地域・環境）の応用的な能力 ● 国際的な発信・展開の能力

総合科目（態度・志向性：卒業制作・計画） ● 課題発見と解決、積極的な態度と志向性

教育連携協議会

学外連携と PDCAサイクル

- 地域社会、産業界との協業による評価
不断の見直し

組織の特徴

I. 各校舎の拠点

- ・ 各校舎に異なる学科をもち、体現する教育や人材育成のテーマや目標がある

II. 地域・地方連携

- ・ 地域社会、及び、産業界のもつ文化的資源を再発見し、保全や展開をめざす
- ・ 臨地実習を通じた、地域の抱える課題解明と学生の実践知の習熟を繋げる総合的取り組み

III. 広域ネットワーク

- 国内3ブロック
- 海外

- ・ 各校舎を結節点に、全国3ブロックを結ぶ。海外の企業や教育機関と連携し、より広域なネットワークを形成

地域社会、産業界の文化的資源の再発見と保全、展開をめざす

- 各校舎を拠点に、地域企業・地方産地と、臨地実習を通じた連携
- 全国3ブロック（東京・大阪・名古屋）と海外を結ぶ広域ネットワーク

- 知財の共有共同開発の試み ● 教育課程や人材育成へのフィードバック

地域社会、産業界の文化的資源の継承と、新たな創作に向けた教育研究

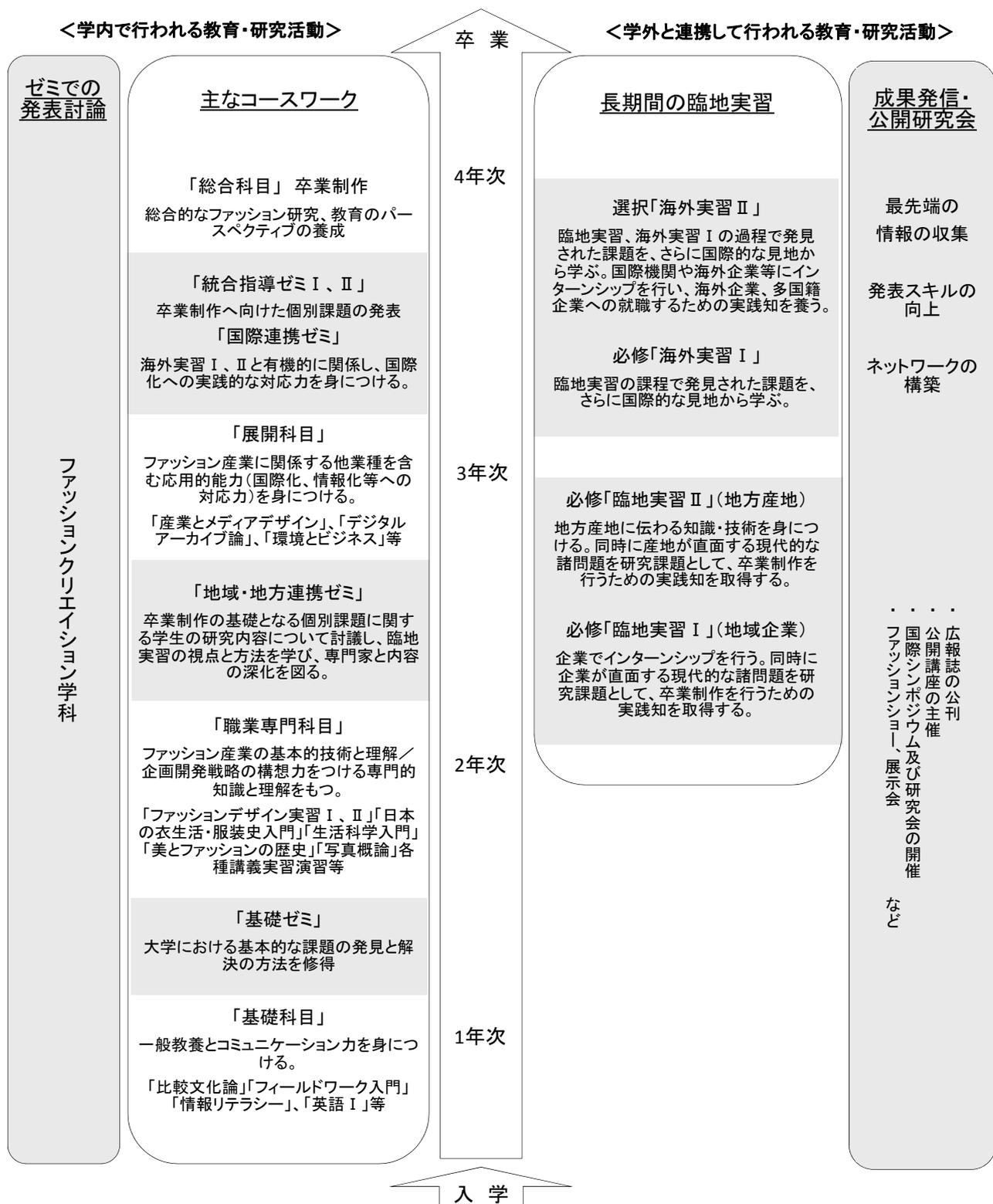
目標

学問知・技術知の融合による
新たな実践的かつ高い専門人材の創出

制作物や成果を
国際的に発信・応答する

目 標： ファッションクリエイション分野で優れた実践的貢献をなし、国内外のファッション産業界で活躍する専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた人材の育成

ファッションクリエイション学士(専門職)の学位授与

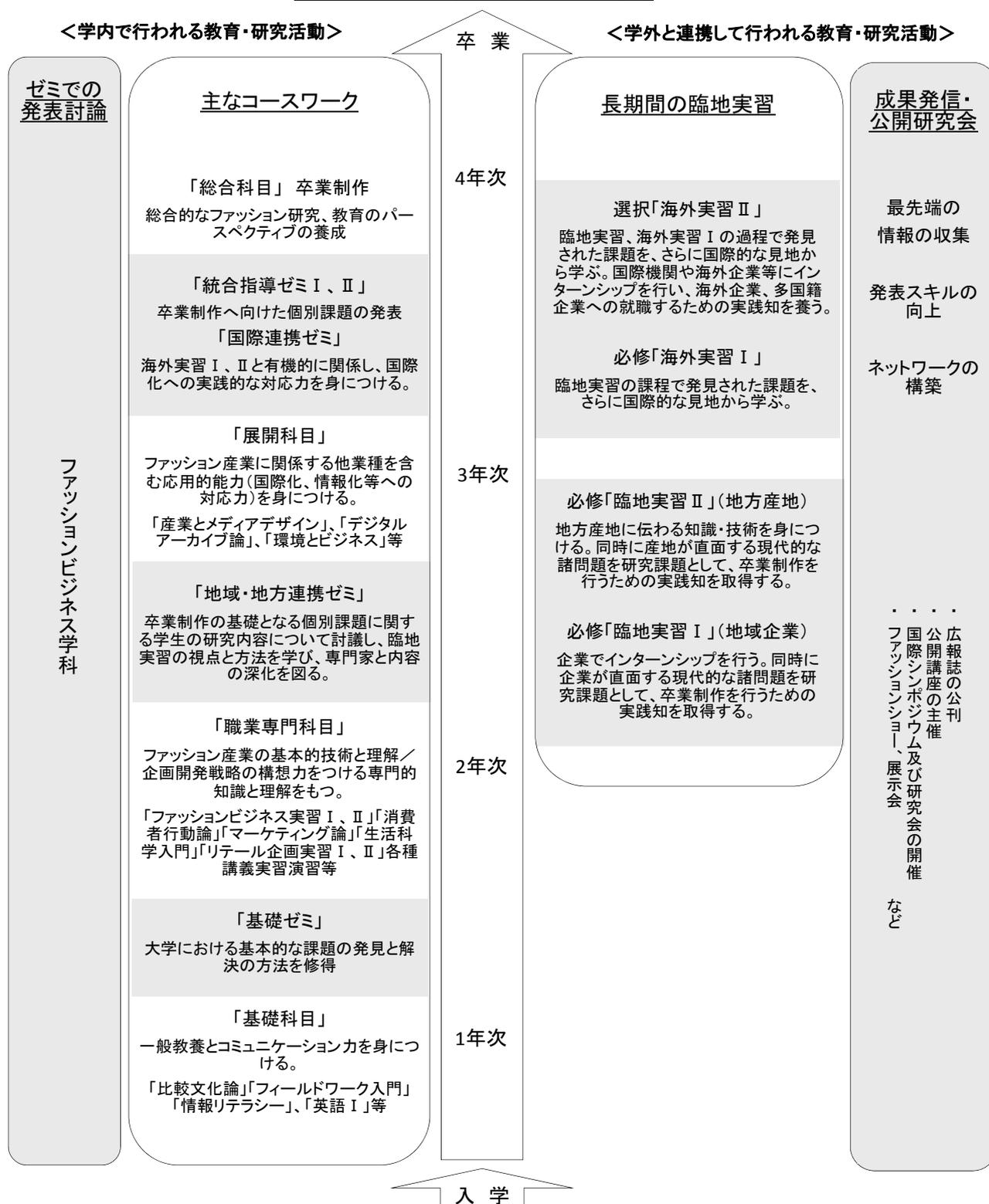


求める人材： ファッション分野に対して強い知的好奇心を持つ人材、その学習と課題解決のために積極的に関わる意欲を持つ人材、幅広い分野の教育課程の修了者や社会人など多様な背景や経験をもつ人材、各国留学生を歓迎

国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科 教育課程 カリキュラムマップ

目標：ファッションビジネス分野で優れた実践的貢献をなし、国内外のファッション産業界で活躍しうる専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた人材の育成

ファッションビジネス学士(専門職)の学位授与

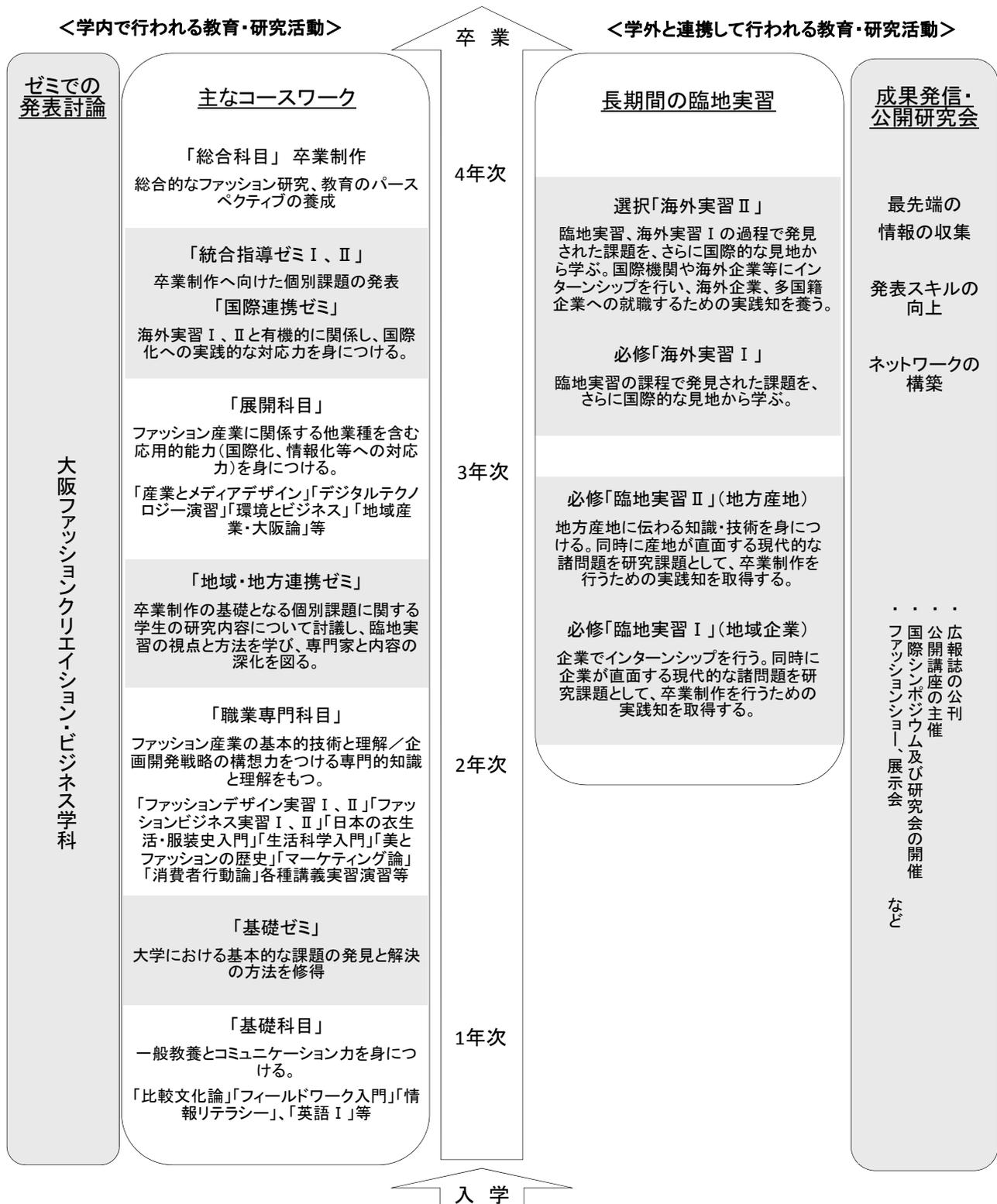


求める人材：ファッション分野に対して強い知的好奇心を持つ人材、その学習と課題解決のために積極的に
関わる意欲を持つ人材、幅広い分野の教育課程の修了者や社会人など多様な背景や経験をもつ人材、
各国留学生を歓迎

国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
教育課程 カリキュラムマップ

目標：ファッションクリエイション・ビジネス分野で優れた実践的貢献をなし、国内外のファッション産業界で活躍する専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた人材の育成

ファッションクリエイション・ビジネス学士(専門職)の学位授与

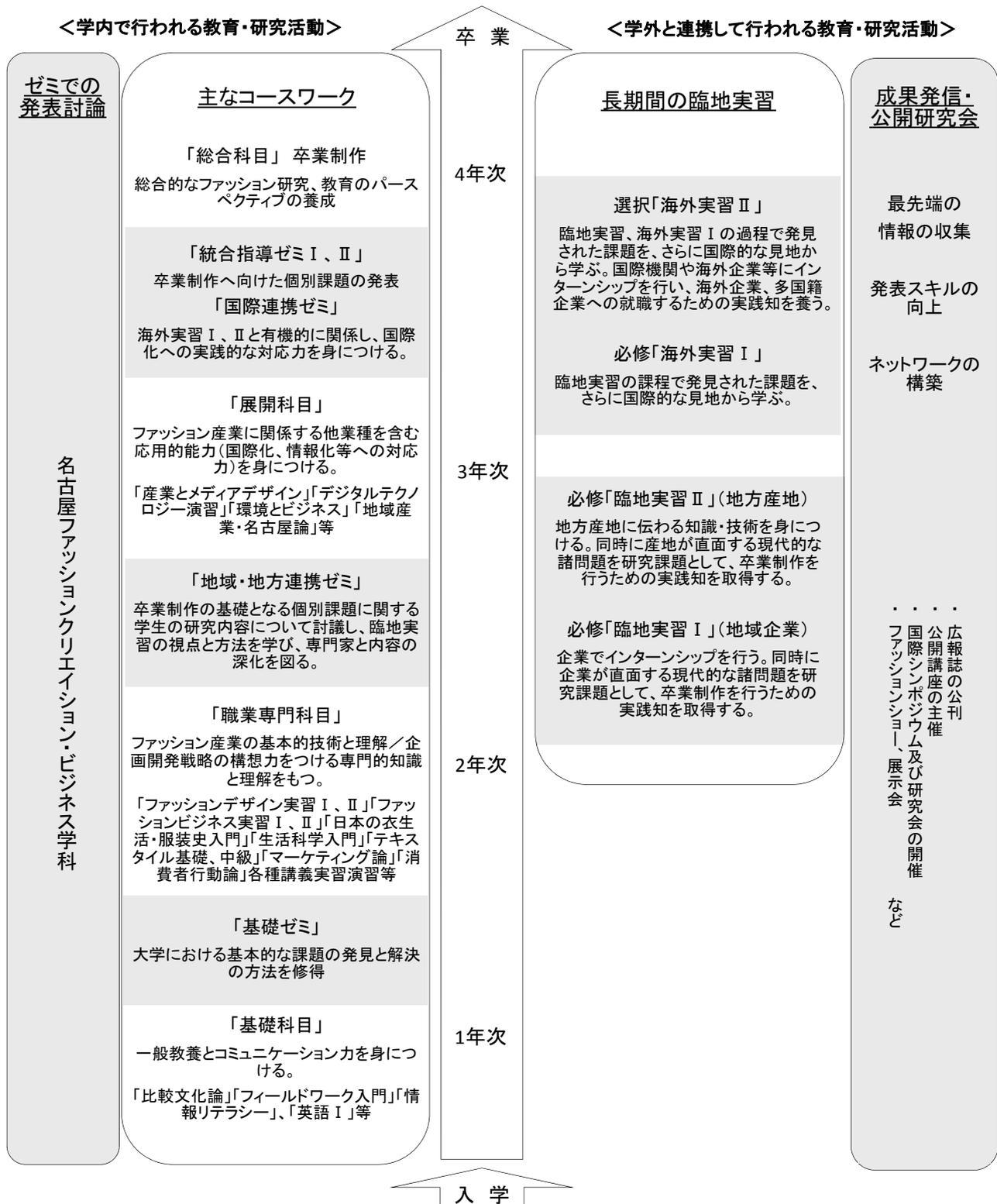


求める人材：ファッション分野に対して強い知的好奇心を持つ人材、その学習と課題解決のために積極的に関わる意欲を持つ人材、幅広い分野の教育課程の修了者や社会人など多様な背景や経験をもつ人材、各国留学生を歓迎

国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科
教育課程 カリキュラムマップ

目標：ファッションクリエイション・ビジネス分野で優れた実践的貢献をなし、国内外のファッション産業界で活躍する専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた人材の育成

ファッションクリエイション・ビジネス学士(専門職)の学位授与



求める人材：ファッション分野に対して強い知的好奇心を持つ人材、その学習と課題解決のために積極的に関わる意欲を持つ人材、幅広い分野の教育課程の修了者や社会人など多様な背景や経験をもつ人材、各国留学生を歓迎

学校法人日本教育財団就業規則 抜粋

第 4 節 定年・退職および解雇

(定 年)

第 14 条 教職員は、60 歳の誕生日をもって定年退職とする。ただし、次の各号の事由のいずれも満たす者については、65 歳まで継続雇用する。

(1) 本人が継続雇用を希望していること

(2) 本就業規則第 17 条の解雇事由または第 15 条の退職事由に該当していないこと

2. 前項により継続雇用された教職員のうち、別表に該当し、経過措置の適用を受ける教職員については、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部を改正する法律附則第 3 項に基づき、なお効力を有することとされる改正前の高年齢者等の雇用の安定等に関する法律第 9 条第 2 項に基づく労使協定により定められた基準に該当した教職員に限り、適用年齢以上の雇用を継続するものとし、基準のいずれかを満たさない教職員については、適用年齢までの雇用とする。

3. 第 1 項、第 2 項の定めによらず、大学の教員は、65 歳の誕生日をもって定年退職とする。ただし、必要と認められる教員については、定年を延長することがある。

目 標: ファッションクリエイションに関する単位を重点的に履修し、将来、ファッション産業において、従来のモノづくりや意匠を創造するデザイナーなどの職種に由来する新たなディレクターとなる人材を育成する。

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次			
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
① 基礎科目	必修	比較文化論	2	英語 II	4					
		フィールドワーク入門	2							
		メディア概論	2							
		情報リテラシー	2							
		英語 I	4							
		日本語文章表現	2							
	選択	文化論基礎ゼミ	2	ヨーロッパの社会と文化	2					
		会計入門	2	環境と社会	2					
		法学入門	2	中国語	2					
		キャリアデザイン論	2							
		単位数	22	単位数	10	単位数	0	単位数	0	
② 職業専門科目	ファッション論科目群	必修	造形論入門	2	美とファッションの歴史	2				
		色彩論入門	2							
		選択	身体とパフォーマンス	2	ブランドの歴史と文化	2				
			自然資源と服装文化	2						
			職人の世界	2						
			装いと社会性・ジェンダー	2						
	ファッション論基礎ゼミ	2								
	デザイン科目群	必修	生活科学入門	2	日本の衣生活・服装史入門	2				
			ファッションデザイン論	2	ファッションデザイン実習 II	4				
			ファッションデザイン実習 I	4	ファッションデザインプランニング実習 II	4				
			ファッションデザインプランニング実習 I	4						
		選択	テキスタイル基礎	2	パターンメイキング	2		国際展示会演習	2	
	ビジネス科目群	必修			国際ファッション業界英語	4	マーケティング論	2		
		選択	ファッションビジネス概論	2	知財論	2	消費者行動論	2		
			国際ファッション市場論	2						
	メディア科目群	必修	写真概論	2						
		映像概論	2							
	選択				写真実習	2				
		地域・地方科目群	必修			地域企業・地方連携ゼミ	10			
					臨地実習 I (企業)	10				
					[サマンサタバサジャパンリミテッド①]4/12~6/10 臨地実習 II (地方産地)	10				
					[富田染工芸③]10/1~11/29]					
			単位数	36	単位数	26	単位数	34	単位数	2
	③ 展開科目	発信力科目群	必修		地域産業論	2	環境とビジネス	2		
			選択		産業とメディアデザイン	2				
		国際科目群	必修			国際連携ゼミ	4			
					海外実習 I	2				
選択					[iNeedMedicine at NINGBO 1/5~1/16]					
					国際知財論	2				
					海外実習 II	4				
					[RALPH LAUREN 1/17~3/25]					
			単位数	0	単位数	6	単位数	14	単位数	0
④ 総合科目		必修					統合指導ゼミ I	4		
						統合指導ゼミ II	4			
						卒業制作・計画	4			
		単位数	0	単位数	0	単位数	12			
		合計単位数	58	合計単位数	42	合計単位数	48	合計単位数	14	
						合計単位数	162			

履修モデル:2
 (国際ファッション学部ファッションビジネス学科)

目 標: ファッションビジネスに関する単位を重点的に履修し、将来、ファッション産業において、従来の販売やビジネスの管理を行うマーチャンダイザーなどの職種に由来する新たなプロデューサーとなる人材を育成する。

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
① 基礎科目	必修	比較文化論	2	英語 II	4				
		フィールドワーク入門	2						
		メディア概論	2						
		情報リテラシー	2						
		英語 I	4						
		日本語文章表現	2						
	選択	会計入門	2	地域論入門	2				
		産業論入門	2	社会科学基礎ゼミ	2				
		法学入門	2	フランス語	2				
		キャリアデザイン論	2						
		単位数	22	単位数	10	単位数	0	単位数	0
② 職業専門科目	ファッション論	必修	造形論入門	2	美とファッションの歴史	2			
		色彩論入門	2						
		選択	自然資源と服装文化	2	ブランドの歴史と文化	2			
			装いと社会性・ジェンダー	2					
	デザイン	必修	生活科学入門	2	日本の衣生活・服装史入門	2			
		テキスタイル基礎	2						
		選択	デザイン概論	2	パターンメイキング	2			
	ビジネス科目群	必修	ファッションビジネス概論	2	ファッションビジネス実習 II	4	マーケティング論	2	
			ファッションビジネス実習 I	4	リテール企画実習 II	4	消費者行動論	2	
			リテール企画実習 I	4	国際ファッション業界英語	4			
		選択	国際ファッション市場論	2	国際ビジネスモデル特講 I	2	創造産業論	2	
					国際ビジネスモデル特講 II	2			
				知財論	2				
	メディア	必修	写真概論	2					
		映像概論	2						
	選択				映像実習	2			
	地域・地方科目群	必修					地域企業・地方連携ゼミ	10	
							臨地実習 I (企業)	10	
							[チームラボ(株)③10/1~11/29]		
						臨地実習 II (地方産地)	10		
				[練小倉メリヤス製作所①4/12~6/30]					
		単位数	30	単位数	28	単位数	36	単位数	0
③ 展開科目	発信力	必修		地域産業論	2	環境とビジネス	2		
		選択		産業とメディアデザイン	2	広告・PR論	2		
				デジタルアーカイブ論	2				
	国際科目群	必修			国際連携ゼミ	4			
					海外実習 I	2			
						[Nelly Rodi 1/5~1/16]			
	選択				海外実習 II	4			
						[Nelly Rodi 1/17~3/25]			
		単位数	0	単位数	6	単位数	14	単位数	0
④ 総合科目	必修					統合指導ゼミ I	4		
						統合指導ゼミ II	4		
						卒業制作・計画	4		
		単位数	0	単位数	0	単位数	12	単位数	12
		合計単位数	52	合計単位数	44	合計単位数	50	合計単位数	158

履修モデル:3
(国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)

目 標: ファッション産業における、クリエイションとビジネスに関する単位をバランスよく履修し、将来、ファッション産業において、従来のモノづくりや意匠などを創造するデザイナーなどの職種と、従来のビジネスの管理などを行うマーチャンダイザーなどの職種の両方に由来する、総合的クリエイターとなる人材を育成する。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
①基礎科目	必修	比較文化論	2	英語Ⅱ	4					
		フィールドワーク入門	2							
		メディア概論	2							
		情報リテラシー	2							
		英語Ⅰ	4							
		日本語文章表現	2							
	選択	会計入門	2	地域論入門	2					
		産業論入門	2	社会科学基礎ゼミ	2					
		法学入門	2	環境と社会	2					
		キャリアデザイン論	2							
		単位数	22	単位数	10	単位数	0	単位数	0	
②職業専門科目	ファッション論	必修	造形論入門	2	美とファッションの歴史	2				
			色彩論入門	2						
		選択	装いと社会性・ジェンダー	2	美容とファッション サブカルチャー・スタイル	2				
	デザイン科目群	必修	生活科学入門	2	日本の衣生活・服装史入門	2				
			ファッションデザイン論	2	ファッションデザイン実習Ⅱ	4				
			ファッションデザイン実習Ⅰ	4						
		選択	テキスタイル基礎	2	感性工学	2				
	ビジネス科目群	必修	ファッションビジネス実習Ⅰ	4	ファッションビジネス実習Ⅱ	4	マーケティング論	2		
					国際ファッション業界英語	4	消費者行動論	2		
		選択	ファッションビジネス概論	2	国際ビジネスモデル特講Ⅰ	2	創造産業論	2		
			国際ファッション市場論	2	国際ビジネスモデル特講Ⅱ 知財論	2				
	メディア	必修	写真概論	2						
			映像概論	2						
	地域・地方科目群	必修					地域企業・地方連携ゼミ	10		
							臨地実習Ⅰ(企業) [株式会社オラス④]12/1~2/10	10		
							臨地実習Ⅱ(地方産地) [株式会社精機製作所⑥]6/14~8/9	10		
			単位数	28	単位数	28	単位数	36	単位数	0
	③展開科目	発信力	必修		地域産業・大阪論	2	環境とビジネス	2		
選択				産業とメディアデザイン デジタルテクノロジー演習	2	広告・PR論	2			
国際科目群		必修					国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ [MECHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd (ロンドン)3/14~3/25]	4		
							国際知財論 海外実習Ⅱ [MECHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd (ロンドン)1/17~3/25]	2		
選択							4			
			単位数	0	単位数	6	単位数	16	単位数	0
④総合科目	必修					統合指導ゼミⅠ	4			
						統合指導ゼミⅡ	4			
						卒業制作・計画	4			
		単位数	0	単位数	0	単位数	0	単位数	12	
		合計単位数	50	合計単位数	44	合計単位数	52	合計単位数	12	
						総合単位数	158			

履修モデル:4

(国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科)

目 標:	ファッション産業における、クリエイションとビジネスに関する単位をバランスよく履修し、将来、ファッション産業において、従来のモノづくりや意匠などを創造するデザイナーなどの職種と、従来のビジネスの管理などを行うマーチャンダイザーなどの職種の両方に由来する、総合的クリエイターとなる人材を育成する。
------	--

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
①基礎科目	必修	比較文化論	2	英語 II	4				
		フィールドワーク入門	2						
		メディア概論	2						
		情報リテラシー	2						
		英語 I	4						
		日本語文章表現	2						
	選択	キャリアデザイン論	2	地域論入門	2				
			環境と社会	2					
			イタリア語	2					
		単位数	16	単位数	10	単位数	0	単位数	0
②職業専門科目	ファッション科目群	必修	造形論入門	2	美とファッションの歴史	2			
			色彩論入門	2					
		選択	自然資源と服装文化	2	サブカルチャー・スタイル	2			
			職人の世界	2					
			ファッション論基礎ゼミ	2					
	デザイン科目群	必修	生活科学入門	2	日本の衣生活・服装史入門	2			
			ファッションデザイン論	2	ファッションデザイン実習 II	4			
			ファッションデザイン実習 I	4					
			テキスタイル基礎	2					
			デザイン概論	2					
	選択			テキスタイル中級	2				
	ビジネス科目群	必修	ファッションビジネス実習 I	4	ファッションビジネス実習 II	4	マーケティング論	2	
					国際ファッション業界英語	4	消費者行動論	2	
		選択	ファッションビジネス概論	2	知財論	2			
			国際ファッション市場論	2					
	メディア科目群	必修	写真概論	2					
			映像概論	2					
	地域・地方科目群	必修					地域企業・地方連携ゼミ	10	
							臨地実習 I (企業)	10	
							[タキヒヨー棟①4/12~6/10]		
						臨地実習 II (地方産地)	10		
						[御幸毛織棟②10/1~11/29]			
		単位数	34	単位数	22	単位数	34		
						単位数	0		
③展開科目	科目群力	必修		地域産業・名古屋論	2	環境とビジネス	2		
				産業とメディアデザイン	2				
		選択		デジタルテクノロジー演習	2				
	国際科目群	必修			国際連携ゼミ	4			
					海外実習 I	2			
					[MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA 1/5~1/16]				
		選択			国際知財論	2			
					海外実習 II	4			
					[MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA 1/17~3/25]				
			単位数	0	単位数	6	単位数	14	
				単位数	0	単位数	0		
④総合科目	必修					統合指導ゼミ I	4		
						統合指導ゼミ II	4		
						卒業制作・計画	4		
		単位数	0	単位数	0	単位数	12		
		合計単位数	50	合計単位数	38	合計単位数	48		
						合計単位数	148		

時間割

資料5-1

国際ファッション学部

ファッションクリエイション学科
 ファッションビジネス学科
 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

時間割番号

前期 : 1-1
 前期 : 2-1
 前期 : 3-1
 前期 : 4-1

時間割番号

後期 : 1-2
 後期 : 2-2
 後期 : 3-2
 後期 : 4-2

国際ファッション専門職大学 年間スケジュール

年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	入学式・オリエン				夏期休業 期末試験	前期成績発表	後期授業開始			冬期休業	卒業生制作展 センター試験	進級卒業判定委員会 期末試験	進級制作展	学位授与式
1年	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15
2年	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15
3年	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15
4年	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15	1-15

前期	後期
----	----

授業日程	月	火	水	木	金	土
1回目	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12	4/13
2回目	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20
3回目	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27
4回目	5/13	4/30	5/1	5/2	5/10	5/11
5回目	5/20	5/7	5/8	5/9	5/17	5/18
6回目	5/27	5/14	5/15	5/16	5/24	5/25
7回目	6/3	5/21	5/22	5/23	5/31	6/1
8回目	6/10	5/28	5/29	5/30	6/7	6/8
9回目	6/17	6/4	6/5	6/6	6/14	6/15
10回目	6/24	6/11	6/12	6/13	6/21	6/22
11回目	7/1	6/18	6/19	6/20	6/28	6/29
12回目	7/8	6/25	6/26	6/27	7/5	7/6
13回目	7/15	7/2	7/3	7/4	7/12	7/13
14回目	7/22	7/9	7/10	7/11	7/19	7/20
15回目	7/29	7/16	7/17	7/18	7/26	7/27
試験期間	8/5	7/23	7/24	7/25	8/2	8/3

授業日程	月	火	水	木	金	土
1回目	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28
2回目	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5
3回目	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12
4回目	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19
5回目	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26
6回目	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1	11/2
7回目	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9
8回目	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16
9回目	11/18	11/19	11/20	11/21	11/22	11/30
10回目	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29	12/7
11回目	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6	12/14
12回目	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	12/21
13回目	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	1/18
14回目	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/25
15回目	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	2/1
試験期間	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/8

…祝日だが通常授業実施

学 科: 全学年 - ファッションクリエイション学科

前期

時間帯	月		火		水		木		金		土					
I	38F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室				
	42F	共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室				
	39F	396		396		396		396	写真実習	2前	鈴木	396				
	44F	441	造形論入門 1前	今村	441	比較文化論 1前	東	441	美とファッションの歴史 2前	高橋幸次	441	ファッション倫理概論 1前	高橋・中村・後藤	441	会計入門 1前	米倉
		442			442			442	メディア概論 1前	高橋幸治	442					
		443			443			443			443	身体とパフォーマンス 1前	寺戸	443		
		444	ファッションデザイン演習Ⅰ 2通	後藤・松村・樺	444	ファッションデザイン演習Ⅰ 2通	後藤・松村・樺	444	ファッションデザイン演習Ⅰ 1通	永澤・村上	444	ファッションデザイン演習Ⅱ 2通	永澤・村上	444		
	実習室	401			401			401			401			401		
		402			402			402			402			402		
	415			415			415			415			415			
	473			473			473			473			473			
II	38F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室				
	42F	共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室		共同研究室				
	39F	396		396		396		396	写真実習	2前	鈴木	396				
	44F	441	情報リテラシー 1前	林	441	ファッションデザイン論 1前	松岡	441	メディア概論 1前	高橋幸治	441	職人の世界 1前	丹羽	441	色彩論入門 1前	大貫
		442			442	情報リテラシー 1前	林	442	ファッションデザイン論 1前	松岡	442			442	国際知財論 3前	西村
		443	国際展示会演習 4前	永澤	443			443			443	造形論入門 1前	今村	443		
		444	ファッションデザイン演習Ⅰ 2通	後藤・松村・樺	444	ファッションデザイン演習Ⅰ 2通	後藤・松村・樺	444	ファッションデザイン演習Ⅰ 1通	永澤・村上	444	ファッションデザイン演習Ⅱ 2通	永澤・村上	444		
	実習室	401			401			401			401			401		
		402			402			402			402			402		
	415			415			415			415			415			
	473			473			473			473			473			
III	38F	研究室	国際連携ゼミ 3通	研究室	卒業制作・計画 4通	研究室	卒業制作・計画 4通	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	研究室	統合指導ゼミ 4前	研究室			
		共同研究室	国際連携ゼミ 3通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	共同研究室	統合指導ゼミ 4前	共同研究室			
	42F	共同研究室	国際連携ゼミ 3通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	共同研究室	統合指導ゼミ 4前	共同研究室			
	39F	396	国際連携ゼミ 3通	396		396		396	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	396	写真概論 1前	鈴木	396		
	44F	441	ファッションデザイン演習Ⅰ 1通	後藤・松村・樺	441	消費者行動論 3前	平井	441	美とファッションの歴史 2前	高橋幸次	441	環境と社会 2前	関戸	441		
		442			442	比較文化論 1前	東	442			442			442	消費者行動論 3前	平井
		443	生活科学入門 1前	松岡	443	英語Ⅱ 2通	熊田・山本真倫英	443	新しい可能性・ジェンダー 1前	熊田	443			443		
		444	ファッションデザイン演習Ⅱ 2通	永澤・村上	444	国際ファッション連携英語 2通	山本真倫英	444	ファッションデザイン演習Ⅰ 1通	永澤・村上	444	ファッションデザイン演習Ⅰ 1通	後藤・松村・樺	444		
	実習室	401			401			401			401			401		
		402			402			402			402			402		
	415			415			415			415			415			
	473			473			473			473			473			
IV	38F	研究室	国際連携ゼミ 3通	研究室	卒業制作・計画 4通	研究室	卒業制作・計画 4通	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	研究室	統合指導ゼミ 4前	研究室			
		共同研究室	国際連携ゼミ 3通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	共同研究室	統合指導ゼミ 4前	共同研究室			
	42F	共同研究室	国際連携ゼミ 3通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	共同研究室	統合指導ゼミ 4前	共同研究室			
	39F	396	国際連携ゼミ 3通	396		396		396	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	396	写真概論 1前	鈴木	396		
	44F	441	ファッションデザイン演習Ⅰ 1通	後藤・松村・樺	441	デジタルアーカイブ論 2前	東	441	産学連携デザイン 2前	高橋幸治	441	マーケティング論 3前	平井	441	色彩論入門 1前	大貫
		442	日本の衣食住 - 服飾史入門 2前	松岡	442			442			442			442		
		443	英語Ⅰ 1通	熊田・山本真倫英	443			443			443	統合指導ゼミ 4前	鈴木	443		
		444	ファッションデザイン演習Ⅱ 2通	永澤・村上	444	国際ファッション連携英語 2通	山本真倫英	444	ファッションデザイン演習Ⅰ 1通	永澤・村上	444	ファッションデザイン演習Ⅰ 1通	後藤・松村・樺	444		
	実習室	401			401			401			401			401		
		402			402			402			402			402		
	415			415			415			415			415			
	473			473			473			473			473			
V	38F	研究室		研究室	卒業制作・計画 4通	研究室	卒業制作・計画 4通	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	研究室	統合指導ゼミ 4前	研究室			
		共同研究室		共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	共同研究室	統合指導ゼミ 4前	共同研究室			
	42F	共同研究室		共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	卒業制作・計画 4通	共同研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	共同研究室	統合指導ゼミ 4前	共同研究室			
	39F	396		396		396		396	地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林	396		396			
	44F	441	日本の衣食住 - 服飾史入門 2前	松岡	441	生活科学入門 1前	松岡	441	マーケティング論 3前	平井	441	ファッション倫理概論 1前	高橋・中村・後藤	441		
		442			442			442			442			442		
		443	英語Ⅰ 1通	熊田・山本真倫英	443			443	文化論基礎ゼミ 1前	東・丹羽・熊田	443	統合指導ゼミ 4前	鈴木	443		
		444			444	英語Ⅱ 2通	熊田・山本真倫英	444			444			444	デザイン感性工学 2前	塚本
	実習室	401			401			401			401			401		
		402			402			402			402			402		
	415			415			415			415			415			
	473			473			473			473			473			

Table with 7 columns: 時間帯, 月, 火, 水, 木, 金, 土. Rows are categorized by semester (I, II, III, IV, V) and room type (研究室, 実習室). Each row lists course details including room numbers, course titles, and instructors.

学 科: 全学年 - ファッションビジネス学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	38F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	
	42F	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	
	39F	396	396	396	396	396 写真実習 2前 鈴木	
	44F	441	441	441	441	441 ファッション基礎ゼミ 1前 高橋・今村・後藤	
	442	創造産業論 3前 林	442	442	442	442 会計入門 1前 米倉	
	443	生活科学入門 1前 松岡	443 情報リテラシー 1前 林	443 比較文化論 1前 東	443 日本の衣食住・服装史入門 2前 松岡	443 身体とパフォーマンス 1前 寺戸	
	444	444	444	444	444	444	
	401	401	401	401	401	401	
	402	402	402	402	402	402	
	415	415	415	415	415	415	
	473	473	473	473	473	473	
	II	38F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室
42F		共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	
39F		396	396	396	396	396 写真実習 2前 鈴木	
44F		441	441	441	441	441 職人の世界 1前 丹羽	
442		442	442	442	442	442 国際知財論 3前 西村	
443		443	443	443	443	443	
444		444	444	444	444	444	
401		401	401	401	401	401	
402		402	402	402	402	402	
415		415	415	415	415	415	
473		473	473	473	473	473	
III		38F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	研究室 統合指導ゼミ 4前
		共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室
	42F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	
	39F	396 国際連携ゼミ 3通	396	396 写真概論 1前 鈴木	396 地域・地方連携ゼミ 3通	396	
	44F	441	441	441	441	441 環境と社会 2前 関戸	
	442	英語 I 1通 山本	442	442	442	442 色彩論入門 1前 大貫	
	443	443	443	443	443	443	
	444	444	444	444	444	444	
	401	401	401	401	401	401	
	402	402	402	402	402	402	
	415	415	415	415	415	415	
	473	473	473	473	473	473	
	IV	38F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	研究室 統合指導ゼミ 4前
		共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室
42F		共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	
39F		396 国際連携ゼミ 3通	396	396	396	396	
44F		441	441	441	441	441	
442		442	442	442	442	442	
443		443	443	443	443	443	
444		444	444	444	444	444	
401		401	401	401	401	401	
402		402	402	402	402	402	
415		415	415	415	415	415	
473		473	473	473	473	473	
V		38F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	研究室 統合指導ゼミ 4前
		共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室
	42F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	
	39F	396	396	396	396	396	
	44F	441	441	441	441	441	
	442	442	442	442	442	442	
	443	443	443	443	443	443	
	444	444	444	444	444	444	
	401	401	401	401	401	401	
	402	402	402	402	402	402	
	415	415	415	415	415	415	
	473	473	473	473	473	473	

時間帯	月	火	水	木	金	土			
I	38F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室			
	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室			
	42F	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室			
	39F	396	396	396	396 映像概論 1後 宮崎	396	396		
	44F	441	441	441 フィールドワーク入門 1後 寺戸	441	441 自然資源と観光文化 1後 丹羽	441 ブランドの歴史と文化 2後 松岡		
	442	442 広告・PR論 3後 高橋幸治	442	442 環境とビジネス 3後 関戸	442	442 ヨーロッパの社会と文化 2後 高橋幸次	442 産業論入門 1後 米倉		
	443	443 地域産業論 2後 林	443	443	443 デザイン感性工学 2後 塚本	443	443		
	444	444	444	444	444	444	444		
	401	401	401	401	401	401	401		
	402	402	402	402	402	402	402		
415	415	415	415	415	415	415			
473	473	473	473	473	473	473			
II	38F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室			
	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室			
	42F	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室	共同研究室			
	39F	396	396	396	396	396	396		
	44F	441	441	441	441 日本語文章表現 1後 東	441 知財論 2後 西村	441 法学入門 1後 西村		
	442	442	442	442 フランス語 2後 寺戸	442	442			
	443	443 キャリアデザイン論 1後 林	443 テキスタイル基礎 1後 捧	443	443	443 美容とファッション 2後 田中	443		
	444	444	444	444	444	444	444		
	401	401	401	401	401	401	401		
	402	402	402	402	402	402	402		
415	415	415	415	415	415	415			
473	473	473	473	473	473	473			
III	38F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	後藤・林 統合指導ゼミ 4前	研究室	
	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	共同研究室	共同研究室	
	42F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	共同研究室	共同研究室
	39F	396 国際連携ゼミ 3通	396	396	396	396 地域・地方連携ゼミ 3通	396 後藤・林	396	396
	44F	441	441	441	441	441 現代文化論 1後 東	441	441	441
	442	442 ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 古田	442	442 リテール企画実習Ⅱ 2通 古田	442	442	442 国際ビジネスモデル実習Ⅰ 2後 篠原	442 サブカルチャー 2後 吉田	442
	443	443	443 国際ファッション実習Ⅱ 2通 ベンジャー	443	443	443 統合指導ゼミ 4前	443	443	
	444	444 パターンメイキング 2後 村上	444	444	444	444	444	444	444
	401	401	401	401	401	401	401	401	401
	402	402	402	402	402	402	402	402	402
415	415	415	415	415	415	415	415	415	
473	473	473	473	473	473	473	473	473	
IV	38F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	共同研究室	
	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	共同研究室	共同研究室	
	42F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	共同研究室	共同研究室
	39F	396 国際連携ゼミ 3通	396	396	396	396 地域・地方連携ゼミ 3通	396 後藤・林	396 映像実習 2後 宮崎	396
	44F	441	441	441	441	441	441	441	441
	442	442 ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 古田	442	442 リテール企画実習Ⅱ 2通 古田	442	442	442	442	442
	443	443	443 中国語 2後 篠原	443	443	443 統合指導ゼミ 4前	443	443	
	444	444	444	444	444	444	444	444	444
	401	401	401	401	401	401	401	401	401
	402	402	402	402	402	402	402	402	402
415	415	415	415	415	415	415	415	415	
473	473	473	473	473	473	473	473	473	
V	38F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	共同研究室	
	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	共同研究室	共同研究室	
	42F	共同研究室 国際連携ゼミ 3通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 卒業制作・計画 4通	共同研究室 地域・地方連携ゼミ 3通	共同研究室 統合指導ゼミ 4前	共同研究室	共同研究室
	39F	396	396	396	396	396	396 映像実習 2後 宮崎	396	396
	44F	441	441	441	441	441	441	441	441
	442	442 地域論入門 2後 丹羽・寺戸	442	442 英語Ⅱ 2通 山本	442	442	442 国際ファッション実習Ⅱ 1後 篠原	442	442
	443	443	443	443	443	443	443 統合指導ゼミ 4前	443	443
	444	444	444	444	444	444	444	444	444
	401	401	401	401	401	401	401	401	401
	402	402	402	402	402	402	402	402	402
415	415	415	415	415	415	415	415	415	
473	473	473	473	473	473	473	473	473	

学 科: 全学年 - 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

前期

時間帯	月			火			水			木			金			土		
I	10F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		
	8F	081	マーケティング論 3前 畑中	081	創造産業論 3前 富澤	081		081		081		081		081		081		
		082	ファッションデザイン実習1 1通 藤井・三木	082	比較文化論 1前 田中	082	ファッションデザイン論 1前 平野	082	ファッションビジネス実習1 1通 高原	082	会計入門 1前 菅原	082	色彩論入門 1前 川澁					
	ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール							
	6F	062	デジタルグラフィック実習 2前 高橋幸治	062	ファッションデザイン実習2 2通 藤井・三木	062	日本の衣生活・服装史入門 2前 川中美	062	美とファッションの歴史 2前 平野	062	英語II 2通 チャールズ							
		063		063		063		063		063								
	5F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室						
	053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC							
	8F	B016		B016		B016		B016		B016		B016						
	実習実務	035		035		035		035		035		035						
実習実務	B015		B015		B015		B015		B015		B015							
II	10F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室						
	8F	081	消費者行動論 3前 畑中	081		081		081		081	国際知財論 3前 山田	081						
		082	ファッションデザイン実習1 1通 藤井・三木	082	メディア概論 1前 有馬	082	生活科学入門 1前 川中美	082	ファッションビジネス実習1 1通 高原	082	身体とパフォーマンス 1前 福田	082	英語I 1通 マルセル					
	ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール							
	6F	062	商業とファッションデザイン 2前 高橋幸治	062	ファッションデザイン実習2 2通 藤井・三木	062	環境と社会 2前 河西	062	国際ビジネス実務実習1 2前 菅原・畑中	062		062						
		063		063		063		063		063		063						
	5F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室						
	053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC							
	8F	B016		B016		B016		B016		B016		B016						
	実習実務	035		035		035		035		035		035						
実習実務	B015		B015		B015		B015		B015		B015							
III	10F	研究室	国際連携ゼミ 3通 金谷・平野・福田 河野・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通 藤井・高野・高 山・門本	研究室	統合指導ゼミI 4前 富澤・木村・中野	研究室						
	8F	081		081		081		081		081		081						
		082	造形論入門 1前 木村	082	デザイン概論 1前 雑賀	082	職人の世界 1前 金谷	082	ファッションビジネス概論 1前 菅原	082	文化論基礎ゼミ 1前 田中・金谷・河野 河中・福田	082						
	ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール							
	6F	062	ファッションビジネス実習1 2通 高原	062		062	国際ファッション実務実習 2通 木場	062		062		062						
		063		063		063		063		063		063						
	5F	研究室	国際連携ゼミ 3通 金谷・平野・福田 河野・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通 藤井・高野・高 山・門本	研究室	統合指導ゼミI 4前 富澤・木村・中野	研究室						
	053ABC	国際連携ゼミ 3通 金谷・平野・福田 河野・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	053ABC	地域・地方連携ゼミ 3通 藤井・高野・高 山・門本	053ABC	統合指導ゼミI 4前 富澤・木村・中野	053ABC							
	8F	B016		B016	写真実習 2前 田口	B016		B016		B016		B016	写真概論 1前 田口					
	実習実務	035		035		035		035		035		035						
実習実務	B015		B015		B015		B015		B015		B015							
IV	10F	研究室	国際連携ゼミ 3通 金谷・平野・福田 河野・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通 藤井・高野・高 山・門本	研究室	統合指導ゼミI 4前 富澤・木村・中野	研究室						
	8F	081		081		081		081		081		081						
		082		082		082	ファッション論基礎ゼミ 1前 木村・金谷・平野 川中	082	情報リテラシー 1前 木村	082	美と社会性・シンタグマ 1前 川中薫	082						
	ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール							
	6F	062	ファッションビジネス実習1 2通 高原	062		062		062		062		062						
		063		063		063		063		063		063						
	5F	研究室	国際連携ゼミ 3通 金谷・平野・福田 河野・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通 藤井・高野・高 山・門本	研究室	統合指導ゼミI 4前 富澤・木村・中野	研究室						
	053ABC	国際連携ゼミ 3通 金谷・平野・福田 河野・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	053ABC	地域・地方連携ゼミ 3通 藤井・高野・高 山・門本	053ABC	統合指導ゼミI 4前 富澤・木村・中野	053ABC							
	8F	B016		B016	写真実習 2前 田口	B016		B016		B016		B016						
	実習実務	035		035		035		035		035		035						
実習実務	B015		B015		B015		B015		B015		B015							
V	10F	研究室		研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通 藤井・高野・高 山・門本	研究室	統合指導ゼミI 4前 富澤・木村・中野	研究室						
	8F	081		081		081		081		081		081						
		082		082		082		082		082		082						
	ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール							
	6F	062		062		062		062		062		062						
		063		063		063		063		063		063						
	5F	研究室		研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通 藤井・高野・高 山・門本	研究室	統合指導ゼミI 4前 富澤・木村・中野	研究室						
	053ABC		053ABC	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通 田中・菅原・高野 藤井・三木	053ABC	地域・地方連携ゼミ 3通 藤井・高野・高 山・門本	053ABC	統合指導ゼミI 4前 富澤・木村・中野	053ABC							
	8F	B016		B016		B016		B016		B016		B016						
	実習実務	035		035		035		035		035		035						
実習実務	B015		B015		B015		B015		B015		B015							

学 科： 全学年 - 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

後期

時間帯	月			火			水			木			金			土			
I	10F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	8F	081		081		081		081		081		081		081		081			
		082	ファッションデザイン実習Ⅰ 1通	藤井・三木	082	フィールドワーク入門 1後	河西	082		082	ファッションビジネス実習Ⅰ 1通	高原	082	自然資源と服装文化 1後	金谷	082			
		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール			
	6F	062	中国語 2後	劉	062	ファッションデザイン実習Ⅰ 2通	藤井・三木	062	地域産業・大販論 2後	富澤	062	国際ビジネスモデル特論Ⅱ 2後	菅原・畑中	062	ヨーロッパ社会と文化 2後	河西	062	英語Ⅱ 2通	チャールズ
		063			063			063			063			063			063		
	5F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC			
	8F	B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016	映像概論 1後	白羽	
	実習実習	035		035		035		035		035		035		035		035			
実習実習	B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015				
II	10F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	8F	081	広告・PR論 3後	木村	081			081		081	環境とビジネス 3後	富澤	081			081			
		082	ファッションデザイン実習Ⅰ 1通	藤井・三木	082	日本語文章表現 1後	玉置	082	産業論入門 1後	富澤・畑中	082	ファッションビジネス実習Ⅰ 1通	高原	082	法学入門 1後	山田	082	英語Ⅰ 1通	マルセル
		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール			
	6F	062	パターンメイキング 2後	門本	062	ファッションデザイン実習Ⅰ 2通	藤井・三木	062	感性工学 2後	菅原	062	地域論入門 2後	金谷	062	社会科学基礎ゼミ 2後	富澤・菅原・畑中	062	美容とファッション 2後	森沢
		063			063			063			063			063			063		
	5F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC		053ABC			
	8F	B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016			
	実習実習	035		035		035		035		035		035		035		035			
実習実習	B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015				
III	10F	研究室	国際連携ゼミ 3通	金谷・菅原・畑中・河野・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	藤井・富澤・高山・門本	研究室	統合指導ゼミⅠ 4前	富澤・木村・中野	研究室		
	8F	081		081		081		081		081		081		081		081			
		082	キャリアデザイン論 1後	畑中	082			082		082	国際ファッション市場論 1後	富澤・川中薫	082	現代文化論 1後	川中薫・福田	082			
		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール			
	6F	062	ファッションビジネス実習Ⅰ 2通	高原	062	フランス語 2後	ローレン	062	国際ファッション実務英語 2通	木場	062	ブランドの歴史と文化 2後	平野	062	知財論 2後	山田繁和	062		
		063			063			063			063			063			063		
	5F	研究室	国際連携ゼミ 3通	金谷・菅原・畑中・河野・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	藤井・富澤・高山・門本	研究室	統合指導ゼミⅡ 4後	富澤・木村・中野	研究室		
		053ABC	国際連携ゼミ 3通	金谷・菅原・畑中・河野・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	053ABC	地域・地方連携ゼミ 3通	藤井・富澤・高山・門本	053ABC	統合指導ゼミⅡ 4後	富澤・木村・中野	053ABC		
	8F	B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016	映像実習 2後	白羽	
	実習実習	035		035		035		035		035		035		035		035			
実習実習	B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015				
IV	10F	研究室	国際連携ゼミ 3通	金谷・菅原・畑中・河野・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	藤井・富澤・高山・門本	研究室	統合指導ゼミⅠ 4前	富澤・木村・中野	研究室		
	8F	081		081		081		081		081		081		081		081			
		082			082			082		082		082		082		082			
		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール			
	6F	062	ファッションビジネス実習Ⅰ 2通	高原	062			062		062		062		062	サブカルチャースタイル 2後	吉田	062		
		063			063			063		063		063		063		063			
	5F	研究室	国際連携ゼミ 3通	金谷・菅原・畑中・河野・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	藤井・富澤・高山・門本	研究室	統合指導ゼミⅡ 4後	富澤・木村・中野	研究室		
		053ABC	国際連携ゼミ 3通	金谷・菅原・畑中・河野・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	053ABC	地域・地方連携ゼミ 3通	藤井・富澤・高山・門本	053ABC	統合指導ゼミⅡ 4後	富澤・木村・中野	053ABC		
	8F	B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016	映像実習 2後	白羽	
	実習実習	035		035		035		035		035		035		035		035			
実習実習	B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015				
V	10F	研究室		研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	藤井・富澤・高山・門本	研究室	統合指導ゼミⅠ 4前	富澤・木村・中野	研究室			
	8F	081		081		081		081		081		081		081		081			
		082	テキスタイル基礎 1後	高原	082			082		082		082		082		082			
		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール		ホール			
	6F	062		062		062		062		062		062		062		062			
		063		063		063		063		063		063		063		063			
	5F	研究室		研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	研究室	地域・地方連携ゼミ 3通	藤井・富澤・高山・門本	研究室	統合指導ゼミⅡ 4後	富澤・木村・中野	研究室			
		053ABC		053ABC	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	053ABC	卒業制作・計画 4通	田中・菅原・富澤・藤井・三木	053ABC	地域・地方連携ゼミ 3通	藤井・富澤・高山・門本	053ABC	統合指導ゼミⅡ 4後	富澤・木村・中野	053ABC			
	8F	B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016		B016			
	実習実習	035		035		035		035		035		035		035		035			
実習実習	B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015		B015				

Table with columns for time slots (e.g., 26F, 31F, 32F) and days (月, 火, 水, 木, 金, 土). Rows are grouped into sections I, II, III, IV, and V, each containing course numbers, titles, and instructor names.

時間帯	月			火			水			木			金			土			
I	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311			311			311			311	広告・PR論 3後	大島	311			311		
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	32F	321	美容とファッション 2後	小山	321	中国語 2後	磯部	321	フランス語 2後	大貫・平野	321	ブランドの歴史と文化 2後	須網	321	地域論入門 2後	安念	321	イタリア語 2後	葛巻
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	34F	341			341	法学入門 1後	前田	341	フィールドワーク入門 1後	安念	341	産業論入門 1後	奥村	341	自然資源と環境文化 1後	小山	341	英語 I 1通	大貫・宇佐美
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	24F	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室		
	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			
II	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311			311			311			311	環境とビジネス 3後	岩崎	311			311		
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	32F	321	地域産業・名古屋論 2後	関	321	感性工学 2後	大島	321	国際ファッション業界英語 2通	宇佐美	321	パターンメイキング 2後	守屋	321	ヨーロッパの社会と文化 2後	秋庭	321	英語 II 2通	宇佐美
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	34F	341	日本語文章表現 1後	安念	341	現代文化論 1後	廣田	341	キャリアデザイン論 1後	守屋	341	国際ファッション市場論 1後	奥村	341	映像概論 1後	河村	341	テキスタイル基礎 1後	野田
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	24F	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室		
	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			
III	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311	国際連携ゼミ 3通	安念・清原 廣田・磯部	311	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	311	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	311	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	311	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	311		
		研究室	国際連携ゼミ 3通	安念・清原 廣田・磯部	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	研究室	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	研究室		
	32F	321	知財論 2後	前田	321	サブカルチャー・スタイル 2後	吉田	321	ファッションビジネス実習 I 2通	岡本	321			321	ファッションデザイン実習 II 2通	篠田	321	国際ビジネスモデル構築 II 2後	宇佐美
	33F	研究室	国際連携ゼミ 3通	安念・清原 廣田・磯部	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	研究室	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	研究室		
	34F	341	ファッションデザイン実習 I 1通	篠田	341			341			341			341			341		
	35F	研究室	国際連携ゼミ 3通	安念・清原 廣田・磯部	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	研究室	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	24F	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室		
	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			
IV	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311	国際連携ゼミ 3通	安念・清原 廣田・磯部	311	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	311	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	311	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	311	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	311		
		研究室	国際連携ゼミ 3通	安念・清原 廣田・磯部	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	研究室	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	研究室		
	32F	321	社会科学基礎ゼミ 2後	菅	321			321	ファッションビジネス実習 I 2通	岡本	321			321	ファッションデザイン実習 II 2通	篠田	321		
	33F	研究室	国際連携ゼミ 3通	安念・清原 廣田・磯部	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	研究室	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	研究室		
	34F	341	ファッションデザイン実習 I 1通	篠田	341	ファッションビジネス実習 I 1通	岡本	341			341			341			341		
	35F	研究室	国際連携ゼミ 3通	安念・清原 廣田・磯部	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	研究室	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	24F	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室		
	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			
V	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311			311	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	311	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	311	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	311	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	311		
		研究室			研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	研究室	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	研究室		
	32F	321			321			321			321			321			321		
	33F	研究室			研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	研究室	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	研究室		
	34F	341			341	ファッションビジネス実習 I 1通	岡本	341			341			341			341		
	35F	研究室			研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・穂田	研究室	地域企業・地方連携ゼミ 3通	穂田・守屋・岡本	研究室	統合指導ゼミ II 4後	小山・廣田・岸田	研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	24F	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室		
	実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			実習室			

資料 5-2 として国際ファッション専門職大学が共有する東京モード学園の教室面積が全て基準を満たしていることを示す資料を添付した。

東京モード学園時間割:前期

資料5-3

学 科: 1年 - スタイリスト学科

前期

時間帯		月	火	水	木	金	土
I	科目	スタイリストワーク I	スタイリストテクニック I		和装技法	パーソナルカラー	
	担当 教室	401	396		401	401	
II	科目	衣装制作 I	スタイリストテクニック I		イラスト技法 I	パーソナルカラー	
	担当 教室	411	396		401	401	
III	科目	コーディネート I			ファッションスタイル論	PC演習 I	
	担当 教室	401			401	492	
IV	科目	コーディネート I			フレックススタディ II	PC演習 I	ビジネストレーニング I
	担当 教室	401			401	492	401
V	科目	コンセプトメイキング			学外実習 II		
	担当 教室	401					

学 科: 2年 - スタイリスト学科

前期

時間帯		月	火	水	木	金	土
I	科目	スタイリストワーク II	コーディネート II		衣装制作 II	パーソナルスタイリング	ケーススタディ II
	担当 教室	402	402		411	402	402
II	科目	スタイリストワーク II	コーディネート II		イラスト技法 II	パーソナルスタイリング	ケーススタディ II
	担当 教室	402	402		401	402	402
III	科目	創造性開発 II	スタイリストテクニック II		PC演習 II		学外実習 III
	担当 教室	402	396		492		
IV	科目		スタイリストテクニック II		PC演習 II		
	担当 教室		396		492		
V	科目		スタイリストテクニック II		フレックススタディ III		
	担当 教室		396		402		

東京モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - スタイリスト学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	スタイリストワーク I	スタイリストテクニック I		和装技法	
	担当 教室	401	396		401	
II	科目	衣装制作 I	スタイリストテクニック I		イラスト技法 I	
	担当 教室	411	396		401	
III	科目	コーディネート I	自己開発 II		ファッションスタイル論	PC演習 I
	担当 教室	401	401		401	492
IV	科目	コーディネート I	MEW II		フレックススタディ II	PC演習 I
	担当 教室	401	401		401	492
V	科目	コンセプトメイキング	MEW II		学外実習 II	メイクアップテクニック
	担当 教室	401	401			461

学 科: 2年 - スタイリスト学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	スタイリストワーク II	コーディネート II		衣装制作 II	パーソナルスタイリング
	担当 教室	402	402		411	402
II	科目	スタイリストワーク II	コーディネート II		イラスト技法 II	パーソナルスタイリング
	担当 教室	402	402		401	402
III	科目	ファッショントレンド分析 I	スタイリストテクニック II		PC演習 II	英会話
	担当 教室	402	396		492	402
IV	科目	卒業制作	スタイリストテクニック II		PC演習 II	
	担当 教室	402	396		492	
V	科目	卒業制作	スタイリストテクニック II		フレックススタディ III	
	担当 教室	402	396		402	

東京モード学園時間割:前期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	制作技法 I	パターンメイキング I		デザイン画 I	
	教室	411.2	391		391	
II	科目	制作技法 I	パターンメイキング I		デザイン画 I	
	教室	411.2	391		391	
III	科目	パターンメイキング I	クリエイション		制作技法 I	ファッション知識
	教室	391		391	411.2	391
IV	科目	パターンメイキング I	マテリアル I		制作技法 I	ファッション知識
	教室	391		391	411.2	391
V	科目		カラーリング I		学外実習 I	ファッション史 I
	教室		391			391
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	制作技法 II		PC演習 II		自己開発 II
	教室	413.4		492		482
II	科目	制作技法 II		PC演習 II		ファッション史 II
	教室	413.4		492		482
III	科目	ケーススタディ I	創作デザイン II	学外実習 II	制作技法 II	マテリアル II
	教室	482	482	482	413.4	482
IV	科目	デザイン画 II	創作デザイン II	パターンメイキング II	制作技法 II	マテリアル II
	教室	482	482	392	413.4	482
V	科目	デザイン画 II		パターンメイキング II		
	教室	482		392		
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	アパレル生産技術 I	テクニカルデザイン II		デザイン画 III	ブランドプランニング I
	教室	431.2	431.2		431.2	431.2
II	科目	アパレル生産技術 I	テクニカルデザイン II		デザイン画 III	ブランドプランニング I
	教室	431.2	431.2		431.2	431.2
III	科目	創造性開発 II	創作デザイン III	PC演習 III	パターンメイキング III	ケーススタディ II
	教室	431.2	386	491.4	431.2	431.2
IV	科目		創作デザイン III	PC演習 III	パターンメイキング III	ファッション史 III
	教室		386	491.4	431.2	431.2
V	科目			学外実習 III		
	教室					
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

学 科: 4年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	テクニカルデザイン III	テクニカルデザイン III		ブランドプランニング II	パターンメイキング IV
	教室	433.4	433.4		433.4	433.4
II	科目	テクニカルデザイン III	テクニカルデザイン III		ブランドプランニング II	パターンメイキング IV
	教室	433.4	433.4		433.4	433.4
III	科目	創作デザイン IV	パターンメイキング IV	ケースステディ III	創作デザイン IV	
	教室	433.4	433.4	433.4	433.4	
IV	科目	創作デザイン IV	パターンメイキング IV	ケースステディ III	創作デザイン IV	
	教室	433.4	433.4	433.4	433.4	
V	科目		学外実習 IV			
	教室					
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

東京モード学園時間割:前期

学科: 1年 - ファッションデザイン学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	デザイン画II	自己開発II			パターンメイキングII
	教室	391	コクーンA			391
II	科目	デザイン画II	ファッション史II			パターンメイキングII
	教室	391	392			391
III	科目	PC演習I	パターンメイキングII	マテリアルII	創作デザインII	制作技法II
	教室	493	391	392	391	411.2
IV	科目	PC演習I	パターンメイキングII	マテリアルII	創作デザインII	制作技法II
	教室	493	391	392	391	411.2
V	科目			学外実習II		ケーススタディI
	教室					
VI	科目	パターンメイキングII		創作デザインII		制作技法II
	教室	431		ファッション知識II		411.2
VII	科目	パターンメイキングII		デザイン画II		制作技法II
	教室	431		391		411.2

学科: 2年 - ファッションデザイン学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	ケーススタディII	デザイン画III		創作デザインIII	パターンメイキングIII
	教室	474	474		474	401.2
II	科目	ファッション史III	デザイン画III		創作デザインIII	パターンメイキングIII
	教室	474	474		474	401.2
III	科目	テクニカルデザインI		PC演習III	アパレル生産技術I	専攻別
	教室	401.2		492	401.2	474
IV	科目	テクニカルデザインI		PC演習III	アパレル生産技術I	専攻別
	教室	401.2		492	401.2	474
V	科目	学外実習III			創造性開発II	
	教室				474	
VI	科目	創作デザインIII		パターンメイキングIII		アパレル生産技術I
	教室	386		433		433
VII	科目	デザイン画III		パターンメイキングIII		アパレル生産技術I
	教室	386		433		433

学科: 3年 - ファッションデザイン学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	パターンメイキングIV	創作デザインIV		テクニカルデザインII	創作デザインIV
	教室	435.6	435.6		435.6	435.6
II	科目	パターンメイキングIV	創作デザインIV		テクニカルデザインII	創作デザインIV
	教室	435.6	435.6		435.6	435.6
III	科目		テクニカルデザインII	パターンメイキングIV		ケーススタディIII
	教室		435.6	435.6		385
IV	科目		テクニカルデザインII	パターンメイキングIV		ケーススタディIII
	教室		435.6	435.6		385
V	科目		学外実習IV			
	教室					
VI	科目		アパレル生産技術II	創作デザインIV		パターンメイキングIV
	教室		435	385		435
VII	科目		アパレルマーケティングII	デザイン画IV		パターンメイキングIV
	教室		435	385		435

東京モード学園時間割:前期

学 科: 1年 - ファッション技術学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	制作技法Ⅱ		学外実習Ⅱ		自己開発Ⅱ	創作デザインⅡ
	教室	411.2				コクーンA	392
II	科目	制作技法Ⅱ		デザイン画Ⅱ		ファッション史Ⅱ	創作デザインⅡ
	教室	411.2		393		393	392
III	科目	ケーススタディⅠ	PC演習Ⅰ	デザイン画Ⅱ	パターンメイキングⅡ	マテリアルⅡ	
	教室	393	491	393	393	393	
IV	科目	パターンメイキングⅡ	PC演習Ⅰ		パターンメイキングⅡ	マテリアルⅡ	
	教室	393	491		393	393	
V	科目	パターンメイキングⅡ					
	教室	393					
VI	科目	パターンメイキングⅡ		創作デザインⅡ		制作技法Ⅱ	
	教室	393		ファッション知識Ⅱ		413.4	
VII	科目	パターンメイキングⅡ		デザイン画Ⅱ		制作技法Ⅱ	
	教室	393		392		413.4	

学 科: 2年 - ファッション技術学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	テクニカルデザインⅠ		ケーススタディⅡ	アパレル生産技術Ⅰ		パターン理論Ⅰ
	教室	401.2		475	401.2		401.2
II	科目	テクニカルデザインⅠ		ファッション史Ⅲ	アパレル生産技術Ⅰ		アパレルCAD
	教室	401.2		475	401.2		401.2
III	科目	デザイン画Ⅲ	パターンメイキングⅢ		創造性開発Ⅱ	創作デザインⅢ	専攻別
	教室	475	401.2		コクーンA	475	475
IV	科目	デザイン画Ⅲ	アパレル生産技術Ⅰ			創作デザインⅢ	専攻別
	教室	475	401.2			475	475
V	科目		学外実習Ⅲ				
	教室						
VI	科目	創作デザインⅢ		テクニカルパターンⅠ		パターン理論Ⅰ	
	教室	385		434		434	
VII	科目	アパレルCADⅠ		テクニカルパターンⅠ		ドレーピングⅠ	
	教室	434		434		434	

学 科: 3年 - ファッション技術学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	創作デザインⅣ	テクニカルデザインⅡ		テクニカルデザインⅡ	パターンメイキングⅣ	
	教室	383.4	431.2		431.2	435.6	
II	科目	創作デザインⅣ	テクニカルデザインⅡ		テクニカルデザインⅡ	パターンメイキングⅣ	
	教室	383.4	431.2		431.2	435.6	
III	科目		ドレーピングⅡ	パターンメイキングⅣ	ケーススタディⅢ		ドレーピングⅡ
	教室		431.2	431.2	411.2		435.6
IV	科目		ドレーピングⅡ	パターンメイキングⅣ	ケーススタディⅢ		ドレーピングⅡ
	教室		431.2	431.2	411.2		435.6
V	科目		学外実習Ⅳ				
	教室						
VI	科目	アパレル生産技術Ⅱ		創作デザインⅣ		テクニカルパターンⅡ	
	教室	436		デザイン画Ⅳ		436	
VII	科目	ドレーピングⅡ		アパレルCADⅡ		テクニカルパターンⅡ	
	教室	436		436		436	

東京モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	クリエイション	パターンメイキング I			デザイン画 I
	教室	391	391			391
II	科目	マテリアル I	パターンメイキング I			デザイン画 I 自己開発 I
	教室	391	391			391 コクーンA
III	科目	カラーリング I	制作技法 I	制作技法 I	PC演習 I	ファッション知識
	教室	391	411.2		411.2	492 391
IV	科目		制作技法 I	制作技法 I	PC演習 I	ファッション史 I
	教室		411.2		411.2	492 391
V	科目		学外実習 I			MEW I
	教室					391
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	テクニカルデザイン I	創作デザイン II	制作技法 II	創造性開発 I	
	教室	482	482	413.4	コクーンA	
II	科目	テクニカルデザイン I	創作デザイン II	制作技法 II	MEW II	
	教室	482	482	413.4	383.4	
III	科目		PC演習 II	パターンメイキング II	アパレルマーチャンダイジング	デザイン画 II
	教室		492		401.2	482 482
IV	科目		PC演習 II	パターンメイキング II	アパレルマーチャンダイジング	デザイン画 II
	教室		492		401.2	482 482
V	科目		学外実習 II	ケーススタディ I		
	教室					
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	MEW III		アパレル生産技術 I		デザイン画 III ケーススタディ II
	教室	431.2		431.2		482 431.2
II	科目	MEW III		アパレル生産技術 I		デザイン画 III ビジネストレーニング I
	教室	431.2		431.2		482 コクーンB
III	科目	PC演習 III	創作デザイン III	ファッションクリエイター論	パターンメイキング III	テクニカルデザイン II
	教室	492	431.2	431.2	431.2	431.2
IV	科目	PC演習 III	創作デザイン III		パターンメイキング III	テクニカルデザイン II
	教室	492	431.2		431.2	431.2
V	科目				学外実習 III	
	教室					
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

学 科: 4年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	テクニカルデザイン III	卒業制作		パターンメイキング IV	パターンメイキング IV
	教室	433.4	433.4		401.2	401.2
II	科目	テクニカルデザイン III	卒業制作		パターンメイキング IV	パターンメイキング IV
	教室	433.4	433.4		401.2	401.2
III	科目	テクニカルデザイン III		創作デザイン IV		創作デザイン IV ケーススタディ III
	教室	433.4		433.4		433.4 411.2
IV	科目	テクニカルデザイン III		創作デザイン IV		創作デザイン IV ケーススタディ III
	教室	433.4		433.4		433.4 411.2
V	科目			学外実習 IV		
	教室					
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

東京モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	デザイン画Ⅱ	創造性開発Ⅰ	PC演習Ⅰ		パターンメイキングⅡ
	教室	392	コクーンB	492		392
II	科目	デザイン画Ⅱ	MEWⅡ	PC演習Ⅰ		パターンメイキングⅡ
	教室	392	392	492		392
III	科目	パターンメイキングⅡ	アパレルマーチンデザインⅠ		創作デザインⅡ	制作技法Ⅱ
	教室		392		392	413.4
IV	科目	パターンメイキングⅡ	アパレルマーチンデザインⅠ		創作デザインⅡ	制作技法Ⅱ
	教室		392		392	413.4
V	科目		ケーススタディⅠ		学外実習Ⅱ	
	教室					
VI	科目	パターンメイキングⅡ	創作デザインⅡ		制作技法Ⅱ	
	教室	431	393		411.2	
VII	科目	パターンメイキングⅡ	デザイン画Ⅱ		制作技法Ⅱ	
	教室	431	393		411.2	

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	デザイン画Ⅲ		創作デザインⅢ		ケーススタディⅡ
	教室	474		474		474
II	科目	デザイン画Ⅲ		創作デザインⅢ		ビジネストレーニングⅠ
	教室	474		474		474
III	科目	MEWⅢ	アパレル生産技術Ⅰ	PC演習Ⅲ	パターンメイキングⅢ	テクニカルデザインⅠ
	教室	474	401.2	491.4	401.2	401.2
IV	科目	MEWⅢ	アパレル生産技術Ⅰ	PC演習Ⅲ	パターンメイキングⅢ	テクニカルデザインⅠ
	教室	474	401.2	491.4	401.2	401.2
V	科目		専攻別			学外実習Ⅲ
	教室					
VI	科目	創作デザインⅢ	パターンメイキングⅢ		アパレル生産技術Ⅰ	
	教室	386	433		433	
VII	科目	デザイン画Ⅲ	パターンメイキングⅢ		アパレルマーチンデザインⅠ	
	教室	386	433		433	

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	パターンメイキングⅣ	卒業制作		テクニカルデザインⅡ	パターンメイキングⅣ
	教室	435.6	413.4		435.6	435.6
II	科目	パターンメイキングⅣ	卒業制作		テクニカルデザインⅡ	パターンメイキングⅣ
	教室	435.6	413.4		435.6	435.6
III	科目	ケーススタディⅢ		創作デザインⅣ	テクニカルデザインⅡ	創作デザインⅣ
	教室	435.6		411.2	435.6	391
IV	科目	ケーススタディⅢ		創作デザインⅣ	テクニカルデザインⅡ	創作デザインⅣ
	教室	435.6		411.2	435.6	391
V	科目			学外実習Ⅳ		
	教室			担任		
VI	科目	卒業制作		創作デザインⅣ		パターンメイキングⅣ
	教室	435		391		435
VII	科目	卒業制作		アパレルマーチンデザインⅡ		パターンメイキングⅣ
	教室	435		391		435

東京モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	デザイン画Ⅱ			制作技法Ⅱ	創造性開発Ⅰ	
	教室	393			411.2	コケーンB	
II	科目	デザイン画Ⅱ			制作技法Ⅱ	MEWⅡ	
	教室	393			411.2	393	
III	科目	創作デザインⅡ	パターンメイキングⅡ		ケーススタディⅠ	アパレルマーチンデザインⅠ	パターンメイキングⅡ
	教室	393	393		413.4	393	393
IV	科目	創作デザインⅡ	パターンメイキングⅡ		PC演習Ⅰ	アパレルマーチンデザインⅠ	パターンメイキングⅡ
	教室	393	393		492	393	393
V	科目	学外実習Ⅱ			PC演習Ⅰ		
	教室				492		
VI	科目	パターンメイキングⅡ		創作デザインⅡ		制作技法Ⅱ	
	教室	432		393		413.4	
VII	科目	パターンメイキングⅡ		デザイン画Ⅱ		制作技法Ⅱ	
	教室	432		393		413.4	

学 科: 2年 - ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目		ドレーピングⅠ		アパレル生産技術Ⅰ	ケーススタディⅡ	
	教室		431.2		431.2	385	
II	科目		ドレーピングⅠ		アパレル生産技術Ⅰ	ビジネストレーニングⅠ	
	教室		431.2		431.2	385	
III	科目	パターン理論Ⅰ	パターンメイキングⅢ	創作デザインⅢ		テクニカルデザインⅠ	ドレーピングⅠ
	教室	401.2	435.6	475		435.6	435.6
IV	科目	アパレルCAD	アパレル生産技術Ⅰ	創作デザインⅢ		テクニカルデザインⅠ	MEWⅢ
	教室	401.2	435.6	475		435.6	435.6
V	科目					学外実習Ⅲ	MEWⅢ
	教室						435.6
VI	科目	創作デザインⅢ		テクニカルパターンⅠ		アパレル生産技術Ⅰ	
	教室	385		434		434	
VII	科目	アパレルCADⅠ		テクニカルパターンⅠ		ドレーピングⅠ	
	教室	434		434		434	

学 科: 3年 - ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	パターンメイキングⅣ	ドレーピングⅡ		ドレーピングⅡ	テクニカルデザインⅡ	
	教室	401.2	435.6		433.4	433.4	
II	科目	パターンメイキングⅣ	ドレーピングⅡ		ドレーピングⅡ	テクニカルデザインⅡ	
	教室	401.2	435.6		433.4	433.4	
III	科目		卒業制作	ケーススタディⅢ		パターンメイキングⅣ	テクニカルデザインⅡ
	教室		401.2	435.6		431.2	433.4
IV	科目		卒業制作	ケーススタディⅢ		パターンメイキングⅣ	テクニカルデザインⅡ
	教室		401.2	435.6		431.2	433.4
V	科目					学外実習Ⅳ	担任
	教室						
VI	科目		卒業制作	創作デザインⅣ		テクニカルパターンⅡ	
	教室		436	392		436	
VII	科目		卒業制作	ドレーピングⅡ		テクニカルパターンⅡ	
	教室		436	436		436	

大阪モード学園時間割:前期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	制作技法 I	デザイン画 I		パターンメイキング I	クリエイション
	担当 教室	B012	046		034ABC	034ABC
II	科目	制作技法 I	デザイン画 I		パターンメイキング I	マテリアル I
	担当 教室	B012	046		034ABC	054
III	科目		パターンメイキング I		制作技法 I	カラーリング I
	担当 教室		046		B012	054
IV	科目		パターンメイキング I		制作技法 I	ファッション知識
	担当 教室		046		B012	046
V	科目		学外実習 I			ファッション史 I
	担当 教室					046
VI	科目					
	担当 教室					
VII	科目					
	担当 教室					

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目		PC演習 II	パターンメイキング II		デザイン画 II
	担当 教室		045	071AB		071ABC
II	科目		PC演習 II	パターンメイキング II		デザイン画 II
	担当 教室		045	071AB		071ABC
III	科目		創作デザイン II	学外実習 II		制作技法 II
	担当 教室		071AB			103AB
IV	科目		創作デザイン II	制作技法 II		制作技法 II
	担当 教室		071AB			103AB
V	科目			ケーススタディ I		
	担当 教室			071ABC		
VI	科目					
	担当 教室					
VII	科目					
	担当 教室					

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目		アパレル生産技術 I	パターンメイキング III	創作デザイン III	ケーススタディ II
	担当 教室		B011	053ABC	103AB	103AB
II	科目		アパレル生産技術 I	パターンメイキング III	創作デザイン III	ファッション史 III
	担当 教室		B011	053ABC	103AB	103AB
III	科目		デザイン画 III	創造性開発 II	PC演習 III	テクニカルデザイン II
	担当 教室		054	103AB	045	053ABC
IV	科目		デザイン画 III		PC演習 III	テクニカルデザイン II
	担当 教室		054		045	053ABC
V	科目					学外実習 III
	担当 教室					054
VI	科目					
	担当 教室					
VII	科目					
	担当 教室					

学 科: 4年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目		創作デザイン IV	テクニカルデザイン III		パターンメイキング IV
	担当 教室		046	034ABC		053ABC
II	科目		創作デザイン IV	テクニカルデザイン III		パターンメイキング IV
	担当 教室		046	034ABC		053ABC
III	科目		テクニカルデザイン III	ブランドプランニング II	ケースステディ III	パターンメイキング IV
	担当 教室		034ABC	054	054	053ABC
IV	科目		テクニカルデザイン III	ブランドプランニング II	ケースステディ III	創作デザイン IV
	担当 教室		034ABC	054	054	053ABC
V	科目		学外実習 IV			創作デザイン IV
	担当 教室					054
VI	科目					
	担当 教室					
VII	科目					
	担当 教室					

大阪モード学園時間割:前期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII		自己開発II
	教室	071AB	071ABC		071ABC		071AB
II	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	学外実習II	ファッション史II
	教室	071AB	071ABC		071ABC		071AB
III	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II	マテリアルII
	教室		045		B014	071ABC	071AB
IV	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II	マテリアルII
	教室		045		B014	071ABC	071AB
V	科目				ケーススタディI		
	教室				071ABC		
VI	科目	パターンメイキングII		創作デザインII		制作技法II	
	教室	071ABC		ファッション知識II		B014	
VII	科目	パターンメイキングII		デザイン画II		制作技法II	
	教室	071ABC		071AB		B014	

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ケーススタディII	専攻別
	教室		B014	034AB	103AB	046
II	科目	アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ファッション史III	専攻別
	教室		B014	034AB	103AB	046
III	科目	デザイン画III	創造性開発II		PC演習III	テクニカルデザインI
	教室	103AB	062		045	034AB
IV	科目	デザイン画III			PC演習III	テクニカルデザインI
	教室	103AB			045	034AB
V	科目					学外実習III
	教室					
VI	科目	創作デザインIII		パターンメイキングIII		アパレル生産技術I
	教室	103AB		034AB		B014
VII	科目	デザイン画III		パターンメイキングIII		アパレルマーケティングI
	教室	103AB		034AB		046

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	創作デザインIV	テクニカルデザインII	デザイン画IV	ケーススタディIII		パターンメイキングIV
	教室	054	053ABC	054	054		053ABC
II	科目	創作デザインIV	テクニカルデザインII	デザイン画IV	ケーススタディIII		パターンメイキングIV
	教室	054	053ABC	054	054		053ABC
III	科目		テクニカルデザインII		パターンメイキングIV	創作デザインIV	
	教室		053ABC		053ABC	103AB	
IV	科目		テクニカルデザインII		パターンメイキングIV	創作デザインIV	
	教室		053ABC		053ABC	103AB	
V	科目		学外実習IV				
	教室						
VI	科目	アパレル生産技術II		創作デザインIV		パターンメイキングIV	
	教室	B014		103AB		034AB	
VII	科目	アパレルマーケティングII		デザイン画IV		パターンメイキングIV	
	教室	046		103AB		034AB	

大阪モード学園時間割:前期

学 科: 1年 - ファッション技術学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	自己開発II
	教室	071AB	071ABC		071ABC	071AB
II	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	学外実習II
	教室	071AB	071ABC		071ABC	071AB
III	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II
	教室		045		B014	071ABC
IV	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II
	教室		045		B014	071ABC
V	科目				ケーススタディI	
	教室				071ABC	
VI	科目	パターンメイキングII		創作デザインII		制作技法II
	教室	071ABC		ファッション知識II		B014
VII	科目	パターンメイキングII		デザイン画II		制作技法II
	教室	071ABC		071AB		B014

学 科: 2年 - ファッション技術学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	パターン理論I	アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ケーススタディII
	教室	034C	B014	034AB	103AB	046
II	科目	アパレルCAD	アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ファッション史III
	教室	047AB	B014	034AB	103AB	046
III	科目	デザイン画III	創造性開発II			テクニカルデザインI
	教室	103AB	062			034AB
IV	科目	デザイン画III				テクニカルデザインI
	教室	103AB				034AB
V	科目					学外実習III
	教室					
VI	科目	創作デザインIII		テクニカルパターンI		パターン理論I
	教室	103AB		034AB		054
VII	科目	アパレルCAD I		テクニカルパターンI		ドレーピングI
	教室	047AB		034AB		054

学 科: 3年 - ファッション技術学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	ドレーピングII	テクニカルデザインII		ケーススタディIII	パターンメイキングIV
	教室	053ABC	053ABC		054	053ABC
II	科目	ドレーピングII	テクニカルデザインII		ケーススタディIII	パターンメイキングIV
	教室	053ABC	053ABC		054	053ABC
III	科目		テクニカルデザインII	ドレーピングII	パターンメイキングIV	創作デザインIV
	教室		053ABC	034ABC	053ABC	103AB
IV	科目		テクニカルデザインII	ドレーピングII	パターンメイキングIV	創作デザインIV
	教室		053ABC	034ABC	053ABC	103AB
V	科目		学外実習IV			
	教室					
VI	科目	アパレル生産技術II		創作デザインIV		テクニカルパターンII
	教室	B014		デザイン画IV		053ABC
VII	科目	ドレーピングII		アパレルCAD II		テクニカルパターンII
	教室	034AB		047AB		053ABC

大阪モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	制作技法 I	デザイン画 I		PC演習 I	クリエイション	
	教室	B012	103AB		045	073	
II	科目	制作技法 I	デザイン画 I		PC演習 I	マテリアル I	自己開発 I
	教室	B012	103AB		045	054	103AB
III	科目		パターンメイキング I		制作技法 I	カラーリング I	ファッション知識
	教室		046		B012	054	103AB
IV	科目		パターンメイキング I		制作技法 I		ファッション史 I
	教室		046		B102		103AB
V	科目		学外実習 I				MEW I
	教室						103AB
VI	科目						
	教室						
VII	科目						
	教室						

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目		PC演習 II	パターンメイキング II		デザイン画 II	創造性開発 I
	教室		045	071ABC		071ABC	071ABC
II	科目		PC演習 II	パターンメイキング II		デザイン画 II	MEW II
	教室		045	071ABC		071ABC	071ABC
III	科目	創作デザイン II	学外実習 II	制作技法 II		テクニカルデザイン I	アパレルマーチンディング
	教室	071ABC		B014		046	046
IV	科目	創作デザイン II		制作技法 II		テクニカルデザイン I	アパレルマーチンディング
	教室	071ABC		B014		046	046
V	科目			ケーススタディ I			
	教室			071ABC			
VI	科目						
	教室						
VII	科目						
	教室						

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	アパレル生産技術 I	パターンメイキング III	創作デザイン III	ケーススタディ II		
	教室	B011	053ABC	046	054		
II	科目	アパレル生産技術 I	パターンメイキング III	創作デザイン III	ビジネストレーニング I		
	教室	B011	053ABC	046	103ABC		
III	科目	デザイン画 III	ファッションクリエーター論	PC演習 III		テクニカルデザイン II	MEW III
	教室	046	103A	045	053ABC	071ABC	
IV	科目	デザイン画 III		PC演習 III		テクニカルデザイン II	MEW III
	教室	046		045	053ABC	071ABC	
V	科目				学外実習 III		
	教室						
VI	科目						
	教室						
VII	科目						
	教室						

学 科: 4年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	創作デザイン IV	テクニカルデザイン III		パターンメイキング IV		
	教室	103AB	034ABC		034ABC		
II	科目	創作デザイン IV	テクニカルデザイン III		パターンメイキング IV		
	教室	103AB	034ABC		034ABC		
III	科目		テクニカルデザイン III	卒業制作	ケースステディ III	創作デザイン IV	パターンメイキング IV
	教室		034ABC	054	054	103AB	034ABC
IV	科目		テクニカルデザイン III	卒業制作	ケースステディ III	創作デザイン IV	パターンメイキング IV
	教室		034ABC	054	054	103AB	034ABC
V	科目		学外実習 IV				
	教室						
VI	科目						
	教室						
VII	科目						
	教室						

大阪モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	創造性開発I
	教室	071ABC	071ABC		071ABC	071ABC
II	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	学外実習II
	教室	071ABC	071ABC		071ABC	071ABC
III	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II
	教室		045		B014	071ABC
IV	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II
	教室		045		B014	071ABC
V	科目				ケーススタディI	
	教室				071ABC	
VI	科目	パターンメイキングII		創作デザインII		制作技法II
	教室	071ABC		071AB		B014
VII	科目	パターンメイキングII		デザイン画II		制作技法II
	教室	071ABC		071AB		B014

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ケーススタディII	
	教室		B014	034ABC	103AB	103AB
II	科目	アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ビジネストレーニングI	
	教室		B014	034ABC	103AB	103AB
III	科目	デザイン画III	専攻別		PC演習III	テクニカルデザインI
	教室	054	071		045	034ABC
IV	科目	デザイン画III			PC演習III	テクニカルデザインI
	教室	054			045	034ABC
V	科目					学外実習III
	教室					
VI	科目	創作デザインIII		パターンメイキングIII		アパレル生産技術I
	教室	103AB		034AB		B011
VII	科目	デザイン画III		パターンメイキングIII		アパレル生産技術I
	教室	103AB		034AB		046

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	創作デザインIV	テクニカルデザインII		ケーススタディIII	パターンメイキングIV
	教室	046	053ABC		054	034ABC
II	科目	創作デザインIV	テクニカルデザインII		ケーススタディIII	パターンメイキングIV
	教室	046	053ABC		054	034ABC
III	科目		テクニカルデザインII	卒業制作	パターンメイキングIV	創作デザインIV
	教室		053ABC	054	034ABC	073
IV	科目		テクニカルデザインII	卒業制作	パターンメイキングIV	創作デザインIV
	教室		053ABC	054	034ABC	073
V	科目		学外実習IV			
	教室		担任			
VI	科目	卒業制作		創作デザインIV		パターンメイキングIV
	教室	B014		103AB		034AB
VII	科目	卒業制作				パターンメイキングIV
	教室	B014		046		034AB

大阪モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	創作デザイン II	パターンメイキング II		パターンメイキング II	創造性開発 I
	教室	071ABC	071ABC		071ABC	071ABC
II	科目	創作デザイン II	パターンメイキング II		パターンメイキング II	学外実習 II
	教室	071ABC	071ABC		071ABC	071ABC
III	科目		PC演習 I		制作技法 II	デザイン画 II
	教室		045		B014	071ABC
IV	科目		PC演習 I		制作技法 II	デザイン画 II
	教室		045		B014	071ABC
V	科目				ケーススタディ I	
	教室				071ABC	
VI	科目	パターンメイキング II		創作デザイン II		制作技法 II
	教室	071ABC		071AB		B014
VII	科目	パターンメイキング II		デザイン画 II		制作技法 II
	教室	071ABC		071AB		B014

学 科: 2年 - ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	パターン理論 I	アパレル生産技術 I	パターンメイキング III	創作デザイン III	ケーススタディ II
	教室	054	B014	034ABC	103AB	103AB
II	科目	アパレルCAD	アパレル生産技術 I	アパレル生産技術 I	創作デザイン III	ビジネストレーニング I
	教室	047AB	B014	034ABC	103AB	103AB
III	科目	ドレーピング I				テクニカルデザイン I
	教室	034ABC				034ABC
IV	科目	ドレーピング I				テクニカルデザイン I
	教室	034ABC				034ABC
V	科目	ドレーピング I				学外実習 III
	教室	034AB				
VI	科目	創作デザイン III		テクニカルパターン I		アパレル生産技術 I
	教室	103AB		034AB		B011
VII	科目	ドレーピング I		テクニカルパターン I		アパレルCAD I
	教室	034AB		034AB		047AB

学 科: 3年 - ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	ドレーピング II	テクニカルデザイン II		ケーススタディ III	ドレーピング II
	教室	034ABC	053ABC		054	034ABC
II	科目	ドレーピング II	テクニカルデザイン II		ケーススタディ III	ドレーピング II
	教室	034ABC	053ABC		054	034ABC
III	科目		テクニカルデザイン II	卒業制作	パターンメイキング IV	
	教室		053ABC	054	034ABC	
IV	科目		テクニカルデザイン II	卒業制作	パターンメイキング IV	
	教室		053ABC	054	034ABC	
V	科目		学外実習 IV			
	教室		担任			
VI	科目	卒業制作		創作デザイン IV		テクニカルパターン II
	教室	B014		103AB		053ABC
VII	科目	卒業制作		ドレーピング II		テクニカルパターン II
	教室	B014		053ABC		053ABC

名古屋モード学園時間割:前期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	制作技法 I	デザイン画 I		パターンメイキング I	クリエイション
	教室	251	301		282	251
II	科目	制作技法 I	デザイン画 I		パターンメイキング I	マテリアル I
	教室	251	301		282	251
III	科目				制作技法 I	カラーリング I
	教室					ファッション知識
IV	科目		パターンメイキング I		制作技法 I	ファッション知識
	教室		262		255	281
V	科目		学外実習 I			ファッション史 I
	教室					281
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目		PC演習 II	パターンメイキング II		デザイン画 II
	教室		265	282		282
II	科目		PC演習 II	パターンメイキング II		デザイン画 II
	教室		265	282		282
III	科目	創作デザイン II	学外実習 II	制作技法 II		制作技法 II
	教室	281				マテリアル II
IV	科目	創作デザイン II		制作技法 II		制作技法 II
	教室	281		251		251
V	科目			ケーススタディ I		
	教室			282		291
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	アパレル生産技術 I	パターンメイキング III	創作デザイン III	ケーススタディ II	
	教室	252	262	273/274	261/262	
II	科目	アパレル生産技術 I	パターンメイキング III	創作デザイン III		ファッション史 III
	教室	252	262	273/274	261/262	
III	科目	デザイン画 III	創造性開発 II	PC演習 III		テクニカルデザイン II
	教室	282	291	265	261	ブランドプランニング I
IV	科目	デザイン画 III		PC演習 III		テクニカルデザイン II
	教室	282		265	261	ブランドプランニング I
V	科目					学外実習 III
	教室					282
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

学 科: 4年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	創作デザイン IV	テクニカルデザイン III		パターンメイキング IV	
	教室	282	271		261	
II	科目	創作デザイン IV	テクニカルデザイン III		パターンメイキング IV	
	教室	282	271		261	
III	科目		テクニカルデザイン III	ブランドプランニング II	ケースステディ III	創作デザイン IV
	教室		271	282	261	281
IV	科目		テクニカルデザイン III	ブランドプランニング II	ケースステディ III	創作デザイン IV
	教室		271	282	261	281
V	科目		学外実習 IV			
	教室					271
VI	科目					
	教室					
VII	科目					
	教室					

名古屋モード学園時間割:前期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	自己開発II	
	教室	281	282		271/272	291	
II	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	学外実習II	ファッション史II
	教室	281	282		271/272	291	
III	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II	マテリアルII
	教室		265		251	282	291
IV	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II	マテリアルII
	教室		265		251	282	291
V	科目				ケーススタディI		
	教室				282		
VI	科目	パターンメイキングII		創作デザインII		制作技法II	
	教室	282		281		251	
VII	科目	パターンメイキングII		デザイン画II		制作技法II	
	教室	282		282		251	

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目		アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ケーススタディII	専攻別
	教室		251	261	273/274	261/262	261/262
II	科目		アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ファッション史III	専攻別
	教室		251	261	273/274	261/262	261/262
III	科目	デザイン画III	創造性開発II		PC演習III	テクニカルデザインI	
	教室	282	291		265	262	
IV	科目	デザイン画III			PC演習III	テクニカルデザインI	
	教室	282			265	262	
V	科目					学外実習III	
	教室						
VI	科目	創作デザインIII		パターンメイキングIII		アパレル生産技術I	
	教室	273/274		261		251	
VII	科目	デザイン画III		パターンメイキングIII		アパレル生産技術I	
	教室	282		261		261/262	

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	創作デザインIV	テクニカルデザインII	デザイン画IV	ケーススタディIII		パターンメイキングIV
	教室	282	272	301	262		271
II	科目	創作デザインIV	テクニカルデザインII	デザイン画IV	ケーススタディIII		パターンメイキングIV
	教室	282	272	301	262		271
III	科目		テクニカルデザインII		パターンメイキングIV	創作デザインIV	
	教室		272		262	301	
IV	科目		テクニカルデザインII		パターンメイキングIV	創作デザインIV	
	教室		272		262	301	
V	科目		学外実習IV				
	教室						
VI	科目	アパレル生産技術II		創作デザインIV		パターンメイキングIV	
	教室	255		282		262	
VII	科目	アパレルマーケティングII		デザイン画IV		パターンメイキングIV	
	教室	262		301		262	

名古屋モード学園時間割:前期

学 科: 1年 - ファッション技術学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	自己開発II	
	教室	281	282		271/272	291	
II	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	学外実習II	ファッション史II
	教室	281	282		271/272		291
III	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II	マテリアルII
	教室		265		251	282	291
IV	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II	マテリアルII
	教室		265		251	282	291
V	科目				制作技法II		
	教室				251		
VI	科目	パターンメイキングII		創作デザインII		制作技法II	
	教室	282		281		251	
VII	科目	パターンメイキングII		デザイン画II		制作技法II	
	教室	282		282		251	

学 科: 2年 - ファッション技術学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	パターン理論I	アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ケーススタディII	専攻別
	教室	261	252	272	273/274	261/262	261/262
II	科目	アパレルCAD	アパレル生産技術I	アパレル生産技術I	創作デザインIII	ファッション史III	専攻別
	教室	265	252	272	273/274	261/262	261/262
III	科目	デザイン画III	創造性開発II			テクニカルデザインI	
	教室	282	291			261	
IV	科目	デザイン画III				テクニカルデザインI	
	教室	282				261	
V	科目					学外実習III	
	教室						
VI	科目	創作デザインIII		テクニカルパターンI		パターン理論I	
	教室	282		272		261	
VII	科目	アパレルCAD I		テクニカルパターンI		ドレーピングI	
	教室	265		272		261	

学 科: 3年 - ファッション技術学科

前期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	ドレーピングII			パターンメイキングIV	テクニカルデザインII	
	教室	271			261	271	
II	科目	ドレーピングII			パターンメイキングIV	テクニカルデザインII	
	教室	271			261	271	
III	科目		テクニカルデザインII	ドレーピングII	ケースステディIII	創作デザインIV	パターンメイキングIV
	教室		271	271	261	301	271
IV	科目		テクニカルデザインII	ドレーピングII	ケースステディIII	創作デザインIV	パターンメイキングIV
	教室		271	271	261	301	271
V	科目		学外実習IV				
	教室						
VI	科目	アパレル生産技術II		創作デザインIV		テクニカルパターンII	
	教室			301		271	
VII	科目	ドレーピングII		アパレルCAD II		テクニカルパターンII	
	教室	271		265		271	

名古屋モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	制作技法 I	デザイン画 I		PC演習 I	クリエイション	
	教室	251	273		265	291	
II	科目	制作技法 I	デザイン画 I		PC演習 I	マテリアル I	自己開発 I
	教室	251	273		265	291	281
III	科目		パターンメイキング I		制作技法 I	カラーリング I	ファッション知識
	教室		262		255	263	281
IV	科目		パターンメイキング I		制作技法 I		ファッション史 I
	教室		262		255		281
V	科目		学外実習 I				MEW I
	教室						281
VI	科目						
	教室						
VII	科目						
	教室						

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目		PC演習 II	パターンメイキング II		デザイン画 II	創造性開発 I
	教室		265	271/272		273	291
II	科目		PC演習 II	パターンメイキング II		デザイン画 II	MEW II
	教室		265	271/272		273	282
III	科目	創作デザイン II	学外実習 II	制作技法 II		テクニカルデザイン I	アパレルマーチンディング
	教室	274		251		271	291
IV	科目	創作デザイン II		制作技法 II		テクニカルデザイン I	アパレルマーチンディング
	教室	274		251		271	291
V	科目			ケーススタディ I			
	教室			282			
VI	科目						
	教室						
VII	科目						
	教室						

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	アパレル生産技術 I	パターンメイキング III	創作デザイン III	ケーススタディ II		
	教室	252	261	273/274	282		
II	科目	アパレル生産技術 I	パターンメイキング III	創作デザイン III	ビジネストレーニング I		
	教室	252	261	273/274	282		
III	科目	デザイン画 III	ファッションクリエーター論	PC演習 III		テクニカルデザイン II	MEW III
	教室	273	273	266		261	282
IV	科目	デザイン画 III		PC演習 III		テクニカルデザイン II	MEW III
	教室	273		266		261	282
V	科目					学外実習 III	
	教室						
VI	科目						
	教室						
VII	科目						
	教室						

学 科: 4年 - ファッションデザイン学科 (高度専門士コース)

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	科目	創作デザイン IV	テクニカルデザイン III		パターンメイキング IV		
	教室	274	271		271		
II	科目	創作デザイン IV	テクニカルデザイン III		パターンメイキング IV		
	教室	274	271		271		
III	科目		テクニカルデザイン III	卒業制作	ケースステディ III	創作デザイン IV	パターンメイキング IV
	教室		271	271/272	282	273	271
IV	科目		テクニカルデザイン III	卒業制作	ケースステディ III	創作デザイン IV	パターンメイキング IV
	教室		271	271/272	282	273	271
V	科目		学外実習 IV				
	教室						
VI	科目						
	教室						
VII	科目						
	教室						

名古屋モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - ファッションデザイン学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	創造性開発I
	教室	273	282		261/262	291
II	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	学外実習II
	教室	273	282		261/262	282
III	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II
	教室		265		251	282
IV	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II
	教室		265		251	282
V	科目				ケーススタディI	
	教室				282	
VI	科目	パターンメイキングII		創作デザインII		制作技法II
	教室	282		273		251
VII	科目	パターンメイキングII		デザイン画II		制作技法II
	教室	282		282		251

学 科: 2年 - ファッションデザイン学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目		アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ケーススタディII
	教室		251	262	273/274	282
II	科目		アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ビジネストレーニングI
	教室		251	262	273/274	282
III	科目	デザイン画III	専攻別		PC演習III	テクニカルデザインI
	教室	273	261/274/282		265	262
IV	科目	デザイン画III			PC演習III	テクニカルデザインI
	教室	273			265	262
V	科目					学外実習III
	教室					
VI	科目	創作デザインIII		パターンメイキングIII		アパレル生産技術I
	教室	273/274		262		251
VII	科目	デザイン画III		パターンメイキングIII		アパレル生産技術I
	教室	273		262		261/262

学 科: 3年 - ファッションデザイン学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	創作デザインIV	テクニカルデザインII		ケーススタディIII	パターンメイキングIV
	教室	274	272		282	271
II	科目	創作デザインIV	テクニカルデザインII		ケーススタディIII	パターンメイキングIV
	教室	274	272		282	271
III	科目		テクニカルデザインII	卒業制作	パターンメイキングIV	創作デザインIV
	教室		272	271/272	271	273
IV	科目		テクニカルデザインII	卒業制作	パターンメイキングIV	創作デザインIV
	教室		272	271/272	271	273
V	科目		学外実習IV			
	教室					
VI	科目	卒業制作		創作デザインIV		パターンメイキングIV
	教室	271/272		273		271
VII	科目	卒業制作		アパレルマーケティングII		パターンメイキングIV
	教室	271/272		262		271

名古屋モード学園時間割:後期

学 科: 1年 - ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	創造性開発I
	教室	273	282		261/262	291
II	科目	創作デザインII	パターンメイキングII		パターンメイキングII	学外実習II
	教室	273	282		261/262	282
III	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II
	教室		265		251	282
IV	科目		PC演習I		制作技法II	デザイン画II
	教室		265		251	282
V	科目				ケーススタディI	
	教室				282	
IV	科目	パターンメイキングII		創作デザインII		制作技法II
	教室	261/262		273		251
V	科目	パターンメイキングII		創作デザインII		制作技法II
	教室	261/262		273		251

学 科: 2年 - ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	パターン理論I	アパレル生産技術I	パターンメイキングIII	創作デザインIII	ケーススタディII
	教室	261	252	261	273/274	282
II	科目	アパレルCAD	アパレル生産技術I	アパレル生産技術I	創作デザインIII	ビジネストレーニングI
	教室	265	252	261	273/274	282
III	科目	ドレーピングI				テクニカルデザインI
	教室	261				261
IV	科目	ドレーピングI				テクニカルデザインI
	教室	261				261
V	科目					学外実習III
	教室					
VI	科目	創作デザインIII		テクニカルパターンI		アパレル生産技術I
	教室	282		272		252
VII	科目	アパレルCAD I		テクニカルパターンI		ドレーピングI
	教室	265		272		261

学 科: 3年 - ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	科目	ドレーピングII	パターンメイキングIV		テクニカルデザインII	テクニカルデザインII
	教室	271	262		272	272
II	科目	ドレーピングII	パターンメイキングIV		テクニカルデザインII	テクニカルデザインII
	教室	271	262		272	272
III	科目		ドレーピングII	卒業制作	ケーススタディIII	ドレーピングII
	教室		261	271/272	282	272
IV	科目		ドレーピングII	卒業制作	ケーススタディIII	ドレーピングII
	教室		261	271/272	282	272
V	科目		学外実習IV			
	教室					
VI	科目	卒業制作		創作デザインIV		パターンメイキングIV
	教室	271/272		273		271
VII	科目	卒業制作		アパレルマーチャンダイジングE		パターンメイキングIV
	教室	271/272		262		271

撮影スタジオ、写真・映像撮影機材等の使用に関する覚書を添付した。

国際ファッション専門職大学 教育課程連携協議会規定

(目的)

第 1 条 本規定は、専門職大学設置基準第 11 条、および国際ファッション専門職大学(以下「本学」)学則第 13 章第 50 条に基づき、本学に設置する教育課程連携協議会の組織及び運営等について定め、産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施することを目的とする。

(構成)

第 2 条 教育課程連携協議会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長が指名する教員その他の職員
- (2) 本学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有するもの
- (3) 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者
- (4) 臨地実務実習(第二十九条第一項第四号に規定する臨地実務実習をいう。)その他の授業科目の開設又は授業の実施において当該専門職大学と協力する事業者
- (5) 本学の教員その他の職員以外の者であって学長が必要と認めるもの

2. 議長は、学長が任命する構成員が担当し、議長が教育課程連携協議会を招集する。
3. 議長が止むを得ない事情で教育課程連携協議会に出席できない場合には、学長の指名した者が議長の職務を代行する。

(開催)

第 3 条 教育課程連携協議会は、定例会議及び臨時会議とする。

2. 定例会議は、原則年 1 回開催する。
3. 臨時会議は、学長が必要と認めるときに開催する。

(役割)

第 4 条 教育課程連携協議会は、次に掲げる事項について審議し、学長に意見を述べるものとする。

- (1) 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- (2) 産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する

基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

(非構成員の出席)

第 5 条 議長は、必要があるときには、教職員を陪席させ、又は構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(守秘義務)

第 6 条 学生ならびに教職員の個人情報に関する事項及び臨地実務実習受入施設の情報に関する事項については、秘密を漏らしてはならない。

付 則

この規定は、平成 31 年 4 月 1 日より施行する。

臨地実習計画書

国際ファッション専門職大学国際ファッション学部

年 月 日

入学年度	平成 年度	学科名	<input type="checkbox"/> ファッションクリエイション学科 <input type="checkbox"/> ファッションビジネス学科 <input type="checkbox"/> 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 <input type="checkbox"/> 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	
(フリガナ)		学籍番号		
氏名				
主指導教員名			指導教員 確認印	
実習先				
実習期間	年 月 日 ~		年 月 日	
実習課題				
(実習の目的と内容)				
備考				

臨地実習報告書

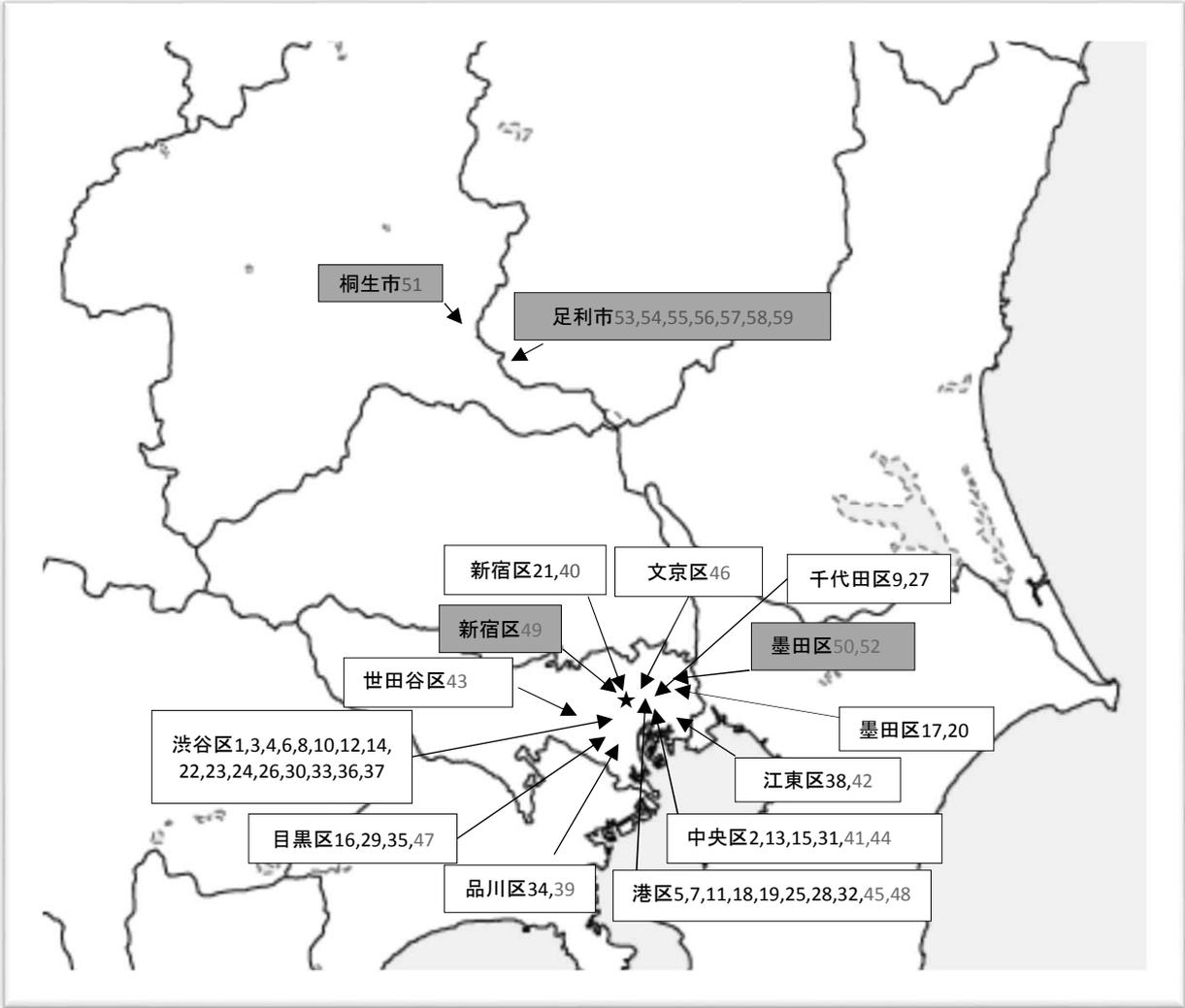
国際ファッション専門職大学国際ファッション学部

年 月 日

入学年度	平成 年度	学科名	<input type="checkbox"/> ファッションクリエイション <input type="checkbox"/> ファッションビジネス <input type="checkbox"/> 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 <input type="checkbox"/> 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	
(フリガナ)		学籍番号		
氏名				
主指導教員名			指導教員 確認印	
実習先				
実習期間	年 月 日 ~		年 月 日	
実習課題				
(実習の目的と内容)				
(主な成果)				
備考	いずれかにチェックをしてください。 <input type="checkbox"/> 臨地実習Ⅰの単位取得を希望する。 <input type="checkbox"/> 臨地実習Ⅱの単位取得を希望する。 <input type="checkbox"/> 海外実習 の単位取得を希望する。			

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科
臨地実習 実習先
関東（東京都、群馬県、栃木県）
（全59施設）

- 付数字 = 臨地実習Ⅰ実習先
- 付数字 = 臨地実習Ⅱ実習先
- ★ = 本学校舎



国際ファッション学部ファッションクリエイション学科

臨地実習 実習先

1	アイア株式会社	31	株式会社フォクシー（本社ビル）
2	株式会社アイジーエー	32	45rpm studio株式会社
3	株式会社アズノウアズ	33	株式会社ベイクルーズ（渋谷キャスト）
4	株式会社アダストリア	34	株式会社ヨウジヤマモト（T33）
5	アニエスベージャパン株式会社（MFPR六本木麻布台ビル）	35	株式会社ルック（本館ビル）
6	株式会社アバハウスインターナショナル（東京建物東渋谷ビルディング）	36	株式会社ルネ（大菅ビルディング）
7	株式会社イケガミ（六本木本部）	37	株式会社レイ・カズン（本社）
8	株式会社上野商会（小田急サザンタワー）	38	株式会社レナウン
9	株式会社エムズ（野村ビル）	39	株式会社クオラス
10	株式会社オゾンコミュニティ（ヒステリックグラマー）	40	株式会社これから
11	株式会社オンワード樫山（オンワードベイパークビルディング）	41	株式会社ファイブスターインタラクティブ
12	株式会社ギャレット（A-PLACE恵比寿南ビル3F）	42	プランニングオム株式会社
13	株式会社キャン（東京本部歌舞伎座タワー）	43	株式会社エフジー武蔵
14	株式会社グレイス（本社ウノサワ東急ビル）	44	株式会社朝日広告社
15	クロスプラス株式会社	45	株式会社エアークローゼット
16	株式会社サードオフィス	46	チームラボ株式会社
17	株式会社サイカイ（本社ビル）	47	株式会社リグラフィティ
18	株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド（住友不動産麻布十番ビル）	48	株式会社タガタメ
19	株式会社サンエービーディー（新青山ビル7F）	49	株式会社富田染工芸（東京染ものがたり博物館）
20	株式会社サンマリノ	50	株式会社小倉メリヤス製造所
21	株式会社三陽商会（四谷本社ビル）	51	株式会社土田産業
22	株式会社ジャパンイマジネーション（本社及び店舗）	52	株式会社川合染工場
23	株式会社シュガーマトリックス	53	鶴貝捺染工業有限会社 本社
24	田村駒株式会社（東京本社ビル）	54	朝日染色株式会社 本社工場
25	株式会社東京ソワール（本社新青山ビルディング）	55	有限会社初山染工 本社
26	株式会社トゥモローランド（恵比寿本社）	56	有限会社トーゴースクリーン 本社
27	豊島株式会社（東京本社）	57	株式会社田野商店 本社
28	株式会社ナルミヤ・インターナショナル（本社事務所）	58	サンポープラス株式会社
29	株式会社バロックジャパンリミテッド（青葉台ヒルズ）	59	有限会社ワダノブテックス 本社
30	株式会社ファイブフォックス（原宿F Fビル）		

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科 臨地実習 実習先 関東59施設詳細 (NO. 1~NO. 59)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
1	アイア株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区渋谷1-1-5	4	新宿駅から渋谷駅まで J R 山手線で10分	渋谷駅から徒歩10分
2	株式会社アイジーエー	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都中央区銀座3-7-3 銀座オーミビル6F	2	新宿駅から代官山駅まで J R 山手線・東急東横線で17分	代官山駅から徒歩3分
3	株式会社アズノウアズ	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区富ヶ谷2-24-7	4	新宿駅から代々木上原駅まで小田急小田原線で7分	代々木上原駅から徒歩約14分
4	株式会社アダストリア	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区渋谷2丁目21番1号 渋谷ヒカリエ 27F	4	新宿駅から渋谷駅まで J R 山手線で10分	渋谷駅から徒歩0分
5	アニエスベージャパン株式会社 (MFPR六本木麻布台ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区六本木1-8-7 MFPR六本木麻布台ビル	4	新宿駅から六本木1丁目まで東京メトロ丸ノ内線・南北線で20分	六本木1丁目駅から徒歩3分
6	株式会社アパハウスインターナショナル (東京建物東渋谷ビルディング)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区東1-16-20	3	新宿駅から渋谷駅まで J R 山手線で10分	渋谷駅から徒歩10分
7	株式会社イケガミ (六本木本部)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区六本木6-8-22	3	新宿駅から六本木駅まで都営大江戸線で9分	六本木駅から徒歩7分
8	株式会社上野商会 (小田急サザンタワー)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区代々木2-2-1 サザンタワー6F	10		新宿駅から徒歩8分
9	株式会社エムズ (野村ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都千代田区四番町4-8 野村ビル5階	10	新宿駅から市ヶ谷駅まで J R 総武線で9分	市ヶ谷駅から徒歩5分
10	株式会社オゾンコミュニティ (ヒステリックグラマー)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区千駄ヶ谷3-1 2-6	2	新宿駅から北参道駅まで東京メトロ丸ノ内線・副都心線で10分	北参道駅から徒歩3分
11	株式会社オンワード樫山 (オンワードベイパークビルディング)	アパレルメーカー (企画・製造)	〒108-8439 東京都港区海岸3-9-32	20	新宿駅から田町駅まで J R 山手線で24分	田町駅から徒歩14分

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科 臨地実習 実習先 関東59施設詳細 (NO. 1～NO. 59)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受入可能人数	主要駅から最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
12	株式会社ギャレット (A-PLACE恵比寿南ビル3F)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区恵比寿南1-15-1	2	新宿駅から恵比寿駅までJR山手線で9分	恵比寿駅から徒歩3分
13	株式会社キャン (東京本部歌舞伎座タワー)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都中央区銀座4-12-15 歌舞伎座タワー18F	3	新宿駅から東銀座駅まで東京メトロ丸ノ内線・日比谷線で22分	東銀座駅から徒歩0分
14	株式会社グレイス (本社ウノサワ東急ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区恵比寿1-19-15 ウノサワ東急	3	新宿駅から恵比寿駅までJR山手線で9分	恵比寿駅から徒歩5分
15	クロスプラス株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都中央区日本橋浜町3-3-2 トルナーレ日本橋浜町12F	2	新線新宿駅から浜町駅まで都営新宿線で16分	浜町駅から徒歩8分
16	株式会社サードオフィス	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都目黒区東山3-8-1 東急池尻大橋ビル6F	3	新宿駅から池尻大橋駅までJR山手線・東急田園都市線で17分	池尻大橋駅から徒歩5分
17	株式会社サイカイ (本社ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都墨田区両国4-7-1	4	新線新宿駅から森下駅まで都営新宿線で17分	森下駅から徒歩11分
18	株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド (住友不動産麻布十番ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区三田1-4-1 住友不動産麻布十番ビル10F	20	新宿駅から赤羽橋駅まで都営大江戸線で11分	赤羽橋駅から徒歩3分
19	株式会社サンエービーディー (新青山ビル7F)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル	1	新宿駅から青山1丁目駅まで都営大江戸線で7分	青山1丁目駅から徒歩0分
20	株式会社サンマリノ	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都墨田区両国2-9-5 925両国	3	新宿駅から両国駅まで総武線で21分	両国駅から徒歩10分
21	株式会社三陽商会 (四谷本社ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都新宿区四谷本塩町6-14	2	新宿駅から四ツ谷駅までJR中央線で4分	四ツ谷駅から徒歩5分
22	株式会社ジャパンイマジネーション (本社及び店舗)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区代々木1-11-2 代々木コミュニティビル4F	3	新宿駅から代々木駅までJR山手線で2分	代々木駅から徒歩3分

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科 臨地実習 実習先 関東59施設詳細 (NO. 1～NO. 59)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
23	株式会社シュガーマトリックス	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区恵比寿南 3-9-25	2	新宿駅から恵比寿駅までJR山手線で9分	恵比寿駅から徒歩5分
24	田村駒株式会社 (東京本社ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区神宮前1 丁目3番10号 6階	2	新宿駅から原宿駅までJR山手線で4分	原宿駅から徒歩10分
25	株式会社東京ソワール (本社新青 山ビルディング)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区南青山1- 1-1	1	新宿駅から青山1丁目駅まで都営大江戸線で7分	青山一丁目駅から徒歩1分
26	株式会社トゥモローランド (恵比 寿本社)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区恵比寿西 1-32-18	4	新宿駅から恵比寿駅までJR山手線で9分	恵比寿駅から徒歩6分
27	豊島株式会社 (東京本社)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都千代田区神田岩 本町2-1	5	新線新宿駅から岩本町駅まで都営新宿線で19分	岩本町駅から徒歩1分
28	株式会社ナルミヤ・インターナ ショナル (本社事務所)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区芝公園2- 4-1 芝パークビルB 館9階	3	新宿駅から大門駅まで都営大江戸線で16分	大門駅から徒歩3分
29	株式会社ブロックジャパンリミ テッド (青葉台ヒルズ)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都目黒区青葉台4- 7-7	2	新宿駅から池尻大橋駅までJR山手線・東急田 園都市線で17分	池尻大橋駅から徒歩10分
30	株式会社ファイブフォックス (原 宿FFビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-38-12	3	新宿駅から北参道駅まで東京メトロ丸ノ内線・ 副都心線で10分	北参道駅から徒歩3分
31	株式会社フォクシー (本社ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都中央区銀座6-8- 1	2	新宿駅から銀座駅まで東京メトロ丸ノ内線で16 分	銀座駅から徒歩3分
32	45rpm studio株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区南青山7-2- 1	10	新宿駅から渋谷駅までJR山手線で10分	渋谷駅から徒歩17分
33	株式会社バイクルーズ (渋谷キャ スト)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区渋谷1- 23-21 渋谷キャスト	3	新宿駅から渋谷駅までJR山手線で10分	渋谷駅から徒歩8分

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科 臨地実習 実習先 関東59施設詳細 (NO. 1~NO. 59)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受入可能人数	主要駅から最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
34	株式会社ヨウジヤマモト (T33)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都品川区東品川2-2-43T33 3F	3	新宿駅から天王洲アイル駅までJR埼京線・りんかい線で20分	天王洲アイル駅から徒歩7分
35	株式会社ルック (本館ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都目黒区中目黒2-7-7	5	新宿駅から中目黒駅までJR山手・東急東横線で18分	中目黒駅から徒歩12分
36	株式会社ルネ (大菅ビルディング)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区渋谷2-11-8	1	新宿駅から渋谷駅までJR山手線で10分	渋谷駅から徒歩9分
37	株式会社レイ・カズン (本社)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目24番9号	2	新宿駅から北参道駅まで東京メトロ丸ノ内線・副都心線で10分	北参道駅から徒歩7分
38	株式会社レナウン	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都江東区有明3丁目6番11号TFTビル東館6F	4	新宿駅から国際展示場駅までJR埼京線・りんかい線で27分	国際展示場駅から徒歩7分
39	株式会社クオラス (社屋)	広告代理店	東京都品川区大崎2-1-1 ThinkParkTower7F	1	新宿駅から大崎駅までJR山手線で13分	大崎駅から徒歩7分
40	株式会社これから (大橋御苑ビル6F)	I T	東京都新宿区新宿2-3-15 大橋御苑ビル6階	1	学園から徒歩で30分	
41	株式会社FIVESTAR interactive	I T	東京都中央区銀座6-12-13 大東銀座ビル6F	1	新宿駅から銀座駅まで東京メトロ丸ノ内線で15分	銀座駅から徒歩10分
42	プランニングオム株式会社 (玄間ビル)	広告代理店	東京都江東区高橋4-7 玄間ビル6階	1	新宿駅から森下駅まで都営新宿線で23分	森下駅から徒歩7分
43	株式会社エフジー武蔵 (ステーションプラザ代田橋B1)	広告代理店	東京都世田谷区大原2-17-6 B1	1	新宿駅から代田橋駅まで京王線で8分	代田橋駅から徒歩2分
44	株式会社朝日広告社 (G7ビル)	広告代理店	東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビル	1	新宿駅から銀座駅まで東京メトロ丸ノ内線で15分	銀座駅から徒歩10分

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科 臨地実習 実習先 関東59施設詳細 (NO. 1~NO. 59)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受入可能人数	主要駅から最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
45	株式会社エアークローゼット (本社)	I T	東京都港区南青山3-1-31 NBF南青山ビル5F	1	新宿駅から表参道駅までJR山手線・東京メトロ千代田線で15分	銀座駅から徒歩5分
46	チームラボ株式会社 (本社)	I T	東京都文京区本郷1-11-6 東接本郷ビル5F	1	新宿駅から水道橋駅までJR総武線で15分	水道橋駅から徒歩10分
47	株式会社リグラフィティ (本社)	I T	東京都目黒区下目黒二丁目20番20号第8千陽ビル4階	1	新宿駅から目黒駅までJR山手線で13分	目黒駅から徒歩7分
48	株式会社タガタメ (AXIA青山)	広告代理店	東京都港区赤坂8-5-28 AXIA青山 3F	1	都庁前駅から青山一丁目駅まで都営大江戸線で15分	青山一丁目駅から徒歩5分
49	株式会社富田染芸 (東京染ものがたり博物館)	アパレルメーカー (紡績・染色等)	東京都新宿区西早稲田3-6-14	20	新宿駅から早稲田駅までJR山手線・東京メトロ東西線で15分	早稲田駅から徒歩15分
50	株式会社小倉メリヤス製造所	アパレルメーカー (紡績・染色等)	東京都墨田区石原3-12-9	10	新宿駅から両国駅まで総武線で21分	両国駅から徒歩17分
51	株式会社土田産業	アパレルメーカー (紡績・染色等)	群馬県桐生市新宿2丁目2番21号	10	新宿駅から桐生駅までJR宇都宮線・両毛線で2時間43分	桐生駅から徒歩21分
52	株式会社川合染工場	アパレルメーカー (紡績・染色等)	東京都墨田区向島4-24-8	10	新線新宿駅から押上駅まで都営新宿線・浅草線で35分	押上駅から徒歩11分
53	鶴貝捺染工業有限公司 本社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市今福町211	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅から足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間40分	足利市駅から徒歩40分
54	朝日染色株式会社 本社工場	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市今福町425	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅から足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間40分	足利市駅から徒歩40分
55	有限会社初山染工 本社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市借宿町319	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅から足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間10分	足利市駅から徒歩10分

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科 臨地実習 実習先 関東59施設詳細 (NO. 1～NO. 59)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
56	有限会社トーゴスクリーン 本社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市鹿島144	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅から足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間10分	足利市駅から徒歩10分
57	株式会社田野商店 本社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市本城2-1903	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅から足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間25分	足利市駅から徒歩25分
58	サンポープラス株式会社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市川崎町1730-2	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅から県駅まで東武伊勢崎線で1時間50分	県駅から徒歩40分
59	有限会社ワダノブテックス 本社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市小俣町483-2	5	新宿駅から小俣駅までJR宇都宮線・両毛線で2時間40分	小俣駅から徒歩5分

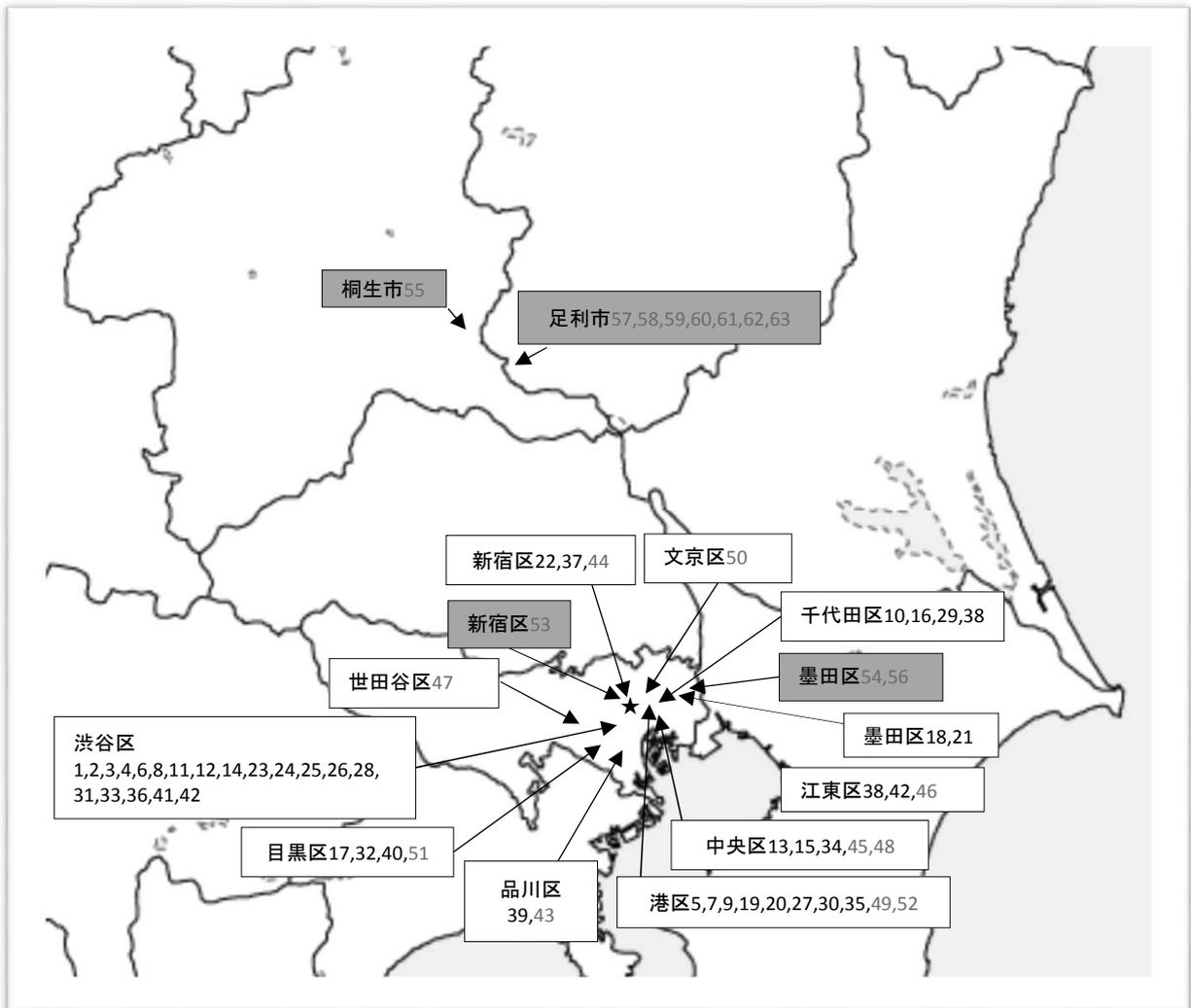
国際ファッション学部ファッションビジネス学科

臨地実習 実習先

関東（東京都、群馬県）

（全63施設）

- 付数字 = 臨地実習Ⅰ実習先
- 付数字 = 臨地実習Ⅱ実習先
- ★ = 本学校舎



国際ファッション学部ファッションビジネス学科

臨地実習 実習先

1	アイア株式会社	33	株式会社ファイブフォックス (原宿 F F ビル)
2	株式会社アイランド (グレースコンチネンタル代官山本店)	34	株式会社フォクシー (本社ビル)
3	株式会社アズノウアズ	35	45rpm studio株式会社
4	株式会社アダストリア	36	株式会社バイクルーズ (渋谷キャスト)
5	アニエスベージャパン株式会社 (MFPR六本木麻布台ビル)	37	株式会社MARK STYLER (MERCURYDUOルミネエスト新宿店)
6	株式会社アバハウスインターナショナル (東京建物東渋谷ビルディング)	38	ヤマトドレス株式会社 (本社ビル)
7	株式会社イケガミ (六本木本部)	39	株式会社ヨウジヤマモト (T33)
8	株式会社上野商会 (小田急サザンタワー)	40	株式会社ルック (本館ビル)
9	株式会社エスグルーヴ (青山ビル)	41	株式会社ルネ (大菅ビルディング)
10	株式会社エムズ (野村ビル)	42	株式会社レイカズン (本社)
11	株式会社オゾンコミュニティ (ヒステリックグラマー)	43	株式会社クオラス
12	株式会社ギャレット (A-PLACE恵比寿南ビル3F)	44	株式会社これから
13	株式会社キャン (東京本部歌舞伎座タワー)	45	株式会社ファイブスターインタラクティブ
14	株式会社グレイス (本社ウノサワ東急ビル)	46	プランニングオム株式会社
15	クロスプラス株式会社	47	株式会社エフジー武蔵
16	株式会社コムデギャルソン (丸の内2-1店)	48	株式会社朝日広告社
17	株式会社サードオフィス	49	株式会社エアークローゼット
18	株式会社サイカイ (本社ビル)	50	チームラボ株式会社
19	株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド (住友不動産麻布十番ビル)	51	株式会社リグラフィティ
20	株式会社サンエービーディー (新青山ビル7F)	52	株式会社タガタメ
21	株式会社サンマリノ	53	株式会社富田染工芸 (東京染ものがたり博物館)
22	株式会社三陽商会 (四谷本社ビル)	54	株式会社小倉メリヤス製造所
23	株式会社ジャパンイマジネーション (本社及び店舗)	55	株式会社土田産業
24	株式会社シュガーマトリックス	56	株式会社川合染工場
25	田村駒株式会社 (東京本社ビル)	57	鶴貝捺染工業有限会社 本社
26	株式会社デイトナ・インターナショナル	58	朝日染色株式会社 本社工場
27	株式会社東京ソワール (本社新青山ビルディング)	59	有限会社初山染工 本社
28	株式会社トゥモローランド (恵比寿本社)	60	有限会社トーゴースクリーン 本社
29	豊島株式会社 (東京本社)	61	株式会社田野商店 本社
30	株式会社ナルミヤ・インターナショナル (本社事務所)	62	サンポープラス株式会社
31	株式会社パール (秋田ビル)	63	有限会社ワダノブテックス 本社
32	株式会社バロックジャパンリミテッド (青葉台ヒルズ)		

国際ファッション学部ファッションビジネス学科 臨地実習 実習先 関東63施設詳細 (NO. 1～NO. 63)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
1	アイア株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区渋谷1-1-5	4	新宿駅から渋谷駅までJR山手線で10分	渋谷駅から徒歩10分
2	株式会社アイランド(グレースコンチネンタル代官山本店)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区猿樂町28-7	2	新宿駅から代官山駅までJR山手線・東急東横線で17分	代官山駅から徒歩3分
3	株式会社アズノウアズ	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区富ヶ谷2-24-7	4	新宿駅から代々木上原駅まで小田急小田原線で7分	代々木上原駅から徒歩約14分
4	株式会社アダストリア	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区渋谷2丁目21番1号 渋谷ヒカリエ 27F	4	新宿駅から渋谷駅までJR山手線で10分	渋谷駅から徒歩0分
5	アニエスパージャパン株式会社(MFPR六本木麻布台ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区六本木1-8-7 MFPR六本木麻布台ビル	4	新宿駅から六本木1丁目まで東京メトロ丸ノ内線・南北線で20分	六本木1丁目駅から徒歩3分
6	株式会社アパハウスインターナショナル(東京建物東渋谷ビルディング)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区東1-16-20	3	新宿駅から渋谷駅までJR山手線で10分	渋谷駅から徒歩10分
7	株式会社イケガミ(六本木本部)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区六本木6-8-22	3	新宿駅から六本木駅まで都営大江戸線で9分	六本木駅から徒歩7分
8	株式会社上野商会(小田急サザンタワー)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区代々木2-2-1 サザンタワー6F	10		新宿駅から徒歩8分
9	株式会社エスグルーヴ(青山ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区北青山1-2-3青山ビル7F	5	新宿駅から青山1丁目駅まで都営大江戸線で7分	青山一丁目駅から徒歩0分
10	株式会社エムズ(野村ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都千代田区四番町4-8 野村ビル5階	10	新宿駅から市ヶ谷駅までJR総武線で9分	市ヶ谷駅から徒歩5分
11	株式会社オゾンコミュニティ(ヒステリックグラマー)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区千駄ヶ谷3-12-6	2	新宿駅から北参道駅まで東京メトロ丸ノ内線・副都心線で10分	北参道駅から徒歩3分

国際ファッション学部ファッションビジネス学科 臨地実習 実習先 関東63施設詳細 (NO. 1～NO. 63)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
12	株式会社ギャレット (A-PLACE恵比寿南ビル3F)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区恵比寿南1-15-1	2	新宿駅から恵比寿駅までJR山手線で9分	恵比寿駅から徒歩3分
13	株式会社キャン (東京本部歌舞伎座タワー)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都中央区銀座4-12-15 歌舞伎座タワー18F	3	新宿駅から東銀座駅まで東京メトロ丸の内線・日比谷線で22分	東銀座駅から徒歩0分
14	株式会社グレイス (本社ウノサワ東急ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区恵比寿1-19-15 ウノサワ東急	3	新宿駅から恵比寿駅までJR山手線で9分	恵比寿駅から徒歩5分
15	クロスプラス株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都中央区日本橋浜町3-3-2トルナーレ日本橋浜町12F	2	新線新宿駅から浜町駅まで都営新宿線で16分	浜町駅から徒歩8分
16	株式会社コムデギャルソン (丸の内2-1店)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都千代田区丸の内2-2-2 明治安田生命ビル 1F	2	新宿駅から二重橋前駅まで東京メトロ丸の内線・千代田線で24分	二重橋前駅から徒歩0分
17	株式会社サードオフィス	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都目黒区東山3-8-1 東急池尻大橋ビル6F	3	新宿駅から池尻大橋駅までJR山手線・東急田園都市線で17分	池尻大橋駅から徒歩5分
18	株式会社サイカイ (本社ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都墨田区両国4-7-1	4	新線新宿駅から森下駅まで都営新宿線で17分	森下駅から徒歩11分
19	株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド (住友不動産麻布十番ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区三田1-4-1 住友不動産麻布十番ビル10F	20	新宿駅から赤羽橋駅まで都営大江戸線で11分	赤羽橋駅から徒歩3分
20	株式会社サンエービーディー (新青山ビル7F)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル	1	新宿駅から青山1丁目駅まで都営大江戸線で7分	青山1丁目駅から徒歩0分
21	株式会社サンマリノ	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都墨田区両国2-9-5 925両国	3	新宿駅から両国駅まで総武線で21分	両国駅から徒歩10分
22	株式会社三陽商会 (四谷本社ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都新宿区四谷本塩町6-14	3	新宿駅から四ツ谷駅までJR中央線で4分	四ツ谷駅から徒歩5分

国際ファッション学部ファッションビジネス学科 臨地実習 実習先 関東63施設詳細 (NO. 1～NO. 63)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
23	株式会社ジャパンイメージーション (本社及び店舗)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区代々木1-11-2 代々木コミュニティビル4F	3	新宿駅から代々木駅までJR山手線で2分	代々木駅から徒歩3分
24	株式会社シュガーマトリックス	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区恵比寿南3-9-25	2	新宿駅から恵比寿駅までJR山手線で9分	恵比寿駅から徒歩5分
25	田村駒株式会社 (東京本社ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区神宮前1丁目3番10号 6階	2	新宿駅から原宿駅までJR山手線で4分	原宿駅から徒歩10分
26	株式会社デイトナ・インターナショナル	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区神宮前3-21-8	5	新宿駅から原宿駅までJR山手線で4分	原宿駅から徒歩8分
27	株式会社東京ソワール (本社新青山ビルディング)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区南青山1-1-1	1	新宿駅から青山1丁目駅まで都営大江戸線で7分	青山一丁目駅から徒歩1分
28	株式会社トゥモローランド (恵比寿本社)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区恵比寿西1-32-18	4	新宿駅から恵比寿駅までJR山手線で9分	恵比寿駅から徒歩6分
29	豊島株式会社 (東京本社)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都千代田区神田岩本町2-1	5	新線新宿駅から岩本町駅まで都営新線線で19分	岩本町駅から徒歩1分
30	株式会社ナルミヤ・インターナショナル (本社事務所)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルB館9階	3	新宿駅から大門駅まで都営大江戸線で16分	大門駅から徒歩3分
31	株式会社バル (秋田ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区神宮前6丁目12-22 秋田ビル4F	20	新宿駅から原宿駅までJR山手線で4分	原宿駅から徒歩7分
32	株式会社バロックジャパンリミテッド (青葉台ヒルズ)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都目黒区青葉台4-7-7	2	新宿駅から池尻大橋駅までJR山手線・東急田園都市線で17分	池尻大橋駅から徒歩10分
33	株式会社ファイブフォックス (原宿FFビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区千駄ヶ谷3-38-12	3	新宿駅から北参道駅まで東京メトロ丸ノ内線・副都心線で10分	北参道駅から徒歩3分

国際ファッション学部ファッションビジネス学科 臨地実習 実習先 関東63施設詳細 (NO. 1～NO. 63)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
34	株式会社フォクシー (本社ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都中央区銀座6-8-1	2	新宿駅から銀座駅まで東京メトロ丸ノ内線で16分	銀座駅から徒歩3分
35	45rpm studio株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都港区南青山7-2-1	10	新宿駅から渋谷駅までJR山手線で10分	渋谷駅から徒歩17分
36	株式会社バイクルーズ (渋谷キャスト)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区渋谷1-23-21 渋谷キャスト	3	新宿駅から渋谷駅までJR山手線で10分	渋谷駅から徒歩8分
37	株式会社MARK STYLER (MERCURYDUO ルミネエスト新宿店)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都新宿区新宿3-38-1	5		新宿駅から徒歩3分
38	ヤマトドレス株式会社 (本社ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都千代田区神田佐久間町3-24-3	5	新宿駅から秋葉原駅までJR総武線で20分	秋葉原駅から徒歩8分
39	株式会社ヨウジヤマモト (T33)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都品川区東品川2-2-43T33 3F	3	新宿駅から天王洲アイル駅までJR埼京線・りんかい線で20分	天王洲アイル駅から徒歩7分
40	株式会社ルック (本館ビル)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都目黒区中目黒2-7-7	5	新宿駅から中目黒駅までJR山手・東急東横線で18分	中目黒駅から徒歩12分
41	株式会社ルネ (大菅ビルディング)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区渋谷2-11-8	1	新宿駅から渋谷駅までJR山手線で10分	渋谷駅から徒歩9分
42	株式会社レイカズン (本社)	アパレルメーカー (企画・製造)	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目24番9号	2	新宿駅から北参道駅まで東京メトロ丸ノ内線・副都心線で10分	北参道駅から徒歩7分
43	株式会社クオラス (社屋)	広告代理店	東京都品川区大崎2-1-1 ThinkParkTower7F	1	新宿駅から大崎駅までJR山手線で13分	大崎駅から徒歩7分
44	株式会社これから (大橋御苑ビル6F)	I T	東京都新宿区新宿2-3-15 大橋御苑ビル6階	1	学園から徒歩で30分	

国際ファッション学部ファッションビジネス学科 臨地実習 実習先 関東63施設詳細 (NO. 1～NO. 63)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
45	株式会社FIVESTAR interactive	I T	東京都中央区銀座6-12-13 大東銀座ビル6F	1	新宿駅から銀座駅まで東京メトロ丸ノ内線で15分	銀座駅から徒歩10分
46	プランニングオム株式会社 (玄間ビル)	広告代理店	東京都江東区高橋 4-7 玄間ビル6階	1	新宿駅から森下駅まで都営新宿線で23分	森下駅から徒歩7分
47	株式会社エフジー武蔵 (ステーションプラザ代田橋B1)	広告代理店	東京都世田谷区大原 2-17-6 B1	1	新宿駅から代田橋駅まで京王線で8分	代田橋駅から徒歩2分
48	株式会社朝日広告社 (G7ビル)	広告代理店	東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビル	1	新宿駅から銀座駅まで東京メトロ丸ノ内線で15分	銀座駅から徒歩10分
49	株式会社エアーローゼット (本社)	I T	東京都港区南青山3-1-31 NBF南青山ビル5F	1	新宿駅から表参道駅までJR山手線・東京メトロ千代田線で15分	銀座駅から徒歩5分
50	チームラボ株式会社 (本社)	I T	東京都文京区本郷1-11-6 東接本郷ビル5F	1	新宿駅から水道橋駅までJR総武線で15分	水道橋駅から徒歩10分
51	株式会社リグラフィティ (本社)	I T	東京都目黒区下目黒二丁目20番20号第8千陽ビル4階	1	新宿駅から目黒駅までJR山手線で13分	目黒駅から徒歩7分
52	株式会社タガタメ (AXIA青山)	広告代理店	東京都港区赤坂8-5-28 AXIA青山 3F	1	都庁前駅から青山一丁目駅まで都営大江戸線で15分	青山一丁目駅から徒歩5分
53	株式会社富田染工芸 (東京染ものがたり博物館)	アパレルメーカー (紡績・染色等)	東京都新宿区西早稲田 3-6-14	10	新宿駅から早稲田駅までJR山手線・東京メトロ東西線で15分	早稲田駅から徒歩15分
54	株式会社小倉メリヤス製造所	アパレルメーカー (紡績・染色等)	東京都墨田区石原3-12-9	5	新宿駅から両国駅まで総武線で21分	両国駅から徒歩17分
55	株式会社土田産業	アパレルメーカー (紡績・染色等)	群馬県桐生市新宿2丁目2番21号	5	新宿駅から桐生駅までJR宇都宮線・両毛線で2時間43分	桐生駅から徒歩21分

国際ファッション学部ファッションビジネス学科 臨地実習 実習先 関東63施設詳細 (NO. 1～NO. 63)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
56	株式会社川合染工場	アパレルメーカー (紡績・染色等)	東京都墨田区向島4- 24-8	5	新線新宿駅から押上駅まで都営新宿線・浅草線 で35分	押上駅から徒歩11分
57	鶴貝捺染工業有限公司 本社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市今福町2 11	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅か ら足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間00分	足利市駅から徒歩40分
58	朝日染色株式会社 本社工場	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市今福町4 25	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅か ら足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間00分	足利市駅から徒歩40分
59	有限会社初山染工 本社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市借宿町3 19	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅か ら足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間00分	足利市駅から徒歩10分
60	有限会社トーゴスクリーン 本 社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市鹿島14 4	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅か ら足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間00分	足利市駅から徒歩10分
61	株式会社田野商店 本社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市本城2- 1903	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅か ら足利市駅まで東武伊勢崎線で2時間00分	足利市駅から徒歩25分
62	サンポープラス株式会社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市川崎町1 730-2	5	新宿駅から久喜駅までJR宇都宮線、久喜駅か ら県駅まで東武伊勢崎線で1時間50分	県駅から徒歩40分
63	有限会社ワダノブテックス 本社	アパレルメーカー (紡績・染色等)	栃木県足利市小俣町4 83-2	5	新宿駅から小俣駅までJR宇都宮線・両毛線で 2時間40分	小俣駅から徒歩5分

国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

臨地実習 実習先

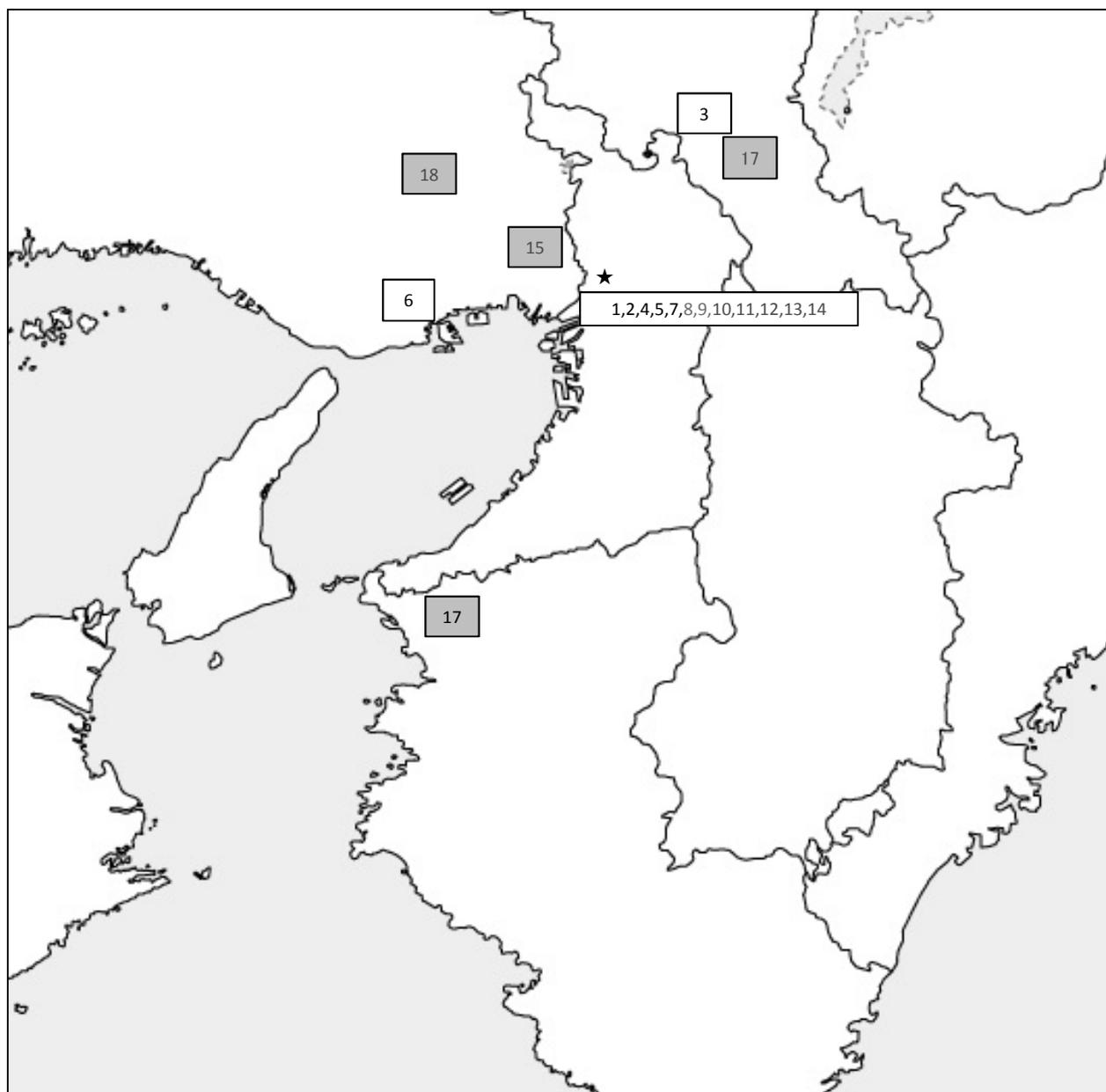
関西（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県）

（全18施設）

□付数字 = 臨地実習Ⅰ実習先

▣付数字 = 臨地実習Ⅱ実習先

★ = 本学校舎



国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

臨地実習 実習先

1	株式会社アーバンリサーチ	11	有限会社オガワジュンゾウ・クリエイツ
2	伊部株式会社【SINA COVAなんばウオーク店】	12	株式会社クオラス
3	株式会社クラウドディア	13	株式会社サニー・テル
4	株式会社サンウェル	14	株式会社P I F
5	株式会社シティーヒル	15	栄レース株式会社
6	株式会社ジャヴァコーポレーション	16	株式会社島精機製作所 【トータルデザインセンター】
7	株式会社玉屋【MISCHMASCH阪急三番街店】	17	株式会社染工房夢祐齋
8	ホープインターナショナルワークス株式会社	18	大化産業株式会社
9	マツオインターナショナル株式会社		
10	株式会社エム		

国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 臨地実習 実習先 関西18施設詳細 (NO.1～NO.18)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
1	株式会社アーバンリサーチ	アパレルメーカー (企画・製造)	大阪府大阪市西区京町 堀1-6-4 アーバンリ サーチビル	5	西梅田駅から肥後橋駅まで地下鉄四つ橋線1分	肥後橋駅から徒歩5分
2	伊部株式会社【SINA COVAなんば ウォーク店】	アパレルメーカー (販売)	大阪府大阪市中央区千 日前1丁目なんば ウォーク5-5	3	梅田駅からなんば駅まで地下鉄御堂筋線8分	なんば駅から徒歩5分
3	株式会社クラウディア	アパレルメーカー (企画・製造)	京都府京都市右京区西 院高田町34	3	阪急梅田駅から西院駅まで阪急電鉄京都線59分	西院駅から徒歩12分
4	株式会社サンウェル	アパレルメーカー (企画・製造)	大阪府大阪市中央区平 野町2-1-10	3	梅田駅から淀屋橋駅まで地下鉄御堂筋線3分	淀屋橋駅から徒歩11分
5	株式会社シティーヒル	アパレルメーカー (企画・製造)	大阪府大阪市中央区博 労町4-5-9 本町 太平ビル	5	西梅田駅から本町駅まで地下鉄四つ橋線4分	本町駅から徒歩7分
6	株式会社ジャヴァコーポレーショ ン	アパレルメーカー (企画・製造)	兵庫県神戸市中央区港 中町6-8-2	4	大阪駅から三ノ宮駅までJR神戸線21分 三ノ宮駅から南公園駅までポータライナー13分	南公園から徒歩8分
7	株式会社玉屋【MISCHMASCH阪急三 番街店】	アパレルメーカー (販売)	大阪府大阪市北区芝田 町1-1-3 阪急三 番街B1	3		本学校舎から徒歩17分
8	ホープインターナショナルワーク ス株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	大阪府大阪市西区北堀 江1-19-8 四ツ 橋KMビル3F	3	西梅田駅から四ツ橋駅まで地下鉄四つ橋線5分	四ツ橋駅から徒歩3分
9	マツオインターナショナル株式会 社	アパレルメーカー (企画・製造)	大阪府大阪市中央区備 後町3-4-9 輸出織 維会館3F・9F	3	西梅田駅から本町駅まで地下鉄四つ橋線4分	本町駅から徒歩10分
10	株式会社エム	広告・PR会社	大阪府大阪市北区中津 二丁目8番 A-328 号	3	梅田駅から中津駅まで地下鉄御堂筋線3分	中津駅から徒歩7分
11	有限会社オガワジュンゾウ・クリ エイツ(本社ビル)	広告・PR会社	大阪府大阪市西区阿波 座1-9-1 大槻ビル 3F	2	西梅田駅から本町駅まで地下鉄四つ橋線3分	本町駅から徒歩3分

国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 臨地実習 実習先 関西18施設詳細 (NO.1~NO.18)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
12	株式会社クオラス (関西支社社屋)	広告代理店	大阪府大阪市北区堂島 浜1-4-4 アクア 堂島東館17F	1		本学校舎から徒歩20分
13	株式会社サニー・テル (本社ビル)	広告・PR会社	大阪府大阪市福島区福 島8-21-10 サ ンファッションビル6 F	2		本学校舎から徒歩20分
14	株式会社PIF (本社)	広告・PR会社	大阪府大阪市西区北堀 江1-3-7 倉商ビ ル6F	3	西梅田駅から四ツ橋駅まで地下鉄四つ橋線5分	四ツ橋駅から徒歩3分
15	栄レース株式会社	レース製造メーカー (企画・製造)	兵庫県宝塚市美幸町 10-51	38	大阪駅から伊丹駅までJR宝塚線13分 JR伊丹から西野団地まで伊丹市営バス18系統22分	西野団地から徒歩14分
16	株式会社島精機製作所	コンピューター横編 機・CAD/CAMシステム 開発・製造メーカー (サンプル企画・製 造)	和歌山県和歌山市坂田 85番地	38	大阪駅から和歌山駅までJR阪和線29分 和歌山駅から宮前駅までJR紀勢本線2分	宮前駅から徒歩21分
17	株式会社染工房夢祐齋	染色メーカー (企画・染色)	京都府京都市右京区嵯 峨亀ノ尾町6	38	阪急梅田駅から桂駅まで阪急電鉄京都線34分 桂駅から嵐山駅まで阪急電鉄嵐山線7分	嵐山駅から徒歩18分
18	大化産業株式会社	テキスタイルメーカー (企画・染色)	兵庫県西脇市高田井町 字嶋26番地	38	JR大阪駅から谷川駅までJR宝塚線86分 谷川駅から西脇市駅までJR加古川線28分 野村から西脇まで神姫バス5分	西脇から徒歩5分

国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

臨地実習 実習先

東海（愛知県、岐阜県、三重県）

（全30施設）

□付数字 = 臨地実習Ⅰ実習先

■付数字 = 臨地実習Ⅱ実習先

★ = 本学校舎



国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

臨地実習 実習先

1	株式会社アスディック	16	株式会社ヤマダヤ
2	株式会社アルファ	17	株式会社イングカワモト
3	株式会社アルベン	18	株式会社クーグート
4	クロスプラス株式会社	19	株式会社広告制作所
5	有限会社ゴキ	20	株式会社弘春堂
6	佐藤正株式会社	21	株式会社シンクスデザインプロ
7	サンエース株式会社	22	株式会社スパイス
8	株式会社ゼロ コーポレーション	23	プランニングオフィス・ラグーン有限会社
9	タキヒヨー株式会社	24	株式会社山崎デザイン事務所
10	チーカス株式会社	25	有限会社絞染色 久野染工場
11	有限会社ティ・スタイル	26	鈴憲毛織株式会社
12	林八百吉株式会社	27	ダイショーファッションテキスタイル株式会社
13	ヒロタ株式会社	28	日本エース株式会社
14	牧村株式会社	29	御絲織物株式会社
15	モード被服株式会社	30	御幸毛織株式会社

国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 臨地実習 実習先 東海22施設詳細 (NO.1～NO.30)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
1	株式会社アスディック	アパレルメーカー (企画・製造)	一宮市花池4-3-13	4	名鉄名古屋駅から妙興寺駅まで名鉄名古屋本線・尾西線40分	妙興寺駅から徒歩5分
2	株式会社アルファ	アパレル製品縫製加工 (製造)	岐阜県瑞穂市生津外宮東町1-34-2	4	名古屋駅から穂積駅まで東海道本線30分	穂積駅から徒歩15分
3	株式会社アルペン	スポーツ用品小売業 (企画・製造・販売)	名古屋市中区丸の内2-9-40 アルペン丸の内タワー	14	名古屋駅から丸の内駅まで地下鉄桜通線10分	丸の内駅から徒歩5分
4	クロスプラス株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	名古屋市西区花ノ木3-9-13	5	名古屋駅から浄心駅まで地下鉄東山線・鶴舞線15分	浄心駅から徒歩5分
5	有限会社ゴキ	アパレルメーカー (企画・製造)	名古屋市千種区内山2-12-2 クレール内山1F	2	名古屋駅から今池駅まで地下鉄東山線10分	今池駅から徒歩10分
6	佐藤正株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	岐阜市加納黒木町2-1	2	名古屋駅から岐阜駅まで東海道本線20分間	岐阜駅から徒歩15分
7	サンエース株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	岐阜市加納黒木町2-1	9	名古屋駅から岐阜駅まで東海道本線20分間	岐阜駅から徒歩15分
8	株式会社ゼロ コーポレーション	マーケティング・コンサルティング (企画)	名古屋市中区丸の内3-8-10 ISH丸の内ビル2F	6	名古屋駅から久屋大通駅まで地下鉄桜通線10分	久屋大通駅から徒歩10分
9	タキヒヨー株式会社	繊維専門商社 (企画・製造)	名古屋市西区牛島町6-1 名古屋ルーセントタワー 2 4F	5	名古屋駅	名古屋駅から徒歩10分
10	チーカス株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	清須市西枇杷島町小田井3-1-3	9	名鉄名古屋駅から下小田井駅まで名鉄犬山線15分	下小田井駅から徒歩15分
11	有限会社ティ・スタイル	アパレルメーカー (企画・製造)	岐阜市葭町6-17-3	6	名古屋駅から岐阜駅まで東海道本線20分間	岐阜駅から徒歩20分

国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 臨地実習 実習先 東海22施設詳細 (NO. 1～NO. 30)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
12	林八百吉株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	名古屋市中区錦2-10-33	8	名古屋駅から伏見駅まで地下鉄東山線3分	伏見駅から徒歩8分
13	ヒロタ株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	岐阜市玉姓町3-25	4	名古屋駅から岐阜駅まで東海道本線20分間	岐阜駅から徒歩10分
14	牧村株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	名古屋市中区大須1丁目35-18 一光大須ビル5階	9	名古屋駅から大須観音駅まで地下鉄東山線・鶴舞線15分	大須観音駅から徒歩10分
15	モード被服株式会社	アパレルメーカー (企画・製造)	丹羽郡扶桑町柏森辻田4番地	8	名鉄名古屋駅から柏森駅まで名鉄犬山線25分	柏森駅から徒歩13分
16	株式会社ヤマダヤ	レディースアパレル小売業 (企画・製造・販売)	名古屋市中区城西1-3-5	6	名古屋駅から浅間町まで地下鉄東山線・鶴舞線15分	浅間町駅から徒歩10分
17	株式会社イングカワモト	グラフィックデザイン会社 (企画・販売)	名古屋市中区栄4丁目17-18	1	名古屋駅から栄駅まで地下鉄東山線5分	栄駅から徒歩5分
18	株式会社クーゴート	グラフィックデザイン会社 (企画・販売)	名古屋市中区大須3-42-30 ALA大須ビル1F	1	名古屋駅から上前津駅まで地下鉄東山線・鶴舞線20分	上前津駅から徒歩5分
19	株式会社広告制作所	グラフィックデザイン会社 (企画・販売)	名古屋市中区丸の内3丁目16番29号 新東通信ビル7階	1	名古屋駅から久屋大通駅まで地下鉄桜通線5分	久屋大通駅から徒歩5分
20	株式会社弘春堂	グラフィックデザイン会社 (企画・販売)	名古屋市中区橋1-6-5 大野屋ビル3・4・5F	1	名古屋駅から上前津駅まで地下鉄東山線・鶴舞線20分	上前津駅から徒歩10分
21	株式会社シンクスデザインプロ	グラフィックデザイン会社 (企画・販売)	名古屋市千種区今池5-1-5 名古屋センタープラザビル10F	1	名古屋駅から今池駅まで地下鉄東山線15分	今池駅から徒歩2分
22	株式会社スパイス	グラフィックデザイン会社 (企画・販売)	名古屋市天白区植田山4丁目1101-1	1	名古屋駅から植田駅まで地下鉄東山線・名城線40分	植田駅からバス10分 (バス停 植田一本松) 徒歩10分

国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 臨地実習 実習先 東海22施設詳細 (NO.1～NO.30)

NO	実習施設名	施設種別	位置	実習受 入可能 人数	主要駅から 最寄駅への経路	交通機関 (最寄駅、所要時間)
23	プランニングオフィス・ラグーン 有限会社	ブランディング・企画 会社	名古屋市東区代官町 39-22 大洋ビル5F	1	名古屋駅から高岳駅まで地下鉄桜通線15分	高岳駅から徒歩5分
24	株式会社山崎デザイン事務所	グラフィックデザイン 会社 (企画・販売)	名古屋市中区栄4-18- 20 アルファビル栄2F	1	名古屋駅から栄駅まで地下鉄東山線5分	栄駅から徒歩5分
25	有限会社絞染色 久野染工場	絞り染色加工	名古屋市緑区境松1- 609	5	名鉄名古屋駅から有松駅まで名鉄名古屋本線20 分	有松駅から徒歩15分
26	鈴憲毛織株式会社	テキスタイルメーカー (企画・製造)	一宮市明地字東下城 84-1	6	名鉄名古屋駅から萩原駅まで名鉄名古屋本線・ 尾西線35分	萩原駅から徒歩20分
27	ダイショーファッション テキスタイル株式会社	テキスタイルコンバー ター (企画・製造)	一宮市音羽1-10-28	10	名古屋駅から尾張一宮駅まで東海道本線15分	尾張一宮駅から徒歩10分
28	日本エース株式会社	テキスタイルメーカー (企画・製造)	一宮市せんい2丁目4番 19号	10	名古屋駅から尾張一宮駅まで東海道本線15分 尾張一宮駅前から一宮せんい団地まで名鉄バス 15分	一宮せんい団地から 徒歩10分
29	御絲織物株式会社	テキスタイルメーカー (企画・製造)	三重県多気郡明和町大 字養川甲373-1	5	近鉄名古屋駅から斎宮駅まで近鉄名古屋線・山 田線100分	斎宮駅から徒歩30分
30	御幸毛織株式会社	テキスタイルメーカー (企画・製造)	名古屋市西区市場木町 390番地	12	名古屋駅から庄内緑地公園駅まで地下鉄東山 線・鶴舞線20分	庄内緑地公園駅から徒歩5分

1) 実施目的

教育課程の職業専門科目、地域・地方連携科目群の必修科目として、全学生が3年次に履修する。実習終了後、臨地実習 I の評価に従い10単位を付与する。この科目は単なる企業体験ではなく、学生のキャリアプラン形成に役立てること、地域企業・地方連携ゼミにおいて、設定した各自のテーマのフィールドワークをすること、商慣行、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築を目的とする。よって実習先としてはファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の臨地実習 I の実習先が対象となる。卒業後の活躍の場となるファッションの製造業を中心に、テキスタイル製造業、卸売業、小売業、広告代理店、ITを使用したファッション関連のベンチャー企業を選定した。上記の目的を達成するために学生たちが実習に参加する前に、地域企業・地方連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。事後は同ゼミにおいて実習成果を発表し目的の達成度を確認する。

2) 指導体制

本科目では、国際ファッション学部を形成する4学科の専任教員の臨地実習 I 巡回計画表（資料 9 - 5）に従い、各社2回訪問する。1回目は学生の実習状況、実習環境の把握、各学生の実習中のテーマの伝達とそれに対する企業への協力の依頼、学生指導を目的とする。2回目は実習の進捗状況の確認、各学生毎の実習中のテーマ研究の進捗状況を確認しそれに対するアドバイスを行う。巡回教員は臨地実習担当教員別時間割表（資料 9 - 3）に従い学内の指導に支障なく、巡回ができるように配慮する。

3) 指導担当

- ・ファッションクリエイション学科 林成光、村上勝
- ・ファッションビジネス学科 松岡依里子、平井秀樹、倉内尚士
- ・大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 高原昌彦、藤井輝之、門本優子、高山遼太
- ・名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 大島一豊、岡本正大、篠田隆典、守屋孝典

4) 実習スケジュール

資料 9 - 4 に記載した通り、学生オリエンテーションは2年次10月に実施する。学生は希望実習先を選択し応募書類を作成し応募する。定員を超える応募があった実習先についてはキャリアサポートセンターのスタッフと臨地実習 I の担当教員が面接をし選考のうえ、決定する。実習は資料14-4に記載した通り、各学科毎に対象学生を3グループに分け、①5月31日～7月27日 ②10月1日～11月29日 ③12月1日～2月10日の期間のいずれかで実習に参加する。

5) 単位認定と評価

実習を効果的に進めるために、学生には資料 1 0 の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（実務）評価表、実習（人物）評価表を含む）」を配布する。実習前後には地域企業・地方連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

臨地実習Ⅱ（地方産地）実施概要

1) 実施目的

教育課程の職業専門科目、地域・地方連携科目群の必修科目として、全学生が3年次に履修する。実習終了後、臨地実習Ⅰの評価に従い10単位を付与する。この科目は単なる企業体験ではなく、学生のキャリアプラン形成に役立てること、地域企業・地方連携ゼミにおいて、設定した各自のテーマのフィールドワークをすること、商慣行、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築を目的とする。よって実習先としてはファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の臨地実習Ⅰの実習先が対象となる。卒業後の活躍の場となるファッションの製造業を中心に、テキスタイル製造業、卸売業、小売業、広告代理店、ITを使用したファッション関連のベンチャー企業を選定した。上記の目的を達成するために学生たちが実習に参加する前に、地域企業・地方連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。事後は同ゼミにおいて実習成果を発表し目的の達成度を確認する。

2) 指導体制

本科目では、国際ファッション学部を形成する4学科の専任教員の臨地実習Ⅱ巡回計画表（資料9-5）に従い、各産地を2回訪問する。1回目は学生の実習状況、実習環境の把握、各学生の実習中のテーマの伝達とそれに対する企業への協力の依頼、学生指導を目的とする。2回目は実習の進捗状況の確認、各学生毎の実習中のテーマ研究の進捗状況を確認しそれに対するアドバイスを行う。巡回教員は臨地実習担当教員別時間割表（資料9-3）に従い学内の指導に支障なく、巡回ができるように配慮する。

3) 指導担当

- ・ファッションクリエイション学科 後藤圭介、村上勝
- ・ファッションビジネス学科 松岡依里子、平井秀樹、倉内尚士
- ・大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 高原昌彦、藤井輝之、門本優子、高山遼太
- ・名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 大島一豊、岡本正大、篠田隆典、守屋孝典

4) 実習スケジュール

資料9-4に記載した通り、学生オリエンテーションは2年次10月に実施する。学生は希望実習先を選択し応募書類を作成し応募する。定員を超える応募があった実習先についてはキャリアサポートセンターのスタッフと臨地実習Ⅰの担当教員が面接をし選考のうえ、決定する。実習は資料14-4に記載した通り、各学科毎に対象学生を3グループに分け、①5月31日～7月27日 ②10月1日～11月29日 ③12月1日～2月10日の期間のいずれかで実習に参加する。

5) 単位認定と評価

実習を効果的に進めるために、学生には資料10の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（実務）評価表、実習（人物）評価表を含む）」を配布する。実習前後には地域企業・地方連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

臨地実習担当教員別時間割表

教員氏名	村上 勝	所属学科	ファッションクリエイション学科(兼任 ファッションビジネス学科)
------	------	------	----------------------------------

No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科
①	1 ファッションデザイン実習Ⅰ	3.1/1通	ファッションクリエイション学科	6	1 バターンメイキング	2/2後	ファッションビジネス学科	6	1時限	臨地実習Ⅰ	2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	ファッションデザイン実習Ⅰ	4時限	ファッションデザイン実習Ⅰ	5時限		6時限		1 1時限	臨地実習Ⅰ	2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	ファッションデザイン実習Ⅰ	4時限	ファッションデザイン実習Ⅰ	5時限		6時限
									2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	ファッションデザイン実習Ⅰ	4時限	ファッションデザイン実習Ⅰ	5時限		6時限														
									3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																
									4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																		
									5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																				
	2 ファッションデザイン実習Ⅱ	2.5/2通	ファッションクリエイション学科	7	2 臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	ファッションビジネス学科	7	1時限	臨地実習Ⅰ	2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限		2 1時限	臨地実習Ⅰ	2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限
									2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限														
									3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																
									4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																		
									5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																				
②	3 バターンメイキング	2/2後	ファッションクリエイション学科	8	3 臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	ファッションビジネス学科	8	1時限	臨地実習Ⅱ	2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限		3 1時限	臨地実習Ⅱ	2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限
									2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限														
									3時限	臨地実習Ⅱ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																
									4時限	臨地実習Ⅱ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																		
									5時限	臨地実習Ⅱ	6時限																				
	4 臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	ファッションクリエイション学科	9	4 臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	ファッションクリエイション学科	10	1時限	臨地実習Ⅱ	2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限		4 1時限	臨地実習Ⅱ	2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限
									2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限														
									3時限	臨地実習Ⅱ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																
									4時限	臨地実習Ⅱ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																		
									5時限	臨地実習Ⅱ	6時限																				
③	5 ファッションデザイン実習Ⅰ	3.1/1通	ファッションクリエイション学科	6	5 臨地実習Ⅰ	10/3通	ファッションクリエイション学科	6	1時限	臨地実習Ⅰ	2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限		5 1時限	臨地実習Ⅰ	2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限
									2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限														
									3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																
									4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																		
									5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																				
	6 ファッションデザイン実習Ⅱ	2.5/2通	ファッションクリエイション学科	7	6 臨地実習Ⅱ	10/3通	ファッションクリエイション学科	7	1時限	臨地実習Ⅱ	2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限		6 1時限	臨地実習Ⅱ	2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限
									2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限														
									3時限	臨地実習Ⅱ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																
									4時限	臨地実習Ⅱ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																		
									5時限	臨地実習Ⅱ	6時限																				
④	7 バターンメイキング	2/2後	ファッションクリエイション学科	8	7 臨地実習Ⅰ	10/3通	ファッションクリエイション学科	8	1時限	臨地実習Ⅰ	2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限		7 1時限	臨地実習Ⅰ	2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限
									2時限	臨地実習Ⅰ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限														
									3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																
									4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																		
									5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																				
	8 臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	ファッションクリエイション学科	9	8 臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	ファッションクリエイション学科	10	1時限	臨地実習Ⅱ	2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限		8 1時限	臨地実習Ⅱ	2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限
									2時限	臨地実習Ⅱ	3時限	臨地実習Ⅰ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限														
									3時限	臨地実習Ⅱ	4時限	臨地実習Ⅰ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																
									4時限	臨地実習Ⅱ	5時限	臨地実習Ⅰ	6時限																		
									5時限	臨地実習Ⅱ	6時限																				

備考:

色凡例: 実習科目 講義科目 卒業制作・計画 その他実習科目等 ※オムニバス科目

離地実習担当教員別時間割表

教員氏名 平井 秀樹 所属学科 ファッションビジネス学科(兼任 ファッションクリエイション学科)

Main table showing weekly schedules for 8 weeks (週1 to 週8) across 6 periods (1時限 to 6時限). It includes course names like '消費者行動論' and 'マーケティング論', and teaching methods such as '講義' and '実習'.

備考: 色凡例: [] 実習科目 [] 講義科目 [] 卒業制作・計画 [] その他実習科目等 ※オムニバス科目

臨地実習担当教員別時間割表

教員氏名	林 成光	所属学科	ファッションクリエイション学科(兼任 ファッションビジネス学科)
------	------	------	----------------------------------

No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	1 時限		2 時限		3 時限		4 時限		5 時限		6 時限		
								No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.
1	社会科学基礎ゼミ	2/2後	ファッションクリエイション学科	6	地域産業論	2/2後	ファッションクリエイション学科													
2	情報リテラシー	2/1前	ファッションクリエイション学科	7																
3	キャリアデザイン論	2/1後	ファッションクリエイション学科	8																
4	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	ファッションクリエイション学科	9																
5	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	ファッションクリエイション学科	10																

1 週目	月	創造産業論	情報リテラシー	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)														
	火	情報リテラシー	情報リテラシー	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	水	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	木																			
2 週目	月	創造産業論	情報リテラシー	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)														
	火	情報リテラシー	情報リテラシー	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	水	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	木																			
3 週目	月	創造産業論	情報リテラシー	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)														
	火	情報リテラシー	情報リテラシー	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	水	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	木																			
4 週目	月	創造産業論	情報リテラシー	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)														
	火	情報リテラシー	情報リテラシー	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	水	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	木																			
5 週目	月	創造産業論	情報リテラシー	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)														
	火	情報リテラシー	情報リテラシー	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	水	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	木																			
6 週目	月	創造産業論	情報リテラシー	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)														
	火	情報リテラシー	情報リテラシー	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	水	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	木																			
7 週目	月	創造産業論	情報リテラシー	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)														
	火	情報リテラシー	情報リテラシー	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	水	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	木																			
8 週目	月	創造産業論	情報リテラシー	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)														
	火	情報リテラシー	情報リテラシー	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	水	臨地実習Ⅰ(企業)	臨地実習Ⅰ(企業)	卒業制作・計画	卒業制作・計画	卒業制作・計画														
	木																			

備考:
 色凡例: 実習科目 講義科目 卒業制作・計画 その他兼担科目等 ※オムニバス科目

臨地実習担当教員別時間割表

教員氏名												後藤 圭介						所属学科		ファッションクリエイション学科																																			
No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科																								
1	ファッション・デザイン基礎Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン科	6	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン科	11	ファッション・デザイン基礎Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン科	16	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン科	21	ファッション・デザイン基礎Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン科	26	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン科	31	ファッション・デザイン基礎Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン科	36	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン科	41	ファッション・デザイン基礎Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン科	46	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン科	51	ファッション・デザイン基礎Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン科	56	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン科	61	ファッション・デザイン基礎Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン科	66	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン科

①	1 週目						②	2 週目						③	3 週目						④	4 週目						⑤	5 週目						⑥	6 週目						⑦	7 週目						⑧	8 週目												
	月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	
	卒業制作・計画							卒業制作・計画							卒業制作・計画							卒業制作・計画							卒業制作・計画							卒業制作・計画							卒業制作・計画							卒業制作・計画							卒業制作・計画					

備考:

色凡例: 実習科目	 講義科目	 卒業制作・計画	 その他兼担科目等	 ※オムニバス科目
---	---	--	---	---

臨地実習担当教員別時間割表

教員氏名			倉内 尚士			所属学科			ファッションビジネス学科		
No.	授業科目名称	単位数/配当年次	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	No.	授業科目名称	単位数/配当年次
1	リテール企画実習Ⅰ	4/1通	6	リテール企画実習Ⅰ	4/1通	6	リテール企画実習Ⅰ	4/1通	6	リテール企画実習Ⅰ	4/1通
2	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	7	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	7	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	7	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通
3	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	8	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	8	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	8	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通
4	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	9	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	9	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	9	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通
5			10			10			10		

No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	
																				1時限
①	1週目	月																		
		火				リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ													
		水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																
		木	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ															
		金	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																
		土																		
		月																		
	2週目	火				リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ													
		水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																
		木	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ															
		金	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																
		土																		
		月																		
		火					リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ												
	3週目	水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																
		木	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ															
		金	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																
		土																		
		月																		
		火					リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ												
		水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																
	4週目	木	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ															
		金	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																
		土																		
		月																		
		火					リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ												
		水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																
		木	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ															
5週目	金	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
	土																			
	月																			
	火					リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ													
	水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
	木	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																
	金	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
6週目	土																			
	月																			
	火					リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ													
	水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
	木	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																
	金	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
	土																			
7週目	月																			
	火					リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ													
	水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
	木	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																
	金	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
	土																			
	月																			
8週目	火					リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ													
	水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
	木	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																
	金	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
	土																			
	月																			
	火						リテール企画実習Ⅰ	リテール企画実習Ⅰ												

備考:

色凡例: 実習科目 講義科目 卒業制作・計画 その他兼担科目等 ※オムニバス科目

職地実習担当教員別時間割表

教員氏名	高原 昌彦	所属学科	大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
------	-------	------	------------------------

No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科																																		
																																1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
① 1週目	月	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	② 2週目	月	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	③ 3週目	月	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	④ 4週目	月	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	⑤ 5週目	月	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	⑥ 6週目	月	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	⑦ 7週目	月	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	⑧ 8週目	月	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ						
	火	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	火	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ																															
	水	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	水	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	水	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ																												
	木	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	木	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ	木	ファッションビジネス実習Ⅱ	ファッションビジネス実習Ⅱ																												
	金				金				金				金				金				金				金				金			金			金		
	土				土				土				土				土				土				土				土			土			土		
	土				土				土				土				土				土				土				土			土			土		
	土				土				土				土				土				土				土				土			土			土		

備考:

色凡例: 実習科目 講義科目 卒業制作・計画 その他実習科目等 ※オムニバス科目

臨地実習担当教員別時間割表

教員氏名	藤井 輝之	所属学科	大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
------	-------	------	------------------------

No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科			
																												1時限	2時限	3時限
1 1週目	ファッションデザイン実習Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン実習Ⅰ	6	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン実習Ⅰ	1	ファッションデザイン実習Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン実習Ⅰ	6	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン実習Ⅰ	1	ファッションデザイン実習Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン実習Ⅰ	6	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン実習Ⅰ	1	ファッションデザイン実習Ⅰ	4/1通	ファッションデザイン実習Ⅰ	6	卒業制作・計画	4/4通
	ファッションデザイン実習Ⅱ	4/2通	ファッションデザイン実習Ⅱ	7	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン実習Ⅱ	2	ファッションデザイン実習Ⅱ	4/2通	ファッションデザイン実習Ⅱ	7	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン実習Ⅱ	2	ファッションデザイン実習Ⅱ	4/2通	ファッションデザイン実習Ⅱ	7	卒業制作・計画	4/4通	ファッションデザイン実習Ⅱ	2	ファッションデザイン実習Ⅱ	4/2通	ファッションデザイン実習Ⅱ	7	卒業制作・計画	4/4通
	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	地域企業・地方連携ゼミ	8	卒業制作・計画	4/4通	地域企業・地方連携ゼミ	3	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	地域企業・地方連携ゼミ	8	卒業制作・計画	4/4通	地域企業・地方連携ゼミ	3	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	地域企業・地方連携ゼミ	8	卒業制作・計画	4/4通	地域企業・地方連携ゼミ	3	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	地域企業・地方連携ゼミ	8	卒業制作・計画	4/4通
	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	臨地実習Ⅰ(企業)	9	卒業制作・計画	4/4通	臨地実習Ⅰ(企業)	4	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	臨地実習Ⅰ(企業)	9	卒業制作・計画	4/4通	臨地実習Ⅰ(企業)	4	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	臨地実習Ⅰ(企業)	9	卒業制作・計画	4/4通	臨地実習Ⅰ(企業)	4	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	臨地実習Ⅰ(企業)	9	卒業制作・計画	4/4通
	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10	卒業制作・計画	4/4通	臨地実習Ⅱ(地方産地)	5	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10	卒業制作・計画	4/4通	臨地実習Ⅱ(地方産地)	5	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10	卒業制作・計画	4/4通	臨地実習Ⅱ(地方産地)	5	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10	卒業制作・計画	4/4通

備考:

色凡例: 実習科目 講義科目 卒業制作・計画 その他実習科目等 ※オムニバス科目

臨地実習担当教員別時間割表

教員氏名			門本 優子			所属学科			大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科		
No.	授業科目名称	単位数/配当年次	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	No.	授業科目名称	単位数/配当年次
1	パターンメイキング	2/2後	6	／	／	6	／	／	6	／	／
2	地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	7	／	／	7	／	／	7	／	／
3	臨地実習Ⅰ(企業)	10/3通	8	／	／	8	／	／	8	／	／
4	臨地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	9	／	／	9	／	／	9	／	／
5	／	／	10	／	／	10	／	／	10	／	／

No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科							
																				1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	
①	1 課題	月																								
		火	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)																			
		水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																						
		木	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																			
		金																								
		土																								
	②	2 課題	月																							
			火	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)																		
			水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																					
			木	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																		
			金																							
			土																							
		③	3 課題	月																						
				火	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)																	
				水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																				
				木	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																	
				金																						
				土																						
			④	4 課題	月																					
					火	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)																
					水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																			
					木	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																
					金																					
					土																					
⑤				5 課題	月																					
					火	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)																
					水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																			
					木	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																
					金																					
					土																					
	⑥			6 課題	月																					
					火	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)																
					水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																			
					木	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																
					金																					
					土																					
		⑦		7 課題	月																					
					火	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)																
					水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																			
					木	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																
					金																					
					土																					
			⑧	8 課題	月																					
					火	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅱ(地方産地)																
					水	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)																			
					木	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ	地域企業・地方連携ゼミ																
					金																					
					土																					

備考:

色凡例: 実習科目 講義科目 卒業制作・計画 その他兼担科目等 ※オムニバス科目

臨地実習担当教員別時間割表

教員氏名 大島 一豊 所属学科 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科																							
																								1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限																	
①	1 月	メディア概論	2/1前	※	2 月	産業とメディアデザイン	3時限	※	3 月	メディア概論	2/1前	※	4 月	産業とメディアデザイン	3時限	※	5 月	メディア概論	2/1前	※	6 月	産業とメディアデザイン	3時限	※	7 月	メディア概論	2/1前	※	8 月	産業とメディアデザイン	3時限	※	9 月	メディア概論	2/1前	※	10 月	産業とメディアデザイン	3時限	※						
																																									1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
																																									1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
																																									1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
																																									1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
②	2 月	デザイン概論	2/1前	※	3 月	デザイン概論	2/1前	※	4 月	デザイン概論	2/1前	※	5 月	デザイン概論	2/1前	※	6 月	デザイン概論	2/1前	※	7 月	デザイン概論	2/1前	※	8 月	デザイン概論	2/1前	※	9 月	デザイン概論	2/1前	※	10 月	デザイン概論	2/1前	※										
																																					1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限				
																																					1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限				
																																					1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限				
																																					1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限				
③	3 月	感性工学	2/2後	※	3 月	感性工学	2/2後	※	4 月	感性工学	2/2後	※	5 月	感性工学	2/2後	※	6 月	感性工学	2/2後	※	7 月	感性工学	2/2後	※	8 月	感性工学	2/2後	※	9 月	感性工学	2/2後	※	10 月	感性工学	2/2後	※										
																																					1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限				
																																					1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限				
																																					1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限				
																																					1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限				
④	4 月	広告・PR論	2/3後	※	4 月	広告・PR論	2/3後	※	5 月	広告・PR論	2/3後	※	6 月	広告・PR論	2/3後	※	7 月	広告・PR論	2/3後	※	8 月	広告・PR論	2/3後	※	9 月	広告・PR論	2/3後	※	10 月	広告・PR論	2/3後	※														
																																	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限								
																																	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限								
																																	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限								
																																	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限								

備考:

色凡例: 実習科目 講義科目 卒業制作・計画 その他兼担科目等 ※オムニバス科目

臨地実習担当教員別時間割表

Table with 4 columns: 教員氏名 (Instructor Name), 岡本 正大 (Okamoto Masahiro), 所属学科 (Department), 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 (Nagoya Fashion Creation & Business Department).

Main grid table showing weekly schedules for 8 weeks (1-8週目) and 6 periods (1-6時限). Columns include course names like 'ファッションビジネス概論' and 'ファッションビジネス実習' with corresponding instructor assignments.

備考: (Remarks section for the schedule)

色凡例: 実習科目 (Practical Course), 講義科目 (Lecture Course), 卒業制作・計画 (Graduation Project/Plan), その他兼担科目等 (Other Concurrent Courses), ※オムニバス科目 (Omni-course)

職地実習担当教員別時間割表

No. 授業科目名称 単位数/配当年次 対象学科										No. 授業科目名称 単位数/配当年次 対象学科										No. 授業科目名称 単位数/配当年次 対象学科										No. 授業科目名称 単位数/配当年次 対象学科										
No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	No.	授業科目名称	単位数/配当年次	対象学科	
1		キャリアデザイン論	2/1後	6	1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限	
					月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
2		バターンメイキング	2/2後	7	1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限	
					月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
3		地域企業・地方連携ゼミ	10/3通	8	1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限	
					月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
4		職地実習Ⅰ(企業)	10/3通	9	1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限	
					月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
5		職地実習Ⅱ(地方産地)	10/3通	10	1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限		1 1時限		2 2時限		3 3時限		4 4時限		5 5時限		6 6時限	
					月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土

備考:

色凡例: 実習科目 講義科目 卒業制作・計画 その他兼担科目等 ※オムニバス科目

履修スケジュール(臨地実習・海外実習用)

資料9-4

年次	時期	実施場所	臨地実習 I	臨地実習 II	海外実習 I	海外実習 II
2年次	4月～6月	学内				
	7月～9月	学内				
	10月～12月	学内	← オリエンテーション →			
	1月～3月	学内	← 応募書類作成⇒応募⇒面接 →			
3年次	4月～6月	実習地				
	7月～9月	実習地	①	①		希望者
	10月～12月	実習地	②	②		希望者
	1月～3月	実習地	③	③	① ② ③	希望者
4年次	4月～6月					
	7月～9月					
	10月～12月					
	1月～3月					

※1. ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の学生は、各学科ともに①～③のグループに分けて実習を行う。

平成33年4月～5月 臨地実習 巡回計画表

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 ※3つのグループに分け、学生は自分のグループ番号の日程にて実習を行う。

臨地実習II

No.	実習施設名	学生 人数	4月							5月																														
			水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火																								
1	有限会社絞染色 久野染工場	5																																						
2	鈴憲毛織株式会社	6																																						
3	ダイショーファッション テキスタイル株式会社	10																																						
4	日本エース株式会社	10																																						
5	御絲織物株式会社	5																																						
6	御幸毛織株式会社	12																																						

平成33年6月～7月 臨地実習 巡回計画表

No.	実習施設名	学生 人数	6月							7月																													
			水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火																							
1	有限会社絞染色 久野染工場	5				①																																	
2	鈴憲毛織株式会社	6				①																																	
3	ダイショーファッション テキスタイル株式会社	10				①																																	
4	日本エース株式会社	10				①																																	
5	御絲織物株式会社	5				①																																	
6	御幸毛織株式会社	12				①																																	

平成33年8月～9月 臨地実習 巡回計画表

No.	実習施設名	学生 人数	8月							9月																													
			日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土																							
1	有限会社絞染色 久野染工場	5																																					
2	鈴憲毛織株式会社	6																																					
3	ダイショーファッション テキスタイル株式会社	10																																					
4	日本エース株式会社	10																																					
5	御絲織物株式会社	5																																					
6	御幸毛織株式会社	12																																					

平成33年10月～11月 臨地実習 巡回計画表

No.	実習施設名	学生 人数	10月							11月																												
			金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木																						
1	有限会社絞染色 久野染工場	5	②																																			
2	鈴憲毛織株式会社	6	②																																			
3	ダイショーファッション テキスタイル株式会社	10	②																																			
4	日本エース株式会社	10	②																																			
5	御絲織物株式会社	5	②																																			
6	御幸毛織株式会社	12	②																																			

平成33年12月～平成34年1月 臨地実習 巡回計画表

No.	実習施設名	学生 人数	12月							平成34年1月																													
			水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火																							
1	有限会社絞染色 久野染工場	5	③																																				
2	鈴憲毛織株式会社	6	③																																				
3	ダイショーファッション テキスタイル株式会社	10	③																																				
4	日本エース株式会社	10	③																																				
5	御絲織物株式会社	5	③																																				
6	御幸毛織株式会社	12	③																																				

平成34年2月～3月 臨地実習 巡回計画表

No.	実習施設名	学生 人数	2月							3月																												
			火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火																					
1	有限会社絞染色 久野染工場	5																																				
2	鈴憲毛織株式会社	6	B																																			
3	ダイショーファッション テキスタイル株式会社	10	C																																			
4	日本エース株式会社	10				C																																
5	御絲織物株式会社	5	D																																			
6	御幸毛織株式会社	12				D																																

巡回教員 A：大島 (月/火/水)、B：岡本 (火/木/金)、C：篠田 (月/火/木)、D：守屋 (月/火/金)
 (凡例) 網掛け：臨地実習 A～D：巡回指導

実 習 要 項

(臨地実習 I)

国際ファッション学部

〇〇〇〇〇学科

国際ファッション専門職大学

目 次

I.	実習の種類と目的	1
II.	単位の履修条件	2
III.	実習の心得	2
IV.	事前準備	3
V.	実習中の注意点	4
VI.	実習後の注意点	5
VII.	実習日誌	5
VIII.	実習の記録（各種書式）	

1. 実習先概要
2. 実習日誌
3. その他記録
4. 自己評価表

付表 実習（実務）評価表
実習（人物）評価表
実習出席表

I. 実習の種類と目的

1. 種類

1) 臨地実習Ⅰ（企業）＜必修科目＞

臨地実習Ⅰ（企業）では国内のアパレル、テキスタイルメーカー等でデザイナー、パタンナー、マーチャンダイザーなどの職種の役割、仕事の流れ等を学びながら、専門職としての自覚に基づいた態度ができること、仕事に関する理解を深めること、各自のキャリアプランの作成に役立つ知識を得ることを達成目標とし実習する。

2) 臨地実習Ⅱ（産地）＜必修科目＞

臨地実習Ⅱ（産地）は、日本の素材産地において、その産地の歴史的・地理的背景、文化的価値、伝統的技術を学び、産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見いだすことを達成目標とし実習する。

2. 目的

1) 臨地実習Ⅰ（企業）＜必修科目＞

- ①現場における実際の業務を見聞・体験することを通して、ファッション業界の専門職として必要な知識・技術の理解を深める。
- ②ファッション業界・関連業界の専門職として必要な知識・技術を実際に活用する体験を通して、必要な資質・能力・技術を修得する。
- ③職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。
- ④具体的な仕事の流れ等を学び、体系化された専門的技術として身につける。
- ⑤体験を通して各自のキャリアプランの作成に役立つ知識を得る。

2) 臨地実習Ⅱ（産地）＜必修科目＞

- ①産地において見聞・体験することを通して、産地および産地の人々への理解を深める。
- ②産地での素材作成の体験を通して、その素材の特色、魅力を体感する。
- ③伝統的な仕事の流れ等を学び、体系化された伝統技術への理解を深める。
- ④海外へ新しいファッション知財として発信するための、素材のコンセプトを見出す。

- ⑤海外へ新しいファッション知財として発信するための、広報のコンセプトを見出す。
- ④国際ファッション市場に日本の知財を発信する場合に必要な条件を見出す。

II. 単位の履修条件

1. 履修時間

- 1) 臨地実習 I・II は各 300 時間を行い、実習評価により合格した学生には各 10 単位を認定する。
- 2) 海外実習は 120 時間を行い、実習評価により合格した学生には 4 単位を認定する。

2. 臨地実習 I・II 実施期間

- 1) 3 年次の通期で、1.1) 2) に記載した時間を行う。
ただし、詳細な時期については、実習先との協議により、適宜調整を行い、日程を定める。

3. 単位認定実習記録

- 1) 実習の単位認定は実習評価によって行う。
- 2) 本要項は実習の履修記録でもあり、単位認定の資料ともなるので、実習日誌の記入を決して怠らず、かつ大切に扱うこと。

III. 実習の心得

- 1. 実習先の長、実習指導者の指示や指導には、誠実に従うこと。
- 2. 常に、指導を受けている立場であるという自覚を持って行動し、積極的な学習意欲を持ち、謙虚に学ぶ態度を徹底すること。
- 3. 実習にあたっては、単に実践技能を修得するだけでなく、実習先へ貢献する、という気遣いを忘れないこと。

4. いかなる場合であっても、実習生が自分だけの判断で行動したり、自分だけで問題を処理しようとししないこと。
5. 実習先についての批判的な意見を述べたりしないこと。
6. 守秘義務を徹底すること。

IV. 事前準備

1. 学内オリエンテーション

実習の心がまえ・必要書類・必要な手続きなどをよく理解し、実習に関する認識を深めること。

2. 実習先でのオリエンテーション

- 1) 実習生は、配属が決まったら教官の指示によって、必要に応じて実習先に事前訪問し、オリエンテーションを受けること。
- 2) 実習先への行き方や所要時間を前もって調べておくこと。
- 3) できる範囲で実習先についての予備知識をつけておくこと。
- 4) 必要書類・必要な持ち物などについても、確実に確認をしておくこと。
- 5) 実習に差し支えないよう、事前に健康管理を充分に行っておくこと。
(体調不良による欠席は当然公欠にならない。単位認定に大きく影響するため、留意のこと)

V. 実習中の注意点

1. 持ち物

- 1) 実習要項
- 2) メモ帳（ポケットに入るぐらいの大きさのものが良い）
- 3) 必要資料・書類
- 4) 筆記用具
- 5) 健康保険証、またはその写し
- 6) 学生証
- 7) 名札
- 8) 上履き・作業着など（実習先の指示に従うこと）

2. 服装

- 1) 実習先にふさわしく、清潔で落ち着いた印象の服装を心がけること。
- 2) マニキュア・伸ばした爪・華美な化粧・不潔感を与えるヘアスタイル、およびアクセサリーなどは避けること。
※ただし、事前に実習先と打合せの上で、実習先が認めた服装であれば可とする。

3. 実習時間中

- 1) 1日の実習時間については、実習先の一般職員の就業規則に準ずる。
- 2) 実習開始時・終了時の挨拶を徹底し、特に終了時は、必ず許可を得てから帰ること。
- 3) 実習時間を厳守し、遅刻・早退・欠席は、絶対にしないこと。やむを得ない場合には、必ず事前に実習先および学校へ連絡をし、了承を得ること。
- 4) 出席の記録をきちんととること。
- 5) 決められた休憩時間以外などに、実習生が集まって意味なく立ち話をしたりしないこと。
- 6) 実習時間中の私用外出・電話連絡などは、緊急の場合以外は避けること。
- 7) スマートフォン（携帯電話）の電源は切っておくこと。
- 8) 休憩時間中でも、実習先からの外出は極力控える。やむを得ない場合は、実習指導者に理由・行先・帰る時間を届け出て、許可を得てからにすること。
- 9) 実習先の書類や資料やサンプルなどについては、決してコピーをしたり持ち出したりしないこと。
- 10) 設備・備品・書類などの使用については必ず許可を得てから使い、むやみに

実習先の備品や消耗品を借りないこと。

- 11) 実習中に与えられたスペース（ロッカー・机・控室など）は、常に整理整頓をしておくこと。
- 12) 禁煙厳守。※ただし、実習先が認めた場合は可とする。
- 13) 自家用車およびバイクでの実習先への通所は禁止する。

VI. 実習後の注意点

1. 指導を受けた実習先の長および実習指導者には、必ずお礼状を出すこと。
2. 実習終了後、直ちに実習要項を実習先に提出すること。
(提出方法は実習指導者に指示を受けること)
3. 実習を通して得た実習先の情報は、絶対に外部にもらさないこと。
4. 実習終了後、実習で知り合った人との個人的接触はしてはならない。その必要や機会がある場合には、勝手な判断で行動せず、教官および実習指導者に相談のうえで対応すること。

VII. 実習日誌

1. 毎日必ず実習日誌を記入すること。日誌についての日々の指導・検印の受け方については、実習指導者と打ち合わせて決めること。
2. 「本日の目標」は、その日に行う実務をふまえて具体的・実践的な目標を自分で設定すること。
3. 「学んだ点・反省点・考察など」は、事実の記録をしたうえで、自分なりに感じたことや考えたこと、また翌日以降の実習の指針となるようなことを記入すること。
4. 実習先や、その職員についての批判的な記述は避けること。

実習先概要

実習先	施設名	代表者の職名・氏名	
1. 目標(目的・方針)			
2. 事業内容			
3. 施設の沿革			

4. 職務構成

5. 職務分担

6. 職務内容

7. その他

実習日誌

月	日	曜日	天候	日目
本日の目標				行事・特記事項
時間	業務・日課（活動・援助内容）			注意点

学んだ点・反省点・考察など

実習指導者の所見

実習指導者

印

自己評価表

【実習を通して学んだ成果および今後の課題】

1. 実習先の理解

2. 実習テーマに対する総合評価と達成度

3. 実習指導者の総合所見(実習生の所見をお願いします)

実習指導者

印

実習(実務)評価表

校名: 国際ファッション専門職大学

国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号

氏名

※ご指導いただいた実習生について、以下の評価基準に基づき、ご回答ください。

評価項目	具体的な評価基準	評価基準
基礎知識	素材の名称、特性など、服飾素材の基礎知識を理解した上で行動する	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 企業人同等の理解力であり、即戦力としても優れたレベルであった 4 実習期間中に遜色のない一定の知識は備わっていた 3 一定の知識は習得できているが、理解までに至っていなかった 2 専門知識の理解度が低く、基礎を学習すべきと感じた 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
企画力	トレンドを意識し、作品、商品イメージを具体化した企画力が備わっている	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 トレンドを意識し、即商品化可能な提案であった 4 商品化可能な提案であったが、トレンドをもう少し意識すべきであった 3 商品イメージは理解できたが、商品化としては考えにくかった 2 企画そのものが成り立っていなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
デザイン力	素材を理解した上で、市場性かつ独創性を兼ね備えたデザインを生み出す力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 市場性かつ独創性を兼ね備えた卓越したデザインであった 4 素材特性をもう少し意識すべきであるが、優れたデザインであった 3 独創性に溢れたデザインであったが、市場性が意識されていなかった 2 第三者に訴えるデザインになっていなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
パターン技術力	縫製に関する知識、技術と共に、正確なパターンを作り上げる能力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 使用素材を意識した、完成度の高いパターンであった。 4 正確なパターンであったが、使用素材をもう少し意識すべきであった 3 一定のパターン力は認めるが、完成度はまだ低い 2 完成形を考えたパターンになっていなかった。 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
プレゼンテーション力	自身が作り上げた企画、デザインを明確に第三者に伝える能力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 訴求力の高い、優れたプレゼンテーションであった 4 明確に第三者に伝えられているが、まだ弱さを感じた 3 プレゼンテーション力は感じたが、明確さには至っていなかった 2 ポイントが絞られておらず、理解に欠ける内容であった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
実習指導者総合所見		
		実習指導者名 印

上記のように評価する。

20 年 月 日

施設名

代表者氏名

印

実習(人物)評価表

校名: 国際ファッション専門職大学

国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号

氏名

※ご指導いただいた実習生について、以下の評価基準に基づき、ご回答ください。

評価項目	具体的な評価基準	評価資料	評価基準
勤務状態	体調管理とともに組織一員として遅刻・欠勤の重大性を理解する	実習出席表 実習日誌	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 遅刻・早退・欠勤もなく、健康管理も良好であった 4 体調がすぐれない日があったものの、遅刻や欠席はなかった 3 体調も良く実習を行えたが、1・2回の欠席・遅刻があった 2 実習期間中は、体調がすぐれないことが多かった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
指導を受ける態度	メモをとる習慣とともに素直さと積極的な姿勢や態度について考え行動する	実習日誌 対話	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 指導や助言を素直に受け止め、自分で仕事を探すなど、積極的に仕事をした 4 指導や助言を素直に受け止め、同じ指導をうけないよう、前向きに仕事をした 3 素直さはあり、決められた仕事はしたが、質問や積極性は少し足りなかった 2 指導者の指導や助言を素直に受け止めることができなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
協調性	他のスタッフ、実習生とのコミュニケーションの方法を考え実行し信頼関係を形成する	実習日誌 対話	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 チームの和に進んで溶け込み、周囲の人に気遣いができていた 4 チームの和に進んで溶け込んでいた 3 明るく元気な声で返事はできるが、チームの和には溶け込めなかった 2 チームに溶け込むことができず、孤立していた 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
社会人基本常識	実習期間内における言動において、規律・礼儀を意識した行動をする	実習日誌 対話	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 笑顔を絶やさず、規律、礼儀をわきまえた言動がすぐれていた 4 笑顔を絶やさず、規律、礼儀をわきまえた言動がとれていた 3 挨拶はできていたが、笑顔が少し足りなかった 2 社会人として意識が、まだまだ足りなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
自己実現の意欲	実習の必要性を理解し、実習における心構えを意識した行動をする	実習先概要 実習日誌 自己評価表 対話	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 将来に対して具体的な目標を持ち自身の考えを明確に伝えることができていた 4 将来の目標は明確に持っているが、まだ具体性に欠けている 3 漠然とした目標であり、明確ではない 2 目標・目的がさだまっていない 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
実習指導者講評			
			実習指導者名 印

上記のように評価する。

20 年 月 日

施設名

代表者氏名

印

実習出席表

校名: 国際ファッション専門職大学
国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号: _____ 氏名: _____

回	出席日	開始時刻	終了時刻	時間数	指導者印	実習生印	備考
1	/ ()	:	:				
2	/ ()	:	:				
3	/ ()	:	:				
4	/ ()	:	:				
5	/ ()	:	:				
6	/ ()	:	:				
7	/ ()	:	:				
8	/ ()	:	:				
9	/ ()	:	:				
10	/ ()	:	:				
11	/ ()	:	:				
12	/ ()	:	:				
13	/ ()	:	:				
14	/ ()	:	:				
15	/ ()	:	:				
16	/ ()	:	:				
17	/ ()	:	:				
18	/ ()	:	:				
19	/ ()	:	:				
20	/ ()	:	:				

●出席日数 _____ 日
(遅刻日数 _____ 日 / 早退日数 _____ 日)

●合計時間 _____ 時間

●欠席日数 _____ 日

上記の通り実習したことを証明する。

20 ____ 年 ____ 月 ____ 日

施設名 _____

代表者氏名 _____

印 _____

実習出席表

校名: 国際ファッション専門職大学
国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号: _____ 氏名: _____

回	出席日	開始時刻	終了時刻	時間数	指導者印	実習生印	備考
21	/ ()	:	:				
22	/ ()	:	:				
23	/ ()	:	:				
24	/ ()	:	:				
25	/ ()	:	:				
26	/ ()	:	:				
27	/ ()	:	:				
28	/ ()	:	:				
29	/ ()	:	:				
30	/ ()	:	:				
31	/ ()	:	:				
32	/ ()	:	:				
33	/ ()	:	:				
34	/ ()	:	:				
35	/ ()	:	:				
36	/ ()	:	:				
37	/ ()	:	:				
38	/ ()	:	:				
39	/ ()	:	:				
40	/ ()	:	:				

●出席日数 _____ 日
(遅刻日数 _____ 日 / 早退日数 _____ 日)

●合計時間 _____ 時間

●欠席日数 _____ 日

上記の通り実習したことを証明する。

20 ____ 年 ____ 月 ____ 日

施設名

代表者氏名

印

実 習 要 項

(臨地実習Ⅱ)

国際ファッション学部

〇〇〇〇〇学科

国際ファッション専門職大学

目 次

I.	実習の種類と目的	1
II.	単位の履修条件	2
III.	実習の心得	2
IV.	事前準備	3
V.	実習中の注意点	4
VI.	実習後の注意点	5
VII.	実習日誌	5
VIII.	実習の記録（各種書式）	

1. 実習先概要
2. 実習日誌
3. その他記録
4. 自己評価表

付表 実習（実務）評価表
実習（人物）評価表
実習出席表

I. 実習の種類と目的

1. 種類

1) 臨地実習Ⅰ（企業）＜必修科目＞

臨地実習Ⅰ（企業）では国内のアパレル、テキスタイルメーカー等でデザイナー、パタンナー、マーチャンダイザーなどの職種の役割、仕事の流れ等を学びながら、専門職としての自覚に基づいた態度ができること、仕事に関する理解を深めること、各自のキャリアプランの作成に役立つ知識を得ることを達成目標とし実習する。

2) 臨地実習Ⅱ（産地）＜必修科目＞

臨地実習Ⅱ（産地）は、日本の素材産地において、その産地の歴史的・地理的背景、文化的価値、伝統的技術を学び、産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見いだすことを達成目標とし実習する。

2. 目的

1) 臨地実習Ⅰ（企業）＜必修科目＞

- ①現場における実際の業務を見聞・体験することを通して、ファッション業界の専門職として必要な知識・技術の理解を深める。
- ②ファッション業界の専門職として必要な知識・技術を実際に活用する体験を通して、ファッション業界に必要な資質・能力・技術を修得する。
- ③職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- ④具体的な仕事の流れ等を学び、体系化された専門的技術として身につける。
- ⑤体験を通して各自のキャリアプランの作成に役立つ知識を得る。

2) 臨地実習Ⅱ（産地）＜必修科目＞

- ①産地において見聞・体験することを通して、産地および産地の人々への理解を深める。
- ②産地での素材作成の体験を通して、その素材の特色、魅力を体感する。
- ③伝統的な仕事の流れ等を学び、体系化された伝統技術への理解を深める。
- ④海外へ新しいファッション知財として発信するための、素材のコンセプトを見出す。
- ⑤海外へ新しいファッション知財として発信するための、広報のコンセプトを見

出す。

II. 単位の履修条件

1. 履修時間

- 1) 臨地実習 I・II は各 300 時間を行い、実習評価により合格した学生には各 10 単位を認定する。
- 2) 海外実習は 120 時間を行い、実習評価により合格した学生には 4 単位を認定する。

2. 臨地実習 I・II

- 1) 3 年次の通期で、1.1) 2) に記載した時間を行う。
ただし、詳細な時期については、実習先との協議により、適宜調整を行い、日程を定める。

3. 単位認定実習記録

- 1) 実習の単位認定は実習評価によって行う。
- 2) 本要項は実習の履修記録でもあり、単位認定の資料ともなるので、実習日誌の記入を決して怠らず、かつ大切に扱うこと。

III. 実習の心得

1. 実習先の長、実習指導者の指示や指導には、誠実に従うこと。
2. 常に、指導を受けている立場であるという自覚を持って行動し、積極的な学習意欲を持ち、謙虚に学ぶ態度を徹底すること。
3. 実習にあたっては、単に実践技能を修得するだけでなく、実習先へ貢献する、という気遣いを忘れないこと。
4. いかなる場合であっても、実習生が自分だけの判断で行動したり、自分だけで問題を処理しようとするしないこと。
5. 実習先についての批判的な意見を述べたりしないこと。

6. 守秘義務を徹底すること。

IV. 事前準備

1. 学内オリエンテーション

実習の心がまえ・必要書類・必要な手続きなどをよく理解し、実習に関する認識を深めること。

2. 実習先でのオリエンテーション

- 1) 実習生は、配属が決まったら教官の指示によって、必要に応じて実習先に事前訪問し、オリエンテーションを受けること。
- 2) 実習先への行き方や所要時間を前もって調べておくこと。
- 3) できる範囲で実習先についての予備知識をつけておくこと。
- 4) 必要書類・必要な持ち物などについても、確実に確認をしておくこと。
- 5) 実習に差し支えないよう、事前に健康管理を充分に行っておくこと。
(体調不良による欠席は当然公欠にならない。単位認定に大きく影響するため、留意のこと)

V. 実習中の注意点

1. 持ち物

- 1) 実習要項
- 2) メモ帳（ポケットに入るぐらいの大きさのものが良い）
- 3) 必要資料・書類
- 4) 筆記用具
- 5) 健康保険証、またはその写し
- 6) 学生証
- 7) 名札
- 8) 上履き・作業着など（実習先の指示に従うこと）

2. 服装

- 1) 実習先にふさわしく、清潔で落ち着いた印象の服装を心がけること。
- 2) マニキュア・伸ばした爪・華美な化粧・不潔感を与えるヘアスタイル、およびアクセサリーなどは避けること。
※ただし、事前に実習先と打合せの上で、実習先が認めた服装であれば可とする。

3. 実習時間中

- 1) 1日の実習時間については、実習先の一般職員の就業規則に準ずる。
- 2) 実習開始時・終了時の挨拶を徹底し、特に終了時は、必ず許可を得てから帰ること。
- 3) 実習時間を厳守し、遅刻・早退・欠席は、絶対にしないこと。やむを得ない場合には、必ず事前に実習先および学校へ連絡をし、了承を得ること。
- 4) 出席の記録をきちんととること。
- 5) 決められた休憩時間以外などに、実習生が集まって意味なく立ち話をしたりしないこと。
- 6) 実習時間中の私用外出・電話連絡などは、緊急の場合以外は避けること。
- 7) スマートフォン（携帯電話）の電源は切っておくこと。
- 8) 休憩時間中でも、実習先からの外出は極力控える。やむを得ない場合は、実習指導者に理由・行先・帰る時間を届け出て、許可を得てからにすること。
- 9) 実習先の書類や資料やサンプルなどについては、決してコピーをしたり持ち出したりしないこと。
- 10) 設備・備品・書類などの使用については必ず許可を得てから使い、むやみに

実習先の備品や消耗品を借りないこと。

- 11) 実習中に与えられたスペース（ロッカー・机・控室など）は、常に整理整頓をしておくこと。
- 12) 禁煙厳守。※ただし、実習先が認めた場合は可とする。
- 13) 自家用車およびバイクでの実習先への通所は禁止する。

VI. 実習後の注意点

1. 指導を受けた実習先の長および実習指導者には、必ずお礼状を出すこと。
2. 実習終了後、直ちに実習要項を実習先に提出すること。
(提出方法は実習指導者に指示を受けること)
3. 実習を通して得た実習先の情報は、絶対に外部にもらさないこと。
4. 実習終了後、実習で知り合った人との個人的接触はしてはならない。その必要や機会がある場合には、勝手な判断で行動せず、教官および実習指導者に相談のうえで対応すること。

VII. 実習日誌

1. 毎日必ず実習日誌を記入すること。日誌についての日々の指導・検印の受け方については、実習指導者と打ち合わせて決めること。
2. 「本日の目標」は、その日に行う実務をふまえて具体的・実践的な目標を自分で設定すること。
3. 「学んだ点・反省点・考察など」は、事実の記録をしたうえで、自分なりに感じたことや考えたこと、また翌日以降の実習の指針となるようなことを記入すること。
4. 実習先や、その職員についての批判的な記述は避けること。

実習先概要

実習先	施設名	代表者の職名・氏名
1. 目標(目的・方針)		
2. 事業内容		
3. 施設の沿革		

4. 職務構成

5. 職務分担

6. 職務内容

7. その他

実習日誌

月	日	曜日	天候		日目
本日の目標					行事・特記事項
時 間	業 務・日 課 (活 動・援 助 内 容)			注 意 点	

学んだ点・反省点・考察など

実習指導者の所見

実習指導者

印

実習(実務)評価表

校名: 国際ファッション専門職大学

国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号

氏名

※ご指導いただいた実習生について、以下の評価基準に基づき、ご回答ください。

評価項目	具体的な評価基準	評価基準
事前学習	実習先(産地)の特性、取扱い商材等の事前学習	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 十分な事前学習がされていた 4 最低限必要な知識はあった 3 特性など、調べた程度であり理解はされていなかった 2 事前学習といえるレベルではなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
問題発見力	実習先(産地)の現状の問題点を発見する力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 即戦力としても優れたレベルであった 4 一定レベルの能力が備わっていた 3 問題点を発見する意欲に欠けていた。 2 問題点を発見する能力が十分ではなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
問題解決力	企画編集力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 人々を魅了するコンセプトの企画編集力があつた 4 企画編集能力はあつた 3 首尾一貫した企画になっていなかった 2 企画そのものが成り立っていない 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
プレゼンテーション力	第三者に伝える能力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 訴求力の高い、優れたプレゼンテーションができた 4 明確に第三者に伝えられているが、まだ弱さを感じた 3 プレゼンテーション力はあるが、明確さには至っていない 2 ポイントが絞られておらず、理解に欠ける内容であった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
コミュニケーション力	実習先(産地)の人々とのネットワークを構築するための能力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 優れたコミュニケーション力をもっている 4 仕事(実習)上、遜色のないコミュニケーション力であった 3 実践的な経験を積みれば期待できる 2 訓練しても難しいと感じた 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
実習指導者総合所見		
		実習指導者名 印

上記のように評価する。

20 年 月 日

施設名

代表者氏名

印

実習(人物)評価表

校名: 国際ファッション専門職大学

国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号

氏名

※ご指導いただいた実習生について、以下の評価基準に基づき、ご回答ください。

評価項目	具体的な評価基準	評価資料	評価基準
勤務状態	体調管理とともに組織一員として遅刻・欠勤の重大性を理解する	実習出席表 実習日誌	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 遅刻・早退・欠勤もなく、健康管理も良好であった 4 体調がすぐれない日があったものの、遅刻や欠席はなかった 3 体調も良く実習を行えたが、1・2回の欠席・遅刻があった 2 実習期間中は、体調がすぐれないことが多かった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
指導を受ける態度	メモをとる習慣とともに素直さと積極的な姿勢や態度について考え行動する	実習日誌 対話	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 指導や助言を素直に受け止め、自分で仕事を探すなど、積極的に仕事をした 4 指導や助言を素直に受け止め、同じ指導をうけないよう、前向きに仕事をした 3 素直さはあり、決められた仕事はしたが、質問や積極性は少し足りなかった 2 指導者の指導や助言を素直に受け止めることができなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
協調性	他のスタッフ、実習生とのコミュニケーションの方法を考え実行し信頼関係を形成する	実習日誌 対話	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 チームの和に進んで溶け込み、周囲の人に気遣いができていた 4 チームの和に進んで溶け込んでいた 3 明るく元気な声で返事はできるが、チームの和には溶け込めなかった 2 チームに溶け込むことができず、孤立していた 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
社会人基本常識	実習期間内における言動において、規律・礼儀を意識した行動をする	実習日誌 対話	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 笑顔を絶やさず、規律、礼儀をわきまえた言動がすぐれていた 4 笑顔を絶やさず、規律、礼儀をわきまえた言動がとれていた 3 挨拶はできていたが、笑顔が少し足りなかった 2 社会人として意識が、まだまだ足りなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
自己実現の意欲	実習の必要性を理解し、実習における心構えを意識した行動をする	実習先概要 実習日誌 自己評価表 対話	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 将来に対して具体的な目標を持ち自身の考えを明確に伝えることができていた 4 将来の目標は明確に持っているが、まだ具体性に欠けている 3 漠然とした目標であり、明確ではない 2 目標・目的がさだまっていない 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
実習指導者講評			
			実習指導者名 印

上記のように評価する。

20 年 月 日

施設名

代表者氏名

印

実習出席表

校名: 国際ファッション専門職大学
国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号: _____ 氏名: _____

回	出席日	開始時刻	終了時刻	時間数	指導者印	実習生印	備考
1	/ ()	:	:				
2	/ ()	:	:				
3	/ ()	:	:				
4	/ ()	:	:				
5	/ ()	:	:				
6	/ ()	:	:				
7	/ ()	:	:				
8	/ ()	:	:				
9	/ ()	:	:				
10	/ ()	:	:				
11	/ ()	:	:				
12	/ ()	:	:				
13	/ ()	:	:				
14	/ ()	:	:				
15	/ ()	:	:				
16	/ ()	:	:				
17	/ ()	:	:				
18	/ ()	:	:				
19	/ ()	:	:				
20	/ ()	:	:				

●出席日数 _____ 日
 (遅刻日数 _____ 日 / 早退日数 _____ 日)

●合計時間 _____ 時間

●欠席日数 _____ 日

上記の通り実習したことを証明する。

20 ____ 年 ____ 月 ____ 日

施設名 _____

代表者氏名 _____

印 _____

実習出席表

校名: 国際ファッション専門職大学
国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号: _____ 氏名: _____

回	出席日	開始時刻	終了時刻	時間数	指導者印	実習生印	備考
21	/ ()	:	:				
22	/ ()	:	:				
23	/ ()	:	:				
24	/ ()	:	:				
25	/ ()	:	:				
26	/ ()	:	:				
27	/ ()	:	:				
28	/ ()	:	:				
29	/ ()	:	:				
30	/ ()	:	:				
31	/ ()	:	:				
32	/ ()	:	:				
33	/ ()	:	:				
34	/ ()	:	:				
35	/ ()	:	:				
36	/ ()	:	:				
37	/ ()	:	:				
38	/ ()	:	:				
39	/ ()	:	:				
40	/ ()	:	:				

●出席日数 _____ 日
 (遅刻日数 _____ 日 / 早退日数 _____ 日)

●合計時間 _____ 時間

●欠席日数 _____ 日

上記の通り実習したことを証明する。

20 ____ 年 ____ 月 ____ 日

施設名 _____

代表者氏名 _____

印 _____

実習計画（案）

国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 ○○○○○学科

授業科目名	臨地実習 I（企業）	時間数	300時間（40日間）
実施期間	XXXX年XX月XX日（曜日）～XXXX年XX月XX日（曜日）		
実習の目的	ファッションに関する仕事への理解を深めるとともに、専門職としての自覚を促すことである。各自のキャリアプランを固め、必要となる社会人としての基本的なスキルを理解し身につけることを目的とし、企業、会社の目的や仕組みを、実習先スタッフ（社員その他）と協業しながら業務を推進する中で知り、必要なスキルを身につける。		
実習内容	実習先で実際に行われている業務を通じて、実習指導者の指示のもと業務を経験し、実際に業務の一部を担当する。		
学生数	〇〇名		
学修成果の評価方法	臨地実習 I 評価表（実務評価・人物評価）に基づき評価する。		
実習・演習等計画			
日程	実習の内容		実施場所
実習初日	臨地実習 I（企業）オリエンテーション 企業の沿革、組織説明、就業規則、実習・研修の体制などの説明と、研修内容についてのオリエンテーションを実施。		実習先
～ 1週目	実習生自らが業務の流れを見聞きし、理解したうえで、実習先企業の取り扱う商品の企画、開発、生産、販売などの付随した業務内容を補助するための計画を行い実習期間中の各自の目標設定を行い、実習指導者のフィードバックを得る。目標設定を基に、最終週において報告ができるよう対応する。		実習先
～ 3週目	実習期間2週間を振り返り、補助業務内容の反省および、必要とされる知識、技術の不足部分、問題点と、実習日誌の実習指導者からのフィードバックを基に自己分析を行う。後半戦に伴い、実習先から与えられたテーマを課題として、企画立案、計画準備など、課題毎に取り組む。		実習先
～ 5週目	実習先から与えられた各自の課題に対しての進捗状況を適宜、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行いながら業務を遂行する。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、次のステップに移行する。		実習先
～ 7週目	引き続き、与えられた課題を基に業務を遂行する。適宜、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行う。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、最終プレゼンテーションに備えてブラッシュアップを行う。		実習先
～ 8週目	完成した成果物についてのプレゼンテーションならびに実習目標に伴う報告を行う。実習先企業に協力を得て、できる限り多くのスタッフから評価を得ることを目指す。その評価を基に、得られた改善点について自己評価表にまとめ、成果物とともに実習指導者に提出し報告を行う。		実習先
実習先企業名		実習指導者	

実習計画（案）

国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 ○○○○○学科

授業科目名	臨地実習Ⅱ（地方産地）	時間数	300時間（40日間）
実施期間	XXXX年XX月XX日（曜日）～XXXX年XX月XX日（曜日）		
実習の目的	ファッションに関する仕事への理解を深めるとともに、それぞれの地方産地特有の素材などの歴史的、地理的、文化的背景への知識を深め、伝統的な技術を学ぶ。各地区の産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見出すことを達成目標とする。		
実習内容	産地企業から与えられたテーマに基づき、プロジェクト形式でその制作にあたる。実習生でプロジェクトチームを構成し、定められた納期までに要求された品質以上の成果物を完成させることを目標とする。プロジェクトの計画立案などプロジェクト運用の全てについて実習生が主体となって進めてゆく。完成した成果物についてはプレゼンテーションを行い、実習指導者の評価を得る。		
学生数	〇〇名		
学修成果の評価方法	臨地実習Ⅱ評価表に基づき評価する。		
実習・演習等計画			
日程	実習の内容		実施場所
実習初日	臨地実習Ⅱ（地方産地）オリエンテーション 産地企業の沿革、組織説明、就業規則、実習・研修の体制などの説明と、研修内容についてのオリエンテーションを実施。また、地方産地特有の素材などの歴史的、地理的、文化的背景への説明を得る。		実習先
～ 1週目	実習先から与えられたテーマを課題とし、制作プロジェクトチームを結成する。プロジェクトをすすめてゆくにあたり、プロジェクトの核となるプロジェクト憲章（背景と目的、最終成果物、組織図、スケジュール概要、制約条件などをまとめたもの）を作成し、プロジェクトの運用体制づくりを行う。		実習先
～ 3週目	計画した工程に従い、与えられたテーマの課題解決を図る為の調査を確りと行い、説得力のあるコンセプトを複数案企画する。複数の企画案からデザインコンセプトを多角的に検討し、企画書を作成する。立案した企画を実習指導者にプレゼンテーションし評価を得る。その評価に基づき、制作する案1つを決定する。		実習先
～ 5週目	決定した案について、実制作を実践的課題として行う。適宜、実習指導者の評価を受け、仕様の変更やデザイン修正がないか確認を行いながら業務を遂行する。週末にはそこまでの成果を確認し、実習指導者の評価・アドバイスを受け、次のステップに移行する。		実習先
～ 7週目	引き続き、実制作を実践的課題として行う。適宜、実習指導者の評価を受け、仕様の変更やデザイン修正がないか確認を行いながら業務を遂行する。週末にはそこまでの成果を確認し、実習指導者の評価・アドバイスを受け、最終プレゼンテーションに備え、ブラッシュアップを行う。		実習先
～ 8週目	完成した成果物についてプレゼンテーションを実施する。実習先企業に協力を依頼し、できるだけ多くのスタッフから評価を得ることを目指す。それらの評価のまとめや、そこから得られるさらなる改善点についてレポートにまとめ、成果物とともに実習指導者に提出し報告を行う。		実習先
実習先企業名		実習指導者	

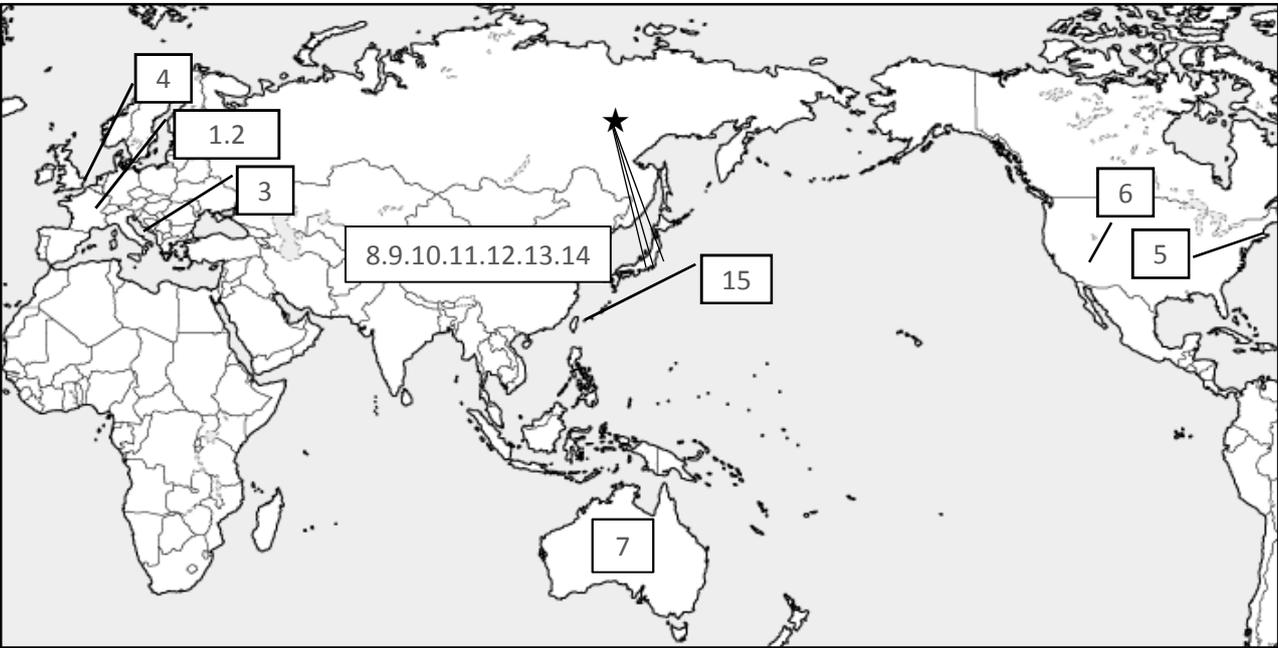
国際ファッション学部

海外実習受入先一覧

ファッションクリエイション学科／ファッションビジネス学科
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科／名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

(全15施設)

- 付数字 = 海外実習先
- ★ = 本学校舎



海外実習受入先一覧

番号	国名	実習先名	住所	受入 学生数	契約期間 (承諾書より転記)
1	フランス (パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	100/102 rue du faubourg Saint-Honoré 75008 Paris	35	平成29年10月27日～ 平成34年3月31日
2	フランス (パリ)	Nelly Rodi	28. avenue de St Quen. 75018 Paris	1	平成33年度以降
3	イタリア (ミラノ郊外)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	Viale dell'Industria 1/3/5 2844 Villadossola-VA-	20	平成33年度以降
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN. CO. Ltd.	74Salisbury Road London NW6 6NU	10	平成33年以降
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	625/650/654 Madison Avenue, New York, NY 10022 U. S. A. 601 West 26th Street, New York, NY, 10001 U. S. A. 550 Seventh Avenue, New York, NY, 10018 U. S. A.	40	平成33年度以降
6	アメリカ (ロスアンジェルス)	T. A. T. LA	8620 W 3rd Los Angeles CA90048	10	平成33年度以降
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	Level 6 68 Harrington Street The Rocks Sydney NSW 2000	40	平成33年度以降
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司, GXG	宁波勤州望春工业园区杉杉路111号	25	平成33年度以降
9	中国	宁波洛元服饰有限公司, NINGBO LOUYUAN	浙江省宁波市北仑区联合区域工业区G5-2厂房三楼	10	平成33年度以降
10	中国	宁波欧艺服饰有限公司, NINGBO OUYUI	宁波开发区联合区域工业区G5-2厂房3幢二楼	15	平成33年度以降
11	中国	宁波立名进出口有限公司, NINGBO OUYUI	宁波市鄞州区首南街道茶亭庵村李花桥村	15	平成33年度以降
12	中国	宁波素心中式服装工作室, NINGBO SUXIN	宁波市横街镇	5	平成33年度以降
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	浙江省宁波市镇海区	5	平成33年度以降
14	中国	T. A. T. 上海	中国上海市長寧区延安西路2299号8F B26室	5	平成33年度以降
15	台湾	T. A. T. 台北	台湾新北市永和區福和路389號2樓	5	平成33年度以降
計				241	

資料 11-2として海外実習受入先全15施設の承諾書を添付した。

1) 実施目的

教育課程の展開科目、国際科目群の必修科目として、全学生が3年次に履修する。実習終了後、海外実習 I の評価に従い2単位を付与する。この科目は単なる海外視察ではなく、学生の国際ファッション業界におけるキャリアプラン形成に役立てること、国際連携ゼミにおいて、設定したテーマのフィールドワークをすること、国際社会におけるコミュニケーション力、語学力の習熟度を確保することを目的とする。よって実習先としては1～15の国際ファッション市場において製造業、卸売業、小売業、複合サービス業に位置づけられ活動をしている企業や組合を選定した。目的を達成するために学生たちが実習に参加する前に、国際連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。事後は同ゼミにおいて実習成果を発表し目的の達成度を確保する。

2) 指導体制

本科目では、国際ファッション学部を形成する4学科の海外経験が豊富な専任教員が実習先別に添乗し、実習先との連携、学習指導、生活指導、安全の確保を図る。実習先別に2～3名の専任教員を配し、1名は国内のキャンパスに留まり、実習先との連絡を密にとりながら円滑な運営を補助する。また必要があればいつでも現地に応援に駆け付ける要員とする。

3) 実習目的の達成と安全の確保

本科目の実習先は本法人とは産学連携および国際ファッションコンテスト、オリジナル教材作成等の相互活動を通じて長年に渡り信頼関係を築いてきた企業や組合が大半を占める。そのため、本学の実習目的を理解し、学生の安全と実習内容の不断の見直しをかけることができる相手として全幅の信頼がおける。また、本科目の担当教員はそれぞれの国における経験が豊富で、現地の慣習や文化においても習熟しており、あらゆる場合において適確な判断を下すことができる。

4) 実習スケジュール

資料11-6に記載した通り、学生オリエンテーションは2年次10月に実施する。学生は希望実習先を選択し応募書類を作成し応募する。定員を超える応募があった実習先についてはキャリアサポートセンターのスタッフと海外実習 I の担当教員が面接をし選考のうえ、決定する。実習は資料11-3に記載した通り、臨地実習 I・IIを12月までに終えたグループは1月5日～1月16日、それ以外のグループは3月14日～3月25日に実施する。

5) 単位認定と評価

実習を効果的に進めるために、学生には資料11-11の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（人物）評価表を含む）」を配布する。実習前後には国際連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

海外実習Ⅱ実施概要

1) 実施目的

教育課程の展開科目、国際科目群の選択科目として、希望者が3年次に履修する。実習終了後、海外実習Ⅱの評価に従い2単位を付与する。この科目は海外での就職を目指す学生のファッション業界に就職活動に役立てること、国際社会におけるコミュニケーション力、語学力の習熟度を確保することを目的とする。よって実習先としては1～15以外でも学生の希望する企業があれば、学生主導で実習に関する依頼を行い、本学はそのサポートを積極的に行う。臨地実習Ⅰ同様に実習に参加する前に、国際連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。事後は同ゼミにおいて実習成果を発表し目的の達成度を確保する。

2) 指導体制

本科目では、国際ファッション学部を形成する4学科の海外経験が豊富な専任教員が地域別に担当し、実習先との連携、学習指導、生活指導、安全の確保を図る。連絡手段としてはスカイプなどのメディアを使用する。

フランス語圏担当 A①高橋幸次、永澤陽一 A②寺戸淳子、平野大
ヨーロッパ、アジア英語圏担当 B①捧恭子、奥村潔 B②須網美由紀、金谷美和 C山本雅男、金谷美和
英語圏担当 D鈴木孝史、熊田陽子、今村淳 E福田安佐子、河西瑛理子
中国語圏担当 F篠原航平、畑中艶子、磯部美里 G丹羽朋子
インドネシア担当 G廣田緑

3) 実習目的の達成と安全の確保

本科目の担当教員はそれぞれの国における経験が豊富で、現地の慣習や文化においても習熟しており、あらゆる場合において適確な判断を下し実習先との連携、交渉が可能。

4) 実習スケジュール

資料11-6に記載した通り、学生オリエンテーションは2年次10月に実施する。学生は希望実習先を選定し応募書類を作成し応募する。キャリアサポートセンターのスタッフと海外実習Ⅱのエリア別担当教員が面接をし必要なアドバイスを個別に行う。実習は臨地実習Ⅰ、臨地実習Ⅱ、海外実習Ⅰの実習を除く期間に実施する。

5) 単位認定と評価

実習を効果的に進めるために、学生には資料11-11の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（実務）評価表、実習（人物）評価表を含む）を配布する。実習前後には国際連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

海外実習 I 実施計画

資料 11-4

番号	国名	実習先名	受入 学生数	学生振り分け				引率教師				時期 2022年	滞在 都市	出発地と到着地の人数 1月						出発地と到着地の人数 3月						費用概算 (1名)		
				TC	TB	O	N	TC	TB	O	N			羽田発着	関空発着	中部発着	羽田発着	関空発着	中部発着	航空券	滞在費	合計						
														教師1	学生11	教師1	学生6	教師0	学生0	教師1	学生10	教師1	学生8	教師0	学生0			
1	フランス	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35	14	7	7	7	3	0	1	0	1月・3月	パリ	パリ	パリ	パリ	パリ	パリ	120,000	100,000	220,000							
2	フランス	Nelly Rodi	1	/	1	/	/	3	0	1	0	1月・3月	パリ	パリ	パリ	パリ	パリ	パリ	120,000	100,000	220,000							
3	イタリア	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20	10	/	5	5	1	0	1	2	1月・3月	ミラノ	ミラノ	ミラノ	ミラノ	ミラノ	ミラノ	120,000	80,000	200,000							
4	イギリス	MICHIKO KOSHINO JAPAN.CO.Ltd.	10	7	1	1	1	1	0	1	0	1月・3月	ロンドン	ミラノ	ミラノ	ミラノ	ミラノ	ミラノ	120,000	100,000	220,000							
5	アメリカ	RALPH LAUREN	40	10	10	10	10	3	0	0	0	1月・3月	NY	NY	NY	NY	NY	NY	120,000	100,000	220,000							
6	アメリカ	T. A. T.	10	/	4	3	3	3	0	0	0	1月・3月	LA	LA	LA	LA	LA	LA	120,000	100,000	220,000							
7	オーストラリア	THE WOOLMARK COMPANY	40	10	10	10	10	0	0	1	1	1月・3月	シドニー	シドニー	シドニー	シドニー	シドニー	シドニー	100,000	80,000	180,000							
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司, GXG	25	7	6	6	6	0	1	1	1	1月・3月	寧波	寧波	寧波	寧波	寧波	寧波	50,000	40,000	90,000							
9	中国	宁波洛元服饰有限公司, NINGBO LOUYUAN	10	5	1	2	2	0	1	1	1	1月・3月	寧波	寧波	寧波	寧波	寧波	寧波	50,000	40,000	90,000							
10	中国	宁波欧艺服饰有限公司, NINGBO OUYUI	15	6	3	3	3	0	1	1	1	1月・3月	寧波	寧波	寧波	寧波	寧波	寧波	50,000	40,000	90,000							
11	中国	宁波立名进出口有限公司, NINGBO OUYUI	15	6	3	3	3	0	1	1	1	1月・3月	寧波	寧波	寧波	寧波	寧波	寧波	50,000	40,000	90,000							
12	中国	宁波素心中式服装工作室, NINGBO SUXIN	5	5	/	/	/	0	1	1	1	1月・3月	寧波	/	/	/	寧波	/	50,000	40,000	90,000							
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5	5	/	/	/	0	1	1	1	1月・3月	寧波	/	/	/	寧波	/	50,000	40,000	90,000							
14	中国	T. A. T. 上海	5	5	/	/	/	0	1	1	1	1月・3月	上海	/	/	/	上海	/	50,000	50,000	100,000							
15	台湾	T. A. T. 台北	5	5	/	/	/	0	1	0	1	1月・3月	台北	/	/	/	台北	/	40,000	40,000	80,000							
計			241	95	46	50	50																					

海外実習 I 実習先別の指導体制

資料 11-5

番号	国名	実習先名	受入学生数	実習先の事業内容	実習方法	実習担当教員	指導体制
1	フランス(パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35	婦人既成服製造業社が 加盟している組合	組合に加盟している企業において、フランスにおける婦人服の製造工程を視察し、学生各自が設定したテーマに沿った実習を行う。	A①高橋幸次、永澤陽一 A②寺戸淳子、平野大	・海外実習指導担当専任教員は、各学生の実習テーマについての把握をするともに実習中の個別指導を十分に行う。
2	フランス(パリ)	Nelly Rodi	1	ライフスタイルに関する 学術研究、専門・技術サービス業	実習に参加する前に、Nelly Rodi ジャパンにおいて実習先の業務内容に関する指導を受ける。その知識を基に、学生が設定したテーマに沿った実習をフランス本社で行う。	A①高橋幸次、永澤陽一	
3	イタリア (ミラノ)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20	ファッション、ファッション グッズ、インテリアのための革、ラ フィアを中心とした資 材の製造業	ミラノにあるショールーム、ミラノ郊外にある工場の視察。その後、学生各自が設定したテーマに沿った実習を行う。	B①椿恭子、奥村潔 B②須網美由紀、金谷美和	・実習を効果的に進めるために、実習生用の「実習要項(実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習(実務)評価表、実習(人物)評価表を含む)」を作成し、実習指導に活用する。
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN. CO. Ltd.	10	ファッション、ファッション グッズを中心とした製造業	実習に参加する前に、日本のMICHIKO KOSHINO JAPAN. CO. Ltd. において業務内容に関する指導を受ける。その知識を基に、学生が設定したテーマに沿った実習をイギリスの実習先で行う。	C山本雅男、金谷美和	
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	40	ファッション、ファッション グッズを中心とした製造業	実習に参加する前に、日本のRALPH LAUREN JAPAN. CO. Ltd. において業務内容に関する指導を受ける。その知識を基に、学生が設定したテーマに沿った実習をアメリカの実習先で行う。	D鈴木孝史、熊田陽子、今村淳	・実習中、学生から実習先の対応に関し問題発生が報告があった場合、実習先担当と速やかに打ち合わせし解決する。
6	アメリカ (ロスアンゼルス)	T. A. T. LA	10	美容商材の卸売業、小 売業、生活関連サービス業	実習に参加する前に、日本のT. A. T. において業務内容に関する指導を受ける。その知識を基に、学生が設定したテーマに沿った実習をアメリカの実習先で行う。	D鈴木孝史、熊田陽子、今村淳	
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	40	オーストラリア産の羊 毛のための複合サービス事業	実習参加者は、事前に日本支社のスタッフによるTHE WOOLMARK COMPANYの活動に関する講義を各キャンパスにて受講する。その知識を基に、学生が設定したテーマに沿った実習をオーストラリアの実習先で行う。オーストラリア羊毛の製造工程も現地にて視察する。	E福田安佐子、河西瑛理子	・実習前後には国際ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司, GXG	25	ファッションを中心とした製造業、小売業、	実習先の製造工程、小売り店舗を視察し、学生各自が設定したテーマに沿った実習を行う。	F篠原航平、畑中艶子、磯部美里	
9	中国	宁波洛元服饰有限公司, NINGBO LOUYUAN	10	ファッションを中心とした製造業、小売業	実習先の製造工程、小売り店舗を視察し、学生各自が設定したテーマに沿った実習を行う。	F篠原航平、畑中艶子、磯部美里	・担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

10	中国	宁波欧艺服饰有限公司, NINGBO OUYUI	15	ファッションを中心とした製造業、小売り業	実習先の製造工程、小売り店舗を視察し、学生各自が設定したテーマに沿った実習を行う。	F 篠原航平、畑中艶子、磯部美里
11	中国	宁波立名进出口有限公司, NINGBO OUYUI	15	ファッションを中心とした製造業、小売り業	実習先の製造工程を視察し、学生各自が設定したテーマに沿った実習を行う。	F 篠原航平、畑中艶子、磯部美里
12	中国	宁波素心中式服装工作室, NINGBO SUXIN	5	ファッションを中心とした製造業	実習先の製造工程を視察し、学生各自が設定したテーマに沿った実習を行う。	F 篠原航平、畑中艶子、磯部美里
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5	ファッションを中心とした製造業、小売り業	実習先の製造工程を視察し、学生各自が設定したテーマに沿った実習を行う。	F 篠原航平、畑中艶子、磯部美里
14	中国	T. A. T. 上海	5	美容商材の卸売業、小売業、生活関連サービス業	実習に参加する前に、日本のT. A. T.において業務内容に関する指導を受ける。その知識を基に、学生が設定したテーマに沿った実習をアメリカの実習先で行う。	F 篠原航平、畑中艶子、磯部美里
15	台湾	T. A. T. 台北	5	美容商材の卸売業、小売業、生活関連サービス業	実習に参加する前に、日本のT. A. T.において業務内容に関する指導を受ける。その知識を基に、学生が設定したテーマに沿った実習をアメリカの実習先で行う。	G 丹羽朋子、廣田緑
			計 241			

添乗教員の海外経験の一覧

氏名 (本名)	備考	ポジション	職務内容	海外滞在年数
高橋 幸次	フランス国立美術館研究員、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、日本大学海外研修員	客員研究員、交換教授、研修員	研究、大学院生の教育、研究	約1年
鈴木 孝史	アジアン・カルチュラル・カウンシル (Asian Cultural Council 「芸術家フェローシップ」 (アメリカ・ニューヨーク)、文化庁派遣・芸術家在外研修員 於：プリンストン大学日本大学海外研修員 於：プリンストン大学	研究員、研修員	研究、大学院生の教育、研究	約1.5年
寺戸 淳子	日本学術振興会 受入機関：Laboratoire d'Anthropologie sociale, Collège de France (コレージュド・フランス 社会人類学研究室) (フランス、パリ) 受入研究者：Nicole Belmont (ニコル・ベルモン) 教授、Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, Histoire et Civilisations	特別研究員 学生	研究 博士課程学生	約3.5年
永澤 陽一	TOKIO KUMAGAI ABC DESIGN Paris (トキオ クマガイ デザインパリ) (現在は廃業) (フランス)	デザイナー	デザイン業務	約3年
捧 恭子	ARS SUTORIA (現ARSUTORIA School) (イタリア靴学校)	学生	学部学生	約0.5年
熊田 陽子	Camosun College, School of Arts and Science, University of Victoria, Faculty of Social Sciences, 株式会社アルダス・アジュール社 (カナダ)	学生、社員	学部学生、社員	約7年
今村 淳	The City University of New York Hunter College, Vermont Studio Center, The City University of New York Hunter College Department of Classical & Oriental Studies (アメリカ)	学生、滞在研究員、非常勤講師	学部学生、研究、学部生の教育	約5.5年
篠原 航平	GOTEX GLOBAL COMPANY LIMITED 上海市 営業部 出向 (中国)	社員	ファッションビジネスの実務、現地スタッフの教育	約7年
丹羽 朋子	清華大学美術学院芸術史論系 留学(中国)	学生	学部学生	約1.5年

国際ファッション専門職大学 [国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科]

添乗教員の海外経験の一覧

氏名 (本名)	備考	ポジション	職務内容	海外滞在年数
金谷 美和	Delhi University, School of Economics (デリー大学経済学院) に casual student (カジュアル・ステューデント) として留学 (インド)	学生	学部学生	約1.5年
平野 大	パリ第一大学舞台芸術学部映画オーディオビジュアル学科修士課程 l'Université de Paris I (Panthéon-Sorbonne), Maîtrise (フランス) パリ第十大学シネマ、テレビジョン、オーディオビジュアル学科博士課程研究免状取得課程 入学 (フランス) (l'Université Paris X Nanterre, DEA, Cinéma, Télévision, Audiovisuel) 現在の大学名: (Université Paris 10 Ouest Nanterre la Défense)	学生	修士課程学生 博士課程学生	約9年
福田 安佐子	ストラスブール大学文学部哲学科 (Université de Strasbourg, Faculté de Philosophie) 単位互換制交換留学 (フランス)	学生	学部学生	約1年
河西 瑛里子	"米国イリノイ大学シカゴ校教養学部 (University of Illinois at Chicago, Department of Liberal Arts and Sciences) に交換留学" "米国ハワイ大学マヌア校人類学部 (University of Hawaii at Manua, Department of Anthropology) 夏期講座「チリ領イースター島における考古学実習」 受講	学生	学部学生	約1年
畑中 艶子	中国国立哈爾濱 (ハルビン) 工業大学 (中国) 中国深圳 (シンセン) 市賽格集团有限公司 (約30,000人) (SHENZHEN ELECTRONICS GROUP CO., LTD.) (中国)	学生 社員	学部学生 技術開発部 助エンジニア、マイクロモーターの研究開発 同 総務部社長室秘書、海外工場建設プロジェクトの立ち上げ、M&Aに参加	約10年

国際ファッション専門職大学 [国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科]

添乗教員の海外経験の一覧

氏名 (本名)	備考	ポジション	職務内容	海外滞在年数
磯部 美里	上海華東師範大学へ語学留学 (中国) 中国社会科学院に交換留学 (中国)	学生	学部学生	約2年
須網 美由紀	ヴェネツィア大学 (美術史専攻) 留学 Università Ca' Foscari Venezia in Italia (Dipartimento di Storia delle Arti e Conservazione dei Beni Artistici) (イタリア)	学生	学部学生	約2年
廣田 緑	インドネシア芸術院デンパサール校美術学部絵画科 (インドネシア) インドネシア国費留学 (ダルマシスワプログラム) により、 ISI (Institut Seni Indonesia) Yogyakarta インドネシア国立芸術院ジョグジャカルタ校美術学部ヴィジュアルアート科 (インドネシア)	聴講生 学生	学部学生	約3年
奥村 潔	御幸毛織株式会社子会社 ミノバ株式会社取締役として出向 (イギリス) ミノバ株式会社 専務取締役に就任 (イギリス)	専務取締役	経営全般	約11年

◎臨地実習ⅠⅡの①グループは1/5~1/16の海外実習Ⅰに参加

No.	国名	実習施設名	学生人数	12/29 水	12/30 木	12/31 金	1/1 土	1/2 日	1/3 月	1/4 火	1/5 水	1/6 木	1/7 金	1/8 土	1/9 日	1/10 月	1/11 火	1/12 水	1/13 木	1/14 金	1/15 土	1/16 日	1/17 月	1/18 火	1/19 水	1/20 木	1/21 金	1/22 土	1/23 日	1/24 月
1	フランス (パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35								① ←	A①②																		
2	フランス (パリ)	Nelly Rodi	1								① ←	A①②																		
3	イタリア (ミラノ郊外)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20								① ←	B①②																		
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd.	10								① ←	C																		
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	40								① ←	D																		
6	アメリカ (ロスアンジェルス)	T.A.T. LA	10								① ←	D																		
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	40								① ←	E																		
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司,GXG	25								① ←	F																		
9	中国	宁波洛元服饰有限公司,NINGBO LOUOVUAN	10								① ←	F																		
10	中国	宁波欣艺服饰有限公司,NINGBO OUYUI	15								① ←	F																		
11	中国	宁波立名进出口有限公司,NINGBO OUYUI	15								① ←	F																		
12	中国	宁波素心中式服装工作室,NINGBO SUXIN	5								① ←	F																		
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5								① ←	F																		
14	中国	T.A.T. 上海	5								① ←	F																		
15	台湾	T.A.T. 台北	5								① ←	G																		

◎臨地実習ⅠⅡの②③グループは3/14~3/25の海外実習Ⅰに参加

No.	国名	実習施設名	学生人数	3/1 火	3/2 水	3/3 木	3/4 金	3/5 土	3/6 日	3/7 月	3/8 火	3/9 水	3/10 木	3/11 金	3/12 土	3/13 日	3/14 月	3/15 火	3/16 水	3/17 木	3/18 金	3/19 土	3/20 日	3/21 月	3/22 火	3/23 水	3/24 木	3/25 金	3/26 土	3/27 日
1	フランス (パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35														②③ ←	A①②												
2	フランス (パリ)	Nelly Rodi	1														②③ ←	A①②												
3	イタリア (ミラノ郊外)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20														②③ ←	B①②												
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd.	10														②③ ←	C												
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	40														②③ ←	D												
6	アメリカ (ロスアンジェルス)	T.A.T. LA	10														②③ ←	D												
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	40														②③ ←	E												
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司,GXG	25														②③ ←	F												
9	中国	宁波洛元服饰有限公司,NINGBO LOUOVUAN	10														②③ ←	F												
10	中国	宁波欣艺服饰有限公司,NINGBO OUYUI	15														②③ ←	F												
11	中国	宁波立名进出口有限公司,NINGBO OUYUI	15														②③ ←	F												
12	中国	宁波素心中式服装工作室,NINGBO SUXIN	5														②③ ←	F												
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5														②③ ←	F												
14	中国	T.A.T. 上海	5														②③ ←	F												
15	台湾	T.A.T. 台北	5														②③ ←	G												

添乗教員 A①:高橋・永澤 A②:寺戸・平野/B①:捧・奥村 B②:須網・金谷/C:山本・金谷/D:鈴木・熊田・今村/E:福田・河西/F:篠原・畑中・磯部/G:丹羽・廣田
(凡例) 網掛け:海外実習 休:休み A~G:添乗指導

ファッションビジネス学科

平成34年1月 海外実習Ⅰ 引率計画表

◎臨地実習ⅠⅡの①グループは1/5～1/16の海外実習Ⅰに参加

No.	国名	実習施設名	学生 人数	12/29 水	12/30 木	12/31 金	1/1 土	1/2 日	1/3 月	1/4 火	1/5 水	1/6 木	1/7 金	1/8 土	1/9 日	1/10 月	1/11 火	1/12 水	1/13 木	1/14 金	1/15 土	1/16 日	1/17 月	1/18 火	1/19 水	1/20 木	1/21 金	1/22 土	1/23 日	1/24 月
1	フランス (パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35								① ←		A①②																	
2	フランス (パリ)	Nelly Rodi	1								① ←		A①②																	
3	イタリア (ミラノ郊外)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20								① ←		B①②																	
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd.	10								① ←		C																	
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	40								① ←		D																	
6	アメリカ (ロスアンジェルス)	T.A.T. LA	10								① ←		D																	
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	40								① ←		E																	
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司,GXG	25								① ←		F																	
9	中国	宁波洛元服饰有限公司,NINGBO LOUOVUAN	10								① ←		F																	
10	中国	宁波欣艺服饰有限公司,NINGBO OUYUI	15								① ←		F																	
11	中国	宁波立名进出口有限公司,NINGBO OUYUI	15								① ←		F																	
12	中国	宁波素心中式服装工作室,NINGBO SUXIN	5								① ←		F																	
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5								① ←		F																	
14	中国	T.A.T. 上海	5								① ←		F																	
15	台湾	T.A.T. 台北	5								① ←		G																	

平成34年3月 海外実習Ⅰ 引率計画表

◎臨地実習ⅠⅡの②③グループは3/14～3/25の海外実習Ⅰに参加

No.	国名	実習施設名	学生 人数	3/1 火	3/2 水	3/3 木	3/4 金	3/5 土	3/6 日	3/7 月	3/8 火	3/9 水	3/10 木	3/11 金	3/12 土	3/13 日	3/14 月	3/15 火	3/16 水	3/17 木	3/18 金	3/19 土	3/20 日	3/21 月	3/22 火	3/23 水	3/24 木	3/25 金	3/26 土	3/27 日	
1	フランス (パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35														②③ ←		A①②												
2	フランス (パリ)	Nelly Rodi	1														②③ ←		A①②												
3	イタリア (ミラノ郊外)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20														②③ ←		B①②												
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd.	10														②③ ←		C												
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	40														②③ ←		D												
6	アメリカ (ロスアンジェルス)	T.A.T. LA	10														②③ ←		D												
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	40														②③ ←		E												
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司,GXG	25														②③ ←		F												
9	中国	宁波洛元服饰有限公司,NINGBO LOUOVUAN	10														②③ ←		F												
10	中国	宁波欣艺服饰有限公司,NINGBO OUYUI	15														②③ ←		F												
11	中国	宁波立名进出口有限公司,NINGBO OUYUI	15														②③ ←		F												
12	中国	宁波素心中式服装工作室,NINGBO SUXIN	5														②③ ←		F												
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5														②③ ←		F												
14	中国	T.A.T. 上海	5														②③ ←		F												
15	台湾	T.A.T. 台北	5														②③ ←		G												

添乗教員 A①：高橋・永澤 A②：寺戸・平野/B①：椿・奥村 B②：須網・金谷/C：山本・金谷/D：鈴木・熊田・今村/E：福田・河西/F：篠原・畑中・磯部/G：丹羽・廣田
(凡例) 網掛け：海外実習 休：休み A～G：巡回指導

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
平成34年1月 海外実習Ⅰ 引率計画表

◎臨地実習Ⅱの①グループは1/5～1/16の海外実習Ⅰに参加

No.	国名	実習施設名	学生 人数	12/29 水	12/30 木	12/31 金	1/1 土	1/2 日	1/3 月	1/4 火	1/5 水	1/6 木	1/7 金	1/8 土	1/9 日	1/10 月	1/11 火	1/12 水	1/13 木	1/14 金	1/15 土	1/16 日	1/17 月	1/18 火	1/19 水	1/20 木	1/21 金	1/22 土	1/23 日	1/24 月
1	フランス (パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35								① ←		A①②																	
2	フランス (パリ)	Nelly Rodi	1								① ←		A①②																	
3	イタリア (ミラノ郊外)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20								① ←		B①②																	
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd.	10								① ←		C																	
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	40								① ←		D																	
6	アメリカ (ロスアンジェルス)	T.A.T. LA	10								① ←		D																	
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	40								① ←		E																	
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司,GXG	25								① ←		F																	
9	中国	宁波洛元服饰有限公司,NINGBO LOUOVUAN	10								① ←		F																	
10	中国	宁波欣艺服饰有限公司,NINGBO OUYUI	15								① ←		F																	
11	中国	宁波立名进出口有限公司,NINGBO OUYUI	15								① ←		F																	
12	中国	宁波素心中式服装工作室,NINGBO SUXIN	5								① ←		F																	
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5								① ←		F																	
14	中国	T.A.T. 上海	5								① ←		F																	
15	台湾	T.A.T. 台北	5								① ←		G																	

平成34年3月 海外実習Ⅰ 引率計画表

◎臨地実習Ⅱの②③グループは3/14～3/25の海外実習Ⅰに参加

No.	国名	実習施設名	学生 人数	3/1 火	3/2 水	3/3 木	3/4 金	3/5 土	3/6 日	3/7 月	3/8 火	3/9 水	3/10 木	3/11 金	3/12 土	3/13 日	3/14 月	3/15 火	3/16 水	3/17 木	3/18 金	3/19 土	3/20 日	3/21 月	3/22 火	3/23 水	3/24 木	3/25 金	3/26 土	3/27 日
1	フランス (パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35														②③ ←		A①②											
2	フランス (パリ)	Nelly Rodi	1														②③ ←		A①②											
3	イタリア (ミラノ郊外)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20														②③ ←		B①②											
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd.	10														②③ ←		C											
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	40														②③ ←		D											
6	アメリカ (ロスアンジェルス)	T.A.T. LA	10														②③ ←		D											
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	40														②③ ←		E											
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司,GXG	25														②③ ←		F											
9	中国	宁波洛元服饰有限公司,NINGBO LOUOVUAN	10														②③ ←		F											
10	中国	宁波欣艺服饰有限公司,NINGBO OUYUI	15														②③ ←		F											
11	中国	宁波立名进出口有限公司,NINGBO OUYUI	15														②③ ←		F											
12	中国	宁波素心中式服装工作室,NINGBO SUXIN	5														②③ ←		F											
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5														②③ ←		F											
14	中国	T.A.T. 上海	5														②③ ←		F											
15	台湾	T.A.T. 台北	5														②③ ←		G											

添乗教員 A①:高橋・永澤 A②:寺戸・平野/B①:椿・奥村 B②:須網・金谷/C:山本・金谷/D:鈴木・熊田・今村/E:福田・河西/F:篠原・畑中・磯部/G:丹羽・廣田
(凡例) 網掛け:海外実習 休:休み A~G:巡回指導

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

平成34年1月 海外実習Ⅰ 引率計画表

◎臨地実習ⅠⅡの①グループは1/5～1/16の海外実習Ⅰに参加

No.	国名	実習施設名	学生 人数	12/29 水	12/30 木	12/31 金	1/1 土	1/2 日	1/3 月	1/4 火	1/5 水	1/6 木	1/7 金	1/8 土	1/9 日	1/10 月	1/11 火	1/12 水	1/13 木	1/14 金	1/15 土	1/16 日	1/17 月	1/18 火	1/19 水	1/20 木	1/21 金	1/22 土	1/23 日	1/24 月	
1	フランス (パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35								① ←		A①②																		
2	フランス (パリ)	Nelly Rodi	1								① ←		A①②																		
3	イタリア (ミラノ郊外)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20								① ←		B①②																		
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd.	10								① ←		C																		
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	40								① ←		D																		
6	アメリカ (ロスアンジェルス)	T.A.T. LA	10								① ←		D																		
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	40								① ←		E																		
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司, GXG	25								① ←		F																		
9	中国	宁波洛元服饰有限公司, NINGBO LOUOVUAN	10								① ←		F																		
10	中国	宁波欣艺服饰有限公司, NINGBO OUYUI	15								① ←		F																		
11	中国	宁波立名进出口有限公司, NINGBO OUYUI	15								① ←		F																		
12	中国	宁波素心中式服装工作室, NINGBO SUXIN	5								① ←		F																		
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5								① ←		F																		
14	中国	T.A.T. 上海	5								① ←		F																		
15	台湾	T.A.T. 台北	5								① ←		G																		

平成34年3月 海外実習Ⅰ 引率計画表

◎臨地実習ⅠⅡの②③グループは3/14～3/25の海外実習Ⅰに参加

No.	国名	実習施設名	学生 人数	3/1 火	3/2 水	3/3 木	3/4 金	3/5 土	3/6 日	3/7 月	3/8 火	3/9 水	3/10 木	3/11 金	3/12 土	3/13 日	3/14 月	3/15 火	3/16 水	3/17 木	3/18 金	3/19 土	3/20 日	3/21 月	3/22 火	3/23 水	3/24 木	3/25 金	3/26 土	3/27 日	
1	フランス (パリ)	婦人服プレタポルテ組合 FEDERATION FRANCAISE DU PRETAPORTER FENININ	35														②③ ←		A①②												
2	フランス (パリ)	Nelly Rodi	1														②③ ←		A①②												
3	イタリア (ミラノ郊外)	MANIFATTURA DI DOMODOSSOLA	20														②③ ←		B①②												
4	イギリス (ロンドン)	MICHIKO KOSHINO JAPAN CO.Ltd.	10														②③ ←		C												
5	アメリカ (ニューヨーク)	RALPH LAUREN	40														②③ ←		D												
6	アメリカ (ロスアンジェルス)	T.A.T. LA	10														②③ ←		D												
7	オーストラリア (シドニー)	THE WOOLMARK COMPANY	40														②③ ←		E												
8	中国	宁波中哲慕尚控股有限公司, GXG	25														②③ ←		F												
9	中国	宁波洛元服饰有限公司, NINGBO LOUOVUAN	10														②③ ←		F												
10	中国	宁波欣艺服饰有限公司, NINGBO OUYUI	15														②③ ←		F												
11	中国	宁波立名进出口有限公司, NINGBO OUYUI	15														②③ ←		F												
12	中国	宁波素心中式服装工作室, NINGBO SUXIN	5														②③ ←		F												
13	中国	iNeedMedicine at NINGBO	5														②③ ←		F												
14	中国	T.A.T. 上海	5														②③ ←		F												
15	台湾	T.A.T. 台北	5														②③ ←		G												

添乗教員 A①：高橋・永澤 A②：寺戸・平野/B①：捧・奥村 B②：須網・金谷/C：山本・金谷/D：鈴木・熊田・今村/E：福田・河西/F：篠原・畑中・磯部/G：丹羽・廣田
(凡例) 網掛け：海外実習 休：休み A～G：巡回指導

履修スケジュール(臨地実習・海外実習用)

資料11-8

年次	時期	実施場所	臨地実習 I	臨地実習 II	海外実習 I	海外実習 II
2年次	4月～6月	学内				
	7月～9月	学内				
	10月～12月	学内	← オリエンテーション →			
	1月～3月	学内	← 応募書類作成⇒応募⇒面接 →			
3年次	4月～6月	実習地				
	7月～9月	実習地	①	①		希望者
	10月～12月	実習地	②	②		希望者
	1月～3月	実習地	③	③	① ② ③	希望者
4年次	4月～6月					
	7月～9月					
	10月～12月					
	1月～3月					

※1. ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の学生は、各学科ともに①～③のグループに分けて実習を行う。

海外実習I・II計画書

国際ファッション専門職大学国際ファッション学部

年 月 日

入学年度	平成 年度	学科名	<input type="checkbox"/> ファッションクリエイション学科 <input type="checkbox"/> ファッションビジネス学科 <input type="checkbox"/> 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 <input type="checkbox"/> 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	
(フリガナ)		学籍番号		
氏名				
主指導教員名			指導教員 確認印	
実習先				
実習期間	年 月 日 ~		年 月 日	
実習課題				
(実習の目的と内容)				

海外実習Ⅰ・Ⅱ 報告書

国際ファッション専門職大学国際ファッション学部

年 月 日

入学年度	平成 年度	学科名	<input type="checkbox"/> ファッションクリエイション <input type="checkbox"/> ファッションビジネス <input type="checkbox"/> 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 <input type="checkbox"/> 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	
(フリガナ)		学籍番号		
氏名				
主指導教員名			指導教員 確認印	
実習先				
実習期間	年 月 日 ~		年 月 日	
実習課題				
(実習の目的と内容)				
(主な成果)				
備考	いずれかにチェックをしてください。 <input type="checkbox"/> 海外実習Ⅰの単位取得を希望する。 <input type="checkbox"/> 海外実習Ⅱの単位取得を希望する。			

実 習 要 項

(海外実習 I・II)

国際ファッション学部

〇〇〇〇〇学科

国際ファッション専門職大学

実習日誌

月	日	曜日	天候		日付
本日の目標					行事・特記事項
時間	業務・日課（活動・援助内容）			注 意 点	

学んだ点・反省点・考察など

実習指導者の所見

実習指導者

印

自己評価表

【実習を通して学んだ成果および今後の課題】

1. 実習先の理解

2. 実習テーマに対する総合評価と達成度

3. 実習指導者の総合所見(実習生の所見をお願いします)

実習指導者

印

実習(人物)評価表

校名: 国際ファッション専門職大学

国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号

氏名

※ご指導いただいた実習生について、以下の評価基準に基づき、ご回答ください。

評価項目	具体的な評価基準	評価資料	評価基準
勤務状態	体調管理とともに組織一員として遅刻・欠勤の重大性を理解する	実習出席表 実習日誌	6 評価基準5以上に特筆すべき点があった 5 遅刻・早退・欠勤もなく、健康管理も良好であった 4 体調がすぐれない日があったものの、遅刻や欠席はなかった 3 体調も良く実習を行えたが、1・2回の欠席・遅刻があった 2 実習期間中は、体調がすぐれないことが多かった 1 評価基準2以上に憂慮すべき点があった
指導を受ける態度	メモをとる習慣とともに素直さと積極的な姿勢や態度について考え行動する	実習日誌 対話	6 評価基準5以上に特筆すべき点があった 5 指導や助言を素直に受け止め、自分で仕事を探すなど、積極的に仕事をした 4 指導や助言を素直に受け止め、同じ指導をうけないよう、前向きに仕事をした 3 素直さはあり、決められた仕事はしたが、質問や積極性は少し足りなかった 2 指導者の指導や助言を素直に受け止めることができなかった 1 評価基準2以上に憂慮すべき点があった
協調性	他のスタッフ、実習生とのコミュニケーションの方法を考え実行し信頼関係を形成する	実習日誌 対話	6 評価基準5以上に特筆すべき点があった 5 チームの和に進んで溶け込み、周囲の人に気遣いができていた 4 チームの和に進んで溶け込んでいた 3 明るく元気な声で返事はできるが、チームの和には溶け込めなかった 2 チームに溶け込むことができず、孤立していた 1 評価基準2以上に憂慮すべき点があった
社会人基本常識	実習期間内における言動において、規律・礼儀を意識した行動をする	実習日誌 対話	6 評価基準5以上に特筆すべき点があった 5 笑顔を絶やさず、規律、礼儀をわきまえた言動がすぐれていた 4 笑顔を絶やさず、規律、礼儀をわきまえた言動がとれていた 3 挨拶はできていたが、笑顔が少し足りなかった 2 社会人として意識が、まだまだ足りなかった 1 評価基準2以上に憂慮すべき点があった
自己実現の意欲	実習の必要性を理解し、実習における心構えを意識した行動をする	実習先概要 実習日誌 自己評価表 対話	6 評価基準5以上に特筆すべき点があった 5 将来に対して具体的な目標を持ち自身の考えを明確に伝えることができていた 4 将来の目標は明確に持っているが、まだ具体性に欠けている 3 漠然とした目標であり、明確ではない 2 目標・目的がさだまっていない 1 評価基準2以上に憂慮すべき点があった
実習指導者講評			
			実習指導者名 印

上記のように評価する。

20 年 月 日

施設名

代表者氏名

印

実習出席表

校名: 国際ファッション専門職大学
国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号: _____ 氏名: _____

回	出席日	開始時刻	終了時刻	時間数	指導者印	実習生印	備考
1	/ ()	:	:				
2	/ ()	:	:				
3	/ ()	:	:				
4	/ ()	:	:				
5	/ ()	:	:				
6	/ ()	:	:				
7	/ ()	:	:				
8	/ ()	:	:				
9	/ ()	:	:				
10	/ ()	:	:				
11	/ ()	:	:				
12	/ ()	:	:				
13	/ ()	:	:				
14	/ ()	:	:				
15	/ ()	:	:				
16	/ ()	:	:				
17	/ ()	:	:				
18	/ ()	:	:				
19	/ ()	:	:				
20	/ ()	:	:				

●出席日数 _____ 日
 (遅刻日数 _____ 日 / 早退日数 _____ 日)

●合計時間 _____ 時間

●欠席日数 _____ 日

上記の通り実習したことを証明する。

20 ____ 年 ____ 月 ____ 日

施設名 _____

代表者氏名 _____

印 _____

実習出席表

校名: 国際ファッション専門職大学
国際ファッション学部 ○○○○○○学科

学籍番号: _____ 氏名: _____

回	出席日	開始時刻	終了時刻	時間数	指導者印	実習生印	備考
21	/ ()	:	:				
22	/ ()	:	:				
23	/ ()	:	:				
24	/ ()	:	:				
25	/ ()	:	:				
26	/ ()	:	:				
27	/ ()	:	:				
28	/ ()	:	:				
29	/ ()	:	:				
30	/ ()	:	:				
31	/ ()	:	:				
32	/ ()	:	:				
33	/ ()	:	:				
34	/ ()	:	:				
35	/ ()	:	:				
36	/ ()	:	:				
37	/ ()	:	:				
38	/ ()	:	:				
39	/ ()	:	:				
40	/ ()	:	:				

●出席日数 _____ 日
 (遅刻日数 _____ 日 / 早退日数 _____ 日)

●合計時間 _____ 時間

●欠席日数 _____ 日

上記の通り実習したことを証明する。

20 ____ 年 ____ 月 ____ 日

施設名 _____

代表者氏名 _____

印 _____

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
1	ICTことば辞典 ―ネット時代のニュースがよくわかる250の重要キーワード― <※同時アクセス数1台>	三省堂
2	デジタル写真自由自在 ―ワードで楽しく写真をアレンジ―(趣味発見!プレミアム) <※同時アクセス数1台>	富士通エフ・オー・エム
3	パワーポイント自由自在 ―かんたん!ステキ!写真をいかした作品づくり―(趣味発見!プレミアム) <※同時アクセス数1台>	富士通エフ・オー・エム
4	異分野・異文化の交流と創造性(創造性研究 10) <※同時アクセス数1台>	共立出版
5	色彩の哲学(双書現代の哲学) <※同時アクセス数1台>	岩波書店
6	根拠律の四つの根について: 視覚と色彩について 新装復刊(ショーペンハウアー全集 1) <※同時アクセス数1台>	白水社
7	デザインと色彩の心理学(朝倉実践心理学講座 3) <※同時アクセス数1台>	朝倉書店
8	グローバルキャリア ―ユニークな自分の見つけ方― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
9	光と色彩の科学 ―発色の原理から色の見える仕組みまで―(ブルーボックス B-1701) <※同時アクセス数1台>	講談社
10	どうして色は見えるのか ―色彩の科学と色覚―(平凡社ライブラリー 546) <※同時アクセス数1台>	平凡社
11	色彩工学 第2版 <※同時アクセス数1台>	東京電機大学出版局
12	初めてでもカンタン・キレイに撮れる!星と月の撮り方入門 <※同時アクセス数1台>	インプレスR&D/インプレスビジネスメディア
13	インタラクティブデザインの教科書 (Design IT! books) <※同時アクセス数1台>	マイナビ
14	CAD/LUS+Arduino電子工作ガイド <※同時アクセス数1台>	オーム社
15	アパレル業界ハンドブック (1秒でわかる!) <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
16	服飾がわかる事典 ―これだけは知っておきたい: 素材デザイン縫製― <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
17	アパレルソーイング用語集 <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
18	図解立体裁断と平面パターン <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
19	図解基礎から学ぶソーイング <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
20	アパレル科学概論(生活環境学ライブラリー 2) <※同時アクセス数1台>	朝倉書店
21	被服材料学 改訂版 <※同時アクセス数1台>	実教出版
22	これからはじめる商品撮影の教科書 ―あなたも「プロ級写真」が今すぐ撮れる!―(かんたんフォトlife) <※同時アクセス数1台>	技術評論社
23	Instagramマーケティング ―写真1枚で「欲しい」を引き出す技術― <※同時アクセス数1台>	インプレスR&D/インプレスビジネスメディア
24	TOKYO1/4と考えるオリンピック文化プログラム ―2016から未来へ― <※同時アクセス数1台>	勉誠出版
25	TOKYO 1/4が提案する東京文化資源区の歩き方 ―江戸文化からポップカルチャーまで― <※同時アクセス数1台>	勉誠出版
26	イラストでよくわかる写真家65人のレンズテクニック: “レンズの効果”を意識すれば写真はもっとうまくなる; イラストでよくわかるカメラとレンズの疑問108: 人気写真家50人がQ&Aでスッキリ解決 <※同時アクセス数1台>	インプレスR&D/インプレスビジネスメディア
27	イラストでよくわかるカメラとレンズの疑問108 ―人気写真家50人がQ&Aでスッキリ解決― <※同時アクセス数1台>	インプレスR&D/インプレスビジネスメディア
28	写真の教科書 ―さあ、写真をはじめよう: 写真を本格的に学びたい人のための基礎と演習― <※同時アクセス数1台>	インプレスR&D/インプレスビジネスメディア
29	アニメ・映画のようなワンシーンを写し出す情景写真術 ―工夫次第で誰でも情感溢れる名作が撮れる!― <※同時アクセス数1台>	インプレスR&D/インプレスビジネスメディア
30	何気ない風景をダイナミックに変える絶景写真術; アニメ映画のようなワンシーンを写し出す情景写真術 <※同時アクセス数1台>	インプレスR&D/インプレスビジネスメディア
31	デジタル一眼プロはこう撮る!構図技(今すぐ使えるかんたんmini) <※同時アクセス数1台>	技術評論社
32	デジタル一眼プロはこう撮る!撮影技 ―写真がもっとうまくなる!これ1冊で、ワザとコツが見えてくる!―(今すぐ使えるかんたんmini) <※同時アクセス数1台>	技術評論社
33	電子写真 ―プロセスとシミュレーション―(シリーズ「デジタルプリンタ技術」) <※同時アクセス数1台>	東京電機大学出版局
34	ケミカルトナー(シリーズ「デジタルプリンタ技術」) <※同時アクセス数1台>	東京電機大学出版局

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
35	いまずぐ教えて!デジタル一眼疑問解決Q&A 一写真が10倍楽しくなる!(今すぐ使えるかんたん文庫) <※同時アクセス数1台>	技術評論社
36	日本の色辞典 [本編] <※同時アクセス数1台>	紫紅社
37	ICT時代の英語コミュニケーション ー基本ルールー <※同時アクセス数1台>	南雲堂
38	ビジネス法務基本用語和英辞典 第2版 <※同時アクセス数1台>	商事法務
39	グローバル企業の市場創造(シリーズ国際ビジネス 3) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
40	複眼思考の会計学 ー国際会計基準は誰のものかー <※同時アクセス数1台>	税務経理協会
41	コミュニケーションデザイン <※同時アクセス数1台>	くろしお出版
42	異文化理解入門 ーグローバルな時代を生きるためのー <※同時アクセス数1台>	研究社
43	異文化間コミュニケーション入門 ー日々米間の相互理解のためにー <※同時アクセス数1台>	丸善出版
44	服飾史・服飾美学関連論文要旨集 1998-2008 <※同時アクセス数1台>	建帛社
45	ファッションと身体 <※同時アクセス数1台>	日本経済評論社
46	服飾史・服飾美学関連論文要旨集 1950-1998 <※同時アクセス数1台>	建帛社
47	ファッションビジネスに役立つパソコン活用法 ーデザインから管理表までー <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
48	デジタルドローイング ーアパレルデザイン画の描き方と画像処理ー(クラフト&アートワークシリーズ 12) <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
49	ファッション業界のためのパソコン読本 改訂版(読本シリーズ 18) <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
50	店舗経営と販売技術 ービギナーが成功するためのファッションリテールマニュアルー <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
51	ファッション業界のためのパソコン読本 ーデザインやショップ経営に役立てるー(読本シリーズ 6) <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
52	はじめてでも安心コスプレ入門 <※同時アクセス数1台>	オーム社
53	アパレル素材とファッションデザイン <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
54	パソコンで活用するファッションデザイン画 <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
55	eビジネス&マーケティングの教科書 ービジネスからみた情報活用学ー <※同時アクセス数1台>	学文社
56	eビジネスの理論と応用(インターネットの知的情報技術) <※同時アクセス数1台>	東京電機大学出版局
57	国際ビジネスのコミュニケーション ーbusiness transactions in globalizationー <※同時アクセス数1台>	実教出版
58	ファッション・コミュニケーション・エンタテインメント ーローカル百貨店の挑戦ー <※同時アクセス数1台>	学文社
59	ファッション販売員プロの常識book <※同時アクセス数1台>	商業界
60	売場づくり&ディスプレイvisual book (ファッション販売) <※同時アクセス数1台>	商業界
61	必ず聞かれる売場の知識visual book 2012年5月号別冊(ファッション販売, 目で見て学ぶ簡単ガイドシリーズ) <※同時アクセス数1台>	商業界
62	消費者行動の科学 ーサービス工学のための理論と実践ー <※同時アクセス数1台>	東京電機大学出版局
63	ファッション販売力検定 <※同時アクセス数1台>	商業界
64	図解はじめてのお店づくり ーファッションビジネスの実践!ー <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
65	IT時代のショップ開業学 ーファッション店の開業から運営までー <※同時アクセス数1台>	アルリオーネ
66	実録ファッション販売員の奮戦記 <※同時アクセス数1台>	商業界
67	「主婦の気分」マーケティング ー「商品づくり」「売場づくり」の新しい価値観ー <※同時アクセス数1台>	商業界
68	ブランド戦略全書(※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
69	消費者行動のモデル (シリーズマーケティング・エンジニアリング 3) (※) <※同時アクセス数1台>	朝倉書店
70	ブランド評価手法 —マーケティング視点によるアプローチ— (シリーズマーケティング・エンジニアリング 5) (※) <※同時アクセス数1台>	朝倉書店
71	小さくても光り輝くブランド —あなたの店にも「価値のタネ」は眠っている— <※同時アクセス数1台>	商業界
72	「衝動買い」が止まらない! <※同時アクセス数1台>	商業界
73	類似性の構造と判断 —他者との比較が消費者行動を変える— <※同時アクセス数1台>	有斐閣
74	ブランド・コミュニケーションと広告 <※同時アクセス数1台>	八千代出版
75	京都とブランド —京ブランド解明・学生の視点— <※同時アクセス数1台>	白桃書房
76	待遇コミュニケーション論 <※同時アクセス数1台>	大修館書店
77	セキュリティと標準化・情報化と経営 (基本情報技術者テキスト 5) <※同時アクセス数1台>	実教出版
78	アマゾン・コム野望 —ジェフ・ベゾスの経営哲学— <※同時アクセス数1台>	東京電機大学出版局
79	おもてなし経営 —顧客を創造し続ける究極の方法— <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
80	経営支配権をめぐる法律実務 —解説・書式等とケーススタディー— <※同時アクセス数1台>	新日本法規出版
81	経営教育研究 —日本マネジメント学会誌— (Vol.19No.2(2016July)) <※同時アクセス数1台>	学文社
82	経営の再生 —戦略の時代・組織の時代— 第4版 (※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
83	戦略・起業・イノベーション (アントレプレナーの経営学 1) <※同時アクセス数1台>	慶應義塾大学出版会
84	リーダーシップ・組織・新トピックス (アントレプレナーの経営学 2) <※同時アクセス数1台>	慶應義塾大学出版会
85	国際ビジネス・ファイナンス (アントレプレナーの経営学 3) <※同時アクセス数1台>	慶應義塾大学出版会
86	経営学と組織論の探究 —松本芳男論文集— <※同時アクセス数1台>	学文社
87	経営倫理とプラグマティズム —ジョン・デューイの思想に依拠した序説的考察— (文眞堂現代経営学選集 第II期第8巻) <※同時アクセス数1台>	文眞堂
88	戦略としてのビジネス倫理入門 (※) <※同時アクセス数1台>	丸善出版
89	日本の新しい成長産業とマネジメント革新 (経営教育研究 Vol.18 No.1) <※同時アクセス数1台>	学文社
90	特集地域企業の経営戦略とマネジメント (経営教育研究 vol. 18 no.2) <※同時アクセス数1台>	学文社
91	はじめての国際経営 = Introduction to international management (有斐閣ストゥディア) (※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
92	はじめて学ぶ人のための経営学 第3版 <※同時アクセス数1台>	文眞堂
93	経営学で考える = Managementthink (※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
94	国際経営 第4版 (有斐閣アルマ Specialized) (※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
95	これがガバナンス経営だ! —決定版: ストーリーで学ぶ企業統治のリアル— <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
96	経営者支配とは何か —日本版コーポレート・ガバナンス・コードとは— <※同時アクセス数1台>	文眞堂
97	企業家学のすすめ (※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
98	企業の経済学 —構造と成長— <※同時アクセス数1台>	有斐閣
99	はじめての経営学 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
100	ケースに学ぶ国際経営 (有斐閣ブックス [468]) (※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
101	経営人材を育てる! —CEO人材欠乏症の日本を変える— <※同時アクセス数1台>	慶應義塾大学出版会
102	テイラー (経営学史叢書: 経営学史学会創立20周年記念 1) <※同時アクセス数1台>	文眞堂

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
103	フォレット(経営学史叢書:経営学史学会創立20周年記念4) <※同時アクセス数1台>	文眞堂
104	ウッドワード(経営学史叢書:経営学史学会創立20周年記念8) <※同時アクセス数1台>	文眞堂
105	アンソフ(経営学史叢書:経営学史学会創立20周年記念9) <※同時アクセス数1台>	文眞堂
106	ドラッカー(経営学史叢書:経営学史学会創立20周年記念10) <※同時アクセス数1台>	文眞堂
107	バーナード(経営学史叢書:経営学史学会創立20周年記念6) <※同時アクセス数1台>	文眞堂
108	サイモン(経営学史叢書:経営学史学会創立20周年記念7) <※同時アクセス数1台>	文眞堂
109	ドラッカー、その思想 <※同時アクセス数1台>	文眞堂
110	韓国の経営と労働 <※同時アクセス数1台>	日本経済評論社
111	異文化経営の世界—その理論と実践— <※同時アクセス数1台>	白桃書房
112	経営哲学を展開する—株主市場主義を超えて— <※同時アクセス数1台>	文眞堂
113	実践経営学(講座/経営教育1) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
114	経営者論(講座/経営教育2) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
115	経営教育論(講座/経営教育3) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
116	企業の本質(専門基礎ライブラリー・経営学;1) <※同時アクセス数1台>	実教出版
117	グローバル・環境・情報化社会とマネジメント(専門基礎ライブラリー・経営学;2) <※同時アクセス数1台>	実教出版
118	国際ビジネス入門(シリーズ国際ビジネス1) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
119	国際ビジネス理論(シリーズ国際ビジネス2) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
120	経営者自己統治論—社会に信頼される企業の形成— <※同時アクセス数1台>	中央経済社
121	企業論の史的展開 <※同時アクセス数1台>	中央経済社
122	グローバル化の経営学(専門基礎ライブラリー) <※同時アクセス数1台>	実教出版
123	経営組織論(経営学イノベーション3) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
124	経営学 新版(専門基礎ライブラリー) <※同時アクセス数1台>	実教出版
125	ベーシック経営学辞典 <※同時アクセス数1台>	中央経済社
126	現代経営学の再構築—普遍経営学への小歩— <※同時アクセス数1台>	東京電機大学出版局
127	日本の近代化と経営理念 <※同時アクセス数1台>	日本経済評論社
128	現代経営学の基礎 <※同時アクセス数1台>	実教出版
129	経営科学と情報処理 <※同時アクセス数1台>	実教出版
130	入門経営学 <※同時アクセス数1台>	実教出版
131	経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求—第3版(有斐閣アルマ Specialized)(※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
132	PDCAプロフェッショナル—結果を出すための「思考と技術」— <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
133	企業の持続性と組織変革 <※同時アクセス数1台>	文眞堂
134	経営情報論 新版補訂(有斐閣アルマ Specialized)(※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
135	改善活動のマネジメント—問題発見・解決能力を組織に蓄積する— <※同時アクセス数1台>	慶應義塾大学出版会
136	現場の情報化—IT利用実践の組織論的研究— <※同時アクセス数1台>	有斐閣

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
137	図解&事例で学ぶイノベーションの教科書 <※同時アクセス数1台>	マイナビ
138	図解&事例で学ぶビジネス統計の教科書 <※同時アクセス数1台>	マイナビ
139	中国企業における組織と個人の関係(埼玉学園大学研究叢書 第11巻) <※同時アクセス数1台>	八千代出版
140	人が育つ仕組みをつくれ! ―リーダーとして一番に心得ること― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
141	流動化する組織の意思決定 ―エージェント・ベース・アプローチ― <※同時アクセス数1台>	東京大学出版会
142	マネジメント・コントロール ―8つのケースから考える人と企業経営の方向性― (※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
143	事業創成 ―イノベーション戦略の彼岸― (※) <※同時アクセス数1台>	有斐閣
144	これから働き始める人のための実践的仕事論 <※同時アクセス数1台>	学文社
145	現場論 ―「非凡な現場」をつくる論理と実践― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
146	図解&事例で学ぶビジネスモデルの教科書 <※同時アクセス数1台>	マイナビ
147	なぜこの会社に人財が集まるのか ―10%の超優良企業だけがやっている〃人を幸せにする〃経営― <※同時アクセス数1台>	商業界
148	図解による簿記・会計・財務のしくみ 第2版 <※同時アクセス数1台>	自由国民社
149	税務経理処理・経営改善マニュアル ―企業救済のために― <※同時アクセス数1台>	新日本法規出版
150	SNSトラブル回避術 ―ソーシャルメディアガイドラインの作り方― <※同時アクセス数1台>	富士通エフ・オー・エム
151	経営戦略としての事業継続マネジメント ―予測不能な危機に強い組織づくりのための経営者の役割― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
152	グローバルで勝てる組織をつくる7つの鍵 ―人材活用の新戦略― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
153	知識創造経営のプリンシプル ―賢慮資本主義の実践論― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
154	ビジネスモデルイノベーション ―知を価値に転換する賢慮の戦略論― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
155	競争戦略論 第2版(Hitotsubashi Business Review books) <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
156	知識創造時代の事業構造改革 ―進化するBPR:情報連携組織化による経営の工学的アプローチ― <※同時アクセス数1台>	コロナ社
157	経営工学のためのシステムズアプローチ ―ビジネスを体系化する考え方・技法 = Systems approach for business engineering― <※同時アクセス数1台>	講談社
158	意思決定のためのリスクマネジメント <※同時アクセス数1台>	オーム社
159	組織を守り強くするNo.2の指南書 ―トップを支え組織を生かす実力者になるためのバイブル― <※同時アクセス数1台>	商業界
160	ディズニーランドで「気づいた」企業継続力 ―どうすればあなたの会社は存続できるか― <※同時アクセス数1台>	商業界
161	プロフェッショナルコンサルティング <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
162	なぜアップルの時価総額はソニーの8倍になったのか? ―『会社四季報』で読み解くビジネス数字の秘密― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
163	7つのステップで考える戦略のトータルバランス <※同時アクセス数1台>	中央経済社
164	リスクマネジメントの実務 ―ISO31000への実践的対応― <※同時アクセス数1台>	中央経済社
165	図解リスクのしくみ ―基礎知識の理解から具体的リスクへの対処法まで―第2版 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
166	イノベーションとは何か <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
167	よくわかる経営管理(やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ) <※同時アクセス数1台>	ミネルヴァ書房
168	戦略思考のフレームワーク ―未来を洞察する「メタ思考」入門― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
169	アイデアをカタチにする仕事術 ―ビジネス・プロデューサーの7つの能力― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
170	日本の持続的成長企業 ―「優良+長寿」の企業研究― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
171	プラットフォーム戦略 ―21世紀の競争を支配する「場をつくる」技術― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
172	実践力を鍛える戦略ノート 戦略立案編 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
173	流れを経営する ―持続的イノベーション企業の動態理論― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
174	会社と社会を幸せにする健康経営 <※同時アクセス数1台>	勁草書房
175	モノづくり企業の技術経営 ―事業システムのイノベーション能力― <※同時アクセス数1台>	中央経済社
176	インテリジェンス入門 ―利益を実現する知識の創造― 第2版 <※同時アクセス数1台>	慶應義塾大学出版会
177	ビジネス・インテリジェンス ―未来を予想するシナリオ分析の技法― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
178	フレームワークを使いこなすための50問 ―なぜ経営戦略は機能しないのか?― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
179	なぜ日本の製造業は儲からないのか ―日本衰退論のウソ― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
180	「会社の実力」を見抜くポイントがわかる本(「1秒!」で財務諸表を読む方法 実践編) <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
181	レバレッジ・マネジメント ―少ない労力で大きな成果をあげる経営戦略― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
182	最強のコスト削減 ―いかなる経営環境でも利益を創出する経営体質への変革― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
183	全社レベル戦略のプロセス = The process of corporate-level strategy <※同時アクセス数1台>	白桃書房
184	組織が活きるチームビルディング ―成果が上がる、業績が上がる― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
185	意思決定のマネジメント (Hitotsubashi Business Review books) <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
186	図解決算書「超」読解法 ―単体から連結まで丸わかり― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
187	シャドーワーク ―知識創造を促す組織戦略 = Shadow work― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
188	実践力を鍛える戦略ノート 企業価値評価編 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
189	情報システムと競争優位 = Information system and competitive advantage <※同時アクセス数1台>	白桃書房
190	経営戦略論 (経営学イノベーション 2) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
191	チャンス発見のデータ分析 ―モデル化+可視化+コミュニケーション→シナリオ創発― <※同時アクセス数1台>	東京電機大学出版局
192	Excelで学ぶ意思決定論 <※同時アクセス数1台>	オーム社
193	組織自律力 ―マネジメント像の転換― <※同時アクセス数1台>	慶應義塾大学出版会
194	実践力を鍛える戦略ノート マーケティング編 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
195	会計基準の国際的統一 ―国際会計基準への各国の対応― <※同時アクセス数1台>	中央経済社
196	アメーバ経営論 ―ミニ・プロフィットセンターのメカニズムと導入― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
197	知識創造の方法論 ―ナレッジワーカーの作法― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
198	ビジネスと情報 (ビジネスシリーズ) <※同時アクセス数1台>	実教出版
199	国際会計論 ―相違と調和― <※同時アクセス数1台>	中央経済社
200	需要予測 (Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ 1) <※同時アクセス数1台>	実教出版
201	統計解析 (Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ 2) <※同時アクセス数1台>	実教出版
202	データ解析 (Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ 3) <※同時アクセス数1台>	実教出版
203	シミュレーション (Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ 4) <※同時アクセス数1台>	実教出版
204	品質管理 (Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ 5) <※同時アクセス数1台>	実教出版

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
205	経営情報入門(基礎シリーズ) <※同時アクセス数1台>	実教出版
206	経営科学(情報処理テキストシリーズ) <※同時アクセス数1台>	実教出版
207	バリュー経営 一知のマネジメント― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
208	知識創造企業 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
209	事業創造のダイナミクス <※同時アクセス数1台>	白桃書房
210	創造と企業(創造性研究 3) <※同時アクセス数1台>	共立出版
211	組織行動研究 <※同時アクセス数1台>	白桃書房
212	経営統計入門 <※同時アクセス数1台>	実教出版
213	経営組織の環境適応 <※同時アクセス数1台>	白桃書房
214	外資の経営史 <※同時アクセス数1台>	文眞堂
215	文系でもわかるビジネス統計入門 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
216	品質管理の統計学 一製造現場に生かす統計手法― <※同時アクセス数1台>	オーム社
217	モノづくりの経営思想 一日本製造業が勝ち残る道― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
218	日米英企業の品質管理史 一高品質企業経営の原点― <※同時アクセス数1台>	中央経済社
219	ゲームが変わった 一ポストものづくりの競争をどう勝ち抜くか― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
220	工業経営における人・組織と技術(工業経営研究学会20周年記念 3) <※同時アクセス数1台>	学文社
221	アジア地域のモノづくり経営(工業経営研究学会20周年記念 1) <※同時アクセス数1台>	学文社
222	アメリカの工業化と経営理念 <※同時アクセス数1台>	日本経済評論社
223	東京のグランドデザイン 一都市経営フォーラム講演録―(Keio UP選書) <※同時アクセス数1台>	慶應義塾大学出版会
224	環境と金融・投資の潮流(環境経営イノベーション 3) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
225	環境経営イノベーションの理論と実践(環境経営イノベーション 1) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
226	環境経営の経済分析(環境経営イノベーション 2) <※同時アクセス数1台>	中央経済社
227	日立インスパイア環境経営 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
228	アイリスオーヤマ目瞭然の経営術 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
229	成熟市場の価値創造 一時代に翻弄されない経営哲学― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
230	シャネルの戦略 一究極のラグジュアリーブランドに見る技術経営 = Chanel strategy : management of the ultimate luxury brand― <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
231	人間的な産業の復活 一ヨーロッパ型経営のモラル―(丸善ライブラリー 359) <※同時アクセス数1台>	丸善出版
232	eビジネス用語英和辞典 <※同時アクセス数1台>	中央経済社
233	老舗の伝統と「近代」一家業経営のエスノグラフィ― <※同時アクセス数1台>	吉川弘文館
234	無印良品 一世界戦略と経営改革― <※同時アクセス数1台>	商業界
235	ネットスーパーの経営と実務 一こうすれば黒字化できる― <※同時アクセス数1台>	商業界
236	商業経営の精神と技術 新版 <※同時アクセス数1台>	商業界
237	回転寿司の経営学 <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
238	「ありがとう」と言われる商い 一価値を生み出し繁盛するワクワク系商人の道― <※同時アクセス数1台>	商業界

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
239	サービスサイエンス ―新時代を拓くイノベーション経営を目指して― <※同時アクセス数1台>	エヌ・ティー・エス
240	新店長の条件 <※同時アクセス数1台>	商業界
241	最新スーパーマーケット経営 続(海外名著シリーズ 11) <※同時アクセス数1台>	商業界
242	スーパーマーケットの立地条件(海外経営名著シリーズ 8) <※同時アクセス数1台>	商業界
243	セルフサービス経営入門(海外名著経営シリーズ 10) <※同時アクセス数1台>	商業界
244	商店経営読本(商業界経営ライブラリー 13) <※同時アクセス数1台>	商業界
245	小売業経営概論(海外経営名著シリーズ 7) <※同時アクセス数1台>	商業界
246	フランチャイズ・チェーン(海外経営名著シリーズ 4) <※同時アクセス数1台>	商業界
247	最新スーパーマーケット経営(海外経営名著シリーズ) <※同時アクセス数1台>	商業界
248	スーパーマーケット ―流通革命の先駆者―(海外経営名著シリーズ) <※同時アクセス数1台>	商業界
249	経営者のための企業広報 ―松下幸之助などに学ぶ原点と時代感覚― <※同時アクセス数1台>	丸善出版
250	物流が壊れる <※同時アクセス数1台>	東洋経済新報社
251	知的所有と文化経済学 ―知的財産権文化が変革する現代経済―	実教出版
252	経済成長がなければ私たちは豊かになれないのだろうか。(平凡社ライブラリー 513)	平凡社
253	都市経済学 第2版(プログレッシブ経済学シリーズ)	東洋経済新報社
254	消費者契約の経済分析	有斐閣
255	経済とおかぬの超基本1年生 ―知らないと損する: おとなの学習参考書: ultra basic economics and money for freshman―	東洋経済新報社
256	経済学教育の西東	日本経済評論社
257	経済嫌いのための経済「超」入門	東洋経済新報社
258	中国経済の産業連関分析と応用一般均衡分析	法律文化社
259	Rで学ぶ空間計量経済学入門	勁草書房
260	資本主義を超えるマルクス理論入門	大月書店
261	マクロ経済学 新版(New liberal arts selection) (※)	有斐閣
262	経済・経営系のための統計入門(事例でわかる統計シリーズ)	実教出版
263	21世紀のマルクス経済学	慶應義塾大学出版会
264	What's経済学 ―わかる楽しさ使うよこび―第3版補訂版(有斐閣アルマ Basic) (※)	有斐閣
265	ベーシック応用経済学(応用経済学シリーズ 第1巻)	勁草書房
266	ミクロ経済学の核心 ―一般均衡モデルへの道案内―	日本経済評論社
267	キーワードを知れば経済がわかる(21世紀南山の経済学 5)	日本経済評論社
268	技術と所得分配のマクロ経済学	勁草書房
269	数理経済学の源流と展開	慶應義塾大学出版会
270	マルクス経済学 第2版	慶應義塾大学出版会
271	教養としてのマクロ経済学	東洋経済新報社
272	入門経済学 = Introduction to economics 第4版	日本評論社

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
273	ハイエクの経済思想 —自由な社会の未来像—	勁草書房
274	経済学ではこう考える	慶應義塾大学出版会
275	現代の経済思想 (※)	勁草書房
276	経済学の歴史	慶應義塾大学出版会
277	経済・経営系のためのよくわかる統計学	朝倉書店
278	やさしい経済数学テキスト —高校数学からはじめる—	オーム社
279	ミクロ経済学Expressway	東洋経済新報社
280	経済学は人びとを幸福にできるか	東洋経済新報社
281	スティグリッツの経済学 —「見えざる手」など存在しない—	東洋経済新報社
282	入門・経済学 第3版 (※)	有斐閣
283	国際金融・経済成長理論の基礎	勁草書房
284	経済系のための情報活用 1 —Office2013対応—(専門基礎ライブラリー 1)	実教出版
285	マクロ経済の分析	慶應義塾大学出版会
286	経済系のための情報処理 (専門基礎ライブラリー)	実教出版
287	初心者のための経済指標の見方・読み方	東洋経済新報社
288	マンガ+講義でよくわかる経済学超入門	東洋経済新報社
289	進化経済学基礎	日本経済評論社
290	線形経済学 —非負解の存在・双対性をめぐって—第2版	白桃書房
291	経済の法則を求めて —近代経済学の群像— 新版増補	日本経済評論社
292	はじめて学ぶ経済学	慶應義塾大学出版会
293	経済思想のドイツ的伝統 (経済思想 7)	日本経済評論社
294	20世紀の経済学の諸潮流 (経済思想 8)	日本経済評論社
295	日本の経済思想 1 (経済思想 9)	日本経済評論社
296	日本の経済思想 2 (経済思想 10)	日本経済評論社
297	経済学の現在 2 (経済思想 2)	日本経済評論社
298	黎明期の経済学 (経済思想 3)	日本経済評論社
299	経済学の古典的世界 1 (経済思想 4)	日本経済評論社
300	経済学の古典的世界 2 (経済思想 5)	日本経済評論社
301	社会主義と経済学 (経済思想 6)	日本経済評論社
302	ストーリーで学ぶ開発経済学 —途上国の暮らしを考える—(有斐閣スタディア) (※)	有斐閣
303	グローバル化とショック波及の経済学 —地方自治体・企業・個人の対応—	有斐閣
304	社会の構造と変動 (社会学ベーシック)	世界思想社教学社
305	セラピー文化の社会学 —ネットワークビジネス・自己啓発・トラウマ—	勁草書房
306	ナラティブの臨床社会学	勁草書房

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
307	人間的自然と社会環境 —人間発達の学をめざして—	大学教育出版
308	都市コミュニティの磁場 —越境するエスニシティと21世紀都市社会学—	東京大学出版会
309	社会心理学の新しいかたち (心理学の新しいかたち 8)	誠信書房
310	都市と文明の比較社会学 —環境・リスク・公共性— (社会学シリーズ)	東京大学出版会
311	都市とモダニティの理論	東京大学出版会
312	構築主義とは何か	勁草書房
313	ポスト産業社会 —構造転換のダイナミクス—	勁草書房
314	職務満足の心理学的研究	勁草書房
315	教育の大衆化は何をもたらしたか —フランス社会の階層と格差—	勁草書房
316	勉強と居場所 —学校と家族の日韓比較—	勁草書房
317	宗教民俗学	東京大学出版会
318	自閉症の社会学 —もう一つのコミュニケーション論— (Sekaishiso seminar)	世界思想社教学社
319	観光まちづくりの力学 —観光と地域の社会学的研究—	学文社
320	グリーン・ツーリズム実践の社会学	丸善出版
321	スポーツは誰のためのものか	慶應義塾大学出版会
322	社会権法理の形成 (北海道大学法学部叢書 6)	有斐閣
323	日本の法	日本評論社
324	法と社会科学をつなぐ (※)	有斐閣
325	法学入門 新版 (※)	有斐閣
326	やさしい法学通論 新版	有斐閣
327	法思想史入門 (有斐閣双書・入門・基礎知識編)	有斐閣
328	法の本質	日本評論社
329	現代行政法入門 第3版 (※)	有斐閣
330	事例から民法を考える (法学教室Library) (※)	有斐閣
331	民法総則 (設例民法学 1)	勁草書房
332	物権法 (設例民法学 2)	勁草書房
333	債権総論 (法学教室Library)	有斐閣
334	入門講義会社法	慶應義塾大学出版会
335	図解による会社法・商法のしくみ 第4版	自由国民社
336	リーガルマインド会社法 第13版	有斐閣
337	国際金融法務 —貸付・保証・担保—	有斐閣
338	国際金融取引 2: 法務編 (有斐閣ビジネス)	有斐閣
339	計算の科学 (岩波講座計算科学 1)	岩波書店
340	計算と宇宙 (岩波講座計算科学 2)	岩波書店

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
341	計算と物質 (岩波講座計算科学 3)	岩波書店
342	計算と生命 (岩波講座計算科学 4)	岩波書店
343	計算と地球環境 (岩波講座計算科学 5)	岩波書店
344	計算と社会 (岩波講座計算科学 6)	岩波書店
345	やさしく物理 一力・熱・電気・光・波一 (※)	朝倉書店
346	楽しみながら学ぶ物理入門	共立出版
347	化学入門 (基礎シリーズ)	実教出版
348	モダンアプローチの生物科学	共立出版
349	基礎をかためる生物・生化学 一栄養学を理解するための第一歩一	朝倉書店
350	ことばと論理 一このままでいいのか言語分析一 (開拓社言語・文化選書 7)	開拓社
351	社会言語学の展望	くろしお出版
352	文字の経験 一読むことと書くこと思想史一	勁草書房
353	言語哲学入門	勁草書房
354	言語科学の百科事典	丸善出版
355	民俗学事典	丸善出版
356	47都道府県・伝統調味料百科	丸善出版
357	47都道府県・こなものの食文化百科	丸善出版
358	47都道府県・魚食文化百科	丸善出版
359	47都道府県・伝統食百科	丸善出版
360	47都道府県・伝統行事百科	丸善出版
361	信濃の民話 (日本の民話 1)	未来社
362	岩手の民話 (日本の民話 2)	未来社
363	越後の民話 第1集 (日本の民話 3)	未来社
364	伊豆の民話 (日本の民話 4)	未来社
365	讃岐の民話 (日本の民話 5)	未来社
366	出羽の民話 (日本の民話 6)	未来社
367	津軽の民話 (日本の民話 7)	未来社
368	阿波の民話 第1集 (日本の民話 8)	未来社
369	伊豫の民話 (日本の民話 9)	未来社
370	秋田の民話 (日本の民話 10)	未来社
371	沖縄の民話 (日本の民話 11)	未来社
372	出雲の民話 (日本の民話 12)	未来社
373	福島の民話 第1集 (日本の民話 13)	未来社
374	日向の民話 第1集 (日本の民話 14)	未来社

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
375	飛驒の民話 (日本の民話 15)	未来社
376	大阪の民話 (日本の民話 16)	未来社
377	甲斐の民話 (日本の民話 17)	未来社
378	佐渡の民話 第1集 (日本の民話 18)	未来社
379	神奈川の民話 (日本の民話 19)	未来社
380	上州の民話 第1集 (日本の民話 20)	未来社
381	加賀・能登の民話 第1集 (日本の民話 21)	未来社
382	安芸・備後の民話 第1集 (日本の民話 22)	未来社
383	安芸・備後の民話 第2集 (日本の民話 23)	未来社
384	宮城の民話 (日本の民話 24)	未来社
385	兵庫の民話 (日本の民話 25)	未来社
386	房総の民話 (日本の民話 26)	未来社
387	肥後の民話 (日本の民話 27)	未来社
388	薩摩・大隅の民話 (日本の民話 28)	未来社
389	周防・長門の民話 第1集 (日本の民話 29)	未来社
390	福岡の民話 第1集 (日本の民話 30)	未来社
391	伊勢・志摩の民話 (日本の民話 31)	未来社
392	栃木の民話 第1集 (日本の民話 32)	未来社
393	種子島の民話 第1集 (日本の民話 33)	未来社
394	種子島の民話 第2集 (日本の民話 34)	未来社
395	越中の民話 第1集 (日本の民話 35)	未来社
396	岡山の民話 (日本の民話 36)	未来社
397	屋久島の民話 第1集 (日本の民話 37)	未来社
398	屋久島の民話 第2集 (日本の民話 38)	未来社
399	栃木の民話 第2集 (日本の民話 39)	未来社
400	八丈島の民話 (日本の民話 40)	未来社
401	京都の民話 (日本の民話 41)	未来社
402	福島の民話 第2集 (日本の民話 42)	未来社
403	日向の民話 第2集 (日本の民話 43)	未来社
404	若狭・越前の民話 第1集 (日本の民話 44)	未来社
405	阿波の民話 第2集 (日本の民話 45)	未来社
406	周防・長門の民話 第2集 (日本の民話 46)	未来社
407	天草の民話 (日本の民話 47)	未来社
408	長崎の民話 (日本の民話 48)	未来社

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
409	大分の民話 第1集 (日本の民話 49)	未来社
410	遠江・駿河の民話 (日本の民話 50)	未来社
411	美濃の民話 第1集 (日本の民話 51)	未来社
412	福岡の民話 第2集 (日本の民話 52)	未来社
413	土佐の民話 第1集 (日本の民話 53)	未来社
414	土佐の民話 第2集 (日本の民話 54)	未来社
415	越中の民話 第2集 (日本の民話 55)	未来社
416	紀州の民話 (日本の民話 56)	未来社
417	埼玉の民話 (日本の民話 57)	未来社
418	加賀・能登の民話 第2集 (日本の民話 58)	未来社
419	大分の民話 第2集 (日本の民話 59)	未来社
420	佐賀の民話 第1集 (日本の民話 60)	未来社
421	鳥取の民話 (日本の民話 61)	未来社
422	茨城の民話 第1集 (日本の民話 62)	未来社
423	美濃の民話 第2集 (日本の民話 63)	未来社
424	上州の民話 第2集 (日本の民話 64)	未来社
425	三河の民話 (日本の民話 65)	未来社
426	尾張の民話 (日本の民話 66)	未来社
427	石見の民話 第1集 (日本の民話 67)	未来社
428	石見の民話 第2集 (日本の民話 68)	未来社
429	佐渡の民話 第2集 (日本の民話 69)	未来社
430	越後の民話 第2集 (日本の民話 70)	未来社
431	佐賀の民話 第2集 (日本の民話 71)	未来社
432	茨城の民話 第2集 (日本の民話 72)	未来社
433	若狭・越前の民話 第2集 (日本の民話 73)	未来社
434	近江の民話 (日本の民話 74)	未来社
435	奈良の民話 (日本の民話 75)	未来社
436	みちのくの民話 (日本の民話 別巻1)	未来社
437	みちのくの長者たち (日本の民話 別巻2)	未来社
438	みちのくの和尚たち (日本の民話 別巻3)	未来社
439	みちのくの百姓たち (日本の民話 別巻4)	未来社
440	世界民族百科事典	丸善出版
441	47都道府県・地野菜/伝統野菜百科	丸善出版
442	カザフスタンを知るための60章 (エリア・スタディーズ 134)	明石書店

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
443	内モンゴルを知るための60章 (エリア・スタディーズ 135)	明石書店
444	ミクロネシアを知るための60章 第2版(エリア・スタディーズ 51)	明石書店
445	タンザニアを知るための60章 第2版(エリア・スタディーズ 58)	明石書店
446	サウジアラビアを知るための63章 第2版(エリア・スタディーズ 64)	明石書店
447	スコットランドを知るための65章 (エリア・スタディーズ 136)	明石書店
448	イギリスを知るための65章 第2版(エリア・スタディーズ 33)	明石書店
449	スイスを知るための60章 (エリア・スタディーズ 128)	明石書店
450	ノルウェーを知るための60章 (エリア・スタディーズ 132)	明石書店
451	東南アジアを知るための50章 (エリア・スタディーズ 129)	明石書店
452	タイを知るための72章 第2版(エリア・スタディーズ 30)	明石書店
453	現代モンゴルを知るための50章 (エリア・スタディーズ 133)	明石書店
454	現代韓国を知るための60章 第2版(エリア・スタディーズ 6)	明石書店
455	日本の論点 (対訳ニッポン)	IBCパブリッシング
456	アメリカ観の変遷 上巻: 人文系 (アメリカ研究シリーズ no. 3)	大学教育出版
457	アメリカ観の変遷 下巻: 社会科学系 (アメリカ研究シリーズ no. 4)	大学教育出版
458	現代スペインを知るための60章 (エリア・スタディーズ 116)	明石書店
459	現代インドネシアを知るための60章 (エリア・スタディーズ 113)	明石書店
460	シンガポールを知るための65章 第3版(エリア・スタディーズ 17)	明石書店
461	ミャンマーを知るための60章 (エリア・スタディーズ 125)	明石書店
462	シリア・レバノンを知るための64章 (エリア・スタディーズ 123)	明石書店
463	スリランカを知るための58章 (エリア・スタディーズ 117)	明石書店
464	ハワイを知るための60章 (エリア・スタディーズ 114)	明石書店
465	現代カナダを知るための57章 (エリア・スタディーズ 83)	明石書店
466	ブラジルを知るための56章 第2版(エリア・スタディーズ 14)	明石書店
467	南アフリカを知るための60章 (エリア・スタディーズ 79)	明石書店
468	現代フィリピンを知るための61章 第2版(エリア・スタディーズ 11)	明石書店
469	スウェーデンを知るための60章 (エリア・スタディーズ 75)	明石書店
470	ベルギーを知るための52章 (エリア・スタディーズ 71)	明石書店
471	オランダを知るための60章 (エリア・スタディーズ 62)	明石書店
472	現代インドを知るための60章 (エリア・スタディーズ 67)	明石書店
473	現代中東情報探索ガイド 改訂版	慶應義塾大学出版会
474	現代イタリアを知るための44章 (エリア・スタディーズ)	明石書店
475	アルゼンチンを知るための54章 (エリア・スタディーズ 50)	明石書店
476	現代フランス情報辞典 ―キーワードで読むフランス社会―改訂版	大修館書店

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
477	文化とレイシズム —統一ドイツの知的風土—	岩波書店
478	文献目録日本論・日本人論の50年 —1945～1995—	日外アソシエーツ
479	イギリスってどんな国? —素顔の英国—	実教出版
480	国際文化論	東京大学出版会
481	日本文化の源流を探る	海青社
482	現実批判の人類学 —新世代のエスノグラフィへ—	世界思想社教学社
483	顔の百科事典	丸善出版
484	人類が変えた地球 —新時代アントロポセンに生きる—	化学同人
485	災害に学ぶ —文化資源の保全と再生—	勉誠出版
486	人文地理学事典	丸善出版
487	生き物文化の地理学 (ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第2巻)	海青社
488	資源と生業の地理学 (ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第4巻)	海青社
489	自然の社会地理 (ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第5巻)	海青社
490	ある旅行者の思想 (加藤周一著作集 10)	平凡社
491	英語で伝える日本の文化・観光・世界遺産	三修社
492	Japan —a pictorial portrait—New ed	IBCパブリッシング
493	三省堂日本山名事典 改訂版	三省堂
494	英文日本紹介事典Japapedia (ジャパペディア)	IBCパブリッシング
495	現代アジア事典	文真堂
496	イスタンブル —歴史と現代の光と影—	慶應義塾大学出版会
497	スペイン文化読本 (※)	丸善出版
498	イギリス文化事典	丸善出版
499	現代イギリス読本	丸善出版
500	道徳教授革新論 (小原国芳全集 7)	玉川大学出版部
501	教育の正義論 —平等・公共性・統合—	勁草書房
502	教育通義	武蔵野美術大学出版局
503	入門臨床教育学 —課題を抱える子ども・親・教師への支援—	学事出版
504	ウィトゲンシュタインと教育 —言語ゲームにおける生成と変容のダイナミズム—	大学教育出版
505	教育探求の基礎	税務経理協会
506	教育の倫理学 (現代社会の倫理を考える 7)	丸善出版
507	教育心理学の新しいかたち (心理学の新しいかたち 7)	誠信書房
508	造形教育事典	建帛社
509	近代デザインの美学	みすず書房
510	芸術心理学の新しいかたち (心理学の新しいかたち 11)	誠信書房

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
511	造形学概論	武蔵野美術大学出版局
512	日本美術史(平凡社ライブラリー 377)	平凡社
513	近世風俗と社会(西山松之助著作集 第5巻)	吉川弘文館
514	花と日本文化(西山松之助著作集 第8巻)	吉川弘文館
515	藝道と伝統(西山松之助著作集 第6巻)	吉川弘文館
516	芸術・スポーツ文化学研究(2)	大学教育出版
517	芸術・スポーツ文化学研究	大学教育出版
518	21世紀における芸術の役割—神奈川県立音楽堂シンポジウムの記録—	未来社
519	世界文学あらすじ大事典(4)	国書刊行会
520	世界文学あらすじ大事典(3)	国書刊行会
521	世界文学あらすじ大事典(1)	国書刊行会
522	世界文学あらすじ大事典(2)	国書刊行会
523	村上春樹(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
524	日本の名作おさらい(おとなの楽習 16)	自由国民社
525	辻邦生(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
526	林京子(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
527	田山花袋(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
528	菊池寛(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
529	幸田文(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
530	高浜虚子(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
531	野上彌生子(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
532	三島由紀夫(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
533	芹沢光治良(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
534	三浦綾子(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
535	中野重治(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
536	堀辰雄(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
537	野間宏(日本の作家100人・人と文学)	勉誠出版
538	アメリカ文学—名作と主人公—(明快案内シリーズ)	自由国民社
539	イギリス文学—名作と主人公—(明快案内シリーズ・読書入門: archive edition)	自由国民社
540	20世紀英語文学辞典 = The dictionary of 20th century literature in English	研究社
541	市民からアスリートまでのスポーツ栄養学 第2版	八千代出版
542	実践に生かすスポーツ教養—スポーツのあるライフスタイルのすすめ— 第2版	東京電機大学出版局
543	健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門	杏林書院
544	健康・スポーツ科学のためのSPSSによる統計解析入門	杏林書院

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
545	スポーツルールの論理	大修館書店
546	IDストレッチング 第2版	三輪書店
547	運動と栄養と食品	朝倉書店
548	体力づくりのためのスポーツ科学	朝倉書店
549	新運動の生理科学	朝倉書店
550	スポーツと健康	東京電機大学出版局
551	乳酸を使いこなすランニング	大修館書店
552	ランニングリテラシー ―走って読んで再発見!―	大修館書店
553	日本の料理 = Japanese cooking for everyone (対訳ニッポン)	IBCパブリッシング
554	英文契約書を読みこなす 新版	大修館書店
555	コンパクトビジネス英語入門	大修館書店
556	日本の伝統文化 = Understanding cultural treasures of Japan (対訳ニッポン)	IBCパブリッシング
557	バイリンガリズム入門	大修館書店
558	和製英語事典	丸善出版
559	キクタンTOEIC test score 600 改訂版	アルク
560	キクタンTOEIC test score 800 改訂版	アルク
561	キクタンTOEIC Test Score 990 改訂版	アルク
562	英語実践力獲得への道 ―ストラテジーと演習―	大学教育出版
563	英語再学習の技法	大学教育出版
564	英語学講義 新版	大学教育出版
565	英語学研究	大学教育出版
566	ジョークで楽しむ英文法再入門 = English grammar through jokes	開拓社
567	大学で教える英文法	くろしお出版
568	Google検索による英語語法学習・研究法 (開拓社言語・文化選書 21)	開拓社
569	「なぜ」がわかる英文法	ベレ出版
570	ライティングのための英文法	大修館書店
571	一歩先の英文ライティング	研究社
572	アメリカ人なら小学校で学ぶ英文ライティング入門	アルク
573	英語論文基礎表現717	三修社
574	Kim faces her fears (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランラングージ ハウス
575	Chaz at the aquarium (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランラングージ ハウス
576	Riley saves the day (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランラングージ ハウス
577	Noob's secret weapon (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランラングージ ハウス
578	Lucy to the rescue (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランラングージ ハウス

No.	書名	出版社
579	Stella's house of horrors (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランランゲージ ハウス
580	Kim's film flops (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランランゲージ ハウス
581	Chaz and the hotdogs (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランランゲージ ハウス
582	Riley and the super plan (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランランゲージ ハウス
583	Noob and the library ghost (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランランゲージ ハウス
584	Lucy and the pop princess (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランランゲージ ハウス
585	Stella and the flash mob (Legends in their own lunchbox level 3)	マクミランランゲージ ハウス
586	Giraffe goes to Gibraltar (Springboard Connect level 24a)	マクミランランゲージ ハウス
587	Don't sweat it (Springboard Connect level 24b)	マクミランランゲージ ハウス
588	Don't trash it (Springboard Connect level 24c)	マクミランランゲージ ハウス
589	The new year (Springboard Connect level 24d)	マクミランランゲージ ハウス
590	Hot, cold, and in-between (Springboard Connect level 24e)	マクミランランゲージ ハウス
591	The lion lights —based on a true story—(Springboard Connect level 25a)	マクミランランゲージ ハウス
592	Chilly dog! (Springboard Connect level 25b)	マクミランランゲージ ハウス
593	Heroes of the wilderness (Springboard Connect level 25c)	マクミランランゲージ ハウス
594	The great Christmas Island red crab migration (Springboard Connect level 25d)	マクミランランゲージ ハウス
595	Birds and pterosaurs (Springboard Connect level 25e)	マクミランランゲージ ハウス
596	A crazy day at the museum (Springboard Connect level 26a)	マクミランランゲージ ハウス
597	Jiro Ono —sushi master— (Springboard Connect level 26b)	マクミランランゲージ ハウス
598	Extinct and almost extinct (Springboard Connect level 26c)	マクミランランゲージ ハウス
599	Dynamic dinosaurs! (Springboard Connect level 26d)	マクミランランゲージ ハウス
600	What Jack did next (Springboard Connect level 26e)	マクミランランゲージ ハウス
601	The odd-shaped horse (Springboard Connect level 27a)	マクミランランゲージ ハウス
602	Needs and wants (Springboard Connect level 27b)	マクミランランゲージ ハウス
603	Excellent experiments (Springboard Connect level 27c)	マクミランランゲージ ハウス
604	Art rocks (Springboard Connect level 27d)	マクミランランゲージ ハウス
605	The sundial alien field trip (Springboard Connect level 27e)	マクミランランゲージ ハウス
606	The children of the sun —an Inca myth—(Springboard Connect level 28a)	マクミランランゲージ ハウス
607	The sea turtles of Tortuguero (Springboard Connect level 28b)	マクミランランゲージ ハウス
608	One supersonic space jump (Springboard Connect level 28c)	マクミランランゲージ ハウス
609	The greatest reef (Springboard Connect level 28d)	マクミランランゲージ ハウス
610	Sam's great invention (Springboard Connect level 28e)	マクミランランゲージ ハウス
611	Penelope Plotter and the perilous pencil (Springboard Connect level 29a)	マクミランランゲージ ハウス
612	The star party (Springboard Connect level 29b)	マクミランランゲージ ハウス

No.	書名	出版社
613	Connected kids can (Springboard Connect level 29c)	マクミランランゲージハウス
614	Pristine places on earth (Springboard Connect level 29d)	マクミランランゲージハウス
615	Solutions to pollution (Springboard Connect level 29e)	マクミランランゲージハウス
616	Mrs Kim's ketchup (Springboard Connect level 30a)	マクミランランゲージハウス
617	Blind triathletes (Springboard Connect level 30b)	マクミランランゲージハウス
618	Cracked! (Springboard Connect level 30c)	マクミランランゲージハウス
619	Science at work (Springboard Connect level 30d)	マクミランランゲージハウス
620	Earth, the Sun, and the Moon (Springboard Connect level 30e)	マクミランランゲージハウス
621	Kim's pet scoop (Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
622	Chaz —superchef—(Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
623	Riley clowns around (Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
624	Noob —crimebuster—(Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
625	Lucy in a jam (Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
626	Stella and the pet parade (Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
627	Kim's tug of war (Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
628	Chaz and the missing mayo (Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
629	Riley versus the giant banana (Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
630	Noob and the librarian supervillain (Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
631	Lucy —kung-fu queen—(Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
632	Stella's got talent (Legends in their own lunchbox level 1)	マクミランランゲージハウス
633	Kim's super science day (Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
634	Chaz at the fish market (Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
635	Riley and the fantastic plan (Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
636	Noob —amateur dentist—(Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
637	Lucy —the boss—(Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
638	Stella —circus star—(Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
639	Kim's fake cake bake (Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
640	Chaz —TV superstar?—(Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
641	Riley and the treasure (Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
642	Noob —the boy who could fly—(Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
643	Lucy and the red street boyz (Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
644	Stella and the movie star (Legends in their own lunchbox level 2)	マクミランランゲージハウス
645	I hop (Springboard Connect level 1a)	マクミランランゲージハウス
646	The tin (Springboard Connect level 1b)	マクミランランゲージハウス

No.	書名	出版社
647	What am I? (Springboard Connect level 1c)	マクミランランゲージハウス
648	Where is ted? (Springboard Connect level 1d)	マクミランランゲージハウス
649	The cat! (Springboard Connect level 1e)	マクミランランゲージハウス
650	At the park (Springboard Connect level 2a)	マクミランランゲージハウス
651	Up the tree (Springboard Connect level 2b)	マクミランランゲージハウス
652	My brother (Springboard Connect level 2c)	マクミランランゲージハウス
653	Fruit (Springboard Connect level 2d)	マクミランランゲージハウス
654	It was so hot (Springboard Connect level 2e)	マクミランランゲージハウス
655	What can you do? (Springboard Connect level 3a)	マクミランランゲージハウス
656	My pop's garden (Springboard Connect level 3b)	マクミランランゲージハウス
657	The soup (Springboard Connect level 3c)	マクミランランゲージハウス
658	We go to town (Springboard Connect level 3d)	マクミランランゲージハウス
659	Baby animals (Springboard Connect level 3e)	マクミランランゲージハウス
660	This family (Springboard Connect level 4a)	マクミランランゲージハウス
661	Our rooftop garden (Springboard Connect level 4b)	マクミランランゲージハウス
662	Night and day (Springboard Connect level 4c)	マクミランランゲージハウス
663	Sky's new home (Springboard Connect level 4d)	マクミランランゲージハウス
664	Emma the elephant (Springboard Connect level 4e)	マクミランランゲージハウス
665	The panda (Springboard Connect level 5a)	マクミランランゲージハウス
666	Otis is lost (Springboard Connect level 5b)	マクミランランゲージハウス
667	The meerkats' new Home (Springboard Connect level 5c)	マクミランランゲージハウス
668	The people museum (Springboard Connect level 5d)	マクミランランゲージハウス
669	At the market (Springboard Connect level 5e)	マクミランランゲージハウス
670	When we started school (Springboard Connect level 6a)	マクミランランゲージハウス
671	Me and my family (Springboard Connect level 6b)	マクミランランゲージハウス
672	What are they? (Springboard Connect level 6c)	マクミランランゲージハウス
673	Changing seasons (Springboard Connect level 6d)	マクミランランゲージハウス
674	I must be quick (Springboard Connect level 6e)	マクミランランゲージハウス
675	Grandma went to school (Springboard Connect level 7a)	マクミランランゲージハウス
676	The shopping list (Springboard Connect level 7b)	マクミランランゲージハウス
677	Tigers (Springboard Connect level 7c)	マクミランランゲージハウス
678	The ice festival (Springboard Connect level 7d)	マクミランランゲージハウス
679	How doctors help (Springboard Connect level 7e)	マクミランランゲージハウス
680	Monsoon (Springboard Connect level 8a)	マクミランランゲージハウス

No.	書名	出版社
681	A fun day (Springboard Connect level 8b)	マクミランランゲージハウス
682	Making things (Springboard Connect level 8c)	マクミランランゲージハウス
683	Special days (Springboard Connect level 8d)	マクミランランゲージハウス
684	Make a hat and a mask (Springboard Connect level 8e)	マクミランランゲージハウス
685	The monkeys go bananas! (Springboard Connect level 9a)	マクミランランゲージハウス
686	The bell garden (Springboard Connect level 9b)	マクミランランゲージハウス
687	Cool bananas (Springboard Connect level 9c)	マクミランランゲージハウス
688	Being famous (Springboard Connect level 9d)	マクミランランゲージハウス
689	Fly, baby birds! (Springboard Connect level 9e)	マクミランランゲージハウス
690	Then and now (Springboard Connect level 10a)	マクミランランゲージハウス
691	Hip-hop! (Springboard Connect level 10b)	マクミランランゲージハウス
692	Sailing north (Springboard Connect level 10c)	マクミランランゲージハウス
693	Way to go! (Springboard Connect level 10d)	マクミランランゲージハウス
694	Car parts (Springboard Connect level 10e)	マクミランランゲージハウス
695	No rules day (Springboard Connect level 11a)	マクミランランゲージハウス
696	Counting down (Springboard Connect level 11b)	マクミランランゲージハウス
697	Bigger and smaller (Springboard Connect level 11c)	マクミランランゲージハウス
698	The bamboo family (Springboard Connect level 11d)	マクミランランゲージハウス
699	Desert life (Springboard Connect level 11e)	マクミランランゲージハウス
700	Big day out (Springboard Connect level 12a)	マクミランランゲージハウス
701	Trip trouble (Springboard Connect level 12b)	マクミランランゲージハウス
702	Oily feet (Springboard Connect level 12c)	マクミランランゲージハウス
703	The day sky (Springboard Connect level 12d)	マクミランランゲージハウス
704	Weather tools (Springboard Connect level 12e)	マクミランランゲージハウス
705	A star named Jade (Springboard Connect level 13a)	マクミランランゲージハウス
706	Dear penpal (Springboard Connect level 13b)	マクミランランゲージハウス
707	Insect bodies (Springboard Connect level 13c)	マクミランランゲージハウス
708	The cake sale (Springboard Connect level 13d)	マクミランランゲージハウス
709	Jobs people do (Springboard Connect level 13e)	マクミランランゲージハウス
710	The ice lantern (Springboard Connect level 14a)	マクミランランゲージハウス
711	Lost! (Springboard Connect level 14b)	マクミランランゲージハウス
712	Life of a butterfly (Springboard Connect level 14c)	マクミランランゲージハウス
713	The lion city (Springboard Connect level 14d)	マクミランランゲージハウス
714	Food for all (Springboard Connect level 14e)	マクミランランゲージハウス

No.	書名	出版社
715	Magnet boy (Springboard Connect level 15a)	マクミランランゲージハウス
716	Greedy monkey (Springboard Connect level 15b)	マクミランランゲージハウス
717	The eco park (Springboard Connect level 15c)	マクミランランゲージハウス
718	Living on earth (Springboard Connect level 15d)	マクミランランゲージハウス
719	Let's celebrate (Springboard Connect level 15e)	マクミランランゲージハウス
720	Crazy wheels day (Springboard Connect level 16a)	マクミランランゲージハウス
721	Animals of the coast (Springboard Connect level 16b)	マクミランランゲージハウス
722	The green house (Springboard Connect level 16c)	マクミランランゲージハウス
723	Zara and the band (Springboard Connect level 16d)	マクミランランゲージハウス
724	The frozen drink (Springboard Connect level 16e)	マクミランランゲージハウス
725	Digger's best bone (Springboard Connect level 17a)	マクミランランゲージハウス
726	Fruits and veggies (Springboard Connect level 17b)	マクミランランゲージハウス
727	Honey from hive to home (Springboard Connect level 17c)	マクミランランゲージハウス
728	Our earth (Springboard Connect level 17d)	マクミランランゲージハウス
729	Why crow is black (Springboard Connect level 17e)	マクミランランゲージハウス
730	One of a kind (Springboard Connect level 18a)	マクミランランゲージハウス
731	The real prize (Springboard Connect level 18b)	マクミランランゲージハウス
732	Kakadu (Springboard Connect level 18c)	マクミランランゲージハウス
733	Getting to work (Springboard Connect level 18d)	マクミランランゲージハウス
734	Making paper (Springboard Connect level 18e)	マクミランランゲージハウス
735	Saving the parrots (Springboard Connect level 19a)	マクミランランゲージハウス
736	Mum's new mobile (Springboard Connect level 19b)	マクミランランゲージハウス
737	A world of birds (Springboard Connect level 19c)	マクミランランゲージハウス
738	The rainbow serpent (Springboard Connect level 19d)	マクミランランゲージハウス
739	Creating a cartoon (Springboard Connect level 19e)	マクミランランゲージハウス
740	Hush! (Springboard Connect level 20a)	マクミランランゲージハウス
741	At home (Springboard Connect level 20b)	マクミランランゲージハウス
742	A sticky problem (Springboard Connect level 20c)	マクミランランゲージハウス
743	Great landmarks (Springboard Connect level 20d)	マクミランランゲージハウス
744	Pen and ink (Springboard Connect level 20e)	マクミランランゲージハウス
745	The ducks of Dinsmore Park (Springboard Connect level 21a)	マクミランランゲージハウス
746	Snakes alive! (Springboard Connect level 21b)	マクミランランゲージハウス
747	Where's dad? (Springboard Connect level 21c)	マクミランランゲージハウス
748	Bug catchers (Springboard Connect level 21d)	マクミランランゲージハウス

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
749	Living around the world (Springboard Connect level 21e)	マクミランランゲージハウス
750	Second-hand dog (Springboard Connect level 22a)	マクミランランゲージハウス
751	Simple machines (Springboard Connect level 22b)	マクミランランゲージハウス
752	My mum the inventor (Springboard Connect level 22c)	マクミランランゲージハウス
753	A frog's life (Springboard Connect level 22d)	マクミランランゲージハウス
754	Health online (Springboard Connect level 22e)	マクミランランゲージハウス
755	Spencer's blog (Springboard Connect level 23a)	マクミランランゲージハウス
756	The reward (Springboard Connect level 23b)	マクミランランゲージハウス
757	Days to remember (Springboard Connect level 23c)	マクミランランゲージハウス
758	Helping each other (Springboard Connect level 23d)	マクミランランゲージハウス
759	Ice science (Springboard Connect level 23e)	マクミランランゲージハウス
760	Blue 改訂新版(Graded reading series . Prism ; book 5 Elementary)	マクミランランゲージハウス
761	Green 改訂新版(Graded reading series . Prism ; book 6 High-elementary)	マクミランランゲージハウス
762	Culture Shock in Japan (Read Smart Readers . Read Japanシリーズ 2-1)	マクミランランゲージハウス
763	Homestay in the UK (Read Smart Readers . Read the Worldシリーズ 2-2)	マクミランランゲージハウス
764	Ice station at the End of the world (Read Smart Readers . Read Japan シリーズ 2-3)	マクミランランゲージハウス
765	Japanese communities around the world (Read Smart Readers . Read the world シリーズ 2-4)	マクミランランゲージハウス
766	Haircuts and Another Japanese Tale—(Read Smart Readers . Read Japan シリーズ 3-1)	マクミランランゲージハウス
767	Click and Other Japanese Tales—(Read Smart Readers . Read Japan シリーズ 3-2)	マクミランランゲージハウス
768	This Is Facebook! (Read Smart Readers . Read the Worldシリーズ 3-3)	マクミランランゲージハウス
769	The Bradfield Push = New Sherlock Holmes ; 1 (Read Smart Readers . Read the Worldシリーズ 3-4)	マクミランランゲージハウス
770	Owl hall (Macmillan readers 4, pre-intermediate level)	マクミランランゲージハウス
771	The story of the Olympics —an unofficial history—(Macmillan readers 4, pre-intermediate level)	マクミランランゲージハウス
772	大学2年生のための中国語 第2版	慶應義塾大学出版会
773	漢語語法変換研究 —理論・原則・方法—(松山大学研究叢書 第28巻)	白帝社
774	やさしくわしい中国語文法の基礎	東方書店
775	現代中国語文法研究 (中国語学研究叢書 4)	白帝社
776	本気で学ぶ中国語作文 (Beret books)	ベレ出版
777	Eメールの中国語	白水社
778	そのまま使える! 中国語会話表現集	東洋書店新社
779	Eメールのイタリア語	白水社
780	現代フランス語表現辞典	大修館書店
781	フランス語表現とことんトレーニング	白水社
782	フランス語名詞化辞典	大修館書店

No.	書名	出版社
783	Eメールのフランス語 増補版	白水社
784	大学1年生からの研究の始めかた	慶應義塾大学出版会
785	人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック	慶應義塾大学出版会
786	知のデザイン ―自分ごととして考えよう―	近代科学社
787	情報セキュリティ入門 ―情報倫理を学ぶ人のために―改訂版	共立出版
788	オープンデータ超入門 (New thinking and new ways)	インプレスR&D/インプレス ビジネスメディア
789	はじめての情報理論	森北出版
790	情報セキュリティ概論	日本工業出版
	内国書(電子書籍) 計 / 国際ファッション専門職大学	

No.	書名	出版社
1	American Popular Culture Through History: The New Nation 初期アメリカ合衆国の大衆文化 <同時アクセス1台>	ABC-CLIO: Greenwood Publishing Group, 2007/11 (2002)
2	The Greenwood Encyclopedia of Clothing through American History, 1900 to the Present, 2 vols. アメリカ服飾史:1900年から現代まで 全2巻 <同時アクセス1台>	ABC-CLIO: Greenwood Publishing Group, 2010/9 (2009)
3	Bowling, Beatniks, and Bell-Bottoms: Pop Culture of 20th-Century America, 2nd ed., 6 vols. 20世紀アメリカの大衆文化事典 第2版 全6巻 <同時アクセス1台>	Gale: UXL, an imprint of Gale, 2012/5 (2012)
4	Clothing and Fashion: American Fashion from Head to Toe, 4 vols. <同時アクセス1台>	ABC-CLIO, 2016/7 (2016)
5	Contemporary Fashion, 2nd ed. 現代ファッション事典 第2版 <同時アクセス1台>	Gale: St. James Press, an imprint of Gale, 2003/10 (2002)
6	Encyclopedia of Clothing and Fashion, 3 vols. 服飾・ファッション百科事典 全3巻 <同時アクセス1台>	Gale: Charles Scribner's Sons, an imprint of Gale, 2004/11 (2005)
7	Fashion Fads through American History: Fitting Clothes into Context <同時アクセス1台>	ABC-CLIO: Greenwood Publishing Group, 2016/7 (2016)
8	Fashion, Costume, and Culture: Clothing, Headwear, Body Decorations, and Footwear Through the Ages, 2nd ed., 6 vols. ファッション・衣装と文化の歴史事典 第2版 全5巻 <同時アクセス1台>	Gale: UXL, an imprint of Gale, 2013/5 (2013)
9	In an Influential Fashion: An Encyclopedia of Nineteenth- and Twentieth-Century Fashion Designers and Retailers Who Transformed Dress 19-20世紀の著名ファッションデザイナー・リテラー百科事典 <同時アクセス1台>	ABC-CLIO: Greenwood Publishing Group, 2007/11 (2002)
10	World Clothing and Fashion: An Encyclopedia of History, Culture, and Social Influence, 2 vols. <同時アクセス1台>	M.E. Sharpe, 2014/8 (2014)
11	Culture and Customs of Syria シリアの文化と習慣 <同時アクセス1台>	ABC-CLIO: Greenwood Publishing Group, 2008/9 (2008)
12	Culture and Customs of Senegal セネガルの文化と習慣 <同時アクセス1台>	ABC-CLIO: Greenwood Publishing Group, 2008/9 (2008)
13	Do You Speak Shoe Lover? Style and Stories from Inside DSW <同時アクセス1台>	Wiley, 2014/6 (2013)
14	Handbook of Research on Global Fashion Management and Merchandising <同時アクセス1台>	IGI Global: Business Science Reference, 2016/11 (2016)
15	Fashion Supply Chain Management: Industry and Business Analysis <同時アクセス1台>	IGI Global, 2012/11 (2011)
16	Cultures and Societies in a Changing World, 4th ed. 変化する社会における文化と社会 第4版 <同時アクセス1台>	Sage, 2013/9 (2013)
17	Essential Library of Cultural History: A History of Fashion <同時アクセス1台>	ABDO Publishing, 2015/7 (2015)
18	Digital Fashion Photography <同時アクセス1台>	Cengage Learning PTR, 2014/10 (2005)
19	Cool Refashioned Hardware <同時アクセス1台>	ABDO Publishing: Checkerboard, 2016/6 (2016)
20	Cool Refashioned Odds & Ends <同時アクセス1台>	ABDO Publishing: Checkerboard, 2016/6 (2016)
21	Cool Refashioned Scarves & Ties <同時アクセス1台>	ABDO Publishing: Checkerboard, 2016/6 (2016)
22	Creative Crafts for Kids (Bundle) <同時アクセス1台>	Britannica: Britannica Digital Learning, 2014/3 0
23	Fashion Drawing for Dummies ファッション・ドローイング入門 <同時アクセス1台>	Wiley: Dummies, 2014/5 (2012)
24	Career Launcher: Fashion キャリア案内シリーズ:ファッション <同時アクセス1台>	Infobase: Ferguson, 2011/6 (2011)
25	Career Opportunities in the Fashion Industry, 2nd ed. キャリア支援シリーズ:ファッション産業 第2版 <同時アクセス1台>	Infobase: Facts on File, 2010/4 (2007)
26	Careers in Focus: Art, 2nd ed. Fergusonキャリア情報:アート 第2版 <同時アクセス1台>	Infobase: Facts on File, 2010/5 (2008)
27	Careers in Focus: Consumer Goods Production and Sales <同時アクセス1台>	Infobase: Ferguson, 2015/12 (2014)
28	Careers in Focus: Fashion and Apparel <同時アクセス1台>	Infobase: Ferguson, 2017/3 (2014)
29	Careers in Focus: Media and Entertainment <同時アクセス1台>	Infobase: Ferguson, 2016/1 (2014)
30	Exploring Careers: Careers in Fashion <同時アクセス1台>	ReferencePoint Press, 2015/12 (2015)
	外国書(電子書籍) 計 / 国際ファッション専門職大学	

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
1	オートクチュールの世界 英語版	
2	ココ・シャネル <20世紀に輝いた世界の女性たち [全12巻] 第2巻>	
3	ブランドの知的財産管理 <世界のブランドマーケティング [全8巻] 第8巻>	
4	第2巻 IDEO(アイデオ社)のトップ、ティム・ブラウン「デザイン志向型戦略」を語る <スタンフォード・エグゼクティブ・ブリーフィング ベスト・セレクション (全87巻) 英語版 [全87巻] 第2巻>	
5	つくる、飾る、デザイン行動 [全1巻]	
6	生活を豊かにするデザイン [全1巻]	
7	デザインの楽しさ [全1巻]	
8	マーケティング戦略の策定 <売れる仕組みを作る マーケティング [全3巻] 第1巻>	
9	マーケティングミックス 1 (Product・Price) <売れる仕組みを作る マーケティング [全3巻] 第2巻>	
10	マーケティングミックス 2 (Place・Promotion) <売れる仕組みを作る マーケティング [全3巻] 第3巻>	
	視聴覚資料 計 / 国際ファッション専門職大学	

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
1	デザイン学研究 隔月 (冊子)	日本デザイン学会本部事務局
2	日経デザイン 月刊 (冊子)/本誌のみ	株式会社 日経BP読者サービスセンター
3	デザインノート 季刊 (冊子)	誠文堂新光社
4	日経ビジネス 週刊 (冊子)/本誌のみ	日経BP
5	ビジネスコミュニケーション 月刊 (冊子)/本誌のみ	ビジネスコミュニケーション社
6	経営実務 月刊 (冊子)/別増込み	全国共同出版
7	ファッション販売 月刊 (冊子)/本誌のみ	株式会社 商業界
8	販売革新 月刊 (冊子)/本誌のみ	株式会社 商業界
9	日本経営学会誌 年2回 (冊子)	千倉書房
10	マーケティング ジャーナル 季刊 (冊子)/本誌のみ	日本マーケティング協会
	学術雑誌 計 / 国際ファッション専門職大学	

図書一覧(案)

資料12

No.	書名	出版社
1	Bloomsbury ファッションデータベース < Berg Fashion Library/Fairchild Books Library/Fashion Photography Archive > ※ 国際ファッション専門 職大学様のみ対象にてフリーアクセス	Bloomsbury
2	Academic OneFile ※ 該当大学におけるIPアドレスにおいてフリーアクセス	Gale
	データベース 計 / 国際ファッション専門職大学	

(表1) 既設専門学校のカリキュラム (モード学園ファッションデザイン学科の例)

教育課程等の概要												
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			DP・CPとの関連			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	汎用的能力	基本的知識	知識・理解	態度・志向性
基礎科目	PC演習Ⅰ	1通	1.3					○	○			
	PC演習Ⅱ	2通	3.6					○	○			
	PC演習Ⅲ	3通	2					○	○			
	自己開発Ⅰ	1後	0.6			○						○
	自己開発Ⅱ	2前	0.6			○						○
	創造性開発Ⅰ	2後	0.6			○						○
	創造性開発Ⅱ	3前	0.6			○						○
	ビジネストレーニングⅠ	3前	2.6			○			○			○
	小計(8科目)	—	11.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
職業専門科目	ファッション知識	1前	4.8			○				○		
	ファッション史Ⅰ	1通	2.4			○				○		
	ファッション史Ⅱ	2通	1.2			○				○		
	ファッション史Ⅲ	3通	1			○				○		
	クリエイション	1通	4.8					○		○		
	創作デザインⅡ	2通	3.4					○		○		
	創作デザインⅢ	3通	4					○		○		
	創作デザインⅣ	4通	6.4					○		○		
	デザイン画Ⅰ	1通	4.8					○		○		
	デザイン画Ⅱ	2通	4					○		○		
	デザイン画Ⅲ	3通	2					○		○		
	パターンメイキングⅠ	1通	7.2					○		○		
	パターンメイキングⅡ	2通	5					○		○		
	パターンメイキングⅢ	3通	6							○		
	パターンメイキングⅣ	4通	6							○		
	テクニカルデザインⅠ	1通	3.2					○		○		
	テクニカルデザインⅡ	2通	5.6					○		○		
	テクニカルデザインⅢ	3通	8.2					○		○		
	制作技法Ⅰ	1通	10.4					○		○		
	制作技法Ⅱ	2通	9.3					○		○		
	カラーリング	1通	2.6				○			○		
	マテリアルⅠ	1通	2.4				○			○		
	マテリアルⅡ	2通	2.4				○			○		
	MEWⅠ	1通	1					○	○			○
	MEWⅡ	2通	0.9					○	○			○
	MEWⅢ	3通	1					○	○			○
	フレックススタディⅠ	1通	4.4				○			○	○	○
	フレックススタディⅡ	2通	4				○			○	○	○
	フレックススタディⅢ	3通	4				○			○	○	○
	フレックススタディⅣ	4通	6.8				○			○	○	○
学外実習Ⅰ	1通	1.3						○			○	
学外実習Ⅱ	2通	2.6						○			○	
学外実習Ⅲ	3通	2						○			○	

	学外実習Ⅳ	4通	2.1					○		○		○
	インターンシップ	3後	3.5					○		○		○
	ファッショントレンド分析Ⅰ	3通	0.4			○				○		
	ファッショントレンド分析Ⅱ	4通	0.4							○		
	ファッションクリエイター論	3通	0.8			○				○		
	ファッションスキルアップ	4後	2.6					○		○		
	アパレルマーチャンダイジング	2通	2.6				○			○		
	アパレル生産技術Ⅰ	3通	10.4				○			○		
	ブランドプランニングⅠ	3通	2.6				○			○		
	ブランドプランニングⅡ	4通	3.4				○			○		
	小計 (43科目)	—	164	—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合科目	ケーススタディⅠ		1.1				○					○
	ケーススタディⅡ		0.3				○					○
	ケーススタディⅢ		4				○					○
	卒業制作		3.3					○				○
	小計 (4科目)	—	8.7	0	0	—	—	—	—	—	—	—
合計 (55科目)		—	185	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学位又は称号	高度専門士								—	—	—	—
卒業要件及び履修方法		授業期間等										
【卒業要件】 必修 185 単位を取得すること。		1 学年の学期区分			2 学期							
		1 学期の授業期間			18 週							
		1 時限の授業時間			90 分							

(表2) 既設専門学校のカリキュラム (モード学園ファッションビジネス学科の例)

教育課程等の概要												
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			DP・CPとの連携			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	汎用的能力	基本的知識	知識・理解	態度・志向性
基礎科目	ビジネスコンピュータⅠ	2通	3.7					○	○			
	ビジネスコンピュータⅡ	3通	3.3					○	○			
	自己開発Ⅰ	1後	0.6			○						○
	自己開発Ⅱ	2前	0.6			○						○
	創造性開発Ⅰ	2後	0.6			○						○
	創造性開発Ⅱ	3前	0.6			○						○
	ビジネストレーニングⅠ	2通	2.6			○			○			
	小計(7科目)	—	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
職業専門科目	ファッション知識	1前	4.8			○				○		
	ファッション史Ⅰ	1通	2.4			○				○		
	リテールテクニックⅠ	2通	2.6					○		○		
	リテールテクニックⅡ	3通	6					○		○		
	接客販売技法Ⅰ	2通	2.6					○		○		
	接客販売技法Ⅱ	3通	2.8					○		○		
	クリエイション	1通	2.4					○		○		
	ファッションスタイル論	2通	5.2			○				○		
	ストアマーチャンドライジング	2通	2.1			○				○		
	ビジュアルマーチャンドライジング	3通	5			○				○		
	ショップ経営プランニング	3通	7.6					○		○		
	F B知識	2通	2.1			○				○		
	デザイン画Ⅰ	1通	4.8					○		○		
	ビジュアル制作技法	1後	2.6					○		○		
	マーケット情報分析	2通	2.4			○				○		
	パターンメイキングⅠ	1通	7.2					○		○		
	ファッションイラストⅠ	2通	1.2					○		○		
	ファッションイラストⅡ	3通	1.2					○		○		
	プロモーションⅠ	2通	4.8			○				○		
	プロモーションⅡ	3通	2.4			○				○		
	ディスプレイ技法Ⅰ	2通	2.4					○		○		
	パース技法	2通	1.3					○		○		
	制作技法Ⅰ	1通	9					○		○		
	カラーリングⅠ	1通	2.6			○				○		
	カラーリングⅡ	2前	2.6			○				○		
	カラーリングⅢ	3通	2.4			○				○		
	マテリアルⅠ	1通	2.4			○				○		
	マテリアルⅡ	2通	2.6			○				○		
	マテリアルⅢ	3通	4			○				○		
	MEWⅠ	1通	1					○	○			○
	MEWⅡ	2通	1.3					○	○			○

	コンセプトメイキング	2通	2.1				○			○		
	フレックススタディⅠ	1通	4.4			○			○	○		○
	フレックススタディⅡ	2通	4			○			○	○		○
	学外実習Ⅰ	1通	2.6					○	○	○		○
	学外実習Ⅱ	2通	2.4					○	○	○		○
	学外実習Ⅲ	3通	2					○	○	○		○
	インターンシップ	2通	3.5					○		○		○
	ファッショントレンド分析Ⅰ	2通	0.5			○				○		
	ファッショントレンド分析Ⅱ	3通	0.5			○				○		
	小計(40科目)	—	126	—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合科目	ケーススタディⅠ	2通	2				○					○
	ケーススタディⅡ	3通	5				○					○
	卒業制作	3通	2					○				○
	小計(4科目)	—	9	0	0		—		—	—	—	—
合計(51科目)		—	147	—	—		—		—	—	—	—
学位又は称号	専門士	学位又は学科の分野							—	—	—	
卒業要件及び履修方法		授業期間等										
【卒業要件】 必修147単位を取得すること。		1学年の学期区分			2学期							
		1学期の授業期間			18週							
		1時限の授業時間			90分							

(表3) 専門職大学のカリキュラム (ファッションクリエイション学科の例)

教育課程等の概要												
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			DP・CPとの関連			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	汎用的能力	基本的技術	知識・理解	態度・志向性
基礎科目	比較文化論	1 前	2			○			○			
	現代文化論	1 後		2		○			○			
	ヨーロッパの社会と文化	2 後		2		○			○			
	文化論基礎ゼミ	1 前		2			○		○			○
	会計入門	1 前		2		○			○			
	産業論入門	1 後		2		○			○			
	法学入門	1 後		2		○			○			
	地域論入門	2 後		2		○			○			
	フィールドワーク入門	1 後	2			○			○			○
	社会科学基礎ゼミ	2 後		2			○		○			○
	メディア概論	1 前	2			○			○			
	情報リテラシー	1 前	2			○			○			
	環境と社会	2 前		2		○			○			
	英語 I	1 通	4				○		○			
	英語 II	2 通	4				○		○			
	日本語文章表現	1 後	2				○		○			
	キャリアデザイン論	1 後		2		○			○			
小計 (17 科目)	—		18	20	0	—	—	—	—	—	—	—
職業専門科目	身体とパフォーマンス	1 前		2		○				○	○	
	造形論入門	1 前	2			○		○		○		
	自然資源と服装文化	1 後		2		○				○	○	
	職人の世界	1 前		2		○				○	○	
	装いと社会性・ジェンダー	1 前		2		○				○	○	
	美とファッションの歴史	2 前	2			○				○	○	
	ブランドの歴史と文化	2 後		2		○				○	○	
	美容とファッション	2 後		2		○				○	○	
	色彩論入門	1 前	2			○		○		○		
	サブカルチャー・スタイル	2 後		2		○				○	○	
	ファッション論基礎ゼミ	1 前		2			○			○		○
	日本の衣生活・服装史入門	2 前	2			○				○	○	
	生活科学入門	1 前	2			○				○	○	
	ファッションデザイン論	1 前	2			○				○		
	ファッションデザイン演習 I ※	1 通	4					○		○		
	ファッションデザイン演習 II ※	2 通	4					○		○		
	ファッションデザインブランニング演習 I ※	1 通	4					○		○		
ファッションデザインブランニング演習 II ※	2 通	4					○		○			
パターンメイキング	2 後		2		○				○			
テキスタイル基礎	1 後	2			○				○			
バッグデザイン	2 後		2				○		○			

	シューズデザイン	2 後		2				○		○			
	デザイン感性工学	2 後		2		○				○	○		
	ファッションビジネス概論	1 前		2		○				○			
	マーケティング論	3 前	2			○				○	○		
	消費者行動論	3 前	2			○				○	○		
	知財論	2 後	2			○				○			
	写真概論	1 前	2			○				○			
	映像概論	1 後	2			○				○			
	写真实習	2 前		2				○		○			
	映像実習	2 後		2				○		○			
	地域企業・地方連携ゼミ	3 通	10				○					○	
	臨地実習Ⅰ（企業）	3 通	10					○	○	○	○	○	
	臨地実習Ⅱ（地方産地）	3 通	10					○	○	○	○	○	
	小計（34 科目）	—	70	30	0	22	2	10					
展開科目	環境とビジネス	3 後	2			○						○	
	地域産業論	2 後	2			○						○	
	ファッション産業とメディアデザイン	2 前		2		○						○	
	デジタルアーカイブ論	2 前		2		○						○	
	国際展示会演習	4 前		2			○				○	○	
	国際ファッション市場論	1 後	2			○						○	
	国際知財論	3 前		2		○						○	
	国際ファッション業界英語	2 通	4			○				○		○	
	フランス語	2 後		2		○				○		○	
	中国語	2 後		2		○				○		○	
	国際連携ゼミ	3 通	4					連				○	○
	海外実習Ⅰ	3 通	2						○	○	○	○	○
	海外実習Ⅱ	3 通		2					○	○	○	○	○
	小計（13 科目）		12	14	0	5	6	2					
総合科目	統合指導ゼミⅠ	4 前	4					○				○	○
	統合指導ゼミⅡ	4 後	4					○				○	○
	卒業制作・計画	4 通	4						○	○	○	○	○
	小計（3 科目）		12	14	0	5	6	2					
合計（67 科目）		—	112	64	0	39	15	13					
学位又は称号	専門士	学位又は学科の分野											
卒業要件及び履修方法		授業期間等											
【卒業要件】 必修 147 単位を取得すること。		1 学年の学期区分			2 学期								
		1 学期の授業期間			18 週								
		1 時限の授業時間			90 分								

(表4) 専門職大学のカリキュラム (ファッションビジネス学科の例)

教育課程等の概要												
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			DP・CPとの関連			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	汎用的能力	基本的技術	知識・理解	態度・志向性
基礎科目	比較文化論	1前	2			○			○			
	現代文化論	1後		2		○			○			
	ヨーロッパの社会と文化	2後		2		○			○			
	文化論基礎ゼミ	1前		2			○		○			○
	会計入門	1前		2		○			○			
	産業論入門	1後		2		○			○			
	法学入門	1後		2		○			○			
	地域論入門	2後		2		○			○			
	フィールドワーク入門	1後	2			○			○			○
	社会科学基礎ゼミ	2後		2			○		○			○
	メディア概論	1前	2			○			○			
	情報リテラシー	1前	2			○			○			
	環境と社会	2前		2		○			○			
	英語 I	1通	4				○		○			
	英語 II	2通	4				○		○			
	日本語文章表現	1後	2				○		○			
	キャリアデザイン論	1後		2		○			○			
小計 (17科目)	—	—	18	20	0	—	—	—	—	—	—	—
職業専門科目	身体とパフォーマンス	1前		2		○				○	○	
	造形論入門	1前	2			○		○	○			
	自然資源と服装文化	1後		2		○			○	○		
	職人の世界	1前		2		○			○	○		
	装いと社会性・ジェンダー	1前		2		○			○	○		
	美とファッションの歴史	2前	2			○			○	○		
	ブランドの歴史と文化	2後		2		○			○	○		
	美容とファッション	2後		2		○			○	○		
	色彩論入門	1前	2			○		○	○			
	サブカルチャー・スタイル	2後		2		○			○	○		
	ファッション論基礎ゼミ	1前		2			○		○			○
	日本の衣生活・服装史入門	2前	2			○			○	○		
	生活科学入門	1前	2			○			○	○		
	ファッションデザイン論	1前	2			○			○			
	ファッションデザイン演習 I ※	1通	4					○	○			
	ファッションデザイン演習 II ※	2通	4					○	○			
	ファッションデザインプランニング演習 I ※	1通	4					○	○			
ファッションデザインプランニング演習 II ※	2通	4					○	○				
パターンメイキング	2後		2		○			○				
テキスタイル基礎	1後	2			○			○				
バッグデザイン	2後		2				○	○				

	シューズデザイン	2 後		2				○		○			
	デザイン感性工学	2 後		2		○				○	○		
	ファッションビジネス概論	1 前		2		○				○			
	マーケティング論	3 前	2			○				○	○		
	消費者行動論	3 前	2			○				○	○		
	知財論	2 後	2			○				○			
	写真概論	1 前	2			○				○			
	映像概論	1 後	2			○				○			
	写実実習	2 前		2				○		○			
	映像実習	2 後		2				○		○			
	地域企業・地方連携ゼミ	3 通	10					○				○	
	臨地実習Ⅰ（企業）	3 通	10					○	○	○	○	○	
	臨地実習Ⅱ（地方産地）	3 通	10					○	○	○	○	○	
	小計（34 科目）	—	70	30	0	22	2	10					
展開科目	環境とビジネス	3 後	2			○					○		
	地域産業論	2 後	2			○					○		
	ファッション産業とメディアデザイン	2 前		2		○					○		
	デジタルアーカイブ論	2 前		2		○					○		
	国際展示会演習	4 前		2				○			○	○	
	国際ファッション市場論	1 後	2			○					○		
	国際知財論	3 前		2		○					○		
	国際ファッション業界英語	2 通	4			○				○		○	
	フランス語	2 後		2		○				○		○	
	中国語	2 後		2		○				○		○	
	国際連携ゼミ	3 通	4					連				○	○
	海外実習Ⅰ	3 通	2						○	○	○	○	○
	海外実習Ⅱ	3 通		2					○	○	○	○	○
	小計（13 科目）		12	14	0	5	6	2					
総合科目	統合指導ゼミⅠ	4 前	4					○				○	○
	統合指導ゼミⅡ	4 後	4					○				○	○
	卒業制作・計画	4 通	4					○	○	○	○	○	○
	小計（3 科目）		12	14	0	5	6	2					
合計（67 科目）		—	112	64	0	39	15	13					
学位又は称号		専門士	学位又は学科の分野										
卒業要件及び履修方法		授業期間等											
【卒業要件】 必修 147 単位を取得すること。		1 学年の学期区分			2 学期								
		1 学期の授業期間			18 週								
		1 時限の授業時間			90 分								

実習施設設備の整備状況

■授業時間外の学生専用自習教室

資料14-1

《東京キャンパス》学科:ファッションクリエイション学科/ファッションビジネス学科

■ファッションビジネス学科1~4学年専用教室

●教室 :40階 401教室[44席]:<1~7单元利用可能教室>

●教室写真[401教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	11	401教室	
椅子	44	401教室	
職業用ミシン	2	401教室	ミシンは必要数を40Fストックルームから移動して使用
ロックミシン	5	401教室	
アイロン	2	401教室	アイロンは必要数を40Fストックルームから移動して使用
アイロン+バキューム台	1	401教室	
ボディ	1	401教室	ボディは必要数を40Fストックルームから移動して使用
編み機	25	401教室	
革用ミシン	2	401教室	
革スキ機	1	401教室	ファッションクリエイション学科のバッグデザイン実習で革材料を扱う学生のみ、401教室で使用
毛皮用ミシン	2	401教室	

●教室設置機材写真[402教室]



■ファッションクリエイション学科1～4学年専用教室

●教室 :40階 402教室[56席]:<1～7单元利用可能教室>

●教室写真[402教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	14	402教室	
椅子	56	402教室	
職業用ミシン	20	402教室	
アイロン	4	402教室	
アイロン台	4	403教室	
職業用ミシン	40	40Fストックルーム	402教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
ロックミシン	14	40Fストックルーム	
アイロン	10	40Fストックルーム	402教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
アイロン台	10	40Fストックルーム	402教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
ボディ	56	40Fストックルーム	

※革・毛皮をバッグデザイン実習で使用する学生は、401教室に設置してある革用・毛皮用機材を使用する。

●40Fストックルーム写真



●**教室 :41階:415教室[30席]:<1～7单元利用可能教室>**

※415教室利用の利用状況は、[資料14-2]参照

●**教室写真[415教室]**



●**利用機材**

機材名	台数	保管場所	備考
机	15	415教室	
椅子	30	415教室	
工業用ミシン	22	415教室	
ロックミシン	10	415教室	
アイロン	10	415教室	
アイロン台	8	415教室	
バキューム	1	415教室	
ボディ	12	415教室	
万十(2号)	3	415教室	アイロン使用時に部分的に使用
仕上馬	4	415教室	アイロン使用時に部分的に使用

●**教室 :47階 473教室[62席](東京モード学園・コンテストルーム)<1～7单元利用可能教室>**

※東京モード学園のコンテスト制作と併用して利用

●**教室写真[473教室]**



【2017年度東京モード学園使用実績】

コンテスト名	対象 学生数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
ナゴヤファッションコンテスト	3			3	3	3	3							
YKKファスニングアワード	4			4	4	4	4							
東京新人デザイナーファッション大賞	3				3	3	3							
日暮里ファッションデザインコンテスト	9					9	9	9	9					
JFAファーデザインコンテスト	4						4	4	4					
新宿ファッションフィールド	5						5	5	5					
千年大賞	4								4	4	4			
Yumi Katsura Award	2								2	2	2	2		
コンテストルーム最大利用学生数		0	0	7	10	19	28	18	24	6	6	2	0	

◎卒業制作・計画制作期間

卒業制作・計画																
	企画立案					夏期休暇										

◎ファッションクリエイション学科の学生利用可能数【参考:2017年度実績】

東京キャンパス 47階:コンテストルーム <473教室>	収容 可能数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
	62	62	62	55	52	43	34	44	38	56	56	60	62	平均50席確保

●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	14	473教室	
椅子	62	473教室	
工業用ミシン	2	473教室	
職業用ミシン	4	473教室	
ロックミシン	12	473教室	
アイロン	2	473教室	
アイロン台	1	473教室	
バキューム	2	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
ハンサプレスHP-84B	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
ボディ9AR-C	4	473教室	
ハンガーラック	15	473教室	
ボディ9AT	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
ボディ7AR	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
ボディ(チルドレン)	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
クロッチボディ(11)	2	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
クロッチボディ(9AR)	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
クロッチボディ(水着・レオタード)	2	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
メンズトルソー(Y4)	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
キイヤspur	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
婦人マネキン	6	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
紳士マネキン	5	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
万十(2号)	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター	2	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター用PC	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
スチール棚	3	473教室	特殊機材用
職業用ミシン	40	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
ロックミシン	14	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
アイロン	10	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
アイロン台	10	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
ボディ	56	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動

●43Fストックルーム

※移動において、エレベータNO.2を使用し473教室へ移動する

●43Fストックルーム写真



●作品保管

※作業中の卒業制作作品は、ハンガーに掛け必要に応じてハンガーラックで保管。



《大阪キャンパス》学科:大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

■大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科1～4学年専用教室

●教室 :B1階 B015教室[60席]:<1～7単元利用可能教室>

※B015教室利用の利用状況は、[資料14-3]参照

●教室写真[B015教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	30	B015教室	
椅子	60	B015教室	
職業用ミシン	40	B015教室	
ロックミシン	9	B015教室	
アイロン	7	B015教室	
バキューム	2	B015教室	
アイロン台	5	B015教室	
万十2号	1	B015教室	アイロン使用時に部分的に使用
袖万7号	1	B015教室	アイロン使用時に部分的に使用
仕上馬	2	B015教室	アイロン使用時に部分的に使用
エッジボード	1	B015教室	アイロン使用時に部分的に使用
革用ミシン	3	B015教室	コンテスト作品制作用特殊機材
革漉き機	1	B015教室	コンテスト作品制作用特殊機材
熱風仕上機	1	B015教室	コンテスト作品制作用特殊機材
強力バフモーター	1	B015教室	コンテスト作品制作用特殊機材

◎大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の学生利用可能数

大阪校舎 <B015教室>	収容 可能数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月		
	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	通年60席確保

●教室 :3階 035教室[48席]:<1~7单元利用可能教室>

●教室写真[035教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	12	035教室	
椅子	48	035教室	
ミシン	20	035教室	
ロックミシン	4	035教室	
アイロン	6	034教室	034教室は、常時入室可能
アイロン台	6	034教室	034教室は、常時入室可能
ボディ	34	035教室	

●教室設備機材写真



●教室 :8階 ホール(学生自習室兼学生控室)教室[220席]:<1~7单元利用可能教室>

●教室写真[ホール教室]



《名古屋キャンパス》学科:名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

■名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科1～4学年専用教室

●教室 :24階242教室[52席](名古屋モード学園・コンテストルーム):<1～7単元利用可能教室>

※名古屋モード学園のコンテスト制作と併用して利用

●教室写真[242教室]



【2017年度名古屋モード学園使用実績】

コンテスト名	対象 学生数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
ナゴヤファッションコンテスト	8			8	8	8	8							
YKKファスニングアワード	11			11	11	11	11							
東京新人デザイナーファッション大賞	4				4	4	4							
日暮里ファッションデザインコンテスト	8					6	6	6	6					
JFAファーデザインコンテスト	2						2	2	2					
新宿ファッションフィールド	2						2	2	2					
千年大賞	3								3	3				
Yumi Katsura Award	1								1	1	1	1		
コンテストルーム最大利用学生数		0	0	19	23	29	33	10	14	4	1	1	0	

◎卒業製作・計画制作期間

卒業製作・計画	
---------	--

◎名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の学生利用可能数

名古屋校舎 24階:コンテストルーム <242教室>	収容 可能数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
		52	52	52	33	29	23	19	42	38	48	51	51	

●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机(4人掛け)	10	242教室	
机(向かい2人掛け)	2	242教室	
机(横並び2人掛け)	5	242教室	
椅子	52	242教室	
工業用ミシン	2	242教室	
アイロン	1	242教室	
ハンガーラック	7	242教室	
婦人マネキン	3	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
紳士マネキン	5	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
刺繍機	1	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター	3	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター用PC	3	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター用プレス機	1	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
スチール棚	1	242教室	

●教室 :24階 241教室[63席]:<1~7单元利用可能教室>

●教室写真[241教室]



●教室写真[241教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	17	241教室	
椅子	63	241教室	
ミシン	33	246教室	常時入室可能
アイロン	6	245教室	常時入室可能
アイロン台	6	245教室	常時入室可能
ボディ	20	241教室	

※241教室利用の際は、上記備品が利用可能

●教室 :3階 学生自習室兼学生控室[184席]<1~7单元利用可能教室>

●教室写真[学生自習室兼学生控室]



【前期】

教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土
383/384	I	TP14	TP14					431/432	I	FH13		FH13	TP14	FH13	FH13
	II	TP14	TP14						II	FH13		FH13	TP14	FH13	FH13
	III			TP14	TP14				III		TP14		FH13	FH13	
	IV			TP14	TP14				IV		TP14		FH13	FH13	
	V								V						
	VI								VI	FD22					
	VII								VII	FD22					
385	I							433/434	I	FH14		FH14		FH14	FH14
	II								II	FH14		FH14		FH14	FH14
	III						FD14		III	FH14	FH14	FH14	FH14		
	IV						FD14		IV	FH14	FH14	FH14	FH14		
	V								V						
	VI	TQ23		FD24					VI			FD/TQ23		FD/TQ23	
	VII			FD24					VII	TQ23		FD/TQ23		FD/TQ23	
386	I							435/436	I	FD14	FD14		FD14	TP14	FD14
	II								II	FD14	FD14		FD14	TP14	FD14
	III			FH13					III		FD14	FD14		FD14	TP14
	IV			FH13					IV		FD14	FD14		FD14	TP14
	V								V						
	VI	FD23							VI	FD/TQ24				FD/TQ24	
	VII	FD23							VII	FD/TQ24		tq24		FD/TQ24	
391	I		FD12	FH11		FH11	FD12	474	I	FD13	FD13		FD13		
	II		FD12	FH11		FH11	FD12		II	FD13	FD13		FD13		
	III	FH11	FD12	FH11	FD12		FH11		III						FD13
	IV	FH11	FD12	FH11	FD12		FH11		IV						FD13
	V			FH11			FH11		V					FD13	
	VI			FD22					VI						
	VII			FD22					VII						
392	I						TQ12	475	I			TP13			
	II			FD12			TQ12		II			TP13			
	III			FD12					III	TP13				TP13	TP13
	IV			FD12	FH12				IV	TP13				TP13	TP13
	V				FH12				V						
	VI			TQ22					VI						
	VII			TQ22					VII						
393	I							482	I						FH12
	II					TQ12			II						FH12
	III	TQ12		TQ12	TQ12	TQ12			III	FH12	FH12		FH12		FH12
	IV	TQ12			TQ12	TQ12			IV	FH12	FH12				FH12
	V	TQ12							V	FH12					
	VI	TQ22		TQ24					VI						
	VII	TQ22							VII						
401/402	I	TP13			TP13	FD13	TP13	491/494	I						
	II	TP13			TP13	FD13	TP13		II						
	III	FD13	TP13		FD13				III		TQ12	FH13			
	IV	FD13	TP13		FD13				IV		TQ12	FH13			
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
411/412	I	TQ12	FH11					492	I					FH12	
	II	TQ12	FH11						II					FH12	
	III					FH11	FD12		III				FD13		
	IV					FH11	FD12		IV				FD13		
	V					FH11			V						
	VI					FD22			VI						
	VII					FD22			VII						
413/414	I	FH12						493	I						
	II	FH12							II						
	III					FH12			III	FD12					
	IV					FH12			IV	FD12					
	V								V						
	VI					TQ22			VI						
	VII					TQ22			VII						
415/416	I														
	II														
	III														
	IV														
	V														
	VI														
	VII														

国際ファッション専門職大学
卒業制作と兼用

【後期】

教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土				
383/384	I							431/432	I	FH13	TP13	FH13	TP13						
	II					FH12			II	FH13	TP13	FH13	TP13		FH13				
	III								III		FH13	FH13	FH13	TP14	FH13				
	IV								IV		FH13		FH13	TP14	FH13				
	V								V										
	VI								VI	FD/TQ22									
	VII								VII	FD/TQ22									
385	I					TP13		433/434	I	FH14	FH14		TP14		TP14				
	II					TP13			II	FH14	FH14		TP14		TP14				
	III								III	FH14		FH14		FH14	TP14				
	IV								IV	FH14		FH14		FH14	TP14				
	V								V										
	VI	TQ23							VI			FD/TQ23		FD/TQ23					
	VII								VII	TQ23		FD/TQ23		FD/TQ23					
386	I							435/436	I	FD14	TP14		FD14		FD14				
	II								II	FD14	TP14		FD14		FD14				
	III								III	FD14	TP13	TP14	FD14	TP13	TP13				
	IV								IV	FD14	TP13	TP14	FD14	TP13	TP13				
	V								V						TP13				
	VI	FD23							VI	FD/TQ24					FD/TQ24				
	VII	FD23							VII	FD/TQ24		TQ24			FD/TQ24				
391	I	FH11	FH11			FH11		474	I		FD13		FD13		FD13				
	II	FH11	FH11			FH11			II		FD13		FD13		FD13				
	III	FH11				FD14	FH11		III	FD13									
	IV					FD14	FH11		IV	FD13									
	V						FH11		V										
	VI			FD24					VI										
	VII			FD24					VII										
392	I	FD12					FD12	475	I										
	II	FD12					FD12		II										
	III		FD12	FD12		FD12			III			TP13							
	IV		FD12	FD12		FD12			IV			TP13							
	V								V										
	VI			TQ24					VI										
	VII								VII										
393	I	TQ12						482	I	FH12		FH12		FH13					
	II	TQ12				TQ12			II	FH12		FH12		FH13					
	III	TQ12	TQ12			TQ12	TQ12		III					FH12	FH12				
	IV	TQ12	TQ12			TQ12	TQ12		IV					FH12	FH12				
	V								V										
	VI								VI										
	VII								VII										
401/402	I	TP14			FH14		FH14	491/494	I										
	II	TP14			FH14		FH14		II										
	III	TP13	TP14	FD13	FH12	FD13	FD13		III				FD13						
	IV	TP13	TP14	FD13	FH12	FD13	FD13		IV				FD13						
	V								V										
	VI								VI										
	VII								VII										
411/412	I				TQ12			492	I				FD12						
	II				TQ12				II				FD12						
	III		FH11	FD14	FH11		FH14		III	FH13	FH12		TQ12	FH11					
	IV		FH11	FD14	FH11		FH14		IV	FH13	FH12		TQ12	FH11					
	V								V										
	VI					FD22			VI										
	VII					FD22			VII										
413/414	I		FD14		FH12			493	I										
	II		FD14		FH12				II										
	III				TQ12		FD12		III										
	IV						FD12		IV										
	V								V										
	VI					TQ22			VI										
	VII					TQ22			VII										
415/416	I	国際ファッション専門職大学 卒業制作と兼用							493	I									
	II												II						
	III												III						
	IV												IV						
	V												V						
	VI												VI						
	VII												VII						

【前期】

教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	
103	I				FH/FD/TP13	FH13	FH12	047	I							
	II				FH/FD/TP13	FH13	FH12		II	TP13						
	III	FD/TP13	FH/FD/TP13			FD/TP14	FH12		III							
	IV	FD/TP13				FD/TP14	FH12		IV							
	V								V							
	VI	FD/TQ23		FD/TQ24					VI							
	VII	FD23		FD24					VII	TQ23		TQ24				
071	I	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	034	I	TP13	FH14	FD/TQ13	FH11	FH11	FD/TP13	
	II	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12		II		FH14	FD/TQ13	FH11		FD/TP13	
	III	FH12				FD/TQ12	FD/TQ12		III		FH14	TP14		FD/TP13		
	IV	FH12				FD/TQ12	FD/TQ12		IV		FH14	TP14		FD/TP13		
	V			FH12	FD/TQ12				V							
	VI	FD/TQ22		FD/TQ22					VI			FD/TQ23		FD24		
	VII	FD/TQ22		FD/TQ22					VII	TQ24		FD/TQ23		FD24		
073	I							B011	I		FH13					
	II								II		FH13					
	III								III							
	IV								IV							
	V								V							
	VI								VI					FD23		
	VII								VII							
053	I	TP14	FD/TP14	FH13	FH14		FD/TP14	B012	I	FH11						
	II	TP14	FD/TP14	FH13	FH14		FD/TP14		II	FH11						
	III		FD/TP14		FD/TP14	FH13	FH14		III				FH11			
	IV		FD/TP14		FD/TP14	FH13	FH14		IV				FH11			
	V								V							
	VI					TQ24			VI							
	VII					TQ24			VII							
054	I	FD14		FD14	FD/TP14			B014	I		FD/TQ13					
	II	FD14		FD14	FD/TP14	FH11			II		FD/TQ13					
	III	FH13		FH14	FH14	FH11	FH13		III			FH12	FD/TQ12	FH12		
	IV	FH13		FH14	FH14	FH14	FH13		IV			FH12	FD/TQ12	FH12		
	V					FH14			V							
	VI					TQ23			VI	FD/TQ24				FD/TQ22		
	VII					TQ23			VII					FD/TQ22		
045	I		FH12					B015	I							
	II		FH12						II							
	III		FD/TQ12	FH13	FD13				III	国際ファッション専門職大学 卒業制作と兼用						
	IV		FD/TQ12	FH13	FD13		IV									
	V						V									
	VI								VI							
	VII								VII							
046	I	FH14	FH11			FD/TP13										
	II	FH14	FH11			FD/TP13										
	III		FH11				FH11									
	IV		FH11				FH11									
	V								FH11							
	VI															
	VII	FD24					FD23									

【後期】

教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	
103	I	FH14	FH11		FD/TP13	FD/TP13		047	I							
	II	FH14	FH11		FD/TP13	FH/FD/TP13	FH11		II	TP13						
	III		FH13			FH14	FH11		III							
	IV					FH14	FH11		IV							
	V						FH11		V							
	VI	FD/TQ23		FD/TQ24					VI							
	VII	FD23							VII						TQ23	
071	I	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FH/FD/TQ12	034	I	TP14	FH14	FD/TP13	FH14	TP14	FD/TP14	
	II	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FH/FD/TQ12		II	TP14	FH14	FD/TP13	FH14	TP14	FD/TP14	
	III	FH12	FD13			FD/TQ12	FH/FD/TP13		III	TP13	FH14		FD/TP14	FD/TP13	FH14	
	IV	FH12				FD/TQ12	FH/FD/TP13		IV	TP13	FH14		FD/TP14	FD/TP13	FH14	
	V			FH12	FD/TQ12				V	TP13						
	VI	FD/TQ22		FD/TQ22					VI			FD/TQ23		FD24		
	VII	FD/TQ22		FD/TQ22					VII	TQ23		FD/TQ23		FD24		
073	I					FH11		B011	I		FH13					
	II								II		FH13					
	III					FD14			III							
	IV					FD14			IV							
	V								V							
	VI								VI					FD/TQ23		
	VII								VII							
053	I		FD/TP14	FH13				B012	I	FH11						
	II		FD/TP14	FH13					II	FH11						
	III		FD/TP14			FH13			III				FH11			
	IV		FD/TP14			FH13			IV				FH11			
	V								V							
	VI					TQ24			VI							
	VII			TQ24		TQ24			VII							
054	I	TP13			FD/TP14	FH13		B014	I		FD/TP13					
	II				FD/TP14	FH11			II		FD/TP13					
	III	FD13		FH/FD/TP14	FH14	FH11			III			FH12	FD/TQ12			
	IV	FD13		FH/FD/TP14	FH14				IV			FH12	FD/TQ12			
	V								V							
	VI								VI	FD/TQ24				FD/TQ22		
	VII								VII	FD/TQ24				FD/TQ22		
045	I		FH12		FH11			B015	I							
	II		FH12		FH11				II							
	III		FD/TQ12	FH13	FD13				III		国際ファッション専門職大学 卒業制作と兼用					
	IV		FD/TQ12	FH13	FD13		IV									
	V						V									
	VI						VI									
	VII						VII									
046	I	FD14			FH13			046	I	FD14			FH13			
	II	FD14			FH13		FH/FD/TQ12		II	FD14			FH13		FH/FD/TQ12	
	III	FH13	FH11			FH12	FH/FD/TQ12		III	FH13	FH11			FH12		
	IV	FH13	FH11			FH12			IV	FH13	FH11			FH12		
	V								V							
	VI								VI							
	VII			FD24		FD23			VII				FD24		FD23	

学生自習時間割:ファッションクリエイション学科・ファッションビジネス学科 全学年【後期】

ファッションクリエイション学科 ファッションビジネス学科
 1年生自習室 2年生自習室 3年生自習室 4年生自習室
 専門学校使用
 全学年自習可能

時間	期	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土		
I	38F 共同 研究室										
	39F 396 40										
	44F 441 50										
	44F 442 50										
44F 443 44											
44F 444 40											
実習室											
II	38F 共同 研究室										
	42F 共同 研究室										
	39F 396 40										
	44F 441 50										
44F 442 50											
44F 443 44											
44F 444 40											
実習室											
III	38F 共同 研究室										
	42F 共同 研究室										
	39F 396 40										
	44F 441 50										
44F 442 50											
44F 443 44											
44F 444 40											
実習室											
IV	38F 共同 研究室										
	42F 共同 研究室										
	39F 396 40										
	44F 441 50										
44F 442 50											
44F 443 44											
44F 444 40											
実習室											
V	38F 共同 研究室										
	42F 共同 研究室										
	39F 396 40										
	44F 441 50										
44F 442 50											
44F 443 44											
44F 444 40											
実習室											
VI	38F 共同 研究室										
	42F 共同 研究室										
	39F 396 40										
	44F 441 50										
44F 442 50											
44F 443 44											
44F 444 40											
実習室											
VII	38F 共同 研究室										
	42F 共同 研究室										
	39F 396 40										
	44F 441 50										
44F 442 50											
44F 443 44											
44F 444 40											
実習室											

専門学校使用
 全学年自習可能

1年生自習室

時間帯	階	教室NO	席数	月		火		水		木		金		土					
I	38F	研究室																	
		共同研究室																	
	42F	共同																	
	39F	396	40			専門学校													
	44F	441	50	造形論入門	1A	必修	比較文化論	1A	必修			ファッションビジネス概論	1	ファッション論基礎ゼミ	1	会計入門	1前		
		442	50								メディア概論	1B	必修						
		443	44											身体とパフォーマンス	1				
		444	40								ファッションデザイン実習 I	1A	必修						
	実習室	401	44																
		402	56																
415		30																	
473		50								FC学生自習	1A		FC学生自習	1B					
II	38F	研究室																	
		共同研究室																	
	42F	共同																	
	39F	396	40			専門学校													
	44F	441	50	情報リテラシー	1A	必修	ファッションデザイン論	1A	必修			メディア概論	1A	必修	職人の世界	1	色彩論入門	1A	必修
		442	50				情報リテラシー	1B	必修			ファッションデザイン論	1B	必修					
		443	44											造形論入門	1A	必修			
		444	40								ファッションデザイン実習 I	1B	必修						
	実習室	401	44																
		402	56																
415		30																	
473		50								FC学生自習	1A		FC学生自習	1B					
III	38F	研究室																	
		共同研究室																	
	42F	共同																	
	39F	396	40			専門学校						写真概論	1B	必修					
	44F	441	50	ファッションデザインプランニング実習 I	1B	必修													
		442	50				比較文化論	1B	必修										
		443	44	生活科学入門	1A	必修					装いと社会性・ジェンダー	1							
		444	40								ファッションデザイン実習 I	1B	必修	ファッションデザインプランニング実習 I	1A	必修			
	実習室	401	44																
		402	56	全学年自習															
415		30	全学年自習																
473		50								FC学生自習	1A		FC学生自習	1B					
IV	38F	研究室																	
		共同研究室																	
	42F	共同																	
	39F	396	40			専門学校						写真概論	1B	必修					
	44F	441	50	ファッションデザインプランニング実習 I	1B	必修								色彩論入門	1B	必修			
		442	50																
		443	44	英語 I	1A	必修													
		444	40								ファッションデザイン実習 I	1B	必修	ファッションデザインプランニング実習 I	1A	必修			
	実習室	401	44																
		402	56	全学年自習															
415		30	全学年自習																
473		50								FC学生自習	1A		FC学生自習	1B					
V	38F	研究室																	
		共同研究室																	
	42F	共同																	
	39F	396	40			専門学校													
	44F	441	50				生活科学入門	1B	必修										
		442	50																
		443	44	英語 I	1B	必修					文化論基礎ゼミ	1							
		444	40																
	実習室	401	44																
		402	56																
415		30																	
473		50	全学年自習							FC学生自習	1A		FC学生自習	1B	全学年自習				
VI	38F	研究室																	
		共同研究室																	
	42F	共同																	
	39F	396	40			専門学校													
	44F	441	50																
		442	50																
		443	44																
		444	40																
	実習室	401	44																
		402	56	FC学生自習	1		FC学生自習	1		FC学生自習	1				FC学生自習	1			
415		30	FC学生自習	1		FC学生自習	1		FC学生自習	1				FC学生自習	1				
473		50																	
VII	38F	研究室																	
		共同研究室																	
	42F	共同																	
	39F	396	40			専門学校													
	44F	441	50																
		442	50																
		443	44																
		444	40																
	実習室	401	44																
		402	56	FC学生自習	1		FC学生自習	1		FC学生自習	1				FC学生自習	1			
415		30	FC学生自習	1		FC学生自習	1		FC学生自習	1				FC学生自習	1				
473		50																	

専門学校使用
 全学年自習可能

1年生自習室

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土	
I	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50						自然資源と服装文化 1	
		442	50		フィールドワーク入門 1A	必修				産業論入門 1
		443	44							
		444	40		ファッションデザイン実習 I 1B	必修	ファッションデザイン実習 I 1A	必修	テキスタイル基礎 1A	必修
	実習室	401	44							
		402	56							
415		30								
473		50				FC学生自習 1B		FC学生自習 1A		
II	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校		映像概論 1A	必修	映像概論 1B	必修
	44F	441	50	フィールドワーク入門 1B	必修					法学入門 1
		442	50							
		443	44	キャリアデザイン論 1						
		444	40		ファッションデザイン実習 I 1B	必修	ファッションデザイン実習 I 1A	必修	テキスタイル基礎 1B	必修
	実習室	401	44							
		402	56							
415		30								
473		50				FC学生自習 1B		FC学生自習 1A		
III	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50					現代文化論 1		
		442	50		日本語文章表現 1A	必修				
		443	44	英語 I 1B	必修					
		444	40				ファッションデザインプランニング実習 I 1A	必修	ファッションデザインプランニング実習 I 1B	必修
	実習室	401	44							
		402	56	全学年自習						
415		30	全学年自習							
473		50				FC学生自習 1B		FC学生自習 1A		
IV	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50							
		442	50		日本語文章表現 1B	必修				
		443	44	英語 I 1A	必修					
		444	40				ファッションデザインプランニング実習 I 1A	必修	ファッションデザインプランニング実習 I 1B	必修
	実習室	401	44							
		402	56	全学年自習						
415		30	全学年自習							
473		50				FC学生自習 1B		FC学生自習 1A		
V	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50							
		442	50							
		443	44						国際ファッション市場論 1	
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56							
415		30								
473		50	全学年自習			FC学生自習 1B		FC学生自習 1A	全学年自習	
VI	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50							
		442	50							
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56	FC学生自習 1		FC学生自習 1		FC学生自習 1		FC学生自習 1
415		30	FC学生自習 1		FC学生自習 1		FC学生自習 1		FC学生自習 1	
473		50								
VII	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50							
		442	50							
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56	FC学生自習 1		FC学生自習 1		FC学生自習 1		FC学生自習 1
415		30	FC学生自習 1		FC学生自習 1		FC学生自習 1		FC学生自習 1	
473		50								

専門学校使用 
 全学年自習可能 

2年生自習室 

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土		
I	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校			写実実習	2		
	44F	441	50				美とファッションの歴史	2A	必修		
		442	50								
		443	44								
		444	40	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	2A	必修	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	2B	必修	ファッションデザイン実習Ⅱ	2B
	実習室	401	44								
		402	56							FC学生自習	2
415		30							FC学生自習	2	
473		50	FC学生自習	2B	FC学生自習	2A	FC学生自習	2A			
II	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校			写実実習	2		
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	2A	必修	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	2B	必修	ファッションデザイン実習Ⅱ	2B
	実習室	401	44								
		402	56							FC学生自習	2
415		30							FC学生自習	2	
473		50	FC学生自習	2B	FC学生自習	2A	FC学生自習	2A			
III	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50				美とファッションの歴史	2B	必修	環境と社会	2
		442	50								
		443	44			英語Ⅱ	2A	必修			
		444	40	ファッションデザイン実習Ⅱ	2A	必修	国際ファッション業界英語	2B	必修		
	実習室	401	44								
		402	56	全学年自習					FC学生自習	2	FC学生自習
415		30	全学年自習					FC学生自習	2	FC学生自習	2
473		50	FC学生自習	2B	FC学生自習	2B	FC学生自習	2A			
IV	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50			デジタルアーカイブ論	2	産業とメディアデザイン	2		
		442	50	日本の衣生活・服装史入門	2B	必修					
		443	44								
		444	40	ファッションデザイン実習Ⅱ	2A	必修	国際ファッション業界英語	2A	必修		
	実習室	401	44								
		402	56	全学年自習					FC学生自習	2	FC学生自習
415		30	全学年自習					FC学生自習	2	FC学生自習	2
473		50	FC学生自習	2B	FC学生自習	2B	FC学生自習	2A			
V	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50	日本の衣生活・服装史入門	2A	必修					
		442	50								
		443	44								
		444	40			英語Ⅱ	2B	必修		デザイン感性工学	2
	実習室	401	44								
		402	56						FC学生自習	2	FC学生自習
415		30						FC学生自習	2	FC学生自習	2
473		50	FC学生自習	2B	全学年自習		FC学生自習	2A		全学年自習	
VI	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40								
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56						FC学生自習	2	FC学生自習
415		30						FC学生自習	2	FC学生自習	2
473		50									
VII	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40								
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56						FC学生自習	2	FC学生自習
415		30						FC学生自習	2	FC学生自習	2
473		50									

専門学校使用
 全学年自習可能

2年生自習室

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土			
I	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40		専門学校							
	44F	441	50		地域産業論	2A	必修			ブランドの歴史と文化 2		
		442	50						ヨーロッパの社会と文化 2			
		443	44				英語Ⅱ	2A	必修			
		444	40		ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	2A	必修					
	実習室	401	44									
		402	56							FC学生自習 2		
415		30							FC学生自習 2			
473		50		FC学生自習	2B			FC学生自習	2A			
II	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40		専門学校							
	44F	441	50						知財論 2			
		442	50		国際ファッション業界英語	2B	必修	フランス語	2			
		443	44				英語Ⅱ	2B	必修	美容とファッション 2		
		444	40		ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	2A	必修		シューズデザイン	2		
	実習室	401	44									
		402	56							FC学生自習 2		
415		30							FC学生自習 2			
473		50		FC学生自習	2B			FC学生自習	2A			
III	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40		専門学校							
	44F	441	50									
		442	50					地域産業論	2B	必修	サブカルチャー 2	
		443	44									
		444	40		パターンメイキング	2	ファッションデザイン実習Ⅱ	2B	必修	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	2B	必修
	実習室	401	44									
		402	56		全学年自習				FC学生自習	2	FC学生自習 2	
415		30		全学年自習				FC学生自習	2	FC学生自習 2		
473		50		FC学生自習	2B			FC学生自習	2A			
IV	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40		専門学校				映像実習 2			
	44F	441	50									
		442	50									
		443	44			中国語	2					
		444	40		ファッションデザイン実習Ⅱ	2A	必修	ファッションデザイン実習Ⅱ	2B	必修	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	2B
	実習室	401	44									
		402	56		全学年自習				FC学生自習	2	FC学生自習 2	
415		30		全学年自習				FC学生自習	2	FC学生自習 2		
473		50		FC学生自習	2B			FC学生自習	2A			
V	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40		専門学校				映像実習 2			
	44F	441	50		地域論入門	2		社会科学基礎ゼミ	2			
		442	50						バッグデザイン	2		
		443	44				国際ファッション業界英語	2A	必修			
		444	40		ファッションデザイン実習Ⅱ	2A	必修					
	実習室	401	44									
		402	56						FC学生自習	2	FC学生自習 2	
415		30						FC学生自習	2	FC学生自習 2		
473		50		FC学生自習	2B	全学年自習		FC学生自習	2A	全学年自習		
VI	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40		専門学校							
	44F	441	50									
		442	50									
		443	44									
		444	40									
	実習室	401	44									
		402	56						FC学生自習	2	FC学生自習 2	
415		30						FC学生自習	2	FC学生自習 2		
473		50										
VII	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40		専門学校							
	44F	441	50									
		442	50									
		443	44									
		444	40									
	実習室	401	44									
		402	56						FC学生自習	2	FC学生自習 2	
415		30						FC学生自習	2	FC学生自習 2		
473		50										

専門学校使用
 全学年自習可能

3年生自習室

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土		
I	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56	FC学生自習	3			FC学生自習	3		
		415	30	FC学生自習	3			FC学生自習	3		
		473	50						FC学生自習	3	
II	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50								
		442	50						国際知財論	3	
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56	FC学生自習	3			FC学生自習	3		
		415	30	FC学生自習	3			FC学生自習	3		
		473	50							FC学生自習	3
III	38F	研究室	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修	
		共同研究室	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	42F	共同	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	39F	396	40	国際連携ゼミ	3	必修	専門学校		地域・地方連携ゼミ	3	必修
	44F	441	50			消費者行動論	3A	必修			
		442	50						消費者行動論	3B	必修
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56	全学年自習							
		415	30	全学年自習							
		473	50							FC学生自習	3
IV	38F	研究室	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修	
		共同研究室	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	42F	共同	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	39F	396	40	国際連携ゼミ	3	必修	専門学校		地域・地方連携ゼミ	3	必修
	44F	441	50						マーケティング論	3A	必修
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56	全学年自習							
		415	30	全学年自習							
		473	50							FC学生自習	3
V	38F	研究室						地域・地方連携ゼミ	3	必修	
		共同研究室						地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	42F	共同						地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	39F	396	40		専門学校			地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	44F	441	50			マーケティング論	3B	必修			
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56	FC学生自習	3						
		415	30	FC学生自習	3						
		473	50			全学年自習				全学年自習	
VI	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40								
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56								
		415	30								
		473	50			FC学生自習	3	FC学生自習	3	FC学生自習	3
VII	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40								
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56								
		415	30								
		473	50			FC学生自習	3	FC学生自習	3	FC学生自習	3

専門学校使用
 全学年自習可能

3年生自習室

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土	
I	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50							
		442	50	広告・PR論	3					
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56	FC学生自習	3			FC学生自習	3	
415		30	FC学生自習	3			FC学生自習	3		
473		50			FC学生自習	3		FC学生自習	3	
II	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50			環境とビジネス	3A			
		442	50							
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56	FC学生自習	3			FC学生自習	3	
415		30	FC学生自習	3			FC学生自習	3		
473		50			FC学生自習	3		FC学生自習	3	
III	38F	研究室	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修
		共同研究室	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修
	42F	共同	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50							
		442	50							
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56	全学年自習						
415		30	全学年自習							
473		50			FC学生自習	3		FC学生自習	3	
IV	38F	研究室	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修
		共同研究室	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修
	42F	共同	国際連携ゼミ	3	必修			地域・地方連携ゼミ	3	必修
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50							
		442	50							
		443	44			環境とビジネス	3B	必修		
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56	全学年自習						
415		30	全学年自習							
473		50			FC学生自習	3		FC学生自習	3	
V	38F	研究室						地域・地方連携ゼミ	3	必修
		共同研究室						地域・地方連携ゼミ	3	必修
	42F	共同						地域・地方連携ゼミ	3	必修
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50							
		442	50							
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56	FC学生自習	3					
415		30	FC学生自習	3						
473		50			全学年自習			全学年自習		
VI	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40							
	44F	441	50							
		442	50							
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56							
415		30								
473		50			FC学生自習	3	FC学生自習	3	FC学生自習	3
VII	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40							
	44F	441	50							
		442	50							
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44							
		402	56							
415		30								
473		50			FC学生自習	3	FC学生自習	3	FC学生自習	3

専門学校使用



4年生自習室



全学年自習可能



時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土				
I	38F	研究室											
		共同研究室											
	42F	共同											
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
415		30		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4				
473		50											
II	38F	研究室											
		共同研究室											
	42F	共同											
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44	国際展示会演習	4								
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
415		30		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4				
473		50											
III	38F	研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミ I	4	必修
		共同研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミ I	4	必修
	42F	共同			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミ I	4	必修
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44						統合指導ゼミ I	4	必修		
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56	全学年自習		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4		
415		30	全学年自習		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
473		50											
IV	38F	研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミ I	4	必修
		共同研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミ I	4	必修
	42F	共同			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミ I	4	必修
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44						統合指導ゼミ I	4	必修		
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56	全学年自習		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4		
415		30	全学年自習		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
473		50											
V	38F	研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミ I	4	必修
		共同研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミ I	4	必修
	42F	共同			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミ I	4	必修
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44						統合指導ゼミ I	4	必修		
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56			FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4		
415		30			FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
473		50			全学年自習						全学年自習		
VI	38F	研究室											
		共同研究室											
	42F	共同											
	39F	396	40										
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56										
415		30											
473		50	FC学生自習	4				FC学生自習	4		FC学生自習	4	
VII	38F	研究室											
		共同研究室											
	42F	共同											
	39F	396	40										
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56										
415		30											
473		50	FC学生自習	4				FC学生自習	4		FC学生自習	4	

専門学校使用



4年生自習室



全学年自習可能



時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土				
I	38F	研究室											
		共同研究室											
	42F	共同											
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
		415	30		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
		473	50										
II	38F	研究室											
		共同研究室											
	42F	共同											
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
		415	30		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
		473	50										
III	38F	研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミⅡ	4	必修
		共同研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミⅡ	4	必修
	42F	共同			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミⅡ	4	必修
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56	全学年自習		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4		
		415	30	全学年自習		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4		
		473	50										
IV	38F	研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミⅡ	4	必修
		共同研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミⅡ	4	必修
	42F	共同			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミⅡ	4	必修
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56	全学年自習		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4		
		415	30	全学年自習		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4		
		473	50										
V	38F	研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミⅡ	4	必修
		共同研究室			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミⅡ	4	必修
	42F	共同			卒業制作・計画	4	必修	卒業制作・計画	4	必修	統合指導ゼミⅡ	4	必修
	39F	396	40		専門学校								
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
		415	30		FC学生自習	4	FC学生自習	4	FC学生自習	4			
		473	50		全学年自習					全学年自習			
VI	38F	研究室											
		共同研究室											
	42F	共同											
	39F	396	40										
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56										
		415	30										
		473	50	FC学生自習	4			FC学生自習	4	FC学生自習	4		
VII	38F	研究室											
		共同研究室											
	42F	共同											
	39F	396	40										
	44F	441	50										
		442	50										
		443	44										
		444	40										
	実習室	401	44										
		402	56										
		415	30										
		473	50	FC学生自習	4			FC学生自習	4	FC学生自習	4		

専門学校使用
 全学年自習可能

1年生自習室

時間帯	階	教室NO	席数	月		火		水		木		金		土			
I	38F	研究室															
		共同研究室															
	42F	共同															
	39F	396	40			専門学校											
	44F	441	50									ファッション論基礎ゼミ	1	会計入門	1		
		442	50														
		443	44	生活科学入門	1	必修	情報リテラシー	1	必修	比較文化論	1	必修	身体とパフォーマンス	1			
		444	40														
	実習室	401	44														
		402	56														
415		30															
473		50															
II	38F	研究室															
		共同研究室															
	42F	共同															
	39F	396	40			専門学校											
	44F	441	50									職人の世界	1				
		442	50					ファッションデザイン論	1								
		443	44							ファッションビジネス概論	1	必修					
		444	40														
	実習室	401	44														
		402	56														
415		30															
473		50															
III	38F	研究室															
		共同研究室															
	42F	共同															
	39F	396	40			専門学校				写真概論	1	必修					
	44F	441	50							メディア概論	1	必修			色彩論入門	1	必修
		442	50	英語 I	1	必修							ファッションビジネス実習 I	1	必修		
		443	44					装いと社会性・ジェンダー	1								
		444	40														
	実習室	401	44														
		402	56														
415		30															
473		50															
IV	38F	研究室															
		共同研究室															
	42F	共同															
	39F	396	40			専門学校											
	44F	441	50														
		442	50			リテール企画実習 I	1	必修					ファッションビジネス実習 I	1	必修		
		443	44					造形論入門	1	必修							
		444	40														
	実習室	401	44									FB学生自習	1		FB学生自習	1	
		402	56														
415		30															
473		50															
V	38F	研究室															
		共同研究室															
	42F	共同															
	39F	396	40			専門学校											
	44F	441	50														
		442	50			リテール企画実習 I	1	必修									
		443	44					文化論基礎ゼミ	1								
		444	40									デザイン概論	1				
	実習室	401	44											FB学生自習	1		
		402	56														
415		30															
473		50															
VI	38F	研究室															
		共同研究室															
	42F	共同															
	39F	396	40														
	44F	441	50	FB学生自習	1		FB学生自習	1		FB学生自習	1		FB学生自習	1		FB学生自習	1
		442	50														
		443	44														
		444	40														
	実習室	401	44			FB学生自習	1		FB学生自習	1			FB学生自習	1		FB学生自習	1
		402	56														
415		30															
473		50															
VII	38F	研究室															
		共同研究室															
	42F	共同															
	39F	396	40														
	44F	441	50	FB学生自習	1		FB学生自習	1		FB学生自習	1		FB学生自習	1		FB学生自習	1
		442	50														
		443	44														
		444	40														
	実習室	401	44			FB学生自習	1		FB学生自習	1			FB学生自習	1		FB学生自習	1
		402	56														
415		30															
473		50															

専門学校使用
 全学年自習可能

1年生自習室

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土
I	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40		専門学校			映像概論 1 必修	
	44F	441	50			フィールドワーク入門 1 必修		自然資源と服装文化 1	
		442	50						産業論入門 1
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44						
		402	56						
415		30							
473		50							
II	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50					日本語文章表現 1 必修	法学入門 1
		442	50						
		443	44	キャリアデザイン論 1	テキスタイル基礎 1 必修				
		444	40						
	実習室	401	44					FB学生自習 1	
		402	56						
415		30							
473		50							
III	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50					現代文化論 1	
		442	50	ファッションビジネス実習 I 1 必修					
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44						
		402	56						
415		30							
473		50							
IV	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50			リテール企画実習 I 1 必修			
		442	50	ファッションビジネス実習 I 1 必修					
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44					FB学生自習 1	FB学生自習 1
		402	56						
415		30							
473		50							
V	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50			リテール企画実習 I 1 必修			
		442	50	英語 I 1 必修					
		443	44					国際ファッション市場論 1	
		444	40						
	実習室	401	44						FB学生自習 1
		402	56						
415		30							
473		50							
VI	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40						
	44F	441	50	FB学生自習 1	FB学生自習 1	FB学生自習 1	FB学生自習 1	FB学生自習 1	FB学生自習 1
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44		FB学生自習 1	FB学生自習 1		FB学生自習 1	FB学生自習 1
		402	56						
415		30							
473		50							
VII	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40						
	44F	441	50	FB学生自習 1	FB学生自習 1	FB学生自習 1	FB学生自習 1	FB学生自習 1	FB学生自習 1
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44		FB学生自習 1	FB学生自習 1		FB学生自習 1	FB学生自習 1
		402	56						
415		30							
473		50							

専門学校使用 
 全学年自習可能 

2年生自習室 

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土	
I	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校			写真实習 2		
	44F	441	50							
		442	50							
		443	44				日本の衣生活・服装史入門 2	必修		
		444	40							
	実習室	401	44	FB学生自習 2						FB学生自習 2
		402	56							
415		30								
473		50								
II	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校			写真实習 2		
	44F	441	50				美とファッションの歴史 2	必修		
		442	50							
		443	44			国際ファッション業界英語 2	必修			
		444	40							
	実習室	401	44	FB学生自習 2						FB学生自習 2
		402	56							
415		30								
473		50								
III	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50						環境と社会 2	
		442	50				ファッションビジネス実習Ⅱ 2	必修		
		443	44					リテール企画実習Ⅱ 2	必修	
		444	40							
	実習室	401	44	FB学生自習 2						FB学生自習 2
		402	56							
415		30								
473		50								
IV	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50		デジタルアーカイブ論 2		産業とメディアデザイン 2			
		442	50				ファッションビジネス実習Ⅱ 2	必修		
		443	44					リテール企画実習Ⅱ 2	必修	
		444	40							
	実習室	401	44	FB学生自習 2						
		402	56							
415		30								
473		50								
V	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40		専門学校					
	44F	441	50						国際ビジネスモデル特講Ⅰ 2	
		442	50							
		443	44							
		444	40				英語Ⅱ 2	必修		デザイン感性工学 2
	実習室	401	44	FB学生自習 2						
		402	56							
415		30								
473		50								
VI	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40							
	44F	441	50							
		442	50	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44	FB学生自習 2				FB学生自習 2		
		402	56							
415		30								
473		50								
VII	38F	研究室								
		共同研究室								
	42F	共同								
	39F	396	40							
	44F	441	50							
		442	50	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2	FB学生自習 2
		443	44							
		444	40							
	実習室	401	44	FB学生自習 2				FB学生自習 2		
		402	56							
415		30								
473		50								

専門学校使用
 全学年自習可能

2年生自習室

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土		
I	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50						ブランドの歴史と文化	2	
		442	50					ヨーロッパの社会と文化	2		
		443	44	地域産業論	2	必修		デザイン感性工学	2		
		444	40								
	実習室	401	44	FB学生自習	2					FB学生自習	2
		402	56								
415		30									
473		50									
II	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50					知財論	2		
		442	50			フランス語	2				
		443	44						美容とファッション	2	
		444	40								
	実習室	401	44	FB学生自習	2					FB学生自習	2
		402	56								
415		30									
473		50									
III	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50								
		442	50				リテール企画実習II	2	必修		
		443	44			国際ファッション業界英語	2	必修		国際ビジネスモデル特講II	2
		444	40	パターンメイキング	2						
	実習室	401	44	FB学生自習	2					FB学生自習	2
		402	56								
415		30									
473		50									
IV	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校			映像実習	2		
	44F	441	50					ファッションビジネス実習II	2	必修	
		442	50				リテール企画実習II	2	必修		
		443	44		中国語	2					
		444	40								
	実習室	401	44	FB学生自習	2						
		402	56								
415		30									
473		50									
V	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校			映像実習	2		
	44F	441	50	地域論入門	2		社会科学基礎ゼミ	2	ファッションビジネス実習II	2	必修
		442	50			英語II	2	必修			
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44	FB学生自習	2						
		402	56								
415		30									
473		50									
VI	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40								
	44F	441	50								
		442	50	FB学生自習	2	FB学生自習	2	FB学生自習	2	FB学生自習	2
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44	FB学生自習	2			FB学生自習	2		
		402	56								
415		30									
473		50									
VII	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40								
	44F	441	50								
		442	50	FB学生自習	2	FB学生自習	2	FB学生自習	2	FB学生自習	2
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44	FB学生自習	2			FB学生自習	2		
		402	56								
415		30									
473		50									

専門学校使用
 全学年自習可能

3年生自習室

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土			
I	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40		専門学校							
	44F	441	50									
		442	50	創造産業論	3							
		443	44									
		444	40									
	実習室	401	44					FB学生自習	3			
		402	56									
415		30										
473		50										
II	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40		専門学校							
	44F	441	50									
		442	50						国際知財論	3		
		443	44									
		444	40									
	実習室	401	44									
		402	56									
415		30										
473		50										
III	38F	研究室		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修		
		共同研究室		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修		
	42F	共同		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修		
	39F	396	40		国際連携ゼミ	3	必修	専門学校		地域・地方連携ゼミ	3	必修
	44F	441	50									
		442	50									
		443	44									
		444	40									
	実習室	401	44						FB学生自習	3		
		402	56									
415		30										
473		50										
IV	38F	研究室		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修		
		共同研究室		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修		
	42F	共同		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修		
	39F	396	40		国際連携ゼミ	3	必修	専門学校		地域・地方連携ゼミ	3	必修
	44F	441	50									
		442	50									
		443	44									
		444	40									
	実習室	401	44									
		402	56									
415		30										
473		50										
V	38F	研究室						地域・地方連携ゼミ	3	必修		
		共同研究室						地域・地方連携ゼミ	3	必修		
	42F	共同						地域・地方連携ゼミ	3	必修		
	39F	396	40					専門学校		地域・地方連携ゼミ	3	必修
	44F	441	50									
		442	50									
		443	44									
		444	40									
	実習室	401	44									
		402	56									
415		30										
473		50										
VI	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40									
	44F	441	50									
		442	50									
		443	44	FB学生自習	3	FB学生自習	3	FB学生自習	3	FB学生自習	3	
		444	40									
	実習室	401	44									
		402	56									
415		30										
473		50										
VII	38F	研究室										
		共同研究室										
	42F	共同										
	39F	396	40									
	44F	441	50									
		442	50									
		443	44	FB学生自習	3	FB学生自習	3	FB学生自習	3	FB学生自習	3	
		444	40									
	実習室	401	44									
		402	56									
415		30										
473		50										

専門学校使用 
 全学年自習可能 

3年生自習室 

時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土		
I	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50								
		442	50	広告・PR論	3		環境とビジネス	3	必修		
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44					FB学生自習	3		
		402	56								
415		30									
473		50									
II	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56								
415		30									
473		50									
III	38F	研究室		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修	
		共同研究室		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	42F	共同		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44					FB学生自習	3		
		402	56								
415		30									
473		50									
IV	38F	研究室		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修	
		共同研究室		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	42F	共同		国際連携ゼミ	3	必修		地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56								
415		30									
473		50									
V	38F	研究室						地域・地方連携ゼミ	3	必修	
		共同研究室						地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	42F	共同						地域・地方連携ゼミ	3	必修	
	39F	396	40		専門学校						
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44								
		444	40								
	実習室	401	44					FB学生自習	3		
		402	56								
415		30									
473		50									
VI	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40								
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44	FB学生自習	3	FB学生自習	3	FB学生自習	3	FB学生自習	3
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56								
415		30									
473		50									
VII	38F	研究室									
		共同研究室									
	42F	共同									
	39F	396	40								
	44F	441	50								
		442	50								
		443	44	FB学生自習	3	FB学生自習	3	FB学生自習	3	FB学生自習	3
		444	40								
	実習室	401	44								
		402	56								
415		30									
473		50									

専門学校使用



4年生自習室



全学年自習可能



時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土
I	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
II	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
III	38F	研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミ I 4 必修	
		共同研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミ I 4 必修	
	42F	共同			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミ I 4 必修	
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44					統合指導ゼミ I 4 必修	
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
IV	38F	研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミ I 4 必修	
		共同研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミ I 4 必修	
	42F	共同			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミ I 4 必修	
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44					統合指導ゼミ I 4 必修	
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
V	38F	研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミ I 4 必修	
		共同研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミ I 4 必修	
	42F	共同			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミ I 4 必修	
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
VI	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40						
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40		FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4
	実習室	401	44						
		402	56						
415		30							
473		50							
VII	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40						
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40		FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4
	実習室	401	44						
		402	56						
415		30							
473		50							

専門学校使用



4年生自習室



全学年自習可能



時間帯	階	教室NO	席数	月	火	水	木	金	土
I	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
II	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
III	38F	研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミⅡ 4 必修	
		共同研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミⅡ 4 必修	
	42F	共同		卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミⅡ 4 必修		
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
IV	38F	研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミⅡ 4 必修	
		共同研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミⅡ 4 必修	
	42F	共同		卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミⅡ 4 必修		
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
V	38F	研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミⅡ 4 必修	
		共同研究室			卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミⅡ 4 必修	
	42F	共同		卒業制作・計画 4 必修	卒業制作・計画 4 必修		統合指導ゼミⅡ 4 必修		
	39F	396	40		専門学校				
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40						
	実習室	401	44			FB学生自習 4	FB学生自習 4		FB学生自習 4
		402	56						
415		30							
473		50							
VI	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40						
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40		FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4
	実習室	401	44						
		402	56						
415		30							
473		50							
VII	38F	研究室							
		共同研究室							
	42F	共同							
	39F	396	40						
	44F	441	50						
		442	50						
		443	44						
		444	40		FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4	FB学生自習 4
	実習室	401	44						
		402	56						
415		30							
473		50							

学生自習時間割: 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 全学年【前期】

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081 マーケティング論 3前 必修	081 創造産業論 3前	081	081	081	
		082 ファッションデザイン実習Ⅰ 1通 必修	082 比較文化論 1前 必修	082 ファッションデザイン論 1前 必修	082 ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 必修	082 会計入門 1前	082 色彩論入門 1前 必修
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062 デジタルテクノロジー/ローラー演習 2前	062 ファッションデザイン実習Ⅱ 2通 必修	062 日本の衣食生活・服装史入門 2前 必修	062 美とファッションの歴史 2前 必修	062	062 英語Ⅱ 2通 必修
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 4	035 学生自習 3
	B015 学生自習 3	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015 学生自習 3	B015 学生自習 2	B015 学生自習 1	
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081 消費者行動論 3前 必修	081	081	081	081 国際知財論 3前	081
		082 ファッションデザイン実習Ⅰ 1通 必修	082 メディア概論 1前 必修	082 生活科学入門 1前 必修	082 ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 必修	082 身体とパフォーマンス 1前	082 英語Ⅰ 1通 必修
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062 産業とメディアデザイン 2前	062 ファッションデザイン実習Ⅱ 2通 必修	062 環境と社会 2前	062 国際ファッションモデル特講Ⅰ 2前	062	062
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 4	035 学生自習 3
	B015 学生自習 3	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015 学生自習 3	B015 学生自習 2	B015 学生自習 1	
III	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082 造形論入門 1前 必修	082 デザイン概論 1前	082 職人の世界 1前	082 ファッションビジネス概論 1前	082 文化論基礎ゼミ 1前	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062 ファッションビジネス実習Ⅱ 2通 必修	062	062 国際ファッション実務英語 2通 必修	062	062	062
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 4	035 学生自習 3
	B015 学生自習 3	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015 学生自習 3	B015 学生自習 2	B015 学生自習 1	
IV	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082 ファッション論基礎ゼミ 1前	082 情報リテラシー 1前 必修	082 若いと社会性・ジェンダー 1前	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062 ファッションビジネス実習Ⅱ 2通 必修	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 4	035 学生自習 3
	B015 学生自習 3	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015 学生自習 3	B015 学生自習 2	B015 学生自習 1	
V	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 4	035 学生自習 3
	B015 学生自習 3	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015 学生自習 3	B015 学生自習 2	B015 学生自習 1	
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 2	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 1	035 学生自習 3	035 学生自習 4
	B015 学生自習 4	B015 学生自習 3	B015 学生自習 3	B015 学生自習 4	B015 学生自習 1	B015 学生自習 2	
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 2	035 学生自習 1	035 学生自習 2	035 学生自習 1	035 学生自習 3	035 学生自習 4
	B015 学生自習 4	B015 学生自習 3	B015 学生自習 3	B015 学生自習 4	B015 学生自習 1	B015 学生自習 2	

学生自習時間割: 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 全学年【後期】

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035	035	035	035
	B015	B015	B015	B015	B015	
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035	035	035	035
	B015	B015	B015	B015	B015	
III	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035	035	035	035
	B015	B015	B015	B015	B015	
IV	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035	035	035	035
	B015	B015	B015	B015	B015	
V	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035	035	035	035
	B015	B015	B015	B015	B015	
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035	035	035	035
	B015	B015	B015	B015	B015	
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035	035	035	035
	B015	B015	B015	B015	B015	

学生自習時間割: 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 1学年【前期】

	月	火	水	木	金	土	
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ファッションデザイン実習Ⅰ 1通 必修	比較文化論 1前 必修	ファッションデザイン論 1前 必修	ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 必修	会計入門 1前	082 色彩論入門 1前 必修
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	学生自習 1	035	学生自習 1	035	035	
	B015		B015		B015	B015 学生自習 1	
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ファッションデザイン実習Ⅰ 1通 必修	メディア概論 1前 必修	生活科学入門 1前 必修	ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 必修	身体とパフォーマンス 1前	082 英語Ⅰ 1通 必修
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	学生自習 1	035	学生自習 1	035	035	
	B015		B015		B015	B015 学生自習 1	
III	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		造形論入門 1前 必修	デザイン概論 1前	職人の世界 1前	ファッションビジネス概論 1前	文化論基礎ゼミ 1前	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	学生自習 1	035	学生自習 1	035	035	
	B015		B015		B015	B015 学生自習 1	
IV	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ファッション論基礎ゼミ 1前		情報リテラシー 1前 必修	082 若いと社会性・ジェンダー 1前	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	学生自習 1	035	学生自習 1	035	035	
	B015		B015		B015	B015 学生自習 1	
V	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035	学生自習 1	035	学生自習 1	035	035
B015			B015		B015	B015 学生自習 1	
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035		035 学生自習 1	035	035 学生自習 1	035
B015			B015		B015 学生自習 1	B015	
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035		035 学生自習 1	035	035 学生自習 1	035
B015			B015		B015 学生自習 1	B015	

学生自習時間割: 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 1学年【後期】

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082 ファッションデザイン実習Ⅰ 1通 必修	082 フィールドワーク入門 1後 必修	082	082 ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 必修	082 自然資源と服装文化 1後	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035	035 学生自習 1	035	035	
B015		B015	B015	B015	B015 学生自習 1		
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082 ファッションデザイン実習Ⅰ 1通 必修	082 日本語文章表現 1後 必修	082 産業論入門 1後	082 ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 必修	082 法学入門 1後	082 英語Ⅰ 1通 必修
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035	035 学生自習 1	035	035	
B015		B015	B015	B015	B015 学生自習 1		
III	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082 キャリアデザイン論 1後	082	082	082 国際ファッション市場論 1後	081 現代文化論 1後	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035	035 学生自習 1	035	035	
B015		B015	B015	B015	B015 学生自習 1		
IV	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035	035 学生自習 1	035	035	
B015		B015	B015	B015 学生自習 2	B015 学生自習 1		
V	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082 テキスタイル基礎 1後 必修	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 1	035	035 学生自習 1	035	035	
B015		B015	B015	B015	B015 学生自習 1		
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035	035 学生自習 1	035	035 学生自習 1	035	
B015		B015	B015	B015	B015 学生自習 1		
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035	035 学生自習 1	035	035 学生自習 1	035	
B015		B015	B015	B015	B015 学生自習 1		

学生自習時間割: 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 2学年【前期】

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062 デジタルテク/ロジ-演習 2前	062 ファッションデザイン実習Ⅱ 2通 必修	062 日本の衣食生活・服装史入門 2前 必修	062 美とファッションの歴史 2前 必修	062 英語Ⅱ 2通 必修
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035
	B015	B015	B015	B015 学生自習 2	B015	
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062 産業とメディアデザイン 2前	062 ファッションデザイン実習Ⅱ 2通 必修	062 環境と社会 2前	062 国際ビジネスモデル特講Ⅰ 2前	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035
	B015	B015	B015	B015 学生自習 2	B015	
III	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062 ファッションビジネス実習Ⅱ 2通 必修	062	062 国際ファッション業界英語 2通 必修	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016 写真実習 2前	B016	B016	B016
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035
	B015	B015	B015	B015 学生自習 2	B015	
IV	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062 ファッションビジネス実習Ⅱ 2通 必修	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016 写真実習 2前	B016	B016	B016
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035
	B015	B015	B015	B015 学生自習 2	B015	
V	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035
	B015	B015	B015	B015 学生自習 2	B015	
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035	035
	B015	B015	B015	B015	B015 学生自習 2	
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
	実習室	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035	035
	B015	B015	B015	B015	B015 学生自習 2	

学生自習時間割: 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 2学年【後期】

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062 中国語 2後	062 ファッションデザイン実習Ⅱ 2通 必修	062 地域産業・大阪論 2後 必修	062 国際ビジネスモデル特講Ⅱ 2後	062 ヨーロッパ社会と文化 2後	062 英語Ⅱ 2通 必修
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035	
	B015	B015	B015	B015	B015 学生自習 2		
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062 パターンメイキング 2後	062 ファッションデザイン実習Ⅱ 2通 必修	062 感性工学 2後	062 地域論入門 2後	062 社会科学基礎ゼミ 2後	062 美容とファッション 2後
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035	
	B015	B015	B015	B015	B015 学生自習 2		
III	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062 ファッションビジネス実習Ⅱ 2通 必修	062 フランス語 2後	062 国際ファッション業界英語 2通 必修	062 ブランドの歴史と文化 2後	062 知財論 2後	062
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035	
	B015	B015	B015	B015	B015 学生自習 2		
IV	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062 ファッションビジネス実習Ⅱ 2通 必修	062	062	062	062 サブカルチャースタイル 2後	062
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035	
	B015	B015	B015	B015	B015 学生自習 2		
V	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035	
	B015	B015	B015	B015	B015 学生自習 2		
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035	035	
	B015	B015	B015	B015	B015 学生自習 2		
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
		ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
	実習室	035 学生自習 2	035	035 学生自習 2	035	035	
	B015	B015	B015	B015	B015 学生自習 2		

学生自習時間割:大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 3学年【前期】

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	6F	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
		062	062	062	062	062
	5F	063	063	063	063	063
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	
	B015	B015	B015	B015	B015	
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	6F	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
		062	062	062	062	062
	5F	063	063	063	063	063
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	
	B015	B015	B015	B015	B015	
III	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	6F	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
		062	062	062	062	062
	5F	063	063	063	063	063
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	
	B015	B015	B015	B015	B015	
IV	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	6F	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
		062	062	062	062	062
	5F	063	063	063	063	063
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	
	B015	B015	B015	B015	B015	
V	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	6F	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
		062	062	062	062	062
	5F	063	063	063	063	063
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	
	B015	B015	B015	B015	B015	
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	6F	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
		062	062	062	062	062
	5F	063	063	063	063	063
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	
	B015	B015	B015	B015	B015	
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	6F	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
		062	062	062	062	062
	5F	063	063	063	063	063
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	
	B015	B015	B015	B015	B015	

学生自習時間割: 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 3学年【後期】

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	ホール					
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	学生自習 3
	B015	B015	B015	B015	B015	B015
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	ホール					
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	学生自習 3
	B015	B015	B015	B015	B015	B015
III	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	ホール					
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	学生自習 3
	B015	B015	B015	B015	B015	B015
IV	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	ホール					
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	学生自習 3
	B015	B015	B015	B015	B015	B015
V	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	ホール					
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	学生自習 3
	B015	B015	B015	B015	B015	B015
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	ホール					
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	学生自習 3
	B015	B015	B015	B015	B015	B015
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	8F	081	081	081	081	081
		082	082	082	082	082
	ホール					
	6F	062	062	062	062	062
		063	063	063	063	063
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016
実習室	035	035	035	035	035	学生自習 3
	B015	B015	B015	B015	B015	B015

学生自習時間割: 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 4学年【前期】

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
III	10F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室 統合指導ゼミ I 4前	研究室
		053ABC	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC	053ABC 統合指導ゼミ I 4前	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
IV	10F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室 統合指導ゼミ I 4前	研究室
		053ABC	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC	053ABC 統合指導ゼミ I 4前	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
V	10F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室 統合指導ゼミ I 4前	研究室
		053ABC	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC	053ABC 統合指導ゼミ I 4前	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035	035 学生自習 4	
	B015 学生自習 4	B015	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035	035 学生自習 4	
	B015 学生自習 4	B015	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	

学生自習時間割: 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 4学年【後期】

時間帯	月	火	水	木	金	土	
I	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
II	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
III	10F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室 統合指導ゼミⅡ 4後	研究室
		053ABC	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC	053ABC 統合指導ゼミⅡ 4後	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
IV	10F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室 統合指導ゼミⅡ 4後	研究室
		053ABC	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC	053ABC 統合指導ゼミⅡ 4後	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
V	10F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室 卒業制作・計画 4通	研究室	研究室 統合指導ゼミⅡ 4後	研究室
		053ABC	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC 卒業制作・計画 4通	053ABC	053ABC 統合指導ゼミⅡ 4後	053ABC
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035 学生自習 4	035	
	B015	B015 学生自習 4	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
VI	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035	035 学生自習 4	
	B015 学生自習 4	B015	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	
VII	10F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	8F	081	081	081	081	081	
		082	082	082	082	082	
	ホール						
	6F	062	062	062	062	062	
		063	063	063	063	063	
	5F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
		053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	053ABC	
	BF	B016	B016	B016	B016	B016	
実習室	035	035	035	035	035	035 学生自習 4	
	B015 学生自習 4	B015	B015 学生自習 4	B015	B015	B015	

学生自習時間割:名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 全学年【前期】

		月			火			水			木			金			土							
I	26F	261			261			261			261			261			261							
		262			262			262			262			262			262							
	31F	311	国際知財論	3	311			311	マーケティング論	3	必修	311			311			311						
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
	32F	321			321	デジタルテク/ロジャー演習	2	321	美とファッションの歴史	2	必修	321			321	環境と社会	2	321	テキスタイル中級	2				
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
	34F	341	比較文化論	1	必修	341	職人の世界	1	341	生活科学入門	1	必修	341	色彩論入門	1	必修	341	身体とパフォーマンス	1	341	英語 I	1通	必修	
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室				
外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ					
実習室	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	4	241	学生自習	3				
	242	学生自習	3		242	学生自習	4	242	学生自習	4		242	学生自習	3	242	学生自習	2	242	学生自習	1				
II	26F	261			261			261			261			261			261							
		262			262			262			262			262			262							
	31F	311	創造産業論	3	311			311			311			311			311							
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
	32F	321	産業とメディアデザイン	2	321	国際ビジネスモデル特講 I	2	321	国際ファッション業界英語	2通	必修	321	消費者行動論	3	必修	321	日本の衣生活・服装入門	2	必修	321	英語 II	2通	必修	
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
	34F	341	写真概論	1	必修	341	メディア概論	1	必修	341	ファッションデザイン論	1	必修	341			341	情報リテラシー	1	必修	341	会計入門	1	
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ								
実習室	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	4	241	学生自習	3				
	242	学生自習	3		242	学生自習	4	242	学生自習	4		242	学生自習	3	242	学生自習	2	242	学生自習	1				
III	26F	261			261			261			261			261			261							
		262			262			262			262			262			262							
	31F	311	国際連携ゼミ	3通	必修	311	卒業制作・計画	4通	必修	311	卒業制作・計画	4通	必修	311	地域企業・地方連携ゼミ	3通	必修	311	統合指導ゼミ I	4	必修	311		
		研究室	国際連携ゼミ	3通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室			研究室							
	32F	321			321			321	ファッションビジネス実習 II	2通	必修	321			321	ファッションデザイン実習 II	2通	必修	321					
	33F	研究室	国際連携ゼミ	3通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室			研究室							
	34F	341	ファッションデザイン実習 I	1通	必修	341	ファッションビジネス概論	1	341	若いと社会性・ジェンダー	1	341			341	デザイン概論	1	341						
	35F	研究室	国際連携ゼミ	3通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室			研究室							
外部	撮影スタジオ	写実実習	2		撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ							
実習室	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	4	241	学生自習	3				
	242	学生自習	3		242	学生自習	4	242	学生自習	4		242	学生自習	3	242	学生自習	2	242	学生自習	1				
IV	26F	261			261			261			261			261			261							
		262			262			262			262			262			262							
	31F	311	国際連携ゼミ	3通	必修	311	卒業制作・計画	4通	必修	311	卒業制作・計画	4通	必修	311	地域企業・地方連携ゼミ	3通	必修	311	統合指導ゼミ I	4	必修	311		
		研究室	国際連携ゼミ	3通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	地域企業・地方連携ゼミ	3通	必修	研究室	統合指導ゼミ I	4	必修	研究室		
	32F	321			321			321	ファッションビジネス実習 II	2通	必修	321			321	ファッションデザイン実習 II	2通	必修	321					
	33F	研究室	国際連携ゼミ	3通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	地域企業・地方連携ゼミ	3通	必修	研究室	統合指導ゼミ I	4	必修	研究室		
	34F	341	ファッションデザイン実習 I	1通	必修	341	ファッションビジネス実習 I	1通	必修	341	ファッション論基礎ゼミ	1	341			341			341					
	35F	研究室	国際連携ゼミ	3通	必修	研究室			研究室			研究室			研究室	地域企業・地方連携ゼミ	3通	必修	研究室	統合指導ゼミ I	4	必修	研究室	
外部	撮影スタジオ	写実実習	2		撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ							
実習室	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	4	241	学生自習	3				
	242	学生自習	3		242	学生自習	4	242	学生自習	4		242	学生自習	3	242	学生自習	2	242	学生自習	1				
V	26F	261			261			261			261			261			261							
		262			262			262			262			262			262							
	31F	311	文化論基礎ゼミ	1	311	卒業制作・計画	4通	必修	311	卒業制作・計画	4通	必修	311	地域企業・地方連携ゼミ	3通	必修	311	統合指導ゼミ I	4	必修	311			
		研究室	国際連携ゼミ	3通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	地域企業・地方連携ゼミ	3通	必修	研究室	統合指導ゼミ I	4	必修	研究室		
	32F	321			321			321			321			321			321							
	33F	研究室	国際連携ゼミ	3通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	卒業制作・計画	4通	必修	研究室	地域企業・地方連携ゼミ	3通	必修	研究室	統合指導ゼミ I	4	必修	研究室		
	34F	341			341	ファッションビジネス実習 I	1通	必修	341			341			341			341						
	35F	研究室	国際連携ゼミ	3通	必修	研究室			研究室			研究室			研究室	地域企業・地方連携ゼミ	3通	必修	研究室	統合指導ゼミ I	4	必修	研究室	
外部	撮影スタジオ	写実実習	2		撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ							
実習室	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	1		241	学生自習	2	241	学生自習	4	241	学生自習	3				
	242	学生自習	3		242	学生自習	4	242	学生自習	4		242	学生自習	3	242	学生自習	2	242	学生自習	1				
VI	26F	261			261			261			261			261			261							
		262			262			262			262			262			262							
	31F	311			311			311			311			311			311							
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
	32F	321			321			321			321			321			321							
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
	34F	341			341			341			341			341			341							
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ								
実習室	241	学生自習	2		241	学生自習	1	241	学生自習	2		241	学生自習	1	241	学生自習	3	241	学生自習	4				
	242	学生自習	4		242	学生自習	3	242	学生自習	3		242	学生自習	4	242	学生自習	1	242	学生自習	2				
VII	26F	261			261			261			261			261			261							
		262			262			262			262			262			262							
	31F	311			311			311			311			311			311							
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
	32F	321			321			321			321			321			321							
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
	34F	341			341			341			341			341			341							
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室							
外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ								
実習室	241	学生自習	2		241	学生自習	1	241	学生自習	2		241	学生自習	1	241	学生自習	3	241	学生自習	4				
	242	学生自習	4		242	学生自習	3	242	学生自習	3		242	学生自習	4	242	学生自習	1	242	学生自習	2				

学生自習時間割:名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 全学年【後期】

	月	火	水	木	金	土	
I	26F	261	261	261	261	261	
	26F	262	262	262	262	262	
	31F	311	311	311	311 広告・PR論 3	311	
	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	32F	321 美容とファッション 2	321 中国語 2	321 フランス語 2	321 ブランドの歴史と文化 2	321 地域論入門 2	321 イタリア語 2
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	34F	341	341 法学入門 1	341 フィールドワーク入門 1 必修	341 産業論入門 1	341 自然資源と服装文化 1	341 英語 I 1通 必修
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	外音	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 4	241 学生自習 3
実習室	242 学生自習 3	242 学生自習 4	242 学生自習 4	242 学生自習 3	242 学生自習 2	242 学生自習 1	
II	26F	261	261	261	261	261	
	26F	262	262	262	262	262	
	31F	311	311	311	311 環境とビジネス 3 必修	311	
	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	32F	321 地域産業・名古屋論 2 必修	321 感性工学 2	321 国際ファッション業界英語 2通 必修	321 パターンメイキング 2	321 ヨーロッパの社会と文化 2	321 英語 II 2通 必修
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	34F	341 日本語文章表現 1 必修	341 現代文化論 1	341 キャリアデザイン論 1	341 国際ファッション市場論 1	341 映像概論 1 必修	341 テキスタイル基礎 1 必修
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	外音	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 4	241 学生自習 3
実習室	242 学生自習 3	242 学生自習 4	242 学生自習 4	242 学生自習 3	242 学生自習 2	242 学生自習 1	
III	26F	261	261	261	261	261	
	26F	262	262	262	262	262	
	31F	311 国際連携ゼミ 3通 必修	311 卒業制作・計画 4通 必修	311 卒業制作・計画 4通 必修	311 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	311 統合指導ゼミ II 4 必修	311
	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	32F	321 知財論 2	321 サブカルチャー・スタイル 2	321 ファッションビジネス実習 II 2通 必修	321	321 ファッションデザイン実習 II 2通 必修	321 国際ビジネスモデル特講 II 2
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	34F	341 ファッションデザイン実習 I 1通 必修	341	341	341	341	341
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	外音	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 4	241 学生自習 3
実習室	242 学生自習 3	242 学生自習 4	242 学生自習 4	242 学生自習 3	242 学生自習 2	242 学生自習 1	
IV	26F	261	261	261	261	261	
	26F	262	262	262	262	262	
	31F	311 国際連携ゼミ 3通 必修	311 卒業制作・計画 4通 必修	311 卒業制作・計画 4通 必修	311 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	311 統合指導ゼミ II 4 必修	311
	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	32F	321 社会科学基礎ゼミ 2	321	321 ファッションビジネス実習 II 2通 必修	321	321 ファッションデザイン実習 II 2通 必修	321
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	34F	341 ファッションデザイン実習 I 1通 必修	341 ファッションビジネス実習 I 1通 必修	341	341	341	341
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	外音	撮影スタジオ	撮影スタジオ 映像実習 2	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 4	241 学生自習 3
実習室	242 学生自習 3	242 学生自習 4	242 学生自習 4	242 学生自習 3	242 学生自習 2	242 学生自習 1	
V	26F	261	261	261	261	261	
	26F	262	262	262	262	262	
	31F	311 国際連携ゼミ 3通 必修	311 卒業制作・計画 4通 必修	311 卒業制作・計画 4通 必修	311 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	311 統合指導ゼミ II 4 必修	311
	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	32F	321	321	321	321	321	321
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	34F	341	341 ファッションビジネス実習 I 1通 必修	341	341	341	341
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	外音	撮影スタジオ	撮影スタジオ 映像実習 2	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 4	241 学生自習 3
実習室	242 学生自習 3	242 学生自習 4	242 学生自習 4	242 学生自習 3	242 学生自習 2	242 学生自習 1	
VI	26F	261	261	261	261	261	
	26F	262	262	262	262	262	
	31F	311	311	311	311	311	
	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	32F	321	321	321	321	321	
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	34F	341	341	341	341	341	
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	外音	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241 学生自習 2	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 1	241 学生自習 3	241 学生自習 4
実習室	242 学生自習 4	242 学生自習 3	242 学生自習 3	242 学生自習 4	242 学生自習 1	242 学生自習 2	
VII	26F	261	261	261	261	261	
	26F	262	262	262	262	262	
	31F	311	311	311	311	311	
	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	32F	321	321	321	321	321	
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	34F	341	341	341	341	341	
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	
	外音	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241 学生自習 2	241 学生自習 1	241 学生自習 2	241 学生自習 1	241 学生自習 3	241 学生自習 4
実習室	242 学生自習 4	242 学生自習 3	242 学生自習 3	242 学生自習 4	242 学生自習 1	242 学生自習 2	

学生自習時間割: 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 1学年【前期】

		月			火			水			木			金			土		
I	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311			311			311			311			311			311		
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	32F	321			321			321			321			321			321		
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	34F	341	比較文化論	1 必修	341	職人の世界	1	341	生活科学入門	1 必修	341	色彩論入門	1 必修	341	身体とパフォーマンス	1	341	英語 I	1通 必修
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	実習室	241	学生自習	1	241			241	学生自習	1	241			241			241		
	242			242			242			242			242			242	学生自習	1	
II	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311			311			311			311			311			311		
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	32F	321			321			321			321			321			321		
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	34F	341	写真概論	1 必修	341	メディア概論	1 必修	341	ファッションデザイン論	1 必修	341			341	情報リテラシー	1 必修	341	会計入門	1
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	実習室	241	学生自習	1	241			241	学生自習	1	241			241			241		
	242			242			242			242			242			242	学生自習	1	
III	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311			311			311			311			311			311		
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	32F	321			321			321			321			321			321		
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	34F	341	ファッションデザイン実習 I	1通 必修	341	ファッションビジネス概論	1	341	親い社会性・ジェンダー	1	341			341	デザイン概論	1	341		
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	実習室	241	学生自習	1	241			241	学生自習	1	241			241			241		
	242			242			242			242			242			242	学生自習	1	
IV	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311			311			311			311			311			311		
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	32F	321			321			321			321			321			321		
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	34F	341	ファッションデザイン実習 I	1通 必修	341	ファッションビジネス実習 I	1通 必修	341	ファッション論基礎ゼミ	1	341			341			341		
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	実習室	241	学生自習	1	241			241	学生自習	1	241			241			241		
	242			242			242			242			242			242	学生自習	1	
V	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311	文化論基礎ゼミ	1	311			311			311			311			311		
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	32F	321			321			321			321			321			321		
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	34F	341			341	ファッションビジネス実習 I	1通 必修	341			341			341			341		
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	実習室	241	学生自習	1	241			241	学生自習	1	241			241			241		
	242			242			242			242			242			242	学生自習	1	
VI	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311			311			311			311			311			311		
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	32F	321			321			321			321			321			321		
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	34F	341			341			341			341			341			341		
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	実習室	241			241	学生自習	1	241			241	学生自習	1	241			241		
	242			242			242			242	学生自習	1	242			242	学生自習	1	
VII	26F	261			261			261			261			261			261		
		262			262			262			262			262			262		
	31F	311			311			311			311			311			311		
		研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	32F	321			321			321			321			321			321		
	33F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	34F	341			341			341			341			341			341		
	35F	研究室			研究室			研究室			研究室			研究室			研究室		
	外部	撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ			撮影スタジオ		
	実習室	241			241	学生自習	1	241			241	学生自習	1	241			241		
	242			242			242			242	学生自習	1	242			242	学生自習	1	

学生自習時間割:名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 1学年【後期】

		月		火		水		木		金		土			
I	26F	261		261		261		261		261		261			
		262		262		262		262		262		262			
	31F	311		311		311		311		311		311			
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	32F	321		321		321		321		321		321			
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	34F	341		341	法学入門 1	341	フィールドワーク入門 1	必修	341	産業論入門 1	341	自然資源と服装文化 1	341	英語 I 1通 必修	
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ			
	実習室	241	学生自習 1	241		241	学生自習 1	241		241		241			
	242		242		242		242		242		242	学生自習 1			
II	26F	261		261		261		261		261		261			
		262		262		262		262		262		262			
	31F	311		311		311		311		311		311			
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	32F	321		321		321		321		321		321			
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	34F	341	日本語文章表現 1	必修	341	現代文化論 1	341	キャリアデザイン論 1	341	国際ファッション市場論 1	341	映像概論 1	必修	341	テキスト基礎 1
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ			
	実習室	241	学生自習 1	241		241	学生自習 1	241		241		241			
	242		242		242		242		242		242	学生自習 1			
III	26F	261		261		261		261		261		261			
		262		262		262		262		262		262			
	31F	311		311		311		311		311		311			
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	32F	321		321		321		321		321		321			
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	34F	341	ファッションデザイン実習 I 1通	必修	341		341		341		341		341		
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ			
	実習室	241	学生自習 1	241		241	学生自習 1	241		241		241			
	242		242		242		242		242		242	学生自習 1			
IV	26F	261		261		261		261		261		261			
		262		262		262		262		262		262			
	31F	311		311		311		311		311		311			
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	32F	321		321		321		321		321		321			
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	34F	341	ファッションデザイン実習 I 1通	必修	341	ファッションビジネス実習 I 1通	必修	341		341		341			
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ			
	実習室	241	学生自習 1	241		241	学生自習 1	241		241		241			
	242		242		242		242		242		242	学生自習 1			
V	26F	261		261		261		261		261		261			
		262		262		262		262		262		262			
	31F	311		311		311		311		311		311			
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	32F	321		321		321		321		321		321			
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	34F	341		341	ファッションビジネス実習 I 1通	必修	341		341		341		341		
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ			
	実習室	241	学生自習 1	241		241	学生自習 1	241		241		241			
	242		242		242		242		242		242	学生自習 1			
VI	26F	261		261		261		261		261		261			
		262		262		262		262		262		262			
	31F	311		311		311		311		311		311			
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	32F	321		321		321		321		321		321			
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	34F	341		341		341		341		341		341			
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ			
	実習室	241		241	学生自習 1	241		241	学生自習 1	241		241			
	242		242		242	学生自習 1	242		242	学生自習 1	242				
VII	26F	261		261		261		261		261		261			
		262		262		262		262		262		262			
	31F	311		311		311		311		311		311			
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	32F	321		321		321		321		321		321			
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	34F	341		341		341		341		341		341			
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室			
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ			
	実習室	241		241	学生自習 1	241		241	学生自習 1	241		241			
	242		242		242	学生自習 1	242		242	学生自習 1	242				

学生自習時間割: 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 2学年【前期】

		月		火		水		木		金		土				
I	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321		321	デジタルテク/ロジック演習 2	321	美とファッションの歴史 2	必修	321		321	環境と社会 2	321	テキスタイル中級 2		
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ					
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
II	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321	産業とメディアデザイン 2	321	国際ビジネスモデル特講1 2	321	国際ファッション業界英語 2通	必修	321		321	日本の衣生活・服装入門 2	必修	321	英語II 2通	必修
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ					
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
III	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321		321		321	ファッションビジネス実習II 2通	必修	321		321	ファッションデザイン実習II 2通	必修	321		
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
外部	撮影スタジオ	写実実習 2	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ					
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
IV	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321		321		321	ファッションビジネス実習II 2通	必修	321		321	ファッションデザイン実習II 2通	必修	321		
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
外部	撮影スタジオ	写実実習 2	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ					
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
V	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321		321		321		321		321		321				
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ					
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
VI	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321		321		321		321		321		321				
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ					
実習室	241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241		241					
	242		242		242		242		242		242	学生自習 2				
VII	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321		321		321		321		321		321				
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ					
実習室	241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241		241					
	242		242		242		242		242		242	学生自習 2				

学生自習時間割:名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 2学年【後期】

		月		火		水		木		金		土				
I	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321	美容とファッション 2	321	中国語 2	321	フランス語 2	321	ブランドの歴史と文化 2	321	地域論入門 2	321	イタリア語 2			
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ				
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
II	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321	地域産業・名古屋論 2	必修	321	感性工学 2	321	国際ファッション業界英語 2通	必修	321	パターンメイキング 2	321	ヨーロッパの社会と文化 2	321	英語II 2通	必修
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ				
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
III	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321	知財論 2	321	サブカルチャースタイル 2	321	ファッションビジネス実習II 2通	必修	321		321	ファッションデザイン実習II 2通	必修	321	国際ビジネスモデル特講II 2	
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ				
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
IV	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321	社会科学基礎ゼミ 2	321		321	ファッションビジネス実習II 2通	必修	321		321	ファッションデザイン実習II 2通	必修	321		
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ	映像実習 2	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ				
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
V	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321		321		321		321		321		321				
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ	映像実習 2	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ				
実習室	241		241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241					
	242		242		242		242		242	学生自習 2	242					
VI	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321		321		321		321		321		321				
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ				
実習室	241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241		241	学生自習 2				
	242		242		242		242		242		242	学生自習 2				
VII	26F	261		261		261		261		261		261				
		262		262		262		262		262		262				
	31F	311		311		311		311		311		311				
		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	32F	321		321		321		321		321		321				
	33F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	34F	341		341		341		341		341		341				
	35F	研究室		研究室		研究室		研究室		研究室		研究室				
	外部	撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ		撮影スタジオ				
実習室	241	学生自習 2	241		241	学生自習 2	241		241		241	学生自習 2				
	242		242		242		242		242		242	学生自習 2				

学生自習時間割:名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 3学年【前期】

		月	火	水	木	金	土
I	26F	261			261		
		262			262		
	31F	311 国際知財論 3	311		311 マーケティング論 3 必修	311	
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	32F	321	321		321		321
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	34F	341	341		341		341
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241	241	241	241	241	241 学生自習 3
		242 学生自習 3	242	242	242 学生自習 3	242	242
II	26F	261			261		
		262			262		
	31F	311 創造産業論 3	311		311		311
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	32F	321	321		321 消費者行動論 3 必修	321	
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	34F	341	341		341		341
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241	241	241	241	241	241 学生自習 3
		242 学生自習 3	242	242	242 学生自習 3	242	242
III	26F	261			261		
		262			262		
	31F	311 国際連携ゼミ 3通 必修	311		311 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	311	
		研究室 国際連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室	研究室 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室
	32F	321	321		321		321
	33F	研究室 国際連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室	研究室 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室
	34F	341	341		341		341
	35F	研究室 国際連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室	研究室 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室
	外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241	241	241	241	241	241 学生自習 3
		242 学生自習 3	242	242	242 学生自習 3	242	242
IV	26F	261			261		
		262			262		
	31F	311 国際連携ゼミ 3通 必修	311		311 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	311	
		研究室 国際連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室	研究室 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室
	32F	321	321		321		321
	33F	研究室 国際連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室	研究室 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室
	34F	341	341		341		341
	35F	研究室 国際連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室	研究室 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室
	外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241	241	241	241	241	241 学生自習 3
		242 学生自習 3	242 学生自習 4	242 4	242 学生自習 3	242	242
V	26F	261			261		
		262			262		
	31F	311 国際連携ゼミ 3通 必修	311		311 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	311	
		研究室 国際連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室	研究室 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室
	32F	321	321		321		321
	33F	研究室 国際連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室	研究室 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室
	34F	341	341		341		341
	35F	研究室 国際連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室	研究室 地域企業・地方連携ゼミ 3通 必修	研究室	研究室
	外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241	241	241	241	241	241 学生自習 3
		242 学生自習 3	242 学生自習 4	242	242 学生自習 3	242	242
VI	26F	261			261		
		262			262		
	31F	311	311		311		311
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	32F	321	321		321		321
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	34F	341	341		341		341
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241	241	241	241	241	241 学生自習 3
		242	242 学生自習 3	242 学生自習 3	242	242	242
VII	26F	261			261		
		262			262		
	31F	311	311		311		311
		研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	32F	321	321		321		321
	33F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	34F	341	341		341		341
	35F	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室
	外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	
	実習室	241	241	241	241	241	241 学生自習 3
		242	242 学生自習 3	242 学生自習 3	242	242	242

＜大阪・名古屋地域企業が本学の学生に求める能力＞

新卒採用時における、企業からの要望として、以下の企業より「ファッションクリエイションとファッションビジネスのそれぞれの能力を兼ね備えた人材を採用したい」との結果であった。

■大阪地域(関西)

	会社名	所在地
1	株式会社アーバンリサーチ	大阪府大阪市
2	株式会社エスグループ	大阪府大阪市
3	株式会社クラウディア	京都府京都市
4	小泉アパレル株式会社	大阪府大阪市
5	株式会社神戸ドリーム	大阪府大阪市
6	株式会社サンウエル	大阪府大阪市
7	株式会社ジオン商事	大阪府大阪市
8	株式会社シティーヒル	大阪府大阪市
9	株式会社ジャヴァコーポレーション	兵庫県神戸市
10	株式会社タカ・ダンスファッション	大阪府大阪市
11	株式会社玉屋	大阪府大阪市
12	帝人フロンティア株式会社	大阪府大阪市
13	株式会社ドリーム	大阪府大阪市
14	株式会社西川商店	大阪府大阪市
15	株式会社ブレンディング	大阪府大阪市
16	株式会社ベベ	兵庫県神戸市
17	ホープインターナショナルワークス株式会社	大阪府大阪市
18	マツオインターナショナル株式会社	大阪府大阪市
19	株式会社mighty	大阪府大阪市

■名古屋地域(東海)

	会社名	所在地
1	株式会社アスディック	愛知県一宮市
2	株式会社アルペン	愛知県名古屋市
3	株式会社イトーファッション	岐阜県岐阜市
4	株式会社エイムインターナショナル	愛知県名古屋市
5	クロスプラス株式会社	愛知県名古屋市
6	佐藤正株式会社	岐阜県岐阜市
7	サンラリーグループ	岐阜県岐阜市
8	株式会社スタジオ翔	愛知県名古屋市
9	株式会社ゼロコーポレーション	愛知県名古屋市
10	ダイショーファッションテキスタイル株式会社	愛知県一宮市
11	瀧定名古屋株式会社	愛知県名古屋市
12	タキヒヨー株式会社	愛知県名古屋市
13	ダーナ有限会社	岐阜県岐阜市
14	チーカス株式会社	愛知県清須市
15	林八百吉株式会社	愛知県名古屋市
16	ヒロタ株式会社	岐阜県岐阜市
17	プランニングオフィス・ラグーン有限会社	愛知県名古屋市
18	株式会社フリーインターナショナル	愛知県名古屋市
19	牧村株式会社	愛知県名古屋市
20	株式会社ヤマダヤ	愛知県名古屋市

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の見通し

ア 定員充足の見込み

学校法人日本教育財団（以下、本法人）は、国際ファッション専門職大学（以下、本学）に国際ファッション学部を設置し、東京に2学科、大阪と名古屋に1学科の合計4学科で構成する。各学科での入学定員および収容定員は以下の表1の通りに設定した。

【表1：国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部の学科構成と入学定員】

学科名	所在地	入学定員	2年次編入	収容定員
ファッションクリエイション学科	東京都新宿区	80人	—	320人
ファッションビジネス学科		38人	2人	158人
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	大阪府大阪市	38人	2人	158人
名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	愛知県名古屋市	38人	2人	158人

なお、上記の入学定員については、ファッション分野における既設の高等教育機関の動向や、各学科を設置する地域における18歳人口の動向、本法人が運営している各専修学校の状況や社会的な需要見込みなどに加え、高校生や社会人、企業の担当者を対象としたアンケート調査の結果を踏まえた上で総合的に判断し設定を行っており、定員充足に問題がないと判断している。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) ファッション・服飾分野の高等教育機関の動向

◆4年制大学の動向

日本私立学校振興・共済事業団の『私立大学・短期大学等入学志願動向（資料1）』によると、ファッション・服飾分野は、4年制大学では家政学系学部分類されている。家政学系学部は平成23年度から平成29年度にかけて68学部から77学部が増加している。平成29年度の入学定員は16,961人であり、1学部あたり約220人の規模となっている。志願者数は7.8万人前後と安定して推移しているが、充足率は直近2年間で100%を若干下回っている状況である。なお、家政学系学部の数値にはファッション・服飾分野の他に、生活や栄養、健康分野も含まれていることから、ファッション・服飾分野のみの傾向を表したもので

はないため、同分野を設置している大学を地域ごとに抽出して、志願動向を調べた。その結果、近隣に所在する同類分野における4年制大学の志願者動向（資料2）より、ファッション・服飾分野を設置している大学は、女子大学の家政学部や、美術・芸術大学に多い傾向があり、ファッションや服飾を専門分野とした大学は非常に少ない状況である。東京都に所在するファッション・服飾分野の学科を設置している大学は9校で、学科単位では11学科ある。11学科の入学定員の平均は144.0人となっており、志願者の平均は220人前後で推移している。本学では東京都新宿区にファッションクリエイション学科（入学定員80人）とファッションビジネス学科（入学定員38人）を設置するが、4年制大学における同類分野の入学定員および志願者の規模と比較すると、本学で設定している入学定員は学生確保において現実的な規模に設定していることが分かる。近畿圏に所在するファッション・服飾分野を設置している大学は6校、合計で7学科あり、入学定員の平均は85.4人、志願者の平均は60人から100人で推移している。同様に、東海圏に所在するファッション・服飾分野を設置している大学は2校、2学科あり、入学定員の平均は70.0人、志願者の平均は200人程度で推移している。大阪府大阪市に設置する大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科（入学定員38人）、愛知県名古屋市に設置する名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科（入学定員38人）の定員規模も、同じ地域にある4年制大学の規模と比較し、学生確保において現実的な規模に設定している。

◆専修学校

文部科学白書の『18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移（資料3）』によると、高校卒業後の進学先として、大学に次いで多いのは専修学校で、平成28年度には27万人が専修学校に進学している。そこで、学校基本調査による専修学校（専門課程）の学科別入学状況より服飾・家政関係を抽出してみると、平成24年度から平成28年度の5年間で、入学者は7,500人前後とほぼ横ばいの推移となっている一方で、入学志願者は平成25年度の9,634人以降、減少傾向となっている。しかし、服飾・家政関係の中でファッションビジネスに注目すると、入学希望者は平成24年度の1,028人から平成28年度には2,166人と2倍程度の増加となっている。また、入学者も同様に、平成24年度の936人から平成28年度には1,935人と2倍以上の増加となっており、服飾・家政関係の中で、好調な状況が続いていることから、高校生におけるファッションビジネスへの関心の高さと、同分野への高等教育機関への進学意欲が高まっていることが分かる（資料4）。詳細は人材需要の動向で後述するが、本学ではファッションビジネス分野においてグローバルに活躍できる人材を養成することから、高校生からの一定の関心を得られるものと考えている。

2) 18歳人口の将来推計

文部科学白書の18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移（資料3）より、我が国の18歳人口は平成4年度の205万人以降減少が続いている状況である。全国および地域別の

平成 29 年度から平成 39 年度の 18 歳人口の将来推計（資料 5）より、全国では 1,179,142 人から 1,050,107 人と平成 29 年比で 89.1%まで減少する見通しである。本学がキャンパスを設ける近隣地域（南関東、東海、近畿）の推計を見ると、南関東は 305,538 人から 292,869 人と 95.9%、東海は 147,713 人から 134,276 人の 90.9%、近畿は 199,755 人から 174,332 人の 87.3%と平成 29 年度比から減少する見通しとなっている。南関東と東海の減少は全国と比べ緩やかな傾向となっており、安定的に学生を確保できる素地があるものと考えられるものの、近畿の減少は全国よりも進んでいる状況となっているため、学生確保に向けた取組は重要なものとなってくる。また、本学では、高校生の他に、社会に出た経験を有する 18 歳以上の者を社会人と定義し、それらの学生も広く受け入れることを計画している。そのため、学生確保に関して 18 歳人口の減少リスクに対して対応できると考えている。

3) 既設専修学校の募集状況

本法人では、東京モード学園、大阪モード学園、名古屋モード学園と同類専修学校を長年にわたり運営している実績がある。各専修学校の過去 4 年間（2014 年度から 2017 年度）における募集状況（資料 6）をみると、東京モード学園は 395 人から 635 人、大阪モード学園は 221 人から 278 人、名古屋モード学園は 178 人から 229 人といずれの専修学校でも増加傾向となっている。今回設置する本学と既設の専修学校とは、目的や養成する人材像、特色、修業年限等が異なることから、入学希望者層は重複しないと考えており、専修学校の募集状況はあくまで参考値として示している。しかしながら、上記で示した専修学校での好調な募集状況は、本法人における評価として捉えており、今度も昭和 41 年の開校以降培ってきた取組を活かし、学生確保を行う。そのため、今回設置する本学の各学科と同分野の学科において定員超過率が 1.0 倍未満である学科（資料 7）についても、近隣 4 年制大学における同類分野の入学定員および志願者の規模と本学の各学科の定員設定や後述するアンケート結果を鑑みれば、定員充足の見込みは十分にあると判断できる。

また、前述の通り、本学では社会に出た経験を有する 18 歳以上の者を社会人と定義し、それらの学生も広く受け入れることを計画している。文部科学省の『社会人の学び直しに関する状況等について（資料 8）』によると、大学入学者のうち、25 歳以上の割合は 1.9%であり、この割合は OECD 各国の平均 18.1%と比べ極めて低い状況となっている。一方、就業を目的とする高等教育機関への入学者のうち、25 歳以上の割合は 21.0%であり、大学入学者よりも受け入れが多い状況となっている。平成 28 年 5 月に中央教育審議会にて発表された『個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について（答申）（資料 9）』においても社会人の学び直し環境に関する課題や対応が記載されており、キャリアアップやキャリア変更、職場復帰等を目指す社会人のための学び直し機会の提供は、今後推進すべき教育の一つとしている。この度制度化された専門職大学・専門職短期大学では、理論にも裏付けられた高度な実践力を強みとして、専門業務を牽引できる人材かつ、変化に対応しつつ、新たなモノやサービスを創り出す

ことができる人材の養成が趣旨となっており、社会人が学び直しの際に選択しやすい高等教育機関となっている。本学においては、国際市場において十分な競争力を発揮できるデザイン能力のある人材育成に加え、地方産地を中心としたテキスタイルの生産体制の刷新、国内市場の活性化、グローバルな販売網の創出を担うマネジメントの人材育成を目的とし、ファッション業界への就業に直結する高等教育機関を目指すことから、『社会人の学び直しに関する状況等について（資料 8）』の就業を目的とする高等教育機関への入学者の割合が示す通り、社会人における一定数の入学希望者がいると想定しており、編入学での受け入れを実施する。

なお、本法人が運営する各専修学校の過去 4 年間（2014 年度から 2017 年度）における募集状況のうち、18 歳以上の入学者の割合を算出すると、各年度の入学者数のうち、東京モード学園では約半数、大阪モード学園と名古屋モード学園では 30%程度が 18 歳以上となっており、編入学での入学を含め、社会人受け入れの素地は十分に持っている（資料 10）。本学の各キャンパスは、東京都新宿区、大阪府大阪市、愛知県名古屋市といずれも都市の中心的な場所に位置しており、電車やバスなど交通の利便性が非常に高い場所に設けている。昭和 41 年に開校以降、全国より高校生や社会人を受け入れてきた実績に加え、後述する学生確保に向けた取組を徹底することで、学生確保は問題ないと考えている。

4) アンケート結果

本学は、新たに制度化された「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」であり、従来の高等教育機関とは異なる教育内容を展開する。そのため、上記で分析したこれまでの高等教育機関におけるファッション・服飾分野の動向は、現在までの状況を把握するに留まるものであり、学生確保に向けた直接的な判断材料とはならない。そこで、本学の定員充足の見通しについて、第 3 者機関に依頼のもと、平成 29 年 6 月から 7 月にかけてアンケート調査を実施した。なお、本学は高等教育機関にもっとも多い割合で入学している高校生に加え、社会に出た経験を有する 18 歳以上の者を社会人と定義し、それらの学生も広く受け入れることから、アンケートの対象は、平成 29 年度の高校 2 年生（一部、大学入学資格見込みの日本語学校在生）と、社会人とした。高校生対象のアンケートは、東京都新宿区に設置するファッションクリエイション学科とファッションビジネス学科、大阪府大阪市に設置する大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、愛知県名古屋市に設置する名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科、それぞれ地域で分けて行っている。また、社会人へのアンケートはインターネットを活用し、より現実的な受験・入学意欲を把握するため、本法人が運営する各専修学校（東京モード学園、大阪モード学園、名古屋モード学園）における地区別入学者数（資料 11）をもとに、回答者の居住地によって質問を振り分けた。なお、実施したアンケートから学部・学科の名称が変更となっているが、いずれもアンケートで使用した名称から想定できる程度の変更にとどまっており、問題ないと判断している。さらに学科名においては、ファッション学科より変更後の“ファッションクリエイション・ビ

ジネス学科”の方が、デザインだけではなくビジネス分野も学ぶという教育内容と養成する人材像に近く、広いファッション分野のなかでも、より専門職業人の養成を連想する名称となっている。各アンケートの結果は以下の通りである。(資料 12)

◆高校生対象のアンケート

i. ファッションクリエイション学科およびファッションビジネス学科

- ・有効件数：946 件
- ・実施高校数：11 校
- ・国際ファッション学部への受験意欲：104 人 (11.0%) (アンケートは国際ファッション東京学部)

そのうち、

ファッションクリエイション学科に「入学したい」：33 人

「併願先の結果によっては入学したい」：26 人

ファッションビジネス学科に「入学したい」：12 人

「併願先の結果によっては入学したい」：19 人

また、入学意欲を示した 47 人のうち、32 人が関東圏に居住する高校生

ii. 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

(アンケートは国際大阪ファッション学部ファッション学科)

- ・有効件数：634 件
- ・実施高校数：10 校
- ・国際ファッション学部への受験意欲：78 人 (12.3%)

そのうち、「入学したい」：29 人

「併願先の結果によっては入学したい」：48 人

また、入学意欲を示した 29 人のうち、25 人が近隣の府県に居住する高校生

iii. 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

(アンケートは国際名古屋ファッション学部ファッション学科)

- ・有効件数：1,362 件
- ・実施高校数：16 校
- ・国際ファッション学部への受験意欲：228 人 (16.7%)

そのうち、「入学したい」：45 人

「併願先の結果によっては入学したい」：180 人

また、入学意欲を示した 45 人すべてが、近隣の都道府県に居住する高校生

◆社会人対象のアンケート

- ・調査件数：10,000 件

・回答者の属性

調査会社に登録するモニターのうち、

- ・年齢（18歳から49歳）
- ・最終学歴（高校卒業以上）
- ・受験および入学などに関する質問については、各学部の所在地（東京都、大阪府、愛知県）と学校法人日本教育財団が運営する専門学校への入学者状況を考慮し、もっとも可能性が高いと思われる居住地を振り分け、1学部のみ概要を見せた上で回答を求めた。振り分けの詳細は以下の通り。

（本法人が運営する専修学校の都道府県別入学者状況は資料11より参照）

居住地	対象学部
北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	国際ファッション東京学部
滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	国際ファッション大阪学部
富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	国際ファッション名古屋学部

i. ファッションクリエイション学科およびファッションビジネス学科

- ・対象者数：5,866件
- ・国際ファッション学部への受験意欲：516人（8.8%）（アンケートは国際ファッション東京学部）

そのうち、

ファッションクリエイション学科に「入学したい」：220人

ファッションビジネス学科に「入学したい」：203人

（「併願先の結果によっては入学したい」：93人）

ii. 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

（アンケートは国際大阪ファッション学部ファッション学科）

- ・対象者数：2,112件
- ・国際ファッション学部への受験意欲：192人（9.1%）

そのうち、

「入学したい」：119人

「併願先の結果によっては入学したい」：73人

iii. 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

(アンケートは国際名古屋ファッション学部ファッション学科)

・対象者数：2,022件

・国際ファッション学部への受験意欲：157人(7.8%)

そのうち、

「入学したい」：97人

「併願先の結果によっては入学したい」：60人

以上が各アンケートで得られた結果であるが、各学科への「入学したい」の回答をまとめると、下表2となる。

【表2：アンケートで得られた入学意欲と入学定員の関係】

学科	入学定員	入学したい			倍率
		高校生	社会人	合計	
ファッションクリエイション学科	80人	33人	220人	253人	3.2倍
ファッションビジネス学科	38人	12人	203人	215人	5.7倍
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	38人	29人	119人	148人	3.9倍
名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	38人	45人	97人	142人	3.7倍

ファッションクリエイション学科の入学定員80人に対して3.2倍にあたる253人、ファッションビジネス学科の入学定員38人に対して5.7倍にあたる215人、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の入学定員38人に対して3.9倍にあたる148人、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の入学定員38人に対して3.7倍にあたる142人と、各学科において入学定員を上回る入学意欲を示す回答を得られたことから、本学の学生確保は十分に見通しがあると考えられる。なお、高校生へのアンケートでは、専門職大学と専門職短期大学が進路の選択肢に加わることを知っているかどうかを質問したが、いずれのアンケートでも9割程度の回答者が「2 知らなかった」と回答している。さらに、受験意欲を示さなかった高校生には、その理由について質問しているが、いずれのアンケートでも2割程度が「もっと詳しく知ったうえで検討したいから」と回答していることから、専門職大学制度への理解と、本学への認知につながる活動を、後述する学生確保に向けた取組の中で行うことで、より多くの入学希望者を見込むことができる。

また、本学は高校生・社会人別に予め受け入れ人数を想定することなく、本学の趣旨を理解し学ぶ意欲があれば多様な学生を積極的に受入れる方針であるが、入口調査の結果から、多くの社会人の入学意向があり、入学者の多様性を確保しつつ定員充足は可能と考えている。尚、参考資料として、社会人の居住地域別の調査結果（東京・大阪・名古屋の各学部の重複なし）は下表となる。

対象地域を全国とした理由は、本法人が運営する各専修学校（東京モード学園、大阪モード学園、名古屋モード学園）における地区別入学者数（資料 11）を鑑みて、全国から学生を集めている実績があるためであるが、ファッションクリエイション学科では対象地域全体（24 都道府県）から 220 名の入学意向を得られ、東京キャンパスにアクセスのよい地域（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）の居住者に限定しても、入学意向を示した人数は 129 名となり、入学定員 80 名に対して近隣地域居住者のみでも充足が可能な回答を得られている。同じくファッションビジネス学科も、アクセスのよい地域（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）の居住者に限定しても、入学意向を示した人数は 130 名（入学定員 38 名）となっている。大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科においては、大阪キャンパスにアクセスのよい地域（京都府、大阪府、兵庫県）の居住者に限定しても、入学意向を示した人数は 74 名（入学定員 38 名）、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科においては、名古屋キャンパスにアクセスのよい地域（愛知県、三重県）の居住者に限定しても、入学意向を示した人数は 59 名（入学定員 38 名）となっており、近隣地域居住者のみでも充足が可能な回答を得られている。

【社会人の居住地域別の調査結果（東京・大阪・名古屋の各学部の重複なし）】

国際ファッション東京学部 地域別配布数

項目	件数（社会人）	ファッションクリエイション学科に入学したい	ファッションビジネス学科に入学したい	併願先の結果等によっては入学したい
北海道	440	13	8	10
青森県	105	1	4	2
岩手県	68	3	2	1
宮城県	183	11	8	3
秋田県	62	1	1	0
山形県	55	2	3	0
福島県	78	6	5	2
茨城県	155	6	2	2
栃木県	120	3	2	2
群馬県	124	3	1	1
埼玉県	625	16	20	10

千葉県	556	19	22	9
東京都	1,574	66	64	31
神奈川県	854	28	24	8
新潟県	145	10	5	1
山梨県	49	2	0	1
福岡県	334	11	11	6
佐賀県	32	2	2	0
長崎県	59	5	3	1
熊本県	64	6	2	0
大分県	51	1	6	1
宮崎県	29	1	1	0
鹿児島県	45	2	4	1
沖縄県	59	2	3	1
合計	5,866	220	203	93

国際ファッション大阪学部

項目	件数（社会人）	入学したい	併願先の結果等によっては入学したい
滋賀県	92	8	2
京都府	186	10	7
大阪府	709	45	22
兵庫県	403	19	14
奈良県	93	4	2
和歌山県	41	1	0
鳥取県	29	2	0
島根県	21	0	1
岡山県	107	6	6
広島県	169	8	10
山口県	75	5	0
徳島県	42	2	5
香川県	60	6	2
愛媛県	54	2	2
高知県	31	1	0
合計	2,122	119	73

国際ファッション名古屋学部

項目	件数（社会人）	入学したい	併願先の結果等によつては入学したい
富山県	92	2	5
石川県	109	8	5
福井県	75	2	2
長野県	181	0	0
岐阜県	178	10	4
静岡県	358	9	8
愛知県	851	14	8
三重県	178	45	23
合計	2,022	97	60

※学部名称はアンケート実施当時

【資料 11 本法人の同類専修学校の地区別入学者数】より

	東京モード学園			大阪モード学園			名古屋モード学園		
	2015	2016	2017	2015	2016	2017	2015	2016	2017
北海道	5	11	13	0	0	0	1	1	0
青森	5	3	5	0	0	0	0	0	0
岩手	3	1	10	0	0	0	0	0	0
宮城	1	7	8	1	0	0	0	0	0
秋田	2	4	2	0	0	0	1	0	0
山形	0	4	5	0	0	0	0	0	1
福島	8	5	14	0	0	0	0	0	0
茨城	8	17	22	0	0	0	0	0	1
栃木	6	9	10	0	0	0	0	0	0
群馬	5	7	9	0	0	0	0	0	0
埼玉	34	27	29	0	0	0	0	0	0
千葉	24	23	30	0	0	0	0	0	0
東京	82	79	93	0	0	0	0	0	0
神奈川	48	47	72	0	0	0	0	0	0
新潟	14	4	8	0	0	0	1	0	1
富山	1	2	4	1	1	0	2	0	1

石川	8	2	4	1	3	2	2	0	1
福井	0	0	2	3	4	2	1	2	0
山梨	6	8	2	0	0	0	0	0	0
長野	5	8	11	0	2	0	1	1	2
岐阜	1	1	0	0	0	0	35	62	39
静岡	15	20	13	0	0	0	10	5	6
愛知	3	6	2	0	2	0	133	162	144
三重	2	2	2	2	0	1	19	19	23
滋賀	0	0	2	14	12	10	0	2	2
京都	2	0	2	21	11	34	0	0	0
大阪	3	1	1	68	91	88	0	0	1
兵庫	1	8	3	32	35	41	1	0	0
奈良	0	0	1	7	12	17	0	0	0
和歌山	0	2	0	5	5	3	0	0	0
鳥取	0	3	1	2	2	2	0	0	1
島根	0	0	2	2	0	3	0	0	0
岡山	6	3	1	4	6	3	0	0	1
広島	2	7	8	7	11	7	0	0	0
山口	3	4	3	2	3	3	0	0	1
徳島	1	2	0	2	1	5	0	1	0
香川	2	2	3	0	3	4	0	0	1
愛媛	1	5	2	4	6	2	0	0	1
高知	1	2	2	1	7	5	0	0	1
福岡	9	9	7	4	1	2	0	0	0
佐賀	3	1	1	1	1	1	0	0	0
長崎	1	5	1	2	0	2	1	1	0
熊本	1	2	4	1	1	0	0	0	0
大分	1	2	0	0	1	2	0	1	0
宮崎	4	2	3	0	0	0	1	0	0
鹿児島	1	9	5	2	1	1	0	0	0
沖縄	2	5	11	5	4	2	0	1	0

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、学部学科ごとに地域で競合する大学と照らし合わせ、合理的な設

定としている。ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科は、いずれも入学金 300,000 円、学費 1,250,000 円、合計 1,550,000 円に設定した。近隣において同分野の学科を設置している大学である文化学園大学服装学部ファッションクリエイション学科とほぼ同等であるが、企業と連携した実践的な教育および豊富な実習時間をカリキュラム化している専門職大学であるという点と、新宿駅前という通いやすい立地の優位さを考えると合理的であるといえる。大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、入学金 280,000 円、学費 1,230,000 円、合計 1,510,000 円に設定した。近隣において同分野の学科を設置している大学である大阪樟蔭女子大学学芸学部化粧ファッション学科の合計は 1,450,000 円であり、上記同様に専門職大学である点と立地を鑑みると合理的である。

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、入学金 250,000 円、学費 1,200,000 円、合計 1,450,000 円に設定した。近隣でファッション造形学科を持つ名古屋学芸大学の合計は 1,425,000 円とほぼ同等である。上記同様に専門職大学である点と立地を鑑みると十分合理的であるといえる。(資料 13)

②学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、本法人全体の広報・PR を行う部署である「法人本部 企画室」において、法人が持つノウハウを活かした広報活動を展開する。「ファッションを学びたい」「ファッション業界で働きたい」と思うターゲット層を広く獲得してきた既存の専門学校モード学園の実績は、本学へ入学したいと思う層の獲得に通ずるだけでなく、さらに学士を取得したいがためにモード学園ではなく大学へ入学する層の獲得も大いに可能性がある。そのため、既存のモード学園の入学担当部署との連携を密に行い、相乗効果により、学生確保を図る。

また既存のモード学園の就職担当部署とも連携を取ることで、在校生／卒業生に対するアナウンスを行い、もっとファッションを深く学びたい、グローバルに活躍する人材を目指したいという学生や、ファッション学士（専門職）を取得したいという学生へ、進路の選択肢の1つとして提示していく。

具体的な広報活動としては、開校年度は、TVCM や Web 広告等の活用により、学びたいというニーズを持つ層に対してアプローチを行い、公式 Web サイトへ誘導する。Web サイトでは毎月オープンキャンパスや個別説明会を開催し、本学の魅力をしっかりと伝えていく。

高等学校に対しては、既存のモード学園と関係性の強い高等学校において、ポスター掲出やパンフレット配布により、告知を行うとともに、入学検討者に対しては個別で相談に応じていく。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の要請に関する目的その他の教育研究所の目的（概要）

本学では、国際市場において十分な競争力を発揮できるデザイン能力のある人材育成に加え、地方産地を中心としたテキスタイルの生産体制の刷新、国内市場の活性化、グローバルな販売網の創出を担うマネジメント人材の育成を目的としている。これにより、日本文化の発信に寄与する「日本ブランド」の創設を目指す。

ファッションクリエイション学科では、日本独自のファッション感覚、日本の美意識を基礎としたデザイン力を養う。日本の美意識は、季節による生活の変化と南北に異なる地域の多様性が相まって、多様な衣食住のスタイルと衣服の意匠を生んできた。これらの生活意識や美意識をファッションを通じて再現し、日本の伝統技術の単なる継承からファッション知財を創出することを目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い情報発信体制も構築する。これにより、海外発信能力のあるクリエイターを育成する。

ファッションビジネス学科では、ファッションクリエイション学科と同様に日本の美意識に基づいたファッション感覚の醸成、国際競争力のある新しいファッション知財の創出を手掛ける。メディアの活用は、上記のファッションクリエイション学科と共通である。この学科は、デザインされた制作物の販売網の開拓、ブランドの構築を通じて、国際ビジネス市場において通用するプロデューサーの育成を目指す。地域連携事業としては、産地との連携を視野に入れる。

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科と名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は上記ファッションクリエイション学科とファッションビジネス学科を統合した学科として設置する。この2学科においては大阪と名古屋、それぞれ立地の背後にある織物産地の産業再生、地方経済創生を実践的な教育の中核に据え、クリエイター、プロデューサーの育成を目的とする。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ア 外部資料に基づく人材需要の見込み

本学の目的は上記①の通りで、国際市場において十分な競争力を発揮できるデザイン能力のある人材の育成に加え、国内市場の活性化、グローバルな販売網の創出を担うマネジメント人材を育成する。

経済産業省の『ファッション業況調査及びクールジャパンのトレンドセッティングに関する波及効果・波及経路の分析（平成25年度）（資料14）』によると、我が国のファッション関連市場（衣類、靴、美容品、アクセサリ）は、20.2兆円であった2002年から緩やかな縮小傾向となっており、約10年後の2013年には18.0兆円となっている。また、2020年の見通しは18.9兆円で多少の成長が予測されているものの、国内におけるファッション

市場の成長は鈍化している状況である。その一方で、主要国におけるファッション市場規模は、2013年の206兆円から2020年には325兆円へ成長すると予測され、特に中華圏は2013年の50兆円規模から、2020年までに約60兆円も拡大し、113兆円と世界最大の市場へ成長することが見込まれている。

我が国の繊維産業の輸出割合は、世界の主要国と比べて極めて低い状況で、2012年の輸出99億ドルに対して輸入は433億ドルと、貿易赤字は334億ドルとなっている（資料15 主要国の繊維品貿易）。この輸出入の差は2007年以降、拡大傾向となっており、これを縮小させるためには、成長機会のある海外市場への進出が必要となっている。上記の経済産業省の『ファッション業況調査及びクールジャパンのトレンドセッティングに関する波及効果・波及経路の分析（平成25年度）（資料14）』によると、国内主要アパレル企業における海外進出は、一部の企業を除いて、まだ進んでいない状況であることから、今後成長が見込まれる海外市場において能力を発揮できるファッション分野の専門職業人材の養成は、同分野における我が国の成長において重要であり、需要は増えると考えられる。

海外市場開拓に向けて想定できる有力な手段の1つとして、国境を越えた電子商取引（以下、越境EC）が挙げられる。経済産業省の『我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査）平成28年度（資料16）』によると、我が国の「衣類・服飾雑貨等」のEC化率は2016年時点で10.93%、市場規模は1.5兆円で、2015年の9.04%、1.3兆円と比較すると、拡大傾向にある。続いて、日本・米国・中国における越境ECの状況をみると、過去1年間の越境EC経験者の割合は、米国31%、中国26%と比べ、日本は5%と低い割合となっている。しかしながら、越境ECによる購入先を国別でみると、米国消費者の購入先は中国が42%ともっとも多く、日本は5%であり、中国消費者の購入先は米国27%に次いで日本が18%と2番目に多く、両国の市場において更なる成長の可能性を秘めている。また、越境EC利用における売れ筋商品として、「アパレル/靴/アクセサリ」がいずれの国でも1位となっており、海外市場開拓に向けた基礎的な条件は決して悪いものではないと言える。このように、国内のファッション市場を海外へ流通させることは、我が国の経済活性化にもつながるため、本学のファッションビジネス学科で育成する、グローバルな販売網の創出を担う人材は、我が国において貢献できると考えられる。

また、経済産業省が平成22年6月に公表した『「文化産業」立国に向けてー文化産業を21世紀のリーディング産業にー（資料17）』によると、ファッションを含む文化産業は日本経済を牽引する可能性が大きく、ソフトパワーとして日本産業全体の海外展開の大きな力となるとしている。特にファッションは食や観光、映画、家電などその他の分野に広がりを出せる可能性もあり、文化産業を通じて「日本の良さ」を世界に浸透させることで経済に大きく寄与することができると考えられる。文化産業の海外展開については、様々なプロフェッショナルな人材を結集させ、強いチームとして挑む必要があるが、とりわけ文化産業の源泉となる「日本の良さ」を理解して、それを表現することができ、かつグローバル化に対応できるクリエイターの人材育成は急務である。本学のファッションクリエイション学科

では、日本独自のファッション感覚、日本の美意識を基礎としたデザイン力を養い、海外発信能力のある人材を育成することから、今後のファッション産業において需要が増すと考えられる。

さらに、内閣府による『未来投資戦略 2017（資料 18）』において、日本の文化芸術資源を活用した経済活性化を目指すことが挙げられており、文化芸術資源を活用した新たな需要やイノベーションを創出できる人材の育成・確保を挙げている。また、これら文化芸術資源の活用は、地域産品の販路拡大や訪日外国人の増加など、地方創生に繋がることも挙げられている。例えば、着物や織物産業を始め、ファッション分野における日本の伝統工芸は消滅寸前に追い込まれている状況で、このような染め、織物産業に蓄積された日本文化の資産価値を再認識し、継承、発展させ、新たな需要を生み出すことができれば、我が国の経済活性化並びに地域創生に大きく寄与することができる。本学では、日本文化を繊維産業の発展、デザインの面から学び、各キャンパスの立地に即した地場産業と連携することで、日本文化を肌で感じさせる教育を行い、日本の美意識に基づいたファッション感覚をもち、国内外に通用する人材育成を行うことで、我が国の様々な面で貢献して行く。

イ 本法人が運営する同類専修学校の就職状況

下表（表 3）は、本法人が運営する同類専修学校 3 校（東京モード学園、大阪モード学園、名古屋モード学園）における、過去 2 年間の就職状況である（詳細は資料 19）。

東京モード学園は 2016 年度（2017 年 3 月）卒業者数 349 人で、就職希望者は 261 人いた。そのうち、就職決定者は 261 人で、希望者就職率は 100%であった。大阪モード学園、名古屋モード学園も希望者就職率は 100%であり、前年度の 2015 年度（2016 年 3 月）卒業者も同様にいずれの専修学校において希望者就職率は 100%であった。

【表 3：本法人が運営する同類専修学校の就職状況】

専修学校	東京モード学園		大阪モード学園		名古屋モード学園	
	2016	2015	2016	2015	2016	2015
卒業者数	349	284	182	168	156	180
希望就職者数	261	212	162	150	147	168
就職決定者	261	212	162	150	147	168
希望者就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

本法人は昭和 41 年に名古屋モード学園を開校以来、国内のファッション及びデザイン業界の中核となる即戦力人材の育成を行ってきた。また、特色ある教育内容や海外の高等教育機関との連携事業を実施するなどの努力により、希望者就職率 100%を 10 年連続で実現してきた。今回設置する本学と既設の専修学校では目的、養成する人材、教育内容などで違いがあるため、上記の状況はあくまで参考として扱うが、本法人としては学生のキャリアに対

する考え方は同様であり、本学で学んだ学生についても、キャリアの支援を継続して行っていく。

ウ 第3者機関実施による企業等へのアンケート調査

本学で養成する人材が、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを確認するため、平成29年7月から8月にかけて、ファッション関連企業の採用担当者へのアンケート調査を第3者機関依頼のもと、実施した。なお、アンケートは東京都新宿区に設置するファッションクリエイション学科とファッションビジネス学科、大阪府大阪市に設置する大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、愛知県名古屋市に設置する名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科とキャンパスごとに実施している。なお、実施したアンケートでは学部・学科の名称が異なっているものの、いずれもアンケートで使用した名称から想定できる程度の変更に留まっているため、問題はないと判断している。各アンケートの結果は以下の通りである。

◆ファッションクリエイション学科およびファッションビジネス学科

- ・調査件数：124件（送付件数174件、回収率71.3%）

※そのうち、東京都に所在する企業98件（79.0%）

- ・回答者の属性

選択項目	回答数	構成比
ファッションブランド企画・製造・販売	83	66.9%
アパレル生産(OEM/ODM含む)	21	16.9%
テキスタイル企画・製造・卸	3	2.4%
ファッション小売	12	9.7%
コンサルティング・PR・プレス	0	0.0%
その他	5	4.0%
計	124	100.0%

「国際ファッション専門職大学（仮称）」が養成する人材への興味について質問したところ、「1 大いに興味がある」に74件（59.7%）、「2 やや興味がある」に47件（37.9%）が回答し、合計で97.6%にあたる121件の企業より興味を示す回答が得られた。

次に、学科ごとの採用意欲について質問したところ、ファッションクリエイション学科を卒業する学生に対して、「1 採用したい」に58件（46.8%）、「2 採用を検討したい」に40件（32.3%）が回答し、合計で79.0%にあたる98件より採用意欲を示す回答が得られた。この採用意欲を示した98件の企業には、採用可能と思われる人数の記述を求めたが、合計で147人と、入学定員80人を上回る回答が得られた。

ファッションビジネス学科も同様に、卒業する学生に対して、「1 採用したい」に65件（52.4%）、「2 採用を検討したい」に39件（31.5%）が回答し、合計で83.9%にあたる

104 件より採用意欲を示す回答が得られた。この採用意欲を示した 104 件の企業には、採用可能と思われる人数の記述を求めたが、合計で 312 人と、入学定員 38 人（編入学定員 2 人）を大きく上回る回答を得られた。

選択項目	ファッションクリエイション学科	ファッションビジネス学科
採用したい	58	65
採用を検討したい	40	39
採用意欲の合計	98	104
採用可能な人数	147 人	312 人

なお、いずれの学科においても、「4 採用しない」への回答は 0 件であることから、本学で養成する人材は、ファッション関連企業が求めている人材と相違ないことを表していると考えられる。(資料 20)

◆大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

(アンケートは国際ファッション大阪学部ファッション学科)

- ・調査件数：49 件（送付件数 388 件、回収率 12.6%）

※そのうち、大阪府に所在する企業 31 件（63.3%）

- ・回答者の属性

選択項目	回答数	構成比
ファッションブランド企画・製造・販売	31	63.3%
アパレル生産(OEM/ODM 含む)	11	22.4%
テキスタイル企画・製造・卸	1	2.0%
ファッション小売	4	8.2%
コンサルティング・PR・プレス	0	0.0%
その他	2	4.1%
計	49	100.0%

「国際ファッション専門職大学（仮称）」が養成する人材への興味について質問したところ、「1 大いに興味がある」に 26 件（53.1%）、「2 やや興味がある」に 19 件（38.8%）が回答し、合計で 91.8%にあたる 45 件の企業より興味を示す回答が得られた。

次に、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科（アンケートでは国際ファッション大阪学部ファッション学科）の採用意欲について質問したところ、「1 採用したい」に 19 件（38.8%）、「2 採用を検討したい」に 24 件（49.0%）が回答し、合計で 87.8%にあたる 43 件より採用意欲を示す回答が得られた。この採用意欲を示した 43 件の企業には、採用可

能と思われる人数の記述を求めたが、合計で 263 人と、入学定員 38 人（編入学定員 2 人）を上回る回答を得られた。なお、人数の記述には「10 人」「30 人」「50 人」と比較的規模の大きい人数の回答も多かったが、これを除いても 63 人となり、入学定員を上回る結果となっている。（資料 21）

◆名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科（アンケートは国際ファッション名古屋学部ファッション学科）

- ・調査件数：76 件（送付件数 215 件、回収率 35.3%）
 - ※そのうち、愛知県に所在する企業 43 件（56.6%）
- ・回答者の属性

選択項目	回答数	構成比
ファッションブランド企画・製造・販売	34	44.7%
アパレル生産(OEM/ODM 含む)	29	38.2%
テキスタイル企画・製造・卸	9	11.8%
ファッション小売	0	0.0%
コンサルティング・PR・プレス	0	0.0%
その他	3	3.9%
無回答	1	1.3%
計	76	100.0%

「国際ファッション専門職大学（仮称）」が養成する人材への興味について質問したところ、「1 大いに興味がある」に 29 件（38.2%）、「2 やや興味がある」に 41 件（53.9%）が回答し、合計で 92.1%にあたる 70 件の企業より興味を示す回答が得られた。

次に、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科（アンケートでは国際ファッション名古屋学部ファッション学科）の採用意欲について質問したところ、「1 採用したい」に 19 件（25.0%）、「2 採用を検討したい」に 42 件（55.3%）が回答し、合計で 80.3%にあたる 61 件より採用意欲を示す回答が得られた。この採用意欲を示した 61 件の企業には、採用可能と思われる人数の記述を求めたが、合計で 107 人と、入学定員 38 人（編入学定員 2 人）を上回る回答を得られた。（資料 22）

各アンケートの結果の通り、多くのファッション関連企業より、各学科を卒業した学生に対する採用したい意向を持っていることが確認できた。さらに、このアンケートは、各学科の所在地に適した地域を中心に実施・回収していることから、地域からの需要を表していると考えられる。

以上から、本学が養成する人材は、社会的、地域的に求められている人材であり、卒業後の需要に問題はないと考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類 資料目次

- 資料 1 私立大学・短期大学等入学志願動向 日本私立学校振興・共済事業団
- 資料 2 近隣に所在する同類分野における 4 年制大学の志願者動向
- 資料 3 18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移 文部科学白書
- 資料 4 服飾・家政関係における専修学校の入学者状況 学校基本調査
- 資料 5 18 歳人口の将来推計
- 資料 6 本法人の同類専修学校の募集状況
- 資料 7 本法人の同類専修学校における同分野学科の定員充足率
- 資料 8 社会人の学び直しに関する状況等について 文部科学省
- 資料 9 個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について（答申） 中央教育審議会
- 資料 1 0 本法人の同類専修学校入学者における 18 歳以上の割合
- 資料 1 1 本法人の同類専修学校の地区別入学者数
- 資料 1 2 国際ファッション専門職大学（仮称）設置構想に係るニーズアセスメント調査ご報告書
【学生の確保の見通しに関するアンケート調査（入口調査）】
- 資料 1 3 学費の比較
- 資料 1 4 ファッション業況調査及びクールジャパンのトレンドセッティングに関する波及効果・波及経路の分析（平成 25 年度） 経済産業省
- 資料 1 5 主要国の繊維品貿易 日本化学繊維協会の繊維ハンドブックより
- 資料 1 6 我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査）平成 28 年度 経済産業省
- 資料 1 7 「文化産業」立国に向けてー文化産業を 21 世紀のリーディング産業にー 経済産業省
- 資料 1 8 未来投資戦略 2017 内閣府
- 資料 1 9 本法人の同類専修学校の就職状況
- 資料 2 0 国際ファッション専門職大学 国際ファッション東京学部（仮称）設置構想に係るニーズアセスメント調査ご報告書【卒業生の人材需要の見込みに関するアンケート調査（出口調査）】
- 資料 2 1 国際ファッション専門職大学 国際ファッション大阪学部（仮称）設置構想に係るニーズアセスメント調査ご報告書【卒業生の人材需要の見込みに関するアンケート調査（出口調査）】
- 資料 2 2 国際ファッション専門職大学 国際ファッション名古屋学部（仮称）設置構想に係るニーズアセスメント調査ご報告書【卒業生の人材需要の見込みに関するアンケート調査（出口調査）】

【資料1】 私立大学「家政学系」学部の入学志願動向

年度	平成23(2011)年	平成24(2012)年	平成25(2013)年	平成26(2014)年	平成27(2015)年	平成28(2016)年	平成29(2017)年
学部数	68	68	69	72	73	75	77
入学定員	14,746	14,729	15,048	15,413	15,911	16,386	16,961
志願者	75,099	72,511	83,524	81,097	78,182	78,959	77,566
受験者	73,379	70,694	81,338	78,834	75,808	75,980	74,617
合格者	27,902	28,001	30,091	30,962	32,428	32,594	33,080
入学者	15,846	15,440	16,264	15,707	16,245	16,252	16,655
志願倍率	5.09	4.92	5.55	5.26	4.91	4.82	4.57
合格率	38.02	39.61	37.00	39.27	42.78	42.90	44.33
歩留率	56.79	55.14	54.05	50.73	50.10	49.86	50.35
充足率	107.46	104.83	108.08	101.91	102.10	99.18	98.20

出典：日本私立学校振興・共済事業団 『平成24(2012)～29(2017)年度私立大学・短期大学等入学志願動向』より

【資料2】近隣に所在する同類分野における4年制大学の志願者動向（一般＋センター利用入試の合計）

大学名	学部名	学科名	所在地	入学定員	志願者					合格者				
					2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
大妻女子	家政	被服	東京都千代田区	110	233	285	320	306	281	107	119	108	99	117
共立女子	家政	被服	東京都千代田区	90	166	169	244	321	346	96	96	124	148	137
杉野服飾	服飾	被服	東京都品川区	200	106	非	非	非	非	103				
多摩美術	美術	生産デザイン (テキスタイルデザイン)	東京都八王子市	42	308	284	236	172	215	62	66	65	66	50
東京家政	家政	服飾美術	東京都板橋区	175	644	601	554	571	463	237	227	250	297	270
東京造形	造形	デザイン (テキスタイルデザイン)	東京都八王子市	285	156	103	98	124	122	58	51	45	51	46
日本女子	家政	被服	東京都文京区	92	449	376	341	407	425	119	125	129	135	108
文化学園	現代文化	国際ファッション文化	東京都渋谷区	120	49	30	65	74	75	42	26	56	54	25
文化学園	服飾	ファッションクリエイション	東京都渋谷区	300	197	121	141	124	125	116	77	111	96	87
文化学園	服飾	ファッション社会	東京都渋谷区	140	159	118	90	91	108	87	77	64	57	58
女子美術	芸術	アートデザイン表現 (ファッションテキスタイル表現)	東京都杉並区	30	48	47	34	37	39	47	24	25	35	36
平均				144.0	228.6	213.4	212.3	222.7	219.8	97.6	88.8	97.7	103.8	93.4

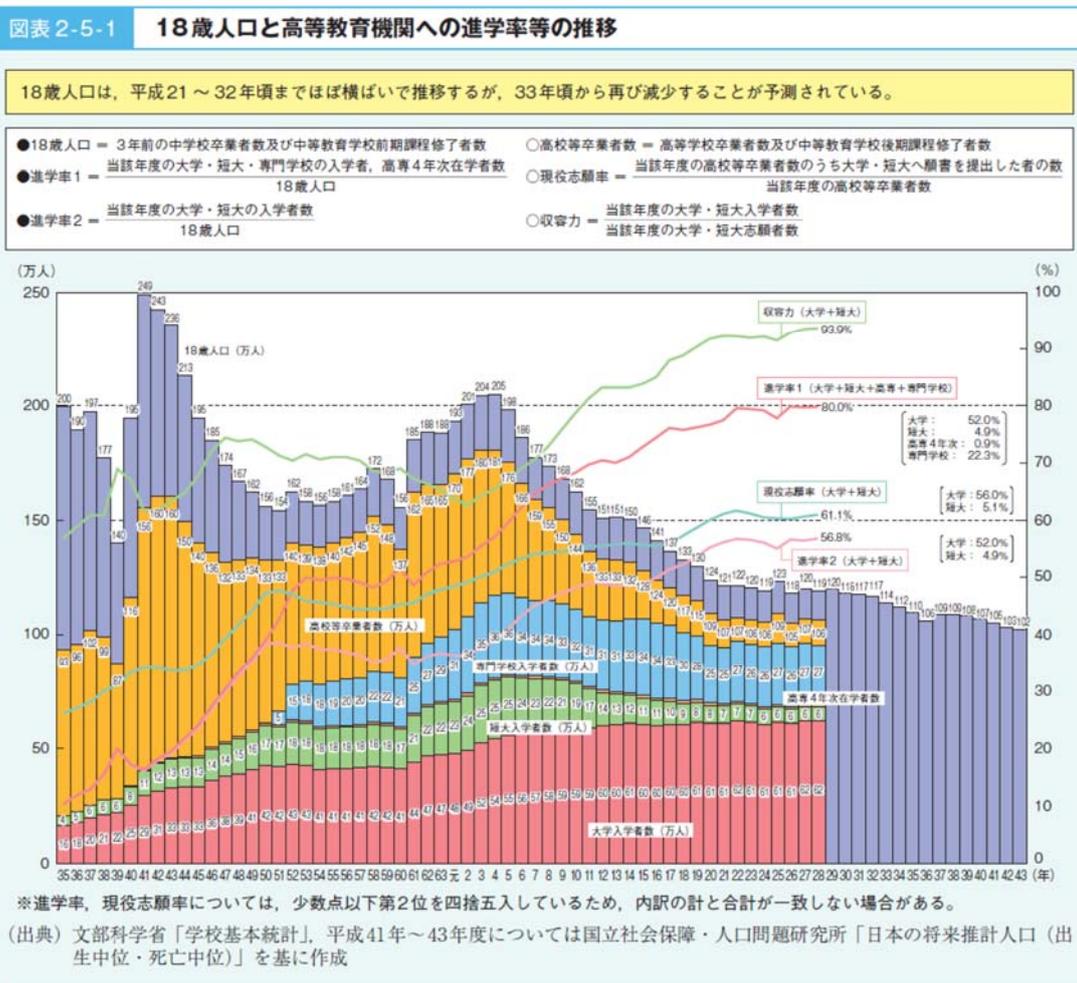
※デザイン全体

大学名	学部名	学科名	所在地	入学定員	志願者					合格者				
					2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
京都精華	ポピュラーカルチャー	ファッション	京都市左京区	118	18	11	14	13	12	14	7	10	8	11
京都造形芸術	芸術	美術工芸学科 (染色テキスタイルコース)	京都市左京区	170	26	21	29	10	22	18	15	11	7	非
京都造形芸術	芸術	空間演出デザイン (ファッションデザイン)	京都市左京区	60	26	19	32	17	33	9	11	7	12	非
大阪樟蔭	学芸	化粧ファッション (ファッション)	大阪府東大阪市	60	29	25	42	21	20	28	25	36	20	17
神戸女子	家政	家政	神戸市須磨区	80	488	410	438	260	286	136	164	163	93	104
神戸松蔭女子学院	人間科学	ファッション・ハウジングデザイン	神戸市灘区	60	164	137	160	126	64	124	101	121	99	37
神戸芸術工科大学	芸術工	ファッションデザイン	神戸市西区	50	19	21	19	18	10	10	12	12	8	4
平均				85.4	110.0	92.0	104.9	66.4	63.9	48.4	47.9	51.4	35.3	34.6

大学名	学部名	学科名	所在地	入学定員	志願者					合格者				
					2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
名古屋学芸	メディア造形	ファッション造形	愛知県日進市	60	206	109	110	158	87	53	49	18	21	22
金城学院	生活環境	環境デザイン	名古屋市守山区	80	326	305	326	319	278	107	171	143	143	155
平均				70.0	266.0	207.0	218.0	238.5	182.5	80.0	110.0	80.5	82.0	88.5

出典：河合塾 ガイドラン2013～2017より

【資料3】 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移



出典：文部科学省 文部科学白書 2016 より

【資料4】服飾・家政関係における専修学校の入学者状況(専門課程のみ)

区分	入学志願者					入学者				
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
服飾・家政関係全体	9,285	9,634	8,194	8,382	8,632	7,720	8,099	7,202	7,267	7,725
家政	1,222	1,265	864	755	125	364	369	282	269	89
家庭	62	2	2	—	—	35	2	2	—	—
和洋裁	6,289	6,375	5,513	5,123	5,722	5,814	5,942	5,177	4,817	5,176
料理	232	331	272	222	188	210	279	259	212	178
編物・手芸	352	256	146	269	326	266	209	134	227	251
ファッションビジネス	1,028	1,307	1,282	1,886	2,166	936	1,202	1,235	1,622	1,935
その他	100	98	115	127	105	95	96	113	120	96

出典: 学校基本調査 専修学校学科別入学状況(平成24年度～平成28年度)より

【資料5】18歳人口の将来推計

		H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	H35 2023	H36 2024	H37 2025	H38 2026	H39 2027	増加率 (H29→ H39)
全国	人数	1179142	1157040	1148550	1121922	1101956	1080488	1045414	1071926	1073211	1065061	1050107	89.1%
	割合	100.0	98.1	97.4	95.1	93.5	91.6	88.7	90.9	91.0	90.3	89.1	
南関東	人数	305538	304756	304371	300343	297118	291963	283749	292781	295269	293857	292869	95.9%
	割合	100.0	99.7	99.6	98.3	97.2	95.6	92.9	95.8	96.6	96.2	95.9	
埼玉	人数	65,547	65,474	65,598	64,356	63,284	63,141	61,584	63,195	63,003	62,170	61,971	94.5%
	割合	100.0	99.9	100.1	98.2	96.5	96.3	94.0	96.4	96.1	94.8	94.5	
千葉	人数	55,334	55,425	55,145	54,668	53,556	54,345	52,109	53,498	53,437	53,069	52,031	94.0%
	割合	100.0	100.2	99.7	98.8	96.8	98.2	94.2	96.7	96.6	95.9	94.0	
東京	人数	105,011	104,543	104,375	103,204	102,797	96,794	94,460	98,564	100,626	101,131	102,298	97.4%
	割合	100.0	99.6	99.4	98.3	97.9	92.2	90.0	93.9	95.8	96.3	97.4	
神奈川	人数	79,646	79,314	79,253	78,115	77,481	77,683	75,416	77,524	78,203	77,487	76,569	96.1%
	割合	100.0	99.6	99.5	98.1	97.3	97.5	94.7	97.3	98.2	97.3	96.1	
東海	人数	147,713	146,924	145,387	143,448	140,094	138,361	133,227	137,164	137,429	136,068	134,276	90.9%
	割合	100.0	99.5	98.4	97.1	94.8	93.7	90.2	92.9	93.0	92.1	90.9	
岐阜	人数	20,705	20,491	20,071	20,006	19,397	18,808	18,307	18,617	18,322	18,219	17,634	85.2%
	割合	100.0	99.0	96.9	96.6	93.7	90.8	88.4	89.9	88.5	88.0	85.2	
静岡	人数	35,474	35,245	35,096	34,638	33,860	33,393	31,995	32,747	33,097	32,290	31,743	89.5%
	割合	100.0	99.4	98.9	97.6	95.5	94.1	90.2	92.3	93.3	91.0	89.5	
愛知	人数	73,737	73,336	72,722	71,397	70,078	69,597	67,091	69,482	69,862	69,519	69,107	93.7%
	割合	100.0	99.5	98.6	96.8	95.0	94.4	91.0	94.2	94.7	94.3	93.7	
三重	人数	17,797	17,852	17,498	17,407	16,759	16,563	15,834	16,318	16,148	16,040	15,792	88.7%
	割合	100.0	100.3	98.3	97.8	94.2	93.1	89.0	91.7	90.7	90.1	88.7	
近畿	人数	199,755	196,913	194,829	190,045	185,384	181,841	175,667	179,434	179,213	178,062	174,332	87.3%
	割合	100.0	98.6	97.5	95.1	92.8	91.0	87.9	89.8	89.7	89.1	87.3	
滋賀	人数	14,411	14,310	14,530	14,358	13,996	13,891	13,378	13,907	13,760	13,830	13,646	94.7%
	割合	100.0	99.3	100.8	99.6	97.1	96.4	92.8	96.5	95.5	96.0	94.7	
京都	人数	24,120	24,091	23,640	23,093	22,683	21,848	21,704	21,969	21,782	21,608	21,131	87.6%
	割合	100.0	99.9	98.0	95.7	94.0	90.6	90.0	91.1	90.3	89.6	87.6	
大阪	人数	83,783	82,868	81,714	79,426	77,338	76,028	72,825	74,485	74,581	74,017	72,648	86.7%
	割合	100.0	98.9	97.5	94.8	92.3	90.7	86.9	88.9	89.0	88.3	86.7	
兵庫	人数	53,797	52,957	52,183	51,374	49,879	49,885	48,095	49,104	49,165	49,100	47,841	88.9%
	割合	100.0	98.4	97.0	95.5	92.7	92.7	89.4	91.3	91.4	91.3	88.9	
奈良	人数	13,949	13,917	13,450	12,954	12,863	12,090	11,784	12,036	11,975	11,533	11,434	82.0%
	割合	100.0	99.8	96.4	92.9	92.2	86.7	84.5	86.3	85.8	82.7	82.0	
和歌山	人数	9,695	9,490	9,312	8,840	8,625	8,099	7,881	7,933	7,950	7,974	7,632	78.7%
	割合	100.0	97.9	96.0	91.2	89.0	83.5	81.3	81.8	82.0	82.2	78.7	

出典：文部科学省 学校基本調査より

出典：リクルート総研 18歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向 2016より

【資料6】本法人同類専修学校の募集状況

年度	東京モード学園				大阪モード学園				名古屋モード学園			
	2014	2015	2016	2017	2014	2015	2016	2017	2014	2015	2016	2017
入学者総数	395	435	520	635	221	217	243	278	178	222	275	229

【資料7】本法人の同類専修学校における同分野学科の定員充足率(学校基本調査より算出)

		2015			2016			2017		
		定員	入学者数	充足率	定員	入学者数	充足率	定員	入学者数	充足率
東京モード学園	ファッションデザイン学科(4年制)	30	30	100.00%	30	41	136.67%	30	33	110.00%
	ファッションデザイン学科(3年制)	30	49	163.33%	30	57	190.00%	30	60	200.00%
	ファッションビジネス学科(3年制)	30	11	36.67%	30	18	60.00%	30	9	30.00%
	ファッションビジネス学科(2年制)	30	33	110.00%	30	32	106.67%	30	62	206.67%

大阪モード学園	ファッションデザイン学科(4年制)	30	14	46.67%	30	24	80.00%	30	26	86.67%
	ファッションデザイン学科(3年制)	30	31	103.33%	30	19	63.33%	30	27	90.00%
	ファッションビジネス学科(3年制)	30	13	43.33%	30	8	26.67%	30	6	20.00%
	ファッションビジネス学科(2年制)	30	9	30.00%	30	11	36.67%	30	12	40.00%

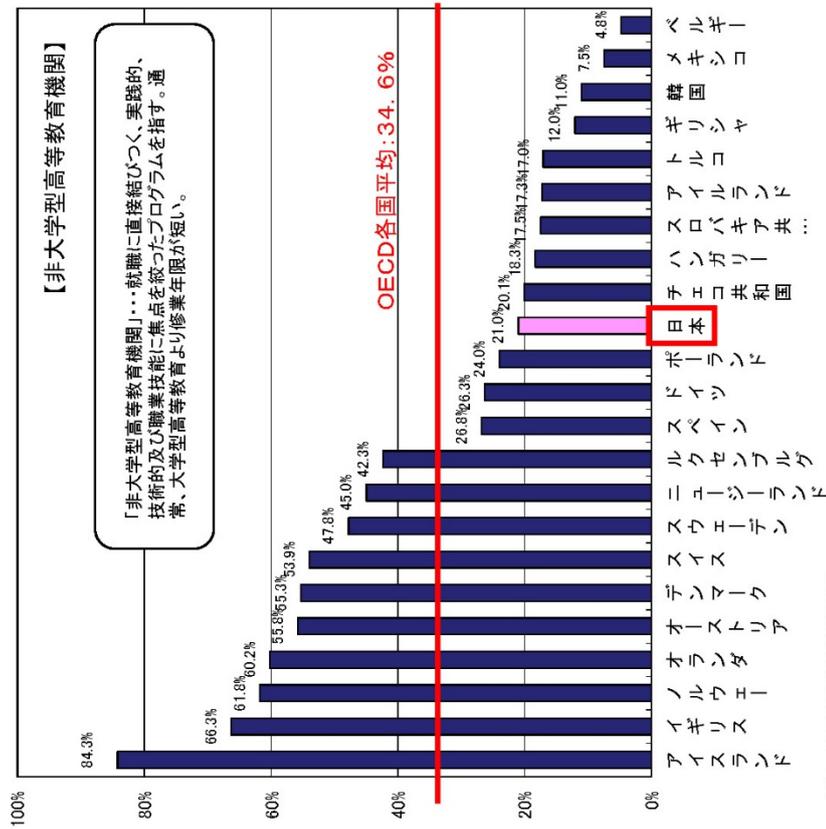
名古屋モード学園	ファッションデザイン学科(4年制)	30	15	50.00%	30	21	70.00%	30	14	46.67%
	ファッションデザイン学科(3年制)	30	11	36.67%	30	30	100.00%	30	24	80.00%
	ファッションビジネス学科(3年制)	なし								
	ファッションビジネス学科(2年制)	30	26	86.67%	30	23	76.67%	30	21	70.00%

高等教育機関への進学における25歳以上の入学者の割合（国際比較）

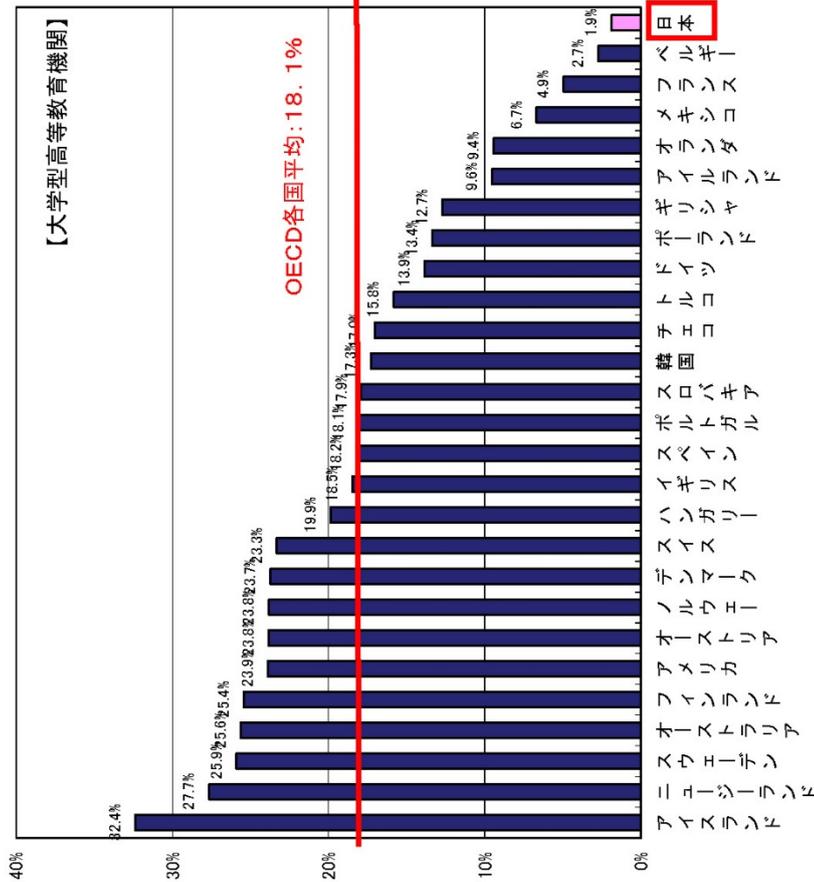
就業を目的とする高等教育機関への入学者のうち25歳以上の割合は、OECD各国平均約3.5割に達し、社会人学生も相当数含まれる一方、日本人の社会人学生比率は約21%と低い。

大学入学者のうち25歳以上の割合は、OECD各国平均約2割に達し、社会人学生も相当数含まれる一方、日本人の社会人学生比率は1.9%と低い。

25歳以上の入学者の割合の国際比較（2012年）



出典：非大学型高等教育機関
「OECD Stat Extracts (2012)」(日本の数値は「学校基本調査」及び文部科学省調べによる社会人学生数(短期大学及び専修学校(専門課程))



出典：大学型高等教育機関
「OECD Stat Extracts (2012)」(日本の数値は「学校基本調査」と文部科学省調べによる社会人学生数(4年制大学))

【資料9】 個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と室保証の在り方について(答申)

- しかしながら、現状として、我が国の大学等における社会人受入れは、世界の水準と比較してまだ低調である。25歳以上の大学入学者の割合は、OECD(経済協力開発機構)各国の平均が約18%であるのに対し、我が国の大学(4年制)の社会人学生比率は約2%であり^{*1}、各国中最低の水準にある。ただし、こうした中にあっても、専門学校については、社会人の受入れが多い^{*2}。

2. 職業教育の課題と求められる対応

- 我が国の職業教育については、次のような課題が生じている。これらの課題は、以前より指摘され、これまでも対策が重ねられつつ、なお課題として残っているもの、あるいは、今日の経済社会状況の中で新たに生じてきているものであり、既存の枠組みを超えた対応による解決が望まれる。

(1) 職業教育に対する社会全体の認識に関する課題と対応

- 我が国では、社会全体を通じ職業教育に対する認識が不足しており、とすれば、普通教育より職業教育が、学問の教育より職業技能の教育が一段低く見られ、大学(特に、選抜性の高い大学)に進学すること自体を評価する社会的風潮があると言われる。
- これまでも、初等中等教育におけるキャリア教育の充実や進路指導の改善などを通じ、職業的自立に向け、適切な進路を選び取る力を身に付けさせる取組が進められているが、上述の風潮は、いまだに根強く存在している。その背景には、職業についての専門性という概念が固定的で柔軟性を欠くものとして捉えられがちなことや、「ある時点での専門分野・職業分野の選択は、その後の進路を制限することになる」と考え、これを忌避したいとする意識があるとも指摘される。
- こうした意識への対応も視野に入れつつ、卓越した技能等を磨いて職業生活を営むことを目指すスペシャリスト志向の若者、専門職業人としての自立とキャリア発展に将来を見出した若者等にとって魅力ある進学先となる、実践的な職業教育に最適化したより工夫された仕組みを創設し、その社会的評価を高めていくことが望まれる。
- これにより、職業教育に対する社会の意識にも変化をもたらすとともに、高校生の卒業後の進路選択においても、将来の生き方・働き方を見据えた選択が促される契機となることが期待される。ひいては、大学教育のユニバーサル化^{*3}の流れも進む中で、後期中等教育から高等教育までにわたり、職業能力修得に向けた進路選択の道が明確となり、スペシャリストを目指す若者が、自己の能力を最大限に発揮して、キャリアを切り拓いていく上での目標を与えられるような仕組みが構築されることが望まれる。

*1 「OECD Stat Extracts(2012)」。日本の数値については、社会人特別選抜による入学者など社会人学生の比率であり、「学校基本統計」及び文部科学省調べによる。

*2 平成26年度において、私立専修学校の専門課程における生徒数588,888人(文部科学省学校基本統計)のうち、社会人の受入れは、63,902人となっている(文部科学省「私立高等学校等実態調査」)。

*3 米国の社会学者マーチン・トロウは、高等教育への進学率が15%を超えると、高等教育はエリート段階からマス段階へ移行するとし、さらに、進学率が50%を超える高等教育をユニバーサル段階と呼んでいる。

(2) 高等教育における課題と対応

① これからの経済社会を担う職業人養成のための課題と対応

- 第1章で見たように、我が国の産業競争力の維持・強化のためには、経済のサービス化・ソフト化等の動向も踏まえつつ、成長分野等で求められる実践的な専門職業人材の育成を推進する必要がある。例えば、平成23年答申の際の委託調査による推計では、福祉、IT・情報サービス、コンテンツ、観光等の分野で相当量の人材ニーズがあると推計されている^{*1}。
- 一方、産業構造の転換等のスピードもますます速くなる中では、変化に対応しつつ、現場レベルでの改善・革新の牽引役を担うことのできる人材を養成することが重要となっている。これら人材が、事業・実務を担う専門人材全体を先導していくことにより、我が国の労働生産力全般の底上げにもつながっていくものと考えられる。
- 近年の高等教育改革の流れを見ると、平成20年の中央教育審議会答申^{*2}は、大学等の学士課程共通の学修成果(「学士力」)に関する参考指針を示し、「学士力」の主要な柱となる「汎用的技能」や「態度・志向性」等の中に、職業生活でも必要とされる様々な力を位置付けている。また、平成24年答申^{*3}では、これからの時代に培うべき「学士力」として、答えのない問題に解を見い出していく能力や、チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う能力、想定外の困難に際しての的確な判断の基盤となる教養、知識、経験などを育成するために、主体的な学修を促す学士課程教育の質的転換を推進すべきとしている。
- 他方で、職業人材養成をめぐる課題を改めて見たとき、現行の大学・短期大学は、幅広い教養教育と学術の成果に基づく専門教育の中で職業教育を行うものとされ、職業実践知に基づく技能の教育については、制度上、明確な位置付けがないままとなっている。一方、技能教育に強みを持つ専門学校は、制度的自由度の高さの裏面として、質保証の面で課題がある。このような中、大学等の既卒者が職業に必要な能力を身に付けるため専門学校に再入学したり^{*4}、大学等の現役学生が資格取得等を目指し、いわゆる「ダブルスクール」で学んだりしている状況もある。専門職業人養成のより一層の強化に向け、我が国の高等教育体系の中にも、職業教育の機能をより積極的に位置付け、その役割の明確化を図ることが求められる。
- 今後求められるのは、自己の職業分野における高度な専門技能等を備えると同時に、変化への対応等に必要な基礎・教養や、理論にも裏付けられた実践力等を兼ね備えた質の高い専門職業人の層を確保していくことであり、このような人材の養成のためには、技能と学問の双方の教育を融合し、強化した仕組みが必要と考えられる。新たな仕組みにより、変化に対応し、自らの職業能力を継続的に高めていくための基礎(伸びしろ)とともに、高等教育の

*1 株式会社三菱総合研究所「我が国の企業等における中堅人材の人材ニーズに関する調査研究」(平成22年2月)

*2 「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(平成20年12月 中央教育審議会)

*3 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」(平成24年8月 中央教育審議会)

*4 平成26年度の専門学校入学者(264,255人)のうち約7.2%(19,127人)は、大学、短期大学又は高等専門学校の既卒者が占めている。

修了・入職時点で、専門的な業務を担うことのできる実践的な能力を身に付けた人材を送り出していくことが重要である。

- 現行の大学等が、自らの判断で、技能教育との融合を進め、それらの人材養成を推進していくことも可能ではある。しかし、こうした教育への取組について、各大学等の判断に委ね、事実上の取組を待つのみでは、職業の多様化、流動化や地域の需要への対応などの社会の要請に迅速に responding していく上では十分と言えない状況となっている¹⁾。また、学問的な体系性を基盤とすることを重視した大学教育のみで、そうした需要の全てに対応することには限界もあると考えられる²⁾。これらのことを踏まえれば、職業実践知の教育に軸を置きつつ、学術知の教育にまで至る、実践的な職業教育に最適化した高等教育機関を新たに創設して対応することが、効果的と考えられる。

② 社会人の学び直し環境に関する課題と対応

- 変化の激しい社会を生きる職業人が、自らのキャリアを主体的に切り拓いていくため、また、一人一人のスキルアップを通じ、我が国産業全体の生産性と競争力を高めていくためにも、職業生活と学習活動とを往還し、又は同時に営みながら、知識・技能等の修得・更新を図ることのできる、社会人の学び直し環境を整備していくことが、重要となっている。特に、女性の社会参加・仕事復帰を支援していく上で、様々なライフステージを通じた学び直し機会の充実は、重要な課題となる。
- これまでも、昼夜開講制や長期履修生、遠隔授業の制度化等により、大学等における社会人学生の受入れを推進してきたが、その受入れの水準はなお低調である。こうした状況の背景としては、学習目的にあった教育プログラムの不在や、職業との両立・時間の確保の問題、また、このような学修の成果に対する企業等の評価の問題といった点があることも指摘されている。一方、専門学校における社会人の受入れは、大学等に比べ進んでおり、我が国の高等教育の中に、そうした強みを拡げていくことが望まれる。
- これらを踏まえ、企業等とも連携して、学び直しニーズに積極的に対応し、職業人等がアクセスしやすい、社会人のための高等教育機関の整備が求められる。

*1 例えば、単位認定を行う授業科目として実施されているインターンシップ(特定の資格取得に関係するものを除く。)に参加した経験のある学生の割合は、大学で2.6%、短期大学で4.4%である。そのうち、その実施期間が3週間未満であった者の割合は、大学生で87.2%、短期大学生で89.6%を占めている(独立行政法人日本学生支援機構「平成26年度大学等におけるインターンシップ実施状況に関する調査」)。

また、平成24年度間に新規採用された大学等教員のうち、民間企業等出身者が占める割合は、大学教員で13.7%、短期大学教員で28.3%となっている(文部科学省「学校教員統計調査(平成25年度)」)。

*2 例えば、経済産業省が社会人を対象に実施した「職務と出身学部・学科の対応に関する実態・意識等の分析」に係る調査結果によれば、最終学歴となった教育機関において「業務をする上で役立つ学びを学べたか」等の質問に肯定的な回答をした者の割合が、高等専門学校や専門学校に比べ、大学で低い傾向が見られた(経済産業省委託「産業構造変化と産業人材育成のあり方について」調査報告書(平成24年3月))。

また、経済団体の調査からは、企業の大学教育に対するニーズと、大学が教育面で特に注力していることとの間のギャップとして、特に、「理論に加えて、実社会とのつながりを意識した教育を行う」という点での隔たりが大きい実態が見られる(日本経団連「企業の求める人材像についてのアンケート結果」(平成16年11月))。

(3) 専門職業人養成の強化等に向けて

- 以上のように、(1)及び(2)に示した職業教育の課題に対応していくための新たな高等教育機関の制度化を図ることが求められていると言える。当該機関には、質の高い実践的な職業教育を提供するための独自の基準や、人材需要に即応した教育を機動的に行うための枠組み、社会人が学びやすい仕組み等を整備するものとし、こうした教育を行うことを制度的にも義務付けられた機関として明確化を図ることにより、我が国の高等教育における社会が求める専門職業人養成の機能を、より高めていく役割を担うものとするのが適当である。
- 新たな機関の制度化は、我が国の高等教育における職業教育の位置付けを明確化し、多様化した高等教育進学者に対し、アカデミックな教育と並んで、専門職業人養成に最適化した新しい教育の選択肢を与えるものとなる。初等中等教育段階の児童生徒に対しても、職業・社会への移行に向けた具体的な進路のイメージを明示し、とりわけ、スペシャリスト志向の若者に魅力ある選択肢を提供するとともに、既存の高等教育機関に向けても新たな職業教育のモデルを示すなど、機能別分化・多様化^{*1}を通じた高等教育全体の発展へとつなげるものとする必要がある。
- 大学等や専門学校の実践的な職業教育プログラムに対する認定等の仕組み^{*2}も活用するなど、既存の各高等教育機関が、今後もそれぞれの強みと特性を活かした職業教育の推進を図るとともに、技能と学問の双方の教育を行うことを明確にし、技能の教育に強みを持った新たな高等教育機関を加えることにより、それらが相まって、我が国の職業人材養成の格段の強化が図られることを期待したい。

*1 後期中等教育段階における中高一貫教育の制度化なども含まれる「教育目的別系統性を特徴とする多様化の進行した学校体系」(『現代教育用語事典』天城勲、奥田真丈、吉本二郎編 1973年 第一法規出版)にするとの意味で、複線化の語が使用されることもある。

*2 平成25年度には、企業等との連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専修学校専門課程を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する制度が創設されるとともに、平成27年度には、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定する「職業実践力育成プログラム」が創設された。

第三章 新たな高等教育機関の制度化の方向性

- 我が国の高等教育においては、いつの時代にも、質の高い職業人の養成が主要な課題の一つとされてきたところであり、高等教育における職業教育・キャリア教育に関しては、これまでも様々な充実方策が講じられてきている^{*1}。しかしながら、第Ⅱ章で見たように、既存の高等教育機関の取組だけでは、なお十分対応し切れていない課題があり、それらの課題に適切に対応するよう設計された、新しい高等教育機関の構想が待たれる。
- このことについては、平成23年1月の中央教育審議会答申で提言され、その後更に、教育再生実行会議の第5次提言(平成26年7月)や第6次提言(平成27年3月)、新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議の審議のまとめ(平成27年3月)でも提言が重ねられ、本審議会における制度化の検討に至ったものである。
- 本章では、こうしたこれまでの議論の経緯も踏まえつつ、新たな高等教育機関の制度化の方向性として、養成すべき人材像及び推進すべき教育の特性の明確化を図るとともに、当該機関の学校体系上の位置付けについて、基本的な考え方を整理する。

1. 養成すべき人材像

- 新たな機関は、技能と学問の双方を結び付けた教育を行う高等教育機関として、職業教育の高度化と魅力向上、産業・就業構造の転換や職業の盛衰等への対応、我が国の産業競争力の強化と地方創生への貢献などを視野に入れつつ、求められる人材の養成を推進していくことが期待される。
- 新たな高等教育機関は、こうした要請に応えるよう、変化の激しい時代を主体的に生きる実践的な職業人の養成を強化するものとならなければならない。ここで養成すべき人材像としては、当該人材に期待する将来的なキャリアパス等の目標も含め、次のような人材を目指すことが重要である。
 - ① 企業等の中で果たす役割から見た人材像
- 新たな高等教育機関は、専門職業人の生産性向上、競争力強化に貢献することを役割としており、とりわけ、当該機関の教育においては、専門職業人のうちでも、その専門性をもって、企業等の現場レベルでの改善・革新を牽引していく層の養成・資質向上等に主な重点を置くこととなる。
- このような人材は、専門性が求められる職業を担うスペシャリストとして、理論にも裏打ちされた、優れた技能等を強みに、企業等における事業・実務の主力を担うとともに、例えば、次のような側面から、事業活動における新たな価値の創造を先導する役割を担うことができる人材として、その活躍が期待されるものである。

*1 章末 「《参考》 我が国の高等教育段階の職業教育に関する制度的経緯」(16頁)参照。

【新たな機関で養成する人材に（将来的に）期待する役割】^{*1}

※ 企業等の活動の次のような側面を先導する者となることを期待

- 生産・サービスの現場で中核的な役割を担う人材等として
 - ・生産・サービスの工程の改善やこれを通じた生産性の向上
 - ・高度な技能や洗練された技術・ノウハウによる優れた商品・サービスの提供など
- その専門性をもって、自ら事業を営み、又はこれを補佐する人材として
 - ・新たな付加価値の創造、これを活かした新しい商品・サービスの考案
 - ・新規事業の創出、強みのある製品・サービスを活かした新規市場の開拓など

- 新たな高等教育機関では、高等学校からの進学者など職業への移行前の若者や、キャリアアップ、キャリア変更を希望する社会人学生等を対象に実践的な職業教育を行い、それら学生が、課程修了・入職後の実務経験等を経て、将来的に上記のような人材へと成長していくための基盤となる資質能力を育むこと、又はより直接的に必要な知識・技能等を受けることが期待される。

② 個々の職業人としての観点から見た人材像

- これからの職業人は、産業・就業構造の転換や職業の盛衰など、変化の激しい経済社会の中で、自立した職業人として、積極的・能動的に、自己のキャリア形成を図っていくことを、ますます求められるようになる。新たな高等教育機関では、生涯にわたる職業生活を通じ、社会経済の変化に対応しつつ、継続的にスキルアップを図りながら、自らのキャリアを主体的に切り拓いていける人材を養成することが、特に重要になると考えられる。

③ 我が国経済社会の中で果たす役割から見た人材像

- 新たな機関で養成強化を図る人材は、各人が、上記のような形で事業活動・職業生活を営むことを通じ、我が国の経済成長を支え、あるいは、地域の発展にも貢献することとなる。これらの人材が、事業の現場を先導していくことにより、事業・実務を担う専門人材全体の底上げに資するとともに、そのことが、我が国産業の生産性を押し上げ、あるいは、地域の強みを活かした産業の振興等にもつながるものと期待される。

2. 推進すべき教育

- 新たな高等教育機関の教育では、企業等で求められる実践性を身に付けさせるため、特定の職業分野における専門性の陶冶と、専門性の枠に止まらないより広い基礎・教養の涵養とを、同時に実現する必要がある。また、技能の教育と学問の教育の双方を結び付けることにより、新たな職業教育のモデルを構築していくことも期待される。

*1 成長分野等で求められる人材例としては、例えば、IT分野で、新たなアイデアの構想・提案等も行うプログラマーやCGデザイナー等、観光分野で、接客のプロとして活躍するとともに、現場におけるサービス向上の先導役を果たす人材、農業分野で、農産物を生産しつつ、直売、加工品開発等の事業も手掛け、高付加価値化、販路拡大等を先導する人材などが考えられる。

- 新たな機関は、このような観点から、次のような教育機能を総合的に担うものとなる必要がある。
 - ・ 専門職業を担うための高度で実践的な技能を育成し、産業構造・人材需要の変化に対応した人材養成を行う
 - ・ 実践力を裏付ける理論面への理解を深化させたり、変化する状況の中、知識・技能や教養を結び付けて課題解決につなげる総合力を養う
 - ・ 幅のある基礎力や、職業人に必要な教養を育むとともに、職業の高度化等に対応した学びを、生涯にわたり継続するための基礎を培う
 - ・ キャリア・アップやキャリア変更、職場復帰等を目指す社会人のための多様な学び直し機会を提供する

3. 大学体系への位置付け

- 新たな高等教育機関については、教養や理論にも裏付けられた実践力を育成するものであること等を踏まえれば、大学体系の一部を成す機関として、その制度の設計を図り、従来の大学と同等の評価を得られるようにすることが適切である。
- 「大学」については、国際的な共通概念が存在しており、大学体系の機関は、学術に基づく理論の教育や教養教育を行うことを特徴とするほか、高等教育機関のうち学位授与権を持つものは、基本として大学体系の機関に限られる。大学体系に位置付けることは、こうした世界の大学の標準的な在り方を踏まえることとなり、当該機関の国際通用性を高めることにつながる。さらには、我が国の高等教育の多様な発展に資するとともに、学生の将来にとっても有益であって、保護者等のニーズ・期待にも応えることとなる。とりわけ、多様な学生集団による質の高い教育を展開するため、優秀な外国人留学生の獲得を目指す等の場合には、その修了により学位を得られるようにすることが非常に重要となるものと考えられる。
- 諸外国においても、実践的な職業教育を志向する高等教育機関を大学体系の一部に位置付けたり、職業志向の学位課程を創設したりするなどの制度改正等が、それぞれの国の実情に応じた形で進んできており、我が国もその実情を踏まえた制度化を図るべき時期に来ていると考えられる。

《参考》高等教育段階の職業教育に関する諸外国の動向

<イギリス> 実学重視のポリテクニクが大学へ昇格し(1992年)、「新大学」へ移行するとともに、「新大学」の修了者には「学士」の学位を授与することとされた。

中等教育後の職業教育から高等教育までを行う継続教育カレッジ等の2年課程修了者に対し、大学から学位(ファウンデーションディグリー)を授与する制度が創設された(2001年)。その後さらに、継続教育カレッジ自身が勅許を受け、自ら学位を授与する機関となることも可能となった(2007年)。

<フランス> 大学の付設機関である技術短期大学部(IUT)や、リセの付設機関である中級技術者養成課程(STS)等の2年の課程を修了した後、さらに、大学における1年の課程を修了することにより、「職業リサンス」の国家免状と「学士」の学位を取得する課程が導入された(2000年)。

【資料10】本法人の同類専修学校入学者における18歳以上の割合

	東京モード学園				大阪モード学園				名古屋モード学園			
	2014	2015	2016	2017	2014	2015	2016	2017	2014	2015	2016	2017
18歳以下	202	211	270	294	149	146	162	176	126	157	196	170
19歳	31	38	42	62	20	15	20	26	10	14	12	19
20歳	37	44	49	67	11	13	16	21	5	12	10	8
21歳	19	26	29	43	10	13	10	10	8	4	7	11
22歳	22	34	33	37	8	10	6	7	7	6	15	2
23歳以上	84	82	97	132	23	20	29	38	22	29	35	19
合計	395	435	520	635	221	217	243	278	178	222	275	229

【資料11】本法人の同類専修学校の地区別入学者数

	東京モード学園			大阪モード学園			名古屋モード学園		
	2015	2016	2017	2015	2016	2017	2015	2016	2017
北海道	5	11	13	0	0	0	1	1	0
青森	5	3	5	0	0	0	0	0	0
岩手	3	1	10	0	0	0	0	0	0
宮城	1	7	8	1	0	0	0	0	0
秋田	2	4	2	0	0	0	1	0	0
山形	0	4	5	0	0	0	0	0	1
福島	8	5	14	0	0	0	0	0	0
茨城	8	17	22	0	0	0	0	0	1
栃木	6	9	10	0	0	0	0	0	0
群馬	5	7	9	0	0	0	0	0	0
埼玉	34	27	29	0	0	0	0	0	0
千葉	24	23	30	0	0	0	0	0	0
東京	82	79	93	0	0	0	0	0	0
神奈川	48	47	72	0	0	0	0	0	0
新潟	14	4	8	0	0	0	1	0	1
富山	1	2	4	1	1	0	2	0	1
石川	8	2	4	1	3	2	2	0	1
福井	0	0	2	3	4	2	1	2	0
山梨	6	8	2	0	0	0	0	0	0
長野	5	8	11	0	2	0	1	1	2
岐阜	1	1	0	0	0	0	35	62	39
静岡	15	20	13	0	0	0	10	5	6
愛知	3	6	2	0	2	0	133	162	144
三重	2	2	2	2	0	1	19	19	23
滋賀	0	0	2	14	12	10	0	2	2
京都	2	0	2	21	11	34	0	0	0
大阪	3	1	1	68	91	88	0	0	1
兵庫	1	8	3	32	35	41	1	0	0
奈良	0	0	1	7	12	17	0	0	0
和歌山	0	2	0	5	5	3	0	0	0
鳥取	0	3	1	2	2	2	0	0	1
島根	0	0	2	2	0	3	0	0	0
岡山	6	3	1	4	6	3	0	0	1
広島	2	7	8	7	11	7	0	0	0
山口	3	4	3	2	3	3	0	0	1
徳島	1	2	0	2	1	5	0	1	0
香川	2	2	3	0	3	4	0	0	1
愛媛	1	5	2	4	6	2	0	0	1
高知	1	2	2	1	7	5	0	0	1
福岡	9	9	7	4	1	2	0	0	0
佐賀	3	1	1	1	1	1	0	0	0
長崎	1	5	1	2	0	2	1	1	0
熊本	1	2	4	1	1	0	0	0	0
大分	1	2	0	0	1	2	0	1	0
宮崎	4	2	3	0	0	0	1	0	0
鹿児島	1	9	5	2	1	1	0	0	0
沖縄	2	5	11	5	4	2	0	1	0

国際ファッション専門職大学（仮称）
設置構想に係るニーズアセスメント調査
ご報告書

【学生の確保の見通しに関するアンケート調査（入口調査）】

平成 29 年 8 月

株式会社高等教育総合研究所

目次

第1章	開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケートの結果	
	＜調査対象学部：国際ファッション東京学部 対象：高校生＞	
1-1	調査の概要	1
1-2	全質問項目の集計結果	2
1-3	入学意欲の分析	6
第2章	開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケートの結果	
	＜調査対象学部：国際ファッション大阪学部 対象：高校生＞	
2-1	調査の概要	9
2-2	全質問項目の集計結果	10
2-3	入学意欲の分析	13
第3章	開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケートの結果	
	＜調査対象学部：国際ファッション名古屋学部 対象：高校生＞	
3-1	調査の概要	15
3-2	全質問項目の集計結果	16
3-3	入学意欲の分析	19
第4章	インターネットアンケートの結果	
4-1	調査の概要	21
4-2	全質問項目の集計結果	23
4-3	入学意欲の分析	29
まとめ		
	全調査結果からみた「国際ファッション専門職大学（仮称）」の定員確保の見通し	32
添付資料（実施したアンケート用紙）		
	【調査1】開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙 （調査対象学部：国際ファッション東京学部）	
	【調査2】開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙 （調査対象学部：国際ファッション大阪学部）	
	【調査3】開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙 （調査対象学部：国際ファッション名古屋学部）	
	【調査4】インターネットアンケートの実施画面	

第1章

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケートの結果

<調査対象学部：国際ファッション東京学部>

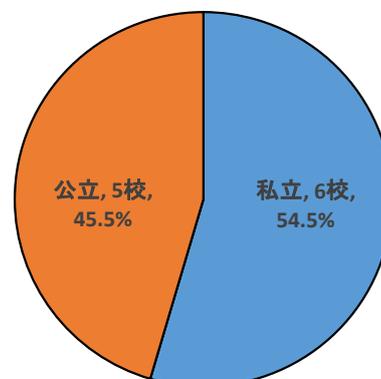
1-1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置を構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション東京学部（仮称）」の学生確保の見通しについて、アンケートを用いて測ることを目的とする。
- ◆調査期間：平成29年6～7月
- ◆調査対象：平成31年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、平成29年度の高校2年生をアンケートの対象とした。
- ◆調査方法：学校法人日本教育財団が運営する東京モード学園への入学実績がある高等学校17校にアンケートを送付。各高校の教員が監督のもと、アンケートを実施した。なお、送付した17校のうち、11校より回答を得た。
- ◆調査内容：アンケート項目は全8問で、居住地を除き、全て選択肢式とした。主な質問内容は、以下の通り。
 - 『回答者の基本情報（性別・居住地）について』
 - 『回答者の高校卒業後の希望進路について』
 - 『「国際ファッション東京学部（仮称）」への受験・入学意欲について』
- ◆有効件数：946件（回収件数 976件 / 有効件数率 96.9%）
- ◆実施高校：本アンケートに協力いただいた11校の詳細は以下の通り。

1. 所在地別の実施高校数

所在地	公立	私立	合計
茨城県	1校	1校	2校
東京都		2校	2校
神奈川県		2校	2校
長野県	2校		2校
愛知県		1校	1校
福岡県	1校		1校
熊本県	1校		1校
合計	5校	6校	11校
割合	45.5%	54.5%	100.0%

2. 設置者別の実施高校数



1-2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

2～5 ページは、アンケートで回答を得た 946 人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

Q1 あなたの性別、居住の都道府県、学校(学年)について教えてください

性別

番号	選択項目	回答数	構成比
	男性	262	27.7%
	女性	684	72.3%
	計	946	100.0%

居住地

番号	選択項目	回答数	構成比
	茨城県	99	10.5%
	栃木県	1	0.1%
	埼玉県	15	1.6%
	千葉県	3	0.3%
	東京都	388	41.0%
	神奈川県	71	7.5%
	長野県	129	13.6%
	岐阜県	12	1.3%
	静岡県	1	0.1%
	愛知県	42	4.4%
	三重県	1	0.1%
	福岡県	148	15.6%
	熊本県	36	3.8%
	計	946	100.0%

学校(学年)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	高校(2年生)	946	100.0%
2	日本語学校・その他	0	0.0%
	計	946	100.0%

Q2 2019年度から国の施策により、大学制度の中で専門職業人を養成する新しい高等教育機関として「専門職大学」と「専門職短期大学」が、進路の選択肢に加わることを知っていましたか
(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	知っていた	115	12.2%
2	知らなかった	826	87.3%
	無回答	5	0.5%
	計	946	100.0%

Q3 「専門職大学」には右記のような特色があります。興味・関心がある項目はどれですか
(いくつでも○)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 946 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大学制度の中でも、今までにない新しい高等教育機関であること	146	15.4%
2	自分の好きな分野を学び、学んだ分野での就職を目指せること	713	75.4%
3	実習・演習の科目が多く、目指す職種の実践的な能力を身につけられること	412	43.6%
4	目指す職種の実務経験を持つ、多くの実務家教員から学べること	198	20.9%
5	実践力と同時に、そのための理論や関連分野の知識も学べること	132	14.0%
6	大学卒業者として文部科学大臣が定める学位を授与されること	109	11.5%
	無回答	29	3.1%

Q4 高校卒業後の進路として現段階で検討しているのはどれですか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大学／専門職大学へ進学	306	32.3%
2	短期大学／専門職短期大学へ進学	77	8.1%
3	専門学校へ進学	251	26.5%
4	就職・アルバイト	105	11.1%
5	まだ決まっていない(検討中である)	186	19.7%
6	その他	12	1.3%
	無回答	9	1.0%
	計	946	100.0%

Q5 「国際ファッション専門職大学(仮称)」には右記のような特長があります。興味・関心がある項目はどれですか(いくつでも○)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 946 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	就職に役に立つ高い実践力と知識・教養が同時に身につくこと	548	57.9%
2	キャンパスが新宿駅前で通学に便利であること	221	23.4%
3	学費が妥当であること	215	22.7%
4	母体となる法人が 50 年以上の教育と就職の実績を築いていること	54	5.7%
5	海外と連携して国際的な実践力を育むカリキュラムが豊富であること	261	27.6%
	無回答	58	6.1%

Q6 あなたは「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験したいと思いますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	104	11.0%
2	受験しない	816	86.3%
	無回答	26	2.7%
	計	946	100.0%

Q6で、「受験したい」を選択した 104 人が回答対象である。

「受験したい」と回答した方は、設置を予定する学科のうち受験したい学科を 1 つ選択してください (1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	ファッションクリエイション学科	64	61.5%
2	ファッションビジネス学科	33	31.7%
	無回答	7	6.7%
	計	104	100.0%

以下のQ7は、Q6で「受験したい」を選択した 104 人が回答対象である。

Q7 Q6で選択した学科について、受験し合格した場合、入学したいと思いますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	入学したい	47	45.2%
2	併願先の結果によっては入学したい	49	47.1%
	無回答	8	7.7%
	計	104	100.0%

以下のQ8は、Q6で「受験しない」を選択した 816 人が回答対象である。

Q8 Q6で「受験しない」と回答した方は、その理由を選んでください(いくつでも○)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 816 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	希望する分野の学部・学科・コースがないから	369	45.2%
2	他の学校への進学を希望しているから	316	38.7%
3	これまでの大学との違いが分からないから	31	3.8%
4	もっと詳しく知ったうえで検討したいから	180	22.1%
5	その他	62	7.6%
	無回答	15	1.8%

1-3 入学意欲の分析

本調査は学校法人日本教育財団が運営する専門学校のうち、国際ファッション専門職大学（仮称）と同分野・同地域の専門学校への進学実績がある高校に在籍している高校 2 年生を対象としたアンケート調査であり、946 人より回答を得た。

946 人のうち、27.7%（262 人）が男性、72.3%（684 人）が女性となっている。居住地は 41.0%にあたる 388 人が回答した「東京都」がもっとも多く、次いで「福岡県」の 148 人（15.6%）、「長野県」の 129 人（13.6%）、「茨城県」の 99 人（10.5%）が多い構成となっている。

回答者 946 人に対して進路の選択肢に専門職大学と専門職短期大学が加わることについて知っているか否かを質問したところ、グラフ 1 が示す通り、「知っていた」に 115 人（12.2%）、「知らなかった」に 826 人（87.3%）が回答した。

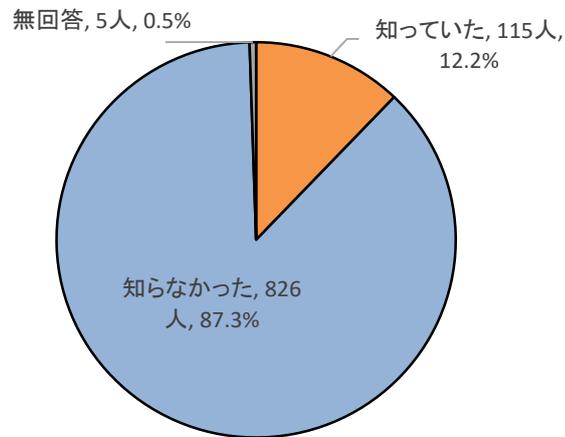
Q6 にて「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション東京学部への受験意欲を質問しており、グラフ 2 が示す通り、「受験したい」に 11.0%にあたる 104 人が回答し、受験意欲を示した。なお、「受験したい」と回答した 104 人においては、受験を希望する学科を選択してもらっており、64 人が「ファッションクリエイション学科」、33 人が「ファッションビジネス学科」を選択した（無回答が 7 人）。

「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション東京学部を受験意欲を示した 104 人には、Q7 にて合格した場合の入学意欲について質問したところ、45.2%にあたる 47 人が「入学したい」と回答し、入学意欲を示した。なお、学科別の入学意欲については、表 3 が示す通りで、「ファッションクリエイション学科」に「入学したい」に 33 人、「併願先の結果によっては入学したい」に 26 人が回答している。「ファッションビジネス学科」には「入学したい」に 12 人、「併願先の結果によっては入学したい」に 19 人が回答しており、それぞれの学科で一定の入学意欲を示す回答を得られた。

また、「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション東京学部に入學意欲を示した 47 人と居住地の回答をクロス集計したところ、表 4 が示す通り、入学意欲を示した 47 人のうち、関東圏（茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）に居住する高校生が 32 人であることから、通学が現実的な地域に居住する高校生より、入学意欲を示す回答が一定数得られた。

以上、本調査における「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション東京学部への入学意欲について、「ファッションクリエイション学科」の入学定員 80 人に対して 33 人、「ファッションビジネス学科」の入学定員 40 人に対して 12 人がそれぞれ入学したいと回答しており、「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション東京学部への入学意欲を示す回答を得られた。

グラフ1 「専門職大学」・「専門職短期大学」の認知（Q2の結果より）



グラフ2 「国際ファッション専門職大学（仮称）」への受験意欲（Q6の結果より）

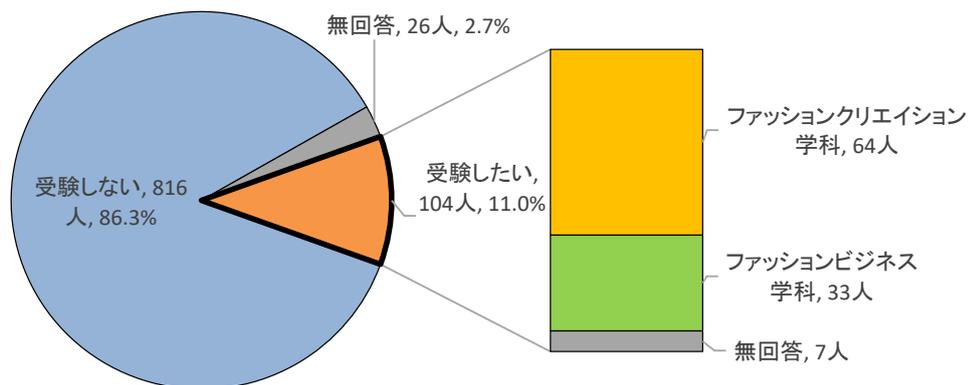


表3 学科別・「国際ファッション専門職大学（仮称）」への入学意欲（Q7×Q6結果より）

選択項目	入学したい	併願先の結果によっては入学したい	無回答
ファッションクリエイション学科	33人	26人	5人
ファッションビジネス学科	12人	19人	2人
無回答	2人	4人	1人
合計	47人	49人	8人

表4 居住地別・「国際ファッション専門職大学（仮称）」への入学意欲（Q7×Q1結果より）

選択項目	入学したい	併願先の結果によっては入学したい
茨城県	5人	9人
栃木県	0人	0人
埼玉県	1人	1人
千葉県	1人	0人
東京都	24人	19人
神奈川県	1人	2人
長野県	4人	3人
岐阜県	2人	0人
静岡県	0人	0人
愛知県	2人	1人
三重県	0人	0人
福岡県	5人	11人
熊本県	2人	3人
合計	47人	49人

第2章

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケートの結果

<調査対象学部：国際ファッション大阪学部>

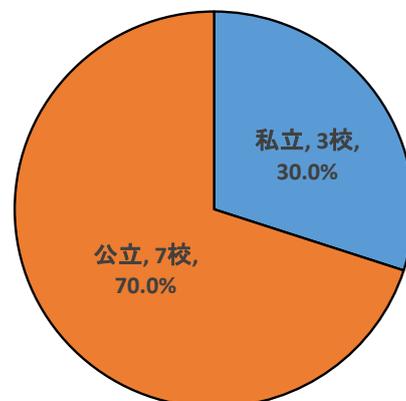
2-1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置を構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション大阪学部（仮称）」の学生確保の見通しについて、アンケートを用いて測ることを目的とする。
- ◆調査期間：平成29年6～7月
- ◆調査対象：平成31年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、平成29年度の高校2年生をアンケートの対象とした。
- ◆調査方法：学校法人日本教育財団が運営する大阪モード学園への入学実績がある高等学校13校にアンケートを送付。各高校の教員が監督のもと、アンケートを実施した。なお、送付した13校のうち、10校より回答を得た。
- ◆調査内容：アンケート項目は全8問で、居住地を除き、全て選択肢式とした。主な質問内容は、以下の通り。
 - 『回答者の基本情報（性別・居住地）について』
 - 『回答者の高校卒業後の希望進路について』
 - 『「国際ファッション大阪学部（仮称）」への受験・入学意欲について』
- ◆有効件数：634件（回収件数 670件 / 有効件数率 94.6%）
- ◆実施高校：本アンケートに協力いただいた10校の詳細は以下の通り。

1. 所在地別の実施高校数

所在地	公立	私立	合計
大阪府	3校		3校
兵庫県		2校	2校
岡山県	3校	1校	4校
沖縄県	1校		1校
合計	7校	3校	10校
割合	70.0%	30.0%	100.0%

2. 設置者別の実施高校数



2-2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

10～12 ページは、アンケートで回答を得た 634 人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

Q1 あなたの性別、居住の都道府県、学校(学年)について教えてください

性別

番号	選択項目	回答数	構成比
	男性	205	32.3%
	女性	429	67.7%
	計	634	100.0%

居住地

番号	選択項目	回答数	構成比
	大阪府	122	19.2%
	兵庫県	277	43.7%
	岡山県	174	27.4%
	沖縄県	61	9.6%
	計	634	100.0%

学校(学年)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	高校(2年生)	634	100.0%
2	日本語学校・その他	0	0.0%
	計	634	100.0%

Q2 2019年度から国の施策により、大学制度の中で専門職業人を養成する新しい高等教育機関として「専門職大学」と「専門職短期大学」が、進路の選択肢に加わることを知っていましたか (1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	知っていた	61	9.6%
2	知らなかった	565	89.1%
	無回答	8	1.3%
	計	634	100.0%

Q3 「専門職大学」には右記のような特色があります。興味・関心がある項目はどれですか（いくつでも○）

- ※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。
- ※ 構成比は、回答者 634 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大学制度の中でも、今までにない新しい高等教育機関であること	82	12.9%
2	自分の好きな分野を学び、学んだ分野での就職を目指すこと	492	77.6%
3	実習・演習の科目が多く、目指す職種の実践的な能力を身につけられること	300	47.3%
4	目指す職種の実務経験を持つ、多くの実務家教員から学べること	140	22.1%
5	実践力と同時に、そのための理論や関連分野の知識も学べること	105	16.6%
6	大学卒業者として文部科学大臣が定める学位を授与されること	80	12.6%
	無回答	29	4.6%

Q4 高校卒業後の進路として現段階で検討しているのはどれですか（1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大学／専門職大学へ進学	141	22.2%
2	短期大学／専門職短期大学へ進学	34	5.4%
3	専門学校へ進学	169	26.7%
4	就職・アルバイト	155	24.4%
5	まだ決まっていない(検討中である)	123	19.4%
6	その他	3	0.5%
	無回答	9	1.4%
	計	634	100.0%

Q5 「国際ファッション専門職大学(仮称)」には右記のような特長があります。興味・関心がある項目はどれですか（いくつでも○）

- ※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。
- ※ 構成比は、回答者 634 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	就職に役に立つ高い実践力と知識・教養が同時に身につくこと	338	53.3%
2	キャンパスが大阪駅前に通学に便利であること	187	29.5%
3	学費が妥当であること	152	24.0%
4	母体となる法人が 50 年以上の教育と就職の実績を築いていること	49	7.7%
5	海外と連携して国際的な実践力を育むカリキュラムが豊富であること	179	28.2%
	無回答	61	9.6%

Q6 あなたは「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験したいと思いますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	78	12.3%
2	受験しない	537	84.7%
	無回答	19	3.0%
	計	634	100.0%

以下のQ7は、Q6で「受験したい」を選択した 78 人が回答対象である。

Q7 「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	入学したい	29	37.2%
2	併願先の結果によっては入学したい	48	61.5%
	無回答	1	1.3%
	計	78	100.0%

以下のQ8は、Q6で「受験しない」を選択した 537 人が回答対象である。

Q8 Q6で「受験しない」と回答した方は、その理由を選んでください(いくつでも○)

- ※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。
- ※ 構成比は、回答者 537 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	希望する分野の学部・学科・コースがないから	228	42.5%
2	他の学校への進学を希望しているから	173	32.2%
3	これまでの大学との違いが分からないから	30	5.6%
4	もっと詳しく知ったうえで検討したいから	126	23.5%
5	その他	87	16.2%
	無回答	11	2.0%

2-3 入学意欲の分析

本調査は学校法人日本教育財団が運営する専門学校のうち、国際ファッション専門職大学（仮称）と同分野・同地域の専門学校への進学実績がある高校に在籍している高校 2 年生を対象としたアンケート調査であり、634 人より回答を得た。

634 人のうち、32.3%（205 人）が男性、67.7%（429 人）が女性となっている。居住地は 43.7%にあたる 277 人が回答した「兵庫県」がもっとも多く、次いで「岡山県」の 174 人（27.4%）、「大阪府」の 122 人（19.2%）、「沖縄県」の 61 人（9.6%）の構成となっている。

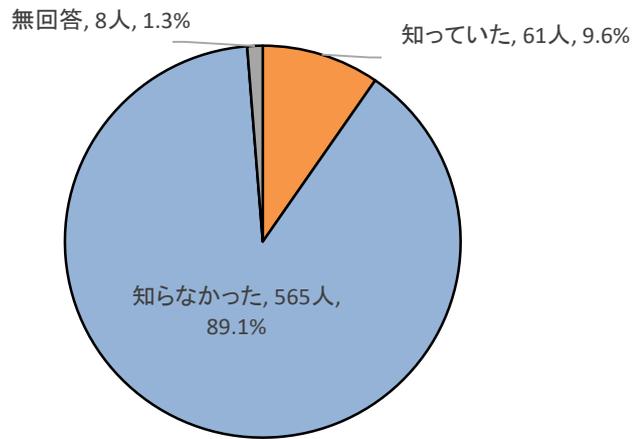
回答者 634 人に対して進路の選択肢に専門職大学と専門職短期大学が加わることについて知っているか否かを質問したところ、グラフ 1 が示す通り、「知っていた」に 61 人（9.6%）、「知らなかった」に 565 人（89.1%）が回答した。

Q6 にて「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション大阪学部への受験意欲を質問しており、グラフ 2 が示す通り、「受験したい」に 12.3%にあたる 78 人が回答し、受験意欲を示した。「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション大阪学部を受験意欲を示した 78 人には、Q7 にて合格した場合の入学意欲について質問したところ、37.2%にあたる 29 人が「入学したい」、61.5%にあたる 48 人が「併願先の結果によっては入学したい」と回答しており、一定の入学意欲を示す回答が得られた。

また、「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション大阪学部へ入学意欲を示した 29 人と居住地の回答をクロス集計したところ、表 3 が示す通り、入学意欲を示した 29 人のうち、近隣の都道府県（大阪府、兵庫県、岡山県）に居住する高校生が 25 人であることから、通学が現実的な地域に居住する高校生より、入学意欲を示す回答が一定数得られた。

以上、本調査における「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション大阪学部への入学意欲について、「ファッション学科」の入学定員 40 人に対して 29 人が入学したいと回答しており、「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション大阪学部への入学意欲を示す回答を得られた。

グラフ1 「専門職大学」・「専門職短期大学」の認知（Q2の結果より）



グラフ2 「国際ファッション専門職大学（仮称）」への受験意欲（Q6の結果より）

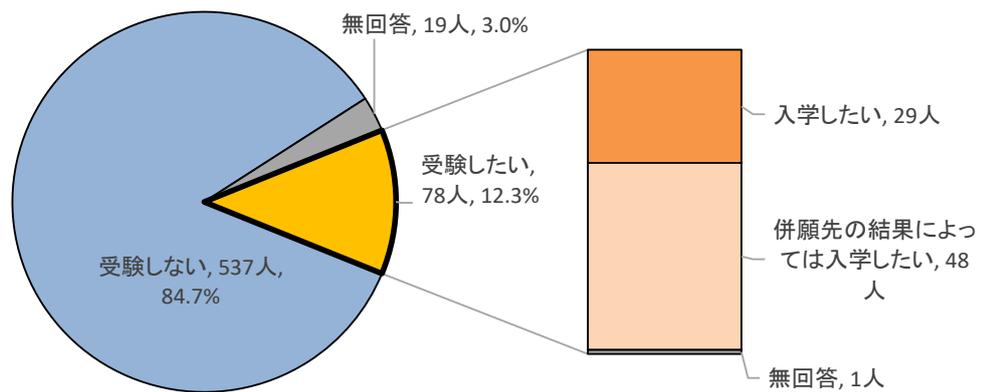


表3 居住地別・「国際ファッション専門職大学（仮称）」への入学意欲（Q7×Q1結果より）

選択項目	入学したい	併願先の結果によっては入学したい
大阪府	9人	11人
兵庫県	5人	25人
岡山県	11人	12人
沖縄県	4人	0人
合計	29人	48人

第3章

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケートの結果

＜調査対象学部：国際ファッション名古屋学部＞

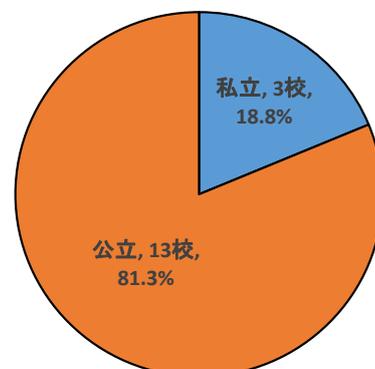
3-1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置を構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション名古屋学部（仮称）」の学生確保の見通しについて、アンケートを用いて測ることを目的とする。
- ◆調査期間：平成29年6～7月
- ◆調査対象：平成31年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、平成29年度の高校2年生をアンケートの対象とした。
- ◆調査方法：学校法人日本教育財団が運営する東京モード学園への入学実績がある高等学校21校にアンケートを送付。各高校の教員が監督のもと、アンケートを実施した。なお、送付した21校のうち、16校より回答を得た。
- ◆調査内容：アンケート項目は全8問で、居住地を除き、全て選択肢式とした。主な質問内容は、以下の通り。
 - 『回答者の基本情報（性別・居住地）について』
 - 『回答者の高校卒業後の希望進路について』
 - 『「国際ファッション名古屋学部（仮称）」への受験・入学意欲について』
- ◆有効件数：1,362件（回収件数 1,385件 / 有効件数率 98.3%）
- ◆実施高校：本アンケートに協力いただいた16校の詳細は以下の通り。

1. 所在地別の実施高校数

所在地	公立	私立	合計
岐阜県	2校		2校
愛知県	9校	3校	12校
三重県	2校		2校
合計	13校	3校	16校
割合	81.3%	18.8%	100.0%

2. 設置者別の実施高校数



3-2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

16～18 ページは、アンケートで回答を得た 1,362 人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

Q1 あなたの性別、居住の都道府県、学校(学年)について教えてください

性別

番号	選択項目	回答数	構成比
	男性	395	29.0%
	女性	967	71.0%
	計	1,362	100.0%

居住地

番号	選択項目	回答数	構成比
	岐阜県	189	13.9%
	愛知県	903	66.3%
	三重県	270	19.8%
	計	1,362	100.0%

学校(学年)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	高校(2年生)	1,362	100.0%
2	日本語学校・その他	0	0.0%
	計	1,362	100.0%

Q2 2019年度から国の施策により、大学制度の中で専門職業人を養成する新しい高等教育機関として「専門職大学」と「専門職短期大学」が、進路の選択肢に加わることを知っていましたか (1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	知っていた	94	6.9%
2	知らなかった	1,259	92.4%
	無回答	9	0.7%
	計	1,362	100.0%

Q3 「専門職大学」には右記のような特色があります。興味・関心がある項目はどれですか（いくつでも○）

- ※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。
- ※ 構成比は、回答者 1,362 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大学制度の中でも、今までにない新しい高等教育機関であること	206	15.1%
2	自分の好きな分野を学び、学んだ分野での就職を目指せること	1,101	80.8%
3	実習・演習の科目が多く、目指す職種の実践的な能力を身につけられること	686	50.4%
4	目指す職種の実務経験を持つ、多くの実務家教員から学べること	297	21.8%
5	実践力と同時に、そのための理論や関連分野の知識も学べること	170	12.5%
6	大学卒業者として文部科学大臣が定める学位を授与されること	211	15.5%
	無回答	25	1.8%

Q4 高校卒業後の進路として現段階で検討しているのはどれですか（1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大学／専門職大学へ進学	447	32.8%
2	短期大学／専門職短期大学へ進学	153	11.2%
3	専門学校へ進学	310	22.8%
4	就職・アルバイト	231	17.0%
5	まだ決まっていない(検討中である)	199	14.6%
6	その他	14	1.0%
	無回答	8	0.6%
	計	1,362	100.0%

Q5 「国際ファッション専門職大学(仮称)」には右記のような特長があります。興味・関心がある項目はどれですか（いくつでも○）

- ※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。
- ※ 構成比は、回答者 1,362 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	就職に役に立つ高い実践力と知識・教養が同時に身につくこと	801	58.8%
2	キャンパスが名古屋駅前で通学に便利であること	566	41.6%
3	学費が妥当であること	296	21.7%
4	母体となる法人が 50 年以上の教育と就職の実績を築いていること	86	6.3%
5	海外と連携して国際的な実践力を育むカリキュラムが豊富であること	355	26.1%
	無回答	37	2.7%

Q6 あなたは「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験したいと思いますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	228	16.7%
2	受験しない	1,125	82.6%
	無回答	9	0.7%
	計	1,362	100.0%

以下のQ7は、Q6で「受験したい」を選択した 228 人が回答対象である。

Q7 「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	入学したい	45	19.7%
2	併願先の結果によっては入学したい	180	78.9%
	無回答	3	1.3%
	計	228	100.0%

以下のQ8は、Q6で「受験しない」を選択した 1,125 人が回答対象である。

Q8 Q6で「受験しない」と回答した方は、その理由を選んでください(いくつでも○)

- ※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。
- ※ 構成比は、回答者 1,125 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	希望する分野の学部・学科・コースがないから	574	51.0%
2	他の学校への進学を希望しているから	397	35.3%
3	これまでの大学との違いが分からないから	60	5.3%
4	もっと詳しく知ったうえで検討したいから	246	21.9%
5	その他	115	10.2%
	無回答	6	0.5%

3-3 入学意欲の分析

本調査は学校法人日本教育財団が運営する専門学校のうち、国際ファッション専門職大学（仮称）と同分野・同地域の専門学校への進学実績がある高校に在籍している高校2年生を対象としたアンケート調査であり、1,362人より回答を得た。

1,362人のうち、29.0%（395人）が男性、71.0%（967人）が女性となっている。居住地は66.3%にあたる903人が回答した「愛知県」がもっとも多く、次いで「三重県」の270人（19.8%）、「岐阜県」の189人（13.9%）で、予定するキャンパスに近い地域に居住する高校生での構成となっている。

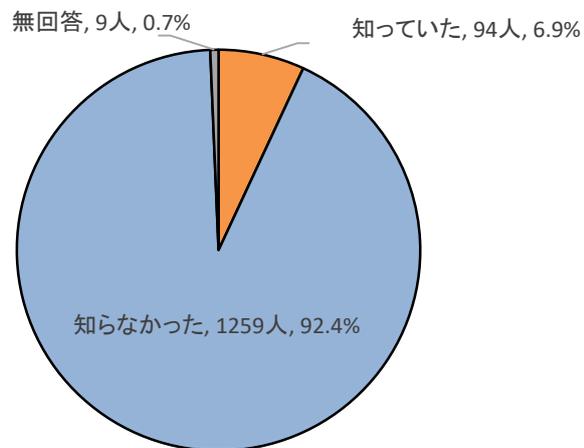
回答者1,362人に対して進路の選択肢に専門職大学と専門職短期大学が加わることについて知っているか否かを質問したところ、グラフ1が示す通り、「知っていた」に94人（6.9%）、「知らなかった」に1,259人（92.4%）が回答した。

Q6にて「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション名古屋学部への受験意欲を質問しており、グラフ2が示す通り、「受験したい」に16.7%にあたる228人が回答し、受験意欲を示した。「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション名古屋学部を受験意欲を示した228人には、Q7にて合格した場合の入学意欲について質問したところ、19.7%にあたる45人が「入学したい」、78.9%にあたる180人が「併願先の結果によっては入学したい」と回答しており、一定の入学意欲を示す回答が得られた。

また、「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション名古屋学部に入學意欲を示した45人と居住地の回答をクロス集計したところ、表3が示す通り、入学意欲を示した45人すべて近隣の都道府県（岐阜県、愛知県、三重県）に居住する高校生であることから、通学が現実的な地域に居住する高校生より、入学意欲を示す回答が一定数得られた。

以上、本調査における「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション名古屋学部への入学意欲について、「ファッション学科」の入学定員40人に対して45人が入学したいと回答しており、「国際ファッション専門職大学（仮称）」の国際ファッション名古屋学部への入学意欲を示す回答を得られた。

グラフ1 「専門職大学」・「専門職短期大学」の認知（Q2の結果より）



グラフ2 「国際ファッション専門職大学（仮称）」への受験意欲（Q6の結果より）

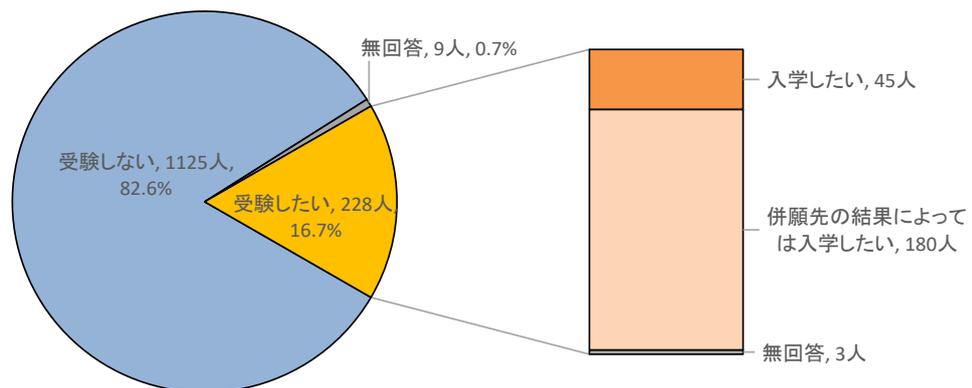


表3 居住地別・「国際ファッション専門職大学（仮称）」への入学意欲（Q7×Q1結果より）

選択項目	入学したい	併願先の結果によっては入学したい
岐阜県	7人	14人
愛知県	29人	142人
三重県	9人	24人
合計	45人	180人

第4章

インターネットアンケートの結果

4-1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置を構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の学生確保の見通しについて、インターネットによるアンケートを用いて測ることを目的とする。
- ◆調査期間：平成29年7月
- ◆調査対象：全国の社会人および学生を対象に、インターネット調査会社（株式会社クロス・マーケティング）協力のもと、アンケートを実施。調査対象者の選定条件は以下の通り。

調査会社に登録するモニターのうち、

- ・年齢（18歳から49歳）
- ・最終学歴（高校卒業以上）
- ・受験および入学などに関する質問については、各学部の所在地（東京都、大阪府、愛知県）と学校法人日本教育財団が運営する専門学校への入学者状況を考慮し、もっとも可能性が高いと思われる居住地を振り分け、1つ学部のみ概要を見せた上で回答を求めた。振り分けの詳細は以下の通り。

居住地	対象学部
北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	国際ファッション東京学部
滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	国際ファッション大阪学部
富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	国際ファッション名古屋学部

- ◆調査方法：インターネットを利用したアンケートで、回答者はパソコンおよびタブレットを使用して回答。

- ◆調査内容：アンケート項目は最大9問で、1問が入力式、8問が選択肢式とした。
主な質問内容は、以下の通り。
 - 『回答者の基本情報（性別・居住地・職業）について』
 - 『専門職大学の特色への興味・関心について』
 - 『「国際ファッション専門職大学（仮称）」への受験・入学意欲について』

- ◆調査件数：10,000件

4-2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%)はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも100.0%と一致しない。

23～29 ページは、アンケートで回答を得た10,000人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

SC1 あなたの性別をお答えください。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	男性	4,881	48.8%
2	女性	5,119	51.2%
	計	10,000	100.0%

SC2 あなたの年齢をお答えください。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	年齢
	平均値		39.66
	最小値		18.00
	最大値		49.00
	計	10,000	100.0%

※詳細な年齢区分は以下の通り。

番号	選択項目	回答数	構成比
	18-20 歳	131	1.3%
	21-25 歳	387	3.9%
	26-30 歳	819	8.2%
	31-35 歳	1,330	13.3%
	36-40 歳	1,926	19.3%
	41-45 歳	2,874	28.7%
	46-49 歳	2,533	25.3%
	計	10,000	100.0%

SC3 あなたの職業をお答えください。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	会社勤務(一般社員)	3,373	33.7%
2	会社勤務(管理職)	578	5.8%
3	会社勤務(経営者・役員)	159	1.6%
4	公務員・教職員・非営利団体職員	519	5.2%
5	派遣社員・契約社員	546	5.5%
6	自営業(商工サービス)	413	4.1%
7	SOHO	86	0.9%
8	農林漁業	43	0.4%
9	専門職(弁護士・税理士等・医療関連)	284	2.8%
10	パート・アルバイト	1,358	13.6%
11	専業主婦	1,497	15.0%
12	学生	226	2.3%
13	無職	680	6.8%
14	その他の職業	238	2.4%
	計	10,000	100.0%

SC4 あなたの最終学歴をお答えください。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	中学卒	0	0.0%
2	高校卒	2,625	26.3%
3	専門学校卒	1,415	14.2%
4	短大卒	985	9.9%
5	高専卒	177	1.8%
6	大学卒	4,096	41.0%
7	大学院卒	582	5.8%
8	上記以外	120	1.2%
	計	10,000	100.0%

SC5 あなたのお住まいをお答えください。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	北海道	440	4.4%
2	青森県	105	1.1%
3	岩手県	68	0.7%
4	宮城県	183	1.8%
5	秋田県	62	0.6%
6	山形県	55	0.6%
7	福島県	78	0.8%
8	茨城県	155	1.6%
9	栃木県	120	1.2%
10	群馬県	124	1.2%
11	埼玉県	625	6.3%
12	千葉県	556	5.6%
13	東京都	1,574	15.7%
14	神奈川県	854	8.5%
15	新潟県	145	1.5%
16	富山県	92	0.9%
17	石川県	109	1.1%
18	福井県	75	0.8%
19	山梨県	49	0.5%
20	長野県	181	1.8%
21	岐阜県	178	1.8%
22	静岡県	358	3.6%
23	愛知県	851	8.5%
24	三重県	178	1.8%
25	滋賀県	92	0.9%
26	京都府	186	1.9%
27	大阪府	709	7.1%
28	兵庫県	403	4.0%
29	奈良県	93	0.9%
30	和歌山県	41	0.4%
31	鳥取県	29	0.3%
32	島根県	21	0.2%
33	岡山県	107	1.1%

34	広島県	169	1.7%
35	山口県	75	0.8%
36	徳島県	42	0.4%
37	香川県	60	0.6%
38	愛媛県	54	0.5%
39	高知県	31	0.3%
40	福岡県	334	3.3%
41	佐賀県	32	0.3%
42	長崎県	59	0.6%
43	熊本県	64	0.6%
44	大分県	51	0.5%
45	宮崎県	29	0.3%
46	鹿児島県	45	0.5%
47	沖縄県	59	0.6%
	計	10,000	100.0%

SC6 2019年度から国の施策により、大学制度の中で専門職業人を養成する新しい高等教育機関として「専門職大学」と「専門職短期大学」が創設されます。「専門職大学」には下記の特徴がありますが、興味・関心がある項目はどれですか？あてはまるもの全て選んでください。（複数選択）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 10,000 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大学制度の中でも、今までにない新しい高等教育機関であること	2,504	25.0%
2	自分の好きな分野を学び、学んだ分野での就職を目指せること	4,769	47.7%
3	実習・演習の科目が多く、目指す職種の実践的な能力を身につけられること	4,020	40.2%
4	目指す職種の実務経験を持つ、多くの実務家教員から学べること	2,730	27.3%
5	実践力と同時に、そのための理論や関連分野の知識も学べること	2,440	24.4%
6	大学卒業者として文部科学大臣が定める学位を授与されること	3,364	33.6%

SC5で、「1～15、19、40～47」を選択した 5,866 人に、「国際ファッション専門職大学(仮称)」の「国際ファッション東京学部(仮称)」の概要を見せた上で、「国際ファッション東京学部(仮称)」への受験意欲を質問した。

SC7A あなたは「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験したいと思いますか。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	516	8.8%
2	受験しない	5,350	91.2%
	計	5,866	100.0%

SC7Aで、「受験したい」を選択した 516 人が回答対象である。

SC8A 「国際ファッション専門職大学(仮称)」の「国際ファッション東京学部(仮称)」では2つの学科を設置予定です。あなたが入学したい学科を教えてください。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	ファッションクリエイション学科	220	42.6%
2	ファッションビジネス学科	203	39.3%
3	併願先の結果等によっては入学したい	93	18.0%
	計	516	100.0%

Q1Aは、SC8Aで入学したい学科を選択した方のうち、各学科で予定している定員の7割(先着順)となる計84人に限定して質問した。

Q1A 「国際ファッション専門職大学(仮称)」の特長の中で、興味・関心がある項目はどれですか。あてはまるもの全て選んでください。(複数選択)

- ※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。
- ※ 構成比は、回答者84人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	就職に役立つ高い実践力と知識・教養が同時に身につくこと	53	63.1%
2	キャンパスが新宿駅前で通学に便利であること	35	41.7%
3	学費が妥当であること	29	34.5%
4	母体となる法人が50年以上の教育と就職の実績を築いていること	19	22.6%
5	海外と連携して国際的な実践力を育むカリキュラムが豊富であること	25	29.8%

SC5で、「25～39」を選択した 2,112 人に、
「国際ファッション専門職大学(仮称)」の「国際ファッション大阪学部(仮称)」の概要を見せた上で、
「国際ファッション大阪学部(仮称)」への受験意欲を質問した。

SC7B あなたは「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験したいと思いますか。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	192	9.1%
2	受験しない	1,920	90.9%
	計	2,112	100.0%

SC7Bで、「受験したい」を選択した 192 人が回答対象である。

SC8B 「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	入学したい	119	62.0%
2	併願先の結果等によっては入学したい	73	38.0%
	計	192	100.0%

Q1Bは、SC8Bで入学したい学科を選択した方のうち、
予定している定員の 7 割(先着順)となる計 28 人に限定して質問した。

Q1B 「国際ファッション専門職大学(仮称)」の特長の中で、興味・関心がある項目はどれですか。あてはまるもの全て選んでください。(複数選択)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 28 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	就職に役立つ高い実践力と知識・教養が同時に身につくこと	12	42.9%
2	キャンパスが大阪駅前に通学に便利であること	11	39.3%
3	学費が妥当であること	15	53.6%
4	母体となる法人が50年以上の教育と就職の実績を築いていること	11	39.3%
5	海外と連携して国際的な実践力を育むカリキュラムが豊富であること	6	21.4%

SC5で、「16～18、20～24」を選択した 2,022 人に、「国際ファッション専門職大学(仮称)」の「国際ファッション名古屋学部(仮称)」の概要を見せた上で、「国際ファッション名古屋学部(仮称)」への受験意欲を質問した。

SC7C あなたは「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験したいと思いますか。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	157	7.8%
2	受験しない	1,865	92.2%
	計	2,022	100.0%

SC7Cで、「受験したい」を選択した 157 人が回答対象である。

SC8C 「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(1つを選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	入学したい	97	61.8%
2	併願先の結果等によっては入学したい	60	38.2%
	計	157	100.0%

Q1Cは、SC8Cで入学したい学科を選択した方のうち、予定している定員の7割(先着順)となる計28人に限定して質問した。

Q1C 「国際ファッション専門職大学(仮称)」の特長の中で、興味・関心がある項目はどれですか。あてはまるもの全て選んでください。(複数選択)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者28人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	就職に役立つ高い実践力と知識・教養が同時に身につくこと	18	64.3%
2	キャンパスが名古屋駅前で通学に便利であること	11	39.3%
3	学費が妥当であること	4	14.3%
4	母体となる法人が50年以上の教育と就職の実績を築いていること	8	28.6%
5	海外と連携して国際的な実践力を育むカリキュラムが豊富であること	7	25.0%

4-3 入学意欲の分析

本調査はインターネットを利用し、全国の18歳から49歳の社会人および学生を対象にアンケートを実施し、10,000人による回答結果となっている。

「国際ファッション専門職大学（仮称）」は、「国際ファッション東京学部」、「国際ファッション大阪学部」、「国際ファッション名古屋学部」と3つの都市での学部設置を構想していることから、概要で述べている通り、受験および入学に関する質問は、学校法人日本教育財団が運営する専門学校への入学者状況を考慮し、もっとも可能性が高いと思われる居住地を振り分けて1つの学部について質問を行った。

まず、「国際ファッション東京学部」は北海道・東北、関東、九州に居住している5,866人を対象に受験意欲について質問しており、グラフ1が示す通り、8.8%にあたる516人が「受験したい」と回答した。また、受験意欲を示した516人には、「国際ファッション東京学部」で構想中の2つの学科への入学意欲を質問しており、「ファッションクリエイション学科」に220人、「ファッションビジネス学科」に203人がそれぞれ入学意欲を示した。

「国際ファッション大阪学部」は近畿、中国、四国の各県に居住している2,112人を対象に受験意欲について質問しており、グラフ2が示す通り、9.1%にあたる192人が「受験したい」と回答した。また、受験意欲を示した192人には、「国際ファッション大阪学部」への入学意欲を質問しており、119人が入学意欲を示した。

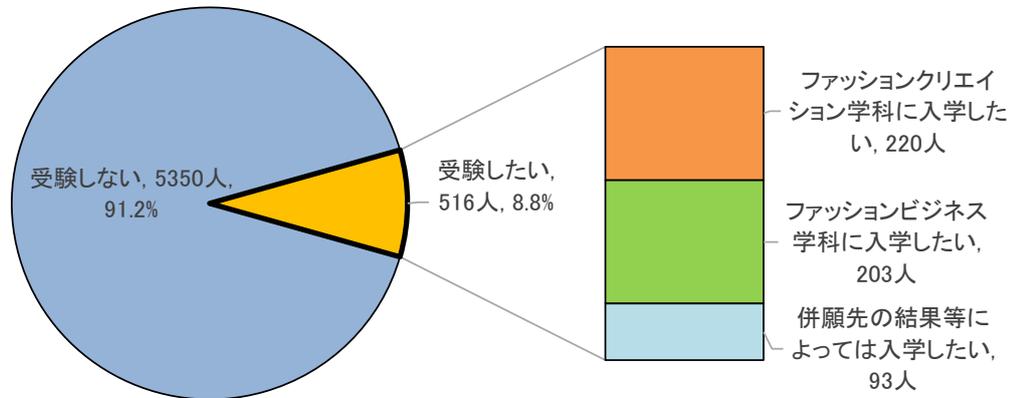
さらに、「国際ファッション名古屋学部」は東海、北陸の各県に居住している2,022人を対象に受験意欲について質問しており、グラフ3が示す通り、7.8%にあたる157人が「受験したい」と回答した。また、受験意欲を示した157人には、「国際ファッション名古屋学部」への入学意欲を質問しており、97人が入学意欲を示した。

以上の回答結果を学部・学科別にまとめたものが以下の表であり、いずれの学科においても入学意欲を示す回答が得られた。

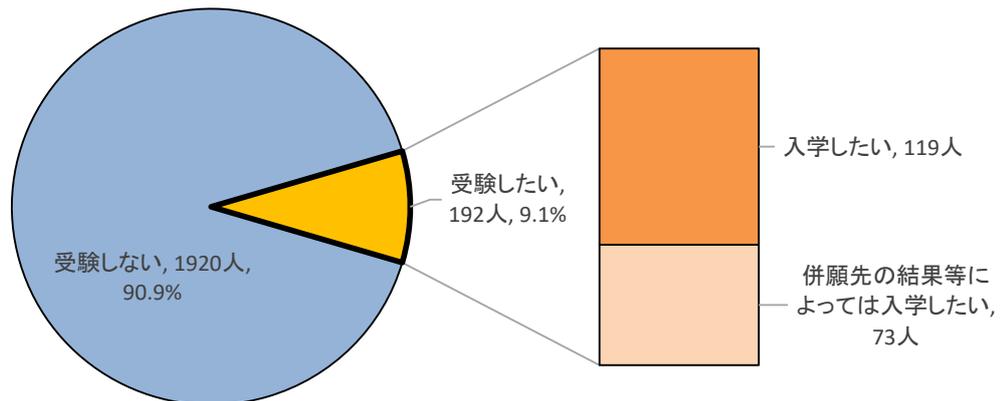
学部	学科	入学定員	「入学したい」の回答
国際ファッション東京学部	ファッションクリエイション学科	80人	220人
	ファッションビジネス学科	40人	203人
国際ファッション大阪学部	ファッション学科	40人	119人
国際ファッション名古屋学部	ファッション学科	40人	97人

以上のことから、本調査において「国際ファッション専門職大学（仮称）」に入学意欲を示す回答が、予定する定員を上回る回答結果となった。

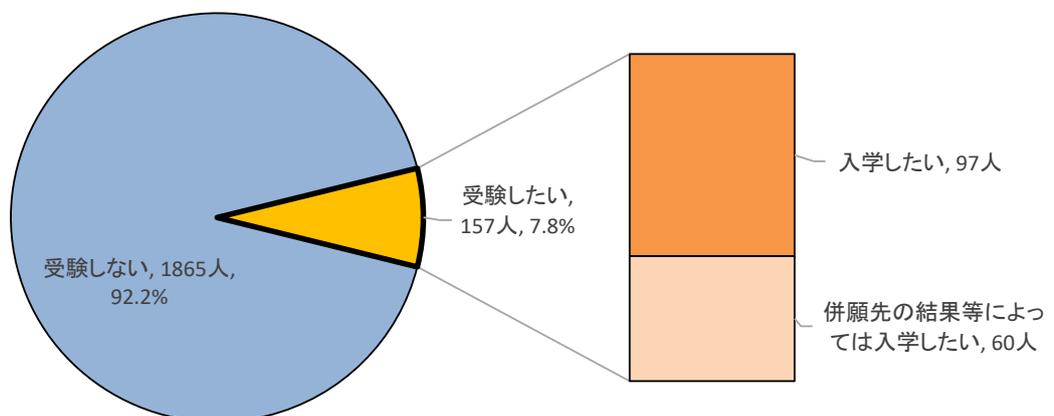
グラフ1 国際ファッション東京学部への入学意欲（CS7A×CS8Aの結果より）



グラフ2 国際ファッション大阪学部への入学意欲（CS7B×CS8Bの結果より）



グラフ3 国際ファッション名古屋学部への入学意欲（CS7C×CS8Cの結果より）



まとめ

全調査結果からみた「国際ファッション専門職大学（仮称）」の定員確保の見通し

本調査は学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置構想中の「国際ファッション専門職大学（仮称）」の学生確保の見通しを測ることを目的として、高校生から社会人までの幅広い層を対象に、アンケートを実施した。

各アンケートの概要および結果と、「国際ファッション専門職大学（仮称）」への入学意欲については前述の通りであり、いずれのアンケートにおいても、回答者より「国際ファッション専門職大学（仮称）」で構想中の各学部・学科への入学意欲を示す回答を得られている。

下記の表1は1～4の調査で得られた「国際ファッション専門職大学（仮称）」の学部学科への受験意欲および入学意欲への回答を合計した表である。表1が示す通り、国際ファッション東京学部を「受験したい」に620人が回答した。そのうち、ファッションクリエイション学科には253人、ファッションビジネス学科には215人がそれぞれ「入学したい」と回答した。グラフ2は表1の結果を各学部・学科において予定している入学定員と比較したものであるが、ファッションクリエイション学科は入学定員80人の3.2倍、ファッションビジネス学科は入学定員40人の5.4倍にあたる回答者より入学意欲を示す回答が得られた。

国際ファッション大阪学部も表1が示す通り、「受験したい」に270人が回答し、そのうち148人が「入学したい」と回答した。グラフ3が示す通り、国際ファッション大阪学部は入学定員40名であり、3.7倍にあたる回答者より入学意欲を示す回答が得られた。

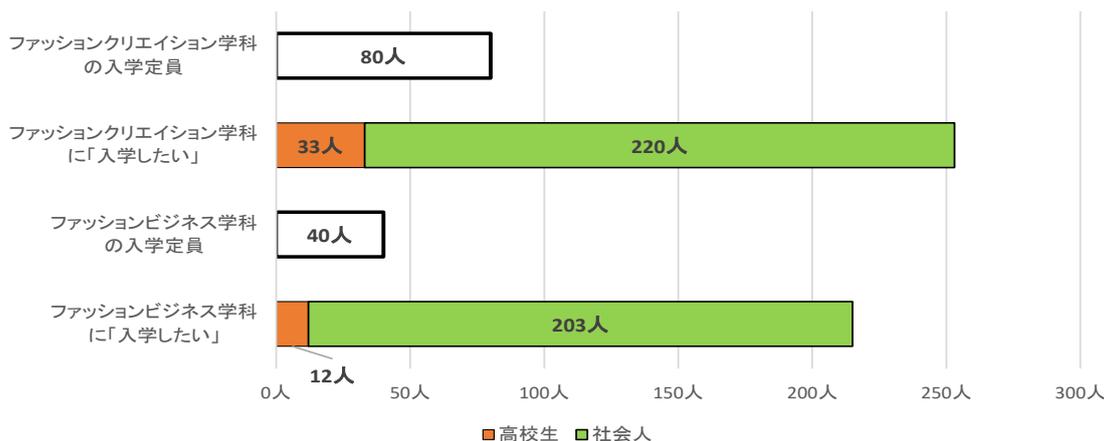
同様に、国際ファッション名古屋学部も表1が示す通り、「受験したい」に270人が回答し、そのうち142人が「入学したい」と回答した。グラフ4が示す通り、国際ファッション名古屋学部は入学定員40名であり、3.6倍にあたる回答者より入学意欲を示す回答が得られた。

「国際ファッション専門職大学（仮称）」で構想中の各学部・学科において、本調査で実施した各アンケートへの回答を分析した結果、予定する各定員以上の入学意欲を示す回答を得ることができた。

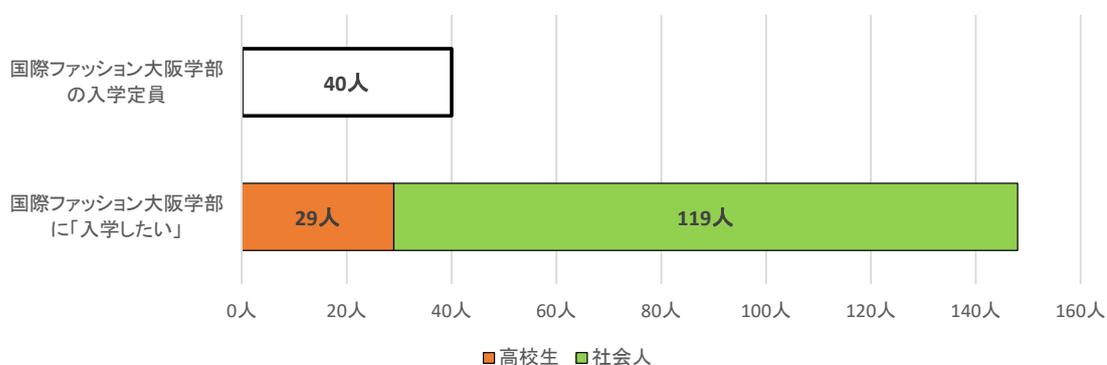
表1 「国際ファッション専門職大学（仮称）」への入学意欲の合計

学部(学科)	受験したい			入学したい			併願先の結果によっては入学したい		
	高校生	社会人	合計	高校生	社会人	合計	高校生	社会人	合計
国際ファッション東京学部 (ファッションクリエイション学科)	104人	516人	620人	33人	220人	253人	26人	93人	138人
国際ファッション東京学部 (ファッションビジネス学科)				12人	203人	215人	19人		
国際ファッション大阪学部 (ファッションク学科)	78人	192人	270人	29人	119人	148人	48人	73人	121人
国際ファッション名古屋学部 (ファッション学科)	228人	157人	385人	45人	97人	142人	180人	60人	240人

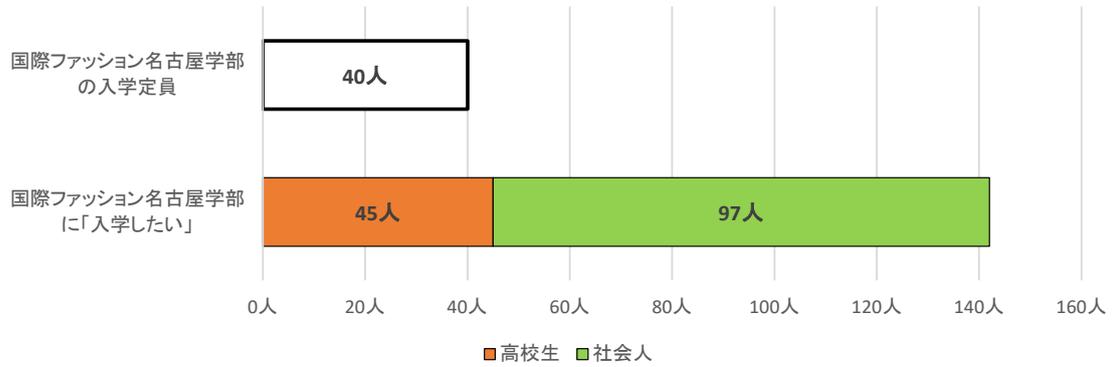
グラフ2 「国際ファッション東京学部」の入学定員と入学意欲の関係



グラフ3 「国際ファッション大阪学部」の入学定員と入学意欲の関係



グラフ4 「国際ファッション名古屋学部」の入学定員と入学意欲の関係



以上の各調査において実施したアンケートの入学意欲についての分析および上記のまとめより、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の入学定員の確保は十分に可能であると判断できる。

添付資料

(実施したアンケート用紙)

- 【調査1】 開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙（国際ファッション東京学部）
- 【調査2】 開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙（国際ファッション大阪学部）
- 【調査3】 開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙（国際ファッション名古屋学部）
- 【調査4】 インターネットアンケートの画面

【調査1】開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙（国際ファッション東京学部）

国際ファッション専門職大学 A 東京用【高校生】表面

A

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート

このアンケート調査は、2019年4月に学校法人 日本教育財団（モード学園グループ）が開設を予定する新しい教育機関の設置計画の基礎資料にするため、皆さんの進学の意向等についてお聞きするものです。このアンケート結果は統計資料としてのみ使い、目的以外に利用することはありません。ご協力をお願いいたします。



設置計画
2019年4月開学
国際ファッション専門職大学 (仮称)

国際ファッション東京学部
ファッションクリエイション学科 / ファッションビジネス学科



- 開設時期 : 2019年4月(予定)
- 創設者 : 学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ)
- 学部所在地 : 総合校舎コワーキングタワー
新大塚駅前 徒歩5分 / 東京都新大塚区新大塚1-7-3
- 修業年限 : 4年 (1学年初の最終卒業・履修単位により編入学制度あり)
- 取得学位 : 学士 (専門職)
- 入学定員 : 国際ファッション東京学部
ファッションクリエイション学科 80名
ファッションビジネス学科 40名

国際ファッション専門職大学(仮称)は2019年4月の開学を目的として設置準備を進めており、本欄の一部設問による場合があります。

Q1

あなたのご性別・居住の都道府県・学校(学年)について教えてください

性別	男性 / 女性	居住地
学校(学年)	1. 高校(2年生) 2. 日本専門学校・その他	都・道・府・県

Q2

2019年度から四年の経歴により、大学制度の中で専門職業人を養成する新しい高等教育機関として「専門職大学」と「専門職短期大学」が、進路の選択肢に加わることを知っていましたか

1. 知っていた
2. 知らなかった

Q3

「専門職大学」には右記のような特徴があります。興味・関心がある項目はどれですか

1. 大学制度の中でも、今までにない新しい高等教育機関であること
2. 自分の好きな分野を学び、学んだ分野での就職を目指すこと
3. 実習・演習の科目が多く、目指す職種の実践的スキルを身につけられること
4. 目指す職種の業務経験を持つ、多くの実務家・教員から学べること
5. 実習力と同時に、そのための理論や関連分野の知識も学べること
6. 大学卒業後として文部科学大臣が定める学位を授与されること

Q4

高校卒業後の進路として現段階で検討しているのはどれですか

1. 大学 / 専門職大学へ進学
2. 短期大学 / 専門職短期大学へ進学
3. 専門学校へ進学
4. 就職 / アルバイト
5. まだ決まっていない (続行中である)
6. その他

中面に続きませう

A

学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ) では、新しい高等教育機関「専門職大学」の創学を計画中です。下記、概要を確認のうえ、Q5-Q8の質問に回答ください。

概要

2019年4月 開学
国際ファッション専門職大学 (仮称)
 国際ファッション東京学部
 ファッションクリエイティブ学科 / ファッションビジネス学科

【専門職大学】とは、大学制度の中で最も新しい専門職人を育てるため、国が導入する新しい高等教育機関です。ファッション業界の企業、団体と連携した充実の授業と、広く深い知識、教養の向上で、専門分野をリードする高い実践力を養成。さらに国際的な視野も備え、変化を促す社会のニーズに対応する力を、新たな価値を生み出す力が育まれます。

国際ファッション専門職大学 (仮称) の特長

- 学習方法**
- 高い実践力を養うため、卒業単位の3~4割以上に実習等の科目を導入。企業と連携した実習を60時間以上、さらに専任教員の4割以上は専門職の実務経験をもつ(実務経験員)です。
 - 社会の最新ニーズを実習・実務教育への強みに反映するため、クリエイターや企業、海外団体等の関係機関とも連携してカリキュラムを編成・実施します。
 - 大学の持つ理論教育と専門学校の持つ実践教育の相長を活かした、新たな高等教育機関である本校は、職業・社会における真実の知識を重視した中身を行います。
 - 本法人が50年以上の教育で培ってきた独自の「創造力教育」や、国際化に対応するカリキュラムも融合し、時代の変化に即応できる力や、新たな価値を生み出す力、自らを成長させる力も養います。

学費

■ 入学から卒業までの費用総額 (A学生、学費の合計)

国際ファッション東京学部	
ファッションクリエイティブ学科	4年間計 5,480,000円 <small>(※定年の他に教科書代、および海外研修費、課外活動費が必要)</small>
ファッションビジネス学科	4年間計 5,292,000円 <small>(※定年の他に教科書代、および海外研修費、課外活動費が必要)</small>

Q5 (いくつでも○)

「国際ファッション専門職大学 (仮称)」には右記のような特徴があります。興味・関心がある項目はどれですか

Q6 (1つに○)

あなたは「国際ファッション専門職大学 (仮称)」を受験したいと思いますか
「受験したい」と回答した方は、設置を予定する学科のうち受験したい学科を1つ選択してください

Q7 (1つに○)

Q6で選択した学科について、受験し合格した場合、入学したいと思えますか

Q8 (いくつでも○)

Q6で「受験しない」と回答した方は、その理由を選んでください



養成する人・身につく能力

国際ファッション東京学部
 ■ ファッションクリエイティブ学科 ファッションテキスタイルコース
 「日本ブランドとしてのファッション商品やテキスタイル(巾着・織物)を企画・生産できる人材として、豊かなデザイン技術と豊富な知識を備えた高い実践力を養成します。さらに、海外でも通用する知的財産としての商品・商品をデザインするために、海外の文化・歴史・習俗をも幅広い教養や、外国語を含む情報収集・コミュニケーション能力も身につけます。

卒業後の進路

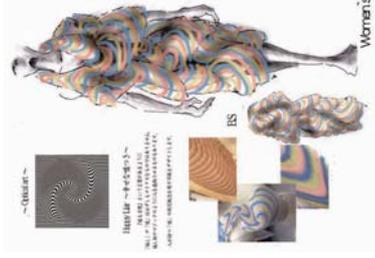
国内・海外ラグジュアリーブランド、企画・デザイン制作会社、繊維メーカーほか
 ■ ファッションビジネス学科 ファッションビジネスコース、ブランド企画コース
 日本のファッション商品を、広く国際市場に向けて企画・販売できる人材として、デザイン・生産・流通を含む幅広い知識に磨きかけられた、商品企画・宣伝広報・販売営業の実践力を養成します。特に、国内のみならず海外での販売展開を前提にしたビジネスの特徴や手法、外国語を含むコミュニケーション・交渉能力、また独立起業に必要なノウハウも身につけます。

卒業後の進路

国内・海外グローバル企業、販売・コンサルティング企業、独立起業ほか

目指せる学位・資格

- 学士 (専門職)
- 色彩検定
- カラーコーディネーター検定
- パーソナルカラーリスト検定
- 技能検定 (応用部門) 服飾
- ファッションビジネス能力検定
- ファッション実務能力検定
- リテールマーケティング (販売士) 検定
- 各国外語検定 ほか



国際ファッション専門職大学 (仮称)は2019年4月の開学を目指して設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。

ご協力ありがとうございました。

【調査2】開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙（国際ファッション大阪学部）

国際ファッション専門職大学 A 大阪用【高校生】表面

A

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート

このアンケート調査は、2019年4月に学校法人 日本教育財団（モード学園グループ）が開設を予定する新しい教育機関の設置計画の基礎資料にするため、皆さんの進学の意向等についてお聞きするものです。このアンケート結果は統計資料としての分用い、目的以外に利用することはありません。ご協力お願いいたします。



2019年4月開学
 国際ファッション専門職大学（仮称）
 国際ファッション大阪学部
 ファッション学科

設置計画中



- 開設時期 : 2019年4月（予定）
- 開設者 : 学校法人 日本教育財団（モード学園グループ）
- 学部所在地 : 大阪モード学園・14A大阪 総合校舎
大阪府 北区5分/大田区北區福地5-2
- 修業年限 : 4年（入学時の最終学歴・履修単位により編入学期制度あり）
- 取得学位 : 学士（専門職）
- 入学定員 : 国際ファッション大阪学部
ファッション学科 40名

国際ファッション専門職大学（仮称）は2019年4月の開学を目前にして設置準備を進めており、4構面の一部設けに定員確保がなされています。



Q1

あなたのご性別・居住の都道府県・学校（学年）について教えてください

性別	男性 / 女性	居住地
学校（学年）	1. 高校（2年生） 2. 日本制鋼学校・その他	都・道・府・県

Q2

2019年度から四年の修業により、大学制度の中で専門職業人を養成する新しい高等教育機関として「専門職大学」と「専門職短期大学」が、進路の選択肢に加わることを知っていましたか

1. 知っていた
2. 知らなかった

Q3

「専門職大学」には右記のような特徴があります。興味・関心がある項目はどれですか

1. 大学制度の中でも、今までにない新しい高等教育機関であること
2. 自分の好きな分野を学び、学んだ分野での就職を目指すこと
3. 実習・演習の科目が多く、目指す職種の実践的スキルを身につけられること
4. 目指す職種の業界経験を持つ、多くの実務家教員から学べること
5. 実力と同時に、そのための理論や関連分野の知識も学べること
6. 大学卒業後として文部科学大臣が定める学位を授与されること

Q4

高校卒業後の進路として現段階で検討しているのはどれですか

1. 大学／専門職大学へ進学
2. 短期大学／専門職短期大学へ進学
3. 専門学校へ進学
4. 就職・アルバイト
5. まだ決まっていない（検討中である）
6. その他

中面に続きます▶

A

学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ) では、新しい高等教育機関「専門職大学」の創学を計画中です。下記、概要を確認のうえ、Q5-Q8の質問に回答ください。

概要

2019年4月 開学 設置計画中



国際ファッション専門職大学 (仮称)
国際ファッション大阪学部
ファッション学科

「専門職大学」とは、大学制度の中で最も高い専門職職人を育てるため、国が導入する新しい高等教育機関です。ファッション業界の企業、団体と連携した充実の授業と、広く深い知識、教養の取得で、専門分野をリードする高い実力を養成。さらに国際的な視野も備え、変化を促す社会のニーズに対応する力を、新たな価値を生み出す力が育まれます。

■ 国際ファッション専門職大学 (仮称) の特長

学習方法

- 高い実力を養成するため、卒業単位の3~4割以上に実習等の科目を導入。企業と連携した実習を60時間以上、さらに専任教員の4割以上は専門職の実務経験を備えた「実務経験員」です。
- 社会の最新ニーズを実習・実務教育への強みで反響するため、クリエイターや企業、業界団体等の関係機関とも連携してカリキュラムを編成・実施します。
- 大学が持つ理論教育と専門学が持つ実践教育の相長を活かした、新たな高等教育機関である本校は、職業・社会における実践的知識を重視した中卒を行います。
- 本法人が50年以上の教育で培ってきた独自の「創造力教育」や、国際化に対応するカリキュラムも融合。時代の変化に即応できる力や、新たな価値を生み出す力、自らを成長させる力も育みます。

学費

- 入学から卒業までの費用総額 (A 学費、学費の合計)

国際ファッション大阪学部

4年制計 **5,380,000円** (※学費の他に教科書代、および海外研修費、通学費は別途費用が必要です。)

Q5 (いくつでも○)

「国際ファッション専門職大学 (仮称)」には右記のような特徴があります。興味・関心がある項目はどれですか

1. 就職に役立つ高い実践力と知識、教養が同時に身につくこと
2. キャンパスが大阪郊外で通学に便利であること
3. 学費が妥当であること
4. 母体となる法人が50年以上の教育と就職の実績を築いていること
5. 海外と連携して国際的な実習力を育むカリキュラムが豊富であること

Q6 (1つに○)

あなたは「国際ファッション専門職大学 (仮称)」を志望したいと思えますか

1. 志望したい
2. 志望しない (←Q8へ進む)

Q7 (1つに○)

「国際ファッション専門職大学 (仮称)」を志望し希望した場合、入学したいと思えますか

1. 入学したい
2. 併願校の志望によっては入学したい

Q8 (いくつでも○)

Q6で「志望しない」と回答した方は、その理由を選んでください

1. 希望する分野の学部・学科・コースがないから
2. 他の学校への進学を希望しているから
3. これまでの大学との違いが分からないから
4. もっと詳しく知ってうえで検討したいから
5. その他 ()

養成する人材・身につく能力

国際ファッション大阪学部

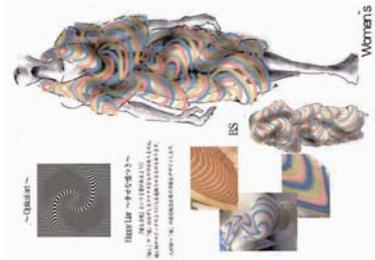
■ ファッション学科 ファッションデザインコース/ファッションテキスタイルコース/ファッションビジネスコース

「日本ブランドとしてのファッション商品やテキスタイル(生地・織物)を創出できる人材として、デザイン・ビジネスの輝かな技術と豊富な知識を備えた高い実習力を養成します。さらに、海外でも通用する知的財産としての商品・製品を生み出すために、国外の文化・歴史・習俗など幅広い教養や、外国語を含む情報収集・コミュニケーション能力も身につけます。

卒業後の進路 国内・海外ラグジュアリーブランド、企画・デザイン制作会社、購物メーカー、独立起業ほか

目指せる学位・資格

- 学士 (専門職) ● 名誉称号 ● カラーコーディネーター検定 ● パーソナルカラーリスト検定
- 技能検定 (仮称) ● 資格 ● ファッションビジネス能力検定 ● ファッション販促能力検定
- リアルマーケティング (職業士) 検定 ● 各種外国語検定 ほか



※国際ファッション専門職大学 (仮称)は2019年4月の開学を目指して設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。



ご協力ありがとうございました。

【調査3】開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙（国際ファッション名古屋学部）

国際ファッション専門職大学 A 名古屋用【高校生】表面

A

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート

このアンケート調査は、2019年4月に学校法人 日本教育財団（ゼー・ド学園グループ）が開設を予定する新しい教育機関の設置計画の基礎資料にするため、皆さんの進学の意向等についてお聞きするものです。このアンケート結果は統計資料としての分用い、目的以外に利用することはありません。ご協力をお願いいたします。



設置計画
2019年4月開学
国際ファッション専門職大学
（仮称）
国際ファッション名古屋学部
ファッション学科



国際ファッション専門職大学（仮称）は2019年4月の開学を目前にして設置準備を進めており、4構面10学部制による構成があります。

- 開設時期 : 2019年4月（予定）
- 開設者 : 学校法人 日本教育財団（ゼー・ド学園グループ）
- 学部所在地 : 総合教養スเปシャルカレッジ
名古屋駅前 徒歩3分 / 名古屋市中区区部4-27-1
- 修業年限 : 4年（1学期の最終学期・履修単位により編入学制度あり）
- 取得学位 : 学士（専門職）
- 入学定員 : 国際ファッション名古屋学部
ファッション学科 40名



Q1

あなたの性別・居住の都道府県・学校(学年)について教えてください

性別	男性 / 女性	居住地
学校(学年)	1. 高校(2年生) 2. 日本専門学校・その他	都・道・府・県

Q2

2019年度から国の政策により、大学制度の中で専門職業人を養成する新しい高等教育機関として「専門職大学」と「専門職短期大学」が、進路の選択肢に加わることを知っていましたか

1. 知っていた
2. 知らなかった

Q3

「専門職大学」には右記のような特徴があります。興味・関心がある項目はどれですか

1. 大学制度の中でも、今までにない新しい高等教育機関であること
2. 自分の好きな分野を学び、学んだ分野での就職を目指すこと
3. 実習・演習の科目が多く、目指す職種の実践的スキルを身につけられること
4. 目指す職種の業務経験を持つ、多くの実務家教師から学べること
5. 専攻力と同時に、そのための理論や関連分野の知識も学べること
6. 大学卒業後として文部科学大臣が定める学位を授与されること

Q4

高校卒業後の進路として現段階で検討しているのはどれですか

1. 大学/専門職大学へ進学
2. 短期大学/専門職短期大学へ進学
3. 専門学校へ進学
4. 就職・アルバイト
5. まだ決まっていない（検討中である）
6. その他

中面に続きます▶

学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ) では、新しい高等教育機関「専門職大学」の創学を計画中です。
下記、概要を確認のうえ、Q5-Q8の質問に回答ください。

概要

2019年4月 開学

設置計画中



国際ファッション専門職大学 (仮称)
国際ファッション名古屋学部
ファッション学科

■ 国際ファッション専門職大学 (仮称) の特長

学習方法

- 高い実習力を養成するため、卒業単位の3~4割以上に実習等の科目を導入、企業と連携した実習を60時間以上、さらに専任教員の4割以上は専門職の実務経験者(実務経験者)です。
- 社会の最新ニーズを実習・実務教育への強みに反映するため、クリエイターや企業、海外団体等の関係機関とも連携してカリキュラムを編成・実施します。
- 大学が持つ理論教育と専門学校教育の相長を活かした、新たな高等教育機関である本校は、職業・社会における実践的知識の習得を重視した中卒を行います。
- 本法人が50年以上の教育で培ってきた独自の「創造力教育」や、国際化に対応するカリキュラムも融合し、時代の変化に即応できる力や、新たな価値を生み出せる力、自らを成長させる力も養います。

学費

- 入学から卒業までの費用総額 (A 学生、学費の合計)

国際ファッション名古屋学部

ファッション学科

4年間計 **5,230,000円** (※学費の他に教科書代、および海外研修費、通学費は別途費用が必要です。)

Q5 (いくつでも○)

「国際ファッション専門職大学 (仮称)」には右記のような特徴があります。
興味・関心がある項目はどれですか

1. 就職に役立つ高い実習力と知識、実践が同時に身につくこと
2. キャンパスが名古屋駅前で通学に便利であること
3. 学費が妥当であること
4. 母体となる法人が50年以上の教育と就職の実績を築いていること
5. 海外と連携して国際的な実習力を育むカリキュラムが豊富であること

Q6 (1つに○)

あなたは「国際ファッション専門職大学 (仮称)」を志望したいと思えますか

1. 志望したい
2. 志望しない (←Q8へ進む)



A

養成する人材・身につく能力

国際ファッション名古屋学部

- ファッション学科 ファッションデザインコース/ファッションテキスタイルコース/ファッションビジネスコース

「日本ブランドとしてのファッション商品やテキスタイル(生地・織物)を創出できる人材として、デザイン・ビジネスの両方から技術と豊富な知識を備えた高い実習力を養成します。さらに、海外でも通用する国際標準としての商品・製品を生み出すために、海外の文化・歴史・習俗など幅広い教養や、外国語を含む情報収集・コミュニケーション能力も身につけます。

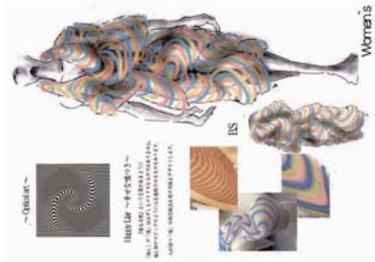
卒業後の進路 国内・海外のグローバルブランド、企画・デザイン制作会社、繊維メーカー、独立起業ほか

目指せる学位・資格

- 学士 (専門職) ● 名誉称号 ● カラーコーディネーター検定 ● パーソナルカラーリスト検定
- 技能検定 (仮称) ● 服装検定 ● ファッションビジネス能力検定 ● ファッション販促能力検定
- リアルマーケティング (服装士) 検定 ● 服飾外国語検定 ほか



※国際ファッション専門職大学 (仮称)は2019年4月の開学を目指して設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。



Q7 (1つに○)

「国際ファッション専門職大学 (仮称)」を志望し合格した場合、入学したいと思えますか

1. 入学したい
2. 併願校の志望によっては入学したい

Q8 (いくつでも○)

Q6で「志望しない」と回答した方は、その理由を選んでください

1. 希望する分野の学部・学科・コースがないから
2. 他の学校への進学を希望しているから
3. これまでの大学との違いが分からないから
4. もっと詳しく知ったうえで検討したいから
5. その他 ()

ご協力ありがとうございました。

【調査3】開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙（国際ファッション名古屋学部）

2017/10/4

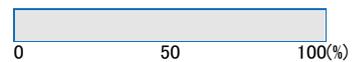
学びについてのアンケート

対象外条件	SC2.1 < 18 または SC2.1 > 49 (即時回答終了)
対象外条件	SC4 = 「1. 中学卒」 (即時回答終了)
対象外条件	SC7A = 「2. 受験しない」 (即時回答終了)
対象外条件	SC7B = 「2. 受験しない」 (即時回答終了)
対象外条件	SC7C = 「2. 受験しない」 (即時回答終了)

アンケート画面開始

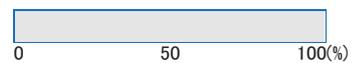
Page 1

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

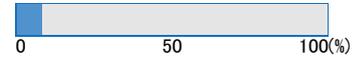


このアンケート調査は、2019年4月に学校法人 日本教育財団(モード学園グループ)が開設を予定する新しい教育機関の設置計画の基礎資料にするため、皆さんの進学の意向等についてお聞きするものです。
このアンケート結果は統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。ご協力お願いいたします。

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



SC1

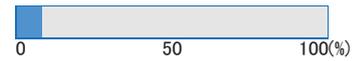
必須設定 回答必須

SC1

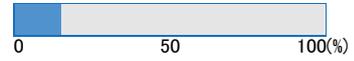
あなたの性別をお答えください。

- 1 男性
- 2 女性

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



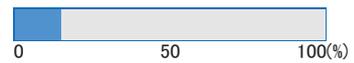
SC2

- 対象外条件** SC2_1 < 18 または SC2_1 > 49 (即時回答終了)
- カテゴリ 1.歳
- 必須設定** 回答必須
- 回答制御** 回答範囲「0～99」に該当しない場合はアラートを表示

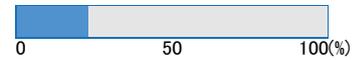
SC2
あなたの年齢をお答えください。

 歳

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



SC3

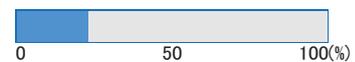
必須設定 回答必須

SC3

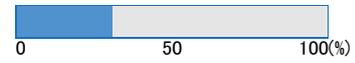
あなたの職業をお答えください。

- 1 会社勤務(一般社員)
- 2 会社勤務(管理職)
- 3 会社勤務(経営者・役員)
- 4 公務員・教職員・非営利団体職員
- 5 派遣社員・契約社員
- 6 自営業(商工サービス)
- 7 SOHO
- 8 農林漁業
- 9 専門職(弁護士・税理士等・医療関連)
- 10 パート・アルバイト
- 11 専業主婦
- 12 学生
- 13 無職
- 14 その他の職業

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



SC4

必須設定 回答必須

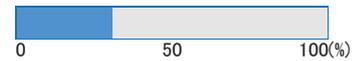
対象外条件 SC4 = 「1. 中学卒」(即時回答終了)

SC4

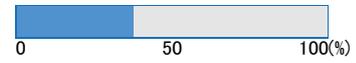
あなたの最終学歴をお答えください。

- 1 中学卒
- 2 高校卒
- 3 専門学校卒
- 4 短大卒
- 5 高専卒
- 6 大学卒
- 7 大学院卒
- 8 上記以外

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



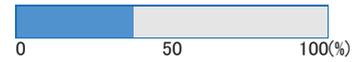
SC5

必須設定 回答必須

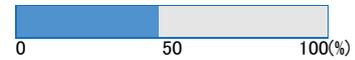
SC5

あなたのお住まいをお答えください。

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



SC6

必須設定 回答必須

SC6

2019年度から国の施策により、大学制度の中で専門職業人を養成する新しい高等教育機関として「専門職大学」と「専門職短期大学」が創設されます。

「専門職大学」には下記の特徴がありますが、興味・関心がある項目はどれですか？

あてはまるもの全て選んでください。(いくつでも)

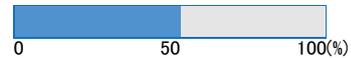
※必ず下記項目の中からお選びください。

- 1 大学制度の中でも、今までにない新しい高等教育機関であること
- 2 自分の好きな分野を学び、学んだ分野での就職を目指すこと
- 3 実習・演習の科目が多く、目指す職種の実践的な能力を身につけられること
- 4 目指す職種の実務経験を持つ、多くの実務家教員から学べること
- 5 実践力と同時に、そのための理論や関連分野の知識も学べること
- 6 大学卒業者として文部科学大臣が定める学位を授与されること

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



学校法人 日本教育財団(モード学園グループ)では、新しい高等教育機関「専門職大学」の開学を計画中です。下記、概要を確認のうえ、質問に回答ください。

2019年4月開学 設置計画



国際ファッション専門職大学 (仮称)

国際ファッション東京学部
ファッションクリエイション学科/ファッションビジネス学科



学部所在地：総合校舎コクータワー [新宿(西口)駅前 徒歩3分/東京都新宿区西新宿1-7-3]

「専門職大学」とは、大学制度の中で質の高い専門職業人を育てるため、国が導入する新しい高等教育機関です。ファッション業界の企業・団体と連携した充実の実習教育と、広く深い知識・教養の両立で、専門分野をリードする高い実践力を養成。さらに国際的な視野も備え、変化する社会のニーズに即応する力や、新たな価値を生み出す力も育みます。

●国際ファッション専門職大学(仮称)の特長

▶学習方法

- ◇高い実践力を養うため、卒業単位の3~4割以上に実習等の科目を導入、企業と連携した実習を600時間以上、さらに専任教員の4割以上は専門職の実務経験を備えた「実務家教員」です。
- ◇社会の最新ニーズを実習・実務教育へ的確に反映するため、クリエイターや企業・業界団体等の関係機関とも連携してカリキュラムを編成・実施します。
- ◇大学が担う理論教育と専門学校が担う実践教育の相互の強みを活かした、新たな高等教育機関である本校は、職業・社会における「実践の理論」を重視した研究を行います。
- ◇本法人が50年以上の教育で培ってきた独自の「創造力教育」や、国際化に対応するカリキュラムも融合。時代の変化に即応できる力や、新たな価値を生み出す力、自らを発展させる力も養います。

▶養成する人材・身につく能力

◇国際ファッション東京学部

●ファッションクリエイション学科 ファッションデザインコース/ファッションテキスタイルコース

- ▶「日本ブランド」としてのファッション商品やテキスタイル(布地・織物)を創出できる人材として、確かなデザイン技術と豊富な知識を備えた高い実践力を養成します。さらに、海外でも通用する知的財産としての商品・製品をデザインするために、諸外国の文化・歴史・習俗など幅広い教養や、外国語を含む情報収集・コミュニケーション能力も身につけます。
- ▶卒業後の進路：国内・海外ラグジュアリーブランド、企画・デザイン制作会社、織物メーカーほか

2017/10/4

学びについてのアンケート

●**ファッションビジネス学科** ファッションビジネスコース/ブランド企画コース

- ▶日本のファッション商品を、広く国際市場に向けて企画・販売できる人材として、デザイン・生産・流通を含む確かな知識に裏付けられた、商品企画・宣伝広報・販売営業の実践力を養成します。特に、国内のみならず海外での販売展開を前提にしたビジネスの特徴や手法、外国語を含むコミュニケーション・交渉能力、また独立起業に必要なノウハウも身につけます。
- ▶卒業後の進路：国内・海外アパレル企業、販売コンサルティング企業、独立起業ほか

この学部で目指せる学位・資格

学士（専門職）、色彩検定、カラーコーディネーター検定、パーソナルカリエリスト検定、技術認定（皮革部門）試験、ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定、リテールマーケティング（販売士）検定、各種外国語検定 ほか

●**国際ファッション専門職大学（仮称）国際ファッション東京学部について**

- ▶開設時期：2019年4月（予定）
- ▶設置者：学校法人 日本教育財団（モード学園グループ）
- ▶学部所在地：総合校舎コクーンタワー [新宿（西口）駅前 徒歩3分/東京都新宿区西新宿1-7-3]
- ▶修業年限：4年（入学前の最終学歴・履修単位により編入学制度あり）
- ▶取得学位：学士（専門職）
- ▶入学定員：国際ファッション東京学部
 - ◇ファッションクリエイション学科：80名
 - ◇ファッションビジネス学科：40名
- ▶学費 <入学から卒業までの費用総額（入学金、学費の合計）>
 - ◇国際ファッション東京学部

ファッションクリエイション学科	4年間計 5,480,000円 ※左記の他に教科書代、および海外実習希望者は別途費用が必要です。
ファッションビジネス学科	4年間計 5,292,000円 ※左記の他に教科書代、および海外実習希望者は別途費用が必要です。

※国際ファッション専門職大学（仮称）は2019年4月の開学を目指して設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。

SC7A

必須設定 回答必須

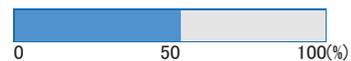
回答者条件 ((SC5 = 「1. 北海道」～「15. 新潟県」) または SC5 = 「19. 山梨県」 または (SC5 = 「40. 福岡県」～「47. 沖縄県」))

対象外条件 SC7A = 「2. 受験しない」 (即時回答終了)

SC7A
あなたは「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験したいと思いますか。

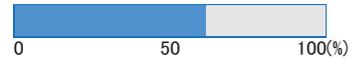
- 1 受験したい
- 2 受験しない

次へ

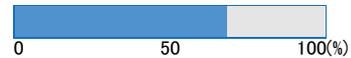


2017/10/4

学びについてのアンケート



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



学校法人 日本教育財団(モード学園グループ)では、新しい高等教育機関「専門職大学」の開学を計画中です。下記、概要を確認のうえ、質問に回答ください。

2019年4月開学 設置計画中



国際ファッション専門職大学 (仮称)

国際ファッション大阪学部
ファッション学科



学部所在地：大阪モード学園・HAL大阪 総合校舎 [大阪駅前 徒歩3分/大阪市北区梅田3-3-2]

「専門職大学」とは、大学制度の中で質の高い専門職業人を育てるため、国が導入する新しい高等教育機関です。ファッション業界の企業・団体と連携した充実の実習教育と、広く深い知識・教養の両立で、専門分野をリードする高い実践力を養成。さらに国際的な視野も備え、変化する社会のニーズに即応する力や、新たな価値を生み出す力も育みます。

●国際ファッション専門職大学（仮称）の特長

▶学習方法

- ◇高い実践力を養うため、卒業単位の3~4割以上に実習等の科目を導入、企業と連携した実習を600時間以上、さらに専任教員の4割以上は専門職の実務経験を備えた「実務家教員」です。
- ◇社会の最新ニーズを実習・実務教育へ的確に反映するため、クリエイターや企業・業界団体等の関係機関とも連携してカリキュラムを編成・実施します。
- ◇大学が担う理論教育と専門学校が担う実践教育の相互の強みを活かした、新たな高等教育機関である本校は、職業・社会における「実践の理論」を重視した研究を行います。
- ◇本法人が50年以上の教育で培ってきた独自の「創造力教育」や、国際化に対応するカリキュラムも融合。時代の変化に即応できる力や、新たな価値を生み出す力、自らを発展させる力も養います。

▶養成する人材・身につく能力

◇国際ファッション大阪学部

●**ファッション学科** ファッションデザインコース/ファッションテキスタイルコース/ファッションビジネスコース

▶「日本ブランド」としてのファッション商品やテキスタイル（布地・織物）を創出できる人材として、デザイン・ビジネスの確かな技術と豊富な知識を備えた高い実践力を養成します。さらに、海外でも通用する知的財産としての商品・製品を生み出すために、諸外国の文化・歴史・習俗など幅広い教養や、外国語を含む情報収集・コミュニケーション能力も身につけます。

2017/10/4

学びについてのアンケート

▶卒業後の進路：国内・海外ラグジュアリーブランド、企画・デザイン制作会社、織物メーカー、独立起業
ほか

この学部で目指せる学位・資格
 学士（専門職）、色彩検定、カラーコーディネーター検定、パーソナルキャリアリスト検定、技術認定（皮革部門）試験、ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定、リテールマーケティング（販売士）検定、各種外国語検定 ほか

●国際ファッション専門職大学（仮称）国際ファッション大阪学部について

- ▶開設時期：2019年4月（予定）
- ▶開設者：学校法人 日本教育財団（モード学園グループ）
- ▶学部所在地：大阪モード学園・HAL大阪 総合校舎 [大阪駅前 徒歩3分 / 大阪市北区梅田3-3-2]
- ▶修業年限：4年（入学前の最終学歴・履修単位により編入学制度あり）
- ▶取得学位：学士（専門職）
- ▶入学定員：国際ファッション大阪学部
 - ◇ファッション学科：40名
- ▶学費 <入学から卒業までの費用総額（入学金、学費の合計）>
 - ◇国際ファッション大阪学部

ファッション学科	4年間計 5,380,000円 ※上記の他に教科書代、および海外実習希望者は別途費用が必要です。
----------	---

※国際ファッション専門職大学（仮称）は2019年4月の開学を目指して設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。

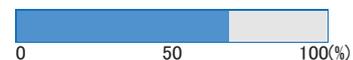
SC7B

- 必須設定
 回答必須
- 回答者条件
 SC5 = 「25. 滋賀県」～「39. 高知県」
- 対象外条件
 SC7B = 「2. 受験しない」（即時回答終了）

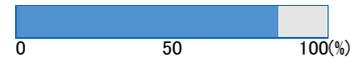
SC7B
 あなたは「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験したいと思いますか。

- 1 受験したい
- 2 受験しない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



学校法人 日本教育財団(モード学園グループ)では、新しい高等教育機関「専門職大学」の開学を計画中です。下記、概要を確認のうえ、質問に回答ください。



学部所在地：総合校舎スパイラルタワーズ [名古屋駅前 徒歩3分/名古屋市中村区名駅4-27-1]

「専門職大学」とは、大学制度の中で質の高い専門職業人を育てるため、国が導入する新しい高等教育機関です。ファッション業界の企業・団体と連携した充実の実習教育と、広く深い知識・教養の両立で、専門分野をリードする高い実践力を養成。さらに国際的な視野も備え、変化する社会のニーズに即応する力や、新たな価値を生み出す力も育みます。

●国際ファッション専門職大学（仮称）の特長

▶学習方法

- ◇高い実践力を養うため、卒業単位の3~4割以上に実習等の科目を導入、企業と連携した実習を600時間以上、さらに専任教員の4割以上は専門職の実務経験を備えた「実務家教員」です。
- ◇社会の最新ニーズを実習・実務教育へ的確に反映するため、クリエイターや企業・業界団体等の関係機関とも連携してカリキュラムを編成・実施します。
- ◇大学が担う理論教育と専門学校が担う実践教育の相互の強みを活かした、新たな高等教育機関である本校は、職業・社会における「実践の理論」を重視した研究を行います。
- ◇本法人が50年以上の教育で培ってきた独自の「創造力教育」や、国際化に対応するカリキュラムも融合。時代の変化に即応できる力や、新たな価値を生み出す力、自らを発展させる力も養います。

▶養成する人材・身につく能力

- ◇国際ファッション名古屋学部

●ファッション学科 ファッションデザインコース/ファッションテキスタイルコース/ファッションビジネスコース

- ▶「日本ブランド」としてのファッション商品やテキスタイル（布地・織物）を創出できる人材として、デザイン・ビジネスの確かな技術と豊富な知識を備えた高い実践力を養成します。さらに、海外でも通用する知的財産としての商品・製品を生み出すために、諸外国の文化・歴史・習俗など幅広い教養や、外国語を含む情報収集・コミュニケーション能力も身につけます。

2017/10/4

学びについてのアンケート

▶卒業後の進路：国内・海外ラグジュアリーブランド、企画・デザイン制作会社、織物メーカー、独立起業
ほか

この学部で目指せる学位・資格
 学士（専門職）、色彩検定、カラーコーディネーター検定、パーソナルカラー検定、技術認定（皮革部門）試験、ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定、リテールマーケティング（販売士）検定、各種外国語検定 ほか

●国際ファッション専門職大学（仮称）国際ファッション名古屋学部について

- ▶開設時期：2019年4月（予定）
- ▶開設者：学校法人 日本教育財団（モード学園グループ）
- ▶学部所在地：総合校舎スパイラルタワーズ [名古屋駅前 徒歩3分/名古屋市中村区名駅4-27-1]
- ▶修業年限：4年（入学前の最終学歴・履修単位により編入学制度あり）
- ▶取得学位：学士（専門職）
- ▶入学定員：国際ファッション名古屋学部
 - ◇ファッション学科：40名
- ▶学費 <入学から卒業までの費用総額（入学金、学費の合計）>
 - ◇国際ファッション名古屋学部

ファッション学科	4年間計 5,230,000円 ※上記の他に教科書代、および海外実習希望者は別途費用が必要です。
----------	---

※国際ファッション専門職大学（仮称）は2019年4月の開学を目指して設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。

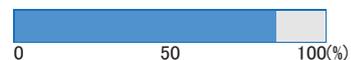
SC7C

- 必須設定 回答必須
- 回答者条件 ((SC5 = 「16. 富山県」～「18. 福井県」) または (SC5 = 「20. 長野県」～「24. 三重県」))
- 対象外条件 SC7C = 「2. 受験しない」 (即時回答終了)

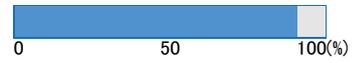
SC7C
 あなたは「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験したいと思いますか。

- 1 受験したい
- 2 受験しない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



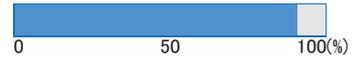
SC8C **必須設定** 回答必須

回答者条件 ((SC5 = 「16. 富山県」～「18. 福井県」) または (SC5 = 「20. 長野県」～「24. 三重県」))

SC8C
「国際ファッション専門職大学(仮称)」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。

- 1 入学したい
- 2 併願先の結果等によっては入学したい

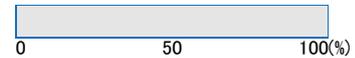
次へ



アンケート画面開始

Page 1

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



Q1A

必須設定 回答必須

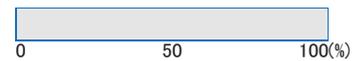
回答者条件 ((SC5 = 「1. 北海道」～「15. 新潟県」) または SC5 = 「19. 山梨県」 または (SC5 = 「40. 福岡県」～「47. 沖縄県」))

Q1A

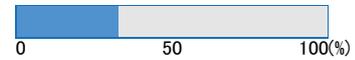
「国際ファッション専門職大学(仮称)」の特長の中で、興味・関心がある項目はどれですか。
あてはまるもの全てを選んでください。(いくつでも)
※必ず下記項目の中からお選びください。

- 1 就職に役立つ高い実践力と知識・教養が同時に身につくこと
- 2 キャンパスが新宿駅前で通学に便利であること
- 3 学費が妥当であること
- 4 母体となる法人が50年以上の教育と就職の実績を築いていること
- 5 海外と連携して国際的な実践力を育むカリキュラムが豊富であること

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



Q1B

必須設定 回答必須

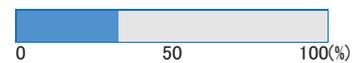
回答者条件 SC5 = 「25. 滋賀県」～「39. 高知県」

Q1B

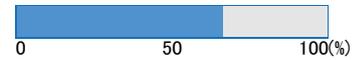
「国際ファッション専門職大学(仮称)」の特長の中で、興味・関心がある項目はどれですか。
 あてはまるもの全て選んでください。(いくつでも)
 ※必ず下記項目の中からお選びください。

- 1 就職に役立つ高い実践力と知識・教養が同時に身につくこと
- 2 キャンパスが大阪駅前で通学に便利であること
- 3 学費が妥当であること
- 4 母体となる法人が50年以上の教育と就職の実績を築いていること
- 5 海外と連携して国際的な実践力を育むカリキュラムが豊富であること

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



Q1C

必須設定 回答必須

回答者条件 ((SC5 = 「16. 富山県」～「18. 福井県」)または(SC5 = 「20. 長野県」～「24. 三重県」))

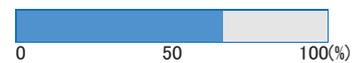
Q1C

「国際ファッション専門職大学(仮称)」の特長の中で、興味・関心がある項目はどれですか。あてはまるもの全てを選んでください。(いくつでも)

※必ず下記項目の中からお選びください。

- 1 就職に役立つ高い実践力と知識・教養が同時に身につくこと
- 2 キャンパスが名古屋駅前で通学に便利であること
- 3 学費が妥当であること
- 4 母体となる法人が50年以上の教育と就職の実績を築いていること
- 5 海外と連携して国際的な実践力を育むカリキュラムが豊富であること

送信



【資料13】学費の比較

●学費(東京)

大学	都道府県	学部	学科	入学金	学費	合計	実習費
国際ファッション専門職大学		国際ファッション学部	ファッションクリエイション学科	¥300,000	¥1,250,000	¥1,550,000	実費
		国際ファッション学部	ファッションビジネス学科	¥300,000	¥1,250,000	¥1,550,000	実費

競合大学

大学	都道府県	学部	学科	入学金	学費	合計	実習費
文化学園大学	東京	服装学部	ファッションクリエイション学科	¥350,000	¥1,196,500	¥1,546,500	-
杉野服飾大学	東京	服飾学部	服飾学科	¥300,000	¥1,100,000	¥1,400,000	¥40,000
東京家政大学	東京	家政学部	服飾美術学科	¥300,000	¥1,020,000	¥1,320,000	¥60,000
大妻女子大学	東京	家政学部	被服学科	¥250,000	¥1,195,000	¥1,445,000	-
共立女子大学	東京	家政学部	被服学科	¥150,000	¥1,150,000	¥1,300,000	¥60,000

※初年度納付金

●学費(大阪)

大学	都道府県	学部	学科	入学金	学費	合計	実習費
国際ファッション専門職大学		国際ファッション学部	大阪ファッション学科	¥280,000	¥1,230,000	¥1,510,000	実費

競合大学

大学	都道府県	学部	学科	入学金	学費	合計	実習費
大阪樟蔭女子大学	大阪	学芸学部	化粧品ファッション学科	¥280,000	¥1,170,000	¥1,450,000	-
神戸女子大学	兵庫	家政学部	家政学科	¥250,000	¥1,160,000	¥1,410,000	-

●学費(名古屋)

大学	都道府県	学部	学科	入学金	学費	合計	実習費
国際ファッション専門職大学		国際ファッション学部	名古屋ファッション学科	¥250,000	¥1,200,000	¥1,450,000	実費

競合大学

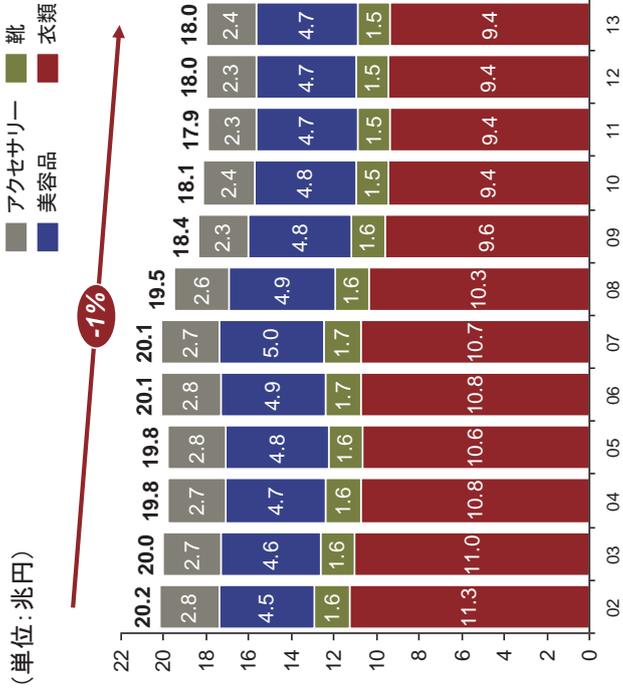
大学	都道府県	学部	学科	入学金	学費	合計	実習費
名古屋学芸大学	愛知	メディア造形学部	ファッション造形学科	¥200,000	¥1,225,000	¥1,425,000	¥50,000
愛知学泉大学	愛知	家政学部	家政学科	¥280,000	¥1,100,000	¥1,380,000	¥25,000
金城学院大学	愛知	生活環境学部	環境デザイン学科	¥200,000	¥1,155,000	¥1,355,000	-
名古屋女子大学	愛知	家政学部	家政学科	¥200,000	¥1,125,000	¥1,325,000	¥20,000

1. 日本ファッション関連産業の推移及び海外展開状況

- 日本ファッション市場は、ここ10年緩やかに縮小傾向にあり、2013年は18兆円規模（アクセサリー等含む）
- 多くの日本ファッション企業が海外進出を志向するも、ファーストリテイリングなど海外売上が2割を超える企業は限定的であり、国内上位企業の内、7割以上の企業は海外比率が10%未満で、海外進出は進んでいない
- 今後、新興国等に成長の可能性有り

日本のファッション関連市場の推移

- ここ10年、市場は緩やかに縮小傾向



1. 売上位企業および有識者推薦の成長企業で、海外進出状況がわかる企業
Source: EuroMonitor, SPEEDA、各種記事、A.T. Kearney分析(2012年ベース(ファーストリテイリングは、2013年8月期))

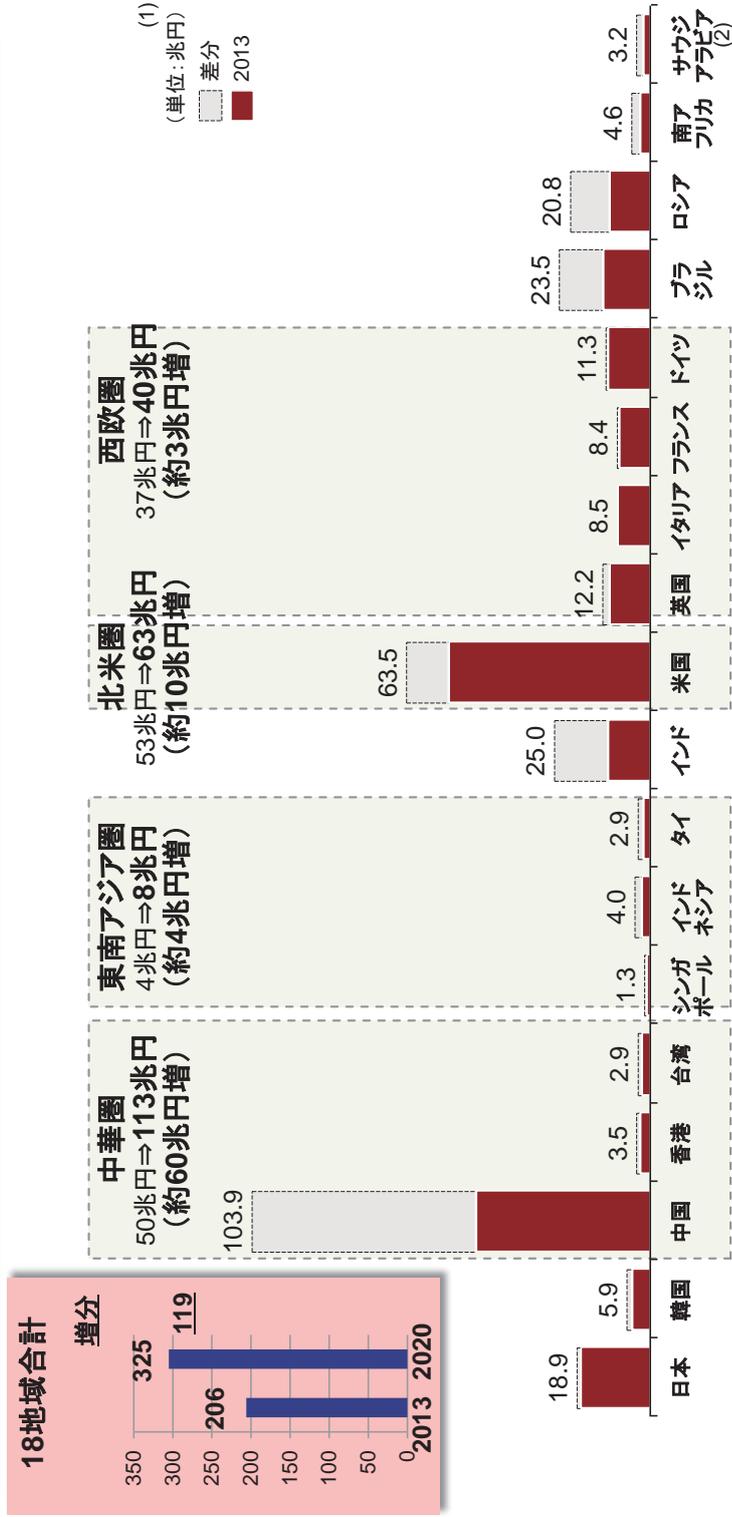
主要アパレル企業⁽¹⁾の海外進出状況

- ファーストリテイリングをはじめ数社以外は、海外進出が進んでいない状況

企業名	2012年度売上高(億円)		店舗数	
	全体	海外	全体	海外
ファーストリテイリング	11,430	3,330	1,368	512
しまむら	4,911	37	1,808	-
ワールド	3,365	-	2,700	-
オンワードHD	2,584	404	-	-
青山商事	2,124	-	828	19
TSPホールディングス	1,855	-	941	-
アダストリアHD	1,217	-	899	75
ユナイテッドアローズ	1,150	-	190	-
ハル	925	-	652	-
クロスカンパニー	639	-	760	25
ハニーズ	619	106	1,377	547
パロックジャパン	598	-	348	30
はるやま商事	524	-	377	2
Java Group	458	-	約800	15
マッシュホールディングス	301	-	100+海外	20以上
ミキハウス(三超商事)	235	-	224	44
IGA	160	-	142	5

2-1. 主要国におけるファッション市場規模

- 主要国におけるファッション市場規模は、2013年に206兆円、2020年には325兆円へ成長
- 中華圏は2020年までに60兆円拡大し、113兆円の世界最大の市場へと成長
- 東南アジア圏は大きく成長するも、2020年時点で8兆円程度にとどまり、規模は限定的
- 北米圏は堅調に成長。2020年までに10兆円拡大し、63兆円の市場規模に
- 西欧圏は2020年時点で40兆円と一定の市場規模があるものの、成長は限定的

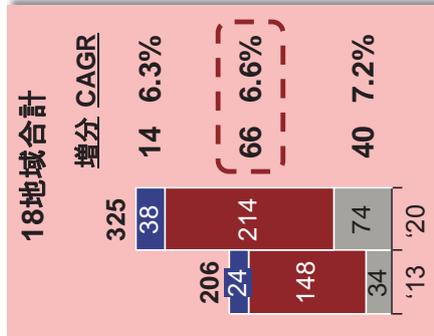


1. ファッション市場規模は、衣類、靴、鞆、時計、ジュエリー、美容品を含む
 2. サウジアラビアの市場規模は靴・時計・ジュエリーを含まない
 Source: Euromonitor, A.T. Kearney分析

2-2. 主要国におけるファッション市場規模 — 価格帯別 —

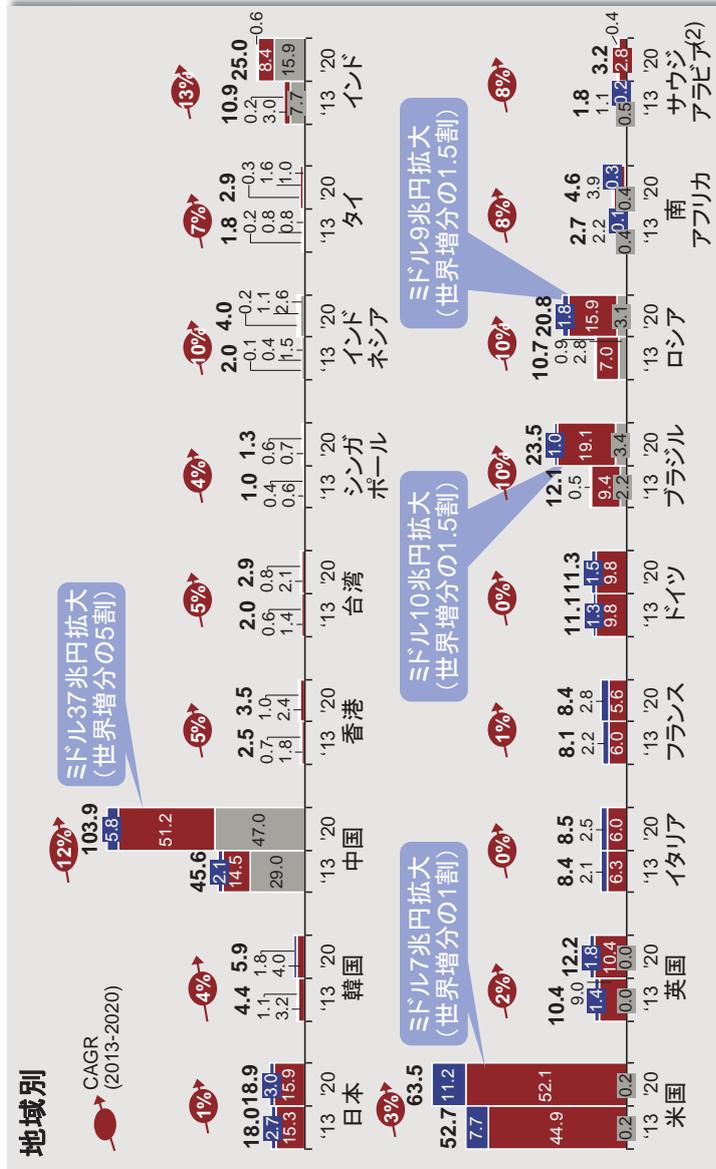
- 2020年にかけて、ラグジュアリー帯が14兆円、ミドル帯が66兆円、ロー帯が40兆円拡大の見通し
- 特に拡大著しいミドル帯の増分は、中国が約5割、ブラジル・ロシア約1.5割を占める

単位：兆円



価格帯別商品イメージ

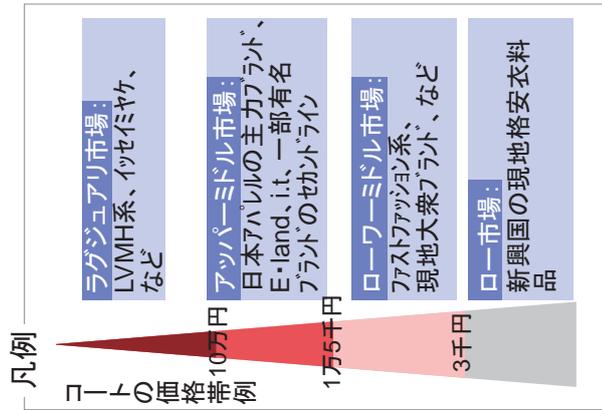
- ラグジュアリー: ラグジュアリーブランド、デザイナー、サウスアラブ
- ミドル: 量販系・ファストファッション〜日本アパレルの主カアブランド
- ロー: 新興国で主に販売される超低価格衣料



1. Middle, Low市場は、Luxuryを除く全体市場から、各国の世帯収入別の総収入金額割合を用いて分類。Middle:世帯当たり収入\$15,000-, Low:世帯当たり収入<\$15,000
 2. サウジアラビアの市場規模は靴・時計・ジュエリーを含まない
 Source: Euromonitor, EIU, A.T. Kearney分析

3. 海外で重点攻略を目指す市場（ボリュームが期待できる市場）

- 日本ファッション関連産業全体として、一定の海外売上規模感を達成するには、中国・東南アジア圏でのアップパーミドル市場の重点開拓が必要
- 日本ファッションブランドが最も得意とするアップパーミドル市場は海外では相対的に小さく、フラグメント。但し、中国を中心とした新興国では、ハードルは高いもの、一定の育成余地はあり
- ラグジュアリー市場は大手コングロマーティによる寡占市場であり、規模の獲得は難しそう。日本ブランドのイメージ向上の場と位置づけるのが妥当
- 今後主要18カ国において成長が期待できるローワーマィドル市場においてはユニクロやMUJIが先行して海外進出し、日本ブランドの普及に貢献。徐々にアップパーミドル市場への拡大を期待



【資料15】主要国の繊維品貿易

(単位:10億ドル)

国名		2007	2008	2009	2010	2011	2012
日本	輸出	8.8	9.1	7.7	8.9	10.2	9.9
	輸入	30.7	30.7	32.4	34.4	42.7	43.3
	バランス	▲ 21.9	▲ 21.6	▲ 24.7	▲ 25.5	▲ 32.5	▲ 33.4
中国	輸出	165.8	179.2	161.3	199.5	240.5	246
	輸入	25.4	24.9	21.8	29.5	37.6	40.8
	バランス	140.5	154.3	139.6	169.9	202.9	205.2
台湾	輸出	11.6	10.8	9.3	11.3	12.6	11.7
	輸入	2.7	2.7	2.2	2.9	3.6	3.3
	バランス	8.9	8.1	7.1	8.4	9.1	8.4
韓国	輸出	13.2	13.1	11.4	13.7	15.7	15.4
	輸入	8.8	8.7	7.3	9.7	12.7	11.8
	バランス	4.4	4.4	4.1	4	3.1	3.6
タイ	輸出	7.5	7.3	6.5	7.8	8.2	7.3
	輸入	3.4	3.7	2.9	4	4.9	5
	バランス	4.2	3.5	3.6	3.7	3.3	2.3
インドネシア	輸出	9.8	10.1	9.3	11.2	13.3	12.5
	輸入	2	5.1	4.2	6.2	8.5	8.1
	バランス	7.8	5	5.1	5	4.7	4.3
インド	輸出	20.8	23.1	21.8	27.2	32.6	32.9
	輸入	3	3.7	3.1	3.9	5	5.2
	バランス	17.8	19.4	18.6	23.3	27.7	27.6
トルコ	輸出	23	23	19.3	21.6	25	25.5
	輸入	9.8	9.6	8.5	11.8	13.7	11.4
	バランス	13.2	13.4	10.9	9.8	11.2	14.1
EU27	輸出	49.9	53.3	42.4	45.2	53.9	53
	輸入	110.1	118.4	104.6	112.3	130.9	114.9
	バランス	▲ 60.2	▲ 65.1	▲ 62.2	▲ 67.2	▲ 77.0	▲ 61.9
アメリカ	輸出	22	22.5	18.3	23.6	28.7	26.5
	輸入	99.2	95.9	83.2	95.4	103.9	103.5
	バランス	▲ 77.1	▲ 73.3	▲ 64.9	▲ 71.9	▲ 75.3	▲ 77.0

出典:日本化学繊維協会『繊維ハンドブック』より

【資料16】我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査）
平成28年度

7-5 日本・米国・中国各国におけるECおよび越境EC市場動向

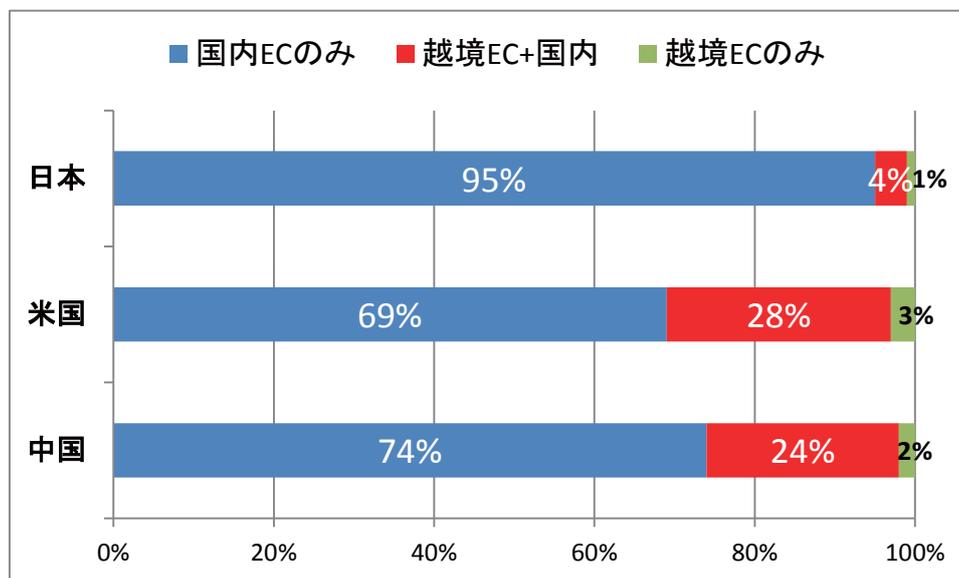
本項では、日本・米国・中国の3カ国におけるECおよび越境ECに関する市場動向を述べる。本調査では、日本・米国・中国各国におけるEC事業者、業界団体に計約30社にヒアリングを行っており、そのインタビュー結果や文献による調査結果を中心に越境ECに関する市場動向について整理する。

EC事業者の「越境EC」に対する期待は、ますます高まっている。言語や法規制等の制約や物流・決済手段での課題はあるものの、越境ECは海外市場開拓のための有力な手段となっていくと共に、日本経済活性化の原動力になりうる可能性を秘めているものと考えられるからである。

ペイパルと調査会社イプソスによる越境EC調査によると、過去1年間に越境ECを経験したことのある日本・米国・中国各国のインターネットユーザーの割合は図表7-12の通りである。

日本で越境ECを経験者したことがある割合は5%、米国で31%、中国では26%である。日本の割合（5%）は、他国と比べると割合が低い。

図表7-12：越境EC経験者の割合（過去1年間）

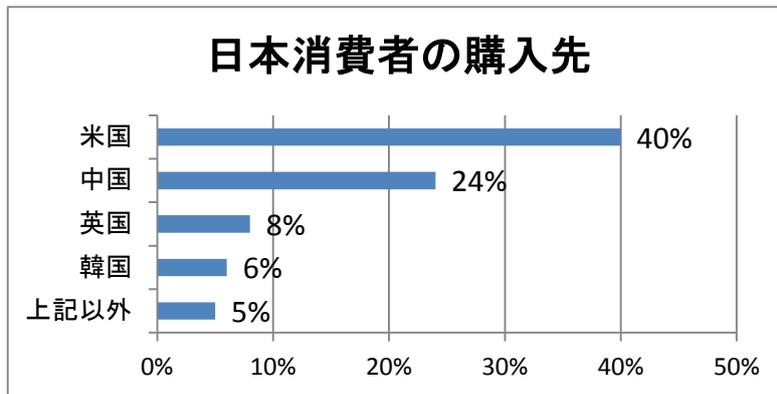


出所：PayPal and Ipsos, "PayPal Cross-Border Consumer Research 2016"

次に、越境EC経験者における購入先の国別利用サイト状況では、図表7-13に示す通り、日本の消費者が「過去1年間に越境ECを1度でも利用したことがある国」のトップは米国の40%、中国24%、英国8%と続く。米国の消費者では図表7-14に示す通り、越境ECの購入

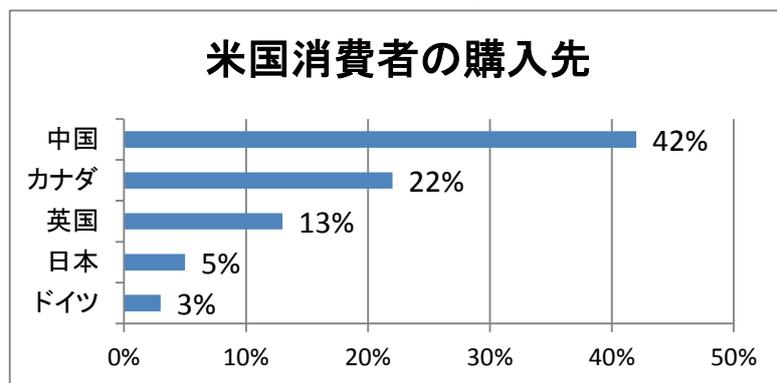
先トップは中国で42%、カナダ22%、英国13%、日本は4位で5%と続く。中国の消費者では図表7-15に示す通り、越境ECの購入先トップは米国で27%、日本は2位で18%と続く。巨大EC市場を擁する中国や米国のインターネットユーザーからみて、日本が置かれている基礎的条件は決して悪いものではないと言えよう。

図表 7-13 : 日本消費者の越境 EC 購入先



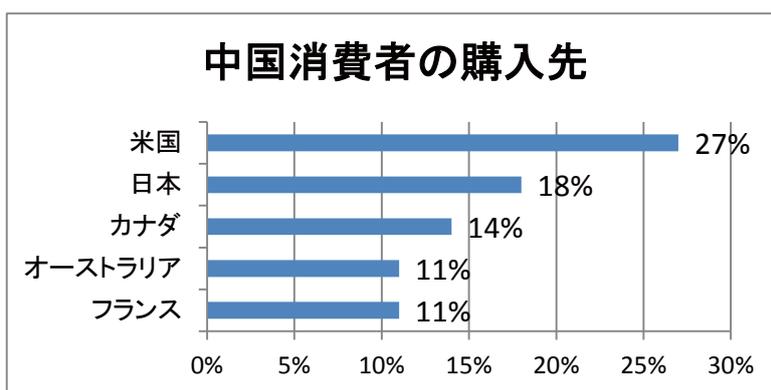
出所 : IPC "Cross-Border E-Commerce Shopper Survey 2016," Jan , 2017

図表 7-14 : 米国消費者の越境 EC 購入先



出所 : IPC "Cross-Border E-Commerce Shopper Survey 2016," Jan , 2017

図表 7-15 : 中国消費者の越境 EC 購入先



出所 : IPC "Cross-Border E-Commerce Shopper Survey 2016," Jan , 2017

続いて、日本・米国・中国各国の越境 EC における購入商品についてみると、図表 7-16、17、18 に示す通り、「アパレル/靴/アクセサリ」のカテゴリがすべての国で 1 位である。特徴的な商品について述べると、米国では第 2 位に「おもちゃ・ホビー商品」があり、中国では第 8 位に「ベビー用品、子供向け商品」がある。国内 EC 事業者からのヒアリングでは日本製の「粉ミルク」や「紙おむつ」が中国向けによく売れており、また「食品」の内訳として、健康食品も同様に人気が高い。このように各国によって売れ筋商品が共通である商品と特徴的な商品に分かれる。

図表 7-16 日本人消費者 越境 EC 利用における売れ筋商品

順位	商品	割合
1	アパレル/靴/アクセサリ	39%
2	本、CD、DVD 娯楽商品/教育商品	32%
3	化粧品	21%
4	コンピューター、タブレット、モバイル電子機器	18%
5	旅行	14%
6	おもちゃ、ホビー商品	14%
7	コレクター商品、美術品	14%
8	食品、飲料、アルコール	11%
9	電子書籍、音楽、ゲームのダウンロードコンテンツ	11%
10	スポーツ、アウトドア用品	7%
10	宝石/腕時計	7%
10	自動車のアクセサリ、部品	7%

図表 7-17：米国人消費者 越境 EC 利用における売れ筋商品

順位	商品	割合
1	アパレル/靴/アクセサリ-	48%
2	おもちゃ、ホビー商品	36%
3	本、CD、DVD 娯楽商品/教育商品	34%
4	宝石/腕時計	31%
5	電子書籍、音楽、ゲームのダウンロードコンテンツ	27%
6	化粧品	26%
6	旅行	26%
8	コンピューター、タブレット、モバイル電子機器	20%
8	家庭用電化製品、家具	20%
10	スポーツ、アウトドア用品	19%

図表 7-18 中国人消費者 越境 EC 利用における売れ筋商品

順位	商品	割合
1	アパレル、靴、アクセサリ-	55%
1	化粧品	55%
3	食品、飲料、アルコール	44%
4	コンピューター、タブレット、モバイル電子機器	36%
5	旅行	33%
6	スポーツ、アウトドア用品	29%
7	家庭用電化製品、家具	28%
8	ベビー用品、子供向け商品	27%
8	おもちゃ、ホビー商品	27%
10	宝石/腕時計	23%
10	健康関連商品、市販薬、絆創膏	23%

出所：PayPal and Ipsos, "PayPal Cross-Border Consumer Research 2016"

1. 「文化産業立国」のねらい

1. 文化産業は、それ自体、これからの日本経済を牽引する可能性が大きい。

また、文化産業は、ソフトパワーとして、日本産業全体の海外展開の大きな力となると考えられる。

文化産業：コンテンツ、ファッション、食品、日用品（家具・文具）、観光 等

2. 現に、我が国の文化産業は、海外で人気が高い。

3. 他方、以下の課題がある。

国内の産業規模は近年伸び悩み。海外展開は一部企業のみ。

最近では、韓流 Cool Koreaの人気がアジア市場で先行しており日本の得意の自動車、家電などの市場獲得競争にも影響。

日本の製造業は日本の文化を競争力強化に取り込めていない。

4. 文化産業を日本の競争力の源泉と位置付け、自動車・エレクトロニクス産業等と並ぶ日本経済の柱となることを期待。

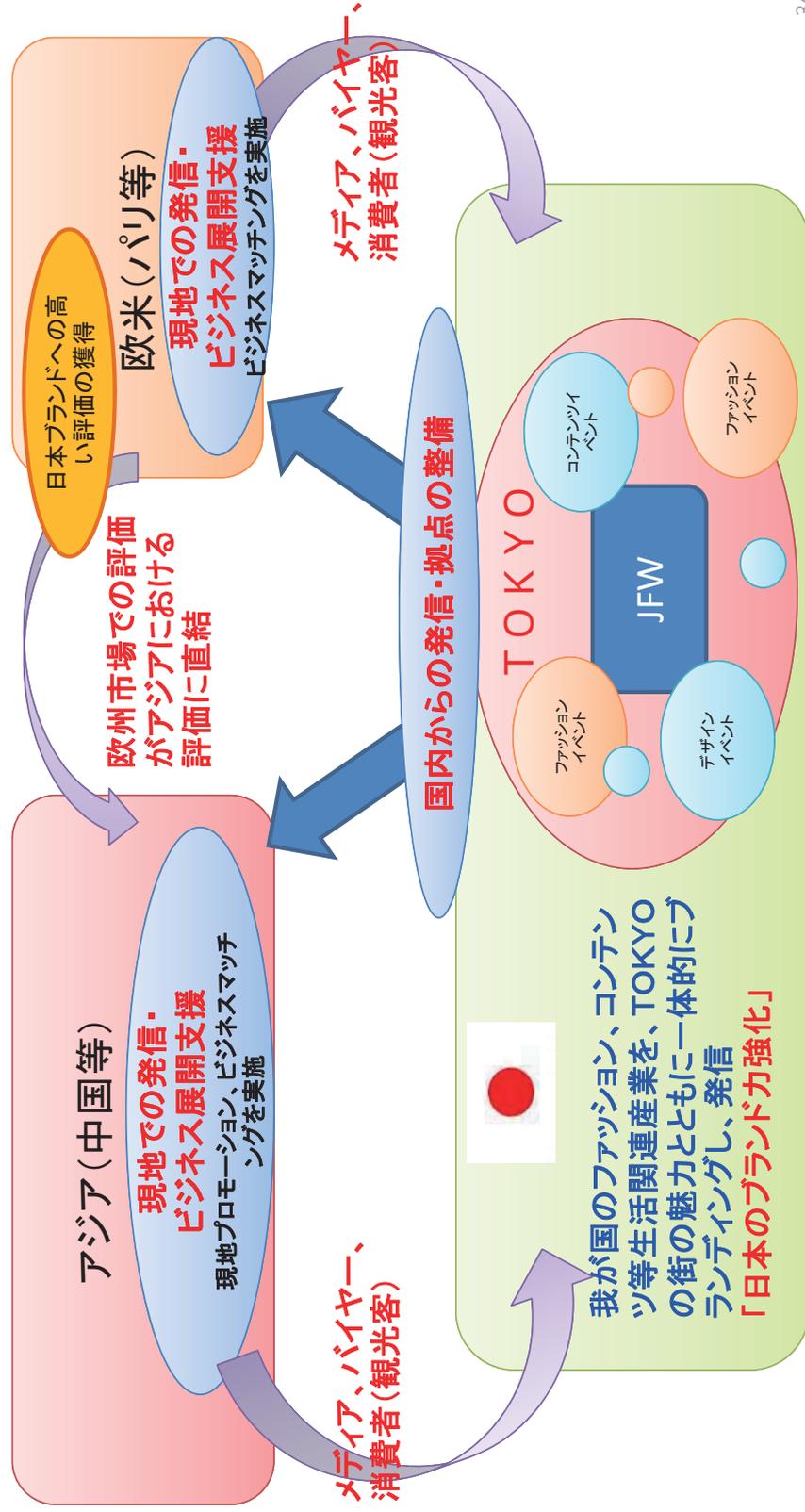
3. (1) 文化産業によるソフトパワーの強化

文化産業を通じて「日本の良さ」が世界に浸透することで、様々な産業が世界に広がる。

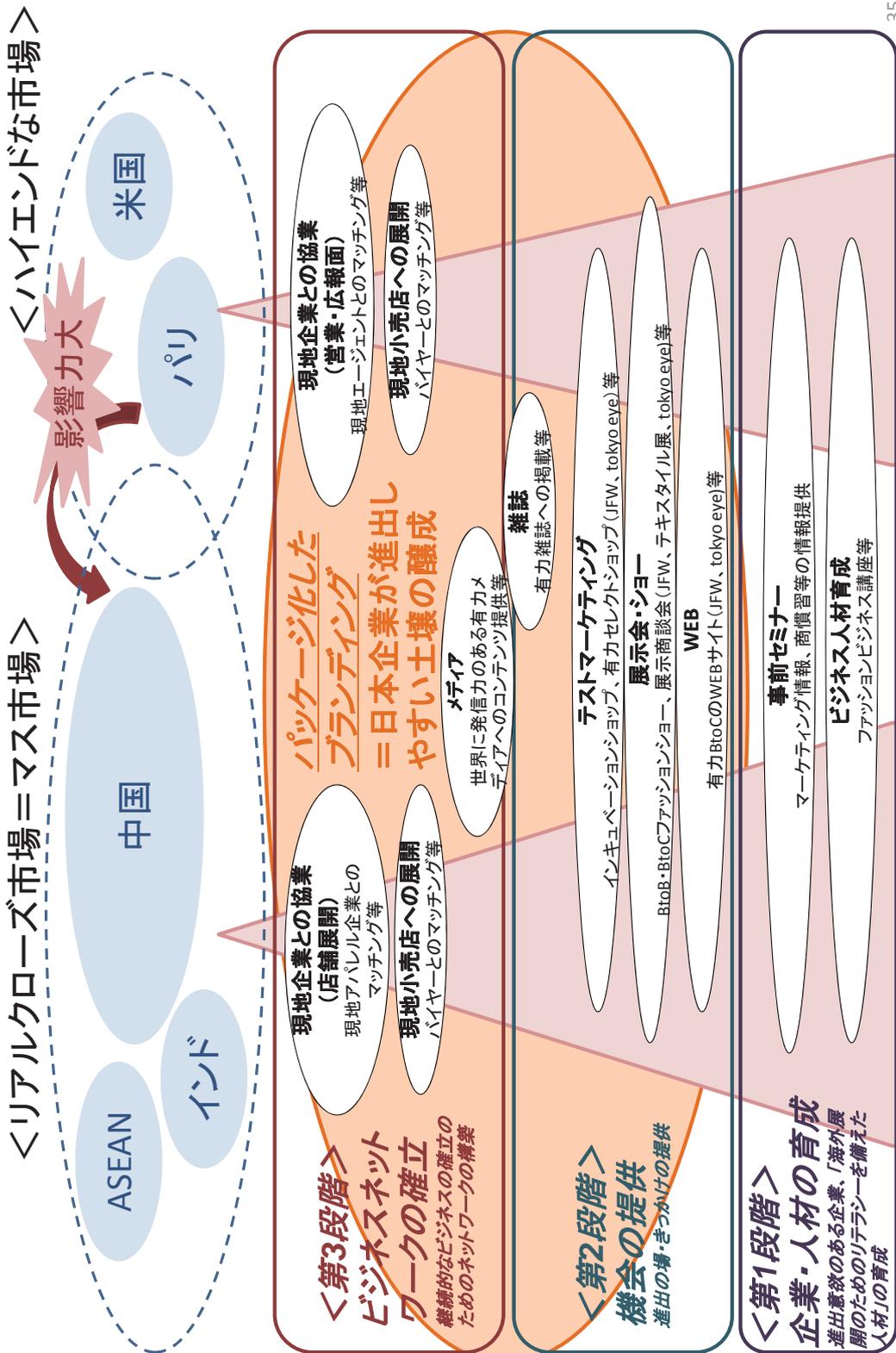


(2) 海外市場開拓③ファッション分野

○アジアの巨大な市場（現地の市場、観光客）を獲得していくためには、アジアのみならず、アジア市場に対する影響力の大きい欧米での発信及びビジネス展開支援を行うとともに、日本をアジアの中のクリエイティブの発信拠点としていくことが必要。



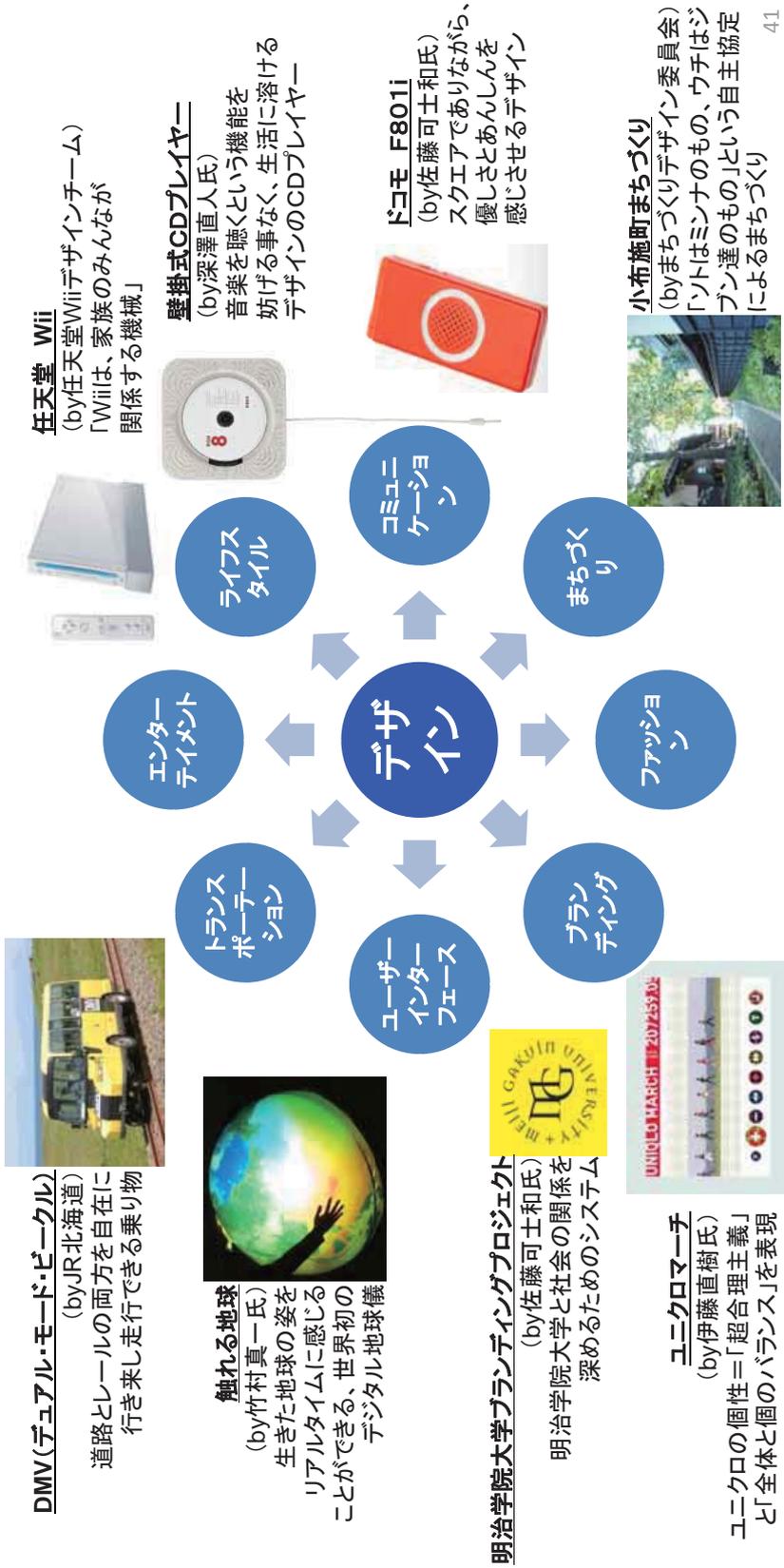
(2) 海外市場開拓③フアッション分野



クリエイション人材：領域融合的アプローチによる生活文化の醸成

• デザインとは、質の高いライフスタイルをつくり出す方法論。より良いデザインを生み出す「最適化力」は、日本人の得意とする領域であり、あらゆる領域でイノベーションの創出が期待。

• こうした領域融合的なクリエイションを推進するため、産業界、大学、自治体等の垣根を超え、「リスパェクトされる日本の良さ」を発進するクリエイション人材にとっての「良き理解者」となる。

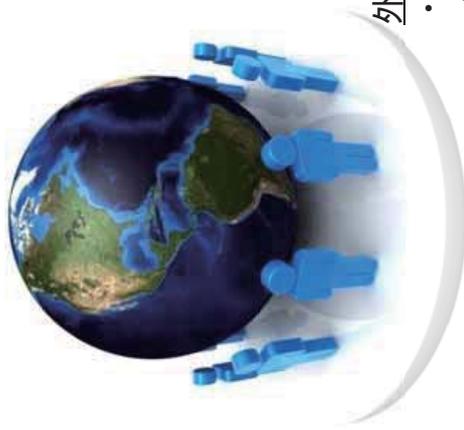


クリエイション人材：クリエイターのグローバル化

▶文化産業の競争力の源泉である「個人の創造性」を解放し、育成するため、海外進出支援、海外からの人材受入促進などを行う。

若手プロデューサー・クリエイターの留学・研修支援

・海外の専門教育機関でノウハウ習得から国際人脈づくりまで幅広い研鑽を積むための長期研修機会を提供。



クリエイターの海外進出支援

・アジアで拡大するクリエイティブ需要を取り込むため、デザイナー海外派遣団等を実施。



外国人クリエイターの受入れの促進

・ポイント制の導入を含め、デザイナーやクリエイターなどの高度人材の入国円滑化を検討すべき。

【資料18】未来投資戦略2017

- てメッセージを発信する「女性スポーツキャンペーン」を検討し、本年度中を目途に結論を得る。
- ・スポーツ関係機関の役職員等の女性比率に関する目標・対策等の方針について、スポーツ関係機関と共同で検討し、本年度中を目途に結論を得る。
 - ・障害者のスポーツ実施率の向上に向けて、スポーツ関係団体、経済界等と連携し、障害のある子供たちが参加する全国的なスポーツイベントの開催を推進するとともに、全ての特別支援学校を地域の障害者スポーツの拠点として活用するための支援を行う。

iii) 文化芸術資源を活用した経済活性化

① 文化芸術資源の活用の更なる促進に向けた体制・制度の整備

- ・我が国の誇る文化ストックの継承・発展と創造による社会的・経済的価値等の創出に向け、民間部門の創意工夫により新たな需要の創出を図りつつ、文化芸術産業の経済規模（文化GDP）及び文化芸術資源の活用による経済波及効果を拡大するため、関係省庁の連携により「文化経済戦略（仮称）」を本年中に策定する。
- ・文化芸術資源を活用した新たな需要やイノベーションの創出のため、学芸員の質的向上や高度プロデューサー人材等の育成をはじめ、多様な人材の戦略的な育成・確保を図る。
- ・文化財の更なる公開・活用を促進するため、地方公共団体、博物館・美術館等の文化財所有者・管理者の相談への一元的な対応や情報発信を行う文化財公開・活用に係るセンター機能の整備に取り組むとともに、文化財保護制度について持続的活用の観点から見直しを進める。文化財の適切な周期での修理・整備・美装化及び防災・防犯に取り組むとともに、ユニークベニューや多言語解説等の優良事例の普及や、VRや「クローン文化財」（高精度な文化財の複製）の技術等を活用した公開を促進するための検討を行う。

② 文化芸術資源を核とした地域活性化・ブランド力向上

- ・「上野文化の杜」等をモデルとして、文化クラスター（文化集積地区）創出に向けた地域文化資源の面的・一体的整備を関係省庁が連携して集中的に支援する。文化芸術に対する国・地方の支援策への専門家による助言・審査・評価等（アーツカウンシル機能）の連携・強化、日

本遺産のブランド力向上に取り組むとともに、文化施設の多言語対応や夜間開館等の推進に向けたマネジメント改革等を促すガイドラインを本年度中に策定する。

- ・イノベーションを促進するため、高度デザイン教育に取り組む大学等高等教育機関によるプラットフォームの構築等を支援し、モデルとなる教育カリキュラムを検討するとともに、地方大学も含めた横断的な産学連携を図り、高度デザイン人材の育成を図る。また、企業のブランド力向上に資するデザインの保護・活用の在り方を検討する。
- ・「beyond2020 プログラム」の認証組織を拡大すること等により、日本文化の魅力を国内外に発信する「文化プログラム」を全国展開し、地域活性化や共生社会の構築につなげる。また、海外の第一線で活躍する文化人の参画、在外公館やジャパン・ハウスの活用等により、日本文化の国内外への戦略的な発信を強化し、文化による日本ブランドの構築を図る。
- ・国際文化交流の祭典の実施を推進する体制の整備等を促進するとともに、2020年までに、海外派遣される「文化交流使」による発信強化、外国人アーティスト及び著名外国人の招へい等の双方向型の文化交流を強力に推進する。
- ・障害者の文化芸術活動の機会の拡大に向け、文化芸術の作品等に関する説明の提供・創造活動の充実や施設の利用環境の整備、優れた芸術作品を商品化し、その利益を創作者や施設等に還元する取組等を促進する。

③ コンテンツを軸とした文化芸術産業の強化

- ・地域コンテンツの新たな市場開拓のため、急拡大するアジアのコンテンツ市場開拓に向けた各国との官民対話を拡充するとともに、国内外におけるビジネスマッチングイベントの開催や、業界団体等とともにVR/AR等の先進的なコンテンツ技術を活用するためのガイドラインを整備する。
- ・コンテンツ産業や観光の振興、地方創生等につながる映画やマンガ・アニメ・ゲーム等のメディア芸術分野の国内外への発信機能の強化等を図る。
- ・我が国の知的資源・文化芸術資源を一元化し新規ビジネス・サービスを創出するため、各分野でのデジタルアーカイブ化や、国立国会図書館を中心とした分野横断の統合ポータル構築を推進する。

ii) 日本の魅力をいかす施策

① 対内直接投資誘致の強化

- ・「規制・行政手続見直しワーキング・グループとりまとめ」（平成29年4月24日対日直接投資推進会議規制・行政手続見直しワーキング・グループ決定）を踏まえ、規制・行政手続等に関し外国企業が直面するビジネス上の課題を効果的に解決する。また、JETROに「外国企業パーソナルアドバイザー制」を導入し、重点10分野の英語情報発信や、誘致担当者と専門家チームによる、関係省庁等との連携を通じた外国企業へのコンサルテーションの充実及び個別課題の解決を図る。
- ・特に、外国企業の研究開発等高付加価値部門を積極的に誘致し、我が国のイノベーションにつなげる。
- ・「対日直接投資の拡大に向けた誘致方策（「改革2020」プロジェクト）」については、ア）2019年から2020年に開催されるRegional Business Conferenceに向けて、自治体交流を外国企業とのビジネス交流につなげるべく、ビジネス交流イベント等を実施する。また、イ）2020年のグローバル・ベンチャー・サミットにつなげるべく、大企業や投資家、ベンチャー企業等のマッチングイベント等の集中的な実施を検討する。

② クールジャパンの推進

- ・コンテンツや食、デザイン、観光等、我が国の魅力を、在外公館やジャパン・ハウス等も活用して国内外に発信し、お互いの相乗効果も図りつつ、地域産品の販路拡大や訪日外国人の増加等を通じた経済成長につなげる。その際に不可欠なクールジャパン関連産業の事業創出や持続的発展に資する取組を、クールジャパン機構やクールジャパン官民連携プラットフォーム等を有効活用しつつ推進する。
- ・「クールジャパン人材育成検討会第一次とりまとめ」（平成29年5月26日クールジャパン人材育成検討会決定）に基づき、プロデューサー等の育成支援、産業ニーズを踏まえた実践的な高等教育の仕組み作り、地域の魅力や新たなブランドをプロデュースし海外に展開できる人材の育成・活用、外国人材活用・集積等、クールジャパン人材の育成・集積を戦略的に推進する環境整備を図る。
- ・地域経済活性化に直結する取組として「クールジャパン拠点構築検討会最終報告書」（平成29年5月17日クールジャパン拠点構築検討会

決定)に基づき、ジャパン・ハウスを含む内外拠点や産業間の連携、地域産品データベース構築等を推進する。

- ・映画の海外展開促進のため、「映画の振興施策に関する検討会議報告書」(平成29年3月28日映画の振興施策に関する検討会議決定)に基づき、国際共同製作の基盤整備、内外作品のロケの促進、フィルムセンターの機能強化、映画祭を通じた日本映画等への関心の掘り起こし等を推進する。
- ・コンテンツの海外展開について、ローカル放送局等への支援策の充実や海外市場を念頭に置いたコンテンツ製作のための資金調達・権利処理スキームの環境整備の検討等を通じて、放送コンテンツに関する新たな海外売上高目標達成など一層の海外展開の促進に向けて取り組む。
- ・「日本産酒類の輸出促進連絡会議改訂対応方針」(平成29年3月28日日本産酒類の輸出促進連絡会議決定)に基づき、日本食品海外プロモーションセンター(JFOODO)の活用等による販路開拓・市場の拡大、地理的表示制度活用促進等による品質・ブランド力向上、酒蔵ツーリズム推進等を通じ、日本産酒類の一層の輸出拡大を図る。

③ クリーンで魅力ある「日本型 IR」(特定複合観光施設)の整備推進

- ・昨年末に IR 推進法が成立したことを受け、国民の理解を得つつ、制度設計について、本年夏頃の大枠取りまとめを目指して検討を進める。
- ・家族連れで楽しめるエンターテインメント施設や、国際会議場・展示場等を一体的に運営し、日本の伝統・文化・芸術をいかしたコンテンツを導入することで、国際競争力の高い滞在型観光を実現する。また、大規模な民間投資により大きな経済効果を創出し、IRからの送客で全国に経済効果をもたらすとともに、カジノ収益の幅広い公益目的への還元を図る。その際、世界最高水準のカジノ規制の導入、それを的確に執行するための体制の整備、依存症などの様々な懸念への万全の対策を行う。

④ 2025年国際博覧会の誘致

- ・2025年国際博覧会の日本開催を、Society 5.0がもたらす未来の社会・経済システムやライフスタイル等の姿を世界に発信し、イノベーションを促進する機会にすることにより、海外の成長市場を取り込む起爆

【資料19】本法人の同類専修学校の就職状況

■2016年度(2017年3月卒業生)卒業生 就職実績

	東京モード学園	大阪モード学園	名古屋モード学園	3校合計
卒業者数	349	182	156	687
卒業者数の内訳				
就職希望者	261	162	147	570
就職決定者	261	162	147	570

非就職希望者				
その他(フリーランス・アルバイト など)	11	6	2	19
現業継続者	35	5	2	42
家業継承・結婚	0	0	0	0
海外留学生	7	5	0	12
進学者(国内)	2	1	1	4
留学生帰国者	33	3	4	40

■2015年度(2016年3月卒業生)卒業生 就職実績

	東京モード学園	大阪モード学園	名古屋モード学園	3校合計
卒業者数	284	168	180	632
15年間就職保証制度 利用者数	16	3	17	36
卒業者数の内訳				
就職希望者	212	150	168	530
就職決定者	212	150	168	530

非就職希望者				
その他(フリーランス・アルバイト など)	8	2	3	13
現業継続者	34	4	0	38
家業継承・結婚	0	1	3	4
海外留学生	4	4	2	10
進学者(国内)	3	0	0	3
留学生帰国者	23	7	4	34

国際ファッション専門職大学 国際ファッション東京学部（仮称）

設置構想に係るニーズアセスメント調査

ご報告書

【卒業生の人材需要の見込みに関するアンケート調査（出口調査）】

平成 29 年 8 月

株式会社高等教育総合研究所

目次

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケートの結果

＜調査対象学部：国際ファッション東京学部 対象：企業＞

1	調査の概要	1
2	全質問項目の集計結果	2
3	人材需要の分析	8

添付資料（実施したアンケート用紙）

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙

（調査対象学部：国際ファッション東京学部）

1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置を構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション東京学部（仮称）」卒業生の人材需要の見込みについて、企業を対象としたアンケートを用いて測ることを目的とする。

- ◆調査期間：平成29年7～8月

- ◆調査対象：「国際ファッション専門職大学（仮称）」の卒業生の採用が想定できるファッションの分野で、学校法人日本教育財団が運営する専門学校卒業生の採用実績がある主に首都圏、近畿圏、東海圏に所在する企業を対象とした。なお、一部の企業では「国際ファッション東京学部」の他、「国際ファッション大阪学部」および「国際ファッション名古屋学部」のアンケートも同時に実施しているが、その際はアンケート用紙をそれぞれの学部分発送している。

- ◆調査方法：アンケート用紙を企業等の人事担当者宛てに送付。回答後、返送を求めた。

- ◆調査内容：アンケート項目は全8問で、5問が選択肢式、3問が記述式となっている。主な質問内容は、以下の通り。
 - 『回答者の基本情報（所在地・業種・従業員規模）について』
 - 『人材を採用する際に重視することについて』
 - 『「国際ファッション東京学部（仮称）」の卒業生に対する採用意欲について』※Q8は企業名・部署名の質問であるため、回答結果は割愛する。

- ◆調査件数：124件（送付件数 174件 / 回収率 71.3%）

2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%)はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも100.0%と一致しない。

2～7ページは、アンケートで回答を得た124件の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

Q1 貴社の所在地(都道府県)を記入ください

番号	選択項目	回答数	構成比
	福島県	1	0.8%
	千葉県	1	0.8%
	東京都	98	79.0%
	富山県	1	0.8%
	愛知県	1	0.8%
	京都府	1	0.8%
	大阪府	14	11.3%
	兵庫県	2	1.6%
	岡山県	2	1.6%
	広島県	1	0.8%
	香川県	1	0.8%
	無回答	1	0.8%
	計	124	100.0%

Q2 貴社の業種はどれに該当しますか。(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	ファッションブランド企画・製造・販売	83	66.9%
2	アパレル生産(OEM/ODM含む)	21	16.9%
3	テキスタイル企画・製造・卸	3	2.4%
4	ファッション小売	12	9.7%
5	コンサルティング・PR・プレス	0	0.0%
6	その他	5	4.0%
	計	124	100.0%

Q3 貴社の従業員規模はどれに該当しますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	10名未満	6	4.8%
2	10～99名	25	20.2%
3	100～199名	15	12.1%
4	200～299名	10	8.1%
5	300名以上	68	54.8%
	計	124	100.0%

Q4 貴社で人材を採用する際に重視するのはどれですか(いくつでもに○)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者124件のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	基礎的な学力	61	49.2%
2	主体性・自律性	95	76.6%
3	論理的な思考力	51	41.1%
4	創造的な発想力	68	54.8%
5	採用職種の深い専門知識	21	16.9%
6	採用職種の高い実務能力	31	25.0%
7	採用職種に関する応用力	32	25.8%
8	語学力・国際性	19	15.3%
9	コミュニケーション能力	103	83.1%
10	インターンシップ経験	3	2.4%
11	採用職種に関する取得資格(見込み含む)	1	0.8%
12	その他	3	2.4%

Q5 「国際ファッション専門職大学(仮称)」では、概要に記載した専門職の人材を養成します。こうした人材に対してどれくらい興味がありますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大いに興味がある	74	59.7%
2	やや興味がある	47	37.9%
3	あまり興味がない	2	1.6%
4	興味がない	0	0.0%
	無回答	1	0.8%
	計	124	100.0%

Q6 貴社からみて、「国際ファッション専門職大学(仮称)」を卒業する学生を、採用したいと思いますか。(それぞれあてはまる番号を枠内に記入し、1または2の場合は採用可能と思われる人数を記入)

【ファッションクリエイション学科】

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	58	46.8%
2	採用を検討したい	40	32.3%
3	どちらとも言えない	19	15.3%
4	採用しない	0	0.0%
	無回答	7	5.6%
	計	124	100.0%

以下は「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した 98 件が回答対象である。

(採用可能と思われる人数)

番号	記述内容	回答数	構成比
	1名	29	29.6%
	2名	19	19.4%
	3名	11	11.2%
	4名	3	3.1%
	5名	5	5.1%
	10名	1	1.0%
	無回答	30	30.6%
	計	98	100.0%

【ファッションビジネス学科】

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	65	52.4%
2	採用を検討したい	39	31.5%
3	どちらとも言えない	17	13.7%
4	採用しない	0	0.0%
	無回答	3	2.4%
	計	124	100.0%

以下は「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した 104 件が回答対象である。

(採用可能と思われる人数)

番号	記述内容	回答数	構成比
	1 名	21	20.2%
	2 名	23	22.1%
	3 名	13	12.5%
	4 名	4	3.8%
	5 名	10	9.6%
	10 名	10	9.6%
	20 名	2	1.9%
	無回答	21	20.2%
	計	104	100.0%

Q7 その他「国際ファッション専門職大学(仮称)」の設置計画について、ご意見、ご要望があれば記入ください

所在地	業種	意見・要望
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	カットソーの縫製、プリントのデザイン、指示などカジュアルメーカーのデザイナーとしても通用するカリキュラムを組んで頂きたく思います。宜しくお願い致します。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	一般的な学力と専門的なファッション知識の学習が出来る事はもちろんですが、社会に触れる機会を増やす事で、自由な物づくりと商業的な物づくり、また、働いてみて気付くギャップなど、多くのギャップの軽減が期待される。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	服飾以外の知識(経営陣になるための勉強)
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	ブランド経営、マネジメント力に精通した優秀な学生の輩出を期待します。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	「ファッション」に関する様々な分野を学習することができるので非常に興味があります。ゆくゆくは、ファッションクリエイション学科からは弊社の企画デザイナー職、ファッションビジネス学科からは弊社のファッションアドバイザーにご応募頂けると嬉しく思います。ファッションビジネス講義の講師として企業説明会等是非やらせて頂きたく思います。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	業界初のインターンシップによる即戦力教育について詳しくお伺いしたいです。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	学生さんと企業・学校の交流が多い学校を希望します。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	スペシャリスト育成に期待をしています。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	販売に特化している人材の育成を強く望みます。あいさつもまともに出出来ない方が多いので、その辺りの指導もお願い致します。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	授業の中で、販売ロープレを取り入れて頂きたいです。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	入学に当たり、一般教養、学力もはかってほしい
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	専門性はもちろんですが、バランス感覚の良い学生さんの育成を期待致します。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	企業内実習がどういう形になるか興味深いです。
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	実際の実務に生かせる内容での学習機会の提供
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	インターンシップ強化の内容に興味がありました。
富山県	ファッションブランド企画・製造・販売	デザイナー養成教育機関(充分供給有り)としてではなく ・ビジネス、営業マンコースには他校にない独自性、貴校の特徴として打ち出せるし興味ある ・経営、工場管理・運営、ファッション・繊維全般に渡る基本知識を身につけた営業マン、一種の技術系営業部員として優位
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	大学体系に位置付けられ、大学と同等の学位が授与されるということで、学生及び学校経営側としては新たな仕組みとして期待感が大いなのかも知れませんが、大切なのは新たな環境でこれまでの専門学校という形態から輩出してき

		た人材との違いが明確に生み出せるのかどうかだと考えます。これまでと大差ないのであれば残念ですし、期待しております。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	即戦力として活躍頂ける人材の育成は企業として非常に魅力を感じます
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	店舗運営できる人材。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	専門的な技術が必要なことは言うまでもありませんが、それだけでは十分とは言えません。時代の変化が急速で激しい現代、変化対応力も重要な能力の一つと思われます。コミュニケーション能力、国際感覚、文化・芸術・歴史などの基礎学力を養い「鋭く感じ」「論理的に考え」「具体的に実行」できる人材が求められるのではないのでしょうか。
岡山県	ファッションブランド企画・製造・販売	サービス業を志望する学生の数が年々減少してきていると思います。そこで「国際ファッション専門職大学」ではそういった学生を一人でも多く獲得してもらう為にも、定員を大きく設け、運営をしていって頂ければと思います。
東京都	アパレル生産	島精機の APEX3 を使いこなせる人材の育成を望みます。
東京都	アパレル生産	ファッションだけでなく、ビジネスライクがきちっと理解している人材を教育して欲しい。
愛知県	アパレル生産	既存の美術系大学とは違う特性を出して欲しい。
大阪府	アパレル生産	既存の4年生大学と専門学校の良い面が反映された専門職大学になることを期待しています。また、ビジネスを生み出せる人材を期待しています。
東京都	テキスタイル企画・製造・卸	企業と連携したカリキュラムが主のことで、 ・職場でのコミュニケーション力 ・自主性、積極性 などの社会での実践的思考力も身に付けてくださることに期待します。
東京都	ファッション小売	語学力があり、世界中のクリエイター達とネイティブに話せる人材を教育してもらいたい！！ 更に、ファッションに関わる以外に経営学なども分かる人材を育ててもらいたい。
東京都	ファッション小売	専門的な知識を持った学生さんを採用することにより会社としても良い影響を受けることができるのではないかと期待しています
東京都	ファッション小売	専門性を持った学生さんを採用し、即戦力として活躍いただけることを期待しています。
千葉県	その他	・実習を強化することにより、社会性や対人コミュニケーション能力を養っていただきたい ・自ら考えて行動出来る人材を育成することが出来れば採用を検討したい

3 人材需要の分析

本調査は学校法人日本教育財団が設置構想中の「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション東京学部（仮称）」における人材需要の見込みについて調査するため、同学校法人が運営しているファッション分野の専門学校卒業生の採用実績がある企業を対象とし、124件の回答を得た。

回答を得た124件のうち、98件（79.0%）の「東京都」と14件（11.3%）の「大阪府」に所在している企業が目立ち、その他の県は12件（9.7%）の構成となっている。

業種の内訳はグラフ1が示す通り、「ファッションブランド企画・製造・販売」が83件（66.9%）、「アパレル生産（OME/ODM含む）」が21件（16.9%）、「ファッション小売」が12件（9.7%）、「テキスタイル企画・製造・卸」が3件（2.4%）、「その他」が5件（4.0%）であった。

Q5にて「国際ファッション専門職大学（仮称）」が養成する人材への興味について質問したところ、グラフ2が示す通り、「大いに興味がある」に74件（59.7%）、「やや興味がある」に47件（37.9%）が回答し、合計で97.6%にあたる121件の企業より興味を示す回答が得られた。

「国際ファッション東京学部（仮称）」では、ファッションクリエイション学科およびファッションビジネス学科の設置を構想中であるが、Q6にて学科ごとに採用意欲について質問した。ファッションクリエイション学科にはグラフ3が示す通り、「採用したい」に58件（46.8%）、「採用を検討したい」に40件（32.3%）が回答し、「採用しない」の0件を大きく上回り、合計で79.0%にあたる98件より採用意欲を示す回答が得られた。その他の回答は「どちらとも言えない」が19件（15.3%）、無回答が7件（5.6%）であった。このファッションクリエイション学科を卒業する学生へ採用意欲を示した98件に対し、採用可能と思われる人数の記述を求めたところ、回答は以下ようになった。

1人	×	29件	=	29人
2人	×	19件	=	38人
3人	×	11件	=	33人
4人	×	3件	=	12人
5人	×	5件	=	25人
10人	×	1件	=	10人
無回答	×	30件	=	0人
（合計）				147人

この結果、合計で147人の採用が見込まれることがわかった。

また、ファッションビジネス学科にはグラフ4が示す通り、「採用したい」に65件（52.4%）、「採用を検討したい」に39件（31.5%）が回答し、前述のファッションクリエイション学

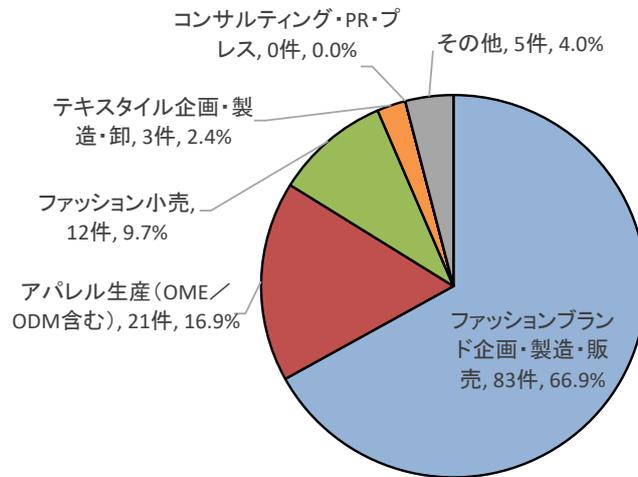
科と同様に「採用しない」の0件を大きく上回り、合計で83.9%にあたる104件より採用意欲を示す回答が得られた。この他の回答は「どちらとも言えない」が17件（13.7%）、無回答が3件（2.4%）であった。このファッションビジネス学科を卒業する学生へ採用意欲を示した104件に対し、採用可能と思われる人数の記述を求めたところ、回答は以下のようなになった。

1人	×	21件	=	21人
2人	×	23件	=	46人
3人	×	13件	=	39人
4人	×	4件	=	16人
5人	×	10件	=	50人
10人	×	10件	=	100人
20人	×	2件	=	40人
無回答	×	21件	=	0人
(合計)				312人

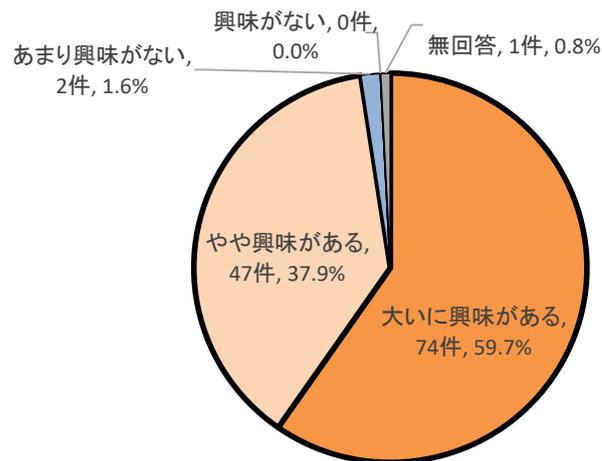
この結果、合計で312人の採用が見込まれることがわかった。

上記の採用意欲及び採用したい人数の回答と、各学科で予定する入学定員の関係をまとめたものがグラフ5となるが、ファッションクリエイション学科は入学定員80人のところ147人、ファッションビジネス学科は入学定員40人のところ312人と入学定員を上回る採用意欲を示す回答が得られた。

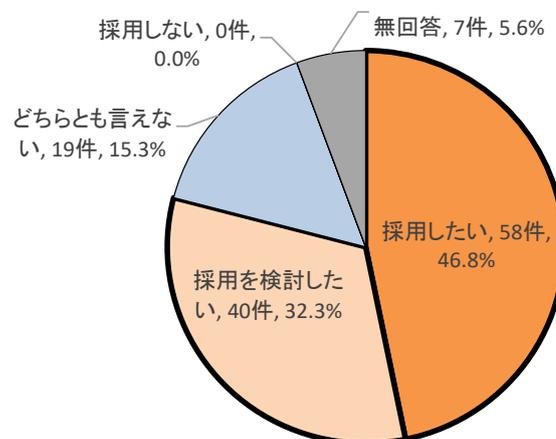
グラフ1 回答企業 124 件の業種内訳 (Q2 の結果より)



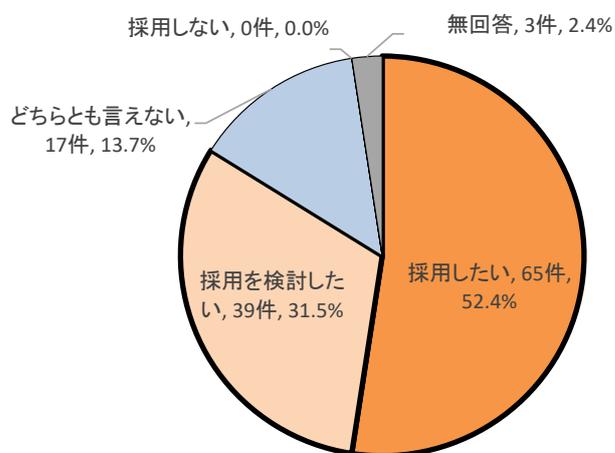
グラフ2 「国際ファッション専門職大学 (仮称)」で養成する人材への興味 (Q5 結果より)



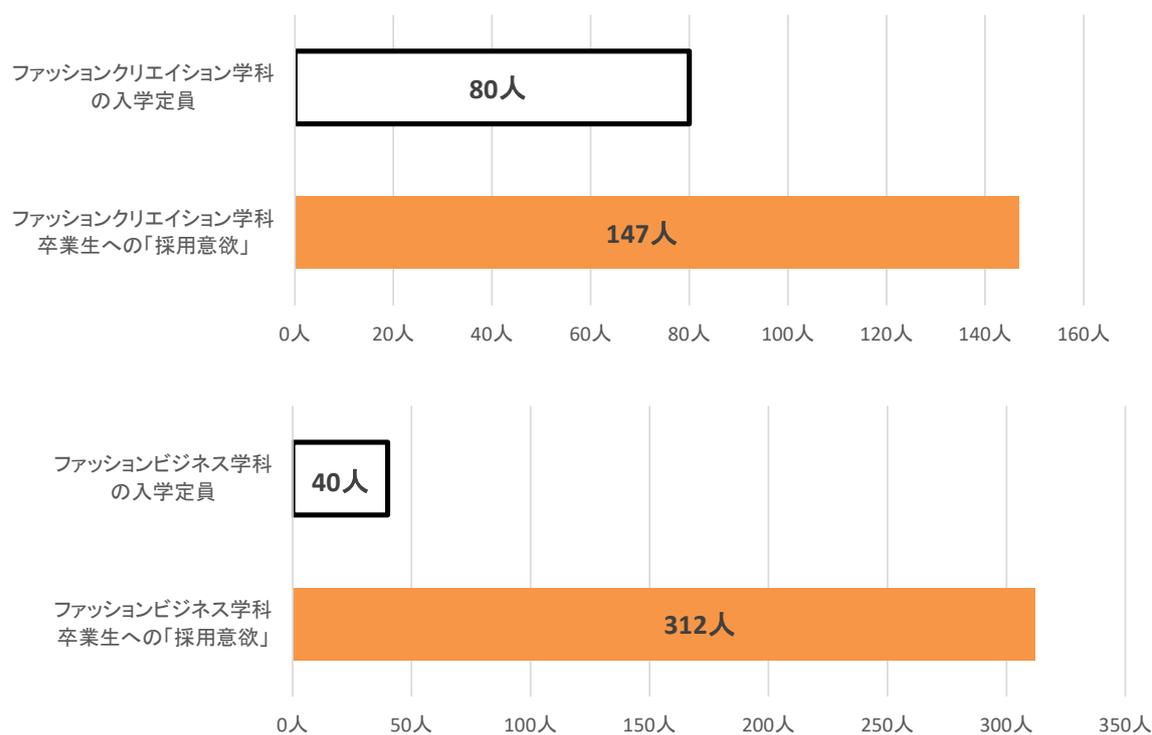
グラフ3 ファッションクリエイション学科を卒業する学生への採用意欲 (Q6 結果より)



グラフ4 ファッションビジネス学科を卒業する学生への採用意欲（Q6 結果より）



グラフ5 各学科の採用意欲と入学定員の関係（Q6 結果より）



以上の結果より、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション東京学部（仮称）」の人材需要の見込みは、各学科において予定する入学定員を上回る採用意欲を得たため、問題ないと判断できる。

添付資料
(実施したアンケート用紙)

B

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート

このアンケート調査は、2019年4月に学校法人 日本教育財団（モード学園グループ）が開設を予定する新しい教育機関の設置計画の基礎資料とするため、貴社・貴施設の求める人材像・採用計画の意向等についてお聞きするものです。このアンケート結果は統計資料としてのみ使い、目的以外に利用することはありません。ご協力をお願いいたします。



Q1

貴社の所在地（都道府県）を記入ください

部・道・府・県

Q2

(1つに○)

貴社の業種はどれに該当しますか

1. ファッションブランド企業・製造・販売
2. アパレル生産（OEM/ODM含む）
3. チキスタイル企画・製造・卸
4. ファッション小売
5. コンサルティング・PR・プレス
6. その他（ ）

Q3

(1つに○)

貴社の従業員規模はどれに該当しますか

1. 10名未満
2. 10～99名
3. 100～199名
4. 200～299名
5. 300名以上

Q4

(いくつでも○)

貴社で人材を採用する際に重視するのほどはどれですか

1. 基礎的学力
2. 主体性・自律性
3. 論理的な思考力
4. 創造的な発想力
5. 採用職種に深い専門知識
6. 採用職種の高い実行能力
7. 採用職種に関する応用力
8. 語学力・国際性
9. コミュニケーション能力
10. インターンシップ経験
11. 採用職種に関する取得資格（見込み含む）
12. その他（ ）

中面に続きまして



2019年4月開学
国際ファッション専門職大学 (仮称)
 国際ファッション東京学部
 ファッションクリエイション学科 / ファッションビジネス学科

- 開設時期 : 2019年4月(予定)
- 創設者 : 学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ)
- 学部所在地 : 総合校舎コワーキング
新大塚駅前 徒歩3分 / 東京都新大塚区新大塚1-7-3
- 卒業年限 : 4年 (入学時の最終学歴・履修単位により編入学制度あり)
- 取得学位 : 学士 (専門職)
- 入学定員 : 国際ファッション東京学部
ファッションクリエイション学科 80名
ファッションビジネス学科 40名

国際ファッション専門職大学(仮称)は2019年4月の開学を目的として設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合がございます。

B

学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ) では、新しい高等教育機関「専門職大学」の創学を計画中です。下記、概要を確認のうえ、Q5-Q8の質問に回答ください。

概要

2019年4月開学

設置計画中



国際ファッション専門職大学 (仮称)

国際ファッション東京学部

ファッションクリエイティブ学科/ファッションビジネス学科

「専門職大学」とは、大学制度の中で最も高い専門職職人を育てるため、国が導入する新しい高等教育機関です。ファッション業界の企業・団体と連携した充実の実習教育と、広く深い知識・教養の両立で、専門分野をリードする高い実習力を養成。さらに国際的な視野も備え、変化する社会のニーズに即応する力や、新たな価値を生み出す力も育みます。

国際ファッション専門職大学 (仮称) の特長

学習方法

- 高い実践力を養うため、卒業単位の3~4割以上に実習等の科目を導入、企業と連携した実習を60時間以上、さらに専任教員の4割以上は専門職の実務経験者または「実務家教員」です。
- 社会の最新ニーズを実習・実務教育へ即応するため、クリエイターや企業・業界団体等の関係機関にも連携してカリキュラムを編成・実装します。
- 大学が担当理論教育と専門学校が担当実践教育の相互の強みを活かした、新たな高等教育機関である本校は、職業・社会における「実質の理論」を単独の研究を行います。
- 本法人が50年以上の教育で培ってきた独自の「創造力教育」や、国際化に対応するカリキュラムも融合。時代の変化に対応できる力や、新たな価値を生み出す力、自らを駆逐できる力も養います。



養成する人・身につく能力

国際ファッション東京学部

- ファッションクリエイティブ学科 ファッションテキスタイルコース

「日本ブランド」としてのファッション商品やテキスタイル(布地・織物)を創出できる人材として、豊かなデザイン技術と豊富な知識を備えた高い実践力を養成します。さらに、海外でも通用する知的財産としての商品・商品をデザインするために、海外の文化・歴史・習俗と幅広い教養や、外国語を含む情報収集・コミュニケーション能力も身につけます。

卒業後の進路

国内外のラグジュアリーブランド、企画・デザイン制作会社、服飾メーカーほか

- ファッションビジネス学科 ファッションビジネスコース、ブランド企画コース

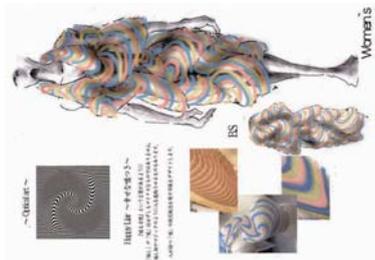
日本のファッション商品を、広く国際市場に向けて企画・販売できる人材として、デザイン・生産・流通を含む幅広い知識に磨きつけられた、商品企画・宣伝広告・販売営業の実践力を養成します。特に、国内のみならず海外での販売展開を前提にしたビジネスの特徴や手法、外国語を含むコミュニケーション・交渉能力、また独立起業に必要なノウハウも身につけます。

卒業後の進路

国内外のラグジュアリーブランド、企画・デザイン制作会社、服飾メーカーほか

目指せる学位・資格

- 学士 (専門職)
- 色彩検定
- カラーコーディネーター検定
- パターンメイカークラフト検定
- 技能検定 (仮称) ほか
- ファッションビジネス能力検定
- ファッション実習能力検定
- リーダーシップ・マネジメント (販売士) 検定
- 各種外国語検定 ほか



国際ファッション専門職大学 (仮称)は2019年4月の開学を目指して設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。

Q5 (1つに○)

1. 失いに興味がある
2. やや興味がある
3. あまり興味がない
4. 興味がない

「国際ファッション専門職大学 (仮称)」では、概要に即応した専門職の人材を養成します。こうした人材に対してどれくらい興味がありますか。

Q6

(それぞれある程度前向きに記入し、また、たよりの場合は採用可能と記入される人数を記入)

貴社からみて、「国際ファッション専門職大学 (仮称)」を卒業する学生を、採用したいと思えますか

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. どちらとも言えない
4. 採用しない

採用可能と認められる人数

採用可能と認められる人数

ファッションクリエイティブ学科

ファッションビジネス学科

Q7

その他「国際ファッション専門職大学 (仮称)」の設置計画について、ご意見、ご要望があれば記入ください

Blank box for additional comments.

Q8

貴社名・部署名を記入ください

貴社名

部署名

ご協力ありがとうございます。

国際ファッション専門職大学 国際ファッション大阪学部（仮称）

設置構想に係るニーズアセスメント調査

ご報告書

【卒業生の人材需要の見込みに関するアンケート調査（出口調査）】

平成 29 年 8 月

株式会社高等教育総合研究所

目次

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケートの結果

＜調査対象学部：国際ファッション大阪学部 対象：企業＞

1 調査の概要	1
2 全質問項目の集計結果	2
3 人材需要の分析	6

添付資料（実施したアンケート用紙）

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙

（調査対象学部：国際ファッション大阪学部）

1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置を構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション大阪学部（仮称）」卒業生の人材需要の見込みについて、企業を対象としたアンケートを用いて測ることを目的とする。

- ◆調査期間：平成29年7～8月

- ◆調査対象：「国際ファッション専門職大学（仮称）」の卒業生の採用が想定できるファッションの分野で、学校法人日本教育財団が運営する専門学校卒業生の採用実績がある主に近畿圏に所在する企業を対象とした。なお、一部の企業では「国際ファッション大阪学部」の他、「国際ファッション東京学部」および「国際ファッション名古屋学部」のアンケートも同時に実施しているが、その際はアンケート用紙をそれぞれの学部分発送している。

- ◆調査方法：アンケート用紙を企業等の人事担当者宛てに送付。回答後、返送を求めた。

- ◆調査内容：アンケート項目は全8問で、5問が選択肢式、3問が記述式となっている。主な質問内容は、以下の通り。
 - 『回答者の基本情報（所在地・業種・従業員規模）について』
 - 『人材を採用する際に重視することについて』
 - 『「国際ファッション大阪学部（仮称）」の卒業生に対する採用意欲について』※Q8は企業名・部署名の質問であるため、回答結果は割愛する。

- ◆調査件数：49件（送付件数 388件 / 回収率 12.6%）

2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

2～5 ページは、アンケートで回答を得た 49 件の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

Q1 貴社の所在地(都道府県)を記入ください

番号	選択項目	回答数	構成比
	福島県	3	6.1%
	千葉県	1	2.0%
	東京都	3	6.1%
	愛知県	1	2.0%
	京都府	2	4.1%
	大阪府	31	63.3%
	兵庫県	4	8.2%
	岡山県	3	6.1%
	香川県	1	2.0%
	計	49	100.0%

Q2 貴社の業種はどれに該当しますか。(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	ファッションブランド企画・製造・販売	31	63.3%
2	アパレル生産(OEM/ODM 含む)	11	22.4%
3	テキスタイル企画・製造・卸	1	2.0%
4	ファッション小売	4	8.2%
5	コンサルティング・PR・プレス	0	0.0%
6	その他	2	4.1%
	計	49	100.0%

Q3 貴社の従業員規模はどれに該当しますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	10名未満	2	4.1%
2	10～99名	13	26.5%
3	100～199名	8	16.3%
4	200～299名	2	4.1%
5	300名以上	24	49.0%
	計	49	100.0%

Q4 貴社で人材を採用する際に重視するのはどれですか(いくつでもに○)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者49件のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	基礎的な学力	32	65.3%
2	主体性・自律性	31	63.3%
3	論理的な思考力	22	44.9%
4	創造的な発想力	26	53.1%
5	採用職種の深い専門知識	16	32.7%
6	採用職種の高い実務能力	17	34.7%
7	採用職種に関する応用力	17	34.7%
8	語学力・国際性	8	16.3%
9	コミュニケーション能力	36	73.5%
10	インターンシップ経験	2	4.1%
11	採用職種に関する取得資格(見込み含む)	0	0.0%
12	その他	2	4.1%

Q5 「国際ファッション専門職大学(仮称)」では、概要に記載した専門職の人材を養成します。こうした人材に対してどれくらい興味がありますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大いに興味がある	26	53.1%
2	やや興味がある	19	38.8%
3	あまり興味がない	3	6.1%
4	興味がない	0	0.0%
	無回答	1	2.0%
	計	49	100.0%

Q6 貴社からみて、「国際ファッション専門職大学(仮称)」を卒業する学生を、採用したいと思いますか。(あてはまる番号を枠内に記入し、1または2の場合は採用可能と思われる人数を記入)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	19	38.8%
2	採用を検討したい	24	49.0%
3	どちらとも言えない	5	10.2%
4	採用しない	1	2.0%
	計	49	100.0%

以下は「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した 43 件が回答対象である。

(採用可能と思われる人数)

番号	記述内容	回答数	構成比
	1名	9	20.9%
	2名	13	30.2%
	3名	6	14.0%
	5名	2	4.7%
	10名	7	16.3%
	30名	1	2.3%
	50名	2	4.7%
	無回答	3	7.0%
	計	43	100.0%

Q7 その他「国際ファッション専門職大学(仮称)」の設置計画について、ご意見、ご要望があれば記入ください

所在地	業種	意見・要望
東京都	ファッションブランド企画・製造・販売	学内説明会など、学生さんとの交流の場が多い学校を希望します
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	大学体系に位置付けられ、大学と同等の学位が授与されるということで、学生及び学校経営側としては新たな仕組みとして期待感が大いいかも知れませんが、大切なのは新たな環境でこれまでの専門学校という形態から輩出してきた人材との違いが明確に生み出せるのかどうかだと考えます。これまでと大差ないのであれば残念ですし期待しております。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	専門的な知識だけでなく経営に関する知識や語学にも注力して頂き、これからのビジネス社会の中でバランスの取れた人材育成がなされることを期待しております。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	貴校(大学)で学ばれた優秀な学生様と弊社とのご縁に期待しております。関西には服飾大学が(東京と比べて)無いので、ファッションの専門大学があればと思っておりました。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	インターンを充実させて即戦力の育成。国際化に対応出来る人材の育成。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	日本の産業の発展のために必要な学校です。多くの人材を育ててください。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	店舗マネージメントできる人材が欲しい。サービスとファッションの融合。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	即戦力として活躍頂ける人材の育成は企業として非常に魅力を感じます。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	専門性の高い学校になる事を期待しております。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	専門的な技術が必要なことは言うまでもありませんが、それだけでは十分とは言えません。時代の変化が急速で激しい現代、変化対応力も重要な能力の一つと思われます。コミュニケーション能力、国際感覚、文化・芸術・歴史などの基礎学力を養い、「鋭く感じ」「論理的に考え」「具体的に実行」できる人材が求められるのではないのでしょうか。
大阪府	アパレル生産(OME / ODM 含む)	インターン(実習)時間を多くする事は素晴らしい事ですが、学んだ内容が学校で復習できるかどうかが疑問です。また、インターンで企業と連携とありますが、企業の技術を学校の先生がどこまで理解されているかが重要だと思います。実習がすべてでなく、実習に行く前の予習、行っからの復習に力を入れていただきたいです。
大阪府	アパレル生産(OME / ODM 含む)	既存の4年制大学と専門学校の良い面が反映された専門職大学になることを期待しています。また、ビジネスを生み出せる人材を期待しています。
千葉県	その他	・実習を増やすことにより、社会性や対人コミュニケーション能力を養っていただきたい。 ・自ら考えて行動出来る人材を育成することが出来れば採用を検討したい。
京都府	その他	主体性、自己啓発、夢をもち、夢を実現するためならと頑張れる心を教育してください。

3 人材需要の分析

本調査は学校法人日本教育財団が設置構想中の「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション大阪学部（仮称）」における人材需要の見込みについて調査するため、同学校法人が運営しているファッション分野の専門学校卒業生の採用実績がある企業を対象とし、49件の回答を得た。

回答を得た49件のうち、31件（63.3%）が「大阪府」で、2件（4.1%）の「京都府」、4件（8.2%）の「兵庫県」を合わせると、近畿圏に所在する企業が75.5%、その他の地域が24.5%の構成となっている。

業種の内訳はグラフ1が示す通り、「ファッションブランド企画・製造・販売」が31件（63.3%）、「アパレル生産（OME/ODM含む）」が11件（22.4%）、「ファッション小売」が4件（8.2%）、「テキスタイル企画・製造・卸」が1件（2.0%）、「その他」が2件（4.1%）であった。

Q5にて「国際ファッション専門職大学（仮称）」が養成する人材への興味について質問したところ、グラフ2が示す通り、「大いに興味がある」に26件（53.1%）、「やや興味がある」に19件（38.8%）が回答し、合計で91.8%にあたる45件の企業より興味を示す回答が得られた。

「国際ファッション大阪学部（仮称）」は、ファッション学科の設置を構想中であり、Q6にて採用意欲について質問した。その結果、グラフ3が示す通り、「採用したい」に19件（38.8%）、「採用を検討したい」に24件（49.0%）が回答し、「採用しない」の1件を大きく上回り、合計で87.8%にあたる43件より採用意欲を示す回答が得られた。その他の回答は「どちらとも言えない」が5件（10.2%）であった。この「国際ファッション大阪学部（仮称）」を卒業する学生へ採用意欲を示した43件に対し、採用可能と思われる人数の記述を求めたところ、回答は以下ようになった。

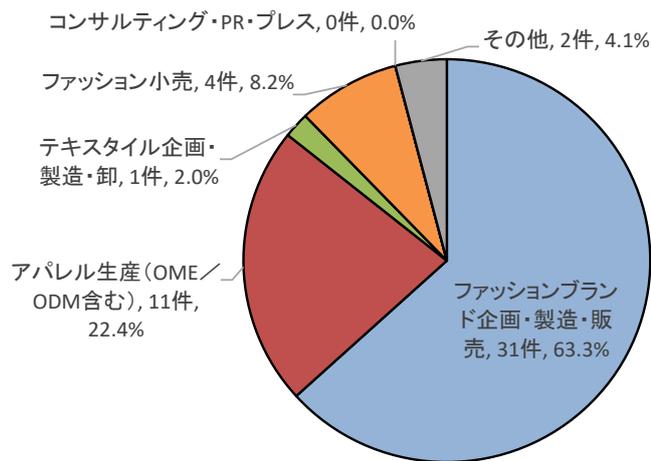
1人	×	9件	=	9人
2人	×	13件	=	26人
3人	×	6件	=	18人
5人	×	2件	=	10人
10人	×	7件	=	70人
30人	×	1件	=	30人
50人	×	2件	=	100人
無回答	×	3件	=	0人
(合計)				263人

この結果、合計で263人の採用が見込まれることがわかった。

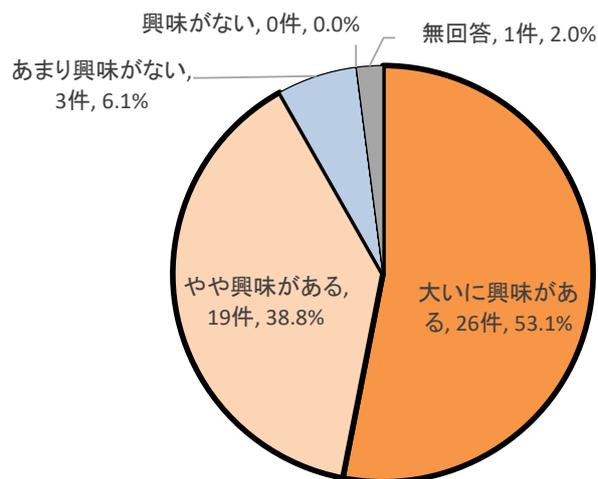
上記の採用意欲及び採用したい人数の回答と、予定する入学定員の間関係をまとめたものがグラフ4となるが、「国際ファッション大阪学部（仮称）」のファッション学科は入学定

員 40 人のところ 263 人と、予定する入学定員を上回る採用意欲を示す回答が得られた。

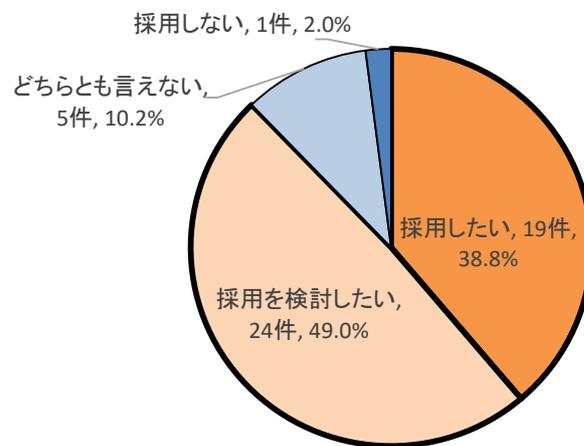
グラフ1 回答企業 49 件の業種内訳 (Q2 の結果より)



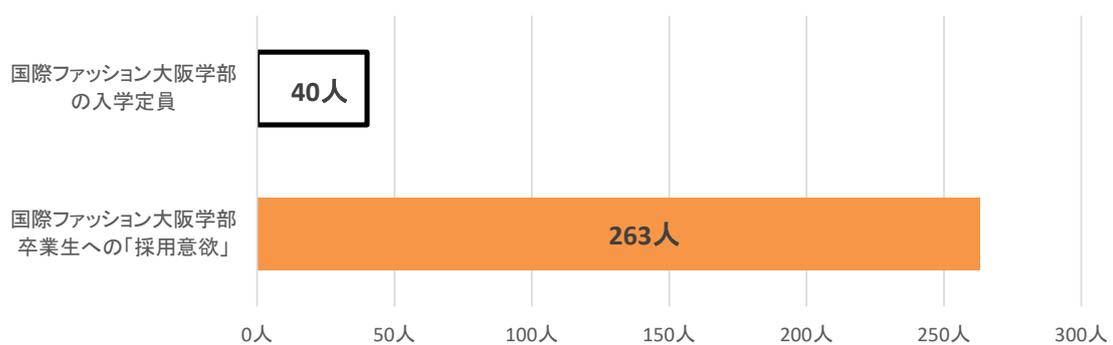
グラフ2 「国際ファッション専門職大学 (仮称)」で養成する人材への興味 (Q5 結果より)



グラフ3 「国際ファッション大阪学部（仮称）」を卒業する学生への採用意欲（Q6 結果より）



グラフ4 「国際ファッション大阪学部（仮称）」の採用意欲と入学定員の関係（Q6 結果より）



以上の結果より、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション大阪学部（仮称）」の人材需要の見込みは、予定する入学定員を上回る採用意欲を得たため、問題ないと判断できる。

添付資料
(実施したアンケート用紙)

B

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート

このアンケート調査は、2019年4月に学校法人 日本教育財団（モード学園グループ）が開設を予定する新しい教育機関の設置計画の基礎資料とするため、貴社・貴施設の求める人材等・採用計画の意向等についてお聞きするものです。このアンケート結果は統計資料としてのみ使い、目的以外に利用することはありません。ご協力をお願いいたします。



Q1

貴社の所在地（都道府県）を記入ください

部・課・所・県

Q2

(1つに○)

貴社の業種はどれに該当しますか

1. ファッションブランド企業・製造・販売
2. アパレル生産（OEM/ODM含む）
3. チキスタイル企画・製造・卸
4. ファッション小売
5. コンサルティング・PR・プレス
6. その他（ ）

Q3

(1つに○)

貴社の従業員規模はどれに該当しますか

1. 105未満
2. 10～99名
3. 100～199名
4. 200～299名
5. 300名以上

Q4

(いくつでも○)

貴社で人材を採用する際に重視するものはどれですか

1. 基礎的な学力
2. 主体性・自律性
3. 創造的な思考力
4. 創造的な発想力
5. 採用職種に深い専門知識
6. 採用職種の高い実行能力
7. 採用職種に関する応用力
8. 語学力・国際性
9. コミュニケーション能力
10. インターンシップ経験
11. 採用職種に関する取得資格（見込み含む）
12. その他（ ）

中面に続きまして



2019年4月開学

設置計画中

国際ファッション専門職大学 (仮称)
 国際ファッション大阪学部
 ファッション学科



- 開設時期 : 2019年4月(予定)
- 開設者 : 学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ)
- 学部所在地 : 大阪モード学園・14A大阪総合校舎
大阪府 淀川区 大塚町1-5-2
- 修業年限 : 4年 (1学期の最終学期・履修単位により編入学制度あり)
- 取得学位 : 学士 (専門職)
- 入学定員 : 国際ファッション大阪学部
ファッション学科 40名

国際ファッション専門職大学(仮称)は2019年4月の開学を目的として設置準備を進めており、4構面1学部2学科による構成が予定されています。

B

学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ) では、新しい高等教育機関「専門職大学」の創学を計画中です。下記、概要を確認のうえ、Q5～Q8の質問に回答ください。

概要

2019年4月 開学

設置計画中

国際ファッション専門職大学 (仮称)

国際ファッション大阪学部
ファッション学科

「専門職大学」とは、大学制度の中で最も高い専門職職人を育てるため、国が導入する新しい高等教育機関です。ファッション業界の企業・団体と連携した充実の実習教育と、広く深い知識・教養の両立で、専門分野をリードする高い実習力を養成。さらに国際的な視野も備え、変化する社会のニーズに即応する力や、新たな価値を生み出せる人材も育みます。

国際ファッション専門職大学 (仮称) の特長

学習方法

- 高い実習力を養うため、卒業単位の3～4割以上に実習等の科目を導入、企業と連携した実習を60時間以上、さらに専任教員の4割以上は専門職の実務経験を備えた「実務家教員」です。
- 社会の最新ニーズを実習・実務教育へ積極的に反応するため、クリエイターや企業・業界団体等の関係機関にも連携してカリキュラムを構成・実装します。
- 大学が担当理論教育と専門学校が担当実務教育の相互の強みを活かした、新たな高等教育機関である本校は、職業・社会における「実質の理論」を単独した研究を行います。
- 本法人が50年以上の教育で培ってきた独自の「創造力教育」や、国際化に対応するカリキュラムも融合。時代の変化に対応できる力や、新たな価値を生み出せる人材も養います。



養成する人材・身につく能力

国際ファッション大阪学部

- ファッション学科 ファッションデザインコース/ファッションテキスタイルコース/ファッションビジネスコース

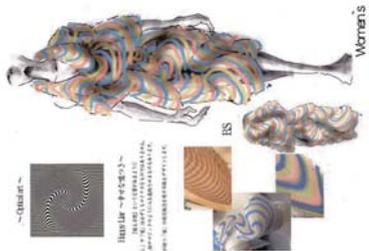
「日本ブランド」としてのファッション商品やテキスタイル(生地・織物)を創出できる人材として、デザイン・ビジネスの両方から技術と豊富な知識を備えた高い実習力を養成します。さらに、海外でも通用する知的財産としての商品・製品を生み出すために、海外の文化・歴史・習俗など幅広い教養や、外国語を含む情報収集・コミュニケーション能力も身につけます。

卒業後の進路

国内・海外ラグジュアリーブランド、企画・デザイン制作会社、購物メーカー、独立起業ほか

目指せる学位・資格

- 学士 (専門職) ● 色彩検定 ● カラーコーディネーター検定 ● パターンカトリスト検定
- 技術検定 (図面部門) 服装 ● ファッションビジネス能力検定 ● ファッション販促能力検定
- リアルマーケティング (服装) 検定 ● 服飾外国語検定 ほか



※国際ファッション専門職大学 (仮称) は2019年4月の開学を目指して設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。

Q5 (1つに○)

「国際ファッション専門職大学 (仮称)」では、概要に記載した専門職の人事を養成します。こうした人材に対してどれくらい興味がありますか。

1. 太い興味がある
2. やや興味がある
3. あまり興味がない
4. 興味がない

Q6

(あてはまる番号を枠内に記入し、または20) (番号は採用可能と認められる人数を記入) 貴社からみて、「国際ファッション専門職大学 (仮称)」を卒業する学生を、採用したいと思いませんか

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
- 3.どちらとも思えない
4. 採用しない

番号

採用可能と認められる人数

Q7

その他「国際ファッション専門職大学 (仮称)」の設置計画について、ご意見、ご要望があれば記入ください

Blank box for additional comments.

Q8 (任意)

貴社名・部署名を記入ください

貴社名

部署名

ご協力ありがとうございました。

国際ファッション専門職大学 国際ファッション名古屋学部(仮称)
設置構想に係るニーズアセスメント調査
ご報告書

【卒業生の人材需要の見込みに関するアンケート調査（出口調査）】

平成 29 年 8 月

株式会社高等教育総合研究所

目次

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケートの結果

＜調査対象学部：国際ファッション名古屋学部 対象：企業＞

1 調査の概要	1
2 全質問項目の集計結果	2
3 人材需要の分析	6

添付資料（実施したアンケート用紙）

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート用紙

（調査対象学部：国際ファッション名古屋学部）

1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置を構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション名古屋学部（仮称）」卒業生の人材需要の見通しについて、企業を対象としたアンケートを用いて測ることを目的とする。

- ◆調査期間：平成29年7～8月

- ◆調査対象：「国際ファッション専門職大学（仮称）」の卒業生の採用が想定できるファッションの分野で、学校法人日本教育財団が運営する専門学校卒業生の採用実績がある主に東海圏、近畿圏に所在する企業を対象とした。なお、一部の企業では「国際ファッション名古屋学部」の他、「国際ファッション東京学部」および「国際ファッション大阪学部」のアンケートも同時に実施しているが、その際はアンケート用紙をそれぞれの学部分送している。

- ◆調査方法：アンケート用紙を企業等の人事担当者宛てに送付。回答後、返送を求めた。

- ◆調査内容：アンケート項目は全8問で、5問が選択肢式、3問が記述式となっている。主な質問内容は、以下の通り。
 - 『回答者の基本情報（所在地・業種・従業員規模）について』
 - 『人材を採用する際に重視することについて』
 - 『「国際ファッション名古屋学部（仮称）」の卒業生に対する採用意欲について』※Q8は企業名・部署名の質問であるため、回答結果は割愛する。

- ◆調査件数：76件（送付件数 215件 / 回収率 35.3%）

2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%)はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも100.0%と一致しない。

2～6 ページは、アンケートで回答を得た76件の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

Q1 貴社の所在地(都道府県)を記入ください

番号	選択項目	回答数	構成比
	東京都	1	1.3%
	岐阜県	11	14.5%
	愛知県	43	56.6%
	京都府	1	1.3%
	大阪府	14	18.4%
	兵庫県	2	2.6%
	岡山県	1	1.3%
	香川県	1	1.3%
	無回答	2	2.6%
	計	76	100.0%

Q2 貴社の業種はどれに該当しますか。(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	ファッションブランド企画・製造・販売	34	44.7%
2	アパレル生産(OEM/ODM含む)	29	38.2%
3	テキスタイル企画・製造・卸	9	11.8%
4	ファッション小売	0	0.0%
5	コンサルティング・PR・プレス	0	0.0%
6	その他	3	3.9%
	無回答	1	1.3%
	計	76	100.0%

Q3 貴社の従業員規模はどれに該当しますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	10名未満	5	6.6%
2	10～99名	37	48.7%
3	100～199名	11	14.5%
4	200～299名	4	5.3%
5	300名以上	18	23.7%
	無回答	1	1.3%
	計	76	100.0%

Q4 貴社で人材を採用する際に重視するのはどれですか(いくつでもに○)

- ※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。
- ※ 構成比は、回答者76件のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	基礎的な学力	48	63.2%
2	主体性・自律性	50	65.8%
3	論理的な思考力	32	42.1%
4	創造的な発想力	41	53.9%
5	採用職種の深い専門知識	15	19.7%
6	採用職種の高い実務能力	23	30.3%
7	採用職種に関する応用力	37	48.7%
8	語学力・国際性	12	15.8%
9	コミュニケーション能力	51	67.1%
10	インターンシップ経験	1	1.3%
11	採用職種に関する取得資格(見込み含む)	2	2.6%
12	その他	3	3.9%
	無回答	1	1.3%

Q5 「国際ファッション専門職大学(仮称)」では、概要に記載した専門職の人材を養成します。こうした人材に対してどれくらい興味がありますか(1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大いに興味がある	29	38.2%
2	やや興味がある	41	53.9%
3	あまり興味がない	1	1.3%
4	興味がない	1	1.3%
	無回答	4	5.3%
	計	76	100.0%

Q6 貴社からみて、「国際ファッション専門職大学(仮称)」を卒業する学生を、採用したいと思いますか。(あてはまる番号を枠内に記入し、1または2の場合は採用可能と思われる人数を記入)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	19	25.0%
2	採用を検討したい	42	55.3%
3	どちらとも言えない	11	14.5%
4	採用しない	2	2.6%
	無回答	2	2.6%
	計	76	100.0%

以下は「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した 61 件が回答対象である。

(採用可能と思われる人数)

番号	記述内容	回答数	構成比
	1名	21	34.4%
	2名	18	29.5%
	3名	7	11.5%
	4名	1	1.6%
	5名	1	1.6%
	10名	2	3.3%
	無回答	11	18.0%
	計	61	100.0%

Q7 その他「国際ファッション専門職大学(仮称)」の設置計画について、ご意見、ご要望があれば記入ください

所在地	業種	意見・要望
愛知県	ファッションブランド企画・製造・販売	・PC 技術は必要ですので、卒業までに経験・勉強をお願いします。 ・海外での仕事も多くなっていますので、英語能力も必要だと思います。 ・仕様書なども英語です。
愛知県	ファッションブランド企画・製造・販売	国際ファッション専門職大学は、ファッション業界本来の高収益で、「夢」や「憧れ」を売るビジネスマン育成を果たす大学であってほしいです。
愛知県	ファッションブランド企画・製造・販売	国際的になっていく社会に対応出来る会社を目指す予定です。それに協力いただける様な人材を育成いただけるとありがたいです。世界のファッション学校にまけない大学になる事を期待しています。
愛知県	ファッションブランド企画・製造・販売	既存のモード学園との差別化は？
愛知県	ファッションブランド企画・製造・販売	専門職は大半が専門学校が多く採用していましたが、ここ最近は大学でファッションの勉強をしている学生採用も実績として増えてきました。大学・専門に関係なく、採用試験・面接での総合判断次第で採用は考えてます。
愛知県	ファッションブランド企画・製造・販売	現在のモード学園との差が明確でない
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	大学体系に位置付けられ、大学と同等の学位が授与されるといふことで、学生及び学校経営側としては新たな仕組みとして期待感が大きいのかも知れませんが、大切なのは新たな環境でこれまでの専門学校という形態から輩出してきた人材との違いが明確に生み出せるのかどうかだと考えます。これまでと大差ないのであれば残念ですし、期待しております。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	即戦力としてご活躍頂ける人材の育成は企業として非常に魅力を感じます。
大阪府	ファッションブランド企画・製造・販売	専門的な技術が必要なことは言うまでもありませんが、それだけでは十分とは言えません。時代の変化が急速で激しい現代、変化対応力も重要な能力の一つと思われます。コミュニケーション能力、国際感覚、文化・芸術・歴史など基礎学力を養い、「鋭く感じ」「論理的に考え」「具体的に実行」できる人材が求められるのではないのでしょうか。
岐阜県	アパレル生産(OME / ODM 含む)	デザイン→企画→生産→販売という過程の中で、生産＝縫製現場の技術者不足(特に高度技術者)が 10 年後に壊滅的な状態になることが予測される為、高度なマシンオペレーター育成コースも考えていただきたい。
岐阜県	アパレル生産(OME / ODM 含む)	一般常識、広い視野、コミュニケーション、自分で考え行動する以上について学べる様にしてほしい
愛知県	アパレル生産(OME / ODM 含む)	1. 縫製知識 2. テキスタイル知識(糸・織り・染等の知識)
大阪府	アパレル生産(OME / ODM 含む)	既存の4年制大学と専門学校の良い面が反映された専門職大学になることを期待しています。また、ビジネスを生み出せる人材を期待しています。
愛知県	テキスタイル企画・製造・卸	自己中心的指向ではなく己の内面を対外的に(説得力を持ち)表明できる人材の育成をお願い致します。
愛知県	テキスタイル企画・製造・卸	産学連携をより密にして、プロ意識の高い人材を輩出していただきますようお願い致します。
岐阜県	その他	即戦力となる高度縫製技術者の育成コースを設立して頂きたい。サンプル縫製と工程分析できる技術者が世界的にも不足が予想される。

3 人材需要の分析

本調査は学校法人日本教育財団が設置構想中の「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション名古屋学部（仮称）」における人材需要の見込みについて調査するため、同学校法人が運営しているファッション分野の専門学校卒業生の採用実績がある企業を対象とし、76件の回答を得た。

回答を得た76件のうち、43件（56.6%）が「愛知県」で、11件（14.5%）の「岐阜県」を合わせると、東海圏での回収が全体の71.1%となっている。その他では、14件（18.4%）の「大阪府」に所在する企業の割合が2番目に多くなっている。

業種の内訳はグラフ1が示す通り、「ファッションブランド企画・製造・販売」が34件（44.7%）、「アパレル生産（OME/ODM含む）」が29件（38.2%）、「テキスタイル企画・製造・卸」が9件（11.8%）、「その他」が3件（3.9%）、無回答が1件（1.3%）であった。

Q5にて「国際ファッション専門職大学（仮称）」が養成する人材への興味について質問したところ、グラフ2が示す通り、「大いに興味がある」に29件（38.2%）、「やや興味がある」に41件（53.9%）が回答し、合計で92.1%にあたる70件の企業より興味を示す回答が得られた。

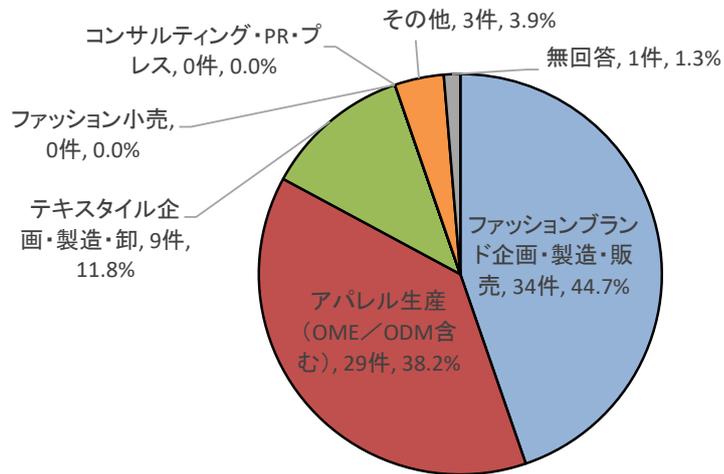
「国際ファッション名古屋学部（仮称）」は、ファッション学科の設置を構想中であり、Q6にて採用意欲について質問した。その結果、グラフ3が示す通り、「採用したい」に19件（25.0%）、「採用を検討したい」に42件（55.3%）が回答し、「採用しない」の2件を大きく上回り、合計で80.3%にあたる61件より採用意欲を示す回答が得られた。その他の回答は「どちらとも言えない」が11件（14.5%）であった。この「国際ファッション名古屋学部（仮称）」を卒業する学生へ採用意欲を示した61件に対し、採用可能と思われる人数の記述を求めたところ、回答は以下のようになった。

1人	×	21件	=	21人
2人	×	18件	=	36人
3人	×	7件	=	21人
4人	×	1件	=	4人
5人	×	1件	=	5人
10人	×	2件	=	20人
無回答	×	11件	=	0人
(合計)				107人

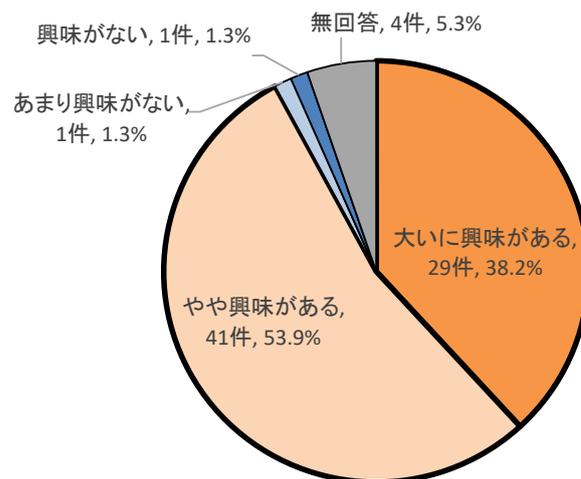
この結果、合計で107人の採用が見込まれることがわかった。

上記の採用意欲及び採用したい人数の回答と、予定する入学定員の関係をまとめたものがグラフ4となるが、「国際ファッション名古屋学部（仮称）」のファッション学科は入学定員40人のところ107人と、予定する入学定員を上回る採用意欲を示す回答が得られた。

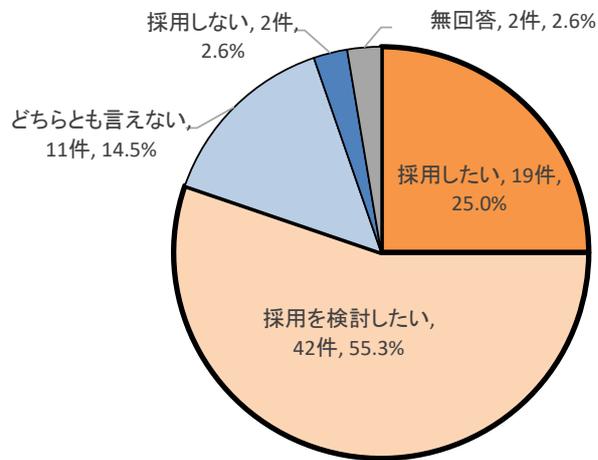
グラフ1 回答企業 76 件の業種内訳 (Q2 の結果より)



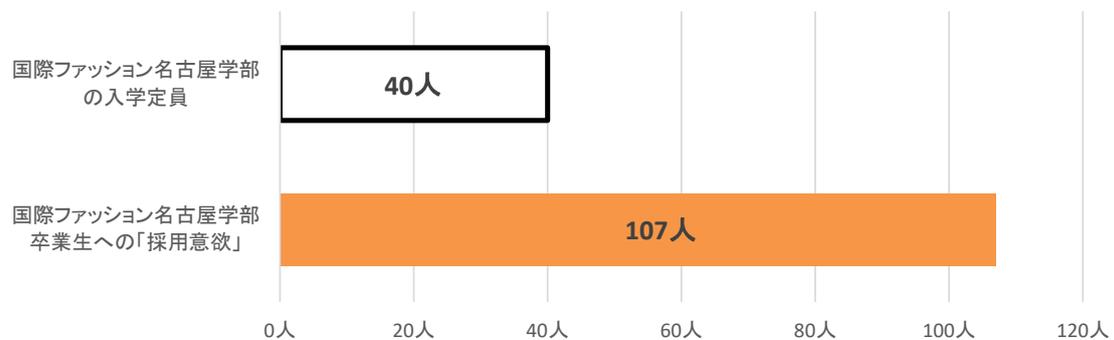
グラフ2 「国際ファッション専門職大学 (仮称)」 で養成する人材への興味 (Q5 結果より)



グラフ3 「国際ファッション名古屋学部（仮称）」を卒業する学生への採用意欲（Q6 結果より）



グラフ5 「国際ファッション名古屋学部（仮称）」の採用意欲と入学定員の関係（Q6 結果より）



以上の結果より、学校法人日本教育財団が平成31年4月に設置構想中である「国際ファッション専門職大学（仮称）」の「国際ファッション名古屋学部（仮称）」の人材需要の見込みは、予定する入学定員を上回る採用意欲を得たため、問題ないと判断できる。

添付資料
(実施したアンケート用紙)

B

開設予定の新たな高等教育機関「専門職大学」に関するアンケート

このアンケート調査は、2019年4月に学校法人 日本教育財団（モード学園グループ）が開設を予定する新しい教育機関の設置計画の基礎資料とするため、貴社・貴施設の求める人材等・採用計画の意向等についてお聞きするものです。このアンケート結果は統計資料としてのみ使い、目的以外に利用することはありません。ご協力お願いいたします。



Q1

貴社の所在地（都道府県）を記入ください

部・課・所・県

Q2

(1つに○)

貴社の業種はどれに該当しますか

1. ファッションブランド企業・製造・販売
2. アパレル生産（OEM/ODM含む）
3. チキスタイル企画・製造・卸
4. ファッション小売
5. コンサルティング・PR・プレス
6. その他（ ）

Q3

(1つに○)

貴社の従業員規模はどれに該当しますか

1. 105未満
2. 10～99名
3. 100～199名
4. 200～299名
5. 300名以上

Q4

(いくつでも○)

貴社で人材を採用する際に重視するのほどはどれですか

1. 基礎的学力
2. 主体性・自律性
3. 継続的な学習力
4. 創造的な発想力
5. 採用職種に深い専門知識
6. 採用職種の高い実行能力
7. 採用職種に関する応用力
8. 語学力・国際性
9. コミュニケーション能力
10. インターンシップ経験
11. 採用職種に関する取得資格（見込み含む）
12. その他（ ）

中面に続きまして

2019年4月開学 設置計画中



国際ファッション専門職大学 (仮称)

国際ファッション名古屋学部
ファッション学科

- 開設時期 : 2019年4月(予定)
- 創設者 : 学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ)
- 学部所在地 : 総合校舎スライラリタワーズ
名古屋市中区栄2-27-1
- 修業年限 : 4年(入学時の最終学歴・履修単位により編入学制度あり)
- 取得学位 : 学士(専門職)
- 入学定員 : 国際ファッション名古屋学部
ファッション学科 40名



国際ファッション専門職大学(仮称)は2019年4月の開学を目前にして設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。

B

学校法人 日本教育財団 (モード学園グループ) では、新しい高等教育機関「専門職大学」の創学を計画中です。下記、概要を確認のうえ、Q5～Q8の質問に回答ください。

概要

2019年4月 開学

設置計画中



国際ファッション専門職大学 (仮称)

国際ファッション名古屋学部
ファッション学科

「専門職大学」とは、大学制度の中で最も高い専門職職人を育てるため、国が導入する新しい高等教育機関です。ファッション業界の企業・団体と連携した充実の実習教育と、広く深い知識・教養の両立で、専門分野をリードする高い実習力を養成。さらに国際的な視野も備え、変化する社会のニーズに即応する力や、新たな価値を生み出せる人材も育みます。

国際ファッション専門職大学 (仮称) の特長

学習方法

- 高い実践力を養うため、卒業単位の3～4割以上に実習等の科目を導入、企業と連携した実習を60時間以上、さらに専任教員の4割以上は専門職の実務経験を備えた「実務家教員」です。
- 社会の最新ニーズを実習・実務教育へ積極的に反応するため、クリエイターや企業・業界団体等の関係機関にも連携してカリキュラムを構成・実装します。
- 大学が担当理論教育と専門学校が担当実践教育の相互の強みを活かした、新たな高等教育機関である本校は、職業・社会における「実質の理論」を単独した研究を行います。
- 本法人が50年以上の教育で培ってきた独自の「創造力教育」や、国際化に対応するカリキュラムも融合。時代の変化に対応できる力や、新たな価値を生み出せる人材も育みます。



集積する人財・身につく能力

国際ファッション名古屋学部

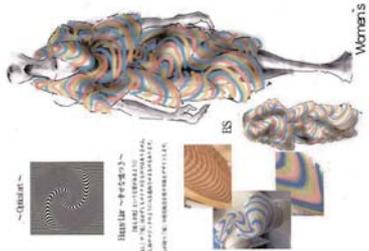
ファッション学科 ファッションデザインコース/ファッションテキスタイルコース/ファッションビジネスコース

「日本ブランド」としてのファッション商品やテキスタイル(生地・織物)を創出できる人材として、デザイン・ビジネスの両輪と最新の知識を備えた高い実践力を養成します。さらに、海外でも通用する知的財産としての商品・製品を生み出すために、海外国の文化・歴史・習俗など幅広い教養や、外国語を含む情報収集・コミュニケーション能力も身につけます。

卒業後の進路 国内・海外ラグジュアリーブランド、企画・デザイン制作会社、購物メーカー、独立起業ほか

目指せる学位・資格

- 学士 (専門職) ● 色彩検定 ● カラーコーディネーター検定 ● パターンカトリスト検定
- 技能検定 (服飾部門) 縫製 ● ファッションビジネス能力検定 ● ファッション販促能力検定
- リアルマーケティング (販売士) 検定 ● 服飾外国語検定 ほか



※国際ファッション専門職大学 (仮称) は2019年4月の開学を目指して設置準備を進めており、本概要は一部変更になる場合があります。

Q5 (1つに○)

「国際ファッション専門職大学 (仮称)」では、概要に即応した専門職の人材を養成します。こうした人材に対してどれくらい興味がありますか。

1. 太い興味がある
2. やや興味がある
3. あまり興味がない
4. 興味がない

Q6

(あてはまる番号を枠内に記入し、または20) (番号は採用可能とされる人数を記入)
貴社からみて、「国際ファッション専門職大学 (仮称)」を卒業する学生を、採用したいと思いませんか

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. どちらとも思えない
4. 採用しない

番号

採用可能とされる人数

Q7

その他「国際ファッション専門職大学 (仮称)」の設置計画について、ご意見、ご要望があれば記入ください

Q8

(任意)

貴社名・部署名を記入ください

貴社名

部署名

ご協力ありがとうございました。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本 給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	コンドウ セイイチ 近藤 誠一 <平成31年4月>		学士		公共財団法人東京交響楽団理事長 (平成27年1月) 前文化庁長官

教 員 の 氏 名 等												
(国際ファッション学部ファッションクリエイション学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 係 る の 大 学 等 の 従 事 す る 平 均 日 数
①	専	教授	タカハシ コウジ 高橋 幸次 <平成31年4月>		文学修士 (西洋美術史)		ヨーロッパの社会と文化 美とファッションの歴史 ファッション論基礎ゼミ 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 卒業制作・計画	2後 2前 1前 2 3通 3通 3通 4通	2 2 2 1 4 2 4 4	1 2 1 1 1 1 1 1	日本大学 教授 (平成11年4月)	5日
②	専	教授 (学部長)	スズキ タカフミ 鈴木 孝史 <平成31年4月>		芸術学士		写真概論 写実実習 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ 卒業制作・計画	1前 2前 3通 3通 3通 4前 4後 4通	2 2 4 2 4 4 4 4	2 2 1 1 1 1 1 1	日本大学 教授 (平成9年4月)	5日
③	専	教授	ヤマモト マサオ 山本 雅男 <平成31年4月>		文学修士		日本語文章表現 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1後 3通 3通 3通 4前 4後	2 4 2 4 4 4	2 1 1 1 1 1	日本大学大学院 教授 (平成16年4月)	5日
4	専	教授	ミヤザキ マサヒロ 宮崎 正弘 <平成31年4月>		芸術学士		映像概論 映像実習 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1後 2後 4前 4後	2 2 4 4	2 2 1 1	日本大学 教授 (平成9年4月)	5日
①	専	准教授	テラドジュンコ 寺戸 淳子 <平成31年4月>		博士 (文学)		地域論入門 フィールドワーク入門 フランス語 身体とパフォーマンス 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	2後 1後 2後 1前 1前 3通 3通 3通	2 2 1 2 2 4 2 4	1 2 1 1 1 1 1 1	白百合女子大学 等 非常勤講師 (平成25年4月)	5日
⑤	専	講師	クマダ ヨウコ 熊田 陽子 <平成31年4月>		博士 (社会科学)		文化論基礎ゼミ 英語Ⅰ 英語Ⅱ 装いと社会性・ジェンダー 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1前 1通 2通 1前 3通 3通	2 4 4 2 2 4	1 2 2 1 1 1	駒沢大学 等 非常勤講師 (平成25年4月)	5日
⑥	専	講師	イマムラ ジュン 今村 淳 <平成31年4月>		博士 (文学)		造形論入門 ファッション論基礎ゼミ 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1前 1前 3通 3通 3通	2 2 4 2 4	2 1 1 1 1	アートスクール銀座 等 非常勤講師 (平成20年8月)	5日
②	実専	教授	ゴトウ ケイスケ 後藤 圭介 <平成31年4月>		専門学校 卒		ファッション論基礎ゼミ ファッションデザインプランニング実習Ⅰ ファッションデザインプランニング実習Ⅱ 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅱ(地方産地) 卒業制作・計画	1前 1通 2通 3通 3通 4通	2 4 4 10 10 4	1 2 2 1 1 1	東京モード学園 教務部 (平成28年3月)	5日
③	実専	講師	ムラカミ マサル 村上 勝 <平成31年4月>		専門学校 卒		ファッションデザイン実習Ⅰ ファッションデザイン実習Ⅱ パターンメイキング 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	1通 2通 2後 3通 3通	3.1 2.5 2 10 10	2 2 1 1 1	東京モード学園 教務部 (平成29年3月)	5日
④	実 (研)	教授 (学部長)	ナガサワ ヨウイチ 永澤 陽一 <平成31年4月>		専門学校 卒		ファッションデザイン実習Ⅰ ファッションデザイン実習Ⅱ 国際展示会演習 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 卒業制作・計画	1通 2通 4前 3通 3通 3通 4通	0.9 1.5 2 4 2 4 4	2 2 1 1 1 1 1	㈱スチル 経営責任者 (平成3年3月)	5日

教 員 の 氏 名 等

(国際ファッション学部ファッションクリエイション学科)

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に 係る 大職 務等 の 従事 平均 日数
△	実 (研)	教授	ハヤシ シゲアキ 林 成光 <平成31年4月>		博士 (学術)		社会科学基礎ゼミ 情報リテラシー キャリアデザイン論 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ(企業) 地域産業論	2後 1前 1後 3通 3通 2後	2 2 2 10 10 2	1 2 1 1 1 2	KDDI株式会社 (平成9年5月)	5日
⑥	実み	教授	ササゲ キョウコ 榎 恭子 <平成31年4月>		芸術学 修士		ファッションデザインプランニング実習Ⅰ ファッションデザインプランニング実習Ⅱ テキスタイル基礎 シューズデザイン 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ	1通 2通 1後 2後 3通 3通	0.8 0.1 2 2 4 2	2 2 2 1 1 1	Belpasso 靴デザイナー (平成33年3月) Belpasso 靴デザイナー (平成33年3月)	2日 4日
⑦	実み	教授	マツムラ ヒカル 松村 光 <平成31年4月>		造形学士		ファッションデザインプランニング実習Ⅰ ファッションデザインプランニング実習Ⅱ バッグデザイン 国際連携ゼミ	1通 2通 3後 3通	0.8 0.1 2 4	2 2 1 1	㈱ヒカルマツムラデザイン 代表取締役 (平成23年7月) ㈱ヒカルマツムラデザイン 代表取締役 (平成23年7月)	2日 4日
12	兼任	教授	ヒガシ ユミコ(ユミコ) 東 ゆみこ(由美子) <平成31年4月>		博士 (学術)		比較文化論 現代文化論 文化論基礎ゼミ デジタルアーカイブ論 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1前 1後 1前 2前 4前 4後	2 2 2 2 4 4	2 1 1 1 1 1	東京大学 特任講師 (平成28年4月)	5日
△	兼任	教授	マツオカ エリコ 松岡 依里子 <平成31年4月>		博士 (被服環 境学)		社会科学基礎ゼミ ブランドの歴史と文化 日本の衣生活・服装史入門 ファッションデザイン論 臨地実習Ⅰ(企業)	2後 2後 2前 1前 3通	2 2 2 2 10	1 1 2 2 1	大阪成蹊短期大学 准教授 (平成24年4月)	5日
14	兼任	教授	ニシムラ マサコ 西村 雅子 <平成31年4月>		修士 (経営 法)		法学入門 知財論 国際知財論	1後 2後 3前	2 2 2	1 1 1	大島・西村・宮永商標 特許事務所 (平成19年5月)	2日
⑨	兼任	教授	タカハシ コウジ 高橋 幸治 <平成31年4月>		芸術学士		メディア概論 産業とメディアデザイン 広告・PR論 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1前 2前 3後 4前 4後	2 2 2 4 4	2 1 1 1 1	㈱Yes, I am. 代表取締役 (平成20年2月)	5日
15	兼任	教授	ヒライ ヒデキ 平井 秀樹 <平成31年4月>		修士 (経営 学)		社会科学基礎ゼミ ファッションビジネス概論 マーケティング論 消費者行動論 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	2後 1前 3前 3前 3通 3通	2 2 2 2 10 10	1 1 2 2 1 1	㈱ワールド プランニングディレクター (平成16年4月)	5日
⑩	兼任	准教授	シノハラ コウヘイ 篠原 航平 <平成31年4月>		修士 (言語文 化学)		中国語 国際ファッション市場論 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	2後 1後 3通 3通 3通	2 2 4 2 4	1 1 1 1 1	㈱フランドル 経営戦略・広報室 次長 (平成15年4月)	5日
17	兼任	講師	ニワ(ヒガシヤマ)トモコ 丹羽(東山) 朋子 <平成31年4月>		修士 (学術)		文化論基礎ゼミ 自然資源と服装文化 職人の世界 国際連携ゼミ	1前 1後 1前 3通	2 2 2 4	1 1 1 1	人間文化研究機構 総合人間文化研究推進セン ター 特任助教 等 (平成27年2月)	5日
18	兼任	講師	ツカモト チアキ 塚本 千晶 <平成31年4月>		修士 (芸術工 学)		デザイン感性工学	2前	2	1	相模女子大学 専任講師 (平成29年4月)	1日
19	兼任	講師	ヨネクラ カズオ 米倉 一男 <平成31年4月>		経済学 学士		会計入門 産業論入門	1前 1後	2 2	1 1	社団法人 ブランディング 推進協会 理事 (平成25年3月)	1日

教 員 の 氏 名 等

(国際ファッション学部ファッションクリエイション学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	係等に なる日 数 申請の 職務 平均 日数
㉓	兼任	講師	ヤマモト マユミ 山本 真倫美 <平成31年4月>		Master of Fine Art (Fashion Design and Society) (米国)		英語 I 英語 II 国際ファッション業界英語	1通 2通 2通	4 4 4	2 2 2	Coach Inc. リテール コレクション RTW デザイナー	1日
24	兼任	講師	ヨシダ ミツタカ 吉田 光孝 <平成32年9月>		専門士		サブカルチャー・スタイル	2後	2	1	名古屋モード学園 統轄責任者 (平成26年4月)	1日
25	兼任	講師	タナカ ユウミ 田中 優美 <平成32年9月>		専門士		美容とファッション	2後	2	1	東京モード学園 教務部 (平成28年9月)	1日
㉒	兼任	講師	セキドイッペイ 関戸 一平 <平成32年4月>		修士 (農学)		環境と社会 環境とビジネス	2前 3後	2 2	1 2	人間文化研究機構 総合人間文化研究推進セン タ 研究員 等 (平成28年4月)	1日
㉑	兼任	講師	オオヌキ イツキ 大貫 いつき <平成31年4月>		文学学士		色彩論入門	1前	2	2	㈱カラススペース・ワ ム 講師 (平成5年10月)	1日
-	兼任可						生活科学入門	1前	2	1		

教 員 の 氏 名 等												
（国際ファッション学部ファッションビジネス学科）												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 るの職務 に等する 従事する 日数 平均日数
△	専	教授 (学科長)	マツオカ エリコ 松岡 依里子 <平成31年4月>		博士 (被服環 境学)		社会科学基礎ゼミ ブランドの歴史と文化 日本の衣生活・服装史入門 ファッションデザイン論 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ（企業） 臨地実習Ⅱ（地方産地）	2後 2後 2前 1前 3通 3通 3通	2 2 2 2 10 10 10	1 1 1 1 1 1 1	大阪成蹊短期大学 准教授 (平成24年4月)	5日
②	専	教授	ヒガシ ユミコ (ユミコ) 東 ゆみこ (由美子) <平成31年4月>		博士 (学術)		比較文化論 現代文化論 文化論基礎ゼミ 日本語文章表現 デジタルアーカイブ論 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1前 1後 1前 1後 2前 4前 4後	2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1	東京大学 特任講師 (平成28年4月)	5日
③	専	講師	ニワ(ヒガシヤマ)トモコ 丹羽(東山) 朋子 <平成31年4月>		修士 (学術)		文化論基礎ゼミ 地域論入門 自然資源と服装文化 職人の世界 海外実習Ⅰ	1前 2後 1後 1前 3通	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	人間文化研究機構 総合人間文化研究推進セン ター 特任助教 等 (平成27年2月)	5日
②	実専	准教授	シノハラ コウヘイ 篠原 航平 <平成31年4月>		修士 (言語文 化学)		中国語 国際ファッション市場論 国際ビジネスモデル特講Ⅰ 国際ビジネスモデル特講Ⅱ 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	2後 1後 2前 2後 3通 3通 3通	2 2 2 2 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1	(株)フランドル 経営戦略・広報室次長 (平成15年4月)	5日
③	実専	准教授	フルタ ヒロユキ 古田 祐幸 <平成31年4月>		専門学校 卒		ファッションビジネス実習Ⅰ リテール企画実習Ⅱ 地域企業・地方連携ゼミ 卒業制作・計画	1通 2通 3通 4通	4 4 10 4	1 1 1 1	東京モード学園 教務部主任 (平成18年8月)	5日
④	実専	講師	クラウチ ショウジ 倉内 尚士 <平成31年4月>		専門士		リテール企画実習Ⅰ 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ（企業） 臨地実習Ⅱ（地方産地）	1通 3通 3通 3通	4 10 10 10	1 1 1 1	東京モード学園 教務部 (平成26年3月)	5日
⑤	実(研)	教授	タカハシ コウジ 高橋 幸治 <平成31年4月>		芸術学士		メディア概論 産業とメディアデザイン 広告・PR論 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1前 2前 3後 4前 4後	2 2 2 4 4	1 1 1 1 1	(株)Yes, I am. 代表取締役 (平成20年2月)	5日
⑥	実(研)	教授	ヒライ ヒデキ 平井 秀樹 <平成31年4月>		博士 (経営 学)		社会科学基礎ゼミ ファッションビジネス概論 ファッションビジネス実習Ⅱ マーケティング論 消費者行動論 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ（企業） 臨地実習Ⅱ（地方産地）	2後 1前 2通 3前 3前 3通 3通 3通	2 2 4 2 2 10 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	(株)ワールド プランニングディレク ター (平成16年4月)	5日
9	実み	教授	ニシムラ マサコ 西村 雅子 <平成31年4月>		修士 (経営 法)		法学入門 知財論 国際知財論	1後 2後 3前	2 2 2	1 1 1	大島・西村・宮永商標 特許事務所 (平成19年5月)	2日
11	兼担	教授	スズキ タカフミ 鈴木 孝史 <平成31年4月>		芸術学士		写真概論 写真実習 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1前 2前 4前 4後	2 2 4 4	1 1 1 1	日本大学 教授 (平成9年4月)	5日

教 員 の 氏 名 等

(国際ファッション学部ファッションビジネス学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	係等に なる日 数 申請の 職務 の従 事平均 日数
13	兼任	教授	ミヤザキ マサヒロ 宮崎 正弘 <平成31年4月>		芸術学士		映像概論 映像実習 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1後 2後 4前 4後	2 2 4 4	1 1 1 1	日本大学 教授 (平成16年4月)	5日
14	兼任	教授	タカハシ コウジ 高橋 幸次 <平成31年4月>		文学修士 (西洋美術史)		ヨーロッパの社会と文化 美とファッションの歴史 ファッション論基礎ゼミ	2後 2前 1前	2 2 2	1 1 1	日本大学 教授 (平成11年4月)	5日
⑧	兼任	教授	ヤマモト マサオ 山本 雅男 <平成31年4月>		文学修士		英語Ⅰ 英語Ⅱ 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1通 2通 3通 3通 3通 4前 4後	4 4 4 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1	日本大学大学院 教授 (平成16年4月)	5日
⑦	兼任	准教授	テラドジュンコ 寺戸 淳子 <平成31年4月>		博士 (文学)		文化論基礎ゼミ 地域論入門 フィールドワーク入門 フランス語 身体とパフォーマンス 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1前 2後 1後 2後 1前 3通 3通 3通	2 2 2 2 2 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	白百合女子大学 非常勤講師 等 (平成25年4月)	5日
16	兼任	教授	ササゲ キョウコ 捧 恭子 <平成31年4月>		芸術学 修士		テキスタイル基礎	1後	2	1	Belpasso 靴デザイナー (平成3年3月)	2日
⑩	兼任	講師	イマムラ ジュン 今村 淳 <平成31年4月>		博士 (文学)		造形論入門 ファッション論基礎ゼミ 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1前 1前 3通 3通 3通	2 2 4 2 4	1 1 1 1 1	アーツスクール銀座 等 非常勤講師 (平成20年8月)	5日
⑪	兼任	講師	クマダ ヨウコ 熊田 陽子 <平成31年4月>		博士 (社会科学)		文化論基礎ゼミ 装いと社会性・ジェンダー 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1前 1前 3通 3通	2 2 2 4	1 1 1 1	駒沢大学 等 非常勤講師 (平成25年4月)	5日
△	兼任	教授	ハヤシ シゲアキ 林 成光 <平成31年4月>		博士 (学術)		社会科学基礎ゼミ 情報リテラシー キャリアデザイン論 創造産業論 臨地実習Ⅰ(企業) 地域産業論 卒業制作・計画	2後 1前 1後 3前 3通 3通 2後 4通	2 2 2 2 10 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	KDDI株式会社 (平成9年5月)	5日
⑬	兼任	講師	ムラカミ マサル 村上 勝 <平成31年4月>		専門学校 卒		パターンメイキング 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	2後 3通 3通	2 10 10	1 1 1	東京モード学園 教務部 (平成29年3月)	5日
20	兼任	講師	ツカモト チアキ 塚本 千晶 <平成31年4月>		修士 (芸術工 学)		デザイン概論 デザイン感性工学	1前 2前	2 2	1 1	相模女子大学 専任講師 (平成29年4月)	1日
21	兼任	講師	ヨネクラ カズオ 米倉 一男 <平成31年4月>		経済学 学士		会計入門 産業論入門	1前 1後	2 2	1 1	社団法人 ブランディング 推進協会 理事 (平成25年3月)	1日
22	兼任	講師	ベンジャー ケイ ベンジャー 桂 <平成32年9月>		BA(Hons)F ine Art and History of Art (英国)		国際ファッション業界英語	2後	4	1	翻訳家 フリーランス (平成25年4月)	1日

教 員 の 氏 名 等

(国際ファッション学部ファッションビジネス学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講教	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等に 従事する 平均日数
23	兼任	講師	ヨシダ ミツカ 吉田 光孝 <平成32年9月>		専門士		サブカルチャー・スタイル	2後	2	1	名古屋モード学園 統轄責任者 (平成26年4月)	1日
24	兼任	講師	タナカ ユウミ 田中 優美 <平成32年9月>		専門士		美容とファッション	2後	2	1	東京モード学園 教務部 (平成28年9月)	1日
㊴	兼任	講師	セキドイッペイ 関戸 一平 <平成32年4月>		修士 (農学)		環境と社会 環境とビジネス	2前 3後	2 2	1 1	人間文化研究機構 総合人間文化研究推進セン ター 研究員 等 (平成28年4月)	1日
㊵	兼任	講師	オオスキ イツキ 大貫 いつき <平成31年4月>		文学学士		色彩論入門	1前	2	1	㈱カラスペース・ワ ム 講師 (平成5年10月)	1日
-	兼任可						生活科学入門	1前	2	1		

教 員 の 氏 名 等												
(国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
①	専	教授 (副学長)	タナカ マサカズ 田中 雅一 <平成31年4月>		Ph. D. Anthropol ogy (英国)		比較文化論 文化論基礎ゼミ 卒業制作・計画	1前 1前 4通	2 2 4	1 1 1	京都大学 教授 (平成16年4月)	5日
②	専	教授 (学科学長)	トミザワ オサミ 富澤 修身 <平成31年4月>		経済学 博士		産業論入門 社会科学基礎ゼミ 国際ファッション市場論 創造産業論 環境とビジネス 地域産業・大阪論 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1後 2後 1後 3前 3後 2後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	大阪市立大学大学院 教授 (平成13年4月)	5日
③	専	教授	スガハラ マサヒロ 菅原 正博 <平成31年4月>		経済学 博士		会計入門 社会科学基礎ゼミ 感性工学 ファッションビジネス概論 国際ビジネスモデル特講Ⅰ 国際ビジネスモデル特講Ⅱ 卒業制作・計画	1前 2後 2後 1前 2前 2後 4通	2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	㈱プロビジョン 代表 (平成28年4月)	5日
△	専	教授	キムラ トモヒロ 木村 智博 <平成31年4月>		修士 (デザイ ン学)		情報リテラシー 造形論入門 ファッション論基礎ゼミ 広告・PR論 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1前 1前 1前 3後 4前 4後	2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	宝塚大学 教授 (平成27年10月)	5日
⑤	専	准教授	カネタニ(フナカワ)ミワ 金谷(舟川)美和 <平成31年4月>		博士 (人間・ 環境学)		文化論基礎ゼミ 地域論入門 自然資源と服装文化 職人の世界 ファッション論基礎ゼミ 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1前 2後 1後 1前 1前 3通 3通 3通	2 2 2 2 2 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	大阪芸術大学 等 非常勤講師 (平成21年4月)	5日
⑥	専	准教授	ヒラノ ダイ 平野 大 <平成31年4月>		Le Diplô me de docteur Sciences de l'art (仏国)		美とファッションの歴史 ブランドの歴史と文化 ファッション論基礎ゼミ ファッションデザイン論 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	2前 2後 1前 1前 3通 3通 3通 4前 4後	2 2 2 2 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大手前大学 等 非常勤講師 (平成27年4月)	5日
⑦	専	講師	カワナカ(オカモト)カオル 川中(岡本) 薫 <平成31年4月>		博士 (地域研 究)		現代文化論 文化論基礎ゼミ 装いと社会性・ジェンダー 国際ファッション市場論	1後 1前 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	京都大学大学院 特任研究員 (平成27年4月)	5日
⑧	専	助教	フクダ アサコ 福田 安佐子 <平成31年4月>		修士 (人間・ 環境学)		現代文化論 文化論基礎ゼミ 身体とパフォーマンス 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1後 1前 1前 3通 3通 3通	2 2 2 4 2 4	1 1 1 1 1 1	日本学術振興会 特別研究員 (平成29年4月)	5日
⑨	専	講師	カワニシ エリコ 河西 瑛里子 <平成31年4月>		博士 (人間・ 環境学)		ヨーロッパの社会と文化 文化論基礎ゼミ フィールドワーク入門 環境と社会 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	2後 1前 1後 2前 3通 3通 3通	2 2 2 2 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1	甲南女子大学 非常勤講師 (平成29年9月)	5日

教 員 の 氏 名 等

(国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
⑩	実専	講師	カドモト ユウコ 門本 優子 <平成32年9月>		専門士		パターンメイキング 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	2後 3通 3通 3通	2 10 10 10	1 1 1 1	大阪モード学園 教務部 (平成27年2月)	5日
⑪	実専	講師	タカヤマ リョウタ 高山 遼太 <平成33年4月>		専門士		地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	3通 3通 3通	10 10 10	1 1 1	大阪モード学園 教務部 (平成28年2月)	5日
⑫	実専	准教授	タカハラ マサヒコ 高原 昌彦 <平成31年4月>		法学士		テキスタイル基礎 ファッションビジネス実習Ⅰ ファッションビジネス実習Ⅱ 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地) 卒業制作・計画	1後 1通 2通 3通 3通 3通 4通	2 4 4 10 10 10 4	1 1 1 1 1 1 1	A.P.office 代表 (平成13年4月)	5日
⑬	実専	准教授	フジイ テルユキ 藤井 輝之 <平成31年4月>		専門学校 卒		ファッションデザイン実習Ⅰ ファッションデザイン実習Ⅱ 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地) 卒業制作・計画	1通 2通 3通 3通 3通 4通	4 4 10 10 10 4	1 1 1 1 1 1	大阪モード学園 教務部 (平成28年2月)	5日
⑭	実専	准教授	ミキ カンヤ 三木 勘也 <平成31年4月>		修士 (美術 学)		ファッションデザイン実習Ⅰ ファッションデザイン実習Ⅱ 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 卒業制作・計画	1通 2通 3通 3通 3通 4通	4 4 4 2 4 4	1 1 1 1 1 1	文化学園大学 准教授 (平成28年4月)	5日
⑮	実(研)	准教授	ハタナカ ツヤコ 畑中 艶子 <平成31年4月>		博士 (経営 学)		産業論入門 社会科学基礎ゼミ キャリアデザイン論 マーケティング論 消費者行動論 国際ビジネスモデル特講Ⅰ 国際ビジネスモデル特講Ⅱ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1後 2後 1後 3前 3前 2前 2後 3通 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	立命館大学 客員研究員 (平成29年4月)	5日
⑯	兼任	教授	タカハシ コウジ 高橋 幸治 <平成32年4月>		芸術学士		産業とメディアデザイン デジタルテクノロジー演習	2前 2前	2 2	1 1	㈱Yes, I am. 代表取締役 (平成20年2月)	1日
⑰	兼任	講師	カワナカ ミツコ 川中 美津子 <平成31年4月>		博士 (芸術 学)		ファッション論基礎ゼミ 日本の衣生活・服飾史入門 生活科学入門	1前 2前 1前	2 2 2	1 1 1	相愛大学 教授 (平成18年4月)	2日
⑱	兼任	講師	ヤマダ シゲカズ 山田 繁和 <平成31年9月>		教育学士		法学入門 知財論 国際知財論	1後 2後 3前	2 2 2	1 1 1	大阪工業大学 特任教授 (平成29年4月)	2日
⑲	兼任	講師	タマキ ミチオ 玉置 通夫 <平成31年9月>		文学士		日本語文章表現	1後	2	1	立命館大学 非常勤講師 (平成11年4月)	1日
⑳	兼任	講師	サイカ シズカ 雑賀 静 <平成31年4月>		準学士		デザイン概論	1前	2	1	㈱YUNA STYLE 代表 (平成24年5月)	1日
㉑	兼任	講師	キバ カツユキ 木場 勝之 <平成32年4月>		文学士		国際ファッション業界英語	2通	4	1	帝人フロンティア㈱ 衣料第二統括部長 (平成25年9月)	1日

教 員 の 氏 名 等

(国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
㉒	兼任	講師	タグチ シゲユキ 田口 誠幸 <平成31年4月>		芸術学士		写真概論 写真実習	1前 2前	2 2	1 1	タグチスタジオ㈱ 代表 (昭和60年4月)	2日
㉓	兼任	講師	シラハ ミツヒト 白羽 弥仁 <平成31年9月>		学士 (演劇)		映像概論 映像実習	1後 2後	2 2	1 1	ドルチェ・ビータ㈱ 代表 (映画監督) (平成8年2月)	2日
㉔	兼任	講師	アリマ トオル 有馬 徹 <平成31年4月>		建築学士		メディア概論	1前	2	1	ナード、オーパークラウテッド 代表 (平成3年8月)	1日
㉕	兼任	講師	カワバタ ヤスコ 川瀬 泰子 <平成31年4月>		高等学校 卒		色彩論入門	1前	2	1	川瀬泰子色彩事務所 代表 (平成23年4月)	1日
㉖	兼任	講師	ヨシダ ミツタカ 吉田 光孝 <平成32年9月>		専門士		サブカルチャー・スタイル	2後	2	1	名古屋モード学園 統轄責任者 (平成26年4月)	1日
㉗	兼任	講師	モリサワ トシミツ 森沢 敏充 <平成32年9月>		専門士		美容とファッション	2後	2	1	大阪モード学園 教務部 (平成19年3月)	1日
㉘	兼任	講師	マルセル アレクサンダー エルタド Marcel Alexander Hurtado <平成31年4月>		学士		英語 I	1通	4	1	相愛大学 等 非常勤講師 (平成28年4月)	1日
㉙	兼任	講師	チャールズ エリック ビ ラード CHARLES-ERIC BILLARD <平成32年4月>		学士		英語 II	2通	4	1	大阪モード学園 (平成24年4月)	1日
㉚	兼任	講師	リュウ ギ 劉 魏 <平成32年9月>		修士		中国語	2後	2	1	関西外国語大学大学院 博士課程 等 (平成29年4月)	1日
㉛	兼任	講師	ローレン ラボレ Laurent Lavolé <平成32年9月>		学士		フランス語	2後	2	1	エコールギッズ 講師 等 (平成29年4月)	1日

教員の氏名等												
(国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	請に 係等 大に の学 従務 事たる 平均 日数
▲	専	教授	タカマ ユミコ 高間 由美子 <平成31年4月>		修士 (教育学)		ファッションデザイン論	1前	2	1	名古屋学芸大学 非常勤講師 (平成28年3月退任)	5日
②	専	教授	スガ マキコ 菅 万希子 <平成32年4月>		博士(経 済学)		社会科学基礎ゼミ 創造産業論 消費者行動論 統合指導ゼミⅠ	2後 3前 3前 4前	2 2 2 4	1 1 1 1	帝塚山大学 教授 (平成29年4月)	5日
▲	専	教授 (学科長)	オオスキ トオル 大貫 徹 <平成31年4月>		文学修士 ※		英語Ⅰ フランス語 産業とメディアデザイン デジタルテクノロジー演習	1通 2後 2前 2前	4 2 2 2	1 1 1 1	名古屋工業大学 名誉教授 (平成30年4月)	4日
③	専	准教授	イソベ(コジマ) ミサト 磯部(小嶋) 美里 <平成31年4月>		博士(学 術)		文化論基礎ゼミ 中国語 身体とパフォーマンス 装いと社会性・ジェンダー 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1前 2後 1前 1前 3通 3通 3通	2 2 2 2 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1	愛知大学 非常勤講師 (平成21年4月)	5日
④	専	准教授	コヤマ(ウエノ) ユウコ 小山(上野) 有子 <平成31年4月>		博士(文 学)		自然資源と服装文化 美容とファッション ファッション論基礎ゼミ 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ 卒業制作・計画	1後 2後 1前 4前 4後 4通	2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1	大阪大学 非常勤講師 (平成20年1月)	5日
⑤	専	講師	アンネン マイコ 安念 真衣子 <平成31年4月>		博士 (地域研 究)		比較文化論 文化論基礎ゼミ 地域論入門 フィールドワーク入門 日本語文章表現 国際連携ゼミ	1前 1前 2後 1後 1後 3通	2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1	日本学術振興会 特別研究員 (平成28年4月)	5日
⑥	専	講師	スアミ ミユキ 須網 美由紀 <平成31年4月>		博士 (文学)		美とファッションの歴史 フランスの歴史と文化 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	2前 2後 3通 3通 3通	2 2 4 2 4	1 1 1 1 1	名古屋大学大学院 非常勤講師 (平成23年10月)	5日
⑦	実専	准教授	オカモト マサオ 岡本 正大 <平成31年4月>		准学士		ファッションビジネス概論 ファッションビジネス実習Ⅰ ファッションビジネス実習Ⅱ 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	1前 1通 2通 3通 3通 3通	2 4 4 10 10 10	1 1 1 1 1 1	SOM 代表 (平成27年1月)	5日
⑧	実専	准教授	シノダ タカノリ 篠田 陸典 <平成31年4月>		専門学校 卒		ファッションデザイン実習Ⅰ ファッションデザイン実習Ⅱ 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地) 卒業制作・計画	1通 2通 3通 3通 3通 3通 4通	4 4 10 10 10 10 4	1 1 1 1 1 1 1	名古屋モード学園 教務部主任 (平成25年2月)	5日
⑨	実専	講師	モリヤ タカノリ 守屋 孝典 <平成31年4月>		専門学校 卒		キャリアデザイン論 パターンメイキング 地域企業・地方連携ゼミ 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地)	1後 2後 3通 3通 3通	2 2 10 10 10	1 1 1 1 1	名古屋モード学園 非常勤講師 (平成28年4月)	5日
▲	実専	講師	オクタニ モモコ 奥谷 桃子 <平成31年4月>		学士 (デザイ ン)		情報リテラシー 造形論入門 ファッション論基礎ゼミ	1前 1前 1前	2 2 2	1 1 1	名古屋モード学園 教務部 (平成26年2月)	5日
⑩	実 (研)	教授	オオシマ カズトヨ 大島 一豊 <平成31年4月>		デザイン 経営修士 (専門 職)		メディア概論 デザイン概論 感性工学 臨地実習Ⅰ(企業) 臨地実習Ⅱ(地方産地) 広告・PR論	1前 1前 2後 3通 3通 3通 3後	2 2 2 10 10 10 2	1 1 1 1 1 1 1	(有)マーケティング メソッド研究所 代表取締役 (平成18年1月)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	請 係 に 等 る 学 大 務 職 事 の 当 従 事 週 者 平 日 均 数
⑫	実 (研)	准教授	ヒロタ ミドリ 廣田 緑 <平成31年4月>		博士 (文学/文 化人類 学)		現代文化論 文化論基礎ゼミ 職人の世界 国際連携ゼミ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ 卒業制作・計画	1後 1前 1前 3通 3通 3通 4前 4後 4通	2 2 1 2 1 1 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	中部大学 非常勤講師 (平成28年4月)	5日
⑬	実み	教授	オクムラ キヨシ 奥村 潔 <平成31年9月>		経済学士		産業論入門 国際ファッション市場論 国際ビジネスモデル特講Ⅰ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ	1後	2	1	ドーメル・ジャパン 株式会社 代表取締役 (平成30年1月)	2日
								1後 2前 3通 3通	2 2 2 4	1 1 1 1		ドーメル・ジャパン 株式会社 代表取締役 (平成30年1月)
⑭	実み	准教授	キンダ クニヒロ 岸田 邦裕 <平成31年4月>		社会学士		会計入門 統合指導ゼミⅠ 統合指導ゼミⅡ	1前 4前 4後	2 4 4	1 1 1	岸田事務所 (平成11年4月)	2日
											岸田事務所 (平成11年4月)	3日
⑮	兼任	准教授	ヒラノ ダイ 平野 大 <平成32年4月>		Le Diplôme de docteur Sciences de l'art (仏国)		フランス語	2後	2	1	大手前大学 等 非常勤講師 (平成27年4月)	1日
⑯	兼任	講師	コンドウ ナオミ 近藤 奈緒美 <平成31年4月>		准学士		色彩論入門	1前	2	1	生活の木静岡校 講師 (平成22年4月)	1日
⑰	兼任	講師	アキバ フミノリ 秋庭 史典 <平成32年9月>		博士 (文学)		ヨーロッパの社会と文化	2後	2	1	名古屋大学大学院 准教授 (平成27年4月)	1日
⑱	兼任	講師	マエダ ダイスケ 前田 大輔 <平成31年9月>		学士 (法学)		法学入門 知財論 国際知財論	1後 2後 3前	2 2 2	1 1 1	小西・中村特許事務所 (平成15年7月)	1日
⑲	兼任	講師	ウエヤマ タイヨウ 上山 太陽 <平成31年4月>		学士 (芸術)		写真概論 写真実習	1前 2前	2 2	1 1	株式会社ミルク 取締役 (平成19年4月)	1日
⑳	兼任	講師	カワムラ ヨウスケ 河村 陽介 <平成31年9月>		学士 (芸術)		映像概論 映像実習	1後 2後	2 2	1 1	NODE 代表 (平成23年4月)	1日
㉑	兼任	講師	ノダ タカヒロ 野田 隆弘 <平成31年9月>		工学博士		テキスタイル基礎 テキスタイル中級	1後 2前	2 2	1 1	一宮地場産業 ファッションデザイン センター (平成26年4月)	1日
㉒	兼任	講師	ヨシダ ミツタカ 吉田 光孝 <平成31年4月>		専門士		ファッション論基礎ゼミ サブカルチャー・スタイル	1前 2後	2 2	1 1	名古屋モード学園 統轄責任者 (平成26年4月)	1日
㉓	兼任	講師	ウサミ タロウ 宇佐美 太郎 <平成31年4月>		Master of Arts in Asian Studies (米国)		英語Ⅰ 英語Ⅱ 国際ビジネスモデル特講Ⅱ 国際ファッション業界英語	1通 2通 2後 2通	4 4 2 4	1 1 1 1	チーカス㈱ 代表取締役 (平成9年9月)	1日
㉔	兼任	講師	イワサキ クルミ 岩崎 久留美 <平成32年4月>		生活科学 学士		環境と社会 日本の衣生活・服装史入門 環境とビジネス	2前 2前 3後	2 2 2	1 1 1	nui products 代表 (平成27年5月)	1日
㉕	兼任	講師	セキ チサト 関 千里 <平成32年9月>		修士 (商学)		マーケティング論 地域産業・名古屋論	3前 2後	2 2	1 1	愛知学院大学 教授 (平成30年4月)	1日
㉖	兼任	講師	クズマキ ユウコ 葛巻 裕子 <平成32年9月>		准学士		イタリア語	2後	2	1	名古屋日伊学院 代表 (平成17年10月)	1日
—	兼任可						生活科学入門	1前	2	1		

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(国際ファッション学部ファッションクリエイション学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	3人	
	学 士	0人	0人	0人	1人	0人	1人	1人	3人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	2人	
准教授	博 士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講 師	博 士	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	2人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
助 教	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	0人	1人	1人	1人	1人	0人	4人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	3人	
	学 士	0人	0人	0人	1人	0人	1人	1人	3人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	2人	0人	1人	0人	3人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(国際ファッション学部ファッションビジネス学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	0人	2人	1人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
講 師	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
助 教	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	0人	0人	2人	1人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	2人	0人	0人	1人	0人	3人	
	学 士	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	2人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	2人	1人	3人	
	修 士	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博 士	0人	0人	0人	3人	0人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
講 師	博 士	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	2人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	
助 教	博 士	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	2人	1人	3人	0人	2人	1人	9人	
	修 士	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	2人	0人	1人	0人	0人	0人	3人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	2人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博 士	0人	0人	2人	1人	0人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	
	その他	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
講 師	博 士	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	2人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	
助 教	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	1人	2人	2人	0人	1人	1人	7人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	2人	
	学 士	0人	1人	0人	0人	0人	1人	1人	3人	
	短期大 学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	
	その他	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	2人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況(専門職大学等の実務の経験等を有する専任教員)										
(国際ファッション学部ファッションクリエイション学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	修 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	2人 (0人)	
准 教 授	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)								
講 師	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
助 教	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)								
合 計	博 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	修 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	2人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	3人 (0人)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況(専門職大学等の実務の経験等を有する専任教員)										
(国際ファッション学部ファッションビジネス学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	修 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)								
准 教 授	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
講 師	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
助 教	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)								
合 計	博 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	修 士	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	2人 (0人)	
	学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	2人 (0人)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況(専門職大学等の実務の経験等を有する専任教員)										
(国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)								
准教授	博 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	修 士	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
講 師	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	2人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	2人 (0人)	
助 教	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)								
合 計	博 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	修 士	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	2人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	3人 (0人)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況(専門職大学等の実務の経験等を有する専任教員)										
(国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	1人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)								
准 教 授	博 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0 (0人)	1人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	1人 (0人)	
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
講 師	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
助 教	博 士	0人 (0人)								
	修 士	0人 (0人)								
	学 士	0人 (0人)								
	短期大 学 士	0人 (0人)								
	その他	0人 (0人)								
合 計	博 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	修 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	
	学 士	0人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	1人 (0人)	3人 (0人)	
	短期大 学 士	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	1人 (0人)	
	その他	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	2人 (0人)	

審査意見への対応を記載した書類（10月）

国際ファッション専門職大学

学校法人日本教育財団

審査意見への対応を記載した書類（10月）

（目次）	国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科
	国際ファッション学部 ファッションビジネス学科
	国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
	国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科
	【全学共通】

【教育課程等】

1. 【第一次審査意見3の回答について】

＜シラバスの表記が不十分＞

語学科目について、科目を履修することで語学力を数段階上げることが目標とするのであれば、シラバス等で到達目標を明確にすること。また、シラバスの「授業計画」や「学生に対する評価」等が詳細に記載されていないため、シラバスの意義を踏まえ、学生の学修の指針となるよう、適切に改めること。（改善事項）

2. 【第一次審査意見4の回答について】

＜科目の内容が不十分＞

「生活科学入門」について、家政学の領域全般の概説を学んだ後に各論を学ぶように、授業科目の内容を改めること。また、被服材料学に関する内容を更に充実すること。

（改善事項）

3. 【第一次審査意見5の回答について】

＜教育課程連携協議会の構成員区分が不適切＞

依然として、教育課程連携協議会の構成員のうち、「当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者」又は「地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者」に該当しない者が当該区分に含まれているため、構成区分を改めること。

（改善事項）

【名称、その他】

4. 【第一次審査意見12の回答について】

＜施設設備の整備状況が不明確＞

学生のための施設設備の整備状況について、卒業制作以外の授業時間外での使用見込みが示されておらず、全ての学年の学生が使用する十分なスペースが確保されているのか依然として不明確であるため、学生が制作に使用するスペースの運用方法を全ての学年ごとに示し、十分なスペースが確保されているか改めて説明すること。（是正事項）

5. 【第一次審査意見13の回答について】

＜専任教員の教育研究スペースの整備状況が不十分＞

全専任教員に対し、区切りを設けた個室研究スペースを整備すると説明しているが、専任教員に1人1台ずつ支給する書棚及びキャビネットがどのように配置されるのか不明確であり、また、教員の研究に関する作品や備品等を保存する環境が、研究情報の保護の観点からも十分に確保されているか不明確であり、教育研究を行う環境が十分整っているか依然として疑義があるため、教育研究を行うスペースの詳細なレイアウト図を再度示した上で、十分なスペースが確保されているかについて、改めて説明すること。（是正事項）

- (改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科
国際ファッション学部 ファッションビジネス学科
国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科
【全学共通】

1. 【第一次審査意見3の回答について】

<シラバスの表記が不十分>

語学科目について、科目を履修することで語学力を数段階上げることが目標とするのであれば、シラバス等で到達目標を明確にすること。また、シラバスの「授業計画」や「学生に対する評価」等が詳細に記載されていないため、シラバスの意義を踏まえ、学生の学修の指針となるよう、適切に改めること。

- (対応) (1) 語学科目について、シラバスで到達目標を明確にする。
(2) また、本学全体のシラバスについて確認を行い、「授業計画」や「学生に対する評価」等が詳細に記載されていないものを改めた。

(1) 語学科目のシラバス

本学では、語学科目、特に英語の科目において、科目を履修することで入学時の英語力を数段階上げることが目標としている。該当する「英語Ⅰ」（必修・1通・基礎）、「英語Ⅱ」（必修・2通・基礎）のシラバスにおいて、シラバスの意義を踏まえ、学生の学修の指針となるよう、「授業の到達目標及びテーマ」「授業計画」「学生に対する評価」において到達目標を詳細に記載し、表記を適切に改めた。

・「英語Ⅰ」シラバス（一部抜粋）

「授業の到達目標及びテーマ」

実用的な英語のコミュニケーション能力を鍛える。日常生活のさまざまな場面を想定し、自らの考えや意志、目標などを的確に伝えられるようになることを目指す。積極的な態度を身につけ、簡潔でわかりやすい表現に習熟する。グループワークや授業における積極的な課題発表を通じて必要となる自己表現を行い、英語を使用したコミュニケーションに慣れることを目指す。CEFRなどの基準において、語学能力を1段階ほどあげることが授業の到達目標にする。受講生は、外部の英語語学能力試験を前期の中間評価までと後期の中間評価までに受けて結果を提出する。

「授業計画」

第1回 オリエンテーション

(到達目標、課題、外部試験の受験、評価方法を示す。プレイスメントテスト実施)

第8・9回 中間評価(到達度確認課題の発表、語学試験結果の提出、個別面接)

第26・27回 中間評価(到達度確認課題の発表、語学試験結果の提出、個別面接)

「学生に対する評価」

定期試験50% 中間評価20%及び授業への貢献度30%を総合して評価する。

中間評価には、到達度確認課題として外部語学能力試験の結果を組み込む。

・「英語Ⅱ」シラバス（一部抜粋）

「授業の到達目標及びテーマ」

実用的な英語の運用能力を高める。ビジネスや留学で関係する様々な分野の話題を取り上げ、急速なグローバル化が進む社会への理解を深めながら、自分の考えや意見を発信し、積極的に行動するために必要となる英語力を獲得することを目指す。英会話ロールプレイを多用して多様な人の考えを聞き取りつつ、自らの考えなどを的確に伝えられるようになる高度なリスニング力と英語会話力を涵養することを目指す。授業ではプレゼンテーションやディスカッションの理解のための応用英語表現に習熟させたいので、グループワークや課題発表を課す。

学生は課題に対してスライドを使用した短いプレゼンテーションを義務付け、その後教員や学生との質疑応答演習を行い、学習トピックの達成度を判断するルーブリックによる学生相互評価、教員評価を行う。テキストの事前事後学修教材を通じて英語リスニング力を強化し、授業ではアクティビティーを中心に行う（反転授業形式）。最終的に学生はグループで共同して10分程度のプレゼンテーションを行う。定期試験を実施する。受講生には、講義の最終日まで、外部の英語語学能力試験結果を提出し、「英語Ⅰ」で提出したレベルから向上していることを求める。

「学生に対する評価」

定期試験 50% 中間評価 20%及び授業への貢献度 30%を総合して評価する。

中間評価には、到達度確認課題として外部語学能力試験の結果を組み込む。

受講生には、講義の最終日まで、外部の英語語学能力試験結果を提出し、「英語Ⅰ」で提出したレベルから向上していることを求める。

・2科目共通（評価に関する資料）

<達成目標の可視化>

「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」では、受講生は求められた時期に外部試験の結果を提出する。

教員は、授業始めのオリエンテーションにおいて、該当する試験の内容と日程、及び各受講生が達成すべき目標の説明を、文部科学省公表（平成30年3月）のCEFR対照表や下記の相関表などに基づいて行う。受験機会を多く提供するという観点から、対応する試験を組合せて結果を提出することも認められる。教員は、この基準に照らして、学生の語学力と達成目標を把握し、結果を評価する。そして結果を単位認定に組み込む。

CEFR 基準			TOEIC		TOEFL iBT	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能 検定（英検）	IELTS
			Listening	Reading				
上級	Professional User	C2	---	---	---	200-230	---	8.5-9.0
		C1	490-	455-	95-120	180-199	1級	7.0-8.0
初級	Independent User	B2	400-	385-	72-94	160-179	準1級-1級	5.5-6.5
		B1	275-	275-	42-71	140-159	2級-準1級	4.0-5.0
	Basic User	A2	110-	115-	---	120-139	準2級-2級	---
		A1	60-	60-	---	100-119	3級-準2級	---

※TOEIC®公式ページ「TOEIC® Program 各テストスコアと CEFR との対照表」、英語4技能試験情報ページ「各資格・検定試験と CEFR との対照表」などを参照して作成。このほかに CEFR 対照されている試験を受験希望する場合も同様に単位認定基準に含む。

http://4skills.jp/qualification/comparison_cefr.html

(2) 本学全体のシラバス

意見を踏まえて、本学全体のシラバスを見直した。学生の学修の指針として、到達目標や評価が十分に記載されていないシラバスなど、特に「授業の到達目標及びテーマ」「授業計画」「学生に対する評価」項目を見直し改めた。今後もより良い学修の指針となるよう教員組織及び事務組織がともに、全学的に検討を加え、不断の見直しを行う所存である。

(新旧対照表) シラバス (全学共通)

新	旧
ファッションデザイン実習Ⅰ 【テキスト】 <u>必要に応じて適宜プリントを配付する。</u>	ファッションデザイン実習Ⅰ 【テキスト】 <u>アイテムソーイング、ディティールソーイング、パターンメイキング1～2、ファッションエクササイズ1～2、ファッション図鑑、ファッションデザイン画1～2、マテリアル(テキスト集)、マテリアル(素材集実物見本)</u>
ファッションデザイン実習Ⅱ 【授業計画】 授業計画 1: ブランド戦略 2: ロゴ、レタリング 3: DM等 4: <u>ブランドコンセプト設定(コレクションデザイン、個別セッション①)</u> 5: <u>ブランドコンセプト設定(コレクションデザイン、個別セッション②)</u> 6: <u>ブランドコンセプト設定(コレクションデザイン、個別セッション③)</u> 7: コンセプト発表 8: <u>企画書作成①</u> 9: <u>企画書作成②</u> 10: <u>企画書作成③</u> 11: 中間発表① 12: <u>実習(個別セッションによるシーチング製作①)</u> 13: <u>実習(個別セッションによるシーチング製作②)</u> 14: <u>実習(個別セッションによるシーチング製作③)</u> 15: <u>実習(個別セッションによるシーチング製作④)</u> 16: <u>実習(個別セッションによるシーチング製作⑤)</u> 17: <u>実習(個別セッションによるシーチング製作⑥)</u> 18: <u>実習(個別セッションによるシーチング製作⑦)</u> 19: <u>実習(個別セッションによるシーチング製作⑧)</u> 20: <u>実習(個別セッションによるシーチング製作⑨)</u> 21: 中間発表② 22: <u>実習(個別セッションによる本生地製作①)</u> 23: <u>実習(個別セッションによる本生地製作②)</u> 24: <u>実習(個別セッションによる本生地製作③)</u> 25: <u>実習(個別セッションによる本生地製作④)</u> 26: 中間発表③ 27: <u>実習(本生地制作①)</u> 28: <u>実習(本生地制作②)</u> 29: <u>実習(本生地制作③)</u> 30: 講評会	ファッションデザイン実習Ⅱ 【授業計画】 1: ブランド戦略 2: ロゴ、レタリング 3: DM等 5～6: <u>ブランドコンセプト設定(追加)</u> 7: コンセプト発表 8～10: <u>企画書作成(追加)</u> 11: 中間発表① 12～20: <u>実習(追加)</u> 21: 中間発表② 22～25: <u>実習(追加)</u> 26: 中間発表③ 27～29: <u>実習(追加)</u> 30: 講評会 定期試験

定期試験	
【テキスト】 必要に応じて適宜プリントを配付する。	【テキスト】 アイテムソーイング、ディティールソーイング、パターンメイキング1～2、ファッションエクササイズ1～2、ファッション図鑑、ファッションデザイン画1～2、マテリアル(テキスト集)、マテリアル(素材集実物見本)
ファッションデザインプランニング実習Ⅰ 【テキスト】 適宜授業にてプリントを配布する。	ファッションデザインプランニング実習Ⅰ 【テキスト】 適宜授業(追加)にて配布します。
ファッションデザインプランニング実習Ⅰ 【参考書・参考資料等】 適宜授業において紹介する。	ファッションデザインプランニング実習Ⅰ 【参考書・参考資料等】 適宜授業に於いて紹介します。
シューズデザイン 【テキスト】 適宜授業にてプリントを配布する	シューズデザイン 【テキスト】 各回毎に配布する
映像実習 【授業計画】 第9回：撮影実習① 第10回：撮影実習② 第11回：撮影実習③ 第12回：編集・仕上げ① 第13回：編集・仕上げ② 第14回：上映・講評① 第15回：上映・講評②	映像実習 【授業計画】 第9回：撮影(追加) 第10回：撮影(追加) 第11回：撮影(追加) 第12回：編集・仕上げ。 第13回：編集・仕上げ。 第14回：上映・講評(追加) 第15回：上映・講評(追加)
ファッションデザインプランニング実習Ⅱ 【授業の到達目標及びテーマ】 実習Ⅰで立てたプランを基に、素材、カラーのマーチャンダイジングを学び、そこからブランドビジネスにするための具体的な方法を実践演習する。	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ 【授業の到達目標及びテーマ】 演習Ⅰで立てたプランを基に、素材、カラーのマーチャンダイジングを学び、そこからブランドビジネスにするための具体的な方法を実践演習します。
ファッションデザインプランニング実習Ⅱ 【授業計画】 第1回：実習Ⅰのプレゼンテーションからのリサーチ 第2回：オリジナルブランドコンセプトボード作成① 第3回：オリジナルブランドコンセプトボード作成② 第4回：オリジナルブランドコンセプトボード作成③ 第5回：素材及び加工リサーチ① 第6回：素材及び加工リサーチ② 第7回：素材、カラーMDボード作成① 第8回：素材、カラーMDボード作成② 第9回：素材、カラーMDボード作成③ 第10回：MDプレゼンテーション及び検証 第11回：デザイン出し① 第12回：デザイン出し② 第13回：デザイン出し③ 第14回：コスト検証&仕様書作成① 第15回：コスト検証&仕様書作成② 第16回：コスト検証&仕様書作成③ 第17回：コスト検証&仕様書作成④ 第18回：コスト検証&仕様書作成⑤ 第19回：サンプル作成①	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ 【授業計画】 第1回：演習Ⅰのプレゼンテーションからのリサーチ 第2回～第4回：オリジナルブランドコンセプトボード作成(追加) 第5回：MDボード枠組み作成 第6回～第7回：素材、カラーリサーチ 第8回：靴、バックの素材、カラーリサーチ 第9回～第11回：素材、カラーMDボード作成 第11回：MDボードプレゼンテーション 第12回～第14回：デザイン出し(追加) 第15回～第20回：仕様書作成、コスト検証 第21回～第29回：サンプル制作 第30回：最終プレゼンテーション 定期試験

<p>第20回：サンプル作成② 第21回：サンプル作成③ 第22回：サンプル作成④ 第23回：サンプル作成⑤ 第24回：サンプル作成⑥ 第25回：サンプル作成⑦ 第26回：サンプル作成⑧ 第27回：サンプル作成⑨ 第28回：サンプル作成⑩ 第29回：サンプル作成⑪ 第30回：最終プレゼンテーション 定期試験</p>	
<p>ファッションデザインプランニング実習Ⅱ 【テキスト】 必要に応じて適宜授業において配布する。</p>	<p>ファッションデザインプランニング実習Ⅱ 【テキスト】 マップ用ボードなど、適宜授業に於いて配布します。</p>
<p>ファッションデザインプランニング実習Ⅱ 【参考書・参考資料等】 マップ見本など、適宜授業において紹介する。</p>	<p>ファッションデザインプランニング実習Ⅱ 【参考書・参考資料等】 マップ見本など、適宜授業に於いて紹介します。</p>
<p>臨地実習Ⅰ（企業） 【学生に対する評価】 臨地実習Ⅰ（企業）で設定されている、人物評価40%、実務評価40%、授業への貢献度20%で成績評価、単位認定を行う。</p>	<p>【学生に対する評価】 臨地実習Ⅰ（企業）で設定されている、人物評価（追加）、実務評価（追加）、授業への貢献度（追加）で成績評価、単位認定を行う。</p>
<p>臨地実習Ⅱ（地方産地） 【学生に対する評価】 臨地実習Ⅱ（地方産地）で設定されている、人物評価40%、実務評価40%、授業への貢献度20%で成績評価、単位認定を行う。</p>	<p>【学生に対する評価】 臨地実習Ⅱ（地方産地）で設定されている、人物評価（追加）、実務評価（追加）、授業への貢献度（追加）で成績評価、単位認定を行う。</p>
<p>海外実習Ⅰ 【授業計画】 <説明会> ①前年度の秋（10月頃）に実施する学内説明会で留学の詳細を理解し応募書類の作成・提出し実習先を決定する。②1月～3月には必要な書類、パスポート、その他準備をする。 <出発前>①キャリアサポートセンターの担当者の実習先に必要なさまざまな書類（英語）を準備し、期日までに提出。②国際連携ゼミにて実習計画・テーマを発表。 （略）</p>	<p>海外実習Ⅰ 【授業計画】 <説明会> ①前年度の秋（10月頃）に実施する学内説明会で留学の詳細を理解し応募書類の作成・提出し実習先を決定する。②1月～3月には必要な書類、パスポート、その他準備をする。 <出発前>①キャリアサポートセンターの担当者と実習先に必要なさまざまな書類（英語）を準備し、期日までに提出。②国際連携ゼミにて実習計画・テーマを発表。 （略）</p>
<p>海外実習Ⅰ 【学生に対する評価】 海外実習Ⅰで設定されている、人物評価40%、実務評価40%、授業への貢献度20%で成績評価、単位認定を行う。</p>	<p>海外実習Ⅰ 【学生に対する評価】 海外実習Ⅰで設定されている、人物評価（追加）、実務評価（追加）、授業への貢献度（追加）で成績評価、単位認定を行う。</p>
<p>海外実習Ⅱ 【授業計画】 <説明会> ①前年度の秋（10月頃）に実施する学内説明会で留学の詳細を理解し応募書類の作成・提出し実習先を決定する。②1月～3月には必要な書類、パスポート、その他準備をする。</p>	<p>海外実習Ⅱ 【授業計画】 <説明会> ①前年度の秋（10月頃）に実施する学内説明会で留学の詳細を理解し応募書類の作成・提出し実習先を決定する。②1月～3月には必要な書類、パスポート、</p>

<p><出発前>①担当専任教員と相談し実習先企業、ホームステイ先等を決定する。実習先に必要なさまざまな書類（英語）を準備し、期日までに提出。③国際連携ゼミにて渡航と実習の計画を発表。 (略)</p>	<p>その他準備をする。 <出発前>①担当専任教員と相談し実習先企業、ホームステイ先等を決定する。実習先に必用なさまざまな書類（英語）を準備し、期日までに提出。③国際連携ゼミにて渡航と実習の計画を発表。 (略)</p>
<p>海外実習Ⅱ 【学生に対する評価】 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価40%、実務評価40%、授業への貢献度20%で成績評価、単位認定を行う。</p>	<p>海外実習Ⅱ 【学生に対する評価】 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価<u>(追加)</u>、実務評価<u>(追加)</u>、授業への貢献度<u>(追加)</u>で成績評価、単位認定を行う。</p>
<p>比較文化論 【学生に対する評価】 毎回の授業の中で、アクティブ・ラーニングの要素を含む課題を出し、それに関するレポートを提出してもらう。レポート回数は全10回を予定している。 <u>評価は、レポートの評価を100%とする。詳細として、レポートの提出回数、内容の充実度、論理の整合性、独自性などの点から、総合的に判断する。</u></p>	<p>比較文化論 【学生に対する評価】 毎回の授業の中で、アクティブ・ラーニングの要素を含む課題を出し、それに関するレポートを提出してもらう。レポート回数は全10回を予定している。 <u>評価は、レポートの提出回数、内容の充実度、論理の整合性、独自性などの点から、総合的に判断する。</u></p>
<p>ファッションビジネス実習Ⅱ 【授業計画】 第1回：<u>実習Ⅰ</u>振り返り（略） 【テキスト】 毎回の授業の冒頭で<u>プリント</u>を配布</p>	<p>ファッションビジネス実習Ⅱ 【授業計画】 第1回：<u>演習Ⅰ</u>振り返り（略） 【テキスト】 毎回の授業の冒頭で<u>プリント</u>を配布</p>
<p>リテール企画実習Ⅰ 【授業計画】 第1回：接客心理について 第2回：接客基本動作トレーニング 第3回：<u>動き、笑顔、目の会話術、第一印象イメージアップトレーニング</u> 第4回：<u>動的待機とお出迎え、接客基本用語トレーニング</u> 第5回：<u>接客8大用語訓練、ロールプレイングトレーニング</u> 第6回：<u>接客8大用語ロールプレイング演習実施</u> 第7回：<u>購買心理のプロセストレーニング</u> 第8回：<u>販売、アプローチトレーニング</u> 第9回：<u>接客の言葉遣い、話し方、聞き方技術、入店からのお声掛けトレーニング</u> 第10回：<u>商品知識①(カットソー、ニット)</u> 第11回：<u>商品知識②(布帛)</u> 第12回：<u>商品知識③(雑貨)</u> 第13回：<u>ファッション感覚の応用</u> 第14回：<u>テイスト分類・オケーション分類・ライフステージの理解</u> 第15回：<u>TPO分類、TPOコーディネート</u> 第16回：<u>テクニックコーディネート</u> 第17回：<u>撮影(コーディネート)</u> 第18回：<u>撮影(物撮り)</u> 第19回：<u>コーディネート、商品物撮りMAP製作及びSNS投稿用画像</u></p>	<p>リテール企画実習Ⅰ 【授業計画】 第1回：接客心理について 第2回：接客基本動作トレーニング 第3回：<u>動き、笑顔、目の会話術、第一印象イメージアップトレーニング</u> 第4回：<u>動的待機とお出迎え、接客基本用語トレーニング</u> 第5回：<u>接客8大用語訓練、ロールプレイングトレーニング</u> 第6回：<u>接客8大用語ロールプレイング演習実施</u> 第7回：<u>購買心理のプロセストレーニング</u> 第8回：<u>販売、アプローチトレーニング</u> 第9回：<u>接客の言葉遣い、話し方、聞き方技術、入店からのお声掛けトレーニング</u> 第10回：<u>商品知識①(カットソー、ニット)</u> 第11回：<u>商品知識②(布帛)</u> 第12回：<u>商品知識③(雑貨)</u> 第13回：<u>ファッション感覚の応用</u> 第14回：<u>テイスト分類・オケーション分類・ライフステージの理解</u> 第15回：<u>TPO分類、TPOコーディネート</u> 第16回：<u>テクニックコーディネート</u> 第17回：<u>撮影(コーディネート)</u> 第18回：<u>撮影(物撮り)</u></p>

<p>第 20 回：<u>スタイリング提案、販売トレーニング①</u></p> <p>第 21 回：<u>スタイリング提案、販売トレーニング②</u></p> <p>第 22 回：<u>スタイリング提案、販売ロールプレイング演習実施</u></p> <p>第 23 回：<u>スタイリング提案に基づく品揃えのマネジメント</u></p> <p>第 24 回：<u>ターゲット・ポジショニングに基づく売り場のデザイン</u></p> <p>第 25 回：<u>ターゲット・ポジショニングに基づく商品開発とサービス</u></p> <p>第 26 回：<u>商品開発に伴う価格マネジメント</u></p> <p>第 27 回：<u>カスタマー・インフォメーションの管理と活用</u></p> <p>第 28 回：<u>店舗立地と商圈の分析</u></p> <p>第 29 回：<u>顧客に求められる業態・営業形態を理解した店舗提案</u></p> <p>第 30 回：<u>商品・店舗イメージのまとめとプレゼンテーション・講評</u></p> <p>定期試験</p>	<p>第 19 回：<u>コーディネート、商品物撮り MAP 製作及び SNS 投稿用画像</u></p> <p>第 20 回：<u>スタイリング提案、販売トレーニング①</u></p> <p>第 21 回：<u>スタイリング提案、販売トレーニング②</u></p> <p>第 22 回：<u>スタイリング提案、販売ロールプレイング演習実施</u></p> <p>第 23 回：<u>スタイリング提案に基づく品揃えのマネジメント</u></p> <p>第 24 回：<u>ターゲット・ポジショニングに基づく売り場のデザイン</u></p> <p>第 25 回：<u>ターゲット・ポジショニングに基づく商品開発とサービス</u></p> <p>第 26 回：<u>商品開発に伴う価格マネジメント</u></p> <p>第 27 回：<u>カスタマー・インフォメーションの管理と活用</u></p> <p>第 28 回：<u>店舗立地と商圈の分析</u></p> <p>第 29 回：<u>顧客に求められる業態・営業形態を理解した店舗提案</u></p> <p>第 30 回：<u>商品・店舗イメージのまとめとプレゼンテーション・講評</u></p> <p>定期試験</p>
<p>リテール企画実習Ⅱ</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>第 11 回：<u>「消費者行動論」から導かれる消費者行動の理解と消費者心理へのアプローチ</u></p> <p>第 12 回：<u>消費者行動とマーケティングから学ぶ集客術と購買行動モデルの変遷①</u></p> <p>第 13 回：<u>消費者行動とマーケティングから学ぶ集客術と購買行動モデルの変遷②</u></p> <p>(略)</p>	<p>リテール企画実習Ⅱ</p> <p>【授業計画】</p> <p>(略)</p> <p>第 11 回：<u>消費者行動分析①</u></p> <p>第 12 回：<u>消費者行動分析②</u></p> <p>第 13 回：<u>消費者行動分析まとめ</u></p> <p>(略)</p>
<p>リテール企画実習Ⅱ</p> <p>【テキスト】</p> <p>毎回の授業の冒頭で<u>プリント</u>を配布</p>	<p>リテール企画実習Ⅱ</p> <p>【テキスト】</p> <p>毎回の授業の冒頭で<u>(追加) 配布</u></p>
<p>ファッションビジネス実習Ⅰ</p> <p>【テキスト】</p> <p>必要に応じて適宜<u>プリント</u>を配布する。</p>	<p>ファッションビジネス実習Ⅰ</p> <p>【テキスト】</p> <p><u>ファッションビジネスⅠ (社) 日本ファッション教育振興協会</u></p>
<p>映像実習</p> <p>【授業計画】</p> <p>第 9 回：<u>撮影実習①</u></p> <p>第 10 回：<u>撮影実習②</u></p> <p>第 11 回：<u>撮影実習③</u></p> <p>第 12 回：<u>編集・仕上げ①</u></p> <p>第 13 回：<u>編集・仕上げ②</u></p> <p>第 14 回：<u>上映・講評①</u></p> <p>第 15 回：<u>上映・講評②</u></p>	<p>映像実習</p> <p>【授業計画】</p> <p>第 9 回：<u>撮影 (追加)</u></p> <p>第 10 回：<u>撮影 (追加)</u></p> <p>第 11 回：<u>撮影 (追加)</u></p> <p>第 12 回：<u>編集・仕上げ。</u></p> <p>第 13 回：<u>編集・仕上げ。</u></p> <p>第 14 回：<u>上映・講評 (追加)</u></p> <p>第 15 回：<u>上映・講評 (追加)</u></p>
<p>統合指導ゼミⅠ</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>(略) そのためには、自ら興味をもった多様な社</p>	<p>統合指導ゼミⅠ</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>(略) そのためには、自ら興味をもった多</p>

会、歴史、文化に関する文献を調べ、自ら考え、表現する主体性こそが重要と自覚させ、独自の基本的なコンセプト、時代観を持たせるのが目標である。 (削除)	様な社会、歴史、文化に関する文献を調べ、自ら考え、表現する主体性こそが重要と自覚させ、独自の基本的なコンセプト、時代観を持たせるのが目標である。・
---	---

(新旧対照表) シラバス (大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)

新	旧
比較文化論 【学生に対する評価】 毎回の授業の中で、アクティブ・ラーニングの要素を含む課題を出し、それに関するレポートを提出してもらう。レポート回数は全10回を予定している。 <u>評価は、レポートの評価を100%とする。詳細として、レポートの提出回数、内容の充実度、論理の整合性、独自性などの点から、総合的に判断する。</u>	比較文化論 【学生に対する評価】 毎回の授業の中で、アクティブ・ラーニングの要素を含む課題を出し、それに関するレポートを提出してもらう。レポート回数は全10回を予定している。 <u>評価は、レポートの提出回数、内容の充実度、論理の整合性、独自性などの点から、総合的に判断する。</u>
身体とパフォーマンス 【授業の到達目標及びテーマ】 (略) そのために、 <u>パフォーマンス、特に非言語の表現をする「身体」に焦点を定める。</u>	身体とパフォーマンス【授業の到達目標及びテーマ】 (略) そのために、 <u>パフォーマンスとくに非言語の表現をする「身体」に焦点を定める。</u>
自然資源と服装文化 【テキスト】 特になし。授業中にプリントを配布する。	自然資源と服装文化 【テキスト】 特になし。授業中にプリントを配布します
テキスタイル基礎 【テキスト】 Q&A 現場で生きるアパレル素材の基礎知識 高原昌彦(織研新聞社)1900円+税、 <u>マテリアル(素材集実物見本)</u>	テキスタイル基礎 【テキスト】 Q&A 現場で生きるアパレル素材の基礎知識 高原昌彦(織研新聞社)1900円+税、 <u>(追加)</u>
ファッションデザイン実習Ⅰ 【テキスト】 <u>必要に応じて適宜プリントを配布する。</u>	ファッションデザイン実習Ⅰ 【テキスト】 <u>アイテムソーイング、ディティールソーイング、パターンメイキング1~2、ファッションエクササイズ1~2、ファッション図鑑、ファッションデザイン画1~2、マテリアル(テキスト集)、マテリアル(素材集実物見本)</u>
ファッションデザイン実習Ⅱ 【【授業計画】 (削除) 1:ブランド戦略 2:ロゴ、レタリング 3:DM等 4:ブランドコンセプト設定(<u>コレクションデザイン、個別セッション①</u>) 5:ブランドコンセプト設定(<u>コレクションデザイン、個別セッション②</u>) 6:ブランドコンセプト設定(<u>コレクションデザイン、個別セッション③</u>) 7:コンセプト発表 8:企画書作成①	ファッションデザイン実習Ⅱ 【授業計画】 (<u>オムニバス方式/全30回</u>) 1:ブランド戦略(追加) 2:ロゴ、レタリング 3:DM等 5~6:ブランドコンセプト設定(<u>追加</u>) 7:コンセプト発表 8~10:企画書作成(<u>追加</u>) 11:中間発表① 12~20:実習(<u>追加</u>) 21:中間発表② 22~25:実習(<u>追加</u>) 26:中間発表③

<p>9:企画書作成② 10:企画書作成③ 11:中間発表① 12:実習(個別セッションによるシーチング製作①) 13:実習(個別セッションによるシーチング製作②) 14:実習(個別セッションによるシーチング製作③) 15:実習(個別セッションによるシーチング製作④) 16:実習(個別セッションによるシーチング製作⑤) 17:実習(個別セッションによるシーチング製作⑥) 18:実習(個別セッションによるシーチング製作⑦) 19:実習(個別セッションによるシーチング製作⑧) 20:実習(個別セッションによるシーチング製作⑨) 21:中間発表② 22:実習(個別セッションによる本生地製作①) 23:実習(個別セッションによる本生地製作②) 24:実習(個別セッションによる本生地製作③) 25:実習(個別セッションによる本生地製作④) 26:中間発表③ 27:実習(本生地制作①) 28:実習(本生地制作②) 29:実習(本生地制作③) 30:講評会 定期試験</p>	<p>27~29:実習(追加) 30:講評会 定期試験</p>
<p>ファッションデザイン実習Ⅱ 【テキスト】 必要に応じて適宜プリントを配布する。</p>	<p>ファッションデザイン実習Ⅱ 【テキスト】 アイテムソーイング、ディティールソーイング、パターンメイキング1~2、ファッションエクササイズ1~2、ファッション図鑑、ファッションデザイン画1~2、マテリアル(テキスト集)、マテリアル(素材集実物見本)</p>
<p>パターンメイキング 【テキスト】 毎回の授業の冒頭でプリントを配布</p>	<p>パターンメイキング 【テキスト】 毎回の授業の冒頭で(追加)配布</p>
<p>ファッションビジネス実習Ⅰ <u>授業計画</u> (略) 第28回:ブランド構築・運営・ブランディング構築実習② (SCM/CRM/HRM/Finacial) 【テキスト】 毎回の授業の冒頭でプリントを配布</p>	<p>ファッションビジネス実習Ⅰ (追加)業計画 (略) 第28回:ブランド構築・運営・ブランディング構築実習② (SCM/CRM/HRM/Finacial) 【テキスト】 毎回の授業の冒頭で(追加)配布</p>
<p>ファッションビジネス実習Ⅱ 【授業計画】 第1回:実習Ⅰ振り返り (略) 【テキスト】 毎回の授業の冒頭でプリントを配布</p>	<p>ファッションビジネス実習Ⅱ 【授業計画】 第1回:演習Ⅰ振り返り (略) 【テキスト】 毎回の授業の冒頭で(追加)配布</p>
<p>映像実習 【授業計画】 第9回:撮影 短編 第10回:撮影 中編 第11回:撮影 長編</p>	<p>映像実習 【授業計画】 第9回:撮影(追加) 第10回:撮影(追加) 第11回:撮影(追加)</p>

第12回：編集	第12回：編集・仕上げ。
第13回：仕上げ	第13回：編集・仕上げ。
第14回：上映	第14回：上映・講評
第15回：講評	第15回：上映・講評

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

新			
授業科目名： 英語 I	必修	授業回数： 30回	担当教員名：
授業科目区分： 基礎	配当： 1年通期	単位数： 4単位	講義形態： 演習
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>実用的な英語のコミュニケーション能力を鍛える。日常生活のさまざまな場面を想定し、自らの考えや意志、目標などを的確に伝えられるようになることを目指す。積極的な態度を身につけ、簡潔でわかりやすい表現に習熟する。グループワークや授業における積極的な課題発表を通じて必要となる自己表現を行い、英語を使用したコミュニケーションに慣れることを目指す。</p> <p>CEFRなどの基準において、語学能力を1段階ほどあげることを授業の到達目標にする。</p> <p>受講生は、外部の英語語学能力試験を前期の中間評価までと後期の中間評価までに受けて結果を提出すること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、英語によるコミュニケーション能力の育成を行う。eラーニングで基本的な運用能力を学びつつ、定期的な個別面接指導で実践的に能力を上げる。目標は、日常生活や具体的な留学等の場面において、臆することなくコミュニケーションをとる積極的な姿勢を身につけることである。英語の運用能力は、語彙の豊富化と構文発想の柔軟な多様化にあるため、地道な段階を踏んだ学習が必要であるが、それとともに、積極的な表現実践力の強化を授業に組み込み、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション (到達目標、課題、外部試験の受験、評価方法を示す。プレースメントテスト実施)</p> <p>第2回 クラス編成の発表。自己紹介、CVの作り方を学ぶ。</p> <p>第3・4回 海外留学を想定した準備をしよう (1) どこで何にチャレンジしたいか、希望をクラスメイトに英語で話そう</p> <p>第5・6回 海外留学を想定した準備をしよう (2) 希望を具体的な計画にしよう。 留学先、渡航日程、滞在先、など必要事項を調べ、書き出し発表してみよう。</p> <p>第6・7回 海外留学をしたら (1) 何から始めればいだろうか。留学生として想定してみよう。 さまざまな人に自己や日本について紹介できるようになろう。</p> <p>第8・9回 中間評価(到達度確認課題の発表、語学試験結果の提出、個別面接)</p> <p>第10・11回 海外留学をしたら (2) 学校や滞在先で友人を作る場面を想定しよう。 好きなスポーツ、音楽、趣味などについて話そう。</p> <p>第12・13回 海外留学をしたら (3) 多くの人と話す場面に慣れよう。 日本のファッションの特徴をグループでディスカッションしてみよう。</p> <p>第14・15回 海外留学をしたら (4) 世界のファッションの特徴をグループでディスカッションしてみよう。</p> <p>定期試験</p> <p>第16回 到達度確認試験などの実施 (個別面接を含む)</p> <p>第17回 海外での生活 (1) 留学先の町を想定して、その町について調べ、説明できるようになろう。</p> <p>第18・19回 海外での生活 (2) 日常生活において買い物をする場面を想定し、互いに定員と客になって話し合おう</p> <p>第20・21回 海外での生活 (3) 日常生活において食事をする場面を想定し、互いに定員と客になって話し合おう</p> <p>第22・23回 休日の場面 (1) 友人と旅行をする計画をたてて、その内容をプレゼンテーションしよう</p> <p>第24・25回 休日の場面 (2) 日本食を食べたことのない友人を家に招待する。わかりやすく英語で説明しよう</p> <p>第26・27回 中間評価(到達度確認課題の発表、語学試験結果の提出、個別面接)</p> <p>第24・25回 トラブルの発生 (1)</p>			

第26・27回	生活面で、想定されるトラブルをあげてみよう。解決には何が必要か話し合おう。 トラブルの発生（2）
第28・29回	学業面で、想定されるトラブルをあげてみよう。解決には何が必要か話し合おう。 充実した留学生活とするために 留学後の未来の自分を想定しよう。どこでどのような仕事をしているだろうか。 英語で語るための資料を作ろう
第30回 定期試験	まとめ（課題発表をふくむ）
テキスト	English First Success(5 th Edition). Pearson. ISBN9789813130210. もしくは、 English First Hand Level 1(Fifth Edition). Pearso. ISBN9789813130227. 授業の進度や学生の習熟度に合わせて変更することがある。
参考書・参考資料等	適宜、授業中に指示をする。 My Grammar Lab ElementaryA1/A2” Pearson. プレイスメントテストの結果、又は中間評価もしくは直近のTOEIC等の英語能力試験の結果に応じて、補助教材による自宅学習を指示することがある。 English First Access(5 th Edition). Pearson. ISBN9789813130203. など
学生に対する評価	定期試験50% 中間評価20%及び授業への貢献度30%を総合して評価する。 中間評価には、到達度確認課題として外部語学能力試験の結果を組み込む。

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

旧			
授業科目名： 英語 I	必修	授業回数： 30回	担当教員名：
授業科目区分： 基礎	配当： 1年通期	単位数： 4単位	講義形態： 演習
<p>授業の到達目標及びテーマ 実用的な英語のコミュニケーション能力を鍛える。日常生活のさまざまな場面を想定し、自らの考えや意志、目標などを的確に伝えられるようになることを目指す。積極的な態度を身につけ、簡潔でわかりやすい表現に習熟する。グループワークや授業における積極的な課題発表を通じて必要となる自己表現を行い、英語を使用したコミュニケーションに慣れることを目指す。 <u>(追加)</u></p>			
<p>授業の概要 本科目では、英語によるコミュニケーション能力の育成を行う。eラーニングで基本的な運用能力を学びつつ、定期的な個別面接指導で実践的に能力を上げる。目標は、日常生活や具体的な留学等の場面において、臆することなくコミュニケーションをとる積極的な姿勢を身につけることである。英語の運用能力は、語彙の豊富化と構文発想の柔軟な多様化にあるため、地道な段階を踏んだ学習が必要であるが、それとともに、積極的な表現実践力の強化を授業に組み込み、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション (到達目標、課題、<u>(追加)</u>、評価方法を示す。プレイスメントテスト実施)</p> <p>第2回 クラス編成の発表。自己紹介、CVの作り方を学ぶ。</p> <p>第3・4回 海外留学を想定した準備をしよう(1) どこで何にチャレンジしたいか、希望をクラスメイトに英語で話そう</p> <p>第5・6回 海外留学を想定した準備をしよう(2) 希望を具体的な計画にしよう。 留学先、渡航日程、滞在先、など必要事項を調べ、書き出し発表してみよう。</p> <p>第6・7回 海外留学をしたら(1) 何から始めればいだろうか。留学生として想定してみよう。 さまざまな人に自己や日本について紹介できるようになるよう。</p> <p>第8・9回 中間評価(到達度確認課題の発表、<u>(追加)</u>、個別面接)</p> <p>第10・11回 海外留学をしたら(2) 学校や滞在先で友人を作る場面を想定しよう。 好きなスポーツ、音楽、趣味などについて話そう。</p> <p>第12・13回 海外留学をしたら(3) 多くの人と話す場面に慣れよう。 日本のファッションの特徴をグループでディスカッションしてみよう。</p> <p>第14・15回 海外留学をしたら(4) 世界のファッションの特徴をグループでディスカッションしてみよう。</p> <p>定期試験</p> <p>第16回 到達度確認試験などの実施(個別面接を含む)</p> <p>第17回 海外での生活(1) 留学先の町を想定して、その町について調べ、説明できるようになるよう。</p> <p>第18・19回 海外での生活(2) 日常生活において買い物をする場面を想定し、互いに定員と客になって話し合おう</p> <p>第20・21回 海外での生活(3) 日常生活において食事をする場面を想定し、互いに定員と客になって話し合おう</p> <p>第22・23回 休日の場面(1) 友人と旅行をする計画をたてて、その内容をプレゼンテーションしよう</p> <p>第24・25回 休日の場面(2) 日本食を食べたことのない友人を家に招待する。わかりやすく英語で説明しよう</p> <p>第26・27回 中間評価(到達度確認課題の発表、<u>(追加)</u>、個別面接)</p> <p>第24・25回 トラブルの発生(1) 生活面で、想定されるトラブルをあげてみよう。解決には何が必要か話し合おう。</p> <p>第26・27回 トラブルの発生(2) 学業面で、想定されるトラブルをあげてみよう。解決には何が必要か話し合おう。</p> <p>第28・29回 充実した留学生活とするために 留学後の未来の自分を想定しよう。どこでどのような仕事をしているだろうか。 英語で語るための資料を作ろう</p> <p>第30回 まとめ(課題発表をふくむ)</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

English First Success(5th Edition). Pearson. ISBN9789813130210.もしくは、
English First Hand Level 1(Fifth Edition). Pearso. ISBN9789813130227.
授業の進度や学生の習熟度に合わせて変更することがある。

参考書・参考資料等

適宜、授業中に指示をする。

My Grammar Lab ElementaryA1/A2” Pearson.

プレイスメントテストの結果、又は中間評価もしくは直近のTOEIC等の英語能力試験の結果に応じて、補助教材による自宅学習を指示することがある。

English First Access(5th Edition). Pearson. ISBN9789813130203. など

学生に対する評価

定期試験50% 中間評価 (追加) 及び授業への貢献度50%を総合して評価する。

(追加)

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

新			
授業科目名： 英語Ⅱ	必修	授業回数： 30回	担当教員名：
授業科目区分： 基礎	配当： 2年通期	単位数： 4単位	講義形態： 演習
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>実用的な英語の運用能力を高める。ビジネスや留学で関係する様々な分野の話題を取り上げ、急速なグローバル化が進む社会への理解を深めながら、自分の考えや意見を発信し、積極的に行動するために必要となる英語力を獲得することを目指す。英会話ロールプレイを多用して多様な人の考えを聞き取りつつ、自らの考えなどを的確に伝えられるようになる高度なリスニング力と英語会話を涵養することを目指す。授業ではプレゼンテーションやディスカッションの理解のための応用英語表現に習熟させようとして、グループワークや課題発表を課す。</p> <p>学生は課題に対してスライドを使用した短いプレゼンテーションを義務付け、その後教員や学生との質疑応答演習を行い、学習トピックの達成度を判断するルーブリックによる学生相互評価、教員評価を行う。テキストの事前事後学修教材を通じて英語リスニング力を強化し、授業ではアクティビティーを中心に行う（反転授業形式）。最終的に学生はグループで共同して10分程度のプレゼンテーションを行う。定期試験を実施する。受講生には、講義の最終日まで、外部の英語語学能力試験結果を提出し、「英語Ⅰ」で提出したレベルから向上していることを求める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、「英語Ⅰ」を履修した受講生に対し、英語運用能力の上達を図る授業を行う。目標は、CEFR等英語諸検定の高得点獲得であり、自由かつ柔軟、即時対応の表現能力開発に重点を置く。アクティブ・ラーニングと個別面接指導をもとに、履修者の学習状況、進捗状態、問題点の所在等を綿密に把握し、改善の方途を指導する。定期的にプレゼンテーションの課題を実施し、相互の意思疎通を重視した総合的な英語運用能力開発を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション (到達目標、課題、外部試験の受験、評価方法を示す。プレイスメントテスト実施)</p> <p>英会話表現(5つの基本文型)とクリティカル・シンキングの導入説明 英文法の学習を取り入れ、質の高い英会話表現に習熟することの重要性を理解する。 授業では様々なテーマを題材に批判的思考力を高めることを課す。What is Critical Thinking? 「クリティカル・シンキングとは何か」について演習を通して理解する。自分の意見を発信し、積極的に行動するために必要な、コミュニケーション力の基礎づくりとなる。</p> <p>第2回： 英会話表現(動詞)とWrite Your Problems on a Note Pad「問題点をメモに書いてみよう」 動詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 クリティカル・シンキングの基本となる、問題を見つけてその構造を知り、問題解決に結びつける過程で効果的な「問題点をメモに書く」方法について演習を通して学ぶ。</p> <p>第3回： 英会話表現(進行形・未来形・助動詞)とMedia Literacy「メディア・リテラシー」 進行形・未来形・助動詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 世界で流通する情報の多くが英語で発信される。有名紙や大手メディアであることのパイアスをもたずに、批判的思考をもって内容を理解する重要性を学ぶ。</p> <p>第4回： 英会話表現(名詞・冠詞・代名詞)とThe Spirit of Wa 「和の精神」 名詞・冠詞・代名詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 「世界における日本」をテーマに、地域でみられる価値観や精神性の説明を考える。 「和の精神」を例に、実務の場面などでみられる地域に特徴的な意思決定方法について、演習を通して考える。</p> <p>第5回： 英会話表現(前置詞・接続詞)とXenophobia「外国人嫌い」 前置詞・接続詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 特定の人々に対してステレオタイプ・イメージを抱くことや異文化摩擦の問題点を理解し、根拠のないXenophobiaを克服する必要性について演習を通して考える。</p> <p>第6回： 英会話表現(形容詞・副詞と比較)とTelephone Message Game「伝言ゲーム」 形容詞・副詞・比較級に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 実務の場面などでみられる「伝言ゲーム」の問題点を考える。語学力とともに必要なコミュニケーション力として、複眼的思考の重要性について演習を通して考える。</p> <p>第7回： 英会話表現(命令文・感嘆文)とAnalyze Your Pattern of Thinking「自分の思考パターンを分析する」</p>			

命令文・感嘆文に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
自分自身の思考パターンを認識して行動することの大切さを理解し、溢れる情報の中で何を自身の指針として行動するべきかについて、演習を通して考えてみる。

- 第8回： 英会話表現(不定詞)とThe Difference between Fact and Opinion 「事実と意見の違い」
不定詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
人の話を聞いたときに必要となる、事実と意見をはっきりと区別する能力に関する理解を深め、その能力を実生活の中で生かす大切さを演習を通して考えてみる。
- 第9回： 英会話表現(動名詞と分詞)とThe Pitfalls of the English Language 「英語の落とし穴」
動名詞と分詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
英語を勉強することは世界を知ることにつながると言われるが、その反面、英語を勉強する際に注意すべき問題点について考え、英語にどう向き合うべきかについて、演習を通して考察する。
- 第10回： 英会話表現(各種疑問文・Itの特別用法)とGender Bias 「ジェンダーの偏見」
各種疑問文とItの特別用法に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
ジェンダーに関する思い込みに関して考察し、ジェンダーの偏見をなくし、あらゆる点での多様性を理解し尊重することの重要性について演習を通して考察する。
- 第11回： 英会話表現(受動態)とSkepticism 「懐疑主義」
受動態に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
先入観を持たずに批判的な思考をすることは大切であるが、度が過ぎれば懐疑主義に陥る危険性について考察し、有効な範囲で懐疑を抱くことの意義について演習を通して考える。
- 第12回： 英会話表現(完了形)とHow to Make a Persuasive Presentation 「説得力のあるプレゼントは」
完了形に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
批判的思考力を錬成段階に入る。自らの考えや意見を積極的に発表して、ディスカッションに参加し、意見交換をする。説得力のあるプレゼンについて演習を通して考察し、自身のプレゼンテーション能力の向上につなげることを目指す。
- 第13回： 英会話表現(時制の一致)とFacing Ambiguity 「曖昧さと向かい合う」
時制の一致に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
Critical Thinkingの前提である「様々な問題は理性で解決できる」という考え方には限界があることを理解し、Critical Thinking そのものの限界と問題点に関する考察を演習を通して深め、自身のCritical Thinking の力の向上を目指す。
- 第14回： 英会話表現(仮定法)と学生によるプレゼンテーション及びディスカッション
仮定法に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
第1回から第13回までの授業で学習してきた内容をもとに、学生が各自選んだトピックについて発表し、その後、そのプレゼンをもとに発展的にディスカッションを行う。
- 第15回： 英会話表現(関係詞)と学生によるプレゼンテーション及びディスカッション
関係詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
第1回から第13回までの授業で学習してきた内容をもとに、学生が各自選んだトピックについて発表し、その後、そのプレゼンをもとに発展的にディスカッションを行う。
- 定期試験
- 第16回： 知識を提供するプレゼンテーション① My Favorite Country 「自分の好きな国・行ってみたい国」
話題の中心となる物ごとを、物理的な広がりの中で分割して説明を行う「場所型」プレゼンテーションを行う。身近なトピックである「自分の好きな国」に関する語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、その国・場所の具体的な説明や魅力に関する情報を集めて、プレゼンテーションをイメージしながら、パラグラフライティングを行うことにより、原稿作成とプレゼンテーションの準備を進める。
- 第17回： 知識を提供するプレゼンテーション① My Favorite Country
前回の授業で作成した原稿をもとに「自分の好きな国・行ってみたい国」についてのプレゼンテーションを行う。
- 第18回： 知識を提供するプレゼンテーション② Japan's Education System 「日本の教育制度」
ある話題を、分類基準を明確にして分類し、それぞれのカテゴリについて説明する「分類型」プレゼンテーションを行う。日本の教育制度に関する語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、海外の教育制度との比較に発展させたプレゼンテーションをイメージしながら、パラグラフライティングを行うことにより原稿作成とプレゼンテーションの準備を進める。

- 第19回： 知識を提供するプレゼンテーション② Japan's Education System
前回の授業で作成した原稿をもとに「日本の教育制度」と海外の教育制度の比較についてのプレゼンテーションを行う。
- 第20回： 知識を提供するプレゼンテーション③ Social Networking Service 「ソーシャルネットワーキングサービスの功罪」
ある話題に関して、それらの「良い点と悪い点」「利益と不利益」「長所と短所」などを両者についての客観的な説明を行い、聞き手自身が両面からの価値判断を行うことが出来ることを目的とする「長所・短所型」プレゼンテーションを行う。ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の功罪について考察する際に必要となる語彙や表現を学習し、SNSの長所と短所を客観的な立場から具体的に説明できるようにパラグラフライティングをし、プレゼンテーションの準備をする。
- 第21回： 知識を提供するプレゼンテーション③ Social Networking Service
前回の授業で作成した原稿をもとに、「ソーシャルネットワーキングサービスの功罪」についてのプレゼンテーションを行う。その後、各自のプレゼンテーションをもとに、SNSの長所と短所に関してディスカッションを行う。
- 第22回： 説得的プレゼンテーション① The Case for Organ Donation 「臓器提供について考える」
臓器提供に関する語彙や表現を学習したのち、「事実型」プレゼンテーションで前提となる臓器移植に対して事実(Yes)か否(No)かの判断を行い、YesあるいはNoである理由について聞き手にわかりやすく説明し、理由付けの根拠となる具体的なデータや事柄を示すことが出来るように情報を集め、原稿にまとめる。
- 第23回： 説得的プレゼンテーション① The Case of Organ Donation
前回の授業で作成した原稿をもとに「臓器提供について」のプレゼンテーションを行う。その後各自のプレゼンテーションをもとに、臓器移植が必要かどうかについてのディスカッションを行う。
- 第24回： 説得的プレゼンテーション② Global Warming: What Is to be Done? 「地球温暖化—私たちにできること」
意見をわかりやすく表明するプレゼンテーションの練習を、地球温暖化の語彙や表現を学びつつ行う。自分の意見や具体的な改善案などを提示し、聞き手を説得することが出来るように、わかりやすい説明や表現を心掛けた原稿を作成する。
- 第25回： 説得的プレゼンテーション② Global Warming: What Is to be Done?
前回の授業で作成した原稿をもとに、地球温暖化に対する意見や改善点を提案し、その有効性について具体的に説明するプレゼンテーションと、ディスカッションを行う。
- 第26回： 説得的プレゼンテーション③ Overpopulation: Causes and Consequences 「人口過多—その原因と結果」
問題・原因・結果(Problem-Cause-Effect)を示して話題をまとめる方法を人口過多の話題を例に学ぶ。問題・原因・結果を考察する際に必要な語彙や表現を学習する。これらの表現を使用して人口過多の問題、その原因を説明し、それによって引き起こされる結果との因果関係に言及する原稿を作成する。
- 第27回： 説得的プレゼンテーション③ Overpopulation: Causes and Consequences
前回の授業で作成した原稿をもとに、聞き手が、問題の所在とその原因・結果の関係を理解することが出来るようにプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。
- 第28回： Informative Presentations 演習
プレゼンテーション学習の総仕上げとして、「知識を提供するプレゼンテーション」について、トピックの選定から原稿作成およびプレゼンテーションまで学生が行う。受講生は、各自の興味や関心、問題意識を基に話題を選び、どのような情報提供を行うことができるかを考えてプレゼンテーションの準備を行う。
- 第29回： Informative Presentation 演習およびPersuasive Presentation 演習
前回の授業で作成した原稿をもとに、聞き手に対して有益な情報や知識を与えるためのプレゼンテーションを行う。聞き手は、プレゼンテーションを導入部・展開部・結論部・話し方・暗記・全体の項目で評価する。

プレゼンテーション学習の総仕上げとして、「説得的プレゼンテーション」について、トピックの選定から原稿作成を自分たちで行い、ある争点や問題に対して、聞き手を説得することのできる具体的な解決策や改善策を提案することを目的としたプレゼンテーションの準備を進める。
- 第30回： 前回の授業で準備した原稿をもとに、聞き手に話し手の提案を受け入れさせられることを目的として

ある問題に対する自分の意見を表明し、その意見の有効性について、具体的な理由を述べてわかりやすく説明するプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。

定期試験

テキスト

English First Hand Level 2(Fifth Edition). Pearson. ISBN9789813130234.

授業の進度や学生の習熟度に合わせて変更することがある。

Top Notch 2, Top Notch 3 (Third Edition). Pearson. など

英語のコミュニケーション力、批判的思考力を高めるための時事問題を使う演習問題では、学生の興味や学習進度及び経済社会の動きに合わせて、より学習に効果的で必要な話題に変更することがある。

参考書・参考資料等

適宜、授業中に指示をする。

Fundamentals of English Grammar Volume A(Fourth Edition). Pearson.

ISBN9780134661124

Fundamentals of English Grammar Volume B(Fourth Edition). Pearson.

ISBN9780134661100

プレースメントテストの結果、又は中間評価もしくは直近のTOEIC等の英語能力試験の結果に応じて、補助教材による自宅学習を指示することがある。

Top Notch 1, Top Notch 2 (Third Edition). Pearson. など

学生に対する評価

定期試験50% 中間評価20%及び授業への貢献度30%を総合して評価する。

中間評価には、到達度確認課題として外部語学能力試験の結果を組み込む。

受講生には、講義の最終日までに、外部の英語語学能力試験結果を提出し、「英語Ⅰ」で提出したレベルから向上していることを求める。

※補足 旧シラバスを改行などして見やすく整えた

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

旧			
授業科目名： 英語Ⅱ	必修	授業回数： 30回	担当教員名：
授業科目区分： 基礎	配当： 2年通期	単位数： 4単位	講義形態： 演習
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>実用的な英語の運用能力を高める。ビジネスや留学で関係する様々な分野の話題を取り上げ、急速なグローバル化が進む社会への理解を深めながら、自分の考えや意見を発信し、積極的に行動するために必要となる英語力を獲得することを目指す。英会話ロールプレイを多用して多様な人の考えを聞き取りつつ、自らの考えなどを的確に伝えられるようになる高度なリスニング力と英語会話を涵養することを目指す。授業ではプレゼンテーションやディスカッションの理解のための応用英語表現に習熟させたいので、グループワークや課題発表を課す。</p> <p>学生は課題に対してスライドを使用した短いプレゼンテーションを義務付け、その後教員や学生との質疑応答演習を行い、学習トピックの達成度を判断するルーブリックによる学生相互評価、教員評価を行う。テキストの事前事後学修教材を通じて英語リスニング力を強化し、授業ではアクティビティーを中心に行う（反転授業形式）。最終的に学生はグループで共同して10分程度のプレゼンテーションを行う。定期試験を実施する。(追加)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、「英語Ⅰ」を履修した受講生に対し、英語運用能力の上達を図る授業を行う。目標は、CEFR等英語諸検定の高得点獲得であり、自由かつ柔軟、即時対応の表現能力開発に重点を置く。アクティブ・ラーニングと個別面接指導をもとに、履修者の学習状況、進捗状態、問題点の所在等を綿密に把握し、改善の方途を指導する。定期的にプレゼンテーションの課題を実施し、相互の意思疎通を重視した総合的な英語運用能力開発を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（科目概要、年間スケジュール、履修上の留意点、評価方法など） 英会話表現(5つの基本文型)とクリティカル・シンキングの導入説明 <u>英文法を取り入れた英会話表現学習の第1回目として5つの基本文型を学習する英語表現を学ぶ。</u> クリティカル・シンキングの力を高めるため、実際にWhat is Critical Thinking? 「クリティカル・シンキングとは何か」について演習を通して理解する。</p> <p>第2回：英会話表現(動詞)とWrite Your Problems on a Note Pad「問題点をメモに書いてみよう」 動詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 クリティカル・シンキングの基本となる、問題を見つけてその構造を知り、問題解決に結びつける過程で効果的な「問題点をメモに書いてみる」方法について演習を通して学ぶ。</p> <p>第3回：英会話表現(進行形・未来形・助動詞)とMedia Literacy「メディア・リテラシー」 進行形・未来形・助動詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 世界で発信される情報の多くは英語が使用されている状況において、英語、有名紙、大手メディアということなどに惑わされず批判的思考をもとに先入観なしに理解する重要性を演習を通して考察する。</p> <p>第4回：英会話表現(名詞・冠詞・代名詞)とThe Spirit of Wa「和の精神」 名詞・冠詞・代名詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 日本で尊ばれる「和の精神」に関して、ビジネスなど実務的な場面での日本的な意思決定方法のメリット・デメリットについて演習を通して考えてみる。</p> <p>第5回：英会話表現(前置詞・接続詞)とXenophobia「外国人嫌い」 前置詞・接続詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 特定の民族に対してステレオタイプ・イメージを抱くことや異文化摩擦の問題点を理解し、根拠のないXenophobiaを克服する必要性について演習を通して考察する。</p> <p>第6回：英会話表現(形容詞・副詞と比較)とTelephone Message Game「伝言ゲーム」 形容詞・副詞・比較級に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 <u>実社会で行われる「伝言ゲーム」の問題点を考え、複眼的な思考をすることの重要性に関する理解を演習を通して深める。</u></p> <p>第7回：英会話表現(命令文・感嘆文)とAnalyze Your Pattern of Thinking「自分の思考パターンを分析する」 命令文・感嘆文に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 自分自身の思考パターンを認識して行動することの大切さを理解し、溢れる情報の中で何を自身の指針として行動するべきかについて、演習を通して考えてみる。</p> <p>第8回：英会話表現(不定詞)とThe Difference between Fact and Opinion「事実と意見の違い」 不定詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 人の話を聞いたときに必要となる、事実と意見をはっきりと区別する能力に関する理解を深め、その能力を実生活の中で生かす大切さを演習を通して考えてみる。</p> <p>第9回：英会話表現(動名詞と分詞)とThe Pitfalls of the English Language「英語の落とし穴」 動名詞と分詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 英語を勉強することは世界を知ることにつながると言われるが、その反面、英語を勉強する際に注意すべき問題点について考え、英語にどう向き合うべきかについて、演習を通して考察する。</p> <p>第10回：英会話表現(各種疑問文・Itの特別用法)とGender Bias「ジェンダーの偏見」</p>			

各種疑問文とItの特別用法に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
ジェンダーに関する思い込みに関して考察し、ジェンダーの偏見をなくし、あらゆる点での多様性を理解し尊重することの重要性について演習を通して考察する。

第11回：英会話表現(受動態)とSkepticism「懐疑主義」
受動態に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
先入観を持たずに批判的な思考をすることは大切であるが、度が過ぎれば懐疑主義に陥る危険性について考察し、有効な範囲で懐疑を抱くことの意義について演習を通して考える。

第12回：英会話表現(完了形)とHow to Make a Persuasive Presentation「説得力のあるプレゼン」は完了形に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
Critical Thinkingの力をつけるためには、積極的に発表して、ディスカッションに参加し、意見表明をすることが必要となる。説得力のあるプレゼンとは、という問題について演習を通して考察し、自身のプレゼンテーション能力の向上につなげることを目指す。

第13回：英会話表現(時制の一致)とFacing Ambiguity「曖昧さと向かい合う」
時制の一致に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
Critical Thinkingの前提である「様々な問題は理性で解決できる」という考え方には限界があることを理解し、Critical Thinking そのものの限界と問題点に関する考察を演習を通して深め、自身のCritical Thinking の力の向上を目指す。

第14回：英会話表現(仮定法)と学生によるプレゼンテーション及びディスカッション
仮定法に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
第1回から第13回までの授業で学習してきた内容をもとに、学生が各自選んだトピックについてのプレゼンを行い、その後、そのプレゼンをもとに発展的にディスカッションを行う。

第15回：英会話表現(関係詞)と学生によるプレゼンテーション及びディスカッション
関係詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。
第1回から第13回までの授業で学習してきた内容をもとに、学生が各自選んだトピックについてのプレゼンを行い、その後、そのプレゼンをもとに発展的にディスカッションを行う。

定期試験

第16回：知識を提供するプレゼンテーション—① My Favorite Country「自分の好きな国・行ってみたい国」
話題の中心となる物ごとを、物理的な広がりの中で分割して説明を行う「場所型」プレゼンテーションを行う。身近なトピックである「自分の好きな国」に関する語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、その国・場所の具体的な説明や魅力に関する情報を集めて、プレゼンテーションをイメージしながら、パラグラフライティングを行うことにより、原稿作成とプレゼンテーションの準備を進める。

第17回：知識を提供するプレゼンテーション—① My Favorite Country
前回の授業で作成した原稿をもとに「自分の好きな国・行ってみたい国」についてのプレゼンテーションを行う。

第18回：知識を提供するプレゼンテーション—② Japan's Education System「日本の教育制度」
ある話題を、分類基準を明確にして分類し、それぞれのカテゴリーについて説明する「分類型」プレゼンテーションを行う。日本の教育制度に関する語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、海外の教育制度との比較に発展させたプレゼンテーションをイメージしながら、パラグラフライティングを行うことにより原稿作成とプレゼンテーションの準備を進める。

第19回：知識を提供するプレゼンテーション—② Japan's Education System
前回の授業で作成した原稿をもとに「日本の教育制度」と海外の教育制度の比較についてのプレゼンテーションを行う。

第20回：知識を提供するプレゼンテーション—③ Social Networking Service「ソーシャルネットワーキングサービスの功罪」
ある話題に関して、それらの「良い点と悪い点」「利益と不利益」「長所と短所」などを両者についての客観的な説明を行い、聞き手自身が両面からの価値判断を行うことが出来ることを目的とする「長所・短所型」プレゼンテーションを行う。ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の功罪について考察する際に必要となる語彙や表現を学習し、SNSの長所と短所を客観的な立場から具体的に説明できるようにパラグラフライティングをし、プレゼンテーションの準備をする。

第21回：知識を提供するプレゼンテーション—③ Social Networking Service
前回の授業で作成した原稿をもとに、「ソーシャルネットワーキングサービスの功罪」についてのプレゼンテーションを行う。その後、各自のプレゼンテーションをもとに、SNSの長所と短所に関してディスカッションを行う。

第22回：説得的プレゼンテーション—① The Case for Organ Donation「臓器提供について考える」
臓器提供に関する語彙や表現を学習したのち、「事実型」プレゼンテーションで前提となる臓器移植に対して事実(Yes)か否(No)かの判断を行い、YesあるいはNoである理由について聞き手にわかりやすく説明し、理由付けの根拠となる具体的なデータや事柄を示すことが出来るように情報を集め、原稿にまとめる。

第23回：説得的プレゼンテーション—① The Case of Organ Donation
前回の授業で作成した原稿をもとに「臓器提供について」のプレゼンテーションを行う。その後、各自のプレゼンテーションをもとに、臓器移植が必要かどうかについてのディスカッションを行う。

第24回：説得的プレゼンテーション—② Global Warming: What Is to be Done?「地球温暖化—私たちにできること」
地球温暖化に関する語彙や表現を学習し、「意見型」プレゼンテーションとして、この問題に対する具体的な解決策や改善策を提示して、主題に対する自分の意見を表明し、聞き手を説得することが出来るように解

决策や改善策の有効性についてわかりやすく説明できるように原稿を作成する。
 第25回：説得的プレゼンテーション—② Global Warming: What Is to be Done?
 前回の授業で作成した原稿をもとに、地球温暖化に対する具体的な解決策や改善策を提案しその有効性について具体的に説明する内容のプレゼンテーションを行い。ディスカッションへと発展させる。
 第26回：説得的プレゼンテーション—③ Overpopulation: Causes and Consequences 「人口過多—その原因と結果」
 人口過多について考察する際に必要となる語彙や表現を学習し、問題・原因・結果法(Problem-Cause-Effect Method)にそって、人口過多の問題点について、その原因を説明し、その問題によって引き起こされる結果との因果関係に言及する原稿を作成する。
 第27回：(追加) 前回の授業で作成した原稿をもとに、聞き手が、問題の所在とその原因・結果の関係を理解することが出来るようにわかりやすく説明するプレゼンテーションを行い、ディスカッションへと発展させる。
 第28回：Informative Presentations 演習
 プレゼンテーション学習の総仕上げとして、「知識を提供するプレゼンテーション」について、トピックの選定から原稿作成を自分たちで行い、情報伝達および自分の考えの説明を人前で行うプレゼンテーションの実践に挑戦する。自分が日ごろから興味・関心、問題意識などを持っているトピック選び、どのような情報提供を行うことができるかを考えてプレゼンテーションの準備を行う。
 第29回：Informative Presentation 演習およびPersuasive Presentation 演習
 前回の授業で作成した原稿をもとに、聞き手に対して有益な情報や知識を与えるためのプレゼンテーションを行う。聞き手は、プレゼンテーションを導入部・展開部・結論部・話し方・暗記・全体の項目で評価する。
 プレゼンテーション学習の総仕上げとして、「説得的プレゼンテーション」について、トピックの選定から原稿作成を自分たちで行い、ある争点や問題に対して、聞き手を説得することのできる具体的な解決策や改善策を提案することを目的としたプレゼンテーションの実践に挑戦するための準備を進める。
 第30回：前回の授業で準備した原稿をもとに、聞き手に話し手の提案を受け入れさせることを目的として、ある問題に対する自分の意見を表明し、その意見の有効性について、具体的な理由を述べてわかりやすく説明するプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後、ディスカッションを行う。
 定期試験

テキスト
 English First Hand Level 2(Fifth Edition). Pearson. ISBN9789813130234.
 授業の進度や学生の習熟度に合わせて変更することがある。
 Top Notch 2, Top Notch 3 (Third Edition). Pearson. など
(追加)

参考書・参考資料等
 適宜、授業中に指示をする。
 Fundamentals of English Grammar Volume A(Fourth Edition). Pearson.
 ISBN9780134661124
 Fundamentals of English Grammar Volume B(Fourth Edition). Pearson.
 ISBN9780134661100
 プレイスメントテストの結果、又は中間評価もしくは直近のTOEIC等の英語能力試験の結果に応じて、補助教材による自宅学習を指示することがある。
 Top Notch 1, Top Notch 2 (Third Edition). Pearson. など

学生に対する評価
 定期試験50% 中間評価 (追加) 及び授業への貢献度30%を総合して評価する。
(追加)

(追加)

- (改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科
 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科
 国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
 国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科
 【全学共通】

2. 【第一次審査意見4の回答について】

<科目の内容が不十分>

「生活科学入門」について、家政学の領域全般の概説を学んだ後に各論を学ぶように、授業科目の内容を改めること。また、被服材料学に関する内容を更に充実すること。

- (対応) ・授業内容の順番を適切に改めた。
 ・被服材料学に関する内容を充実させた。

「生活科学入門」のシラバスを、家政学の領域全般の概説を学んだ後に各論を学ぶように改めた。概説の後、被服生理学、被服環境学、被服材料学などの各論の内容を学び、被服材料学に関する内容をさらに充実させている。

補正申請（8月）に提出したシラバスでは、家政学の領域全般にあたる衣食住の内容が授業の後半に配置していた（例えば、第12回持続可能な食生活、第13回持続可能な住生活、第14回持続可能な衣生活）。今般その順番を見直し、前半部にこうした概説内容にあたる授業を配置し直した（第2回持続可能な食生活、第3回持続可能な住生活、第4回持続可能な衣生活）。

そのうえで、被服学の各論内容のうち特に被服材料学にあたる被服素材などの内容を充実させ、被服の基礎となる生活科学、家政学の全体像に関連させながら、生活科学の包括性や拡大を考慮しつつ、隣接領域および関連領域についても目配せをしたファッション被服の基礎的な知識を学修するように改めた。

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

新			
授業科目名： 生活科学入門	必修	授業回数： 15回	担当教員名：
授業科目区分： 職業専門	配当： 1年前期	単位数： 2単位	講義形態： 講義
授業の到達目標及びテーマ			
本科目では、家政学が培ってきたこれまでの研究成果を踏まえ、被服の素材や管理、健康や環境に関する知識を現代社会の環境と照合しながら、課題を見出し、汎用できるようにすることを目標としている。国際化社会における日本の衣食住について持続可能な消費視点も加え、被服の素材、管理、健康や環境の科学的な基礎知識を学び、考察し、自らが主体的に解決できる提案力、実践力を身につける。			
授業の概要			
本科目では、被服学の基礎となる生活科学（家政学）の全体像に関連させながら、被服の基礎的な知識を学修する。具体的には、被服生理学にあたる被服の機能、被服材料学にあたる被服素材、被服環境学にあたる、人と衣服との関わり、被服の選択と管理、持続可能な衣食住を中心とする生活環境や社会環境などについて理解を深める。従って生活科学の包括性や拡大を考慮しながら、隣接領域および関連領域についても学修する。			

授業計画	
第1回	オリエンテーション「生活科学（家政学）とは何か」 概説① 衣食住の全体にかかわる家政学の歴史と成果、及び現代的な変容について学ぶ。
第2回	概説② 持続可能な食生活 現代社会の特質（IT、AI、少子高齢化、人口減少など）を学び、食生活における課題を概観する。
第3回	概説③ 持続可能な住生活 持続可能な社会における住環境について学び、現代における課題や解決策を検討する。
第4回	概説④ 持続可能な衣生活（持続可能な開発目標（SDG s）と被服） SDG s（持続可能な開発目標）を理解し、SDG sの17の目標に至った背景と課題について学習する。特に、被服の生産や消費の両視点からの課題を学ぶ。
第5回	各論① 人はなぜ装うのか：生活環境、健康、気候調節と装い（自分たちと被服との関わりについて、歴史的経緯から考察する。被服における課題を概観する。）
第6回	各論② 装いと健康、装いによる気候調節、被服の機能 衣服の機能と人間の環境との関係について理解し、健康で快適な衣環境について学ぶ。特に衣服の保温力、吸湿性と衣服内気候について学ぶ
第7回	各論③ 衣服の運動機能性 身体の変形と布地の伸長特性や求められる運動機能性について、スポーツウェアを中心に考察する。
第8回	各論④ 衣服の素材と加工（被服材料学）繊維から糸、アパレルに至る過程 天然繊維と化学繊維の違いを知り、糸、アパレル（衣服）にどのように使用されてきたのかについての基礎事項を学ぶ。
第9回	各論⑤ 天然繊維の構造と特性 植物繊維（綿、麻）、動物繊維（羊毛、絹）のもつ構造や特性、用途について学ぶ。
第10回	各論⑥ 化学繊維の製造方法及び構造と特性 再生繊維（レーヨン）、半合成繊維（アセテート）、合成繊維（ナイロン、ポリエステル、アクリル）の製造方法、構造、特性や用途について学ぶ。
第11回	各論⑦ 糸の分類と太さと撚り 紡績糸、長繊維糸などを中心とした糸の分類方法と太さ表示、撚り加工について学ぶ
第12回	各論⑧ 織物の構造 織物の三原組織、織物の構造を学ぶ、織物と編物の構造と特徴、組織図について学ぶ。
第13回	各論⑨ 布の種類と特質、管理 綿織物（ローン、モスリン、ガーゼなど）、ウール織物、長繊維織物の種類と特質について学ぶ。さらに布を厚さ、糸密度などと耐久性（引き裂き強さなど）、形態的特質（弾性回復特性など）、快適性、しわやピリングなどの外観的特性について学ぶ。 服に付着する「汚れ」についての種類と特質について理解する。さらに洗濯と漂白（洗剤やクリーニング、漂白剤など）と汚れを落とすメカニズムについて学ぶ。また保管方法についても学ぶ。
第14回	各論⑩ 染色、仕上げ加工 染色加工の種類と生地への加工（形態・寸法安定加工、風合い・性能改良加工など）について学ぶ。本来の生地に対する加工を施すことにより、どのような素材に変化するか、その用途について学ぶ。
第15回	発表及びまとめ 被服環境における課題と解決方法について、グループごとに発表し、持続可能な社会における課題を学ぶ。
テキスト	
毎回の授業の冒頭で配布	
考書・参考資料等	
島崎恒蔵著 衣料材料の科学（第3版）建帛社	
谷田貝麻美子 間瀬清美編著：「衣生活の科学—健康的な衣の環境をめざして—」 アイケイコーポレーション	
鈴木美和子他著 アパレル素材の基本 織研新聞社	
高原昌彦著 Q&A現場で生きるアパレル素材の基礎知識 織研新聞社	
蟹江憲史著 未来を変える目標 SDG s アイデアブック 紀伊国屋書店	
学生に対する評価	
毎回の課題60% レポート40%	

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

旧			
授業科目名： 生活科学入門	必修	授業回数： 15回	担当教員名：
授業科目区分： 職業専門	配当： 1年前期	単位数： 2単位	講義形態： 講義
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人口減少社会の日本の生活において、IT、AIなどの進化とともに、生活の未来を標榜する知識と方策が必要である。そのため、国際化社会における日本の衣食住について持続可能な消費視点も加え、現状を理解、考察し、自らが主体的に解決できる提案力、実践力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、被服学の基礎となる生活科学（家政学）の全体像に関連させながら、被服の基礎的な知識を学修する。具体的には、被服生理学にあたる被服の機能、被服材料学にあたる被服素材、被服環境学にあたる、人と衣服との関わり、被服の選択と管理、持続可能な衣食住を中心とする生活環境や社会環境などについて理解を深める。従って生活科学の包括性や拡大を考慮しながら、隣接領域および関連領域についても学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 生活科学とは何か</p> <p>第2回 人口減少時代の現状と課題</p> <p>第3回 人はなぜ装うのか</p> <p>第6回 装いと健康</p> <p>第7回 装いによる気候調節</p> <p>第8回 動きやすさと被服</p> <p>第9回 衣服の素材と加工</p> <p>第10回 衣服の品質と管理</p> <p>第11回 装いのコミュニケーション</p> <p>第12回 持続可能な食生活</p> <p>第13回 持続可能な住生活</p> <p>第14回 持続可能な衣生活</p> <p>第15回 生活環境と装い ―IT、AI化社会の中で―</p>			
<p>テキスト</p> <p>毎回の授業の冒頭で配布</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>岡田宣子編著：ビジュアル衣生活論 建帛社</p> <p>谷田貝麻美子 間瀬清美編著：「衣生活の科学―健康的な衣の環境をめざして―」 アイケイコーポレーション</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の課題60% レポート40%</p>			

- (改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科
 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科
 国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
 国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科
 【全学共通】

3. 【第一次審査意見5の回答について】

＜教育課程連携協議会の構成員区分が不適切＞

依然として、教育課程連携協議会の構成員のうち、「当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者」又は「地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者」に該当しない者が当該区分に含まれているため、構成区分を改めること。

(対応) 「地域」と「職業」に該当する構成員の構成区分を適切に改めた。

(1) 「地域」区分について

「地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者」に該当しない者を含まないよう、構成区分を適切に改めた。「地域、協力」として区分していた13番、14番、19番、21番、22番、23番の構成員については、「地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者」に該当しないため「協力」に改めた。

(2) 「職業」区分について

「当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者」に該当しない者を含まないように改め、該当する者を追加した。

「職業、協力」と区分していた18番の構成員を「協力」に区分を改めた。「職業」区分の定義のうち、「広範囲の地域で活動するものの関係者」の部分に該当しないためである。また、「その他」と区分していた24番の構成員を「職業」に区分を改めた。「職業」区分の定義のうち、「広範囲の地域で活動するものの関係者」に該当するためである。J ∞ QUALITY

(ジェイクオリティ)とは、一般社団法人日本ファッション産業協議会が主導する新しい認証制度のことである。広く日本全国で繊維ファッション産業の技術や知財をもとに作られた日本製アパレルを国内外に打ち出し付加価値を高める認証事業推進活動をしており当該区分に該当する。

・変更点

- 13番：「地域、協力」を改め「協力」へ
- 14番：「地域、協力」を改め「協力」へ
- 18番：「職業、協力」を改め「協力」へ
- 19番：「地域、協力」を改め「協力」へ
- 21番：「地域、協力」を改め「協力」へ
- 22番：「地域、協力」を改め「協力」へ
- 23番：「地域、協力」を改め「協力」へ
- 24番：「その他」を改め「職業」へ

(新旧対照表) 教育課程連携協議会構成員名簿 (2-5 ページ)

新				旧			
番号	構成員区分	氏名	現所属及び役職名	番号	構成員区分	氏名	現所属及び役職名
13	協力	中島健一	日本ニット工業組合連合会 代表理事	13	地域協力	中島健一	日本ニット工業組合連合会 代表理事
14	協力	山田克博	公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター 事務局長	14	地域協力	山田克博	公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター 事務局長
18	協力	富田 篤	株式会社富田染工芸 代表取締役	18	職業協力	富田 篤	株式会社富田染工芸 代表取締役
19	協力	久野剛資	有限会社絞染色 久野染工場 代表取締役	19	地域協力	久野剛資	有限会社絞染色 久野染工場 代表取締役
21	協力	澤村徹弥	栄レース株式会社 代表取締役社長	21	地域協力	澤村徹弥	栄レース株式会社 代表取締役社長
22	協力	西川清方	島精株式会社 島精機製作所 取締役営業統括部長	22	地域協力	西川清方	島精株式会社 島精機製作所 取締役営業統括部長
23	協力	奥田幸七郎	株式会社夢工房 夢祐斎 主宰	23	地域協力	奥田幸七郎	株式会社夢工房 夢祐斎 主宰
24	職業	宮原 孝仁	一般社団法人日本ファッション産業協議会 J∞QUALITY 商品認証事業・運営事務局 事務局長代理	24	その他	宮原 孝仁	一般社団法人日本ファッション産業協議会 J∞QUALITY 商品認証事業・運営事務局 事務局長代理

(新旧対照表) 設置の主旨等を記した書類 (74 ページ)

新	旧
<p>7. 教育課程連携協議会について</p> <p>7.1 教育課程連携協議会の構成 (略)</p> <p>2. 本学の課程にかかる職業についている者、または当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有する者として、<u>一般社団法人日本ファッション産学協議会 J∞QUALITY商品認証事業・運営事務局の事務局長代理1名</u>を任命する。</p> <p>3. 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者として、東京都新宿区文化観光産業部産業振興課長、愛知県産業労働部労政局産業人材育成課課長、公益財団法人大阪市都市型産業振興センター理事の3名を任命 <u>(削除)</u> する。</p> <p>(略)</p> <p>5. 本学の教員その他の職員以外のものであって学長が必要と認める者として、<u>川上先端繊維企業の本学担当責任者1名</u>を任命する。</p> <p>(略)</p>	<p>7. 教育課程連携協議会について</p> <p>7.1 教育課程連携協議会の構成 (略)</p> <p>2. 本学の課程にかかる職業についている者、または当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有する者として、<u>臨地実習Ⅰ(企業)の連携企業、川上先端繊維企業、海外実習の協力者5名</u>を任命する。</p> <p>3. 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者として、東京都新宿区文化観光産業部産業振興課長、愛知県産業労働部労政局産業人材育成課課長、公益財団法人大阪市都市型産業振興センター理事の3名を任命。<u>並びに臨地実習Ⅱ(地方産地)の協力企業全9社の代表者9名</u>を任命する。</p> <p>(略)</p> <p>5. 本学の教員その他の職員以外のものであって学長が必要と認める者として、<u>一般社団法人日本ファッション産学協議会 J∞QUALITY商品認証事業・運営事務局の事務局長代理1名</u>川上先端繊維企業の本学担当責任者1名を任命する。</p> <p>(略)</p>

- (是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科
 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科
 国際ファッション学部 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
 国際ファッション学部 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科
 【全学共通】

4. 【第一次審査意見12の回答について】

<施設設備の整備状況が不明確>

学生のための施設設備の整備状況について、卒業制作以外の授業時間外での使用見込みが示されておらず、全ての学年の学生が使用する十分なスペースが確保されているのか依然として不明確であるため、学生が制作に使用するスペースの運用方法を全ての学年ごとに示し、十分なスペースが確保されているか改めて説明すること。

- (対応) (1) 学生の使用見込みを、全学年で学科ごとに示した。
 (2) 学生が制作等に使用するための教室を、新たに確保した。
 (3) スペースの運用方法を、全学年ごとに示す。

(1) 学生の使用見込み

審査意見を踏まえて、まず、全ての学年の学生が卒業制作以外の授業時間外での制作などの使用見込みを見直し、各学科と各学年で必要な時間を同定した。学科別に説明する。

◎東京キャンパス

- ・ファッションクリエイション学科

ファッションクリエイション学科は、定員80名、全学年約320名の学生で構成する。

まず、各学年で制作などに関わる授業科目の想定を行い、その授業科目に応じた予習復習に掛かる必要時間を、90分1コマで(※1.5時間として)換算し必要なコマ数を算出した。算出された使用時間をもとに、各学年のカリキュラムを勘案し、学生に十分なコマ数を割当てた。1年生12コマ、2年生22コマ、3年生11コマ、4年生15コマ(表1)と定めた。

例えば、1年生は「ファッションデザイン実習Ⅰ」(必修・通年・4単位)と「ファッションデザインプランニング実習Ⅰ」(必修・通年・4単位)の2科目を想定する。各科目の授業に対して毎週約8時間ずつの授業時間外の学習が必要である。ファッションクリエイション学科1年生は、約16時間の授業時間外学習すなわち90分1コマ(※1.5時間として換算)で前期後期の毎週10.6コマの時間外の学習を必要とする。これに数コマを上乗せして12コマの割当てとした。

表1 学生用制作スペース使用見込み ファッションクリエイション学科

学年	想定する科目		必要な使用時間		割当 時間数
			時間数	コマ数※	
1年生	ファッションデザイン実習Ⅰ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	12コマ
	ファッションデザインプランニング実習Ⅰ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	
2年生	ファッションデザイン実習Ⅱ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	22コマ
	ファッションデザインプランニング実習Ⅱ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	
	シューズデザイン	選択・後期・2単位	毎週4時間	2.6コマ	
3年生	バッグデザイン	選択・後期・2単位	毎週4時間	2.6コマ	11コマ
4年生	卒業制作・計画	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	15コマ
全学年(合計)			毎週48時間	31.7コマ	45コマ

◎東京キャンパス

・ファッションビジネス学科

ファッションビジネス学科は定員40名、全学年約160名の学生で構成する。

上記ファッションクリエイション学科と同様に、まず、各学年で制作などに関わる授業科目の想定を行い、その授業科目に応じた予習復習に掛かる必要時間を、90分1コマで換算し、必要なコマ数を算出した。そして、算出された使用時間をもとに学生に割当てるコマ数を、1年生12コマ、2年生12コマ、3年生2コマ、4年生15コマ（表2）と定めた。

例えば、1年生は、「ファッションビジネス実習Ⅰ」（必修・通年・4単位）と「リテール企画Ⅰ」（必修・通年・4単位）の2科目を想定する。各科目の授業に対して、毎週約8時間ずつの授業時間外の学習が必要である。したがって、ファッションビジネス学科1年生は約16時間の授業時間外学習を必要とし、90分1コマで、前期後期の毎週11コマの時間外の学習を必要とする。

表2 学生用制作スペース使用見込み ファッションビジネス学科

学年	想定する科目		必要な使用時間		割当 時間数
			時間数	コマ数※	
1年生	ファッションビジネス実習Ⅰ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	12コマ
	リテール企画実習Ⅰ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	
2年生	ファッションビジネス実習Ⅱ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	12コマ
	リテール企画実習Ⅱ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	
3年生	該当なし	該当なし	毎週0時間	0コマ	2コマ
4年生	卒業制作・計画	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	15コマ
全学年（合計）			毎週40時間	26.5コマ	41コマ

◎大阪キャンパス

・大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は定員40名、全学年約160名の学生で構成する。上記の学科と同様に、まず、各学年で制作などに関わる授業科目の想定を行い、その授業科目に応じた予習復習に掛かる必要時間を、90分1コマで（※1.5時間として）換算し、必要なコマ数を算出した。そして、算出された使用時間及び、続く「(2)新たな教室の確保」で説明する教室の準備状況をもとに、学生に割当てるコマ数を、全学年で21コマ（表3）と定めた。

表3 学生用制作スペース使用見込み 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

学年	想定する科目		必要な使用時間		割当 時間数
			時間数	コマ数※	
1年生	ファッションデザイン実習Ⅰ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	21コマ
	ファッションビジネス実習Ⅰ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	
2年生	ファッションデザイン実習Ⅰ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	21コマ
	ファッションビジネス実習Ⅰ	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	
3年生	該当なし	該当なし	毎週0時間	0コマ	21コマ
4年生	卒業制作・計画	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	21コマ
全学年（合計）			毎週40時間	26.5コマ	84コマ

◎名古屋キャンパス

・名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は定員40名、全学年約160名の学生で構成する。上記の学科と同様に、まず、各学年で制作などに関わる授業科目の想定を行い、その授業科目に応じた予習復習に掛かる必要時間を、90分1コマで（※1.5時間として）換算し、必要なコマ数を算出した。そして、算出された使用時間及び、続く「(2) 新たな教室の確保」で説明する教室の準備状況をもとに、学生に割当てるコマ数を、全学年で21コマ（表4）と定めた。

表4 学生用制作スペース使用見込み 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

学年	想定する科目		必要な使用時間		割当 時間数
			時間数	コマ数※	
1年生	ファッションデザイン実習 I	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	21コマ
	ファッションビジネス実習 I	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	
2年生	ファッションデザイン実習 I	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	21コマ
	ファッションビジネス実習 I	必修・通年・4単位	毎週8時間	5.3コマ	
3年生	該当なし	該当なし	毎週0時間	0コマ	21コマ
4年生	卒業制作・計画	必修・通年・4単位	毎週20時間	5.3コマ	21コマ
全学年（合計）			毎週60時間	26.5コマ	84コマ

※本学は実習の90分1コマを1.5時間として換算する。

(2) 新たな教室の確保

(2-1) 教室確保の必要性

「(1) 学生の使用見込み」を踏まえて、これまで用意していた学生用の実習教室だけでは全ての学年の学生が卒業制作を含めた授業時間外での制作などに使用するには、必ずしも十分な時間とスペースがあるとは言えないとの認識に至ったため、新たに、全キャンパスにおいて必要な教室を確保した。その結果、全学的に使用見込みを上回る十分な授業時間外の時間数とスペースを確保することができた。

新たに学生専用の実習室として追加したのは、東京キャンパスで2室（401教室と402教室）、大阪キャンパスで1室（035教室）、名古屋キャンパスで1室（241教室）である。

3キャンパスともに、既存専門学校において学生が創作活動などに使用していた教室であり、本学の学生が当該目的で使用するに十分な設備を備えている。教室確保は、同法人の専門学校の運営を調整するなどして行い、各学校種において支障のないよう検討と確認を重ねた。

東京キャンパスのファッションクリエイション学科では、これまで準備していた2教室（415教室と473教室）で21コマ（ファッションビジネス学科との按分）の時間とスペースを用意していたものを、今回の追加で、63コマ（21コマに42コマを加えた）の時間とスペースを確保することになった。これにより当学科全学年に必要なコマ数31.7コマを十分に上回った。

東京キャンパスのファッションビジネス学科では、これまで準備していた2教室（415教室と473教室）で21コマ（ファッションクリエイション学科との按分）の時間とスペースを用意していたものを、今回の追加で、42コマ（21コマに21コマを加えた）の時間とスペースを確保することになった。加えて、ファッションビジネス学科には、通常授業で使用する講義室の6、7限目を割り当てる。これにより、42コマに12コマを加えた54コマの時間とスペースを確保することになった。当学科全学年に必要なコマ数26.5コマを十分に上回った。

大阪キャンパスの大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科では、これまで準備していた1室（B015教室）で42コマの時間とスペースを用意していたものを、今回の追加で、84コマ（42コマに42コマを加えた）の時間とスペースを確保することになった。これにより当学科全学年に必要なコマ数26.5コマを十分に上回った。

名古屋キャンパスの名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科では、これまで準備していた1室（242教室）で42コマの時間とスペースを用意していたものを、今回の追加で、84コマ（42コマに42コマを加えた）の時間とスペースを確保することになった。これにより当学科全学年に必要なコマ数26.5コマを十分に上回った。

以上の内容は、続く「(3) 運用方法」でより詳細な内容を説明する。

◎新規に追加した 学生用制作教室

- ・東京キャンパス：401教室（81.96㎡、44席）と402教室（80.79㎡、56席）
※ファッションビジネス学科のみ
講義室4室（441教室、442教室、443教室、444教室）の6、7限目
- ・大阪キャンパス：035教室（66.00㎡、48席）
- ・名古屋キャンパス：241教室（118㎡、63席）

◎これまで準備した 学生用制作教室

- ・東京キャンパス：415教室（76.06㎡、30席）と473教室（100.52㎡、50席）
- ・大阪キャンパス：B015教室（108㎡、60席）
- ・名古屋キャンパス：242教室（223㎡、52席）

(2-2) 学生用教室の概要

新たに追加した実習教室は、学生が制作に使用するスペースとして適したものである。

学科ごとに、学生が何を制作し、いかに教室を使用するのかという教室の使われ方を示し、その妥当性を示す。説明には、各教室の図面と、使用する備品及びその管理方法とともに、学生の実際の制作の様子（写真）などをもとに、「(1) 学生の使用見込み」で示した科目の内容に引き付けて説明する。

◎東京キャンパス

・ファッションクリエイション学科

当学科は、3つの教室を使用する。下記①から③の教室図面で示すように、3つの教室とも制作に適した実技教室である。実技教室は普通教室とは異なり、幅広の机を備え、机と机の間を広く配置した仕様である。「③教室図面 [473教室]」(p.29)で違いを図示する。

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

① 教室図面 [402 教室]

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

② 教室図面 [415 教室]

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

③ 教室図面 [473 教室]

★実技教室と普通教室の仕様の違い

普通教室と比べて、制作に適している。

- ・幅広の机に、4脚を配置
- ・机の配置間隔が広い
- ・ゆったりとした教室で動きながら作業が可能

◎東京キャンパス

・ファッションビジネス学科

当該学科では、2つの教室を使用する。下記①と②の教室図面で示すように、1つの教室は制作に適した実技教室であり、もう1つの教室は企画書や写真の編集を伴うポートフォリオなどの制作に適した講義室である。実技教室は、上記クリエイション学科と同様に、幅広の机を備え、机と机の間を広く配置した仕様の教室である。「①教室図面 [401教室]」と「②教室図面 [441教室、442教室、443教室、444教室]」で図示する。

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

① 教室図面 [401 教室]

★実技教室の仕様

普通教室（参照例：前頁 474 教室など）と比べて、制作に適している

- ・幅広の机に、4脚を配置
- ・机の配置間隔が広い
- ・ゆったりとした教室で動きながら作業が可能

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

② 教室図面 [441 教室、442 教室、443 教室、444 教室]

★講義室の仕様

普通教室と比べて、制作に適している。

- ・ 幅広の机に、4脚を配置
- ・ 机の配置間隔が広い
- ・ ゆったりとした教室で動きながら作業が可能

◎大阪キャンパス

・ファッションビジネス学科

当該学科では、2つの教室を使用する。下記①と②の教室図面で示すように、2つの教室は制作に適した実習指導室である。実習指導室は、上記学科と同様に、幅広の机を備え、机と机の間を広く配置した仕様の教室である。違いを「②教室図面 [035教室]」で図示する。

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

① 教室図面 [B015 教室]

★実習指導室の仕様

普通の講義教室（参照例：次頁 031 教室など）と比べて、制作に適している

- ・幅広の机に、4脚を配置
- ・机の配置間隔が広い
- ・ゆったりとした教室で動きながら作業が可能

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

②教室図面 [035 教室]

★実習指導室の仕様

普通の講義教室（参照例：次頁 031 教室など）と比べて、制作に適している

- ・ 幅広の机に、4脚を配置
- ・ 机の配置間隔が広い
- ・ ゆったりとした教室で動きながら作業が可能

◎名古屋キャンパス

・名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

当学科は、2つの教室を使用する。下記①教室図面で示すように、2つの教室は制作に適した実技教室である。実技教室は、上記各学科と同様に、幅広の机を備え、机と机の間を広く配置した仕様の教室である。

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

① 教室図面 [241 教室、242 教室]

(2-3) クリエイションなどの制作の内容と備品

学生は、授業の内容や進度に沿って予習や復習を行う。特に、ファッションクリエイションに関する制作などの自習の内容について、ファッションクリエイション学科の例をもとに説明する。そして、ファッションビジネスに関するリサーチや企画書作成などの自習についてファッションビジネス学科の例をもとに説明する。

想定授業科目では<学習する内容>で示すように、シラバスの進行などに合わせて必要な内容を学習する。学生は、<学習内容に応じた自習（制作）>で示すように、自習時間に授業で学習する内容に関連した内容を予習復習する。

予習復習は<自習（制作）内容に応じた備品>で示すように、必要な備品を用いて行う。備品のうち、消耗品や学生が個別に整えたいと思う補助道具や制作用道具は、学生個人が用意をするが、大きな機材（例えば、ミシンやアイロン、ボディなどの）備品は、本学が用意するものを使用する。共通して、制作に応じた机と椅子を使用する。必ずしも毎回ではないが、制作のある段階で使用するボディやミシン、ロックミシン、アイロン、アイロン台などは基本的な備品として、学生の制作に支障がないように十分な台数を備えている。詳細は、全学年が実際に使用する内容を想定して、教室ごとにまとめて資料に記している（『設置の趣旨等を記した書類』添付資料14-1「実習施設設備の整備状況（授業時間外の学生専用自習教室）」）。

◎ファッションクリエイション学科（1年）

当学科1年では、次の2科目について<学習する内容>で示すように、5から6つの内容を学習する。<学習内容に応じた自習（制作）>で示すように、デザイン素描、パターン制作、衣服の基本的制作をする。自習では制作に応じた机と椅子を使用する。自習のある段階でボディやミシン、ロックミシン、アイロンを使用する。特殊なミシンなどの機材は使用しない。教室に備える備品の他に、同階のストックルームから必要な備品を移動して使用する。ストックルームには学生の制作に支障のない十分な台数を備える。ミシンやロックミシン、アイロンなどは、必ずしも毎回使用することは無い。制作時には万一全員が使用する時があってもストックルームなどの備品を使用するなどして十分に使用できる運営となっている。

(a) ファッションデザイン実習Ⅰ

<学習する内容>

- ① デザインの制作について理解する。
- ② デザインを具体化（形）する。
- ③ 製品化の工程を学ぶ。
- ④ 二次加工、素材の考慮及び、制作技術のロジックを理解する。
- ⑤ 工業製品の試作にむけた制作の思考を学ぶ。

<学習内容に応じた自習（制作）>

- ① デザイン画を描く。
- ② トワルメイキング(ボディを使う立体裁断)。トワル組立て(仮縫い)。パターン(平面図)を引く。
- ③ パターンをもとに本素材の裁断と縫製をする。仕上げ加工を行う。
- ④ さまざまなディテールの縫製技術を試す。
- ⑤ 工業製品向けのパターン(平面図)、グレーディングを学ぶ。

<自習（制作）内容に応じた備品>

- ① 机、画材（個人所有）又はノートパソコン（学校又は個人所有）を使用する。
- ② ボディ（学校備品）を使う。
シーチング、スケール、ピン、はさみなどの道具、パターン用紙（個人所有）を使用。

- ③ 本素材（学生が個別に購入）、はさみ（個人所有）、ミシン、ロックミシン、アイロン、アイロン台（学校備品）を使用。
- ④ シーチング、ピン、はさみ（個人所有）を使用。
ミシン、ロックミシン、アイロン、アイロン台（学校備品）を使用。
- ⑤ パターン用紙、スケール（個人所有）などを使用する。

(b) 「ファッションデザインプランニング実習Ⅰ」

<学習する内容>

- ① コンセプトメイキングについて理解する。
- ② シャツのみのブランドを作成するという例をもとに、独自のコンセプトとブランドを企画する。
- ③ ブランド成長にむけて、靴の企画書を作成する。
- ④ ブランド成長にむけて、バックの企画書を作成する。
- ⑤ 衣服だけではないブランド全体の統合コンセプトプランの企画書を作る。
- ⑥ サンプルシャツを創る。

<学習内容に応じた自習（制作）>

- ① 現在のファッションブランドについてウェブ検索や文献調査などでリサーチをする。
- ② シャツの製品及びブランドのリサーチと、企画書を作成する。
- ③ 靴の製品及びブランドのリサーチと、企画書を作成する。
- ④ バックの製品及びブランドのリサーチと、企画書を作成する。
- ⑤ 総合的なブランドのリサーチと、企画書を作成する。
- ⑥ サンプルシャツのデザイン素描と、シャツの制作（パターン・裁断・縫製・仕上げ）。

<自習（制作）内容に応じた備品>

- ①～⑤ 机、画材（個人所有）又はノートパソコン（学校備品又は個人所有）を使用する。
- ⑥ ボディ、ミシン、ロックミシン、アイロン、アイロン台（学校備品）を使用。
シーチング、スケール、ピン、はさみなどの道具（個人所有）、
パターン用紙（個人所有）、本素材（学生が個別に購入）を使用。

表5 予習・復習の内容（ファッションクリエイション学科：1年生）

科目	講義等の内容	予習・復習の内容 (制作の流れ)	必用機材
ファッションデザイン実習Ⅰ	衣服とそれに関わる種々のファクターの関係を明らかにしながら、コスチュームデザインの基礎技術を系統的に学び、実践、制作する。特に人体と衣服、衣服と素材、衣服と造形の関係を考察し、衣服をデザインする行為の持つ意味を各人に主体的に捉えさせ、考え方を構築させる。本実習では、芸術作品やデザイン、西洋美術史、ファッション史に現れるファッションなどへのビジュアルリサーチを行い、アイデアを抽出し、イメージをデザイン展開する手法をマスターする。制作においては、3Dソフトで立体から平面を模索したうえで、平面製図技法トワルメイキングにより、デザインイメージを衣服として再構築し、身体上で造形的模索を行う能力を身につける。	平面図を引く ・トワルメイキング(ボディを使った立体裁断) ・トワル組立て ・本素材裁断 ・本素材縫製	・製図机 ・椅子 ・ボディ (1人1台) ・ミシン (4人1台) ・アイロン (4人1台) ・アイロン台 (4人1台)
	★シラバスの「授業計画」 第1回：オリエンテーション、リサーチ 第2回：リサーチ（1） 第3回：リサーチ（2） 第4回：中間発表 第5回：デザイン展開（1）	★自習（制作）流れ 第1回から 第7回まで： 「①デザイン画」に関する制作自習	

	<p>第6回：デザイン展開（2） 第7回：第1回中間発表 第8回：3Dでのパターン模索（1） 第9回：3Dでのパターン模索（2） 第10回：第2回中間発表 第11回：パターンメイキング（身頃）（1） 第12回：パターンメイキング（身頃）（2） 第13回：パターンメイキング（衿、袖）（1） 第14回：パターンメイキング（衿、袖）（2） 第15回：トワルメイキング（シルエット）（1） 第16回：トワルメイキング（シルエット）（2） 第17回：トワルメイキング（完成）1） 第18回：トワルメイキング（完成）2） 第19回：工業パターン（1） 第20回：工業パターン（2） 第21回：第3回中間発表 第22回：裁断、縫製（1） 第23回：裁断、縫製（2） 第24回：縫製（身頃）（1） 第25回：縫製（身頃）（2） 第26回：縫製（ディティール）（1） 第27回：縫製（ディティール）（2） 第28回：縫製（全体調整・まとめ）1） 第29回：縫製（全体調整・まとめ）2） 第30回：講評会 定期試験</p>	<p>第8回から 第14回まで： 「②パターンメイキング」に関する制作自習</p> <p>第15回から 第18回まで： 「②トワルメイキング」に関する制作自習</p> <p>第19回から 第21回まで： 「⑤工業制作」に関する勉強と制作自習</p> <p>第22回から 第29回まで： 「③工程を学ぶ。④詳細縫製」に関する勉強と制作自習</p>	
<p>ファッションデザイン実習Ⅰ</p>	<p>服とビジネスの関係を学びながら、一着の服から展開し、コンセプトを基にブランド構築を実践していく。今回のテーマは「新しいシャツ」。シャツというアイテムに注目し、そこから発想し、いかに新しいブランドにまでプランニングできるかを考える。また、ブランド運営として重要な「靴」「バック」などのアクセサリについての講義も織り交ぜ、衣服だけではなく市場性を踏まえたブランド全体の構築を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シャツのリサーチ ・シャツのデザイン画 ・シャツブランドの企画書 ・靴のリサーチ ・靴の企画書 ・バッグのリサーチ ・バッグの企画書 ・ブランドの総合企画書 ・シャツの平面図作成 ・シャツの裁断・縫製 	<ul style="list-style-type: none"> ・机 ・椅子 ・ボディ（1人1台） ・ミシン（4人1台） ・ロックミシン（4人1台） ・アイロン（4人1台）
<p>★シラバスの「授業計画」</p>	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：デザインとビジネス（1） 第3回：デザインとビジネス（2） 第4回：コンセプトメイク演習&リサーチ（1） 第5回：コンセプトメイク演習&リサーチ（2） 第6回：コンセプトマップ作成（1） 第7回：コンセプトマップ作成（2） 第8回：コンセプトマップ作成（3） 第9回：プレゼンテーション 第10回：靴講義（1） 第11回：靴講義（2） 第12回：靴講義（3） 第13回：靴リサーチ&プランニング演習（1） 第14回：靴リサーチ&プランニング演習（2） 第15回：靴ブランプレゼンテーション</p>	<p>★自習（制作）流れ</p> <p>第1回から 第5回まで： ①「ファッションブランド」に関するリサーチ、レポート自習</p> <p>第6回から 第8回まで： ②「シャツ」のコンセプトマップ作成に関する自習</p> <p>第10回から 第14回まで：</p>	

<p>第16回：バック講義（1） 第17回：バック講義（2） 第18回：バック講義（3） 第19回：バックリサーチ&プランニング演習（1） 第20回：バックリサーチ&プランニング演習（2） 第21回：バックプランプレゼンテーション 第22回：統合コンセプトプラン作成（1） 第23回：統合コンセプトプラン作成（2） 第24回：総合ブランドプランニング演習 第25回：デザインワーク（1） 第26回：デザインワーク（2） 第27回：サンプル制作（1） 第28回：サンプル制作（2） 第29回：サンプル制作（3） 第30回：総合プレゼンテーション&検討会 定期試験</p>	<p>③「靴」のリサーチとレポート、企画書の作成 第16回から 第20回まで：④「バッグ」のリサーチとレポート、企画書の作成 第22回から 第24回まで： ⑤「統合コンセプトプラン」に関する自習 第25回から 第29回まで： ⑥「シャツのデザイン画、縫製」に関する制作自習</p>	
---	--	--

◎ファッションクリエイション学科（2年）

当学科の2年では、次の3科目について＜学習する内容＞で示すように、5から6つの内容を学習する。＜学習内容に応じた自習（制作）＞で示すように、デザイン素描、パターン制作、衣服の基本的制作やリサーチ、企画書作成をする。上記1年生と同様、制作に応じた机と椅子、ボディやミシン、ロックミシン、アイロンを使用する。特殊なミシンなどの機材は使用しない。教室の備品とともに、同階や近隣階のストックルームから必要な備品を移動して使用する。ストックルームには制作に支障のない十分な備品を置く。

(a) 「ファッションデザイン実習Ⅱ」

＜学習する内容＞

- ① オリジナルブランド戦略の立て方
- ② ブランドイメージ、広報の基本を学ぶ。
- ③ オリジナルブランドのコンセプトを具体的な形に展開する方法を学ぶ。
- ④ トワルで形を作り、平面図に起こす方法を学ぶ。
- ⑤ 平面図を基に本生地を裁断、縫製、仕上げ方法を学ぶ。

＜学習内容に応じた自習（制作）＞

- ① オリジナルブランドコンセプトを立てるためにリサーチをする。（Web利用可能）
- ② 広報の基本を学びロゴ、DM等を制作する。
- ③ オリジナルブランドの企画書を作成する。
- ④ トワルを使って形を作る基礎を学び、それをもとに平面図を作成する。
- ⑤ 平面図を基に、本生地を裁断し縫製する。

＜自習（制作）内容に応じた備品＞

- ①～③ 机、画材（個人所有）又はノートパソコン（学校又は個人所有）を使用する。
- ④ ボディを使う。シーチング、スケール、ピン、はさみなどの道具、パターン用紙（個人所有）を使用。
- ⑤ 本素材（学生が個別に購入）、はさみ（個人所有）、ミシン、ロックミシン、アイロン、アイロン台を使用。

(b) 「ファッションデザインプランニング実習Ⅱ」

＜学習する内容＞

- ① 実習Ⅰで作成したプロダクトアウト型の企画に市場性をもたせる手法を学ぶ。

- ② 素材と加工リサーチをしレポートを作成する。
- ③ 素材とカラーの重要性を学び、MDボードを作成する。
- ④ 市場性のあるデザインを学ぶ。デザイン出しをする。
- ⑤ コスト検証の手法を学ぶ。仕様書を作成する。
- ⑥ サンプルシャツを作成する。

<学習内容に応じた自習（制作）>

- ① 実習Ⅰで作成したプロダクトアウト型の企画書を分析しオリジナルブランドのコンセプトボードを作成する。
- ② 素材と加工リサーチマップを作成する。
- ③ 素材とカラーのMDボードを作成する。
- ④ 市場性のあるデザイン画を描く。
- ⑤ 仕様書を作成する。
- ⑥ サンプルシャツを作成する。

<自習（制作）内容に応じた備品>

- ①～⑤ 机、画材（個人所有）又はノートパソコン（学校備品又は個人所有）を使用する。
- ⑥ ボディ、ミシン、ロックミシン、アイロン、アイロン台（学校備品）を使用。
シーチング、スケール、ピン、はさみなどの道具（個人所有）、
パターン用紙（個人所有）、本素材（学生が個別に購入）を使用。

（c）「シューズデザイン」

<学習する内容>

- ① 靴をデザインするうえで必要な知識を学ぶ。
- ② マテリアルを学ぶ。
- ③ 靴のデザイン画を描くための表現力と技術を学ぶ。
- ④ 世界と日本の履物史を学ぶ。
- ⑤ マイシューズのためのリサーチ手法を学ぶ。
- ⑥ マイシューズのためのデザイン画の表現技法を学ぶ。
- ⑦ マイシューズのための仕様書を学ぶ。

<学習内容に応じた自習（制作）>

- ① 靴をデザインするうえで必要な知識を整理し勉強する。
- ② マテリアルを整理し勉強する。
- ③ 靴のデザイン画を描く。
- ④ 世界と日本の履物史を整理し勉強する。
- ⑤ マイシューズのためのリサーチをしレポートにまとめる。
- ⑥ マイシューズのためのデザイン画を描く。
- ⑦ マイシューズのための仕様書を作成する。

<自習（制作）内容に応じた備品>

- ①～⑦ 机、画材（個人所有）又はノートパソコン（学校又は個人所有）を使用する

表6 予習・復習の内容（ファッションクリエイション学科：2年生）

科目	講義等の内容	予習・復習の内容 (制作の流れ)	必用機材
ファッションデザイン実習Ⅱ	<p>ファッションの理論および制作についてより専門的、実践的な演習を行う。テーマは「日本史服」である。クラスをグループ化し各グループコンセプトに従いブランドを構築し実物作品を制作する。その課程で実践に即したデザイン指導を行う。ブランディングに必要な講義と共に、ブランド戦略に必用なロゴ、レタリング、DM等に関して指導し制作を行う。</p>	<p>平面図を引く ・トワルメイキング（ ・オリジナルブランドコンセプト作成 ・オリジナルブランド広報ツール作成（ロゴ、DM等） ・オリジナルブランドデザイン画作成 ・オリジナルブランド企画書作成 ・オリジナルブランドトワル制作 ・オリジナルブランド平面図作成 ・平面図に基づき、裁断、縫製、仕上げ ボディを使った立体裁断） ・トワル組み立て</p>	<p>・製図机 ・椅子 ・ボディ（1人1台） ・ミシン（4人1台） ・アイロン（4人1台）</p>
	<p>★シラバスの「授業計画」 授業計画 1：ブランド戦略 2：ロゴ、レタリング 3：DM等 4：ブランドコンセプト設定（コレクションデザイン、個別セッション①） 5：ブランドコンセプト設定（コレクションデザイン、個別セッション②） 6：ブランドコンセプト設定（コレクションデザイン、個別セッション③） 7：コンセプト発表 8：企画書作成① 9：企画書作成② 10：企画書作成③ 11：中間発表① 12：実習（個別セッションによるシーチング製作①） 13：実習（個別セッションによるシーチング製作②） 14：実習（個別セッションによるシーチング製作③） 15：実習（個別セッションによるシーチング製作④） 16：実習（個別セッションによるシーチング製作⑤） 17：実習（個別セッションによるシーチング製作⑥） 18：実習（個別セッションによるシーチング製作⑦） 19：実習（個別セッションによるシーチング製作⑧） 20：実習（個別セッションによるシーチング製作⑨） 21：中間発表② 22：実習（個別セッションによる本生地製作①） 23：実習（個別セッションによる本生地製作②）</p>	<p>★自習（制作）流れ 第1回：① オリジナルブランドコンセプトを立てるためにリサーチをする。（Web利用可能） 第2回から第3回： ② 広報の基本を学びロゴ、DM等を制作する。 第4回から第10回： ③ オリジナルブランドの企画書を作成する。 第11回から第20回： ④ トワルを使って形を作る基礎を学び、それをもとに平面図を作成する。 第22回から第29回 ⑤ 平面図を基に、本生地を裁断し縫製する。</p>	

	<p>24：実習（個別セッションによる本生地製作③） 25：実習（個別セッションによる本生地製作④） 26：中間発表③ 27：実習（本生地制作①） 28：実習（本生地制作②） 29：実習（本生地制作③） 30：講評会 定期試験</p>		
ファッションデザイナーブランド実習Ⅱ	<p>服とビジネスの関係を学びながら、一着の服から展開し、コンセプトを基にブランド構築を実践していく。今回のテーマは「新しいシャツ」。シャツというアイテムに注目し、そこから発想し、いかに新しいブランドにまでプランニングできるかを考える。また、ブランド運営として重要な「靴」「バック」などのアクセサリーについての講義も織り交ぜ、衣服だけではない市場性を踏まえたブランド全体の構築を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企画書を作成する 平面製図を引く 素材の裁断 縫製 	<ul style="list-style-type: none"> 製図機 椅子 ボディ (1人1台) ミシン (4人1台) アイロン (4人1台) ロックミシン (4人1台) アイロン (4人1台)
	<p>★シラバスの「授業計画」 第1回：実習Ⅰのプレゼンテーションからのリサーチ 第2回：オリジナルブランドコンセプトボード作成① 第3回：オリジナルブランドコンセプトボード作成② 第4回：オリジナルブランドコンセプトボード作成③ 第5回：素材及び加工リサーチ① 第6回：素材及び加工リサーチ② 第7回：素材、カラーMDボード作成① 第8回：素材、カラーMDボード作成② 第9回：素材、カラーMDボード作成③ 第10回：MDプレゼンテーション及び検証 第11回：デザイン出し① 第12回：デザイン出し② 第13回：デザイン出し③ 第14回：コスト検証&仕様書作成① 第15回：コスト検証&仕様書作成② 第16回：コスト検証&仕様書作成③ 第17回：コスト検証&仕様書作成④ 第18回：コスト検証&仕様書作成⑤ 第19回：サンプル作成① 第20回：サンプル作成② 第21回：サンプル作成③ 第22回：サンプル作成④ 第23回：サンプル作成⑤ 第24回：サンプル作成⑥ 第25回：サンプル作成⑦ 第26回：サンプル作成⑧ 第27回：サンプル作成⑨</p>	<p>★自習（制作）流れ 第1回から第4回： ① 実習Ⅰで作成したプロダクトアウト型の企画書を分析しオリジナルブランドのコンセプトボードを作成する。 第5回から第6回： ②素材と加工リサーチマップを作成する。 第7回から第9回： ③素材とカラーのMDボードを作成する。 第11回から第13回： ④市場性のあるデザイン画を描く。 第14回から第18回： ⑤仕様書を作成する。 第19回から第29回： 平面図を作成し、トワルで確認後、本素材を裁断、縫製しサンプル</p>	

	第28回：サンプル作成⑩ 第29回：サンプル作成⑪ 第30回：最終プレゼンテーション	シャツを作成する。	
	靴は、ファッションの一部であると同時に、歩行を助ける道具でもある。 あらゆるファッションに対応するデザインをするための、靴のスタイルの種類、ディテール、マテリアル、履物史など多面的な知識を習得する。その上で、個性あるデザインの展開に繋げていく。 また、歩行を助ける靴は、痛く辛いものであってはならない。足を守り、心地よく履ける機能を持つ靴であるために、デザインで何ができるのかを知る。 ファッション性の高さで機能が両立したデザインをすることの重要性を考えていく。	・デザイン画作成	・製図機 ・椅子
シューズデザイン	★シラバスの「授業計画」 第1回：イントロダクション 第2回：マテリアル（皮革の種類と特徴） 第3回：マテリアル（副資材概論…底材、ヒール、先芯、月型、接着剤） 第4回：マテリアル（靴のスタイルとディテール、伝統的な製法上のディテール） 第5回：デザイン画の表現力と技術の育成（ラストのシルエットを描く） 第6回：デザイン画の表現力と技術の育成（真横から、3/4から） 第7回：デザイン画の表現力と技術の育成（パンプス） 第8回：デザイン画の表現力と技術の育成（紳士紐靴） 第9回：デザイン画の表現力と技術の育成（スニーカー） 第10回：世界・日本の履物史 第11回：マイシューズデザイン（リサーチ、スケッチリサーチ、コンセプト決定） 第12回：マイシューズデザイン（デザイン_画作成） 第13回：マイシューズデザイン（仕様書作成） 第14回：マイシューズデザイン（講評回） 第15回：まとめ 定期試験	★自習（制作）流れ 第1回： ① 靴をデザインするうえで必要な知識を整理し勉強する。 第2回から第4回： ② マテリアルを整理し勉強する。 第5回から第9回： ③ 靴のデザイン画を描く。 第10回： ④ 世界と日本の履物史を整理し勉強する。 第11回 ⑤ マイシューズのためのリサーチをしレポートにまとめる。 第12回： ⑥ マイシューズのためのデザイン画を描く。 第13回： ⑦ マイシューズのための仕様書を作成する。	

◎ファッションクリエイション学科（3年）

当学科3年は、次の1科目について＜学習する内容＞で示すように、5から6つの内容を学習する。＜学習内容に応じた自習（制作）＞で示すように、リサーチ、デザイン素描、企画書などの基本的制作をする。自習では制作に応じた机と椅子を使用する。自習のある段階でミシン、ロックミシン、アイロンを使用する。特殊なミシンなどの機材は使用しない。教室に備える備品とともに、同じ階のストックルームから必要な基本備品を移動して使用する。ストックルームには学生の制作に支障のない十分な台数の備品を備える。

(a) 「バッグデザイン」

<学習する内容>

- ① コンセプトワークを学ぶ。
- ② ものづくり（デザイン）をする。
- ③ 広報のためのビジュアル表現を学ぶ。
- ④ マーケティングを学ぶ。
- ⑤ ビジネスプランの立て方を学ぶ。

<学習内容に応じた自習（制作）>

- ① オブザーベーションを通して潜在的ニーズを発見するトレーニング。
- ② 自分の手を動かしながら素早く検証サンプルを作るトレーニング。
- ③ プレスリリース、カタログ、Webサイトの制作を想定したビジュアルを作成する。
- ④ デザイナーに必用な情報収集方法を学び、実践し、マップを作成する。
- ⑤ 雑貨比率70%のファッションブランドを作成する。

<自習（制作）内容に応じた備品>

- ① 机、画材（個人所有）又はノートパソコン（学校又は個人所有）を使用する。
- ② シーチング、ピン、はさみ（個人所有）を使用。
ミシン（学校備品）、ロックミシン（学校備品）、アイロン（学校備品）、
アイロン台（学校備品）を使用。
- ③～⑤ 机、画材（個人所有）又はノートパソコン（学校又は個人所有）を使用する。

表7 予習・復習の内容（ファッションクリエイション学科：3年生）

科目	講義等の内容	予習・復習の内容 (制作の流れ)	必用機材
バッグデザイン	『ファッションにイノベーションを起こすプロダクトブランド』をテーマに、コンセプト立案、マーケティング、商品企画、デザイン、サンプル製作、ビジュアル製作、ビジネスプランの組み立てまでのプロセスを想定し疑似体験する。新規ブランドを生み出し、運営するためのノウハウを学び、「人から発想するデザイン」の本質を知る。	・企画書作成 ・ビジュアル表現プラン作成 ・バッグサンプル作成 ・ビジネスプラン作成	・平面図の製図機 (1人1席分) ・椅子(1人1席分) ・ボディ(1人1台) ・ミシン(4人1台) ・アイロン(4人1台)

バッグデザイン	<p>★シラバスの「授業計画」</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：コンセプトワーク 第3回：たたき台サンプル製作 第4回：デザイン思考 第5回：マーケティング 第6回：1stサンプル製作 第7回：ビジネスプラン 第8回：プロモーション戦略 第9回：2ndサンプル製作 第10回：Webサイトデザイン 第11回：カタログデザイン 第12回：3rdサンプル製作 第13回：プレスリリース製作 第14回：ショップデザイン、最終サンプル製作 第15回：講評 定期試験</p>	<p>★自習（制作）流れ</p> <p>第1回から第3回： たたき台サンプルを制作自習</p> <p>第4回から第6回： 1stサンプルを制作自習</p> <p>第7回から第9回： ビジネスプラン、プロモーション戦略、2ndサンプルを制作自習</p> <p>第10回から第12回： Webサイトデザイン、カタログデザイン、3rdサンプルを制作自習</p> <p>第13回から第15回： 最終サンプル、プレスリリース、ショップデザインを制作自習</p>	
---------	--	--	--

◎ファッションクリエイション学科（4年）

当学科4年は、「卒業制作・計画」科目で、卒業制作などの総仕上げとなる制作を行う。上記の1年から3年までに学習した内容をもとに、担当教員と打合せを行い、問題設定及び制作の計画を立てる。自習内容は、これまでの学年で行ったように、リサーチ、デザイン素描、企画書などの作業とともに、自らの問題意識に応じた衣装やバッグや靴などの制作およびブランドの構築に関する総合的な作業を行う。

これらの制作活動を、上記の学年の制作と同様に、制作に応じた仕様の教室で、必要な機材を使用して行う。学生の設定する制作や研究の内容に応じて、ミシン、ロックミシン、アイロンを使用し、基本的に特殊な技術の必要なミシンなどの機材は使用しない。教室の備品と同じ階や近隣階のストックルームから必要な基本備品を移動して使用する。ストックルームには学生の制作に支障のない十分な台数の備品を備える。また、備品の移動には、学生の専用エレベータとは別の専用のエレベータを使用し、制作活動に支障がないように配慮している。詳細は、全学年が実際に使用する内容を想定して、教室ごとにまとめた資料に記している（『設置の趣旨等を記した書類』添付資料14-1「実習施設設備の整備状況（授業時間外の学生専用自習教室）」）。

◎ファッションビジネス学科（1年）

当学科の学生は、以下の科目において＜学習する内容＞及び＜学習内容に応じた自習（制作）＞で示すように、主にリサーチ、デザイン素描、企画書などの制作を行う。

クリエイションの学生と比べて衣装やバッグなどの制作はあまり行わない。自習では、作図やリサーチ、書類の作成に応じた机や椅子を使用したデスクワークを行う。希望する学生は、上記ファッションクリエイション学科の学生と同じように、ミシン、ロックミシン、アイロンなどを使用することも可能である。特殊なミシンなどの機材は使用しない。

(a) 「ファッションビジネス実習Ⅰ」

<学習する内容>

- ① ファッションビジネスの構造と事業特性を理解する。
- ② 時代背景、社会・業界構造の変遷を学ぶ。
- ③ 市場ニーズを捉えたブランド立案
- ④ クラスタ分析・ターゲット分析の理解
- ⑤ ブランドコンセプト立案
- ⑥ ブランドプランニング立案
- ⑦ シーズンマーチャンダイジング・シーズンコンセプト設定
- ⑧ マーケットリサーチとトレンド分析
- ⑨ アイテム構成比と商品構成
- ⑩ ブランド構築と運営
- ⑪ 次世代のビジネススタイルの創造

(b) 「リテール企画実習Ⅰ」

<学習する内容>

- ① 接客心理を学ぶ。
- ② 接客基本動作、基本用語を学び、接客トレーニングをする。
- ③ 商品知識、ファッションテイスト、TPO、ライフステージを学ぶ。
- ④ ファッションコーディネート、スタイリングを学ぶ。
- ⑤ 商品開発と品揃え、価格マネジメントを学ぶ。
- ⑥ 店舗立地、商圈、売り場デザインを学ぶ。

<学習内容に応じた自習（制作）>

- ① 各種レポート作成
- ② 企画書作成
- ③ 接客トレーニング

<自習（制作）内容に応じた備品>

- ① 机、画材（個人所有）又はノートパソコン（学校又は個人所有）を使用する。
- ② スケール、はさみなどの道具、デザインボード等（個人所有）を使用。

表 8 予習・復習の内容（ファッションビジネス学科：1年生）

科目	講義等の内容	予習・復習の内容 (制作の流れ)	必用機材
ファッション ビジネス 実習Ⅰ	ファッションビジネスの構造を理解させ、ファッションビジネス論のレディネスを整える。 日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いていく。	講義の内容を理解しながら、各回のレポート、企画書等を作成する。	平面図の製 図机 椅子

ファッションビジネス実習Ⅰ	<p>★シラバスの「授業計画」</p> <p>第1回：オリエンテーション、ファッションビジネスの概要を講述。</p> <p>第2回：ファッションビジネス・ファッションマーケティング・マーチャダイジングの基礎知識①</p> <p>第3回：ファッションビジネス・ファッションマーケティング・マーチャダイジングの基礎知識②</p> <p>第4回：ファッションビジネスモデルの変遷の理解と近代ビジネスモデルの動向①</p> <p>第5回：ファッションビジネスモデルの変遷の理解と近代ビジネスモデルの動向②</p> <p>第6回：ファッションビジネスモデルの変遷の理解と近代ビジネスモデルの動向③</p> <p>第7回：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題および弱点の分析と把握①</p> <p>第8回：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題および弱点の分析と把握②</p> <p>第9回：市場細分化戦略の理解と市場ニーズを捉えたブランド立案実習①</p> <p>第10回：市場細分化戦略の理解と市場ニーズを捉えたブランド立案実習②</p> <p>第11回：クラスター分析・ターゲット分析の理解と実習①</p> <p>第12回：クラスター分析・ターゲット分析の理解と実習②</p> <p>第13回：ターゲットイメージマップ・ライフスタイルマップ実習①</p> <p>第14回：ターゲットイメージマップ・ライフスタイルマップ実習②</p> <p>第15回：ブランドコンセプト設定～検証～立案 PDCA サイクル実習①</p> <p>第16回：ブランドコンセプト設定～検証～立案 PDCA サイクル実習②</p> <p>第17回：ブランドイメージ表現の理解とマップ化実習</p> <p>第18回：C I / B I / S I の理解と重要性を講述</p> <p>第19回：ブランドプランニング実習①</p> <p>第20回：ブランドプランニング実習②</p> <p>第21回：シーズンマーチャダイジング・シーズンコンセプト実習①</p> <p>第22回：シーズンマーチャダイジング・シーズンコンセプト実習②</p> <p>第23回：マーケットリサーチとトレンド分析実習①</p> <p>第24回：マーケットリサーチとトレンド分析実習②</p> <p>第25回：アイテム構成比と商品構成の理解と数値化実習①</p> <p>第26回：アイテム構成比と商品構成の理解と数値化実習②</p> <p>第27回：ブランド構築・運営・ブランディング構築実習①</p> <p>第28回：ブランド構築・運営・ブランディング構築実習② (SCM/CRM/HRM/Financial)</p> <p>第29回：次世代のビジネススタイルの創造～プレゼンテーション</p> <p>第30回：次世代のビジネススタイル案を基にディスカッション。質疑応答・総括</p> <p>定期試験（各実習には、ビジュアル表現およびプレゼンテーションを課す）</p>	<p>第1回から第3回：①ファッションビジネスの構造と事業特性を理解するための自習。</p> <p>第4回から第6回：②時代背景、社会・業界構造の変遷を理解するための自習。</p> <p>第7回から第10回：③市場ニーズを捉えたブランド立案を勉強し、レポートの制作自習。</p> <p>第11回から第14回：④クラスター分析・ターゲット分析を理解するための自習。</p> <p>第15回から第18回：⑤ブランドコンセプト立案を学びその制作自習。</p> <p>第19回から第20回：⑥ブランドプランニング立案を学びその制作自習。</p> <p>第21回から第22回：⑦シーズンマーチャダイジング・シーズンコンセプト設定を学びその立案を自習。</p> <p>第23回から第24回：⑧マーケットリサーチとトレンド分析を理解するための自習。</p> <p>第25回から第26回：⑨アイテム構成比と商品構成を理解するための自習。</p>	
---------------	---	--	--

		<p>第27回から第28回：⑩ブランド構築と運営を理解するための自習。</p> <p>第29回から第30回：⑪、①～⑩を踏まえた次世代のビジネスモデルの企画書の制作自習。</p>	
	<p>「役割演技」（ロールプレイング）方式で学習することで、接客スキルは勿論だが、顧客ニーズの吸上げからその顧客に合ったサービスとは何かを分析する能力を身に付ける。また「リテール企画Ⅰ」の延長路線で、リテール企画を生かして、自社のPB（プライベート・ブランド）企画と結びつけるために、アパレル企業が体系化してきている「商品企画」MDについても、ワークショップ形式でアクティブラーニングを通じて学習していく。</p>	<p>講義の内容を理解しながら、各回のレポート、企画書等を作成する。接客トレーニングを行う。</p>	<p>・平面図の製図机（1人1席分）</p> <p>・椅子（1人1席分）</p>
リテール企画実習Ⅰ	<p>★シラバスの「授業計画」</p> <p>第1回：接客心理について</p> <p>第2回：接客基本動作トレーニング</p> <p>第3回：動き、笑顔、目の会話術、第一印象イメージアップトレーニング</p> <p>第4回：動的待機とお出迎え、接客基本用語トレーニング</p> <p>第5回：接客8大用語訓練、ロールプレイングトレーニング</p> <p>第6回：接客8大用語ロールプレイング演習実施</p> <p>第7回：購買心理のプロセストレーニング</p> <p>第8回：販売、アプローチトレーニング</p> <p>第9回：接客の言葉遣い、話し方、聞き方技術、入店からのお声掛けトレーニング</p> <p>第10回：商品知識①（カットソー、ニット）</p> <p>第11回：商品知識②（布帛）</p> <p>第12回：商品知識③（雑貨）</p> <p>第13回：ファッション感覚の応用</p> <p>第14回：テイスト分類・オケージョン分類・ライフステージの理解</p> <p>第15回：TPO分類、TPOコーディネート</p> <p>第16回：テクニックコーディネート</p> <p>第17回：撮影（コーディネート）</p> <p>第18回：撮影（物撮り）</p> <p>第19回：コーディネート、商品物撮りMAP製作及びSNS投稿用画像</p> <p>第20回：スタイリング提案、販売トレーニング①</p> <p>第21回：スタイリング提案、販売トレーニング②</p> <p>第22回：スタイリング提案、販売ロールプレイング演習実施</p> <p>第23回：スタイリング提案に基づく品揃えのマネジメント</p> <p>第24回：ターゲット・ポジショニングに基づく売り場のデザイン</p> <p>第25回：ターゲット・ポジショニングに基づく商品開発とサービス</p> <p>第26回：商品開発に伴う価格マネジメント</p>	<p>第1回：①接客心理を学ぶ。</p> <p>第2回～第9回：② 接客基本動作、基本用語を学び、接客トレーニングをする。</p> <p>第10回～第18回：③ 商品知識、ファッションテイスト、TPO、ライフステージを学ぶ。</p> <p>第19回～第24回：④ ファッションコーディネート、スタイリングを学ぶ。</p> <p>第25回～第26回：⑤ 商品開発と品揃え、価格マネジメントを学ぶ。</p> <p>第25回～第26回：⑥ 店舗立地、商圏、売り場デザインを学ぶ。</p> <p>第27回～第30回：第23回から第29回</p>	

第27回：カスタマー・インフォメーションの管理と活用 第28回：店舗立地と商圈の分析 第29回：顧客に求められる業態・営業形態を理解した店舗提案 第30回：商品・店舗イメージのまとめとプレゼンテーション・講評 定期試験	をを踏まえ、商品・店舗イメージのまとめた企画書を作成する自習を行う。	
---	------------------------------------	--

◎ファッションビジネス学科（2年）

(a) 「ファッションビジネス実習Ⅱ」

<学習する内容>

- ① 理想的なブランドのあり方
- ② デジタルテクノロジーをコアにした新しいビジネスモデルの構築
- ③ 未来のファッションビジネスモデルの構築

(b) 「リテール企画実習Ⅱ」

<学習する内容>

- ① デジタルリテール企画
- ② リアル店舗とネットショップの特異性に関する分析と理解
- ③ EC市場の現状把握と今後のコンテンツ研究
- ④ SNS活用によるプロモーションの考え方
- ⑤ リアル店舗の今後の在り方

<学習内容に応じた自習（制作）>

- ① 各種レポート作成
- ② 企画書作成

<自習（制作）内容に応じた備品>

- ① 机、画材（個人所有）又はノートパソコン（学校又は個人所有）を使用する。
- ② スケール、はさみなどの道具、デザインボード等（個人所有）を使用。

表9 予習・復習の内容（ファッションビジネス学科：2年生）

科目	講義等の内容	予習・復習内容 (制作の流れ)	必用機材
ファッションビジネス実習Ⅱ	<p>日本が豊かさを手にし始めた高度成長期（70～80年代）からバブル期に至る20～30年の間にファッション先進国 欧米を手本にしたアパレルブランドが大量に出現。現在その90%以上はすでに存在していない。ましてや国際競争力を持ち、現代にも通用しているブランドは数少ない。そして、2000年代では、グローバルブランドやデジタル化の波が押し寄せ、企業規模を問わず、旧態依然としたブランドの淘汰が始まっている。実習Ⅰで学んだ日本アパレルの失敗を基にファッションの民主化が進み、正解の無い、カオスでイノベティブ状態が定常化するマーケットで勝者となるファッションの事業のあり方をイノベートする。</p>	<p>講義の内容を理解しながら、各回のレポート、企画書等を作成する。</p>	<p>・平面図の製図機 (1人1席分) ・椅子(1人1席分)</p>
	<p>★シラバスの「授業計画」 第1回：実習Ⅰ振り返り 第2回：理想的なブランドのあり方① 第3回：理想的なブランドのあり方② 第4回：グローバルマーケットで存在感を持つブランドとビ</p>	<p>★自習（制作）流れ 第1回から第10回：①理想的なブランドのあり方を学び、独自の企画を創造し、プ</p>	

	<p>ビジネスモデルの構築① 第5回：グローバルマーケットで存在感を持つブランドとビジネスモデルの構築② 第6回：ビジネスモデル実現に向けたビジネス要素の整備方法開発① 第7回：ビジネスモデル実現に向けたビジネス要素の整備方法開発② 第8回：理想的なブランドのあり方について実習① 第9回：理想的なブランドのあり方について実習② 第10回：理想的なブランドのあり方について実習③ 第11回：中間発表Ⅰ 第12回：デジタルテクノロジー開発 第13回：個客にとって最適なブランド体験を提供するためのテクノロジー① 第14回：個客にとって最適なブランド体験を提供するためのテクノロジー② 第15回：テック企業やエンジニアとコラボレーション実習① 第16回：テック企業やエンジニアとコラボレーション実習② 第17回：テック企業やエンジニアとコラボレーション実習③ 第18回：中間発表Ⅱ 第19回：デジタルテクノロジーをコアにした新しいビジネスモデルの構築① 第20回：デジタルテクノロジーをコアにした新しいビジネスモデルの構築② 第21回：デジタルテクノロジーをコアにしたビジネスモデルの構築実習① 第22回：デジタルテクノロジーをコアにしたビジネスモデルの構築実習② 第23回：デジタルテクノロジーをコアにしたビジネスモデルの構築実習③ 第24回：デジタルテクノロジーをコアにしたビジネスモデルの構築実習④ 第25回：中間発表Ⅲ 第26回：未来のBusiness of FASHION モデルの構築実習① 第27回：未来のBusiness of FASHION モデルの構築実習② 第28回：未来のBusiness of FASHION モデルの構築実習③ 第29回：未来のBusiness of FASHION モデルの構築実習④ 第30回：講評会 定期試験</p>	<p>レゼン資料を作成する。</p> <p>第12回から第24回： ②デジタルテクノロジーをコアにした新しいビジネスモデルの構築について学び、独自のビジネスモデル案を作成する。</p> <p>第26回から第29回： ③未来のファッションビジネスモデルの構築について学び、独自の未来のファッションビジネスモデル案を作成する。</p>	
<p>リテール企画実習Ⅱ</p>	<p>「リテール企画Ⅰ」の基礎知識を活かして、「デジタルリテール企画」の基礎知識を身に付けていく。消費者は、スマートフォンを駆使し「リアル店舗」と「ネットショップ」の両方を違和感なく横断購買行動をとっている。消費者行動を「購買前行動」「購買時点行動」「購買後行動」全体を分析し、「リアル店舗」や「ネットショップ」の「訪問客」を増やし、さらに「見込み客」「購買客」「リピート客」「優良客」へと「転換率」（コンバージョン率）を高める「マーケティング・オートメーション」の基本原則を学習する。</p>	<p>講義の内容を理解しながら、各回のレポート、企画書等を作成する。</p>	<p>・平面図 デザイン画、企画書作成ができる机 ・椅子</p>
	<p>授業計画 第1回：購買心理と接客心理の復習 第2回：アイテム知識確認トレーニング① 第3回：アイテム知識確認トレーニング② 第4回：撮影テクニック(コーディネート)</p>	<p>第1回から第9回： ①雑誌、サイト掲載MAPのためのデジタルリテール企画案を作成。</p>	

<p>第5回：撮影テクニック(物撮り)</p> <p>第6回：商品提案MAP製作</p> <p>第7回：デジタルリテール企画の基礎知識①</p> <p>第8回：デジタルリテール企画の基礎知識②</p> <p>第9回：デジタルリテール企画の基礎知識③</p> <p>第10回：雑誌、サイト掲載MAP提案、企画プレゼンテーション</p> <p>第11回：「消費者行動論」から導かれる消費者行動の理解と消費者心理へのアプローチ</p> <p>第12回：消費者行動とマーケティングから学ぶ集客術と購買行動モデルの変遷①</p> <p>第13回：消費者行動とマーケティングから学ぶ集客術と購買行動モデルの変遷②</p> <p>第14回：リアル店舗とネットショップの思考分析</p> <p>第15回：ネットショップの卓越性分析</p> <p>第16回：ネットショップの運営、活用①</p> <p>第17回：ネットショップの運営、活用②</p> <p>第18回：リアル店舗の優位性分析</p> <p>第19回：リアル店舗とネットショップまとめ</p> <p>第20回：リアル店舗とネットショップまとめ、プレゼンテーション</p> <p>第21回：リアル店舗とECサイトの相互活用</p> <p>第22回：ネット集客、WEB活用</p> <p>第23回：ECサイトにおけるブランド戦略、マーケティング戦略</p> <p>第24回：ECサイトの利点と欠点</p> <p>第25回：EC市場の現状分析</p> <p>第26回：EC運営におけるコンテンツ研究</p> <p>第27回：リアル店舗におけるマーケティング・オートメーションの導入</p> <p>第28回：顧客満足(CS)から顧客感動(CD)へ</p> <p>第29回：SNS活用によるプロモーションの考え方</p> <p>第30回：リアル店舗の在り方と課題まとめ、プレゼンテーション</p> <p>定期試験</p>	<p>第11回から第19回： ②リアル店舗とネットショップの特異性に関する分析をした上でそれぞれを理解し、まとめのプレゼンテーション資料を作成する。</p> <p>第21回から第25回： ③EC市場の現状把握をし、今後のコンテンツ研究しレポートを作成する。</p> <p>第27回から第28回： ④SNS活用によるプロモーションの考え方を作成する。</p> <p>第29回から第30回： ⑤リアル店舗の今後の在り方を町目る</p>	
---	---	--

(2-4) 制作の様子と備品

「(2-3) 制作の内容と備品」で説明した内容は、次の写真のように展開される。

上記自習内容において、学生が行う基本的な作業内容である「デザイン素描」「トワルメイキング」「パターン制作」「本素材の裁断」「縫製」「仕上げ」「ディテール制作」「工業用パターン制作」「フィッティングチェック」「リサーチ、企画書」の場면을画像で示す。

◎制作の様子と備品

① デザイン画を描く



② トワルメイキング(ボディを使う立体裁断) パターンを引く

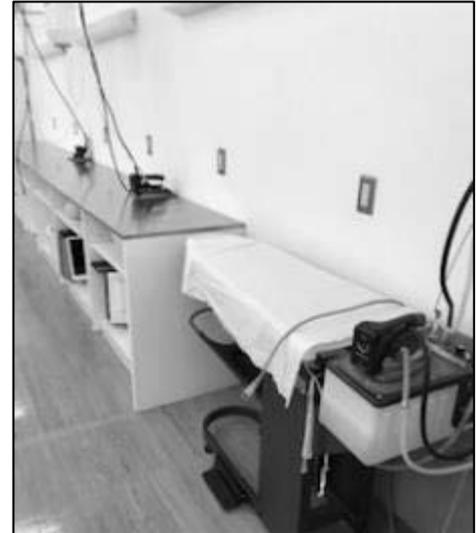
③ 本素材の裁断



③ 本素材の縫製 仕上げ加工



(使用するアイロン)



④ さまざまなディテールの縫製技術を試す



④
ディテール
の制作

⑤ 工業製品向けのパターン（平面図）の制作



⑤
工業用
パターンの
制作

⑤ 工業製品向けへの検討、フィッティングチェック



⑥ リサーチ、企画書などの制作



◎自習（制作）内容に使用する機材や道具

上記で述べた仕様機材や備品は、各キャンパスの使用教室ごとに関連して備える。本学では備品の管理運営、及び、教室を広く使用するための教室運営上、必ずしも毎回使用しないボディやミシンなどの備品を同じ階や近隣階のストックルームで保管する。学生は適宜、制作内容に合わせて必要とする備品をストックルームから移動して使用する。

ストックルームには学生の制作に支障のない十分な台数の備品を備える。また、備品の移動には、学生の専用エレベータとは別の専用のエレベータを使用し、制作活動に支障がないように配慮している。詳細は、全学年が実際に使用する内容を想定して、教室ごとにまとめた資料に記している（『設置の趣旨等を記した書類』添付資料14-1「実習施設設備の整備状況（授業時間外の学生専用自習教室）」）。

- ・制作や企画書の作成等で使用される基本的な機材（備品）
机、椅子、ボディ、ミシン、ロックミシン、アイロン、アイロン台、ノートパソコン（工業用パターンなどの制作を行う者に貸し出す）
- ・個別に用意する道具
消耗品（用紙や本素材など）、画材（鉛筆やスケール）、制作用品（シーチング、ピン、はさみなどの道具）、ノートパソコン（デジタルなどの作業を行う者）

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <東京キャンパス>

新

《東京キャンパス》学科:ファッションクリエイション学科/ファッションビジネス学科

■ファッションビジネス学科1~4学年専用教室

●教室 : 40階 401教室[44席]: <1~7単元利用可能教室>

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

●教室写真[401教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	11	401教室	
椅子	44	401教室	
職業用ミシン	2	401教室	ミシンは必要数を40Fストックルームから移動して使用
ロックミシン	5	401教室	
アイロン	2	401教室	アイロンは必要数を40Fストックルームから移動して使用
アイロン+バキューム台	1	401教室	
ボディ	1	401教室	ボディは必要数を40Fストックルームから移動して使用
編み機	25	401教室	
革用ミシン	2	401教室	
革スキ機	1	401教室	ファッションクリエイション学科のバッグデザイン実習で革材料を扱う学生のみ、401教室で使用する
毛皮用ミシン	2	401教室	

●教室設置機材写真[402教室]



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <東京キャンパス>

新

■ファッションクリエイション学科1～4学年専用教室

●教室 : 40階 402教室[56席]: <1～7单元利用可能教室>

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

●教室写真[402教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	14	402教室	
椅子	56	402教室	
職業用ミシン	20	402教室	
アイロン	4	402教室	
アイロン台	4	403教室	
職業用ミシン	40	40Fストックルーム	402教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
ロックミシン	14	40Fストックルーム	
アイロン	10	40Fストックルーム	402教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
アイロン台	10	40Fストックルーム	402教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
ボディ	56	40Fストックルーム	

※革・毛皮をバッグデザイン実習で使用する学生は、401教室に設置してある革用・毛皮用機材を使用する。

●40Fストックルーム写真



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <東京キャンパス>

新

●教室 :41階:415教室[30席]:<1~7单元利用可能教室>

※安全上の観点により校舎内図面は非表示
 といたします。

●教室写真[415教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	15	415教室	
椅子	30	415教室	
工業用ミシン	22	415教室	
ロックミシン	10	415教室	
アイロン	10	415教室	
アイロン台	8	415教室	
バキューム	1	415教室	
ボディ	12	415教室	
万十(2号)	3	415教室	アイロン使用時に部分的に使用
仕上馬	4	415教室	アイロン使用時に部分的に使用

●教室 :47階:473教室[62席](東京モード学園・コンテストルーム)<1~7单元利用可能教室>

※東京モード学園のコンテスト制作と併用して利用

※安全上の観点により校舎内図面は非表示
 といたします。

●教室写真[473教室]



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <東京キャンパス>

新

【2017年度東京モード学園使用実績】

コンテスト名	対象 学生数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
ナゴヤファッションコンテスト	3			3	3	3	3							
YKKファスニングアワード	4			4	4	4	4							
東京新人デザイナーファッション大賞	3				3	3	3							
日暮里ファッションデザインコンテスト	9					9	9	9	9					
JFAファーデザインコンテスト	4						4	4	4					
新宿ファッションフィールド	5						5	5	5					
千年大賞	4								4	4	4			
Yumi Katsura Award	2								2	2	2	2		
コンテストルーム最大利用学生数		0	0	7	10	19	28	18	24	6	6	2	0	

◎卒業制作・計画制作期間

卒業製作・計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
企画立案													
夏期休暇													
実物制作													

◎ファッションクリエイション学科の学生利用可能数【参考:2017年度実績】

東京キャンパス 47階:コンテストルーム <473教室>	収容 可能数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
	62	62	62	55	52	43	34	44	38	56	56	60	62	平均50席確保

●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	14	473教室	
椅子	62	473教室	
工業用ミシン	2	473教室	
職業用ミシン	4	473教室	
ロックミシン	12	473教室	
アイロン	2	473教室	
アイロン台	1	473教室	
バキューム	2	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
ハシマプレスHP-84B	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
ボディ9AR-C	4	473教室	
ハンガーラック	15	473教室	
ボディ9AT	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
ボディ7AR	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
ボディ(チルドレン)	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
クロッチボディ(11)	2	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
クロッチボディ(9AR)	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
クロッチボディ(水着・レオタード)	2	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
メンズトルソー(Y4)	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
キイヤspur	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
婦人マネキン	6	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
紳士マネキン	5	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
万十(2号)	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター	2	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター用PC	1	473教室	コンテスト作品制作用特殊機材
スチール棚	3	473教室	特殊機材用
職業用ミシン	40	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
ロックミシン	14	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
アイロン	10	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
アイロン台	10	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動
ボディ	56	43Fストックルーム	473教室設置分で不足の場合は、ストックルームから移動

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
<東京キャンパス>

新

●43Fストックルーム

※移動において、エレベータNO.2を使用し473教室へ移動する

(図面)

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

(図面)

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

●43Fストックルーム写真



●作品保管

※作業中の卒業制作作品は、ハンガーに掛け必要に応じてハンガーラックで保管。



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <東京キャンパス>

旧

卒業制作等実習のための予備教室<専門学校[モード学園]との兼用教室>														資料14
■東京モード学園<47階:コンテストルーム:473教室>【100.52㎡】														
【2017年度東京モード学園使用実績】														
コンテスト名	対象 学生数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
ナゴヤファッションコンテスト	3			3	3	3	3							
YKKファスニングアワード	4			4	4	4	4							
東京新人デザイナーファッション大賞	3				3	3	3							
日暮里ファッションデザインコンテスト	9					9	9	9	9					
JFAファーデザインコンテスト	4						4	4	4					
新宿ファッションフィールド	5						5	5	5					
千年大賞	4									4	4	4		
Yumi Katsura Award	2									2	2	2	2	
コンテストルーム最大利用学生数		0	0	7	10	19	28	18	24	6	6	2	0	
●国際ファッション専門職大学:卒業製作・計画制作期間														
卒業製作・計画	<p>企画立案 (4月~8月) 夏期休暇 (8月~9月) 実物制作 (9月~3月)</p>													
●国際ファッション専門職大学の学生利用可能数【参考:2017年度実績】														
東京校舎 47階:コンテストルーム <473教室>	収容 可能数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
	60	60	60	53	50	41	32	42	36	54	54	58	60	平均50席確保
41階:<415教室>	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	通年28席確保
合計	88	88	88	81	78	69	60	70	64	82	82	86	88	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <東京キャンパス>

旧

備品	数量
スチール棚	3
机	12
椅子	60
6mm厚透明ビニールボード	16
工業用ミシン(SL-1010)	2
職業用ミシン	4
ロックミシン(ブラザーカガリⅢ)	12
アイロン(ナオモト)	2
アイロン台	1
バキューム(FB-85N)	2
ハシマプレスHP-84B	1
万十(2号)	1
ボディ7AR	1
ボディ9AR-C	4
ボディ9AT	1
ボディ(チルドレン)	1
クロッチボディ(11)	2
クロッチボディ(9AR)	1
クロッチボディ(水着・レオタード)	2
メンズトルソー(Y4)	1
キイヤspur	1
婦人マネキン	6
紳士マネキン	5
ハンガーラック	15
昇華プリンター	2
昇華プリンター用PC	1

(図面)
 ※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
<東京キャンパス>

旧

■東京モード学園<41階:415教室>【76.6㎡】	
※使用状況は別紙資料参照	
備品	数量
机	28
椅子	28
工業用マシン(SL-1010)	22
ロックマシン(ブラザーカガリⅢ)	10
アイロン(ナオモト)	10
アイロン台	8
バキューム(FB-85N)	1
万十(2号)	3
ボディ9AR-C	12
仕上馬	4

(図面)
※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <大阪キャンパス>

新

■大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科1～4学年専用教室

●教室 : B1階 B015教室[60席]: <1～7単元利用可能教室>

※B015教室利用の利用状況は、[資料14-3]参照

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

●教室写真[B015教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	30	B015教室	
椅子	60	B015教室	
職業用ミシン	40	B015教室	
ロックミシン	9	B015教室	
アイロン	7	B015教室	
パキューム	2	B015教室	
アイロン台	5	B015教室	
万十2号	1	B015教室	アイロン使用時に部分的に使用
袖万7号	1	B015教室	アイロン使用時に部分的に使用
仕上馬	2	B015教室	アイロン使用時に部分的に使用
エッジボード	1	B015教室	アイロン使用時に部分的に使用
革用ミシン	3	B015教室	コンテスト作品制作用特殊機材
革漉き機	1	B015教室	コンテスト作品制作用特殊機材
熱風仕上機	1	B015教室	コンテスト作品制作用特殊機材
強力パフモーター	1	B015教室	コンテスト作品制作用特殊機材

◎大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の学生利用可能数

大阪校舎 <B015教室>	收容 可能数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <大阪キャンパス>

新

●教室 : 3階 035教室[48席]: <1~7单元利用可能教室>

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

●教室写真[035教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	12	035教室	
椅子	48	035教室	
ミシン	20	035教室	
ロックミシン	4	035教室	
アイロン	6	034教室	034教室は、常時入室可能
アイロン台	6	034教室	034教室は、常時入室可能
ボディ	34	035教室	

●教室設備機材写真



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
<大阪キャンパス>

新

●教室 :8階 ホール(学生自習室兼学生控室)教室[220席]: <1~7单元利用可能教室>

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

●教室写真[ホール教室]



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <大阪キャンパス>

旧

■大阪モード学園<B1階:B015教室>【108.46㎡】

※使用状況は別紙資料参照

備品	数量
椅子	60
ミシン	40
ロックミシン	9
革用ミシン	3
革漉き機	1
熱風仕上機	1
強カバフモーター	1
アイロン	7
バキューム	2
アイロン台	5
万十2号	1
袖万7号	1
仕上馬	2
エッジボード	1

(図面)

※安全上の観点により非表示といたします。

●国際ファッション専門職大学の学生利用可能数

大阪校舎 <B015教室>	収容 可能数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <名古屋キャンパス>

新

■名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科1～4学年専用教室

●教室 : 24階242教室[52席](名古屋モード学園・コンテストルーム) : <1～7単元利用可能教室>

※名古屋モード学園のコンテスト制作と併用して利用

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

●教室写真[242教室]



【2017年度名古屋モード学園使用実績】

コンテスト名	対象 学生数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
ナゴヤファッションコンテスト	8			8	8	8	8							
YKKファスニングアワード	11			11	11	11	11							
東京新人デザイナーファッション大賞	4				4	4	4							
日暮里ファッションデザインコンテスト	8					6	6	6	6					
JFAファーデザインコンテスト	2						2	2	2					
新宿ファッションフィールド	2						2	2	2					
千年大賞	3								3	3				
Yumi Katsura Award	1								1	1	1	1		
コンテストルーム最大利用学生数		0	0	19	23	29	33	10	14	4	1	1	0	

◎卒業製作・計画制作期間

卒業製作・計画	企画立案	夏期休暇	実物制作
	→	→	→

◎名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の学生利用可能数

名古屋校舎 24階:コンテストルーム <242教室>	収容 可能数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
	52	52	52	33	29	23	19	42	38	48	51	51	52	平均40席確保

●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机(4人掛け)	10	242教室	
机(向かい2人掛け)	2	242教室	
机(横並び2人掛け)	5	242教室	
椅子	52	242教室	
工業用ミシン	2	242教室	
アイロン	1	242教室	
ハンガーラック	7	242教室	
婦人マネキン	3	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
紳士マネキン	5	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
刺繍機	1	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター	3	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター用PC	3	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
昇華プリンター用プレス機	1	242教室	コンテスト作品制作用特殊機材
スチール棚	1	242教室	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <名古屋キャンパス>

新

●教室 :24 階 241 教室[63 席]:<1~7 単元利用可能教室>

●教室図面[241 教室]

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

●教室写真[241 教室]



●教室写真[241 教室]



●利用機材

機材名	台数	保管場所	備考
机	17	241 教室	
椅子	63	241 教室	
ミシン	33	246 教室	常時入室可能
アイロン	6	245 教室	常時入室可能
アイロン台	6	245 教室	常時入室可能
ボディ	20	241 教室	

※241 教室利用の際は、上記備品が利用可能

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
<名古屋キャンパス>

新

●教室 :3階 学生自習室兼学生控室[184席]<1~7单元利用可能教室>

●教室図面[学生自習室兼学生控室]

※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。

●教室写真[学生自習室兼学生控室]



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <名古屋キャンパス>

旧

■名古屋モード学園<24階:コンテストルーム:242教室>【223㎡】														
【2017年度名古屋モード学園使用実績】														
コンテスト名	対象学生数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ナゴヤファッションコンテスト	8			8	8	8	8							
YKKファスニングアワード	11			11	11	11	11							
東京新人デザイナーファッション大賞	4				4	4	4							
日暮里ファッションデザインコンテスト	8					6	6	6	6					
JFAファーデザインコンテスト	2						2	2	2					
新宿ファッションフィールド	2						2	2	2					
千年大賞	3									3	3			
Yumi Katsura Award	1								1	1	1	1		
コンテストルーム最大利用学生数		0	0	19	23	29	33	10	14	4	1	1	0	
●国際ファッション専門職大学:卒業製作・計画制作期間														
卒業製作・計画														
●国際ファッション専門職大学の学生利用可能数														
名古屋校舎 24階:コンテストルーム <242教室>	収容可能数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	52	52	52	33	29	23	19	42	38	48	51	51	52	平均40席確保
備品		(図面) ※安全上の観点により校舎内図面は非表示といたします。												
スチール棚	1													
机(4人掛け)	10													
机(向かい2人掛け)	2													
机(横並び2人掛け)	5													
椅子	52													
工業用ミシン	2													
アイロン(ナオモト)	1													
婦人マネキン	3													
紳士マネキン	5													
ハンガーラック	7													
刺繍機	1													
昇華プリンター	3													
昇華プリンター用PC	3													
昇華プリンター用プレス機	1													

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 東京モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)
 【前期】

新

教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土
383/384	I	TP14	TP14					431/432	I	FH13		FH13	TP14	FH13	FH13
	II	TP14	TP14						II	FH13		FH13	TP14	FH13	FH13
	III			TP14	TP14				III		TP14		FH13	FH13	
	IV			TP14	TP14				IV		TP14		FH13	FH13	
	V								V						
	VI								VI	FD22					
	VII								VII	FD22					
385	I							433/434	I	FH14		FH14		FH14	FH14
	II								II	FH14		FH14		FH14	FH14
	III						FD14		III	FH14	FH14	FH14	FH14		
	IV						FD14		IV	FH14	FH14	FH14	FH14		
	V								V						
	VI	TQ23		FD24					VI			FD/TQ23		FD/TQ23	
	VII			FD24					VII	TQ23		FD/TQ23		FD/TQ23	
386	I							435/436	I	FD14	FD14		FD14	TP14	FD14
	II								II	FD14	FD14		FD14	TP14	FD14
	III								III		FD14	FD14		FD14	TP14
	IV			FH13					IV		FD14	FD14		FD14	TP14
	V			FH13					V						
	VI	FD23							VI	FD/TQ24				FD/TQ24	
	VII	FD23							VII	FD/TQ24		tg24		FD/TQ24	
391	I		FD12	FH11		FH11	FD12	474	I	FD13	FD13		FD13		
	II		FD12	FH11		FH11	FD12		II	FD13	FD13		FD13		
	III	FH11	FD12	FH11	FD12		FH11		III						FD13
	IV	FH11	FD12	FH11	FD12		FH11		IV						FD13
	V			FH11			FH11		V				FD13		
	VI			FD22					VI						
	VII			FD22					VII						
392	I						TQ12	475	I			TP13			
	II						TQ12		II			TP13			
	III			FD12					III	TP13		TP13		TP13	TP13
	IV			FD12					IV	TP13		TP13		TP13	TP13
	V			FD12	FH12				V						
	VI			TQ22					VI						
	VII			TQ22					VII						
393	I							482	I						FH12
	II						TQ12		II						FH12
	III	TQ12		TQ12	TQ12	TQ12			III	FH12	FH12		FH12		FH12
	IV	TQ12		TQ12	TQ12	TQ12			IV	FH12	FH12				FH12
	V	TQ12							V	FH12					
	VI	TQ22		TQ24					VI						
	VII	TQ22							VII						
401/402	I	TP13			TP13	FD13	TP13	491/494	I						
	II	TP13			TP13	FD13	TP13		II						
	III	FD13	TP13		FD13				III		TQ12	FH13			
	IV	FD13	TP13		FD13				IV		TQ12	FH13			
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
411/412	I	TQ12	FH11					492	I					FH12	
	II	TQ12	FH11						II					FH12	
	III					FH11	FD12		III			FD13			
	IV					FH11	FD12		IV			FD13			
	V					FH11			V						
	VI					FD22			VI						
	VII					FD22			VII						
413/414	I	FH12						493	I						
	II	FH12							II						
	III					FH12			III	FD12					
	IV					FH12			IV	FD12					
	V								V						
	VI					TQ22			VI						
	VII					TQ22			VII						
415/416	I														
	II														
	III														
	IV														
	V														
	VI														
	VII														

国際ファッション専門職大学
卒業制作と兼用

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 東京モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)
 【前期】

旧

東京モード学園教室使用状況(ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)															
【前期】															
教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土
383/384	I	TP14	TP14					431/432	I	FH13		FH13	TP14	FH13	FH13
	II	TP14	TP14						II	FH13		FH13	TP14	FH13	FH13
	III			TP14	TP14				III		TP14		FH13	FH13	
	IV			TP14	TP14				IV		TP14		FH13	FH13	
	V								V						
	VI								VI	FD22					
	VII								VII	FD22					
385	I							433/434	I	FH14		FH14		FH14	FH14
	II								II	FH14		FH14		FH14	FH14
	III						FD14		III	FH14	FH14	FH14	FH14		
	IV						FD14		IV	FH14	FH14	FH14	FH14		
	V								V						
	VI	TQ23		FD24					VI			FD/TQ23		FD/TQ23	
	VII			FD24					VII	TQ23		FD/TQ23		FD/TQ23	
386	I							435/436	I	FD14	FD14		FD14	TP14	FD14
	II								II	FD14	FD14		FD14	TP14	FD14
	III		FH13						III		FD14	FD14		FD14	TP14
	IV		FH13						IV		FD14	FD14		FD14	TP14
	V								V					FD14	TP14
	VI	FD23							VI	FD/TQ24				FD/TQ24	
	VII	FD23							VII	FD/TQ24		FD24		FD/TQ24	
391	I		FD12	FH11		FH11	FD12	474	I	FD13	FD13		FD13		
	II		FD12	FH11		FH11	FD12		II	FD13	FD13		FD13		
	III	FH11	FD12	FH11	FD12		FH11		III						FD13
	IV	FH11	FD12	FH11	FD12		FH11		IV						FD13
	V			FH11			FH11		V					FD13	
	VI			FD22					VI						
	VII			FD22					VII						
392	I						TQ12	475	I			TP13			
	II						TQ12		II			TP13			
	III			FD12					III	TP13				TP13	TP13
	IV			FD12					IV	TP13				TP13	TP13
	V			FD12	FH12				V						
	VI			TQ22					VI						
	VII			TQ22					VII						
393	I							482	I						FH12
	II			TQ12			TQ12		II						FH12
	III	TQ12		TQ12	TQ12	TQ12			III	FH12	FH12		FH12		FH12
	IV	TQ12		TQ12	TQ12	TQ12			IV	FH12	FH12		FH12		FH12
	V	TQ12							V	FH12					
	VI	TQ22							VI						
	VII	TQ22		TQ24					VII						
401/402	I	TP13			TP13	FD13	TP13	491/494	I						
	II	TP13			TP13	FD13	TP13		II						
	III	FD13	TP13		FD13				III		TQ12	FH13			
	IV	FD13	TP13		FD13				IV		TQ12	FH13			
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
411/412	I	TQ12	FH11					492	I					FH12	
	II	TQ12	FH11						II					FH12	
	III						FH11		III				FD13		
	IV						FH11		IV				FD13		
	V						FH11		V						
	VI						FD22		VI						
	VII						FD22		VII						
413/414	I	FH12						493	I						
	II	FH12							II						
	III						FH12		III	FD12					
	IV						FH12		IV	FD12					
	V								V						
	VI						TQ22		VI						
	VII						TQ22		VII						
415/416	I	国際ファッション専門職大学 卒業制作と兼用													
	II														
	III														
	IV														
	V														
	VI														
	VII														

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 東京モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)
 【後期】

新

教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土
383/384	I							431/432	I	FH13	TP13	FH13	TP13		FH13
	II					FH12			II	FH13	TP13	FH13	TP13		
	III								III		FH13	FH13	FH13	TP14	FH13
	IV								IV		FH13		FH13	TP14	FH13
	V								V						
	VI								VI	FD/TQ22					
	VII								VII	FD/TQ22					
385	I					TP13		433/434	I	FH14	FH14		TP14		TP14
	II					TP13			II	FH14	FH14		TP14		TP14
	III								III	FH14		FH14		FH14	TP14
	IV								IV	FH14		FH14		FH14	TP14
	V								V						
	VI	TQ23							VI			FD/TQ23		FD/TQ23	
	VII								VII	TQ23		FD/TQ23		FD/TQ23	
386	I							435/436	I	FD14	TP14		FD14		FD14
	II								II	FD14	TP14		FD14		FD14
	III								III	FD14	TP13	TP14	FD14	TP13	TP13
	IV								IV	FD14	TP13	TP14	FD14	TP13	TP13
	V								V						TP13
	VI	FD23							VI	FD/TQ24				FD/TQ24	
	VII	FD23							VII	FD/TQ24		TQ24		FD/TQ24	
391	I	FH11	FH11			FH11		474	I		FD13		FD13		FD13
	II	FH11	FH11			FH11			II		FD13		FD13		FD13
	III	FH11				FD14	FH11		III	FD13					
	IV					FD14	FH11		IV	FD13					
	V						FH11		V						
	VI								VI						
	VII								VII						
392	I	FD12					FD12	475	I						
	II	FD12					FD12		II						
	III		FD12	FD12		FD12			III			TP13			
	IV		FD12	FD12		FD12			IV			TP13			
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
393	I	TQ12						482	I	FH12		FH12		FH13	
	II	TQ12				TQ12			II	FH12		FH12		FH13	
	III	TQ12	TQ12			TQ12	TQ12		III					FH12	FH12
	IV	TQ12	TQ12			TQ12	TQ12		IV					FH12	FH12
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
401/402	I	TP14				FH14	FH14	491/494	I						
	II	TP14				FH14	FH14		II						
	III	TP13	TP14	FD13	FH12	FD13	FD13		III				FD13		
	IV	TP13	TP14	FD13	FH12	FD13	FD13		IV				FD13		
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
411/412	I					TQ12		492	I				FD12		
	II					TQ12			II				FD12		
	III		FH11	FD14	FH11		FH14		III	FH13	FH12		TQ12	FH11	
	IV		FH11	FD14	FH11		FH14		IV	FH13	FH12		TQ12	FH11	
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
413/414	I		FD14			FH12		493	I						
	II		FD14			FH12			II						
	III					TQ12			III						
	IV								IV						
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
415/416	I							国際ファッション専門職大学 卒業制作と兼用							
	II														
	III														
	IV														
	V														
	VI														
	VII														

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 東京モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)
 【後期】

旧

【後期】																
教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	
383/384	I							431/432	I	FH13	TP13	FH13	TP13		FH13	
	II					FH12			II	FH13	TP13	FH13	TP13			
	III								III		FH13	FH13	FH13	TP14	FH13	
	IV								IV		FH13			FH13	TP14	FH13
	V								V							
	VI								VI	FD/TQ22						
	VII								VII	FD/TQ22						
385	I					TP13		433/434	I	FH14	FH14		TP14		TP14	
	II					TP13			II	FH14	FH14		TP14		TP14	
	III								III	FH14		FH14		FH14	TP14	
	IV								IV	FH14		FH14		FH14	TP14	
	V								V							
	VI	TQ23							VI				FD/TQ23		FD/TQ23	
	VII								VII	TQ23			FD/TQ23		FD/TQ23	
386	I							435/436	I	FD14	TP14		FD14		FD14	
	II								II	FD14	TP14		FD14		FD14	
	III								III	FD14	TP13	TP14	FD14	TP13	TP13	
	IV								IV	FD14	TP13	TP14	FD14	TP13	TP13	
	V								V							
	VI	FD23							VI	FD/TQ24					FD/TQ24	
	VII	FD23							VII	FD/TQ24		TQ24		FD/TQ24		
391	I	FH11	FH11			FH11		474	I		FD13		FD13		FD13	
	II	FH11	FH11			FH11			II		FD13		FD13		FD13	
	III	FH11				FD14	FH11		III	FD13						
	IV					FD14	FH11		IV	FD13						
	V						FH11		V							
	VI			FD24					VI							
	VII			FD24					VII							
392	I	FD12					FD12	475	I							
	II	FD12					FD12		II							
	III		FD12	FD12		FD12			III			TP13				
	IV		FD12	FD12		FD12			IV			TP13				
	V								V							
	VI				TQ24				VI							
	VII								VII							
393	I	TQ12						482	I	FH12		FH12		FH13		
	II	TQ12				TQ12			II	FH12		FH12		FH13		
	III	TQ12	TQ12			TQ12	TQ12		III					FH12	FH12	
	IV	TQ12	TQ12			TQ12	TQ12		IV					FH12	FH12	
	V								V							
	VI								VI							
	VII				FD/TQ22				VII							
401/402	I	TP14			FH14		FH14	491/494	I							
	II	TP14			FH14		FH14		II							
	III	TP13	TP14	FD13	FH12	FD13	FD13		III				FD13			
	IV	TP13	TP14	FD13	FH12	FD13	FD13		IV				FD13			
	V								V							
	VI								VI							
	VII								VII							
411/412	I				TQ12			492	I				FD12			
	II				TQ12				II				FD12			
	III		FH11	FD14	FH11		FH14		III	FH13	FH12		FD12	FH11		
	IV		FH11	FD14	FH11		FH14		IV	FH13	FH12		TQ12	FH11		
	V								V							
	VI					FD22			VI							
	VII					FD22			VII							
413/414	I		FD14		FH12			493	I							
	II		FD14		FH12				II							
	III				TQ12		FD12		III							
	IV						FD12		IV							
	V								V							
	VI					TQ22			VI							
	VII					TQ22			VII							
415/416	I															
	II															
	III															
	IV															
	V															
	VI															
	VII															

国際ファッション専門職大学
卒業制作と兼用

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 大阪モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)
 【前期】

新

教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土
103	I				FH/FD/TP13	FH13	FH12	047	I						
	II				FH/FD/TP13	FH13	FH12		II	TP13					
	III	FD/TP13	FH/FD/TP13			FD/TP14	FH12		III						
	IV	FD/TP13				FD/TP14	FH12		IV						
	V								V						
	VI	FD/TQ23		FD/TQ24					VI						
	VII	FD23		FD24					VII	TQ23		TQ24			
071	I	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	034	I	TP13	FH14	FD/TQ13	FH11	FH11	FD/TP13
	II	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12		II		FH14	FD/TQ13	FH11		FD/TP13
	III	FH12				FD/TQ12	FD/TQ12		III		FH14	TP14		FD/TP13	
	IV	FH12				FD/TQ12	FD/TQ12		IV		FH14	TP14		FD/TP13	
	V			FH12	FD/TQ12				V						
	VI	FD/TQ22		FD/TQ22					VI			FD/TQ23		FD24	
	VII	FD/TQ22		FD/TQ22					VII	TQ24		FD/TQ23		FD24	
073	I							B011	I		FH13				
	II								II		FH13				
	III								III						
	IV								IV						
	V								V						
	VI								VI					FD23	
	VII								VII						
053	I	TP14	FD/TP14	FH13	FH14		FD/TP14	B012	I	FH11					
	II	TP14	FD/TP14	FH13	FH14		FD/TP14		II	FH11					
	III		FD/TP14		FD/TP14	FH13	FH14		III				FH11		
	IV		FD/TP14		FD/TP14	FH13	FH14		IV				FH11		
	V								V						
	VI					TQ24			VI						
	VII					TQ24			VII						
054	I	FD14		FD14	FD/TP14			B014	I		FD/TQ13				
	II	FD14		FD14	FD/TP14	FH11			II		FD/TQ13				
	III	FH13		FH14	FH14	FH11	FH13		III			FH12	FD/TQ12	FH12	
	IV	FH13		FH14	FH14	FH14	FH13		IV			FH12	FD/TQ12	FH12	
	V					FH14			V						
	VI					TQ23			VI	FD/TQ24				FD/TQ22	
	VII					TQ23			VII					FD/TQ22	
045	I		FH12					B015	I						
	II		FH12						II						
	III		FD/TQ12	FH13	FD13				III						
	IV		FD/TQ12	FH13	FD13				IV						
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
046	I	FH14	FH11			FD/TP13		046	I	FH14	FH11			FD/TP13	
	II	FH14	FH11			FD/TP13			II	FH14	FH11			FD/TP13	
	III		FH11				FH11		III		FH11				FH11
	IV		FH11				FH11		IV		FH11				FH11
	V								V						
	VI								VI						
	VII	FD24					FD23		VII	FD24					FD23

国際ファッション専門職大学
卒業制作と兼用

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 大阪モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)
 【前期】

旧

大阪モード学園教室使用状況ファッションデザイン学科/ファッション技術学科																
【前期】																
教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	
103	I				FH/FD/TP13	FH13	FH12	047	I							
	II				FH/FD/TP13	FH13	FH12		II	TP13						
	III	FD/TP13	FH/FD/TP13			FD/TP14	FH12		III							
	IV	FD/TP13				FD/TP14	FH12		IV							
	V								V							
	VI	FD/TQ23		FD/TQ24					VI							
	VII	FD23		FD24					VII	TQ23			TQ24			
071	I	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	034	I	TP13	FH14	FD/TQ13	FH11	FH11	FD/TP13	
	II	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12		II		FH14	FD/TQ13	FH11		FD/TP13	
	III	FH12				FD/TQ12	FD/TQ12		III		FH14	TP14			FD/TP13	
	IV	FH12				FD/TQ12	FD/TQ12		IV		FH14	TP14			FD/TP13	
	V			FH12	FD/TQ12				V							
	VI	FD/TQ22		FD/TQ22					VI				FD/TQ23		FD24	
	VII	FD/TQ22		FD/TQ22					VII	TQ24			FD/TQ23		FD24	
073	I							E011	I		FH13					
	II								II		FH13					
	III								III							
	IV								IV							
	V								V							
	VI								VI						FD23	
	VII								VII							
053	I	TP14	FD/TP14	FH13	FH14		FD/TP14	E012	I	FH11						
	II	TP14	FD/TP14	FH13	FH14		FD/TP14		II	FH11						
	III		FD/TP14		FD/TP14	FH13	FH14		III				FH11			
	IV		FD/TP14		FD/TP14	FH13	FH14		IV				FH11			
	V								V							
	VI						TQ24		VI							
	VII						TQ24		VII							
054	I	FD14		FD14	FD/TP14			E014	I		FD/TQ13					
	II	FD14		FD14	FD/TP14	FH11			II		FD/TQ13					
	III	FH13		FH14	FH14	FH11	FH13		III			FH12	FD/TQ12	FH12		
	IV	FH13		FH14	FH14	FH14	FH13		IV			FH12	FD/TQ12	FH12		
	V					FH14			V							
	VI					TQ23			VI	FD/TQ24					FD/TQ22	
	VII					TQ23			VII						FD/TQ22	
045	I		FH12					E015	I							
	II		FH12						II							
	III		FD/TQ12	FH13	FD13				III							
	IV		FD/TQ12	FH13	FD13				IV							
	V								V							
	VI								VI							
	VII								VII							
046	I	FH14	FH11			FD/TP13										
	II	FH14	FH11			FD/TP13										
	III		FH11				FH11									
	IV		FH11				FH11									
	V						FH11									
	VI															
	VII	FD24					FD23									

国際ファッション専門学校
卒業生兼任

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 大阪モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)
 【後期】

新

教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	
103	I	FH14	FH11		FD/TP13	FD/TP13		047	I							
	II	FH14	FH11		FD/TP13	FH/FD/TP13	FH11		II	TP13						
	III		FH13			FH14	FH11		III							
	IV					FH14	FH11		IV							
	V						FH11		V							
	VI	FD/TQ23		FD/TQ24					VI							
	VII	FD23							VII						TQ23	
071	I	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FH/FD/TQ12	034	I	TP14	FH14	FD/TP13	FH14	TP14	FD/TP14	
	II	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FH/FD/TQ12		II	TP14	FH14	FD/TP13	FH14	TP14	FD/TP14	
	III	FH12	FD13			FD/TQ12	FH/FD/TP13		III	TP13	FH14		FD/TP14	FD/TP13	FH14	
	IV	FH12				FD/TQ12	FH/FD/TP13		IV	TP13	FH14		FD/TP14	FD/TP13	FH14	
	V			FH12	FD/TQ12				V	TP13						
	VI	FD/TQ22		FD/TQ22					VI			FD/TQ23			FD24	
	VII	FD/TQ22		FD/TQ22					VII	TQ23		FD/TQ23			FD24	
073	I					FH11		B011	I		FH13					
	II								II		FH13					
	III					FD14			III							
	IV					FD14			IV							
	V								V							
	VI								VI						FD/TQ23	
	VII								VII							
053	I		FD/TP14	FH13				B012	I	FH11						
	II		FD/TP14	FH13					II	FH11						
	III		FD/TP14			FH13			III				FH11			
	IV		FD/TP14			FH13			IV				FH11			
	V								V							
	VI					TQ24			VI							
	VII			TQ24		TQ24			VII							
054	I	TP13			FD/TP14	FH13		B014	I		FD/TP13					
	II				FD/TP14	FH11			II		FD/TP13					
	III	FD13		FH/FD/TP14	FH14	FH11			III			FH12	FD/TQ12			
	IV	FD13		FH/FD/TP14	FH14				IV			FH12	FD/TQ12			
	V								V							
	VI								VI	FD/TQ24					FD/TQ22	
	VII								VII	FD/TQ24					FD/TQ22	
045	I		FH12		FH11			B015	I							
	II		FH12		FH11				II							
	III		FD/TQ12	FH13	FD13				III		国際ファッション専門職大学 卒業制作と兼用					
	IV		FD/TQ12	FH13	FD13		IV									
	V						V									
	VI						VI									
	VII						VII									
046	I	FD14			FH13			046	I	FD14			FH13			
	II	FD14			FH13		FH/FD/TQ12		II	FD14			FH13		FH/FD/TQ12	
	III	FH13	FH11			FH12	FH/FD/TQ12		III	FH13	FH11			FH12	FH/FD/TQ12	
	IV	FH13	FH11			FH12			IV	FH13	FH11			FH12		
	V								V							
	VI								VI							
	VII			FD24		FD23			VII				FD24		FD23	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 大阪モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)
 【後期】

旧

【後期】															
教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	
103	I	FH14	FH11		FD/TP13	FD/TP13		047	I						
	II	FH14	FH11		FD/TP13	FH/FD/TP13	FH11		II	TP13					
	III		FH13			FH14	FH11		III						
	IV					FH14	FH11		IV						
	V						FH11		V						
	VI	FD/TQ23		FD/TQ24					VI						
	VII	FD23							VII					TQ23	
071	I	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FH/FD/TQ12	034	I	TP14	FH14	FD/TP13	FH14	TP14	
	II	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FH/FD/TQ12		II	TP14	FH14	FD/TP13	FH14	TP14	
	III	FH12	FD13			FD/TQ12	FH/FD/TP13		III	TP13	FH14		FD/TP14	FD/TP13	
	IV	FH12				FD/TQ12	FH/FD/TP13		IV	TP13	FH14		FD/TP14	FD/TP13	
	V			FH12	FD/TQ12				V	TP13					
	VI	FD/TQ22		FD/TQ22					VI			FD/TQ23		FD24	
	VII	FD/TQ22		FD/TQ22					VII	TQ23		FD/TQ23		FD24	
073	I					FH11		E011	I		FH13				
	II								II		FH13				
	III					FD14			III						
	IV					FD14			IV						
	V								V						
	VI								VI					FD/TQ23	
	VII								VII						
053	I		FD/TP14	FH13				E012	I	FH11					
	II		FD/TP14	FH13					II	FH11					
	III		FD/TP14			FH13			III				FH11		
	IV		FD/TP14			FH13			IV				FH11		
	V								V						
	VI					TQ24			VI						
	VII			TQ24		TQ24			VII						
054	I	TP13			FD/TP14	FH13		E014	I		FD/TP13				
	II				FD/TP14	FH11			II		FD/TP13				
	III	FD13		FH/FD/TP14	FH14	FH11			III			FH12	FD/TQ12		
	IV	FD13		FH/FD/TP14	FH14				IV			FH12	FD/TQ12		
	V								V						
	VI								VI	FD/TQ24				FD/TQ22	
	VII								VII	FD/TQ24				FD/TQ22	
045	I		FH12		FH11			E015	I						
	II		FH12		FH11				II						
	III		FD/TQ12	FH13	FD13				III	国際ファッション専門職大学 卒業制作兼用					
	IV		FD/TQ12	FH13	FD13		IV								
	V						V								
	VI						VI								
	VII						VII								
046	I	FD14			FH13										
	II	FD14			FH13		FH/FD/TQ12								
	III	FH13	FH11			FH12	FH/FD/TQ12								
	IV	FH13	FH11			FH12									
	V														
	VI														
	VII			FD24		FD23									

(3) 運用方法

各キャンパスでは、1教室あたり、月曜日から土曜日までの1限目から5限目の30コマと、6限目と7限目の12コマを合わせて42コマを、原則として学年別に割り振りローテーションで運用する。

割当曜日や時間帯の設定は、学年ごとのカリキュラム編成と授業科目を考慮して定めた。

多くの場合、1年生と2年生は、月曜日から金曜日までの1から5限目まで授業と重なることが多いため、6、7限目に多く時間を配分したり、比較的授業の少ない土曜日に時間を定めるなどの工夫をした。3年生は、国内外の臨地実務実習に出かけることも勘案しつつ、ゼミや選択科目などのある曜日などに割り当てを多くした。4年生は、卒業制作・計画とゼミが主要な学習となるため、その授業に合わせた曜日に多くの時間を割り当てた。授業時間と制作の出来る自習教室の使用時間を重ねる理由は、担当教員の研究室及び共同研究室で進捗発表や指導を受けつつ、場合によっては制作教室に移っての指導や作業を進めることも可能にするためである。

◎東京キャンパス

・ファッションクリエイション学科

ファッションクリエイション学科は、定員80名、全学年320名で3教室を使用する。各教室は80名以下の席数であるから、2つの教室（402教室、415教室：全86席）をまとめて、一学年全員が使用できる時間を下記の2つの表「学生用制作教室の運用表」の通り定めた。

そして、1つの教室（473教室：全50席）を原則として2コマを1コマ分として割り当てるか、1年生や2年生で実施するように2クラスに分けてローテーションで運営方法を表15にまとめた。ファッションクリエイション学科は80名定員のため、原則として授業もAとBの2クラス40名ずつに分けて運用している。

各学年が専有する時間（コマ）は、1年生13コマ、2年生21コマ、3年生11コマ、4年生15コマである。このほかに、全学年が使用できる時間とスペースを4コマとり、必要な自習時間とスペースを満たす。

ローテーションの組み方は、当学科のカリキュラムを勘案して定めた。東京キャンパスを共に使用するファッションビジネス学科とも教室仕様が重ならない。詳細は、各学年の学生の授業時間と自習時間がわかる「学生自習時間割」（『設置の趣旨等を記した書類』添付資料14-4）に示す。教室の割り振りは、カリキュラムや制作内容、制作の頻度等を勘案して定めた。

表 10 学生用制作教室の運用表（前期）

（東京 402教室、415教室：全86席）

	月	火	水	木	金	土
1	3年①	4年①	4年⑥	3年④	4年⑪	2年⑧
2	3年②	4年②	4年⑦	3年⑤	4年⑫	2年⑨
3	全学年	4年③	4年⑧	2年①	4年⑬	2年⑩
4	全学年	4年④	4年⑨	2年②	4年⑭	2年⑪
5	3年③	4年⑤	4年⑩	2年③	4年⑮	2年⑫
6	1年①	1年③	1年⑤	2年④	2年⑥	1年⑦
7	1年②	1年④	1年⑥	2年⑤	2年⑦	1年⑧

表 11 学生用制作教室の運用表（前期）

（東京 473教室：全50席）

	月	火	水	木	金	土
1	2年B⑬	2年A⑬	2年A⑮	1年A⑨	1年B⑨	3年⑨
2	2年B⑭	2年A⑭	2年A⑯	1年A⑩	1年B⑩	
3	2年B⑮	2年B⑱	2年A⑰	1年A⑪	1年B⑪	3年⑩
4	2年B⑯	2年B⑲	2年A⑱	1年A⑫	1年B⑫	
5	2年B⑰	全学年	2年A⑲	1年A⑬	1年B⑬	全学年
6	2年⑳	3年⑥	3年⑦	3年⑪	3年⑧	2年21
7						

※専有時間：1年…13コマ、2年…21コマ、3年…11コマ、4年…15コマ
共有時間：全学年…4コマ

表 12 学生用制作教室の運用表（後期）

（東京 402教室、415教室：全86席）

	月	火	水	木	金	土
1	3年①	4年①	4年⑥	3年④	4年⑪	2年⑧
2	3年②	4年②	4年⑦	3年⑤	4年⑫	2年⑨
3	全学年	4年③	4年⑧	2年①	4年⑬	2年⑩
4	全学年	4年④	4年⑨	2年②	4年⑭	2年⑪
5	3年③	4年⑤	4年⑩	2年③	4年⑮	2年⑫
6	1年①	1年③	1年⑤	2年④	2年⑥	1年⑦
7	1年②	1年④	1年⑥	2年⑤	2年⑦	1年⑧

表 13 学生用制作教室の運用表（後期）

（東京 473教室：全50席）…クラスに分けて使用

	月	火	水	木	金	土
1	2年B⑬	3年⑨	1年B⑨	2年A⑮	1年A⑨	2年A⑬
2	2年B⑭		1年B⑩	2年A⑯	1年A⑩	2年A⑭
3	2年B⑮	3年⑩	1年B⑪	2年A⑰	1年A⑪	2年B⑱
4	2年B⑯		1年B⑫	2年A⑱	1年A⑫	2年B⑲
5	2年B⑰	全学年	1年B⑬	2年A⑲	1年A⑬	全学年
6	2年⑳	3年⑥	3年⑦	3年⑪	3年⑧	2年21
7						

※専有時間：1年…13コマ、2年…19コマ、3年…10コマ、4年…18コマ
共有時間：全学年…4コマ

◎東京キャンパス
・ファッションビジネス学科

ファッションビジネス学科は、定員38名の全学年約160名で学生専用教室1室（401教室：44席）を使用する。下記、表4「学生用制作教室の運用表」の通り、各学年が専有する時間（コマ）は、1年生12コマ、2年生12コマ、3年生2コマ、4年生15コマとなっており、必要な自習時間を満たす。

あわせて、当学科では授業終了後の6、7限目に、各学年に1つずつ教室を割り当てて、4教室を使用する。441教室を1年生に、442教室を2年生に、443教室を3年生に、444教室を4年生の専用として月曜日から土曜日の6、7限目を自習できるように運用する。これにより、各学年が専有する時間（コマ）を、1年生12コマ、2年生12コマ、3年生12コマ、4年生12コマずつ加えて、1年生24コマ、2年生24コマ、3年生15コマ、4年生27コマとなり、十分な時間とスペースを確保する。

学生専用の自習教室である401教室を含め、当学科に割り当てた全教室で40席以上あり、一学年が同時に制作することも可能である。ローテーションの組み方は、当学科のカリキュラムを勘案して表4の通り定めた。東京キャンパスを共に使用するファッションクリエイション学科とも教室仕様が重ならない。詳細は、各学年の学生の授業時間と自習時間がわかる「学生自習時間割」（『設置の趣旨等を記した書類』添付資料14-4）に示す。

表 14 学生用制作教室の運用表（通年）
（東京 401教室：全44席）

	月	火	水	木	金	土
1	2年①	4年①	4年⑥	3年①	4年⑪	2年⑩
2	2年②	4年②	4年⑦	1年⑤	4年⑫	2年⑪
3	2年③	4年③	4年⑧	3年②	4年⑬	2年⑫
4	2年④	4年④	4年⑨	1年⑥	4年⑭	1年⑨
5	2年⑤	4年⑤	4年⑩	3年③	4年⑮	1年⑩
6	2年⑥	1年①	1年③	2年⑧	1年⑦	1年⑪
7	2年⑦	1年②	1年④	2年⑨	1年⑧	1年⑫

※専有時間：1年…12コマ、2年…12コマ、3年…2コマ、4年…15コマ

◎大阪キャンパス

・大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、定員38名、全学年約160名で、2つの教室（035教室：全48席、B015教室：全60席）の全108席を使用する。全教室とも一学年の学生が一同に来て十分な作業ができるスペースとなっている。

原則として、月曜日から土曜日までの1限目から7限目までの各コマを単位として、学年別に使用時間を割り振ることで、卒業制作などの制作から、各学年の授業の課題制作まで、4学年全員が等しく作業をできる環境を整備した。

大阪キャンパスでは、全学年の学生が毎日、2コマ以上の専有に使用できる時間をもつ。基本的に、新しく準備した教室を1、2年生の主な使用教室とし、これまで準備した教室を3、4年生の主な使用教室としている。使用する曜日や時間帯は、学年ごとのカリキュラム編成と授業科目を考慮して定め、各21コマ制作時間を持つ。

・大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

(大阪 035教室：全48席)

表 15 学生用制作教室の運用表 (通年)

	月	火	水	木	金	土
1	1年①	2年①	1年⑥	2年⑥	4年①	3年①
2	1年②	2年②	1年⑦	2年⑦	4年②	3年②
3	1年③	2年③	1年⑧	2年⑧	4年③	3年③
4	1年④	2年④	1年⑨	2年⑨	4年④	3年④
5	1年⑤	2年⑤	1年⑩	2年⑩	4年⑤	3年⑤
6	2年⑪	1年⑪	2年⑬	1年⑬	3年⑥	4年⑥
7	2年⑫	1年⑫	2年⑭	1年⑭	3年⑦	4年⑦

※専有時間：1年生…14コマ、2年生…14コマ
3年生…7コマ、4年生…7コマ

表 16 学生用制作教室の運用表 (通年)

(大阪 B015教室：全60席)

	月	火	水	木	金	土
1	3年①	4年①	4年⑥	3年①	2年①	1年①
2	3年②	4年②	4年⑦	3年②	2年②	1年②
3	3年③	4年③	4年⑧	3年③	2年③	1年③
4	3年④	4年④	4年⑨	3年④	2年④	1年④
5	3年⑤	4年⑤	4年⑩	3年⑤	2年⑤	1年⑤
6	4年⑥	3年⑥	3年⑥	4年⑧	1年⑧	2年⑧
7	4年⑦	3年⑦	3年⑦	4年⑨	1年⑨	2年⑨

※専有時間：1年生…14コマ、2年生…14コマ
3年生…7コマ、4年生…7コマ

◎名古屋キャンパス

・名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、定員38名、全学年約160名で、2つの教室（241教室：全63席、242教室：全52席）の全115席を使用する。全教室とも一学年の学生が一同に来て十分な作業ができるスペースとなっている。

原則として、月曜日から土曜日までの1限目から7限目までの各コマを単位として、学年別に使用時間を割り振ることで、卒業制作などの制作から、各学年の授業の課題制作まで、4学年全員が等しく作業をできる環境を整備した。

大阪キャンパスでは、全学年の学生が毎日、2コマ以上の専有に使用できる時間をもつ。基本的に、新しく準備した教室を1、2年生の主な使用教室とし、これまで準備した教室を3、4年生の主な使用教室としている。使用する曜日や時間帯は、学年ごとのカリキュラム編成と授業科目を考慮して定め、各21コマ制作時間を持つ。

・名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

(名古屋 241教室：全63席)

表 17 学生用制作教室の運用表 (通年)

	月	火	水	木	金	土
1	1年①	2年①	1年⑥	2年⑥	4年①	3年①
2	1年②	2年②	1年⑦	2年⑦	4年②	3年②
3	1年③	2年③	1年⑧	2年⑧	4年③	3年③
4	1年④	2年④	1年⑨	2年⑨	4年④	3年④
5	1年⑤	2年⑤	1年⑩	2年⑩	4年⑤	3年⑤
6	2年⑪	1年⑪	2年⑬	1年⑬	3年⑥	4年⑥
7	2年⑫	1年⑫	2年⑭	1年⑭	3年⑦	4年⑦

※専有時間：1年生…14コマ、2年生…14コマ
3年生…7コマ、4年生…7コマ

(名古屋 242教室：全52席)

表 18 学生用制作教室の運用表 (通年)

	月	火	水	木	金	土
1	3年①	4年①	4年⑥	3年①	2年①	1年①
2	3年②	4年②	4年⑦	3年②	2年②	1年②
3	3年③	4年③	4年⑧	3年③	2年③	1年③
4	3年④	4年④	4年⑨	3年④	2年④	1年④
5	3年⑤	4年⑤	4年⑩	3年⑤	2年⑤	1年⑤
6	4年⑥	3年⑥	3年⑥	4年⑧	1年⑧	2年⑧
7	4年⑦	3年⑦	3年⑦	4年⑨	1年⑨	2年⑨

※専有時間：1年生…14コマ、2年生…14コマ
3年生…7コマ、4年生…7コマ

(新旧対照表) 設置の主旨等を記載した書類

新	旧
添付資料 14-4 学生自習時間割	<u>(追加)</u>

(新旧対照表) 設置の主旨等を記した書類 (76-81 ページ)

新	旧
<p>8. 設置、設備等の整備計画</p> <p>8.2 校舎等施設の整備計画</p> <p>本学は、教育課程が十分に遂行できる校舎等の整備を行い、学生が満足して修学できる体制を整えている。ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科の講義室は、モード学園コクーンタワー44階に4室専有する。演習室は、38階に22室研究室と共有。実習室は、40階に2室専有し、39階に1室、41階に1室、47階に1室を専修学校と共有する。教員の研究室は38階に22室整備をし(全て演習室と共有する)、38階に1室、42階に2室の共同研究室を整備する。学生控室は、50階に1室を共有する。学生自習室は、5階の図書室と共有する。管理室は、1階に専修学校3校と共有し、学生の教学等の支援を行う。また、42階に学長室を整備する。既設の専修学校及び通信大学とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を対応するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生、通信大学の学生が共有する。</p> <p>大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の講義室は、大阪総合校舎6階に2室、8階に2室、演習室は、5階に6室、10階に9室研究室と共有する。実習室は、3階に1室専有し、地下1階に2室(うち1室は専修学校と共有する)、5階に1室を専修学校と共有する。教員の研究室は、5階に6室、10階に9室整備をし(全て演習室と共有する)、10階に2室の共同研究室を整備する。学生控室は、8階に1室、学生自習室と共有する。管理室は1階に専修学校2校と共有し、学生の教学等の支援を行う。(削除)</p> <p>既設の専修学校とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を対応するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生が共有する。</p> <p>名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の講義室は、モード学園スパイラルタワーズ32階に1室、33階に1室、34階に1室、演習室は、31階に5室、33階に5室、35階に5室研究室と共有する。実習室は、24階に1室専有し、24階に1室、26階に1室、専修学校と共有する。教員の研究室は、31階に5室、33階に5室、35階に5室整備をし(全て演習室と共有する)、33階に2室の共同研究室を整備する。学生控室と、学生自習室は、3階に1室図書室と共有する。管理室は2階に専修学校3校と共有し、</p>	<p>8. 設置、設備等の整備計画</p> <p>8.2 校舎等施設の整備計画</p> <p>本学は、教育課程が十分に遂行できる校舎等の整備を行い、学生が満足して修学できる体制を整えている。ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科の講義室は、モード学園コクーンタワー44階に4室、演習室は38階に6室、実験・実習室は39階に1室(専修学校と共有)、41階に1室(専修学校と共有)、47階に1室(専修学校と共有)を整備する。教員の共同研究室は42階に1室整備をし、その中に6室の個室研究室を整備する。また、38階に16室(うち6室は演習室と兼用する)の個室研究室を整備する。学生控室は、50階に1室を共有する。学生自習室は、5階の図書室と共有する。管理室は、1階に専修学校3校と共有し、学生の教学等の支援を行う。また、42階に学長室を整備する。既設の専修学校及び通信大学とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を対応するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生、通信大学の学生が共有する。</p> <p>大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の講義室は、大阪総合校舎6階に2室、8階に2室、演習室は5階に5室、実験・実習室は、地下1階に2室(うち1室を専修学校と共有)、5階に1室(専修学校と共有)を整備する。教員の共同研究室は、10階に1室整備をし、その中に5室の個室研究室を整備する。また、5階に10室(うち5室を専修学校と共有)の個室研究室を整備する。学生控室は、6階に1室、学生自習室と兼用する。管理室は1階に専修学校2校と共有し、学生の教学等の支援を行う。また、10階に副学長室も整備する。既設の専修学校とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を対応するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生が共有する。</p> <p>名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の講義室は、モード学園スパイラルタワーズ32階に1室、33階に1室、34階に2室、演習室は35階に2室、実験・実習室は24階に1室(専修学校と共有)、26階に1室(専修学校と共有)と整備する。教員の共同研究室は、35階に1室整備をし、その中に6室の個室研究室と2室の個室研究室(演習室と共有)を整備し、33階にも1室整備をし、その中に6室の個室研究室を整備する。学生控室と、学生自習室</p>

<p>学生の教学等の支援を行う。既設の専修学校とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を対応するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生が共有する。</p>	<p>は、3階に1室図書室と共有する。管理室は2階に専修学校3校と共有し、学生の教学等の支援を行う。既設の専修学校とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を対応するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生が共有する。</p>
<p>8. 設置、設備等の整備計画 8.2.1 教員の研究室、必要な教室の整備計画 モード学園コクーンタワーには、学長室1室、研究室22室、普通教室4室、<u>実習室5室(内3室は専修学校と共有する)</u>、<u>演習室22室(研究室と兼ねる)</u>を整備する。大阪総合校舎には、<u>副学長室兼研究室1室</u>、研究室14室、普通教室4室、<u>実習室4室(内2室は専修学校と共有する)</u>、<u>演習室15室(研究室と兼ねる)</u>を整備する。</p> <p>モード学園スパイラルタワーズには、研究室15室、普通教室3室、<u>実習室3室(内2室は専修学校と共有する)</u>、<u>演習室15室(研究室と兼ねる)</u>を整備する。</p>	<p>8. 設置、設備等の整備計画 8.2.1 教員の研究室、必要な教室の整備計画 モード学園コクーンタワーには、学長室1室、研究室22室、<u>講師控室1室(専修学校と共有)</u>、普通教室4室、<u>演習室6室</u>を整備する。</p> <p>大阪総合校舎には、副学長室1室、研究室14室、<u>講師控室1室(専修学校と共有)</u>、普通教室5室、<u>演習室5室</u>を整備する。</p> <p>モード学園スパイラルタワーズには、研究室14室、<u>講師控室1室(専修学校と共有)</u>、普通教室4室、<u>演習室2室</u>を整備する。</p>
<p>8.3 図書等の資料及び図書館の整備計画 (中略) 8.3.3 共用施設の使用計画 (中略) 【<u>自習室(削除)</u>】：学生専用の自習室を各キャンパスに整備し、全学年の学生が制作などに使用できる十分なスペースを確保する。本学専用教室と専門学校と共有する教室を、東京キャンパスに4教室、473教室(100.52㎡)、415教室(76.51㎡)、401教室(81.96㎡)、402教室(80.79㎡)、大阪キャンパスに2教室、B015教室(108.46㎡)、035教室(66㎡)、名古屋キャンパスに2教室、241教室(118㎡)242教室(105㎡)用意する。制作などの実習用教室のほかに、講義室など授業時間外の教室利用に明確なルールを定め、全ての学年の学生が十分に自習できるよう運用する。</p>	<p>8.3 図書等の資料及び図書館の整備計画 (中略) 8.3.3 共用施設の使用計画 (中略) 【<u>自習室(図書室)</u>】 <u>開学後、図書室の使用状況をみながら、図書室が混雑する場合は、国際ファッション専門職大学の専用教室となっている教室を、未使用の時間帯には自習室として開放する。</u></p>

(新旧対照表) 設置の主旨等を記載した書類

新	旧
添付資料 14-4 学生自習時間割	(追加)

審査意見への対応を記載した書類（8月）

国際ファッション専門職大学

学校法人日本教育財団

審査意見への対応を記載した書類（8月）

(目次)	国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科
	国際ファッション学部 ファッションビジネス学科
	国際ファッション学部 大阪ファッション学科
	国際ファッション学部 名古屋ファッション学科
	【全学共通】

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1.<カリキュラム・ポリシーが不適切>
カリキュラム・ポリシーがディプロマ・ポリシーと相違なく、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程編成、当該教育課程における学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方等を具体的に示したカリキュラム・ポリシーとなっていないため、適切に見直すこと。（是正事項）
・・・・・・・・1

2.<書類間の不整合>
審査意見への対応を記載した書類と学生確保の見通し等を記載した書類が整合していないため、適切に改めること。（改善事項）
・・・・・・・・17

【教育課程等】

3.<科目の内容が不適切>
大学教育水準としてふさわしいか疑義がある科目が散見されるため、教育課程全体を再度確認した上で、大学教育水準としてふさわしい教育の成果を上げる科目が配置されるよう、必要な修正を行うこと。（是正事項）
・・・・・・・・23

4.<教育課程の体系性が不十分>
家政学の中でも、被服生理学、被服環境学、被服材料学等を学修できる教育課程であるか不明確であるため、これらを学修できる教育課程であるか説明するか、適切に改めること。（是正事項）
・・・・・・・・29

5.<教育課程連携協議会の構成員区分が不適切>
依然として、教育課程連携協議会の構成員のうち、「当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者」に該当しない者が当該区分に含まれているため、構成区分を改めること。（是正事項）
・・・・・・・・30

6.<科目区分の趣旨に沿った科目内容であるか不明確>
展開科目として配置した科目が「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的としている展開科目の趣旨を踏まえた内容となっているか不明確である。展開科目を通じて養成する「現代のファッション産業の国際化や情報化などの変化に対応する能力」を養成できる科目の内容となるように科目区分や科目内容を見直すこと。（是正事項）
・・・・・・・・31

7.<科目の実施体制が不明確>
教育上の効果についての説明は一定程度なされたが、教育上の目的が依然として不明確であるため、改めて説明すること。（改善事項）
・・・・・・・・42

8.<実習の評価方法が不明>

「臨地実習Ⅱ（地方産地）」について、「自己評価表」及び「実習（人物）評価表」に基づき、成績評価及び単位認定を行うことが説明されているが、「実習（実務）評価表」がなく、実習を通じて修得しようとする具体的な知識・技能等をどのように評価するのか不明確であるため、改めて評価方法を説明するか、適切に改めること。（改善事項）

・・・・44

9.<授業科目の充実>

以下の点を踏まえ、教育課程の改善を検討すること。

・「デジタルテクノロジー演習」について、3Dプリンタを学修する内容が含まれているが、3Dプリンタのみでは限定的な内容となるため、Eコマースにも対応できる3Dテクノロジーを学修するなど授業内容の充実が望まれる。

・「デジタルテクノロジー演習」は大阪ファッション学科及び名古屋ファッション学科のみの開講科目であるが、ファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科においても開設することが望まれる。（改善事項）

・・・・46

【教員組織等】

10.<教員組織の充実>

特にファッションビジネス学科について、中国での経歴を持つ教員以外に国際的な経歴を有する教員が少ないが、当該学科で養成する人材像に鑑みれば、国際的な経歴を有する教員の充実が望まれるため、対応方針について回答すること。（改善事項）

・・・・48

【名称、その他】

11.<英語名称が不適切>

大学、大阪ファッション学科及び名古屋ファッション学科、学位の英語名称について、国際的な通用性を有しているか依然として不明確であるため、必要に応じて日本語名称も検討しつつ、改めて説明するか、適切に改めること。（是正事項）

・・・・50

12.<施設設備の整備状況が不明確>

実習室や演習室等の科目別の使用計画が示されたが、卒業制作のように学生が授業時間外で使用することに鑑みると、十分なスペースが確保されているか依然として不明確であるため、改めて説明すること。（是正事項）

・・・・54

13.<専任教員研究室の整備状況が不明確>

特に名古屋ファッション学科について、共同研究室と演習室兼個室研究室を合わせても、専任教員数と比較すると狭小であるため、教育研究を行う環境が整っているか依然として疑義がある。共同研究室や演習室兼個室研究室のレイアウト図を示し、十分なスペースが確保されているかについて、改めて説明すること。（是正事項）

・・・・84

14.<シラバスの記載が不適切>

出席の回数は授業の評価の前提であるため、授業への参加度など、適切な表記に改めること。（是正事項）

・・・・91

国際ファッション学部 ファッションビジネス学科

15.<授業形態の考え方が不明確>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」について、授業形態を実験・実習として位置付けている考え方を説明すること。また、「パターンメイキング」について、必修・選択の別がシラバスと教育課程等の概要等で不整合であるため、適切に改めること。（是正事項）

・・・103

国際ファッション学部 大阪ファッション学科

16.<授業形態の考え方が不明確>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」について、授業形態を実験・実習として位置付けている考え方を説明すること。また、「パターンメイキング」について、必修・選択の別がシラバスと教育課程等の概要等で不整合であるため、適切に改めること。（是正事項）

・・・105

国際ファッション学部 名古屋ファッション学科

17.<授業形態の考え方が不明確>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」について、授業形態を実験・実習として位置付けている考え方を説明すること。また、「パターンメイキング」について、必修・選択の別がシラバスと教育課程等の概要等で不整合であるため、適切に改めること。（是正事項）

・・・107

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

1.<カリキュラム・ポリシーが不適切>

カリキュラム・ポリシーがディプロマ・ポリシーと相違なく、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程編成、当該教育課程における学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方等を具体的に示したカリキュラム・ポリシーとなっていないため、適切に見直すこと。

(対応) 学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方等を具体的に示したカリキュラム・ポリシーとなるよう適切に改めた

審査意見を踏まえて、中央教育審議会大学分科会大学教育部会『「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受け入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン』(平成28年3月31日)を参照し、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程編成、当該教育課程における学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方等を具体的に示したカリキュラム・ポリシーとなるよう、大学全体と学科ごとに、適切に改めた。

・ディプロマ・ポリシーの方向性

国際ファッション学部は、建学の理念と設置の必要性にもとづき、変動する経済社会のなかで生じている国内外のファッション産業の課題に対応しようとする専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた総合的な人材を育成することを教育目標とする。ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の4学科から構成する。

4学科ともに、本学の卒業要件を満たし、(1)国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を備え(汎用的能力)、(2)国内外のファッション産業における基本的知識と技術を身につけて当該分野で自立できる力を持ち(基本的技術)、(3)そのファッションに関わる知識や技術を深化させながら企画開発戦略などの構想力を持って(知識・理解)、(4)国際化や情報化などのファッション産業を取り巻く経済社会文化環境のさまざまな変化に迅速に対応し、産業の課題に主体的に取り組もうとする能力(態度・志向性)をもつ人に、学位を授与する方針である。

・教育課程の編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するため、教育課程を次の通り体系的に編成し、実施する。及び学修成果の評価の在り方を示す。

本学の教育課程は、「基礎科目」「職業専門科目」「展開科目」「総合科目」からなる。修得すべき授業科目には、講義の他に実習や演習、臨地実習及び卒業制作・計画等の科目がある。

(1) 国際社会で通用する教養(汎用的能力)を養う課程

- ・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。
「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。
- ・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

(2) コミュニケーション能力（汎用的能力）を養う課程

- ・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業では、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。
- ・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、専門分野の内容を英語などで伝えることを求める科目を配置し、実用的なコミュニケーション能力を養成する。学外学修と関連して、専門分野を展開するための実践的なコミュニケーション能力を養成する。
- ・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

(3) 職業分野の基本的知識と技術（基本的技術）を養う課程

- ・ファッション産業の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。
- ・実践力の養成のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

(4) 専門知識・技術を深化させ、展開する力（知識・理解）を養う課程

- ・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

(5) 国際化・情報化等、変化への対応力（態度・志向性）を養う学外学修課程

- ・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。
- ・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。
- ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

(6) 総合力（態度・志向性）を養う課程

- ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

(7) 学修成果の評価の在り方

- ・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたがって履修し、卒業要件の基準をみたくす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保し、あらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し可否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

・ファッションクリエイション学科

カリキュラム・ポリシー

ファッションクリエイション学科では、当学科のディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる「汎用的能力」「基本的技術」「知識・理解」「態度・志向性」などを修得させるために、「基礎科目」「職業専門科目」「展開科目」「総合科目」を体系的に編成し、講義、実習、演習を適切に組み合わせた授業を開講するとともに、その学修成果の評価の在り方を示す。

CP（学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方）		DP 対応
1	<p>基礎力</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。 1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。 	1 汎用的能力
2	<p>コミュニケーション能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。 2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、クリエイション分野のコンセプトなどの内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。 学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。 	1 汎用的能力
3	<p>専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ファッションクリエイション分野の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。 実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。 	2 基本的技術
4	<p>展開力</p> <ul style="list-style-type: none"> ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。 	3 知識理解
5	<p>学外学修</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。 実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職 	2 基本的技術 3 知識理解 4

	<p>員との面談を通じて、2年後期に決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。 	態度志向性
6	<p>総合力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。 	4 態度志向性
7	<p>学修成果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたが履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。 	

ディプロマ・ポリシー

被服学及びモノづくりの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。(汎用的能力)
2. ファッションクリエイションにおいて必要とされる基本的な理解と技能を持つ。(基本的技術)
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなメディアテクノロジーへの理解を深めている。(知識・理解)
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションクリエイション分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。(態度・志向性)

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

ファッションクリエイション分野において、産業内で広く一般に必要なと認識されている基本的な被服学及びモノづくりへの理解を養うと同時に基本的な技能を修得させる。

3. 知識・理解

国際社会における日本及び多様な地域の社会、文化、芸術に関する理解力を持たせる。

情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

ファッションクリエイションの国際的動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

・ファッションビジネス学科

カリキュラム・ポリシー

ファッションクリエイション学科では、当学科のディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる「汎用的能力」「基本的技術」「知識・理解」「態度・志向性」などを修得させるために、「基礎科目」「職業専門科目」「展開科目」「総合科目」を体系的に編成し、講義、実習、演習を適切に組み合わせた授業を開講するとともに、その学修成果の評価の在り方を示す。

CP（学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方）		DP 対応
1	<p>基礎力</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。 1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。 	1 汎用的能力
2	<p>コミュニケーション能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。 2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、ビジネス分野の構想や商談内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。 学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。 	1 汎用的能力
3	<p>専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ファッションビジネス分野の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。 実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。 	2 基本的技術
4	<p>展開力</p> <ul style="list-style-type: none"> ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。 	3 知識理解
5	<p>学外学修</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。 実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職 	2 基本的技術 3 知識理解 4

	<p>員との面談を通じて、2年後期に決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。 	態度志向性
6	<p>総合力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。 	4 態度志向性
7	<p>学修成果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたが履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。 	

ディプロマ・ポリシー

被服学の基礎及びファッションビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
(汎用的能力)
2. ファッションの主にビジネスにおいて必要とされる基本的知識と技術を持つ。
(基本的技術)
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
(知識・理解)
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションビジネス分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。(態度・志向性)

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

ファッションビジネス分野における、産業及び国や地域の経済社会的事象について、基本的な構造及び商慣行への理解を養うと同時にそれらを数量的に把握する基本的な技術を修得させる。

3. 知識・理解

国際社会における日本及び多様な地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。

情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

ファッションビジネスの国際的動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

・大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

カリキュラム・ポリシー

ファッションクリエイション学科では、当学科のディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる「汎用的能力」「基本的技術」「知識・理解」「態度・志向性」などを修得させるために、「基礎科目」「職業専門科目」「展開科目」「総合科目」を体系的に編成し、講義、実習、演習を適切に組み合わせた授業を開講するとともに、その学修成果の評価の在り方を示す。

CP（学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方）		DP 対応
1	<p>基礎力</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。 1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。 	1 汎用的能力
2	<p>コミュニケーション能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。 2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、クリエイション分野とビジネス分野を総合的に理解し、学科の位置する関西地域のファッション産業やコンセプトなどの内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。 学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。 	1 汎用的能力
3	<p>専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ファッションのクリエイション及びビジネス分野、及びそれらが位置する関西地域のファッション産業についての専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。 実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。 	2 基本的技術
4	<p>展開力</p> <ul style="list-style-type: none"> ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。 	3 知識理解
5	<p>学外学修</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「関西地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。 	2 基本的技術 3

	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。 ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。 	知識理解 4 態度志向性
6	<p>総合力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。 	4 態度志向性
7	<p>学修成果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたが履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。 	

ディプロマ・ポリシー

関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、被服学の基礎及びファッションのビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
 2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
 3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
 4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、関西地域におけるファッション分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。
1. 汎用的能力
職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。
多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。
 2. 基本的技術
関西地域の経済、社会、文化、環境への理解をもつと同時に、ファッション産業で必要とされるクリエイションとビジネス分野における基本的な被服学及びモノづくりへの理解と、経済社会的な事象などへの理解をバランスよく学び、必要とされる基本的な技能を修得させる。
 3. 知識・理解
多様な日本国内外の地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。
 4. 態度・志向性
関西地域及び国際的なファッション産業の動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

・名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

カリキュラム・ポリシー

ファッションクリエイション学科では、当学科のディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる「汎用的能力」「基本的技術」「知識・理解」「態度・志向性」などを修得させるために、「基礎科目」「職業専門科目」「展開科目」「総合科目」を体系的に編成し、講義、実習、演習を適切に組み合わせた授業を開講するとともに、その学修成果の評価の在り方を示す。

CP（学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方）		DP 対応
1	<p>基礎力</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。 1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。 	1 汎用的能力
2	<p>コミュニケーション能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。 2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、クリエイション分野とビジネス分野を総合的に理解し、学科の位置する名古屋地域のファッション産業やコンセプトなどの内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。 学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。 	1 汎用的能力
3	<p>専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ファッションのクリエイション及びビジネス分野、及びそれらが位置する名古屋地域のファッション産業についての専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。 実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。 	2 基本的技術
4	<p>展開力</p> <ul style="list-style-type: none"> ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。 	3 知識理解
5	<p>学外学修</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「名古屋地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。 	2 基本的技術 3 知識

	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。 ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。 	理解 4 態度 志向 性
6	<p>総合力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。 	4 態度 志向 性
7	<p>学修成果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたが履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。 	

ディプロマ・ポリシー

名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、被服学の基礎及びファッションのビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、名古屋地域におけるファッション分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

名古屋地域の経済、社会、文化、環境への理解をもつと同時に、ファッション産業で必要とされるクリエイションとビジネス分野における基本的な被服学及びモノづくりへの理解と、基本的な経済社会的事象などへの理解をバランスよく学び、必要とされる基本的な技能を修得させる。

3. 知識・理解

多様な日本国内外の地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。

情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

名古屋地域及び国際的なファッション産業の動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (48-64 ページ)

新	旧
<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>4.1 教育課程における編成の体系化 (カリキュラム・ポリシー)</p> <p>本学は、『専門職大学の設置の認可申請に係る提出書類の作成の手引 (平成 31 年度開設用)』及び中央教育審議会『「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受け入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン』(平成 28 年)に基づき、<u>学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) で示した能力をつけるため、以下の教育課程を編成し、実施する。学修方法・学修過程・学修成果の評価の在り方等を具体的に示し、専門性を必要とする職業を担うための実践的な能力及び当該職業の分野において創造的な役割を担うための応用的な能力を育成、展開させるとともに、専門的な職業人にふさわしい責任感と倫理感をもって実践的に社会貢献できる人材を養成するための体系的なカリキュラムを整備する。</u></p> <p>■ディプロマ・ポリシーの方向性</p> <p><u>国際ファッション学部は、建学の理念と設置の必要性にもとづき、変動する経済社会のなかで生じている国内外のファッション産業の課題に対応しようとする専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた総合的な人材を育成することを教育目標とする。ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の 4 学科から構成する。</u></p> <p><u>4 学科ともに、本学の卒業要件を満たし、(1)国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を備え (汎用的能力)、(2)国内外のファッション産業における基本的知識と技術を身につけて当該分野で自立できる力を持ち (基本的技術)、(3)そのファッションに関わる知識や技術を深化させながら企画開発戦略などの構想力を持って (知識・理解)、(4)国際化や情報化などのファッション産業を取り巻く経済社会文化環境のさまざまな変化に迅速に対応し、産業の課題に主体的に取り組もうとする能力 (態度・志向性) をもつ人に、学位を授与する方針である。</u></p>	<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>4.1 教育課程における編成の体系化 (カリキュラム・ポリシー)</p> <p>本学は、『専門職大学の設置の認可申請に係る提出書類の作成の手引 (平成 31 年度開設用)』<u>に基づき、かつ本学の設立の基本理念に則り、教育課程を編成する。そして、専門性を必要とする職業を担うための実践的な能力及び当該職業の分野において創造的な役割を担うための応用的な能力を育成、展開させるとともに、専門的な職業人にふさわしい責任感と倫理感をもって実践的に社会貢献できる人材を養成する。</u> <u>(追加)</u></p>

■教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の教育課程は、「基礎科目」「職業専門科目」「展開科目」「総合科目」からなる。修得すべき授業科目には、講義の他に実習や演習、臨地実習及び卒業制作・計画等の科目がある。

1. 国際社会で通用する教養（汎用的能力）を養う

・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。

「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。

・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力（汎用的能力）を養う

・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業では、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。

・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、専門分野の内容を英語などで伝えることを求める科目を配置し、実用的なコミュニケーション能力を養成する。学外学修と関連して、専門分野を展開するための実践的なコミュニケーション能力を養成する。

・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 職業分野の基本的知識と技術（基本的技術）を養う課程

・ファッション産業の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。

ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。

- ・実践力の養成のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 専門知識・技術を深化させ、展開する力(知識・理解)を養う課程

- ・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 国際化・情報化等、変化への対応力(態度・志向性)を養う学外学修課程

- ・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。
- ・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。
- ・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力(態度・志向性)を養う課程

- ・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・計画」とその「演習」を履修

する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・計画」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価の在り方

・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。

基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを旨とし体系的に配置した各科目を、配当年次にしたがって履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保し、あらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

教育課程における科目の編成については、「基礎科目」、「職業専門科目」、「展開科目」、「総合科目」の科目区分ごとに詳述する。これらの科目は、国際的な通用性を求められる高等教育機関大学の枠組みのなかに、本学の教育研究水準を位置づけるとともに、産業界及び地域社会と緊密に連携して実践的な職業教育を可能にする大きな要素である。

まず「基礎科目」では、学生が豊かな人間性と文化性を養い、国際的な市民社会の一員として多様な価値観を認め合い、活発に活動できるような職業倫理を涵養するための基礎となる講義を中心とした授業を展開する。次に「職業専門科目」では、学生が当該分野において専門的かつ実践的な能力を高めることのできる講義・実習・演習の授業を展開する。そして「展開科目」では、専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成することを目的としている展開科目の趣旨を踏まえて、専門分野を展開し価値創造力を高める講義・実習・演習の授業を展開する。最後に「総合科目」では、4年間の学びを集大成した卒業制作・計画を作るとともに、そのための創造的な役割を担うことができるようなゼミを展開する。

上記4つの大分類科目のなかで、「職業専門科目」と「展開科目」には共通する目的をもつ科目に中分類を設ける。「職業専門科目」には、

教育課程における科目区分の編成は、「基礎科目」、「職業専門科目」、「展開科目」、「総合科目」とする。これらの科目は、国際的な通用性を求められる高等教育機関大学の枠組みのなかに、本学の教育研究水準を位置づけるとともに、産業界及び地域社会と緊密に連携して実践的な職業教育を可能にする大きな要素である。

まず「基礎科目」では、学生が豊かな人間性と文化性を養い、国際的な市民社会の一員として多様な価値観を認め合い、活発に活動できるような職業倫理を涵養するための基礎となる講義を中心とした授業を展開する。次に「職業専門科目」では、学生が当該分野において専門的かつ実践的な能力を高めることのできる講義・実習・演習の授業を展開する。そして「展開科目」では、専門的技能をより特化、展開し価値創造力を高める授業・実習・演習を行う。最後に「総合科目」では、4年間の学びを集大成した卒業制作を作るための創造的な役割を担うことができるようなゼミを展開する。

上記4つの大分類科目のなかで、「職業専門科目」と「展開科目」には共通する目的をもつ科目に中分類を設ける。「職業専門科目」には、「ファッション論科目群」、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」、(追加)、「地域・地方科目群」、「語学科目群」の中分類を設け、「展開科目」には「発信力科目群」、「国際科目群」

「ファッション論科目群」、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」、「メディア科目群」、「地域・地方科目群」、「語学科目群」の中分類を設け、「展開科目」には「発信力科目群」、「国際科目群」の中分類を設ける。科目群の詳細は、続く 4.2 項以降で述べる。

(略)

加えて本学は、学術的研究を基礎とした専門知識と、実践的な技術を基礎とする専門能力をもって、ファッション産業界及び関連する地域企業や社会の課題を多面的に認識し、その課題に対応するために必要な科目を自ら設定し開設している。特徴的なのは、基礎科目における多文化共生などの教養を身につける文化論科目、社会科学や自然科学の基礎教養を身につける科目、基礎ゼミなどの開設である。また、職業専門科目における「ファッション論科目群」、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」であり、全学生にファッション産業のモノを作り、モノを売る、両方の要素に関係する科目を、概ね必修で履修するよう開設し基本的な知識と技術を身につけさせる。さらに、展開科目における「発信力科目群」、「国際科目群」の開設である。デジタルテクノロジーなどの現代的な情報化とさまざまな産業の関係を考える応用的科目、ファッション産業に関する、モノを作り、モノを売る基本的知識と技術を国際的に展開する海外実習などの応用的科目などで構成し、これらの科目を通じて、本学が考える上記の展開力、より具体的には、「豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と、「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする対応力」を養成しようとする。

(略)

の中分類を設ける。科目群の詳細は、続く 4.2 項以降で述べる。

(略)

加えて本学は、学術的研究を基礎とした専門知識と、実践的な技術を基礎とする専門能力をもって、ファッション産業界及び関連する地域企業や社会の課題を多面的に認識し、その課題に対応するために必要な科目を自ら設定し開設している。特徴的なのは、基礎科目における多文化共生などの教養を身につける文化論科目、社会科学や自然科学の基礎教養を身につける科目、基礎ゼミなどの開設である。また、職業専門科目における「ファッション論科目群」、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」であり、全学生にファッション産業のモノを作り、モノを売る、両方の要素に関係する科目を、概ね必修で履修するよう開設し基本的な知識と技術を身につけさせる。さらに、展開科目における「発信力科目群」、「国際科目群」の開設である。新たなデジタルテクノロジーとファッション産業の関係を考える応用的科目、ファッション産業に関する、モノを作り、モノを売る基本的知識と技術を国際的に展開する海外実習などの応用的科目などで構成し、これらの科目を通じて、本学が考える上記の展開力、より具体的には、「豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と、「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする対応力」を養成しようとする。

(略)

(新旧対照表) 学則 (第4条)

新	旧
<p>第4条 本学に次の学部学科を置く。</p> <p>(1) 国際ファッション学部ファッションクリエイション学科</p> <p>(2) 国際ファッション学部ファッションビジネス学科</p> <p>(3) 国際ファッション学部<u>大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科</u></p> <p>(4) 国際ファッション学部<u>名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科</u></p> <p>2. 学部学科の目的は、次に定めるものとする。</p> <p>(1) 国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は、多様な生活意識や美意識について、ファッションを通じて再現し、特に日本の伝統的技術や知識の継承からファッション知財の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。</p> <p>(2) 国際ファッション学部ファッションビジネス学科は、多様な生活意識や美意識に基づき、ものの美的な価値に理解を示しつつ、国際競争力のある新しいファッションブランドの創出や制作物の販売網の開拓を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。</p> <p>(3) 国際ファッション学部<u>大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科</u>は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に関西を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。</p> <p>(4) 国際ファッション学部<u>名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科</u>は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に中部、東海を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。</p>	<p>第4条 本学に次の学部学科を置く。</p> <p>(1) 国際ファッション学部ファッションクリエイション学科</p> <p>(2) 国際ファッション学部ファッションビジネス学科</p> <p>(3) 国際ファッション学部<u>大阪ファッション学科</u></p> <p>(4) 国際ファッション学部<u>名古屋ファッション学科</u></p> <p>2. 学部学科の目的は、次に定めるものとする。</p> <p>(1) 国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は、多様な生活意識や美意識について、ファッションを通じて再現し、特に日本の伝統的技術や知識の継承からファッション知財の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。</p> <p>(2) 国際ファッション学部ファッションビジネス学科は、多様な生活意識や美意識に基づき、ものの美的な価値に理解を示しつつ、国際競争力のある新しいファッションブランドの創出や制作物の販売網の開拓を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。</p> <p>(3) 国際ファッション学部<u>大阪ファッション学科</u>は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に関西を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。</p> <p>(4) 国際ファッション学部<u>名古屋ファッション学科</u>は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に中部、東海を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。</p>

(改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

2.<書類間の不整合>

審査意見への対応を記載した書類と学生確保の見通し等を記載した書類が整合していないため、適切に改めること。

(対応) 新旧対照表を添付して、書類の整合を適切に明示する

①「審査意見への対応を記載した書類(5月)」の「審査意見3への回答」に新旧対照表を付記しておらず、書類間の整合が不十分であったため、新旧対照表を添付して適切に示す。

②内容には不整合は無いと考えている。すなわち、「審査意見への対応を記載した書類(5月)」の「審査意見3への回答」で記載した「学科別採用意欲及び採用可能人数(単位:人)」の表は、「学生の確保の見通し等を記載した書類」(p.16-17)青字部分に記した内容の図表化したものであり、整合した内容である。内容をわかりやすくするために、「学生の確保の見通し等を記載した書類」に内容をまとめて図表化したものを記載した。

①(新旧対照表)学生の確保の見通し等を記載した書類(16-17ページ)

新	旧
学生の確保の見通し等を記載した書類 (2)人材需要の動向等社会の要請 ②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ウ 第3者機関実施による企業等へのアンケート調査 (略) 次に、学科ごとの採用意欲について質問したところ、ファッションクリエイション学科を卒業する学生に対して、「1 採用したい」に58件(46.8%)、「2 採用を検討したい」に40件(32.3%)が回答し、合計で79.0%にあたる98件より採用意欲を示す回答が得られた。この採用意欲を示した98件の企業には、採用可能と思われる人数の記述を求めたが、合計で147人と、入学定員80人を上回る回答を得られた。 ◆ファッションクリエイション学科およびファッションビジネス学科 <u>【ファッションクリエイション学科採用可能と思われる人数】</u> $1人 \times 29件 = 29人$ $2人 \times 19件 = 38人$ $3人 \times 11件 = 33人$ $4人 \times 3件 = 12人$ $5人 \times 5件 = 25人$ $10人 \times 1件 = 10人$ 無回答 $\times 30件 = 0人$	学生の確保の見通し等を記載した書類 (2)人材需要の動向等社会の要請 ②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ウ 第3者機関実施による企業等へのアンケート調査 (略) 次に、学科ごとの採用意欲について質問したところ、ファッションクリエイション学科を卒業する学生に対して、「1 採用したい」に58件(46.8%)、「2 採用を検討したい」に40件(32.3%)が回答し、合計で79.0%にあたる98件より採用意欲を示す回答が得られた。この採用意欲を示した98件の企業には、採用可能と思われる人数の記述を求めたが、合計で147人と、入学定員80人を上回る回答を得られた。 <u>(追加)</u> ファッションビジネス学科も同様に、卒業する学生に対して、「1 採用したい」に65件(52.4%)、「2 採用を検討したい」に39件(31.5%)が回答し、合計で83.9%にあたる104件より採用意欲を示す回答が得られた。この採用意欲を示した104件の企業には、採用可能と思われる人数の記述を求めたが、合計で312人と、入学定員38人(編入

<p>(合計) 147人 ファッションビジネス学科も同様に、卒業する学生に対して、「1 採用したい」に 65 件 (52.4%)、「2 採用を検討したい」に 39 件 (31.5%) が回答し、合計で 83.9%にあたる 104 件より採用意欲を示す回答が得られた。この採用意欲を示した 104 件の企業には、採用可能と思われる人数の記述を求めたが、合計で 312 人と、入学定員 38 人 (編入学定員 2 人) を大きく上回る回答を得られた。 【ファッションビジネス学科採用可能と思われる人数】 1 人 × 21 件 = 21 人 2 人 × 23 件 = 46 人 3 人 × 13 件 = 39 人 4 人 × 4 件 = 16 人 5 人 × 10 件 = 50 人 10 人 × 10 件 = 100 人 20 人 × 2 件 = 40 人 無回答 × 21 件 = 0 人 (合計) 312 人 学科別採用意欲及び採用可能人数 (単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択項目</th> <th>ファッション クリエイシ ョン学科</th> <th>ファッショ ンビジネ ス学科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用したい</td> <td>58</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>採用を検討したい</td> <td>40</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>採用意欲の合計</td> <td>98</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>採用可能な人数</td> <td>147人</td> <td>312人</td> </tr> </tbody> </table>	選択項目	ファッション クリエイシ ョン学科	ファッショ ンビジネ ス学科	採用したい	58	65	採用を検討したい	40	39	採用意欲の合計	98	104	採用可能な人数	147人	312人	<p>学定員 2 人) を大きく上回る回答を得られた。 (追加)</p>
選択項目	ファッション クリエイシ ョン学科	ファッショ ンビジネ ス学科														
採用したい	58	65														
採用を検討したい	40	39														
採用意欲の合計	98	104														
採用可能な人数	147人	312人														

② 学生の確保の見通し等を記載した書類 (資料 20) (1-18 ページ)

上記の、「学科別採用意欲及び採用可能人数 (単位: 人)」として出した表の根拠は、学生の確保の見通し等を記載した書類 (資料 20) の Q6 に示した 2 学科の下記二つの表の「1 番採用したい」、「2 番採用を検討したい」にある。この部分を上記の表にした。

Q6 貴社からみて、「国際ファッション専門職大学(仮称)」を卒業する学生を、採用したいと思いませんか。(それぞれあてはまる番号を枠内に記入し、1または2の場合は採用可能と思われる人数を記入)

【ファッションクリエイション学科】

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	58	46.8%
2	採用を検討したい	40	32.3%
3	どちらとも言えない	19	15.3%
4	採用しない	0	0.0%
	無回答	7	5.6%
	計	124	100.0%

【ファッションビジネス学科】

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	65	52.4%
2	採用を検討したい	39	31.5%
3	どちらとも言えない	17	13.7%
4	採用しない	0	0.0%
	無回答	3	2.4%
	計	124	100.0%

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 (1-19 ページ)

新	旧																																																
<p>①学生の見通し ア 定員充足の見込み (略) 【表1：国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部の学科構成と入学定員】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科名</th> <th>所在地</th> <th>入学定員</th> <th>2年次編入</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッションクリエイション学科</td> <td rowspan="2">東京都新宿区</td> <td>80人</td> <td>—</td> <td>320人</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス学科</td> <td>38人</td> <td>2人</td> <td>158人</td> </tr> <tr> <td>大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科</td> <td>大阪府大阪市</td> <td>38人</td> <td>2人</td> <td>158人</td> </tr> <tr> <td>名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科</td> <td>愛知県名古屋市</td> <td>38人</td> <td>2人</td> <td>158人</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 1)ファッション・服飾分野の高等教育機関の動向 ◆4年制大学の動向 (略) 大阪府大阪市に設置する大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科(入学定員38人)、愛知県名古屋市に設置する名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科(入学定員38人)の定員規模も、同じ地域にある4年制大学の規模と比較し、学生確保において現実的な規模に設定している。 (略) 4)アンケート結果 (略) 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、愛知県名古屋市に設置する名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科、それぞれ地域で分けて行っている。(略) なお、実施したアンケートから学部・学科の名</p>	学科名	所在地	入学定員	2年次編入	収容定員	ファッションクリエイション学科	東京都新宿区	80人	—	320人	ファッションビジネス学科	38人	2人	158人	大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	大阪府大阪市	38人	2人	158人	名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	愛知県名古屋市	38人	2人	158人	<p>①学生の見通し ア 定員充足の見込み (略) 【表1：国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部の学科構成と入学定員】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科名</th> <th>所在地</th> <th>入学定員</th> <th>2年次編入</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッションクリエイション学科</td> <td rowspan="2">東京都新宿区</td> <td>80人</td> <td>—</td> <td>320人</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス学科</td> <td>38人</td> <td>2人</td> <td>158人</td> </tr> <tr> <td>大阪ファッション学科</td> <td>大阪府大阪市</td> <td>38人</td> <td>2人</td> <td>158人</td> </tr> <tr> <td>名古屋ファッション学科</td> <td>愛知県名古屋市</td> <td>38人</td> <td>2人</td> <td>158人</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 1)ファッション・服飾分野の高等教育機関の動向 ◆4年制大学の動向 (略) 大阪府大阪市に設置する大阪ファッション学科(入学定員38人)、愛知県名古屋市に設置する名古屋ファッション学科(入学定員38人)の定員規模も、同じ地域にある4年制大学の規模と比較し、学生確保において現実的な規模に設定している。 (略) 4)アンケート結果 (略) 大阪ファッション学科、愛知県名古屋市に設置する名古屋ファッション学科、それぞれ地域で分けて行っている。(略) なお、実施したアンケートでは学部・学科の名称が異なっているものの、いずれもアンケート</p>	学科名	所在地	入学定員	2年次編入	収容定員	ファッションクリエイション学科	東京都新宿区	80人	—	320人	ファッションビジネス学科	38人	2人	158人	大阪ファッション学科	大阪府大阪市	38人	2人	158人	名古屋ファッション学科	愛知県名古屋市	38人	2人	158人
学科名	所在地	入学定員	2年次編入	収容定員																																													
ファッションクリエイション学科	東京都新宿区	80人	—	320人																																													
ファッションビジネス学科		38人	2人	158人																																													
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	大阪府大阪市	38人	2人	158人																																													
名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	愛知県名古屋市	38人	2人	158人																																													
学科名	所在地	入学定員	2年次編入	収容定員																																													
ファッションクリエイション学科	東京都新宿区	80人	—	320人																																													
ファッションビジネス学科		38人	2人	158人																																													
大阪ファッション学科	大阪府大阪市	38人	2人	158人																																													
名古屋ファッション学科	愛知県名古屋市	38人	2人	158人																																													

称が変更となっているが、いずれもアンケートで使用した名称から想定できる程度の変更に留まっており、問題ないと判断している。さらに学科名においては、ファッション学科より変更後の“ファッションクリエイション・ビジネス学科”の方が、デザインだけではなくビジネス分野も学ぶという教育内容と養成する人材像に近く、広いファッション分野のなかでも、より専門職業人の養成を連想する名称となっている。各アンケートの結果は以下の通りである。(資料 12)

◆高校生対象のアンケート

(略)

ii. 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

(アンケートは国際大阪ファッション学部ファッション学科)

- ・調査件数：634 件
- ・実施高校数：10 校
- ・国際ファッション学部への受験意欲：78 人 (12.3%) そのうち、「入学したい」：29 人
- 「併願先の結果によっては入学したい」：48 人
- また、入学意欲を示した 29 人のうち、25 人が近隣の府県に居住する高校生

iii. 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

(アンケートは国際名古屋ファッション学部ファッション学科)

- ・調査件数：1,362 件
- ・実施高校数：16 校
- ・国際ファッション学部への受験意欲：228 人 (16.7%) そのうち、「入学したい」：45 人
- 「併願先の結果によっては入学したい」：180 人。また、入学意欲を示した 45 人すべてが、近隣の都道府県に居住する高校生

◆社会人対象のアンケート

ii. 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

(アンケートは国際大阪ファッション学部ファッション学科)

- ・対象者数：2,112 件
- ・国際ファッション学部への受験意欲：192 人 (9.1%) そのうち、「入学したい」：119 人
- 「併願先の結果によっては入学したい」：73 人

iii. 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

(アンケートは国際名古屋ファッション学部ファッション学科)

で使用した名称から想定できる程度の変更に留まっているため、問題はないと判断している。各アンケートの結果は以下の通りである。

(資料 12)

◆高校生対象のアンケート

(略)

ii. 大阪ファッション学科

(アンケートは国際大阪ファッション学部ファッション学科)

- ・調査件数：634 件
- ・実施高校数：10 校
- ・国際ファッション学部への受験意欲：78 人 (12.3%) そのうち、「入学したい」：29 人
- 「併願先の結果によっては入学したい」：48 人
- また、入学意欲を示した 29 人のうち、25 人が近隣の府県に居住する高校生

iii. 名古屋ファッション学科

(アンケートは国際名古屋ファッション学部ファッション学科)

- ・調査件数：1,362 件
- ・実施高校数：16 校
- ・国際ファッション学部への受験意欲：228 人 (16.7%) そのうち、「入学したい」：45 人
- 「併願先の結果によっては入学したい」：180 人。また、入学意欲を示した 45 人すべてが、近隣の都道府県に居住する高校生

◆社会人対象のアンケート

ii. 大阪ファッション学科

(アンケートは国際大阪ファッション学部ファッション学科)

- ・対象者数：2,112 件
- ・国際ファッション学部への受験意欲：192 人 (9.1%) そのうち、「入学したい」：119 人
- 「併願先の結果によっては入学したい」：73 人

iii. 名古屋ファッション学科

(アンケートは国際名古屋ファッション学部ファッション学科)

アクション学科)

(略)

【表2：アンケートで得られた入学意欲と入学定員の関係】

学科	入学定員	入学したい			倍率
		高校生	社会人	合計	
ファッションクリエイション学科	80人	33人	220人	253人	3.2倍
ファッションビジネス学科	38人	12人	203人	215人	5.7倍
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	38人	29人	119人	148人	3.9倍
名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	38人	45人	97人	142人	3.7倍

ファッションクリエイション学科の入学定員 80 人に対して 3.2 倍にあたる 253 人、ファッションビジネス学科の入学定員 38 人に対して 5.7 倍にあたる 215 人、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科の入学定員 38 人に対して 3.9 倍にあたる 148 人、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の入学定員 38 人に対して 3.7 倍にあたる 142 人と、各学科において入学定員を上回る入学意欲を示す回答を得られたことから、本学の学生確保は十分に見通しがあると考えられる。

(略)

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科においては、大阪キャンパスにアクセスのよい地域（京都府、大阪府、兵庫県）の居住者に限定しても、入学意向を示した人数は 74 名（入学定員 38 名）、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科においては、名古屋キャンパスにアクセスのよい地域（愛知県、三重県）の居住者に限定しても、入学意向を示した人数は 59 名（入学定員 38 名）となっており、近隣地域居住者のみでも充足が可能な回答を得られている。

ウ 学生納付金の設定の考え方

(略)

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、入学金 280,000 円、学費 1,230,000 円、合計 1,510,000 円に設定した。近隣において同分野の学科を設置している大学である大阪樟蔭女子大学学芸学部化粧ファッション学科の合計は 1,450,000 円であり、上記同様に専門職大学である点と立地を鑑みると合理的である。

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、入学金 250,000 円、学費 1,200,000 円、合計 1,450,000 円に設定した。近隣でファッション造形学科を持つ名古屋学芸大学の合

(略)

【表2：アンケートで得られた入学意欲と入学定員の関係】

学科	入学定員	入学したい			倍率
		高校生	社会人	合計	
ファッションクリエイション学科	80人	33人	220人	253人	3.2倍
ファッションビジネス学科	38人	12人	203人	215人	5.7倍
大阪ファッション学科	38人	29人	119人	148人	3.9倍
名古屋ファッション学科	38人	45人	97人	142人	3.7倍

ファッションクリエイション学科の入学定員 80 人に対して 3.2 倍にあたる 253 人、ファッションビジネス学科の入学定員 38 人に対して 5.7 倍にあたる 215 人、大阪ファッション学科の入学定員 38 人に対して 3.9 倍にあたる 148 人、名古屋ファッション学科の入学定員 38 人に対して 3.7 倍にあたる 142 人と、各学科において入学定員を上回る入学意欲を示す回答を得られたことから、本学の学生確保は十分に見通しがあると考えられる。

(略)

大阪ファッション学科においては、大阪キャンパスにアクセスのよい地域（京都府、大阪府、兵庫県）の居住者に限定しても、入学意向を示した人数は 74 名（入学定員 38 名）、名古屋ファッション学科においては、名古屋キャンパスにアクセスのよい地域（愛知県、三重県）の居住者に限定しても、入学意向を示した人数は 59 名（入学定員 38 名）となっており、近隣地域居住者のみでも充足が可能な回答を得られている。

ウ 学生納付金の設定の考え方

(略)

大阪ファッション学科は、入学金 280,000 円、学費 1,230,000 円、合計 1,510,000 円に設定した。近隣において同分野の学科を設置している大学である大阪樟蔭女子大学学芸学部化粧ファッション学科の合計は 1,450,000 円であり、上記同様に専門職大学である点と立地を鑑みると合理的である。

名古屋ファッション学科は、入学金 250,000 円、学費 1,200,000 円、合計 1,450,000 円に設定した。近隣でファッション造形学科を持つ名古屋学芸大学の合計は 1,425,000 円とほぼ同等である。上記同様に専門職大学である点と立

計は1,425,000円とほぼ同等である。上記同様に専門職大学である点と立地を鑑みると十分合理的であるといえる。(資料13)

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の要請に関する目的その他の教育研究所の目的(概要)

(略)

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科と名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は上記ファッションクリエイション学科とファッションビジネス学科を統合した学科として設置する。この2学科においては大阪と名古屋、それぞれ立地の背後にある織物産地の産業再生、地方経済創生を実践的な教育の中核に据え、クリエイター、プロデューサーの育成を目的とする。

ウ 第3者機関実施による企業等へのアンケート調査

本学で養成する人材が、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを確認するため、平成29年7月から8月にかけて、ファッション関連企業の採用担当者へのアンケート調査を第3者機関依頼のもと、実施した。なお、アンケートは東京都新宿区に設置するファッションクリエイション学科とファッションビジネス学科、大阪府大阪市に設置する大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、愛知県名古屋市に設置する名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科とキャンパスごとに実施している。

◆大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

(アンケートは国際大阪ファッション学部ファッション学科)

(略)

次に、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科(アンケートでは国際大阪ファッション学部ファッション学科) (略)

◆名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科(アンケートは国際名古屋ファッション学部ファッション学科)

(略)

次に、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

(略)

地を鑑みると十分合理的であるといえる。(資料13)

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の要請に関する目的その他の教育研究所の目的(概要)

(略)

大阪ファッション学科と名古屋ファッション学科は上記ファッションクリエイション学科とファッションビジネス学科を統合した学科として設置する。この2学科においては大阪と名古屋、それぞれ立地の背後にある織物産地の産業再生、地方経済創生を実践的な教育の中核に据え、クリエイター、プロデューサーの育成を目的とする。

ウ 第3者機関実施による企業等へのアンケート調査

本学で養成する人材が、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを確認するため、平成29年7月から8月にかけて、ファッション関連企業の採用担当者へのアンケート調査を第3者機関依頼のもと、実施した。なお、実施したアンケートでは学部・学科の名称が異なっているものの、いずれもアンケートで使用した名称から想定できる程度の変更に留まっているため、問題はないと判断している。各アンケートの結果は以下の通りである。

◆大阪ファッション学科

(アンケートは国際大阪ファッション学部ファッション学科)

(略)

次に、大阪ファッション学科(アンケートでは国際大阪ファッション学部ファッション学科) (略)

◆名古屋ファッション学科(アンケートは国際名古屋ファッション学部ファッション学科)

(略)

次に、名古屋ファッション学科(アンケートでは国際名古屋ファッション学部ファッション学科)

(略)

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

3.<科目の内容が不適切>

大学教育水準としてふさわしいか疑義がある科目が散見されるため、教育課程全体を再度確認した上で、大学教育水準としてふさわしい教育の成果を上げる科目が配置されるよう、必要な修正を行うこと。

(対応) 大学教育水準としてふさわしい科目であるか、教育課程全体を再度確認した。
主に基礎科目において、ふさわしい教育効果を上げるように適切に改めた。

大学就学前に身につけておくべき内容が、本専門職大学の教育課程の中に含まれることがないよう、再度教育課程及びシラバス全体を見直した。特に「基礎科目」に位置づく科目において検討を重ね、「情報リテラシー」のシラバスを適切に改めた。

また、基礎科目の語学科目で必修科目の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「日本語文章表現」の内容を再度確認し、大学教育水準を満たす内容であることを確認した。

本学は、入学時に高校卒業程度の英語力を学生に求めている（アドミッション・ポリシーで掲げる高校卒業程度の英語力として、例えばCEFRのA2レベルを想定している）。そして、本学の英語の語学教育に関する課程を経て、そのレベルを1-2段階ほど上げることを目標としている（上述のレベルであれば、B2を目標とする）。英語以外の語学に関しては、選択科目かつ初学者が大半である想定をしており、関連するカリキュラムを通じて1段階レベルを上げることを目標としている。

- ・修正：「情報リテラシー」の内容に変更を加え、シラバスを適切に改めた。
- ・新たに添付する：「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」科目の内容を確認し、シラバスを添付する。

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

新				旧			
授業科目名： 情報リテラシー	必修	授業回数： 15回	担当教員名：	授業科目名： 情報リテラシー	必修	授業回数： 15回	担当教員名：
授業科目区分： 基礎	配当： 1年前期	単位数： 2単位	講義形態： 講義	授業科目区分： 基礎	配当： 1年前期	単位数： 2単位	講義形態： 講義
<p>授業の到達目標及びテーマ 本科目では情報技術 (ICT)、社会、人 (消費者・市民) の相互の関わりを捉え、新しいICT社会、知識社会を眼差す幅広い視座を獲得する。併せて消費者・市民として情報を適切に選択し、判断、自己の価値として受容し、新たな価値を発信していく情報リテラシーの修得を図る。</p>				<p>授業の到達目標及びテーマ インターネット環境を理解し、コンピュータ機器を利用するための基本的な技能、知識、マナーを学ぶ。ワードプロセッサ、表計算、インターネット等の各種ソフトについて、基本的な操作ができるようになる。今後の専門学習及び仕事をするうえで、適切で必要とされる基本的な情報リテラシー、情報に関するモラルやマナー等を身につける。</p>			
<p>授業の概要 本科目ではICTの発達の過程を捉えながら、インターネットとスマートデバイスの消費者・市民への浸透が、これまでの政府や産業を中心とする伝統的な情報社会を、消費者・市民を主権者とする新しい社会に現在進行形に変容させていること捉えていく。</p>				<p>授業の概要 本科目では、情報環境の正しい知識と基礎的な利用方法を修得する。情報化社会におけるコンピュータやインターネット、情報の役割と意義についての問題意識を養うとともに、情報機器などの基本的な操作方法を習得し、その特徴を理解する。</p>			
<p>授業計画 【第1回】イントロダクション:この講義の全体像、進め方等を説明する。 【第2回】情報通信技術の基礎(1):コンピュータのアーキテクチャの発達 【第3回】情報通信技術の基礎(2):ソフトウェアの役割とその発達 【第4回】情報通信技術の基礎(3):ネットワークの発達とオープン化(OSIモデルってなんだ?) 【第5回】情報通信技術の基礎(4):情報システム (形態/処理方式)の発達 【第6回】産業分野の情報処理(1):企業内情報システムの発達 【第7回】産業分野の情報処理(2):企業内の課題を解決する情報システム部と利用者 【第8回】産業分野の情報処理(3):企業間を繋げた情報処理 【第9回】情報セキュリティ:私経済の課題から公共的課題に 【第10回】インターネットの時代(1):情報の概念の変化 (産業主権から消費者・市民主権へ) 【第11回】インターネットの時代(2):社会の変容を捉える 【第12回】インターネットの時代(3):個人 (ネットの中の自分) のあり方を考える 【第13回】インターネットの時代(4): Internet of Things (IoT) とは何か (貢献と課題) 【第14回】創作と人間の情報処理 【第15回】まとめ ※ 講義内容は、講義の進度や受講者の理解度などを踏まえ変更する場合がある。 定期試験</p>				<p>授業計画 第1回: 情報の環境(1): インターネットとWWWについて 第2回: 情報の環境(2): セキュリティ、コンプライアンス、知的所有権について 第3回: 情報の収集: サーチエンジンと検索の方法について 第4回: 情報の共有(1): 電子メールソフトの活用について 第5回: 情報の共有(2): パスワードの管理について 第6回: 情報の共有(3): 電子メールのマナーについて 第7回: 情報の編集(1): Wordなどの文章ソフトの入門: 文書作成、基本操作 第8回: 情報の編集(2): Wordなどの文章ソフトの基礎: 文書整形、編集、印刷 第9回: 情報の編集(3): Wordなどの文章ソフトの活用: ビジネス文書 第10回: 情報の分析(1): Excelなどの表計算ソフトの入門: ブック・シート・セル、基本操作 第11回: 情報の分析(2): Excelなどの表計算ソフトの基礎: 関数と様々な集計 第12回: 情報の分析(3): Excelなどの表計算ソフトの活用: 図とグラフ 第13回: 情報の発信(1): Power Pointなどのプレゼンテーション用ソフトの基本操作 第14回: 情報の発信(2): Power Pointなどのプレゼンテーション用ソフトによる発表と提示 第15回: まとめ テキスト 業中に必要なレジュメを配布するなど、適宜示します。</p>			
<p>参考書・参考資料等 都度紹介する。</p>				<p>参考書・参考資料等 矢野文彦『情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版』オーム社2017 日本ネットワークセキュリティ協会「情報セキュリティプロフェッショナル教科書」アスキー・メディアワークス 2009.ISBN978-4-04-867782-0 など</p>			
<p>学生に対する評価 評価点は、確認演習50%、定期試験50%とする。 学生の理解度や進度にあわせて、適宜内容を調整することがある。</p>				<p>学生に対する評価 評価点は、出席・確認演習50%、定期試験50%とします。 学生の理解度や進度にあわせて、適宜内容を調整することがあります。</p>			

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

新				旧
授業科目名： 英語 I	必修	授業回数： 30回	担当教員名：	(追加)
授業科目区分： 基礎	配当： 1年通期	単位数： 4単位	講義形態： 演習	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>実用的な英語のコミュニケーション能力を鍛える。日常生活のさまざまな場面を想定し、自らの考えや意志、目標などを的確に伝えられるようになることを目指す。積極的な態度を身につけ、簡潔でわかりやすい表現に習熟する。グループワークや授業における積極的な課題発表を通じて必要となる自己表現を行い、英語を使用したコミュニケーションに慣れることを目指す。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、英語によるコミュニケーション能力の育成を行う。eラーニングで基本的な運用能力を学びつつ、定期的な個別面接指導で実践的に能力を上げる。目標は、日常生活や具体的な留学等の場面において、臆することなくコミュニケーションをとる積極的な姿勢を身につけることである。英語の運用能力は、語彙の豊富化と構文発想の柔軟な多様化にあるため、地道な段階を踏んだ学習が必要であるが、それとともに、積極的な表現実践力の強化を授業に組み込み、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション (到達目標、課題、評価方法を示す。プレイスメントテスト実施)</p> <p>第2回 クラス編成の発表。自己紹介、CVの作り方を学ぶ。</p> <p>第3・4回 海外留学を想定した準備をしよう(1) どこで何にチャレンジしたいか、希望をクラスメイトに英語で話そう</p> <p>第5・6回 海外留学を想定した準備をしよう(2) 希望を具体的な計画にしよう。 留学先、渡航日程、滞在先、など必要事項を調べ、書き出し発表してみよう。</p> <p>第6・7回 海外留学をしたら(1) 何から始めればいだろうか。留学生として想定してみよう。 さまざまな人に自己や日本について紹介できるようになろう。</p> <p>第8・9回 中間評価(到達度確認課題の発表、個別面接)</p> <p>第10・11回 海外留学をしたら(2) 学校や滞在先で友人を作る場面を想定しよう。 好きなスポーツ、音楽、趣味などについて話そう。</p> <p>第12・13回 海外留学をしたら(3) 多くの人と話す場面に慣れよう。 日本のファッションの特徴をグループでディスカッションしてみよう。</p> <p>第14・15回 海外留学をしたら(4) 世界のファッションの特徴をグループでディスカッションしてみよう。</p> <p>定期試験</p> <p>第16回 到達度確認試験などの実施(個別面接を含む)</p> <p>第17回 海外での生活(1) 留学先の町を想定して、その町について調べ、説明できるようになろう。</p> <p>第18・19回 海外での生活(2) 日常生活において買い物をする場面を想定し、互いに定員と客になって話し合おう</p> <p>第20・21回 海外での生活(3) 日常生活において食事をする場面を想定し、互いに定員と客になって話し合おう</p> <p>第22・23回 休日の場面(1) 友人と旅行をする計画をたてて、その内容をプレゼンテーションしよう</p> <p>第24・25回 休日の場面(2) 日本食を食べたことのない友人を家に招待する。わかりやすく英語で説明しよう</p> <p>第26・27回 中間評価(到達度確認課題の発表、個別面接)</p> <p>第24・25回 トラブルの発生(1) 生活面で、想定されるトラブルをあげてみよう。解決には何が必要か話し合おう。</p> <p>第26・27回 トラブルの発生(2) 学業面で、想定されるトラブルをあげてみよう。解決には何が必要か話し合おう。</p> <p>第28・29回 充実した留学生活とするために 留学後の未来の自分を想定しよう。どこでどのような仕事をしているだろうか。 英語で語るための資料を作ろう</p> <p>第30回 まとめ(課題発表をふくむ)</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>English First Success(5th Edition). Pearson. ISBN9789813130210. もしくは、 English First Hand Level 1(Fifth Edition). Pearso. ISBN9789813130227.</p>				

授業の進度や学生の習熟度に合わせて変更することがある。 参考書・参考資料等 適宜、授業中に指示をする。 My Grammar Lab ElementaryA1/A2” Pearson. プレイスメントテストの結果、又は中間評価もしくは直近のTOEIC等の英語能力試験の結果に応じて、補助教材による自宅学習を指示することがある。 English First Access(5 th Edition). Pearson. ISBN9789813130203. など	
学生に対する評価 定期試験50% 中間評価及び授業への貢献度50%を総合して評価する。	

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

新				旧								
<table border="1"> <tr> <td>授業科目名： 英語Ⅱ</td> <td>必修</td> <td>授業回数： 30回</td> <td>担当教員名：</td> </tr> <tr> <td>授業科目区分： 基礎</td> <td>配当： 2年通期</td> <td>単位数： 4単位</td> <td>講義形態： 演習</td> </tr> </table>				授業科目名： 英語Ⅱ	必修	授業回数： 30回	担当教員名：	授業科目区分： 基礎	配当： 2年通期	単位数： 4単位	講義形態： 演習	(追加)
授業科目名： 英語Ⅱ	必修	授業回数： 30回	担当教員名：									
授業科目区分： 基礎	配当： 2年通期	単位数： 4単位	講義形態： 演習									
授業の到達目標及びテーマ 実用的な英語の運用能力を高める。ビジネスや留学で関係する様々な分野の話題を取り上げ、急速なグローバル化が進む社会への理解を深めながら、自分の考えや意見を発信し、積極的に行動するために必要となる英語力を獲得することを目指す。可能な限り身近な話題や時事問題を取り入れる。英会話ロールプレイを多用して多様な人の考えを聞き取りつつ、自らの考えなどを的確に伝えられるようになる高いリスニング力と英語会話を涵養することを目指す。授業ではプレゼンテーションやディスカッションの理解のための応用英語表現に習熟させようとして、グループワークや課題発表を課す。学生は課題に対してスライドを使用した短いプレゼンテーションを義務付け、その後教員や学生との質疑応答演習を行い、学習トピックの達成度を判断するルーブリックによる学生相互評価、教員評価を行う。テキストの事前事後学修教材を通じて英語リスニング力を強化し、授業ではアクティビティーを中心に行う（反転授業形式）。最終的に学生はグループで共同して10分程度のプレゼンテーションを行う。定期試験を実施する。												
授業の概要 本科目では、「英語Ⅰ」を履修した受講生に対し、英語運用能力の上達を図る授業を行う。目標は、CEFR等英語諸検定の高得点獲得であり、自由かつ柔軟、即時対応の表現能力開発に重点を置く。アクティブ・ラーニングと個別面接指導をもとに、履修者の学習状況、進捗状態、問題点の所在等を綿密に把握し、改善の方途を指導する。定期的にプレゼンテーションの課題を実施し、相互の意思疎通を重視した総合的な英語運用能力開発を目指す。												
授業計画 第1回：オリエンテーション（習熟度テスト実施、科目概要、年間スケジュール、履修上の留意点、評価方法） 英会話表現(5つの基本文型)とクリティカル・シンキングの導入説明 英文法を取り入れた英会話表現学習の第1回目として5つの基本文型を学習する英語表現を学ぶ。 クリティカル・シンキングの力を高めるため、実際にWhat is Critical Thinking? 「クリティカル・シンキングとは何か」について演習を通して理解する。 第2回：英会話表現(動詞)とWrite Your Problems on a Note Pad「問題点をメモに書いてみよう」 動詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 クリティカル・シンキングの基本となる、問題を見つけてその構造を知り、問題解決に結びつける過程で効果的な「問題点をメモに書いてみる」方法について演習を通して学ぶ。 第3回：英会話表現(進行形・未来形・助動詞)とMedia Literacy「メディア・リテラシー」 進行形・未来形・助動詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 世界で発信される情報の多くは英語が使用されている状況において、英語、有名紙、大手メディアということなどに感わされず批判的思考をもとに先入観なしに理解する重要性を演習を通して考察する。 第4回：英会話表現(名詞・冠詞・代名詞)とThe Spirit of Wa「和の精神」 名詞・冠詞・代名詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 日本で尊ばれる「和の精神」に関して、ビジネスなど実務的な場面での日本的な意思決定方法のメリット・デメリットについて演習を通して考えてみる。 第5回：英会話表現(前置詞・接続詞)とXenophobia「外国人嫌い」 前置詞・接続詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 特定の民族に対してステレオタイプ・イメージを抱くことや異文化摩擦の問題点を理解し、根拠のないXenophobiaを克服する必要性について演習を通して考察する。 第6回：英会話表現(形容詞・副詞と比較)とTelephone Message Game「伝言ゲーム」 形容詞・副詞・比較級に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 実社会で行われる「伝言ゲーム」の問題点を考え、複眼的な思考をすることの重要性に関する理解を演習												

<p>を通して深める。</p> <p>第7回：英会話表現(命令文・感嘆文)とAnalyze Your Pattern of Thinking「自分の思考パターンを分析する」 命令文・感嘆文に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 自分自身の思考パターンを認識して行動することの大切さを理解し、溢れる情報の中で何を自身の指針として行動すべきかについて、演習を通して考えてみる。</p> <p>第8回：英会話表現(不定詞)とThe Difference between Fact and Opinion「事実と意見の違い」 不定詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 人の話を聞いたときに必要となる、事実と意見をはっきりと区別する能力に関する理解を深め、その能力を実生活の中で生かす大切さを演習を通して考えてみる。</p> <p>第9回：英会話表現(動名詞と分詞)とThe Pitfalls of the English Language「英語の落とし穴」 動名詞と分詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 英語を勉強することは世界を知ることにつながると言われるが、その反面の、英語を勉強する際に注意すべき問題点について考え、英語にどう向き合うべきかについて、演習を通して考察する。</p> <p>第10回：英会話表現(各種疑問文・Itの特別用法)とGender Bias「ジェンダーの偏見」 各種疑問文とItの特別用法に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 ジェンダーに関する思い込みに関して考察し、ジェンダーの偏見をなくし、あらゆる点での多様性を理解し尊重することの重要性について演習を通して考察する。</p> <p>第11回：英会話表現(受動態)とSkepticism「懐疑主義」 受動態に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 先入観を持たずに批判的な思考をすることは大切であるが、度が過ぎれば懐疑主義に陥る危険性について考察し、有効な範囲で懐疑を抱くことの意義について演習を通して考える。</p> <p>第12回：英会話表現(完了形)とHow to Make a Persuasive Presentation「説得力のあるプレゼンとは」 完了形に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 Critical Thinkingの力をつけるためには、積極的に発表して、ディスカッションに参加し、意見表明をすることが必要となる。説得力のあるプレゼンとは、という問題について演習を通して考察し、自身のプレゼンテーション能力の向上につなげることを目指す。</p> <p>第13回：英会話表現(時制の一致)とFacing Ambiguity「曖昧さと向き合う」 時制の一致に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 Critical Thinkingの前提である「様々な問題は理性で解決できる」という考え方には限界があることを理解し、Critical Thinking そのものの限界と問題点に関する考察を演習を通して深め、自身のCritical Thinking の力の向上を目指す。</p> <p>第14回：英会話表現(仮定法)と学生によるプレゼンテーション及びディスカッション 仮定法に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 第1回から第13回までの授業で学習してきた内容をもとに、学生が各自選んだトピックについてのプレゼンを行い、その後、そのプレゼンをもとに発展的にディスカッションを行う。</p> <p>第15回：英会話表現(関係詞)と学生によるプレゼンテーション及びディスカッション 関係詞に関する文法事項を含む英会話表現を学習する。 第1回から第13回までの授業で学習してきた内容をもとに、学生が各自選んだトピックについてのプレゼンを行い、その後、そのプレゼンをもとに発展的にディスカッションを行う。</p> <p>定期試験</p> <p>第16回：知識を提供するプレゼンテーション① My Favorite Country「自分の好きな国・行ってみたい国」 話題を、物理的な広がりの中で分割して説明を行う「場所型」プレゼンテーションを行う。「自分の好きな国」に関する語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、その国・場所の具体的な説明や魅力に関する情報を集めて、プレゼンテーションをイメージしながら、パラグラフライティングを行うことにより、原稿作成とプレゼンテーションの準備を進める。</p> <p>第17回：知識を提供するプレゼンテーション① My Favorite Country 前回の授業で作成した原稿をもとに「自分の好きな国・行ってみたい国」についてのプレゼンテーションを行う。</p> <p>第18回：知識を提供するプレゼンテーション②Japan's Education System「日本の教育制度」 ある話題を、分類基準を明確にして分類し、それぞれのカテゴリーについて説明する「分類型」プレゼンテーションを行う。日本の教育制度に関する語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、海外の教育制度との比較に発展させたプレゼンテーションをイメージしながら、パラグラフライティングを行うことにより原稿作成とプレゼンテーションの準備を進める。</p> <p>第19回：知識を提供するプレゼンテーション② Japan's Education System 前回の授業で作成した原稿をもとに「日本の教育制度」と海外の教育制度の比較についてのプレゼンテーションを行う。</p> <p>第20回：知識を提供するプレゼンテーション③ Social Networking Service「ソーシャルネットワーキングサービスの功罪」 ある話題に関して、それらの「良い点と悪い点」「利益と不利益」「長所と短所」などを両者についての客観的な説明を行い、聞き手自身が両面からの価値判断を行うことが出来ることを目的とする「長所・短所型」プレゼンテーションを行う。ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の功罪について考察する際に必要となる語彙や表現を学習し、SNSの長所と短所を客観的な立場から具体的に説明できるようにパラグラフライティングをし、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>第21回：知識を提供するプレゼンテーション③ Social Networking Service 前回の授業で作成した原稿をもとに、「ソーシャルネットワーキングサービスの功罪」についてのプレゼンテーションを行う。その後、各自のプレゼンテーションをもとに、SNSの長所と短所に関してディスカッションを行う。</p>	
--	--

<p>第22回：説得的プレゼンテーション① The Case for Organ Donation 「臓器提供について考える」 臓器提供に関する語彙や表現を学習したのち、「事実型」プレゼンテーションで前提となる臓器移植に対して事実(Yes)か否(No)かの判断を行い、YesあるいはNoである理由について聞き手にわかりやすく説明し、理由付けの根拠となる具体的なデータや事柄を示すことが出来るように情報を集め、原稿にまとめる。</p> <p>第23回：説得的プレゼンテーション① The Case of Organ Donation 前回の授業で作成した原稿をもとに「臓器提供について」のプレゼンテーションを行う。その後、各自のプレゼンテーションをもとに、臓器移植が必要かどうかについてのディスカッションを行う。</p> <p>第24回：説得的プレゼンテーション② Global Warming: What Is to be Done? 「地球温暖化—私たちにできること」 地球温暖化に関する語彙や表現を学習し、「意見型」プレゼンテーションとして、この問題に対する具体的な解決策や改善策を提示して、主題に対する自分の意見を表明し、聞き手を説得することが出来るように解決策や改善策の有効性についてわかりやすく説明できるように原稿を作成する。</p> <p>第25回：説得的プレゼンテーション② Global Warming: What Is to be Done? 前回の授業で作成した原稿をもとに、地球温暖化に対する具体的な解決策や改善策を提案しその有効性について具体的に説明する内容のプレゼンテーションを行い、ディスカッションへと発展させる。</p> <p>第26回：説得的プレゼンテーション③ Overpopulation: Causes and Consequences 「人口過多—その原因と結果」 人口過多について考察する際に必要となる語彙や表現を学習し、問題・原因・結果法(Problem-Cause-Effect Method)にそって、人口過多の問題点について、その原因を説明し、その問題によって引き起こされる結果との因果関係に言及する原稿を作成する。</p> <p>第27回：ディスカッション1 前回作成した原稿をもとに、多くの人の前で、聞き手が問題の所在とその原因・結果の関係を理解することが出来るようにわかりやすく説明するプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。</p> <p>第28回：Informative Presentations 演習 プレゼンテーション学習の総仕上げとして、「知識を提供するプレゼンテーション」について、トピックの選定から原稿作成を自分たちで行い、情報伝達および自分の考えの説明を人前で行うプレゼンテーションの実践に挑戦する。自分が日ごろから興味・関心、問題意識などを持っているトピック選び、どのような情報提供を行うことができるかを考えてプレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>第29回：Informative Presentation 演習およびPersuasive Presentation 演習 前回作成した原稿をもとに、聞き手に対して有益な情報や知識を与えるためのプレゼンテーションを行う。聞き手は、プレゼンテーションを導入部・展開部・結論部・話し方・暗記・全体の項目で評価する。プレゼンテーション学習の総仕上げとして、「説得的プレゼンテーション」について、トピックの選定から原稿作成を自分たちで行い、ある争点や問題に対して、聞き手を説得することのできる具体的な解決策や改善策を提案することを目的としたプレゼンテーションの実践に挑戦するための準備を進める。</p> <p>第30回：ディスカッション2 前回準備した原稿をもとに、聞き手に話し手の提案を受け入れさせることを目的として、ある問題に対する自分の意見を表明し、その意見の有効性について、具体的な理由を述べてわかりやすく説明するプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後、ディスカッションを行う。</p> <p>定期試験</p>	
<p>テキスト 適宜、教員が準備をして配布する。取り上げる話題については、時事問題や旬の事項を取り入れるため、時々ニュースや状況を鑑みて、調整をすることがある。 授業の進度や学生の習熟度に合わせてテキストの変更をすることがある。 English First Hand Level 2(Fifth Edition). Pearson. ISBN9789813130234. Top Notch 2, Top Notch 3 (Third Edition). Pearson. など</p>	
<p>参考書・参考資料等 適宜、授業中に指示をする。 Fundamentals of English Grammar Volume A(Fourth Edition). Pearson. ISBN9780134661124 Fundamentals of English Grammar Volume B(Fourth Edition). Pearson. ISBN9780134661100 プレイスメントテストの結果、又は中間評価もしくは直近のTOEIC等の英語能力試験の結果に応じて、補助教材による自宅学習を指示することがある。 Top Notch 1, Top Notch 2 (Third Edition). Pearson. など</p>	
<p>学生に対する評価 定期試験50% 中間評価及び授業への貢献度50%を総合して評価する。</p>	

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

4.<教育課程の体系性が不十分>

家政学の中でも、被服生理学、被服環境学、被服材料学等を学修できる教育課程であるか不明確であるため、これらを学修できる教育課程であるか説明するか、適切に改めること。

(対応) 家政学の概説科目である「生活科学入門」の内容において、被服生理学、被服環境学、被服材料学等の内容を学修できる教育課程を編成している。
該当するシラバスを適切に見直し、説明をする。

本学は、家政学の概説科目として「生活科学入門」を配置し、被服生理学、被服環境学、被服材料学等の内容をふくめた生活科学（家政学）の全体像を学修させる教育課程とする考えである。シラバスを添付し、内容をしめす。

(新旧対照表) シラバス (全学科共通)

新				旧
授業科目名： 生活科学入門	必修	授業回数： 15回	担当教員名：	(追加)
授業科目区分： 職業専門	配当： 1年前期	単位数： 2単位	講義形態： 講義	
授業の到達目標及びテーマ 人口減少社会の日本の生活において、IT、AIなどの進化とともに、生活の未来を標榜する知識と方策が必要である。そのため、国際化社会における日本の衣食住について持続可能な消費視点も加え、現状を理解、考察し、自らが主体的に解決できる提案力、実践力を身につける。				
授業の概要 本科目では、被服学の基礎となる生活科学（家政学）の全体像に関連させながら、被服の基礎的な知識を学修する。具体的には、被服生理学にあたる被服の機能、被服材料学にあたる被服素材、被服環境学にあたる、人と衣服との関わり、被服の選択と管理、持続可能な衣食住を中心とする生活環境や社会環境などについて理解を深める。従って生活科学の包括性や拡大を考慮しながら、隣接領域および関連領域についても学修する。				
授業計画 第1回 生活科学とは何か 第2回 人口減少時代の現状と課題 第3回 人はなぜ装うのか 第6回 装いと健康 第7回 装いによる気候調節 第8回 動きやすさと被服 第9回 衣服の素材と加工 第10回 衣服の品質と管理 第11回 装いのコミュニケーション 第12回 持続可能な食生活 第13回 持続可能な住生活 第14回 持続可能な衣生活 第15回 生活環境と装い ―IT、AI化社会の中で―				
テキスト 毎回の授業の冒頭で配布				
参考書・参考資料等 岡田宣子編著：ビジュアル衣生活論 建帛社 谷田貝麻美子 間瀬清美編著：「衣生活の科学―健康的な衣の環境をめざして―」 アイケイコーポレーション				
学生に対する評価 毎回の課題60% レポート40%				

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

5.<教育課程連携協議会の構成員区分が不適切>
 依然として、教育課程連携協議会の構成員のうち、「当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者」に該当しない者が当該区分に含まれているため、構成区分を改めること。

(対応) 該当する構成員の構成区分を適切に改めた

教育課程連携協議会の構成員のうち、「当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者」に該当しない者を含まないよう、構成区分を適切に改めた。なお、新宿区文化観光産業部産業振興課長職の引き継ぎがあったため、担当者氏名を合わせて改めた。

・変更点

12番：「職業」を改め「地域」へ

(新旧対照表) 教育課程連携協議会構成員名簿 (3 ページ)

新				旧			
番 号	構成員 区分	氏名	現所属及び役職名	番 号	構成員 区分	氏名	現所属及び役職名
12	地域	村上喜孝	新宿区文化観光産業 部 産業振興課長	12	職業	太田公一	新宿区文化観光産業 部 産業振興課長

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

6.<科目区分の趣旨に沿った科目内容であるか不明確>

展開科目として配置した科目が「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的としている展開科目の趣旨を踏まえた内容となっているか不明確である。展開科目を通じて養成する「現代のファッション産業の国際化や情報化などの変化に対応する能力」を養成できる科目の内容となるように科目区分や科目内容を見直すこと。

(対応) 展開科目の趣旨を踏まえ、「現代のファッション産業の国際化や情報化などの変化に対応する能力」を養成できる科目の内容となるように科目区分や科目内容を改めた。

専門職大学設置基準に規定された展開科目の趣旨「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」を踏まえて「現代のファッション産業の国際化と情報化などの変化に対応する能力」を養成するために設けた「発信力科目群」と「国際科目群」のなかで、ファッション産業に関連する環境、地域、デジタルテクノロジーなどの他分野の応用的な知見を学び、国際的な展開につながる応用的能力を養成する考えである。

これらの科目を通じて、「豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と、「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする対応力」を養成しようとする。

審査意見を踏まえて改めて科目群を見直し、適切に科目区分と科目内容を改めた。

そのうち、「豊かな人間性及び職業倫理を涵養し、特定の職業分野の専門基礎科目ではなく、職業人としてのより一般的な基礎や汎用的能力を育み、生涯にわたり学び続けるためのリテラシー科目」などで構成される、基礎科目の区分にあたる語学科目（「フランス語」「イタリア語」「中国語」）を基礎科目へ移動した。

そして、「専門性が求められる職業を担うための実践的な能力、職業分野に関し理論にも裏付けられた実践力や応用力を修得させるよう、実践的な科目のみならず理論的な科目が配置され、当該分野全般に精通するための科目」で構成される職業専門科目の区分にあたる科目（「国際ファッション市場論」「国際ファッション業界英語」「国際展示会演習」「国際ビジネスモデル特講Ⅰ」「国際ビジネスモデル特講Ⅱ」）を職業専門科目に移動し、改めた。

また、展開科目に区分した「ファッション産業とデジタルテクノロジー」の科目内容を見直し、専門のファッション分野に関連する様々な産業とデジタルテクノロジーの関係を学ぶ「産業とデジタルテクノロジー」の科目名称に改め、内容を是正した。

また、これまで職業専門科目に区分けしていた「サブカルチャー・スタイル」「広告・PR論」については、ファッション産業だけにとどまらず、他分野の応用的な能力を養成する科目であるため区分を改めた。「サブカルチャー・スタイル」については、ファッションだけではなく、音楽やアニメ、食文化といった他分野にわたって主流といわれる実践から外れる文化実践の生成や現代的な変化が如実に現れており、クール・ジャパンなどの取り組みとしても注目されていることから、内容を改めるとともに展開科目に区分し、展開科目の充実をはかった。

各学科における是正は次の通りである。教育課程の概要を添付する。

全学科共通

- ・科目区分を改めた科目：
 - 「フランス語」展開科目→基礎科目へ
 - 「中国語」展開科目→基礎科目へ
 - 「国際ファッション市場論」展開科目→職業専門科目へ
 - 「国際ファッション業界英語」展開科目→職業専門科目へ
 - 「サブカルチャー・スタイル」職業専門科目→展開科目へ
 - 「広告・PR論」職業専門科目→展開科目へ
- ・内容を改めた科目
 - 「ファッション産業とメディアデザイン」→「産業とメディアデザイン」
(展開科目の趣旨に沿って科目名称と内容を見直した)
 - 「サブカルチャー・スタイル」(展開科目の趣旨に沿って科目内容を見直した)

ファッションビジネス学科、
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科、
名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科の3学科共通

- ・科目区分を改めた科目：
 - 「国際ビジネスモデル特講Ⅰ」→職業専門科目へ
 - 「国際ビジネスモデル特講Ⅱ」→職業専門科目へ

ファッションクリエイション学科

- ・科目区分を改めた科目：
 - 「国際展示会演習」展開科目→職業専門科目へ

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

- ・科目区分を改めた科目：
 - 「イタリア語」展開科目→基礎科目へ

(新旧対照表) 授業科目の概要 (各学科共通)

新	旧
<p>「サブカルチャー・スタイル」 <u>本科目では、主流から外れるような文化実践の生成、そのあり方、またそこから主流に影響を与えたり、取り込まれていくプロセスについて、その背景と共に学ぶことを目的とする。こうした主流の周縁で生じる文化実践をここではサブカルチャーと位置付ける。典型的なものとして、自分たちの考え方やライフスタイルを表現するような若者のストリートファッションやパンク、現代アートなど、また、演劇・音楽・マンガ・アニメなどの「クールジャパン」という名称で親しまれているような、さまざまな関連する分野の事例をあげ、理解をすすめる。サブカルチャーやアートを、消費される対象としてのみとらえることなく、同時代的に作られるものとして生成する過程を理解し、その現代のかつ文化社会的な意義を学ぶ。各受講生がめざす職業分野において、国内外で新たな価値を創造し、展開をしていくために必要な視点や知識を学ぶ。</u></p>	<p>「サブカルチャー・スタイル」 <u>従来、ファッションとして想定しているのは、西洋中心の狭い意味でのファッションである。本科目では、こうした広く流布している主流ファッションのオルタナティブについて学ぶと同時に、現代のファッションが必ずしもパリやミラノ、ニューヨークを拠点とするハウスで生み出されているものとは限らないという現代性について学ぶ。</u> <u>特に、若者たちの間では、自分たちの考え方やライフスタイルを表現するようなさまざまなファッションが、西洋の中心的なファッションに影響を受けている。本科目では、ファッションの主流から外れるようなファッションの生成、そのあり方、またそこから主流に影響を与えたり、取り込まれていくプロセスについて、その背景と共に学ぶことを目的とする。こうした主流の周縁で生じる若者中心のファッションの担い手をここではサブカルチャーと位置付ける。典型的なものとして、ストリートファッション、パンク、フェティッシュなど、また歴史的にはジーンズなどの事例をあげ、理解をすすめる。</u></p>

(新旧対照表) 授業科目の概要 (各学科共通)

新	旧
<p>「<u>産業とメディアデザイン</u>」</p> <p>本科目では、メディアに関する基礎科目を履修した<u>受講生</u>に対し、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について討議できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイス、デジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。<u>さまざまな産業</u>に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生には、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を考える課題を課す。</p>	<p>「<u>ファッション産業とメディアデザイン</u>」</p> <p>本科目では、メディアに関する基礎科目を履修した<u>受講</u>に対し、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について討議できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイス、デジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。<u>特にファッション産業</u>に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生には、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を考える課題を課す。</p>

(新旧対照表) 「教育課程の概要」

国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科

新

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
国際ファッション学部ファッションクリエイション学科

教育課程等の概要															
(国際ファッション学部ファッションクリエイション学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
① 基礎科目	比較文化論	1前	2			○			1					兼1	
	現代文化論	1後		2		○			1					兼1	
	ヨーロッパの社会と文化	2後		2		○			1					兼1	
	文化論基礎ゼミ	1前		2			○		1		2			兼2 共同	
	会計入門	1前		2			○							兼1	
	産業論入門	1後		2			○							兼1	
	法学入門	1後		2			○		1					兼1	
	地域論入門	2後		2			○				1				
	フィールドワーク入門	1後	2				○			1					
	社会科学基礎ゼミ	2後		2				○	3					兼2 共同	
	メディア概論	1前		2			○		1					兼1	
	情報リテラシー	1前		2			○		1					兼1	
	環境と社会	2前		2			○							兼1	
	英語 I	1通	4				○				1				
	英語 II	2通	4				○				1				
	フランス語	2後		2			○			1					
	中国語	2後		2			○			1				兼1	
	日本語文章表現	1後		2			○		1						
	キャリアデザイン論	1後		2			○		1						
小計 (19科目)		—	18	24	0	13	6	0	8	2	2	0	0	兼9	
② 職業専門科目	身体とパフォーマンス	1前		2			○			1					
	造形論入門	1前		2			○				1				
	自然資源と服装文化	1後		2			○				1			兼1	
	職人の世界	1前		2			○				1			兼1	
	装いと社会性・ジェンダー	1前		2			○				1				
	美とファッションの歴史	2前		2			○		1						
	ブランドの歴史と文化	2後		2			○		1					兼1	
	美容とファッション	2後		2			○							兼1	
	色彩論入門	1前		2			○							兼1	
	ファッション論基礎ゼミ	1前		2				○	2	(前修)	1				共同
	日本の衣生活・服装史入門	2前		2			○		1					兼1	
	生活科学入門	1前		2			○		1					兼1	
	ファッションデザイン論	1前		2			○		1					兼1	
	ファッションデザイン実習 I ※	1通		4				○	1		1			専攻科・履修1-2	
	ファッションデザイン実習 II ※	2通		4				○	1		1			専攻科・履修1-2	
	ファッションデザインプランニング実習 I ※	1通		4				○	3					専攻科・履修1-2	
	ファッションデザインプランニング実習 II ※	2通		4				○	3					専攻科・履修1-2	
	国際展示会演習	4前		2				○	1						
	パターンメイキング	2後		2				○			1				
	テキスタイル基礎	1後		2				○		1					
	バッグデザイン	3後		2					○	1					
	シューズデザイン	2後		2					○	1					
	デザイン感性工学	2後		2				○							兼1
ファッションビジネス概論	1前		2				○	1						兼1	
国際ファッション市場論	1後		2				○		1					兼1	
マーケティング論	3前		2					1						兼1	
消費者行動論	3前		2					1						兼1	
知財論	2後	(前修)	2					1						兼1	
国際ファッション業界英語	2通		4					○						兼1	
写真概論	1前		2				○	1							
映像概論	1後		2				○	1							
写真実習	2前		2					○	1						
映像実習	2後		2					○	1						
地域企業・地方連携ゼミ	3通	10					連	2		(前修)				共同	
臨地実習 I (企業)	3通	10						臨	3		1			兼2 集中共同	
臨地実習 II (地方産地)	3通	10						臨	2		1			兼1 集中共同	
小計 (35科目)		—	72	34	0	22	3	10	11	2	4	0	0	兼9	
③ 展開科目	環境とビジネス	3後		2			○							兼1	
	地域産業論	2後		2			○		1						
	産業とメディアデザイン	2前		2			○		1					兼1	
	デジタルアーカイブ論	2前		2				○	1					兼1	
	サブカルチャー・スタイル	2後		2			○							兼1	
	広告・PR論	3後		2				○	1					兼1	
	国際知財論	3前		2				○	1					兼1	
国際連携ゼミ	3通	4					連	6	2	2				兼2 共同	
海外実習 I	3通		2					○	5	1	2			兼1 集中共同	
海外実習 II	3通		4					○	4	2	2			兼1 集中共同	
小計 (10科目)		—	10	14	0	6	2	2	10	2	3	0	0	兼7	
④ 総合科目	統合指導ゼミ I	4前		4				○	5					兼2 共同	
	統合指導ゼミ II	4後		4				○	5					兼2 共同	
	卒業制作・計画	4通		4					○	4				共同	
	小計 (3科目)		—	12	0	0	0	2	1	9	0	2	0	0	兼7
合計 (67科目)		—	112	72	0	41	13	14	2	4	0	0	0	兼14	
学位又は称号	ファッションクリエイション学士(専門職)			学位又は学科の分野				家政							
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
【卒業要件】 次により、必修科目112単位、選択科目14単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目72単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目10単位、展開科目の選択科目10単位以上 総合科目12単位									1学年の学期区分		2学期				
									1学期の授業期間		15週				
									1時限の授業時間		90分				

(新旧対照表) 「教育課程の概要」

国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科

旧

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
国際ファッション学部ファッションクリエイション学科

教育課程等の概要																
(国際ファッション学部ファッションクリエイション学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
① 基礎科目	比較文化論	1前	2			○			1					1	兼1	
	現代文化論	1後		2			○		1						兼1	
	ヨーロッパの社会と文化	2後		2			○		1							
	文化論基礎ゼミ	1前		2				○	1		2				兼2	共同
	会計入門	1前		2											兼1	
	産業論入門	1後		2											兼1	
	法学入門	1後		2					1						兼1	
	地域論入門	2後		2						1						
	フィールドワーク入門	1後		2						1					1	
	社会科学基礎ゼミ	2後		2				○	3		1				兼3	共同
	メディア概論	1前		2					1						1	(追加)
	情報リテラシー	1前		2					1						1	
	環境と社会	2前		2											兼1	
	英語 I	1通		4								1				
英語 II	2通		4								1					
日本語文章表現	1後		2				(追加)	1								
キャリアデザイン論	1後		2					1								
小計 (17科目)		—	18	20	0	12	5	0	9	1	2	0	2	兼7	—	
② 職業専門科目	身体とパフォーマンス	1前		2						1						
	造形論入門	1前		2							1			1		
	自然資源と服装文化	1後		2							1				兼1	
	職人の世界	1前		2							1				兼1	
	装いと社会性・ジェンダー	1前		2							1					
	美とファッションの歴史	2前		2					1						1	
	ブランドの歴史と文化	2後		2					1						兼1	
	美容とファッション	2後		2											兼1	
	色彩論入門	1前		2								1			1	(追加)
	サブカルチャー・スタイル	2後		2											兼1	
	ファッション論基礎ゼミ	1前		2					1	1	1					共同
	日本の衣生活・服装史入門	2前		2					1						1	兼1
	生活科学入門	1前		2					1						1	兼1
	ファッションデザイン論	1前		2					1						1	兼1
	ファッションデザイン演習 I ※	1通		4					○	1		1				専攻科・履修1-1
	ファッションデザイン演習 II ※	2通		4					○	1		1				専攻科・履修1-1
	ファッションデザインプランニング演習 I ※	1通		4					○	3						専攻科・履修1-1
	ファッションデザインプランニング演習 II ※	2通		4					○	3						専攻科・履修1-1
	パターンメイキング	2後		2								1				
	テキスタイル基礎	1後		2						1					1	
	バッグデザイン	3後		2						○	1					
	シューズデザイン	2後		2						○	1					
	デザイン感性工学	2後		2												兼1
	ファッションビジネス概論	1前		2						1						兼1
	マーケティング論	3前		2						1					1	兼1
消費者行動論	3前		2						1					1	兼1	
知財論	2後		2				(追加)		1					1	兼1	
メディア科目群	写真概論	1前		2					1							
映像概論	1後		2						1							
写真実習	2前		2						○	1						
映像実習	2後		2						○	1						
地域科目群	地域企業・地方連携ゼミ	3通		10					連		1				共同	
臨地実習 I (企業)	3通		10							3		1		兼3	集中共同	
臨地実習 II (地方産地)	3通		10							3		1		兼1	集中共同	
小計 (34科目)		—	70	30	0	22	2	10	11	1	4	0	2	兼6	—	
③ 展開科目	環境とビジネス	3後		2										1	兼1	
	地域産業論	2後		2					1						1	
	ファッション産業とメディアデザイン	2前		2					(追加)						兼1	
	デジタルアーカイブ論	2前		2					1						兼1	
	国際展示会演習	4前		2						○						
	国際ファッション市場論	1後		2							1				1	兼1
	国際知財論	3前		2							1				兼1	
	国際ファッション業界英語	2通		4											兼1	
	フランス語	2後		2							1				兼1	
	中国語	2後		2							1				兼1	
	国際連携ゼミ	3通		4							6	2	2		兼1	共同
	海外実習 I	3通		2						○	6	2	2		兼1	集中共同
	海外実習 II	3通		2						○	4	2	2		兼1	集中共同
小計 (13科目)		—	12	14	0	5	6	2	8	2	2	0	1	兼1	—	
④ 総合科目	統合指導ゼミ I	4前		4						○					兼2	共同
	統合指導ゼミ II	4後		4						○					兼2	共同
	卒業制作・計画	4通		4							○				兼2	共同
	小計 (3科目)		—	12	0	—	0	2	1	8	0	2	0	4	0	—
合計 (67科目)		—	112	64	—	39	15	13	13	2	4	0	4	兼13	—	
学位又は称号	ファッション学士 (専門職)			学位又は学科の分野			家政									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
【卒業要件】次により、必修科目112単位、選択科目14単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上、職業専門科目の必修科目70単位、職業専門科目の選択科目2単位以上、展開科目の必修科目12単位、展開科目の選択科目2単位以上。 総合科目12単位								1学年の学期区分			2学期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科

新

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科

教育課程等の概要																
(国際ファッション学部ファッションビジネス学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
① 基礎科目	比較文化論	1前	2			○			1							
	現代文化論	1後		2		○			1							
	ヨーロッパの社会と文化	2後		2		○			1							
	文化論基礎ゼミ	1前		2			○		1	1	2				兼1 兼2	共同
	会計入門	1前		2			○								兼1	
	産業論入門	1後		2			○								兼1	
	法学入門	1後		2			○		1						兼1	
	地域論入門	2後		2			○				1	1			兼1	共同
	フィールドワーク入門	1後		2			○				1				兼1	
	社会科学基礎ゼミ	2後		2				○		3					兼1	共同
	メディア概論	1前		2			○			1					兼1	
	情報リテラシー	1前		2			○			1					兼1	
	環境と社会	2前		2			○								兼1	
	英語 I	1通		4				○		1					兼1	
	英語 II	2通		4				○		1					兼1	
	フランス語	2後		2				○			1				兼1	
	中国語	2後		2				○			1				兼1	
日本語文章表現	1後		2				○		1					兼1		
キャリアデザイン論	1後		2				○		1					兼1		
小計 (19科目)		—	18	24	0	13	6	0	8	2	2	0	0	兼7	—	
② 職業専門科目	身体とパフォーマンス	1前		2			○			1					兼1	
	造形論入門	1前		2			○				1				兼1	
	自然資源と服装文化	1後		2			○				1					
	職人の世界	1前		2			○				1					
	装いと社会性・ジェンダー	1前		2			○				1				兼1	
	美とファッションの歴史	2前		2			○		1						兼1	
	ブランドの歴史と文化	2後		2			○		1						兼1	
	美容とファッション	2後		2			○								兼1	
	色彩論入門	1前		2				○							兼1	
	ファッション論基礎ゼミ	1前		2				○		1		1			兼2	共同
	日本の衣生活・服装史入門	2前		2				○		1						
	生活科学入門	1前		2				○		1						
	ファッションデザイン論	1前		2				○		1						
	デザイン概論	1前		2				○				1			兼1	
	パターンメイキング	2後		2				○				1			兼1	
	テキスタイル基礎	1後		2				○		1					兼1	
	デザイン感性工学	2前		2				○							兼1	
ファッションビジネス概論	1前		2				○		1							
ファッションビジネス実習 I	1通		4					○		1						
ファッションビジネス実習 II	2通		4					○	1							
国際ファッション市場論	1後		2				○			1						
国際ビジネスモデル特講 I	2前		2					○		1						
国際ビジネスモデル特講 II	2後		2					○		1						
リテール企画実習 I	1通		4						○		1					
リテール企画実習 II	2通		4						○	1						
創造産業論	3前		2				○		1					兼1		
マーケティング論	3前		2				○		1							
消費者行動論	3前		2				○		1							
知財論	2後		2				○		1							
国際ファッション業界英語	2通		4					○						兼1		
メディア科目	写真概論	1前		2			○		1					兼1		
映像概論	1後		2				○		1					兼1		
写真実習	2前		2					○		1				兼1		
映像実習	2後		2					○	1					兼1		
地域・地域	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10						連	2	1	1			共同	
臨地実習 I (企業)	3通	10								臨	3	2			兼2 集中共同	
臨地実習 II (地方産地)	3通	10								臨	2	2			兼1 集中共同	
小計 (37科目)		—	72	36	0	24	6	8	8	3	5	0	0	兼12	—	
③ 展開科目	環境とビジネス	3後		2			○							兼1		
	地域産業論	2後		2			○		1					兼1		
	産業とメディアデザイン	2前		2			○		1							
	デジタルアーカイブ論	2前		2				○		1						
	サブカルチャー・スタイル	2後		2				○							兼1	
	広告・PR論	3後		2				○		1						
国際科目	国際知財論	3前		2			○		1							
国際連携ゼミ	3通		4						連	1	2	1			兼3 共同	
海外実習 I	3通		2						○	1	2	3			兼4 集中共同	
海外実習 II	3通		4						○	1	2	2			兼4 集中共同	
小計 (10科目)		—	10	14	0	6	2	2	6	2	3	0	0	兼6	—	
④ 総合科目	統合指導ゼミ I	4前		4			○		5						兼3 共同	
	統合指導ゼミ II	4後		4			○		5						兼3 共同	
	卒業制作・計画	4通		4				○	1	1					兼1 共同	
	小計 (3科目)		—	12	0	0	0	2	1	9	1	0	0	0	兼4	—
合計 (69科目)		—	112	74	0	43	15	11	11	3	5	0	0	兼17	—	
学位又は称号		ファッションビジネス学士 (専門職)		学位又は学科の分野									家政			
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
【卒業要件】 次により、必修科目112単位、選択科目14単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目72単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目10単位、展開科目の選択科目10単位以上 総合科目12単位							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科

旧

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科

教育課程等の概要														
(国際ファッション学部ファッションビジネス学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				授業形態				専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
① 基礎科目	比較文化論	1前	2			○				1				
	現代文化論	1後	2			○				1				
	ヨーロッパの社会と文化	2後	2			○				1				兼1
	文化論基礎ゼミ	1前	2			○	○			1	1	2		兼2 共同
	会計入門	1前	2			○								兼1
	産業論入門	1後	2			○								兼1
	法学入門	1後	2			○				1				
	地域論入門	2後	2			○						1		兼1 (追加)
	フィールドワーク入門	1後	2			○					1			兼1
	社会科学基礎ゼミ	2後	2			○	○			3				兼1 共同
	メディア概論	1前	2			○				1				兼1 (追加)
	情報リテラシー	1前	2			○				1				兼1 (追加)
	環境と社会	2前	2			○				1				兼1 (追加)
	英語 I	1通	4				○			1				兼1 (追加)
	英語 II	2通	4				○			1				兼1 (追加)
	日本語文章表現	1後	2				○			1				兼1
	キャリアデザイン論	1後	2			○				1				兼1
小計 (17科目)		-	18	20	0	12	5	0	8	1	2	0	0	兼7 -
② 職業専門科目	ファッション論科目群	身体とパフォーマンス	1前	2		○					1			兼1
		造形論入門	1前	2		○						1		兼1
		自然資源と服装文化	1後	2		○						1		
		職人の世界	1前	2		○						1		
		装いと社会性・ジェンダー	1前	2		○						1		
		美とファッションの歴史	2前	2		○				1				兼1
		ブランドの歴史と文化	2後	2		○				1				
		美容とファッション	2後	2		○								
		色彩論入門	1前	2		○						1		
		サブカルチャー・スタイル	2後	2		○								
	ファッション論基礎ゼミ	1前	2		○	○			1	1				兼2 共同
	デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前	2		○				1				
		生活科学入門	1前	2		○				1				
		ファッションデザイン論	1前	2		○				1				
		デザイン概論	1前	2		○								兼1
		パターンメイキング	2後	2		○						1		兼1
		テキスタイル基礎	1後	2		○				1				兼1
		デザイン感性工学	2前	2		○								兼1
		ビジネス科目群	ファッションビジネス概論	1前	2		○				1			
	ファッションビジネス演習 I		1通	4				○			1			
	ファッションビジネス演習 II		2通	4				○			1			
	リテール企画演習 I		1通	4				○				1		
	リテール企画演習 II		2通	4				○				1		
	創造産業論		3前	2		○				1				兼1
	マーケティング論		3前	2		○				1				
	消費者行動論		3前	2		○				1				
	広告・PR論	3後	2		○				1					
知財論	2後	2		(追加)				1						
メディア科目群	写真概論	1前	2		○				1				(追加)	
	映像概論	1後	2		○				1				(追加)	
	写真実習	2前	2				○		1				(追加)	
	映像実習	2後	2				○		1				(追加)	
地域・群	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10					連	2	1	1		共同	
	臨地実習 I (企業)	3通	10					臨	3	2			兼1 集中共同	
	臨地実習 II (地方産地)	3通	10					臨	2	2			兼1 集中共同	
小計 (34科目)		-	70	32	0	25	2	8	2	2	5	0	0	兼11 -
③ 展開科目	発信力科目群	環境とビジネス	3後	2		○								兼1
		地域産業論	2後	2		○				1				兼1
		ファッション産業とメディアデザイン	2前	2		○				1				
		デジタルアーカイブ論	2前	2		○				1				
	国際科目群	国際ファッション市場論	1後	2		○					1			
		国際ビジネスモデル特講 I	2前	2		○					1			
		国際ビジネスモデル特講 II	2後	2		○					1			
		国際知財論	3前	2		○				1				
		国際ファッション業界英語	2通	4				○						兼1
		フランス語	2後	2				○			1			
		中国語	2後	2				○			1			
		国際連携ゼミ	3通	4					連	1	2	1		兼2 共同
海外実習 I	3通	2					○	1	2	2		兼3 集中共同		
海外実習 II	3通	2					○	1	2	2		兼3 集中共同		
小計 (14科目)		-	16	16	0	5	7	0	5	2	2	0	0	兼5 -
④ 総合科目	統合指導ゼミ I	4前	4				○			5				兼1 共同
	統合指導ゼミ II	4後	4				○			5				兼1 共同
	卒業制作・計画	4通	4					○		5				兼1 共同
	小計 (3科目)		-	12	0	0	0	2	1	7	0	0	0	0
合計 (67科目)		-	116	68	0	42	14	11	12	3	5	0	0	兼16 -
学位又は称号		ファッション学士 (専門職)				学位又は学科の分野				家政				
卒業要件及び履修方法										授業期間等				
【卒業要件】 次により、必修科目116単位、選択科目10単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目20単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目16単位、展開科目の選択科目2単位以上 総合科目12単位										1学年の学期区分		2学期		
										1学期の授業期間		15週		
										1時限の授業時間		90分		

(新旧対照表) 「教育課程の概要」

国際ファッション学部 大阪ファッション学科

新

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
国際ファッション学部 大阪ファッション学科

教育課程等の概要 (国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教		助手	
① 基礎科目	比較文化論	1前	2			○			1						共同
	現代文化論	1後	2			○					1		1		共同
	ヨーロッパの社会と文化	2後	2			○					1				共同
	文化論基礎ゼミ	1前	2				○		1	1	2	1			共同
	会計入門	1前	2				○		1						兼1
	産業論入門	1後	2				○		1	1					共同
	法学入門	1後	2				○								兼1
	地域論入門	2後	2				○				1				
	フィールドワーク入門	1後	2				○				1				
	社会科学基礎ゼミ	2後	2					○	2	1					共同
	メディア概論	1前	2				○								兼1
	情報リテラシー	1前	2				○		1						
	環境と社会	2前	2				○				1				
	英語 I	1通	4					○							兼1
英語 II	2通	4					○							兼1	
フランス語	2後	2		2			○							兼1	
中国語	2後	2		2			○							兼1	
日本語文章表現	1後	2					○							兼1	
キャリアデザイン論	1後	2		2			○			1					
小計 (19科目)			18	24	0	13	6	0	4	2	2	1	0	兼7	—
② 職業専門科目	身体とパフォーマンス	1前	2				○						1		
	造形論入門	1前	2				○		1						
	自然資源と服装文化	1後	2				○			1					
	職人の世界	1前	2				○			1					
	装いと社会性・ジェンダー	1前	2				○				1				
	美とファッションの歴史	2前	2				○			1					
	ブランドの歴史と文化	2後	2				○			1					
	美容とファッション	2後	2				○								兼1
	色彩論入門	1前	2				○								兼1
	ファッション論基礎ゼミ	1前	2					○	1	2					兼1
	日本の衣生活・服装史入門	2前	2				○								兼1
	生活科学入門	1前	2				○								兼1
	ファッションデザイン論	1前	2				○				1				
	ファッションデザイン実習 I	1通	4					○			2				共同
	ファッションデザイン実習 II	2通	4					○			2				共同
	デザイン概論	1前	2				○								兼1
	パターンメイキング	2後	2				○				1				
	テキスタイル基礎	1後	2				○				1				
	感性工学	2後	2				○			1					
	ファッションビジネス概論	1前	2				○			1					
	国際ファッション市場論	1後	2				○			1		1			共同
	ファッションビジネス実習 I	1通	4					○			1				
	ファッションビジネス実習 II	2通	4					○			1				
	国際ビジネスモデル特講 I	2前	2					○		1	1				共同
	国際ビジネスモデル特講 II	2後	2					○		1	1				共同
	創造産業論	3前	2				○			1					
	マーケティング論	3前	2				○				1				
	消費者行動論	3前	2				○				1				
	知財論	2後	2				○								兼1
国際ファッション業界英語	2通	4					○							兼1	
写真概論	1前	2				○								兼1	
映像概論	1後	2				○								兼1	
写真実習	2前	2					○							兼1	
映像実習	2後	2					○							兼1	
地域企業・地方連携ゼミ	3通	10					連			2	2			共同	
臨地実習 I (企業)	3通	10								2	2			集中共同	
臨地実習 II (地方産地)	3通	10								2	2			集中共同	
小計 (37科目)			72	36	0	24	5	8	3	6	3	1	0	兼8	—
③ 展開科目	環境とビジネス	3後	2				○			1					
	地域産業・大阪論	2後	2				○			1					
	産業とメディアデザイン	2前	2				○			1					兼1
	デジタルテクノロジー演習	2前	2					○		1					兼1
	サブカルチャー・スタイル	2後	2					○							兼1
	広告・PR論	3後	2					○		1					
	国際知財論	3前	2				○								兼1
国際連携ゼミ	3通	4					連			3	1	1		共同	
海外実習 I	3通	2								4	1	1		集中共同	
海外実習 II	3通	4								4	1	1		集中共同	
小計 (10科目)			10	14	0	6	2	2	3	4	1	1	0	兼3	—
④ 総合科目	統合指導ゼミ I	4前	4				○			2	1				共同
	統合指導ゼミ II	4後	4				○			2	1				共同
	卒業制作・計画	4通	4					○		2	2				共同
	小計 (3科目)			12	0	0	0	2	1	4	4	0	0	0	—
合計 (69科目)			112	74	0	43	15	11	5	7	4	1	0	兼16	—
学位又は称号		ファッションクリエイション・ビジネス学士 (専門職)						学位又は学科の分野						家政	
卒業要件及び履修方法										授業期間等					
【卒業要件】 次により、必修科目112単位、選択科目14単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目72単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目10単位、展開科目の選択科目10単位以上 総合科目12単位										1学年の学期区分		2学期			
										1学期の授業期間		15週			
										1時限の授業時間		90分			

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
 国際ファッション学部 大阪ファッション学科

旧

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
 国際ファッション学部 大阪ファッション学科

教育課程等の概要																	
(国際ファッション学部大阪ファッション学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
① 基礎科目	比較文化論	1前	2						1								
	現代文化論	1後		2							1		(追加)			(追加)	
	ヨーロッパの社会と文化	2後		2							1						
	文化論基礎ゼミ	1前	2				○		1	1	2		(追加)			共同	
	会計入門	1前	2						1								
	産業論入門	1後	2						1	1						共同	
	法学入門	1後	2													兼1	
	地域論入門	2後	2								1						
	フィールドワーク入門	1後	2									1					
	社会科学基礎ゼミ	2後	2					○		2	1						共同
	メディア概論	1前	2														兼1
	情報リテラシー	1前	2							1							
	環境と社会	2前	2									1					
	英語 I	1通	4										1				(追加)
英語 II	2通	4										1					
日本語文章表現	1後	2														兼1	
キャリアデザイン論	1後	2															
小計 (17科目)		—	18	20	0	12	5	0	4	2	2	1	0	兼3		—	
② 職業専門科目	身体とパフォーマンス	1前	2									1					
	造形論入門	1前	2						1								
	自然資源と服装文化	1後	2							1							
	職人の世界	1前	2								1						
	装いと社会性・ジェンダー	1前	2								1						
	美とファッションの歴史	2前	2							1							
	ブランドの歴史と文化	2後	2							1							
	美容とファッション	2後	2														兼1
	色彩論入門	1前	2														兼1
	サブカルチャー・スタイル	2後	2														兼1
	ファッション論基礎ゼミ	1前	2							1	2		1				共同
	日本の衣生活・服装史入門	2前	2														兼1
	生活科学入門	1前	2														兼1
	ファッションデザイン論	1前	2								1						
	ファッションデザイン演習 I	1通	4								1						(追加)
	ファッションデザイン演習 II	2通	4								1						(追加)
	デザイン概論	1前	2														兼1
	パターンメイキング	2後	2									1					
	テキスタイル基礎	1後	2								1						
	感性工学	2後	2							1							
	ファッションビジネス概論	1前	2							1							
	ファッションビジネス演習 I	1通	4								1						
ファッションビジネス演習 II	2通	4								1							
創造産業論	3前	2							1								
マーケティング論	3前	2									1						
消費者行動論	3前	2									1						
広告・PR論	3後	2							1								
知財論	2後	2														兼1	
写真概論	1前	2														兼1	
映像概論	1後	2														兼1	
写真実習	2前	2									1					兼1	
映像実習	2後	2									1					兼1	
地域企業・地方連携ゼミ	3通	10								2	2					共同	
臨地実習 I (企業)	3通	10									2	2				集中共同	
臨地実習 II (地方産地)	3通	10									2	2				集中共同	
小計 (35科目)		—	70	32	0	25	2	8	3	5	3	1	0	兼8		—	
③ 展開科目	発信力科目	3後	2														
	環境とビジネス	2後	2							1							
	地域産業・大阪論	2後	2							1							
	ファッション産業とメディアデザイン	2前	2							1							兼1
	デジタルテクノロジー演習	2前	2							1							兼1
	国際ファッション市場論	1後	2									1					共同
	国際知財論	3前	2							1			1				兼1
	国際ビジネスモデル特講 I	2前	2							1	1						共同
	国際ビジネスモデル特講 II	2後	2							1	1						共同
	国際ファッション業界英語	2通	4														兼1
	フランス語	2後	2									1					(追加)
	中国語	2後	2									1					(追加)
	国際連携ゼミ	3通	4								3	1	1				共同
	海外実習 I	3通	2								2	1	1				集中共同
海外実習 II	3通	2								2	1	1				集中共同	
小計 (14科目)		—	16	16	0	5	6	2	3	3	2	1	0	兼3		—	
④ 総合科目	統合指導ゼミ I	4前	4								2	1					共同
	統合指導ゼミ II	4後	4								2	1					共同
	卒業制作・計画	4通	4								2	2					共同
	小計 (3科目)		—	12	0	0	0	2	1	4	4	0	0	0	0	0	—
合計 (68科目)		—	116	68	0	42	15	11	11	12	5	2	0	兼12		—	
学位又は称号	ファッション学士 (専門職)			学位又は学科の分野			家政										
卒業要件及び履修方法	【卒業要件】 次に、必修科目116単位、選択科目10単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目70単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目16単位、展開科目の選択科目2単位以上 総合科目12単位											授業期間等					
												1学年の学期区分	2学期				
												1学期の授業期間	15週				
												1時限の授業時間	90分				

(新旧対照表) 「教育課程の概要」

国際ファッション学部 名古屋ファッション学科

新

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
国際ファッション学部 名古屋ファッション学科

教育課程等の概要															
(国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教		助手	
① 基礎科目	比較文化論	1前	2			○					1				
	現代文化論	1後		2		○				1					
	ヨーロッパの社会と文化	2後		2		○							兼1	共同	
	文化論基礎ゼミ	1前	2				○			2	1				
	会計入門	1前	2			○				1					
	産業論入門	1後	2			○			1						
	法学入門	1後	2			○							兼1		
	地域論入門	2後	2			○					1				
	フィールドワーク入門	1後	2			○					1				
	社会科学基礎ゼミ	2後	2				○		1						
	メディア概論	1前	2			○			1						
	情報リテラシー	1前	2			○					1				
	環境と社会	2前	2			○								兼1	
	英語 I	1通	4				○							兼1	
	英語 II	2通	4				○							兼1	
	フランス語	2後	2		2		○			1				兼1	
	イタリア語	2後	2		2		○							兼1	
中国語	2後	2		2		○			1						
日本語文章表現	1後	2				○				1					
キャリアデザイン論	1後	2		2		○				1					
小計 (20科目)			18	26	0	12	7	0	3	4	4	0	0	兼5	
② 職業専門科目	身体とパフォーマンス	1前	2			○				1					
	造形論入門	1前	2			○					1				
	自然資源と服装文化	1後	2			○				1					
	職人の世界	1前	2			○				1					
	装いと社会性・ジェンダー	1前	2			○				1					
	美とファッションの歴史	2前	2			○					1				
	ブランドの歴史と文化	2後	2			○					1				
	美容とファッション	2後	2			○					1				
	色彩論入門	1前	2			○								兼1	
	ファッション論基礎ゼミ	1前	2				○				1	1		兼1	
	小計 (20科目)														共同
	デザイン科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前	2			○								兼1
		生活科学入門	1前	2			○			1					
		ファッションデザイン論	1前	2			○				1				
		ファッションデザイン実習 I	1通	4					○			1			
		ファッションデザイン実習 II	2通	4					○			1			
		デザイン概論	1前	2			○			1					
		パターンメイキング	2後	2			○					1			
		テキスタイル基礎	1後	2											兼1
		テキスタイル中級	2前	2					○						兼1
		感性工学	2後	2						○	1				
		ファッションビジネス概論	1前	2			○				1				
		国際ファッション市場論	1後	2			○			1					
		ファッションビジネス実習 I	1通	4					○			1			
	ファッションビジネス実習 II	2通	4					○			1				
	国際ビジネスモデル特講 I	2前	2					○		1					
	国際ビジネスモデル特講 II	2後	2					○						兼1	
	創造産業論	3前	2			○				1					
	マーケティング論	3前	2			○				1				兼1	
	消費者行動論	3前	2			○				1					
	知財論	2後	2			○								兼1	
国際ファッション業界英語	2通	4					○						兼1		
メディア科目群	写真概論	1前	2			○								兼1	
	映像概論	1後	2			○								兼1	
	写真実習	2前	2					○						兼1	
	映像実習	2後	2					○						兼1	
地域・産地科目群	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10						連		2	1		共同	
	産地実習 I (企業)	3通	10							臨	1	2	1	集中共同	
	産地実習 II (地方産地)	3通	10								臨	1	2	1	
小計 (38科目)			72	38	0	23	6	9	4	5	3	0	0	兼9	
③ 展開科目	環境とビジネス	3後	2			○								兼1	
	地域産業・名古屋論	2後	2			○								兼1	
	産業とメディアデザイン	2前	2			○				1					
	デジタルテクノロジー演習	2前	2					○		1					
	サバルチャー・スタイル	2後	2			○								兼1	
	広告・PR論	3後	2			○				1					
	国際知財論	3前	2			○								兼1	
	国際連携ゼミ	3通	4								2	2		共同	
	海外実習 I	3通	2					○	1	2	1			集中共同	
	海外実習 II	3通	4					○	1	2	1			集中共同	
小計 (10科目)			10	14	0	6	2	2	2	2	2	0	0	兼4	
④ 総合科目	統合指導ゼミ I	4前	4							1	3			共同	
	統合指導ゼミ II	4後	4							○		3		共同	
	卒業制作・計画	4通	4						○		3			共同	
	小計 (3科目)		12	0	0	0	2	1	0	4	0	0	0	0	
	合計 (71科目)			112	78	0	42	17	12	4	7	4	0	0	兼13
学位又は称号		学位又は学位の分野				家政									
卒業要件及び履修方法											授業期間等				
【卒業要件】 次により、必修科目112単位、選択科目14単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目72単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目10単位、展開科目の選択科目10単位以上 総合科目12単位											1学年の学期区分		2学期		
											1学期の授業期間		15週		
											1時限の授業時間		90分		

(新旧対照表) 「教育課程の概要」

国際ファッション学部 名古屋ファッション学科

旧

(新旧対照表) 「教育課程の概要」
国際ファッション学部 名古屋ファッション学科

教育課程等の概要														
(国際ファッション学部名古屋ファッション学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教		助手
① 基礎科目	比較文化論	1前	2			○								
	現代文化論	1後		2		○				1				
	ヨーロッパの社会と文化	2後		2		○							兼1	共同
	文化論基礎ゼミ	1前	2			○			2	1				
	会計入門	1前	2			○				1				
	産業論入門	1後	2			○								
	法学入門	1後	2			○								兼1
	地域論入門	2後	2			○								
	フィールドワーク入門	1後	2			○						1		
	社会科学基礎ゼミ	2後	2			○			1					
	メディア概論	1前	2			○				1				
	情報リテラシー	1前	2			○						1		
	環境と社会	2前	2			○								兼1
	英語 I	1通	4				○							兼1
英語 II	2通	4				○							兼1	
日本語文章表現	1後	2				○					1			
キャリアデザイン論	1後	2				○					1			
小計 (17科目)			18	20	0	12	5	0	3	3	3	0	0	兼4
② 職業専門科目	身体とパフォーマンス	1前	2			○				1				
	造形論入門	1前	2			○					1			
	自然資源と服装文化	1後	2			○				1				
	職人の世界	1前	2			○				1				
	装いと社会性・ジェンダー	1前	2			○				1				
	美とファッションの歴史	2前	2			○					1			
	ブランドの歴史と文化	2後	2			○					1			
	美容とファッション	2後	2			○				1				
	色彩論入門	1前	2			○								兼1
	サブカルチャー・スタイル	2後	2			○								兼1
	ファッション論基礎ゼミ	1前	2				○			1	2			共同
	日本の農生活・服装史入門	2前	2			○								兼1
	生活科学入門	1前	2			○				1				
	ファッションデザイン論	1前	2			○				1				
	ファッションデザイン演習Ⅰ	1通	4								1			
	ファッションデザイン演習Ⅱ	2通	4								1			
	デザイン概論	1前	2	(追加)			○			1				
	パターンメイキング	2後	2			○						1		
	テキスタイル基礎	1後	2			○								兼1
	テキスタイル中級	2前	2				○							兼1
	感性工学	2後	2			○				1				
	ファッションビジネス概論	1前	2			○					1			
	ファッションビジネス演習Ⅰ	1通	4								1			
	ファッションビジネス演習Ⅱ	2通	4								1			
創造産業論	3前	2			○				1					
マーケティング論	3前	2			○				1				兼1	
消費者行動論	3前	2			○				1					
広告・PR論	3後	2			○				1					
知財論	2後	2	(追加)			○							兼1	
メディア科目	写真概論	1前	2			○								兼1
映像概論	1後	2			○									兼1
写真実習	2前	2								○				兼1
映像実習	2後	2								○				兼1
方域科目・群地	地域企業・地方連携ゼミ	3通	10						1	2	1			共同
臨地実習Ⅰ (企業)	3通	10							臨	1	2	1		集中共同
臨地実習Ⅱ (地方産地)	3通	10							臨	1	2	1		集中共同
小計 (36科目)			72	32	0	23	4	7	3	5	3	0	0	兼6
③ 展開科目	発信力科目	環境とビジネス	3後	2			○			1				兼1
	地域産業・名古屋論	2後	2			○				1				兼1
	ファッション産業とメディアデザイン	2前	2			○				1				
	デジタルテクノロジー演習	2前	2				○			1				
	国際ファッション市場論	1後	2			○				1				
	国際知財論	3前	2			○								兼1
	国際ビジネスモデル特講Ⅰ	2前	2			○				1				
	国際ビジネスモデル特講Ⅱ	2後	2			○								兼1
	国際ファッション業界英語	2通	4			○								兼1
	フランス語	2後	2			○					1			
	イタリア語	2後	2			○						1		
	中国語	2後	2			○					1			
	国際連携ゼミ	3通	4								2	2		共同
海外実習Ⅰ	3通	2							○	1	2	1	集中共同	
海外実習Ⅱ	3通	2							○	1	2	1	集中共同	
小計 (15科目)			16	18	0	5	8	2	3	3	2	0	0	0
④ 総合科目	統合指導ゼミⅠ	4前	4				○		(追加)	3				共同
	統合指導ゼミⅡ	4後	4				○			3				共同
	卒業制作・計画	4通	4							○	3			共同
	小計 (3科目)			12	0	0	0	2	1	0	9	2	0	0
合計 (69科目)			118	70	0	40	19	10	4	5	4	0	0	兼11
学位又は称号		ファッション学士 (専門職)			学位又は学科の分野				家政					
卒業要件及び履修方法		授業期間等												
【卒業要件】 次により、必修科目18単位、選択科目8単位、合計126単位以上を修得すること。 基礎科目の必修科目18単位、基礎科目の選択科目2単位以上 職業専門科目の必修科目20単位、職業専門科目の選択科目2単位以上 展開科目の必修科目12単位、展開科目の選択科目2単位以上 総合科目12単位		1学年の学期区分				2学期								
		1学期の授業期間				15週								
		1時限の授業時間				90分								

(改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

7.<科目の実施体制が不明確>

教育上の効果についての説明は一定程度なされたが、教育上の目的が依然として不明確であるため、改めて説明すること。

(対応) 科目を全て 40 名以下のクラスにして適切に改めた。

本学は、専門職大学設置基準第 17 条に則り、基本的に 1 つの授業に対し 40 人以下で科目を実施する編成とする考えである。今般の審査意見を踏まえて教育課程を見直し、全学科の全科目において 40 名以下の授業となるように改めた。

補正申請時には、審査意見 12 番 (5 月) への対応としてファッションクリエイション学科において例外的に設定した全 12 科目の実施体制も 40 名以下となるようにしている。

- ・ファッションクリエイション学科で該当していた 12 科目を全て適切に改めた。
 「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」
 「造形論入門」「美とファッションの歴史」「色彩論入門」「日本の衣生活・服装史入門」
 「生活科学入門」「ファッションデザイン論」「テキスタイル基礎」
 「国際ファッション市場論」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (71-73 ページ)

新	旧
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略) 6.2 授業方法に適した学生数の設定 専門職大学設置基準第 17 条に則り、基本的に 1 つの授業に対し 40 人以下の編成としている。ただし、ファッションクリエイション学科においては、入学時に入学定員 80 名を超える。そのため、 <u>例えば、基礎科目の「英語 I、II」については 2 クラスに分けることで、1 クラスが 40 名以下となるように配慮している。また基礎科目の「比較文化論」、「フィールドワーク入門」、「メディア概論」、「情報リテラシー」、職業専門科目の「造形論入門」、「美とファッションの歴史」、「色彩論入門」、「日本の衣生活・服装史入門」、「生活科学入門」、「ファッションデザイン論」、「(削除)」、「テキスタイル基礎」、「マーケティング論」、「消費者行動論」、「(削除)」、展開科目の (削除)、「環境とビジネス」、「地域産業論」は、同時に受講する学生数の想定が最大で 80 名となる可能性がある。</u> <u>したがって、「英語 I、II」同様に 2 クラス</u>	6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略) 6.2 授業方法に適した学生数の設定 専門職大学設置基準第 17 条に則り、基本的に 1 つの授業に対し 40 人以下の編成としている。ただし、ファッションクリエイション学科においては、入学時に入学定員 80 名を超える。そのため、 <u>(追加) 基礎科目の「英語 I、II」については 2 クラスに分けることで、1 クラスが 40 名以下となるように配慮している。また基礎科目の「比較文化論」、「フィールドワーク入門」、「メディア概論」、「(追加)」、職業専門科目の (追加)、「美とファッションの歴史」、「色彩論入門」、「(追加)」、「ファッションデザイン論」、「デザイン概論」、「テキスタイル基礎」、「(追加)」、「知財論」、展開科目の「国際ファッション市場論」、(追加) は、同時に受講する学生数の想定が最大で 80 名となる可能性がある。</u> <u>(追加)</u>

に分けることで、全学科全科目で 1 クラスが 40 名以下となるよう編成をしている。
(削除)

該当科目は、基本的に知識の伝達を目的として実施する座学中心の授業である。座学中心の講義法は、多くの学生に多くの情報を同時に伝達できるという優れた特徴を持つ。一方で、履修者が多い場合には教員の負担が大きくなることや、フィードバックや目配りにも限界が生まれやすく教育上の効果が限定的になりやすいという課題が考えられる。また履修者が多いと受け身になりやすく、私語や睡眠を誘発するという懸念もある。

したがって、本学では、マイク等音響設備を備えた教室で講義を行い、知識の伝達に支障ない状態で、多くの学生に平等に多くの情報を同時に伝達するという教育上の目的を達成する。そのうえで、多人数での講義授業科目の課題を補完する方法として助手を配置し、担当教員の授業運営を助ける。

それだけではなく、多人数が集まるという学修の機会を活用し、教育上の効果を生み出す工夫をする。すなわち、該当する科目を、同学年全員が同時に互いに顔を合わせる数少ない機会ととらえ学生の相互理解を促進する。それはディプロマ・ポリシーの 4 つ目に「汎用的能力」として挙げたように、「多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う」ための学びの原点となる。例えば、「フィールドワーク入門」科目では、学生が互いにペアを作り質問の仕方を学ぶ。そこでは多人数であることで学生の多様性は高まり、教育上の効果は高まる。なおファッションクリエイション学科以外の 3 学科は、定員が 38 名であるためこの是正事項には該当しない。

このように、助手を配置して、授業を行う上で支障がないようにすると同時に、多人数の授業の教育上の効果や目的にも応じた体制を整えている。

(改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
【全学共通】

8.<実習の評価方法が不明>

「臨地実習Ⅱ（地方産地）」について、「自己評価表」及び「実習（人物）評価表」に基づき、成績評価及び単位認定を行うことが説明されているが、「実習（実務）評価表」がなく、実習を通じて修得しようとする具体的な知識・技能等をどのように評価するのか不明確であるため、改めて評価方法を説明するか、適切に改めること。

(対応) 改めて資料を作成し、評価方法を説明する。

「実習（実務）評価表」を作成し提出する（「設置の趣旨等を記載した書類」添付資料 10-1）。
 実習を通じて修得しようとする具体的な知識・技能等の評価は、5つの評価項目（「事前学習」「問題発見力」「問題解決力」「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」）からなる。
 具体的な評価基準（「実習先（産地）の特性、取扱い商材等の事前学習」「実習先（産地）の現状の問題点を発見する力」「企画編集力」「第三者に伝える能力」「実習先（産地）の人々とのネットワークを構築するための能力」）について達成度を評価する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
添付資料 10-1 「実習（実務）評価表」	<u>(追加)</u>

資料 10-1 実習（実務）評価表

校名：国際ファッション専門職大学

国際ファッション学部 ○○○○○○○○学科

学籍番号

氏名

※ご指導いただいた実習生について、以下の評価基準に基づき、ご回答ください。

評価項目	具体的な評価基準	評価基準
事前学習	実習先（産地）の特性、取扱い商材等の事前学習	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 十分な事前学習がされていた 4 最低限必要な知識はあった 3 特性など、調べた程度であり理解はされていなかった 2 事前学習といえるレベルではなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
問題発見力	実習先（産地）の現状の問題点を発見する力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 即戦力としても優れたレベルであった 4 一定レベルの能力が備わっていた 3 問題点を発見する意欲に欠けていた 2 問題点を発見する能力が十分ではなかった 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があった
問題解決力	企画編集力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があった 5 人々を魅了するコンセプトの企画編集力があつた 4 企画編集能力はあつた 3 首尾一貫した企画になつていなかった 2 企画そのものが成り立っていないかつた 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があつた
プレゼンテーション力	第三者に伝える能力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があつた 5 訴求力の高い、優れたプレゼンテーションができた 4 明確に第三者に伝えられているが、まだ弱さを感じた 3 プレゼンテーション力はあるが、明確さには至っていないかつた 2 ポイントが絞られておらず、理解に欠ける内容であつた 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があつた
コミュニケーション力	実習先（産地）の人々とのネットワークを構築するための能力	6 評価基準 5 以上に特筆すべき点があつた 5 優れたコミュニケーション力をもっている 4 仕事（実習）上、遜色のないコミュニケーション力であつた 3 実践的な経験を積めば期待できる 2 訓練しても難しいと感じた 1 評価基準 2 以上に憂慮すべき点があつた
実習指導者総合所見		
実習指導者名		印

上記のように評価する。

20 年 月 日

施設名

代表者氏名

印

(改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

9.<授業科目の充実>

以下の点を踏まえ、教育課程の改善を検討すること。

- ・「デジタルテクノロジー演習」について、3Dプリンタを学修する内容が含まれているが、3Dプリンタのみでは限定的な内容となるため、Eコマースにも対応できる3Dテクノロジーを学修するなど授業内容の充実が望まれる。
- ・「デジタルテクノロジー演習」は大阪ファッション学科及び名古屋ファッション学科のみの開講科目であるが、ファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科においても開設することが望まれる。

(対応) ・「デジタルテクノロジー演習」の内容の充実をはかる。新たにシラバスを提出する。
 ・今後、ファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科において、両学科に適した科目開設に向けた検討を行い、教育課程の充実を行う方針である。

- ・「デジタルテクノロジー演習」では、ファッション産業のみならず、広くさまざまな産業のクリエイションとビジネスに関する、現代のデジタルテクノロジー環境に対する知識と技能を学ぶ。意見を踏まえて、「Eコマースに対応する3Dテクノロジー」などの内容を学修するよう、授業内容の見直しと充実を行った。授業内容は、新たにシラバスを添付して説明する。
- ・今後、ファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科において、当該科目を開設するよう検討を重ねる。その際、東京キャンパスに位置づく両学科の国際的な環境や立地、ファッションクリエイションとファッションビジネスに特化した教育課程構成、養成する人材像に応じた内容となるよう検討を重ねる必要があると考えている。
 専攻するファッション産業の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、ファッション産業の各分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する展開科目の一つとして、特に東京地域では、関連する他分野の産業界からより多彩な人的資源を招聘しオムニバス方式などでも科目を担当することができやすい環境にある。こうした可能性があるため、科目開設に向け、学科の教育課程に沿ったものとなるよう、学科の背景を考慮に入れて前向きかつ慎重な検討を行い、教育課程の充実を行う方針である。

(新旧対照表) 授業科目の概要 (大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科共通)

新	旧
<p>「デジタルテクノロジー演習」 本科目では、<u>デジタルテクノロジーの視点から、さまざまな産業におけるクリエイション、およびビジネスに関連するデジタル環境の現状や問題点についての知見を深める。</u>近年、すべての「事象」が大きなスピードをもって「デジタル化」されようとしている。作品制作それ自体において3Dプリンタなどが利用されており、ホームページ上では個々の顧客の特性を踏まえたレコメンドーション機能の充実なども求められている。<u>現代のファッションクリエイション、ならびにファッションビジネスにおいて、創造的な役割を果たすために必要なデジタルテクノロジー環境に対する知識と技能を学ぶ。</u></p>	<p>「デジタルテクノロジー演習」 本科目では、デジタルテクノロジーの視点から、<u>ファッションクリエイション、およびファッションビジネスにおけるデジタル環境の現状や問題点についての知見を深める。</u>近年、すべての「事象」が大きなスピードをもって「デジタル化」されようとしている。作品制作それ自体において3Dプリンタなどが利用されており、ホームページ上では個々の顧客の特性を踏まえたレコメンドーション機能の充実なども求められている。ファッションクリエイション、ならびにファッションビジネスにおける、<u>デジタルテクノロジー環境に対する知識と技能を学ぶ。</u></p>

(新旧対照表) シラバス (大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科共通)

新				旧								
<table border="1"> <tr> <td>授業科目名： デジタルテクノロジー演習</td> <td>選択</td> <td>授業回数： 15回</td> <td>担当教員名：</td> </tr> <tr> <td>授業科目区分： 展開</td> <td>配当： 2年前期</td> <td>単位数： 2単位</td> <td>講義形態： 演習</td> </tr> </table>				授業科目名： デジタルテクノロジー演習	選択	授業回数： 15回	担当教員名：	授業科目区分： 展開	配当： 2年前期	単位数： 2単位	講義形態： 演習	(追加)
授業科目名： デジタルテクノロジー演習	選択	授業回数： 15回	担当教員名：									
授業科目区分： 展開	配当： 2年前期	単位数： 2単位	講義形態： 演習									
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>現代のわれわれが日々接触しているメディアはほぼ例外なくデジタルテクノロジーによって成り立っていると言っている。とりわけインターネットはあらゆる物と物、人と人、物と人を結び付けながら、新たな産業を創出し、同時にわれわれ人間の思考形態/行動様式を含めたライフスタイル全体に影響を及ぼし続けている。ファッション産業といえどもそうしたメディア環境の変化と無縁でいられるということはない。本講座では特にデジタルメディアの原理と本質に焦点を当てながら、今後ファッションがデジタルテクノロジーと手を携えた際に生み出されるであろう潜在的可能性を討議する。</p>												
<p>授業の概要</p> <p>インターネットが一般の人々にとっても欠くことのできないコミュニケーションツールとなつて約四半世紀が経過した。現在、私たちの周囲にはあたかも海や山といった自然環境が存在するように、インターネットに接続された無数のデジタルデバイス、デジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係/連携/融合しながら複雑な情報環境を形成している。インターネット第1四半世紀から第2四半世紀への移行は、従来の世界観、社会観、人間観、そして個人の美意識までをもさらに変容させていくだろう。あらゆるメディアが絡み合い、溶け合い、情報の発信者と受信者の差異が曖昧化し、さらには生産者と消費者の区別すら無効化していく時代、ファッション産業にはいかなるメディアデザインが必要となるのだろうか？ 現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引するメディア環境の未来を模索する。</p>												
<p>授業計画</p> <p>第1回：パーソナルコンピュータの誕生とその思想的背景 第2回：インターネットと情報革命 第3回：ハイパーリンクと創造性の連鎖反応 第4回：パッケージ化のクリエイションからモジュール化のクリエイションへ 第5回：情報過多の時代におけるインフォメーションデザイン 第6回：生産消費者（プロシューマー）の誕生 第7回：デジタル技術が実現するメディアデザイン01～ソーシャルメディアの光と影 第8回：デジタル技術が実現するメディアデザイン02～フリーミアムとシェアリングエコノミー 第9回：知的情報産業から身体情報産業へ 第10回：パーソナライゼーションが加速する人間の類型化というパラドックス 第11回：クリエイティビティの危機～創造産業から予測産業へ、ビジネスにおける3Dテクノロジー 第12回：デジタルテクノロジーによる伝統の保存/継承/活性、公共的知財の運用 第13回：デジタルテクノロジーによるEコマース等への対応 第14回：インターネット第2四半世紀の展望01～デジタルネイチャーという情報生態系 第15回：インターネット第2四半世紀の展望02～シンギュラリティーへの階梯</p> <p>定期試験</p>												
<p>テキスト</p> <p>毎回の授業の際に各テーマに沿ったプリントを配布する。</p>												
<p>参考書・参考資料等</p> <p>フェリックス・ガタリ『三つのエコロジー』（平凡社ライブラリー） アルビン・トフラー『第三の波』（中公文庫） R・ボッツマン&L・ロジャース『シェア<共有>からビジネスを生み出す新戦略』（NHK出版） 梅棹忠夫『情報の文明学』（中公文庫） 池田純一『ウェブ×ソーシャル×アメリカ<全球時代の構想力>』（講談社現代新書） 高橋幸治『メディア、編集、テクノロジー』（クロスメディア・パブリッシング）</p>												
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への貢献度20%。レポート40%。期末試験40%</p>												

(改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

10.<教員組織の充実>

特にファッションビジネス学科について、中国での経歴を持つ教員以外に国際的な経歴を有する教員が少ないが、当該学科で養成する人材像に鑑みれば、国際的な経歴を有する教員の充実が望まれるため、対応方針について回答すること。

(対応) 今後の教員組織編制において、適切な充実をはかる方針である。

今後、教員組織の入替が必要となる際には、幅広くアジア、アフリカ、欧米各地での国際的な経歴を有する教員を入れるなど、当該学科で育成する人材像に鑑みて適切な教員組織の充実をはかる方針である。特にファッションビジネス学科では適切な充実をはかる方針である。

本学は、18歳人口減少という将来の我が国の人口動態をふまえた大学の規模や地域配置を念頭に置いて学科構成を心掛けており、留学生の受け入れを積極的に推進すべく、各学科で積極的に多様な地域における国際的な活躍経歴のある教員組織を編成している。

また、リカレント教育の重要性を認識しており、日本のファッション産業界及びその他職業分野から社会人経験のある学生を受け入れるなど、国際的な交流と世代間の交流を生み、多様な文化や価値観が集まるキャンパスで、新たな価値を生むことを目指している。

今後も、実務家や若手、女性、外国籍の教員など、多様なバックグラウンドをもつ教員採用を心掛け、その質保証を含めて全学的に教育組織の充実に努める。日本の伝統技術や美的価値観など、日本の繊維産業界、ファッション産業界で長く培われた内容を国際的に発信し、そのために留学生や国際的な経歴を持つ教員を積極的に受け入れ、日本から世界のファッション業界に国際的に発信する拠点として、より充実を目指す。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (65-70 ページ)

新	旧
5. 教員組織編制の考え方及び特色 5.1 教員組織の編制 (略) 次に、学科別の教員組織編制の考え方と特色を記す。本学は、各学科で養成する人材像に照らして編成した教育課程を担当することのできる、豊かな学問知と実践知を持った教員を採用し、教員組織を編成している。特に、各学科で採用した専任教員は国際的な教育研究実務等のバックグラウンドを有しており、ファッション産業で国際的な活躍をする人材を養成するために必要なカリキュラムを編成することが可能である。 <u>本学は今後も、18歳人口減少という将来の我が国の人口動態をふまえた大学の規模や地域配置を念頭に置いた学科の構成を心掛け、留</u>	5. 教員組織編制の考え方及び特色 5.1 教員組織の編制 (略) 次に、学科別の教員組織編制の考え方と特色を記す。本学は、各学科で養成する人材像に照らして編成した教育課程を担当することのできる、豊かな学問知と実践知を持った教員を採用し、教員組織を編成している。特に、各学科で採用した専任教員は国際的な教育研究実務等のバックグラウンドを有しており、ファッション産業で国際的な活躍をする人材を養成するために必要なカリキュラムを編成することが可能である。 <u>(追加)</u>

学生の受け入れを積極的に推進すべく、各学科で積極的に多様な地域における国際的な活躍経験のある教員組織編制をする考えである。

また、リカレント教育の重要性を認識しており、日本のファッション産業界及びその他職業分野から社会人経験のある学生に広く門戸を開いているなど、国際的な交流と世代間の交流を生み、多様な文化や価値観が集まるキャンパスで新たな価値を生むことを目指している。

中長期的な視野を持って、各学科で実務家や若手、女性、外国籍の教員など、多様なバックグラウンドをもつ教員採用を心掛け、その質保証を含めて全学的に教育組織の充実に努める。日本の伝統技術や美的価値観など、日本の繊維産業界、ファッション産業界で長く培われた内容を国際的に発信し、そのために留学生や国際的な経験を持つ教員を積極的に受け入れ、日本から世界のファッション業界に国際的に発信する拠点として、より充実に目指す。

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

1 1.<英語名称が不適切>

大学、大阪ファッション学科及び名古屋ファッション学科、学位の英語名称について、国際的な通用性を有しているか依然として不明確であるため、必要に応じて日本語名称も検討しつつ、改めて説明するか、適切に改めること。

- (対応) (1) 大学名（英語名称）を学部編成の妥当性から鑑みて適切に改めた。
(2) 大阪ファッション学科名及び名古屋ファッション学科名（英語名称）を日本語名称も含めて適切に見直し改めた。
(3) 学位名（英語名称）を、学科名の変更に合わせて日本語名称も含め適切に改めた。

(1) 大学名（英語名称）

本学は、1学部のみでの専門職大学編成であることから、Professional University の英文名称を見直し、Professional Institute の英文名称に改めた。

大学名（和文）： 国際ファッション専門職大学
大学名（英文）： Professional Institute of International Fashion

国際的な通用性を有している名称であることを示すため、海外における当該産業及び職業分野の高等教育機関や単科大学、ポリテクニクの事例を列挙する。

例1： Fashion Institute of Technology（和訳名：ファッション工科大学）

アメリカ合衆国、ニューヨーク州立の単科大学。1944年設立でファッション産業及び当該職業分野に関する専門職を養成する高等教育機関として国際的に名高い事例である。

例2： National Institute of Fashion Technology（和訳名：国立ファッション工科大学）

インド共和国、デリーに本部を持ち、ムンバイやチェンナイなどインド各地の都市にキャンパスをもつ国立の単科大学。1986年設立でファッション産業及び当該職業分野に関する専門職を養成する南アジアの高等教育機関として名高い事例である。

(2) 大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科（英語名称及び日本語名称）

大阪ファッション学科及び名古屋ファッション学科は、養成する人材の趣旨に、キャンパスの位置づく大阪地域及び名古屋地域における、当該産業の地方創生という目的を掲げる。

両学科を取り巻く産業界から、ファッションクリエイションとファッションビジネスの両方の能力を持つ人材が要請されている（設置の趣旨等を記した書類の添付資料15）。こうした人材を養成するため、両学科は各地域における繊維、ファッション産業の特徴を学ぶ教育課程を編成しており、この教育課程で養成する人材像に照らし合わせて、2学科の名称を見直し、「大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科」、「名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科」と改めた。英語名称は、Department of Fashion Creation and Business, Osaka と Department of Fashion Creation and Business, Nagoya に改めた。

学科名（和文）： 大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科
学科名（英文）： Department of Fashion Creation and Business, Osaka

学科名（和文）： 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科
学科名（英文）： Department of Fashion Creation and Business, Nagoya

(3) 学位名（英語名称及び日本語名称）

学位名は、各学科で養成する人材像と教育研究の目的、教育課程、身につける力を鑑み、日本語名称と合わせて、以下の通り改めた。各学科の学位名称は、ファッション産業界及び当該産業の職種として国内外で通用する名称である。

ファッションクリエイション学科

学位（和文）： ファッションクリエイション学士（専門職）

学位（英文）： Bachelor of Fashion Creation

ファッションビジネス学科

学位（和文）： ファッションビジネス学士（専門職）

学位（英文）： Bachelor of Fashion Business

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

学位（和文）： ファッションクリエイション・ビジネス学士（専門職）

学位（英文）： Bachelor of Fashion Creation and Business

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

学位（和文）： ファッションクリエイション・ビジネス学士（専門職）

学位（英文）： Bachelor of Fashion Creation and Business

学科名・学位名において「ファッションクリエイション」及び「ファッションビジネス」が使用されている、国際通用性を有し、我が国を代表するファッションの大学院の事例をあげる。

例：文化ファッション大学院大学ファッションビジネス研究科ファッションクリエイション専攻

学位（和文）： ファッションクリエイション修士（専門職）

学位（英文）： Master of Fashion Creation

学科名および学位名に「・」が用いられている通用例として、国際的な通用性を有している大学の事例を挙げる。

例： 京都大学大学院 人間・環境学研究所 学位名称： 博士（人間・環境学）

国立の総合大学。大学院人間・環境学研究所は、京都大学教養部を母体として設立された。

旧制第三高等学校を前身として国際的に名高い、我が国を代表する大学の一つである。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（34 ページ）

新	旧
<p>3.1 大学の名称</p> <p>大学名称：<u>国際ファッション専門職大学</u> <u>Professional Institute of International Fashion</u></p> <p>理由：<u>大学の名称は、本学の学問の中心領域である家政学においてファッションとビジネスと専門的に学ぶことを示すものとなっている。そして、国際ファッション市場で自立できる専門職業人材を育成することを明確にするため、国際ファッション専門職大学とした。英語名称は、国際的な通用性を有し、専門職大学であることをわかるように「Professional Institute of International</u></p>	<p>3.1 大学の名称</p> <p>大学名称：<u>国際ファッション専門職大学</u> <u>Professional University of International Fashion</u></p> <p>理由：<u>大学の名称は、本学の学問の中心領域である家政学においてファッションとビジネスと専門的に学ぶことを示すものとなっている。そして、国際ファッション市場で自立できる専門職業人材を育成することを明確にするため、国際ファッション専門職大学とした。英語名称は、国際的な通用性を有し、専門職大学であるこ</u></p>

<p><u>Fashion」とした。</u></p> <p>3.3 学位の名称 <u>本学は、国際ファッション学部の各学科で、4年制の全カリキュラムを修了し卒業認定をうけた者に、各学科で養成するファッション産業界の職業分野を適切に示す名称の学士（専門職）の学位を授与する。</u></p> <p>学位名称： <u>(1) ファッションクリエイション学科</u> <u>ファッションクリエイション学士（専門職）</u> <u>Bachelor of Fashion Creation</u> <u>(2) ファッションビジネス学科</u> <u>ファッションビジネス学士（専門職）</u> <u>Bachelor of Fashion Business</u> <u>(3) 大阪ファッションクリエイション・</u> <u>ビジネス学科</u> <u>ファッションクリエイション・</u> <u>ビジネス学士（専門職）</u> <u>Bachelor of Fashion Creation and Business</u> <u>(4) 名古屋ファッションクリエイション・</u> <u>ビジネス学科</u> <u>ファッションクリエイション・</u> <u>ビジネス学士（専門職）</u> <u>Bachelor of Fashion Creation and Business</u></p> <p>理由：<u>ファッション産業及び当該産業の職種に関わる学位名（専門職）とした。</u> <u>各学科で養成する人材像と職種に合わせて、学位に付記する専攻分野の名称を、ファッションクリエイション分野、ファッションビジネス分野、ファッション産業のクリエイションとビジネスを地域性とともに統合して学ぶファッションクリエイション・ビジネス分野という3つに定めた。『専門職大学の設置の認可申請に係る提出書類の作成の手引（平成31年度開設用）』に従い、当該産業の職業分野を適切に表すファッションクリエイションやファッションビジネス等とし、マーチャンダイザーやパタンナー等過度に細分化した職種名称とならないよう留意した。英語名称は、国際通用性を持ち、専門職大学の学位名として適切となるよう、それぞれ</u> <u>Bachelor of Fashion Creation、Bachelor of Fashion Business、Bachelor of Fashion Creation and Business</u> とした。</p>	<p>とをわかるように「<u>Professional University of International Fashion</u>」とした。</p> <p>3.3 学位の名称 <u>本学は、国際ファッション学部の4年制の全カリキュラムを修了し卒業認定をうけた者に、ファッション学士（専門職）の学位を授与する。その理由は、ファッションに関して、専門的なクリエイションとビジネスの両側面から総合的に学ぶためである。</u></p> <p>名称：<u>ファッション学士（専門職）</u> <u>Bachelor of Fashion</u></p> <p>理由：<u>ファッションに関して、クリエイションとビジネス領域を総合的に学ぶことから、学位に付記する専攻分野の名称をファッションとする。『専門職大学の設置の認可申請に係る提出書類の作成の手引（平成31年度開設用）』に従い、当該産業分野を適切に表すファッションとし、ファッションクリエイションやファッションビジネスなど、職種について過度に細分化した名称とならないよう留意した。英語名称は、(追加) 専門職大学の学位名として適切となるよう、<u>Bachelor of Fashion</u> とした。</u></p>
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
添付資料 15 「就職採用に関するアンケート結果」	<u>(追加)</u>

設置の趣旨等を記載した書類（資料15）

「就職採用に関するアンケート結果」

<大阪・名古屋地域企業が本学の学生に求める能力>

新卒採用時における、企業からの要望として、以下の企業より「ファッションクリエイションとファッションビジネスのそれぞれの能力を兼ね備えた人材を採用したい」との結果であった。

■大阪地域（関西）		会社名	所在地
1	株式会社アーバンリサーチ		大阪府大阪市
2	株式会社エスグループ		大阪府大阪市
3	株式会社クラウディア		京都府京都市
4	小泉アパレル株式会社		大阪府大阪市
5	株式会社神戸ドリーム		大阪府大阪市
6	株式会社サンウエル		大阪府大阪市
7	株式会社ジオン商事		大阪府大阪市
8	株式会社シティーヒル		大阪府大阪市
9	株式会社ジャヴァコーポレーション		兵庫県神戸市
10	株式会社タカ・ダンスファッション		大阪府大阪市
11	株式会社玉屋		大阪府大阪市
12	帝人フロンティア株式会社		大阪府大阪市
13	株式会社ドリーム		大阪府大阪市
14	株式会社西川商店		大阪府大阪市
15	株式会社ブレンディング		大阪府大阪市
16	株式会社ベベ		兵庫県神戸市
17	ホープインターナショナルワークス株式会社		大阪府大阪市
18	マツオインターナショナル株式会社		大阪府大阪市
19	株式会社 mighty		大阪府大阪市
■名古屋地域（東海）		会社名	所在地
1	株式会社アスディック		愛知県一宮市
2	株式会社アルペン		愛知県名古屋市
3	株式会社イトーファッション		岐阜県岐阜市
4	株式会社エイムインターナショナル		愛知県名古屋市
5	クロスプラス株式会社		愛知県名古屋市
6	佐藤正株式会社		岐阜県岐阜市
7	サンラリーグループ		岐阜県岐阜市
8	株式会社スタジオ翔		愛知県名古屋市
9	株式会社ゼロコーポレーション		愛知県名古屋市
10	ダイショーファッションテキスタイル株式会社		愛知県一宮市
11	瀧定名古屋株式会社		愛知県名古屋市
12	タキヒヨー株式会社		愛知県名古屋市
13	ダーナ有限会社		岐阜県岐阜市
14	チーカス株式会社		愛知県清須市
15	林八百吉株式会社		愛知県名古屋市
16	ヒロタ株式会社		岐阜県岐阜市
17	プランニングオフィス・ラグーン有限会社		愛知県名古屋市
18	株式会社フリーインターナショナル		愛知県名古屋市
19	牧村株式会社		愛知県名古屋市
20	株式会社ヤマダヤ		愛知県名古屋市

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

1 2.<施設設備の整備状況が不明確>

実習室や演習室等の科目別の使用計画が示されたが、卒業制作のように学生が授業時間外で使用することに鑑みると、十分なスペースが確保されているか依然として不明確であるため、改めて説明すること。

(対応) 改めてスペースを確保するとともに、
十分なスペースが確保されていることを改めて説明する。

- ・時間割のなかで、大学が専門学校と共用する時間を示す資料を付け説明する。
補正申請までの大学の時間割において、各校舎で共用する教室は、1室ずつである。
月曜日から土曜日までの6日間に、1限目から5限目まで30コマあるが、大半の時間を大学の学生や教員が使用できる時間割となっている。
名古屋校舎においては、東京校舎と大阪校舎に比べて専門学校の稼働率がやや高いが、6、7限目までの時間を入れると、学生が授業時間外に十分に作業ができるスペースが確保されている。
- ・審査意見を踏まえて、既存の専門学校の時間割を調整し、さらに下記の教室を共有することで卒業制作のような授業時間外も作品制作し保管できるスペースを確保した。
(設置の趣旨等を記した書類の資料14)
- ・東京キャンパス：415教室 (本学が、平日、全席を確保)
76.06㎡ 28席 机14台
工業用ミシン22台、ロックミシン5台、アイロン5台、アイロン台4台、
バキュームアイロン1台、万十(2号)3個、ボディ12台、仕上馬4個

473教室(コンテストルーム) (本専門職大学が通年平均50席以上を確保)
100.52㎡ 62席 机18台
スチール棚(収納、6mm厚透明ビニールカッティングボード16枚、工業用
ミシン2台、職業用ミシン4台、ロックミシン12台、アイロン2台、ア
イロン台1台、バキュームアイロン2台、ハシマプレス1台、万十(2号)
3個、ボディ7AR1台、ボディ9AR-C4台、ボディ9AT1台、ボディ(チ
ルドレン)1台、クロッチボディ(11)2台、クロッチボディ(9AR)1台、
クロッチボディ(水着・レオタード)1台、メンズトルソー1台、婦人マネキ
ン6台、紳士マネキン5台、ハンガーラック15台、昇華プリンター2台、
昇華プリンター用PC1台
- ・大阪キャンパス：015教室 (本学が通年、平日、全席を確保)
108㎡ 60席 机23台
工業用ミシン40台、ロックミシン9台、革用ミシン3台、革漉き機1台
熱風仕上げ1台、アイロン7台、アイロン台5台、エッジボード1個
バキュームアイロン2台、万十(2号)1個、袖万7号1個、仕上馬2個
※ボディが必要な場合は053ABC教室から移動
- ・名古屋キャンパス：242教室(コンテストルーム) (本学が通年平均40席以上を使用)

223 m² 54 席 机 4 人用 10 台、2 人用 7 台

スチール棚（収納、6 mm厚透明ビニールカッティングボード 16 枚、工業用ミシン 2 台、アイロン 1 台、アイロン台 1 台、婦人マネキン 3 台、紳士マネキン 5 台、ハンガーラック 7 台、昇華プリンター 2 台、昇華プリンター用 PC1 台、刺繍機 1 台

※ボディ、ミシンが必要な場合はストックルームから移動

以上のスペースと機材を、学生の卒業制作並びに作品制作スペースとして準備する。

新たに既存の専門学校と共有する教室の図面（平米数、席数）や教室使用状況（「設置の趣旨等を記載した書類」資料 14）を追加し提出する。また関連する「校地校舎等の図面」を修正して提出する。

加えて、東京キャンパスの 396 教室（撮影スタジオ）、大阪キャンパスの 053ABC 教室、名古屋キャンパスの 261,262 教室を既存の専門学校と共有するため、校地校舎等の図面など関連書類を修正する。

大学の 1 学年の定員は、ファッションクリエイション学科 80 名、ファッションビジネス学科 38 名、大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 38 名、名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 38 名である。

ファッションクリエイション分野の仕事志向する学生が布地を広げ、パターンを作成し、縫製作業などをすることが想定されるため、その機能を兼ね備えた教室として、東京キャンパスの 415 教室を確保した。415 教室は、専門学校の授業を外し、通年、全時間帯において制作活動を行う事ができる。473 教室は通年、全時間帯を通じた制作活動が可能である上、卒業制作の実物制作繁忙期となる 12 月以降はほぼ専有できるようになる。大阪キャンパスの 015 教室においては、専門学校の授業を外し、通年全学生の席数が確保できている。名古屋キャンパスの 242 教室は卒業制作の実物制作開始時より、全学生の席数が確保できている。

（設置の趣旨等を記した書類の資料 14）

今回、大学の年間スケジュールを見直し、前期と後期の終了時期、開始時期を変更した。

これまでの時間割（資料 5-1）で示していた年次スケジュールは、既存の専門学校と同じ動きであり、授業期間も連動していた。そのため、学生が作業で使用する時期が一部重なる憂いがあったのだが、授業期間をずらすことで、専門学校の学生が通常よく作品制作で使用する 8 月 9 月のピークとは異なる時期に、大学の学生が使用するようにした。

以上のことから、実習室や演習室等を使用する十分なスペースが確保されていると考えている。

■時間割のなかで、専門学校が共用する時間を示す資料（東京校舎（前期））

- ・共用する教室：39階「396教室」のみ。
月曜日1、4限目に「テクニカルデザインⅡ」で使用する。
- ・6限目、7限目は、全て空き教室としている。

時間割番号1-1 国際ファッション専門学校国際ファッション学部・東京モード学園・前期																		前期
学 科： 専門学校 - ファッションクリエイション学科・ファッションビジネス学科 全学年 専門学校 - ファッションデザイン学科・ファッション技術学科・スタイリスト学科																		前期
時間帯	月	火	水	木	金											土		
I	38F 381		381		381		381		381		381		381		381		381	
	38F 382		382		382		382		382		382		382		382		382	
	39F 396	ファッションデザインⅡ 専門学校	396		396		396		396		396		396		396		396	
	41F 415		415		415		415		415		415		415		415		415	
	44F 441		441 比較文化論 1前 東	441 東とファッションの歴史 2前 高橋幸次	441 色彩論入門 1前 大貴	441 造形論入門 1前 今村	441 会計入門 1前 米倉											
	44F 442	創造産業論 3前 林	442		442		442 メディア概論 1前 高橋幸治	442		442 国際知財論 3前 西村								
	44F 443	生活科学入門 1前 松岡	443 情報リテラシー 1前 林	443 比較文化論 1前 東	443 日本の衣食住・服装文化入門 2前 松岡	443 身体とパフォーマンス 1前 寺戸	443											
44F 444	ファッションデザイン概論Ⅰ 2通 後藤・松村・熊	444 ファッションデザインの歴史Ⅰ 2通 後藤・松村・熊	444 ファッションデザイン概論Ⅰ 1通 永澤・村上	444 ファッションデザイン概論Ⅰ 2通 永澤・村上	444	444												
47F 473		473		473		473		473		473		473		473		473		473
II	38F 381		381		381		381		381		381		381		381		381	国際連携ゼミ 3通
	38F 382		382		382		382		382		382		382		382		382	国際連携ゼミ 3通
	39F 396	写真実習 2前 鈴木	396 スタイリングテクニックⅡ 専門学校	396	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396							
	41F 415		415		415		415		415		415		415		415		415	
	44F 441	情報リテラシー 1前 林	441 ファッションデザイン論 1前 松岡	441 東とファッションの歴史 2前 高橋幸次	441 メディア概論 1前 高橋幸治	441 職人の世界 1前 丹羽	441											
	44F 442		442 情報リテラシー 1前 林	442 ファッションデザイン論 1前 松岡	442 ファッションデザイン論 1前 松岡	442 職人の世界 1前 丹羽	442											
	44F 443	国際展学会演習 4前 永澤	443 国際ファッション展覧会 2通 ベンジャー	443 デザイン概論 1前 塚本	443 ファッションビジネス概論 1前 平井	443 造形論入門 1前 今村	443											
44F 444	ファッションデザイン概論Ⅰ 2通 後藤・松村・熊	444 ファッションデザインの歴史Ⅰ 2通 後藤・松村・熊	444 ファッションデザイン概論Ⅰ 1通 永澤・村上	444 ファッションデザイン概論Ⅰ 2通 永澤・村上	444	444												
47F 473		473		473		473		473		473		473		473		473		473
III	38F 381		381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通
	38F 382		382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通
	39F 396	写真実習 2前 鈴木	396 スタイリングテクニックⅡ 専門学校	396	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木
	41F 415		415		415		415		415		415		415		415		415	
	44F 441	消費者行動論 1通 後藤・松村・熊	441 消費者行動論 3前 平井	441 東とファッションの歴史 2前 高橋幸次	441 メディア概論 1前 高橋幸治	441 環境と社会 2前 関戸	441 環境と社会 2前 関戸											
	44F 442	リサーチ企画演習Ⅰ 1通 倉内	442 比較文化論 1前 東	442 ファッションデザインの歴史 2前 高橋幸次	442 色彩論入門 1前 大貴	442 消費者行動論 3前 平井	442											
	44F 443	生活科学入門 1前 松岡	443 英語Ⅱ 2通 熊田	443 情報リテラシー 1前 熊田	443 比較文化論 1前 東	443 リサーチ企画演習Ⅱ 2通 古田	443											
44F 444	ファッションデザイン概論Ⅰ 2通 永澤・村上	444 国際ファッション展覧会 2通 ベンジャー	444 デザイン感性工学 2前 塚本	444 ファッションデザインの歴史Ⅰ 1通 永澤・村上	444	444												
47F 473		473		473		473		473		473		473		473		473		473
IV	38F 381		381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通
	38F 382		382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通
	39F 396	写真実習 2前 鈴木	396 スタイリングテクニックⅡ 専門学校	396	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木
	41F 415		415		415		415		415		415		415		415		415	
	44F 441	リサーチ企画演習Ⅱ 1通 後藤・松村・熊	441 デジタルマーケティング 2前 東	441 東とファッションの歴史 2前 高橋幸治	441 色彩論入門 1前 大貴	441	441											
	44F 442	日本の衣食住・服装文化入門 2前 松岡	442 リサーチ企画演習Ⅰ 1通 倉内	442 ファッションデザインの歴史 2前 高橋幸治	442 色彩論入門 1前 大貴	442	442											
	44F 443	英語Ⅰ 1通 熊田	443 消費者行動論 3前 平井	443 造形論入門 1前 今村	443 リサーチ企画演習Ⅱ 2通 古田	443	443											
44F 444	ファッションデザイン概論Ⅰ 2通 永澤・村上	444 国際ファッション展覧会 2通 ベンジャー	444	444	ファッションデザインの歴史Ⅰ 1通 永澤・村上	444												
47F 473		473		473		473		473		473		473		473		473		473
V	38F 381		381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通	381 卒業制作・計画 4通
	38F 382		382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通	382 卒業制作・計画 4通
	39F 396	写真実習 2前 鈴木	396 スタイリングテクニックⅡ 専門学校	396	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木	396	写真実習 2前 鈴木
	41F 415		415		415		415		415		415		415		415		415	
	44F 441	日本の衣食住・服装文化入門 2前 松岡	441 生活科学入門 1前 松岡	441 マーケティング論 3前 平井	441 ファッション概論Ⅰ 1前 高橋・松村・熊	441	441											
	44F 442		442		442		442		442		442		442		442		442	
	44F 443	英語Ⅰ 1通 熊田	443 マーケティング論 3前 平井	443 文化論基礎ゼミ 1前 東・内村・熊田	443 文化論基礎ゼミ 1前 東・内村・熊田	443	443											
44F 444	英語Ⅰ 1通 山本	444 英語Ⅱ 2通 熊田	444 英語Ⅱ 2通 山本	444	444													
47F 473		473		473		473		473		473		473		473		473		473
VI	38F 381		381		381		381		381		381		381		381		381	
	38F 382		382		382		382		382		382		382		382		382	
	39F 396		396		396		396		396		396		396		396		396	
	41F 415		415		415		415		415		415		415		415		415	
	44F 441		441		441		441		441		441		441		441		441	
	44F 442		442		442		442		442		442		442		442		442	
	44F 443		443		443		443		443		443		443		443		443	
44F 444		444		444		444		444		444		444		444		444		
47F 473		473		473		473		473		473		473		473		473		473
VII	38F 381		381		381		381		381		381		381		381		381	
	38F 382		382		382		382		382		382		382		382		382	
	39F 396		396		396		396		396		396		396		396		396	
	41F 415		415		415		415		415		415		415		415		415	
	44F 441		441		441		441		441		441		441		441		441	
	44F 442		442		442		442		442		442		442		442		442	
	44F 443		443		443		443		443		443		443		443		443	
44F 444		444		444		444		444		444		444		444		444		
47F 473		473		473		473		473		473		473		473		473		473

■時間割のなかで、専門学校が共用する時間を示す資料（東京校舎（後期））

- ・共用する教室：39階「396教室」のみ。
- 月曜日 1、2限目に「スタイリストテクニクⅠ」で使用する。
- 火曜日 3、4、5限目に「スタイリストテクニクⅡ」で使用する。
- ・6限目、7限目は、全て空き教室としている。

時間割番号1-2 国際ファッション専門学校国際ファッション学部、東京モード学園：後期													
学 科：専門学校 - ファッションクリエイション学科・ファッションビジネス学科全学年 専門学校 - ファッションデザイン学科・ファッション技術学科・スタイリスト学科													
時間	月		火		水		木		金		土		
I	38F	381		381		381		381		381		381	
		382		382		382		382		382		382	
	39F	396	専門学校	396	映像実習 2後 宮崎	396	映像概論 1後 宮崎	396		396		396	
	41F	415		415		415		415		415		415	
	44F	441	ファッション入門 1後 寺戸	441	地域産業論 2後 林	441	ファッション入門 1後 寺戸	441		441	自然資源と観光文化 1後 丹羽	441	ブランドの歴史と文化 2後 松岡
		442		442		442	環境とビジネス 3後 関戸	442		442	ヨーロッパの観光と文化 2後 高橋幸次	442	産業論入門 1後 米倉
		443	地域産業論 2後 林	443	ファッション実習 2通 ベンジー	443	英語Ⅱ 2通 熊田	443		443		443	
	444	ファッションデザイン概論 2通 後藤・松村・持	444	ファッションデザイン概論 1通 永澤・村上	444	ファッションデザイン概論 1通 永澤・村上	444	テキスタイル基礎 1後 持	444		444		
	473		473		473		473		473		473		
II	38F	381		381		381		381		381		381	
		382		382		382		382		382		382	
	39F	396	専門学校	396	映像実習 2後 宮崎	396	映像概論 1後 宮崎	396	映像概論 1後 宮崎	396		396	
	41F	415		415		415		415		415		415	
	44F	441	ファッション入門 1後 寺戸	441	テキスタイル基礎 1後 持	441	環境とビジネス 3後 関戸	441	日本語文章表現 1後 東	441	知財論 2後 西村	441	
		442	ファッションデザイン概論 1通 古田	442	ファッション実習 2通 ベンジー	442		442		442		442	
		443	キャリアデザイン概論 1後 林	443	英語Ⅱ 2通 熊田	443		443		443	国際ファッション実習 1後 後藤	443	美容とファッション 2後 田中
	444	ファッションデザイン概論 2通 後藤・松村・持	444	ファッションデザイン概論 1通 永澤・村上	444	ファッションデザイン概論 1通 永澤・村上	444	シューズデザイン 2後 持	444	テキスタイル基礎 1後 持	444		
	473		473		473		473		473		473		
III	38F	381		381	卒業制作・計画 4通	381	卒業制作・計画 4通	381	地域・地方連携ゼミ 3通	381	統合指導ゼミⅡ 4後	381	国際連携ゼミ 3通
		382		382	卒業制作・計画 4通	382	卒業制作・計画 4通	382	地域・地方連携ゼミ 3通	382	統合指導ゼミⅡ 4後	382	国際連携ゼミ 3通
	39F	396	専門学校	396		396		396		396		396	
	41F	415		415		415		415		415		415	
	44F	441	地域論入門 2後 寺戸	441		441		441		441		441	現代文化論 1後 東
		442	ファッションデザイン概論 1通 古田	442	日本語文章表現 1後 山本	442	リサーチ企画実習Ⅱ 2通 古田	442	バッグデザイン 2後 松村	442		442	地域産業論 2後 林
		443	英語Ⅰ 1通 熊田	443	ファッション実習 2通 ベンジー	443	フランス語 2後 寺戸	443		443		443	
	444	ブランドマーケティング 2後 村上	444	ファッションデザイン概論 2通 永澤・村上	444	ファッションデザイン概論 2通 後藤・松村・持	444	ファッションデザイン概論 1後 後藤・松村・持	444	ファッションデザイン概論 1後 後藤・松村・持	444	サブカルチャー 2後 吉田	
	473		473		473		473		473		473		
IV	38F	381		381	卒業制作・計画 4通	381	卒業制作・計画 4通	381	地域・地方連携ゼミ 3通	381	統合指導ゼミⅡ 4後	381	
		382		382	卒業制作・計画 4通	382	卒業制作・計画 4通	382	地域・地方連携ゼミ 3通	382	統合指導ゼミⅡ 4後	382	
	39F	396	専門学校	396		396		396		396	映像実習 2後 宮崎	396	映像実習 2後 宮崎
	41F	415		415		415		415		415		415	
	44F	441	リサーチ企画実習Ⅰ 1通 倉内	441	中国語 2後 篠原	441	国際ファッション実習 1後 篠原	441	ファッションデザイン概論 2通 平井	441		441	法学入門 1後 西村
		442	広告・PR論 3後 高橋幸次	442	日本語文章表現 1後 山本	442	リサーチ企画実習Ⅱ 2通 古田	442		442		442	
		443	英語Ⅰ 1通 熊田	443	ファッション実習 2通 ベンジー	443	環境とビジネス 3後 関戸	443		443	国際ビジネス実習 2後 篠原	443	
	444	ファッションデザイン概論 2通 永澤・村上	444	ファッションデザイン概論 2通 永澤・村上	444	ファッションデザイン概論 2通 後藤・松村・持	444	ファッションデザイン概論 1後 後藤・松村・持	444	ファッションデザイン概論 1後 後藤・松村・持	444		
	473		473		473		473		473		473		
V	38F	381		381	卒業制作・計画 4通	381	卒業制作・計画 4通	381	地域・地方連携ゼミ 3通	381	統合指導ゼミⅡ 4後	381	
		382		382	卒業制作・計画 4通	382	卒業制作・計画 4通	382	地域・地方連携ゼミ 3通	382	統合指導ゼミⅡ 4後	382	
	39F	396	専門学校	396		396		396		396	映像実習 2後 宮崎	396	映像実習 2後 宮崎
	41F	415		415		415		415		415		415	
	44F	441	リサーチ企画実習Ⅰ 1通 倉内	441	中国語 2後 篠原	441	社会科学基礎ゼミ 2後 林・松岡・野井	441	ファッションデザイン概論 2通 平井	441	知財論 2後 西村	441	
		442	英語Ⅰ 1通 山本	442	英語Ⅱ 2通 山本	442		442		442		442	
		443	広告・PR論 3後 高橋幸次	443		443		443		443		443	
	444	ファッションデザイン概論 2通 永澤・村上	444		444		444	デザイン感性工学 2後 塚本	444		444		
	473		473		473		473		473		473		
VI	38F	381		381		381		381		381		381	
		382		382		382		382		382		382	
	39F	396		396		396		396		396		396	
	41F	415		415		415		415		415		415	
	44F	441		441		441		441		441		441	
		442		442		442		442		442		442	
		443		443		443		443		443		443	
	444		444		444		444		444		444		
	473		473		473		473		473		473		
VII	38F	381		381		381		381		381		381	
		382		382		382		382		382		382	
	39F	396		396		396		396		396		396	
	41F	415		415		415		415		415		415	
	44F	441		441		441		441		441		441	
		442		442		442		442		442		442	
		443		443		443		443		443		443	
	444		444		444		444		444		444		
	473		473		473		473		473		473		

■時間割のなかで、専門学校が共用する時間を示す資料（名古屋校舎（前期））

・共用する教室：26階「261.2教室」のみ。

月・土曜日の1-5限目まで、全30コマのうち、大学が16コマ、専門学校が14コマ使用する。

時間割番号4-1 国際ファッション専門学校大学国際ファッション学部、名古屋モード学園：前期																				前期	
学 科： 専門職大学 - 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 専門学校-ファッションデザイン学科・ファッション技術学科																					
時間帯	月	火			水			木			金			土							
I	24F	242			242			242			242			242			242				
	26F	261.2	パターン理論 I	専門学校	261.2	パターンメイクⅠ	専門学校	261.2	パターンメイクⅡ	専門学校	261.2	ケーススタディⅡ	専門学校	261.2	専攻別	専門学校	261.2	専攻別	専門学校		
	32F	321			321			321			321			321			321				
	33F	331	比較文化論 1前	安念	331			331	生活科学入門 1前	高間	331	マーケティング論 3前	関	331	身体とパフォーマンス 1前	磯部	331				
	34F	341	造形論入門 1前	奥谷	341			341	環境と社会 2前	岩崎	341	色彩論入門 1前	近藤	341	会計入門 1前	岸田	341				
	34F	342			342	デジタルファッション実習 2前	大島	342			342	消費者行動論 3前	菅	342			342				
35F	351			351			351			351			351			351					
外部																					
II	24F	242			242			242			242			242			242				
	26F	261.2			261.2	パターンメイクⅡ	専門学校	261.2	パターンメイクⅢ	専門学校	261.2	ファッションⅢ	専門学校	261.2	専攻別	専門学校	261.2	専攻別	専門学校		
	32F	321			321			321	国際ファッション実習Ⅱ 2通	宇佐美	321			321			321	メディア概論 1前	大島		
	33F	331	創造産業論 3前	菅	331	デザイン概論 1前	大島	331	ファッションデザインⅠ 1前	高間	331	国際ビジネス実習Ⅰ 2前	奥村	331	情報リテラシー 1前	奥谷	331	国際連携ゼミ 3通			
	34F	341	産業界とファッションデザイン 2前	大島	341	テキスタイル中級 2前	野田	341	美とファッションの歴史 2前	須網	341	日本の衣生活・服装史入門 2前	岩崎	341	ファッション編集概論Ⅱ 1前	小山・奥谷・野田	341	国際連携ゼミ 3通			
	34F	342			342			342			342			342			342	国際連携ゼミ 3通			
35F	351			351			351			351			351			351					
外部																					
III	24F	242			242			242			242			242			242				
	26F	261.2	ファッションデザイン実習Ⅰ 1通	篠田	261.2	ファッションデザイン実習Ⅱ 2通	篠田	261.2	国際知財論 3前	前田	261.2		専門学校	261.2	デジタルデザインⅠ	専門学校	261.2				
	32F	321			321	ファッションデザイン実習Ⅰ 1通	岡本	321	ファッションデザイン実習Ⅱ 2通	岡本	321			321	職人の世界 1前	廣田	321				
	33F	331			331	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	331	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	331	地域企業・地方連携ゼミ 3通	磯部・守屋・磯本	331	統合指導ゼミⅠ 4前	野田・小山・廣田・磯部	331	国際連携ゼミ 3通			
	34F	341			341	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	341	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	341	地域企業・地方連携ゼミ 3通	磯部・守屋・磯本	341	統合指導ゼミⅠ 4前	野田・小山・廣田・磯部	341	国際連携ゼミ 3通			
	34F	342			342	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	342	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	342	地域企業・地方連携ゼミ 3通	磯部・守屋・磯本	342	統合指導ゼミⅠ 4前	野田・小山・廣田・磯部	342	国際連携ゼミ 3通			
35F	351			351			351			351			351			351					
外部																					
IV	24F	242			242			242			242			242			242				
	26F	261.2	ファッションデザイン実習Ⅰ 1通	篠田	261.2	ファッションデザイン実習Ⅱ 2通	篠田	261.2		専門学校	261.2			261.2			261.2				
	32F	321			321	ファッションデザイン実習Ⅰ 1通	岡本	321	ファッションデザイン実習Ⅱ 2通	岡本	321			321	新しい服装性・ファッション 1前	磯部	321				
	33F	331	英語Ⅰ 1通	宇佐美	331	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	331	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	331	地域企業・地方連携ゼミ 3通	磯部・守屋・磯本	331	統合指導ゼミⅠ 4前	野田・小山・廣田・磯部	331				
	34F	341			341	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	341	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	341	地域企業・地方連携ゼミ 3通	磯部・守屋・磯本	341	統合指導ゼミⅠ 4前	野田・小山・廣田・磯部	341				
	34F	342			342	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	342	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	342	地域企業・地方連携ゼミ 3通	磯部・守屋・磯本	342	統合指導ゼミⅠ 4前	野田・小山・廣田・磯部	342				
35F	351			351			351			351			351			351					
外部																					
V	24F	242			242			242			242			242			242				
	26F	261.2			261.2			261.2			261.2			261.2			261.2				
	32F	321			321			321	英語Ⅱ 2通	宇佐美	321			321	ファッションビジネス概論 1前	岡本	321				
	33F	331	文化論基礎ゼミ 1前	安念・磯部・磯本	331	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	331	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	331	地域企業・地方連携ゼミ 3通	磯部・守屋・磯本	331	統合指導ゼミⅠ 4前	野田・小山・廣田・磯部	331				
	34F	341	文化論基礎ゼミ 1前	安念・磯部・磯本	341	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	341	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	341	地域企業・地方連携ゼミ 3通	磯部・守屋・磯本	341	統合指導ゼミⅠ 4前	野田・小山・廣田・磯部	341				
	34F	342	文化論基礎ゼミ 1前	安念・磯部・磯本	342	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	342	卒業制作・計画 4通	小山・廣田・磯部	342	地域企業・地方連携ゼミ 3通	磯部・守屋・磯本	342	統合指導ゼミⅠ 4前	野田・小山・廣田・磯部	342				
35F	351			351			351			351			351			351					
外部																					
VI	24F	242			242			242			242			242			242				
	26F	261.2			261.2			261.2	パターンメイクⅢ	専門学校	261.2			261.2			261.2				
	32F	321			321			321			321			321			321				
	33F	331			331			331			331			331			331				
	34F	341			341			341			341			341			341				
	34F	342			342			342			342			342			342				
35F	351			351			351			351			351			351					
外部																					
VII	24F	242			242			242			242			242			242				
	26F	261.2			261.2			261.2	パターンメイクⅢ	専門学校	261.2			261.2			261.2				
	32F	321			321			321			321			321			321				
	33F	331			331			331			331			331			331				
	34F	341			341			341			341			341			341				
	34F	342			342			342			342			342			342				
35F	351			351			351			351			351			351					
外部																					

■時間割のなかで、専門学校が共用する時間を示す資料（名古屋校舎（後期））

- ・共用する教室：26階「261.2教室」のみ。

月-土曜日の1-5限目まで、全30コマのうち、大学が17コマ、専門学校が13コマ使用する。

時間割番号4-1 国際ファッション専門学校大学国際ファッション学部：後期

学 科： 専門学校 - 名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科 専門学校-ファッションデザイン学科・ファッション技術学科

後期

時間帯	月	火	水	木	金	土
I	26F 261.2	パターン理論Ⅰ 専門学校	261.2 ファッションデザイン実習Ⅰ 2通 篠田	261.2 パターンメイキングⅡ 専門学校	261.2 パターンメイキングⅡ 専門学校	261.2 ファッションデザイン実習Ⅰ 1通 篠田
	32F 321	メールドワーフ入門 1後 安念	321	321 キヤリアデザイン論 1後 守屋	321 ブランドの歴史と文化 2後 須網	321 ユーロッドの社会と文化 2後 秋庭
	33F 331		331	331	331 産業論入門 1後 奥村	331 広告・PR論 3後 大島
	34F 341	ファッションビジネス実習Ⅰ 2通 岡本	341	341	341	341 自然資源と環境文化 1後 小山
	34F 342		342	342	342	342
	35F 351		351	351	351	351
外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	映像概論 1後 河村	撮影スタジオ	撮影スタジオ
II	26F 261.2	パターンメイキングⅡ 専門学校	261.2 ファッションデザイン実習Ⅰ 2通 篠田	261.2 パターンメイキングⅡ 専門学校	261.2 ファッションデザイン実習Ⅰ 1通 篠田	261.2
	32F 321	日本語文章表現 1後 安念	321	321 地域論入門 2後 安念	321	321 奥香とファッション 2後 小山
	33F 331		331 テキスタイル基礎 1後 野田	331 感性工学 2後 大島	331 国際ファッション実務論 2通 宇佐美	331 知財論 2後 前田
	34F 341	ファッションビジネス実習Ⅰ 2通 岡本	341	341	341 中国語 2後 磯部	341 フランス語 2後 平野
	34F 342		342	342	342	342
	35F 351		351	351	351	351
外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ
III	26F 261.2	ドレーピングⅠ 専門学校	261.2 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	261.2 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	261.2 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	261.2 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田
	32F 321	現代文化論 1後 廣田	321	321 環境とビジネス 3後 岩崎	321 国際ファッション実務論 1後 奥村	321 地域産業-名古屋論 2後 関
	33F 331	ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 岡本	331 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	331 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	331 地域企業-地方連携ゼミ 3通 藤田・守屋・熊本	331 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	34F 341	国際ビジネススキル特講Ⅰ 2後 宇佐美	341 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	341 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	341 地域企業-地方連携ゼミ 3通 藤田・守屋・熊本	341 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	34F 342		342 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	342 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	342 地域企業-地方連携ゼミ 3通 藤田・守屋・熊本	342 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	35F 351		351	351	351	351
外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ
IV	26F 261.2	ドレーピングⅠ 専門学校	261.2 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	261.2 英語Ⅰ 1通 宇佐美	261.2 イタリア語 2後 葛巻	261.2 法学入門 1後 前田
	32F 321		321	321	321	321
	33F 331	ファッションビジネス実習Ⅰ 1通 岡本	331 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	331 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	331 地域企業-地方連携ゼミ 3通 藤田・守屋・熊本	331 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	34F 341	パターンメイキングⅡ 2後 守屋	341 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	341 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	341 地域企業-地方連携ゼミ 3通 藤田・守屋・熊本	341 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	34F 342		342 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	342 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	342 地域企業-地方連携ゼミ 3通 藤田・守屋・熊本	342 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	35F 351		351	351	351	351
外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	映像実習 2後 河村
V	26F 261.2	ドレーピングⅡ 専門学校	261.2 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	261.2 英語Ⅱ 2通 宇佐美	261.2 サブカルチャースタイル 2後 吉田	261.2 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	32F 321		321	321	321	321
	33F 331		331 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	331 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	331 地域企業-地方連携ゼミ 3通 藤田・守屋・熊本	331 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	34F 341	社会科学基礎ゼミ 2後 菅	341 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	341 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	341 地域企業-地方連携ゼミ 3通 藤田・守屋・熊本	341 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	34F 342		342 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	342 卒業制作・計画 4通 小山・廣田・津田	342 地域企業-地方連携ゼミ 3通 藤田・守屋・熊本	342 統合指導ゼミⅡ 4後 小山・廣田・津田
	35F 351		351	351	351	351
外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	映像実習 2後 河村
VI	c 261.2	パターンメイキングⅡ 専門学校	261.2 ドレーピングⅡ	261.2 パターンメイキングⅢ 専門学校	261.2	261.2
	32F 321		321	321	321	321
	33F 331		331	331	331	331
	34F 341		341	341	341	341
	34F 342		342	342	342	342
	35F 351		351	351	351	351
外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ
VII	26F 261.2	パターンメイキングⅡ 専門学校	261.2	261.2	261.2	261.2
	32F 321		321	321	321	321
	33F 331		331	331	331	331
	34F 341		341	341	341	341
	34F 342		342	342	342	342
	35F 351		351	351	351	351
外部	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ	撮影スタジオ

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<u>添付資料 14</u>	<u>(追加)</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)

新

卒業制作等実習のための予備教室<専門学校[モード学園]との兼用教室>														資料14
■東京モード学園<47階:コンテストルーム:473教室>【100.52㎡】 【2017年度東京モード学園使用実績】														
コンテスト名	対象 学生数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
ナゴヤファッションコンテスト	3			3	3	3	3							
YKKファスニングアワード	4			4	4	4	4							
東京新人デザイナーファッション大賞	3				3	3	3							
日暮里ファッションデザインコンテスト	9					9	9	9	9					
JFAファーデザインコンテスト	4						4	4	4					
新宿ファッションフィールド	5						5	5	5					
千年大賞	4									4	4	4		
Yumi Katsura Award	2									2	2	2	2	
コンテストルーム最大利用学生数		0	0	7	10	19	28	18	24	6	6	2	0	
●国際ファッション専門職大学: 卒業製作・計画制作期間														
卒業製作・計画														
●国際ファッション専門職大学の学生利用可能数【参考:2017年度実績】														
東京校舎 47階:コンテストルーム <473教室>	収容 可能数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
	60	60	60	53	50	41	32	42	36	54	54	58	60	平均50席確保
41階:<415教室>	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	通年28席確保
合計	88	88	88	81	78	69	60	70	64	82	82	86	88	

旧

(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)

<東京キャンパス>

新

備品	数量
スチール棚	3
机	12
椅子	60
6mm厚透明ビニールボード	16
工業用マシン(SL-1010)	2
職業用マシン	4
ロックマシン(ブラザーカガリⅢ)	12
アイロン(ナオモト)	2
アイロン台	1
バキューム(FB-85N)	2
ハシマプレスHP-84B	1
万十(2号)	1
ボディ7AR	1
ボディ9AR-C	4
ボディ9AT	1
ボディ(チルドレン)	1
クロッチボディ(11)	2
クロッチボディ(9AR)	1
クロッチボディ(水着・レオタード)	2
メンズトルソー(Y4)	1
キイヤspur	1
婦人マネキン	6
紳士マネキン	5
ハンガーラック	15
昇華プリンター	2
昇華プリンター用PC	1

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

旧

(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
<東京キャンパス>

新

■東京モード学園<41階:415教室>【76.6㎡】	
※使用状況は別紙資料参照	
備品	数量
机	28
椅子	28
工業用マシン(SL-1010)	22
ロックマシン(ブラザーカガリⅢ)	10
アイロン(ナオモト)	10
アイロン台	8
バキューム(FB-85N)	1
万十(2号)	3
ポティ9AR-C	12
仕上馬	4

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

旧

(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <大阪キャンパス>

新

■大阪モード学園<B1階:B015教室>【108.46㎡】

※使用状況は別紙資料参照

備品	数量
椅子	60
ミシン	40
ロックミシン	9
革用ミシン	3
革漉き機	1
熱風仕上機	1
強力パフモーター	1
アイロン	7
バキューム	2
アイロン台	5
万十2号	1
袖万7号	1
仕上馬	2
エッジボード	1

※安全上の観点により図面は非表示といたします。

●国際ファッション専門職大学の学生利用可能数

大阪校舎 <B015教室>	収容 可能数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	備考
	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	

旧

(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)
 <名古屋キャンパス>

新

■名古屋モード学園<24階:コンテストルーム:242教室>【223㎡】														
【2017年度名古屋モード学園使用実績】														
コンテスト名	対象学生数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ナゴヤファッションコンテスト	8			8	8	8	8							
YKKファスニングアワード	11			11	11	11	11							
東京新人デザイナーファッション大賞	4				4	4	4							
日暮里ファッションデザインコンテスト	8					6	6	6	6					
JFAファーデザインコンテスト	2						2	2	2					
新宿ファッションフィールド	2						2	2	2					
千年大賞	3									3	3			
Yumi Katsura Award	1									1	1	1	1	
コンテストルーム最大利用学生数		0	0	19	23	29	33	10	14	4	1	1	0	
●国際ファッション専門職大学:卒業製作・計画制作期間														
卒業製作・計画														
●国際ファッション専門職大学の学生利用可能数														
名古屋校舎 24階:コンテストルーム <242教室>	収容可能数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	52	52	52	33	29	23	19	42	38	48	51	51	52	平均40席確保
備品	数量	※安全上の観点により図面は非表示といたします。												
スチール棚	1													
机(4人掛け)	10													
机(向かい2人掛け)	2													
机(横並び2人掛け)	5													
椅子	52													
工業用ミシン	2													
アイロン(ナオモト)	1													
婦人マネキン	3													
紳士マネキン	5													
ハンガーラック	7													
刺繍機	1													
昇華プリンター	3													
昇華プリンター用PC	3													
昇華プリンター用プレス機	1													

旧

(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)

東京モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)

【前期】

新

東京モード学園教室使用状況(ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)															
【前期】															
教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土
383/384	I	TP14	TP14					431/432	I	FH13		FH13	TP14	FH13	FH13
	II	TP14	TP14						II	FH13		FH13	TP14	FH13	FH13
	III			TP14	TP14				III		TP14		FH13	FH13	
	IV			TP14	TP14				IV		TP14		FH13	FH13	
	V								V						
	VI								VI	FD22					
	VII								VII	FD22					
385	I							433/434	I	FH14		FH14		FH14	FH14
	II								II	FH14		FH14		FH14	FH14
	III						FD14		III	FH14	FH14	FH14	FH14		
	IV						FD14		IV	FH14	FH14	FH14	FH14		
	V								V						
	VI	TQ23		FD24					VI			FD/TQ23		FD/TQ23	
	VII			FD24					VII	TQ23		FD/TQ23		FD/TQ23	
386	I							435/436	I	FD14	FD14		FD14	TP14	FD14
	II								II	FD14	FD14		FD14	TP14	FD14
	III								III		FD14	FD14		FD14	TP14
	IV		FH13						IV		FD14	FD14		FD14	TP14
	V		FH13						V						
	VI	FD23							VI	FD/TQ24				FD/TQ24	
	VII	FD23							VII	FD/TQ24	tg24			FD/TQ24	
391	I		FD12	FH11		FH11	FD12	474	I	FD13	FD13		FD13		
	II		FD12	FH11		FH11	FD12		II	FD13	FD13		FD13		
	III	FH11	FD12	FH11	FD12		FH11		III						FD13
	IV	FH11	FD12	FH11	FD12		FH11		IV						FD13
	V			FH11			FH11		V					FD13	
	VI			FD22					VI						
	VII			FD22					VII						
392	I						TQ12	475	I				TP13		
	II			FD12			TQ12		II				TP13		
	III			FD12					III	TP13				TP13	TP13
	IV			FD12		FH12			IV	TP13				TP13	TP13
	V					FH12			V						
	VI			TQ22					VI						
	VII			TQ22					VII						
393	I							482	I						FH12
	II						TQ12		II						FH12
	III	TQ12		TQ12			TQ12		III	FH12	FH12		FH12		FH12
	IV	TQ12		TQ12			TQ12		IV	FH12	FH12		FH12		FH12
	V	TQ12		TQ12			TQ12		V	FH12					FH12
	VI	TQ22		TQ24					VI						
	VII	TQ22							VII						
401/402	I	TP13			TP13	FD13	TP13	491/494	I						
	II	TP13			TP13	FD13	TP13		II						
	III	FD13	TP13		FD13	FD13	TP13		III		TQ12	FH13			
	IV	FD13	TP13		FD13	FD13	TP13		IV		TQ12	FH13			
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
411/412	I	TQ12	FH11					492	I					FH12	
	II	TQ12	FH11						II					FH12	
	III					FH11	FD12		III			FD13			
	IV					FH11	FD12		IV			FD13			
	V					FH11			V						
	VI					FD22			VI						
	VII					FD22			VII						
413/414	I	FH12						493	I						
	II	FH12							II						
	III					FH12			III	FD12					
	IV					FH12			IV	FD12					
	V								V						
	VI					TQ22			VI						
	VII					TQ22			VII						
415/416	I														
	II														
	III														
	IV														
	V														
	VI														
	VII														

国際ファッション専門職大学
卒業制作と兼用

旧

(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)

東京モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)

【後期】

新

【後期】															
教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土
383/384	I							431/432	I	FH13	TP13	FH13	TP13		FH13
	II					FH12			II	FH13			TP13		
	III								III		FH13	FH13	FH13	TP14	FH13
	IV								IV		FH13		FH13	TP14	FH13
	V								V						
	VI								VI	FD/TQ22					
	VII								VII	FD/TQ22					
385	I					TP13		433/434	I	FH14	FH14		TP14		TP14
	II					TP13			II	FH14	FH14		TP14		TP14
	III								III	FH14		FH14		FH14	TP14
	IV								IV	FH14		FH14		FH14	TP14
	V								V						
	VI	TQ23							VI			FD/TQ23			FD/TQ23
	VII								VII	TQ23		FD/TQ23			FD/TQ23
386	I							435/436	I	FD14	TP14		FD14		FD14
	II								II	FD14	TP14		FD14		FD14
	III								III	FD14	TP13	TP14	FD14	TP13	TP13
	IV								IV	FD14	TP13	TP14	FD14	TP13	TP13
	V								V						TP13
	VI	FD23							VI	FD/TQ24					FD/TQ24
	VII	FD23							VII	FD/TQ24		TQ24			FD/TQ24
391	I	FH11	FH11			FH11		474	I		FD13		FD13		FD13
	II	FH11	FH11			FH11			II		FD13		FD13		FD13
	III	FH11				FD14	FH11		III	FD13					
	IV					FD14	FH11		IV	FD13					
	V						FH11		V						
	VI				FD24				VI						
	VII				FD24				VII						
392	I	FD12					FD12	475	I						
	II	FD12					FD12		II						
	III		FD12	FD12		FD12			III			TP13			
	IV		FD12	FD12		FD12			IV			TP13			
	V								V						
	VI				TQ24				VI						
	VII								VII						
393	I	TQ12						482	I	FH12		FH12		FH13	
	II	TQ12				TQ12			II	FH12		FH12		FH13	
	III	TQ12	TQ12			TQ12	TQ12		III					FH12	FH12
	IV	TQ12	TQ12			TQ12	TQ12		IV					FH12	FH12
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
401/402	I	TP14					FH14	491/494	I						
	II	TP14					FH14		II						
	III	TP13	TP14	FD13		FD13	FD13		III				FD13		
	IV	TP13	TP14	FD13		FD13	FD13		IV				FD13		
	V								V						
	VI								VI						
	VII								VII						
411/412	I				TQ12			492	I					FD12	
	II				TQ12				II					FD12	
	III		FH11	FD14	FH11		FH14		III	FH13	FH12		TQ12	FH11	
	IV		FH11	FD14	FH11		FH14		IV	FH13	FH12		TQ12	FH11	
	V								V						
	VI						FD22		VI						
	VII						FD22		VII						
413/414	I		FD14				FH12	493	I						
	II		FD14				FH12		II						
	III						TQ12		III						
	IV								IV						
	V								V						
	VI						TQ22		VI						
	VII						TQ22		VII						
415/416	I														
	II														
	III														
	IV														
	V														
	VI														
	VII														

国際ファッション専門職大学
卒業制作と兼用

旧

(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)

大阪モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)

【前期】

新

大阪モード学園教室使用状況ファッションデザイン学科/ファッション技術学科																
【前期】																
教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	
103	I				FH/FD/TP13	FH13	FH12	047	I							
	II				FH/FD/TP13	FH13	FH12		II	TP13						
	III	FD/TP13	FH/FD/TP13			FD/TP14	FH12		III							
	IV	FD/TP13				FD/TP14	FH12		IV							
	V								V							
	VI	FD/TQ23		FD/TQ24					VI							
	VII	FD23		FD24					VII	TQ23		TQ24				
071	I	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	034	I	TP13	FH14	FD/TQ13	FH11	FH11	FD/TP13	
	II	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12		II		FH14	FD/TQ13	FH11		FD/TP13	
	III	FH12				FD/TQ12	FD/TQ12		III		FH14	TP14			FD/TP13	
	IV	FH12				FD/TQ12	FD/TQ12		IV		FH14	TP14			FD/TP13	
	V			FH12	FD/TQ12				V							
	VI	FD/TQ22		FD/TQ22					VI			FD/TQ23			FD24	
	VII	FD/TQ22		FD/TQ22					VII	TQ24		FD/TQ23			FD24	
073	I							E011	I		FH13					
	II								II		FH13					
	III								III							
	IV								IV							
	V								V							
	VI								VI						FD23	
	VII								VII							
053	I	TP14	FD/TP14	FH13	FH14		FD/TP14	E012	I	FH11						
	II	TP14	FD/TP14	FH13	FH14		FD/TP14		II	FH11						
	III		FD/TP14		FD/TP14	FH13	FH14		III				FH11			
	IV		FD/TP14		FD/TP14	FH13	FH14		IV				FH11			
	V								V							
	VI					TQ24			VI							
	VII					TQ24			VII							
054	I	FD14		FD14	FD/TP14			E014	I		FD/TQ13					
	II	FD14		FD14	FD/TP14	FH11			II		FD/TQ13					
	III	FH13		FH14	FH14	FH11	FH13		III			FH12	FD/TQ12	FH12		
	IV	FH13		FH14	FH14	FH14	FH13		IV			FH12	FD/TQ12	FH12		
	V					FH14			V							
	VI					TQ23			VI	FD/TQ24					FD/TQ22	
	VII					TQ23			VII						FD/TQ22	
045	I		FH12					E015	I							
	II		FH12						II							
	III		FD/TQ12	FH13	FD13				III	国際ファッション専門職大学 卒業単位兼用						
	IV		FD/TQ12	FH13	FD13		IV									
	V						V									
	VI						VI									
	VII								VII							
046	I	FH14	FH11			FD/TP13										
	II	FH14	FH11			FD/TP13										
	III		FH11				FH11									
	IV		FH11				FH11									
	V						FH11									
	VI															
	VII	FD24				FD23										

旧

(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)

大阪モード学園教室使用状況 (ファッションデザイン学科/ファッション技術学科)

【後期】

新

【後期】														
教室NO	時間帯	月	火	水	木	金	土	教室NO	時間帯	月	火	水	木	金
103	I	FH14	FH11		FD/TP13	FD/TP13		047	I					
	II	FH14	FH11		FD/TP13	FH/FD/TP13	FH11		II	TP13				
	III		FH13			FH14	FH11		III					
	IV					FH14	FH11		IV					
	V						FH11		V					
	VI	FD/TQ23		FD/TQ24					VI					
	VII	FD23							VII					TQ23
071	I	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FH/FD/TQ12	034	I	TP14	FH14	FD/TP13	FH14	TP14
	II	FD/TQ12	FD/TQ12	FH12	FD/TQ12	FH12	FH/FD/TQ12		II	TP14	FH14	FD/TP13	FH14	TP14
	III	FH12	FD13			FD/TQ12	FH/FD/TP13		III	TP13	FH14		FD/TP14	FD/TP13
	IV	FH12				FD/TQ12	FH/FD/TP13		IV	TP13	FH14		FD/TP14	FD/TP13
	V			FH12	FD/TQ12				V	TP13				
	VI	FD/TQ22		FD/TQ22					VI			FD/TQ23		FD24
	VII	FD/TQ22		FD/TQ22					VII	TQ23		FD/TQ23		FD24
073	I					FH11		E011	I		FH13			
	II								II		FH13			
	III					FD14			III					
	IV					FD14			IV					
	V								V					
	VI								VI					FD/TQ23
	VII								VII					
053	I		FD/TP14	FH13				E012	I	FH11				
	II		FD/TP14	FH13					II	FH11				
	III		FD/TP14			FH13			III				FH11	
	IV		FD/TP14			FH13			IV				FH11	
	V								V					
	VI					TQ24			VI					
	VII			TQ24		TQ24			VII					
054	I	TP13			FD/TP14	FH13		E014	I		FD/TP13			
	II				FD/TP14	FH11			II		FD/TP13			
	III	FD13		FH/FD/TP14	FH14	FH11			III			FH12	FD/TQ12	
	IV	FD13		FH/FD/TP14	FH14				IV			FH12	FD/TQ12	
	V								V					
	VI								VI	FD/TQ24				FD/TQ22
	VII								VII	FD/TQ24				FD/TQ22
045	I		FH12		FH11			E015	I					
	II		FH12		FH11				II					
	III		FD/TQ12	FH13	FD13				III					
	IV		FD/TQ12	FH13	FD13				IV					
	V								V					
	VI								VI					
	VII								VII					
046	I	FD14			FH13			E015	I					
	II	FD14			FH13		FH/FD/TQ12		II					
	III	FH13	FH11			FH12	FH/FD/TQ12		III					
	IV	FH13	FH11			FH12			IV					
	V								V					
	VI								VI					
	VII			FD24		FD23			VII					

国際ファッション専門職大学
卒業制作兼用

旧

(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)

【資料 5-1 時間割】

新

時間割

資料 5-1

国際ファッション学部

時間割番号

時間割番号

ファッションクリエイション学科	前期 : 1-1	後期 : 1-2
ファッションビジネス学科	前期 : 2-1	後期 : 2-2
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	前期 : 3-1	後期 : 3-2
名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	前期 : 4-1	後期 : 4-2

国際ファッション専門職大学 年間スケジュール

年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	入学式・オリエン				夏期休業 期末試験	前期成績発表 後期授業開始				冬期休業	卒業生制作展 センター試験 期末試験	進級卒業判定委員会 進級制作展	春期休業 学位授与式
1年	1-15				試験・採点期間		1-15				試験・採点期間		
2年	1-15				事務休暇		1-15				試験・認定期間		
3年	1-15	臨地実習Ⅰ(企業) 7.5h×40日					1-15				海外実習 7.5h×6日	海外実習 7.5h×6日	
4年	1-15	臨地実習Ⅰ(産地) 7.5h×40日					1-15						

前期 後期

授業日程	月	火	水	木	金	土
1回目	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12	4/13
2回目	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20
3回目	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27
4回目	5/13	4/30	5/1	5/2	5/10	5/11
5回目	5/20	5/7	5/8	5/9	5/17	5/18
6回目	5/27	5/14	5/15	5/16	5/24	5/25
7回目	6/3	5/21	5/22	5/23	5/31	6/1
8回目	6/10	5/28	5/29	5/30	6/7	6/8
9回目	6/17	6/4	6/5	6/6	6/14	6/15
10回目	6/24	6/11	6/12	6/13	6/21	6/22
11回目	7/1	6/18	6/19	6/20	6/28	6/29
12回目	7/8	6/25	6/26	6/27	7/5	7/6
13回目	7/15	7/2	7/3	7/4	7/12	7/13
14回目	7/22	7/9	7/10	7/11	7/19	7/20
15回目	7/29	7/16	7/17	7/18	7/26	7/27
試験期間	8/5	7/23	7/24	7/25	8/2	8/3

授業日程	月	火	水	木	金	土
1回目	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28
2回目	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5
3回目	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12
4回目	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19
5回目	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26
6回目	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1	11/2
7回目	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9
8回目	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16
9回目	11/18	11/19	11/20	11/21	11/22	11/30
10回目	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29	12/7
11回目	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6	12/14
12回目	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	12/21
13回目	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	1/18
14回目	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/25
15回目	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	2/1
試験期間	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/8

…祝日だが通常授業実施

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 14)

【資料 5-1 時間割】

旧

時間割

資料 5-1

国際ファッション学部

ファッションクリエイション学科
 ファッションビジネス学科
 大阪ファッション学科
 名古屋ファッション学科

時間割番号

前期 : 1-1
 前期 : 2-1
 前期 : 3-1
 前期 : 4-1

時間割番号

後期 : 1-2
 後期 : 2-2
 後期 : 3-2
 後期 : 4-2

国際ファッション専門職大学 年間スケジュール

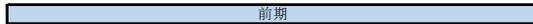
年次	4月			5月			6月			7月			8月			9月		試験
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
1年																		
2年																		
3年																		
4年																		

10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
31					

教員休暇

4年後期は8週での授業運用。

時間割 1
 時間割 2
 時間割 3



※安全上の観点により添付資料 5-2 は非表示といたします。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

【資料 5-2 専修学校共有資料】

※安全上の観点により添付資料 5-2 は非表示といたします。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

「資料 5-2 国際ファッション専門職大学が共有する東京モード学園の面積基準【参考資料②】」

基準③ 1 教室当たりの面積 60 m²以上

⇒東京モード学園の1 教室当たりの面積は下記の表の通り、全て基準を満たしている。

【新】

※安全上の観点により添付資料 5-2 は非表示といたします。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類
「資料 5-2 国際ファッション専門職大学が共有する東京モード学園の面積基準【参考資料②】」

基準③ 1 教室当たりの面積 60 m²以上
⇒東京モード学園の1教室当たりの面積は下記の表の通り、全て基準を満たしている。

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

■（新旧対照表）校地校舎の図面（18 ページ）

【授業外で使用できる実習室の図面】

・東京キャンパス：473 教室

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

■（新旧対照表）校地校舎の図面 （15 ページ）

【授業外で使用できる実習室の図面】

・東京キャンパス：415 教室

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

■（新旧対照表）校地校舎の図面 （25 ページ）

【授業外で使用できる実習室の図面】

・大阪キャンパス：015 教室

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

■（新旧対照表）校地校舎の図面 （47 ページ）

【授業外で使用できる実習室の図面】

・名古屋キャンパス：242 教室

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

■（新旧対照表）校地校舎の図面 （14 ページ）

【新たに既存の専修学校と共有する教室】

・東京キャンパス：396 教室（撮影スタジオ）

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

■（新旧対照表）校地校舎の図面 （28 ページ）

【新たに既存の専修学校と共有する教室】

・大阪キャンパスの 053ABC 教室

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

■（新旧対照表）校地校舎の図面 （48 ページ）

【新たに既存の専修学校と共有する教室】

・名古屋キャンパスの 261,262 教室

【新】

【旧】

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

1 3.<専任教員研究室の整備状況が不明確>

特に名古屋ファッション学科について、共同研究室と演習室兼個室研究室を合わせても、専任教員数と比較すると狭小であるため、教育研究を行う環境が整っているか依然として疑義がある。共同研究室や演習室兼個室研究室のレイアウト図を示し、十分なスペースが確保されているかについて、改めて説明すること。

(対応) 共同研究室や演習室兼個室研究室のレイアウト図を示し
十分なスペースが確保されているかについて、改めて説明する

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、意見を踏まえて 33 階の占有フロアに新たに共同研究室を設置し、その中に個室研究室を 6 室設ける。35 階の占有フロアの共同研究室には適切な区切りを入れ個室化し、35 階に 6 室を確保する。さらに 35 階ストックルームを改装し、2 室の個室研究室兼演習室を確保する。これによって専任教員 14 名(うち、みなし専任教員 2 名)に対し、合計 14 室の個室研究室を準備し、教員 1 人当たりの平米数を 7.3 平米から 12.1 平米拡大する。

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科においても、意見を踏まえて見直し、10 階の占有フロアの共同研究室内に適切な区切りを設け 4 つの個室研究室、副学長室(副学長は専任教員)を合わせて合計 5 室となるよう改装し、5 階の占有フロアに予定している 10 室の個室研究室(うち 5 室は兼演習室)と合わせて専任教員 15 名全員に対して個室研究室を設ける。

東京のファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科においても、意見を踏まえて見直し、42 階の占有フロアの共同研究室内に適切な区切りを設け合計 6 室の個室研究室となるよう工夫し、38 階の占有フロアに予定している 16 室の個室研究室(うち 6 室は兼演習室)と合わせて専任教員 22 名(うち、みなし専任教員 2 名)全員に対して個室研究室を設ける。

これらの是正により共同研究室と個室研究室を使い分けつつ、研究と学生指導に合わせて研究室を使い分け、円滑に教育研究を進めることができると考えている。文化論基礎ゼミ、社会科学基礎ゼミ、ファッション論基礎ゼミ、地域企業・地方連携ゼミ、国際連携ゼミ、統合指導ゼミなどの学内における演習は原則教室で行い、適宜教員の研究室等も使用可能とする(研究室兼演習室として東京 6 室、大阪 5 室、名古屋 2 室)。合わせて、3 地区共に、専任教員のキャビネットを 1 人 1 台以上支給するとともに、可能な限り多くのキャビネットを設置し、専任教員の研究教育環境を整える。

加えて、兼任講師のために既存の専門学校の講師控え室を共有して使用するよう整備する。

以上の変更については「設置の趣旨等を記載した書類」、「校地校舎等の図面」などの関連書類の内容を改めて提出する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (66-72 ページ)

新	旧
8. 施設、設備等の整備計画 (略)	8. 施設、設備等の整備計画 (略)
8.2.3 教員の研究室、必要な教室の整備計画 (削除) 研究スペースとして、東京キャンパスには 42F・159㎡(18 席)の共同研究室に 6 つの個室、38F・180㎡(51 席)に 6 つの演習室兼個室研究室(卒業制作の担当教員が使用)と 10	8.2.3 教員の研究室、必要な教室の整備計画 学生や教員が互いに積極的に交流し、現代社会特有の複雑化した問題に対応できる人材が自然と育つ環境作りとして、教員の研究室は基本的に共同の研究室とした。学生や教員のプライバシーにも配慮しつつ、必要に応じて情報・

の個室研究室を整備し、大阪キャンパスには10F・91㎡(9席)の共同研究室に5つの個室、5F・125㎡(36席)に5つの演習室兼個室研究室(卒業制作の担当教員が使用)と5つの個室研究室を整備し、名古屋キャンパスには35F・122㎡(24席)の共同研究室に6つの個室と2つの演習室兼個室研究室(卒業制作の担当教員が使用)を整備し、33F・46.8㎡(12席)に6つの個室研究室を整備する。教員1人あたりの研究スペースは、東京キャンパス15.4㎡、大阪キャンパス14.4㎡、名古屋キャンパス12.1㎡である。個室研究室の構造はガラス面にもブラインドやロールカーテンを設置し、専有スペースを確保している。

本学は、講義・研究指導・学生相談(オフィスアワー)・会議以外の業務は在宅で実施できる裁量労働制を取っている。業務用ノートパソコンを教員に貸与することで在宅研究も許容し、静かな環境で研究に集中したい教員の研究環境も担保している。

共同研究室においては、教員に1人1台ずつ書棚・キャビネ・ノートパソコンを割り当てる。共同研究室には無線LAN・複合機・シュレッダー・電話が設置され、教員は好きな席で業務を行うことができる。また、他の教員と空間を共有することにより、他の教員の専門分野についても知識を得、そこから新たな研究テーマを生み出すことができる。

書棚・キャビネは施錠可能であるため、研究情報や学生の個人情報には保全できる。ゼミや学生の個別指導は、原則教室で行い、適宜教員の研究室も使用可能とする(演習室兼研究室として東京6室、大阪5室、名古屋2室整備)を利用して実施する。教員同士の打ち合わせは上記共同研究室内の“打ち合わせをする区分”で行うか、会議室を活用する。なお来客対応は本学1階に応接用個室が設けられているため、そこを活用する。文献検索をはじめとする研究関連情報の収集には、WEB検索や電子図書の活用の他、図書室の蔵書有無の確認も手元のパソコンで行えるようインターネット環境を整える。レイアウト図面を添付資料16につける。

協力が得られる組織づくりにつながる環境を提供する。学生や教員のニーズ、社会の流れに合わせて柔軟に対応できるよう、教育課程等と関連して不断の見直しを行い、よりよい教育研究の環境を整備する。

本学の研究は、主に実務家とアカデミアが個々の実務実績、研究業績をもとに、日本のファッション産業の原動力となるイノベーション創出を推進する研究が中心となる。それぞれの専門知識を持ち寄り、協議し、革新的アイデアを創出しながらより幅広い視野、視座のもと教育研究を行うことに主眼をおきフリーアドレスの共同研究室を設置する。

研究スペースとして、東京キャンパスには159㎡(23席)の共同研究室、180㎡(10室)の演習室兼個室研究室、大阪キャンパスは91㎡(14席)の共同研究室、125㎡(10室)の演習室兼個室研究室、名古屋キャンパスには102㎡に12席の共同研究室と2室の演習室兼個室研究室を準備する。教員1人あたりの研究スペースは、東京キャンパス15.4㎡、大阪キャンパス14.4㎡、名古屋キャンパス7.3㎡である。

本学は、講義・研究指導・学生相談(オフィスアワー)・会議以外の業務は在宅で実施できる裁量労働制を取っている。業務用ノートパソコンを教員に貸与することで在宅研究も許容し、静かな環境で研究に集中したい教員の研究環境も担保している。

共同研究室においては、教員に1人1台ずつ書棚・キャビネ・ノートパソコンを割り当てる。共同研究室には無線LAN・複合機・シュレッダー・電話が設置され、教員は好きな席で業務を行うことができる。また、他の教員と空間を共有することにより、他の教員の専門分野についても知識を得、そこから新たな研究テーマを生み出すことができる。

書棚・キャビネは施錠可能であるため、研究情報や学生の個人情報には保全できる。ゼミや学生の個別指導は、34室ある演習室兼個室研究室を利用して実施する。教員同士の打ち合わせは上記共同研究室内の“打ち合わせをする区分”で行うか、会議室を活用する。なお来客対応は本学1階に応接用個室が設けられているため、そこを活用する。文献検索をはじめとする研究関連情報の収集には、WEB検索や電子図書の活用の他、図書室の蔵書有無の確認も手元のパソコンで行えるようインターネット環境を整える。(追加)

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。
(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (添付資料 16)

・東京キャンパス 研究室 レイアウト図面

【42F】

【38F】

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

・大阪キャンパス 研究室 レイアウト図面

【10F】

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

・大阪キャンパス 研究室 レイアウト図面

【5F】

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

・名古屋キャンパス 研究室 レイアウト図面

【35F】

【新】

【旧】

※安全上の観点により下記の図面は非表示といたします。

・名古屋キャンパス 研究室 レイアウト図面

【33F】

【新】

【旧】

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

1 4.<シラバスの記載が不適切>

出席の回数は授業の評価の前提であるため、授業への参加度など、適切な表記に改めること。

(対応) 適切な表記に改めた

本学の教育方針として、十分な授業内容と、授業日数（回数）の確保を重視している。出席の回数は授業の評価の前提として、意見をふまえて改めて該当するシラバスを見直し、授業への参加度など、適切な表記に改めた。

(新旧対照表) シラバス (ファッションクリエイション学科)

新	旧
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：林成光 「情報リテラシー」 「学生に対する評価」 評価点は、確認演習50%、定期試験50%とする。学生の理解度や進度にあわせて、適宜内容を調整することがある。 ・担当教員：山本雅男 「日本語文章表現」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価30%、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。 ・担当教員：熊田陽子 「装いと社会性・ジェンダー」 「学生に対する評価」 学期末定期試験による評価=40%、授業内ディスカッションの参加度=30%、平常点 (<u>授業への貢献度</u> (リアクションペーパー)) =30%を総合し評価を行う。 ・担当教員：永澤陽一、村上勝 「ファッションデザイン実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価30%、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。 ・担当教員：村上勝、永澤陽一 「ファッションデザイン実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価30%、レポート評価20%、期 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：林成光 「情報リテラシー」 「学生に対する評価」 評価点は、<u>出席・確認演習</u>50%、定期試験50%とします。<u>学生の理解度や進度にあわせて、適宜内容を調整することがあります。</u> ・担当教員：山本雅男 「日本語文章表現」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価30%、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。 ・担当教員：熊田陽子 「装いと社会性・ジェンダー」 「学生に対する評価」 学期末定期試験による評価=40%、授業内ディスカッションの参加度=30%、平常点 (<u>出席状況および授業態度</u> (リアクションペーパー)) =30%を総合し評価を行う。 ・担当教員：永澤陽一、村上勝 「ファッションデザイン<u>演習Ⅰ</u>」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価30%、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。 ・担当教員：村上勝、永澤陽一 「ファッションデザイン<u>演習Ⅱ</u>」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価30%、レポート評価20%、期末試験評価

<p>末試験評価50%で総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：後藤圭介、捧恭子、松村光 「ファッションデザインプランニング実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価30%、レポート評価20%、<u>期末試験</u>評価50%で総合的に評価する。 ・担当教員：捧恭子 「シューズデザイン」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>50%と、<u>期末レポート</u>もしくは<u>期末試験</u>50%で総合的に評価する。 ・担当教員：松村光 「バッグデザイン」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価 30%、レポート評価 20%、<u>期末試験</u>評価 50%で総合的に評価する。 ・担当教員：鈴木孝史 「写真实習」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価50%、<u>作品</u>評価50%で総合的に評価する。 ・担当教員：後藤圭介、松村光、捧恭子 「ファッションデザインプランニング実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価 30%、レポート評価 20%、<u>期末試験</u>評価 50%で総合的に評価する。 ・担当教員：村上勝、林成光、松岡依里子、平井秀樹 「臨地実習Ⅰ（企業）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅰ（企業）で設定されている、<u>人物評価</u>、<u>実務評価</u>、<u>授業への貢献度</u>で<u>成績評価</u>、<u>単位認定</u>を行う。 ・担当教員：後藤圭介、村上勝、平井秀樹 「臨地実習Ⅱ（地方産地）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅱ（地方産地）で設定されている、<u>人物評価</u>、<u>実務評価</u>、<u>授業への貢献度</u>で<u>成績評価</u>、<u>単位認定</u>を行う。 ・担当教員：永澤陽一、鈴木孝史、山本雅男、寺戸淳子、熊田陽子、今村淳、捧恭子、篠原航平、高橋幸次 「海外実習Ⅰ」 	<p>50%で総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：後藤圭介、捧恭子、松村光 「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価30%、レポート評価20%、<u>期末試験</u>評価50%で総合的に評価する。 ・担当教員：捧恭子 「シューズデザイン」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>50%と、<u>期末レポート</u>もしくは<u>期末試験</u>50%で総合的に評価する。 ・担当教員：松村光 「バッグデザイン」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価 30%、レポート評価 20%、<u>期末試験</u>評価 50%で総合的に評価する。 ・担当教員：鈴木孝史 「写真实習」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価50%、<u>作品</u>評価50%で総合的に評価する。 ・担当教員：後藤圭介、松村光、捧恭子 「ファッションデザインプランニング演習Ⅱ」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価 30%、レポート評価 20%、<u>期末試験</u>評価 50%で総合的に評価する。 ・担当教員：村上勝、林成光、松岡依里子、平井秀樹 「臨地実習Ⅰ（企業）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅰ（企業）で設定されている、<u>人物評価</u>、<u>実務評価</u>、<u>出席</u>で<u>成績評価</u>、<u>単位認定</u>を行う。 ・担当教員：後藤圭介、村上勝、平井秀樹 「臨地実習Ⅱ（地方産地）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅱ（地方産地）で設定されている、<u>人物評価</u>、<u>出席</u>で<u>成績評価</u>、<u>単位認定</u>を行う。 ・担当教員：永澤陽一、鈴木孝史、山本雅男、寺戸淳子、熊田陽子、今村淳、捧恭子、篠原航平、高橋幸次 「海外実習Ⅰ」
---	---

<p>海外実習Ⅰで設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：永澤陽一、鈴木孝史、山本雅男、寺戸淳子、熊田陽子、今村淳、篠原航平、<u>高橋幸次</u> 「海外実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：鈴木孝史、山本雅男、宮崎正弘、<u>東ゆみこ</u>、<u>高橋幸次</u> 「統合指導ゼミⅠ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 50%</u>、発表結果 50%、で評価をする。</p> <p>・担当教員：鈴木孝史、山本雅男、宮崎正弘、<u>東ゆみこ</u>、<u>高橋幸次</u> 「統合指導ゼミⅡ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 50%</u>、発表結果 30%、で評価をする。卒業制作の内容も 20%評価に加味する。</p> <p>・担当教員：<u>高橋幸次</u>、鈴木孝史、後藤圭介、永澤陽一 「卒業制作・計画」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 40%</u>、制作や計画の内容 60%で評価する。</p>	<p>海外実習Ⅰで設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：永澤陽一、鈴木孝史、山本雅男、寺戸淳子、熊田陽子、今村淳、篠原航平、<u>高橋幸次</u> 「海外実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：鈴木孝史、山本雅男、宮崎正弘、<u>東由美子</u>、<u>高橋幸次</u> 「統合指導ゼミⅠ」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席 30%</u>、発表結果 50%、<u>授業への貢献度 20%</u>で評価をする。</p> <p>・担当教員：鈴木孝史、山本雅男、宮崎正弘、<u>東由美子</u>、<u>高橋幸次</u> 「統合指導ゼミⅡ」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席 30%</u>、発表結果 30%、<u>授業への貢献度 20%</u>で評価をする。卒業制作の内容も 20%加味する。</p> <p>・担当教員：<u>高橋幸次</u>、鈴木孝史、後藤圭介、永澤陽一 「卒業制作・計画」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席状況 20%</u>、<u>授業への参加貢献度 20%</u>、制作や計画の内容 60%で評価する。</p>
---	---

(新旧対照表) シラバス (ファッションビジネス学科)

新	旧
<p>・担当教員：<u>高橋幸次</u> 「メディア概論」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 50%</u>と期末レポートもしくは期末試験 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：丹羽朋子 「職人の世界」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u> (リアクションペーパーおよび課題) (55%)、レポート試験 (45%) 本授業は記録映像資料を多用する。リアクション・ペーパーは、講義内容を参考に、授業で</p>	<p>・担当教員：<u>高橋幸次</u> 「メディア概論」 「学生に対する評価」 <u>出席 50%</u>期末レポートもしくは期末試験 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：丹羽朋子 「職人の世界」 「学生に対する評価」 <u>出席及び授業への参加度</u> (リアクションペーパーおよび課題) (55%)、レポート試験 (45%) 本授業は記録映像資料を多用する。リアクション・ペーパーは、講義内容を参考に、授業で</p>

<p>見た映像を受講者が自分なりに考察することが求められる。また、授業で学んだフィールドワークの手法を実際に用いた課題を課す。</p> <p>・担当教員：平井秀樹 「ファッションビジネス実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：倉内尚士 「リテール企画実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：古田祐幸 「リテール企画実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：篠原航平 「国際ファッション市場論」 「学生に対する評価」 到達目標は 4 点あり、全ての項目で一定の成果を求める。定期試験では、到達目標 1~4 の達成度を見るので、日本、ヨーロッパ、アメリカ、中国の 4 地域を中心としたアパレル市場の概況と課題に関して論理的な説明が出来ることを求める (60%、括弧内の数字は、評価に対する割合を示す。以下同様)。宿題は到達目標 1~4 の達成を図るため、必ず提出すること (40%)。それぞれの到達目標に関する授業が終了したときに宿題を課す。なお、宿題を課した際は、次回の授業時に宿題を発表してもらう、あるいは小テストをすることがある。 <u>(削除)</u></p> <p>・担当教員：西村雅子 「知財論」 「学生に対する評価」 (1) <u>授業への貢献度</u> (2) 試験又は課題レポートを総合して行う。比重は、(1) を 30 点、(2) を 70 点とする。</p>	<p>見た映像を受講者が自分なりに考察することが求められる。また、授業で学んだフィールドワークの手法を実際に用いた課題を課す。</p> <p>・担当教員：平井秀樹 「ファッションビジネス演習Ⅱ」 「学生に対する評価」 <u>出席</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：倉内尚士 「リテール企画演習Ⅰ」 「学生に対する評価」 <u>出席</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：古田祐幸 「リテール企画演習Ⅱ」 「学生に対する評価」 <u>出席</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：篠原航平 「国際ファッション市場論」 「学生に対する評価」 到達目標は 4 点あり、全ての項目で一定の成果を求める。定期試験では、到達目標 1~4 の達成度を見るので、日本、ヨーロッパ、アメリカ、中国の 4 地域を中心としたアパレル市場の概況と課題に関して論理的な説明が出来ることを求める (40%、括弧内の数字は、評価に対する割合を示す。以下同様)。宿題は到達目標 1~4 の達成を図るため、必ず提出すること (20%)。それぞれの到達目標に関する授業が終了したときに宿題を課す。なお、宿題を課した際は、次回の授業時に宿題を発表してもらう、あるいは小テストをすることがある。 <u>原則として全ての時間の出席を求めるが (40%)、やむを得ない理由で欠席をする (した) 場合はできるだけ速やかに申し出て、指示を受けること。特に第 1 回目は種々の指示や説明があるので必ず出席すること。</u></p> <p>・担当教員：西村雅子 「知財論」 「学生に対する評価」 (1) <u>出席及び授業への積極性</u> (2) 試験又は課題レポートを総合して行う。比重は、(1) を 30 点、(2) を 70 点とする。</p>
---	--

<p>・担当教員：古田祐幸 「ファッションビジネス実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：平井秀樹 「ファッションビジネス実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：松岡依里子、倉内尚士、平井秀樹、林成光、村上勝 「臨地実習Ⅰ（企業）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅰ（企業）で設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：松岡依里子、倉内尚士、平井秀樹、村上勝 「臨地実習Ⅱ（地方産地）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅱ（地方産地）で設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：鈴木孝史 「写真实習」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価 50%、作品評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：丹羽朋子、篠原航平、山本雅男、寺戸淳子、今村淳、熊田陽子 「海外実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅰで設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：篠原航平、山本雅男、寺戸淳子、今村淳、熊田陽子 「海外実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：東ゆみこ、高橋幸治、鈴木孝史、山本雅男、宮崎正弘</p>	<p>・担当教員：古田祐幸 「ファッションビジネス演習Ⅰ」 「学生に対する評価」 <u>出席</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：平井秀樹 「ファッションビジネス演習Ⅱ」 「学生に対する評価」 <u>出席</u> 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：松岡依里子、倉内尚士、平井秀樹、林成光、村上勝 「臨地実習Ⅰ（企業）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅰ（企業）で設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：松岡依里子、倉内尚士、平井秀樹、村上勝 「臨地実習Ⅱ（地方産地）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅱ（地方産地）で設定されている、人物評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：鈴木孝史 「写真实習」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価 50%、作品評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：丹羽朋子、篠原航平、山本雅男、寺戸淳子、今村淳、熊田陽子 「海外実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅰで設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：篠原航平、山本雅男、寺戸淳子、今村淳、熊田陽子 「海外実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：東由美子、高橋幸治、鈴木孝史、山本雅男、宮崎正弘</p>
--	--

<p>「統合指導ゼミⅠ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 50%、発表結果 50%で評価をする。</u></p> <p>・担当教員：鈴木孝史、山本雅男、宮崎正弘、東ゆみこ、高橋幸治 「統合指導ゼミⅡ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 50%、発表結果 30%で評価をする。卒業制作の内容も 20%評価に加味する。</u></p> <p>・担当教員：古田祐幸、林成光、篠原航平 「卒業制作・計画」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 40%、制作や計画の内容 60%で評価する。</u></p> <p>・担当教員：東ゆみこ 「日本語文章表現」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度評価 30%、レポート評価 20% 期末試験評価 50%で総合的に評価する。</u></p>	<p>「統合指導ゼミⅠ」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席 30%、発表結果 50%、授業への貢献度 20%で評価をする。</u></p> <p>・担当教員：鈴木孝史、山本雅男、宮崎正弘、東由美子、高橋幸治 「統合指導ゼミⅡ」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席 30%、発表結果 30%、授業への貢献度 20%で評価をする。卒業制作の内容も 20%評価に加味する。</u></p> <p>・担当教員：古田祐幸、林成光、篠原航平 「卒業制作・計画」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席状況 20%、授業への参加貢献度 20%、制作や計画の内容 60%で評価する。</u></p> <p>・担当教員：東ゆみこ 「日本語文章表現」 「学生に対する評価」 <u>出席評価 30%、レポート評価 20% 期末試験評価 50%で総合的に評価する。</u></p>
--	---

(新旧対照表) シラバス (大阪ファッション学科)

新	旧
<p>・担当教員：河西瑛里子 「ヨーロッパの社会と文化」 「学生に対する評価」 毎回の小レポート：40% 発表：30% 期末レポート：30%</p> <p>・担当教員：木村智博 「情報リテラシー」 「学生に対する評価」 評価点は、<u>確認演習 50%、定期試験 50%とする。</u> 学生の理解度や進度にあわせて、<u>適宜内容を調整することがある。</u></p> <p>・担当教員：川中薫 「装いと社会性・ジェンダー」 「学生に対する評価」 <u>講義への参加度（コミュニケーション・ペーパーの内容等を総合して評価する）：30%</u> 定期試験 70%</p> <p>・担当教員：藤井輝之、三木勘也</p>	<p>・担当教員：河西瑛里子 「ヨーロッパの社会と文化」 「学生に対する評価」 <u>出席代わりの毎回の小レポート：40% 発表：30%</u> 期末レポート：30%</p> <p>・担当教員：木村智博 「情報リテラシー」 「学生に対する評価」 評価点は、<u>出席・確認演習50%、定期試験50%とします。</u> 学生の理解度や進度にあわせて、<u>適宜内容を調整することがあります。</u></p> <p>・担当教員：川中薫 「装いと社会性・ジェンダー」 「学生に対する評価」 <u>講義への参加度（出席とコミュニケーション・ペーパーの内容を総合して評価する）：30%</u> 定期試験 70%</p> <p>・担当教員：藤井輝之（追加）</p>

<p>「ファッションデザイン<u>実習 I</u>」 「学生に対する評価」 授業への貢献度評価30%と、レポート評価20%、 期末試験評価50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：藤井輝之、三木勘也 「ファッションデザイン<u>実習 II</u>」 「学生に対する評価」 授業への貢献度評価30%と、レポート評価20%、 期末試験評価50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：門本優子 「パターンメイキング」 「学生に対する評価」 成績評価は、授業への貢献度評価 30%と、レ ポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的 に評価する。</p> <p>・担当教員：畑中艶子 「マーケティング論」 「学生に対する評価」 成績評価は、授業への貢献度評価 30%と、レ ポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的 に評価する。</p> <p>・担当教員：高原昌彦 「ファッションビジネス<u>実習 I</u>」 「学生に対する評価」 成績評価は、授業への貢献度評価 30%と、レ ポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的 に評価する。</p> <p>・担当教員：高原昌彦 「ファッションビジネス<u>実習 II</u>」 「学生に対する評価」 成績評価は、授業への貢献度評価 30%と、レ ポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的 に評価する。</p> <p>・担当教員：門本優子、高山僚太、高原昌彦、藤井 輝之 「臨地実習 I（企業）」 「学生に対する評価」 臨地実習 I（企業）で設定されている、人物評価、 実務評価、授業への貢献度で成績評価、単位認定を 行う。</p> <p>・担当教員：門本優子、高山僚太、高原昌彦、藤井 輝之 「臨地実習 II（地方産地）」 「学生に対する評価」</p>	<p>「ファッションデザイン<u>演習 I</u>」 「学生に対する評価」 出席評価30%と、レポート評価20%、期末試験評 価50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：藤井輝之 「ファッションデザイン<u>演習 II</u>」 「学生に対する評価」 出席評価30%と、レポート評価20%、期末試験評 価50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：門本優子 「パターンメイキング」 「学生に対する評価」 成績評価は、出席評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：畑中艶子 「マーケティング論」 「学生に対する評価」 成績評価は、出席評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：高原昌彦 「ファッションビジネス<u>演習 I</u>」 「学生に対する評価」 成績評価は、出席評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：高原昌彦 「ファッションビジネス<u>演習 II</u>」 「学生に対する評価」 成績評価は、出席評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：門本優子、高山僚太、高原昌彦、藤井 輝之 「臨地実習 I（企業）」 「学生に対する評価」 臨地実習 I（企業）で設定されている、人物評価、 実務評価、出席で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：門本優子、高山僚太、高原昌彦、藤井 輝之 「臨地実習 II（地方産地）」 「学生に対する評価」</p>
--	---

<p>臨地実習Ⅱ（地方産地）で設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：田口誠幸 「写真实習」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価 50%、作品評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：金谷美和、平野大、福田安佐子、河西瑛里子、畑中艶子、<u>三木勘也</u> 「海外実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅰで設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：金谷美和、平野大、福田安佐子、河西瑛里子、畑中艶子、<u>三木勘也</u> 「海外実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：富澤修身、木村智博、平野大 「統合指導ゼミⅠ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u> 50%、発表結果 50%で評価をする。</p> <p>・担当教員：富澤修身、木村智博、平野大 「統合指導ゼミⅡ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u> 50%、発表結果 30%で評価をする。卒業制作の内容も 20%評価に加味する。</p> <p>・担当教員：田中雅一、菅原正博、高原昌彦、藤井輝之、<u>三木勘也</u> 「卒業制作・計画」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u> 40%、制作や計画の内容 60%で評価する。</p>	<p>臨地実習Ⅱ（地方産地）で設定されている、人物評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：田口誠幸 「写真实習」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価 50%、作品評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：金谷美和、平野大、福田安佐子、川西瑛理子、畑中艶子 「海外実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅰで設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：金谷美和、平野大、福田安佐子、川西瑛理子、畑中艶子 「海外実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：富澤修身、木村智博、平野大 「統合指導ゼミⅠ」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席</u> 30%、発表結果 50%、<u>授業への貢献度</u> 20%で評価をする。</p> <p>・担当教員：富澤修身、木村智博、平野大 「統合指導ゼミⅡ」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席</u> 30%、発表結果 30%、<u>授業への貢献度</u> 20%で評価をする。卒業制作の内容も 20%評価に加味する。</p> <p>・担当教員：田中雅一、菅原正博、高原昌彦、藤井輝之、<u>三木勘也</u> 「卒業制作・計画」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席状況</u> 20%、<u>授業への参加貢献度</u> 20%、制作や計画の内容 60%で評価する。</p>
---	---

(新旧対照表) シラバス (名古屋ファッション学科)

新	旧
<p>・担当教員：奥谷桃子 「情報リテラシー」</p>	<p>・担当教員：奥谷桃子 「情報リテラシー」</p>

<p>「学生に対する評価」 評価点は、<u>確認演習 50%、定期試験 50%とする。</u> 学生の実理解度や進捗にあわせて、適宜内容お調整 することがある。</p> <p>・担当教員：小山有子 「自然資源と服装文化」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 50%</u>と、期末レポートもしくは は期末試験評価 50%で総合的に評価をする。</p> <p>・担当教員：磯部美里 「装いと社会性・ジェンダー」 「学生に対する評価」 講義への参加度（<u>コミュニケーション・ペー パーの内容等を総合して評価する</u>）：30% 定期試験 70%</p> <p>・担当教員：篠田隆典 「ファッションデザイン<u>実習 I</u>」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価 30%と、レポート評価 20%、 期末試験評価 50%で総合的に評価をする。</p> <p>・担当教員：篠田隆典 「ファッションデザイン演習 II」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価 30%と、レポート評価 20%、 期末試験評価 50%で総合的に評価をする。</p> <p>・担当教員：奥村 潔 「国際ファッション市場論」 「学生に対する評価」 到達目標は 4 点あり、全ての項目で一定の成果を 求める。定期試験では、到達目標 1~4 の達成度 を見るので、日本、ヨーロッパ、アメリカ、中国の 4 地域を中心としたアパレル市場の概況と課題に関 して論理的な説明が出来ることを求める（60%、括 弧内の数字は、評価に対する割合を示す。以下同 様）。宿題は到達目標 1~4 の達成を図るため、必ず 提出すること（40%）。それぞれの到達目標に関する 授業が終了したときに宿題を課す。なお、宿題を課 した際は、次回の授業時に宿題を発表してもら う、あるいは小テストをすることがある。 <u>（削除）</u></p>	<p>「学生に対する評価」 評価点は、<u>出席・確認演習50%、定期試験50%と します。</u>学生の実理解度や進捗にあわせて、適宜内 容を調整することがあります。</p> <p>・担当教員：小山有子 「自然資源と服装文化」 「学生に対する評価」 <u>出席 50%</u>と、期末レポートもしくは期末試験 評価 50%で総合的に評価をする。</p> <p>・担当教員：磯部美里 「装いと社会性・ジェンダー」 「学生に対する評価」 講義への参加度（<u>出席とコミュニケーション・ ペーパーの内容を総合して評価する</u>）：30% 定期試験 70%</p> <p>・担当教員：篠田隆典 「ファッションデザイン<u>演習 I</u>」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評 価 50%で総合的に評価をする。</p> <p>・担当教員：篠田隆典 「ファッションデザイン演習 II」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評 価 50%で総合的に評価をする。</p> <p>・担当教員：奥村 潔 「国際ファッション市場論」 「学生に対する評価」 到達目標は 4 点あり、全ての項目で一定の成果を 求める。定期試験では、到達目標 1~4 の達成度 を見るので、日本、ヨーロッパ、アメリカ、中国の 4 地域を中心としたアパレル市場の概況と課題に関 して論理的な説明が出来ることを求める（40%、括 弧内の数字は、評価に対する割合を示す。以下同 様）。宿題は到達目標 1~4 の達成を図るため、必ず 提出すること（20%）。それぞれの到達目標に関する 授業が終了したときに宿題を課す。なお、宿題を課 した際は、次回の授業時に宿題を発表してもら う、あるいは小テストをすることがある。 <u>原則として全ての時間の出席を求めるが（40%）、 やむを得ない理由で欠席をする（した）場合はでき るだけ速やかに申し出て、指示を受けること。特に 第 1 回目は種々の指示や説明があるので必ず出席 すること。</u></p>
--	---

<p>・担当教員：岡本正大 「ファッションビジネス実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 成績評価は、<u>授業への貢献度</u>評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：岡本正大 「ファッションビジネス実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 成績評価は、<u>授業への貢献度</u>評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：岡本正大、篠田隆典、守屋孝典、大島一豊 「臨地実習Ⅰ（企業）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅰ（企業）で設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：岡本正大、篠田隆典、守屋孝典、大島一豊 「臨地実習Ⅱ（地方産地）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅱ（企業）で設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：上山太陽 「写真实習」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度</u>評価 50%、作品評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：磯部美里、須網美由紀、廣田緑、奥村潔 「海外実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅰで設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：磯部美里、須網美由紀、廣田緑、奥村潔 「海外実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価、実務評価、<u>授業への貢献度</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：菅万希子、小山有子、廣田緑、</p>	<p>・担当教員：岡本正大 「ファッションビジネス演習Ⅰ」 「学生に対する評価」 成績評価は、<u>出席</u>評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：岡本正大 「ファッションビジネス演習Ⅱ」 「学生に対する評価」 成績評価は、<u>出席</u>評価 30%と、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：岡本正大、篠田隆典、守屋孝典、大島一豊 「臨地実習Ⅰ（企業）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅰ（企業）で設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：岡本正大、篠田隆典、守屋孝典、大島一豊 「臨地実習Ⅱ（地方産地）」 「学生に対する評価」 臨地実習Ⅱ（企業）で設定されている、人物評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：上山太陽 「写真实習」 「学生に対する評価」 <u>出席</u>評価 50%、作品評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>・担当教員：磯部美里、須網美由紀、廣田緑、奥村潔 「海外実習Ⅰ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅰで設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：磯部美里、須網美由紀、廣田緑、奥村潔 「海外実習Ⅱ」 「学生に対する評価」 海外実習Ⅱで設定されている、人物評価、実務評価、<u>出席</u>で成績評価、単位認定を行う。</p> <p>・担当教員：菅万希子、小山有子、廣田緑、</p>
---	---

<p>岸田邦裕 「統合指導ゼミⅠ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 50%、発表結果 50%</u>で評価をする。</p> <p>・担当教員：小山有子、廣田緑、岸田邦裕 「統合指導ゼミⅡ」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度 50%、発表結果 30%</u>で評価をする。卒業制作の内容も20%評価に加味する。</p> <p>・担当教員：小山有子、篠田隆典、廣田緑 「卒業制作・計画」 「学生に対する評価」 <u>授業への貢献度40%、制作や計画の内容60%</u>で評価する。</p>	<p>岸田邦裕 「統合指導ゼミⅠ」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席 30%、発表結果 50%、授業への貢献度 20%</u>で評価をする。</p> <p>・担当教員：小山有子、廣田緑、岸田邦裕 「統合指導ゼミⅡ」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席 30%、発表結果 30%、授業への貢献度 20%</u>で評価をする。卒業制作の内容も20%評価に加味する。</p> <p>・担当教員：小山有子、篠田隆典、廣田緑 「卒業制作・計画」 「学生に対する評価」 <u>日常の出席状況20%、授業への参加貢献度20%、制作や計画の内容60%</u>で評価する。</p>
---	--

1 5.<授業形態の考え方が不明確>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」について、授業形態を実験・実習として位置付けている考え方を説明すること。また、「パターンメイキング」について、必修・選択の別がシラバスと教育課程等の概要等で不整合であるため、適切に改めること。

- (対応) ・「ファッションビジネス演習Ⅰ」は、実験・実習科目として科目名を改める。
・「パターンメイキング」は、「選択」が正しい。シラバスを適切に改めた。

・審査意見を踏まえて科目名を改めた。

科目の形態が実習でありながら科目名称が演習となるのは、学生が科目を履修する上で混乱を招きかねず配慮が必要であるという考えに至ったため、科目名称を科目の実態に即して「ファッションビジネス実習Ⅰ」と改めることとした。

本学では、当初より「ファッションビジネス演習Ⅰ」を実験・実習科目と位置付けていた。

理由は、当該科目を、企画書などの作成技術を修得するだけでなく、学生が自らの問題意識をもとに課題発見を行い、その解決策としてアイデアを盛り込んだオリジナルな企画素案を発表させるという内容にまで踏み込んだ、演習に近い科目内容として考えていたためである。

同じような考え方に基づいて設計していた科目、「ファッションビジネス演習Ⅱ」と「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」「ファッションプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」についても、今般の審査意見を踏まえて、「ファッションデザイン実習Ⅰ、Ⅱ」「ファッションプランニング実習Ⅰ、Ⅱ」「リテール企画実習Ⅰ、Ⅱ」と適切に改めた。

・職業専門科目の「パターンメイキング」については、2年後期で「選択」が正しい。シラバスを訂正し、書類間の不整合を適切に改めた。

(新旧対照表) 教育課程の概要 (全学共通)

新	旧
「ファッションデザイン <u>実習Ⅰ</u> 」	「ファッションデザイン <u>演習Ⅰ</u> 」
「ファッションデザイン <u>実習Ⅱ</u> 」	「ファッションデザイン <u>演習Ⅱ</u> 」
「ファッションビジネス <u>実習Ⅰ</u> 」	「ファッションビジネス <u>演習Ⅰ</u> 」
「ファッションビジネス <u>実習Ⅱ</u> 」	「ファッションビジネス <u>演習Ⅱ</u> 」
「ファッションプランニング <u>実習Ⅰ</u> 」	「ファッションプランニング <u>演習Ⅰ</u> 」
「ファッションプランニング <u>実習Ⅱ</u> 」	「ファッションプランニング <u>演習Ⅱ</u> 」
「リテール企画 <u>実習Ⅰ</u> 」	「リテール企画 <u>演習Ⅰ</u> 」
「リテール企画 <u>実習Ⅱ</u> 」	「リテール企画 <u>演習Ⅰ</u> 」

(新旧対照表) シラバス (ファッションビジネス学科)

新				旧			
授業科目名： パターンメイキング	選択	授業回数 ：15回	担当教員名： 村上勝	授業科目名： パターンメイキング	必修	授業回数 ：15回	担当教員名： 村上勝
授業科目区分： 職業専門	配当： 2年後期	単位数： 2単位	講義形態： 講義	授業科目区分： 職業専門	配当： 2年後期	単位数： 2単位	講義形態： 講義
授業の到達目標及びテーマ ・本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。				授業の到達目標及びテーマ ・本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。			
授業の概要 本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。				授業の概要 本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：商品知識①（アイテム・ディテール） 第3回：商品知識②（シルエット・ライン） 第4回：商品知識③（感性座標・マインドエイジ座標） 第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー① 第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー② 第7回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー① 第8回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー② 第9回：腕・腰の身体構造① タイツスリーブ 第10回：腕・腰の身体構造② タイツスカート 第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット① 第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット② 第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③ 第14回：商品分析プレゼンテーション・講評 第15回：まとめ 定期試験				授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：商品知識①（アイテム・ディテール） 第3回：商品知識②（シルエット・ライン） 第4回：商品知識③（感性座標・マインドエイジ座標） 第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー① 第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー② 第7回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー① 第8回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー② 第9回：腕・腰の身体構造① タイツスリーブ 第10回：腕・腰の身体構造② タイツスカート 第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット① 第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット② 第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③ 第14回：商品分析プレゼンテーション・講評 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 毎回の授業の冒頭で配布				テキスト 毎回の授業の冒頭で配布			
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介				参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介			
学生に対する評価 成績評価は、授業への真摯度評価30%と、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。				学生に対する評価 成績評価は、出席評価30%と、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。			

16.<授業形態の考え方が不明確>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」について、授業形態を実験・実習として位置付けている考え方を説明すること。また、「パターンメイキング」について、必修・選択の別がシラバスと教育課程等の概要等で不整合であるため、適切に改めること。

(対応) ・「ファッションビジネス演習Ⅰ」は、実験・実習科目として科目名を改める。
・「パターンメイキング」は、「選択」が正しい。シラバスを適切に改めた。

・審査意見を踏まえて科目名を改めた。

科目の形態が実習でありながら科目名称が演習となるのは、学生が科目を履修する上で混乱を招きかねず配慮が必要であるという考えに至ったため、科目名称を科目の実態に即して「ファッションビジネス実習Ⅰ」と改めることとした。

本学では、当初より「ファッションビジネス演習Ⅰ」を実験・実習科目と位置付けていた。

理由は、当該科目を、企画書などの作成技術を修得するだけではなく、学生が自らの問題意識をもとに課題発見を行い、その解決策としてアイデアを盛り込んだオリジナルな企画素案を発表させるという内容にまで踏み込んだ、演習に近い科目内容として考えていたためである。

同じような考え方に基づいて設計していた科目、「ファッションビジネス演習Ⅱ」と「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」「ファッションプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」についても、今般の審査意見を踏まえて、「ファッションデザイン実習Ⅰ、Ⅱ」「ファッションプランニング実習Ⅰ、Ⅱ」「リテール企画実習Ⅰ、Ⅱ」と適切に改めた。

・職業専門科目の「パターンメイキング」については、2年後期で「選択」が正しい。シラバスを訂正し、書類間の不整合を適切に改めた。

(新旧対照表) 教育課程の概要 (全学共通)

新	旧
「ファッションデザイン <u>実習Ⅰ</u> 」	「ファッションデザイン <u>演習Ⅰ</u> 」
「ファッションデザイン <u>実習Ⅱ</u> 」	「ファッションデザイン <u>演習Ⅱ</u> 」
「ファッションビジネス <u>実習Ⅰ</u> 」	「ファッションビジネス <u>演習Ⅰ</u> 」
「ファッションビジネス <u>実習Ⅱ</u> 」	「ファッションビジネス <u>演習Ⅱ</u> 」
「ファッションプランニング <u>実習Ⅰ</u> 」	「ファッションプランニング <u>演習Ⅰ</u> 」
「ファッションプランニング <u>実習Ⅱ</u> 」	「ファッションプランニング <u>演習Ⅱ</u> 」
「リテール企画 <u>実習Ⅰ</u> 」	「リテール企画 <u>演習Ⅰ</u> 」
「リテール企画 <u>実習Ⅱ</u> 」	「リテール企画 <u>演習Ⅰ</u> 」

(新旧対照表) シラバス (大阪ファッション学科)

新				旧			
授業科目名： パターンメイキング	選択	授業回数 ：15回	担当教員名： 門本優子	授業科目名： パターンメイキング	必修	授業回数 ：15回	担当教員名： 門本優子
授業科目区分： 職業専門	配当： 2年後期	単位数： 2単位	講義形態： 講義	授業科目区分： 職業専門	配当： 2年後期	単位数： 2単位	講義形態： 講義
授業の到達目標及びテーマ ・本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。				授業の到達目標及びテーマ ・本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。			
授業の概要 本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。				授業の概要 本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：商品知識①（アイテム・ディテール） 第3回：商品知識②（シルエット・ライン） 第4回：商品知識③（感性座標・マインドエイジ座標） 第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー① 第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー② 第7回：前腹部・胴の身体構造 タイтスローパー① 第8回：前腹部・胴の身体構造 タイтスローパー② 第9回：腕・腰の身体構造① タイтスリーブ 第10回：腕・腰の身体構造② タイтスカート 第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット① 第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット② 第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③ 第14回：商品分析プレゼンテーション・講評 第15回：まとめ 定期試験				授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：商品知識①（アイテム・ディテール） 第3回：商品知識②（シルエット・ライン） 第4回：商品知識③（感性座標・マインドエイジ座標） 第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー① 第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー② 第7回：前腹部・胴の身体構造 タイтスローパー① 第8回：前腹部・胴の身体構造 タイтスローパー② 第9回：腕・腰の身体構造① タイтスリーブ 第10回：腕・腰の身体構造② タイтスカート 第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット① 第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット② 第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③ 第14回：商品分析プレゼンテーション・講評 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 毎回の授業の冒頭で配布				テキスト 毎回の授業の冒頭で配布			
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介				参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介			
学生に対する評価 成績評価は、授業への真摯度評価30%と、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。				学生に対する評価 成績評価は、出席評価30%と、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。			

17.<授業形態の考え方が不明確>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」について、授業形態を実験・実習として位置付けている考え方を説明すること。また、「パターンメイキング」について、必修・選択の別がシラバスと教育課程等の概要等で不整合であるため、適切に改めること。

- (対応) ・「ファッションビジネス演習Ⅰ」は、実験・実習科目として科目名を改める。
 ・「パターンメイキング」は、「選択」が正しい。シラバスを適切に改めた。

- ・審査意見を踏まえて科目名を改めた。

科目の形態が実習でありながら科目名称が演習となるのは、学生が科目を履修する上で混乱を招きかねず配慮が必要であるという考えに至ったため、科目名称を科目の実態に即して「ファッションビジネス実習Ⅰ」と改めることとした。

本学では、当初より「ファッションビジネス演習Ⅰ」を実験・実習科目と位置付けていた。

理由は、当該科目を、企画書などの作成技術を修得するだけではなく、学生が自らの問題意識をもとに課題発見を行い、その解決策としてアイデアを盛り込んだオリジナルな企画素案を発表させるという内容にまで踏み込んだ、演習に近い科目内容として考えていたためである。

同じような考え方に基づいて設計していた科目、「ファッションビジネス演習Ⅱ」と「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」「ファッションプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」についても、今般の審査意見を踏まえて、「ファッションデザイン実習Ⅰ、Ⅱ」「ファッションプランニング実習Ⅰ、Ⅱ」「リテール企画実習Ⅰ、Ⅱ」と適切に改めた。

- ・職業専門科目の「パターンメイキング」については、2年後期で「選択」が正しい。シラバスを訂正し、書類間の不整合を適切に改めた。

(新旧対照表) 教育課程の概要 (全学共通)

新	旧
「ファッションデザイン実習Ⅰ」	「ファッションデザイン演習Ⅰ」
「ファッションデザイン実習Ⅱ」	「ファッションデザイン演習Ⅱ」
「ファッションビジネス実習Ⅰ」	「ファッションビジネス演習Ⅰ」
「ファッションビジネス実習Ⅱ」	「ファッションビジネス演習Ⅱ」
「ファッションプランニング実習Ⅰ」	「ファッションプランニング演習Ⅰ」
「ファッションプランニング実習Ⅱ」	「ファッションプランニング演習Ⅱ」
「リテール企画実習Ⅰ」	「リテール企画演習Ⅰ」
「リテール企画実習Ⅱ」	「リテール企画演習Ⅰ」

(新旧対照表) シラバス (名古屋ファッション学科)

新				旧			
授業科目名： パターンメイキング	選択	授業回数 ：15回	担当教員名： 守屋孝典	授業科目名： パターンメイキング	必修	授業回数 ：15回	担当教員名： 守屋孝典
授業科目区分： 職業専門	配当： 2年後期	単位数： 2単位	講義形態： 講義	授業科目区分： 職業専門	配当： 2年後期	単位数： 2単位	講義形態： 講義
授業の到達目標及びテーマ ・本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。				授業の到達目標及びテーマ ・本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。			
授業の概要 本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。				授業の概要 本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：商品知識①（アイテム・ディテール） 第3回：商品知識②（シルエット・ライン） 第4回：商品知識③（感性座標・マインドエイジ座標） 第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー① 第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー② 第7回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー① 第8回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー② 第9回：腕・腰の身体構造① タイツスリーブ 第10回：腕・腰の身体構造② タイツスカート 第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット① 第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット② 第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③ 第14回：商品分析プレゼンテーション・講評 第15回：まとめ 定期試験				授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：商品知識①（アイテム・ディテール） 第3回：商品知識②（シルエット・ライン） 第4回：商品知識③（感性座標・マインドエイジ座標） 第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー① 第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー② 第7回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー① 第8回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー② 第9回：腕・腰の身体構造① タイツスリーブ 第10回：腕・腰の身体構造② タイツスカート 第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット① 第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット② 第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③ 第14回：商品分析プレゼンテーション・講評 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 毎回の授業の冒頭で配布				テキスト 毎回の授業の冒頭で配布			
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介				参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介			
学生に対する評価 成績評価は、授業への真摯度評価30%と、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。				学生に対する評価 成績評価は、出席評価30%と、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。			

審査意見への対応を記載した書類（5月）

国際ファッション専門職大学

学校法人日本教育財団

審査意見への対応を記載した書類（5月）

- (目次) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科
国際ファッション学部 ファッションビジネス学科
国際ファッション学部 大阪ファッション学科
国際ファッション学部 名古屋ファッション学科
【全学共通】

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1. <設置の趣旨、人材像、ディプロマ・ポリシーが不整合>

設置の必要性として、日本のアパレル産業における産業構造上の問題を解消することができるような人材の育成を掲げているが、ディプロマ・ポリシーは従来のファッション業界で求められているような知識や技術の修得にとどまっており、設置の必要性で示された「ファッションやこれに関わる文化について国際的に通用する教養を備える人材、並びに国際的な見地から主としてファッション産業界が抱える課題を発見し、課題解決に向けて積極的に取り組み、地域企業・地方産地の低迷打破に貢献できる人材の育成」と整合がとれておらず、専門学校との違いも不明確である。ついては、専門職大学を設置する必要性に関して、既存の専門学校では対応が困難であることがわかるように、ディプロマ・ポリシーを適切に見直すこと。（是正事項）・・・1

2. <3つのポリシーが不適切>

3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）について、大学全体のものしか示されておらず、かつ抽象的な内容となっていることから各学科の特色が十分に表現されていない。ついては、本学が掲げる国際的に通用する人材に見合ったポリシーとするよう、学科別に3つのポリシーを作成すること。

（是正事項）

・・・13

3. <学生確保の見通しが不明確>

学生確保の見通しに関する客観的な根拠として、高校生及び社会人向けのアンケート調査を実施しているが、高校生及び社会人の想定受入人数が不明であり、社会人向けの対象居住地域が全国に分散しているなど、当該調査結果からは定員に見合った入学意向があるかが不明確なため、高校生・社会人別の想定受入人数や、社会人の居住地域別の調査結果を示すなど、分析方法を適切に見直すこと。また、人材需要の見通しに係る客観的な根拠として示した事業所アンケートについては、業界別に採用意向を示しているが、ファッションクリエイション学科とファッションビジネス学科については合算して集計しているため、学科別の採用意向がわかるように改めて説明すること。（是正事項）・・・23

【教育課程等】

4. <設置の趣旨と教育課程の不整合>

大学や学部名称に「国際」を冠していたり、国際社会における通用性を強調しているが、教育課程に十分に反映されているか判断できない。ついては、臨地実務実習（必修）の実習先が国内企業に限られていることや、海外実習を選択科目とする趣旨を国際性との関係から改めて説明し、養成しようとする人材に必要な実践力をどのように獲得することが可能なのかについて明確にすること。（是正事項）・・・25

5. <専門職大学の特徴を踏まえた教育課程であるか不明確>

専門職大学を設置する必要性に関して、既設の専門学校で行ってきた教育課程と専門職大学の教

育課程の比較を明示しながら、専門職大学となってどのような教育を実施し、どのような人材が育成されるのか、設置の趣旨を踏まえながら明確にすること。（是正事項）・・・33

6. <設置の趣旨と教育課程の不整合>

「伝統的な日本文化を再認識する」ことを問題意識としているが、日本のファッション感覚、美意識、技術について学ぶ科目が不足しており、デザイン力を磨くための基盤となる知識や技術を十分に修得できないと思われるため、日本の伝統的なファッション感覚、美意識、技術について学ぶ科目を必修科目として開講すること。その際、日本の伝統的な衣装である和装についても学ぶ内容も含めること。（是正事項）・・・65

7. <教育課程の体系性が不十分>

主たる教育研究対象を家政学領域とし、ファッション学士（専門職）という学位を授与するのであれば、教育課程の体系性の確保という観点から、被服学の基礎となるような家政学の概説科目が必要なため、必修科目として開講すること。（是正事項）・・・67

8. <設置の趣旨と教育課程の不整合>

養成しようとする人材に照らせば、マーケティングや消費者心理を学ぶ科目が必要と思われるため、必修科目として開講すること。（是正事項）・・・69

9. <教育課程の見直しの方策が不明確>

教育課程連携協議会での議論を大学として受け止め、実際の教育課程の改定につなげていく方策など、専門職大学として教育課程の不断の見直しを行う方策が不明確なため、説明すること。（是正事項）・・・73

10. <教育課程連携協議会の構成員区分が不適切>

教育課程連携協議会の構成員のうち、「当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者」又は「地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者」に該当しない者が含まれているため、構成区分を改めること。（是正事項）・・・77

11. <科目区分の定義と配置された科目の不整合>

本来、職業専門科目に配置すべき専攻する職種の専門的な能力を育成する科目が、基礎科目に多数含まれ、展開科目も一部含まれており、専門職大学設置基準第13条に規定された科目区分の趣旨に反している。このため、「生涯にわたり自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する」ことを目的としている基礎科目の趣旨、及び「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的としている展開科目の趣旨を踏まえ、本学が基礎科目及び展開科目を通じてどのような能力を養成しようとし、そのために具体的にどのような教育課程を通じて実現しようとするのか明らかにするとともに、基礎科目、展開科目のなかで、貴学が便宜的に設定した科目区分名称とともに、定義に合致しない科目の配置を適切に修正すること。（是正事項）・・・79

12. <科目の実施体制が不明確>

1 クラスあたり 40 人を超える授業科目については、授業を行う上で支障がないという説明だけでなく、教育上の効果や目的を明確にすること。（是正事項）・・・103

13. <実習の実施体制が不明確>

実習の具体的内容、実習を通じて習得しようとする具体的な知識・技能、実習先との連携状況、事前・事後における指導計画、教員の巡回指導計画、実習施設における指導者の配置計画、成績評価体制及び単位認定方法など実習水準を確保するための具体的な実習の計画が不明確であるため、それぞれの観点について示した上で、大学としてどのように実習の質を担保する計画であるかについて明確にすること。（是正事項）・・・107

14. <アドミSSION・ポリシーと入試方法が不適切>

アドミSSION・ポリシーに基礎学力に関する説明がなく、入試方法にも反映されていない。学位を授与するという観点から、高校卒業程度の学力を担保する方法や、本学が求める人材として入学前に必要最低限身につけておくべき知識を測る方法が必要と思われるため、現在の入試方法で測定可能であるかについて改めて説明するか、アドミSSION・ポリシーや入試方法を見直すこと。また、留学生入試を行うようだが、留学生の日本語能力をどのように担保するのか不明なため、明確にすること。（是正事項）・・・113

15. <FDとSDの内容が不明確>

FDやSDに関する内容が不明確なため、具体的に説明すること。（是正事項）・・・119

16. <教育内容の充実>

国際的に活躍できる人材を育成することを目的とするのであれば、海外での実習先、海外の教育機関との連携、英語以外の言語の授業科目などの充実が望まれるため、対応方針を回答すること。（是正事項）・・・123

17. <実習先と授業科目の充実>

産業構造上の問題を解決し、新たな価値観の創出を目指すのであれば、臨地実務実習など現場における学修については、国内のアパレル産業だけでなく、近年の市場の進展から、関わりが深くなっている情報通信系などの他業種との連携を視野に入れた実習先の確保や他業種との連携に関する授業科目の開設が望まれるため、対応方針について回答すること。

（改善事項）・・・129

18. <科目の不足>

多様な地域性をもとに日本の知財の活用を提案するためには、地方産業論や地域論など地域に関する基盤的な理論を修得する必要があるため、各学科において、これに関する知識を学修できる教育課程の編成とするよう改めること。（是正事項）・・・135

19. <3キャンパスにおける教育の質の同等性が不明確>

4 学科を地域が異なる 3 キャンパスで行い、同じ学位（ファッション学士（専門職））を授与するとのことだが、学科や地域が異なれば教員組織や実習先なども異なるため、一定の教育効果を確保できるのか不明である。このため、異なる地域に置かれる 4 学科で同水準の教育効果が得られる計画となっていることを明確に説明すること。（是正事項）・・・139

【教員組織等】

20. <教員組織編制が不十分>

教員組織編制については、大学全体の構成しか触れておらず、学科の特色を反映した教員が十分に確保されているのか不明なため、学科別に教員組織編制の考え方や特色を説明すること。特に、国際的な人材を養成するために必要なカリキュラムを編成することが可能な教員組織が編制されていることを学科別に説明すること。（是正事項）・・・141

21. <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。（是正事項）・・・147

22. <設置計画の一層の充実>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など教員組織編制の将来構想の明確化が望まれるので、対応方針について回答すること。（改善事項）・・・149

【名称、その他】

23. <英語名称が不適切>

大学、大阪ファッション学科及び名古屋ファッション学科で設定された英語名称について、国際的な通用性を有しておらず、不適切なため、改めること。なお、大学名の英語表記については、専門職大学であることがわかるように professional 又は vocational の語（若しくはこれらに類する語）を用いて、適切に改めること。（是正事項）・・・151

24. <施設設備の整備状況が不明確>

実習・演習科目が多数配置されているが、実際に使用する実習室や演習室、工房が学生数と比較すると狭小であると思われるため、科目別に使用教室を明示し、学生が作業するために必要な十分な演習・実習スペースが確保されていることを説明すること。また、演習や実習でどのような機材や備品を使用するののかも不明確であるため、具体的に説明すること。（是正事項）・・・153

25. <専任教員研究室の整備状況が不明確>

専任教員研究室が各キャンパスに1部屋ずつであり、専任教員が教育研究を行う環境が整っているか疑義があるため、十分なスペースが確保されているかについて、具体的に説明すること。（是正事項）・・・157

26. <設置基準を満たさない授業計画>

シラバスの記載について、以下の点について記載が不十分な点が見受けられるので、適切に修正すること。

(1) 評価基準を「総合的に評価」としている科目があり、学生に不利益がないように具体的に示す必要がある。・・・161

(2) 全15回の授業の最終回に試験を設定している科目があり、授業回数が不足している。

(是正事項)・・・165

27. <学位の英語名称が不適切>

学位の英語名称について、「Studies」は学問領域を示したものとなり、専門職大学の学位名称としては不適切なため、適切に改めること。（是正事項）・・・167

28. <共用施設の使用計画が不明確>

同一法人内の各学校が共用する施設については、学生が支障なく使用できるのかが判然としないため、各共用施設の使用方針及び計画を明らかにした上で、学生に不利益が生じないことを説明すること。

(是正事項)

・・・169

【国際ファッション学部 ファッションビジネス学科】

1. <授業科目の名称と内容の不整合>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」については、パターンメイキングに関する内容が含まれており、科目名称との整合性が取れていないため、授業内容を見直すこと。

(是正事項)

・・・171

【国際ファッション学部 大阪ファッション学科】

1. <設置の趣旨と教育課程の不整合>

大阪と名古屋の学科については、東京の2学科の授業科目を混在させただけで、両学科の教育課程のどの部分に特色が表れているのかが不明確である。このため、立地の背景として説明している「織物産地の産業再生、地方創生」に関して、どのように教育課程に反映させているのかなど、学科別に具体的に説明すること。(是正事項)

・・・177

2. <授業科目の名称と内容の不整合>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」については、パターンメイキングに関する内容が含まれており、科目名称との整合性が取れていないため、授業内容を見直すこと。

(是正事項)

・・・179

【国際ファッション学部 名古屋ファッション学科】

1. <設置の趣旨と教育課程の不整合>

大阪と名古屋の学科については、東京の2学科の授業科目を混在させただけで、両学科の教育課程のどの部分に特色が表れているのかが不明確である。このため、立地の背景として説明している「織物産地の産業再生、地方創生」に関して、どのように教育課程に反映させているのかなど、学科別に具体的に説明すること。

(是正事項)

・・・185

2. <授業科目の名称と内容の不整合>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」については、パターンメイキングに関する内容が含まれており、科目名称との整合性が取れていないため、授業内容を見直すこと。

(是正事項)

・・・187

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

1. <設置の趣旨、人材像、ディプロマ・ポリシーが不整合>

設置の必要性として、日本のアパレル産業における産業構造上の問題を解消することができるような人材の育成を掲げているが、ディプロマ・ポリシーは従来のファッション業界で求められているような知識や技術の修得にとどまっており、設置の必要性で示された「ファッションやこれに関わる文化について国際的に通用する教養を備える人材、並びに国際的な見地から主としてファッション産業界が抱える課題を発見し、課題解決に向けて積極的に取り組み、地域企業・地方産地の低迷打破に貢献できる人材の育成」と整合がとれておらず、専門学校との違いも不明確である。ついては、専門職大学を設置する必要性に関して、既存の専門学校では対応が困難であることがわかるように、ディプロマ・ポリシーを適切に見直すこと。

(対応) 設置の趣旨、人材育成と整合のとれたディプロマ・ポリシーとなるよう適切に見直した

各学科は、ファッション産業界を支えてきた職種の延長上に基礎づきながら、下記に示す必要性に沿って、かつ現代的な変化へ対応すべく構成組織されており、学科ごとに教育目標と人材育成像を持つ。以下では、各学科の目標と人材像に照会して、適切に見直したディプロマ・ポリシーの内容を明記する。

・ファッションクリエイション学科

教育目標：ファッションクリエイション学科では、学則第4条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標を掲げる。

1. 汎用的能力
職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。
多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。
2. 基本的技術
ファッションクリエイション分野において、必要とされる被服学及びモノづくりの理解と基本的技術を修得させる。
3. 知識・理解
国際社会における日本及び多様な地域の社会、文化、芸術に関する理解力を持たせる。
情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。
4. 態度・志向性
ファッションクリエイションの国際的動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー：

被服学及びモノづくりの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. ファッションクリエイションにおいて必要とされる基本的な理解と技術を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなメディアテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションクリエイション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

・ファッションビジネス学科

教育目標：ファッションビジネス学科では、学則第 4 条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力
職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。
多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う
2. 基本的技術
ファッションビジネス分野において、必要とされる産業の構造や商慣行を理解し、管理運営する基本的技術を修得させる。
3. 知識・理解
国際社会における日本及び多様な地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。
4. 態度・志向性
ファッションビジネスの国際的動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー：

被服学の基礎及びファッションビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションビジネスにおいて必要とされる管理運営の理解と基本的技術を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションビジネス分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

・大阪ファッション学科

教育目標：大阪ファッション学科では、学則第 4 条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力
職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。
多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。
2. 基本的知識と技術
関西地域の経済、社会、文化、環境への理解をもつと同時に、ファッション産業で必要とされるクリエイションとビジネス分野における基本的な被服学及びモノづくりへの理解と、経済社会的事象などへの理解をバランスよく学び、必要とされる基本的な技能を修得させる。
3. 知識・理解

多様な日本国内外の地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

関西地域及び国際的なファッション産業の動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー：

関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、被服学の基礎及びファッションのビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、関西地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

・名古屋ファッション学科

教育目標：名古屋ファッション学科では、学則第4条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

名古屋地域の経済、社会、文化、環境への理解をもつと同時に、ファッション産業で必要とされるクリエイションとビジネス分野における基本的な被服学及びモノづくりへの理解と、基本的な経済社会的事象などへの理解をバランスよく学び、必要とされる基本的な技能を修得させる。

3. 知識・理解

多様な日本国内外の地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

名古屋地域及び国際的なファッション産業の動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー：

名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、被服学の基礎及びファッションのビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、名古屋地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案

及び判断を試みることができる。

以上の変更から、専門学校では実現できなかった次の教育を可能にしている。

「設置の趣旨等を記した書類」1.4 項目「既設の専門学校との違いと位置付け」で、追記説明するように、学校法人日本教育財団は、既設専門学校モード学園（以下、専門学校）において、日本国内のアパレル産業に関して即戦力となる技術的な中核人材の育成と教育指導を行ってきた。その教育課程では入学後すぐに被服の技術的な基本を教育する。すなわち専門学校では、絵をかき、形を作り、布を裁ち、縫製するという技術的な基本動作の習熟に教育課程の多くを費やし、実践的な技術知の修得のための教育に特化してきたといえる。そこでは、被服作業に入る前に、なぜ人は服を着るのか、ファッションとは何か、ファッション産業の成り立ちや産業を取り巻く歴史の変容を、通史的な知見に基づいて分析し、深く特徴を考察するという機会は設けていない。

したがって、現代のファッション産業が直面する産業上の課題や変化を、グローバルな状況変化とローカルな状況変化の相互作用のなかで検討し、様々なビジネス上、制作上の課題の発見と、それを打破するための方策を、技術知の向上以外の方法で正面から取り上げる教育は成してこなかった。特に、昨今の日本のファッション産業界の課題は、人材個々の技術的レベルの低下に起因しているとは言い難く、むしろ国内外の経済社会文化を見渡し、幅広く深い知見を基にコンセプトの創出を行い、国内外の市場へ発信する力の育成不足と、国内外の市場とニーズの変化、グローバルな取引の増大、他業種からの参入などに起因する産業の構造変化及び働き方の抜本的変化へ対応する開発・戦略的な知を持つ人材の不足であると捉えられうる。そうした人材の育成に必要な知識と能力、特に主体的な課題発見能力と対応力を育成する教育課程を、専門学校では設けていない。すなわち、こうした新たな職種の創造につながる、ビジネスモデルやコンセプトの開発と戦略を鍛える科目は設定していないという現状が認められる。加えて、専門学校では、国際的な見地を醸成しうる、多文化理解、コミュニケーション能力育成、他業種を含めた長期間にわたる国内外の現場体験などの科目も教育課程に組み込んでおらず、国際化への対応が困難である。

つまり、本法人は専門学校において技術知に基づく実践知を重視した教育に長らく取り組んできたが、これまでの教育課程では内外のファッション業界を取り巻く産業上の課題や状況を打破し、国際的に活躍できる人材を育成するという対応は困難であると判断し、かかる必要科目を組み込んだ教育課程の専門職大学の設置申請を行った。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (8 ページ)

新	旧
1.4 既設の専門学校との違いと位置付け 現代の日本社会は多様な文化が出会う多文化共生社会へ移行しつつある。そうした状況で社会的課題及び産業上の課題を発見するには、社会的文脈を理解するための知的基盤が何より重要である。それが「学問知」すなわち学術的な知見に相当する。また、社会的課題及び産業上の課題の解決のためには、創造するクリエイション能力やメディアの活用、情報の編集、言語的・非言語的表現能力といった「技術知」が必要になる。これら学問知及び技術知は、実践知と密接に関係する。社会的課題、産業上の課題の発見と解決のためには双方が有機的に結びついていることが必	1.4 既設の専門学校との違いと位置付け 現代の日本社会は多様な文化が出会う多文化共生社会へ移行しつつある。そうした状況で社会的課題及び産業上の課題を発見するには、社会的文脈を理解するための知的基盤が何より重要である。それが「学問知」すなわち学術的な知見に相当する。また、社会的課題及び産業上の課題の解決のためには、創造するクリエイション能力やメディアの活用、情報の編集、言語的・非言語的表現能力といった「技術知」が必要になる。これら学問知及び技術知は、実践知と密接に関係する。社会的課題、産業上の課題の発見と解決のためには双方が有機的に結びついていることが必

要である。すなわち実践を志す学習者のために学問知や技術知に裏打ちされた高度な学びの環境を提供する機会が必要である。

学校法人日本教育財団は、これまで既設専修学校モード学園において、日本国内のアパレル産業に関して即戦力となる技術的な中核人材の育成に重点をおき教育指導を行ってきた。その教育課程では、入学後すぐに被服の技術的基本を教育する。絵をかき、形を作り、布を裁ち、縫製するという基本動作を習熟するには繰り返しの鍛錬が必要である。専修学校では、教育課程の大半を、実習を伴う実践的な技術知の修得のための教育に特化し、引き続き、被服の専門家を育成する。ただしそこでは、被服作業に入る前に、なぜ人は服を着るのか、ファッションとは何か、被服とファッションの違いや現代の変容を、深く考察する機会は設けていない。また、現代のファッション産業が、産業を取り巻くグローバルな状況変化と地域のローカルな状況変化の相互作用と関連して変化していることを認識し、経済社会文化歴史的な視野を持って産業上の課題を解決し、新たな職種の開発と戦略を目指す取組にはなっていない。さらに、既設専修学校モード学園では、国際化に対応した教育課程にはなっていない。また

本法人は、技術知に基づく実践知を重視した教育に長らく取り組んできたが、内外のファッション業界を取り巻く産業上の課題や状況を鑑みるに、これまでの教育のみからでは、こうした課題を打破できる国際的に活躍できる人材の育成には十分ではないという認識に至った。既設の専修学校の強みを引き続き活かしながら、これまで不足していた学問知を中心に技術知を総合的かつ体系的に学び、臨地での実習制度を積極的に取り入れることで新たな実践知を備えた人材を創出する。これが既設の専修学校とは異なる本学の位置付けである。

これにより、社会的、職業的活動における協働から自らのあり方を自省し調整する学問知を踏まえたうえで、技術知を習得し現実の社会的文脈に根差した実践知を生み出すための教育研究環境を整える。実践知に重点を当てた教育に長らく取り組んできた本法人が、学問知、技術知を学修者に伝える教育研究機関として本学を設立する意義と強みはこの点にある

要である。すなわち実践を志す学習者のために学問知や技術知に裏打ちされた高度な学びの環境を提供する機会が必要である。

学校法人日本教育財団は、これまで既設専修学校において、日本国内のアパレル産業に関して即戦力となる技術的な中核人材の育成に重点をおき教育指導を行ってきた。

(追加)

本法人は、技術知に基づく実践知を重視した教育に長らく取り組んできたが、内外のファッション業界を取り巻く産業上の課題や状況を鑑みるに、これまでの教育のみからでは、こうした課題を打破できる国際的に活躍できる人材の育成には十分ではないという認識に至った。既設の専修学校の強みを引き続き活かしながら、これまで不足していた学問知を中心に技術知を総合的かつ体系的に学び、臨地での実習制度を積極的に取り入れることで新たな実践知を備えた人材を創出する。これが既設の専修学校とは異なる本学の位置付けである。

これにより、社会的、職業的活動における協働から自らのあり方を自省し調整する学問知を踏まえたうえで、技術知を習得し現実の社会的文脈に根差した実践知を生み出すための教育研究環境を整える。実践知に重点を当てた教育に長らく取り組んできた本法人が、学問知、技術知を学修者に伝える教育研究機関として本学を設立する意義と強みはこの点にある

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (5-10 ページ)

新	旧
<p>1.2 <u>養成する人材像、教育上の目的と学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</u></p> <p>本学の教育目標は、ファッション産業の分野で優れた実践的貢献をなし、国内外のファッション産業界で活躍しうる専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた<u>総合的な人材の育成</u>である。</p> <p>本学は、所定の期間在学し、本学の教育理念、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して基準となる単位数を修得し、卒業要件を満たす者に学位を授与する方針である。修得すべき授業科目には、講義のほかに実習や演習、臨地実習及び卒業制作等の科目が含まれる。主に全学科に共通する基礎科目を通じてなされた教養教育と、各学科の特性に応じて編成された職業専門教育、展開科目、総合科目をともに修得しているかどうか、学士を授与する基準や要件となる。6.3項目に詳細を記す。</p> <p>本学において、どのような人材を養成し、どのような能力を修得させるのか。以下では、より具体的に、教育上の目的、学生が修得すべき能力を記す。最後にそれに対応した、学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を記載する。このディプロマ・ポリシーは、4.1 項目の教育課程の方針 (カリキュラム・ポリシー) と一貫性・整合性のあるものとして策定し、かつ 9.2 項目の入学受入の方針 (アドミッション・ポリシー) と関連して策定した。3 つの方針の関係性は、2.2 項目に詳述し、資料 2 を添付する。続いて、各学科の具体的な教育目標と人材像に応じた学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を記す。</p> <p>(中略)</p> <p><u>これに対応して、本学は、(1) 国際社会で通用する教養、コミュニケーション能力を持つ人材、(2) ファッションの基本的知識と技術を学び、当該分野で自立できる能力がある人材、(3) ファッションに関わる知識や技術を深化させながら企画開発戦略などの構想力を持つ人材 (4) ファッションに関わる国際化、情報化などの変化に対応し、主体的に課題に取り組むことができる人材に対し、学位授与を行う方針 (ディプロマ・ポリシー) である。</u></p>	<p>1.2 <u>教育上の目的と学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</u></p> <p>本学の教育目標は、ファッション産業の分野で優れた実践的貢献をなし、国内外のファッション産業界で活躍しうる専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた<u>(追加) 人材の育成</u>である。</p> <p>本学は、所定の期間在学し、本学の教育理念、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して基準となる単位数を修得し、卒業要件を満たす者に学位を授与する方針である。修得すべき授業科目には、講義のほかに実習や演習、臨地実習及び卒業制作等の科目が含まれる。主に全学科に共通する基礎科目を通じてなされた教養教育と、各学科の特性に応じて編成された職業専門教育、展開科目、総合科目をともに修得しているかどうか、学士を授与する基準や要件となる。 (追加)</p> <p>本学において、どのような人材を養成し、どのような能力を修得させるのか。以下では、より具体的に、教育上の目的、学生が修得すべき能力を記す。最後にそれに対応した、学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を記載する。このディプロマ・ポリシーは、4.1 項目の教育課程の方針 (カリキュラム・ポリシー) と一貫性・整合性のあるものとして策定し、かつ 9.2 項目の入学受入の方針 (アドミッション・ポリシー) と関連して策定した。3 つの方針の関係性は、2.2 項目に詳述し、資料 2 を添付する。</p> <p>(中略)</p> <p><u>(追加)</u></p> <p><u>以上、本学では、ファッション産業界における新たな人材の養成を目指して、クリエイションとビジネスの二つの領域で、装いの文化についての理解を深める学習環境を整える。そして、臨地実習やインターンを通じて、国内外への発信できる実用的な知識や技術を修得させる学習環境を準備する。</u></p> <p><u>これに対応して、本学は、(1) ファッションの基本的知識と技術を学び、当該分野で自立できる能力がある人材、(2) 自らの専門的知識や技術を深化させながら課題に取り組むことのできる人材、(3) 国際社会で通用する教養、コミュニケーション能力を持つ人材に対し、学位授与を行う方針 (ディプロマ・ポリシー) である。</u></p>

る。上記の内容を達成するため、各学科ではより具体的な教育目標と人材像を設定する。

1.2.3.1 ファッションクリエイション学科

ファッションクリエイション学科では、学則第4条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

ファッションクリエイション分野において、産業内で広く一般に必要と認識されている基本的な被服学及びモノづくりへの理解を養うと同時に基本的な技能を修得させる。

3. 知識・理解

国際社会における日本及び多様な地域の社会、文化、芸術に関する理解力を持たせる。情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

ファッションクリエイションの国際的動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー

被服学及びモノづくりの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. ファッションクリエイションにおいて必要とされる基本的な理解と技能を持つ。

3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなメディアテクノロジーへの理解を深めている。

4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションクリエイション分野で生じている現在の課題を主体的に発見

し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

1.2.3.2. ファッションビジネス学科

ファッションビジネス学科では、学則第 4 条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

ファッションビジネス分野における、産業及び国や地域の経済社会的事象について、基本的な構造及び商慣行への理解を養うと同時にそれらを数量的に把握する基本的な技術を修得させる。

3. 知識・理解

国際社会における日本及び多様な地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。

情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

ファッションビジネスの国際的動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー

被服学の基礎及びファッションビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. ファッションの主にビジネスにおいて必要とされる基本的知識と技術を持つ。

3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。

4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションビジネス分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みる
ことができる。

1.2.3.3 大阪ファッション学科

大阪ファッション学科では、学則第 4 条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標を掲げる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

関西地域の経済、社会、文化、環境への理解をもつと同時に、ファッション産業で必要とされるクリエイションとビジネス分野における基本的な被服学及びモノづくりへの理解と、経済社会的事象などへの理解をバランスよく学び、必要とされる基本的な技能を修得させる。

3. 知識・理解

多様な日本国内外の地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

関西地域及び国際的なファッション産業の動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー

関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、被服学の基礎及びファッションのビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。

1. 職業人として必要な国際社会で通用する

教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。

3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。

4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、関西地域におけるファッション分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

1.2.3.4 名古屋ファッション学科

名古屋ファッション学科では、学則第4条に掲げる教育上の目的を達成するために、以下の教育目標掲げる。

1. 汎用的能力

職業人及び国際社会の市民として基本的な倫理観と教養を養う。

多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う。

2. 基本的技術

名古屋地域の経済、社会、文化、環境への理解をもつと同時に、ファッション産業で必要とされるクリエイションとビジネス分野における基本的な被服学及びモノづくりへの理解と、基本的な経済社会的事象などへの理解をバランスよく学び、必要とされる基本的な技能を修得させる。

3. 知識・理解

多様な日本国内外の地域の経済、社会、文化、環境を理解する能力を養う。

情報化社会及び新たなテクノロジーへの知識と理解力を持たせる。

4. 態度・志向性

名古屋地域及び国際的なファッション産業の動向に関心を持ち、課題発見と課題解決に向けて能動的かつ具体的な提案や活動をする能力を養う。

ディプロマ・ポリシー

名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、被服学の基礎及びファッションの

<p><u>ビジネスの知識と技術を学んだうえで、国際化、情報化に対応した多文化共生、実習関連の教育科目などを通じ、以下に示す豊かな知識と実践的な知見を修得した学生に対して、学位を授与する。</u></p> <p><u>1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。</u></p> <p><u>2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。</u></p> <p><u>3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。</u></p> <p><u>4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、名古屋地域におけるファッション分野で生じている現在の課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。</u></p>	
---	--

(参考) 「9 学則」 (一部抜粋)

第4条 本学に次の学部学科を置く。

- (1) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科
- (2) 国際ファッション学部 ファッションビジネス学科
- (3) 国際ファッション学部 大阪ファッション学科
- (4) 国際ファッション学部 名古屋ファッション学科

2. 学部学科の目的は、次に定めるものとする。

- (1) 国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は、多様な生活意識や美意識について、ファッションを通じて再現し、特に日本の伝統的技術や知識の継承からファッション知財の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。
- (2) 国際ファッション学部ファッションビジネス学科は、多様な生活意識や美意識に基づき、ものの美的な価値に理解を示しつつ、国際競争力のある新しいファッションブランドの創出や制作物の販売網の開拓を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。
- (3) 国際ファッション学部大阪ファッション学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に関西を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。
- (4) 国際ファッション学部名古屋ファッション学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に中部、東海を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づ

いたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

2. <3つのポリシーが不適切>

3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）について、大学全体のものしか示されておらず、かつ抽象的な内容となっていることから各学科の特色が十分に表現されていない。ついては、本学が掲げる国際的に通用する人材に見合ったポリシーとするよう、学科別に3つのポリシーを作成すること。

(対応) 学科別に3ポリシーを作成して是正した。各学科の特色と育成する人材像、国際的に通用する人材育成に見合ったポリシーとなるよう適切に見直した。

・ファッションクリエイション学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は、多様な生活意識や美意識について、ファッションを通じて再現し、特に日本の伝統的技術や知識の継承からファッション知財の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。

育成する人材像：

国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）
国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）
他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションクリエイションにおいて必要とされる基本的な理解と技術を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなメディアテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションクリエイション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 国際的な市民社会の一員としての自覚、職業人としての職業倫理を涵養する。
2. ファッションクリエイションにおける専門的なモノづくりの基本的知識と技術を教授する。
3. 国内外の文化社会芸術についての知識と新たなテクノロジーへの理解を深める教育をする。
4. 専門的知識や技術への理解を深化させ、日本の伝統的技術や知財を使って、ファッションクリエイション分野で新たな展開と発信を行うための課題発見と解決にいたる方法を教える。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。

2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

・ファッションビジネス学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部ファッションビジネス学科は、多様な生活意識や美意識に基づき、ものの美的な価値に理解を示しつつ、国際競争力のある新しいファッションブランドの創出や制作物の販売網の開拓を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。

育成する人材像：

国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野における、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）

国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションビジネスにおいて必要とされる管理運営の理解と基本的技術を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションビジネス分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 国際的な市民社会の一員としての自覚、職業人としての職業倫理を涵養する。
2. ファッションビジネスにおける基本的知識と技術を教授する。総合的な判断に加え、実践的な企画力や開発力、創造性を養う。
3. 国内外の新しいビジネスの活動形態や経済社会文化についての知識と新たなテクノロジーへの理解を深める教育をする。
4. 専門的知識や技術への理解を深化させ、日本の伝統的技術や知財を使って、ファッションビジネス分野で新たな展開と発信を行うための課題発見と解決にいたる方法を教える。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

・大阪ファッション学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部大阪ファッション学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に関西を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、

その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

育成する人材像：

関西地域の特色や地域の知財を理解しつつ以下の仕事を行う人材

国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野において、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）

国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、関西地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 国際的な市民社会の一員としての自覚、職業人としての職業倫理を涵養する。
2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を教授する。ファッションにおける基本的知識と技術を教授する。総合的な判断に加え、実践的な企画力や開発力、創造性を養う。
3. 国内外の新しいビジネスの活動形態や経済社会文化についての知識と新たなテクノロジーへの理解を深める教育をする。
4. 専門的知識や技術への理解を深化させ、関西地域の伝統的技術や知財を使って、ファッション分野で新たな展開と発信を行うための課題発見と解決にいたる方法を教える。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

・名古屋ファッション学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部名古屋ファッション学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に中部、東海を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

育成する人材像：

名古屋地域の特色や地域の知財を理解しつつ以下の仕事を行う人材

国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）

国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）
他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、名古屋地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 国際的な市民社会の一員としての自覚、職業人としての職業倫理を涵養する。
2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を教授する。ファッションにおける基本的知識と技術を教授する。総合的な判断に加え、実践的な企画力や開発力、創造性を養う。
3. 国内外の新しいビジネスの活動形態や経済社会文化についての知識と新たなテクノロジーへの理解を深める教育をする。
4. 専門的知識や技術への理解を深化させ、名古屋地域の伝統的技術や知財を使って、ファッション分野で新たな展開と発信を行うための課題発見と解決にいたる方法を教える。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（9-10 ページ）

新	旧
2. 学部・学科等の特色 （中略） 2.2 3つの方針（ポリシー） （中略） <u>続いて、各学科の特徴と育成する人材像に応じた3つの方針（ポリシー）を設定する。</u> <u>・ファッションクリエイション学科</u> <u>学科の特徴：（学則）</u> <u>国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は、多様な生活意識や美意識について、ファッションを通じて再現し、特に日本の伝統的技術や知識の継承からファッション知財の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより実</u>	2. 学部・学科等の特色 （中略） 2.2 3つの方針（ポリシー） （中略） <u>（追加）</u>

実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。

育成する人材像：

国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）

国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. ファッションクリエイションにおいて必要とされる基本的な理解と技術を持つ。

3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなメディアテクノロジーへの理解を深めている。

4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションクリエイション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 国際的な市民社会の一員としての自覚、職業人としての職業倫理を涵養する。

2. ファッションクリエイションにおける専門的なモノづくりの基本的知識と技術を教授する。

3. 国内外の文化社会芸術についての知識と新たなテクノロジーへの理解を深める教育をする。

4. 専門的知識や技術への理解を深化させ、日本の伝統的技術や知財を使って、ファッションクリエイション分野で新たな展開と発信を行うための課題発見と解決にいたる方法を教える。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。

2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。

3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。

4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

・ファッションビジネス学科

学科の特徴：（学則）

国際ファッション学部ファッションビジネス学科は、多様な生活意識や美意識に基づき、ものの美的な価値に理解を示しつつ、国際競争力のある新しいファッションブランドの創出や制作物の販売網の開拓を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。

育成する人材像：

国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野における、販売企画戦略、

営業、広告、プロデュース（総合職）

国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. ファッションビジネスにおいて必要とされる管理運営の理解と基本的技術を持つ。

3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。

4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションビジネス分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）：

1. 国際的な市民社会の一員としての自覚、職業人としての職業倫理を涵養する。

2. ファッションビジネスにおける基本的知識と技術を教授する。総合的な判断に加え、実践的な企画力や開発力、創造性を養う。

3. 国内外の新しいビジネスの活動形態や経済社会文化についての知識と新たなテクノロジーへの理解を深める教育をする。

4. 専門的知識や技術への理解を深化させ、日本の伝統的技術や知財を使って、ファッションビジネス分野で新たな展開と発信を行うための課題発見と解決にいたる方法を教える。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）：

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。

2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。

3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。

4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

・大阪ファッション学科

学科の特徴：（学則）

国際ファッション学部大阪ファッション学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に関西を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

育成する人材像：

関西地域の特色や地域の知財を理解しつつ以下の仕事を行う人材

国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野において、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）

国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。

3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。

4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、関西地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 国際的な市民社会の一員としての自覚、職業人としての職業倫理を涵養する。

2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を教授する。ファッションにおける基本的知識と技術を教授する。総合的な判断に加え、実践的な企画力や開発力、創造性を養う。

3. 国内外の新しいビジネスの活動形態や経済社会文化についての知識と新たなテクノロジーへの理解を深める教育をする。

4. 専門的知識や技術への理解を深化させ、関西地域の伝統的技術や知財を使って、ファッション分野で新たな展開と発信を行うための課題発見と解決にいたる方法を教える。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。

2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。

3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。

4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

・名古屋ファッション学科

学科の特徴：（学則）

国際ファッション学部名古屋ファッション学

科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に中部、東海を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

育成する人材像：

名古屋地域の特色や地域の知財を理解しつつ以下の仕事を行う人材

国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）

国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。

3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。

4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、名古屋地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 国際的な市民社会の一員としての自覚、職業人としての職業倫理を涵養する。

2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を教授する。ファッションにおける基本的知識と技術を教授する。総合的な判断に加え、実践的な企画力や開発力、創造性を養う。

3. 国内外の新しいビジネスの活動形態や経済社会文化についての知識と新たなテクノロジーへの理解を深める教育をする。

4. 専門的知識や技術への理解を深化させ、

<p>名古屋地域の伝統的技術や知財を使って、ファッション分野で新たな展開と発信を行うための課題発見と解決にいたる方法を教える。</p> <p><u>入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>多様な地域文化と教養を学び、それを基</u> <u>底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。</u> 2. <u>ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。</u> 3. <u>積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。</u> 4. <u>幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。</u> 	
--	--

(参照) 「9 学則」

「12 設置の趣旨等を記した書類」

添付資料 カリキュラムマップ (資料 2)

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

3. <学生確保の見通しが不明確>

学生確保の見通しに関する客観的な根拠として、高校生及び社会人向けのアンケート調査を実施しているが、高校生及び社会人の想定受入人数が不明であり、社会人向けの対象居住地域が全国に分散しているなど、当該調査結果からは定員に見合った入学意向があるかが不明確なため、高校生・社会人別の想定受入人数や、社会人の居住地域別の調査結果を示すなど、分析方法を適切に見直すこと。また、人材需要の見通しに係る客観的な根拠として示した事業所アンケートについては、業界別に採用意向を示しているが、ファッションクリエイション学科とファッションビジネス学科については合算して集計しているため、学科別の採用意向がわかるように改めて説明すること。

(対応) 改めて説明する

・学生確保の見通しについて“入学意向”の意見への回答

参考資料として社会人の居住地域別の調査結果(参考資料①)を添付した。入口調査の結果から、東京・名古屋・大阪の各キャンパスともに10%以上の社会人の受入れを想定している。特に社会人の入学意向の高いファッションビジネス学科においては50%以上の社会人の受入を想定している。

・学生確保の見通しについて“人材需要”の意見への回答

以下のように、ファッションクリエイション学科の採用意欲及び採用可能な人数は98名で、ファッションビジネス学科の採用意欲及び採用可能な人数は104名であり、十分な需要があると考えている。

学科別採用意欲及び採用可能人数(単位:人)

選択項目	ファッションクリエイション学科	ファッションビジネス学科
採用したい	58	65
採用を検討したい	40	39
採用意欲の合計	98	104
採用可能な人数	147人	312人

(参照) 「13 学生の確保の見通し等を記載した書類」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

4. <設置の趣旨と教育課程の不整合>

大学や学部名称に「国際」を冠していたり、国際社会における通用性を強調しているが、教育課程に十分に反映されているか判断できない。については、臨地実務実習（必修）の実習先が国内企業に限られていることや、海外実習を選択科目とする趣旨を国際性との関係から改めて説明し、養成しようとする人材に必要な実践力をどのように獲得することが可能なのかについて明確にすること。

(対応) 本学における国際性の考え方と養成しようとする人材を示し、養成しようとする人材に必要な実践力をいかに獲得することが可能なのか明確にする

・本学における国際性の考え方と養成しようとする人材

本学が今般、「国際ファッション専門職大学」及び「国際ファッション学部」の名称で、教育を行おうとする趣旨は、『設置の趣旨等を記載した書類』「1.設置の趣旨及び必要性」で述べたように、「経済社会的情勢が移り変わるなかで、現代のファッション産業には流動的な国内外の市場に関わるクリエイションの課題、そして産業構造に関わる商慣行や働き方といったビジネスの課題が認められる」ためである。そして、「かかる課題を換言すれば、現代的な変化に対し柔軟に対応することのできる人材の不足と言えよう。こうした課題を解決できる人材として、総合的な視野を持った高度な専門職の育成が、産業的にも広く社会的にも要請されている」(p.4)と記したように、本法人が長年にわたり既設の専門学校で成してきた教育経験からも、かかる現代のファッション産業を取り巻く国際化や情報化等の変化に対応し、本格的に国際的な活躍を行える人材の輩出には至っていないという認識がある。したがって、本学は新たに「国際ファッション専門職大学」として、豊かな学問知と実践知を組み入れた教育課程を編成し、当該産業の国際化や情報化といった現代的な変化に対応し国際的に活躍できる人材の育成を目指す必要があると考えた。ここで、国際的な活躍をすることとは、本学では、具体的にいくつかの就業先において仕事をする事と想定している。

就業先として、まず、ファッション業界で日本国外に本社機能を置く企業や事業所を想定している。次に、ファッション業界において日本国内に本社機能を置く企業や事業所で、国内外の消費者や市場に向けて事業を行おうとする部署を想定している。そして、ファッション業界ではない他業種の企業や事業所で、ファッション分野に参入し、国内外の消費者や市場に向けて事業を行おうとする部署を想定している。加えて、国内外の消費者に向けてファッションに関する事業を起業し、自ら事業主となる就業先を想定している。

これらの就業先で行う仕事は、ファッション分野でモノを作り、モノを売るという内容を、日本国内の消費者や市場向けにとどまらず、主に国内外の消費者や市場向けに広く行うことを想定している。

上記のように、本学が考える国際的な活躍をする人材の輩出とは、概ね3つに分けられる。すなわち、日本国外のファッション産業の構造及び就業構造の中で仕事をする人材の輩出（本学でいうアウトバウンド型）、日本国内のファッション産業の構造と就業構造の中であるが、国際化に対応した仕事をする人材の輩出（本学でいうインバウンド型）、ファッション産業の新たな就業構造を作り出して仕事をする人材の輩出（本学でいうイノベーション型）といえよう。

・養成する人材に必要な実践力

こうしたファッション産業の分野で国際的な活躍をするためには、次の国際性に関わる力を身につける必要があると考える。一つ目に、一般的に国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力（汎用的能力）を持つこと。二つ目に、ファッション産業に関する仕事を扱うための、モノを作り、モノを売る、基本となる知識と技術をもつこと。三つ目に、豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力をもつこと。四つ目に、ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする態度・志向性をもつことである。

以上の実践力は、本学が掲げるディプロマ・ポリシーと重なり、その力を身につけさせるために掲げたカリキュラム・ポリシーと連動している。ポリシーに沿って設定した教育課程の授業科目を履修し、基準となる単位数を修得し、卒業要件を満たすことで必要な実践力を身につけさせる。例えば、一つ目の汎用的能力は、主に全学科に共通する基礎科目を通じて育成し、二つ目のファッション産業に関する基本的な知識と技術は、主に各学科の特性に応じて編成された職業専門科目で育成する。三つ目の現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力は、一部職業専門科目とともに、主に展開科目で十分に育成し、四つ目の態度・志向性は、教育課程全般を通じて形成され、集大成として総合科目で結実する。講義、実習、演習等の授業形態の有機的なつながりによって、必要な実践力をバランスよく形成するものである。

・必要な実践力を身につけさせる科目

以上のように、本学は教育課程全体で養成する人材に必要な実践力を育成させるのだが、ファッション産業で国際的に活躍できる人材育成への取り組みが教育課程において十分に反映されているか、より明確に示すために、申請時に提出していた科目区分や配置を見直した。上記の力のうち、一つ目の汎用的能力と、三つ目の対応力、四つ目の態度・志向性、という本学が専門職大学となって特徴を持ち、本学が考える国際性につながる力を育成する科目は、申請時の教育課程では、「基礎科目、職業専門科目、展開科目」に分散して配置していたが、補正申請時の教育課程では、「基礎科目で汎用的能力を、職業専門科目に対応力の基盤を、展開科目の国際科目群で対応力と態度・志向性を」というように、可能な限り配置を是正し、必要な力を育成する科目区分が明確になるよう工夫した。

例えば、基礎科目における「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」「文化論基礎ゼミ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」が、本学が考える国際性につながる汎用的能力に直接的に該当する部分である。そして、展開科目における「国際科目群」の科目が、本学が考える国際性につながる対応力と態度・志向性に直接的に該当する部分である。科目の比重は、ファッションクリエイション学科において全67科目中15科目（約22%）、ファッションビジネス学科において全67科目中16科目（約24%）、大阪ファッション学科において全68科目中16科目（約24%）、名古屋ファッション学科において全69科目中17科目（約25%）となっており、概ね各学科の4分の1の比重を占める。これは、本学が設定するディプロマ・ポリシー4項目分のうち1項目分の比重にあたり、十分な教育課程への反映がなされていると考えている。

・「海外実習Ⅰ」（必修）科目増加と、語学科目の増加

具体的な科目のうち、特に指摘を受けた「臨地実務実習（必修）の実習先が国内企業に限られていること」や、「海外実習を選択科目とする趣旨」については、本学の考える国際性との関係から改めて見直し、「海外実習Ⅰ」科目を必修科目として増加し是正した。申請時には「海外実習」（選択）科目のみであったが、必要な実践力を身につけさせるためには「海外実習Ⅰ」（必修）と「海外実習Ⅱ」（選択）を設け、特別な事情がない限り学生全員に海外実習を義務付ける必要があると考えた。本学の教育課程においてファッション産業の分野で国際的に活躍するための実践力の育成の比重を増している。

この海外での臨地実習を充実したものにするために、学内では国際に関する講義科目や、

国際連携ゼミなどの演習科目を通じて、十分な問題意識の醸成と課題発見の力を育成する。また、「海外実習Ⅰ」（必修）を受け持つ教員を増加し、本学の豊かな海外経験を持つ教員が引率する。安全に配慮しつつ、個々の学生が学内で身につけたものの見方を、現地に赴くことで実践的に高める。そして具体的な課題を発見し、解決に向けた能動的な活動を行おうとする態度と志向性を養う。こうした取り組みを経て、特に日本国外のファッション産業の構造及び就業構造の中で仕事をしようとする、本学でいうアウトバウンド型志向の学生は、「海外実習Ⅱ」（選択）を履修し、より学生の将来設計に応じた実践力を高める科目設定をしている。「海外実習Ⅱ」（選択）を受け持つ教員は、同じく豊かな海外経験を持つ教員が個々の学生のフォローを学内の担当センターと連携しつつ行う。

また、「海外実習Ⅰ」（必修）に関係する英語以外の言語科目として「フランス語」と「中国語」の科目を全学科で増設した。加えて、名古屋ファッション学科では「イタリア語」科目をさらに増加した。審査意見 16 と合わせて真摯な見直しを行った。本学として、ファッション産業で国際的に活躍できる人材育成にむけて、引き続き更なる教育内容の充実に取り組む予定である。

・臨地実務実習（必修）の実習先

以上の見直しと是正を行ったが、本学としては臨地実務実習（必修）の実習先を国内企業に限る点については変更をしていない。その理由は、設置の趣旨に大きな軸として掲げる「欧米中心のファッション構造を相対化する積極的な日本からの発信」（趣旨書 p.6 「1.2.3 グローバル化時代における日本発のファッションの創出を実現する」）を行うためには、国内における長期の臨地実習が欠かせないと考えたためである。特に日本の知財を基盤にした発信という独自性を可能にするためには、豊かな日本の装いの文化と関係する職人の世界を学び、知財化に結び付けていけるように取り組む必要がある。その活動を主に「臨地実習Ⅱ」で担う。そして、日本国内のファッション産業の構造と就業構造の中であるが、国際化に対応した仕事をする、本学でいうインバウンド型の人材の輩出や、ファッション産業の新たな就業構造を作り出して仕事をする、本学でいうイノベーション型の人材の輩出のためには、「臨地実習Ⅰ」における活動も欠かせないためである。地域・地方産地のファッション産業の課題発見と低迷打破につながる学修のためには、臨地実習の 600 時間の全てを国内の産地や企業で実習する実務経験がきわめて重要であると認識している。

こうした臨地実習を充実したものにするために、学内における講義科目、演習科目を通じて十分な問題意識の醸成と課題発見の力を育成する。個々の学生はそうしたものの見方を持ち、現地に赴くことでしかわかりえない実践力を身につけ、その実践のなかでさらなる具体的な課題を発見し、解決に向けた能動的な活動を行おうとする、態度と志向性を養う。

以上の考えと科目編成から、本学は教育課程全体において、ファッション産業で国際的に活躍できる人材育成に取り組む。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（13-14 ページ）

新	旧
3. 大学・学部・学科の名称及び学位の名称 （中略） 3.4.1 本学における国際性の考え方と養成しようとする人材 本学が今般、「国際ファッション専門職大学」及び「国際ファッション学部」の名称で、教育を行おうとする趣旨は、『設置の趣旨等を記載した書類』「1. 設置の趣旨及び必要性」で述べたように、「経済社会的情勢が移り変わるなかで、現代のファッション産業	3. 大学・学部・学科の名称及び学位の名称 （中略） （追加）

には流動的な国内外の市場に関わるクリエイションの課題、そして産業構造に関わる商慣行や働き方といったビジネスの課題が認められる」ためである。そして、「かかる課題を換言すれば、現代的な変化に対し柔軟に対応することのできる人材の不足と言えよう。こうした課題を解決できる人材として、総合的な視野を持った高度な専門職の育成が、産業的にも広く社会的にも要請されている」

(p.4) と記したように、本法人が長年にわたり既設の専門学校で成してきた教育経験からも、かかる現代のファッション産業を取り巻く国際化や情報化等の変化に対応し、本格的に国際的な活躍を行える人材の輩出には至っていないという認識がある。したがって、本学は新たに「国際ファッション専門職大学」として、豊かな学問知と実践知を組み入れた教育課程を編成し、当該産業の国際化や情報化といった現代的な変化に対応し国際的に活躍できる人材の育成を目指す必要があると考えた。ここで、国際的な活躍をすることとは、本学では、具体的にいくつかの就業先において仕事をする事と想定している。

就業先として、まず、ファッション業界で日本国外に本社機能を置く企業や事業所を想定している。次に、ファッション業界において日本国内に本社機能を置く企業や事業所で、国内外の消費者や市場に向けて事業を行おうとする部署を想定している。そして、ファッション業界ではない他業種の企業や事業所で、ファッション分野に参入し、国内外の消費者や市場に向けて事業を行おうとする部署を想定している。加えて、国内外の消費者に向けてファッションに関する事業を起業し、自ら事業主となる就業先を想定している。これらの就業先で行う仕事は、ファッション分野でモノを作り、モノを売るという内容を、日本国内の消費者や市場向けにとどまらず、主に国内外の消費者や市場向けに広く行うことを想定している。

上記のように、本学が考える国際的な活躍をする人材の輩出とは、概ね3つに分けられる。すなわち、日本国外のファッション産業の構造及び就業構造の中で仕事をする人材の輩出（本学でいうアウトバウンド型）、日本

国内のファッション産業の構造と就業構造の中であるが、国際化に対応した仕事をする人材の輩出（本学でいうインバウンド型）、ファッション産業の新たな就業構造を作り出して仕事をする人材の輩出（本学でいうイノベーション型）といえよう。

3.4.2 養成する人材に必要な実践力

こうしたファッション産業の分野で国際的な活躍をするためには、次の国際性に関わる力を身につける必要があると考える。一つ目に、一般的に国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力（汎用的能力）を持つこと。二つ目に、ファッション産業に関する仕事を扱うための、モノを作り、モノを売る、基本となる知識と技術をもつこと。三つ目に、豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力をもつこと。四つ目に、ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする態度・志向性をもつことである。

以上の実践力は、本学が掲げるディプロマ・ポリシーと重なり、その力を身につけさせるために掲げたカリキュラム・ポリシーと連動している。ポリシーに沿って設定した教育課程の授業科目を履修し、基準となる単位数を修得し、卒業要件を満たすことで必要な実践力を身につけさせる。例えば、一つ目の汎用的能力は、主に全学科に共通する基礎科目を通じて育成し、二つ目のファッション産業に関する基本的な知識と技術は、主に各学科の特性に応じて編成された職業専門科目で育成する。三つ目の現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力は、同じく職業専門科目とともに、展開科目で十分に育成し、四つ目の態度・志向性は、教育課程全般を通じて形成され、集大成として総合科目で結実する。講義、実習、演習等の授業形態の有機的なつながりによって、必要な実践力をバランスよく形成するものである。

3.4.3 必要な実践力を身につけさせる科目

以上のように、本学は教育課程全体で養成す

る人材に必要な実践力を育成させるのだが、ファッション産業で国際的に活躍できる人材育成への取り組みが教育課程において十分に反映されているか、より明確に示すために、上記の力のうち、一つ目の汎用的能力と、三つ目の対応力、四つ目の態度・志向性、という本学が専門職大学となって特徴を持ち、本学が考える国際性につながる力を育成する科目は「基礎科目で汎用的能力を、職業専門科目に対応力の基盤を、展開科目の国際科目群で対応力と態度・志向性を」というように、可能な限り配置をまとめ、必要な力を育成する科目区分が明確になるよう工夫している。例えば、基礎科目における「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」「文化論基礎ゼミ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」が、本学が考える国際性につながる汎用的能力に直接的に該当する部分である。そして、展開科目における「国際科目群」の科目が、本学が考える国際性につながる対応力と態度・志向性に直接的に該当する部分である。科目の比重は、ファッションクリエイション学科において全66科目中15科目（約23%）、ファッションビジネス学科において全66科目中16科目（約24%）、大阪ファッション学科において全66科目中16科目（約24%）、名古屋ファッション学科において全66科目中16科目（約24%）となっており、概ね各学科の4分の1の比重を占める。これは、本学が設定するディプロマ・ポリシー4項目分のうち1項目分の比重にあたり、十分な教育課程への反映がなされていると考えている。

3.4.4 「海外実習Ⅰ」（必修）と、英語以外の語学科目の増加

具体的な科目のうち、「臨地実務実習」（必修）の実習先の考え方と、「海外実習Ⅰ」（必修）及び「海外実習Ⅱ」の位置づけについて、本学の考える国際性との関係から概要を示す。本学では、「海外実習Ⅰ」（必修）と「海外実習Ⅱ」（選択）を設置し、必要な実践力を身につけさせる。特別な事情がない限り学生全員に海外実習を義務付ける。本学の教育課程においてファッション産業の分野で国際的に活躍するための実践力の育成の比

重を増している。

この海外での臨地実習を充実したものにするために、学内では国際に関する講義科目や、国際連携ゼミなどの演習科目を通じて、十分な問題意識の醸成と課題発見の力を育成する。また、「海外実習Ⅰ」（必修）を受け持つ教員を増加し、本学の豊かな海外経験を持つ教員が引率する。安全に配慮しつつ、個々の学生が学内で身につけたものの見方を、現地に赴くことで実践的にさらなる具体的な課題を発見し、解決に向けた能動的な活動を行おうとする態度と志向性を養う。こうした取り組みを経て、特に日本国外のファッション産業の構造及び就業構造の中で仕事をしようとする、本学でいうアウトバウンド型志向の学生は、「海外実習Ⅱ」（選択）を履修し、より学生の将来設計に応じた実践力を高める科目設定をしている。「海外実習Ⅱ」（選択）を受け持つ教員は、同じく豊かな海外経験を持つ教員が個々の学生のフォローを学内の担当センターと連携しつつ行う。

また、「海外実習Ⅰ」（必修）に関する英語以外の言語科目として「フランス語」と「中国語」の科目を全学科で開講し。加えて、名古屋ファッション学科では「イタリア語」科目を開設する。本学として、ファッション産業で国際的に活躍できる人材育成にむけて、引き続き教育内容の充実に取り組む予定である。

3.4.5 臨地実務実習（必修）の実習先

本学は以上の海外実習とは別に、長期の臨地実務実習（必修）を用意する。その実習先は国内企業に限っている。その理由は、設置の趣旨に大きな軸として掲げる「欧米中心のファッション構造を相対化する積極的な日本からの発信」（「1.2.3 グローバル化時代における日本発のファッションの創出を実現する」）を行うためには、国内における長期の臨地実習が欠かせないと考えるためである。特に日本の知財を基盤にした発信という独自性を可能にするためには、豊かな日本の装いの文化と関係する職人の世界を学び、知財化に結び付けていけるように取り組む必要がある。その活動を主に「臨地実習Ⅱ」で担う。

<p>そして、日本国内のファッション産業の構造と就業構造の中であるが、国際化に対応した仕事をする、本学でいうインバウンド型の人材の輩出や、ファッション産業の新たな就業構造を作り出して仕事をする、本学でいうイノベーション型の人材の輩出ためには、「臨地実習Ⅰ」における活動も欠かせないためである。地域・地方産地のファッション産業の課題発見と低迷打破につながる学修のためには、臨地実習の600時間の全てを国内の産地や企業で実習する実務経験がきわめて重要であると認識している。</p> <p>こうした臨地実習を充実したものにするために、学内における講義科目、演習科目を通じて十分な問題意識の醸成と課題発見の力を育成する。個々の学生はそうしたものの見方を持ち、現地に赴くことでしかわかりえない実践力を身につけ、その実践のなかでさらなる具体的な課題を発見し、解決に向けた能動的な活動を行おうとする、態度と志向性を養う。</p> <p>以上の考えから、本学は「国際ファッション専門職大学」や「国際ファッション学部」と称して、教育課程全体において、ファッション産業で国際的に活躍できる人材育成に取り組む。</p>	
--	--

(新旧対照表) 学則 (全学共通 11 ページ)

新	旧
<p>(附置組織・機関) 第5<u>3</u>条 本学に、以下の全学的な附置組織・機関を置く。 (1) アドミッション・センター (2) キャリアサポート・センター (3) 地域連携センター (削除)</p>	<p>(附置組織・機関) 第5<u>2</u>条 本学に、以下の全学的な附置組織・機関を置く。 (1) アドミッション・センター (2) キャリアサポート・センター (3) 地域連携センター (4) 国際連携センター</p>

(参照) 「2 教育課程等の概要」
「23 臨地実務実習施設等資料」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

5. <専門職大学の特徴を踏まえた教育課程であるか不明確>

専門職大学を設置する必要性に関して、既設の専門学校で行ってきた教育課程と専門職大学の教育課程の比較を明示しながら、専門職大学となってどのような教育を実施し、どのような人材が育成されるのか、設置の趣旨を踏まえながら明確にすること。

(対応) 専門学校と専門職大学の人材像とカリキュラムの違いを示し特徴を明確にする

今般、本学が専門職大学を設置する必要性は、現在の国内外のファッション産業における課題発見とその解決のために必要な人材の養成が、既設の専門学校で行ってきた教育課程では十分に対応することができないと判断したためである。現在、日本のファッション産業界で必要とされている人材は、総合的にプロデュースやディレクションを行える人材である。そして、ファッション業界の国際化、情報化に対応できる人材である。

ここで、既設の専門学校で行ってきた教育課程（「設置の趣旨等を記載した書類」添付資料（以下、資料）資料13-表1、表2）と、新設の専門職大学で行う教育課程（資料13-表3、表4）を明示的に比較するために、わかりやすく対応する2学科ずつを抽出して示し、専門職大学における人材の育成の違いと特徴について以下の通り説明する。

(1) 専門学校：技術職・販売職人材の輩出と、技術力を身につける科目に特徴がある

(1-1) 専門学校モード学園 ファッションクリエイション関係の例

- ・養成している人材：
日本国内のファッション産業の製造におけるデザイナー、パタンナー（技術職）
日本国内のファッション産業の小売における店舗販売員（販売職）
- ・教育課程の特徴：
服のデザインと生産方法に関する実践的知識や技術を養成する科目が大半を越す
- ・表1：ファッションデザイン学科4年制（例）

既設専門学校モード学園には、服作りに関する1年制コース、2年制コース、3年制コース、4年制コースがあり、それぞれに当分野の全学生の約10%、約数%、約数%、約90%が入学し卒業する。1年制コースは、大学という初年次教育に当たる内容を中心に、高等学校から専門学校への円滑な移行を図り、専門学校での学びおよび社会でのキャリアを十全に支えるべく、人間関係の確立と維持、ファッション産業の基礎能力習得、ファッション産業におけるキャリアと人生設計を考え始める基礎学習、社会人として必要な基礎学習を行う。2年制と3年制コースは、既にこうした基礎的な能力とファッションの知識をつけた学生が編入学する場合として位置づき、2年制もしくは3年制コースから入学して卒業する学生は、現在のところ希である。多くの学生は、4年制コースを履修し卒業する。4年制コースは、入学時より4年間一貫して学ぶコースと、先述のように1年制の初年次コースを履修した後

さらに3年制コースの履修を希望する1年プラス3年で合計4年間の教育を受けるコースからなる。2017年度に卒業した4年制コースの学生のうち、一貫性コースの割合は約40%、1年プラス3年制コースの割合が約60%となっている。なかでも4年一貫性コースの教育課程は、高度専門士を養成するコースとして、既設専門学校で教育するうち服作りの最上の教育課程と位置付けている。

・養成している人材の特徴

1年制コース、4年制コースを履修した多くの学生は、専門学校の教育課程を経て、日本国内のファッション産業界の製造・卸分野におけるデザイナー、パタンナーといった技術職に就く。又は、国内のファッション産業界の特に小売分野の店舗における販売員や営業職に就くことが多い（海外のファッション産業界の日本支社の小売分野の販売職、技術職などは含む）。特徴は、いずれも国内のファッション産業界の川下における中小企業が中心で、川上の繊維分野の大手企業などへの就職経路はほぼ見当たらないことである。加えてファッション産業界に隣接する他業種を含めても、中小、大手に関わらず、総合職、管理職へむけた人材輩出はほぼなされていない点である。

4年制コースを履修した学生の一部や、傑出した能力を持つ一部の卒業生は、海外のファッション業界の中心地であるパリやロンドンやニューヨーク等で広く認知されたブランドにおいて、デザイナーやパタンナーの職に就く、もしくは独立したブランドを構築する場合がある。ただし、多くが手の技術を買われての就業であり、付加価値が大きいクリエイション上のコンセプトメイキングの仕事を担当するような職、すなわちプロデュースやダイレクトを任される企画、戦略の職種、総合職や管理職には就業していない。

このように、専門学校で養成している人材は、多くが国内のファッション業界の製造・卸分野における技術職や小売分野の販売職であり、総合職、管理職への輩出は極めて希である。その多くが中小企業に属する。加えて、海外のファッション業界における技術職への人材輩出も極めて少なく、総合職への人材輩出はほぼ見当たらない。かかる人材を次の教育課程で養成する。

・教育課程の特徴

表1は、既設の専門学校モード学園で行う教育課程のうち、ファッションクリエイションの分野における4年制の教育課程（高度専門士コース）を、便宜的に専門職大学の教育課程のフォーマットに置き換えたものである。表1によると、全55科目中、専門職大学の教育課程に読み替えた基礎科目にあたるものが8科目、職業専門科目にあたるものが43科目、展開科目にあたるものは無く、総合科目にあたるものが4科目であった。以上の科目は、講義系科目と、実習・演習系科目からなる。

基礎科目は、「PC演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「自己開発Ⅰ、Ⅱ」「創造性開発Ⅰ、Ⅱ」「ビジネストレーニングⅠ」の約4種類の内容で、8科目からなる。グラフィック編集ソフトウェアを使用するための技術的教育と、キャリアプランニングのための精神的な訓育がなされている。

職業専門科目は、「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「クリエイション」「創作デザインⅡ、Ⅲ、Ⅳ」「デザイン画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「パターンメイキングⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「テクニカルデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「制作技法Ⅰ、Ⅱ」「カラーリング」「マテリアルⅠ、Ⅱ」「MEW (Mode Event Week) Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「フレックススタディⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「学外実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「インターンシップ」「ファッショントレンド分析Ⅰ、Ⅱ」「ファッションクリエイター論」「ファッションスキルアップ」「アパレルマーチャンダイジング」「アパレル生産技術Ⅰ」「ブランドプランニングⅠ、Ⅱ」の約20種類の内容で、43科目からなる。

講義科目の「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」などで、実務的な見解や知見に基づいた基礎的な産業の概略、服装の変遷などの内容を理解させる教育がみられる。なかでも特徴的な点は、実習・演習系科目を通じて服飾制作の上で必要となる専門的技術を、課題を課して繰り返し習熟させる教育である。デザインの技法、パターンの技法、色彩の技法、マテリアルの技法、トレンド分析の技法など多く課題を課し、それを消化していくなかで実践的な技術を身につけさせる。これらの科目が教育課程の大半を担う。

また、服作りの技術を身につける学科であるが、「アパレル生産技術Ⅰ」などの講義科目でアパレルの製造・卸における販売やビジネスの技術職につながるノウハウも教育する。

加えて、学外実習教育として、各種展示会へ出席しレポート作成を課す教育や、1 か月間服飾関連企業でインターンシップをさせる教育、実際に衣服を制作して発表を行い外部の評価を得る機会をもつ教育を行っている。

総合科目は、「ケーススタディⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「卒業制作」の約2種類の内容で4科目からなる。ファッション業界から依頼を受けて企画を提出する機会を設ける教育、及び卒業制作において一人一体の服飾作品を制作する実践的な教育を行っている。

このように、専門学校における服作りの教育課程は、1年次から社会人として必要とされる基本的な生活態度や考え方を教え、学生のケアをしながら服作りの技術的な基礎を教育し、服作りに関する仕事の中でも、より具体的に各学生が興味を持つ分野に特化して、2年、3年次にかけて実践的に技術力を高める課程となっている。

一般の大学のように、受講する講義を学生自ら選ぶというカリキュラムではないが、必修科目として全て履修していくうちに、4年次に至るまでに、高度な応用技術を含めた服作りの各分野の技法・技術を身につけることができるような科目配置となっている。4年次には、技術力を示す集大成として卒業制作を課し、ファッションショーで発表させる。ファッションの商品開発・ブランド開発におけるコンセプトメイキングや国際化、情報化に対応する能力を育成する科目は少ないが、服作りに関して、日本国内企業で技術職、販売職として必要とされる力を十分に身にさせている。

(1-2) 専門学校モード学園 ファッションビジネス関係

- ・養成している人材：
 - 日本国内のファッション産業の製造・卸分野におけるマーチャンダイザー、コーディネーター（技術職）
 - 日本国内のファッション産業の小売分野における店舗のプランナー、販売員（販売職）
- ・教育課程の特徴：
 - 服の生産管理と販売に関する実践的知識や技術を養成する科目が約8割を超す
- ・表2：ファッションビジネス学科3年制（例）

続いて、服の生産管理や販売等のファッションビジネス分野に関する人材育成と教育課程である。既設専門学校モード学園には、1年制コース、2年制コース、3年制コースがあり、それぞれに学生が当分野全体の約数%、約数%、約90%入学し、卒業する。1年制コースは先述のように初年次教育にあたり、このコースのみで卒業する学生は少ない。また、2年制コースは、ファッションビジネスの基礎知識等をもつ編入学者に向けて開かれており学生数は限られている。多くの学生は、3年制コースを履修し卒業する。3年制の教育課程は、服に関するビジネスの基本であり最上の教育課程と位置付けられる。

・養成している人材の特徴

3年制コースを履修した多くの学生は、日本国内のファッション産業界の製造・卸分野におけるマーチャンダイザーやコーディネーターという技術職に就く。又は、国内のファッション産業界の小売分野の販売職に就くことが多い（海外のファッション産業界の日本支社の小売分野の店舗のプランナー、販売員や営業職、技術職なども含む）。

特徴は、(1-1) 専門学校のファッションクリエイション関係で述べた内容と類似しており、就職先の企業の所在と規模、職種にある。すなわち、日本国内のファッション産業界の企業で、多くが中小の川下分野に位置し、販売職・技術職に限られる点である。

ファッションビジネスの分野は、ファッションクリエイションの分野と比べて、さらに海外進出が厳しい。数字や言葉を使用して仕事を行うビジネスの分野では、マーチャンダイザー、コーディネーターといった技術職であっても、論理的に物事を分析して把握し解決策を提案する能力、及び語学力が就業の必須の要件として求められるためである。

さらに、日本国内の企業でも、付加価値が大きい販売戦略などのビジネス上のコンセプトメイキングを担う職、すなわちプロデュースなどを任される総合職への進出はほぼみられない。この分野は、一般の大学卒業者と競合しやすく、主に人文科学系で一般的に培われる基本的な社会、経済、文化、歴史などの人文科学系の基本的な知識や、情報処理やデザインに関する自然科学系の基礎知識をもって、論理的に物事を分析して把握し、解決策を提案する能力が必要とされる。数字や言葉を使用して仕事を行うファッションビジネス分野で、総合職や管理職として進出する既設専門学校の人材は少ない。

このように、専門学校で養成している人材は、多くが国内のファッション業界の小売分野に向けた販売職、製造・卸分野の技術職であり、総合職や管理職への輩出は極めて希である。その多くが中小企業に属する。加えて、海外のファッション業界における販売職、技術職への人材輩出も極めて少なく総合職への人材輩出はほぼ見当たらない。かかる人材を次の教育課程で養成する。

・教育課程の特徴

表 2 は、既設専門学校モード学園で行ってきた教育課程のうち、ファッションビジネスの分野における 3 年制の教育課程を、便宜的に専門職大学の教育課程のフォーマットに置き換えたものである。表 2 によると、全 50 科目中、基礎科目にあたるものが 7 科目、職業専門科目にあたるものが 40 科目、展開科目にあたるものは無く、総合科目にあたるものが 3 科目であった。以上の科目は、講義系科目と、実習・演習系科目からなる。

基礎科目は、「ビジネスコンピュータⅠ、Ⅱ」「自己開発Ⅰ、Ⅱ」「創造性開発Ⅰ、Ⅱ」「ビジネストレーニングⅠ」の約 4 種類の内容で 7 科目からなる。主に売上納品管理をメールやパソコンを使って円滑に行う方法を教える教育と、キャリアプランニングのための精神的な訓育がなされている。

職業専門科目は、「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ」「リテールテクニクⅠ、Ⅱ」「接客販売技法Ⅰ、Ⅱ」「クリエイション」「ファッションスタイル論」「ストアマーチャンダイジング」「ビジュアルマーチャンダイジング」「ショップ経営プランニング」「FB 知識」「デザイン画Ⅰ」「ビジュアル制作技法」「マーケット情報分析」「パターンメイキングⅠ」「ファッションイラストⅠ、Ⅱ」「プロモーションⅠ、Ⅱ」「ディスプレイ技法Ⅰ」「パース技法」「制作技法Ⅰ」「カラーリングⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「マテリアルⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「MEW (mode event week) Ⅰ、Ⅱ」「コンセプトメイキング」「フレックススタディⅠ、Ⅱ」「学外実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「インターンシップ」「ファッショントレンド分析Ⅰ、Ⅱ」の、約 27 種類の内容で 40 科目からなる。

講義科目の「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ」などでは、服作りに関する学科と同じく実務的な見解や知見に基づいた基礎的な産業の概略、服装の変遷などの内容を理解させる。また、服のビジネスに関する技術を身につける学科であるが、「パターンメイキングⅠ」「クリエイション」「パース技法」「制作技法Ⅰ」「カラーリングⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「マテリアルⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「デザイン画Ⅰ」などの講義や演習科目でアパレルの製造・卸における服作りの技術やノウハウも教育する。

当教育課程で特徴的な科目は、「リテールテクニクⅠ、Ⅱ」「接客販売技法Ⅰ、Ⅱ」「ストアマーチャンダイジング」「ビジュアルマーチャンダイジング」「ショップ経営プランニング」「FB 知識」「ビジュアル制作技法」「マーケット情報分析」などの、店舗販売に関係する専門的な技法、ブランドや生産現場におけるマーチャンダイジングに関係する専門的な技法、プロモーションの技法の教育を 1 年目より行っている。多くの課題を課し、それを消化していくなかで実践的な技術を身につけさせる。これらの科目が教育課程の約 8 割を担う。

加えて、学外実習教育として、各種展示会へ出席しレポート作成を課す教育や、1 か月間服飾関連企業でインターンシップをさせる教育、実際に衣服を制作して発表を行い外部の評

価を得る機会をもつ教育を行っている。

総合科目では、「ケーススタディⅠ、Ⅱ」「卒業制作」の約2種類の内容で4科目からなる。業界から依頼を受けて企画を提出する機会を設ける教育、及び卒業制作として一人一体のディスプレイ作品を制作する、もしくはイベントのためのノベルティ制作を行う実践的な教育を行っている。

このように、専門学校における服の生産管理や販売に関する教育課程は、1年次から社会人として必要とされる基本的な生活態度や考え方を教え、学生のケアをしながら服の生産管理と販売に関する技術的な基礎を教育し、こうしたビジネス分野の仕事の中でも、より具体的に各学生が興味を持つ分野に特化して、2年、3年次にかけて実践的に技術力を高める課程となっている。

一般の大学のように、受講する講義を学生自ら選ぶというカリキュラムではないが、必修科目として全て履修していくうちに、3年次に至るまでに、必要な管理に関する技術や販売のノウハウを含めたテクニックを身につけることができる科目配置となっている。3年次には、その技術力やノウハウを示す集大成として卒業制作を課し、ディスプレイ作品の制作発表やイベントのためのノベルティ制作発表をさせる。ファッションの販売戦略やブランド戦略におけるコンセプトメイキングや国際化、情報化に対応する能力育成の科目は少ないが、服の生産管理や販売に関して、日本国内企業で技術職、営業職として必要とされる力を十分に身にさせている。

以上、(1) 専門学校の人材養成と教育課程の特徴をまとめる。

既設専門学校で養成しているのは、日本国内のファッション産業における製造・卸分野のクリエイションとビジネスに関する中核的な技術職である。もしくは、小売分野の販売職、営業職である。多くが中小企業に属する。具体的な職名としては、デザイナー、パタンナー、マーチャンダイザー、店舗アドバイザー、プランナーである。教育課程は、技術的な中核人材を輩出するために、技術力を育成するための科目を中心とする。

(2) 専門職大学：総合職人材の輩出と、構想力、問題発見力、展開力を身につける科目に特徴がある

(2-1) 国際ファッション専門職大学 ファッションクリエイション関係
<ul style="list-style-type: none">・養成する人材： 国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職） 国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職） 他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）・教育課程の特徴： ファッション産業における商品企画、ブランドコンセプトなどの構想力を養成する科目 当該及び他業種における臨地実習・海外実習で実践力と問題発見力を養成する科目 生産の国際化、情報化に対応する知識や展開力を養成する科目・表3：ファッションクリエイション学科（例）

・養成する人材の特徴

本法人が、今回専門職大学となって新たに実施する教育では、日本のファッション産業におけるクリエイションとビジネスの分野の総合職人材を養成する。主に、ファッションクリエイション学科では、商品の企画、コンセプトの開発などの仕事を担うことを目指す。具体的な人材像（職種名）は、プロデューサーやディレクター、クリエイターと称される職種である。この職種に必要とされる知識や能力は、汎用的なコミュニケーションと管理の能力、

ファッション産業の基本的な知識と技術への理解、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力である。

かかる人材は、現在、ファッションの生産や流通に関わる実務経験者が担うことが多い。技術職由来の人材で、独立コンサルタント業として現場の知見をもとに企画構想を行うか、もしくは大卒で国内のファッション製造・卸分野もしくは小売企業に就業した総合職人材が管理職として担う場合が多い。いずれも長年にわたる実務経験や感覚をもとに担われており、新卒の人材が担うことはほとんど見られない。本学が養成しようとする人材が、こうした役割をいち早く担当するには、現在のところ国内外のファッション産業の製造・卸及び小売分野の企業においてまず総合職として就業することが必要不可欠といえよう。

そのうえで、本学が養成する総合職人材は、これまでの業界で養成されてきた人材とは異なり、新卒ながらファッション産業という専門分野で総合的な視野を持ち、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性を専門的に身につけている。そして、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力をもつ。これは、学術的な素養をもとに問題発見と解決の視角を鍛え、ファッションと現代の世界について深い興味と関心をもって、その根源から現代的事象まで、ファッションの世界に関係する多様な学術的知見及び実務的知見を基に現状分析を行うような本学ならではの教育課程で鍛えられうるものである。そして、服飾にとどまらない生活空間全般へ視点を拡大したファッション産業、他業種と連携したクリエイションの創出や、ファッションの生産における国際化や情報化に対応して能動的な活動を行うことができる、新たな形の総合職人材である。

・教育課程の特徴

表 3 は、新設の専門職大学で行う教育課程のうち、ファッションクリエイション学科における教育課程（補正申請で是正した版）を示したものである。表 3 のように、全 67 科目のうち基礎科目として 17 科目、職業専門科目として 34 科目、展開科目として 13 科目、総合科目として 3 科目で構成している。

基礎科目は、「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」「文化論基礎ゼミ」「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」「フィールドワーク入門」「社会科学基礎ゼミ」「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「英語Ⅰ、Ⅱ」「日本語文章表現」「キャリアデザイン論」の約 16 種類、17 科目から成る。以上の科目のうち、「情報リテラシー」と「キャリアデザイン論」については、既設専門学校と重なる部分がある。高等学校から大学への接続を円滑に行い、初年次教育にただし、他の 16 科目については、設置の趣意で掲げた必要性に込め得る、知識の基盤となるものであり、課題発見と解決の枠組みの視角を育成するための教育の基盤となる。

職業専門科目は、「身体とパフォーマンス」「造形論入門」「自然資源と服装文化」「職人の世界」「装いと社会性・ジェンダー」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッション」「色彩論入門」「サブカルチャー・スタイル」「ファッション論基礎ゼミ」「日本の衣生活・服装史入門」「生活科学入門」「ファッションデザイン論」「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」「パターンメイキング」「テキスタイル基礎」「バッグデザイン」「シューズデザイン」「デザイン感性工学」「ファッションビジネス概論」「マーケティング論」「消費者行動論」「知財論」「写真概論」「映像概論」「写真实習」「映像実習」「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ（企業）」「臨地実習Ⅱ（産地）」の約 32 種類、34 科目からなる。以上の科目のうち、ファッション産業の概論、服装史などの講義、ファッションデザインの基本的な知識と技能を鍛える科目、テキスタイルの基礎知識を教育する約 5 種類の科目については、一部専門学校の教育課程と重なる部分がある。

臨地実習については、専門学校と名称上重なるが、専門職大学の教育課程では、日本の知財や技術の再発見をめざし、産地及び企業で数か月の実習を課す。かかる目的を持った臨地実習を通じて、日本の産地及び企業におけるより具体的な課題発見と解決に至る実践的な教育機会を設けている。

他の約 27 種類の科目には、専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目が多く含まれている。それは、服の作り方及び衣服ビジネスの生産管理技術を学ぶ前に、ファッションとは何か、なぜひとは服を着るのか、というファッションを考えるうえで、根源的なコンセプトを創り出す教育を正面から取り上げたものである。文化人類学、社会学、ジェンダー論、美学、美術史、などの学問的分野で広く検討されてきた身体論及び多様な文化社会芸術環境論からファッションを捉え直し検討するための知識と分析視角を養う。また国際的な発信力の基礎となるメディアに関する使用技術を教えると同時に、成立から変遷までの知識を教える。講義や実習の前後には、科目に関連したゼミ科目を多数配置し、様々な経済文化社会的な事項において課題発見と解決の枠組みを思考する視角を学修する科目を設けている。

そして、展開科目は、「環境とビジネス」「地域産業論」「ファッション産業とメディアデザイン」「デジタルアーカイブ論」「国際展示会演習」「国際ファッション市場論」「国際知財論」「国際ファッション業界英語」「フランス語」「中国語」「国際連携ゼミ」「海外実習Ⅰ、Ⅱ」の約 12 種類、13 科目からなる。かかる科目は概ね専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目である。先の職業専門科目において身体論からファッション産業を捉えなおす視角と知識を身につけ、新たなコンセプト作りをするための基本を教えたのちに、国際化と情報化の潜在的課題を把握しそれに応えるための教育を行う科目となっている。具体的には、コンセプトを新旧様々なメディアに乗せて発信する能力を鍛える科目、ファッション産業に関する知識や技術を地域の文脈に位置付けて考察する科目、海外実習、その前後に開催されるゼミ、語学科目である。

最後に、総合科目は、「統合指導ゼミⅠ、Ⅱ」「卒業制作・計画」の約 2 種類、3 科目からなる。卒業制作・計画は、既設専門学校の教育課程で行われている卒業制作と科目名の似たものであるが、その卒業制作をより広く捉えている。衣服及びノベルティなどの制作だけに限らず、ファッション産業を構成する広く新たな商品開発につながるコンセプトと、ブランドコンセプトなどのビジネスのモデル計画までを含めた総合的な制作を課す。そのため並行してゼミ教育を課す。様々な分野の教員で構成するゼミでは、学生個々に、主に、産地・企業・海外での実習、これまでの教育課程で学修した知識や技能などを総合的に検討し、自らの課題を設定させる。そして、その解決策の提示に向けたコンセプトの発表を課す。学生及び教員は互いに応答を繰り返し、学生が主体的に問題発見と解決を目指す新しい職業を創出するための方法論を身につけさせる。

このように、専門職大学となって実施する教育課程では、ファッション産業における総合的な視角をもって、ファッションクリエイションの分野で国際化と情報化に対応し、課題発見と解決に至る仕事を担える新たな人材を育成する。

(2-2) 国際ファッション専門職大学 ファッションビジネス関係

- ・養成する人材：
 - 国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野における、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）
 - 国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）
 - 他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）
- ・教育課程の特徴：
 - ファッション産業の流通、販売に関する企画、コンセプトの構想力を養成する科目
 - ファッション産業の流通、製造に関する国際化、情報化に対応する知識を養成する科目
- ・表 4：ファッションビジネス学科（例）

・養成する人材の特徴

本法人が、今回専門職大学となって新たに実施する教育では、日本のファッション産業におけるクリエイションとビジネスの分野の総合職人材を養成する。主に、ファッションビジ

ネス学科では、販売企画や戦略、ブランドコンセプトの開発や広告などの仕事を担うことを目指す。具体的な人材像（職種名）は、プロデューサーやディレクター、クリエイター、もしくは分析の仕事と称される職種である。この職種に必要とされる知識や能力は、汎用的なコミュニケーションと管理の能力、ファッション産業の基本的な知識とファッション産業の大きな構造（生産、流通、消費など）を把握し戦略を考えうる知識、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力である。

かかる人材は、現在、ファッションの生産や流通に関わる実務経験者が担うことが多い。技術職由来の人材で、独立コンサルタント業として現場の知見をもとに企画構想を行うか、もしくは大卒で国内のファッション製造・卸分野もしくは小売企業に就業した総合職人材が管理職として担う場合が多い。いずれも長年にわたる実務経験や感覚をもとに担われており、新卒の人材が担うことはほとんど見られない。本学が養成しようとする人材が、こうした役割をいち早く担当するには、現在のところ国内外のファッション産業の製造・卸及び小売分野の企業においてまず総合職として就業することが必要不可欠といえよう。

そのうえで、本学が養成する総合職人材は、これまでの業界で養成されてきた人材とは異なり、新卒ながらファッション産業という専門分野で総合的な視野を持ち、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性を専門的に身につけている。そして、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力をもつ。これは、学術的な素養をもとに問題発見と解決の視角を鍛え、ファッションと現代の世界について深い興味と関心をもって、その根源から現代的事象まで、ファッションの世界に関係する多様な学術的知見及び実務的知見を基に現状分析を行うような本学ならではの教育課程で鍛えられうるものである。そして、服飾にとどまらない生活空間全般へ視点を拡大したファッション産業、他業種と連携したクリエイションの創出や、ファッションの生産における国際化や情報化に対応して能動的な活動を行うことができる、新たな形の総合職人材である。

・教育課程の特徴

表4は、新設の専門職大学で行う教育課程のうち、ファッションビジネス学科における教育課程（補正申請で是正した版）を示したものである。表4のように、全67科目のうち基礎科目として17科目、職業専門科目として34科目、展開科目として14科目、総合科目として3科目で構成している。

基礎科目は、「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」「文化論基礎ゼミ」「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」「フィールドワーク入門」「社会科学基礎ゼミ」「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「英語Ⅰ、Ⅱ」「日本語文章表現」「キャリアデザイン論」の約16種類、17科目から成る。以上の科目のうち、「情報リテラシー」と「キャリアデザイン論」については、既設専門学校と重なる部分がある。高等学校から大学への接続を円滑に行い、初年次教育にただし、他の16科目については、設置の趣意で掲げた必要性に込め得る、知識の基盤となるものであり、課題発見と解決の枠組みの視角を育成するための教育の基盤となる。

職業専門科目は、「身体とパフォーマンス」「造形論入門」「自然資源と服装文化」「職人の世界」「装いと社会性・ジェンダー」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッション」「色彩論入門」「サブカルチャー・スタイル」「ファッション論基礎ゼミ」「日本の衣生活・服装史入門」「生活科学入門」「ファッションデザイン論」「デザイン概論」「パターンメイキング」「テキスタイル基礎」「デザイン感性工学」「ファッションビジネス概論」「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」「創造産業論」「マーケティング論」「消費者行動論」「広告・PR論」「知財論」「写真概論」「映像概論」「写真実習」「映像実習」「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ（企業）」「臨地実習Ⅱ（産地）」の約32種類、34科目からなる。

以上の科目のうち、ファッション産業の概論、服装史などの講義、ファッションデザインの基本的な知識と技能を鍛える科目、テキスタイルの基礎知識を教育する約5種類の科目については、一部専門学校の教育課程と重なる部分がある。また、臨地実習については、専門

学校と名称上重なるが、専門職大学の教育課程では、日本の知財や技術の再発見をめざし、産地及び企業で数か月の実習を課す。かかる目的を持った臨地実習を通じて、日本の産地及び企業におけるより具体的な課題発見と解決に至る実践的な教育機会を設けている。

職業専門科目の大半を占める約 27 種類の科目には、専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目が多く含まれている。それは、服の作り方及び衣服ビジネスの生産管理技術を学ぶ前に、ファッションとは何か、なぜひとは服を着るのか、というファッションを考えるうえで、根源的なコンセプトを創り出す教育を正面から取り上げたものである。文化人類学、社会学、ジェンダー論、美学、美術史、などの学問的分野で広く検討されてきた身体論及び多様な文化社会芸術環境論からファッションを捉え直し検討するための知識と分析視角を養う。また国際的な発信力の基礎となるメディアに関する使用技術を教えると同時に、成立から変遷までの知識を教える。講義や実習の前後には、科目に関連したゼミ科目を多数配置し、様々な経済文化社会的な事項において課題発見と解決の枠組みを思考する視角を学修する科目を設けている。

そして、展開科目は、「環境とビジネス」「地域産業論」「ファッション産業とメディアデザイン」「デジタルアーカイブ論」「国際ファッション市場論」「国際知財論」「国際ファッション業界英語」「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」「フランス語」「中国語」「国際連携ゼミ」「海外実習Ⅰ、Ⅱ」の約 13 種類、14 科目からなる。かかる科目は概ね専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目である。

先の職業専門科目において身体論からファッション産業を捉えなおす視角と知識を身につけ、新たなコンセプト作りをするための基本を教えたのちに、国際化と情報化に代表される現在の変化と潜在的課題を把握しそれに応えるための教育を行う科目を設定する。具体的には、コンセプトを新旧様々なメディアに乗せて発信する能力を鍛える科目、ファッション産業に関する知識や技術を地域の文脈に位置付けて考察する科目、海外実習、その前後に開催されるゼミ、語学科目である。

最後に、総合科目は、「統合指導ゼミⅠ、Ⅱ」「卒業制作・計画」の約 2 種類、3 科目からなる。卒業制作・計画は、既設専門学校の教育課程で行われている卒業制作と科目名の似たものであるが、その卒業制作をより広く捉えている。衣服及びノベルティなどの制作だけに限らず、ファッション産業を構成する広く新たな販売戦略や企画につながるブランドコンセプトなどのビジネスのモデル計画までを含めた総合的な制作を課す。そのため並行してゼミ教育を課す。様々な分野の教員で構成するゼミでは、学生個々に、主に、産地・企業・海外での実習、これまでの教育課程で学修した知識や技能などを総合的に検討し、自らの課題を設定させる。そして、その解決策の提示に向けたコンセプトの発表を課す。学生及び教員は互いに応答を繰り返し、学生が主体的に問題発見と解決を目指す新しい職業を創出するための方法論を身につけさせる。

このように、専門職大学となって実施する教育課程では、ファッション産業における総合的な視角をもって、ファッションビジネスの分野で国際化と情報化に対応し、課題発見と解決に至る仕事を担える新たな人材を育成する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (8 ページ)

新	旧
<p>1.4 既設の専門学校との違いと位置づけ <u>学校法人日本教育財団は、これまで既設専門学校モード学園において、日本国内のアパレル産業に関して即戦力となる技術的な中核人材の育成に重点をおき教育指導を行ってきた。その教育課程では、入学後すぐに被服の技術的基本を教育する。絵をかき、形を作り、布を裁ち、縫製するという基本動作を習熟するには繰り返しの鍛練が必要である。専門学校では、教育課程の大半を、実習を伴う</u></p>	<p>1.4 既設の専門学校との違いと位置づけ 学校法人日本教育財団は、これまで既設専門学校において、日本国内のアパレル産業に関して即戦力となる技術的な中核人材の育成に重点をおき教育指導を行ってきた。 <u>(追加)</u> 本法人は、技術知に基づく実践知を重視した教育に長らく取り組んできたが、内外のファッション業界を取り巻く産業上の課題や状</p>

実践的な技術知の修得のための教育に特化し、引き続き、被服の専門家を育成する。ただしそこでは、被服作業に入る前に、なぜ人は服を着るのか、ファッションとは何か、被服とファッションの違いや現代の変容を、深く考察する機会を設けていない。また、現代のファッション産業が、産業を取り巻くグローバルな状況変化と地域のローカルな状況変化の相互作用と関連して変化していることを認識し、経済社会文化歴史的な視野を持って産業上の課題を解決し、新たな職種の開発と戦略を目指す取組にはなっていない（資料 13・表 1、表 2）。さらに、既設専門学校モード学園では、国際化に対応した教育課程にはなっていない。また本法人は、技術知に基づく実践知を重視した教育に長らく取り組んできたが、内外のファッション業界を取り巻く産業上の課題や状況を鑑みるに、これまでの教育のみからでは、こうした課題を打破できる国際的に活躍できる人材の育成には十分ではないという認識に至った。既設の専門学校の強みを引き続き活かしながら、これまで不足していた学問知を中心に技術知を総合的かつ体系的に学び、臨地での実習制度を積極的に取り入れることで新たな実践知を備えた人材を創出する。これが既設の専門学校とは異なる本学の位置付けである。

ここで、専門学校と専門職大学の人材像とカリキュラムの違いを示し、特徴をより明確にする。

今般、本学が専門職大学を設置する必要性は、現在の国内外のファッション産業における課題発見とその解決のために必要な人材の養成が、既設の専門学校で行ってきた教育課程では十分に対応することができないと判断したためである。現在、日本のファッション産業界で必要とされている人材は、総合的にプロデュースやディレクションを行える人材である。そして、ファッション業界の国際化、情報化に対応できる人材である。

ここで、既設の専門学校で行ってきた教育課程（資料 13・表 1、表 2）と、新設の専門職大学で行う教育課程（資料 13・表 3、表 4）を明示的に比較するために、わかりやすく対応する 2 学科を抽出して示しながら、専門職大学における人材の育成の違いと特徴について説明する。

(1) 専門学校：技術職・販売職人材の輩出と、技術力を身につける科目に特徴がある

況を鑑みるに、これまでの教育のみからでは、こうした課題を打破できる国際的に活躍できる人材の育成には十分ではないという認識に至った。既設の専門学校の強みを引き続き活かしながら、これまで不足していた学問知を中心に技術知を総合的かつ体系的に学び、臨地での実習制度を積極的に取り入れることで新たな実践知を備えた人材を創出する。これが既設の専門学校とは異なる本学の位置付けである。

(追加)

(1-1) 専門学校モード学園 ファッションクリエイション関係の例

・養成している人材：

日本国内のファッション産業の製造におけるデザイナー、パタンナー（技術職）

日本国内のファッション産業の小売における店舗販売員（販売職）

・教育課程の特徴：

服のデザインと生産方法に関する実践的知識や技術を養成する科目が大半を占める

・表1：ファッションクリエイションコース4年制（例）

既設専門学校モード学園には、服作りに関する1年制コース、2年制コース、3年制コース、4年制コースがあり、それぞれに当分野の全学生の約10%、約30%、約50%、約90%が入学し卒業する。1年制コースは、大学という初年次教育に当たる内容を中心に、高等学校から専門学校への円滑な移行を図り、専門学校での学びおよび社会でのキャリアを十全に支えるべく、人間関係の確立と維持、ファッション産業の基礎能力習得、ファッション産業におけるキャリアと人生設計を考え始める基礎学習、社会人として必要な基礎学習を行う。2年制と3年制コースは、既にこうした基礎的な能力とファッションの知識をつけた学生が編入学する場合として位置づけ、2年制もしくは3年制コースから入学して卒業する学生は、現在のところ希である。多くの学生は、4年制コースを履修し卒業する。4年制コースは、入学時より4年間一貫して学ぶコースと、先述のように1年制の初年次コースを履修した後さらに3年制コースの履修を希望する1年プラス3年で合計4年間の教育を受けるコースからなる。2017年度に卒業した4年制コースの学生のうち、一貫性コースの割合は約40%、1年プラス3年制コースの割合が約60%となっている。なかでも4年一貫性コースの教育課程は、高度専門士を養成するコースとして、既設専門学校で教育するうち服作りの最上の教育課程と位置付けている。

・養成している人材の特徴

1年制コース、4年制コースを履修した多くの学生は、専門学校の教育課程を経て、日本国内のファッション産業界の製造・卸分野におけるデザイナー、パタンナーといった技術職

に就く。又は、国内のファッション産業界の特に小売分野の店舗における販売員や営業職に就くことが多い（海外のファッション産業界の日本支社の小売分野の販売職、技術職などは含む）。特徴は、いずれも国内のファッション産業界の川下における中小企業が中心で、川上の繊維分野の大手企業などへの就職経路はほぼ見当たらないことである。加えてファッション産業界に隣接する他業種を含めても、中小、大手に関わらず、総合職、管理職へむけた人材輩出はほぼなされていない点である。

4年制コースを履修した学生の一部や、傑出した能力を持つ一部の卒業生は、海外のファッション業界の中心地であるパリやロンドンやニューヨーク等で広く認知されたブランドにおいて、デザイナーやパタンナーの職に就く、もしくは独立したブランドを構築する場合がある。ただし、多くが手の技術を買われての就業であり、付加価値が大きいクリエイション上のコンセプトメイキングの仕事を担当するような職、すなわちプロデューサーやダイレクターを任される企画、戦略の職種、総合職や管理職には就業していない。

このように、専門学校で養成している人材は、多くが国内のファッション業界の製造・卸分野における技術職や小売分野の販売職であり、総合職、管理職への輩出は極めて希である。その多くが中小企業に属する。加えて、海外のファッション業界における技術職への人材輩出も極めて少なく、総合職への人材輩出はほぼ見当たらない。かかる人材を次の教育課程で養成する。

・教育課程の特徴

表1は、既設の専門学校モード学園で行う教育課程のうち、ファッションクリエイションの分野における4年制の教育課程（高度専門士コース）を、便宜的に専門職大学の教育課程のフォーマットに置き換えたものである。表1によると、全55科目中、専門職大学の教育課程に読み替えた基礎科目にあたるものが8科目、職業専門科目にあたるものが43科目、展開科目にあたるものは無く、総合科目にあたるものが4科目であった。以上の科目は、講義系科目と、実習・演習系科目からなる。

基礎科目は、「PC演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「自己開発Ⅰ、Ⅱ」「創造性開発Ⅰ、Ⅱ」「ビジネストレーニングⅠ」の約4種類の内容で、8

科目からなる。グラフィック編集ソフトウェアを使用するための技術的教育と、キャリアプランニングのための精神的な訓育がなされている。

職業専門科目は、「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「クリエイション」「創作デザインⅡ、Ⅲ、Ⅳ」「デザイン画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「パターンメイキングⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「テクニカルデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「制作技法Ⅰ、Ⅱ」「カラーリング」「マテリアルⅠ、Ⅱ」「MEW (Mode Event Week)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「フレックススタディⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「学外実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「インターンシップ」「ファッショントレンド分析Ⅰ、Ⅱ」「ファッションクリエイター論」「ファッションスキルアップ」「アパレルマーチャンダイジング」「アパレル生産技術Ⅰ」「ブランドプランニングⅠ、Ⅱ」の約 20 種類の内容で、43 科目からなる。

講義科目の「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」などで、実務的な見解や知見に基づいた基礎的な産業の概略、服装の変遷などの内容を理解させる教育がみられる。なかでも特徴的な点は、実習・演習系科目を通じて服飾制作の上で必要となる専門的技術を、課題を課して繰り返し習熟させる教育である。デザインの技法、パターンの技法、色彩の技法、マテリアルの技法、トレンド分析の技法など多く課題を課し、それを消化していくなかで実践的な技術を身につけさせる。これらの科目が教育課程の大半を担う。

また、服作りの技術を身につける学科であるが、「アパレル生産技術Ⅰ」などの講義科目でアパレルの製造・卸における販売やビジネスの技術職につながるノウハウも教育する。

加えて、学外実習教育として、各種展示会へ出席しレポート作成を課す教育や、1 か月間服飾関連企業でインターンシップをさせる教育、実際に衣服を制作して発表を行い外部の評価を得る機会をもつ教育を行っている。

総合科目は、「ケーススタディⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「卒業制作」の約 2 種類の内容で 4 科目からなる。ファッション業界から依頼を受けて企画を提出する機会を設ける教育、及び卒業制作において一人一体の服飾作品を制作する実践的な教育を行っている。

このように、専門学校における服作りの教

育課程は、1年次から社会人として必要とされる基本的な生活態度や考え方を教え、学生のケアをしながら服作りの技術的な基礎を教育し、服作りに関する仕事の中でも、より具体的に各学生が興味を持つ分野に特化して、2年、3年次にかけて実践的に技術力を高める課程となっている。

一般の大学のように、受講する講義を学生自ら選ぶというカリキュラムではないが、必修科目として全て履修していくうちに、4年次に至るまでに、高度な応用技術を含めた服作りの各分野の技法・技術を身につけることができるような科目配置となっている。4年次には、技術力を示す集大成として卒業制作を課し、ファッションショーで発表させる。ファッションの商品開発・ブランド開発におけるコンセプトメイキングや国際化、情報化に対応する能力を育成する科目は少ないが、服作りに関して、日本国内企業で技術職、販売職として必要とされる力を十分に身にさせている。

(1-2) 専門学校モード学園 ファッションビジネス関係

・養成している人材：

日本国内のファッション産業の製造・卸分野におけるマーチャンダイザー、コーディネーター（技術職）

日本国内のファッション産業の小売分野における店舗のプランナー、販売員（販売職）

・教育課程の特徴：

服の生産管理と販売に関する実践的知識や技術を養成する科目が約8割を超す

・表2：ファッションビジネスコース3年制（例）

続いて、服の生産管理や販売等のファッションビジネス分野に関する人材育成と教育課程である。既設専門学校モード学園には、1年制コース、2年制コース、3年制コースがあり、それぞれに学生が当分野全体の約数%、約数%、約90%入学し、卒業する。1年制コースは先述のように初年次教育にあたり、このコースのみで卒業する学生は少ない。また、2年制コースは、ファッションビジネスの基礎知識等をもつ編入学者に向けて開かれており学生数は限られている。多くの学生は、3年制コースを履修し卒業する。3年制の教育課程は、服に関するビジネスの基本であ

り最上の教育課程と位置付けられる。

・養成している人材の特徴

3年制コースを履修した多くの学生は、日本国内のファッション産業界の製造・卸分野におけるマーチャンダイザーやコーディネーターという技術職に就く。又は、国内のファッション産業界の小売分野の販売職に就くことが多い（海外のファッション産業界の日本支社の小売分野の店舗のプランナー、販売員や営業職、技術職なども含む）。

特徴は、(1・1) 専門学校のファッションクリエイション関係で述べた内容と類似しており、就職先の企業の所在と規模、職種にある。すなわち、日本国内のファッション産業界の企業で、多くが中小の川下分野に位置し、販売職・技術職に限られる点である。

ファッションビジネスの分野は、ファッションクリエイションの分野と比べて、さらに海外進出が厳しい。数字や言葉を使用して仕事を行うビジネスの分野では、マーチャンダイザー、コーディネーターといった技術職であっても、論理的に物事を分析して把握し解決策を提案する能力、及び語学力が就業の必須の要件として求められるためである。

さらに、日本国内の企業でも、付加価値が大きい販売戦略などのビジネス上のコンセプトメイキングを担う職、すなわちプロデュースなどを任される総合職への進出はほぼみられない。この分野は、一般の大学卒業者と競合しやすく、主に人文科学系で一般的に培われる基本的な社会、経済、文化、歴史などの人文科学系の基本的な知識や、情報処理やデザインに関する自然科学系の基礎知識をもって、論理的に物事を分析して把握し、解決策を提案する能力が必要とされる。数字や言葉を使用して仕事を行うファッションビジネス分野で、総合職や管理職として進出する既設専門学校の人材は少ない。

このように、専門学校で養成している人材は、多くが国内のファッション業界の小売分野に向けた販売職、製造・卸分野の技術職であり、総合職や管理職への輩出は極めて希である。その多くが中小企業に属する。加えて、海外のファッション業界における販売職、技術職への人材輩出も極めて少なく総合職への人材輩出はほぼ見当たらない。かかる人材を次の教育課程で養成する。

・教育課程の特徴

表 2 は、既設専門学校モード学園で行って

きた教育課程のうち、ファッションビジネスの分野における 3 年制の教育課程を、便宜的に専門職大学の教育課程のフォーマットに置き換えたものである。表 2 によると、全 50 科目中、基礎科目にあたるものが 7 科目、職業専門科目にあたるものが 40 科目、展開科目にあたるものは無く、総合科目にあたるものが 3 科目であった。以上の科目は、講義系科目と、実習・演習系科目からなる。

基礎科目は、「ビジネスコンピュータⅠ、Ⅱ」「自己開発Ⅰ、Ⅱ」「創造性開発Ⅰ、Ⅱ」「ビジネストレーニングⅠ」の約 4 種類の内容で 7 科目からなる。主に売上納品管理をメールやパソコンを使って円滑に行う方法を教える教育と、キャリアプランニングのための精神的な訓育がなされている。

職業専門科目は、「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ」「リテールテクニクⅠ、Ⅱ」「接客販売技法Ⅰ、Ⅱ」「クリエイション」「ファッションスタイル論」「ストアマーチャンドアイジング」「ビジュアルマーチャンドアイジング」「ショップ経営プランニング」「FB 知識」「デザイン画Ⅰ」「ビジュアル制作技法」「マーケット情報分析」「パターンメイキングⅠ」「ファッションイラストⅠ、Ⅱ」「プロモーションⅠ、Ⅱ」「ディスプレイ技法Ⅰ」「パース技法」「制作技法Ⅰ」「カラーリングⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「マテリアルⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「MEW (mode event week)Ⅰ、Ⅱ」「コンセプトメイキング」「フレックススタディⅠ、Ⅱ」「学外実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「インターンシップ」「ファッショントレンド分析Ⅰ、Ⅱ」の、約 27 種類の内容で 40 科目からなる。

講義科目の「ファッション知識」「ファッション史Ⅰ」などでは、服作りに関する学科と同じく実務的な見解や知見に基づいた基礎的な産業の概略、服装の変遷などの内容を理解させる。また、服のビジネスに関する技術を身につける学科であるが、「パターンメイキングⅠ」「クリエイション」「パース技法」「制作技法Ⅰ」「カラーリングⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「マテリアルⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「デザイン画Ⅰ」などの講義や演習科目でアパレルの製造・卸における服作りの技術やノウハウも教育する。

当教育課程で特徴的な科目は、「リテールテクニクⅠ、Ⅱ」「接客販売技法Ⅰ、Ⅱ」「ストアマーチャンドアイジング」「ビジュアルマーチャンドアイジング」「ショップ経営プ

ランニング」「FB 知識」「ビジュアル制作技法」「マーケット情報分析」などの、店舗販売に関する専門的な技法、ブランドや生産現場におけるマーチャンダイジングに関する専門的な技法、プロモーションの技法の教育を1年目より行っている。多くの課題を課し、それを消化していくなかで実践的な技術を身につけさせる。これらの科目が教育課程の約8割を担う。

加えて、学外実習教育として、各種展示会へ出席しレポート作成を課す教育や、1か月間服飾関連企業でインターンシップをさせる教育、実際に衣服を制作して発表を行い外部の評価を得る機会をもつ教育を行っている。

総合科目では、「ケーススタディⅠ、Ⅱ」「卒業制作」の約2種類の内容で4科目からなる。業界から依頼を受けて企画を提出する機会を設ける教育、及び卒業制作として一人一体のディスプレイ作品を制作する、もしくはイベントのためのノベルティ制作を行う実践的な教育を行っている。

このように、専門学校における服の生産管理や販売に関する教育課程は、1年次から社会人として必要とされる基本的な生活態度や考え方を教え、学生のケアをしながら服の生産管理と販売に関する技術的な基礎を教育し、こうしたビジネス分野の仕事の中でも、より具体的に各学生が興味を持つ分野に特化して、2年、3年次にかけて実践的に技術力を高める課程となっている。

一般の大学のように、受講する講義を学生自ら選ぶというカリキュラムではないが、必修科目として全て履修していくうちに、3年次に至るまでに、必要な管理に関する技術や販売のノウハウを含めたテクニックを身につけることができる科目配置となっている。3年次には、その技術力やノウハウを示す集大成として卒業制作を課し、ディスプレイ作品の制作発表やイベントのためのノベルティ制作発表をさせる。ファッションの販売戦略やブランド戦略におけるコンセプトメイキングや国際化、情報化に対応する能力育成の科目は少ないが、服の生産管理や販売に関して、日本国内企業で技術職、営業職として必要とされる力を十分身にさせている。

以上、(1) 専門学校の人材養成と教育課程の特徴をまとめる。

既設専門学校で養成しているのは、日本国内のファッション産業における製造・卸分野

のクリエイションとビジネスに関する中核的な技術職である。もしくは、小売分野の販売職、営業職である。多くが中小企業に属する。具体的な職名としては、デザイナー、パタンナー、マーチャンダイザー、店舗アドバイザー、プランナーである。教育課程は、技術的な中核人材を輩出するために、技術力を育成するための科目を中心とする。

(2) 専門職大学：総合職人材の輩出と、構想力、問題発見力、展開力を身につける科目に特徴がある

(2-1) 国際ファッション専門職大学 ファッションクリエイション関係

・養成する人材の特徴

本法人が、今回専門職大学となって新たに実施する教育では、日本のファッション産業におけるクリエイションとビジネスの分野の総合職人材を養成する。主に、ファッションクリエイション学科では、商品の企画、コンセプトの開発などの仕事を担うことを目指す。具体的な人材像（職種名）は、プロデューサーやディレクター、クリエイターと称される職種である。この職種に必要とされる知識や能力は、汎用的なコミュニケーションと管理の能力、ファッション産業の基本的な知識と技術への理解、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力である。

かかる人材は、現在、ファッションの生産や流通に関わる実務経験者が担うことが多い。技術職由来の人材で、独立コンサルタント業として現場の知見をもとに企画構想を行うか、もしくは大卒で国内のファッション製造・卸分野もしくは小売企業に就業した総合職人材が管理職として担う場合が多い。いずれも長年にわたる実務経験や感覚をもとに担われており、新卒の人材が担うことはほとんど見られない。本学が養成しようとする人材が、こうした役割をいち早く担当するには、現在のところ国内外のファッション産業の製造・卸及び小売分野の企業においてまず総合職として就業することが必要不可欠といえよう。

そのうえで、本学が養成する総合職人材は、これまでの業界で養成されてきた人材

とは異なり、新卒ながらファッション産業という専門分野で総合的な視野を持ち、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性を専門的に身につけている。そして、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力をもつ。これは、学術的な素養をもとに問題発見と解決の視角を鍛え、ファッションと現代の世界について深い興味と関心をもって、その根源から現代的な事象まで、ファッションの世界に関係する多様な学術的知見及び実務的知見を基に現状分析を行うような本学ならではの教育課程で鍛えられうるものである。そして、服飾にとどまらない生活空間全般へ視点を拡大したファッション産業、他業種と連携したクリエイションの創出や、ファッションの生産における国際化や情報化に対応して能動的な活動を行うことができる、新たな形の総合職人材である。

・教育課程の特徴

表 3 は、新設の専門職大学で行う教育課程のうち、ファッションクリエイション学科における教育課程（補正申請で是正した版）を示したものである。表 3 のように、全 67 科目のうち基礎科目として 17 科目、職業専門科目として 34 科目、展開科目として 13 科目、総合科目として 3 科目で構成している。

基礎科目は、「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」「文化論基礎ゼミ」「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」「フィールドワーク入門」「社会科学基礎ゼミ」「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「英語 I、II」「日本語文章表現」「キャリアデザイン論」の約 16 種類、17 科目から成る。以上の科目のうち、「情報リテラシー」と「キャリアデザイン論」については、既設専門学校と重なる部分がある。高等学校から大学への接続を円滑に行い、初年次教育にただし、他の 16 科目については、設置の趣意で掲げた必要性に応え得る、知識の基盤となるものであり、課題発見と解決の枠組みの視角を育成するための教育の基盤となる。

職業専門科目は、「身体とパフォーマンス」「造形論入門」「自然資源と服装文化」「職人の世界」「装いと社会性・ジェンダー」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッショ

ン」「色彩論入門」「サブカルチャー・スタイル」「ファッション論基礎ゼミ」「日本の衣生活・服装史入門」「生活科学入門」「ファッションデザイン論」「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」「パターンメイキング」「テキスタイル基礎」「バッグデザイン」「シューズデザイン」「デザイン感性工学」「ファッションビジネス概論」「マーケティング論」「消費者行動論」「知財論」「写真概論」「映像概論」「写真实習」「映像実習」「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ（企業）」「臨地実習Ⅱ（産地）」の約 32 種類、34 科目からなる。以上の科目のうち、ファッション産業の概論、服装史などの講義、ファッションデザインの基本的な知識と技能を鍛える科目、テキスタイルの基礎知識を教育する約 5 種類の科目については、一部専門学校との教育課程と重なる部分がある。

臨地実習については、専門学校と名称上重なるが、専門職大学の教育課程では、日本の知財や技術の再発見をめざし、産地及び企業で数か月の実習を課す。かかる目的を持った臨地実習を通じて、日本の産地及び企業におけるより具体的な課題発見と解決に至る実践的な教育機会を設けている。

他の約 27 種類の科目には、専門職大学になるうえで、設置の必要性に應えるために本学が開発した科目が多く含まれている。それは、服の作り方及び衣服ビジネスの生産管理技術を学ぶ前に、ファッションとは何か、なぜひとは服を着るのか、というファッションを考えるうえで、根源的なコンセプトを創り出す教育を正面から取り上げたものである。文化人類学、社会学、ジェンダー論、美学、美術史、などの学問的分野で広く検討されてきた身体論及び多様な文化社会芸術環境論からファッションを捉え直し検討するための知識と分析視角を養う。また国際的な発信力の基礎となるメディアに関する使用技術を教えると同時に、成立から変遷までの知識を教える。講義や実習の前後には、科目に関連したゼミ科目を多数配置し、様々な経済文化社会的な事項において課題発見と解決の枠組みを思考する視角を学修する科目を設けている。

そして、展開科目は、「環境とビジネス」「地域産業論」「ファッション産業と

メディアデザイン」「デジタルアーカイブ論」「国際展示会演習」「国際ファッション市場論」「国際知財論」「国際ファッション業界英語」「フランス語」「中国語」「国際連携ゼミ」「海外実習Ⅰ、Ⅱ」の約12種類、13科目からなる。かかる科目は概ね専門職大学になるうえで、設置の必要性に應えるために本学が開発した科目である。先の職業専門科目において身体論からファッション産業を捉えなおす視角と知識を身につけ、新たなコンセプト作りをするための基本を教えたのちに、国際化と情報化の潜在的課題を把握しそれに應えるための教育を行う科目となっている。具体的には、コンセプトを新旧様々なメディアに乗せて発信する能力を鍛える科目、ファッション産業に関する知識や技術を地域の文脈に位置付けて考察する科目、海外実習、その前後に開催されるゼミ、語学科目である。

最後に、総合科目は、「統合指導ゼミⅠ、Ⅱ」「卒業制作・計画」の約2種類、3科目からなる。卒業制作・計画は、既設専門学校の教育課程で行われている卒業制作と科目名の似たものであるが、その卒業制作をより広く捉えている。衣服及びノベルティなどの制作だけに限らず、ファッション産業を構成する広く新たな商品開発につながるコンセプトと、ブランドコンセプトなどのビジネスのモデル計画までを含めた総合的な制作を課す。そのため並行してゼミ教育を課す。様々な分野の教員で構成するゼミでは、学生個々に、主に、産地・企業・海外での実習、これまでの教育課程で学修した知識や技能などを総合的に検討し、自らの課題を設定させる。そして、その解決策の提示に向けたコンセプトの発表を課す。学生及び教員は互いに応答を繰り返し、学生が主体的に問題発見と解決を目指す新しい職業を創出するための方法論を身につけさせる。

このように、専門職大学となって実施する教育課程では、ファッション産業における総合的な視角をもって、ファッションクリエイションの分野で国際化と情報化に対応し、課題発見と解決に至る仕事を担える新たな人材を育成する。

(2-2) 国際ファッション専門職大学 ファッションビジネス関係

・養成する人材の特徴

本法人が、今回専門職大学となって新たに実施する教育では、日本のファッション産業におけるクリエイションとビジネスの分野の総合職人材を養成する。主に、ファッションビジネス学科では、販売企画や戦略、ブランドコンセプトの開発や広告などの仕事を担うことを目指す。具体的な人材像（職種名）は、プロデューサーやディレクター、クリエイター、もしくは分析の仕事と称される職種である。この職種に必要とされる知識や能力は、汎用的なコミュニケーションと管理の能力、ファッション産業の基本的な知識とファッション産業の大きな構造（生産、流通、消費など）を把握し戦略を考えうる知識、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力である。

かかる人材は、現在、ファッションの生産や流通に関わる実務経験者が担うことが多い。技術職由来の人材で、独立コンサルタント業として現場の知見をもとに企画構想を行うか、もしくは大卒で国内のファッション製造・卸分野もしくは小売企業に就業した総合職人材が管理職として担う場合が多い。いずれも長年にわたる実務経験や感覚をもとに担われており、新卒の人材が担うことはほとんど見られない。本学が養成しようとする人材が、こうした役割をいち早く担当するには、現在のところ国内外のファッション産業の製造・卸及び小売分野の企業においてまず総合職として就業することが必要不可欠といえよう。

そのうえで、本学が養成する総合職人材は、これまでの業界で養成されてきた人材とは異なり、新卒ながらファッション産業という専門分野で総合的な視野を持ち、企画構想につながる（日本の知財など）多様な知識と感性を専門的に身につけている。そして、ファッションの国際化や情報化など新たな流れや技術の動向に関心を持ち、積極的に提案と発信をする能力をもつ。これは、学術的な素養をもとに問題発見と解決の視角を鍛え、ファッションと現代の世界について深い興味と関心をもって、その根源から現代的事象まで、ファッションの世界に関係する多様な学術的知見及び実務的知見を基に現状分析を行うような本学なら

では教育課程で鍛えられうるものである。そして、服飾にとどまらない生活空間全般へ視点を拡大したファッション産業、他業種と連携したクリエイションの創出や、ファッションの生産における国際化や情報化に対応して能動的な活動を行うことができる、新たな形の総合職人材である。

・教育課程の特徴

表 4 は、新設の専門職大学で行う教育課程のうち、ファッションビジネス学科における教育課程（補正申請で是正した版）を示したものである。表 4 のように、全 67 科目のうち基礎科目として 17 科目、職業専門科目として 34 科目、展開科目として 14 科目、総合科目として 3 科目で構成している。

基礎科目は、「比較文化論」「現代文化論」「ヨーロッパの社会と文化」「文化論基礎ゼミ」「会計入門」「産業論入門」「法学入門」「地域論入門」「フィールドワーク入門」「社会科学基礎ゼミ」「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「英語 I、II」「日本語文章表現」「キャリアデザイン論」の約 16 種類、17 科目から成る。以上の科目のうち、「情報リテラシー」と「キャリアデザイン論」については、既設専門学校と重なる部分がある。高等学校から大学への接続を円滑に行い、初年次教育にただし、他の 16 科目については、設置の趣意で掲げた必要性に答え得る、知識の基盤となるものであり、課題発見と解決の枠組みの視角を育成するための教育の基盤となる。

職業専門科目は、「身体とパフォーマンス」「造形論入門」「自然資源と服装文化」「職人の世界」「装いと社会性・ジェンダー」「美とファッションの歴史」「ブランドの歴史と文化」「美容とファッション」「色彩論入門」「サブカルチャー・スタイル」「ファッション論基礎ゼミ」「日本の衣生活・服装史入門」「生活科学入門」「ファッションデザイン論」「デザイン概論」「パターンメイキング」「テキスタイル基礎」「デザイン感性工学」「ファッションビジネス概論」「ファッションビジネス演習 I、II」「リテール企画演習 I、II」「創造産業論」「マーケティング論」「消費者行動論」「広告・PR 論」「知財論」「写真概論」「映像概論」「写実実習」「映像実習」「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習 I（企業）」「臨地実習 II

(産地)」の約32種類、34科目からなる。

以上の科目のうち、ファッション産業の概論、服装史などの講義、ファッションデザインの基本的な知識と技能を鍛える科目、テキスタイルの基礎知識を教育する約5種類の科目については、一部専門学校の教育課程と重なる部分がある。また、臨地実習については、専門学校と名称上重なるが、専門職大学の教育課程では、日本の知財や技術の再発見をめざし、産地及び企業で数か月の実習を課す。かかる目的を持った臨地実習を通じて、日本の産地及び企業におけるより具体的な課題発見と解決に至る実践的な教育機会を設けている。

職業専門科目の大半を占める約27種類の科目には、専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目が多く含まれている。それは、服の作り方及び衣服ビジネスの生産管理技術を学ぶ前に、ファッションとは何か、なぜひとは服を着るのか、というファッションを考えるうえで、根源的なコンセプトを創り出す教育を正面から取り上げたものである。文化人類学、社会学、ジェンダー論、美学、美術史、などの学問的分野で広く検討されてきた身体論及び多様な文化社会芸術環境論からファッションを捉え直し検討するための知識と分析視角を養う。また国際的な発信力の基礎となるメディアに関する使用技術を教えると同時に、成立から変遷までの知識を教える。講義や実習の前後には、科目に関連したゼミ科目を多数配置し、様々な経済文化社会的な事項において課題発見と解決の枠組みを思考する視角を学修する科目を設けている。

そして、展開科目は、「環境とビジネス」「地域産業論」「ファッション産業とメディアデザイン」「デジタルアーカイブ論」「国際ファッション市場論」「国際知財論」「国際ファッション業界英語」「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」「フランス語」「中国語」「国際連携ゼミ」「海外実習Ⅰ、Ⅱ」の約13種類、14科目からなる。かかる科目は概ね専門職大学になるうえで、設置の必要性に応えるために本学が開発した科目である。

先の職業専門科目において身体論からファッション産業を捉えなおす視角と知識を身につけ、新たなコンセプト作りをするための基本を教えたのちに、国際化と情報化

に代表される現在の変化と潜在的課題を把握しそれに応えるための教育を行う科目を設定する。具体的には、コンセプトを新旧様々なメディアに乗せて発信する能力を鍛える科目、ファッション産業に関する知識や技術を地域の文脈に位置付けて考察する科目、海外実習、その前後に開催されるゼミ、語学科目である。

最後に、総合科目は、「統合指導ゼミⅠ、Ⅱ」「卒業制作・計画」の約2種類、3科目からなる。卒業制作・計画は、既設専門学校の教育課程で行われている卒業制作と科目名の似たものであるが、その卒業制作をより広く捉えている。衣服及びノベルティなどの制作だけに限らず、ファッション産業を構成する広く新たな販売戦略や企画につながるブランドコンセプトなどのビジネスのモデル計画までを含めた総合的な制作を課す。そのため並行してゼミ教育を課す。様々な分野の教員で構成するゼミでは、学生個々に、主に、産地・企業・海外での実習、これまでの教育課程で学修した知識や技能などを総合的に検討し、自らの課題を設定させる。そして、その解決策の提示に向けたコンセプトの発表を課す。学生及び教員は互いに応答を繰り返し、学生が主体的に問題発見と解決を目指す新しい職業を創出するための方法論を身につけさせる。

このように、専門職大学となって実施する教育課程では、ファッション産業における総合的な視角をもって、ファッションビジネスの分野で国際化と情報化に対応し、課題発見と解決に至る仕事を担える新たな人材を育成する。

(参照) 「2 教育課程等の概要」
「23 臨地実務実習施設等」

(資料 13-表 1) 既設専門学校のカリキュラム (モード学園ファッションデザイン学科の例)

教育課程等の概要												
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			DP・CPとの関連			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	汎用的能力	基本的技術	知識・理解	態度・志向性
基礎科目	P C演習 I	1通	1.3					○	○			
	P C演習 II	2通	3.6					○	○			
	P C演習 III	3通	2					○	○			
	自己開発 I	1後	0.6			○						○
	自己開発 II	2前	0.6			○						○
	創造性開発 I	2後	0.6			○						○
	創造性開発 II	3前	0.6			○						○
	ビジネストレーニング I	3前	2.6			○			○			○
小計 (8科目)	—	11.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
職業専門科目	ファッション知識	1前	4.8			○				○		
	ファッション史 I	1通	2.4			○				○		
	ファッション史 II	2通	1.2			○				○		
	ファッション史 III	3通	1			○				○		
	クリエイション	1通	4.8					○		○		
	創作デザイン II	2通	3.4					○		○		
	創作デザイン III	3通	4					○		○		
	創作デザイン IV	4通	6.4					○		○		
	デザイン画 I	1通	4.8					○		○		
	デザイン画 II	2通	4					○		○		
	デザイン画 III	3通	2					○		○		
	パターンメイキング I	1通	7.2					○		○		
	パターンメイキング II	2通	5					○		○		
	パターンメイキング III	3通	6							○		
	パターンメイキング IV	4通	6							○		
	テクニカルデザイン I	1通	3.2					○		○		
	テクニカルデザイン II	2通	5.6					○		○		
	テクニカルデザイン III	3通	8.2					○		○		
	制作技法 I	1通	10.4					○		○		
	制作技法 II	2通	9.3					○		○		
	カラーリング	1通	2.6				○				○	
	マテリアル I	1通	2.4				○				○	
	マテリアル II	2通	2.4				○				○	
	MEW I	1通	1						○	○		○
	MEW II	2通	0.9						○	○		○
	MEW III	3通	1						○	○		○
	フレックススタディ I	1通	4.4				○			○	○	○
	フレックススタディ II	2通	4				○			○	○	○
	フレックススタディ III	3通	4				○			○	○	○
	フレックススタディ IV	4通	6.8				○			○	○	○
	学外実習 I	1通	1.3						○		○	○
	学外実習 II	2通	2.6						○		○	○
	学外実習 III	3通	2						○		○	○
	学外実習 IV	4通	2.1						○		○	○
	インターンシップ	3後	3.5						○		○	○
	ファッショントレンド分析 I	3通	0.4				○				○	
	ファッショントレンド分析 II	4通	0.4								○	
	ファッションクリエイター論	3通	0.8				○				○	
	ファッションスキルアップ	4後	2.6						○		○	
	アパレルマーチャンダイジング	2通	2.6						○		○	
	アパレル生産技術 I	3通	10.4						○		○	
	ブランドブランニング I	3通	2.6						○		○	
	ブランドブランニング II	4通	3.4						○		○	
小計 (43科目)	—	164	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総合科目	ケーススタディ I		1.1					○				○
	ケーススタディ II		0.3					○				○
	ケーススタディ III		4					○				○
	卒業制作		3.3						○			○
	小計 (4科目)	—	8.7	0	0			—	—	—	—	—
合計 (55科目)		—	185	—	—			—	—	—	—	—
学位又は称号		高度専門士										

卒業要件及び履修方法	授業期間等			
【卒業要件】 必修 185 単位を取得すること。	1 学年の学期区分	2 学期		
	1 学期の授業期間	18 週		
	1 時限の授業時間	90 分		

(資料 13-表 2) 既設専門学校のカリキュラム (モード学園ファッションビジネス学科の例)

教育課程等の概要												
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			DP・CPとの連携			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	汎用的能力	基本的技術	知識・理解	態度・志向性
基礎科目	ビジネスコンピュータⅠ	2通	3.7					○	○			
	ビジネスコンピュータⅡ	3通	3.3					○	○			
	自己開発Ⅰ	1後	0.6			○						○
	自己開発Ⅱ	2前	0.6			○						○
	創造性開発Ⅰ	2後	0.6			○						○
	創造性開発Ⅱ	3前	0.6			○						○
	ビジネストレーニングⅠ	2通	2.6			○			○			
	小計(7科目)	—	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
職業専門科目	ファッション知識	1前	4.8			○				○		
	ファッション史Ⅰ	1通	2.4			○				○		
	リテールテクニックⅠ	2通	2.6					○		○		
	リテールテクニックⅡ	3通	6					○		○		
	接客販売技法Ⅰ	2通	2.6					○		○		
	接客販売技法Ⅱ	3通	2.8					○		○		
	クリエイション	1通	2.4					○		○		
	ファッションスタイル論	2通	5.2			○				○		
	ストアマーチャンダイジング	2通	2.1			○				○		
	ビジュアルマーチャンダイジング	3通	5			○				○		
	ショップ経営プランニング	3通	7.6					○		○		
	F B知識	2通	2.1			○				○		
	デザイン画Ⅰ	1通	4.8					○		○		
	ビジュアル制作技法	1後	2.6					○		○		
	マーケット情報分析	2通	2.4			○				○		
	パターンメイキングⅠ	1通	7.2					○		○		
	ファッションイラストⅠ	2通	1.2					○		○		
	ファッションイラストⅡ	3通	1.2					○		○		
	プロモーションⅠ	2通	4.8			○				○		
	プロモーションⅡ	3通	2.4			○				○		
	ディスプレイ技法Ⅰ	2通	2.4					○		○		
	パース技法	2通	1.3					○		○		
	制作技法Ⅰ	1通	9					○		○		
	カラーリングⅠ	1通	2.6			○				○		
	カラーリングⅡ	2前	2.6			○				○		
	カラーリングⅢ	3通	2.4			○				○		
	マテリアルⅠ	1通	2.4			○				○		
	マテリアルⅡ	2通	2.6			○				○		
	マテリアルⅢ	3通	4			○				○		
	MEWⅠ	1通	1					○	○			○
	MEWⅡ	2通	1.3					○	○			○
	コンセプトメイキング	2通	2.1					○		○		
	フレックススタディⅠ	1通	4.4			○			○	○		○
	フレックススタディⅡ	2通	4			○			○	○		○
	学外実習Ⅰ	1通	2.6					○	○	○		○
	学外実習Ⅱ	2通	2.4					○	○	○		○
	学外実習Ⅲ	3通	2					○	○	○		○
	インターンシップ	2通	3.5					○		○		○
	ファッショントレンド分析Ⅰ	2通	0.5				○			○		
	ファッショントレンド分析Ⅱ	3通	0.5				○			○		
小計(40科目)	—	126	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総合科目	ケーススタディⅠ	2通	2					○				○
	ケーススタディⅡ	3通	5					○				○
	卒業制作	3通	2					○				○
	小計(4科目)	—	9	0	0	—	—	—	—	—	—	—
合計(51科目)		—	147	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学位又は称号		専門士		学位又は学科の分野					—	—	—	—
卒業要件及び履修方法		授業期間等										
【卒業要件】 必修147単位を取得すること。		1学年の学期区分			2学期							
		1学期の授業期間			18週							
		1時限の授業時間			90分							

(資料 13-表 3) 専門職大学のカリキュラム (ファッションクリエイション学科の例)

教育課程等の概要												
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			DP・CPとの関連			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	汎用的能力	基本的技術	知識・理解	態度・志向性
基礎科目	比較文化論	1 前	2			○			○			
	現代文化論	1 後		2		○			○			
	ヨーロッパの社会と文化	2 後		2		○			○			
	文化論基礎ゼミ	1 前		2			○		○			○
	会計入門	1 前		2		○			○			
	産業論入門	1 後		2		○			○			
	法学入門	1 後		2		○			○			
	地域論入門	2 後		2		○			○			
	フィールドワーク入門	1 後	2			○			○			○
	社会科学基礎ゼミ	2 後		2			○		○			○
	メディア概論	1 前	2			○			○			
	情報リテラシー	1 前	2			○			○			
	環境と社会	2 前		2		○			○			
	英語 I	1 通	4				○		○			
	英語 II	2 通	4				○		○			
	日本語文章表現	1 後	2				○		○			
	キャリアデザイン論	1 後		2		○			○			
小計 (17 科目)	—	—	18	20	0	—	—	—	—	—	—	—
職業専門科目	身体とパフォーマンス	1 前		2		○					○	
	造形論入門	1 前	2			○		○		○		
	自然資源と服装文化	1 後		2		○					○	
	職人の世界	1 前		2		○					○	
	装いと社会性・ジェンダー	1 前		2		○					○	
	美とファッションの歴史	2 前	2			○					○	
	ブランドの歴史と文化	2 後		2		○					○	
	美容とファッション	2 後		2		○					○	
	色彩論入門	1 前	2			○		○		○	○	
	サブカルチャー・スタイル	2 後		2		○					○	
	ファッション論基礎ゼミ	1 前		2			○				○	○
	日本の衣生活・服装史入門	2 前	2			○					○	
	生活科学入門	1 前	2			○					○	
	ファッションデザイン論	1 前	2			○				○		
	ファッションデザイン演習 I ※	1 通	4					○		○		
	ファッションデザイン演習 II ※	2 通	4					○		○		
	ファッションデザインプランニング演習 I ※	1 通	4					○		○		
	ファッションデザインプランニング演習 II ※	2 通	4					○		○		
	パターンメイキング	2 後		2		○				○		
	テキスタイル基礎	1 後	2			○				○		
	バッグデザイン	2 後		2				○		○		
	シューズデザイン	2 後		2				○		○		
	デザイン感性工学	2 後		2		○					○	
	ファッションビジネス概論	1 前		2		○				○		
	マーケティング論	3 前	2			○					○	
	消費者行動論	3 前	2			○					○	
	知財論	2 後	2			○					○	
	写真概論	1 前	2			○					○	
	映像概論	1 後	2			○					○	
	写真実習	2 前		2				○			○	
	映像実習	2 後		2				○			○	
	地域企業・地方連携ゼミ	3 通	10				○				○	○
	臨地実習 I (企業)	3 通	10					○	○	○	○	○
	臨地実習 II (地方産地)	3 通	10					○	○	○	○	○
小計 (34 科目)	—	—	70	30	0	22	2	10				
展開科目	環境とビジネス	3 後	2			○					○	
	地域産業論	2 後	2			○					○	
	ファッション産業とメディアデザイン	2 前		2		○					○	
	デジタルアーカイブ論	2 前		2		○					○	

	国際展示会演習	4 前		2			○			○	○	
	国際ファッション市場論	1 後	2			○					○	
	国際知財論	3 前		2		○					○	
	国際ファッション業界英語	2 通	4			○			○		○	
	フランス語	2 後		2		○			○		○	
	中国語	2 後		2		○			○		○	
	国際連携ゼミ	3 通	4				連				○	○
	海外実習Ⅰ	3 通	2					○	○	○	○	○
	海外実習Ⅱ	3 通		2				○	○	○	○	○
	小計 (13 科目)		12	14	0	5	6	2				
総合 科目	統合指導ゼミⅠ	4 前	4				○				○	○
	統合指導ゼミⅡ	4 後	4				○				○	○
	卒業制作・計画	4 通	4					○	○	○	○	○
	小計 (3 科目)		12	14	0	5	6	2				
合計 (67 科目)		—	112	64	0	39	15	13				
学位又は称号		専門士	学位又は学科の分野									
卒業要件及び履修方法		授業期間等										
【卒業要件】		1 学年の学期区分		2 学期								
所定の要件を満たし、126 単位以上を取得すること。		1 学期の授業期間		18 週								
		1 時限の授業時間		90 分								

(資料 13-表 4) 専門職大学のカリキュラム (ファッションビジネス学科の例)

教育課程等の概要												
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			DP・CPとの関連			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	汎用的能力	基本的技術	知識・理解	態度・志向性
基礎 科目	比較文化論	1 前	2			○			○			
	現代文化論	1 後		2		○			○			
	ヨーロッパの社会と文化	2 後		2		○			○			
	文化論基礎ゼミ	1 前		2			○		○			○
	会計入門	1 前		2		○			○			
	産業論入門	1 後		2		○			○			
	法学入門	1 後		2		○			○			
	地域論入門	2 後		2		○			○			
	フィールドワーク入門	1 後	2			○			○			○
	社会科学基礎ゼミ	2 後		2			○		○			○
	メディア概論	1 前	2			○			○			
	情報リテラシー	1 前	2			○			○			
	環境と社会	2 前		2		○			○			
	英語 I	1 通	4				○		○			
	英語 II	2 通	4				○		○			
	日本語文章表現	1 後	2				○		○			
	キャリアデザイン論	1 後		2		○			○			
小計 (17 科目)	—	—	18	20	0	—	—	—	—	—	—	—
職業 専門 科目	身体とパフォーマンス	1 前		2		○					○	
	造形論入門	1 前	2			○				○	○	
	自然資源と服装文化	1 後		2				○			○	
	職人の世界	1 前		2				○			○	
	装いと社会性・ジェンダー	1 前		2				○			○	
	美とファッションの歴史	2 前	2					○			○	
	ブランドの歴史と文化	2 後		2				○			○	
	美容とファッション	2 後		2		○					○	
	色彩論入門	1 前	2			○				○	○	
	サブカルチャー・スタイル	2 後		2		○					○	
	ファッション論基礎ゼミ	1 前		2				○			○	○
	日本の衣生活・服装史入門	2 前	2			○					○	
	生活科学入門	1 前	2			○					○	
	ファッションデザイン論	1 前	2					○			○	
	ファッションデザイン演習 I	1 通	4			○				○		
	ファッションデザイン演習 II	2 通	4					○		○		
	デザイン概論	1 前	2					○		○		
	パターンメイキング	2 後		2				○		○		
	テキスタイル基礎	1 後	2			○				○		
	テキスタイル中級	2 前		2		○				○		
	感性工学	2 後		2				○			○	
	ファッションビジネス概論	1 前		2				○		○		
	ファッションビジネス演習 I	1 通	4					○		○		
	ファッションビジネス演習 II	2 通	4			○				○		
	創造産業論	3 前		2		○						○
	マーケティング論	3 前	2			○						○
	消費者行動論	3 前	2			○						○
	広告・PR 論	3 後		2		○						○
	知財論	2 後	2			○						○
	写真概論	1 前	2					○				○
	映像概論	1 後	2					○				○
	写実実習	2 前		2			○					○
	映像実習	2 後		2				○				○
小計 (34 科目)	—	—	70	30	0	22	2	10	—	—	—	—
展開 科目	環境とビジネス	3 後		2		○					○	
	地域産業論	2 後		2		○					○	
	ファッション産業とメディアデザイン	2 前		2		○					○	
	デジタルアーカイブ論	2 前		2			○				○	
	国際ファッション市場論	1 後	2			○					○	
国際ビジネスモデル特講 I	2 前		2			○				○		
国際ビジネスモデル特講 II	2 後		2			○				○		

総合 科目	国際知財論	3 前		2		○				○	
	国際ファッション業界英語	2 通	4				○		○		○
	フランス語	2 後		2			○		○		○
	中国語	2 後		2			○		○		○
	国際連携ゼミ	3 通	4				連	○			○
	海外実習Ⅰ	3 通	2					○	○	○	○
	海外実習Ⅱ	3 通		2				○	○	○	○
	小計（14 科目）		12	14	0	5	6	2	—	—	—
	統合指導ゼミⅠ	4 前	4				○				○
	統合指導ゼミⅡ	4 後	4				○				○
	卒業制作・計画	4 通	4					○	○	○	○
	小計（3 科目）		12	14	0	5	6	2	—	—	—
	合計（67 科目）		—	116	68	0	42	14	11	—	—
	学位又は称号	専門士	学位又は学科の分野						家政		
卒業要件及び履修方法		授業期間等									
【卒業要件】 所定の要件を満たし、126 単位以上を取 得すること。		1 学年の学期区分			2 学期						
		1 学期の授業期間			18 週						
		1 時限の授業時間			90 分						

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

6. <設置の趣旨と教育課程の不整合>

「伝統的な日本文化を再認識する」ことを問題意識としているが、日本のファッション感覚、美意識、技術について学ぶ科目が不足しており、デザイン力を磨くための基盤となる知識や技術を十分に修得できないと思われるため、日本の伝統的なファッション感覚、美意識、技術について学ぶ科目を必修科目として開講すること。その際、日本の伝統的な衣装である和装についても学ぶ内容も含めること。

(対応) 科目追加を行った

本学は、日本の伝統的な文化を再認識し、デザイン力を磨くための基盤となる知識や技術を習得することを、ファッションクリエイションの上でも、ファッションビジネスの上でも必要な問題意識として認識している。特に、服装に現れるこうした日本のファッション感覚、美意識、技術を学ぶには、日本のさまざまな地域にみられる衣生活と服装の変遷を歴史的に学ぶ必要があると考えた。そこで、日本の伝統的な衣装である和装について学ぶ内容も含めた科目を、2年生前期に2単位配当し、「日本の衣生活・服装史入門」(必修)として、職業専門科目に追加した。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (全学科共通)

新						旧									
科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			(追加)								
				必修	選択	自由									
職業専門科目	ファッション論科目群	日本の衣生活・服装史入門	2前	2											

(新旧対照表) 授業科目の概要 (全学科共通)

新	旧
<p>「日本の衣生活・服装史入門」</p> <p>本科目では、衣服は多様な地域の風土や文化を表す媒体であり、またその産物であることを学ぶ。日本の衣生活特に和服も時代と共に変化を見せている。いかなる自然、社会、文化的な背景から地域に特徴的な服装が醸成されてきたのか。また時代における流行など、人々の感情を左右させる変化をもたらしてきた時代背景とともに、服装史の変遷を歴史的に振り返りながら、服装における美意識や価値、機能、技術など学修する。</p> <p>衣生活・服装史を理解することによって、伝統的な美意識や機能性が現在の衣生活に与えている影響を考察するとともに、今後の服装の変遷に関わる洞察力を養う。</p>	<p>(追加)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (21-25 ページ)

新	旧
<p>4.3 職業専門科目の設定と理由</p> <p>4.3.1 「デザイン科目群」</p> <p>具体的には、「日本の衣生活・服装史入門」、「生活科学入門」、「ファッションデザイン論」、「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「デザイン概論」、「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」、「テキスタイル基礎」、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目からなる。このなかで、日本の伝統的な文化を再認識し、デザイン力を磨くための基盤となる知識や技術を習得するための科目として「日本の衣生活・服装史入門」がある。そして、被服学の基礎となるような家政学の概説科目として「生活科学入門」がある。クリエイションの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションデザイン論」と「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」がある。</p>	<p>4.3 職業専門科目の設定と理由</p> <p>4.3.1 「デザイン科目群」</p> <p>具体的には、(追加) 「ファッションデザイン論」、「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「デザイン概論」、「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」、「テキスタイル基礎」、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目からなる。このなかで、(追加) クリエイションの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションデザイン論」と「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」がある。</p>

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

7. <教育課程の体系性が不十分>
 主たる教育研究対象を家政学領域とし、ファッション学士（専門職）という学位を授与するのであれば、教育課程の体系性の確保という観点から、被服学の基礎となるような家政学の概説科目が必要なため、必修科目として開講すること。

(対応) 科目追加を行った

本学は主たる教育研究対象を家政学領域とし、ファッション学士（専門職）という学位を授与する。そのためには、教育課程の体系性の確保という観点から被服学の基礎となるような家政学の概説科目が必要と考え、被服学の基礎となるような家政学の概説科目を「生活科学入門」（必修）として、1年生前期に2単位配当し、職業専門科目に追加した。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (全学科共通)

新						旧		
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			(追加)		
			必修	選択	自由			
職業専門科目	デザイン論科目群	生活科学入門	1前	2		(追加)		

(新旧対照表) 授業科目の概要 (全学科共通)

新	旧
<p>「生活科学入門」</p> <p>本科目では、被服学の基礎となる生活科学（家政学）の全体像と基礎的な知識を学修する。生活科学の目的と対象、研究方法、その歴史を学ぶ。具体的には、家族関係、家族と、地域など外部社会との関係、物質文化、すなわち衣食住を中心とする生活環境や社会環境などについて理解を深める。生活科学の包括性や拡大を考慮しながら、隣接領域及び</p>	<p>(追加)</p>

関連領域についても学修する。	
----------------	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (21-25 ページ)

新	旧
<p>4.3 職業専門科目の設定と理由</p> <p>4.3.1 「デザイン科目群」</p> <p>具体的には、「日本の衣生活・服装史入門」、「生活科学入門」、「ファッションデザイン論」、「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「デザイン概論」、「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」、「テキスタイル基礎」、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目からなる。このなかで、<u>日本の伝統的な文化を再認識し、デザイン力を磨くための基盤となる知識や技術を習得するための科目として「日本の衣生活・服装史入門」がある。そして、被服学の基礎となるような家政学の概説科目として「生活科学入門」がある。クリエイションの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションデザイン論」と「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」がある。</u></p>	<p>4.3 職業専門科目の設定と理由</p> <p>4.3.1 「デザイン科目群」</p> <p>具体的には、<u>(追加)</u>「ファッションデザイン論」、「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「デザイン概論」、「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」、「テキスタイル基礎」、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目からなる。このなかで、<u>(追加)</u>クリエイションの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションデザイン論」と「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」がある。</p>

(参照) 「2 教育課程等の概要」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

8. <設置の趣旨と教育課程の不整合>
 養成しようとする人材に照らせば、マーケティングや消費者心理を学ぶ科目が必要と思われるため、必修科目として開講すること。

(対応) 科目追加を行った

本学で養成しようとする人材は、国内外のファッション業界の製造・卸分野、小売分野において活躍できる総合職である。特に日本のファッション産業界で必要とされる、クリエイションとビジネスの知識を持ちながら、ファッション産業界で専門的に商品開発や販売戦略をできる、プロデュースやディレクションを行える人材である。養成しようとする人材に照らせば、ビジネスの分野におけるマーケティングや消費者行動を学ぶ科目が必要と考え、「マーケティング論」(必修)及び「消費者行動論」(必修)を、職業専門科目に追加する。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (全学科共通)

新						旧		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					
			必修	選択	自由			
職業専門科目	ビジネス論科目群							
	マーケティング論	3前	2					
	消費者行動論	3前	2					

(新旧対照表) 授業科目の概要 (全学科共通)

新	旧
「マーケティング論」 <u>本科目では、マーケティング論の全体像を理解し、基礎的な用語や考え方を習得する。マーケティングとは、企業が存続、成長するために必要な売上や利益を、製品やサービスの提供を通じて実現する活動である。市場の成</u>	(追加)

<p>熟化、ニーズの多様化、技術の成熟化、競争の国際化が進むなかで企業経営におけるマーケティングは重要である。本科目では、企業のマーケティングの全体像について、具体的な事例を交えながら講義を行う。</p> <p>「消費者行動論」</p> <p>本科目では、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習する。消費者行動とは、消費者がいかにか商品を選ぶのかについて考えることである。消費者の行動は微妙なものに左右されることが多い。これまでよく売れていたブランドが突然売れなくなったとき、消費者の行動を規定したものは一体何か、これを考えることが必要となる。</p> <p>消費者認知・消費者態度・消費者行動の3つの視点をカギに、消費者の行動を規定する心理プロセス、消費者行動を規定する様々な要因、ブランドと消費者のコミュニケーションのあり方など、具体的な事例を交え、さまざまな角度から理解する。</p>	<p>(追加)</p>
---	-------------

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (21-25 ページ)

<p>4.3 職業専門科目の設定と理由</p> <p>4.3.2 「ビジネス科目群」</p> <p>本科目群は、ファッション産業における生産と流通・販売などの管理運営方法や、市場や産業構造について主に学ぶものである。この目的のために、<u>7</u>の科目を設置している。具体的には、「ファッションビジネス概論」、「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」、「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」、「創造産業論」、「マーケティング論」、「消費者行動論」、「知財論」から成る。</p> <p>(中略)</p> <p>そして、ファッション産業における全体的な市場の在り方や産業構造に関わるビジネスの専門性を身につけるための主な科目として、「創造産業論」、「マーケティング論」、「消費者行動論」、「広告・PR論」がある。</p> <p>これらの科目は、学問知にあたる基礎理論の理解が欠かせない。「創造産業論」の科目では、模倣から創造という産業史の流れを学ぶ。「マーケティング論」では、マーケティング論の全体像を理解し、企業の存続及び成長につながる製品やサービスの提供、売り上げや利益に関する基礎理論を学ぶ。「消費者行動論」では、マーケティング論の一環として消費者行動に関する基礎理論を学ぶ。「広告・PR論」では、メディアを通じて提供されるコンテンツが消費文化においてはたす機能と役割、広告・PR産業について基本的な理解を深める。また、「知財論」は、クリエイションとビジネスの両方の分野で共通して必要な法律の知識を学ぶよう設計している。</p>	<p>4.3 職業専門科目の設定と理由</p> <p>4.3.2 「ビジネス科目群」</p> <p>本科目群は、ファッション産業における生産と流通・販売などの管理運営方法や、市場や産業構造について主に学ぶものである。この目的のために、<u>11</u>の科目を設置している。具体的には、「ファッションビジネス概論」、「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」、「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」、「国際ファッション市場論」、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」、「創造産業論」、「(追加)」、「知財論」、「国際知財論」から成る。</p> <p>(中略)</p> <p>そして、ファッション産業における全体的な市場の在り方や産業構造に関わるビジネスの専門性を身につけるための主な科目として、「国際ファッション市場論」、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」、「創造産業論」(追加)がある。</p> <p>これらの科目は、学問知にあたる基礎理論の理解が欠かせない。「国際ファッション市場論」では、ファッションに関わる市場論や産業論の基礎理論を学び、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」では、組織やビジネスモデルを含めた応用を学ぶ。「創造産業論」の科目では、模倣から創造という産業史の流れを学ぶ。(追加)また、「知財論」、「国際知財論」は、クリエイションとビジネスの両方の分野で共通して必要な法律の知識を学ぶよう設計している。</p>
--	---

(参照) 「2 教育課程等の概要」
「23 臨地実務実習施設等」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

9. <教育課程の見直しの方策が不明確>
 教育課程連携協議会での議論を大学として受け止め、実際の教育課程の改定につなげていく方策など、専門職大学として教育課程の不断の見直しを行う方策が不明確なため、説明する。

(対応) 教育課程連携協議会での議論を受け止める方法と、その意見をもとに、実際の教育課程の改定につなげる方策を説明する。専門職大学として教育課程の不断の見直しを行う方策を明確にする。

・教育課程連携協議会の議論を受け止める方法

本学は、1学部につき、1つの教育課程連携協議会で構成される。教育課程連携協議会は、原則年1回以上開催し、本学の教育課程の実施状況を報告する。協議会でなされた教育課程の見直しに関する議論や事項は、各学科の教育課程連携協議会の構成員である教員（ファッションクリエイション学科の永澤陽一、ファッションビジネス学科の古田祐幸、大阪ファッション学科の藤井輝之、名古屋ファッション学科の篠田隆典）が各学科に持ち帰り、加えて大学評議会に副学長が教育課程連携協議会での議論を持ち帰り、必要事項を検討する。

各学科で検討された内容は、法人本部が運営する教学に関する学務室がその内容を集約し、その結果を大学評議会に報告し検討を進める。教学に係る重要事項は大学評議会にて審議する。大学評議会は、学長、学部長、事務方の校舎統轄責任者、及び担当理事で構成される。大学評議会での審議結果は、担当理事が理事会に報告する。大学評議会の構成員は会議を設け、教育課程の見直しに関する意見交換を行い教育課程連携協議会での議論を受け止める。

なお大学評議会の位置づけを明確にするため、学則に付記した。重ねて大学評議会の規定を添付する。

・実際の教育課程の改定につなげる方策

理事会で建議され見直しを行うべき内容は、議論を受け止めた方法の逆方向を辿って実際の教育課程の改訂につなげる。すなわち、担当理事が大学評議会に議論を持ち帰り、そこから実際の改訂内容の提案に向けた指示を学務室、各校舎の統轄責任者を通して学科に戻し実際の教育課程の改訂につなげる。

(新旧対照表) 学則 (全学共通、10 ページ)

新	旧
<u>(大学評議会)</u> <u>第50条 本学に、教学にかかわる全学的に重要な事項を審議することを目的とする大学評議会を置く。</u> <u>2. 大学評議会に関する事項については、別に定める。</u>	<u>(追加)</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (32-33 ページ)

新	旧
<p>7. 教育課程連携協議会について</p> <p>7.1 教育課程連携協議会の構成</p> <p>本学は、産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために、教育課程連携協議会を設ける。教育課程連携協議会は、次の者をもって構成するものとする。</p> <p>1. 学長が指定する教員その他の職員として、副学長、ファッションクリエイション学科専任教員、ファッションビジネス学科専任教員、ファッションビジネス学科専任教員、大阪ファッション学科専任教員、名古屋ファッション学科専任教員の 6 名を任命し、教育課程の編成、実施を円滑かつ効果的に行う。</p> <p>(中略)</p> <p><u>7.3 教育課程連携協議会の議論を受け止め、教育課程の改定につなげる方法</u></p> <p><u>本学は、1 学部につき、1 つの教育課程連携協議会で構成される。教育課程連携協議会は、原則年 1 回以上開催し、本学の教育課程の実施状況を報告する。協議会でなされた教育課程の見直しに関する議論や事項は、各学科の教育課程連携協議会の構成員である教員（ファッションクリエイション学科の永澤陽一、ファッションビジネス学科の古田祐幸、大阪ファッション学科の藤井輝之、名古屋ファッション学科の篠田隆典）が各学科に持ち帰り、加えて大学評議会に副学長（田中雅一）が教育課程連携協議会での議論を持ち帰り、必要事項を検討する。</u></p> <p><u>各学科で検討された内容は、法人本部が運営する教学に関する学務室がその内容を集約し、その結果を大学評議会に報告し検討を進める。教学に係る重要事項は大学評議会に審議する。大学評議会は、学長、学部長、事務方の校舎統轄責任者、及び担当理事で構成される。大学評議会での審議結果は、担当理事が理事会に報告する。大学評議会の構成員は会議を設け、教育課程の見直しに関する意見交換を行い教育課程連携協議会での議論を受け止める。なお大学評議会の位置づけを明確にするため、学則に付記し、大学評議会の規定を定めた。</u></p> <p><u>理事会で建議され見直しを行うべき内容は、議論を受け止めた方法の逆方向を辿って実際の教育課程の改訂につなげる。すなわち、担当理事が大学評議会に議論を持ち帰り、そこから実際の改訂内容の提案に向けた</u></p>	<p>7. 教育課程連携協議会について</p> <p>7.1 教育課程連携協議会の構成</p> <p>本学は、産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために、教育課程連携協議会を設ける。教育課程連携協議会は、次の者をもって構成するものとする。</p> <p>1. 学長が指定する教員その他の職員として、副学長、ファッションクリエイション学科学科長、ファッションビジネス学科学科長、ファッションビジネス学科学科長、大阪ファッション学科学科長、名古屋ファッション学科学科長の 6 名を任命し、教育課程の編成、実施を円滑かつ効果的に行う。</p> <p>(中略)</p> <p><u>(追加)</u></p>

指示を学務室、各校舎の統轄責任者を通して 学科に戻し実際の教育課程の改訂につなげ る。	
---	--

- (参照) 「21 教育課程連携協議会構成員名簿等」
「22 教育課程連携協議会の設置、所掌等に関する規程」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
【全学共通】

10. <教育課程連携協議会の構成員区分が不適切>
 教育課程連携協議会の構成員のうち、「当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者」又は「地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者」に該当しない者が含まれているため、構成区分を改めること。

(対応) **構成員区分を適切に改めた**

教育課程連携協議会の構成員のうち、「当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者」又は「地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者」に該当しない者を含まないように、以下の通り構成員区分を適切に改めた。

・ **変更点**

- 7番：「職業」を改め「その他」へ
- 8番：「職業」「協力」「地域」を改め「協力」へ
- 9番：「職業」「協力」を改め「協力」へ
- 10番：「職業」「協力」を改め「協力」へ
- 11番：「職業」「協力」を改め「協力」へ
- 12番：「協力」「地域」を改め「職業」へ
- 17番：「地域」「協力」を改め「協力」へ
- 18番：「協力」「地域」を改め「職業」へ
- 19番：「職業」「協力」「地域」を改め「地域」「協力」へ
- 20番：「地域」「協力」を改め「協力」へ

(新旧対照表) 教育課程連携協議会構成員名簿 (2-4 ページ)

新				旧			
番号	構成員区分	氏名	現所属及び役職名	番号	構成員区分	氏名	現所属及び役職名
7	その他	幼方聡子	東レ株式会社 宣伝室 室長	7	職業	幼方聡子	東レ株式会社 宣伝室 室長
8	協力	山本誠	ダーナ有限会社 代表取締役	8	職業 協力 地域	山本誠	ダーナ有限会社 代表取締役
9	協力	白倉亮一	株式会社 ジャヴァコーポレーション 経営企画部 課長	9	職業 協力	白倉亮一	株式会社 ジャヴァコーポレーション 経営企画部 課長

10	<u>協力</u>	齋藤統	一般社団法人 神戸アンガージュマ ン代表理事 PARIS asian european consulting company Director	10	<u>職業 協力</u>	齋藤統	一般社団法人 神戸アンガージュマ ン代表理事 PARIS asian european consulting company Director
11	<u>協力</u>	<u>ピケ・ ブノア</u>	株式会社ネリーロデ イ・ジャポン 代表取締役	11	<u>職業 協力</u>	<u>城山敦子</u>	株式会社ネリーロデ イ・ジャポン 代表取締役
12	<u>職業</u>	太田公一	新宿区文化観光産業 部 産業振興課長	12	<u>協力 職業</u>	太田公一	新宿区文化観光産業 部 産業振興課長
17	<u>協力</u>	土田善一	株式会社土田産業 取締役社長	17	<u>地域 協力</u>	土田善一	株式会社土田産業 取締役社長
18	<u>職業</u>	富田篤	株式会社富田染工芸 代表取締役	18	<u>協力 地域</u>	富田篤	株式会社富田染工芸 代表取締役
19	<u>地域 協力</u>	久野剛資	有限会社絞染色 久 野染工場 代表取締 役	19	<u>職業 地域 協力</u>	久野剛資	有限会社絞染色 久 野染工場 代表取締 役
20	<u>協力</u>	橋本英一	有限会社コットンラ イフ 取締役	20	<u>地域 協力</u>	橋本英一	有限会社コットンラ イフ 取締役

- (参照) 「21 教育課程連携協議会構成員名簿等」
「22 教育課程連携協議会の設置、所掌等に関する規程」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

1 1. <科目区分の定義と配置された科目の不整合>

本来、職業専門科目に配置すべき専攻する職種の専門的な能力を育成する科目が、基礎科目に多数含まれ、展開科目も一部含まれており、専門職大学設置基準第13条に規定された科目区分の趣旨に反している。このため、「生涯にわたり自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する」ことを目的としている基礎科目の趣旨、及び「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的としている展開科目の趣旨を踏まえ、本学が基礎科目及び展開科目を通じてどのような能力を養成しようとし、そのために具体的にどのような教育課程を通じて実現しようとするのか明らかにするとともに、基礎科目、展開科目のなかで、貴学が便宜的に設定した科目区分名称とともに、定義に合致しない科目の配置を適切に修正すること。

(対応) 専門職大学設置基準第13条に規定された科目区分の趣旨に沿って科目配置を適切に見直し、教育課程を是正した

・科目区分の趣旨に沿った科目配置

専門職大学設置基準第13条に規定された科目区分の趣旨、特に「生涯にわたり自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する」ことを目的としている基礎科目の趣旨に沿って、及び「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的としている展開科目の趣旨を踏まえて、科目配置を適切に見直し教育課程を是正した。

基礎科目では、「生涯にわたり自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する」ことを目的とする専門職大学設置基準の基礎科目の趣旨に沿って、「一般的に国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力(汎用的能力)」を養成する。そのために、全学科に共通して、経済、社会、文化、情報、環境などの一般教養を養成する科目と、職業人としてのキャリアや倫理を考える科目、コミュニケーション能力を養う語学科目で教育課程を構成し、上記の汎用的能力を養成しようとする。

申請時の基礎科目の教育課程では、便宜的に中分類の科目区分を設定し、分類した科目があったが、それらの中分類の科目区分設定には上記の趣旨に合わない科目が多数含まれていたため設定を改めた。授業の講義内容の変更を伴わない区分変更である。加えて、基礎科目の趣旨に沿った科目を追加した。以上の点は、本学が掲げるディプロマ・ポリシーと重なり、その力を身につけさせるために掲げたカリキュラム・ポリシーと連動している。

展開科目では、「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とする専門職大学設置基準の展開科目の趣旨に沿って、「現代のファッション産業の国際化や情報化などの変化に対応する能力」を養成する。

そのために、全学科に共通して、「発信力科目群」と「国際科目群」という科目名称の中分類を設け、「専攻するファッション産業分野に関連する国際分野及びメディア分野などの応用的な能力であって、当該ファッション産業分野において創造的な役割を果たすために必

要な対応力を養成する科目」、すなわち、「環境、地域、デジタルテクノロジーなどと、ファッション産業の関係を考える応用的科目」、「ファッション産業に関する、モノを作り、モノを売る基本的知識と技術を国際的に展開するための実践的な講義、演習、海外臨地実習などの応用的科目」などで教育課程を構成し、これらの科目を通じて、本学が考える上記の展開力を養成する。より具体的には、「豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と、「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする対応力」を養成する。

申請時の基礎科目の教育課程では、便宜的に中分類の科目区分で、「メディア科目群」という名称を付け教育課程を構成していたが、その区分は上記の「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の能力」であって、「当該ファッション産業の分野において創造的な役割を果たすために本学が必要と考える応用的な能力を育成する」趣旨には十分に答えられていない科目で構成されていたため設定を改めた。以上の点は、本学が掲げるディプロマ・ポリシーと重なり、その力を身につけさせるために掲げたカリキュラム・ポリシーと連動している。

主な変更点は、次の通りである。

- ・基礎科目に「地域論入門」「情報リテラシー」「環境と社会」「キャリアデザイン論」を追加した。
- ・基礎科目の「ファッション論科目群」を、職業専門科目の「ファッション基礎科目群」として追加した。
- ・基礎科目の、造形、装いに関わる科目を、職業専門科目の「ファッション基礎科目群」として追加した。
- ・展開科目の、写真、映像、メディアに関わる科目を、職業専門科目として追加した。
- ・展開科目の「メディア概論」を基礎科目へ分類した。
- ・展開科目に「環境とビジネス」「地域産業論」「地域産業・大阪論」「地域産業・名古屋論」「ファッション産業とメディアデザイン演習」「デジタルアーカイブ論」「デジタルテクノロジー演習」「国際展示会演習」「国際ファッション市場論」「国際ビジネスモデル特講Ⅰ」「国際ビジネスモデル特講Ⅱ」「国際知財論」「海外実習Ⅰ」「海外実習Ⅱ」などを追加した。具体的な科目の変更点は全て、別途「2 教育課程等の概要」と「3 授業科目の概要」に明記している。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15-27 ページ)

新	旧
<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (中略)</p> <p>1.2 項目の学位授与 (ディプロマ・ポリシー) の方針で述べたように、豊かな教養と職業人としての倫理を備えた人材育成とともに、本学が目指すのは、ファッション産業界における先導的かつ国際的な視野を持った専門性の高い人材の輩出である。かかる人材は自ら課題を発見し、その解決のために論理的思考能力を持つ人材である。つまり、豊かな感性を備え、同時に、現実の社会や産業界において実践的な解決策を見出す人物である。こうした学問知、技術知、実践知に関する論理力と感性への理解という両軸が習得される</p>	<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (中略)</p> <p>1.2 項目の学位授与 (ディプロマ・ポリシー) の方針で述べたように、豊かな教養と職業人としての倫理を備えた人材育成とともに、本学が目指すのは、ファッション産業界における先導的かつ国際的な視野を持った専門性の高い人材の輩出である。かかる人材は自ら課題を発見し、その解決のために論理的思考能力を持つ人材である。つまり、豊かな感性を備え、同時に、現実の社会や産業界において実践的な解決策を見出す人物である。こうした学問知、技術知、実践知に関する論理力と感性への理解という両軸が習得される</p>

よう、以下では科目の設定とその理由を説明する。自ら課題を発見し、その解決のために論理的思考能力を持つ人材である。つまり、豊かな感性を備え、同時に、現実の社会や産業界において実践的な解決策を見出す人物である。こうした学問知、技術知、実践知に関する論理力と感性への理解という両軸が習得されるよう、以下では科目の設定とその理由を説明する。

4.1 教育課程における編成の体系化（カリキュラム・ポリシー）

（中略）

上記 4 つの大分類科目のなかで、「職業専門科目」と「展開科目」には共通する目的をもつ科目に中分類を設ける。「職業専門科目」には、「ファッション論科目群」、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」、「地域・地方科目群」、「語学科目群」の中分類を設け、「展開科目」には「発信力科目群」、「国際科目群」の中分類を設ける。科目群の詳細は、続く 4.2 項以降で述べる。

（中略）

加えて本学は、学術的研究を基礎とした専門知識と、実践的な技術を基礎とする専門能力をもって、ファッション産業界及び関連する地域企業や社会の課題を多面的に認識し、その課題に対応するために必要な科目を自ら設定し開設している。特徴的なのは、基礎科目における多文化共生などの教養を身につける文化論科目、社会科学や自然科学の基礎教養を身につける科目、基礎ゼミなどの開設である。また、職業専門科目における「ファッション論科目群」、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」であり、全学生にファッション産業のモノを作り、モノを売る、両方の要素に関係する科目を、概ね必修で履修するよう開設し基本的な知識と技術を身につけさせる。さらに、展開科目における「発信力科目群」、「国際科目群」の開設である。新たなデジタルテクノロジーとファッション産業の関係を考える応用的科目、ファッション産業に関する、モノを作り、モノを売る基本的知

よう、以下では科目の設定とその理由を説明する。（追加）

4.1 教育課程における編成の体系化（カリキュラム・ポリシー）

（中略）

上記 4 つの大分類科目のなかには、共通する目的をもつ科目に中分類を設ける。「基礎科目」には、「文化論科目群」、「ファッション論科目群」、「社会科学科目群」、「基礎ゼミ科目群」、「語学科目群」の中分類を設ける。「職業専門科目」には、「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」、「地域・地方科目群」、「語学科目群」の中分類を設け、「展開科目」には「メディア科目群」、「国際科目群」の中分類を設ける。科目群の詳細は、続く 4.2 項以降で述べる。

（中略）

加えて本学は、学術的研究を基礎とした専門知識と、実践的な技術を基礎とする専門能力をもって、ファッション産業界及び関連する地域企業や社会の課題を多面的に認識し、その課題に対応するために必要な科目を自ら設定し開設している。特徴的なのは、基礎科目における「文化論科目群」、「ファッション論科目群」、「基礎ゼミ科目群」の開設である。また、職業専門科目において、全学生に「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」両方の要素に関係する科目を必修で履修するよう開設している科目である。さらに、展開科目における「メディア科目群」、「国際科目群」の開設である。

（追加）

識と技術を国際的に展開する海外実習などの応用的科目などで構成し、これらの科目を通じて、本学が考える上記の展開力、より具体的には、「豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と、「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする対応力」を養成しようとする。

上記の科目は、その前後の科目とつながって体系的な専門知識や技術を学ぶことができるとともに、学内外の学習ともつながりを持つ設計にしている。例えば、基礎科目や一部職業専門科目で学ぶ基礎ゼミは、大学4年間を通じて問題発見と解決方法を探求するという自主学習や演習の練習となるように設計している。同時に、各基礎ゼミ科目は、基礎科目の文化論科目、職業専門科目の「ファッション論科目群」などと有機的につながりがあり、講義とゼミを往復して学生の習熟を促すことのできる場としても設計されている。このような演習の練習を早期に積むことで、臨地実習等の学外における学びをより主体的なものとし、かつ学びの結果をフィードバックすることを通じて、柔軟で実践的な力をつけるような科目としている。

(中略)

4.2 基礎科目の設定と理由

「基礎科目」は、専門職大学設置基準第13条に規定された科目区分の趣旨、特に「生涯にわたり自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する」ことを目的としている基礎科目の趣旨に沿って、「一般的に国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力（汎用的能力）」を養成する科目と位置付ける。高等教育機関の一部に位置づく本学において、教養教育としての深い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養する重要な科目と位置付けている。

(中略)

(削除)

多文化共生や国際社会で通用する教養につ

上記の科目は、その前後の科目とつながって体系的な専門知識や技術を学ぶことができるとともに、学内外の学習ともつながりを持つ設計にしている。例えば、基礎科目で学ぶ基礎ゼミ科目群は、大学4年間を通じて問題発見と解決方法を探求するという自主学習や演習の練習となるように設計している。同時に、各基礎ゼミ科目は、基礎科目の「文化論科目群」、「ファッション論科目群」などと有機的につながりがあり、講義とゼミを往復して学生の習熟を促すことのできる場としても設計されている。このような演習の練習を早期に積むことで、臨地実習等の学外における学びをより主体的なものとし、かつ学びの結果をフィードバックすることを通じて、柔軟で実践的な力をつけるような科目としている。

(中略)

4.2 基礎科目の設定と理由

「基礎科目」は、高等教育機関の一部に位置づく本学において教養教育としての深い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養するための重要な科目と位置付けている。

(中略)

以下に示すように、中分類「文化論科目群」、「ファッション論科目群」、「社会科

らなる包括的な視点を学ぶ科目として「比較文化論」、「現代文化論」がある。「比較文化論」では、物質文化（衣食住）や宗教、アートに注目することで価値観の多様性を学び、「文化相対主義」という考え方を習得する。「現代文化論」では、産業革命以後の現代社会のあり方について学び、社会変化が伝統的な文化に与えた影響や新しい文化の創出について学ぶ。「ヨーロッパの社会と文化」では、ヨーロッパという地域の社会と文化について学ぶ。ヨーロッパ地域は、文化産業、政治、経済的に影響力を持つ地域であり続けている。ヨーロッパはまとまりがあると同時に多様な民族を抱える地域でもある。その複雑な歴史や文化の特徴を学ぶことで、ヨーロッパ中心に展開してきたファッション・ワールドの前提となるような基礎教養を身につける。

以上の科目を有機的に結びつけ、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として「文化論基礎ゼミ」を用意する。講義を主とする授業科目が、どちらかというとなんだか知識や方法を学ぶ場であるのに対し、演習を主とするゼミ科目では、習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。他のゼミにも当てはまることだが、基礎ゼミでは大学 4 年間で必要な学習態度、すなわち課題の発見、レポートの書き方、質疑の方法、文献の調べ方などについても学ぶことになる。

そして社会科学に関する基礎教養を学ぶ科目は、「会計入門」、「産業論入門」、「法学入門」、「地域論入門」、「フィールドワーク入門」の科目からなる。職業専門科目においてファッション分野にかかるクリエイションの他に、本格的なビジネスや知財論の知識を習得する前に、基礎となる商学・法学系科目、産業に関する歴史的展開について講義を中心とした授業で学ぶ。また職業専門科目、展開科目で行う臨地実習の前段階として、フィールドワーク入門の授業を位置付ける。クリエイションやビジネスの現実世界に触れる機会を最大限に活かすためにも、現場ではどのような問いを立て、どのような問いかけをしていくのか、各校舎に身近な場所で

学科目群」、「基礎ゼミ科目群」加えて「語学科目群」からなる。

4.2.1 「文化論科目群」

本学の教育課程では、まず「文化論基礎科目群」として世界各地の装い、服飾文化の多様性を学ぶ。この目的のために 7 つの科目と、連携科目として 1 つの基礎ゼミを設置している。1.2.1 項目で述べた内容と関連する。

衣服は、身体と自然（外界）とを分かちと同時に結びつける人工物である。伝統的に衣服は自然素材からなっていることを考えると、衣服は身体に最も近い「自然」とも言える。他方、わたしたちにとって身体は第二の自然とも称されるように、心（精神）に対して最も近い自然とも言える。しかしながら、身体はわたしたちの心の状態に大きな影響を与えるし、また反対に心は身体にさまざまな変化をもたらす。そのような心身の相即的な関係と衣服とは密接に結びついている。基礎科目「身体とパフォーマンス」では、「身体とは何か?」、「身体と心の関係はどのようなものか?」という根源的な問いを念頭に、日常ならびに特別な機会における身体と衣服との関係を学ぶことを目的とする。そして「造形論入門」で身体の使い方を具体的なイメージとして学ぶ。「自然資源と服飾文化」では、衣服の素材である自然資源（動植物の自然繊維、毛皮など）に注目し、これがどのような形で服飾文化の多様性に大きな影響を与えているのか、また化繊の普及がそうした服飾文化をどのように変容させてきたのかを学ぶ。衣服は素材を含め誰でも作ることでできるものもあるが、多くは職人たちによって生産されてきた。「職人の世界」では、職人の社会や背景となる文化、彼らの考え方、具体的な技術の継承、使用する道具などについて学ぶ。「装いと社会性・ジェンダー」では、服飾が身体を保護するだけでなく、身にまとう人の社会的な属性を表す記号として機能する点について学ぶ。社会的属性とは、階層、年齢、ジェンダー（性差）である。素材を提供する自然環境に留まらず、社会的地位もまた衣服が多様化する要員として無視できないのである。これらの科目で理解される衣

の訓練を通じて学ぶ。以上の科目を有機的に結びつけ、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として「社会科学基礎ゼミ」を用意する。「社会科学基礎ゼミ」の科目の設定の意図と目的は、上記の「文化論基礎ゼミ」と同様で、基礎ゼミ科目は、基礎科目の定着を図り、深い理解につなげるための演習科目である。関係する科目を履修する学生は基礎ゼミを履修することが望ましい。基礎ゼミでは、受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献等を検討した結果を発表する。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。基礎科目の講義と基礎ゼミは有機的に関係しており、受講生の学習を相互に補完する。また、続く職業専門科目におけるゼミ演習科目の基礎と位置付けている。

自然科学系科目は、「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」から成る。情報環境や環境問題、に関わる一般的かつ基本的なリテラシーと情報機器の使用方法を学ぶ。

語学科目は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「日本語文章表現」から成る。グローバルに活躍するために欠かせない基礎言語として英語を重点的に配置した。続く職業専門科目において、「国際ファッション業界英語」の基礎をなす。また、簡潔で、論理的な文章を書く能力を養うために「日本語文章表現」を配置した。受講生は、就職後頻繁に作成することとなる企画書や報告書の作成などを想定して、基礎的なテキスト等を使用しながら、内容を端的にまとめ、説得的に示す修練を行う。加えて、「キャリアデザイン論」で職業人としての倫理と、自身の就業に関する計画をまとめる。基礎科目の履修後、職業専門科目、展開科目、総合科目全てに関わるプレゼンテーション能力の基礎訓練とする。

服とは、何よりも身体と自然、文化と自然を結びつけるインターフェースとしての衣服である。

これらの科目をもう少し包括的な視点から学ぶ連携科目として「比較文化論」が、またこれらの基礎科目と次のファッションに関する科目を結びつけるものとして、「現代文化論」の二つを準備する。「比較文化論」では、服飾を中心とする物質文化（衣食住）や宗教、アートに注目することで価値観の多様性を学び、「文化相対主義」という考え方を習得する。「現代文化論」では、産業革命以後の現代社会のあり方について学び、社会変化が伝統的な文化に与えた影響や新しい文化の創出について学ぶ。

以上の7つの科目を有機的に結びつけ、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として「文化論基礎ゼミ」を用意する。講義を主とする授業科目が、どちらかというとなたな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、演習を主とするゼミ科目では、習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。他のゼミにも当てはまることだが、基礎ゼミでは大学4年間で必要な学習態度、すなわち課題の発見、レポートの書き方、質疑の方法、文献の調べ方などについても学ぶことになる。

4.2.2 「ファッション論科目群」

次に、「ファッション論科目群」では、先の文化論科目とその連携科目に関連しつつ、ファッション・ワールドを多角的に学ぶ。ヨーロッパを中心に生まれたファッション・ワールドを学習の対象として、6つの科目と基礎ゼミを準備している。1.2.2項目で述べた内容と関連する。

本学では、ファッション・ワールドを理解するにあたって、「ヨーロッパの社会と文化」、「美とファッションの歴史」、「色彩論入門」さらにファッション産業の構造を学習する「ブランドの歴史と文化」、衣服以外の美容や痩身、美容整形を対象とする「美容とファッション」、主流から外れるファッションを取り扱う「サブカルチャー・スタイル」を提供する。

現代の欧米の都市で毎年創出されるファッションは、欧州内部でとどまることは少なく商品となって中核都市（メトロポリス）から地方へ、上流階級から中間層へ、欧米から世界へと滲出・普及していく。ファッションは都市と地方、異なる二つの階級を時に分断し、時に結びつける。これもまたインターフェースとしての衣服の一面である。

「ヨーロッパの社会と文化」では、ファッション・ワールドを生み出し、支えるヨーロッパという地域の社会と文化について学ぶ。なぜヨーロッパ地域は、ファッションの分野においてこれほどの影響力を持つ地域であり続けてきたのか。ヨーロッパはまとまりがあると同時に多様な民族を抱える地域でもある。その複雑な歴史や文化の特徴を学ぶことで、これまでヨーロッパ中心に展開してきたファッション・ワールドの前提となるような考え方を理解する。「美とファッションの歴史」では、ファッション・ワールドの歴史とその中核に位置する美の基準や価値観について理解を深める。ファッションがどのような美的価値に基づいて生まれ、またファッションの中核をなす衣服や装飾品、靴やバッグがどのような新たな美を生み出すのかという問題を学習する。「美とファッションの歴史」がファッション・ワールドのソフトな側面であるとするなら、「ブランドの歴史と文化」はファッション・ワールドのハードな側面を扱うと言える。著名なデザイナーを抱えるハウスやメゾンと呼ばれるブランドを中心にファッション・ワールドは構成されている。具体的には著名なブランドの歴史や活動を学習する。この科目は、ビジネス関連の科目とも密接に結びついている。「美容とファッション」では、ファッションに関係する、美容や痩身、美容整形を対象とする。衣服や装飾品を無視することはできないが、それ以外の要素、例えば化粧品、さらに身体そのものの加工（痩身の技術やタトゥーなど）も無視できない。本科目では、身体に関わる美容を扱うことで、文化科目群の「身体とパフォーマンス」と密接に関連する。最後に「サブカルチャー・スタイル」では、ファッション・ワールドの周縁から生まれるようなファッション

を取り上げる。その母体は、サブカルチャーであるが、そこで生まれたファッションが主流派（メインストリーム）のファッションに影響を与えることもある。本科目ではファッション・ワールドとサブカルチャーとの相互関係に注目する。

以上の 6 つの科目を有機的に結びつけ、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として「ファッション論基礎ゼミ」を用意する。「ファッション論基礎ゼミ」の科目の設定の意図と目的は、上記の「文化論基礎ゼミ」と同様である。

4.2.3 「社会科学科目群」

社会科学科目群は、「会計入門」、「産業論入門」、「法学入門」、「フィールドワーク入門」の科目からなる。1.2.2 項目で述べた内容と関連する。

職業専門科目においてファッション分野にかかるクリエイションの他に、本格的なビジネスや知財論の知識を習得する前に、基礎となる商学・法学系科目、産業に関する歴史的展開について講義を中心とした授業で学ぶ。また職業専門科目、展開科目で行う臨地実習の前段階として、フィールドワーク入門の授業を位置付ける。クリエイションやビジネスの現実世界に触れる機会を最大限に活かすためにも、現場ではどのような問いを立て、どのような問いかけをしていくのか、各校舎に身近な場所での訓練を通じて学ぶ。

以上の 4 つの科目を有機的に結びつけ、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として「社会科学基礎ゼミ」を用意する。「社会科学基礎ゼミ」の科目の設定の意図と目的は、上記の「文化論基礎ゼミ」と同様である。

4.2.4 「基礎ゼミ科目群」

基礎ゼミ科目群は、「文化論基礎ゼミ」、「ファッション論基礎ゼミ」、「社会科学基礎ゼミ」から成る。上述のように、これらは基礎科目の定着を図り、深い理解につなげるための演習科目である。基礎科目の「身体とパフォーマンス」、「職人の世界」、「比較文化論」、「現代文化論」、「ヨーロッパの社会と文化」等の文化論系の科目を履修した

<p>4.3 職業専門科目の設定と理由</p> <p>「職業専門科目」は、国際ファッション専門職大学において、ファッション産業に関わる専門職人材の高い専門性及び実践力を養うための重要な<u>基本的な知識と技術を身につける科目と位置付けている。</u>（中略）</p> <p>具体的には、「<u>ファッション論科目群</u>」、</p>	<p><u>受講生は「文化論基礎ゼミ」を選択することが望ましい。そして、「装いと社会性・ジェンダー」、「自然資源と服飾文化」、「美とファッションの歴史」、「ブランドの歴史と文化」、「美容とファッション」、「色彩論入門」、「サブカルチャー・スタイル」等の装いやファッション、美やファッション系科目を履修した受講生は「ファッション論基礎ゼミ」を選択することが望ましい。また、「会計入門」、「産業論入門」、「法学入門」等の社会科学系科目を履修した受講生は「社会科学基礎ゼミ」を選択することが望ましい。</u></p> <p><u>基礎ゼミでは、受講生が主体的にテーマを選び、関連する文献等を検討した結果を発表する。各受講生は発表者に質問を投げかけて相互に学習を促し、理解を掘り下げる。基礎科目の講義と基礎ゼミは有機的に関係しており、受講生の学習を相互に補完する。また、続く職業専門科目におけるゼミ演習科目の基礎と位置付けている。</u></p> <p>4.2.5 「語学科目群」</p> <p><u>語学科目群は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「日本語文章表現」から成る。グローバルに活躍するために欠かせない基礎言語として英語を重点的に配置した。続く職業専門科目において、「国際ファッション業界英語」の基礎をなす。また、簡潔で、論理的な文章を書く能力を養うために「日本語文章表現」を配置した。受講生は、ファッション産業でも頻繁に使用される企画書や報告書の作成などを想定して、基礎的なテキスト等を使用しながら、内容を端的にまとめ、説得的に示す修練を行う。基礎科目の履修後、職業専門科目、展開科目、総合科目全てに関わるプレゼンテーション能力の基礎訓練とする。</u></p> <p>4.3 職業専門科目の設定と理由</p> <p>「職業専門科目」は、国際ファッション専門職大学において、ファッション産業に関わる専門職人材の高い専門性及び実践力を養うための重要な<u>（追加）科目と位置付けている。</u>（中略）</p> <p>具体的には、<u>（追加）「デザイン科目群」、</u></p>
---	---

「デザイン科目群」、「ビジネス科目群」、「メディア科目群」、「地域・地方科目群」から成る。(中略)

4.3.1「ファッション論科目群」

「ファッション論科目群」では、本学の教育課程で重要視する、ファッションとは何か、ひとが服を着ること、装うとはどういうことかを考え、ファッションのコンセプトの基礎となる知識やモノの見方を醸成する。具体的には、世界各地の装い、服飾文化の多様性を学ぶとともに、こうした科目と関連して、ファッション・ワールドを多角的に学ぶ。この目的のために11の科目を設置している。1.2.1及び1.2.2項目で述べた内容と関連する。

衣服は、身体と自然(外界)とを分かちと同時に結びつける人工物である。伝統的に衣服は自然素材からなっていることを考えると、衣服は身体に最も近い「自然」とも言える。他方、わたしたちにとって身体は第二の自然とも称されるように、心(精神)に対して最も近い自然とも言える。しかしながら、身体はわたしたちの心の状態に大きな影響を与えるし、また反対に心は身体にさまざまな変化をもたらす。そのような心身の相即的な関係と衣服とは密接に結びついている。基礎科目「身体とパフォーマンス」では、「身体とは何か?」、「身体と心の関係はどのようなものか?」という根源的な問いを念頭に、日常ならびに特別な機会における身体と衣服との関係を学ぶことを目的とする。そして「造形論入門」で身体の使い方を具体的なイメージとして学ぶ。「自然資源と服飾文化」では、衣服の素材である自然資源(動植物の自然繊維、毛皮など)に注目し、これがどのような形で服飾文化の多様性に大きな影響を与えているのか、また化繊の普及がそうした服飾文化をどのように変容させてきたのかを学ぶ。衣服は素材を含め誰でも作ることできるものもあるが、多くは職人たちによって生産されてきた。「職人の世界」では、職人の社会や背景となる文化、彼らの考え方、具体的な技術の継承、使用する道具などについて学ぶ。「装いと社会性・ジェンダー」で

「ビジネス科目群」、「地域・地方科目群」、「語学科目群」から成る。(中略)

4.3.1「デザイン科目群」

本科目群は、ファッション産業におけるデザインやモノづくりを主に学ぶものである。この目的のために、11の科目を設置している。

具体的には、「ファッションデザイン論」、「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「デザイン概論」、「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」、「テキスタイル基礎」、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目からなる。このなかで、クリエイションの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションデザイン論」と「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」がある。「ファッションデザイン論」では基礎理論を学び、そして「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」では応用と実践を学ぶ。この科目は、デザイナーを育成するために必須の科目である。そして、どちらかといえばビジネスの専門性に近い、企画や管理運営の専門性を学ぶための主な科目として、「デザイン概論」と「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」がある。「デザイン概論」で基礎理論を、そして「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」でその応用と実践を学ぶ。これらの履修により、デザインなどのクリエイションを中心とした履修を行う学生であっても、ビジネスの思考を学ぶ設計としている。また、「テキスタイル基礎」はその中間にあって、素材の知識をクリエイションの側面と管理運営の側面から学ぶものである。

そして、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」は、ファッション産業の新たな分野であり、実用に関わる学びになる。理由は、現在のファッション産業においてバッグやシューズが大きな割合を占めていて、この分野に関心を寄せる学生が少なからず存在するためである。また、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目は、嗜好を定量的な方

は、服飾が身体を保護するだけでなく、身にまとう人の社会的な属性を表す記号として機能する点について学ぶ。社会的属性とは、階層、年齢、ジェンダー（性差）である。素材を提供する自然環境に留まらず、社会的地位もまた衣服が多様化する要員として無視できないのである。これらの科目で理解される衣服とは、何よりも身体と自然、文化と自然を結びつけるインターフェースとしての衣服である。

そしてヨーロッパを中心に生まれたファッション・ワールドを理解するにあたって、「美とファッションの歴史」、「色彩論入門」さらにファッション産業の構造を学習する「ブランドの歴史と文化」、衣服以外の美容や痩身、美容整形を対象とする「美容とファッション」、主流から外れるファッションを取り扱う「サブカルチャー・スタイル」を提供する。

現代の欧米の都市で毎年創出されるファッションは、欧州内部でとどまることは少なく商品となって中核都市（メトロポリス）から地方へ、上流階級から中間層へ、欧米から世界へと滲出・普及していく。ファッションは都市と地方、異なる二つの階級を時に分断し、時に結びつける。これもまたインターフェースとしての衣服の一面である。

「美とファッションの歴史」では、ファッション・ワールドの歴史とその中核に位置する美の基準や価値観について理解を深める。ファッションがどのような美的価値に基づいて生まれ、またファッションの中核をなす衣服や装飾品、靴やバッグがどのような新たな美を生み出すのかという問題を学習する。

「美とファッションの歴史」がファッション・ワールドのソフトな側面であるとするなら、「ブランドの歴史と文化」はファッション・ワールドのハードな側面を扱うと言える。著名なデザイナーを抱えるハウスやメゾンと呼ばれるブランドを中心にファッション・ワールドは構成されている。具体的には著名なブランドの歴史や活動を学習する。この科目は、ビジネス関連の科目とも密接に結びついている。「美容とファッション」では、ファッションに関係する、美容や痩身、

法等を併用して把握することを学ぶ科目である。ファッション産業では「好き嫌い、似合う、似合わない」という感覚や感性の領域の嗜好性が重要であるが、それは個人の主観性の問題と見なされ、客観化あるいは一般化の試みは立ち遅れてきた。これらの科目では嗜好性を分類して把握することを学ぶ。今後、先端技術の AI（人工知能）の活用に関連した分類が進むと、ファッション産業の変化に対応する知識を習得する。

以上の科目から、必要な専門的かつ実践的な学習を行う。特に 3 年目において、学生は国内の職人の世界に接する。その臨地実習に向けて学内で以上の科目を履修し準備を行う。全学科において「ファッションデザイン論」、「デザイン概論」、「テキスタイル基礎」の科目を必修とし、ファッションビジネス学科や大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科の学生でクリエイションを主な活動としない受講生も、講義を通じてクリエイションについての基礎的知識や技術を理解することにつなげる。

各科目は、実務家出身の専任教員を相当数配置し、専門的かつ実践的な能力を付けることのできる科目編成とした。以上の科目のうち、講義による授業及び実習と、演習は有機的に結びついており、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として演習を用意する。講義や実習科目がどちらかという、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、ゼミでは習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。他のゼミにも当てはまることだが、基礎ゼミで学んだ講義と実習と演習のあり方を基礎に、各科目で課題の発見、レポートの書き方や実習の方法、質疑の方法、文献の調べ方などについても学ぶことになる。

美容整形を対象とする。衣服や装飾品を無視することはできないが、それ以外の要素、例えば化粧、さらに身体そのものの加工（瘦身の技術やタトゥーなど）も無視できない。本科目では、身体に関わる美容を扱うことで、文化科目群の「身体とパフォーマンス」と密接に関連する。最後に「サブカルチャー・スタイル」では、ファッション・ワールドの周縁から生まれるようなファッションを取り上げる。その母体は、サブカルチャーであるが、そこで生まれたファッションが主流派（メインストリーム）のファッションに影響を与えることもある。本科目ではファッション・ワールドとサブカルチャーとの相互関係に注目する。

以上の科目を有機的に結びつけ、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として「ファッション論基礎ゼミ」を用意する。「ファッション論基礎ゼミ」の科目の設定の意図と目的は、上記の基礎ゼミと同様である。

4.3.2 「デザイン科目群」

本科目群は、ファッション産業におけるデザインやモノづくりを主に学ぶものである。この目的のために、12の科目を設置している。

具体的には、「日本の衣生活・服装史入門」、「生活科学入門」、「ファッションデザイン論」、「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「デザイン概論」、「パターンメイキング」、「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」、「テキスタイル基礎」、「テキスタイル中級」、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目からなる。このなかで、日本の伝統的な文化を再認識し、デザイン力を磨くための基盤となる知識や技術を習得するための科目として「日本の衣生活・服装史入門」がある。そして、被服学の基礎となるような家政学の概説科目として「生活科学入門」がある。クリエイションの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションデザイン論」と「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」がある。「ファッションデザイン論」では基礎理論を学び、

4.3.2 「ビジネス科目群」

本科目群は、ファッション産業における生産と流通・販売などの管理運営方法や、市場や産業構造について主に学ぶものである。この目的のために、11の科目を設置している。

具体的には、「ファッションビジネス概論」、「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」、「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」、「国際ファッション市場論」、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」、「創造産業論」、「知財論」、「国際知財論」から成る。このなかで、実践的な生産と流通・販売などの管理運営方法というビジネスの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションビジネス概論」と「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」、「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」がある。「ファッションビジネス概論」では基礎理論を学び、そして「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」では応用と実践を学ぶ。さらに、「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」では、より流通・販売にひきつけた応用と実践を学ぶ。これらの科目は、マーチャンダイザーを育成するために必須の科目であり、どちらかといえばクリエイションの専門性の要素も入った

そして「ファッションデザイン演習Ⅰ、Ⅱ」では応用と実践を学ぶ。この科目は、デザイナーを育成するために必須の科目である。そして、どちらかといえばビジネスの専門性に近い、企画や管理運営の専門性を学ぶための主な科目として、「デザイン概論」と「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」がある。「デザイン概論」で基礎理論を、そして「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ、Ⅱ」でその応用と実践を学ぶ。これらの履修により、デザインなどのクリエイションを中心とした履修を行う学生であっても、ビジネスの思考を学ぶ設計としている。また、「テキスタイル基礎」はその中間にあって、素材の知識をクリエイションの側面と管理運営の側面から学ぶものである。

そして、「バッグデザイン」、「シューズデザイン」は、ファッション産業の新たな分野であり、実用に関わる学びになる。理由は、現在のファッション産業においてバッグやシューズが大きな割合を占めていて、この分野に関心を寄せる学生が少なからず存在するためである。また、「感性工学」、「デザイン感性工学」の科目は、嗜好を定量的な方法等を併用して把握することを学ぶ科目である。ファッション産業では「好き嫌い、似合う、似合わない」という感覚や感性の領域の嗜好性が重要であるが、それは個人の主観性の問題と見なされ、客観化あるいは一般化の試みは立ち遅れてきた。これらの科目では嗜好性を分類して把握することを学ぶ。今後、先端技術のAI（人工知能）の活用に関連した分類が進むと、ファッション産業の変化に対応する知識を習得する。

以上の科目から、必要な専門的かつ実践的な学習を行う。特に3年目において、学生は国内の職人の世界に接する。その臨地実習に向けて学内で以上の科目を履修し準備を行う。全学科において「ファッションデザイン論」、「デザイン概論」、「テキスタイル基礎」の科目を必修とし、ファッションビジネス学科や大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科の学生でクリエイションを主な活動としない受講生も、講義を通じてクリエイションについての基礎的知識や技術を理解

ものとして設計している。これらの履修により、管理運営などのビジネスを中心とした履修を行う学生であっても、クリエイションの思考を学ぶ設計としている。

そして、ファッション産業における全体的な市場の在り方や産業構造に関わるビジネスの専門性を身につけるための主な科目として、「国際ファッション市場論」、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」、「創造産業論」がある。これらの科目は、学問知にあたる基礎理論の理解が欠かせない。「国際ファッション市場論」では、ファッションに関わる市場論や産業論の基礎理論を学び、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」では、組織やビジネスモデルを含めた応用を学ぶ。「創造産業論」の科目では、模倣から創造という産業史の流れを学ぶ。また、「知財論」、「国際知財論」は、クリエイションとビジネスの両方の分野で共通して必要な法律の知識を学ぶよう設計している。

これらの科目の履修から、現代にいたる国際ファッション市場の動向、国内外のファッションビジネスモデルの特徴と今後のビジネスモデルの創出を視野に入れた学びを行う。実践的な知見とともに、経済学や経営学を基底とする学問知を融合させ、ファッションビジネスについて十分な知識を学び、演習を通して課題発見と論理的理解に繋げる。

全学科において、「ファッションビジネス概論」、「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」、「創造産業論」、「国際ファッション市場論」、「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」、「知財論」を選択科目や必修科目としている。各科目は、経済学や経営学を専門とする教員を中心的にしつつ、実際のビジネスの現場で実務経験をもつ専任教員を相当数配置し、専門的かつ実践的な能力を付けることのできる科目編成とした。以上の科目のうち、講義による授業及び実習と、演習は有機的に結びついており、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として演習を用意する。講義や実習科目がどちらかという、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、ゼミでは習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。他のゼミにも

することにつながる。

各科目は、実務家出身の専任教員を相当数配置し、専門的かつ実践的な能力を付けることのできる科目編成とした。以上の科目のうち、講義による授業及び実習と、演習は有機的に結びついており、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として演習を用意する。講義や実習科目がどちらかという、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、ゼミでは習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。他のゼミにも当てはまることだが、基礎ゼミで学んだ講義と実習と演習のあり方を基礎に、各科目で課題の発見、レポートの書き方や実習の方法、質疑の方法、文献の調べ方などについても学ぶことになる。

4.3.3 「ビジネス科目群」

本科目群は、ファッション産業における生産と流通・販売などの管理運営方法や、市場や産業構造について主に学ぶものである。この目的のために、11の科目を設置している。

具体的には、「ファッションビジネス概論」、「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」、「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」、「創造産業論」、「マーケティング論」、「消費者行動論」、「広告・PR論」、「知財論」から成る。このなかで、実践的な生産と流通・販売などの管理運営方法というビジネスの専門性を身につけるための主な科目として、「ファッションビジネス概論」と「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」、「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」がある。「ファッションビジネス概論」では基礎理論を学び、そして「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」では応用と実践を学ぶ。さらに、「リテール企画演習Ⅰ、Ⅱ」では、より流通・販売にひきつけた応用と実践を学ぶ。これらの科目は、マーチャンダイザーを育成するために必須の科目であり、どちらかといえばクリエイションの専門性の要素も入ったものとして設計している。これらの履修により、管理運営などのビジネスを中心とした履修を行う学生であっても、クリエイションの思考を学ぶ設計としている。そして、ファッション産業における全体的な

当てはまることだが、基礎ゼミで学んだ講義と実習と演習のあり方を基礎に、各科目で課題の発見、レポートの書き方や実習の方法、質疑の方法、文献の調べ方などについても学ぶことになる。

4.3.3 「地域・地方科目群」

臨地実習科目群は、教室の外に出てファッションビジネスの現場から、ファッションクリエイションやファッションビジネスの実践的な知識を学ぶ。最新の情報の収集、商慣行及びビジネススキルの修得と向上、ネットワークの構築を目標とする。具体的には、「地域企業・地域連携ゼミ」、「臨地実習Ⅰ」、「臨地実習Ⅱ」から成る。これらは本学の教育プログラムの特徴として位置付けることができる。これらの科目で学んだ知識や技術、問題や解決方法などは、展開科目「海外実習」でさらに活用することが期待されている。

「地域企業・地域連携ゼミ」では、専任教員の指導のもと、日本の地方・地場産地、地方・地場企業、と連携した実務学習を実施する。産地、企業の知財価値を理解し、その活用方法を考え、ブランド化する工程を研究する。「臨地実習Ⅰ（企業）」では、繊維企業、アパレルで実習をすることにより、実践的な能力及び当該職業に必要な能力を育成する。「臨地実習Ⅱ（地方産地）」においては、地方・地域の織物産地の特色と現状を学び、研究課題を発掘する。

各臨地実習科目は、多彩な分野を担当する教員と、実務経験をもつ専任教員によって編成される。各実習科目と各演習科目は有機的

市場の在り方や産業構造に関わるビジネスの専門性を身につけるための主な科目として、「創造産業論」「マーケティング論」、「消費者行動論」、「広告・PR 論」がある。これらの科目は、学問知にあたる基礎理論の理解が欠かせない。「創造産業論」の科目では、模倣から創造という産業史の流れを学ぶ。

「マーケティング論」では、マーケティング論の全体像を理解し、企業の存続及び成長につながる製品やサービスの提供、売り上げや利益に関する基礎理論を学ぶ。「消費者行動論」では、マーケティング論の一環として消費者行動に関する基礎理論を学ぶ。「広告・PR 論」では、メディアを通じて提供されるコンテンツが消費文化においてはたす機能と役割、広告・PR 産業について基本的な理解を深める。また、「知財論」は、クリエイションとビジネスの両方の分野で共通して必要な法律の知識を学ぶよう設計している。

これらの科目の履修から、現代にいたる国際ファッション市場の動向、国内外のファッションビジネスモデルの特徴と今後のビジネスモデルの創出を視野に入れた学びを行う。実践的な知見とともに、経済学や経営学を基底とする学問知を融合させ、ファッションビジネスについて十分な知識を学び、演習を通して課題発見と論理的理解に繋げる。

全学科において、「ファッションビジネス概論」、「ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ」、「創造産業論」、「知財論」を選択科目や必修科目としている。各科目は、経済学や経営学を専門とする教員を中心的にしつつ、実際のビジネスの現場で実務経験をもつ専任教員を相当数配置し、専門的かつ実践的な能力を付けることのできる科目編成とした。以上の科目のうち、講義による授業及び実習と、演習は有機的に結びついており、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として演習を用意する。講義や実習科目がどちらかという、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、ゼミでは習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。他のゼミにも当てはまることだが、基礎ゼミで学んだ講義と実習と演習のあり方を基礎に、各科目で課題の発見、レポートの書

に結びついており、主体的に学習意欲を育てる場として演習を活用する。実習で新たな知識や方法を学ぶ前後において、ゼミでは実習の計画を発表し、また習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題を発表するなど、主体的に課題に取り組む場である。

き方や実習の方法、質疑の方法、文献の調べ方などについても学ぶことになる。

4.3.4「メディア科目群」

本科目群は、「写真概論」、「映像概論」、「写真实習」、「映像実習」から成る。本科目群では、各種メディアの発達や役割について歴史の変遷をもとにした基礎知識の理解を深め、さらに機械技術の発展の変遷をもとにした基礎技術の理解を深める。そして、各種静止画や動画を撮る映像機器の種類や用途、デジタル加工などの編集技術の種類や技術といった実践的な知識や技術を講義、実習、演習を通して学ぶ。全学科の学生が概論を必修として履修し、実習を選択として履修する。

なお、メディア科目群は、展開科目に位置する「発信力科目群」とは異なり、ファッションクリエイションやファッションビジネスの専門知識との関連だけに焦点をあてて学ぶ内容ではなく、学問知、実践知において培われてきた映像世界に関する知識や技術をは別の分野の学習である。そのため、一部の科目は1年次から履修を開始し、2年次と履修していくよう設計している。

各科目は、メディアや美術・芸術学等を専門とする教員を基礎に、実際のビジネスの現場で実務経験をもつ専任教員を相当数配置し、専門的かつ実践的な能力を付けることのできる科目編成とした。以上の科目のうち、講義による授業及び実習と、演習は有機的に結びついており、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として演習を用意する。講義や実習科目は、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、演習では習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。現代社会のメディア環境やファッション産業をとりまくメディア環境について、自ら課題を発見し、調べ、討議することを通じて、質疑応答の方法、文献の調べ方など関連する学習の方法についても学ぶ。

4.3.5「地域・地方科目群」

臨地実習科目群は、教室の外に出てファッションビジネスの現場から、ファッションク

4.3.4「語学科目群」

職業専門科目の「語学科目群」は「国際ファッション業界英語」からなる。基礎科目の語学科目群として、1年次、2年次通期で基礎科目「英語Ⅰ、Ⅱ」の合計8単位を必修科目として履修した後、おもに2年次で当該「国際ファッション業界英語」科目を4単位、必修として課す。これにより、ファッション産業に特化した応用と、実践的な英語のコミュニケーション能力を高める。ここでいう英語教育は、専門的な論文作成の能力や語法などの専門的な英語学の教育を主眼にしたものではなく、あくまで、日常生活や日常の仕事の中で、円滑なコミュニケーションを図ることのできる能力及び自己表現能力を高める教育を指す。これにより、国際社会で活躍するために欠かせない英語によるコミュニケーション能力をもって、より自立的、主体的に行動していく方法を身に着ける。

英語を使用したコミュニケーション能力は、現代では、国際的な人材の流動性が高まり、国内外のどの企業や組織で働くにせよ、仕事をするうえで欠かせない能力となりつつある。こうしたコミュニケーション能力を上げることが、自立した職業人として必須の項目といえよう。当該科目は、続く展開科目の「国際連携ゼミ」、「海外実習」を選択履修する場合の基礎とも位置付けている。

リエイションやファッションビジネスの実践的な知識を学ぶ。最新の情報の収集、商慣行及びビジネススキルの修得と向上、ネットワークの構築を目標とする。具体的には、「地域企業・地域連携ゼミ」、「臨地実習Ⅰ」、「臨地実習Ⅱ」から成る。これらは本学の教育プログラムの特徴として位置付けることができる。これらの科目で学んだ知識や技術、問題や解決方法などは、展開科目「海外実習Ⅰ、Ⅱ」でさらに活用することが期待されている。

「地域企業・地域連携ゼミ」では、専任教員の指導のもと、日本の地方・地場産地、地方・地場企業、と連携した実務学習を実施する。産地、企業の知財価値を理解し、その活用方法を考え、ブランド化する工程を研究する。「臨地実習Ⅰ（企業）」では、繊維企業、アパレルで実習をすることにより、実践的な能力及び当該職業に必要な能力を育成する。「臨地実習Ⅱ（地方産地）」においては、地方・地域の織物産地の特色と現状を学び、研究課題を発掘する。

各臨地実習科目は、多彩な分野を担当する教員と、実務経験をもつ専任教員によって編成される。各実習科目と各演習科目は有機的に結びついており、主体的に学習意欲を育てる場として演習を活用する。実習で新たな知識や方法を学ぶ前後において、ゼミでは実習の計画を発表し、また習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題を発表するなど、主体的に課題に取り組む場である。

4.4 展開科目の設定と理由

「展開科目」は、専門職大学設置基準第13条に規定された科目区分の趣旨、特に「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的としている展開科目の趣旨を踏まえて、「現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力」を養成する。全学科に共通して、「発信力科目群」と「国際科目群」という科目名称の中分類を設け、新たなデジタルテクノロジーとファッション産業の関係を考える応用的科目、ファッ

4.4 展開科目の設定と理由

「展開科目」は、当該ファッション産業におけるクリエイションとビジネスに関連する科目ではなく、制作物を国内外に発信し、ビジネスを国際的に展開するための、関連する分野における応用的な能力を修得し、専攻分野における創造的な役割を担うための能力を展開させるための重要な科目と位置付けている。

具体的には、「メディア科目群」と「国際科目群」からなる。ファッション産業における、クリエイションとビジネスの専門性をもつ人材は、実践的で専門的な創作と経営の知

ション産業に関する、モノを作り、モノを売る基本的知識と技術を国際的に展開する海外実習などの応用的科目などで教育課程を構成し、これらの科目を通じて、本学が考える上記の展開力、より具体的には、「豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と、「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする対応力」を養成しようとする。本学では、制作物を国内外に発信し、ビジネスを国際的に展開するための、関連する分野における応用的な能力を修得し、専攻分野における創造的な役割を担うための能力を展開させるための重要な科目と位置付けている。

ファッション産業における、クリエイションとビジネスの専門性をもつ人材は、実践的で専門的な創作と経営の知識や技術を持つ前提の上に、現代では、それを新たな情報技術、デジタルテクノロジーを使用して、必要な知識や技術を知財化し発信し、幅広い媒体に発信展開できる能力が要請されている。こうした科目の開発は、本学のもつ独自の取り組みともいえよう。こうした情報化に対応する科目に加えて、日本からの発信を支える地域論や地域産業に関わる科目を加えて、「発信力科目群」とする。

そして、現代のファッション産業において、クリエイションとビジネスの専門性をもつ人材がもつべき能力とは、国際的な発信と応答である。それを本学は国際科目群で提供する。主に1, 2年次で学んだ基礎、専門科目の知識や技術、実践力をもとに、それを国際化の文脈の中で応用的に検討し、創造的な役割を果たすための力をつける科目、特に学生が海外での臨地実習に挑む科目とその実習に必要な英語以外の語学科目、また、海外から招聘した教員を交えたゼミで、課題や成果を発表するという演習科目から成る。問題発見能力、論理的思考能力の強化とともに、国際的なコミュニケーション能力を鍛え、伝えるという能力の向上を意識した科目群である。

この科目群の実習の設計は、基本的には3年次に通年で開講するようにしており、職業専

識や技術を持つ前提の上に、現代では、それを可視化して発信する、特に静止画と動画の先端技術に習熟して、幅広い媒体に発信展開できる能力が要請されている。既存の家政学領域、既存の経営学領域では特に、こうした新たなメディアを使用した発信の習熟を促すような教育課程と科目編成はほとんどみられず、本学のもつ独自の展開科目ともいえよう。そのため、メディア科目群は、全て必修科目として課している。

メディア科目群における科目設計は、概論にあたる科目で理論や歴史的な変遷など基礎知識を学び、実習にあたる科目で実際の専門機器を使用した技術を学ぶように意図としている。そして演習にあたる科目で、現代社会のメディア環境や、ファッション産業におけるメディア環境についての問題発見能力、今後の可能性について調べ、発表し、討議するといった論理的思考能力とアウトプット等を鍛える設計としている。メディア科目群にも、実務経験をもつ専任教員が入っており、授業形態として講義を基にしながら、実習及び演習で実践的で専門性の高い能力が身につくよう、学生の習熟を促す工夫をしている。

メディア科目群に加えて、現代のファッション産業において、クリエイションとビジネスの専門性をもつ人材がもつべき能力とは、国際的な発信と応答である。それを本学は国際科目群で提供する。主に1, 2年次で学んだ基礎、専門科目の知識や技術、実践力をもとに、学生は海外での臨地実習に挑み、また、海外から招聘した教員を交えたゼミで、課題や成果を発表するという演習に臨む。問題発見能力、論理的思考能力の強化とともに、国際的なコミュニケーション能力を鍛え、伝えるという能力の向上を意識した科目群である。

この科目群の設計は、基本的には3年次に通年で開講するようにしており、職業専門科目の必修科目である国内臨地実習を経た後、選択希望者は海外での実習に向かうことができるよう考えられている。そして、海外実習の前後には演習をとり、実習と演習の反復による知識や能力の定着・深化を図るよう設計している。これまでの基礎科目、職業専門科目

門科目の必修科目である国内臨地実習を経た後、選択希望者は海外での実習に向かうことができるよう考えられている。そして、海外実習の前には演習をとり、実習と演習の反復による知識や能力の定着・深化を図るよう設計している。これまでの基礎科目、職業専門科目を経て、獲得すべき知識・技術領域を自覚した学生が、より意欲の活性化を図りつつ、身につけた知識や技術、論理的思考能力を発信展開する科目である。選択科目であるため、年次が上がった4年次にとることも可能であり、学生の履修を促す工夫をしている。

4.4.1「発信力科目群」

本科目群は、豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力を養おうとする科目である。「環境とビジネス」「地域産業論」「地域産業・大阪論」「地域産業・名古屋論」「デジタルアーカイブ論」「ファッション産業とデジタルテクノロジー」「デジタルテクノロジー演習」から成る。本科目群では、国際的なファッション産業でクリエイションやプロデュースの仕事などで活躍を目指す人材が、豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力を身につけるために、ファッション産業と各種メディアの発達や役割や関係について歴史的な変遷をもとにした理解を深め、さらに機械技術の発展の変遷をもとにした展開の可能性を考える科目を配置する。そして、現代の産業社会、経済社会において必須の課題となっている環境との関係を取り上げ、各校舎の立地する地域からの発信という点で地域の地場産業との関係を考える科目を配置している。

こうした科目は、基礎科目に配置した情報とメディア関係の「メディア概論」「情報リテラシー」科目、環境に関する「環境と社会」科目、地域に関する「地域論入門」科目とは異なる様相をもつ。基礎科目の「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「地域論入門」は、どちらかといえば一般的な教養としてのメディアや情報や環境や地域

を経て、獲得すべき知識・技術領域を自覚した学生が、より意欲の活性化を図りつつ、身につけた知識や技術、論理的思考能力を発信展開する科目である。選択科目であるため、年次が上がった4年次にとることも可能であり、学生の履修を促す工夫をしている。

4.4.1「メディア科目群」

本科目群は、「写真概論」、「映像概論」、「写実実習」、「映像実習」、「デジタルプレゼンテーションⅠ、Ⅱ」、「メディア概論」、「メディアデザイン演習」、「ビジネスプレゼンテーション」から成る。本科目群では、国際ファッション市場で活躍を目指す人材が、各種メディアの発達や役割について歴史的変遷をもとにした基礎知識の理解を深め、さらに機械技術の発展の変遷をもとにした基礎技術の理解を深める。そして、各種静止画や動画を撮る映像機器の種類や用途、デジタル加工などの編集技術の種類や技術といった実践的な知識や技術を講義、実習、演習を通して学ぶ。全学科の学生が必修とする科目配置である。なお、メディア科目群は、同じ展開科目に位置する「国際科目群」とは異なり、クリエイションやビジネスの専門知識とは別の分野の学習である。そのため、一部の科目は1年次から履修を開始し、2年次と履修していくよう設計している。

各科目は、メディアや美術・芸術学等を専門とする教員を基礎に、実際のビジネスの現場で実務経験をもつ専任教員を相当数配置し、専門的かつ実践的な能力を付けることのできる科目編成とした。以上の科目のうち、講義による授業及び実習と、演習は有機的に結びついており、学生たちに主体的に学習意欲を育てる場として演習を用意する。講義や実習科目は、新たな知識や方法を学ぶ場であ

への理解を身につけさせ、コンピュータ機器の使い方などを学ぶ科目である。そして、職業専門科目における「写真概論」「写真实習」「映像概論」「映像実習」が、どちらかといえば一般的な静止画や動画を撮る機器の種類や用途、デジタル加工などの編集技術の種類や技術といった実践的な知識や技術を演習を通して学ぶ科目である。

すなわち、基礎科目で扱う一般教養ではなく、専門職大学設置基準で定められた展開科目の趣旨である「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とする趣旨に沿って、本学が「現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力」を養成するために設定するものである。したがって、今後のファッション業界における国際化と情報化に対応して、日本の知財をもとに積極的な展開と発信を行うための実践的な力を身につける科目である。

以上の科目には、講義による授業と、実習と演習が含まれる。講義や実習科目は、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、演習では習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。現代社会のメディア環境やファッション産業をとりまくメディア環境について、自ら課題を発見し、調べ、討議することを通じて、質疑応答の方法、文献の調べ方など関連する学習の方法についても学ぶ。

4.4.2 「国際科目群」

本科目群は、ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする態度・志向性を養おうとする科目である。

「国際展示会演習」「国際ファッション市場論」「国際知財論」「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」「国際ファッション業界英語」「フランス語」「中国語」「イタリア語」「国際連携ゼミ」「海外実習Ⅰ」「海外実習Ⅱ」から成る。本学の考える国際性は、3.4項目に記したように、「豊かな日本の装いの

るのに対し、演習では習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。現代社会のメディア環境やファッション産業をとりまくメディア環境について、自ら課題を発見し、調べ、討議することを通じて、質疑応答の方法、文献の調べ方など関連する学習の方法についても学ぶ。

4.4.2 「国際科目群」

国際科目群は、教室の外に出て海外のファッションビジネスの現場から、ファッションクリエイションやファッションビジネスの実践的な知識を学ぶ科目である。具体的には、「海外実習」と「国際連携ゼミ」から成る。特に、ゼミに関わる学生と教員が、国際的な最新の情報の収集し、商慣行及びビジネススキルの修得と向上を目指し、さらに海外の企業や各種機関や組織とネットワークを構築することを目標としている。これらは本学の教育課程に特徴的なものとして位置付く。これまでの専修学校モード学園が培ってきた欧

文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする態度・志向性」と「ファッション産業に関する基本的な知識や技術力」と「国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力」が有機的に結びつくことで達成されるものである。なかでも専門職大学設置基準で定められた展開科目の趣旨である「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とする趣旨に沿って、本学が「現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力」を養成するために設定する「国際科目群」には、教室の外に出て海外のファッションビジネスの現場から、ファッションクリエイションやファッションビジネスの実践的な知識を学ぶ実習科目と講義科目、演習科目が結びついてこうした力を養成する主な原動力となる。

展開科目の語学科目は「国際ファッション業界英語」「フランス語」「イタリア語」「中国語」からなる。基礎科目の語学科目において、1年次、2年次通期で基礎科目「英語Ⅰ、Ⅱ」の合計8単位を必修科目として履修した後、おもに2年次以降に「国際ファッション業界英語」科目を4単位、必修として課す。これにより、ファッション産業に特化した応用的で実践的な英語のコミュニケーション能力を高める。ここでいう語学教育は、専門的な論文作成の能力や語法などの専門的な英語学の教育を主眼にしたものではなく、あくまで、日常生活や日常の仕事の中で、円滑なコミュニケーションを図ることのできる能力及び自己表現能力を高める教育を指す。これにより、ファッション分野において国際社会で活躍するために欠かせない英語やフランス語、イタリア語、中国語によるコミュニケーション能力をもち、より自立的、主体的に行動していく方法を身に着ける。

英語をはじめ、現地で通用する言語を使用したコミュニケーション能力は、国際的な仕事

州、特にフランスのファッション・アパレル産業との人材交流やネットワークをもとにして、学内に教員を招聘してゼミを開くことを可能にすると同時に、希望すれば学外に学生を派遣して実習をさせることを可能にしている。これらの科目で学んだ知識や技術、問題や解決方法などは、総合科目「卒業制作・計画」でさらに活用することが期待されている。

「海外実習」では、上記のフランスへのインターンシップのほかに、学生が希望すれば一部、欧米の他の地域やアジア地域等へのインターンシップを行うことが可能になる。受け入れ先となる企業や団体に関する詳細については、10.4項目や添付した資料11に記載した。学生は、専任教員と綿密な相談を行い、その指導のもと、受け入れ先と連携した臨地実習を行う。海外の商慣行やクリエイションのあり方を実践的に学ぶと同時に、異なる地域のものの美的な価値の理解などを通じて、これまで学んだ知識や技術を国際的に発信・展開する方法を考え、卒業制作・計画に向けた研究課題を発掘する。

そして、海外実習の前後には、多彩な分野を担当する教員と、実務経験をもつ専任教員によって編成された国際連携ゼミが用意されている。この実習科目と演習科目は有機的に結びついており、学生が、主体的に学習意欲を育てよう工夫する。実習で得る、新たな知識や方法を深化・定着するよう、ゼミでは実習前に実習計画の発表を課し、実習後に実習を通じて発見した個別課題の発表を課す。そうすることで、実習を行った学生のみならず、ゼミを履修する多くの学生や教員にとっても、主体的に課題に取り組み、国際的に発信展開することを学ぶ動機付けとなり、また、最新の海外情報の収集やネットワークの構築に役立つフィードバックが得られるものと期待する。

をすうえで欠かせない能力となっている。
こうしたコミュニケーション能力をファッションの世界に関係する形で学ばせる。当該科目は「国際連携ゼミ」、「海外実習Ⅰ、Ⅱ」を選択履修する場合の基礎とも位置付けている。

「海外実習Ⅰ、Ⅱ」では、欧米の地域やアジア地域等へのインターンシップを行う。全員が必修で履修する「海外実習Ⅰ」は、学生の希望や予算、目的に応じて欧米の地域やアジア地域等へ本学の専任教員が引率する。そのなかでも特に国外に本社機能を置く企業等で将来的に就業を希望する学生には、「海外実習Ⅱ」を選択的に履修可能としている。ここでは、欧米や中国でこれまでの専門学校モード学園が培ってきた欧州、特にフランスのファッション・アパレル産業との人材交流やネットワークをもとにしたインターンシップを可能にする。受け入れ先となる企業や団体に関する詳細については、10.4 項目や添付した資料 11 に記載した。学生は、専任教員と綿密な相談を行い、その指導のもと、受け入れ先と連携した臨地実習を行う。海外の商慣行やクリエイションのあり方を実践的に学ぶと同時に、異なる地域のものの美的な価値の理解などを通じて、これまで学んだ知識や技術を国際的に発信・展開する方法を考え、卒業制作・計画に向けた研究課題を発掘する重要な機会と位置付けている。

そして、海外実習の前後には、多彩な分野を担当する教員と、実務経験をもつ専任教員によって編成された国際連携ゼミが用意されている。この実習科目と演習科目は有機的に結びついており、学生が、主体的に学習意欲を育てるよう工夫する。実習で得る、新たな知識や方法を深化・定着するよう、ゼミでは実習前に実習計画の発表を課し、実習後に実習を通じて発見した個別課題の発表を課す。そうすることで、実習を行った学生のみならず、ゼミを履修する多くの学生や教員にとっても、主体的に課題に取り組み、国際的に発信展開することを学ぶ動機付けとなり、また、最新の海外情報の収集やネットワークの構築に役立つフィードバックが得られるものと期待する。

<p>(中略)</p> <p>以上、教育課程の編成の考え方と科目内容の特色を記した。これに対応して、教育課程の編成の方針(カリキュラム・ポリシー)をまとめると、本学は、<u>(1) 国際的な市民社会の一員としての自覚、専門職としての職業倫理を涵養する。</u> <u>(2) ファッションのクリエイションとビジネスにおいて必要とされる、モノを作り、モノを売るための基本的な知識と技術を養う。</u> <u>(3) ファッションのクリエイションとビジネスにおいて、商品やブランドの企画開発戦略の構想や創造的な活動に必要な知識と総合的な理解力を養う。</u> <u>(4) ファッションの国際化、情報化などに対応し、発信と展開の技術と能力を育成する</u>という方針である。</p> <p>各学科は統一的なキャンパス・アイデンティティーのもとで教育課程が編成されており、3 地域の校舎での教育水準は地域によらず等しく教授することが可能である。科目を担当する教員の質や配置については、次項目以降で述べる。</p>	<p>(中略)</p> <p>以上、教育課程の編成の考え方と科目内容の特色を記した。これに対応して、教育課程の編成の方針(カリキュラム・ポリシー)をまとめると、本学は、<u>(1) 国際的な市民社会の一員としての自覚、専門職としての職業倫理を涵養する。</u> <u>(2) ファッションのクリエイションにおいて、従来の専門的なモノづくりの技術に加え、文化についての基礎的理解を深めた教育をする。新しいファッションの価値を創造もしくは理解する。</u> <u>(3) ファッションのビジネスにおいて、総合的な判断に加え、実践的な企画力や開発力、創造性を養う。新しいビジネスの活動形態を理解する。</u> <u>(4) 国際社会で必要とされる発信と展開の技術と能力を育成する</u>という方針である。</p> <p>各学科は統一的なキャンパス・アイデンティティーのもとで教育課程が編成されており、3 地域の校舎での教育水準は地域によらず等しく教授することが可能である。科目を担当する教員の質や配置については、次項目以降で述べる。</p>
---	---

(参照) 「2 教育課程等の概要」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

12. <科目の実施体制が不明確>

1 クラスあたり 40 人を超える授業科目については、授業を行う上で支障がないという説明だけでなく、教育上の効果や目的を明確にすること。

(対応) 助手を配置し、教育効果を上げる工夫を行う

1 クラスあたり 40 人を超える授業科目は、ファッションクリエイション学科の 12 科目である。該当する科目は、基本的に知識の伝達を目的として実施する座学中心の授業である。座学中心の講義法は、多くの学生に多くの情報を同時に平等に伝達できるという優れた特徴を持つ。一方で、履修者が多い場合には教員の負担が大きくなることや、フィードバックや目配りにも限界が生まれ効果が限定的になりやすいという課題が考えられる。また履修者が多いと受け身になりやすく、私語や睡眠を誘発するという懸念もある。

したがって、本学では、マイク等音響設備を備えた教室で講義を行い、知識の伝達に支障ない状態で、多くの学生に平等に多くの情報を同時に伝達するという教育上の目的を達成する。そのうえで、多人数での講義授業科目の課題を補完する方法として助手を配置し、担当教員の授業運営を助ける。

該当する科目は、ファッションクリエイション学科の学生にとって、同学年全員が同時に互いに顔を合わせる数少ない機会である。多人数が集まる学修の機会を活用し、学生の相互理解を促進する教育効果を上げる。すなわち、ディプロマ・ポリシーの 4 つ目に「汎用的能力」として挙げたように、「多様な社会的、文化的、環境的、言語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う」ための学びに通底する。例えば、「フィールドワーク入門」科目では、学生が互いにペアを作り質問の仕方を学ぶ。そこでは多人数であることで学生の多様性は高まり、教育上の効果は高まる。なおファッションクリエイション学科以外の 3 学科は、定員が 38 名であるためこの是正事項には該当しない。

このように、マイク等音響設備を備えること、加えて助手を配置して、授業を行う上で支障がないようにすると同時に、多人数の授業の教育上の効果や目的にも応じた体制を整えている。

・該当する科目

「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」
「造形論入門」「美とファッションの歴史」「色彩論入門」「日本の衣生活・服装史入門」
「生活科学入門」「ファッションデザイン論」「テキスタイル基礎」
「国際ファッション市場論」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (30-32 ページ)

新	旧
<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (中略)</p> <p>6.2 授業方法に適した学生数の設定 専門職大学設置基準第 17 条に則り、基本的に 1 つの授業に対し 40 人以下の編成としている。ただし、ファッションクリエイション学科においては、入学時に入学定員 80 名を超える。そのため、基礎科目の「英語 I、II」については 2 クラスに分けることで、1 クラスが 40 名以下となるように配慮している。また基礎科目の「比較文化論」、「フィールドワーク入門」、「メディア概論」、職業専門科目の「美とファッションの歴史」、「色彩論入門」、「ファッションデザイン論」、「デザイン概論」、「テキスタイル基礎」、「知財論」、展開科目の「国際ファッション市場論」は、同時に受講する学生数の想定が最大で 80 名となる可能性がある。</p> <p><u>(削除)</u></p> <p><u>該当科目は、基本的に知識の伝達を目的として実施する座学中心の授業である。座学中心の講義法は、多くの学生に多くの情報を同時に伝達できるという優れた特徴を持つ。一方で、履修者が多い場合には教員の負担が大きくなることや、フィードバックや目配りにも限界が生まれやすく教育上の効果が限定的になりやすいという課題が考えられる。また履修者が多いと受け身になりやすく、私語や睡眠を誘発するという懸念もある。</u></p> <p><u>したがって、本学では、マイク等音響設備を備えた教室で講義を行い、知識の伝達に支障ない状態で、多くの学生に平等に多くの情報を同時に伝達するという教育上の目的を達成する。そのうえで、多人数での講義授業科目の課題を補完する方法として助手を配置し、担当教員の授業運営を助ける。</u></p> <p><u>それだけではなく、多人数が集まるという学修の機会を活用し、教育上の効果を生み出す工夫をする。すなわち、該当する科目を、同学年全員が同時に互いに顔を合わせる数少ない機会ととらえ学生の相互理解を促進する。それはディプロマ・ポリシーの 4 つ目に「汎用的能力」として挙げたように、「多様な社会的、文化的、環境的、言</u></p>	<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (中略)</p> <p>6.2 授業方法に適した学生数の設定 専門職大学設置基準第 17 条に則り、基本的に 1 つの授業に対し 40 人以下の編成としている。ただし、ファッションクリエイション学科においては、入学時に入学定員 80 名を超える。そのため、基礎科目の「英語 I、II」については 2 クラスに分けることで、1 クラスが 40 名以下となるように配慮している。また基礎科目の「比較文化論」、「美とファッションの歴史」、「色彩論入門」、「フィールドワーク入門」、職業専門科目の「ファッションデザイン論」、「デザイン概論」、「テキスタイル基礎」、「国際ファッション市場論」、「知財論」、「デジタルプレゼンテーション I」、「メディア概論」は、同時に受講する学生数の想定が最大で 80 名となる可能性がある。しかし、座学中心であり、マイク等音響設備を備えた教室にて行うため支障は生じない。ただし、授業の進行や必要に応じて助手を付ける等の教育体制を検討し、教育課程等とともに不断の見直しを行っていく。</p> <p><u>(追加)</u></p>

<p><u>語的な背景を持つ人々と対話し、相互の生活意識や美意識への理解を促進する能力を養う</u>ための学びの原点となる。例えば、「<u>フィールドワーク入門</u>」科目では、<u>学生が互いにペアを作り質問の仕方を学ぶ</u>。そこでは<u>多人数であることで学生の多様性は高まり、教育上の効果は高まる</u>。なお<u>ファッションクリエイション学科以外の3学科は、定員が38名であるためこの是正事項には該当しない</u>。</p> <p><u>このように、助手を配置して、授業を行う上で支障がないようにすると同時に、多人数の授業の教育上の効果や目的にも応じた体制を整えている</u>。</p>	
---	--

(参照) 「3 授業科目の概要」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

13. <実習の実施体制が不明確>

実習の具体的な内容、実習を通じて習得しようとする具体的な知識・技能、実習先との連携状況、事前・事後における指導計画、教員の巡回指導計画、実習施設における指導者の配置計画、成績評価体制及び単位認定方法など実習水準を確保するための具体的な実習の計画が不明確であるため、それぞれの観点について示した上で、大学としてどのように実習の質を担保する計画であるかについて明確にすること。

(対応) 実習の具体的な計画を説明し、実習の質の担保する計画を示す

臨地実習Ⅰ（企業）、臨地実習Ⅱ（産地）について、実習先の確保状況や概要については「23 臨地実務実習の施設等」に確保状況、施設一覧、施設概要、使用承諾書を学科別に配置している。「23 臨地実務実習の概要」には、実習先の担当者、受け入れ人数等が記載されており、これが現時点での連携状況に該当する。

こうした実習先との連携は、地域連携センターとキャリアサポート・センターの職員を通じてなされる。実習の実施の際、センターの職員と担当する専任教員がともに実習先を訪れるなど連携を行う。「12 設置の趣旨等を記した書類」の添付資料(以下、資料)にも、「臨地実習の実習先」（資料9-1）として添付している。

実習の具体的な内容、及び実習を通じて修得しようとする具体的な知識・技能は、事前・事後における指導計画、成績評価体制及び単位認定方法については、「臨地実習Ⅰ（企業）Ⅱ（地方産地）実施概要」（資料9-2）、「実習の目的・指導体制」については上記資料と合わせて「臨地実習Ⅰ（企業）Ⅱ（地方産地）」（資料9-5）に具体的な計画表、及び教員の巡回指導計画、実習施設における指導者の配置計画を記す。個別教員が、いつどの個別の企業を巡回するかを現時点での計画を示している。そして学生の履修スケジュールについては、「設置の趣旨等を記した書類」の添付資料「履修スケジュール（臨地実習・海外実習用）」（資料9-4）に添付している。

それにより、臨地実習Ⅰ（企業）においては、職種の役割、仕事の流れ等を学びながら、専門職としての自覚に基づいた態度ができること、仕事に関する理解を深めること、各自のキャリアプランの作成に役立つ知識を得る、実習を通じて産業上の課題を発見するという目標を達成する。

臨地実習Ⅱ（産地）においては、その産地の歴史的・地理的背景、文化価値、伝統的技術を学び、産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見出すこと、実習を通じて産業上の課題を発見するという目標を達成する。

海外実習Ⅰ、海外実習Ⅱの実施の目的、体制、安全の確保、スケジュール、評価については、「設置の趣旨等を記した書類」の添付資料（資料11-3）に記している。実習先との連携状況は、「海外実習受け入れ先一覧」（資料11-1）にあり、実習先で学習内容、指導体制については、「海外実習Ⅰ 実習先別の指導体制」（資料11-5）に詳述している。具体的な計画表、及び教員の巡回指導計画、実習施設における指導者の配置計画を「海外実習Ⅰ 実習先別の指導体制」（資料11-5）に記す。そして学生の履修スケジュールについては、「設置の趣旨等を記した書類」の添付資料「履修スケジュール（臨地実習・海外実習用）」（資料11-8）に添付している。

それにより、国際ファッション市場を体験し、特に英語力を含めたコミュニケーション力を確認する、そして各自が学内ゼミで設定した国際化の課題やテーマについてフィールドワークを行う。その結果は実習後に学内ゼミで発表して自分の研究成果と将来のキャリアプランの形成に役立てるという目標を達成する。

■実習の具体的な内容

・臨地実習Ⅰ（企業）

教育課程の職業専門科目、地域・地方連携科目群の必修科目として、全学生が3年次に履修する。実習先は卒業後の活躍の場となるファッションの製造業を中心に、テキスタイル製造業、ファッション小売業、サービス業の広告代理店・ITを使用したファッション関連のベンチャー企業・デザイン企業を選定した。既存の専門学校においてはファッションの製造業、ファッションの小売業のみであったため、本学の教育課程にあわせて、実習先を新たに設定すると同時に、専門学校と同じ実習先の場合は、主な実習の配属部署を商品開発室やデザイン室とした。学生は各自のキャリアプランに合わせ実習先を選択する。

実習の具体的な内容としては、製造業の場合は製造工程の全ての部署に短期間配属し、職種の役割、仕事の流れを理解する。その後、商品開発室やデザイン室において将来携わる仕事に関する商慣行の理解、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築を行う。また各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

ファッションの小売業の場合は主に、小売だけではなく自社のオリジナル商品を開発し、製造を外注している企業を選択しているため、店頭販売を含め全ての部署に短期間配属し、職種の役割、仕事の流れを理解する。その後、商品開発室やデザイン室において将来携わる仕事に関する商慣行の理解、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築を行う。また各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

サービス業の広告代理店・ITを使用したファッション関連のベンチャー企業・デザイン企業の場合は、各企業の実習担当者から職種の役割、仕事の流れの説明を受け理解する。その後、商品開発室やデザイン室において実務に携わることにより、将来携わる仕事に関する商慣行の理解、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築を行う。また各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

・臨地実習Ⅱ（地方産地）

教育課程の職業専門科目、地域・地方連携科目群の必修科目として、全学生が3年次に履修する。この科目は単なる産地体験ではなく、産地の人々と連携することにより、海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力を見いだすことを目標とする。上記の目標を達成するために学生たちが実習に参加する前に、地域企業・地方連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。

具体的な実習内容としては、製造工程の全ての部署に短期間配属し、仕事の流れを理解する。その後、各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

実習中には産地の人々との交流を図るため、学生のアイデアと地元テキスタイル産地の技術力を結びつける演習を、実習先指導者を交えた産地の匠と共に行い、産地の活性化を図る。

・海外実習Ⅰ

教育課程の展開科目、国際科目群の必修科目として、全学生が3年次に履修する。この科目は単なる海外視察ではなく、学生の国際ファッション業界におけるキャリアプラン形成に役立てること、国際連携ゼミにおいて、設定したテーマのフィールドワークをすること、国際社会におけるコミュニケーション力、語学力の習熟度を確認することを目的とする。よ

って実習先としては、「海外実習受け入れ先一覧」（資料 11-1）の国際ファッション市場において製造業、卸売業、小売業、複合サービス業、サービス業に位置づけられ活動をしている企業や組合を選定した。目的を達成するために学生たちは実習に参加する前に、国際連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。具体的な実習内容については「海外実習Ⅰ 実習先別の指導体制」（資料 11-5）に一社ごとに記載した。

・海外実習Ⅱ

教育課程の展開科目、国際科目群の選択科目として、希望者が3年次に履修する。この科目は海外でのファッション業界への就職を目指す学生の就職活動に役立てること、国際社会においてのコミュニケーション力、語学力の習熟度を確認することを目的とする。よって実習先としては「海外実習受け入れ先一覧」（資料 11-1）以外でも学生の希望する企業があれば、学生主導で実習に関する依頼を行い、本学のキャリアサポート・センターと国際地域別の担当教員がそのサポートを積極的に行う。臨地実習Ⅰ同様に実習に参加する前に、国際連携ゼミにおいてそれぞれの実習課題を設定し、事前学習をした上で、実習に臨む。具体的な実習内容については、職種の役割、仕事の流れを理解するための業務。将来携わる仕事に関する商慣行の理解、ビジネススキルの向上、ネットワークの構築ができる業務とする。また各自のテーマにそったフィールドワークを行い、その成果を企業内でプレゼンテーションし評価を受ける。

■実習を通じて習得しようとする具体的な知識・技能

・臨地実習Ⅰ（企業）

将来携わる仕事に関する商慣行に関する知識、キャリアプランに役立つ知識。ネットワークの構築。ビジネススキル、プレゼンテーション力、コミュニケーション力の向上。各自の実習テーマに対する情報。

・臨地実習Ⅱ（地方産地）

産地の人々とのネットワークの構築。海外へ新しいファッション知財として発信するための素材のコンセプトとなる魅力の発見。各自の実習テーマに対する情報。

・海外実習Ⅰ

国際ファッション業界におけるキャリアプラン形成に役立つ知識。各自の実習テーマに対する情報。英語を中心としたコミュニケーション力の向上。

・海外実習Ⅱ

国際ファッション業界における就職活動に役立つ知識、ネットワークの構築。国際社会においてのコミュニケーション力、プレゼンテーション力、ビジネススキルの向上。英語力向上。

■実習先との連携状況

・臨地実習Ⅰ（企業）・臨地実習Ⅱ（地方産地）

キャリアサポート・センター、地域連携センターが担当の専任教員と連携し実習の目的に合った実習先を「臨地実習の実習先」（資料 9-1）のように提携した。

・海外実習Ⅰ

キャリアサポート・センター、地域連携センターが担当の専任教員と連携し実習の目的に合った実習先を「海外実習受け入れ先一覧」（資料 11-1）のように提携した。

・海外実習Ⅱ

キャリアサポート・センター、地域連携センターが担当の専任教員と連携し実習の目的に合った実習先「海外実習受け入れ先一覧」（資料 11-1）のように提携した。学生の希

望により、上記資料以外の実習先を選択する場合は、キャリアサポート・センター、地域連携センターのスタッフが個別にスカイプを使用し連絡を取り連携関係を構築する。

■事前・事後の指導計画

- ・臨地実習Ⅰ（企業）・臨地実習Ⅱ（地方産地）
地域企業・地方連携ゼミにおいて実習前に実習に関する個別の研究課題を設定する。
また、実習計画・テーマの発表を行う。事後も、同様に実習成果の発表を行い、担当教員の評価を受ける。
- ・海外実習Ⅰ・海外実習Ⅱ
国際連携ゼミにおいて実習前に実習に関する個別の研究課題を設定する。また、実習計画・テーマの発表を行う。事後も、同様に実習成果の発表を行い、担当教員の評価を受ける。

■実習施設における指導者の配置計画

- ・臨地実習Ⅰ（企業）・臨地実習Ⅱ（地方産地）
- ・指導体制
本科目では、国際ファッション学部を形成する4学科の専任教員の臨地実習Ⅰ「巡回計画表（資料9-5）」に従い、各社2回訪問する。1回目は学生の実習状況、実習環境の把握、各学生の実習中のテーマの伝達とそれに対する企業への協力の依頼、学生指導を目的とする。2回目は実習の進捗状況の確認、各学生の実習中のテーマ研究の進捗状況を確認しそれに対するアドバイスを行う。巡回教員は臨地実習担当教員別時間割表に従い学内の指導に支障なく、巡回ができるように配慮する。
- ・臨地実習Ⅰ（企業）（担当教員）
各学科の指導担当教員一覧は、「臨地実習Ⅰ（企業）Ⅱ（地方産地）実施概要」（資料9-2）に記載している。
- ・臨地実習Ⅱ（地方産地）（担当教員）
各学科の指導担当教員一覧は、「臨地実習Ⅰ（企業）Ⅱ（地方産地）実施概要」（資料9-2）に記載している。
- ・海外実習Ⅰ（担当教員）
各学科の指導担当教員一覧は、「海外実習ⅠⅡ実施概要」（資料11-3）と、「海外実習Ⅰ 実習先別の指導体制」（資料11-5）に記載している。
「引率教師海外経験一覧（資料11-6）」に担当する教員の国際的な経歴を記している。
- ・海外実習Ⅱ（担当教員）
各学科の指導担当教員一覧は、「海外実習ⅠⅡ実施概要」（資料11-3）と、「海外実習Ⅱ 実習先別の指導体制」（資料11-5）に記載している。
「引率教師海外経験一覧（資料11-6）」に担当する教員の国際的な経歴を記している。

■成績評価体制及び単位認定方法

- ・臨地実習Ⅰ（企業）・Ⅱ（地方産地）
実習を効果的に進めるために、学生には資料10の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（実務）評価表、実習（人物）評価表を含む）」を配布する。
実習前後には地域企業・地方連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

・海外実習Ⅰ

実習を効果的に進めるために、学生には資料 11-11 の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（人物）評価表を含む）」を配布する。
 実習前後には国際連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
 担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

・海外実習Ⅱ

実習を効果的に進めるために、学生には資料 11-11 の「実習要項（実習出席表、実習日誌、自己評価表、実習（実務）評価表、実習（人物）評価表を含む）」を配布する。
 実習前後には地域企業・地方連携ゼミにて発表会を実施し、集団指導を行うとともに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
 担当教員は自己評価表、実習評価表を基に成績評価及単位認定を行う。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (45 ページ)

新	旧
<p>10. 学外実習等を実施する場合の具体的計画 国際ファッション学部ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科は、教育課程における職業専門科目の必修科目の「<u>臨地実習Ⅰ（企業）</u>」と「<u>臨地実習Ⅱ（産地）</u>」、展開科目の選択科目の「<u>海外実習Ⅰ</u>」「<u>海外実習Ⅱ</u>」で学外実習を行う。 <u>続く 10.1 項目から 10.4 項目に詳細があり、実習に関する詳細な資料は、添付の資料 7 から資料 11 にある。</u></p> <p>10.3 臨地実習を可能にする制度的整備 学生が安全にかつ円滑な実習を行うための制度整備として、学内に<u>地域連携センター</u>を設ける。学生の渡航状況、臨地教育状況を一括して管理し、また海外での臨地実習を行う者について、<u>別途組織するキャリアサポート・センターと地域連携センターに集約して渡航中のフォロー等を行う。</u>インターンシップにかかる保険等の組織的な整備も含め、センターは臨地実習を可能にするために大学内に設ける場である。「<u>臨地実習Ⅰ（企業）</u>」、「<u>臨地実習Ⅱ（産地）</u>」「<u>海外実習Ⅰ</u>」「<u>海外実習Ⅱ</u>」科目を担当する専任教員と共に、必要な助手やティーチングアシスタントがこの運営に携わる。「<u>臨地実習Ⅰ（企業）</u>」、「<u>臨地実習Ⅱ（産地）</u>」における具体的なインターンシップ先企業、産地組織の一覧は添付資料の通りである（資料 9）。</p>	<p>10. 学外実習等を実施する場合の具体的計画 国際ファッション学部ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科は、教育課程における職業専門科目の必修科目の「<u>臨地実習Ⅰ（企業）</u>」と「<u>臨地実習Ⅱ（産地）</u>」、展開科目の選択科目の「<u>海外実習</u>」で学外実習を行う。<u>実習に関する資料は、添付の資料 6 から資料 10 にある。</u></p> <p>10.3 臨地実習を可能にする制度的整備 学生が安全にかつ円滑な実習を行うための制度整備として、学内に<u>臨地教育支援センター（仮称）</u>を設ける。学生の渡航状況、臨地教育状況を一括して管理し、また海外での臨地実習を行う者について、<u>（追加）渡航中のフォロー等を行う。</u>インターンシップにかかる保険等の組織的な整備も含め、センターは臨地実習を可能にするために大学内に設ける場である。「<u>臨地実習Ⅰ（企業）</u>」、「<u>臨地実習Ⅱ（産地）</u>」「<u>海外実習</u>」科目を担当する専任教員と共に、必要な助手やティーチングアシスタントがこの運営に携わる。「<u>臨地実習Ⅰ（企業）</u>」、「<u>臨地実習Ⅱ（産地）</u>」における具体的なインターンシップ先企業、産地組織の一覧は添付資料の通りである（資料 9）。</p>

(新旧対照表) 学則 (全学共通 11 ページ)

新	旧
<p>(附置組織・機関)</p> <p>第5<u>3</u>条 本学に、以下の全学的な附置組織・機関を置く。</p> <p>(1) アドミッション・センター</p> <p>(2) キャリアサポート・センター</p> <p>(3) 地域連携センター</p> <p><u>(削除)</u></p>	<p>(附置組織・機関)</p> <p>第5<u>2</u>条 本学に、以下の全学的な附置組織・機関を置く。</p> <p>(1) アドミッション・センター</p> <p>(2) キャリアサポート・センター</p> <p>(3) 地域連携センター</p> <p><u>(4) 国際連携センター</u></p>

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

14. <アドミッション・ポリシーと入試方法が不適切>

アドミッション・ポリシーに基礎学力に関する説明がなく、入試方法にも反映されていない。学位を授与するという観点から、高校卒業程度の学力を担保する方法や、本学が求める人材として入学前に必要最低限身につけておくべき知識を測る方法が必要と思われるため、現在の入試方法で測定可能であるかについて改めて説明するか、アドミッション・ポリシーや入試方法を見直すこと。また、留学生入試を行うようだが、留学生の日本語能力をどのように担保するのか不明なため、明確にすること。

(対応) アドミッション・ポリシーと入試方法を適切に見直した

高大接続改革により、「入学者に求める学力の明確化」が必須条件となっていることをふまえ、本学は、アドミッション・ポリシーの方向性と入試方法を学科ごとに見直し、改めた。また、留学生の日本語能力を担保する入試となるように適切に見直した。

アドミッション・ポリシーの方向性

国際ファッション学部は、変動する経済社会のなかで生じている産業上の課題に対応できる人材を教育することを目標として、ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科から構成し、4学科とも、ファッション産業に興味を持ち、国際化、情報化などの当該産業を取り巻く経済社会文化環境のさまざまな変化に迅速に対応するとともに、ファッション産業のクリエイション分野、ビジネス分野、及びそれらが位置づく地域のファッション分野の課題を解決しようとする意欲をもった学生を募集する。

このため、国際ファッション学部では、各学科別に学生募集を行い、2年間で修得したファッション産業の基礎的知識と学生自身の興味関心に基づいて、各学科の教員と相談しつつ、各自が卒業後の就職先につながる実習先、特に産地や企業を選択決定できうる機会を与える。そこで、国際ファッション学部のファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて、下記のような資質を持つ人の入学を募る。

求める学生像

(1) 基礎学力について

- 1.日本語の基本的な能力
- 2.外国語の基本的な能力

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について

- 1.人との基本的なコミュニケーションができる。
- 2.基本的な論理的思考力がある
- 3.ファッション世界への興味と関心をもつ
- 4.日本や世界の社会・文化・環境への関心をもつ

(3) 主体的に学習に取り組む態度について

- 1.ファッション産業界の国際的な動向や日本経済、ビジネスに関心を持ち、今後の社会がいかな

る方向に進むかを主体的に学び分析しようとする学生。

2.将来の進路についてはっきりした意志を持ち、国際的な活躍を視野に入れた学生。

3.主体的に物事に取り組み、自らの知識や経験を発展させる意欲がある学生。

上記のような資質と関心を持った学生を求めるために、本学では、AO入試、推薦入試、一般入試、留学生入試などを設け、上記の資質と関心について学力だけに偏らない多面的な評価を行って学生を募集する。

選抜方法

【AO入学試験】

志望理由書に基づく面接 100点と調査書 50点の合計 150点満点で評価する。本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

【推薦入学試験】

指定校推薦入試では、志望理由書に基づく面接 50点、調査書 100点の合計 150点満点で評価する。高等学校段階での良好な学習状況、真摯な学習態度、意欲的な部活動、委員会活動、学校内外の行事への取り組み及び基礎的学力について、調査書を通じた選考比重を高くして確認する。本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

なお、推薦基準については高校の教育方針・進学実績・就職実績・学外活動実績に加え、開学後においては本学への入学者の実績等に基づき、高校毎に別途定めた上で、高校に通知するものとする。

【一般入学専願試験】

一般入試には、専願と併願を設ける。適性診断Ⅰ（高校卒業程度の国語・英語の基礎学力に関する記述式試験）100点、適性診断Ⅱ（論理的な思考力、表現力をはかる記述式試験）100点、調査書 50点の合計 250点満点で評価する。上記の試験方法から基本的な学習態度の習得状況を見極め、本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

【一般入学併願試験】

適性診断Ⅰ（高校卒業程度の国語・英語の基礎学力に関する記述式試験）100点、適性診断Ⅱ（論理的な思考力、表現力をはかる記述式試験）100点、調査書 50点の合計 250点満点で評価する。上記の試験方法から基本的な学習態度の習得状況を見極め、本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

【留学生入学試験】

留学生入試では、書類審査（日本語能力試験 N2 以上であること）50点、志望動機を確認するプレゼンテーション 100点の合計 150点満点で評価する。上記の試験方法から基本的な学習態度及び日本語能力の習得状況を見極め、本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (39-41 ページ)

新	旧
<p>9. 入学者選抜の概要</p> <p>9.1 入学者選抜の考え方</p> <p>本学はファッションという専門性をたて糸に、国際的な教養をもった人間性をよこ糸にしたグローバル人材を育成し、国内の地域企業・地方産地及び国際社会において、ファッションの分野を通じて貢献することを目的としている。</p> <p>入学者選抜においては、本学の教育理念に共感し国内外における社会貢献を目指す強い意志をもち、多様な価値観や文化的背景をもった人々の中で活躍したいと考える人を積極的に受け入れる。<u>大学入学資格をもつ留学生を広く受け入れる。ただし留学生には日本語能力をはかるために、留学生入試を行う。また帰国子女、社会人経験を有する18歳以上の人を社会人と定義し、それらの学生に広く門戸を開いている。そのため、本学は特別に帰国生入試や社会人入試といった選抜は設定しない。</u></p> <p>(中略)</p> <p>9.2 入学者受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)</p> <p><u>アドミッション・ポリシーの方向性</u></p> <p><u>国際ファッション学部は、変動する経済社会のなかで生じている産業上の課題に対応できる人材を教育することを目標として、ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科から構成し、4学科とも、ファッション産業に興味を持ち、国際化、情報化などの当該産業を取り巻く経済社会文化環境のさまざまな変化に迅速に対応するとともに、ファッション産業のクリエイション分野、ビジネス分野、及びそれらが位置づく地域のファッション分野の課題を解決しようとする意欲をもった学生を募集する。</u></p> <p><u>このため、国際ファッション学部では、各学科別に学生募集を行い、2年間で修得したファッション産業の基礎的知識と学生自身の興味関心に基づいて、各学科の教員と相談しつつ、各自が卒業後の就職先につながる実習先、特に産地や企業を選択決定できうる機会を与える。そこで、国際ファッション学部のファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づい</u></p>	<p>9. 入学者選抜の概要</p> <p>9.1 入学者選抜の考え方</p> <p>本学はファッションという専門性をたて糸に、国際的な教養をもった人間性をよこ糸にしたグローバル人材を育成し、国内の地域企業・地方産地及び国際社会において、ファッションの分野を通じて貢献することを目的としている。</p> <p>入学者選抜においては、本学の教育理念に共感し国内外における社会貢献を目指す強い意志をもち、多様な価値観や文化的背景をもった人々の中で活躍したいと考える人を積極的に受け入れる。また、大学入学資格をもつ留学生、帰国子女、社会人経験を有する18歳以上の人を社会人と定義し、それらの学生も広く受け入れる。 <u>(追加)</u></p> <p>(中略)</p> <p>9.2 入学者受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)</p> <p><u>(追加)</u></p> <p>本学の求める人材は、本学及び学部の理念に共感し、自分の経験やキャリアを活かし、自ら学び考えて取り組もうとする学習意欲の高い者である。つまり、(1) 国内外の多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に強い関心と意欲がある者に門戸を開放する。そして(2) ファッションの学習に対して強い知的好奇心を持ち、その学習と課題解決のために積極的に関わる意欲を持つ者、(3) 積極的に日本から発信する意欲のある者、(4) 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人など多様な背景や経験をもつ者、各国留学生を歓迎する。</p> <p>本学の国際ファッション学部ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科の定員は下記に示す通りであり、2年次編入と併せて完成年度の収容定員は794名とする。</p>

て、下記のような資質を持つ人の入学を募る。

求める学生像

(1) 基礎学力について

1. 日本語の基本的な能力
2. 外国語の基本的な能力

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について

1. 人との基本的なコミュニケーションができる。
2. 日本語の基本的な論理的思考力
3. ファッション世界への興味と関心
4. 日本や世界の社会・文化・環境への関心

(3) 主体的に学習に取り組む態度について

1. 国内外のファッション産業界の動向や日本経済、ビジネスに関心を持ち、21世紀の社会がいかなる方向に進むかを主体的に学び分析しようとする学生。
2. 将来の進路についてはっきりした意志を持ち、国際的な活躍を視野に入れた学生。
3. 主体的に物事に取り組み、自らの知識や経験を発展させる意欲がある学生。

上記のような資質と関心を持った学生を求めるために、本学では、A0 入試、指定校推薦入試、一般入試などを設け、上記の資質と関心について学力だけに偏らない多面的な評価を行って学生を募集する。

本学の求める人材は、本学及び学部の理念に共感し、自分の経験やキャリアを活かし、自ら学び考えて取り組もうとする学習意欲の高い者である。つまり、(1) 国内外の多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に強い関心と意欲がある者に門戸を開放する。そして(2) ファッションの学習に対して強い知的好奇心を持ち、その学習と課題解決のために積極的に関わる意欲を持つ者、(3) 積極的に日本から発信する意欲のある者、(4) 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人など多様な背景や経験をもつ者、各国留学生を歓迎する。

本学の国際ファッション学部ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科の定員は下記に示す通りであり、2

年次編入と併せて完成年度の収容定員は 794 名とする。

9.3 入学者選抜方法

上記のアドミッション・ポリシーに基づき、本学においては、これを実行するために多様な背景をもった受験生を広く受け入れる。それぞれの受験生の状況を鑑み、受験生自らの判断により真の能力、十分な力が発揮でき、それを評価できるよう複数の選抜方式として、一般入試、推薦入試、アドミッションオフィス入試（以下、A0 入試）（削除）を実施する。各入試の募集人員の割合は、一般入試 55%、推薦入試 5%、A0 入試 40%（削除）の割合のもとに計画する。また本学で予定している 2 年次編入は、一般入試 50%、推薦入試 50%の割合のもとに計画する。（削除）

なお、本学における上記のアドミッション・ポリシーは、国際ファッション学部ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科で共通しているため、入試内容、選抜方法は以下の共通の方法を採用する。

9.3.1 A0 入学試験

志望理由書に基づく面接 100 点と調査書 50 点の合計 150 点満点で評価する。本学の 3 つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。

9.3.2 推薦入学試験

指定校推薦入試では、志望理由書に基づく面接 50 点、調査書 100 点の合計 150 点満点で評価する。高等学校段階での良好な学習状況、真摯な学習態度、意欲的な部活動、委員会活動、学校内外の行事への取り組み及び基礎的学力について、調査書を通じた選考比重を高くして確認する。本学の 3 つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。なお、推薦基準については高校の教育方針・進学実績・就職実績・学外活動実績に加え、開学後においては本学への入学者の実績等に基づき、高校毎に別途定めた上で、高校に通知するものと

9.3 入学者選抜方法

上記のアドミッション・ポリシーに基づき、本学においては、これを実行するために多様な背景をもった受験生を広く受け入れる。それぞれの受験生の状況を鑑み、受験生自らの判断により真の能力、十分な力が発揮でき、それを評価できるよう複数の選抜方式として、一般入試、推薦入試、アドミッションオフィス入試（以下、A0 入試）、社会人入試を実施する。各入試の募集人員の割合は、一般入試 45%、推薦入試 5%、A0 入試 40%、社会人入試 10%の割合のもとに計画する。また本学で予定している 2 年次編入は、一般入試 50%、推薦入試 50%の割合のもとに計画する。入試では

なお、本学における上記のアドミッション・ポリシーは、国際ファッション学部ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科で共通しているため、入試内容、選抜方法は以下の共通の方法を採用する。

9.3.1 A0 入学試験

高校時代において特筆すべき学習実績、課外活動（例えば、留学・海外経験等、取得資格・検定等、表彰・顕彰等、ボランティア・地域貢献的な活動等）を行った実績がある学生に対し、大学での学修に対する意欲・熱意等を問う志望理由書、書類審査、面接などから総合的に合否を判定する。

9.3.2 推薦入学試験

出身高等学校の学校長からの推薦を受けたものに対し、大学での学修に対する意欲・熱意等を問う志望理由書、書類審査、面接などから総合的に合否を判定する。

<p>する。</p> <p>9.3.3 一般入学専願試験 <u>一般入試には、専願と併願を設ける。適性診断Ⅰ（高校卒業程度の国語・英語の基礎学力に関する記述式試験）100点、適性診断Ⅱ（論理的な思考力、表現力をはかる記述式試験）100点、調査書50点の合計250点満点で評価する。上記の試験方法から基本的な学習態度の習得状況を見極め、本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。</u></p> <p>9.3.4 一般入学併願試験 <u>適性診断Ⅰ（高校卒業程度の国語・英語の基礎学力に関する記述式試験）100点、適性診断Ⅱ（論理的な思考力、表現力をはかる記述式試験）100点、調査書50点の合計250点満点で評価する。上記の試験方法から基本的な学習態度の習得状況を見極め、本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。</u></p> <p>9.3.5 留学生入学試験 <u>留学生入試では、書類審査（日本語能力試験N2以上であること）50点、志望動機を確認するプレゼンテーション100点の合計150点満点で評価する。上記の試験方法から基本的な学習態度及び日本語能力の習得状況を見極め、本学の3つのポリシー及びカリキュラムを説明するガイダンスを実施した上で、面接を行い、本学での学習意欲及びキャリア構想を確認する。</u></p> <p><u>（削除）</u></p> <p>9.3.6 欠員募集 <u>書類審査、面接から総合的に合否を判定する</u></p>	<p>9.3.3 一般入学専願試験 <u>本学への入学を希望する学生を対象に、当該活動の関係者からの推薦書に加え、書類審査、面接などから総合的に合否を判定する。なお、その実績を示す証明書及び志望理由書を推薦書にかえることも可能とする。書類選考、グループ面接を実施しその結果から総合的に合否を判定する。</u></p> <p>9.3.4 一般入学併願試験 <u>大学での学修に対する意欲・熱意等を問う志望理由書に加え、書類選考、作品提出（デザイン画、イラスト、写真等）、面接などから総合的に合否を判定する。</u></p> <p>9.3.5 留学生入学試験 <u>書類選考、面接選考、適正診断、筆記を実施し、その結果から総合的に合否を判定する。</u></p> <p>9.3.6 社会人入学入試（公募及び自己、所属長推薦） <u>これまでの社会人の経験を踏まえ、なぜ大学で学びたいかを問う志望理由書とともに、特筆すべき実績、ボランティア活動、地域貢献的な活動実績があり、当該活動の関係者、企業からの推薦書に加え、書類審査、面接などから総合的に合否を判定する。なお、実績を示す証明書及び志望理由書を推薦書にかえることも可能とする。書類審査、面接、社会人としての経歴書から総合的に合否を判定する。</u></p> <p>9.3.7 欠員募集 <u>書類審査、面接から総合的に合否を判定する</u></p>
--	--

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

15. <FDとSDの内容が不明確>

FDやSDに関する内容が不明確なため、具体的に説明すること。

(対応) FD やSD に関する内容を具体的に説明する

(1) FD (ファカルティ・デベロップメント)

本学では、FD (ファカルティ・デベロップメント) 委員会を中心に、授業方法をはじめとした教育活動のさらなる改善を図るため、以下の活動について全学的に取り組む。

主な活動は、教育研究を行う機関としての教員の倫理観の醸成、外部資金など資金の取り扱いに関する研修、教育の質の向上を図るためのアンケートの実施、教育研究の理念や目標を理解する研修、実習を含む授業内容や授業方法の改善するための組織的な研究や研修、多様な学生に対する理解と適切な対応を促す組織的な研修等の実施である。取り組みの結果は、委員会を通じて毎年報告書にまとめられる。

・授業改善アンケート

概ねすべての科目で、学期末(前期:7月下旬-8月上旬、後期:1月下旬-2月上旬の予定)に「授業改善アンケート」を実施し授業担当者にフィードバックする。授業に対する学生の理解度と率直な意見や要望を調査するアンケートが、教員が授業内容・方法を改善する上で有効になる。学生の意見を受けて、授業改善等が改善された例などを、他の教員の参考になるようまとめて報告し、教員間で共有する。

・研究、研修

教育改革における主要なテーマや授業方法についての研修を目的としたFD研究会や研修を開催する。特に、新任教員を対象とした研修(基本的には年度始めに1回開催することとするが、完成年度までは各教員の着任時期に合わせて、着任から約1か月以内に開催する予定とする)を行う。大学における研究教育、倫理観、学生への対応など必要事項を、教員が職員と共に考える研修等を、年1回(初年度は10月-11月の予定)実施する予定である。

・報告

委員会を通じて、授業改善アンケートの結果、その他のFD活動の様子などを年度末に報告する。

(2) SD (スタッフ・ディベロップメント)

本学では、大学運営および教育・学生支援活動において、事務職員に期待される役割は大きいと考えている。SD (スタッフ・ディベロップメント) 委員会を中心に、研修を継続的に実施し、企画・運営能力及び資質の向上を図るため、以下の活動について全学的に取り組む。

主な活動は、教育理念・教育目標を深め、円滑な大学運営を行うために、各職員のスキルアップにつながる研修等を行うことである。具体的には、教育研究に携わる機関としての職員の倫理観を高める研修、外部資金など資金の取り扱いに関する研修、学生の実習活動を行うための組織間の連携のあり方を検討すること、学生の就職等を促進するための組織的な連携活動への理解や改善などを検討する研修の実施である。取り組みの結果は、委員会を通じて毎年報告書にまとめられる。

・研修

新入職員には、大学職員として基本的に必要とされる、パソコン研修、ビジネスマナー研修、コミュニケーション・倫理研修を行う。新任職員を対象とする研修は、各自の着任時期に応じて、概ね約1か月以内に前任者から個別に実施される。本学の職員は、学務、経理、総務、地域連携、学生就職、図書館運営など、各職の主要業務は異なれど、大学における教育研究に関する事項、倫理観、学生への理解や対応などへの理解は共通して必要である。かかる事項については、報告書や研修への参加を通じてに本学が位置するファッション産業界の概略についての基本的な情報や知識は必要である。こうした共通した内容及び大学における共通の教育研究に関する事項、倫理観、学生への理解や対応などの事項は、教員と職員が合同で研修等を年1回（初年度は10月-11月の予定）実施する予定である。

・報告

委員会を通じて、SD活動の様子などを年度末に報告し、互いに共有する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (48 ページ)

新	旧
<p>12. 自己点検・評価 (中略) <u>FD (ファカルティ・デベロップメント) と SD (スタッフ・ディベロップメント) については、以下の通り委員会を通じて全学的に取り組む。</u> <u>本学では、FD (ファカルティ・デベロップメント) 委員会を中心に、授業方法をはじめとした教育活動のさらなる改善を図る。主な活動は、教育研究を行う機関としての教員の倫理観の醸成、外部資金など資金の取り扱いに関する研修、教育の質の向上を図るためのアンケートの実施、教育研究の理念や目標を理解する研修、実習を含む授業内容や授業方法の改善するための組織的な研究や研修、多様な学生に対する理解と適切な対応を促す組織的な研修等の実施である。取り組みの結果は、委員会を通じて毎年報告書にまとめられる。</u></p> <p>・<u>授業改善アンケート</u> <u>概ねすべての科目で、学期末 (前期: 7 月下旬-8 月上旬、後期: 1 月下旬-2 月上旬の予定) に「授業改善アンケート」を実施し授業担当者にフィードバックする。授業に対する学生の理解度と率直な意見や要望を調査するアンケートが、教員が授業内容・方法を改善する上で有効になる。学生の意見を受けて、授業改善等が改善された例などを、他の教員の参考になるようまとめて報告し、教員間で共有する。</u></p> <p>・<u>研究、研修</u></p>	<p><u>12. 自己点検・評価</u> (中略) <u>(追加)</u></p>

教育改革における主要なテーマや授業方法についての研修を目的としたFD研究会や研修を開催する。特に、新任教員を対象とした研修（基本的には年度始めに1回開催することとするが、完成年度までは各教員の着任時期に合わせて、着任から約1か月以内に開催する予定とする）を行う。大学における研究教育、倫理観、学生への対応など必要事項を、教員が職員と共に考える研修等を、年1回（初年度は10月-11月の予定）実施する予定である。

・報告

委員会を通じて、授業改善アンケートの結果、その他のFD活動の様子などを年度末に報告する。

また本学では、大学運営および教育・学生支援活動において、事務職員に期待される役割は大きいと考えている。SD（スタッフ・ディベロップメント）委員会を中心に、研修を継続的に実施し、企画・運営能力及び資質の向上を図るため、以下の活動について全学的に取り組む。

主な活動は、教育理念・教育目標を深め、円滑な大学運営を行うために、各職員のスキルアップにつながる研修等を行うことである。

具体的には、教育研究に携わる機関としての職員の倫理観を高める研修、外部資金など資金の取り扱いに関する研修、学生の実習活動を行うための組織間の連携のあり方を検討すること、学生の就職等を促進するための組織的な連携活動への理解や改善などを検討する研修の実施である。取り組みの結果は、委員会を通じて毎年報告書にまとめられる。

・研修

新入職員には、大学職員として基本的に必要とされる、パソコン研修、ビジネスマナー研修、コミュニケーション・倫理研修を行う。新任職員を対象とする研修は、各自の着任時期に応じて、概ね約1か月以内に前任者から個別に実施される。本学の職員は、学務、経理、総務、地域連携、学生就職、図書館運営など、各職の主要業務は異なれど、大学における教育研究に関する事項、倫理観、学生への理解や対応などへの理解は共通して必要である。かかる事項については、報告書や研修への参加を通じてに本学が位置するファッション産業界の概略についての基本的な情報や

知識は必要である。こうした共通した内容及び大学における共通の教育研究に関する事項、倫理観、学生への理解や対応などの事項は、教員と職員が合同で研修等を年 1 回（初年度は 10 月-11 月の予定）実施する予定である。

・報告

委員会を通じて、SD 活動の様子などを年度末に報告し、互いに共有する。

(改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

16. <教育内容の充実>

国際的に活躍できる人材を育成することを目的とするのであれば、海外での実習先、海外の教育機関との連携、英語以外の言語の授業科目などの充実が望まれるため、対応方針を回答すること。

(対応) 科目追加を行う

本学では、ファッション産業分野において国際的に活躍できる人材を育成することを目的とし、海外での実習先、海外の教育機関との連携、英語以外の言語の授業科目などの充実が必要と考え、以下の通り、英語以外の言語の授業科目として、全学科の展開科目に2単位の「中国語」（選択）、2単位の「フランス語」（選択）を追加した。加えて、名古屋ファッション学科の展開科目には、2単位の「イタリア語」（選択）を追加した。さらに、全学科の展開科目には、「海外実習Ⅰ」（必修）を追加し、海外実習科目の増加を行った。今後、海外の教育機関との連携の充実などをめざして実習先の充実と語学科目等の充実に取り組む方針である。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (全学科共通)

新						旧						
科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			(追加)					
				必修	選択	自由						
展開専門科目	国際科目群	フランス語	2後		2							
		中国語	2後		2							
		海外実習Ⅰ	3通	2								

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (名古屋ファッション学科)

新						旧						
科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			(追加)					
				必修	選択	自由						
展開専門科目	国際科目群	イタリア語	2後		2							

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (27-29 ページ)

新	旧
<p>4.4 展開科目の設定と理由 (中略)</p> <p>4.4.2 「国際科目群」 本科目群は、ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする態度・志向性を養おうとする科目である。</p> <p>「国際展示会演習」「国際ファッション市場論」「国際知財論」「国際ビジネスモデル特講Ⅰ、Ⅱ」「国際ファッション業界英語」「フランス語」「中国語」「イタリア語」「国際連携ゼミ」「海外実習Ⅰ」「海外実習Ⅱ」から成る。本学の考える国際性は、3.4項目に記したように、「豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力」と「ファッション産業のクリエイションやビジネスの国際的な動向に関心を持ち、実際の現場で能動的に課題発見や解決に取り組もうとする態度・志向性」と「ファッション産業に関する基本的な知識や技術力」と「国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力」が有機的に結びつくことで達成されるものである。なかでも専門職大学設置基準で定められた展開科目の趣旨である「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とする趣旨に沿って、本学が「現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力」を養成するために設定する「国際科目群」には、教室の外に出て海外のファッションビジネスの現場から、ファッションクリエイションやファッションビジネスの実践的な知識を学ぶ実習科目と講義科目、演習科目が結びついてこうした力を養成する主な原動力となりうる。</p> <p>展開科目の語学科目は「国際ファッション業界英語」「フランス語」「イタリア語」「中国語」からなる。基礎科目の語学科目において、1年次、2年次通期で基礎科目「英語Ⅰ、Ⅱ」の合計8単位を必修科目として履修した後、おもに2年次以降に「国際ファッション業界英語」科目を4単位、必修として課す。これにより、ファッション産業に特化した応用的で実践的な英語のコミュニケーション能力を高める。ここでいう語学教育は、専門的</p>	<p>4.4 展開科目の設定と理由 (中略)</p> <p>4.4.2 「国際科目群」 国際科目群は、教室の外に出て海外のファッションビジネスの現場から、ファッションクリエイションやファッションビジネスの実践的な知識を学ぶ科目である。具体的には、「海外実習」と「国際連携ゼミ」から成る。</p> <p>特に、ゼミに関わる学生と教員が、国際的な最新の情報の収集し、商慣行及びビジネススキルの修得と向上を目指し、さらに海外の企業や各種機関や組織とネットワークを構築することを目標としている。これらは本学の教育課程に特徴的なものとして位置付く。これまでの専修学校モード学園が培ってきた欧州、特にフランスのファッション・アパレル産業との人材交流やネットワークをもとにして、学内に教員を招聘してゼミを開くことを可能にすると同時に、希望すれば学外に学生を派遣して実習をさせることを可能にしている。これらの科目で学んだ知識や技術、問題や解決方法などは、総合科目「卒業制作・計画」でさらに活用することが期待されている。</p> <p>「海外実習」では、上記のフランスへのインターンシップのほかに、学生が希望すれば一部、欧米の他の地域やアジア地域等へのインターンシップを行うことが可能になる。受け入れ先となる企業や団体に関する詳細については、10.4項目や添付した資料11に記載した。学生は、専任教員と綿密な相談を行い、その指導のもと、受け入れ先と連携した臨地実習を行う。海外の商慣行やクリエイションのあり方を実践的に学ぶと同時に、異なる地域のものの美的な価値の理解などを通じて、これまで学んだ知識や技術を国際的に発信・展開する方法を考え、卒業制作・計画に向けた研究課題を発掘する。</p> <p>そして、海外実習の前後には、多彩な分野を担当する教員と、実務経験をもつ専任教員によって編成された国際連携ゼミが用意されている。この実習科目と演習科目は有機的に結びついており、学生が、主体的に学習意欲を育てるよう工夫する。実習で得る、新たな知識や方法を深化・定着するよう、ゼミでは実習前に実習計画の発表を課し、実習後に実習を通じて発見した個別課題の発表を課す。そうすることで、実習を行った学生のみなら</p>

な論文作成の能力や語法などの専門的な英語学の教育を主眼にしたものではなく、あくまで、日常生活や日常の仕事の中で、円滑なコミュニケーションを図ることのできる能力及び自己表現能力を高める教育を指す。これにより、ファッション分野において国際社会で活躍するために欠かせない英語やフランス語、イタリア語、中国語によるコミュニケーション能力をもち、より自立的、主体的に行動していく方法を身に着ける。

英語をはじめ、現地で通用する言語を使用したコミュニケーション能力は、国際的な仕事をするうえで欠かせない能力となっている。こうしたコミュニケーション能力をファッションの世界に関係する形で学ばせる。当該科目は「国際連携ゼミ」、「海外実習Ⅰ、Ⅱ」を選択履修する場合の基礎とも位置付けている。

「海外実習Ⅰ、Ⅱ」では、欧米の地域やアジア地域等へのインターンシップを行う。全員が必修で履修する「海外実習Ⅰ」は、学生の希望や予算、目的に応じて欧米の地域やアジア地域等へ本学の専任教員が引率する。そのなかでも特に国外に本社機能を置く企業等で将来的に就業を希望する学生には、「海外実習Ⅱ」を選択的に履修可能としている。ここでは、欧米や中国でこれまでの専門学校モード学園が培ってきた欧州、特にフランスのファッション・アパレル産業との人材交流やネットワークをもとにしたインターンシップを可能にする。受け入れ先となる企業や団体に関する詳細については、10.4 項目や添付した資料11に記載した。学生は、専任教員と綿密な相談を行い、その指導のもと、受け入れ先と連携した臨地実習を行う。海外の商慣行やクリエイションのあり方を実践的に学ぶと同時に、異なる地域のものの美的な価値の理解などを通じて、これまで学んだ知識や技術を国際的に発信・展開する方法を考え、卒業制作・計画に向けた研究課題を発掘する重要な機会と位置付けている。

そして、海外実習の前後には、多彩な分野を担当する教員と、実務経験をもつ専任教員によって編成された国際連携ゼミが用意されている。この実習科目と演習科目は有機的に結びついており、学生が、主体的に学習意欲を育てるよう工夫する。実習で得る、新たな知識や方法を深化・定着するよう、ゼミでは実習前に実習計画の発表を課し、実習後に実習を通じて発見した個別課題の発表を課す。

ず、ゼミを履修する多くの学生や教員にとっても、主体的に課題に取り組み、国際的に発信展開することを学ぶ動機付けとなり、また、最新の海外情報の収集やネットワークの構築に役立つフィードバックが得られるものと期待する。

<p>そうすることで、<u>実習を行った学生のみならず、ゼミを履修する多くの学生や教員にとっても、主体的に課題に取り組み、国際的に発信展開することを学ぶ動機付けとなり、また、最新の海外情報の収集やネットワークの構築に役立つフィードバックが得られるものと期待する。</u></p>	
---	--

(参照) 「2 教育課程等の概要」

(改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

17. <実習先と授業科目の充実>

産業構造上の問題を解決し、新たな価値観の創出を目指すのであれば、臨地実務実習など現場における学修については、国内のアパレル産業だけでなく、近年の市場の進展から、関わりが深くなっている情報通信系などの他業種との連携を視野に入れた実習先の確保や他業種との連携に関する授業科目の開設が望まれるため、対応方針について回答すること。

(対応) 科目追加を行う

(1) 他業種との連携を視野に入れた実習先確保を行った。「臨地実習Ⅰ(企業)」において、国内のアパレル産業だけでなく、近年の市場の進展から、関わりが深くなっている情報通信系、広告宣伝系の実習先を追加した。ファッションクリエイション学科で10社、ファッションビジネス学科で10社、大阪ファッション学科で5社、名古屋ファッション学科で8社である。実習先は、臨地実務実習施設一覧に詳細を記している。

(2) 他業種との連携に関する授業科目の開設を行った。
 基礎科目に、環境、情報、地域に関わる科目など、他業種との連携に関する基礎となる教養、汎用的能力の養成につながる科目を追加した。
 展開科目に、環境、情報、地域の分野で、知識と技術を学び、ファッション産業における知財の保存と利用を考える「ファッション産業とメディアデザイン」「デジタルテクノロジー演習」「デジタルアーカイブ論」などの科目を追加した。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科共通)

新						旧						
科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			(追加)					
				必修	選択	自由						
展開専門科目	発信力科目群	ファッション産業とメディアデザイン	2前		2							
		デジタルアーカイブ論	2前		2							

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科共通)

新						旧					
科目 区分	授業科目の 名称	配当 年次	単位数								
			必修	選択	自由						
展 開 専 門 科 目	発 信 力 科 目 群	ファッション 産業とメディ アデザイン	2 前		2						(追加)
		デジタルテク ノロジー演習	2 前		2						

(新旧対照表) 授業科目の概要 (全学科共通)

新	旧
<p>「ファッション産業とメディアデザイン」 <u>本科目では、メディアに関する基礎科目を履修した受講に対し、現代のデジタルテクノロジーを中心としたメディア環境の可能性と問題について討議できるようになることを目指す。現在、インターネットに接続された無数のデジタルデバイス、デジタルサービスが溢れ返り、それらが相互に関係、連携、融合しながら複雑な情報環境を形成している。本科目では、インターネットの普及を軸に、いかなる社会観、人間観、美意識が生まれ変容したのかを分析する。特にファッション産業に関係づけて、いかにメディアの発展を契機にデザインの変化が現れたかを検討する。受講生には、現状のメディア環境を概観しつつ、最新のテクノロジー群が牽引する現在のメディア環境の問題点と可能性を考える課題を課す。</u></p>	(追加)

(新旧対照表) 授業科目の概要 (ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科
共通)

新	旧
<p>「デジタルアーカイブ論」 本科目では、デジタルアーカイブの視点から、デジタルアーカイブ関連分野の具体的実践を例に取り上げ、「メディア」「コンテンツ」双方のデジタル化によるデジタルアーカイブの状況と動向を理解する。今後のファッションビジネスにとって、デジタルアーカイブの利活用に、いかなる課題や利点があるか、「情報技術」「サービスモデル」「社会的課題」の視点から捉える。</p>	(追加)

(新旧対照表) 授業科目の概要 (大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科共通)

新	旧
<p>「デジタルテクノロジー演習」 本科目では、デジタルテクノロジーの視点から、ファッションクリエイション、およびファッションビジネスにおけるデジタル環境の現状や問題点についての知見を深める。近年、すべての「事象」が大きなスピードをもって「デジタル化」されようとしている。作品制作それ自体において3Dプリンタなどが利用されており、ホームページ上では個々の顧客の特性を踏まえたレコメンデーション機能の充実なども求められている。ファッションクリエイション、ならびにファッションビジネスにおける、デジタルテクノロジー環境に対する知識と技能を学ぶ。</p>	(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (25-26 ページ)

新	旧
<p>4.4 展開科目の設定と理由 (中略) 4.4.1 「発信力科目群」 本科目群は、「環境とビジネス」「地域産業論」「地域産業・大阪論」「地域産業・名古屋論」「デジタルアーカイブ論」「ファッション産業とデジタルテクノロジー」「デジタルテクノロジー演習」から成る。本科目群では、国際的なファッション産業でクリエイシ</p>	<p>4.4 展開科目の設定と理由 (中略) 4.4.1 「メディア科目群」 (削除) (追加)</p>

ョンやプロデュースの仕事などで活躍を目指す人材が、豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力を身につけるために、ファッション産業と各種メディアの発達や役割や関係について歴史的な変遷をもとにした理解を深め、さらに機械技術の発展の変遷をもとにした展開の可能性を考える科目を配置する。そして、現代の産業社会、経済社会において必須の課題となっている環境との関係を取り上げ、各校舎の立地する地域からの発信という点で地域の地場産業との関係を考える科目を配置している。

こうした科目は、基礎科目に配置した情報とメディア関係の「メディア概論」「情報リテラシー」科目、環境に関する「環境と社会」科目、地域に関する「地域論入門」科目とは異なる様相をもつ。基礎科目の「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「地域論入門」は、どちらかといえば一般的な教養としてのメディアや情報や環境や地域への理解を身につけさせ、コンピュータ機器の使い方などを学ぶ科目である。そして、職業専門科目における「写真概論」「写真实習」「映像概論」「映像実習」が、どちらかといえば一般的な静止画や動画を撮る機器の種類や用途、デジタル加工などの編集技術の種類や技術といった実践的な知識や技術を演習を通して学ぶ科目である。

すなわち、基礎科目で扱う一般教養ではなく、専門職大学設置基準で定められた展開科目の趣旨である「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とする趣旨に沿って、本学が「現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力」を養成するために設定するものである。したがって、今後のファッション業界における国際化と情報化に対応して、日本の知財をもとに積極的な展開と発信を行うための実践的な力を身につける科目である。

以上の科目には、講義による授業と、実習と演習が含まれる。講義や実習科目は、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、演習では習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。現代社会のメディア環境やファッション産業をとりまくメディア環境について、自ら課題を発見し、調べ、討議することを通じて、質疑応答の方

<u>法、文献の調べ方など関連する学習の方法についても学ぶ。</u>	
------------------------------------	--

(参照) 「2 教育課程等の概要」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
【全学共通】

18. <科目の不足>

多様な地域性をもとに日本の知財の活用を提案するためには、地方産業論や地域論など地域に関する基盤的な理論を修得する必要があるため、各学科において、これに関する知識を学修できる教育課程の編成とするよう改めること。

(対応) 科目追加を行う

多様な地域性をもとに日本の知財の活用を提案するための基盤となる理論科目を追加し、以下の通り、各学科の教育課程を改めた。各学科において、基礎科目に「地域論入門」(必修)を追加した。ファッションクリエイション学科において、展開科目に「地域産業論」(必修)を追加した。ファッションビジネス学科の展開科目に「地域産業論」(必修)を追加した。大阪ファッション学科の展開科目に「地域産業・大阪論」(必修)を追加した。名古屋ファッション学科の展開科目に「地域産業・名古屋論」(必修)を追加した。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (全学科共通)

新						旧
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			(追加)
			必修	選択	自由	
基礎科目	地域論入門	2後		2		

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (ファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科共通)

新						旧
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			(追加)
			必修	選択	自由	
職業専門科目	地域産業論	2後	2			

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (大阪ファッション学科)

新						旧				
科目 区分	授業科目の 名称		配当 年次	単位数			(追加)			
				必修	選択	自由				
職業専門科目	発信力科目群	地域産業・大阪論	2 後	2						

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (名古屋ファッション学科学科)

新						旧				
科目 区分	授業科目の 名称		配当 年次	単位数			(追加)			
				必修	選択	自由				
職業専門科目	発信力科目群	地域産業・名古屋論	2 後	2						

(新旧対照表) 授業科目の概要 (全学科共通)

新		旧	
<p>「地域論入門」</p> <p>本科目では、人間にとって地域とは何かという問いを念頭に、具体的な事例をいくつか取り上げる。現代日本に認められる多様な地域性をもとに日本の知財の活用を提案するための基盤となる知識を学ぶ。特に、世界及び日本の社会や文化の多様性と深く結びついている地理、環境、歴史、政治的など多様な観点から、地域の特徴の捉え方を学ぶ。</p>		(追加)	

(新旧対照表) 授業科目の概要 (大阪ファッション学科)

新		旧	
<p>「地域産業・大阪論」</p> <p>経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象との関係でイノベ</p>		(追加)	

<p>ーションや創発を基軸に据えて発想することが求められている。本科目では、このような要請に応えるために、地方の経済的困窮や地域創生の取り組みについての理解を深める。具体的には、大きく理論編と事例編から構成される。理論編では、産業分類の中の地域産業や産業集積論を理解し、事例編では、関西地域の地域産業、産業集積及び立地の背景にある大阪、京都、神戸の織物産地の産業再生や地方創生に関して課題発見につながる分析視角を身につける。</p>	
--	--

(新旧対照表) 授業科目の概要 (名古屋ファッション学科)

新	旧
<p>「地域産業・名古屋論」 <u>経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象との関係でイノベーションや創発を基軸に据えて発想することが求められている。本科目では、このような要請に応えるために、地方の経済的困窮や地域創生の取り組みについての理解を深める。具体的には、大きく理論編と事例編から構成される。理論編では、産業分類の中の地域産業や産業集積論を理解し、事例編では、愛知県の産業集積、特に豊田、一宮、尾州の事例を取り上げ、産業再生や地方創生に関して課題発見につながる分析視角を身につける。</u></p>	<p>(追加)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (25-26 ページ)

新	旧
<p>4.4 展開科目の設定と理由 (中略) 4.4.1 「発信力科目群」 本科目群は、「環境とビジネス」「地域産業論」「地域産業・大阪論」「地域産業・名古屋論」「デジタルアーカイブ論」「ファッション産業とデジタルテクノロジー」「デジタルテクノロジー演習」から成る。本科目群では、国際的なファッション産業でクリエイションやプロデュースの仕事などで活躍を目指す人材が、豊かな日本の装いの文化と知財を学び、それを新たな情報技術や創作技術と結びつける対応力を身につけるために、ファッション産業と各種メディアの発達や役割や関</p>	<p>4.4 展開科目の設定と理由 (中略) 4.4.1 「メディア科目群」 (削除) (追加)</p>

係について歴史的な変遷をもとにした理解を深め、さらに機械技術の発展の変遷をもとにした展開の可能性を考える科目を配置する。そして、現代の産業社会、経済社会において必須の課題となっている環境との関係を取り上げ、各校舎の立地する地域からの発信という点で地域の地場産業との関係を考える科目を配置している。

こうした科目は、基礎科目に配置した情報とメディア関係の「メディア概論」「情報リテラシー」科目、環境に関する「環境と社会」科目、地域に関する「地域論入門」科目とは異なる様相をもつ。基礎科目の「メディア概論」「情報リテラシー」「環境と社会」「地域論入門」は、どちらかといえば一般的な教養としてのメディアや情報や環境や地域への理解を身につけさせ、コンピュータ機器の使い方などを学ぶ科目である。そして、職業専門科目における「写真概論」「写真实習」「映像概論」「映像実習」が、どちらかといえば一般的な静止画や動画を撮る機器の種類や用途、デジタル加工などの編集技術の種類や技術といった実践的な知識や技術を演習を通して学ぶ科目である。

すなわち、基礎科目で扱う一般教養ではなく、専門職大学設置基準で定められた展開科目の趣旨である「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とする趣旨に沿って、本学が「現代のファッション産業の国際化と情報化に対応する能力」を養成するために設定するものである。したがって、今後のファッション業界における国際化と情報化に対応して、日本の知財をもとに積極的な展開と発信を行うための実践的な力を身につける科目である。

以上の科目には、講義による授業と、実習と演習が含まれる。講義や実習科目は、新たな知識や方法を学ぶ場であるのに対し、演習では習得した知識をもとに自らの関心から個別の研究課題に取り組む場である。現代社会のメディア環境やファッション産業をとりまくメディア環境について、自ら課題を発見し、調べ、討議することを通じて、質疑応答の方法、文献の調べ方など関連する学習の方法についても学ぶ。

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

19. <3キャンパスにおける教育の質の同等性が不明確>

4学科を地域が異なる3キャンパスで行い、同じ学位（ファッション学士（専門職））を授与することのだが、学科や地域が異なれば教員組織や実習先なども異なるため、一定の教育効果を確保できるのか不明である。このため、異なる地域に置かれる4学科で同水準の教育効果が得られる計画となっていることを明確に説明すること。

(対応) 異なる地域に置かれる4学科で同水準の教育効果を保つための計画を示す

大学全体の体制として、異なる地域に位置する4学科で同水準の教育効果を保つため、インターネットを使用した通信技術等、テレビ会議の仕組みの整備、専任教員による巡回計画、「教務業務マニュアル（仮称）」の作成と共有、共通課題の実施、一部臨地実習科目における実習先の共通選択制などの体制を整えている。

教育課程に関する会議は、インターネットを使用した通信技術等、テレビ会議の仕組みを通じて、4学科の担当の専任教員が検討する。「設置の趣旨等を記載した書類」「11.1.1 教授会の組織と役割」にも記した通り、「教育研究等に関する重要事項を審議するための教授会を学部を設置する。本学は、校舎が3地区にわたるため、教授会の運営はインターネットを使用した通信技術等を用いて行う」。これは「14.教育内容等の改善を図るための組織的な研修等」に記したように、本学がFD委員会などの活動や、研究活動の奨励を通じて、教員間の意思疎通や連携を図ろうとする取り組みに位置づく。

こうした取り組みを、少なくとも年1回、副学長2名が4学科3校舎の教員組織等の巡回を行うことで促進させる。副学長2名は教職員への聞き取りや及び学生へのアンケート等を通じて、各学科の教員の授業及び教育効果を把握し、各種委員会を通じて、教育効果の確保等、適切なフィードバックに努める。

また、各校舎の専任教員にむけた「教務業務マニュアル」を作成し、FD委員会などの活動を通じて共有する。

臨地実習科目については、各校舎の管理担当する実習先は異なるのだが、「臨地実習Ⅰ」については、学生が希望すれば3校舎の実習先を選択することを可能にしている。「臨地実習Ⅱ」については、各校舎の位置づく産地の知財と課題を学ぶ場として各学科の特色に連なる科目と考えているため、学生は各校舎の管理担当する実習先で学修することとする。以上の取り組みから、異なる地域に得られる4学科で同水準の教育効果が得られるようにする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (47-48 ページ)

新	旧
11.1.1 教授会の組織と役割 (中略)	11.1.1 教授会の組織と役割 (中略)
14.教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	14.教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

<p>(中略)</p> <p><u>異なる地域に位置する 4 学科で同水準の教育効果を保つため、大学全体の体制として、テレビ会議の仕組みの整備、専任教員による巡回計画、「教務業務マニュアル（仮称）」の作成と共有、共通課題の実施等の体制を整えている。</u></p> <p><u>教育課程に関する会議は、テレビ会議の仕組みを通じて、4 学科の担当の専任教員が検討する。また、少なくとも年 1 回、副学長 2 名が 4 学科 3 校舎の教員組織等の巡回を行う。教職員への聞き取り及び学生へのアンケート等を通じて、各学科の教員の授業及び教育効果を把握する。各校舎の専任教員にむけて、教務業務マニュアルを作成し、FD 委員会などの活動を通じて共有する。</u></p> <p><u>3 校舎の異なる教員組織の違いによって特に教育効果の違いが表れやすい実習科目については、各校舎の専任教員が共通課題を提出し、教育効果の質の担保を行う。臨地実習科目については、各校舎の管理担当する実習先は異なるのだが、「臨地実習Ⅰ」については、学生が希望すれば 3 校舎の実習先を選択することを可能にしている。「臨地実習Ⅱ」については、各校舎の位置づく産地の知財と課題を学ぶ場として各学科の特色に連なる科目と考えているため、学生は各校舎の管理担当する実習先で学修することとする。以上の取り組みから、異なる地域に得られる 4 学科で同水準の教育効果が得られるようにする。</u></p>	<p>(中略)</p> <p><u>(追加)</u></p>
--	--------------------------------

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

20. <教員組織編制が不十分>

教員組織編制については、大学全体の構成しか触れておらず、学科の特色を反映した教員が十分に確保されているのか不明なため、学科別に教員組織編制の考え方や特色を説明すること。特に、国際的な人材を養成するために必要なカリキュラムを編成することが可能な教員組織が編制されていることを学科別に説明すること。

(対応) 学科別の教員組織編制の考え方と特色を説明する
国際的な人材を養成するために必要なカリキュラム編成を可能とする教員組織であることを学科別に示す

・学科別の教員組織編制の考え方と特色

本学は、各学科で養成する人材像に照らして編成した教育課程を担当することのできる、豊かな学問知と実践知を持った教員を採用し、教員組織を編成している。特に、各学科で採用した専任教員は、国際的な教育研究実務等のバックグラウンドを有しており、ファッション産業で国際的な活躍をする人材を養成するために必要なカリキュラムを編成することが可能である。

・ファッションクリエイション学科

ファッションクリエイション学科は、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けた商品企画や商品開発などのクリエイションに携わり、新たなモノづくりや価値を生み出せるディレクターなどの総合職となる人材を養成する学科である。13名の専任教員のうち、約半数の7名がアカデミア教員、約半数の6名が実務家教員であり、実務家教員の比重の高い学科となっている。

ファッションクリエイション学科の実務家教員は、服飾は勿論、バッグ、シューズなどの広くファッション分野が包括するクリエイションの分野において、国際的な実務経験をもつ教員である。またファッションクリエイション学科のアカデミア教員は、美学、歴史、メディア、文化人類学などの分野において、国際的な教育研究経験をもつ教員である。クリエイションの技術や実践知を教え、アカデミア教員を中心に、商品企画や開発の構想に必要な力を教えることのできる組織編制となっている。具体的な教員の国際的な経歴は、各教員の調書に詳述されているが、いくつか抽出すると次の通りとなる。資料15-5に一覧を添付する。

高橋幸次：フランス国立美術館客員研究員、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校
交換教授

鈴木孝史：アジア・カルチュラル・カウンシル芸術家フェローシップにて研究、
アメリカ・ニューヨークにて研究、文化庁派遣・芸術家在外研修員として
プリンストン大学にて研修

永澤陽一：パリ・トキオ・クマガイ（服飾デザイン事務所）にてデザイナー職勤務

捧 恭子：ARSUTORIA School（イタリア靴学校）修了

松村 光：パリ・オートクチュール協会学校終了、
パリにてアーチストインレジデンスとして芸術研究

熊田陽子：カナダ・カモスンカレッジにて学士（英語）取得、

カナダ・ヴィクトリア大学にて学士（人類学）取得

今村 淳：アメリカ・ニューヨーク市立大学にて学士（芸術）取得、同大学にて非常勤講師

・ファッションビジネス学科

ファッションビジネス学科は、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けた販売企画や戦略、ブランドコンセプトの開発、生産管理の海外展開などといったビジネスに携わり、新たなモノの流れや価値を生み出せるプロデューサーなどの総合職となる人材を養成する学科である。9名の専任教員のうち、約半数の3名がアカデミア教員、約半数の6名が実務家教員であり、実務家教員の比重の高い学科となっている。

ファッションビジネス学科の実務家教員は、ファッション産業の製造・卸を扱う企業で、海外展開の役割を担ってきた経歴をもつ。また、プレスや広告に関する経歴を持つ教員がおり、海外展開に向けた分析や戦略の力を養成することができる。またファッションビジネス学科のアカデミア教員は、家政、経営、歴史、文化人類学などの分野において教育研究経験をもつ教員である。ビジネスの力を養成することのできる教員が十分そろっている。国際的な経歴については、特に、ファッションビジネス学科には、ファッションクリエイション学科と兼担をしている教員も多く、商品企画や開発にかかる力を養成することのできる教員が、ビジネスの力を養成することのできる教員と合わせて人材育成にあたることのできる組織編制となっている。具体的な教員の国際的な経歴は、各教員の調書に詳述されているが、いくつか抽出すると次の通りとなる。資料 15-5 に一覧を添付する。

篠原航平：中国上海に在るフランドル（服飾企業）の現地法人にて駐在

丹羽朋子：中国女性の手仕事、家具等の研究のため中国各地に長期滞在

・大阪ファッション学科

大阪ファッション学科は、関西地域の特色や地域の知財を理解しつつ、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けて次の仕事を行う人材を育成する。国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野において、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）、国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）、他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）など新たなモノの流れや価値を生み出せるプロデューサーやクリエイターなどの総合職となる人材を養成する学科である。14名の専任教員のうち、大半の9名がアカデミア教員、5名が実務家教員であり、アカデミア教員の比重の高い学科となっている。

大阪ファッション学科のアカデミア教員は、文化人類学、経済、経営、歴史、美学などの多様な学問分野において国際的な教育研究経験をもつ教員である。主にコンセプトを構想する力、そして、経済社会文化の深い知識を持って現在のかつ潜在的な変化を分析する力を育てることができる教員編成としている。実務家教員は、大阪や関西地域に根付いたファッション産業、産地と密接な関係を持ち、地域創生にかかる課題を発見し、解決に至る臨地実習等を十分に担うことのできる教員がそろっている。具体的な教員の国際的な経歴は、各教員の調書に詳述されているが、いくつか抽出すると次の通りとなる。資料 15-5 に一覧を添付する。

田中雅一：ロンドン大学経済政治学院（LSE）にて文化人類学の博士号取得、スリランカに研究のため長期滞在

富澤修身：ノースカロライナ大学にて客員研究員として赴任

畑中艶子：中国国立（ハルビン）の工業大学にて工学学士（電気工学）取得

金谷美和：インド・デリー大学経済学院にて地域研究

川中 薫：インド・発展社会研究所に所属しインドのアパレル産業の研究に従事

平野 大：パリ第1大学で修士（芸術学）取得、パリ第10大学博士（芸術学）取得、フランスにて映像と帽子的研究に従事。

現在もコサット市で毎年開催される帽子コンテストの審査員を継続中

・名古屋ファッション学科

名古屋ファッション学科は、名古屋地域の特色や地域の知財を理解しつつ、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けて次の仕事を行う人材を育成する。国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）、国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）、他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）など新たなモノ作りや価値を生み出せるディレクターやクリエイターなどの総合職となる人材を養成する学科である。14名の専任教員のうち、8名が実務家教員、6名がアカデミア教員であり、概ね半々の比重の学科となっている。

名古屋ファッション学科の実務家教員は、名古屋の地場産地、織物産地を背景にアウトバウンドの国際的な活動を行ってきた教員、及びイッセイミヤケで商品開発などをインバウンドの国際的な活動を行ってきた教員などがおり、当学科の目的として地域の毛織物素材を使って新たなもの作りや価値作りを行うにふさわしい教員で編成している。アカデミア教員は、文化人類学、経営、歴史などで国際的な教育研究経験をもつ教員がいる。コンセプトなどの構想につながる教育課程を十分に担当することができる教員編成となっている。具体的な教員の国際的な経歴は、各教員の調書に詳述されているが、いくつか抽出すると次の通りとなる。資料 15-5 に一覧を添付する。

奥村 潔：イギリス・ヨークシャーにミノバ社（毛織物製造業）設立。社長として駐在

安念真衣子：ネパール・トリブバン大学に所属し

ネパール農村の女性のリテラシー研究に従事。

廣田 緑：インドネシア国立芸術院ジョグジャカルタ校美術学部

ヴィジュアルアート科予定期間終了、

インドネシア・ジャカルタにてアーティストとして芸術研究

磯部美里：中国（北京）・中央民族大学にて交換留学生、上海華東師範大学へ語学留学、

中国（北京）・中国社会科学院にて交換留学生、中国各地に研究のため滞在

須網美由紀：イタリア・ヴェネツィア大学（美術史専攻）留学

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（28-30 ページ）

新	旧
<p>5. 教員組織編制の考え方及び特色</p> <p>5.1 教員組織の編制</p> <p>（中略）</p> <p><u>次に、学科別の教員組織編制の考え方と特色をしるす。本学は、各学科で養成する人材像に照らして編成した教育課程を担当することのできる、豊かな学問知と実践知を持った教員を採用し、教員組織を編成している。特に、各学科で採用した専任教員は国際的な教育研究実務等のバックグラウンドを有しており、ファッション産業で国際的な活躍をする人材を養成するために必要なカリキュラムを編成することが可能である。</u></p> <p>・ファッションクリエイション学科</p> <p><u>ファッションクリエイション学科は、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けた商品企画や商品</u></p>	<p>5. 教員組織編制の考え方及び特色</p> <p>5.1 教員組織の編制</p> <p>（中略）</p> <p><u>（追加）</u></p>

開発などのクリエイションに携わり、新たなモノづくりや価値を生み出せるディレクターなどの総合職となる人材を養成する学科である。13名の専任教員のうち、約半数の7名がアカデミア教員、約半数の6名を実務家教員であり、実務家教員の比重の高い学科となっている。

ファッションクリエイション学科の実務家教員は、服飾は勿論、バッグ、シューズなどの広くファッション分野が包括するクリエイションの分野において、国際的な実務経験をもつ教員である。またファッションクリエイション学科のアカデミア教員は、美学、歴史、メディア、文化人類学などの分野において、国際的な教育研究経験をもつ教員である。クリエイションの技術や実践知を教え、アカデミア教員を中心に、商品企画や開発の構想に必要な力を教えることのできる組織編制となっている。具体的な教員の国際的な経歴は、各教員の調書に詳述されているが、別途一覧資料14を添付する。

・ファッションビジネス学科

ファッションビジネス学科は、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けた販売企画や戦略、ブランドコンセプトの開発、生産管理の海外展開などといったビジネスに携わり、新たなモノの流れや価値を生み出せるプロデューサーなどの総合職となる人材を養成する学科である。13名の専任教員のうち、約半数の7名がアカデミア教員、約半数の6名を実務家教員であり、実務家教員の比重の高い学科となっている。

ファッションビジネス学科の実務家教員は、ファッション産業の製造・卸を扱う企業で、海外展開の役割を担ってきた経歴をもつ。また、プレスや広告に関する経歴を持つ教員がおり、海外展開に向けた分析や戦略の力を養成することができる。またファッションビジネス学科のアカデミア教員は、家政、経営、歴史、文化人類学などの分野において教育研究経験をもつ教員である。ビジネスの力を養成することのできる教員が十分そろっている。国際的な経歴については、特に、フ

ファッションビジネス学科には、ファッションクリエイション学科と兼担をしている教員も多く、商品企画や開発にかかる力を養成することのできる教員が、ビジネスの力を養成することのできる教員と合わせて人材育成にあたることのできる組織編制となっている。具体的な教員の国際的な経歴は、各教員の調書に詳述されているが、別途一覧資料 14 を添付する。

・大阪ファッション学科

大阪ファッション学科は、関西地域の特色や地域の知財を理解しつつ、ファッション産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けて次の仕事を行う人材を育成する。国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野において、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）、国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）、他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）など新たなモノの流れや価値を生み出せるプロデューサーやクリエイターなどの総合職となる人材を養成する学科である。13 名の専任教員のうち、大半の9名がアカデミア教員、4名を実務家教員であり、アカデミア教員の比重の高い学科となっている。

大阪ファッション学科のアカデミア教員は、文化人類学、経済、経営、歴史、美学などの多様な学問分野において国際的な教育研究経験をもつ教員である。主にコンセプトを構想する力、そして、経済社会文化の深い知識を持って現代的かつ潜在的な変化を分析する力を育てることができる教員編成としている。実務家教員は、大阪や関西地域に根付いたファッション産業、産地と密接な関係を持ち、地域創生にかかる課題を発見し、解決に至る臨地実習等を十分に担うことのできる教員がそろっている。具体的な教員の国際的な経歴は、各教員の調書に詳述されているが、別途一覧資料 14 を添付する。

・名古屋ファッション学科

名古屋ファッション学科は、名古屋地域の特色や地域の知財を理解しつつ、ファッション

ン産業の国内外の企業や事業所で、国際的な市場や消費者に向けて次の仕事を行う人材を育成する。国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）、国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）、他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）など新たなモノ作りや価値を生み出せるディレクターやクリエイターなどの総合職となる人材を養成する学科である。13名の専任教員のうち、大半の7名が実務家教員、6名をアカデミア教員であり、概ね半々の比重の学科となっている。

名古屋ファッション学科の実務家教員は、名古屋の地場産地、織物産地を背景にアウトバウンドの国際的な活動を行ってきた教員、及びイッセイミヤケで商品開発などをインバウンドの国際的な活動を行ってきた教員などがあり、当学科の目的として地域の毛織物素材を使って新たなもの作りや価値作りを行うにふさわしい教員で編成している。アカデミア教員は、文化人類学、経営、歴史などで国際的な教育研究経験をもつ教員がいる。コンセプトなどの構想につながる教育課程を十分に担当することができる教員編成となっている。具体的な教員の国際的な経歴は、各教員の調書に詳述されているが、各教員の調書に詳述されているが、別途一覧資料14を添付する。

(参照) 「12 設置の趣旨等を記載した書類」
添付資料 引率教員の海外経験の一覧 (資料 15-5)

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

21. <専任教員数が設置基準を満たしていない>
専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応) 専任教員数を専門職大学設置基準の規定を満たすよう教員を補充し、適切に改めた

専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たすよう教員を補充し、適切に改めた。
別途、国際ファッション専門職大学設置認可申請に係る補正申請書「15 教員名簿（教員の氏名等）」に詳細を記載している。

(新旧対照表) 基本計画書（教員組織の概要）

新							旧								
学部等の名称		専任教員等					助手	学部等の名称		専任教員等					助手
		教授	准教授	講師	助教	計				教授	准教授	講師	助教	計	
新設分	ファッションクリエイション学科	9	1	3	0	13	2	新設分	ファッションクリエイション学科	9	0	4	0	13	2
	ファッションビジネス学科	5	2	2	0	9	0		ファッションビジネス学科	7	1	2	0	10	0
	大阪ファッション学科	4	5	4	1	14	2		大阪ファッション学科	7	1	6	1	14	2
	名古屋ファッション学科	4	6	4	0	14	1		名古屋ファッション学科	5	3	4	0	12	1
	計	22	14	13	1	50	5		計	28	5	16	0	49	5
合計		22	14	13	1	50	5	合計		28	5	16	0	49	5

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類（28-30 ページ）

新	旧
5. 教員組織編制の考え方及び特色 5.1 教員組織の編制 本学の教員組織の編制は、主に 1 項目の設置の趣旨や特色、4 項目の教育課程等を踏ま	5. 教員組織編制の考え方及び特色 5.1 教員組織の編制 本学の教員組織の編制は、主に 1 項目の設置の趣旨や特色、4 項目の教育課程等を踏ま

<p>え、その目的を達成するための相応しい教員で組織されている。学生に対する教員の配置という面で述べると、国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は1年次入学定員80名、完成年度計320名に対して13名の専任教員、ファッションビジネス学科は1年次入学定員38名、2年次編入学定員2名、完成年度計160名に対して9名の専任教員、大阪ファッション学科は1年次入学定員38名、2年次編入学定員2名、完成年度計160名に対して14名の専任教員、名古屋ファッション学科は1年次入学定員38名、2年次編入学定員2名、完成年度計160名に対して14名の専任教員、4学科で合計50名の専任教員を配置している。各教員がオフィスアワーを設けても十分な学生対応ができる配置となっている。</p>	<p>え、その目的を達成するための相応しい教員で組織されている。学生に対する教員の配置という面で述べると、国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は1年次入学定員80名、完成年度計320名に対して13名の専任教員、ファッションビジネス学科は1年次入学定員38名、2年次編入学定員2名、完成年度計160名に対して10名の専任教員、大阪ファッション学科は1年次入学定員38名、2年次編入学定員2名、完成年度計160名に対して14名の専任教員、名古屋ファッション学科は1年次入学定員38名、2年次編入学定員2名、完成年度計160名に対して12名の専任教員、4学科で合計49名の専任教員を配置している。各教員がオフィスアワーを設けても十分な学生対応ができる配置となっている。</p>
---	--

(参照) 「15 教員名簿 (教員の氏名等)」

(改善事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

22. <設置計画の一層の充実>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など教員組織編制の将来構想の明確化が望まれるので、対応方針について回答すること。

(対応) 教員組織編制全体の考え方を明確にし、今後の採用計画を説明する

本学開学時における専任教員の年齢構成は、30歳代8名、40歳代8名、50歳代17名、60歳代15名、70歳代1名、80歳代1名（補正申請における是正版）である。先般80歳代の教員1名（ファッションクリエイション学科）と本学の定年規定を超える65歳以上の教員1名（ファッションビジネス学科）より健康上のやむを得ない事情による辞退の申し込みがあった。それに伴い本学の定年規定を超えない40歳代、50歳代、60歳代の教員に該当する科目を配分し、組織の改編を行った。今後の採用において、教育研究の継続性が担保されるよう年齢構成に留意する。

なお、現在のところ専任教員の平均年齢は、約50歳代となっており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。ただし学科別にみると、ファッションクリエイション学科と大阪ファッション学科、名古屋ファッション学科の教授職の年齢層がやや高齢に偏っているため、今後若手育成につながる任用と昇格を検討する。またファッションクリエイション学科、ファッションビジネス学科、名古屋ファッション学科における講師職にも積極的に若手教員を採用し年齢層のバランスを整える計画である。

なお本学の定年に関する学内規定では65歳の誕生日を迎えた年度をもって定年となるが、大学運営を円滑に行うために、開学時には定年を越える経験豊富な教員を配置し、完成年度までその役割を担う。また、大学の継続性、円滑な運営を担保するために定年を延長する教員については、別途まとめている。これらの教員の後任となる教員の補充計画については、教授会等での検討を含め、本人の意思や各種状況、健康への配慮等、総合的に鑑みて退職時期を相談し考慮したうえで、後任者を決定する。後任となる教員の補充は、「専門職大学設置基準、第37条から第42条」などの法令に準じて（1）科目に適した教員を採用する、（2）公募により広く適任者を求め公正な採用を行う、（3）学内教員の昇格によって補充する等の方針のもとで行い、教員組織の継続性に問題がなくバランスのとれた年齢構成となるように留意する。以上、教員組織の年齢構成と定年に関する学内規定は、資料3に添付する。加えて、本学では将来の教員組織設計、中長期的な採用計画、及び適正な教員の募集・任用・昇格に関する指針を整えるよう、完成年次に至るまで教授会、各種委員会、研究会等で検討を重ねていく。

■専任教員（職位別）平均年齢表

	専任教員	教授	准教授	講師	助教
ファッションクリエイション学科	55歳	61歳	●歳	48歳	
ファッションビジネス学科	54歳	54歳	48歳	48歳	
大阪ファッション学科	49歳	68歳	52歳	35歳	●歳
名古屋ファッション学科	55歳	65歳	55歳	45歳	

※一部、当該個人に関する情報が特定されるため非表示

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (28-30 ページ)

新	旧
<p>5. 教員組織編制の考え方及び特色</p> <p>5.1 教員組織の編制</p> <p>(中略)</p> <p>教員組織は、初の専門職大学として、教育実績と共に研究実績をあげて順調なスタートをきるために、当該分野にふさわしい博士号等の学位や十分な研究業績を有する教員を中心に配置し、完成年次以降、中堅から若手につなげることを意識した専任教員の配置にしている。<u>本学開学時における専任教員の年齢構成は、30 歳代 8 名、40 歳代 8 名、50 歳代 17 名、60 歳代 15 名、70 歳代 1 名、80 歳代 1 名である。なお、専任教員の平均年齢は、約 50 歳代となっており、</u></p> <p>教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。なお本学の定年に関する学内規定では 65 歳の誕生日を迎えた年度をもって定年となるが、大学運営を円滑に行うために、開学時には定年を越える経験豊富な教員を配置し、完成年度までその役割を担う。また、大学の継続性、円滑な運営を担保するために定年を延長する教員については、別途まとめている。これらの教員の後任となる教員の補充計画については、教授会等での検討を含め、本人の意思や各種状況、健康への配慮等、総合的に鑑みて退職時期を相談し考慮したうえで、後任者を決定する。後任となる教員の補充は、<u>「専門職大学設置基準、第 37 条から第 42 条」などの法令に準じて</u> (1) 科目に適した教員を採用する、(2) 公募により広く適任者を求め公正な採用を行う、(3) 学内教員の昇格によって補充する等の方針のもとで行い、教員組織の継続性に問題がなくバランスのとれた年齢構成となるように留意する。以上、教員組織の年齢構成と定年に関する学内規定は、資料 3 に添付する。<u>加えて、本学では将来の教員組織設計、及び適正な教員の募集・任用・昇格に関する指針を整えるよう、完成年次に至るまで教授会、各種委員会、研究会等で検討を重ねていく。</u></p> <p>■専任教員 (職位別) 平均年齢表</p>	<p>5. 教員組織編制の考え方及び特色</p> <p>5.1 教員組織の編制</p> <p>(中略)</p> <p>教員組織は、初の専門職大学として、教育実績と共に研究実績をあげて順調なスタートをきるために、当該分野にふさわしい博士号等の学位や十分な研究業績を有する教員を中心に配置し、完成年次以降、中堅から若手につなげることを意識した専任教員の配置にしている。<u>本学開学時における専任教員の年齢構成は、30 歳代 9 名、40 歳代 8 名、50 歳代 17 名、60 歳代 12 名、70 歳代 1 名、80 歳代 2 名である。(追加)</u></p> <p>教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。なお本学の定年に関する学内規定では 65 歳の誕生日を迎えた年度をもって定年となるが、大学運営を円滑に行うために、開学時には定年を越える経験豊富な教員を配置し、完成年度までその役割を担う。また、大学の継続性、円滑な運営を担保するために定年を延長する教員については、別途まとめている。これらの教員の後任となる教員の補充計画については、教授会等での検討を含め、本人の意思や各種状況、健康への配慮等、総合的に鑑みて退職時期を相談し考慮したうえで、後任者を決定する。後任となる教員の補充は、<u>(追加)</u></p> <p>(1) 科目に適した教員を採用する、(2) 公募により広く適任者を求め公正な採用を行う、(3) 学内教員の昇格によって補充する等の方針のもとで行い、教員組織の継続性に問題がなくバランスのとれた年齢構成となるように留意する。以上、教員組織の年齢構成と定年に関する学内規定は、資料 3 に添付する。<u>(追加)</u></p>

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

23. <英語名称が不適切>

大学、大阪ファッション学科及び名古屋ファッション学科で設定された英語名称について、国際的な通用性を有しておらず、不適切なため、改めること。なお、大学名の英語表記については、専門職大学であることがわかるように professional 又は vocational の語（若しくはこれらに類する語）を用いて、適切に改めること。

(対応) 名称を適切に改めた

大学、大阪ファッション学科及び名古屋ファッション学科で設定した英語名称について、国内外の事例を参照し、客観的な国際有用性を有し、和文から英文への理解も明瞭で適切となるよう改めた。

・大学名

「国際」と名の付く大学の英文表記事例を参照して、「国際ファッション」については、「International Fashion」の表記に改めた。そして「専門職大学」であることがわかるように、「Professional University」の表記に改めた。

例えば、1953年に設立され東京都に本部を置く私立大学の国際基督教大学 (International Christian University) や、2004年に設立され秋田県に本部を置く公立大学の国際教養大学 (Akita International University)、1982年に設立され新潟県に本部を置く私立大学の国際大学 (International University of Japan)、1965年に設立され埼玉県に本部を置く私立大学の東京国際大学 (Tokyo International University)、1988年に設立され大阪府に本部を置く私立大学の大阪国際大学 (Osaka International University) などを参照した。

大学名 (和文) : 国際ファッション専門職大学

大学名 (英文) : Professional University of International Fashion

・学科名

幾つかの地域に校舎や学部学科等を持つ大学の英文表記を参照して、「大阪ファッション学科」については、「Department of Fashion, Osaka」の表記に改めた。同じく「名古屋ファッション学科」については、「Department of Fashion, Nagoya」の表記に改めた。

例えば、1919年に設立されアメリカ合衆国カリフォルニア州に位置する州立大学のカリフォルニア大学 (University of California) のうち、バークレー校 (University of California, Berkeley) や、ロサンゼルス校 (University of California, Los Angeles) や、サンフランシスコ校 (University of California, San Francisco) などを参照した。

学科名 (和文) : 大阪ファッション学科

学科名 (英文) : Department of Fashion, Osaka

学科名 (和文) : 名古屋ファッション学科

学科名 (英文) : Department of Fashion, Nagoya

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (13-14 ページ)

新	旧
<p>3. 大学・学部・学科の名称及び学位の名称 3.1 大学の名称 大学名称：国際ファッション専門職大学 <u>Professional University of International Fashion</u></p> <p>理由：大学の名称は、本学の学問の中心領域である家政学においてファッションとビジネスと専門的に学ぶことを示すものとなっている。そして、国際ファッション市場で自立できる専門職業人材を育成することを明確にするため、国際ファッション専門職大学とした。英語名称は、国際的な通用性を有し、専門職大学であることをわかるように「<u>Professional University of International Fashion</u>」とした。</p> <p>3.2 学部・学科の名称 学部名称： 国際ファッション学部 <u>Faculty of International Fashion</u></p> <p>学科名称： (1) ファッションクリエイション学科 Department of Fashion Creation (2) ファッションビジネス学科 Department of Fashion Business (3) 大阪ファッション学科 <u>Department of Fashion, Osaka</u> (4) 名古屋ファッション学科 <u>Department of Fashion, Nagoya</u></p>	<p>3. 大学・学部・学科の名称及び学位の名称 3.1 大学の名称 大学名称：国際ファッション専門職大学 <u>University of International Fashion and Business</u></p> <p>理由：大学の名称は、本学の学問の中心領域である家政学においてファッションとビジネスと専門的に学ぶことを示すものとなっている。そして、国際ファッション市場で自立できる専門職業人材を育成することを明確にするため、国際ファッション専門職大学とした。英語名称は、国際的な通用性を有し、専門職大学であることをわかるように「<u>University of International Fashion and Business</u>」とした。</p> <p>3.2 学部・学科の名称 学部名称： 国際ファッション学部 <u>Faculty of International Fashion and Business</u></p> <p>学科名称： (1) ファッションクリエイション学科 Department of Fashion Creation (2) ファッションビジネス学科 Department of Fashion Business (3) 大阪ファッション学科 <u>Osaka Department of Fashion</u> (4) 名古屋ファッション学科 <u>Nagoya Department of Fashion</u></p>

(参照) 「1 基本計画書」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

24. <施設設備の整備状況が不明確>

実習・演習科目が多数配置されているが、実際に使用する実習室や演習室、工房が学生数と比較すると狭小であると思われるため、科目別に使用教室を明示し、学生が作業するために必要な十分な演習・実習スペースが確保されていることを説明すること。また、演習や実習でどのような機材や備品を使用するののかも不明確であるため、具体的に説明すること。

(対応) 科目別に学生が作業するために必要な十分な演習・実習スペースが確保されていることと演習や実習で使用する機材や備品を説明する

・学生の作業に必要な、十分な演習・実習スペース

東京、大阪、名古屋の3キャンパスにおいて、本学の専有教室に加え、専門学校の専有となっている実習室を必要に応じて使用する。そのため、本学が必要とする実習室を有する専門学校のファッションデザイン学科、スタイリスト学科の3キャンパスの時間割を作成して提出する。詳細は、「設置の趣旨等を記した書類」の添付資料(資料5-1、5-2、5-3)にある。加えて、学内に実習室が十分に確保できない場合は、名古屋ファッション学科の撮影スタジオの例にあるように、至近距離にある非常勤講師が所有する施設と実習に使う機材を使用する契約を結んでいる。かかる契約書についても「設置の趣旨等を記した書類」の添付資料(資料5-4)として別途詳細がある。

・演習や実習で使用する機材や備品

実験・実習又は実技による授業で使用する教室及び設備、機材や備品については、新たに「設置の趣旨等を記した書類」の添付資料(資料14)」として別途詳細を示している。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (34-35 ページ)

新	旧
<p>8. 施設、設備等の整備計画</p> <p>8.2 校舎等施設の整備計画 (中略)</p> <p>大阪ファッション学科の講義室は、大阪総合校舎 <u>6階に2室、8階に2室、演習室は、5階に10室、実験・実習室は、地下1階に1室、</u>教員の研究室は、10階に1室、学生控室は、6階に1室、学生自習室と共有する。管理室は1階に専修学校2校と共有し、学生の教学等の支援を行う。また、10階に副学長室も整備する。既設の専修学校とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を応対するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生が共有する。</p> <p>(中略)</p> <p>8.2.2 実習等に関する設備や器具等の整備 (中略)</p> <p><u>東京、大阪、名古屋の3キャンパスにおいて、本学の専有教室に加え、専門学校</u>の専有となっている実習室を必要に応じて使用する。そのため、本学が必要とする実習室を有する専門学校のファッションデザイン学科、スタイリスト学科の3キャンパスの時間割を補正申請書類に添付する。加えて、学内に実習室が十分に確保できない場合は、名古屋ファッション学科の撮影スタジオの例のように、至近距離にある非常勤講師が所有する施設と実習に使う機材を使用する契約を結び、契約書を添付する。</p> <p><u>各演習や実習に使用する機材や備品については、現在、専門学校</u>の3キャンパスに保有している機材一覧を添付する。</p>	<p>8. 施設、設備等の整備計画</p> <p>8.2 校舎等施設の整備計画 (中略)</p> <p>大阪ファッション学科の講義室は、大阪総合校舎 <u>5階に2室、8階に3室、演習室は、6階に10室、実験・実習室は、地下1階に1室、</u>教員の研究室は、10階に1室、学生控室は、6階に1室、学生自習室は、6階に1室整備する。管理室は1階に専修学校2校と共有し、学生の教学等の支援を行う。また、10階に副学長室も整備する。既設の専修学校とは、一部の設備を共有する。1階は入学検討者や来客を応対するサロンが設置されており、本学への入学検討者や来客にも活用する。2階には学生エントランスがあり、本学の学生と専修学校の学生が共有する。</p> <p>(中略)</p> <p>8.2.2 実習等に関する設備や器具等の整備 (中略) <u>(追加)</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (添付資料)

新	旧
国際ファッション専門職大学設置趣旨書添付資料目次	補正前国際ファッション専門職大学設置趣旨書添付資料目次
設置趣旨書添付資料	設置趣旨書添付資料
<u>資料 14 実験・実習又は実技による授業科目並びに使用教室・設備</u>	<u>(追加)</u>

(参照) 「12 設置の趣旨等を記した書類」

添付資料 時間割 (資料 5-1)

専修学校共有資料 (資料 5-2)

専修学校 (既存校) 時間割 (資料 5-3)

外部教室使用覚書 (資料 5-4)

実験・実習又は実技による授業科目並びに使用教室・設備 (資料 14)

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

25. <専任教員研究室の整備状況が不明確>

専任教員研究室が各キャンパスに1部屋ずつであり、専任教員が教育研究を行う環境が整っているか疑義があるため、十分なスペースが確保されているかについて、具体的に説明する

(対応) 十分なスペースが確保されているかについて、具体的に説明する

本学の研究は、主に実務家とアカデミアが個々の実務実績、研究業績をもとに、日本のファッション産業の原動力となるイノベーション創出を推進する研究が中心となる。それぞれの専門知識を持ち寄り、協議し、革新的アイデアを創出しながらより幅広い視野、視座のもと教育研究を行うことに主眼をおきフリーアドレスの共同研究室を設置する。

研究スペースとして、東京キャンパスには159㎡(23席)の共同研究室、180㎡(10室)の演習室兼個室研究室、大阪キャンパスは91㎡(14席)の共同研究室、125㎡(10室)の演習室兼個室研究室、名古屋キャンパスには102㎡に12席の共同研究室と2室の演習室兼個室研究室を準備する。教員1人あたりの研究スペースは、東京キャンパス15.4㎡、大阪キャンパス14.4㎡、名古屋キャンパス7.3㎡である。

本学は、講義・研究指導・学生相談(オフィスアワー)・会議以外の業務は在宅で実施できる裁量労働制を取っている。業務用ノートパソコンを教員に貸与することで在宅研究も許容し、静かな環境で研究に集中したい教員の研究環境も担保している。

共同研究室においては、教員に1人1台ずつ書棚・キャビネ・ノートパソコンを割り当てる。共同研究室には無線LAN・複合機・シュレッダー・電話が設置され、教員は好きな席で業務を行うことができる。また、他の教員と空間を共有することにより、他の教員の専門分野についても知識を得、そこから新たな研究テーマを生み出すことができる。書棚・キャビネは施錠可能であるため、研究情報や学生の個人情報も保全できる。

ゼミや学生の個別指導は、34室ある演習室兼個室研究室を利用して実施する。教員同士の打ち合わせは上記共同研究室内の“打ち合わせをする区分”で行うか、会議室を活用する。なお来客対応は本学1階に応接用個室が設けられているため、そこを活用する。文献検索をはじめとする研究関連情報の収集には、WEB検索や電子図書の活用その他、図書室の蔵書有無の確認も手元のパソコンで行えるようインターネット環境を整える。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (34-38 ページ)

新	旧
<p>8. 施設、設備等の整備計画 (中略)</p> <p>8.2.3 教員の研究室、必要な教室の整備計画 (中略)</p> <p><u>本学の研究は、主に実務家とアカデミアが個々の実務実績、研究業績をもとに、日本のファッション産業の原動力となるイノベーション創出を推進する研究が中心となる。それぞれの専門知識を持ち寄り、協議し、革新的なアイデアを創出しながらより幅広い視野、視座のもと教育研究を行うことに主眼をおきフリーアドレスの共同研究室を設置する。</u></p> <p><u>研究スペースとして、東京キャンパスには159㎡(23席)の共同研究室、180㎡(10室)の演習室兼個室研究室、大阪キャンパスは91㎡(14席)の共同研究室、125㎡(10室)の演習室兼個室研究室、名古屋キャンパスには102㎡に12席の共同研究室と2室の演習室兼個室研究室を準備する。教員1人あたりの研究スペースは、東京キャンパス15.4㎡、大阪キャンパス14.4㎡、名古屋キャンパス7.3㎡である。</u></p> <p><u>本学は、講義・研究指導・学生相談(オフィスアワー)・会議以外の業務は在宅で実施できる裁量労働制を取っている。業務用ノートパソコンを教員に貸与することで在宅研究も許容し、静かな環境で研究に集中したい教員の研究環境も担保している。</u></p> <p><u>共同研究室においては、教員に1人1台ずつ書棚・キャビネ・ノートパソコンを割り当てる。</u></p> <p><u>共同研究室には無線LAN・複合機・シュレッダー・電話が設置され、教員は好きな席で業務を行うことができる。また、他の教員と空間を共有することにより、他の教員の専門分野についても知識を得、そこから新たな研究テーマを生み出すことができる。</u></p> <p><u>書棚・キャビネは施錠可能であるため、研究情報や学生の個人情報も保全できる。</u></p> <p><u>ゼミや学生の個別指導は、34室ある演習室兼個室研究室を利用して実施する。教員同士の打ち合わせは上記共同研究室内の“打ち合わせをする区分”で行うか、会議室を活用する。なお来客対応は本学1階に応接用個室が設けられているため、そこを活用する。文献検索をはじめとする研究関連情報の収集に</u></p>	<p>8. 施設、設備等の整備計画 (中略)</p> <p>8.2.3 教員の研究室、必要な教室の整備計画 (中略)</p> <p><u>(追記)</u></p>

<p>は、WEB 検索や電子図書の活用の他、図書室の蔵書有無の確認も手元のパソコンで行えるようインターネット環境を整える。</p>	
---	--

(参照) 「1 基本計画書」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
ファッションビジネス学科、
大阪ファッション学科、
名古屋ファッション学科
【全学共通】

26. <設置基準を満たさない授業計画>

シラバスの記載について、以下の点について記載が不十分な点が見受けられるので、適切に修正すること。

(1) 評価基準を「総合的に評価」としている科目があり、学生に不利益がないように具体的に示す必要がある。

(対応) 該当するシラバスの記載を改め、評価基準の明確化を行った

・該当するシラバス

本学は、留学生や社会人など多様な背景を持った学生を積極的に受け入れ、学生間で教育内容に不平等が生じないようにケアや配慮をするという考えに基づき、各科目の評価基準を明確に示す。評価基準を「総合的に評価」とのみ記載していた以下の科目のシラバス記載を見直し、学生の不利益が生じないように授業の評価基準とその割合を改めた。

「日本語文章表現」、「ファッションデザイン演習Ⅰ」、「ファッションデザイン演習Ⅱ」、「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ」、「ファッションデザインプランニング演習Ⅱ」、「シューズデザイン」、「バッグデザイン」、「写真実習」、「統合指導ゼミⅠ」、「統合指導ゼミⅡ」、「卒業制作・計画」、「ファッションビジネス演習Ⅰ」、「ファッションビジネス演習Ⅱ」、「リテール企画演習Ⅰ」、「リテール企画演習Ⅱ」、「メディア概論」、の16科目のシラバスである。「成績評価を出席状況、レポート、プレゼンテーションによって総合的に行う」とする記載をしていたが、出席、レポート課題、期末試験、授業態度などで構成される授業の評価基準とその割合を具体的に追記した。例えば、授業の評価基準とその割合を「出席50%と、期末レポートもしくは期末試験50%で評価をする」としている。

・評価基準の明確化

各科目で得られた評価点は、本学の成績評価基準に照らし合わせて区分し、学生の不利益にならないよう配慮した。

具体的には、S(秀)：100-90点、A(優)：89-80点、B(良)：79-70点、C(可)：69-60点、D(不可)：59-0点、*(-)：未受験とし、C以上の成績を取得した学生に該当科目の単位認定をすることを、設置の趣旨書に記載した。

(新旧対照表) シラバス (全学共通)

新	旧
<p>「日本語文章表現」 出席評価 30%、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p>	<p>「日本語文章表現」 毎回、出席を取ります。課題提出の回数、プレゼンの回数。定期試験の点数。以上を参考に総合的に判断します。」</p>
<p>「ファッションデザイン演習Ⅰ」 出席評価 30%、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p>	<p>「ファッションデザイン演習Ⅰ」 成績評価は、出席状況、レポート、プレゼンテーションによって総合的に行う。</p>
<p>「ファッションデザイン演習Ⅱ」 出席評価 30%、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p>	<p>「ファッションデザイン演習Ⅱ」 出席状況、課題の提出率、および提出課題の内容、プレゼンテーションによって、総合的に行います。</p>
<p>「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ」 出席評価 30%、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p>	<p>「ファッションデザインプランニング演習Ⅰ」 出席状況、課題の提出率、および提出課題の内容、プレゼンテーションによって、総合的に行います。</p>
<p>「ファッションデザインプランニング演習Ⅱ」 出席評価 30%、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p>	<p>「ファッションデザインプランニング演習Ⅱ」 出席状況、課題の提出率、および提出課題の内容、プレゼンテーションによって総合的に行います。</p>
<p>「シューズデザイン」 出席 50%と、期末レポートもしくは期末試験 50%で総合的に評価する。</p>	<p>「シューズデザイン」 定期試験 40%、レポート 30%、実習成果 30%</p>
<p>「バッグデザイン」 出席評価 30%、レポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p>	<p>「バッグデザイン」 定期試験 40%、レポート 30%、実習成果 30%</p>
<p>「写真实習」 第15回：まとめ 出席評価 50%、作品評価 50%で総合的に評価する。</p>	<p>「写真实習」 第 15 回：講評(評価) それぞれのテーマにおける作品のコンセプトと具体的なイメージを検討して決定する。</p>
<p>「統合指導ゼミⅠ」 日常の出席 30%、発表結果 50%、授業への貢献度 20%で評価をする。</p>	<p>「統合指導ゼミⅠ」 日常の出席状況、輪読内容、発表、試験結果などを勘案して総合的に判断する。</p>
<p>「統合指導ゼミⅡ」 日常の出席 30%、発表結果 30%、授業への貢献度 20%で評価をする。卒業制作の内容も 20%評価に加味する。」</p>	<p>「統合指導ゼミⅡ」 日常の出席状況、発表内容などの結果により総合的に判断する。卒用制作の内容も評価に加味する。」</p>

<p>「卒業制作・計画」 日常の出席状況 20%、授業への参加貢献度 20%、制作や計画の内容 60%で評価する。</p> <p>「ファッションビジネス演習Ⅰ」 出席 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>「ファッションビジネス演習Ⅱ」 出席 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>「リテール企画演習Ⅰ」 出席 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>「リテール企画演習Ⅱ」 出席 30%とレポート評価 20%、期末試験評価 50%で総合的に評価する。</p> <p>「メディア概論」 出席 50%と期末レポートもしくは期末試験 50%で総合的に評価する。</p>	<p>「卒業制作・計画」 日常の出席状況、授業への参加貢献度、制作や計画の内容、発表の結果などを勘案して、総合的に判断する。</p> <p>「ファッションビジネス演習Ⅰ」 出席状況、課題の提出率、および提出課題の内容、プレゼンテーションによって、総合的に行う。</p> <p>「ファッションビジネス演習Ⅱ」 成績評価は、出席状況、レポート、プレゼンテーションによって総合的に行う。</p> <p>「リテール企画演習Ⅰ」 成績評価は、出席状況、レポート、プレゼンテーションによって総合的に行う。</p> <p>「リテール企画演習Ⅱ」 成績評価は、出席状況、レポート、プレゼンテーションによって総合的に行う。</p> <p>「メディア概論」 授業への出席率と討議への参加度、およびレポートによって総合的に判断する。</p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (30-32 ページ)

新	旧
<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 4 項に記したとおり、本学は「専門職大学設置基準」にもとづき、科目区分を「基礎科目」、「職業専門科目」、「展開科目」、「総合科目」とし、「基礎科目」は全学科に共通する教養力の涵養と、語学力強化のための授業、各学科の基礎科目に位置する講義を中心とした授業を展開する。「職業専門科目」は各学科における基礎科目に位置する講義・実習・演習の授業、「展開科目」は専門技能をより特化展開し、価値創造力を高める授業、「総合科目」は 4 年間の学びの中で集大成に位置する授業としている。 ファッションクリエイションとファッション</p>	<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 4 項に記したとおり、本学は「専門職大学設置基準」にもとづき、科目区分を「基礎科目」、「職業専門科目」、「展開科目」、「総合科目」とし、「基礎科目」は全学科に共通する教養力の涵養と、語学力強化のための授業、各学科の基礎科目に位置する講義を中心とした授業を展開する。「職業専門科目」は各学科における基礎科目に位置する講義・実習・演習の授業、「展開科目」は専門技能をより特化展開し、価値創造力を高める授業、「総合科目」は 4 年間の学びの中で集大成に位置する授業としている。 ファッションクリエイションとファッション</p>

<p>ビジネスの思考を持った専門職人材の育成に向けて1, 2年次は問題発見能力、論理的思考能力など基礎に当たる能力の強化・向上にフォーカスを当てる。同時に、本学ではアウトプットを意識し1年次から演習・実習科目を配置することで、座学と演習の反復による知識の定着・深化を図る。さらに年次が上がるにつれて演習・実習科目を増やすことで、不足し、獲得すべき知識・技術領域を学生に自覚させることで意欲の活性化を図りながら、身に着けた知識や教養、論理的思考能力を形成していく。</p> <p><u>本学は、留学生や社会人など多様な背景を持った学生を積極的に受け入れ、学生間で教育内容に不平等が生じないようケアや配慮をするという考えに基づき、各科目の評価基準をシラバス等で明確に示すとともに、各科目で得られた評価点は、本学の成績評価基準に照らし合わせて区分し、学生の不利益にならないよう配慮する。具体的には、S(秀)：100-90点、A(優)：89-80点、B(良)：79-70点、C(可)：69-60点、D(不可)：59-0点、*(-)：未受験とし、C以上の成績を取得した学生に該当科目の単位認定をする。</u></p>	<p>ビジネスの思考を持った専門職人材の育成に向けて1, 2年次は問題発見能力、論理的思考能力など基礎に当たる能力の強化・向上にフォーカスを当てる。同時に、本学ではアウトプットを意識し1年次から演習・実習科目を配置することで、座学と演習の反復による知識の定着・深化を図る。さらに年次が上がるにつれて演習・実習科目を増やすことで、不足し、獲得すべき知識・技術領域を学生に自覚させることで意欲の活性化を図りながら、身に着けた知識や教養、論理的思考能力を形成していく。</p> <p><u>(追記)</u></p>
---	--

(参照) 「5 シラバス」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

26. <設置基準を満たさない授業計画>

シラバスの記載について、以下の点について記載が不十分な点が見受けられるので、適切に修正すること。

(2) 全15回の授業の最終回に試験を設定している科目があり、授業回数が不足している。

(対応) シラバスの記載を適切に修正した

本学の基本的な教育方針として、十分な授業日数の確保を重視しているため、授業期間とは別に試験期間の設定し（前期：7月下旬-8月上旬、後期：1月下旬-2月上旬の予定）、かつ授業振替日の設定について、できる限り平日の夕刻以降の時限にあたる時間に設定し、社会人学生等が履修しやすいよう、学生の学修を妨げないよう授業回数の確保に努める。シラバスの記載を見直し、全15回の授業の最終回に試験を設定している科目については、授業回数が不足しないよう適切に改めた。

・該当するシラバス

全15回の授業の最終回に試験と記載していた、「シューズデザイン」、「自然資源と服装文化」、「写実実習」の3科目のシラバスの記載を見直し、授業回数が不足しないよう改めた。

(新旧対照表) シラバス (ファッションクリエイション学科)

新	旧
・担当教員：捧恭子 「シューズデザイン」 「第15回まとめ」	・担当教員：捧恭子 「シューズデザイン」 「第15回まとめ・定期試験」
・担当教員：鈴木孝史 「写実実習」 「第15回まとめ」	・担当教員：鈴木孝史 「写実実習」 「第15回講評（評価）」

(新旧対照表) シラバス (ファッションビジネス学科)

新	旧
・担当教員：鈴木孝史 「写実実習」 「第15回まとめ」	・担当教員：鈴木孝史 「写実実習」 「第15回講評（評価）」

(新旧対照表) シラバス (大阪ファッション学科)

新	旧
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：金谷美和 「自然資源と服装文化」 「第 15 回まとめ」 ・担当教員：田口誠幸 「写真实習」 「第 15 回まとめ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：金谷美和 「自然資源と服装文化」 「第 15 回まとめ・定期試験」 ・担当教員：田口誠幸 「写真实習」 「第 15 回講評 (評価)」

(新旧対照表) シラバス (名古屋ファッション学科)

新	旧
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：上山太陽 「写真实習」 「第 15 回まとめ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：上山太陽 「写真实習」 「第 15 回講評 (評価)」

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (30-32 ページ)

新	旧
<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (中略)</p> <p><u>本学の基本的な教育方針として、十分な授業日数の確保を重視しているため、授業期間とは別に試験期間の設定し (前期：7 月下旬－8 月上旬、後期：1 月下旬-2 月上旬の予定)、かつ授業振替日の設定について、できる限り平日の夕刻以降の時限にあたる時間に設定し、社会人学生等が履修しやすいよう、学生の学修を妨げないよう授業回数確保に努める。</u></p>	<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (中略)</p> <p><u>(追記)</u></p>

(参照) 「5 シラバス」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
 【全学共通】

27. <学位の英語名称が不適切>

学位の英語名称について、「Studies」は学問領域を示したものとなり、専門職大学の学位名称としては不適切なため、適切に改めること。

(対応) 名称を適切に改めた

学位の英語名称から学問領域を示すものとなる「Studies」を削除し、以下の通り、『専門職大学の設置の認可申請に係る提出書類の作成の手引（平成 31 年度開設用）』に準拠し、専門職大学の学位名称として適切に改めた。

学位名（和文）：ファッション学士（専門職）

学位名（英文）：Bachelor of Fashion

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (14 ページ)

新	旧
<p>3.3 学位の名称 名称：ファッション学士（専門職） <u>Bachelor of Fashion</u></p> <p>理由：ファッションに関して、クリエイションとビジネス領域を総合的に学ぶことから、学位に付記する専攻分野の名称をファッションとする。『専門職大学の設置の認可申請に係る提出書類の作成の手引（平成 31 年度開設用）』に従い、当該産業分野を適切に表すファッションとし、ファッションクリエイションやファッションビジネスなど、職種について過度に細分化した名称とならないよう留意した。<u>英語名称は、専門職大学の学位名として適切となるよう Bachelor of Fashion とした。</u></p>	<p>3.3 学位の名称 名称：ファッション学士（専門職） <u>Bachelor of Fashion Studies</u></p> <p>理由：ファッションに関して、クリエイションとビジネス領域を総合的に学ぶことから、学位に付記する専攻分野の名称をファッションとする。『専門職大学の設置の認可申請に係る提出書類の作成の手引（平成 31 年度開設用）』に従い、当該産業分野を適切に表すファッションとし、ファッションクリエイションやファッションビジネスなど、職種について過度に細分化した名称とならないよう留意した。 <u>(追加)</u></p>

(参照) 「1 基本計画書」

(是正事項) 国際ファッション学部 ファッションクリエイション学科、
 ファッションビジネス学科、
 大阪ファッション学科、
 名古屋ファッション学科
【全学共通】

28. <共用施設の使用計画が不明確>
 同一法人内の各学校が共用する施設については、学生が支障なく使用できるのかが判然としないため、各共用施設の使用方針及び計画を明らかにした上で、学生に不利益が生じないことを説明すること。

(対応) 各共用施設の使用方針及び計画を述べ、学生に不利益が生じないことを示す

同一法人内の各学校が共有する施設については、下記の通り明確な使用ルールを定め、学生が支障なく使用できるよう運用する。

【図書室】：図書室の閲覧席は東京キャンパス：206 席、大阪キャンパス：140 席、名古屋キャンパス：361 席。

追加購入の書籍は電子図書を中心にそろえ、自宅でも 24 時間 365 日閲覧可能とする。また既存図書の貸し出しも一部の図書を除き可能とするので閲覧席が混雑することは考えにくい。現状の専門学校のオフィスアワーの運用状況においては閑散とした状況で、閲覧席はほとんど使用されていない。よって大学開校後、学生に不利益が生じるとは考えにくい。

【自習室（図書室）】

開学後、図書室の使用状況をみながら、図書室が混雑する場合は、国際ファッション専門職大学の専用教室となっている教室を、未使用の時間帯には自習室として開放する。

【運動施設】

平日は、医療福祉 16：10～18：00、国際ファッション 18：00～19：00、国際工科 19：00～20：00、の時間帯で、土曜日は 10：00～18：00 の時間帯で解放する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (34-38 ページ)

新	旧
8. 施設、設備等の整備計画 (中略) 8.3.3 共用施設の使用計画 <u>同一法人内の各学校が共用する施設については、各共用施設の使用方針及び計画を明らかにした上で、下記の通り明確な使用ルールを定め、学生が支障なく使用できるよう運用する。</u> <u>【図書室】：図書室の閲覧席は東京キャンパス：206 席、大阪キャンパス：140 席、名古屋キャンパス：361 席である。追加購入の書籍</u>	8. 施設、設備等の整備計画 (中略) <u>(追加)</u>

は電子図書を中心にそろえ、自宅でも 24 時間 365 日閲覧可能とする。また既存図書の貸し出しも一部の図書を除き可能とするので閲覧席が混雑することは考えにくい。現状の専門学校のおフィースアワーの運用状況においては閑散とした状況で、閲覧席はほとんど使用されていない。よって大学開校後、学生に不利益が生じるとは考えにくい。

【自習室（図書室）】

開学後、図書室の使用状況をみながら、図書室が混雑する場合は、国際ファッション専門職大学の専用教室となっている教室を、未使用の時間帯には自習室として開放する。

【運動施設】

平日は、医療福祉 16：10～18：00、国際ファッション 18：00～19：00、国際工科 19：00～20：00、の時間帯で、土曜日は 10：00～18：00 の時間帯で解放する。

(参照) 「1 基本計画書」

1. <授業科目の名称と内容の不整合>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」については、パターンメイキングに関する内容が含まれており、科目名称との整合性が取れていないため、授業内容を見直すこと。

(対応) 授業内容と教育方法を適切に見直した

ファッションビジネスに関する科目名称と整合性を取り、当該科目の教育内容の一貫性を担保するため、「ファッションビジネス演習Ⅰ」の授業内容及び教育方法を是正した。

授業内容からパターンメイキングに関する内容を削除し、ファッションビジネスに関する内容を追記すると同時に、オムニバス形式の教育方法から単独の担当形式に変更した。そして、新たに「パターンメイキング」に関する授業を追加した。

(新旧対照表) 授業科目の概要 (ファッションビジネス学科)

新	旧
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：<u>平井秀樹</u> ・<u>(削除)</u> <p>「ファッションビジネス演習Ⅰ」</p> <p><u>本科目では、市場や消費者のニーズに応えるための実践的な企画、プロデュースの方法を学ぶ。ファッション業界の変遷をふまえて、市場動向を予測する能力や的確な商品価値を生み出すような判断能力を鍛える。基本的な商品企画と販売戦略に関する技術や知識を実践的に高める。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：<u>古田祐幸、平井秀樹</u> ・<u>オムニバス形式</u> <p>「ファッションビジネス演習Ⅰ」</p> <p><u>この科目では「ファッションビジネス演習Ⅰ」として、前半にファッションの基礎的知識の習得と衣服の構造・シルエット・ディテール等をドレーピングの技法を用いて理解する。衣服が三次元の立体構造であることをそのモデリングプロセスから学び、各パーツ・仕様の意味合いを知る。製品の適性な形（感覚）・品質（技術）を「ビジュアルで覚える」ことにより的確な評価ができる。評価に対しての問題分析及び解決考証のまとめ方を学ぶ。基礎的知識・商品化プロセスにおけるテクニカルデザインと衣服の構造を学んだ後に日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いて頂きたいと考えている。</u></p> <p><u>(オムニバス方式／全30回)</u> <u>(8. 古田祐幸-1~10/10回)</u> <u>1：オリエンテーション、アパレル企業の概要</u> <u>2~4：商品知識 (アイテム・ディテール・シルエット・感性座標)</u></p>

	<p><u>5～6：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー</u></p> <p><u>7～8：前腹部・胴の身体構造 タイトスローパー</u></p> <p><u>9～10：腕・腰の身体構造 タイトスリーブ・タイトスカート</u></p> <p><u>(4. 平井秀樹－11～29／9 回)</u></p> <p><u>11～13：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット</u></p> <p><u>14：商品分析プレゼンテーション・講評</u></p> <p><u>15～16：日本アパレルの変遷</u></p> <p><u>17：ファッション事業に於ける弱点の把握</u></p> <p><u>18：マーケティングおよびブランディング不在の功罪</u></p> <p><u>19：ビジネスモデルの脆弱性とガラパゴス信仰の弊害</u></p> <p><u>20：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題</u></p> <p><u>21～22：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握</u></p> <p><u>23～24：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生</u></p> <p><u>25：模倣横行 Me Too 戦略による独自文化の短命化</u></p> <p><u>26：文化/クリエイションと事業のバランスのとり方</u></p> <p><u>27～28：ブランド構築・運営・ブランディング</u></p> <p><u>29：SCM/CRM/HRM/Finacial の考え方</u></p> <p><u>(8. 古田祐幸 4. 平井秀樹－30／1 回) (共同)</u></p> <p><u>30：総括</u></p>
--	---

(新旧対照表) 授業科目の概要 (ファッションビジネス学科)

新	旧
<p>・担当教員：村上勝</p> <p>「パターンメイキング」</p> <p>本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図（デザイン画等）を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。</p>	<p>(追加)</p>

(新旧対照表) シラバス (ファッションビジネス学科)

新				旧			
授業科目名：ファッションビジネス演習Ⅰ	必修	授業回数：30回	担当教員名：古田祐幸	授業科目名：ファッションビジネス演習Ⅰ	必修	授業回数：30回	担当教員名：平井秀樹 古田祐之
授業科目区分：職業専門	配当：1年通期	単位数：4単位	講義形態：講義 実験 実習	授業科目区分：職業専門	配当：1年通期	単位数：4単位	講義形態：実習
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション産業構造と事業特性を理解する。 ・時代背景、社会・業界構造の変遷を学び、その変化から次世代のビジネスのあり方を考える。 				<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションの基礎的知識の習得と衣服の構造・シルエット・ディテール等の理解。 ・時代背景、社会・業界構造の変遷を学び、その変化から次世代のビジネスのあり方を考える。 			
<p>授業の概要</p> <p>ファッションビジネスの構造を理解させ、ファッションビジネス論のレディネスを整える。</p> <p>日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いていく。</p>				<p>授業の概要</p> <p>服飾の基礎的知識・商品化プロセスにおけるテクニカルデザインと衣服の構造を学ぶ。服飾のベーシックな知識を身に付けたのち、日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、ファッションビジネスの概要</p> <p>第2回：欧米アパレルの歴史と変遷①</p> <p>第3回：欧米アパレルの歴史と変遷②（ブランドの歴史観）</p> <p>第4回：ファッションビジネスの特性を講述する</p> <p>第5回：産業界における業種・業態の理解</p> <p>第6回：ファッション産業構造の理解</p> <p>第7回：繊維産業構造の理解</p> <p>第8回：テキスタイル産業の構造と産地の理解</p> <p>第9回：アパレル企業の流通戦略とプロモーション戦略①</p> <p>第10回：アパレル企業の流通戦略とプロモーション戦略②</p> <p>第11回：アパレル企業と小売業の特性</p> <p>第12回：日本アパレルの変遷①</p> <p>第13回：日本アパレルの変遷②（ブランドの歴史観）</p> <p>第14回：近年のファッション事業に於ける動向を基に弱点の把握</p> <p>第15回：マーケティングおよびブランディング不在の功罪</p> <p>第16回：ビジネスモデルの脆弱性とガラパゴス信仰の弊害</p> <p>第17回：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題</p> <p>第18回：レポート課題にて日本アパレルの失敗や弱点を抽出し、改善点をまとめる。</p> <p>第19回：レポートディスカッション。レポートに関する質疑応答～解説</p> <p>第20回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握①</p> <p>第21回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握②</p> <p>第22回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生①</p> <p>第23回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生②</p> <p>第24回：模倣横行 Me Too戦略による独自文化の短命化</p> <p>第25回：文化／クリエイションと事業のバランスのとり方</p> <p>第26回：ブランド構築・運営・ブランディング①</p> <p>第27回：ブランド構築・運営・ブランディング②</p> <p>第28回：SCM／CRM／HRM／Finacialの考え方</p> <p>第29回：レポートにて新しいビジネススタイルの発想をまとめる。</p> <p>第30回：レポートディスカッション。質疑応答・総括</p> <p>定期試験</p>				<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、アパレル企業の概要</p> <p>第2回：商品知識①（アイテム・ディテール）</p> <p>第3回：商品知識②（シルエット・ライン）</p> <p>第4回：商品知識③（感性座標・マインドエイジ座標）</p> <p>第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー①</p> <p>第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー②</p> <p>第7回：前腹部・胴の身体構造 タイтスローパー①</p> <p>第8回：前腹部・胴の身体構造 タイтスローパー②</p> <p>第9回：腕・腰の身体構造① タイтスリーブ</p> <p>第10回：腕・腰の身体構造② タイтスカート</p> <p>第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット①</p> <p>第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット②</p> <p>第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③</p> <p>第14回：商品分析プレゼンテーション・講評</p> <p>第15回：日本アパレルの変遷①</p> <p>第16回：日本アパレルの変遷②</p> <p>第17回：ファッション事業に於ける弱点の把握</p> <p>第18回：マーケティングおよびブランディング不在の功罪</p> <p>第19回：ビジネスモデルの脆弱性とガラパゴス信仰の弊害</p> <p>第20回：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題</p> <p>第21回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握①</p> <p>第22回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握②</p> <p>第23回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生①</p> <p>第24回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生②</p> <p>第25回：模倣横行 Me Too戦略による独自文化の短命化</p> <p>第26回：文化／クリエイションと事業のバランスのとり方</p> <p>第27回：ブランド構築・運営・ブランディング①</p> <p>第28回：ブランド構築・運営・ブランディング②</p> <p>第29回：SCM／CRM／HRM／Finacialの考え方</p> <p>第30回：まとめ・総括</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>ファッションビジネスⅠ（社）日本ファッション教育振興協会</p>				<p>テキスト</p> <p>毎回の授業の冒頭で配布</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜授業内で紹介</p>				<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜授業内で紹介</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>出席30%とレポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。</p>				<p>学生に対する評価</p> <p>成績評価は、出席状況、レポート、プレゼンテーションによって総合的に行う。</p>			

(新旧対照表) シラバス (ファッションビジネス学科)

新				旧
授業科目名：パターンメイキング	必修	授業回数：15回	担当教員名：村上 勝	(追加)
授業科目区分： 職業専門	配当： 2年後期	単位数： 2単位	講義形態： 実習	
授業の到達目標及びテーマ ・本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。				
授業の概要 本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図(デザイン画等)を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
第2回：商品知識① (アイテム・ディテール)				
第3回：商品知識② (シルエット・ライン)				
第4回：商品知識③ (感性座標・マインドエイジ座標)				
第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー①				
第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー②				
第7回：前腹部・胴の身体構造 タイトスローパー①				
第8回：前腹部・胴の身体構造 タイトスローパー②				
第9回：腕・腰の身体構造① タイトスリーブ				
第10回：腕・腰の身体構造② タイトスカート				
第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット①				
第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット②				
第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③				
第14回：商品分析プレゼンテーション・講評				
第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト				
毎回の授業の冒頭で配布				
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介				
学生に対する評価 成績評価は、出席評価30%と、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。				

1. <設置の趣旨と教育課程の不整合>

大阪と名古屋の学科については、東京の2学科の授業科目を混在させただけで、両学科の教育課程のどの部分に特色が表れているのかが不明確である。このため、立地の背景として説明している「織物産地の産業再生、地方創生」に関して、どのように教育課程に反映させているのかなど、学科別に具体的に説明すること。

(対応) 大阪ファッション学科の立地背景として説明している「織物産地の産業再生、地方創生」に関して、教育課程に反映させている内容を示す。

大阪ファッション学科では、立地の背景にある大阪、京都、神戸の織物産地の産業再生、地方創生とかかわりのある教育課程となるよう、主に基礎科目の「地域論入門」、展開科目の「地域産業論・大阪論」に講義科目上の特色が表れている。講義科目では、地方の経済的困難が進行するなかで地域創生が課題となっている現状を認識し、経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象の中でイノベーション、創発を基軸に据えて発想することが求められていることへの理解を深める。講義は、理論編とケース編から構成される。理論編では、産業分類の中の地域産業、マーシャルとウェーバーの産業集積論、ポーターのクラスター論を学ばせる。ケース編では、パリ（フランス）、コモ（イタリア）、東大門（韓国）の産業集積の例を比較対象として取り上げた後、大阪及び関西の産業集積、特に泉州（大阪府）、倉敷市児島（岡山県）、播州（兵庫県）、福井県の事例を学ばせる。以上の講義を通じて、地域産業、産業集積に関して課題発見につながる分析視角を身につける。

次に、職業専門科目の「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」において、実習演習科目上の特色が表れている。実習演習科目では、講義で見つけた分析方法をもとに、実習先として各学生が選択する地域の産業及び企業や業種に関して、臨地実習の前に特徴を分析し発表させる。そして、個々の学生の実習課題と目的と目標を明確にさせたうえで臨地実習を行う。臨地実習では、大阪、京都、神戸の織物産地及び企業で実践的な知識、技能を身につけると同時に、地域の産地及び企業が抱える課題を、各自の分野に位置付けて認識するように指導と教育を行う。実習後には、その成果と課題をまとめゼミで発表させ、学生と教員が互いに課題を認識し、地方創生に向けた教育研究を促進する。以上の科目は、東京のファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科において教育されている内容ではない。以上のように、大阪ファッション学科は、地域独自の経済社会産業的要請に基づき教育課程を編成している。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9-12 ページ)

新	旧
2. 学部・学科等の特色 (中略)	2. 学部・学科等の特色 (中略)
2.3.3 大阪ファッション学科の特色 (中略)	2.3.3 大阪ファッション学科の特色 (中略)
<u>こうした立地の背景にある大阪、京都、神戸の織物産地の産業再生、地方創生とかかわりのある教育課程という特徴を持つ大阪ファッション学科では、主に基礎科目の「地域論入門」、展開科目の「地域産業論・大阪論」に特色が表れる。科目では、地方の経済的困難が進行するなかで地域創生が課題となってい</u>	<u>(追加)</u>

る現状を認識し、経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象の中でイノベーション、創発を基軸に据えて発想することが求められていることへの理解を深める。地域産業、産業集積論、クラスター論を学び、パリ（フランス）、コモ（イタリア）、東大門（韓国）などの産業集積の例を比較対象として取り上げた後、大阪及び関西の産業集積、特に泉州（大阪府）、倉敷市児島（岡山県）、播州（兵庫県）、福井県の事例を学ぶ。以上の講義を通じて、地域産業、産業集積に関して課題発見につながる分析視角を身につける。

そして、職業専門科目の「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」において、学生の実習課題と目的を明確にしたうえで臨地実習を行い、臨地実習では、大阪、京都、神戸の織物産地及び企業で実践的な知識、技術を身につけると同時に、地域の産地及び企業が抱える課題を、各自の問題式に位置付けて認識するよう教育する。実習後に行うゼミでは、学生と教員が互いにその成果と課題を認識し、地方創生に向けた教育研究を促進する。以上の科目は、東京のファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科において教育されている内容とは異なり、地域独自の経済社会産業的要請に基づいた、大阪ファッション学科の教育編制の特色である。

2. <授業科目の名称と内容の不整合>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」については、パターンメイキングに関する内容が含まれており、科目名称との整合性が取れていないため、授業内容を見直すこと。

(対応) 授業内容を適切に見直した

ファッションビジネスに関する科目名称と整合性を取り、当該科目の教育内容の一貫性を担保するため、「ファッションビジネス演習Ⅰ」の授業内容及び教育方法を是正した。授業内容からパターンメイキングに関する内容を削除し、ファッションビジネスに関する内容を追記すると同時に、オムニバス形式の教育方法から単独の担当形式に変更した。そして、新たに「パターンメイキング」に関する授業を追加した。

(新旧対照表) 授業科目の概要 (大阪ファッション学科)

新	旧
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：<u>高原昌彦</u> ・<u>(削除)</u> <p>「ファッションビジネス演習Ⅰ」 <u>本科目では、市場や消費者のニーズに応えるための実践的な企画、プロデュースの方法を学ぶ。ファッション業界の変遷をふまえて、市場動向を予測する能力や的確な商品価値を生み出すような判断能力を鍛える。基本的な商品企画と販売戦略に関する技術や知識を実践的に高める。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：<u>門本優子、高原昌彦</u> ・<u>オムニバス形式</u> <p>「ファッションビジネス演習Ⅰ」 <u>この科目では「ファッションビジネス演習Ⅰ」として、前半にファッションの基礎的知識の習得と衣服の構造・シルエット・ディテール等をドレーピングの技法を用いて理解する。衣服が三次元の立体構造であることをそのモデリングプロセスから学び、各パーツ・仕様の意味合いを知る。製品の適性な形（感覚）・品質（技術）を「ビジュアルで覚える」ことにより的確な評価ができる。評価に対しての問題分析及び解決考証のまとめ方を学ぶ。基礎的知識・商品化プロセスにおけるテクニカルデザインと衣服の構造を学んだ後に日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いて頂きたいと考えている。</u></p> <p><u>(オムニバス方式／全30回)</u> <u>(11. 門本優子-1~10／10回)</u> <u>1：オリエンテーション、アパレル企業の概要</u> <u>2~4：商品知識（アイテム・ディテール・シルエット・感性座標）</u> <u>5~6：背・肩・胸の身体構造 ストレートス</u></p>

	<p><u>ローパー</u></p> <p><u>7～8：前腹部・胴の身体構造 タイトスローパー</u></p> <p><u>9～10：腕・腰の身体構造 タイトスリーブ・タイトスカート</u></p> <p><u>(13. 高原昌彦-11～29/19回)</u></p> <p><u>11～13：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット</u></p> <p><u>14：商品分析プレゼンテーション・講評</u></p> <p><u>15～16：日本アパレルの変遷</u></p> <p><u>17：ファッション事業に於ける弱点の把握</u></p> <p><u>18：マーケティングおよびブランディング不在の功罪</u></p> <p><u>19：ビジネスモデルの脆弱性とガラパゴス信仰の弊害</u></p> <p><u>20：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題</u></p> <p><u>21：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握</u></p> <p><u>23～24：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生</u></p> <p><u>25：模倣横行 Me Too 戦略による独自文化の短命化</u></p> <p><u>26：文化/クリエイションと事業のバランスのとり方</u></p> <p><u>27～28：ブランド構築・運営・ブランディング</u></p> <p><u>29：SCM/CRM/HRM/Finacial の考え方</u></p> <p><u>(11. 門本優子 13. 高原昌彦-30/1回)(共同)</u></p> <p><u>30：総括</u></p>
--	--

(新旧対照表) 授業科目の概要 (大阪ファッション学科)

新	旧
<p>・担当教員：<u>門本優子</u></p> <p>「<u>パターンメイキング</u>」 本科目では、<u>ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図(デザイン画等)を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。</u></p>	<p><u>(追加)</u></p>

(新旧対照表) シラバス (大阪ファッション学科)

新				旧			
授業科目名：ファッションビジネス演習Ⅰ	必修	授業回数：30回	担当教員名：高原昌彦	授業科目名：ファッションビジネス演習Ⅰ	必修	授業回数：30回	担当教員名：門本優子、高原昌彦
授業科目区分：職業専門	配当：1年通期	単位数：4単位	講義形態：講義 実験 実習	授業科目区分：職業専門	配当：1年通期	単位数：4単位	講義形態：実習
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション産業構造と事業特性を理解する。 ・時代背景、社会・業界構造の変遷を学び、その変化から次世代のビジネスのあり方を考える。 				<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションの基礎的知識の習得と衣服の構造・シルエット・ディテール等の理解。 ・時代背景、社会・業界構造の変遷を学び、その変化から次世代のビジネスのあり方を考える。 			
<p>授業の概要</p> <p>ファッションビジネスの構造を理解させ、ファッションビジネス論のレディネスを整える。</p> <p>日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いていく。</p>				<p>授業の概要</p> <p>服飾の基礎的知識・商品化プロセスにおけるテクニカルデザインと衣服の構造を学ぶ。服飾のベーシックな知識を身に付けたのち、日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、ファッションビジネスの概要</p> <p>第2回：欧米アパレルの歴史と変遷①</p> <p>第3回：欧米アパレルの歴史と変遷②（ブランドの歴史観）</p> <p>第4回：ファッションビジネスの特性を講述する</p> <p>第5回：産業界における業種・業態の理解</p> <p>第6回：ファッション産業構造の理解</p> <p>第7回：繊維産業構造の理解</p> <p>第8回：テキスタイル産業の構造と産地の理解</p> <p>第9回：アパレル企業の流通戦略とプロモーション戦略①</p> <p>第10回：アパレル企業の流通戦略とプロモーション戦略②</p> <p>第11回：アパレル企業と小売業の特性</p> <p>第12回：日本アパレルの変遷①</p> <p>第13回：日本アパレルの変遷②（ブランドの歴史観）</p> <p>第14回：近年のファッション事業に於ける動向を基に弱点の把握</p> <p>第15回：マーケティングおよびブランディング不在の功罪</p> <p>第16回：ビジネスモデルの脆弱性とガラパゴス信仰の弊害</p> <p>第17回：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題</p> <p>第18回：レポート課題にて日本アパレルの失敗や弱点を抽出し、改善点をまとめる。</p> <p>第19回：レポートディスカッション。レポートに関する質疑応答～解説</p> <p>第20回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握①</p> <p>第21回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握②</p> <p>第22回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生①</p> <p>第23回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生②</p> <p>第24回：模倣横行 Me Too戦略による独自文化の短命化</p> <p>第25回：文化／クリエイションと事業のバランスのとり方</p> <p>第26回：ブランド構築・運営・ブランディング①</p> <p>第27回：ブランド構築・運営・ブランディング②</p> <p>第28回：SCM／CRM／HRM／Finacialの考え方</p> <p>第29回：レポートにて新しいビジネススタイルの発想をまとめる。</p> <p>第30回：レポートディスカッション。質疑応答・総括</p> <p>定期試験</p>				<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、アパレル企業の概要</p> <p>第2回：商品知識①（アイテム・ディテール）</p> <p>第3回：商品知識②（シルエット・ライン）</p> <p>第4回：商品知識③（感性座標・マインドエイジ座標）</p> <p>第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー①</p> <p>第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー②</p> <p>第7回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー①</p> <p>第8回：前腹部・胴の身体構造 タイツスローパー②</p> <p>第9回：腕・腰の身体構造① タイツスリーブ</p> <p>第10回：腕・腰の身体構造② タイツスカート</p> <p>第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット①</p> <p>第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット②</p> <p>第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③</p> <p>第14回：商品分析プレゼンテーション・講評</p> <p>第15回：日本アパレルの変遷①</p> <p>第16回：日本アパレルの変遷②</p> <p>第17回：ファッション事業に於ける弱点の把握</p> <p>第18回：マーケティングおよびブランディング不在の功罪</p> <p>第19回：ビジネスモデルの脆弱性とガラパゴス信仰の弊害</p> <p>第20回：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題</p> <p>第21回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握①</p> <p>第22回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握②</p> <p>第23回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生①</p> <p>第24回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生②</p> <p>第25回：模倣横行 Me Too戦略による独自文化の短命化</p> <p>第26回：文化／クリエイションと事業のバランスのとり方</p> <p>第27回：ブランド構築・運営・ブランディング①</p> <p>第28回：ブランド構築・運営・ブランディング②</p> <p>第29回：SCM／CRM／HRM／Finacialの考え方</p> <p>第30回：まとめ・総括</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>ファッションビジネスⅠ（社）日本ファッション教育振興協会</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜授業内で紹介</p> <p>学生に対する評価</p> <p>出席30%とレポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。</p>				<p>テキスト</p> <p>毎回の授業の冒頭で配布</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜授業内で紹介</p> <p>学生に対する評価</p> <p>成績評価は、出席状況、レポート、プレゼンテーションによって総合的に行う。</p>			

(新旧対照表) シラバス (大阪ファッション学科)

新				旧
授業科目名：パターンメイキング	必修	授業回数：15回	担当教員名：門本優子	(追加)
授業科目区分：職業専門	配当：2年後期	単位数：2単位	講義形態：実習	
授業の到達目標及びテーマ ・本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。				
授業の概要 本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図(デザイン画等)を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
第2回：商品知識① (アイテム・ディテール)				
第3回：商品知識② (シルエット・ライン)				
第4回：商品知識③ (感性座標・マインドエイジ座標)				
第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー①				
第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー②				
第7回：前腹部・胴の身体構造 タイтスローパー①				
第8回：前腹部・胴の身体構造 タイтスローパー②				
第9回：腕・腰の身体構造① タイтスリーブ				
第10回：腕・腰の身体構造② タイтスカート				
第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット①				
第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット②				
第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③				
第14回：商品分析プレゼンテーション・講評				
第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト				
毎回の授業の冒頭で配布				
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介				
学生に対する評価 成績評価は、出席評価30%と、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。				

1. <設置の趣旨と教育課程の不整合>

大阪と名古屋の学科については、東京の2学科の授業科目を混在させただけで、両学科の教育課程のどの部分に特色が表れているのかが不明確である。このため、立地の背景として説明している「織物産地の産業再生、地方創生」に関して、どのように教育課程に反映させているのかなど、学科別に具体的に説明すること。

(対応) 名古屋ファッション学科の立地背景として説明している「織物産地の産業再生、地方創生」に関して、教育課程に反映させている内容を示す。

名古屋ファッション学科では、立地の背景にある毛織物尾州産地の産業再生、地方創生とかわりのある教育課程となるよう、主に基礎科目の「地域論入門」、展開科目の「地域産業論・名古屋論」に講義科目上の特色が表れている。講義科目では、地方の経済的困難が進行するなかで地域創生が課題となっている現状を認識し、経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象の中でイノベーション、創発を基軸に据えて発想することが求められていることへの理解を深める。講義は、理論編とケース編から構成される。理論編では、産業分類の中の地域産業、マーシャルとウェーバーの産業集積論、ポーターのクラスター論を学ばせる。ケース編では、パリ（フランス）、コモ（イタリア）、東大門（韓国）の産業集積の例を比較対象として取り上げた後、名古屋の産業集積、特に豊田（愛知県）、一宮（愛知県）、尾州（愛知県）の事例を学ばせる。以上の講義を通じて、地域産業、産業集積に関して課題発見につながる分析視角を身につける。

次に、職業専門科目の「テキスタイル中級」「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」において、実習演習科目上の特色が表れている。実習演習科目では、講義で見つけた分析方法をもとに、実習先として各学生が選択する地域の産業及び企業や業種に関して、臨地実習の前に特徴を分析し発表させる。そして、個々の学生の実習課題と目的と目標を明確にさせたうえで臨地実習を行う。臨地実習では、特に尾州の織物産地を取り上げ、オーストラリアの羊毛の輸入から製糸、織布などの中間財の生産を学習し、ファッション産業における国際的な生産連携を学ぶ。実践的な知識、技能を身につけると同時に、地域の産地及び企業が抱える課題を、各自の分野に位置付けて認識するように指導と教育を行う。実習後には、その成果と課題をまとめゼミで発表させ、学生と教員が互いに課題を認識し、地方創生に向けた教育研究を促進する。以上の科目は、東京のファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科において教育されている内容ではない。以上のように、名古屋ファッション学科は、地域独自の経済社会産業的要請に基づき教育課程を編成している。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9-12 ページ)

新	旧
<p>2. 学部・学科等の特色 (中略)</p> <p>2.3.4 名古屋ファッション学科の特色 (中略)</p> <p><u>こうした立地の背景にある毛織物尾州産地の産業再生、地方創生とかかわりのある教育課程という特徴を持つ名古屋ファッション学科では、主に基礎科目の「地域論入門」、展開科目の「地域産業論・名古屋論」に特色が表れる。科目では、地方の経済的困難が進行するなかで地域創生が課題となっている現状を認識し、経済社会産業上の要請として、グローバルな経済化とインバウンド現象の中でイノベーション、創発を基軸に据えて発想することが求められていることへの理解を深める。地域産業、産業集積論、クラスター論を学び、パリ（フランス）、コモ（イタリア）、東大門（韓国）などの産業集積の例を比較対象として取り上げた後、名古屋の産業集積、特に豊田（愛知県）、一宮（愛知県）、尾州（愛知県）の事例を学ぶ。以上の講義を通じて、地域産業、産業集積に関して課題発見につながる分析視角を身につける。</u></p> <p><u>そして、職業専門科目の「テキスタイル中級」「地域企業・地方連携ゼミ」「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」において、学生の実習課題と目的を明確にしたうえで臨地実習を行い、臨地実習では、特に尾州の織物産地を取り上げ、オーストラリアの羊毛の輸入から製糸、織布などの中間財の生産を学習し、ファッション産業における国際的な生産連携を学ぶ。そして企業で実践的な知識、技術を身につけると同時に、地域の産地及び企業が抱える課題を、各自の問題式に位置付けて認識するよう教育する。実習後に行うゼミでは、学生と教員が互いにその成果と課題を認識し、地方創生に向けた教育研究を促進する。以上の科目は、東京のファッションクリエイション学科及びファッションビジネス学科において教育されている内容とは異なり、地域独自の経済社会産業的要請に基づいた、名古屋ファッション学科の教育編制の特色である。</u></p>	<p>2. 学部・学科等の特色 (中略)</p> <p>2.3 各学科が重点的に担う機能と特色 (中略)</p> <p>2.3.4 名古屋ファッション学科の特色 (中略)</p> <p><u>(追加)</u></p>

2. <授業科目の名称と内容の不整合>

「ファッションビジネス演習Ⅰ」については、パターンメイキングに関する内容が含まれており、科目名称との整合性が取れていないため、授業内容を見直すこと。

(対応) 授業内容を適切に見直した

ファッションビジネスに関する科目名称と整合性を取り、当該科目の教育内容の一貫性を担保するため、「ファッションビジネス演習Ⅰ」の授業内容及び教育方法を是正した。授業内容からパターンメイキングに関する内容を削除し、ファッションビジネスに関する内容を追記すると同時に、オムニバス形式の教育方法から単独の担当形式に変更した。そして、新たに「パターンメイキング」に関する授業を追加した。

(新旧対照表) 授業科目の概要 (名古屋ファッション学科)

新	旧
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：<u>岡本正大</u> ・<u>(削除)</u> <p>「ファッションビジネス演習Ⅰ」 <u>本科目では、市場や消費者のニーズに応えるための実践的な企画、プロデュースの方法を学ぶ。ファッション業界の変遷をふまえて、市場動向を予測する能力や的確な商品価値を生み出すような判断能力を鍛える。基本的な商品企画と販売戦略に関する技術や知識を実践的に高める。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：<u>守屋孝典、岡本正大</u> ・<u>オムニバス形式</u> <p>「ファッションビジネス演習Ⅰ」 <u>この科目では「ファッションビジネス演習Ⅰ」として、前半にファッションの基礎的知識の習得と衣服の構造・シルエット・ディテール等をドレーピングの技法を用いて理解する。衣服が三次元の立体構造であることをそのモデリングプロセスから学び、各パーツ・仕様の意味合いを知る。製品の適性な形（感覚）・品質（技術）を「ビジュアルで覚える」ことにより的確な評価ができる。評価に対しての問題分析及び解決考証のまとめ方を学ぶ。基礎的知識・商品化プロセスにおけるテクニカルデザインと衣服の構造を学んだ後に日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いて頂きたいと考えている。</u></p> <p><u>(オムニバス方式／全30回)</u> <u>(7. 守屋孝典-1~10／10回)</u> <u>1：オリエンテーション、アパレル企業の概要</u> <u>2~4：商品知識（アイテム・ディテール・シルエット・感性座標）</u> <u>5~6：背・肩・胸の身体構造 ストレートス</u></p>

	<p><u>ローパー</u></p> <p><u>7～8：前腹部・胴の身体構造 タイトスローパー</u></p> <p><u>9～10：腕・腰の身体構造 タイトスリーブ・タイトスカート</u></p> <p><u>(6. 岡本正大－11～29／19回)</u></p> <p><u>11～13：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット</u></p> <p><u>14：商品分析プレゼンテーション・講評</u></p> <p><u>15～16：日本アパレルの変遷</u></p> <p><u>17：ファッション事業に於ける弱点の把握</u></p> <p><u>18：マーケティングおよびブランディング不在の功罪</u></p> <p><u>19：ビジネスモデルの脆弱性とガラパゴス信仰の弊害</u></p> <p><u>20：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題</u></p> <p><u>21：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握</u></p> <p><u>23～24：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生</u></p> <p><u>25：模倣横行 Me Too 戦略による独自文化の短命化</u></p> <p><u>26：文化/クリエイションと事業のバランスのとり方</u></p> <p><u>27～28：ブランド構築・運営・ブランディング</u></p> <p><u>29：SCM/CRM/HRM/Finacial の考え方</u> (7. 守屋孝典 6. 岡本正大－30／1回)(共同)</p> <p><u>30：総括</u></p>
--	---

(新旧対照表) 授業科目の概要 (名古屋ファッション学科)

新	旧
<p>・担当教員：<u>守屋孝典</u> 「<u>パターンメイキング</u>」</p> <p><u>本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図(デザイン画等)を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。</u></p>	<p><u>(追加)</u></p>

(新旧対照表) シラバス (名古屋ファッション学科)

新				旧			
授業科目名：ファッションビジネス演習Ⅰ	必修	授業回数：30回	担当教員名：岡本 正大	授業科目名：ファッションビジネス演習Ⅰ	必修	授業回数：30回	担当教員名：守屋 孝典 岡本 正大
授業科目区分：職業専門	配当：1年通期	単位数：4単位	講義形態：講義 実験 実習	授業科目区分：職業専門	配当：1年通期	単位数：4単位	講義形態：実習
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション産業構造と事業特性を理解する。 ・時代背景、社会・業界構造の変遷を学び、その変化から次世代のビジネスのあり方を考える。 				<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションの基礎的知識の習得と衣服の構造・シルエット・ディテール等の理解。 ・時代背景、社会・業界構造の変遷を学び、その変化から次世代のビジネスのあり方を考える。 			
<p>授業の概要</p> <p>ファッションビジネスの構造を理解させ、ファッションビジネス論のレディネスを整える。</p> <p>日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いていく。</p>				<p>授業の概要</p> <p>服飾の基礎的知識・商品化プロセスにおけるテクニカルデザインと衣服の構造を学ぶ。服飾のベーシックな知識を身に付けたのち、日本のファッションビジネスが育たない理由、グローバルに戦えない理由を過去の日本アパレルの変遷と失敗を把握する事で新しいビジネスの発想の礎を築いていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、ファッションビジネスの概要</p> <p>第2回：欧米アパレルの歴史と変遷①</p> <p>第3回：欧米アパレルの歴史と変遷②（ブランドの歴史観）</p> <p>第4回：ファッションビジネスの特性を講述する</p> <p>第5回：産業界における業種・業態の理解</p> <p>第6回：ファッション産業構造の理解</p> <p>第7回：繊維産業構造の理解</p> <p>第8回：テキスタイル産業の構造と産地の理解</p> <p>第9回：アパレル企業の流通戦略とプロモーション戦略①</p> <p>第10回：アパレル企業の流通戦略とプロモーション戦略②</p> <p>第11回：アパレル企業と小売業の特性</p> <p>第12回：日本アパレルの変遷①</p> <p>第13回：日本アパレルの変遷②（ブランドの歴史観）</p> <p>第14回：近年のファッション事業に於ける動向を基に弱点の把握</p> <p>第15回：マーケティングおよびブランディング不在の功罪</p> <p>第16回：ビジネスモデルの脆弱性とガラパゴス信仰の弊害</p> <p>第17回：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題</p> <p>第18回：レポート課題にて日本アパレルの失敗や弱点を抽出し、改善点をまとめる。</p> <p>第19回：レポートディスカッション。レポートに関する質疑応答～解説</p> <p>第20回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握①</p> <p>第21回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握②</p> <p>第22回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生①</p> <p>第23回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生②</p> <p>第24回：模倣横行 Me Too戦略による独自文化の短命化</p> <p>第25回：文化／クリエイションと事業のバランスのとり方</p> <p>第26回：ブランド構築・運営・ブランディング①</p> <p>第27回：ブランド構築・運営・ブランディング②</p> <p>第28回：SCM／CRM／HRM／Finacialの考え方</p> <p>第29回：レポートにて新しいビジネススタイルの発想をまとめる。</p> <p>第30回：レポートディスカッション。質疑応答・総括</p> <p>定期試験</p>				<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、アパレル企業の概要</p> <p>第2回：商品知識①（アイテム・ディテール）</p> <p>第3回：商品知識②（シルエット・ライン）</p> <p>第4回：商品知識③（感性座標・マインドエイジ座標）</p> <p>第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー①</p> <p>第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー②</p> <p>第7回：前腹部・胴の身体構造 タイトスローパー①</p> <p>第8回：前腹部・胴の身体構造 タイトスローパー②</p> <p>第9回：腕・腰の身体構造① タイトスリーブ</p> <p>第10回：腕・腰の身体構造② タイトスカート</p> <p>第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット①</p> <p>第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット②</p> <p>第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③</p> <p>第14回：商品分析プレゼンテーション・講評</p> <p>第15回：日本アパレルの変遷①</p> <p>第16回：日本アパレルの変遷②</p> <p>第17回：ファッション事業に於ける弱点の把握</p> <p>第18回：マーケティングおよびブランディング不在の功罪</p> <p>第19回：ビジネスモデルの脆弱性とガラパゴス信仰の弊害</p> <p>第20回：事業運営基礎力の脆弱性がもたらした問題</p> <p>第21回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握①</p> <p>第22回：ファッション文化の出現と自滅サイクルの把握②</p> <p>第23回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生①</p> <p>第24回：ストリート、メディア、ファッションの融合と独自文化の発生②</p> <p>第25回：模倣横行 Me Too戦略による独自文化の短命化</p> <p>第26回：文化／クリエイションと事業のバランスのとり方</p> <p>第27回：ブランド構築・運営・ブランディング①</p> <p>第28回：ブランド構築・運営・ブランディング②</p> <p>第29回：SCM／CRM／HRM／Finacialの考え方</p> <p>第30回：まとめ・総括</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>ファッションビジネスⅠ（社）日本ファッション教育振興協会</p>				<p>テキスト</p> <p>毎回の授業の冒頭で配布</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜授業内で紹介</p>				<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜授業内で紹介</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>出席30%とレポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。</p>				<p>学生に対する評価</p> <p>成績評価は、出席状況、レポート、プレゼンテーションによって総合的に行う。</p>			

(新旧対照表) シラバス (名古屋ファッション学科)

新				旧
授業科目名：パターンメイキング	必修	授業回数：15回	担当教員名：守屋孝典	(追加)
授業科目区分： 職業専門	配当： 2年後期	単位数： 2単位	講義形態： 実習	
授業の到達目標及びテーマ ・本科目を通じて、パターンメイキングの基本的な性質を理解しつつ、生産の原価計算に役立つパターンメイキングの知識を身につける。				
授業の概要 本科目では、ファッションビジネスを行ううえで必要な衣服の構造・シルエット・ディテール等を理解しパターンメイキングの理論を学ぶ。パターンメイキングとは、トワルを作る作業のことである。トワルは人体模型をもとにした仮縫い品として実際に着用でき、本物の服にきわめて近い存在である。曖昧なイメージとして現れやすいデザイナーの意図(デザイン画等)を、トワルとして立体的に再現する作業こそが、パターンメイキングの本質である。その本質を理解する。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：商品知識① (アイテム・ディテール) 第3回：商品知識② (シルエット・ライン) 第4回：商品知識③ (感性座標・マインドエイジ座標) 第5回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー① 第6回：背・肩・胸の身体構造 ストレートスローパー② 第7回：前腹部・胴の身体構造 タイロスローパー① 第8回：前腹部・胴の身体構造 タイロスローパー② 第9回：腕・腰の身体構造① タイトスリーブ 第10回：腕・腰の身体構造② タイトスカート 第11回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット① 第12回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット② 第13回：商品分析エクササイズ シャツ・ジャケット③ 第14回：商品分析プレゼンテーション・講評 第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト 毎回の授業の冒頭で配布				
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介				
学生に対する評価 成績評価は、出席評価30%と、レポート評価20%、期末試験評価50%で総合的に評価する。				